
東アジア価値観国際比較調査

——「信頼感」の統計科学的解析——

課題番号：14252013

平成 14 年度 ～ 平成 17 年度科学研究費補助金

(基盤研究(A)) 研究成果報告書

平成 18 年 3 月

研究者代表 吉野 諒三

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

統計数理研究所 データ科学研究系 教授

東アジア価値観国際比較調査
——「信頼感」の統計科学的解析——

課題番号：14252013

The East Asia Value Survey (2002-2005)
——Data Analysis on Peoples' Sense of Trust——

平成 14 年度 ～ 平成 17 年度科学研究費補助金

(基盤研究(A)) 研究成果報告書

平成 18 年 3 月

研究者代表 吉野 諒三
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
統計数理研究所 データ科学研究系 教授

Ryozo Yoshino
The Institute of Mathematical Statistics

March 2006

はしがき

本研究の主要な目的は、我々の標榜する「データの科学」という統計哲学の下で、日本を含む東アジア諸国の人々の意識構造を比較することである。この研究は歴史的には、統計数理研究所における1953年以降の「日本人の国民性」調査及び1971年以降の「意識の国際比較」調査の延長上にある。「日本人の国民性」は戦後民主主義の基盤としての官民の世論調査発展と緊密に結びつき、「意識の国際比較」は連鎖的方法論（Cultural Linkage Analysis, CLA）の確立につながった。そして、さらにこれは最近の我々の国際比較調査研究とともに、計量的文明論「文化多様体解析（CULMAN）」の確立を目指す研究の一環に位置づけられる。

今回は、日本学術振興会から科学研究費補助金研究（基盤研究（A）No.14252013、代表吉野諒三）の御支援を得て、東アジアの諸国の人々の価値観、特に「信頼感」に焦点を当て、調査研究を展開した。この研究の背景と意義は、以下の通りである。

この20年ほどの間は、冷戦が終了し、世界情勢のダイナミックな変動があり、政治、経済、社会の伝統的枠組が大きく変わり、社会生活の基盤であった人々の信頼のあり方も大きな影響を受けている。伝統的な産業社会から高度情報化社会への遷移期にもあり、従来家庭、学校、職場での人間関係のあり方も崩壊しつつあり、新たな時代の流れが十分に確立するまで、ある程度は混乱した社会が続くのであろう。

一方、政治経済の視点からは、欧州共同体や南北アメリカ圏のみならず、東アジア圏の再編成が唱えられている。東南アジアを含む東アジア圏は、欧州とは異なり、多様な文化、歴史を背景に持つ国々や地域の集合であり、政治にせよ経済にせよ、それらの統合は必ずしも容易ではないであろうが、現実にはまず経済活動を中心にASEAN等の協力関係が推進されつつある。特に、華僑・華人の国際ネットワークの影響力が浮かび上がってくる。

かつてMax Weberは「プロテスタンティズムと資本主義の精神」との関係論の中で、儒教の影響がある中国などのアジアの国々に対しては資本主義の順調な発達に否定的な見解をのべていた。しかし、日本は明治維新以降、そして戦後に目覚ましい発展を見せてきた。その例外を説明するために、牽強附会の議論がなされたこともあった。しかし、さらにはその後のNICS、NIESなど台湾、韓国、東南アジアの国々の発展、そしてこの10年ほどの中国の目覚ましい発展は、特定の宗教や倫理と経済発展との関係を簡単に論じることは賢明ではないことを証明している。そして、特に中国の過去数十年の急激な社会変化は、「社会体制と国民性（国民の意識構造）との相互関係」という社会学の主要テーマに対して、大きな示唆を与えるであろう。

我々はこういった世界の流れを適格に把握し、将来を見通すための実証的基礎情報を収

集することの重要性を認識しているが、他方で各国、各機関が遂行している様々な社会調査、国際比較調査の質に懸念をもつことがある。例えば、Inglehart らによる世界価値観調査 (World Value Survey) は世界の 20~30 数カ国で共通質問項目を用いた国際比較調査データや時系列比較可能なデータを提供し、学術研究にも行政施策にも資するところが大きい。しかしながら、例えば、最近の中国調査の実情を詳細に調べてみると疑義が隠せない。国際比較調査では質問項目を各国の言語に適切に翻訳することが重要な手続きであるが、各国内の事情の差異を見過ごしたための誤訳が見受けられる。また統計的標本抽出調査の手続きの計画が、調査の現場でどこまで遵守されているのか、報告された回収率などを考えると疑義を持つ調査研究者は少なくない。

以上のような背景があり、我々は、アジアの調査はやはりアジアの人々により慎重に推進されるべきであるという認識に至った。我々は各国でどの程度統計学的に適正な標本抽出調査が遂行でき、また国際比較可能性が保てるかという課題を自ら実証的に検討することを主眼にし、それを把握した上で東アジア諸国の人々の価値観や意識を比較分析する課題に取り組もうとしているものである。

本総合報告書では、2002 年 (平成 14 年) 度の日本調査、中国 (北京・上海・香港) 調査、2003 年度の台湾及び韓国調査、そして 2004 年度のシンガポール調査の概要と、学術誌に発表されたデータ分析論文の主要なものを中心にまとめてある。調査質問票は、過去の我々の国際比較調査で用いられた項目やそれらを一部修正した項目、特に東アジア調査の「信頼感」調査のために作成した新項目などで構成されている (6c.項目の出展履歴を参照)。詳細なデータ解析は、一般に避けられない各国・各地域の言語の差異、調査方法の差異などを考慮し、単純に回答分布の皮相な数学の大小比較ではなく、さらに今後収集されていく他の関連諸国・地域の調査データとともに、慎重に時間をかけて安定したパターン構造を浮かび上がらせるような分析がなされて行くべきである。

吉野諒三

謝辞

今回の東アジア価値観国際比較調査も、これまでの一連の調査研究の延長上にあり、これらの研究は、直接にせよ間接にせよ、日本学術振興会や文部科学省研究振興局学術研究助成課、機関課、情報課、トヨタ財団、日本財団、笹川財団をはじめ、官民の多くの方々や団体の御援助を得て遂行されたものであり、深く感謝いたします。

また、各地での標本調査では北京の中国人民大学・応用統計センター長の趙彦云教授、上海の浙江林学院副院長の周国模教授、香港城市大学管理科学系長の蘆興普教授、台湾の輔仁大学の謝邦昌教授、韓国統計局の朴承根氏の皆様に御協力をいただきました。

さらに、本総合報告書の完成に至る作業で、巖岩晶、可知悠子、三好美浩、長岡あゆみ、細川保子の皆様にお手伝いいただきました。皆様に感謝いたします。

参考文献

- 林知己夫 (2001). データの科学. 朝倉書店
- 林知己夫, 鈴木達三, 吉野諒三他 (1998). 国民性七か国比較. 出光書店
- 林知己夫他 (1992). 第五 日本人の国民性. 出光書店
- Inkeles, A. (1997). National character. Transaction Publishers: New Brunswick.
(吉野諒三 (2003) 訳「国民性論 — 精神社会的展望 —」出光書店)
- 吉野諒三 (2001). 心を測る — 個と集団の意識の科学 —. 朝倉書店.
- Yoshino, R. (2002). A time to trust . Behaviormetrika. Vol.29 No.2, pp.231-260.
- 吉野諒三. (2003). 「信の崩壊」 ---世論調査方法論の今日の課題. 行動計量学.
展望「21世紀の行動計量学」 第29巻第1号, pp.45-54.
- 吉野諒三. (2003)「信頼の時代」. Eco-Forum, Vol.22, No.1,
特集号「ソーシャル・キャピタル Part II」, pp.42-51. 統計研究会.
- 吉野諒三. (2005). 東アジア価値観国際比較調査—文化多様体解析 (CULMAN) に基づく計量的文明論構築へ向けて—. 行動計量学. 第32巻2号, pp. 133-146.
- 吉野諒三. (2005). 富国信頼の時代へ—東アジア価値観国際比較調査における「信頼感」の統計科学的解析—. 行動計量学. 第32巻2号, pp. 147-160.
- Yoshino, R. & Hayashi, C. (2002). An overview of cultural link analysis of national character. Behaviormetrika. Vol.29 No.2, pp.125-141.
- 吉野諒三、鄭躍軍、朴承根. (2003).「東アジア諸国の人々の日本語観」 行動計量学, 第30巻 第1号 (通巻58号) , pp.311-52.
(行動計量学32巻2号、33巻1号及び Behaviormetirka, Vol.29、No.2、Vol.30.No.1の特集号も参照していただきたい。)

信頼感の尺度について

今回の調査の主テーマである「信頼感」に特に直接関連する項目は、以下の通りである。

1. Q26, Q27, Q28 … GSS (米国一般社会調査 General Social Survey) より
2. Q41 … WVS(世界価値観調査 World Value Survey) より一部追加
3. Q34, Q35, Q36 (契約、法律) … 「日本人の法意識」(出光書店、日本文化会議編、1973) より
4. Q40 (手術と親友) … 新問
5. Q53 (手術と恩人、親) … 新問
6. Q55 (強盗と恩人) … 新問

但し、単純に皮相的な数値の大小比較の分析にとどまらず、関連する項目や精度も勘案し、多次元データ解析の中で、人々の信頼感のあり方を浮きぼりにするような分析が肝要である。特に、一見直接には信頼感と関係なさそうな項目も国際比較の中や、他項目との相対的連関の中で、人々の信頼のあり方を浮び上がらせる可能性を留意すべきであろう。

研究組織

- 研究代表者 吉野諒三 (統計数理研究所 データ科学研究系 教授)
- 研究分担者 村上征勝 (同志社大学 文化情報学部 教授)
 馬場康維 (統計数理研究所 統計科学情報センター 教授)
 林 文 (東洋英和女学院大学 人間科学部 教授)
 山岡和枝 (厚生労働省 国立保健医療科学院 技術評価部 室長)
 佐々木正道 (兵庫教育大学 教育学部 教授)
 中尾啓子 (東京都立大学 人文学部 助教授)
 鄭躍軍 (総合地球環境学研究所 研究部 助教授)
 土屋隆裕 (統計数理研究所 データ科学研究系 助教授)
 前田忠彦 (統計数理研究所 データ科学研究系 助教授)
 星野崇宏 (東京大学 教養学部 講師)
 松本渉 (統計数理研究所 データ科学研究系 助手)
- 協力者 趙彦云 Zhao Yanyun (中国人民大学 応用統計センター長)
 周国模 Zhou Guomo (浙江林学院 副院長)
 蘆興普 Lo Hing-Po (香港城市大学 管理科学 系長)
 謝邦昌 Shia Ben-Chang (輔仁大学 教授)
 朴承根 Park Seung-Geu (韓国統計局)
- 裴岩晶 (明治学院大学 法学部 非常勤講師)
 可知悠子 (東京大学大学院 教育学研究科 修士課程)

交付決定額 (配分額)

	直接経費	間接経費	合計
平成 14 年度	14,200,000	4,260,000	18,460,000
平成 15 年度	8,200,000	2,460,000	10,660,000
平成 16 年度	6,100,000	1,830,000	7,930,000
平成 17 年度	4,200,000	1,290,000	5,490,000
総計	32,700,000	9,840,000	42,540,000

目次	ページ
1. 研究計画調書、交付申請書、実績報告書等	・・・ 1
2. 東アジア価値観国際比較・各国調査の 標本抽出計画と回収状況について	・・・ 43
3. 単純集計国際比較表	
a. 東アジア国際比較表 (日本、北京、上海、香港、台湾、韓国、シンガポール)	・・・ 80
b. 東アジア及び過去の国際比較調査データとの比較表	・・・ 124
4. 各国の自由回答データの個別回答 (問 30、問 38、問 39a、問 39b)	・・・ 138
5. 本研究関連の学会誌発表等 (主要論文のみ)	・・・ 347
6. 調査票	
a. 日本調査原票	・・・ 597
b. 日本調査票の英語訳 (注. 英語調査票としては標準化されていない試行版)	・・・ 633
c. 項目の出典履歴	・・・ 651
7. 研究成果の一部の新聞報道	・・・ 657

(注釈) 過去の日欧米7か国調査(1987-1993)については統計数理研究所・研究レポート71、72、73、76、77、78、79、80、81、82及び「国民性七か国比較」(出光書店、1998)、ブラジル日系人調査(1992)については研究レポート74、アメリカ西海岸日系人調査(1988)は研究レポート84、さらにハワイ日系人調査の時系列比較(1971、1978、1983、1988、2001)については研究レポート33、47、63、64、70、86を参照のこと。

対応する質問項目の表現が異なる場合があるので、回答分布を国際比較する際に特に注意が必要である。6c.「項目の出展履歴」を参照。また、問43や問44のように国際比較性を考慮して、各国の事情に合わせた表現(国名のカテゴリー)にした場合もあるので注意する。(注意. 韓国調査票のQ43で「台湾」を「タイ」と誤訳したまま用いてしまった。)

なお、東アジア価値観調査の日本調査以外(北京・上海・香港・台湾・韓国・シンガポール等)の詳細(性・年齢別単純集計など)については、順次、本研究レポートのシリーズとして発刊済みである。またこれらについて、統計数理研究所のホームページを通じて公開準備作業を進めている。

The East Asia Value Survey

	Content	Page
1.	The Objective of this survey	. . . 1
2.	On Sampling and Valid Questionnaire Returns in Each Area or Country	. . . 43
3.	Cross-National Tabulation	
	a. The East Asian Cross-national Tabulation (Japan, Beijing, Shanghai, Hong-Kong, Taiwan, South Korea & Singapore)	. . . 80
	b. The Cross-national Tabulation of the East Asia Countries and the Countries in Our Past Surveys.	. . . 124
4.	Data of Open-ended Questions in Each Area or Country (Q30, Q38, Q39a, Q39b)	. . . 138
5.	Some Major Publication of Data Analyses	. . . 347
6.	Questionnaire	
	a. Questionnaire of Each Area or Country	. . . 597
	b. A Tentative English Translation of the Japanese Questionnaire. (Note. This is tentative translation. You may need some modifications if you use it as an English questionnaire.)	. . . 633
	c. History of items.	. . . 651
7.	Newspaper Article	. . . 657

(Note.) See ISM Research Report 71, 72, 73, 76, 77, 78, 79, 80, 81 & 82 and "Comparative Study of Seven Nations(in Japanese)" (1998, Hayashi, Suzuki & Yoshino, et al.) for the seven nation survey: Japan, USA, FRG, France, Britain, Italy & the Netherlands. See ISM Research Report 74 for the survey of Japanese immigrants in Brazil. See ISM Research Report 33,47,63,64,70 & 86 for the survey of Hawaii residents with Japanese ancestry (1971, 1978, 1983, 1988 & 2001).

For cross-national comparability, we need to be careful about slight differences of wordings of items: some items are totally the same as the ones we used in the previous surveys but some others may involve slight modifications. See 6c. History of items. Also, for some items such as Q43 and Q44, we have intentionally modified the wordings (categories of countries) to keep cross-national comparability.

We have published more detailed reports of surveys in the East-Asian Countries (Japan, Beijing, Shanghai, Hong-Kong, Taiwan, South-Korea & Singapore.) as a series of ISM Research Reports.

1. 研究計画調書、交付申請書、実績報告書等

基盤 A・B(海外)-1

平成 14 年度 基盤研究(A・B)研究計画調書 (新規)

※機関番号	62603
※整理番号	

注 1. 別途平成 14 年度基盤研究(A・B)(海外)研究計画調書作成・記入要領(黄色)を参照してください。
注 2. ※印の欄は研究機関において記入してください。

基盤研究	A B	研究	(1) (2)	審査区分	海外		
審査希望部門	部	分科	細目		部・分科・細目番号	系	
	複合領域	統計科学			721	人・物 化・生	
研究代表者 ^{おがな} 氏名	よしの りょうぞう 吉野 諒三 印			所属研究機関 ・ 部 局 ・ 職	統計数理研究所 領域統計研究系・助教授		

研究課題	東アジア価値観国際比較調査 — 「信頼感」の統計科学的解析 —
------	---------------------------------

研究経費	年度	研究経費 (千円)	使用内訳 (千円)					
			設備備品費	消耗品費	国内旅費	外国旅費	謝金	その他
千円未満 の端数は 切り捨てる	平成 14 年度							
	平成 15 年度							
	平成 16 年度							
	平成 17 年度							
	総計							

研究組織 (研究代表者及び研究分担者) (研究分担者も、本研究計画に常時参加する者です。)

氏名(年齢)	所属研究機関・部局・職	現在の専門	学位	役割分担 (本年度の研究実施計画に対する分担事項)	平成 14 年 度研究経費
吉野諒三	統計数理研究所・ 領域統計研究系・助教授	国際比較調査 ・数理心理学 計量文献学	PhD (心理学) 工学博士	総括、及び調査企画・ 実査監督・データ解析 調査企画・データ解析	
村上征勝	統計数理研究所・ 領域統計研究系・教授	行動計量学	理学博士	調査企画・データ解析	
馬場康維	統計数理研究所・統計 科学情報センター・センター長	行動計量学・ 社会調査	医学博士	調査企画・実査監督・ 社会心理学的的解析 調査企画・実査監督・ 医療文化人類学的解析 社会学的データ解析	
林文	東洋英和女学院大学 人間科学部・教授	社会学	PhD (社会学)	社会学的データ解析	
山岡和枝	帝京大学・法学部・ 助教授	計量心理学・ 教育学	教育学博 士	計量心理学的データ解析	
佐々木正道	兵庫教育大学・教育 学部・教授	環境統計学・ 社会調査・ 計量心理学	農学博 士	実査監督・統計科学的 データ解析	
中尾啓子	東京都立大学・人文学 部・助教授	社会学	文学修 士	計量心理学的データ解析	
土屋隆裕	統計数理研究所・ 調査実験解析系・助教授	統計学 社会調査 統計学	理学博 士 PhD(統計) PhD(統計)	中国調査企画・資料収集・監督 台湾調査企画・資料収集・監督 香港調査企画・資料収集・監督	
鄭躍軍	統計数理研究所・ 領域統計研究系・助手				
前田忠彦	統計数理研究所・ 調査実験解析系・助手				
海外共同研究者 Yuan Wei Sha Ben Chang Lai K. Chan	中国人民大学・副学長 輔仁大学統計学部・教授 香港城市大学統計学・部長				

合計	10名 (うち他機関の分担者 4名)	研究経費合計(研究(1)のみ該当)	
基盤研究(A・B)	研究機関名	文部科学省統計数理研究所	研究代表者氏名 吉野 諒三

研究目的

①科学研究費の交付を希望する期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか、②当該分野におけるこの研究(計画)の学術的な特色及び予想される結果と意義、③国内外の関連する研究の中での当該研究の位置づけ について焦点を絞り、具体的かつ明確に記入してください。

- 1) 今回の科学研究費の交付希望期間内には、以下の a)、b)、c) に重点をおいて、研究を遂行する。
 - a) 文化の伝播変容を統計科学的に解明するために、東アジア諸国の人々の意識構造について統計科学的「標本抽出法」に則った面接調査を遂行する。
 - b) 特に、21 世紀における国際交流のなかで、東アジア諸国民の「信頼感」のあり方について焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報を与える分析を推進させる。
 - c) 収集した「東アジア諸国民の意識調査」の情報を中心に、既存の「意識の国際比較調査データ」等とともにデータベースを作成し、コンピューター・ネットワーク等を利用して世界へ一般公開する。

2) 研究の背景(特色、予想される結果と意義)

統計数理研究所では、1953 年以来、「日本人の国民性」に関する意識調査を継続してきた。これは、戦後導入された標本抽出理論の実践的応用の確立を目指すものであり、また戦後の民主主義の発展を目的とした官民の調査機関による世論調査発展の基盤の一つとなった。これに関連して多くの実験調査や様々な統計分析法の研究が生まれ、統計学における実証的データ解析の発展にも刺激を与えてきた。これは日本の独創であり、世界的にも海外の研究者達(Inglehart ら)が「世界価値観調査」など様々な調査を遂行するようになる契機を与えたのであった。

この研究は、国民性をより深い観点から考察する目的で、1971 年頃より海外の日系人調査を初めとして、「意識の国際比較調査」へと拡張されてきた。調査された国・地域のいくつかは言語や文化を共有しているために全体として比較研究の興味深い対象となり、「連鎖的比較の調査研究 (Cultural Link Analysis)」と呼ばれる方法論が発展し、蓄積されてきたデータは世界的にも貴重な資料として認められている。

21 世紀初頭の今日、世界秩序の再構成が進み、より大きな単位によって構成された国際社会が生まれつつある。この国際的潮流は、広義の民主主義の拡大として特徴づけられるであろうが、その成功には国家間、民族間の円滑な相互理解が重要である。しかし、現実には異なる文明圏の間での紛争が絶えず、今日の世界的武力緊張に至っている。各々の民族は長い歴史の中でそれぞれに必要な生活習慣、倫理、宗教、人間関係等、民族固有の文化を発展させてきた。この意味での文化が各国固有の政治・経済の基盤にある。各国の文化や国民性を各国が相互に深く理解することが、世界の平和的な政治・経済の発展を促進させる鍵となっている。

一方で、各国内部でも伝統的な社会システムが崩壊しつつあり、職場、家庭、教育現場における人間関係にも大きな変化が見られ、学級崩壊、家庭の崩壊、政治不信など、「信の崩壊」の時代となっている。しかし、これは産業革命初期と同様に過渡期の混乱であり、新たな社会の確立とともに新たな時代の信頼感が確立されるのであろう。そのための基礎情報として、現在の国内外の状況を適確に把握する必要がある。

日本は高齢化社会の中で労働人口が減少し、種々の社会問題を抱え、今日の世界経済での地位を保ち続けるのは困難となると予想されている。このために特に近隣諸国から外国人労働者の積極的受け入れ等を始めとして、国際交流がますます必然となろうが、これに伴い、日常生活の中でも異文化間摩擦が様々な形で現われて来るに違いない。この状況を生産的な形へ方向転換するために、異文化間理解、文化変容の研究がますます重要となってくる。この意味で、本研究で統計科学的に適正に収集された調査データが広く世界の人々に活用され、国内外での異文化間摩擦を回避し、世界の秩序の維持と発展の一助とすることの意義が了解されるであろう。また、調査データの一般公開により、世界の人文社会科学の研究者、統計学者の多様な実証的研究をも促進させることが期待されよう。

3) 国内外の関連研究の中での本研究の位置づけ

上記 2) のように、本研究は日本の独創の上であり、国外では Inglehart らの「世界価値観調査」やミシガン大学の GSS (米国の一般社会調査) をはじめとする各国の様々な継続的国際比較調査研究に影響を与え、また国内では逆輸入の形で日本版 GSS が社会学者達によって開始されている。また NHK の ISSP (国際共同比較調査) 等のマスコミによる調査も、多様かつ広範に発展している。しかし、いずれにせよ過去半世紀の「日本人の国民性」及び「意識の国際比較」研究における統計的方法論を基準とした上で、各自の工夫によって調査が展開されてきたのである。また、本研究の先駆となる研究の成果は国内外の研究者、教育機関(教科書中の引用など)、行政、マスコミなどにより長年にわたり広く引用されてきた。

このような背景の中で、本研究は新たな世界秩序の一つの極となるであろう東アジア圏の諸国民の意識構造、特に「信頼感」のあり方についての情報を日本や他のアジアの研究者自らが的確に収集し、一般に提供することで、国内外で学術的にも行政的にも活用され得る成果が期待されよう。

基盤研究(A・B)	研究機関名	文部科学省統計数理研究所	研究代表者氏名	吉野 諒 三
-----------	-------	--------------	---------	--------

従来の研究経過・研究成果又は準備状況等 (I及びIIを区別するため、Iを記入後は点線を引いて分けてください。)

I. この研究課題又はこれに密接に関連した研究課題で、研究代表者が従来受けた科学研究費補助金の研究種目、期間(年度)、研究課題名、研究経費を記入のうえ、それぞれの当初の研究計画、研究経過及び研究成果等について具体的かつ明確に記入するとともに、その研究成果をふまえて研究をどのように発展させていくのか、また、準備状況等について、焦点を絞り、具体的かつ明確に記入してください。
 II. I以外で、この研究課題又はこれに密接に関連した研究課題で受けた、科学研究費補助金以外の研究費(他府省・地方公共団体・研究助成法人・民間企業等からの研究費を含む。)におけるそれぞれの研究経過・研究成果等について名称、期間(年度)、研究課題名、研究者(研究代表者又は研究分担者)氏名、研究経費を記入のうえ、具体的かつ明確に記入してください。

① 従来の研究経過・研究成果

本研究は、統計数理研究所による1953年以來の「日本人の国民性」調査、及び1971年以來の「意識の国際比較調査」の一連の研究の流れの中にある。この間、機関研究としてのみならず、多方面からの財政的支援を受けている。以下は、本申請研究の代表者が直接携わった比較的近年の主要な調査プロジェクトのみを列挙する。

- 1) 文部省科学研究費補助金・特別推進研究 (1986-90)「意識の国際比較方法論の研究——新しい統計的社会調査方法の確立とその展開」(林知己夫、佐々木正道、林文、吉野諒三他) 12,950万円
- 2) 文部省科学研究費補助金・国際学術研究 (1988-90)「意識の国際比較方法論の研究——連鎖的比較方法論の確立とその展開」(林知己夫、佐々木正道、林文、吉野諒三他) 1,791万円
- 3) 日本学術振興会・日米共同研究費「日本人とアメリカ人」(1990) 250万円
(林知己夫、吉野諒三、佐々木正道、林文、A. Inkeles、M. Lipset、H. Scheumann 他)
- 4) 日本学術振興会・日独共同研究費「計量的社会科学研究」(1991-92)(林知己夫、吉野諒三、三隅不二不他) 400万円
- 5) 文部省科学研究費補助金・国際学術研究 (1992)「日独両国および両国民の将来像——意識の実証的研究に基づく——」(鈴木達三、林知己夫、吉野諒三、佐々木正道、富永健一、佐藤誠三郎、三隅不二不、E. K. Scheuch 他) 350万円
- 6) 文部省科学研究費補助金・試験研究 A(1)「意識の国際比較における連鎖的調査方法論の実用化に関する研究」(1992-94) (吉野諒三[代表]、鈴木達三、林知己夫、佐々木正道、林文) 3,840万円
- 7) 文部省科学研究費補助金・基盤研究 A(1) (1996-97)「日独における社会変動と価値志向の比較研究」(佐々木正道、吉野諒三、林知己夫、林文、三隅不二不、E. K. Scheuch 他) 1,007万円
- 8) 文部省科学研究費補助金・国際学術研究 (1996-97)「日米の国民性とその形成過程に関する研究」(林知己夫、吉野諒三、佐々木正道、A. Inkeles 他) 720万円
- 9) 文部省科学研究費補助金・試験研究 A(1) (1996-97)「社会構造と国民性の形成過程に関する研究」(佐々木正道、吉野諒三、林知己夫、鈴木達三、林文、山岡和枝他) 2,250万円
- 10) 文部省科学研究費補助金・基盤研究 A(1) (1996-97)「大学生のボランティア活動促進のためのカリキュラム開発に関する研究」(佐々木正道、吉野諒三、林知己夫他) 1,240万円
- 11) 文部省科学研究費補助金・基盤研究 A(2) (1998-99)「大学生のボランティア教育とその活動に関する国際比較研究」(佐々木正道、吉野諒三、林知己夫他) 1,220万円
- 12) 文部省科学研究費補助金・基盤研究 A(2) (1999-2001)「国民性の意識調査データに基づく文化の伝播変容のダイナミズムの統計科学的解析」(吉野諒三[代表]、林知己夫、林文、山岡和枝、佐々木正道、村上征勝、馬場康維他) 2,420万円
- 13) 文部省科学研究費補助金・基盤研究 A(2)(1999-2001)「文化の伝播変容の統計科学的解析——ハワイ日系人・非日系人国際比較調査——」(吉野諒三[代表]、林知己夫、林文、山岡和枝、鄭躍軍、F.Miyamoto 他) 1,808万円

上記の1)、2)及び6)では、文化の「連鎖的比較方法論 CLA」の開発を推進し、3)及び4)では国際的共同研究の中でCLAの実践的検討を行い、5)、7)及び8)では日独、日米の比較研究の中で国際的かつ学際的研究テーマについて検討を行い、その有効性を確認した。9)、10)及び11)は特定のテーマに焦点を当てた国内での実践的応用を示し、さらに12)及び13)では特に海外の日系人に焦点を当て、既存の「日本人の国民性調査」の時系列的データと「意識の国際比較調査データ」との関連の中で、「文化の伝播変容」に関して時間・空間的变化を追求した。この中で、日本人や日系人固有の対人関係(義理人情)や宗教意識(信心を持たない人々も「宗教的態度が大切」と考えている等)、回答傾向(極端な回答を避ける等)が計量的に明瞭になってきた。これらの成果は、その都度、一連の統計数理研究所レポートを含む多数の学術論文や刊行物として国内外に発表され、さらに国際会議を含む国内外の学会等でも報告されている。

基盤研究 (A・B)	研究機関名	文部科学省統計数理研究所	研究代表者氏名	吉野諒三
------------	-------	--------------	---------	------

従来の研究経過・研究成果又準備状況等(つづきは)

広範にわたる調査結果や分析の詳細を一言でまとめるのは難しいが、敢えて上記の一連の研究の統計学的方法論に限っての要点を述べれば、次の3点にまとめられる。

- 1) 各国や各地域では、名目上は同じ「標本抽出調査」でも、実際は社会的・歴史的事情により異なる、各々に固有の統計的標本抽出調査が用いられており、国際比較の文脈では、単純な回答数値の比較のみで議論するのは危険であること。
- 2) 国際比較では、異なる言語を用いて「同じ」と想定される質問項目を回答者に施すのであるが、同一言語でも微妙な表現の差異で回答分布に10~15%程度の差異を生み出すこともあること(バックトランスレーションによる検討)。
- 3) 上記の1)、2)のような問題点があるため、単一質問項目に対する回答数値を皮相的に国際比較するのは危険であるが、複数の項目群を活用した統計的(計量心理学的)尺度構成やパターン解析を適切に用いれば、各国の特徴を比較すべき国々の全体の中で安定したパターンとして浮かび上がらることができるのを確認した。我々はこれを、ノイズのある現実的データから、より信頼性の高い情報を引き出す探索的データ解析の方法論はパラダイムと位置づけ、「データの科学」と称するに至った。

以下には、上記の成果に関連する近年の国内外での主要な出版物の一部を記す。

- 1) 「第5 日本人の国民性」 出光書店. 1993.
- 2) 「国民性七か国比較」 出光書店. 1998.
- 3) 「Quantitative Social Research in Germany and Japan」 Leske-Buddrich. 1996.
- 4) 「Data Science, Classification and Related Methods」 Springer-Verlag. 1998.
- 5) 「Values and Attitude across Nations and Time」 Brill. 1998.
- 6) 「心を測る」—個と集団の意識の科学— データの科学シリーズ. 朝倉書店. 2001

一方、調査データ公開に関しては、情報公開の精神とプライバシーの保護とのバランスを(財)日本世論調査協会等の関連機関とともに長年にわたり慎重に検討を進めてきたが、官学産の各方面の利益につながると思われる形で、我々が過去に収集してきた調査データを含め、報告書、書籍、コンピューター・ネットワーク上での公開、CD等の磁気媒体を介しての公開を順次、遂行している。

②準備状況

本研究では、前記の一連の研究成果を踏まえて、特に、

- 1) 統計的標本調査(面接法)による東アジア諸国の人々の一般的意識構造の国際比較を遂行し、
- 2) 特に、「信頼感」に関する意識・認知構造の各国民の差違の分析を進め、
- 3) 調査データ及び分析結果をコンピューター・ネットワーク上で世界へ一般公開させる作業

を推進させる。このために、既に、中国、台湾、香港などの現地研究者(中国統計学会副会長 Y. Wei, 香港城市大学 L-K. Chan, 輔仁大学 B-J. Shia, 中国国家统计局 Y-X. Kao, 韓国統計庁朴承根ら)や、東アジア各地の標本調査に詳しい国内外の研究者たち(林知己夫、平野健一郎, F. Miyamoto, Y. Kuroda, T. Kashima, S. Fugita ら)との連携を図り、関連資料収集、調査地域の一部視察、調査項目の候補選定、プリテスト調査票の作成等の検討・準備作業が開始されている。(注。「研究組織欄」に示した海外共同研究者は、その一部に過ぎない。)

1) に関しては、大規模標本調査の実施可能性や時間・費用の限界等を考慮して調査地域を選定したが、各国々や地域では日本のように住民票や選挙人名簿を用いた比較的理想的な標本抽出調査は難しいことが多い。これに関しては、各国調査機関の過去の調査実績を調べ、検討を進めている。例えば、中国は Inglehart らの「世界価値観調査」にも参加し、全国的標本調査が遂行されているはずであるが、実際は、標本抽出・面接作業の信頼性に疑義がもたれている。韓国では、エリア・サンプル(実態はモニター調査に近い)が用いられており、これも全く問題が無いわけではない。香港では、地域の事情により、一般には電話調査のみが遂行されている。他の東南アジアの国々では、国情により統計的無作為標本調査は難しく、不確かな推定をせざるをえない場合も少なくない。我々は、こういった事情の下で、統計的理論に則り、かつ実践的に可能な標本抽出調査を検討・模索しているところである。特に、一部地域(中国・北京など)については、小規模だが予備的な実験的標本調査を平成13年度に試行している途上にある。

2) に関しては、「信頼感」を測定する尺度として、ミシガン大学の GSS 調査の尺度項目が用いられることも多く、我々の既存の調査でも利用されていた。しかし、L.G. Zucker らの批判のように、信頼感は直接には測定できないという主張もある。我々は、国際比較データの統計的分析の工夫により、GSS の信頼感尺度でも国々のパターンの差異が明確に現れることを確認しつつあるが、さらに a) 対人関係における交流関係 b) 性格、c) 社会制度等を考慮した「信頼感」の多面的・多次的な側面を、より統計的に安定して計測する尺度構成を検討中である。これにより、F. Fukuyama ら欧米の研究者の一元的なアジア諸国の「信頼感」理論を超越した実証的研究を志している。

3) については、前述のように、特にコンピューター・ネットワーク上や磁気媒体を介して、既存のデータの公開を順次進めているが、これに合わせて本研究で収集するデータを同様の形式で公開するのは問題ないであろう。また、進展によっては、さらに有益な形式での公開へ発展させたいと考えている。

研究計画・方法

(I及びIIを区別するため、Iを記入後は点線を引いて分けてください。)

I. 研究目的を達成するための研究計画(調査研究実施国・地域及び旅行経路を説明しながら)・方法等について、申請年度毎に具体的にかつ簡潔に記入してください。また、海外共同研究者(公募要領11頁を参照)とともに調査研究を行う場合には、その必要性及びこれらの者とのように共同して調査研究を実施していくのかについて記入してください。
 II. ①ヒトの遺伝子解析研究については、ヒト由来試料等の提供者、その家族・血縁者その他関係者の人権及び利益の保護の取扱いについて十分配慮する必要があること、②相手の同意・協力や社会的コンセンサスを必要とする研究課題又はアンケート調査等を行う研究課題については、人権及び利益の保護の取扱いについて十分配慮する必要があること、から、このような計画を含む場合には、計画について隣じる対策・措置状況について具体的に記入してください。

I.

平成 14年度は、東アジア価値観調査のために、年度の前半(4月～9月前半)では、以下の 1)～4)を遂行する。

- 1) 基礎資料(東アジア各国の関連調査データ、文献等)を収集・整理する。
- 2) 東アジアの各地域を訪問視察し、調査環境について確認する。各地の現地調査研究者と連携しながら、標本抽出の実践的検討を行い、その遂行可能性を確認し、同時に調査項目の候補を選定する。
- 3) 国内外の調査関連の研究者との連携により、調査票のトピックの検討と、質問項目の具体案の作成をする。
- 4) 特に本年度後半の国内外の4地域(日本、北京、上海、香港)用の調査票の日本語暫定版を作成し、現地研究者の Yuan Wei(中国人民大学副学長、中国統計学会副会長)、Chan Lai Kow(香港城市大学応用統計学科教授)、Shia Ben ·Chang(台湾輔仁大学統計学科教授)、Yu ·Xian Kao(国家統計局)等の協力の下で翻訳・再翻訳(ハックトランスレーション)の手続きを経て、プリテスト用調査票を作成する。

年度の後半(9月後半以降)では、以下 5)のように日本の全国レベル、及び中国本土の3地域における各市レベルの標本抽出による面接調査を遂行する。即ち、

- 5) 9月下旬 各地域でのプリテスト実施
- 10月上旬 プリテストの結果検討の後、必要ならば修正を加え、本調査用の調査票の最終版確定
- 10月中旬 日本及び中国3地域での本調査実施

調査対象 : 日本全国及び北京、上海、香港に居住し、それぞれの地域の国籍をもつ 18 歳以上の男女。計画サンプル数は各地域で、それぞれ 1500 名づつ(有効回収数 1000 名以上を期待)。

調査法 : 現地当局の協力を得て、住民票や戸籍簿等から無作為層別 2 段抽出した対象に、訪問面接により、調査票に基づいた聞き取り調査を遂行する。(調査は各地域の大学の協力により、また場合によっては現地の調査代理機関が遂行する。)

調査項目 : 過去の「日本人の国民性」や「意識の国際比較調査」を参考に、各地域の人々の多面的・多次元な一般的意識構造(人間関係、宗教、教育、健康、家庭、男女の役割 etc.)とともに、特に対人関係における「信頼感」、集団内や集団間の「信頼感」、社会制度やリーダーに対する「信頼感」を主とした質問項目を作成する(約 60 項目)。但し、「信頼感」の直接的な測定可能性等に配慮し、多面的・多次元的な指標や尺度構成を考案する。

11月上旬～12月 回答データのクリーニングとコンピューターへのデータ入力

- 1月 単純集計表作成
- 2月 一次的データ分析
- 3月 現地研究者と連絡しあい、調査結果の解釈について検討し、第一次報告書をまとめる。

平成 15年度は、韓国における全国レベル、そして台湾における全域レベルの標本抽出による面接調査を遂行する。

4月～9月中旬 前年度の日本・中国調査データの分析を進めると共に、国内外の調査関連の研究者との連携により、本年度の調査地域に関する資料収集する。Shia Ben ·Chang(台湾輔仁大学統計学科教授)や朴承根(韓国統計庁研究員)らの現地研究者や調査代理機関とともに調査票や調査法について詳細な検討を行い、翻訳・再翻訳の手続きを経て調査票を作成する。

- 9月下旬 プリテスト実施
- 10月上旬 プリテストの結果検討の後、本調査の調査票確定
- 10月中旬 韓国、台湾での本調査実施

調査対象はそれぞれの地域に居住し、それぞれの地域の国籍をもつ成人男女(計画サンプル数 1500 名、有効回収数 1000 名以上期待)とする。調査法及び調査項目については、平成 14 年度の日本・中国本土調査に準じる。但し、前年度調査データの検討の結果、一部補足、修正することもあり得る。

11月上旬～12月 回答データのクリーニングとコンピューターへのデータ入力

- 1月 単純集計表作成
- 2月 一次的データ分析
- 3月 現地研究者と連絡しあい、調査結果の解釈について検討し、第一次報告書をまとめる。

基盤研究(A・B)	研究機関名	文部科学省統計数理研究所	研究代表者氏名	吉野 諒 三
-----------	-------	--------------	---------	--------

研究計画・方法(つづき)

平成 16年度はシンガポールでの全国レベルでの標本抽出調査、及びタイ、マレーシア、フィリピンの各国の都市と地方の一部における面接調査を遂行する。(注:タイ、マレーシア、フィリピンでは国勢調査すら完全には遂行されていないので、通常、全国レベルの標本抽出のもととなるリストが存在せず、一部地域の調査データからの推計に頼らざるを得ない。)

4月～9月下旬 前年度までの各地での調査データの分析を進めると共に、国内外の調査関連の研究者との連携により、資料収集し、現地研究者らとともに調査票や調査法について検討を行い、翻訳・再翻訳の手続きを経て調査票を作成する。

9月下旬 プリテスト実施

10月上旬 プリテストの結果検討の後、本調査の調査票確定

10月中旬 1)シンガポールにおいては、全国レベルの調査を実施する。調査対象は、それぞれの地域の国籍をもつ成人男女(計画サンプル数 1500名、有効回収数 1000名以上期待)とする。調査法及び調査項目については、前年度までの調査に準じる。(但し、検討の結果、一部修正・補足することもあり得る。)

2)タイ、マレーシア、フィリピンの一部の都市と地方で面接調査を実施する。但し、これらの地域のデータは無作為標本抽出調査ではなく、飽くまでも補助的なものとする。

11月上旬～12月 回答データのクリーニングとコンピューターへのデータ入力

1月 単純集計表作成

2月 一次的データ分析

3月 現地研究者と連絡しあい、調査結果の解釈について検討し、第一次報告書をまとめる。

平成 17年は、14年～16年度に収集した各国の調査データを総合的に分析し、最終報告書の作成と調査データ公開を中心として作業する。

4月～9月 1)「東アジア価値観国際比較調査」最終報告書用分析を進める。

2)特に、アジア各国の「信頼感」のあり方に焦点を当てた分析報告書をまとめる。

9月～12月 「東アジア価値観国際比較調査」データのコンピューター・ネットワークを利用した公開作業を推進させる。同時に、国内外での学会やマスコミを通じて、最終的研究成果の発表を行う。

1月～3月 「東アジア価値観国際比較調査」最終報告書をまとめ、統計数理研究所リポートとして発刊し、広く国内外に配布する。

.....
II. 面接調査においては、プライバシーなどの人権保護の観点から、(財)日本世論調査協会や WAPOR(世界世論調査協会)等の指導する「個人情報保護規定」を遵守する。また、平成 17 年度以降のデータの一般公開に際しても、同規定の主旨を勘案し、個人を特定し得る情報やデータは秘匿する。また、データの保管においても、個人と対応のつくデータの形では保管しない様に配慮する。

研究組織を研究(1)で組織する理由

研究代表者と異なる研究機関に所属する研究者を研究組織の人数の 1/2 を超えて研究分担者として加える必要があること、又は、研究代表者と異なる研究機関に所属する研究者を研究分担者に加える研究であって、研究分担者に研究費の一部を配分しないと研究遂行上支障がある理由を記述してください。

該当せず

研究業績

最近5か年間に学術誌等に発表した論文、著書のうち本計画に関連する重要なものを選定し、研究組織欄に記入された研究者ごとに、現在から順に発表年次を過去にさかのぼって記入してください。なお、この頁で記入できない場合は、裏面を使用してください。

研究代表者・分担者氏名 (大学・学部・職名)	発表論文名・著書名 (著者名、論文名、学協会誌名、巻(号)、最初と最後のページ、発表年(西暦)) (以上の各項目が記載されていれば、項目の順序を入れ替えても可。著者名が多数にわたる場合は、主な著者を数名記入し以下を省略(省略する場合、その目数と、掲載されている順番を○番目と記入)しても可。なお、研究代表者及び研究分担者にはアンダーラインを付すこと。)
吉野諒三 (文部科学省統計数理研究所・領域統計研究系・助教授)	<p>吉野諒三, データの科学シリーズ「心を測る」…個と集団の意識の科学… 朝倉書店. (2001)</p> <p><u>Yoshino, R.</u> CLADS (Cultural Link Analysis & Data Science) on cross-national survey of national character. Abstract of the 35th Congress of the International Institution Sociology in Krakow, pp.167-168 (2001).</p> <p>吉野諒三, 林知己夫, 林文, 山岡和枝, 鈴木達三, 佐々木正道, 中尾啓子, Y.Kuroda, F. S. Miyamoto, T. Kashima, S.Fugita. 「文化の伝搬変容の統計科学的解析—ハワイ日系人・非日系人国際比較調査」統計数理研究所研究リポート No.86. (2001)</p> <p>吉野諒三, 林知己夫, 山岡和枝, 林文, 鈴木達三, 馬場康維, 村上征勝, 佐々木正道. 「国民性に関する意識調査データに基づく文化の伝播変容のダイナミズムの統計科学的解析」統計数理研究所研究リポート No.84. (2000)</p> <p><u>Yamaoka, K., Yoshino, R., & Hayashi, C.</u> Clustering of the Japanese, Japanese Americans & Americans based on the ways of thinking, International Federation of Classification Society, Vol.7, pp.10-14. (2000)</p> <p>吉野諒三 「国際比較調査法の開発という側面からの統計科学」日本統計学会誌. 第30巻, 第3号, pp.283-289. (2000)</p> <p>吉野諒三 青少年を取り巻く家庭・家族、そして彼らの人生観. 第6回世界青年意識調査細分析報告書、第2章, pp.41-62. 総務庁青少年対策本部. (1999)</p> <p>吉野諒三 「国際比較調査データ公開の試み」日本世論調査協会報. 第83号 pp.9-11. (1999)</p> <p><u>Yoshino, R.</u> A social quantum theory for the analysis of public opinion survey data. Behaviormetrika. Vol.25 No.2 pp.111-132. (1998)</p> <p>林知己夫, 吉野諒三, 鈴木達三, 村上征勝, 林文, 釜野さおり, 三宅一郎, 佐々木正道(編集) 「国民性七か国比較」出光書店. (1998)</p> <p><u>Yoshino, R.</u> "Degree of conformity for the cross-national comparative studies of national characters." In Hayashi, C. & Scheuch, E. K. (Eds.), Quantitative Social Research, pp.182-206. Leske+Budrich. (1996)</p>
村上征勝 (文部科学省統計数理研究所・領域統計研究系・教授)	<p>村上征勝. 源氏物語本文研究データベース, 勉誠出版, 2000</p> <p>袁工, 村上征勝, 王棋延(2000)「北京和東京居民的時間分配比較研究」中国人民大学学報 2000年, 第3期, 48-57</p> <p>村上征勝(2000)「源氏物語を数字で読む」, ESTRELA, No.71, 76-79</p> <p>村上征勝(2000)「文章の計量分析—その歴史と現状—」, 計測と制御</p> <p>村上征勝(1999)「6世紀~8世紀建立の寺院の金堂の平面形状に関する計量分析」, 情報考古学 Vol.4. No.2, 15-22</p> <p>村上征勝, 今西祐一郎(1999)「『源氏物語』の計量分析」, 人文科学における数量的分析(4), 61-66</p> <p>村上征勝, 金明哲, 「人文科学研究のための情報処理講座⑤数量的分析編」, 尚学社, 1998</p>
馬場康維 (統計数理研究所・統計科学情報センター・センター長)	<p>馬場康維 地理情報を用いた統計データの利用, 平成11年度厚生科研費研究成果報告書「健康危機関連統計の高度処理に関する研究」(金藤浩司編), 103-104, 2001.</p> <p>馬場康維 標本設計と地域分割, ミクロ統計分析(松田芳郎, 垂水共之, 近藤健文編), 日本評論社, 3, 38-72, 2000.11</p> <p>馬場康維 多次元データの解析法, 教育と情報, 511, 20-34, 2000.</p> <p>馬場康維 記述的多変量解析と信頼性, 科研費報告書「多次元データの構造解析法の研究」(馬場康維編), 1-12, 2000.</p> <p>Nishisato Shizuhiko & <u>Baba Yasumasa</u>(1999), On contingency projection and forced classification of dual scaling, Behaviormetrika, Vol.26, No.2, 207-220.</p>
基盤研究(A・B)	研究機関名 文部科学省統計数理研究所 研究代表者氏名 吉野諒三

<p>林文 (東洋英和女学院大学・人間学部・教授)</p>	<p>林文、林知己夫。「中国における世論調査の標本誤差推定の試み」、よろん(日本世論調査協会報)、第85号、p.12-15、2000。 林文。「デンマークの仕事と家庭:エルシノア住民アンケートによる一考察」人文・社会科学論集(東洋英和女学院大学)、第17号、p.97-206、2000.12。 林文。「国際比較調査の問題点—中国調査から—」、よろん(日本世論調査協会報)、第83号、p.25-28、1999。 林文、田中愛治。「面接調査と電話調査—読売新聞世論調査室の比較実験査」行動計量、23(1)、p.10-19、1996。 Yamaoka, K. Variation in attitudes and values among Japanese Americans and Japanese Brazilians across generations. Behaviormetrika, 27, 125-151, 2000。</p>
<p>山岡和枝 (帝京大学・法学部・助教授)</p>	<p>山岡和枝、林知己夫。電話帳記載・非記載者をめぐる諸問題—首都圏調査から—行動計量学、26、114-124、1999。 山岡和枝 健康関連QOLの評価尺度の構築 行動計量、25(2)、86-90、1998。 山岡和枝。電話調査と電話帳記載・非記載者 よろん、83、19-23、1998。</p>
<p>佐々木正道 (兵庫教育大学・社会学部・教授)</p>	<p>佐々木正道、他7名。大学生のボランティアに関する実証的研究。(科研費補助出版) ミネルヴヴェア書房、2001。 Sasaki, M. & Suzuki, T. Social Attitudes in Japan. Brill: London. 2000。 佐々木正道、「モダニティ・ポストモダニティ・伝統」『伝統と創造』。人文書院、2000。 Sasaki, M. ed.) "Ethnicity, Nation State and Globalization." The Annals of the International Institute of Sociology, Vol 7, 1-5, 1999。 Sasaki, M. "Education." International Journal of Japanese Sociology, Vol. 6, 135-146, 1997。 佐々木正道、「香港の経済発展—中国への変換に向けて」『ICSEAD:東アジアへの視点』8巻2号、8-22、東アジア研究センター、1997。</p>
<p>中尾啓子 (東京都立大学・人文科学部・助教授)</p>	<p>Nakao, Keiko. 2000. "Occupational Prestige." <i>Encyclopedia of Sociology, Revised edition</i>. E. F. Borgatta, ed., New York: Macmillan。 中尾啓子「階層とネットワーク」2000。森岡清志編『都市社会の人間関係』放送大学教育振興会。 中尾啓子「社会的資源と地位達成:アメリカの総合社会調査による分析」2000。佐藤博樹・石田浩・池田謙一編『社会調査の公開データ-2 次分析への招待-』東京大学出版会。 中尾啓子・星敦士「企業調査における調査方法上の諸問題」2000。『総合都市研究』第73号、pp. 95-102。 Nakao, Keiko. 1998. Sociological Work in Japan. Annual Review of Sociology 24:499-516。</p>
<p>土屋隆裕 (統計数理研究所・調査実験解析研究系・助教授)</p>	<p>土屋隆裕 UNISCALによる「日本人の国民性調査」データの分析 統計数理、第48巻第1号、121-145、2000。 Tsuchiya, T. Homogeneity analysis for partitioning qualitative variables. Data Science, Classification and Related Methods, Springer-Verlag, 452-459, 1998。 土屋隆裕 質的な3相データのための項目分類による尺度構成法 教育心理学研究、第44巻第4号、425-434、1996。</p>
<p>鄭 躍軍 (統計数理研究所・領域統計研究系・助手)</p>	<p>鄭 躍軍(2000): 中国のカウンティ別データに基づく土地利用・被覆現状の把握とその改善に関する課題。環境経済・政策学会2000年大会報告要旨集: 102-103。 Yuejun Zheng and Ryozo Yoshino (2000): A Cross-national Analysis of the Natural and Environmental Consciousness Based on the Survey Data in Seven Countries. Proc. of the Seven Japan-China Symposium on Statistics: 231-234。 鄭 躍軍(1999): 森林経営計画システムの開発に関する研究。東京大学農学部演習林報告No.101: 11-106。</p>
<p>前田忠彦 (統計数理研究所・調査実験解析研究系・助手)</p>	<p>前田忠彦・土屋隆裕 “日本人の国民性 2000年度吟味調査報告～電話・郵送・面接調査の比較～” 統計数理研究所研究リポート87 (2001) 前田忠彦・中村 隆 “近年5回の国民性調査の標本設計と標本精度について” 統計数理、第48巻第1号、147-178。(2000) 前田忠彦 “日本人の満足感の構造とその規定因に関する因果モデル—共分散構造分析の「日本人の国民性調査」への適用—” 統計数理、第43巻第1号、141-163。(1996)</p>

様式 4 研究(2) (基盤研究(S)、基盤研究(A)(2)、基盤研究(B)(2)、基盤研究(C)(2))

科学研究費補助金(基盤研究 A(2))交付申請書								
研究代表者	所属部局	職	氏 名					
	領域統計研究系	助教授	吉野 諒三			印		
研究課題名								
東アジア価値観国際比較調査 --- 「信頼感」の統計科学的解析 ---								
補助金額 (直接経費) (交付予定額)	合計	使 用 内 訳					その他	
		設備備品費	消耗品費	国内旅費	外国旅費	謝 金		
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	
研究組織(研究代表者及び研究分担者)								
氏 名	所属部局・職		役割分担等 (本年度の研究実施計画に対する 分担事項等を入力すること。)					
吉野諒三 (46)	統計数理研究所・ 領域統計研究系・助教授		総括、及び調査企画・ 実査監督・データ解析					
村上征勝 (56)	統計数理研究所・ 領域統計研究系・教授		調査企画・データ解析					
馬場康維 (57)	統計数理研究所・統計 科学情報センター・センター長		調査企画・データ解析					
林 文 (58)	東洋英和女学院大学 人間科学部・教授		調査企画・実査監督・ 社会心理学的的解析					
山岡和枝 (49)	帝京大学・法学部・ 助教授		調査企画・実査監督・ 医療文化人類学的解析					
佐々木正道(57)	兵庫教育大学・ 教育学部・教授		社会学的データ解析					
中尾啓子 (45)	東京都立大学・ 人文学部・助教授		社会学的データ解析					
土屋隆裕 (33)	統計数理研究所・ 調査実験解析系・助教授		計量心理学的データ解析					
鄭躍軍 (39)	統計数理研究所・ 領域統計研究系・助手		実査監督・統計科学的 データ解析					
前田忠彦 (37)	統計数理研究所・ 調査実験解析系・助手		計量心理学的データ解析					
海外共同研究者			中国調査企画・資料収集・監督					
Yuan Wei			台湾調査企画・資料収集・監督					
Sha Ben Chang			香港調査企画・資料収集・監督					
Lai K. Chan								
計 10 名								
機 関 番 号		62603		研 究 種 目		基盤研究 A(2)		
				課 題 番 号		142520/3		

研究の目的

- 1) 今回の科学研究費の交付希望期間内には、以下の a)、b)、c) に重点をおいて研究を遂行する。
 - a) 文化の伝播変容を統計科学的に解明するために、東アジア諸国の人々の意識構造について統計科学的「標本抽出法」に則った面接調査を遂行する。
 - b) 特に、21世紀における国際交流のなかで、東アジア諸国民の「信頼感」のあり方について焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報を与える分析を推進させる。
 - c) 収集した「東アジア諸国民の意識調査」の情報を中心に、既存の「意識の国際比較調査データ」等とともにデータ・ベースを作成し、コンピューター・ネットワーク等を利用して世界へ一般公開する。

本年度の研究実施計画

平成14年度は、東アジア価値観調査のために、以下の1)~5)を遂行する。

- 1) 基礎資料（東アジア各国の関連調査データ、文献等）を収集・整理する。
- 2) 東アジア各地域を視察し、調査環境を確認する。現地調査研究者と連携しながら、標本抽出の実践的検討を行い、その遂行可能性を確認し、同時に調査項目の候補を選定。
- 3) 国内外の調査関連の研究者との連携により、調査票の項目の検討と具体案の作成をする。
- 4) 国内外4地域用の調査票の日本語暫定版を作成し、現地研究者の協力により翻訳・再翻訳（バックトランスレーション）の手続きを経て、プリテスト用調査票を作成する。
- 5) 9月下旬 各地域でのプリテスト実施
 10月上旬プリテストの結果検討後、必要な修正を加え、本調査用の調査票の最終版確定
 10月中旬 日本及び中国3地域での本調査実施
調査対象：日本及び北京、上海、香港に居住し、各地域の国籍をもつ18歳以上の男女。
調査法：住民票・戸籍簿等から無作為層別抽出した対象に、面接調査を遂行する。
調査項目：各地域の人々の多面的・多次元な一般的意識構造とともに、特に対人関係、集団内や集団間、社会制度やリーダーに関する「信頼感」を主とした項目。
 11月上旬～12月 回答データのクリーニングとコンピューターへのデータ入力
 1月 単純集計表作成
 2月 一次的データ分析
 3月 現地研究者と連絡しあい、調査結果の解釈について検討し、第一次報告書をまとめる。

主要な設備備品の内訳（1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの）

品名	仕 (製造会社名・型)	数 量	単 価 (千円)	金 額 (千円)	納入予定時期
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月

1. 機関番号 6 2 6 0 3 2. 研究機関名 統計数理研究所
 3. 研究種目名 基礎研究(A)(2) 4. 研究期間 平成14年度～平成17年度
 5. 課題番号 1 4 2 5 2 0 1 3
 6. 研究課題名 東アジア価値観国際比較調査 ―― 「信頼感」 の統計科学的解析 ――

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
6 0 2 2 0 7 1 1	ヨシ リョウジ 吉野 諒三	統計数理研究所・領域統計研究系	助教授

8. 研究分担者(主な者を5名以内。所属機関名については、研究代表者の所属機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属機関名・所属部局名	職名
0 0 1 8 0 9 7 7	ハシ フミ 林 文	東洋英和女学院大学・人間科学部	教授
5 0 0 9 1 0 3 8	ヤマカ カズエ 山岡 和枝	厚生省国立保健医療科学院・技術評価部	室長
8 0 2 8 0 5 2 7	テイ ヤクワン 鄭 躍軍	統計数理研究所・領域統計研究系	助手
3 0 1 4 2 3 2 6	サキ マサヒ 佐々木 正道	兵庫教育大学・教育学部	教授
0 0 0 0 0 2 1 6	ムラカミ マサツ 村上 征勝	統計数理研究所・領域統計研究系	教授

9. 研究実績の概要(国立情報学研究所でデータベース化するため、600字～800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)

1) 本研究の重点は、以下の a)、 b)、 c) である。
 a) 文化の伝播変容のために、東アジア諸国の人々の意識構造について統計科学的「標本抽出法」に則った面接調査を遂行する。
 b) 特に、21世紀における国際交流の中で、東アジア諸国民の「信頼感」のあり方について焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報を与える分析を推進させる。
 c) 収集した「東アジア諸国民の意識調査」の情報を中心に、既存の「意識の国際比較調査データ」等とともにデータ・ベースを作成し、コンピューター・ネットワーク等を利用して世界へ一般公開する。
 本年度は、東アジア価値観調査のために、以下の 1)～5) を遂行した。
 1) 東アジア各国の関連基礎資料、文献等を収集・整理。
 2) 中国の調査予定地域を視察し、調査環境を確認。現地調査研究者と連携しながら、標本抽出の実践的検討を行い、同時に調査項目の候補を選定。
 3) 国内外の調査関連の研究者との連携により、調査票の項目の検討と具体案の作成。
 4) 国内外4地域用の調査票の日本語暫定版を作成し、現地研究者の協力により翻訳・再翻訳(バックトランスレーション)の手続きを経て、プリテスト用調査票を作成。
 5) 9月下旬 各地域でのプリテスト実施
 10月上旬プリテストの結果検討後、必要な修正を加え、本調査用の調査票の最終版確定
 11月～翌年2月 日本及び中国3地域での本調査実施
調査対象：日本及び北京、上海、香港に居住し、各地域の国籍をもつ成人男女。
調査法：住民票・戸籍簿等から無作為層別抽出した対象に、面接調査を遂行。
調査項目：各地域の人々の一般的意識構造、特に対人関係、集団内や集団間、社会制度やリーダーに関する「信頼感」を主とした項目。
 1月上旬～翌3月 回収データ・クリーニング、単純集計表作成、一次的データ分析、調査結果の解釈について検討し、第一次報告書をまとめた。

※ 成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4判縦長横書き1枚)を添付すること。

10. キーワード

- | | | |
|----------|----------|------------|
| (1) 東アジア | (2) 価値観 | (3) 信頼 |
| (4) 意識調査 | (5) 標本調査 | (6) データの科学 |
| (7) 国際比較 | (8) 統計分析 | (裏面に続く) |

11. 研究発表（発表予定を含む。但し、投稿中、投稿準備中は除く。）

〔雑誌論文〕

著者名	論文標題			
吉野諒三	階層的2進分解モデル(HiBiD)の構成 — 個と集団の認知の力動的解析のための「社会量子論」 —			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
認知科学	Vol.9, No.2	2 0 0 2	213—229	

著者名	論文標題			
Yoshino, R. & Hayashi, C	Editorial of the special issue: "comparative study of national character."			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
Behaviormetrika	Vol.29, No.2,	2 0 0 2	121—124	

著者名	論文標題			
Yoshino, R. & Hayashi, C	An overview of cultural link analysis of national character.			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
Behaviormetrika	Vol.29, No.2,	2 0 0 2	125—141	

著者名	論文標題			
Yoshino, R	A time to trust – a study on peoples' sense of trust from a viewpoint of cross-national and longitudinal study on national character .			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
Behaviormetrika	Vol.29, No.2,	2 0 0 2	231—260	

著者名	論文標題			
吉野諒三	「信の崩壊」…世論調査方法論の今日の課題。展望「21世紀の行動計量学」			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
行動計量学	第29巻 第1号	2 0 0 3	45—54	

著者名	論文標題			
Yoshino, R. & Hayashi, C	Editorial of the special issue: "comparative study of national character" Continued.			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
Behaviormetrika	Vol.30 No.1,	2 0 0 3	5—6	

著者名	論文標題			
Yoshino, R. & Zheng, Y.	Diversity Patterns of Attitudes Toward Nature and Environment in Japan, USA, and European Nations.			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
Behaviormetrika	Vol.30 No.1	2 0 0 3	21—37	

著者名	論文標題			
中尾啓子	「社会関係的資源の保有と利用：就職におけるパーソナルネットワークの役割」			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
総合都市研究	第78号	2 0 0 2	—	

著者名	論文標題	巻・号	発行年	ページ
中尾啓子	「社会階層とジェンダー」			
雑誌名				
岩井紀子・佐藤博樹編『日本人の姿 - JGSS にみる意識と行動 - 』有斐閣漢書			2 0 0 2	155—160

著者名	論文標題	巻・号	発行年	ページ
中尾啓子	「地位達成過程における転職 - JGSS-2000 調査データを用いての検討 - 1」			
雑誌名				
『日本版 General Social Surveys 研究論文集:JGSS-2000 で見た日本人の意識と行動』東京大学社会科学研究所			2 0 0 2	1—16

著者名	論文標題	巻・号	発行年	ページ
中尾啓子	「パーソナルネットワークの概要と特性:東京都居住者対象のネットワーク調査から」			
雑誌名				
森岡清志編『パーソナルネットワークの構造と変容』都市研叢書			2 0 0 2	17—39

著者名	論文標題	巻・号	発行年	ページ
林文、佐々木正道	「日米の親子調査 — 親子間における考え方の継承について —」			
雑誌名				
日本行動計量学会第 30 回大会発表論文抄録集			2 0 0 2	342—343

著者名	論文標題	巻・号	発行年	ページ
林文	「調査結果をどう読むか」(特別セッション「集団と個」に関するデータ解析の問題点)			
雑誌名				
日本行動計量学会第 30 回大会発表論文抄録集			2 0 0 2	77

著者名	論文標題	巻・号	発行年	ページ
林文	「日本人の自然観」			
雑誌名				
こしじ水と緑の会会報	第 6 号		2 0 0 3	2

著者名	論文標題	巻・号	発行年	ページ
中尾啓子	「階層帰属意識と生活意識」			
雑誌名				
理論と方法	vol.17, No.2.		2 0 0 2	135—149

著者名	論文標題	巻・号	発行年	ページ
Tamiya N, Yamaoka K, Yano E	Use of home health services covered by new public long-term care insurance in Japan: impact of the presence and kinship of family caregivers.			
雑誌名				
Int J Qual Health Care. Aug	14(4)		2 0 0 2	295—303

著者名	論文標題			
山岡和枝	行動計量学と Evidence-based Medicine.			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
行動計量学	28(2)	2	001	39—43

著者名	論文標題			
Hayashi LC, Hayashi S, Yamaoka K, Tamiya N, Chikuda M, Yano E.	Ultraviolet B exposure and type of lens opacity in ophthalmic patients in Japan.			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
Sci Total Environ Jan 20	302(1-3)	2	003	53—62

著者名	論文標題			
Yamaoka K, Hayashi C.	Cultural link analysis of Japanese Americans.			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
Behaviormetrika	30(1),	2	003	7—19

著者名	論文標題			
鄭躍軍	NOAA/AVHRR データの解析による土地利用・被覆分布に関する考察			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
応用統計学	Vol.31(1)	2	002	23—40

著者名	論文標題			
Murakami. M	Classical Text, Read or Fake?			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
Pacific Neighborhood	No. 3	2	002	331—334

著者名	論文標題			
Sasaki Masamichi	Presidential Address: The moral Fabrics in Contemporary Societies			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
The Annals of the International Institute of Sociology	Vol. 9	2	002	1—54

[図書]

著者名	出版者		
吉野諒三	共立出版		
書名	発行年		総ページ数
「認知科学辞典」 (研究法・統計の項目一部執筆, 日本認知科学会編.)	2	002	1015

著者名	出版者		
吉野諒三、林文、山岡和枝	朝倉書店		
書名	発行年		総ページ数
社会調査ハンドブック (林知己夫監修、第5章、第13章1節、第11章1節執筆)	2	002	757

著者名	出版者		
林文, 山岡和枝	朝倉書店		
書名	発行年		総ページ数
「調査の実際」	2	002	232

著者名	出版者		
山岡和枝	朝倉書店		
書名	発行年		総ページ数
健康関連 QOL におよぼす性格特性の影響 (in 多変量解析実例ハンドブック、柳井 晴夫、岡太彬訓、繁樹算男、高木広文、岩崎 学 (編))	2	002	889

著者名	出版者		
鄭躍軍、村上征勝、吉野諒三、前田忠彦、他	統計数理研究リポート 89		
書名	発行年		総ページ数
日本・中国の国民性比較のための基礎研究 - 中国北京市における意識調査 -	2	003	263

著者名	出版者		
村上征勝	朝倉書店		
書名	発行年		総ページ数
文化を計る - 文化計量学序説 -	2	002	140

著者名	出版者		
鄭躍軍、村上征勝、吉野諒三	統計数理研究所リポート 88		
書名	発行年		総ページ数
仮想評価法(CVM)のバイアス問題に関する調査 - 東京湾中央防波堤内側埋立地の環境評価を例として -	2	002	104

著者名	出版者		
村上征勝	社会調査ハンドブック 林知己夫編		
書名	発行年		総ページ数
単純集計, 属性別分析, 相関表分析, コウホート分析	2	002	757

著者名	出版者		
村上征勝	社会調査ハンドブック 林知己夫編		
書名	発行年		総ページ数
文化の調査について			757

著者名	出版者		
Sasaki Masamichi	Thousand Oaks, California: Sage Publications		
書名	発行年	総ページ数	
Comparative Research. <i>Encyclopedia of Social Research Methods.</i>	2 0 0 2	630	

著者名	出版者		
佐々木正道編	ミネルヴァ書房		
書名	発行年	総ページ数	
大学生とボランティアに関する実証的研究 (科学研究費学術図書刊行補助出版)	2 0 0 2	560	

著者名	出版者		
Sasaki Masamichi, Suzuki, T.	Leiden, The Netherlands: Brill		
書名	発行年	総ページ数	
Social Attitudes in Japan: Trends and Cross-National Perspectives. (2nd editions)	2 0 0 2	298	

様式 4 研究(2) (基盤研究(S)、基盤研究(A)(2)、基盤研究(B)(2)、基盤研究(C)(2))

科学研究費補助金(基盤研究(A)(2))交付申請書							
研究代表者	所属部局	職	氏 名				
	領域統計研究系	助教授	吉野 諒三 印				
研究課題名	東アジア価値観国際比較調査 —— 「信頼感」の統計科学的解析 ——						
補助金額 (直接経費) (交付予定額)	合計 千円	使 用 内 訳					
		設備備品費 千円	消耗品費 千円	国内旅費 千円	外国旅費 千円	謝 金 千円	その他 千円
研 究 組 織 (研究代表者及び研究分担者)	氏 名	所属部局・職	役割分担等 本年度の研究実施計画に対する 分担事項等を記入すること。				
	吉野諒三	統計数理研究所・ 領域統計研究系・助教授	総括、及び調査企画・ 実査監督・データ解析				
	村上征勝	統計数理研究所・ 領域統計研究系・教授	調査企画・データ解析				
	馬場康維	統計数理研究所・統計 科学情報センター・センター長	調査企画・データ解析				
	林 文	東洋英和女学院大学 人間科学部・教授	調査企画・実査監督・ 社会心理学的的解析				
	山岡和枝	厚生労働省 国立保健科学 院・技術評価部・室長	調査企画・実査監督・ 医療文化人類学的解析				
	佐々木正道	兵庫教育大学・ 教育学部・教授	社会学的データ解析				
	中尾啓子	東京都立大学・ 人文学部・助教授	社会学的データ解析				
	土屋隆裕	統計数理研究所・ 調査実験解析系・助教授	計量心理学的データ解析				
	鄭躍軍	統計数理研究所・ 領域域計研究系・助手	実査監督・統計科学的 データ解析				
前田忠彦	統計数理研究所・ 調査実験解析系・助手	計量心理学的データ解析					
海外共同研究者 朴承根 Ben-Chang Shia Lo Hing-Po		韓国統計局 Fu Jen Catholic University 香港城市大学統計学・部長					
計 10名							
機関番号	62603	研究種目	基盤研究(A)(2)	課題番号	14252013		

研究(2)

研究の目的

- 1) 今回の科学研究費の交付希望期間内には、以下の a)、b)、c) に重点をおいて研究を遂行する。
- a) 文化の伝播変容を統計科学的に解明するために、東アジア諸国の人々の意識構造について統計科学的「標本抽出法」に則った面接調査を遂行する。
- b) 特に、21世紀における国際交流の中で、東アジア諸国民の「信頼感」のあり方について焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報を与える分析を推進させる。
- c) 収集した「東アジア諸国民の意識調査」の情報を中心に、既存の「意識の国際比較調査データ」等とともにデータ・ベースを作成し、コンピューター・ネットワーク等を利用して世界へ一般公開する。

本年度の研究実施計画

平成 15 年度は、東アジア価値観調査のために、主として韓国及び台湾調査を念頭において、以下の 1)～5) を遂行する。

- 1) 基礎資料（各国の関連調査データ、文献等）を収集・整理する。
 - 2) 調査関連地域についての情報を収集し、調査環境を確認する。現地調査研究者と連携しながら、標本抽出の実践的検討を行い、その遂行可能性を確認し、同時に調査項目を再検討する。
 - 3) 昨年作成した日本語調査票を、現地研究者の協力により翻訳・再翻訳（バックトランスレーション）の手続きを経て、プリテスト用調査票を作成する。
 - 4) 国内外の調査関連研究者との連携により、調査票の項目と具体案を検討、確定する。
 - 5) 9月上旬 各地域でのプリテスト実施
 9月中旬 プリテストの結果検討後、必要な修正を加え、本調査用の調査票の最終版確定
 9月下旬 韓国及び台湾での本調査実施（調査地は予定）
 調査対象：韓国及び台湾に居住し、各地域の国籍を持つ 18 歳以上の男女。
 調査法：住民票・戸籍簿等から無作為層別抽出した対象に、面接調査を遂行する。
 調査項目：各地域の人々の多面的・多元的な一般的意識構造とともに、特に対人関係、集団内や集団間、社会制度やリーダーに関する「信頼感」を主とした項目。
- 10月上旬～12月 回答データのクリーニングとコンピューターへのデータ入力
 1月 単純集計表作成
 2月 一時的データ分析
 3月 現地研究者と連絡しあい、調査結果の解釈について検討し、第一次報告書をまとめる。

主要な設備備品の内訳（1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの）

品名	仕様 (製造会社名・型)	数量	単価 (千円)	金額 (千円)	納入予定時期
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月

1. 機関番号 6 2 6 0 3 2. 研究機関名 統計数理研究所
3. 研究種目名 基盤研究(A)(2) 4. 研究期間 平成14年度～平成17年度
5. 課題番号 1 4 2 5 2 0 1 3
6. 研究課題名 東アジア価値観国際比較調査 ―― 「信頼感」 の統計科学的解析 ――

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
6 0 2 2 0 7 1 1	ヨシ リョウジ 吉野, 諒三	領域統計研究系	助教授

8. 研究分担者(主な者を5名以内。所属機関名については、研究代表者の所属機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属機関名・所属部局名	職名
0 0 1 8 0 9 7 7	ハシ フミ 林, 文	東洋英和女学院大学・人間科学部	教授
5 0 0 9 1 0 3 8	ヤマカ カズエ 山岡, 和枝	厚生省国立保健医療科学院・技術評価部	室長
8 0 2 8 0 5 2 7	テイ ヤクワン 鄭, 躍軍	総合地球環境学研究所・研究部	助教授
3 0 1 4 2 3 2 6	サキ マサヒ 佐々木, 正道	兵庫教育大学・教育学部	教授
0 0 0 0 0 2 1 6	ムラカミ マサツ 村上, 征勝	領域統計研究系	教授

9. 研究実績の概要(国立情報学研究所でデータベース化するため、600字～800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)

1)本研究の重点は、以下の a)、b)、c)である。

a) 文化の伝播変容のために、東アジア諸国の人々の意識構造について統計科学的「標本抽出法」に則った面接調査を遂行する。

b) 特に、21世紀における国際交流の中で、東アジア諸国民の「信頼感」のあり方について焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報を与える分析を推進させる。

c) 収集した「東アジア諸国民の意識調査」の情報を中心に、既存の国際比較調査データ等とともにデータ・ベースを作成し、一般公開する。

本年度は、東アジア価値観調査のために、特に、以下の1)～3)を遂行した。

1) 国内外4地域用の調査票の台湾語と韓国語の暫定版を、現地研究者の協力により翻訳・再翻訳(バックトランスレーション)を経て作成。

2) 台湾と韓国の調査予定地域を視察し、調査環境を確認。現地調査研究者と標本抽出の実践的検討を行い、同時に調査票の検討。

3) 9月上旬、台湾と韓国の調査票の最終版確定し、引き続き10月～11月 調査実施
調査対象: 台湾及び韓国に居住し、各地域の国籍をもつ成人(20人以上)の男女。
調査法: 台湾は電話所有者の人口データを用いて、120地点抽出、各地点ではランダムウォーク法で1軒置きに訪問、各世帯から誕生日法で1名抽出、合計15名ずつ抽出。韓国は125地点をランダム抽出し、各地点では性・年齢層別(10才刻み)に約8名ずつをクォータ法で抽出した。
調査項目: 各地域の人々の一般的意識構造、特に対人関係、集団内や集団間、社会制度やリーダーに関する「信頼感」を主とした項目。(昨年度実施の日本調査票と基本的に同一だが、一部表現を各地域に合わせている)
 12月～翌3月 データ・クリーニング、単純集計表作成、一次的データ分析、調査結果の解釈について検討し、第一次報告書をまとめた。

※ 成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4判縦長横書き1枚)を添付すること。

10. キーワード

- (1) 東アジア (2) 価値観 (3) 信頼
- (4) 意識調査 (5) 標本調査 (6) データの科学
- (7) 国際比較 (8) 統計分析

(裏面に続く)

11.研究発表（発表予定を含む。但し、投稿中、投稿準備中は除く。）

〔雑誌論文〕

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
吉野諒三	「信頼の時代」.	Eco-Forum, 特集号「ソーシャル・キャピタル Part II」, 統計研究会.	Vol.22, No.1	2 0 0 3	42—51

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
吉野諒三	富国信頼 -東アジアの人々の「信頼感」の分析-	日本行動計量学会第31回大会抄録集		2 0 0 3	254—257

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
吉野諒三、鄭躍軍、朴承根	「東アジア諸国の人々の日本語観」.	行動計量学	第30巻第1号 (通巻58号)	2 0 0 3	311—352

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
鄭躍軍、吉野諒三	中国人・日本人の国民性の特徴(1) -不安感・満足感、家庭・家族観と伝統的な価値観を中心に-	日本行動計量学会第31回大会抄録集		2 0 0 3	244—247

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
三好美浩、吉野諒三	自由回答に見る職業意識の分析	日本行動計量学会第31回大会抄録集		2 0 0 3	252—253

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
林文	「日本人の自然観」	こしじ水と緑の会会報	題6号	2 0 0 3	2

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
林文	「異文化間相互理解をめざす国際比較調査を」(巻頭言)	よろん	第92号	2 0 0 3	1

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
林文・佐々木正道	「日本の国際化に関する意識の世代間の比較」				
		日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集		2 0 0 3	248—249

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
Watanabe, M, Yamaoka K, Yokotsuka M, Tango T.	Randomized controlled trial of a new dietary education program to prevent type 2 diabetes in a high-risk group of Japanese male workers,				
		Diabetes Care	26	2 0 0 3	3209—3214

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
Yamaoka K, Takeda Y, Shigehisa T, Ogoshi K, Kobayashi K, Hayashi F, Hayashi C.	Health-related quality of life in Japanese lung cancer patients as determined by two questionnaires: the HRQOL-20 and the EORTC QLQ-C30				
		Annals of Cancer Research and Therapy	11(1&2)	2 0 0 3	

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
山岡和枝, 丹後俊郎, 渡辺満利子, 横塚昌子	RCTに基づく糖尿病予防のための栄養教育効果の評価				
		第13回日本疫学会学術総会抄録集		2 0 0 3	

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
Yamaoka, K., Yano, E., Isshiki, A	Further utilization of annual workplace checkup data by a method based on the population strategy				
		27th International Congress on Occupational Health (Iguassu Falls, Brazil February),	2	2 0 0 3	23—28

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
山岡和枝, 吉野諒三	健康感と関連要因：東アジア価値観調査結果の分析				
		日本行動計量学会第31回大会抄録集		2 0 0 3	250—251

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
渡辺満利子, 山岡和枝, 丹後俊郎	介入研究による糖尿病予防のための新栄養教育効果の評価				
		日本行動計量学会第31回大会抄録集		2 0 0 3	426—427

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
山岡和枝, 丹後俊郎, 渡辺満利子	糖尿病予防のための栄養教育の効果の評価				
		第 25 回日本臨床栄養学会総会・第 24 回大会日本臨床栄養協会総会抄録集		2 0 0 3	83

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
山岡和枝	健康関連 QOL 測定のための HRQOL20 調査票オランダ語版の適用性				
		第 62 回日本公衆衛生学会総会抄録集		2 0 0 3	381

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
渡辺満利子, 山岡和枝, 横塚昌子, 諸戸敬子, 丹後俊郎	II 型糖尿病予防のための新しい栄養教育の無作為化比較試験による評価				
		第 62 回日本公衆衛生学会総会抄録集		2 0 0 3	864

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
野村恭子, 山岡和枝, 岡野隆宏, 矢野栄二	阿蘇山火口見学者の火山ガスに対する危険認識と態度と行動				
		第 62 回日本公衆衛生学会総会抄録集		2 0 0 3	405

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
大坪浩一, 山岡和枝, 横山徹爾, 高橋邦彦, 丹後俊郎	医療資源の死亡に及ぼす影響を EBSMR で評価する一福岡県における事例—				
		第 62 回日本公衆衛生学会総会抄録集		2 0 0 3	474

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
土屋隆裕・前田忠彦	「二種類の電話調査法の比較実験調査」				
		行動計量学	Vol.30	2 0 0 3	93—109

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
前田忠彦	「伝統・近代をめぐる意識変遷の再分析」				
		日本行動計量学会第 31 回大会発表論文抄録集		2 0 0 3	304—305

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
馬場康雄	総合特性による地域の位置付け—時間的な変化と主成分分析—				
		エストレーラ	No.116	2 0 0 3	56—59

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
馬場康雄	総合特性による地域の位置付け—時間的な変化と主成分分析 II—				
		エストレーラ	No.117	2 0 0 3	54—58

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
土屋隆裕・前田忠彦	二種類の電話調査法の比較実験調査				
		行動計量学	第30巻 第1号	2 0 0 3	93—109

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
Masamichi Sasaki	The Moral Fabric of Contemporary Societies: Presidential Address				
		The Annals of the International Institute of Sociology	Vol.9	2 0 0 3	3—26

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
Masamichi Sasaki	Comparative Research				
		Encyclopedia of social Research Methods. Thousand Oaks, California: Sage Publications		2 0 0 3	96—111

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
鄭 躍軍, 吉野諒三	東アジア価値観比較調査に向けて—中国における意識調査のための標本抽出の実践的検討				
		よろん	第91号	2 0 0 3	16—21.

著者名	論文標題	雑誌名	巻・号	発行年	ページ
鄭 躍軍	環境意識形成の要因分析—中・日の環境意識比較を例として—				
		環境経済・政策学会 2003 年大会報告要旨集		2 0 0 3	258—259

[図 書]

著 者 名	出 版 者		
A.インケレス著、吉野諒三訳	出光書店		
書 名	発 行 年	総ページ数	
「国民性論」…精神社会的展望… 出光書店。(ただし、付記「日本における国民性研究」は吉野著.)	2 0 0 3	470	

著 者 名	出 版 者		
林文 (共著)	人文・社会科学論集(東洋英和女学院大学)		
書 名	発 行 年	総ページ数	
「東洋英和女学院大学卒業生のライフコースについて」第21号 第5章「就職・結婚に関する意識調査分析」	2 0 0 3	(印刷中)	

著 者 名	出 版 者		
山岡和枝：矢野栄二、小林廉毅、 山岡和枝編集 in EBM 健康診断	医学書院		
書 名	発 行 年	総ページ数	
スクリーニング,メタアナリシス	2 0 0 3	15—32	

著 者 名	出 版 者		
中尾啓子編	科学研究費研究成果報告書		
書 名	発 行 年	総ページ数	
『現代日本における社会的地位の測定』	2 0 0 3	(印刷中)	

著 者 名	出 版 者		
中尾啓子	都市研叢書		
書 名	発 行 年	総ページ数	
「ネットワークと職業的地位達成—関係的資源の保有と利用」 松本康編『東京で暮らす—社会構造と都市生活』	2 0 0 4	(印刷中)	

著 者 名	出 版 者		
中尾啓子・池田謙一・安野智子	東京大学社会科学研究所		
書 名	発 行 年	総ページ数	
「JGSS-2003 ネットワークモジュールに向けて—予備調査の結果報告—」 『日本版 General Social Surveys 研究論文集[2] JGSS で見た日本』	2 0 0 3	193—232	

著 者 名	出 版 者		
鄭 麗軍, 村上和勝, 吉野諒三, 馬場康雄, 前 田志彦, 袁 衛, 趙 彦雲, 王 棋延	統計数理研究所研究レポート No. 89		
書 名	発 行 年	総ページ数	
日本・中国の国民性比較のための基礎研究—中国北京市における意識調査—	2 0 0 3	263	

著者名	出版者			発行年	総ページ数
鄭 羅軍, 村上征勝, 吉野諒三, 前田忠彦, 周 国模, 唐 和平	統計数理研究所研究レポート No. 90				
書名				発行年	総ページ数
日本・中国の国民性比較の基礎研究(2)－中国上海市における意識調査				2 0 0 3	247

12. 研究成果による工業所有権の出願・取得状況

工業所有権の名称	発明者名	権利者名	工業所有権の種類、番号	出願年月日	取得年月日

平成16年度科学研究費補助金交付申請書

平成16年4月 28日

独立行政法人
日本学術振興会理事長 殿

所属研究機関の本部の所在地及び名称	〒106-8569 東京都港区南麻布4-6-7 統計数理研究所
所属研究機関の長	所長・北川源四郎 (職印)
所属研究機関・部局・職	統計数理研究所・領域統計研究系・助教授
氏名	よしの りょうぞう 吉野 諒三 (印)

次のとおり研究を実施したいので、科学研究費補助金（基盤研究（A）（2））の交付を申請します。

研究課題名	東アジア価値観国際比較調査 --- 「信頼感」の統計科学的解析---				
補助金額	直接経費	間接経費	直接経費及び間接経費の合計		
	千円	千円	千円		
(交付予定額)	直接経費の 費目別内訳	物品費 千円	旅費 千円	謝金等 千円	その他 千円
研究 組 織 (研究 代表 者及 び研 究分 担者)	氏名	所属研究機関・部局・職	役割分担等 (本年度の研究実施計画に対する 分担事項等を記入すること。)		直接経費 (千円)
	吉野諒三	統計数理研究所・ 領域統計研究系・助教授	総括、及び調査企画・実査監督・ データ解析		
	村上征勝	同志社大学・ 文化情報学部設置準備室・教授	調査企画・データ解析		
	馬場康維	統計数理研究所・統計 科学情報センター・教授	調査企画・データ解析		
	林文	東洋英和女学院大学 人間科学部・教授	調査企画・実査監督・ 社会心理学的解析		
	山岡和枝	国立保健医療科学院・ 技術評価部・室長	調査企画・実査監督・ 医療文化人類学的解析		
	佐々木正道	兵庫教育大学・教育学部・教授	社会学的データ解析		
	中尾啓子	東京都立大学・人文学部・ 助教授	社会学的データ解析		
	鄭躍軍	総合地球環境学研究所・研究部・ 助教授	実査監督・統計科学的 データ解析		
	土屋隆裕	統計数理研究所・ 調査実験研究系・助教授	計量心理学的データ解析		
	前田忠彦	統計数理研究所・ 調査実験解析系・助教授	多変量データ解析		
星野崇宏	統計数理研究所・ 領域統計研究系・助手	[分担者を追加する理由] 左記2名は計量心理や社会心理的 データ解析のための研究遂行上、必 要である。			
松本渉	統計数理研究所・ 調査実験解析系・助手				
計 12 名	直接経費合計				
機関番号	62603	研究種目	基盤研究（A）（2）	課題番号	14252013

研究の目的

本研究の重点は、以下の a)、 b)、 c)である。

- a) 文化の伝播変容のために、東アジア諸国の人々の意識構造について統計科学的「標本抽出法」に則った面接調査を遂行する。
- b) 特に、21世紀における国際交流の中で、東アジア諸国民の「信頼感」のあり方について焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報を与える分析を推進させる。
- c) 収集した「東アジア諸国民の意識調査」の情報を中心に、既存の国際比較調査データ等とともにデータ・ベースを作成し、一般公開する。

本年度（～平成17年3月31日）の研究実施計画

本年度は、東アジア価値観調査のために、特に、以下の 1)~3)を遂行する。

- 1) これまでの国内外6地域用の調査票をもとに、シンガポール調査票の暫定版を、現地研究者の協力により翻訳・再翻訳（バックトランスレーション）を経て作成。
- 2) シンガポールの調査予定地域を視察し、調査環境を確認。現地調査研究者と標本抽出の実践的検討を行い、同時に調査票の検討をする。
- 3) 9月上旬頃までに、台湾と韓国の調査票の最終版確定し、引き続き10月～11月頃、調査実施する。
調査対象：シンガポールに居住し、その国籍をもつ成人(20人以上)の男女。
調査法：電話帳などのリストや人口データに基づき、地点抽出し、各地点ではランダムウォーク法で標本となる回答者を抽出する。
調査項目：各地域の人々の一般的意識構造、特に対人関係、集団内や集団間、社会制度やリーダーに関する「信頼感」を主とした項目。（一昨年度実施の日本調査票と基本的に同一だが、必要であれば、一部表現を当該地域の事情に合わせ、修正する。）

12月～翌3月 データ・クリーニング、単純集計表作成、一次的データ分析、調査結果の解釈について検討し、シンガポールの第一次報告書をまとめる。

主要な設備備品の内訳（1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの）

品名	仕 (製造会社名・型)	数量	単価 (千円)	金額 (千円)	納入予定時期
該当せず					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月

平成16 年度科学研究費補助金実績報告書 (研究実績報告書)

1. 機関番号 6 2 6 0 3 2. 研究機関名 統計数理研究所
3. 研究種目名 基盤研究(A)(2) 4. 研究期間 平成14年度～平成17年度
5. 課題番号 1 4 2 5 2 0 1 3
6. 研究課題名 東アジア価値観国際比較調査 --- 「信頼感」の統計科学的解析---
7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
6 0 2 2 0 7 1 1	ヨシノ リョウゾウ 吉野, 諒三	領域統計研究系	助教授

8. 研究分担者(所属機関名については、研究代表者の所属機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
0 0 1 8 0 9 7 7	ハシバ 林, 文	東洋英和女学院大学・人間科学部	教授
5 0 0 9 1 0 3 8	ヤマカ カズエ 山岡, 和枝	国立保健医療科学院・ 技術評価部	室長
3 0 1 4 2 3 2 6	ササキ マサヒ 佐々木, 正道	兵庫教育大学・教育学部・教授	教授
8 0 2 8 0 5 2 7	テイ ヤクワン 鄭, 躍軍	総合地球環境学研究所・研究部	助教授
2 0 3 9 0 5 8 6	ホシノ タカヒロ 星野, 崇宏	領域統計研究系	助手

9. 研究実績の概要(国立情報学研究所でデータベース化するため、600字～800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)

本研究の重点は、以下の a)、b)、c)である。

a) 文化の伝播変容のために、東アジア諸国の人々の意識構造について統計科学的「標本抽出法」に則った面接調査を遂行する。

b) 特に、21世紀における国際交流の中で、東アジア諸国民の「信頼感」のあり方について焦点を当てる。世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報を与える分析を推進させる。

c) 収集した「東アジア諸国民の意識調査」の情報を中心に、既存の国際比較調査データ等とともにデータベースを作成し、一般公開する。

特に本年度は、東アジア価値観調査のために、特に、以下の 1)～3)を遂行した。

1) これまでの国内外6地域用の調査票をもとに、シンガポール調査票の暫定版を、現地研究者の協力により翻訳・再翻訳(バック・トランスレーション)を経て作成。

2) シンガポールの調査予定地域を視察し、調査環境を確認。現地調査研究者と標本抽出の実践的検討を行い、同時に調査票の検討。

3) 10月上旬頃に調査票の最終版確定し、引き続き12月～翌年1月頃、調査実施。

調査法：国勢調査データに基づき、地点抽出し、各地点ではhousetypeの分布から世帯を抽出し、各世帯からは誕生日法で標本となる回答者を抽出。

調査項目：各地域の人々の一般的意識構造、特に対人関係、集団内や集団間、社会制度やリーダーに関する「信頼感」を主とした項目。(すでに実施の日本調査票と基本的に同一だが、一部表現を当該地域の事情に合わせ、修正。)

12月～翌3月 データ・クリーニング、単純集計表作成、一次的データ分析、調査結果の解釈について検討し、シンガポールの第一次報告書をまとめた。

※ 成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4判縦長横書1枚)を添付すること。

10. キーワード

(1) シンガポール調査	(2) 国際比較調査	(3) 無作為標本抽出
(4) 国民性	(5) データの科学	(6) 信頼感
(7) 尺度構成	(8) バック・トランスレーション	(裏面に続く)

11. 研究発表(発表予定を含む。但し、投稿中、投稿準備中は除く。)

[雑誌論文]

著者名	論文標題			
吉野諒三	「国民性」の調査-計量的文明論に向けて-			
学際	No. 12	2 0 0 4		6-12

著者名	論文標題			
Yoshino, R.	On the trust of nations: cross-national and longitudinal survey on national character			
Abstracts: 36 th World Congress of International Institute		2 0 0 4		233-234

著者名	論文標題			
Yoshino, R.	A cross-national study on trust- from a viewpoint of cross-national and longitudinal survey			
Abstracts: 36 th World Congress of International Institute		2 0 0 4		396-397

著者名	論文標題			
吉野諒三	On the trust of nations: cross-national and longitudinal survey on national character			
日本行動計量学会第32回大会発表論文抄録集		2 0 0 4		38-41

著者名	論文標題			
吉野諒三	「科学的」世論調査法の価値			
市場調査	No. 259	2 0 0 4		4-13

著者名	論文標題			
林文	宗教的感情の国際比較			
日本行動計量学会第32回大会発表論文抄録集		2 0 0 4		42-43

著者名	論文標題			
星野崇宏・吉野諒三	信頼感と価値観の関係-個票データ解析によるソーシャルキャピタルの国際比較-			
日本行動計量学会第32回大会発表論文抄録集		2 0 0 4		48-49

著者名	論文標題			
山岡和枝・吉野諒三	東アジアの人々の健康感-睡眠障害と健康満足度を中心とした分析-			
日本行動計量学会第32回大会発表論文抄録集		2 0 0 4		50-51

著者名	論文標題					
鄭訳軍・吉野諒三	中国人・日本人の国民性の特徴 (II) -リーダーの資質、愛国心、政治意識を中心に-					
日本行動計量学会第32回大会発表論文抄録集		2	0	0	4	52-55

著者名	論文標題					
Zheng, Y.	Cross-cultural comparative study on Chinese and Japanese national characters					
Abstracts: 36 th World Congress of International Institute		2	0	0	4	394-395

著者名	論文標題					
林文・吉野諒三・山岡和枝	素朴な宗教感情に関する一考察-東アジア価値観調査から-					
日本分類学会第21回研究報告予稿集	No. 12	2	0	0	4	6-12

著者名	論文標題					
林文	日本人の自然観と素朴な感情					
学際	No. 12	2	0	0	4	32-38

著者名	論文標題					
山岡和枝	健康と国民性					
学際	No. 12	2	0	0	4	39-45

著者名	論文標題					
山岡和枝	健康観の国際比較は?					
雑誌名	巻・号	発行年	ページ			
肥満と糖尿病,	3.4	2	0	0	4	584-585

著者名	論文標題					
山岡和枝, 李相侖.	国際比較調査データの安定性についての検証-2003年度韓国・台湾における「健康と文化調査」および「東アジア価値観国際比					
雑誌名	巻・号	発行年	ページ			
行動計量学	31(2)	2	0	0	5	125-135

著者名	論文標題					
Keiko Nakao.	"Social Resources and Occupational Status Attainment's Personal Networks."					
雑誌名	巻・号	発行年	ページ			
International Journal of Japanese Sociology:	vol.13	2	0	0	4	pp. 89-99.

著者名	論文標題			
Nakao, Keiko, et al.	"Patterns of Ethnic Images in Contemporary America."			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
『人文学報』	vol.348	2 0 0 5	印刷中	

著者名	論文標題			
松本渉・吉野諒三	組織への信頼と所属についての国際比較 —東アジアのシビルソサエティに注目して—			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
日本行動計量学会第32回大会発表論文抄録集		2 0 0 4	44-47	

〔図書〕

著者名	出版者			
中尾啓子.	都市研叢書.			
書名	発行年	総ページ数		
『東京で暮らす—社会構造と都市生活』都市研究叢書.	2 0 0 4	2 2 5		

著者名	出版者			
中尾啓子.	放送大学教育振興会.			
書名	発行年	総ページ数		
森岡清志編『都市社会の人間関係』第11章 第12章 第13章	2 0 0 4	2 0 3		

著者名	出版者			
中尾啓子.	大阪商業大学・東京大学社会科学研究所..			
書名	発行年	総ページ数		
『日本版General Social Surveys研究論文集[3]: JGSSで見た日本人の意識と行動』	2 0 0 5	印刷中		

12. 研究成果による工業所有権の出願・取得状況

工業所有権の名称	発明者	権利者	工業所有権の種類、番号	出願年月日	取得年月日
該当せず					

平成17年度科学研究費補助金交付申請書

平成 17年 4月 27日

独立行政法人
日本学術振興会理事長 殿

所属研究機関の本部の 所在地及び名称	〒106-8569 東京都港区南麻布4-6-7 名称 統計数理研究所		
所属研究機関の長の職名・氏名	職名 所長	氏名 北川源四郎	職印
研究代表者の部局・職	部局 データ科学研究系	職 教授	
フリガナ	ヨシノ リョウソウ		
研究代表者の氏名	吉野 諒三		印

次のとおり研究を実施したいので、科学研究費補助金（基盤研究(A)）の交付を申請します。

研究課題名		東アジア価値観国際比較調査 --- 「信頼感」の統計科学的解析---					
補助金額 (交付予定額)	直接経費①		間接経費②		直接経費及び間接経費の合計(①+②)	分担金の有無	
	円		円		円	無	
	直接経費の 費目別内訳	物品費 円	旅費 円	謝金等 円	その他 円		
研究組織	研究者番号	機関番号	所属番号	職番号	役割分担等 〔本年度の研究実施計画に対する分 担事項等を具体的に記入すること。〕	エフオ ート (%)	直接経費(分担 金の研究者別 内訳) (円)
	氏名	所属研究機関・部局・職					
研究代表者	6 0 2 2 0 7 1 1 1	6 2 6 0 3 9 1 3 2 0	統計数理研究所・データ科学研究系・教授		総括、データ解析及び報告書作成	50	
	吉野 諒三						
研究 分 担 者	0 0 1 8 0 9 7 7 7	3 2 7 1 8 3 1 4 2 6	東洋英和女学院大学・人間科学部・教授		社会心理学的解析	30	
	林 文						
	5 0 0 9 1 0 3 8	8 2 6 0 2 9 9 9 2 5	国立保健医療科学院・技術評価部・室長		医療文化人類学的解析	30	
	山岡 和枝						
	8 0 2 8 0 5 2 7	6 4 3 0 3 9 1 3 2 1	総合地球環境学研究所・研究部・助教授		統計科学的データ解析及び報告書作成	30	
	鄭 躍軍						
	3 0 1 4 2 3 2 6	1 4 5 0 3 1 0 2 2 0	兵庫教育大学・教育学部・教授		社会学的データ解析	20	
	佐々木 正道						
	0 0 0 0 0 2 1 6	3 4 3 1 0 2 1 7 2 0	同志社大学・文化情報学部・教授		統計科学的データ解析	10	
	村上 征勝						
9 0 0 0 0 2 1 5	6 2 6 0 3 9 1 3 2 0	統計数理研究所・データ科学研究系・教授		統計科学的データ解析	10		
馬場 康維							
1 0 3 9 0 5 8 5	6 2 6 0 3 9 1 3 2 3	統計数理研究所・データ科学研究系・助手		社会心理的データ解析及び報告書作成	40		
松本 涉							
研究者合計 (小計)		8 名		直接経費合計 (小計)			
キーワード	①東アジア	②国際比較	③信頼	④データの科学	⑤標本調査		
機関番号	62603	研究種目	基盤研究(A)		課題番号	14252013	

様式 A-2 別紙

研究者番号	機関番号	所属番号	職番号	役割分担等 〔本年度の研究実施計画に対する分 担事項等を具体的に記入すること。〕	エフオ ート (%)	直接経費(分 担金の研究者 別内訳)(円)
20390586	12061	925	22	計算心理的データ解析及び報告書作成	25	
星野崇宏	東京大学・教養学部・ 講師					
10274995	22601	207	21	社会学的データ解析	20	
中尾啓子	東京都立大学・人文学部・ 助教授					
00270413	62603	913	21	多変量データ解析	10	
土屋隆裕	統計数理研究所・データ科学研 究系・助教授					
10247257	62603	913	21	計量心理学的データ解析	10	
前田忠彦	統計数理研究所・データ科学研 究系・助教授					
研究者合計	12 名				直接経費合計	4,300,000

研究の目的

本研究の重点は、以下の a)、 b)、 c) である。

- a) 文化の伝播変容のために、東アジア諸国の人々の意識構造について統計科学的「標本抽出法」に則った面接調査を遂行する。
- b) 特に、21世紀における国際交流の中で、東アジア諸国民の「信頼感」のあり方について焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報を与える分析を推進させる。
- c) 収集した「東アジア諸国民の意識調査」の情報を中心に、既存の国際比較調査データ等とともにデータ・ベースを作成し、一般公開する。

本年度（～平成18年3月31日）の研究実施計画

本年度は、東アジア価値観調査のために、特に、以下の 1)～3) を遂行する。

- 1) これまでの国内外7地域の調査データをもとに、「東アジア価値観国際比較調査…信頼感の統計科学的解析…」の総合報告書を作成する。
11月上旬頃を目処に、既存の第一次調査報告書の細部を検討、確認する。さらにこれまでの国内外でのデータ解析をまとめる。これらの結果を、総合報告書としてまとめ、報告書を年度内に出版し、国内外へ配布する
- 2) 報告書作成する過程で、東アジアの国々のうち、タイ、フィリピン等の情報も収集し、必要であれば、9-10月頃、現地視察を含む情報収集活動を遂行し、総合報告書の作成作業を補う。
- 3) さらに成果をコンピューターネット上で公開する作業を遂行する。公開準備作業は年度内に完了する。ただし、これは、本研究の固有のHPとして公開するか、日本や海外の他機関のデータ・アーカイブを活用して公開するかは、個人情報の保護の問題等を含めて社会への影響と、活用の効率性の双方を慎重に検討し、判断する。

主要な設備備品の内訳（1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの）

品名	仕様 (製造会社名・型)	数量	単価 (円)	金額 (円)	納入予定時期
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月

平成17年度科学研究費補助金研究成果報告書概要

1. 機関番号 6 | 2 | 6 | 0 | 3 2. 研究機関名 統計数理研究所
3. 研究種目名 基盤研究(A) 4. 研究期間 平成14年度 ~ 平成17年度

5. 課題番号 1 | 4 | 2 | 5 | 2 | 0 | 1 | 3

6. 研究課題名 東アジア価値観国際比較調査 —— 「信頼感」の統計科学的解析 ——

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
6 0 2 2 0 7 1 1	ヨシノ リョウゾウ 吉野, 諒三	統計数理研究所・データ科学研究系	教授

8. 研究分担者(所属研究機関名は、研究代表者の所属研究機関と異なる場合に記入すること)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
0 0 1 8 0 9 7 7	ハヤシ フミ 林, 文	東洋英和女学院大学・人間科学部	教授
5 0 0 9 1 0 3 8	ヤマオカ カズエ 山岡, 和枝	国立保健医療科学院・技術評価部	室長
8 0 2 8 0 5 2 7	テイ ヤクグン 鄭, 躍軍	総合地球環境学研究所・研究部	助教授
2 0 3 9 0 5 8 8	ホシノ タカヒロ 星野, 崇弘	東京大学・教養学部	講師
1 0 3 9 0 5 8 5	マツモト ワタル 松本, 渉	データ科学研究系	助手

9. 研究成果の概要(当該研究期間のまとめ、600字~800字、図、グラフ等は記載しないこと)

本研究の重点は、以下の a)、 b)、 c)であった。

a) 文化の伝播変容のために、東アジア諸国の人々の意識構造について統計科学的「標本抽出法」に則った面接調査を遂行する。

b) 特に、21世紀における国際交流の中で、東アジア諸国民の「信頼感」のあり方について焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報を与える分析を推進させる。

c) 収集した「東アジア諸国民の意識調査」の情報を中心に、既存の国際比較調査データ等とともにデータ・ベースを作成し、一般公開する。

上記 a) については、2002~2004年度において、日本、中国(北京・上海・香港)、韓国、台湾、シンガポールにおいて意識調査を遂行した。これは、各調査に平行して、分析が推進され、上記 b) の内容を含めて国内外の学会でも報告された。特に2005年度は、総合データにもとづいて、日本行動計量学会の学術誌2号にわたり「東アジア価値観国際比較」の特集として、多数の論文発表がなされた。

上記 c) については、調査法やデータの詳細は、統計数理研究所レポート等として国内外へ配布され、またHP上で公開準備作業中である。これに関する過去の国際比較詳細データ(日米欧の7か国比較個票データ)は、ドイツのZA(Zentralarchiv)を通じて公開されるように手配した。過去のいくつかの国際比較調査データ(調査票や単純集計表等)は、すでに統計数理研究所のホームページ(http://www.ism.ac.jp/ism_info_j/research.html)上で公開されている。

10. キーワード

- | | | |
|--------------|--------------------|---------|
| (1)東アジア価値観調査 | (2)国際比較 | (3)信頼 |
| (4)データの科学 | (5)標本調査 | (6)国民性 |
| (7)意識調査 | (8)文化多様体解析(CULMAN) | (裏面に続く) |

11. 研究発表（印刷中も含む。）

〔雑誌論文〕 計（34）件

著者名	論文標題					
吉野諒三	東アジア価値観国際比較調査—文化多様体解析（CULMAN）に基づく計量的文明論構築へ向けて—					
雑誌名	巻・号	発行年		ページ		
行動計量学	32・2	2	0	0	5	133-146

著者名	論文標題					
吉野諒三	富国信頼への時代へ—東アジア価値観国際比較調査における「信頼感」の統計科学的解析—					
雑誌名	巻・号	発行年		ページ		
行動計量学	32・2	2	0	0	5	147-160

著者名	論文標題					
吉野諒三	世論を測る—選挙投票結果の予測をめぐって—					
雑誌名	巻・号	発行年		ページ		
学際	17	2	0	0	6	40-43

著者名	論文標題					
吉野諒三	今、世論調査が直面する壁					
雑誌名	巻・号	発行年		ページ		
日本世論調査協会報（よろん）	97	2	0	0	6	印刷中

著者名	論文標題					
吉野諒三	東アジア価値観国際比較調査—文化多様体解析（CULMAN）に基づく計量的文明論構築へ向けて—					
雑誌名	巻・号	発行年		ページ		
日本行動計量学会第33回大会発表論文抄録集		2	0	0	5	64-67

著者名	論文標題					
Yoshino, Ryoza	The Trust of East Asia-Cultural Manifold of attitude and Values of Japanese, Chinese, South Korean, Taiwanese, and Singaporean					
雑誌名	巻・号	発行年		ページ		
The 37 th world Congress of the International Institute of Sociology		2	0	0	5	15

著者名	論文標題					
鄭 躍軍	東アジア諸国の伝統的価値観の変遷に関する計量分析					
雑誌名	巻・号	発行年		ページ		
行動計量学	32・2	2	0	0	5	161-172

著者名	論文標題					
鄭躍軍・吉野諒三・村上征勝	東アジア諸国の人々の自然観・環境観の解析—環境意識形成に影響を与える要因の抽出—					
雑誌名	巻・号	発行年		ページ		
行動計量学	33・1	2	0	0	6	57-70

著者名	論文標題					
三好美浩・吉野諒三	東アジアの職業観—日本・中国・台湾・韓国の比較—					
雑誌名	巻・号	発行年		ページ		
行動計量学	32・2	2	0	0	5	173-189

著者名	論文標題					
山岡和枝	東アジアの人々の「健康感」と関連する社会・文化要因： 「東アジア価値観調査」と「医療と文化調査」結果の分析					
雑誌名	巻・号	発行年		ページ		
行動計量学	32・2	2	0	0	5	191-199

著者名	論文標題					
林文	宗教と素朴な宗教的感情					
雑誌名	巻・号	発行年		ページ		
行動計量学	33・1	2	0	0	6	13-26

著者名	論文標題					
松本渉	東アジアにおける組織に対する信頼感 —国際比較のための信頼感の分析—					
雑誌名	巻・号	発行年		ページ		
行動計量学	33・1	2	0	0	6	27-42

著者名	論文標題					
星野崇宏	認知的ソーシャルキャピタルとしての法意識・規範意識・契約観と対人信頼感の関連 —東アジア価値観国際比較調査データから—					
雑誌名	巻・号	発行年		ページ		
行動計量学	33・1	2	0	0	6	43-56

著者名	論文標題					
Yamaoka, K., Tango, T.	Efficacy of Lifestyle Education to Prevent Type 2 Diabetes: A meta-analysis of randomized controlled trials					
雑誌名	巻・号	発行年		ページ		
Diabetes Care	28	2	0	0	5	2780-6

著者名	論文標題					
Nomura, K., Yamaoka, K., Nakao, M. Yano, E.	Impact of insomnia on individual health dissatisfaction in Japan, South Korea, and Taiwan					
雑誌名	巻・号	発行年		ページ		
SLEEP	28	2	0	0	5	1302-6

著者名	論文標題					
前田忠彦	郵送調査法の特徴に関する一研究 —面接調査法との比較を中心として—					
雑誌名	巻・号	発行年		ページ		
統計数理	53・1	2	0	0	5	57-81

著者名	論文標題			
前田忠彦・大隅昇	自記式調査における実査方式間の比較研究 ——ウェブ調査の特徴を調べるための実験的検討——			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
ESTRELA	143	2	0 0 6	12-19

著者名	論文標題			
土屋隆裕	調査不能者の特性に関する一考察 ——「日本人の国民性第11次全国調査」への協力理由に関する事後調査から——			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
統計数理	53・1	2	0 0 5	35-56

著者名	論文標題			
土屋隆裕	電話調査における調査所要時間と回答傾向について			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
統計数理	53・1	2	0 0 5	83-101

著者名	論文標題			
角田弘子, 山岡和枝	健康満足度に及ぼす人間関係における信頼感の影響：2004年日本調査			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
第64回日本公衆衛生学会総会抄録		2	0 0 5	415

著者名	論文標題			
林文	宗教的感情の国際比較 (2)			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
日本行動計量学会第33回大会発表論文抄録集		2	0 0 5	68-69

著者名	論文標題			
山岡和枝・吉野諒三	東アジアの人々の健康感と関連する要因			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
日本行動計量学会第33回大会発表論文抄録集		2	0 0 5	70-73

著者名	論文標題			
鄭躍軍・吉野諒三	中国人・日本人の国民性の特徴 (Ⅲ) ——生活領域, 人生観を中心に——			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
日本行動計量学会第33回大会発表論文抄録集		2	0 0 5	74-77

著者名	論文標題			
星野崇宏・吉野諒三	ソーシャルキャピタルとしての法意識・規範意識・契約感と信頼感の国際比較 ——東アジア価値観国際比較調査データを用いた構造方程式モデリングによる解析——			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
日本行動計量学会第33回大会発表論文抄録集		2	0 0 5	78-81

著者名	論文標題			
松本 渉	シンガポールは東アジアなのか? —価値観データからの検討—			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
日本行動計量学会第33回大会発表論文抄録集		2	0 0 5	82-85

著者名	論文標題			
三好 美浩	東アジアの職業観 自由回答における職業の尊敬と選好			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
日本行動計量学会第33回大会発表論文抄録集		2	0 0 5	86-87

著者名	論文標題			
角田弘子・吉野諒三	健康満足度に及ぼす人間関係における信頼感の影響 2004年日本調査			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
日本行動計量学会第33回大会発表論文抄録集		2	0 0 5	88-90

著者名	論文標題			
Nakao, Keiko, Shunsuke Tanabe, and Shigemi Ohtsuki	Patterns of Ethnic Images in Contemporary America.			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
人文学報	360	2	0 0 5	97-110

著者名	論文標題			
中尾啓子	韓国の職業威信スコア			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
『現代日本におけるジェンダーと社会階層に関する総合的研究』科学研究費研究成果報告書		2	0 0 5	183-205

著者名	論文標題			
有田伸・中尾啓子	2004年韓国・職業に関する全国調査の回収状況分析			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
『現代日本におけるジェンダーと社会階層に関する総合的研究』科学研究費研究成果報告書		2	0 0 5	329-346

著者名	論文標題			
Zheng, Yuejun	Transition of Confucian Philosophy: Cross-national Comparison on East Asia Ethics			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
The 37 th world Congress of the International Institute of Sociology		2	0 0 5	38

著者名	論文標題			
Yamaoka, Kazue	Crossnational Study on Health and Culture in the East Asia			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
The 37 th world Congress of the International Institute of Sociology		2	0 0 5	38

著者名	論文標題			
Kawahara, Hiroko & Yoshino, R.	Rationalism Scale of the East Asia			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
The 37 th world Congress of the International Institute of Sociology		2	0 0 5	38

著者名	論文標題			
Hayashi, Fumi	Study of Religious Feeling among Japan, the East Asia and the West			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
The 37 th world Congress of the International Institute of Sociology		2	0 0 5	38

【図書】 計(2)件

著者名	出版社			
山岡和枝(共著)	篠原出版新社			
書名	発行年		総ページ数	
『ケースで学ぶ公衆衛生学』 疫学(3) リスク指標と統計学推定・検定	2	0 0 5	33-40	

著者名	出版社			
中尾啓子	大阪商業大学・東京大学社会科学研究所			
書名	発行年		総ページ数	
「複合ネットワークの概要:3種類の社会ネットワークの複合と重複」『日本版General Social Surveys研究論文集[4]: JGSSで見た日本人の意識と行動』	2	0 0 5	131-152	

12. 研究成果による工業所有権の出願・取得状況

計()件

工業所有権の名称	発明者	権利者	工業所有権の種類、番号	出願年月日	取得年月日

ABSTRACTS OF RESEARCH PROJECT, GRANT-IN-AID
FOR SCIENTIFIC RESEARCH (A)

1. RESEARCH INSTITUTION NUMBER : 6 2 6 0 3

2. RESEARCH INSTITUTION : The Institute of Statistical Mathematics

3. CATEGORY : Grant-in-Aid for Scientific Research (A)

4. TERM OF PROJECT (2002 ~ 2005)

5. PROJECT NUMBER : No. 1 4 2 5 2 0 1 3

6. TITLE OF PROJECT : The East Asia Value Survey

7. HEAD INVESTIGATOR	REGISTERED NUMBER No. 60220711	NAME Yoshino, Ryozo.	INSTITUTION, DEPARTMENT, TITLE OF POSITION The Institute of Statistical Mathematics, Department of Data Science, Professor.
----------------------	-----------------------------------	-------------------------	---

8. INVESTIGATORS	(1) REGISTERED NUMBER No. 00180977	NAME Hayashi, Fumi.	INSTITUTION, DEPARTMENT, TITLE OF POSITION Toyo Eiwa Women's University, Department of Human Science, Professor.
	(2) " No. 50091038	" Yamaoka, Kazue.	" National Institute of Public Health, Department of Technology Assessment and Biostatistics, Chair.
	(3) " No. 80280527	" Zheng, Yuejun.	" Research Institute for Humanity and Nature, Research Department, Associate Professor.
	(4) " No. 20390586	" Hoshino, Takahiro.	" Tokyo University, Faculty of General Education, Lecturer.
	(5) " No. 10390585	" Matsumoto, Wataru.	" The Institute of Statistical Mathematics, Department of Data Science, Assistant Professor.

9. SUMMARY OF RESEARCH RESULTS

The main objectives of this study were 1) to carry out a series of statistical sampling surveys on peoples' values and attitudes of the East Asian countries, 2) to analyze the "peoples' sense of trust" concerning the peaceful development of world economy and politics, and 3) to establish data-base of our cross-national comparative studies for the mutual understanding of peoples' social attitudes and values.

For 1) and 2) above, we have published many research papers in the special issues of *Behaviormetrika* and *Japanese Journal of Behaviormetrics* among others. As for 3), we are preparing a home page for public access to our survey data sets on the computer network. Also we have donated our past survey data (7 countries survey) to ZA (Zentralarchiv) in Germany, so that the data is now open to public under their supervision.

We are still continuing our efforts on the data analysis and data-archiving, extending our research beyond our survey team.

10. KEY WORDS

<u>(1) East Asia</u>	<u>(2) national character</u>	<u>(3) social survey</u>
<u>(4) statistical sampling</u>	<u>(5) science of data</u>	<u>(6) cultural linkage analysis (CLA)</u>
<u>(7) sense of trust</u>	<u>(8)cultural manifold (CULMAN)</u>	

(CONTINUE TO NEXT PAGE)

11. REFERENCES

AUTHORS , TITLE OF ARTICLE	JOURNAL, VOLUME-NUMBER,PAGES CONCERNED, YEAR
Yamaoka, K. and Hayashi, C. Cultural link analysis of Japanese Americans.	Behaviormetrika, Vol. 30, No. 1, 7-19, 2003.
Zheng, Y. and Yoshino, R. Diversity patterns of attitudes toward nature and environment in Japan, USA, and European Nations.	Behaviormetrika, Vol. 30, No. 1, 21-37, 2003.
Yoshino, R. and Hayashi, C. An overview of cultural link analysis of national character.	Behaviormetrika, Vol. 29, No. 2, 125-141, 2002.
Yoshino, R. A time to trust – A study on peoples' sense of trust from a viewpoint of cross-national and longitudinal study on national character –.	Behaviormetrika, Vol. 29, No. 2, 231-260, 2002.
Yoshino, R. East Asia value survey – For the development of behaviormetric study of civilization on the Cultural Manifold Analysis (CULMAN) –.	The Japanese Journal of Behaviormetrics, Vol. 32, No. 2, 133-146, 2005.
Yoshino, R. A time to trust in the East Asia – A behaviormetric study on the sense of trust in East Asia value survey –.	The Japanese Journal of Behaviormetrics, Vol. 32, No. 2, 147-160, 2005.
Zheng, Yuejun, Cross-national comparison of transitions of traditional values in eastern Asian countries.	The Japanese Journal of Behaviormetrics, Vol. 32, No. 2, 161-172, 2005.
Miyoshi, Y. and Yoshino, R., A comparative study of work value of the East Asian people – Japan, China, Taiwan, and South Korea –.	The Japanese Journal of Behaviormetrics, Vol. 32, No. 2, 173-189, 2005.
Yamaoka, K. Health and Social and cultural factors in East Asia – Analysis of the East Asia value survey and the health and culture survey –.	The Japanese Journal of Behaviormetrics, Vol. 32, No. 2, 191-199, 2005.
Yoshino, Ryozo. The Trust of East Asia-Cultural Manifold of attitude and Values of Japanese, Chinese, South Korean, Taiwanese, and Singaporean.	The 37th world Congress of the International Institute of Sociology, 15, 2005.

(See the Japanese lists of publication for more details. Among others, we published several papers in the special issues of Japanese Journal of Behaviormetrics, Vol. 32, No. 2, 2005 and Vol. 33, No. 1, 2006.)

2. 東アジア価値観国際比較・各国調査の標本抽出計画と回収状況について

東アジア価値観国際比較調査（2002年10月～12月） の標本抽出計画と回収状況について

生活と文化に関する調査の標本設計

H15. 2. 24

1. 母集団の推定

年齢の母集団推定には、毎年8月に発行される(財)国土地理協会編纂の「住民基本台帳人口要覧」の資料(電子媒体)を使っている。このデータは、その年の3月31日現在の住民台帳登録人口をまとめたもので、全国の市区町村ごとの、男女別の5歳階級ごとの人口と世帯数が載っている。

今回の調査対象は20歳以上の男女なので、全国約3300の市区町村ごとに20歳以上の人口を算出し、県ごとに都市規模別(大都市と10万以上の市、10万未満の市、郡部)に分類して積算し、次に、県をまとめて地域ブロック(北日本、関東、中部、近畿、西日本)の母集団を算出した。

今回の地域ブロックと都市規模は次の通りである

*地域ブロック (5ブロック)

北日本……北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、

関東……茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中部……新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県
愛知県、三重県

近畿……滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

西日本……鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県
高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
沖縄県

*都市規模 (4規模)

東京23区

政令指定都市

10万以上の市

10万未満の市

郡部

(補足 吉野)

計80地点

(1) $N = \sum_i N_i = 1200$ 人とする

(2) 人口比例で標本数 N_i を決定

(3) 次に $N_i/5$ で各地点数を決定

ブロック・都市規模別の母集団が決まると、母集団に比例して地点数、標本数、また集計時に各ブロック、規模別が分析できるように各地点に地点番号を設定する。別紙は今回調査の表である。

(別紙)

NO. 4106 生活と文化に関する調査 (東アジア価値観調査)

調査地域…全国
標本数… 1,200
地点数… 80
調査対象…20歳以上の男女個人

上段…標本数、中段…地点数、下段…地点番号

	東京23区	他の政令 指定市	10万以 上の市	10万未 満の市	郡部	計
北日本		30 (2) 121~122	45 (3) 141~143	30 (2) 161~162	45 (3) 181~183	150 (10)
関東	75 (5) 201~205	60 (4) 221~224	165 (11) 241~251	45 (3) 261~263	45 (3) 281~283	390 (26)
中部		15 (1) 321	90 (6) 341~346	45 (3) 361~363	60 (4) 381~384	210 (14)
近畿		45 (3) 421~423	90 (6) 441~446	30 (2) 461~462	30 (2) 481~482	195 (13)
西日本		30 (2) 521~522	90 (6) 541~546	60 (4) 561~564	75 (5) 581~585	255 (17)
計	75 (5)	180 (12)	480 (32)	210 (14)	255 (17)	1200 (80)

(注釈 吉野)

- ・今回 15人/地点
- ・厳密に母集団人口にそろえると 12~18人/地点

なお、都市規模や地域ブロックの分類の方法は、調査の規模やテーマなどによって変わる。

また、年齢が5歳階級でない例えば17歳以上などの区切りの時は、

平成12年国調の17～19歳

————— × 住民台帳の15～19歳+住民台帳の20歳以上

平成12年国調の15～19歳

を各自治体ごとに算出して母集団を推定している。

2. 調査区の抽出

(注. 国勢調査区)

抽出方法は、第1次抽出単位として調査区を抽出し、第2次の抽出単位として役所の住民票や選管名簿から調査対象者を抽出する層化二段無作為抽出である。

調査区のデータについては、「平成12年国勢調査 標本調査基礎資料」の電子媒体を購入している。平成12年国勢調査の調査区は全国で約94万あり、1調査区ごとに調査区番号、調査区の特徴、調査区の総人口、15歳以上、20歳以上人口、65歳以上人口、世帯数、2人以上の普通世帯数、1人の普通世帯数、調査区の特徴、などのデータが収録されている。

調査区の抽出方法は20歳以上が対象の場合、調査区の20歳以上の人口に基づいた確率比例抽出法による。

ただし、65歳以上が対象の場合は調査区の65歳以上の人口を使用するなど、調査対象によって調査区の総人口や15歳以上、20歳以上人口、65歳以上人口、世帯数、2人以上の普通世帯数、1人の普通数などを使いわけている。また、15歳以上人口-20歳以上で15～19歳の各調査区の人口も算出される。

このように、調査区は年齢や人口の違いがあるので、一律に調査区の数を数えただけの抽出は母集団を正確に反映した抽出とはいえない。

抽出に際しての各層内における市区町村の配列順序は、平成12年国勢調査時の市区町村コードの順である。

層での計算にあたっては、その層に該当する市区町村の調査区の20歳以上人口を積算していき、その中で抽出番号目に当たる人の含まれる調査区を調査地点として抽出している。具体的には

- ① 層内での抽出地点数が1地点の場合には、層における20歳以上人口の数以下の乱数を1つ選んで抽出番号とする。
- ② 層内での抽出地点数が2地点以上の場合には、
抽出間隔=層における調査区の20歳以上人口(計) / 層で算出された調査地点数

を算出する。次に抽出間隔以下の乱数を1つ選んで抽出番号とする。この起算番号を用いて抽出番号を次のように求める。

- 第1地点の抽出番号 (起算番号そのまま)
 第2地点の抽出番号 (起算番号+抽出間隔×1)
 第3地点の抽出番号 (起算番号+抽出間隔×2)
-

実際に今回の調査の2ブロック(関東)の場合をコンピューターの画面の表示で見ると以下の通りである。関東ブロックは約31万の調査区があり、今回の調査ではその内から26の調査区を抽出することになる。なおサンプリングは、IBMの汎用コンピューター2003-102を使って作業をしている。

(都市規模別に抽出番号を計算する)

総数 80 地点

キホ 1 NO 1	チュウシュツバンゴウ	936271	東京 5 地点
キホ 1 NO 2	チュウシュツバンゴウ	2287923	
キホ 1 NO 3	チュウシュツバンゴウ	3639575	
キホ 1 NO 4	チュウシュツバンゴウ	4991227	
キホ 1 NO 5	チュウシュツバンゴウ	6342879	
			政令指定都市
キホ 2 NO 1	チュウシュツバンゴウ	463346	(大都市) 4 地点
キホ 2 NO 2	チュウシュツバンゴウ	1574453	
キホ 2 NO 3	チュウシュツバンゴウ	2685560	
キホ 2 NO 4	チュウシュツバンゴウ	3796667	
			10 万以上の市 11 地点
キホ 3 NO 1	チュウシュツバンゴウ	460263	
キホ 3 NO 2	チュウシュツバンゴウ	1581659	
キホ 3 NO 3	チュウシュツバンゴウ	2703055	
キホ 3 NO 4	チュウシュツバンゴウ	3824451	
キホ 3 NO 5	チュウシュツバンゴウ	4945847	
キホ 3 NO 6	チュウシュツバンゴウ	6067243	

キホ 3 NO 7 チョウシュツ バンコウ 7188639
 キホ 3 NO 8 チョウシュツ バンコウ 8310035
 キホ 3 NO 9 チョウシュツ バンコウ 9431431
 キホ 3 NO 10 チョウシュツ バンコウ 10552827
 キホ 3 NO 11 チョウシュツ バンコウ 11674223

キホ 4 NO 1 チョウシュツ バンコウ 715889
 キホ 4 NO 2 チョウシュツ バンコウ 2366129
 キホ 4 NO 3 チョウシュツ バンコウ 4016369

キホ 5 NO 1 チョウシュツ バンコウ 247971
 キホ 5 NO 2 チョウシュツ バンコウ 1462623
 キホ 5 NO 3 チョウシュツ バンコウ 2677275

(抽出番号目に当たる人が含まれる調査区を調査地点とする)

-----キホ 1	-----キホ 2	-----キホ 3	-----キホ 4	-----キホ 5
ソウスク 6758261	ソウスク 4444428	ソウスク 12335360	ソウスク 4950721	ソウスク 3643957
チレンスク 5	チレンスク 4	チレンスク 11	チレンスク 3	チレンスク 3
インタバ # 1351652	インタバ # 1111107	インタバ # 1121396	インタバ # 1650240	インタバ # 1214652
スタート NO 936271	スタート NO 463346	スタート NO 460263	スタート NO 715889	スタート NO 247971
シヨウソクン チョウサク NO	シヨウソクン チョウサク NO	シヨウソクン チョウサク NO	シヨウソクン チョウサク NO	シヨウソクン チョウサク NO
墨田区 1841	若葉区 611	つくば 102	栃木市 244	大宮町 103
世田谷 160	磯子区 12	高崎市 780	本庄市 175	北橋村 15
杉並区 2846	緑区 26	川口市 3093	袖ヶ浦 299	栗橋町 129
練馬区 1168	中原区 1004	草加市 1314		
江戸川 774		市川市 2503		
		野田市 765		
		鎌ヶ谷 291		
		府中市 700		
		東村山 833		
		鎌倉市 1128		
		相模原 4679		

人口累積

等間隔

(都市規模別にまとめて表示)

(人)

地点番号

キホ = 1 ク 13 墨田区 チョウサク = 1841 ジンコウ = 85 ヒヨクソク 15 チン NO 201
 キホ = 1 ク 13 世田谷 チョウサク = 160 ジンコウ = 97 ヒヨクソク 15 チン NO 202
 キホ = 1 ク 13 杉並区 チョウサク = 2846 ジンコウ = 108 ヒヨクソク 15 チン NO 203
 キホ = 1 ク 13 練馬区 チョウサク = 1168 ジンコウ = 72 ヒヨクソク 15 チン NO 204
 キホ = 1 ク 13 江戸川 チョウサク = 774 ジンコウ = 129 ヒヨクソク 15 チン NO 205

ｷｯﾌﾟ = 2 ｸﾝ 12 若葉区 ｸﾞﾗﾌ = 611 ﾖﾝｸﾞ = 138 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ ﾅﾝ ﾈ ﾈ
 ｷｯﾌﾟ = 2 ｸﾝ 14 磯子区 ｸﾞﾗﾌ = 12 ﾖﾝｸﾞ = 112 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ ﾅﾝ ﾈ ﾈ
 ｷｯﾌﾟ = 2 ｸﾝ 14 緑区 ｸﾞﾗﾌ = 26 ﾖﾝｸﾞ = 125 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ ﾅﾝ ﾈ ﾈ
 ｷｯﾌﾟ = 2 ｸﾝ 14 中原区 ｸﾞﾗﾌ = 1004 ﾖﾝｸﾞ = 90 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ ﾅﾝ ﾈ ﾈ

ｷｯﾌﾟ = 3 ｸﾝ 8 つくば ｸﾞﾗﾌ = 102 ﾖﾝｸﾞ = 76 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ ﾅﾝ ﾈ ﾈ
 ｷｯﾌﾟ = 3 ｸﾝ 10 高崎市 ｸﾞﾗﾌ = 780 ﾖﾝｸﾞ = 141 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ ﾅﾝ ﾈ ﾈ
 ｷｯﾌﾟ = 3 ｸﾝ 11 川口市 ｸﾞﾗﾌ = 3093 ﾖﾝｸﾞ = 127 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ ﾅﾝ ﾈ ﾈ
 ｷｯﾌﾟ = 3 ｸﾝ 11 草加市 ｸﾞﾗﾌ = 1314 ﾖﾝｸﾞ = 75 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ ﾅﾝ ﾈ ﾈ
 ｷｯﾌﾟ = 3 ｸﾝ 12 市川市 ｸﾞﾗﾌ = 2503 ﾖﾝｸﾞ = 141 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ ﾅﾝ ﾈ ﾈ
 ｷｯﾌﾟ = 3 ｸﾝ 12 野田市 ｸﾞﾗﾌ = 765 ﾖﾝｸﾞ = 154 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ ﾅﾝ ﾈ ﾈ
 ｷｯﾌﾟ = 3 ｸﾝ 12 鎌ヶ谷 ｸﾞﾗﾌ = 291 ﾖﾝｸﾞ = 140 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ ﾅﾝ ﾈ ﾈ
 ｷｯﾌﾟ = 3 ｸﾝ 13 府中市 ｸﾞﾗﾌ = 700 ﾖﾝｸﾞ = 118 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ ﾅﾝ ﾈ ﾈ
 ｷｯﾌﾟ = 3 ｸﾝ 13 東村山 ｸﾞﾗﾌ = 833 ﾖﾝｸﾞ = 129 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ ﾅﾝ ﾈ ﾈ
 ｷｯﾌﾟ = 3 ｸﾝ 14 鎌倉市 ｸﾞﾗﾌ = 1128 ﾖﾝｸﾞ = 138 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ ﾅﾝ ﾈ ﾈ
 ｷｯﾌﾟ = 3 ｸﾝ 14 相模原 ｸﾞﾗﾌ = 4679 ﾖﾝｸﾞ = 76 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ ﾅﾝ ﾈ ﾈ

ｷｯﾌﾟ = 4 ｸﾝ 9 栃木市 ｸﾞﾗﾌ = 244 ﾖﾝｸﾞ = 123 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ ﾅﾝ ﾈ ﾈ
 ｷｯﾌﾟ = 4 ｸﾝ 11 本庄市 ｸﾞﾗﾌ = 175 ﾖﾝｸﾞ = 112 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ ﾅﾝ ﾈ ﾈ
 ｷｯﾌﾟ = 4 ｸﾝ 12 袖ヶ浦 ｸﾞﾗﾌ = 299 ﾖﾝｸﾞ = 176 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ ﾅﾝ ﾈ ﾈ

ｷｯﾌﾟ = 5 ｸﾝ 8 大宮町 ｸﾞﾗﾌ = 103 ﾖﾝｸﾞ = 108 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ ﾅﾝ ﾈ ﾈ
 ｷｯﾌﾟ = 5 ｸﾝ 10 北橋村 ｸﾞﾗﾌ = 15 ﾖﾝｸﾞ = 155 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ ﾅﾝ ﾈ ﾈ
 ｷｯﾌﾟ = 5 ｸﾝ 11 栗橋町 ｸﾞﾗﾌ = 129 ﾖﾝｸﾞ = 123 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ ﾅﾝ ﾈ ﾈ

(県別にまとめて表示)

ｸﾝ 8 ｸﾝ ﾈ ﾈ ﾈ ﾈ 8220 つくば ｷｯﾌﾟ 3 ｸﾞﾗﾌ 102 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ 15

ｸﾝ 8 ｸﾝ ﾈ ﾈ ﾈ ﾈ 8344 大宮町 ｷｯﾌﾟ 5 ｸﾞﾗﾌ 103 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ 15

ｸﾝ 9 ｸﾝ ﾈ ﾈ ﾈ ﾈ 9203 栃木市 ｷｯﾌﾟ 4 ｸﾞﾗﾌ 244 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ 15

ｸﾝ 10 ｸﾝ ﾈ ﾈ ﾈ ﾈ 10202 高崎市 ｷｯﾌﾟ 3 ｸﾞﾗﾌ 780 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ 15

ｸﾝ 10 ｸﾝ ﾈ ﾈ ﾈ ﾈ 10301 北橋村 ｷｯﾌﾟ 5 ｸﾞﾗﾌ 15 ﾋﾞｰﾙ ﾎﾝｽ ﾀﾞ 15

ケン11	ケンシ NO11203	川口市	キホ [*] 3	チヨウサク 3093	ヒヨウホンスウ 15
ケン11	ケンシ NO11221	草加市	キホ [*] 3	チヨウサク 1314	ヒヨウホンスウ 15
ケン11	ケンシ NO11211	本庄市	キホ [*] 4	チヨウサク 175	ヒヨウホンスウ 15
ケン11	ケンシ NO11461	栗橋町	キホ [*] 5	チヨウサク 129	ヒヨウホンスウ 15
ケン12	ケンシ NO12104	若葉区	キホ [*] 2	チヨウサク 611	ヒヨウホンスウ 15
ケン12	ケンシ NO12203	市川市	キホ [*] 3	チヨウサク 2503	ヒヨウホンスウ 15
ケン12	ケンシ NO12208	野田市	キホ [*] 3	チヨウサク 765	ヒヨウホンスウ 15
ケン12	ケンシ NO12224	鎌ヶ谷	キホ [*] 3	チヨウサク 291	ヒヨウホンスウ 15
ケン12	ケンシ NO12229	袖ヶ浦	キホ [*] 4	チヨウサク 299	ヒヨウホンスウ 15
ケン13	ケンシ NO13107	墨田区	キホ [*] 1	チヨウサク 1841	ヒヨウホンスウ 15
ケン13	ケンシ NO13112	世田谷	キホ [*] 1	チヨウサク 160	ヒヨウホンスウ 15
ケン13	ケンシ NO13115	杉並区	キホ [*] 1	チヨウサク 2846	ヒヨウホンスウ 15
ケン13	ケンシ NO13120	練馬区	キホ [*] 1	チヨウサク 1168	ヒヨウホンスウ 15
ケン13	ケンシ NO13123	江戸川	キホ [*] 1	チヨウサク 774	ヒヨウホンスウ 15
ケン13	ケンシ NO13206	府中市	キホ [*] 3	チヨウサク 700	ヒヨウホンスウ 15
ケン13	ケンシ NO13213	東村山	キホ [*] 3	チヨウサク 833	ヒヨウホンスウ 15
ケン14	ケンシ NO14107	碓子区	キホ [*] 2	チヨウサク 12	ヒヨウホンスウ 15
ケン14	ケンシ NO14113	緑区	キホ [*] 2	チヨウサク 26	ヒヨウホンスウ 15
ケン14	ケンシ NO14133	中原区	キホ [*] 2	チヨウサク 1004	ヒヨウホンスウ 15
ケン14	ケンシ NO14204	鎌倉市	キホ [*] 3	チヨウサク 1128	ヒヨウホンスウ 15
ケン14	ケンシ NO14209	相模原	キホ [*] 3	チヨウサク 4679	ヒヨウホンスウ 15

このようにして調査区が抽出される。

地名

3. 所在地とのマッチング

「平成12年国勢調査 標本調査基礎資料」の調査区データには、具体的な所在地名は収録されていない。調査区の所在地を調べるためには「平成12年国勢調査 調査区一

覧表データファイル」が必要であり、こちらの電子媒体も購入して使用している。「平成12年国勢調査 調査区一覧表データファイル」には約180万の基本単位区ご

これをいくつかまとめて、調査区とする。

とに、人口、世帯数、具体的な所在地名や地域域特性などが収録されている。上で抽出

された調査区とマッチングして調査区の具体的な所在地を表示している。

4. 調査対象者の抽出

調査地点が決まると調査員は、調査地点を管轄する役所に前もって閲覧の予約を入れ、所定の手続きをして住民票や選管名簿の閲覧をさせてもらい、指定された地域から調査対象者を系統抽出して調査の対象者を決定する。

参考

抽出方法について

[標本数の配分及び調査地点数の決定]

地区・都市規模別各層における母集団数（平成 14 年 3 月 31 日現在の住民基本台帳の 20 歳以上人口）の大きさに比例して調査地点数を配分し、1 地点の標本数は一律 15 対象とした。

[抽出]

1) 第一次抽出となる調査地点として、平成 12 年国勢調査時に設定された調査区を使用し、第二次抽出となる対象者は住民基本台帳または選挙人名簿から等間隔抽出法によって抽出した。

2) 調査地点（調査区）は、各層に該当する市区町村内の調査区の 20 歳以上人口を積算していき、その中で抽出番号番目にあたる人が含まれる調査区を調査地点として抽出した。

3) 層内での抽出地点数が 1 地点の場合は、層における 20 歳以上人口の数以下の乱数を 1 つ選んで抽出番号とする。

4) 層内での抽出地点数が 2 地点以上の場合には

抽出間隔＝層における国勢調査時の 20 歳以上人口（計）／層で算出された調査地点数

を算出する。次に抽出間隔以下の乱数を 1 つ選んで抽出起算番号とし、この起算番号と抽出間隔を用いて抽出番号を算出する。

5) 抽出に際しての各層内における市区町村の配列順序は平成 12 年国勢調査時の市区町村コードに従った。

国際比較における国内調査

調査地域…全国
 標本数… 1,200
 地点数… 80
 調査対象…20歳以上の男女個人

上段…標本数、中段…地点数、下段…地点番号

	東京23区	他の政令 指定市	10万以 上の市	10万未 満の市	郡部	計
北日本		27 (2) 121~122	44 (3) 141~143	31 (2) 161~162	46 (3) 181~183	148 (10)
関東	80 (5) 201~205	53 (4) 221~224	156 (10) 241~250	51 (3) 261~263	45 (3) 281~283	385 (25)
中部		20 (2) 321~322	90 (6) 341~346	50 (3) 361~363	60 (4) 381~384	220 (15)
近畿		52 (3) 421~423	87 (6) 441~446	31 (2) 461~462	26 (2) 481~482	196 (13)
西日本		32 (2) 521~522	84 (6) 541~546	57 (4) 561~564	78 (5) 581~585	251 (17)
計	80 (5)	184 (13)	461 (31)	220 (14)	255 (17)	1200 (80)

(注釈 吉野)
 () 内は地点数人口比例では
 各地点で10~17人となるが、
 今回は15人でそろえて調査遂行
 した
 (実際の計画サンプルは前々頁参照)

「東アジア価値観調査」調査実施状況報告書

1. 調査対象
- (1) 母集団 日本に住居する 20 歳以上の男女日本人
 - (2) 標本数 男女 1,200 人
 - (3) 抽出法 層化 2 段無作為抽出法 (80 地点)
2. 調査時期 平成 14 年 11 月 14 日～12 月 8 日
3. 調査方法 調査員による個別面接聴取法
4. 回収結果
- (1) 有効回収数 (率) 787 人 (65.6%)
 - (2) 調査不能数 (率) 413 人 (34.4%)
5. 不能内訳
- | | |
|------|-----|
| 転居 | 32 |
| 長期不在 | 31 |
| 一時不在 | 134 |
| 住所不明 | 1 |
| 拒否 | 196 |
| その他 | 19 |

整理No.	地点No.	県名	調査地点名	標本数	完了数
1	121	北海道	札幌市 東区 北三十三条	15	9
2	141	北海道	旭川市 東光四条	15	12
3	161	北海道	伊達市 館山町	15	8
4	181	北海道	上川支庁 東川町 東町	15	13
5	142	青森県	弘前市 大字桜ヶ丘	15	12
6	182	岩手県	東磐井郡 東山町	15	9
7	122	宮城県	仙台市 青葉区 桜ヶ丘	15	12
8	162	秋田県	男鹿市 五里合鮭川	15	12
9	183	山形県	西村山郡 河北町	15	11
10	143	福島県	福島市 蓬萊町	15	11
11	241	茨城県	つくば市 稲荷前	15	11
12	281	茨城県	那珂郡 大宮町	15	11
13	261	栃木県	栃木市 片柳町	15	10
14	242	群馬県	高崎市 石原町	15	12
15	282	群馬県	勢多郡 北橋村	15	11
16	243	埼玉県	川口市 朝日	15	9
17	262	埼玉県	本庄市 栄	15	9
18	244	埼玉県	草加市 旭町	15	11
19	283	埼玉県	北葛飾郡 栗橋町	15	12
20	221	千葉県	千葉市 若葉区	15	7
21	245	千葉県	市川市 大町	15	9
22	246	千葉県	野田市 尾崎	15	9
23	247	千葉県	鎌ヶ谷市	15	7
24	263	千葉県	袖ヶ浦市 横田	15	9
25	201	東京都	墨田区 墨田	15	9
26	202	東京都	世田谷区 北烏山	15	9
27	203	東京都	杉並区 清水	15	9
28	204	東京都	練馬区 桜台	15	9
29	205	東京都	江戸川区 東松本	15	9
30	248	東京都	府中市 若松町	15	12
31	249	東京都	東村山市 恩多町	15	9
32	222	神奈川県	横浜市 磯子区	15	9
33	223	神奈川県	横浜市 緑区	15	10
34	224	神奈川県	川崎市 中原区	15	5
35	250	神奈川県	鎌倉市 津西	15	9
36	251	神奈川県	相模原市	15	12
37	341	新潟県	新潟市 竹尾	15	11
38	361	新潟県	新発田市	15	11
39	381	富山県	西礪波郡 福岡町	15	14
40	342	石川県	小松市	15	10
41	362	長野県	小諸市	15	14
42	382	長野県	東筑摩郡	15	8
43	343	岐阜県	岐阜市	15	8
44	344	静岡県	沼津市	15	10
45	383	静岡県	小笠郡 浜岡町	15	11
46	321	愛知県	名古屋市 瑞穂区	15	6
47	345	愛知県	岡崎市 美合町	15	10
48	363	愛知県	津島市 神守町	15	11
49	346	愛知県	豊田市 九久平町	15	11
50	384	三重県	鈴鹿郡 関町	15	8
51	481	滋賀県	高島郡 新旭町	15	10
52	421	京都府	京都市 伏見区	15	6
53	461	京都府	亀岡市 篠町	15	11
54	422	大阪府	大阪市 阿倍野区	15	9
55	441	大阪府	堺市	15	11

整理No.	地点No.	県名	調査地点名	標本数	完了数
56	442	大阪府	高槻市 東天川	15	11
57	443	大阪府	河内長野市	15	9
58	423	兵庫県	神戸市 須磨区	15	6
59	444	兵庫県	姫路市 八代本町	15	11
60	445	兵庫県	伊丹市	15	9
61	462	兵庫県	西脇市	15	12
62	482	奈良県	生駒郡 平群町	15	8
63	446	和歌山県	和歌山市 小松原	15	11
64	581	島根県	八束郡 八雲村	15	7
65	541	岡山県	岡山市 万成西町	15	13
66	521	広島県	広島市 西区 観音町	15	9
67	561	広島県	廿日市市 本町	15	12
68	542	山口県	下関市 宮田町	15	9
69	582	山口県	吉敷郡 小郡町	15	9
70	543	愛媛県	松山市 小栗	15	6
71	583	高知県	高岡郡 佐川町	15	11
72	522	福岡県	福岡市 東区 和白東	15	10
73	562	福岡県	直方市 新知町	15	11
74	544	福岡県	春日市 大字上白水	15	12
75	584	佐賀県	杵島郡 白石町	15	9
76	563	長崎県	大村市 玖島	15	4
77	545	熊本県	八代市 本町	15	12
78	585	宮崎県	宮崎郡 清武町	15	5
79	546	鹿児島県	鹿児島市 伊敷町	15	11
80	564	沖縄県	石川市 宇東恩納	15	13
				1200	787

整理 No.	地点 No.	県名	調査地点名	標 本 数	完 了 数	事 故 数	転 居	長 期 不 在	一 時 不 在	住 所 不 明	拒 否	そ の 他	抽 出 台 帳
1	121	北海道	札幌市 東区 北三十三条	15	9	6		1	3		2		1
2	141	北海道	旭川市 東光四条	15	12	3			1		2		1
3	161	北海道	伊達市 館山町	15	8	7			1		6		1
4	181	北海道	上川支庁 東川町 東町	15	13	2			2				1
5	142	青森県	弘前市 大字桜ヶ丘	15	12	3		1	2				1
6	182	岩手県	東磐井郡 東山町	15	9	6		2	3		1		1
7	122	宮城県	仙台市 青葉区 桜ヶ丘	15	12	3		1	2				1
8	162	秋田県	男鹿市 五里合鱈川	15	12	3	1	1			1		1
9	183	山形県	西村山郡 河北町	15	11	4			2		2		1
10	143	福島県	福島市 逢萊町	15	11	4			1		3		1
11	241	茨城県	つくば市 稲荷前	15	11	4			2		2		1
12	281	茨城県	那珂郡 大宮町	15	11	4			2		2		1
13	261	栃木県	栃木市 片柳町	15	10	5			1		4		1
14	242	群馬県	高崎市 石原町	15	12	3			1		1	1	1
15	282	群馬県	勢多郡 北橋村	15	11	4	3		1				2
16	243	埼玉県	川口市 朝日	15	9	6			4		2		1
17	262	埼玉県	本庄市 栄	15	9	6	1		4		1		1
18	244	埼玉県	草加市 旭町	15	11	4	1				3		1
19	283	埼玉県	北葛飾郡 栗橋町	15	12	3			1		2		1
20	221	千葉県	千葉市 若葉区	15	7	8						8	1
21	245	千葉県	市川市 大町	15	9	6			3		3		1
22	246	千葉県	野田市 尾崎	15	9	6			2		3	1	1
23	247	千葉県	鎌ヶ谷市	15	7	8		1			5	2	1
24	263	千葉県	袖ヶ浦市 横田	15	9	6		1			4	1	1
25	201	東京都	墨田区 墨田	15	9	6			6				1
26	202	東京都	世田谷区 北烏山	15	9	6	1	1			4		1
27	203	東京都	杉並区 清水	15	9	6	1		5				1
28	204	東京都	練馬区 桜台	15	9	6	1		4		1		1
29	205	東京都	江戸川区 東松本	15	9	6		2	1		3		1
30	248	東京都	府中市 若松町	15	12	3			3				1
31	249	東京都	東村山市 恩多町	15	9	6			1		5		1
32	222	神奈川県	横浜市 磯子区	15	9	6			1		5		1
33	223	神奈川県	横浜市 緑区	15	10	5					5		1
34	224	神奈川県	川崎市 中原区	15	5	10		1	8		1		1
35	250	神奈川県	鎌倉市 津西	15	9	6			4		2		1
36	251	神奈川県	相模原市	15	12	3			3				1
37	341	新潟県	新潟市 竹尾	15	11	4		1	2			1	1
38	361	新潟県	新発田市	15	11	4		1			3		1
39	381	富山県	西礪波郡 福岡町	15	14	1	1						1
40	342	石川県	小松市	15	10	5	1	1	1		2		1
41	362	長野県	小諸市	15	14	1		1					1

整理 No.	地点 No.	県名	調査地点名	根 本 数	完 了 数	事 故 数	転 居	長 期 不 在	一 時 不 在	住 所 不 明	拒 否	そ の 他	抽 出 台 帳
42	382	長野県	東筑摩郡 [redacted]	15	8	7	1		4		2		1
43	343	岐阜県	岐阜市 [redacted]	15	8	7	5		1		1		1
44	344	静岡県	沼津市 [redacted]	15	10	5			1		4		1
45	383	静岡県	小笠郡 浜岡町 [redacted]	15	11	4			2		2		1
46	321	愛知県	名古屋市 瑞穂区 [redacted]	15	6	9		3			6		1
47	345	愛知県	岡崎市 美合町 [redacted]	15	10	5			3		2		1
48	363	愛知県	津島市 神守町 [redacted]	15	11	4		1	1		2		1
49	346	愛知県	豊田市 九久平町 [redacted]	15	11	4	1		1		2		2
50	384	三重県	鈴鹿郡 関町 [redacted]	15	8	7	2	3	2				1
51	481	滋賀県	高島郡 新旭町 [redacted]	15	10	5			3		2		1
52	421	京都府	京都市 伏見区 [redacted]	15	6	9		1	2		6		1
53	461	京都府	亀岡市 篠町 [redacted]	15	11	4			4				1
54	422	大阪府	大阪市 阿倍野区 [redacted]	15	9	6					5	1	1
55	441	大阪府	堺市 [redacted]	15	11	4			2		2		1
56	442	大阪府	高槻市 東天川 [redacted]	15	11	4			2		2		1
57	443	大阪府	河内長野市 [redacted]	15	9	6			2		4		1
58	423	兵庫県	神戸市 須磨区 [redacted]	15	6	9	1		3		5		1
59	444	兵庫県	姫路市 八代木町 [redacted]	15	11	4		1	1		2		1
60	445	兵庫県	伊丹市 [redacted]	15	9	6		1	2		3		2
61	462	兵庫県	西脇市 [redacted]	15	12	3					3		1
62	482	奈良県	生駒郡 平群町 [redacted]	15	8	7			1		6		1
63	446	和歌山県	和歌山市 小松原 [redacted]	15	11	4	1		2		1		1
64	581	島根県	八束郡 八雲村 [redacted]	15	7	8	3				5		1
65	541	岡山県	岡山市 万成西町 [redacted]	15	13	2			2				1
66	521	広島県	広島市 西区 観音町 [redacted]	15	9	6			2		4		1
67	561	広島県	廿日市市 本町 [redacted]	15	12	3			1		2		2
68	542	山口県	下関市 宮田町 [redacted]	15	9	6	1	1	1		3		1
69	582	山口県	吉敷郡 小郡町 [redacted]	15	9	6	1				3	2	1
70	543	愛媛県	松山市 小栗 [redacted]	15	6	9	3	1	1		3	1	1
71	583	高知県	高岡郡 佐川町 [redacted]	15	11	4	2				2		1
72	522	福岡県	福岡市 東区 和白東 [redacted]	15	10	5					5		1
73	562	福岡県	直方市 新知町 [redacted]	15	11	4				1	2	1	1
74	544	福岡県	春日市 大字上白水 [redacted]	15	12	3			1		2		1
75	584	佐賀県	杵島郡 白石町 [redacted]	15	9	6			2		4		1
76	563	長崎県	大村市 坂島 [redacted]	15	4	11		3	3		5		1
77	545	熊本県	八代市 本町 [redacted]	15	12	3			2		1		1
78	585	宮崎県	宮崎郡 清武町 [redacted]	15	5	10			1		9		1
79	546	鹿児島県	鹿児島市 伊敷町 [redacted]	15	11	4			1		3		1
80	564	沖縄県	石川市 字東恩納 [redacted]	15	13	2			1		1		1
				1200	787	413	32	31	134	1	196	19	
				100.0%	65.6%		7.7%	7.5%	32.4%	0.2%	47.5%	4.6%	

調査研究の計画と方法

1 中国(北京・上海)における標本抽出

中国本土における調査では、北京・上海・杭州・昆明の4都市を調査地域とし、確率標本法に基づき個人サンプルを抽出した。調査対象となった都市部において、区→街道→居民委員会という行政区画となっている。調査地域において住民基本台帳や選挙人名簿は非公開のため、次のような3段階抽出法を適用した。

ただし、地域により、代替サンプルを用いるなど、厳密な無作為標本抽出にはなっておらず、むしろ第1段階の地点抽出は無作為だが、各地点では恣意性はないが人数分の割り当て抽出に近い形となっている。理想的には、各地・各国で厳密な無作為抽出法（回答者個人の確率比例抽出）によるデータ収集が望ましいことは勿論だが、費用や時間が無制限にあるわけではないので、現実には各地での種々の制限を勘案すると、不慣れな無作為抽出法にこだわるよりも割り当て法を用いた方が無難である。ただし、データ解析の時点では、これを十分に考慮した地域比較・国際比較における比較可能性のレベルが追求されねばならない。割り当て法（クォータ法）については、無作為標本抽出（確率比例抽出法）のようなサンプル誤差の推定理論はないが、「七カ国国際比較（出光書店、1998、p.17）」や「データの科学」（林知己夫、朝倉書店、200、pp.74-81）が実践的データの検討に参考となろう。その要点を簡約すると、1) 単純集計表での一つ一つの質問項目毎の回答分布の比較では、10%-15%程度の差は直ちに意味のある差とは結論できないこと、しかしながら2) 複数の項目群のパターン解析（数量化3類や多次元解析）の国際比較データはかなり安定した結果を示すということである。したがって、3) 単純集計表を用いた比較でも、一度、複数の項目群のクロス集計や多次元解析などで、データの安定性を確認してから、当該の単純集計表に戻り、差の有無を論ずる慎重さが必要であろう。

この章の以下は、標本抽出の「操作的手続き」についての記録としてお考えいただきたい。

まず人口規模に比例して、居民委員会・村民委員会（以下居民委員会と通称する）を調査地点（第1次抽出単位）として抽出した。次いで、選ばれた居民委員会を訪ね、各調査地点の世帯数を確認し、すべての世帯に番号をつけ住宅配置図を作成した上で、確認できた調査地点に属する世帯より、無作為に世帯サンプル（第2次抽出単位）を選んだ。最後に、世帯サンプルより、乱数表を利用して個人サンプル（第3次抽出単位）を無作為に選んだ（Kish法）。中国本土における標本計画の概要は次の通りである。

1.1 第1次抽出単位の抽出

各都市の居民委員会リストから人口規模に比例して居民委員会の抽出作業を行った。なお、居民委員会の抽出数は調査地域の居民委員会の異動や調査不能に備え、最初に計画標本の大きさの2倍～数倍にあたる数の居民委員会を抽出することにした。そして、その中から居民委員会を大1次抽出単位を選んで、選ばれなかった居民委員会を予備標本とした。実際調査の段階で何らかの理由（注、行政的にも地理的にも中国大都市部は大変動している）で、調査不能となった居民委員会に対しては、その居民委員会に地理的に最も近い予備標本で代替させるようにした。

計画標本として抽出した居民委員会に対して、現在の世帯分布状況を調査し、同居民委員会が管轄するすべての世帯に住所番号をつけ、実際の世帯数の確認作業を行った。さらに確認した結果に基づき、居民委員会ごとに住宅配置図を作成し、戸数や交通でのアクセス方法などを明記するようにした。

1.2 第2次抽出単位の抽出

第2次抽出単位の抽出については、調査地点として抽出した各居民委員会より同数の世帯を等間隔で選ぶ方法か、標本居民委員会の世帯総数から等間隔で選ぶ方法のどちらかの世帯を抽出した。調査対象世帯の位置は住宅配置略図の上に番号で示し、調査実施の進行方向を矢印で明記することにした。

具体的には、抽出した各居民委員会において標本抽出員が調査責任者によって無作為に決められた起算世帯住所（スタート）より、住宅配置図上に次々と等間隔で抽出した世帯に1、2、3、…のように世帯番号をつけ、訪問面接調査用調査対象世帯リストを作成することにした。

1.3 第3次抽出単位の抽出

調査対象世帯に直接に面接調査を行う調査員は、表1のような標本世帯番号（最下位1桁数字）と家族成人構成員数（生年月日の降順）を基に発生させた調査対象抽出乱数表により、調査対象個人を第3次抽出単位として抽出するようにした。たとえば、15番の標本世帯には成人構成員が3人いる場合、乱数表の第3行（成人構成員数）と第5（住所番号の下位1桁の数字）列が交差するセルの数字が1となっているため、調査対象は1番目の構成員Aと決定される。なお、各居民委員会において、住所番号の下位1桁の数1, 2, 3, …, 9, 0は一様に分布していない可能性があり、1, 2, 3, …, 9, 0の順で生起する確率が減少していくと考えられる。したがって、調査対象抽出用乱数表については、住所番号の分布と家族構成の特性を考慮した上で、合わせてA、B、Cの3種類の乱数表を作成し、調査票に均等に割り当てるように作成した。

表1 調査対象抽出用乱数表の例

構成員 番号	条件に合う家族構成員				標本世帯番号（15）									
	氏名	生年月日	性別	選択	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
1	A	1932.01.02	男		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	B	1934.10.05	女		2	1	1	2	1	2	2	1	1	2
3	C	1960.08.22	男	✓	3	2	1	2	1	3	1	2	3	2
4	D	1965.04.10	女		4	1	2	3	3	4	1	2	4	2
5					5	4	3	2	1	2	3	4	5	1
6					6	5	1	2	4	3	1	4	5	6
7					5	3	2	1	6	7	2	4	3	7
8					7	6	5	4	3	2	1	8	1	2
9					8	9	7	6	5	4	3	2	1	6
10					9	8	7	6	5	4	3	2	1	0

注* 調査対象抽出用乱数表の利用手順：

1. 家族構成員の登記番号は年齢の大きい方から小さい方へ順番に記入する。
2. 条件に合う家族構成員とは下記の条件を全て満たすものである。①18歳以上である。②調査対象地域に戸籍を置いて1年以上居住する者である。③毎週平均5日以上この家で暮らしている者である。
3. サンプルングは抽出された世帯の住所番号最下位1桁の数字と条件に合う家族構成員の人数を合計した数字によって乱数表から該当家族構成員に該当する番号を確定し、その家族構成員の行の“選択”欄に調査対象個人として“✓”をつける。

本調査では、この調査に先立ち実施した北京市・上海市民意識調査(研究レポート No. 89 と No. 90)の経験を踏まえ、上記の都市が管轄する都市中心部の区に限って3段階抽出の確率サンプリングに擬した標本抽出計画を立案した。都市別の概要は次の通りである。

2 北京市における標本計画

北京市が管轄する 13 区 5 県のうち、人口稠密地帯の中心部 8 区（東城区・西城区・崇文区・宣武区・朝陽区・豊台区・石景山区・海淀区）を調査地域とした上で、次のよう手順で標本抽出を実施した。

2.1 居民委員会の抽出

まず北京市人口統計データに基づき、居民委員会の人口規模に比例して、200 個の居民委員会を選んだ。そして、抽出した居民委員会の存在実態、アクセス可能性、世帯数などを確認した結果、103 個の居民委員会を調査地点の候補とした。さらに、その中から 50 個を無作為に選んで調査地点とし、残りの 53 個を予備標本とした。計画標本として抽出した 50 個の居民委員会のうち、実際調査の段階で何らかの理由で、調査不能となった居民委員会に対しては、その居民委員会に地理的に最も近い予備標本で代替することにした。このように、調査地点として 50 個の居民委員会を選んだ。

計画標本として抽出した 50 個の居民委員会に対して、現在の世帯分布状況を調査した。標本抽出員が各居民委員会の所在地をそれぞれ訪ね、同居民委員会が管轄するすべての世帯に住所番号をつけ、実際の世帯数の確認作業を行った。さらに確認した結果に基づき、居民委員会ごとに住宅配置図を作成し、戸数や交通でのアクセス方法などを明記するようにした。

2.2 世帯サンプルの抽出

世帯の抽出については、調査地点として抽出した各居民委員会より世帯を等間隔で選ぶことにした。具体的には、抽出した各居民委員会において標本抽出員が調査責任者によって無作為に決められた起算世帯住所より、等間隔で世帯サンプルを抽出し、直接訪問調査用調査対象世帯リストを作成することにした。50 個の居民委員会が管轄した世帯数は 39,955 世帯で、抽出間隔を 36 世帯とし、あわせて 1,100 世帯を選んだ。なお、2001 年の実験調査から回答拒否率が高いため、各計画標本に対して 3 つの予備標本も等間隔で同時に抽出し、予備サンプルリストを作成した。つまり、計画標本が拒否された際、次々予備サンプルを導入するようにした。

2.3 個人サンプルの抽出

調査対象となった世帯に訪問面接調査を行う調査員は、表 1 のような世帯リスト番号（最下位 1 桁数字）と家族成人構成員数（生年月日の降順）を基に発生させた調査対象抽出乱数表により、調査対象個人を第 3 次抽出単位として抽出するようにした。

本調査では、最初の計画標本として抽出した 50 個の居民委員会のうち、調査開始時点または途中でビル管理者による干渉で中断したのは 7 個あったので、代替した 7 個の居民委員会を加え、実際に調査した居民委員会が 57 個であった。なお、予備標本の導入分を含め、実際に 3,633 世帯を訪ね、調査を行った。回収した有効個人サンプルは 1,062 名であった。標本回収率は 29.2%に留まった。回答拒否率は 69%にのぼった。

3 上海市における調査の標本計画

上海市の中心部 10 区（黄浦区、盧湾区、徐匯区、長寧区、静安区、普陀区、閘北区、虹口区、楊浦区および浦東新区）を調査地域とし、標本計画を立てた。調査対象とした母集団については、調査地域の 2,317 個の居民委員会に在住する世帯の 18 歳以上の男女に限定することにした。標本計画としては、調査地域から世帯数に比例して抽出した 50 居民委員会より、世帯サンプルを抽出し、そして個人サンプル（1 世帯 1 個人）を抽出することにした。

3.1 居民委員会の抽出

居民委員会リストから世帯数に比例して居民委員会の抽出作業を行った。なお、居民委員会の抽出数は調査地域の居民委員会の異動や調査不能に備え、最初に計画標本の大きさの約2倍にあたる100個の居民委員会を抽出し、それに通し番号を振りあてた。そして奇数番号の50個の居民委員会を計画標本とし、偶数番号の50個の居民委員会を予備標本とした。実際調査の段階で何らかの理由で、調査不能となった居民委員会に対しては、その居民委員会に地理的に最も近い偶数番号の予備サンプルで代替させるようにした。たとえば、5番の居民委員会が調査不能となった場合、予備標本として4番、6番、2番、8番のような優先順位を導入するようにした。なお、調査の時点で抽出した居民委員会が合併されたことが判明した場合には、元の居民委員会の管轄範囲を基に世帯を抽出するようにした。

計画標本として抽出した50個の居民委員会に対して、北京市での標本計画と同じように、各居民委員会の世帯数を確認し、住宅配置図を作成し、戸数や交通でのアクセス方法などを明記するようにした。こうした現地調査の結果に基づき、計画標本として抽出した50個の居民委員会のうち、5個の居民委員会が移転、立入拒否、統合で調査不能と判明したため、直ちに予備標本から代替用の居民委員会から補填した。

3.2 世帯サンプルの抽出

世帯サンプルの抽出については、調査地点として抽出した居民委員会より等間隔で選ぶことにした。

具体的には、抽出した各居民委員会において標本抽出員が調査責任者によって無作為に決められた起算世帯住所より、住宅配置図上に次々と等間隔で抽出した世帯に1、2、3、…のように世帯住所番号をつけ、直接訪問調査用調査対象世帯リストを作成することにした。

本調査では、実際に調査地点とした50個の居民委員会が管轄した世帯数は53,625世帯であったため、前年度調査の回収率を参照の上、抽出間隔を28世帯とし、合計1,915世帯を抽出した。

3.3 個人サンプルの抽出

北京市での調査に適用した方法で個人サンプルを抽出したので、詳細は2.3を参照されたい。

実際の調査では、個人サンプル1,915名のうち、1,052名から有効回答を得たので、標本回収率は54.9%であった。

Statistical table of sureveyed samples

区	街道	居委会	地址编号	地址分组号	实际用样本	应完成样本	实际完成样本	33				无法预约	三次无人	无法接触	拒访原因				有人但不进门	无适台者	一时不在	长期不在	中止调查	已搬家	备注			
															对调查内容感兴趣	没时间	不接受任何调查											
																	其它原因	不开门										
朝阳	双井	光华东工作站	1	1-1	25	7	7	0				2			2	6	4	1		2	1							
朝阳	左家庄	静五	2	2-1	16	7	7	0								1	3	2			3						19乙、19丙4、5门无法进入	
朝阳	安贞	安贞西里社区三区工作站	3	3-1	40	10	10	0			2				5	12	3	7										
朝阳	左家庄	曙七	4	4-1	27	11	11	0				1			1	3	6							1		1		
朝阳	三里屯	南三里社区	5	5-1	25	6	6	0			1	6	1	1	3	4	1		1	1								
朝阳	管庄	双柳巷社区	6	6-1	26	9	9	0				2			3	6	5	1										
朝阳	潘家园	华威西里社区谢花工作站	7	7-1	14	5	5	0			3	1				2	2											
朝阳	将台	朝阳区将台办事处酒仙桥(更改为六街坊)	8	8-1	37	9	9	0			2	6	1			9	1	4										
朝阳	安贞	安华西里社区一区工作站	9	9-1	31	10	10	0							1	9	9	1		1								
朝阳	太阳宫	芍药居第二	11	11-1	44	10	10	0			2					4	17	10										
朝阳	天坛	西里北	12	12-1	4	4	4	0																				
朝阳	天坛	东晓市	13	13-1	20	7	7	0				4	2	2	2	2												
朝阳	天坛	金鱼池	14	14-1	16	7	7	0									5											
朝阳	体育馆路	驹章	15	15-1	17	8	8	0			1		2		1	1	1											
丰台	丰台街道	东单福街社区	16	16-1	11	5	5	0								2	3	4										
丰台	卢沟桥	五里店第二社区	17	17-1	19	9	9	0				6	1	1	1	1												
丰台	和义街道	和义东里第三	18	18-1	34	13	13	0				4			1	3	9											
丰台	新村	育芳园社区	19	19-1	17	10	10	0				2			1	2												
丰台	大红门	南顶路家委会	20	20-1	32	8	8	0			1	5			4	2	9	2	1									
丰台	右安门	翠林三里社区	22	22-1	26	10	10	0							4	3	9	2		2	2							
西城	月坛	月坛北街南社区	23	23-1	51	10	10	0								2	18	17	2									
西城	展览路	榆东社区	24	24-1	15	5	5	0								1	5	4										
西城	二龙路	中央音乐学院社区	26	26-1	79	11	11	0				5			4	23	6		28									
西城	阜外街	百南社区	27	27-1	35	10	9	1				8			2	4	6	2										

Statistical table of surveyed samples

区	街道	居委会	地址编号	地址 分组号	实际使 用样本	应完成 样本	实际完 成样本	33	无法 预约	三次 无人	无法 接触	拒访原因				有人但 不开门	无适 合者	一时 不在	长期 不在	中止 调查	已搬家	备注		
												对调查内 容没兴趣	没时间	不接受其它原因	任何调查									
丰台	大红门	西罗园南里第二居	69	69-1	40	9	9	0					1	10	7	2		2		1	4			
				69-2	28	8	8	0		3	4			2	3	4	2		1				1	
海淀区	永定路	五街坊社区	78	78-1	55	10	10	0						3	19	5	16	2						
				78-2	17	10	10	0						3	3								1	
海淀	万寿路	铁家坟社区	75	75-1	4	2	2	0								1						1		
东城	朝阳门	礼士	103	103-1	13	8	8	0						1	1		2			1				
				103-2	25	8	8	0		1				8	6					1				
朝阳	亚运村	亚运村文体中心 (已更名为安慧北里)	10	10-1		11	11																	
丰台	东铁匠街道	定安东里	21	10-2		11	1	10																
				21-1		9		9																
				21-2		9		9																
西城区	丰盛	丰融园社区	25	21-3		9		9																
				25-1		7		7																
宣武	广外大街	天宁寺南里社区	28	25-2		7		7																
				28-1		9	6	3																
海淀	甘家口	西三环二	36	28-2		8		8																
				36-1		8	3	5																
海淀	田村街道	阜石路第二社区	42	36-2		7		7																
				42-1		8		8																
东城	和平里	黄寺	47	47-1		9		9																
				123	3633	1197	1062	135		37	219	35	190	811	600	300	80	42	126		57	10	75	
				拒访率		71.04%	-0.71		1.02%	8.03%	0.96%	5.23%	22.32%	16.52%	8.26%	2.20%	1.16%	3.47%	1.57%	0.28%	2.06%			

注：
 表格中文字：蓝色-各选居委；红色-放弃的居委
 7个居委因拒访放弃，其中共完成有效样本：10个
 进行替换后的50个居委最终应完成样本：1085个
 因各种原因未能完成的样本：33个
 实际完成样本：1062

居委会名称	频数(个)	百分比(%)
光华东工作站	7	0.66
静五居委会	12	1.13
安贞西里社区三区工作站	31	2.92
曙七居委会	21	1.98
南三里社区居委会	13	1.22
双柳巷社区居委会	43	4.05
华威西里社区菊花工作站	5	0.47
六街坊居委会	27	2.54
安华西里社区一区工作站	74	6.97
安慧北里居委会	1	0.09
芍药居第二居委会	28	2.64
西里北居委会	4	0.38
东晓市居委会	7	0.66
金鱼池居委会	7	0.66
驹草居委会	23	2.17
东幸福街社区居委会	5	0.47
五里店第二社区	44	4.14
和义东里第三居委会	13	1.22
育芳园社区居委会	24	2.26
南顶路家委会	34	3.2
翠林三里社区居委会	39	3.67
月坛北街南社区居委会	30	2.82
榆东社区居委会	5	0.47
中央音乐学院社区居委	11	1.04
百南社区居委会	9	0.85
天宁寺南里社区居委会	6	0.57
滨河里社区居委会	2	0.19
禄长街头茶社区居委会	30	2.82
二街坊东社区居委会	42	3.95
蔚秀园居委会	15	1.41
蓝旗营社区居委会	38	3.58
菊园社区居民委员会	45	4.24
苏州街社区居委会	16	1.51
西三环二居委会	3	0.28
文慧园社区居委会	16	1.51
八家社区居委会	7	0.66
稻香园北社区居委会	23	2.17
永泰西里第一社区居民委	24	2.26
东里第二居委会	8	0.75
八角中里居委会	59	5.56
永八居委会	28	2.64
永四家委会	19	1.79
模式口西里三家委会	23	2.17
花园居委会	10	0.94
钾楼湾居委会	7	0.66
王家园居委会	23	2.17
南沙滩第一居委会	14	1.32
西罗园南里第二居委会	17	1.6
月坛南街社区居委会	16	1.51
铁家坟社区居委会	2	0.19
五街坊社区居委会	20	1.88
大兴社区居委会	16	1.51
礼士居委会	16	1.51
有效样本量(人)	1062	100

4.1 香港調査における標本抽出

香港における標本抽出は、研究協力者の香港城市大学の研究者（香港の統計局と連携あり）、統計数理研究所の研究者との検討を経て、以下のように確定した。特に香港城址大学では家計調査をも専門に遂行してきた経験がある。TPU（調査地区単位）は、各地域の経済的特性（高級高層住宅街）を考慮して区分されている。1997年の英国からの返還による住民の中期的移動（流出後、帰還）やビジネスのため短期的移動の多さを考慮して、香港、マカオ、台湾を含む中国に5年以上住んでいる人々のうち、現在香港居住する18歳以上の成人を対象とした。基本的には、無作為抽出標本であるが、回収率がやはり、かなり低く、クォーター法に近いデータとして処理した方がよさそうである。さらに、調査遂行の末期において、SARSの発生のために調査を取り切り上げるといった事態があったことは注意が必要である。

最終的な有効回収票数は1,057である。

詳細は、以下の通りである。

標本抽出 Sampling Design

1. To select 50 TPUs out of 282 TPUs proportionate to the household sizes.
2. To select 3,000 living quarters from the selected TPUs using simple random sampling. The number of living quarters selected in each TPU will be in proportion to the sizes of the living quarters.
3. The interviewer shall make at least 5 attempts to the selected living quarters at different dates and times.
4. The total number of successful interviews is 1,057.
5. To select one household from each living quarter using the Kish grid approach.
6. To select one household member from each chosen household using the Kish grid method as target respondent.

対象者

Target Respondent:

1. Chinese people who have lived in the Greater China (Mainland, Taiwan, HK, and Macau) area for at least 5 years.
2. This survey cover respondent aged 18 or above.

調査票回収状況	完成	拒否	中止	商業地	廃屋・移転	無効票	言語問題	不在	非該当	総計
TPU	Complete	Refused								Grand Total
1.16	6	13	0	0	0	0	1	1	0	21
1.24	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
1.49	1	6	0	0	0	0	1	1	0	9
1.52	2	12	0	0	1	0	3	4	0	22
1.63	26	20	0	0	1	2	0	4	0	53
1.65	35	24	1	0	3	2	0	6	1	72
1.66	17	26	0	0	3	1	0	2	1	50
1.73	26	28	0	0	1	0	0	1	0	56
1.74	66	27	3	0	2	2	0	5	1	106
1.83	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
1.84	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
2.26	3	3	0	2	1	0	0	0	0	9
2.28	5	9	0	3	1	0	0	4	0	22
2.34	3	9	0	0	1	0	1	3	0	17
2.37	11	9	0	0	1	0	0	3	0	24
2.41	19	28	0	0	5	1	2	7	0	62
2.43	12	13	1	3	0	0	3	5	3	40
2.45	16	39	0	0	2	1	4	3	0	65
2.47	1	0	0	0	1	0	0	1	0	3
2.65	12	11	1	1	4	1	0	2	0	32
2.66	23	25	1	3	2	2	1	4	1	62
2.72	0	9	0	0	1	0	0	0	0	10
2.8	20	37	1	0	0	0	1	1	1	61
2.81	85	118	2	0	15	0	0	17	0	237
2.82	28	41	0	0	1	3	0	2	0	75
2.92	22	32	1	0	1	1	1	4	0	62
2.93	19	22	0	0	19	0	0	1	0	61
2.94	67	103	2	1	13	2	1	40	0	229
3.21	3	5	0	0	2	0	0	0	0	10
3.23	21	56	0	0	10	3	0	9	2	101
3.26	64	67	1	0	12	1	0	8	1	154
3.36	3	0	0	0	8	0	0	0	0	11

3.5	27	93	3	0	0	2	2	13	0	140
4.22	60	36	0	0	6	1	1	13	0	117
4.24	55	51	0	1	9	1	0	14	0	131
4.27	2	1	0	0	1	0	0	2	0	6
4.41	5	3	0	0	0	0	0	3	0	11
5.23	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
5.28	3	0	0	0	0	0	0	2	1	6
6.25	30	31	0	0	0	2	0	11	0	74
6.27	4	4	0	0	0	0	0	1	0	9
6.28	42	54	0	0	1	3	0	12	0	112
7.28	3	0	0	1	0	0	0	0	0	4
7.42	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
7.54	28	24	0	0	0	0	0	8	0	60
7.55	31	37	1	0	0	0	1	20	0	90
7.56	29	31	0	0	3	0	1	40	0	104
7.57	70	96	1	0	6	8	1	31	0	213
7.58	15	33	2	0	3	0	2	10	0	65
8.36	34	49	0	0	21	0	1	7	0	112
Grand Total	1057	1336	21	15	165	39	30	325	12	3000

Language problem- people who do not speak Cantonese/ foreigner

…言語問題

Not qualified-people who can speak Cantonese but claimed themselves not Chinese

…非該当

- no one is greater than 18 years old in the house
- people in the house only seldom stay in the house

台湾調査の標本抽出の詳細

1. 調査計画の骨子

東アジア価値観比較国際調査の一環として、台湾全土の台湾在住の20歳以上の台湾人を母集団とした標本調査を、個別面接聴取法で行った。標本抽出と実査については台湾天主教輔仁大学謝邦昌教授の協力を得て、Trendgo社に委託した。調査の概要は以下の通りである。

(1). 調査内容

台湾居民生活および文化意識調査(計55項目)

(2). 調査対象母集団

台湾在住の満20歳以上の住民

(3). 調査地点数

120地点(都市部103地点, 非都市部17地点)

(4). 計画標本数

1,800名(120地点 × 15名 / 1地点 = 1,800名)

(5). 回収標本数

有効回収標本734名

(6). 調査時期

2003年11月10日～11月22日

2. 個人標本抽出の概要

この調査では、以下のような個人標本抽出の方法、手順にしたがって調査対象者個人を抽出した。

2.1 台湾全土のブロック区分と都市化地域の分類の概要

台湾全土は、北部、中部、南部と東部の4つの地域に分けられている。なお、同じブロックにおいて以下の2つの要件のいずれかを満たす地域を都市化地域と呼ぶ。(1)居住人口は2万人以上で、人口密度は300人/km²に達する。(2)2つ以上の異なる市、鎮、郷が隣接し、かつその居住人口は2万人以上に達し、平均人口密度300人/km²以上に達す。この場合、地域名の命名原則としては、隣接する市、鎮、郷の内、人口が最も多い自治体にする。表1は、台湾全土におけるブロック区分と都市化地域の分類を示している。

2.2 台湾における個人標本抽出計画

この調査では、20歳以上の台湾一般住民を母集団とした層別多段無作為標本抽出し、面接聴取調査法を遂行した。台湾全土の地域を層別し、第1次抽出で調査地点(エリア)を抽出し、そしてランダムルート法により第2次抽出で調査世帯を選び、さらに、Kish法により第3次抽出で各調査世帯から一人の個人を抽出した。より具体的には、以下のようになる。

(1) 都市化程度と地理位置に基づき、台湾全島を北部都市化地域、北部非都市化地

域、中部都市化地域、中部非都市化地域、南部都市化地域、南部非都市化地域、東部都市化地域、東部非都市化地域の8つの層に分けた。都市化程度に関する具体的な区分方法は表1を参照されたい。

表1. 台湾全土におけるブロック区分と都市化地域の分類

区域暨都市化分類	包含之都市化地区
北部都市化地域	臺北都市化地区、新竹都市化地区、羅東都市化地区、宜蘭都市化地区、蘇澳都市化地区
北部非都市化地域	屬台北縣、桃園縣、新竹縣、宜蘭縣、基隆市、新竹市、台北市、且非屬上述都市化地区者。
中部都市化地域	臺中都市化地区、沙鹿都市化地区、員林都市化地区、南投都市化地区、苗栗都市化地区、頭份都市化地区、斗六都市化地区、大甲都市化地区、埔里都市化地区、竹山都市化地区、北港都市化地区、虎尾都市化地区、東勢都市化地区、田中都市化地区、北斗都市化地区、后里都市化地区
中部非都市化地域	屬苗栗縣、台中縣、彰化縣、雲林縣、南投縣、台中市、且非屬上述都市化地区者。
南部都市化地域	高雄都市化地区、臺南都市化地区、嘉義都市化地区、新營都市化地区、佳里都市化地区、馬公都市化地区、潮州都市化地区、東港都市化地区、內埔都市化地区、朴子都市化地区、旗山都市化地区、新化都市化地区、麻豆都市化地区、善化都市化地区
南部非都市化地域	屬嘉義縣、台南縣、高雄縣、屏東縣、澎湖縣、嘉義市、台南市、高雄市、且非屬上述都市化地区者
東部都市化地域	花蓮都市化地区、臺東都市化地区
東部非都市化地域	屬花蓮縣、台東縣、且非屬上述都市化地区者。

- (2) 各層において複数の市、鎮、郷によって新たにエリア(Area)を区分した。8層を合わせて359個のエリアに区分され、それぞれ1~359までの番号を振り付けた。
- (3) 調査地点を120カ所と計画したため、人口分布を勘案した上で、人口規模に比例して各層から選ぶエリアの数を計算し、エリア番号を基に各層から無作為に調査地点を抽出する。各地域から抽出したエリアの数は表2の通りである。
- (4) 各調査地点(エリア)の範囲は電話場番号の局番に対応しているため、抽出した120カ所のエリアに対して、それぞれ無作為に電話番号の最後4桁の乱数をひとつ発生させる。この乱数に基づき、各エリアの調査開始世帯を決める。なお、直接電話をかけることによって該世帯の詳しい住所に関する情報を入手した(RDD法)。
- (5) 各エリアにおいて、調査員は抽出された調査開始世帯を直接訪問し、20歳の家族構成員からKish法により選んだ1人を調査対象に面接調査を行った。そして、調査開始世帯に接する道路の左方向に沿い、1軒おきに計15軒を訪問し、同じくKish法により選んだ個人を対象に調査を続けた。つまり、調査員は調査開始世帯を1番とし、次に3番、5番、7番、…のように各エリアの15調査世帯を選び、あわせて1800世帯

を訪問調査した。

- (6) 抽出された世帯は無人在宅や回答拒否となった場合は、必ず3回までは再訪問することにした。もし、3回訪問しても調査が成功できなかった場合、すべての訪問記録と結果を詳しく記録した上で、該当世帯を調査不能と見なした。

表2 台湾における層別、調査地点の抽出概要

層名	20歳以上 人口数	総人口を 占める割 合(%)	エリア の総数	抽出し たアリ アの数	エリア総 数を占め る割合 (%)	計画訪問 標本世帯 (戸)
(1) 北部都市化地域	6852629	42.11	70	51	72.86	765
(2) 北部非都市化地域	211168	1.30	19	2	10.53	30
(3) 中部都市化地域	3133518	19.25	59	23	38.98	345
(4) 中部非都市化地域	909146	5.59	47	7	14.89	105
(5) 南部都市化地域	3726308	22.90	64	27	42.19	405
(6) 南部非都市化地域	1003094	6.16	71	7	9.86	105
(7) 東部都市化地域	244785	1.50	5	2	40.00	30
(8) 東部非都市化地域	193464	1.19	24	1	4.17	15
合計	16274112	100.00	359	120	33.43	1800

3.地域別の有効回収標本数および回収率

site	度数
板橋市實踐路32巷14號	7
三重市車路頭街37巷17號1樓	7
台北縣新莊市思源路177號	8
永和市新生路249巷4弄22號	3
中和市水源路20號1F	3
延吉街254號1樓	7
蘆洲市信義路361巷1號1樓	5
汐止市光復街7巷34號	5
台北縣樹林市三德街30巷16弄	4
鶯歌?尖山埔路124號	7
三峽?大勇路80號	7
學存路100巷1號1樓	4
台北縣瑞芳鎮逢甲路204號	7
台北縣林口鄉林口路172號	7
台北縣深坑鄉北將路233號1F	7
八里鄉龍形3街6巷1號	5
北縣金山鄉中山路317號	4
萬里鄉瑪鍊路168號	7
宜蘭縣羅東鎮公正路374號	1
宜蘭縣羅東鎮公正路375號	1
宜蘭縣羅東鎮公正路376號	1
宜蘭縣羅東鎮公正路377號	1
宜蘭縣羅東鎮公正路378號	1
宜蘭縣蘇澳鎮中山路112號	5
宜蘭縣冬山鄉冬山路157號	5
頭城鎮新興路302號	5
宜蘭市礁溪鄉湯圍街1號1F	5
宜蘭縣壯圍鄉壯濱路293號	5
宜蘭縣員山鄉員山路一段318號	5
華助街83號	3
平鎮市湧光路462巷6號	7
桃園縣八德市天祥街24巷1號	3
楊梅鎮文化街111號	4
桃園縣龜山鄉福源街73巷19弄1號1F	7
桃園縣龍潭鄉中興路211巷50弄3號	7
中華路125巷26弄70號	5
東興村13鄰18號	7
中興路245巷1號	7
新竹縣關西鎮文化路5巷11號	7
新竹縣新埔鎮仁屋一街33號	7
新竹縣芎林鄉文忠街1-1號	5
苗栗市國福路3巷18號	5
苗栗縣苑裡鎮中正里13鄰100-5號	3
後龍鎮信義街66號	4
苗栗縣西湖鄉店仔街4鄰65號	5
中山路四段236號	4
大甲鎮文武路69號	4
台中縣清水鎮光華路226號	9
台中縣潭子鄉大德2路33號	5
中山南路552號	5
沙田路一段320巷56-1號	5
平鎮市湧光路462巷6號	1

彰化市中正路2段783號	7
和美鎮孝廉路36號	7
彰化縣二林鎮新生路112號	5
彰化縣福興鄉沿海路五段348號	1
彰化縣福興鄉沿海路五段349號	1
彰化縣福興鄉沿海路五段350號	1
彰化縣福興鄉沿海路五段351號	1
彰化縣福興鄉沿海路五段352號	1
彰化縣福興鄉沿海路五段353號	1
彰化縣福興鄉沿海路五段354號	1
彰化縣福興鄉沿海路五段355號	1
彰化市花壇鄉花壇街310號	5
彰化縣伸港鄉中興路1段141巷60號	1
彰化縣伸港鄉中興路1段141巷61號	1
彰化縣伸港鄉中興路1段141巷62號	1
彰化縣伸港鄉中興路1段141巷63號	1
彰化縣伸港鄉中興路1段141巷64號	1
彰化縣伸港鄉中興路1段141巷65號	1
彰化縣伸港鄉中興路1段141巷66號	1
彰化縣田尾鄉光復路3段446號	12
彰化縣溪洲鄉中山路3段333號	6
南投縣埔里鎮南興街361號	8
南投縣集集鎮集集街11號	8
鹿谷鄉中正路二段46號	4
南投縣中寮鄉永平路590號	1
南投縣中寮鄉永平路591號	1
南投縣中寮鄉永平路592號	1
南投縣中寮鄉永平路593號	1
南投縣中寮鄉永平路594號	1
南投縣中寮鄉永平路595號	1
南投縣中寮鄉永平路596號	1
南投縣中寮鄉永平路597號	1
南投市魚池鄉魚池街257號	8
太平路64號	9
林森路一段423號	5
雲林縣古坑鄉中山路75號	8
台中市北區三民路89巷12號	1
花蓮市府前路558號	7
獅球路25巷13號	5
成功二路108號	4
基隆市七堵區明德一路2巷3弄2號1F	4
基隆市暖暖區源遠路152巷15號1F	4
安一路177巷1號	5
新竹市北區廣州街20巷	5
延平路2段325巷13號	4
台中市中區中正路315號	6
台中市北區三民路89巷12號	5
台中市北區三民路三段	1
台中市西屯區長安路2段226號	5
台中市北屯區昌平路2段154-6號	7
臺北市松山區民生東路5段36巷8弄44號4樓	1
臺北市松山區民生東路5段36巷8弄44號5樓	1

台北市信義區松山路287巷3弄13號1F	6
臺北市南港路2段38巷8弄11號1F	7
士林區文林路714巷1號1F	5
台北市大安區臥龍街203巷2號1F	6
中山區民生東路2段115巷13號1F	4
北市中正區中華路2段315巷5號之1一樓	7
台北市大同區成連理錦西街170號1F	7
臺北市文山區木柵路一段168號	7
嘉義縣民雄鄉福樂村埤角223號	7
嘉義縣中埔鄉和美村中山路五段966號	6
嘉義縣朴子市新興路101號	7
嘉義縣新港鄉宮前村登雲街1號	6
嘉義縣太保市太保里太保177號	8
新營縣新營市民生里復興路142號	7
台南縣永康市王行里龍潭街262號	7
台南縣仁德鄉仁愛村77號	7
台南縣善化鎮坐下里興華路237號	7
台南縣新市鄉新市村中興路66號	7
台南縣關廟鄉東勢村旺來路215巷3弄6號	7
台南縣玉井鄉玉田村中正路143號	5
台南縣楠西鄉楠西村中興路11號	5
高雄縣林園鄉林園村忠孝西路65號	7
高雄縣大樹鄉中興南路184號	7
高雄縣仁武鄉仁武村中華路59號	7
高縣橋頭鄉仕和村隆豐路290號	7
屏東市大同路96號	8
屏東縣內埔鄉內田村文昌路32號	7
屏東縣潮州鎮南京路124號	7
屏東縣東港鎮朝陽街64號	7
屏東縣萬丹鄉萬壽路二段228號	7
屏東縣萬丹鄉和平東路86號	1
屏東縣竹田鄉竹田村自強路51號	8
屏東縣佳冬鄉佳冬村佳昌路83號	7
台東市新生里中興路一段266號	9
台東市成功鎮中仁里中華路103號	11
台南市南區蒙宅里西門路一段362號	4
台南市西區民權里金華路四段80-1號	7
台南市北區永祥里大武街569號	7
台南市中區萬昌里民權路一段73號	7
台南市安南區溪冬里北安路二段53號	3
高雄市鹽埕區教仁里大安街115號7樓之2	9
高雄市左營區新中里至真路12號	5
高雄市三民區本文里莊敬路5號	7
高雄市旗津區上竹里旗津二路355號	5
高雄市前金區新生里鼎盛街3號	5

韓国における標本抽出の詳細

本調査は、20歳以上の韓国在住の一般国民を母集団とした標本調査で、訪問面接法で行った。標本抽出の際に、韓国の政府機関の調査でない場合、住民基本台帳を利用することはできないとされる。そこで、調査地点を2000年国勢調査の人口分布を勘案し、調査地点を層別無作為抽出し、各調査地点での個人の抽出はあらかじめ計画された世帯数を系統抽出する（クォータ法）という方式をとった。具体的な標本抽出と訪問調査は韓国 Gallup 社に委託し、調査遂行の詳細は同社との検討の上で一任した。同社は、長年にわたり韓国の世論調査に携わっている。その概要は以下の通りである。

a. 調査対象

母集団：韓国全国の班および村に居住する満20歳以上の国民

b. 標本数 有効回収標本1,006名

c. 地点数 123地点（大都市62地点，都61地点）

d. 調査時期 2003年9月24日～10月11日

e. 抽出の方法と手順 都市規模により地域を層別後、次の手順で個人を抽出した。

- ① 第1次抽出単位の層別は、2000年の韓国国勢調査結果の人口分布（韓国統計庁、2000）に基づき、都市規模で計31層（最大行政単位大都市（7市）と都（8都×3部[都市部，市部，郡部]）に層別し、割り当てる標本数を決定した。その際、済州島は標本から除かれた（済州島の人口は全人口の1.2%で、標本数が1,000の場合、12ケースであるが、通常の全国調査でもサンプリングの際に対象外とされることが多い。）
- ② 各々の割り当てられた標本の大きさに応じて洞・邑・面（図1）を無作為に抽出し、そこから第1次抽出単位の調査地点（班・村）を無作為に抽出した。
- ③ 各調査地点から、計画された世帯数（班：6～8世帯，村：12～15世帯）を系統（等間隔）抽出した。この際、マーケットや商店の世帯は除外した（最終的な地点数および有効標本数は表1に記載）。
- ④ 1つの世帯に20歳以上の成人が2名以上の場合、誕生日ルールに基づき、調査時点から先12ヶ月以内で誕生日がもっとも近い人を選択した。（各地点で抽出される世帯数，したがって個人の数は、あらかじめ割り当てられている。）ただし、この際、一時的な在宅者，および軍隊への入隊，長期的な出張，海外出張の者は除外した。

f. 訪問調査員の訓練

訪問調査は韓国 Gallup 社に登録している調査員が行った。調査概要，一般面接調査要領と調査票の質問方法などに関する1日間のオリエンテーションを行い，3回のロールプレイがなされた。

表1 全国の地域と都市規模ごとの地点数および有効標本数

特別市	地域	地点数	都市規模			合計人数
			都市部	市部	郡部	
1	Seoul	28	227	0	0	227
2	Busan	10	77	0	0	77
3	Daegu	7	52	0	0	52
4	Incheon	6	53	0	0	53
5	Kwangju	4	28	0	0	28
6	Daejeon	4	29	0	0	29
7	Ulsan	3	21	0	0	21
	道					
8	Kyonggi	24	0	187	12	199
9	Kangwon	4	0	23	10	33
10	Chungbuk	3	0	20	12	32
11	Chungnam	5	0	25	16	41
12	Chonbuk	5	0	29	14	43
13	Chonnam	5	0	22	24	46
14	Kyongbuk	8	0	46	15	61
15	Kyongnam	7	0	51	13	64
	合計	123	487	403	116	1006

シンガポール調査の標本抽出の概要

シンガポール調査は、シンガポール在住の 20 歳以上のシンガポール国籍の人を対象とした全国調査である。本調査では、世帯の層別 2 段無作為標本抽出し、さらに抽出された各世帯で誕生日法により標本（個人）を決定し、個別面接聴取法（訪問面接法）により回答を得た。本調査の計画標本に該当する数の大きさをあげることにはできないが、有効回収標本が 1000 を越えることを目標とした。具体的な標本抽出の方法の詳細は、シンガポールの Media Research Consultants Pte Ltd (MRC) 社と直接検討、確認し、調査遂行は同社との検討の上で一任した。その概要は以下の通りである。

- a. 母集団：シンガポールの全国に居住する 20 歳以上のシンガポール国籍の人
- b. 調査票：シンガポール調査は、シンガポールの人口センサス調査による民族の比率、および調査会社（MRC）との打ち合わせから、3 種類の調査票を用意した。3 種類のすべてに公用語である英語質問項目を記載し、その英語文に、それぞれ中国語 (Mandarin)、マレー語、またはタミル語訳を各項目ごとに並列表記した。調査票の内容は、「東アジア価値観国際比較」調査の 2002 年の日本語調査票と同じであり、それをバック・トランスレーションを経てシンガポール調査票とした（但し、一部、項目の内容を考え、シンガポールに合わせて表現を変更している）。
- c. 標本の大きさ：(有効) 回収標本 1037 名
- d. 調査時期：2004 年 12 月 21 日～2005 年 1 月 24 日
- e. 標本抽出の方法と手続き：
 - ① 抽出台帳は、シンガポールの通商産業省統計局 (the Department of Statistics, Ministry of Trade and Industry) 世帯名簿 (Master List of Houses) のサンプリング・フレームを用いている。
 - ② 世帯名簿は、2000 年の人口センサスにおけるすべての世帯が記載されており、更にこの名簿は、家計調査のために毎月更新されている。調査会社では、調査依頼があったときに最新版のサンプリング・フレームを採用している。
 - ③ 個人（標本）の抽出にいたるまでの手続きとしては、前段階として層別 2 段抽出法による世帯抽出、最終段階で各世帯での成人すべてからバースデイ法により個人を抽出している。
 - ④ 世帯抽出には、第 1 段が投票区 (Polling Districts: PDs)、第 2 段が住宅ユニット (housing units) による層別 2 段抽出が行われている。
 - ⑤ 第 1 段の投票区 (PDs) は、3 つの主だった家屋タイプに層別化されており、それぞれは「Public Housing(HDB)」、「Private Houses and Apartments」、「Others (Attap/Zincroofed houses and Shophouses)」と呼ばれる。投票区は、各投票区 (PD)

の世帯数の大きさに準じた確率比例抽出によって選ばれる。(第1段サンプリング)

- ⑥ 第2段の住宅ユニット (housing units) は、「detached」、「semi-detached」、「terrace houses」等といった複数の住宅タイプに層別されている。住宅タイプの詳細については、別紙の資料を参照されたい。住宅ユニットは、層別化された各投票区において、無作為に出発点 (ランダム・ウォークのスタート地点) を決め、系統 (等間隔世帯毎) 抽出によって選ばれる。(第2段サンプリング)
- ⑦ 20歳以上の回答者 (標本) の抽出は、前段階で抽出された各世帯において、調査日に最も誕生日が近く、かつすでに誕生日を迎えた人を抽出するバースデイ法を用いている。
 - f. 調査員: 本シンガポール調査で、調査にあたった調査員の総数は47名である。中国系、マレー系、インド系の調査員によって、さまざまな母語を話す各回答者に対応した。調査は、個別面接聴取法でおこない、調査にかかった時間は、一人あたり平均約40分であった。
 - e. 調査状況: 調査員が各世帯に赴き、世帯において調査協力への同意が得られた割合は、約20%であった。そのうち、さらにバースデイ法により抽出された個人のレベルでの調査成功率は約33%であった。

3.単純集計国際比較表

a.東アジア国際比較表（日本、北京、上海、香港、台湾、韓国、シンガポール）

	KS Common code			Country or Region						
				Japan	Beijing	Shanghai	Hong- Kong	Taiwan	South Korea	Singa- pore
#sample				787	1062	1053	1057	732	1006	1037
Q1	#4. 11	Respect for Ancestors	1)More Than the Average	41.2	41.4	43.5	27.4	27.3	59.6	54.4
			2)Less Than the Average	9.3	3.8	2.8	9.1	4.2	11.1	12.0
			3)Average	47.6	54.0	52.8	61.1	68.0	28.8	31.1
			8)Other	0.1	-	0.1	0.1	-	-	-
			9)Don't Know	1.4	0.8	0.8	2.3	0.4	0.4	2.5
			missing	0.4	-	-	-	-	-	-
Q2	#4. 10	Child Adoption	1)Would Adopt	12.6	17.9	28.1	16.7	17.9	28.2	36.0
			2)Would Not Adopt	49.7	61.3	54.0	69.9	66.8	49.5	38.8
			3)Depends	32.0	18.5	15.4	9.4	11.1	19.8	20.8
			8)Other	0.3	-	0.7	-	-	0.3	-
			9)Don't Know	4.8	2.4	1.8	4.0	4.1	2.2	4.4
			missing	0.6	-	-	-	0.1	-	-
Q3	#4. 80	Ideal Number of Children	0	-	5.7	1.4	1.6	1.8	0.8	0.7
			1	2.2	38.5	38.4	9.6	6.1	5.9	3.0
			2	45.4	50.9	56.1	75.8	60.1	55.5	51.4
			3	45.1	3.4	1.7	7.2	24.3	27.9	26.0
			4	3.0	0.7	0.6	2.3	5.1	6.7	13.7
			5	0.6	-	0.1	0.6	0.3	2.0	1.8
			6	-	-	-	0.4	0.5	0.3	1.4
			7	-	-	-	0.2	-	-	-
			over 8	-	-	-	-	0.1	0.2	0.2
			9)Don't Know	3.7	0.8	1.7	2.4	1.6	0.8	1.8
Q4a	#2. 80a modified 変更	HEALTH Headaches/Migraines/(Heavy)	1)Yes	20.5	30.4	29.2	32.1	25.0	45.2	24.1
			2)No	79.0	69.6	70.7	67.9	74.9	54.8	75.1
			missing	0.5	-	0.2	-	0.1	-	0.8

Legend

0.0 ... rounded 0.0

- ... no one

blank (gray) cell ... no
category in the original
questionnaire of the
country (or region)1),2),3) etc ... the category
number in the original
questionnaire of the
country (or region)

記号の説明

0.0 ... 四捨五入して0.0

- ... 該当者0人

ブランク（灰色） ... もともと
回答肢が設けられていない1),2),3)等 ... 各国調査票での
もとの回答肢番号

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q4b	#2. 80b modified 変更	HEALTH—Backaches	1)Yes	33.8	41.9	34.2	36.1	36.2	49.2	20.6
			2)No	65.7	58.1	65.5	63.9	63.7	50.8	78.6
			missing	0.5	-	0.3	-	0.1	-	0.8
Q4c	#2. 80c	HEALTH—Nervousness	1)Yes	20.6	30.4	20.8	29.4	12.6	24.7	7.2
			2)No	78.9	69.6	79.0	70.6	87.3	75.2	92.0
			missing	0.5	-	0.2	-	0.1	0.1	0.8
Q4d	#2. 80d modified 変更	HEALTH—Depression	1)Yes	6.9	29.0	19.4	28.5	12.3	27.6	9.2
			2)No	92.5	71.0	80.4	71.5	87.4	72.4	90.1
			missing	0.6	-	0.2	-	0.3	-	0.8
Q4e	#2. 80e modified 変更	HEALTH—Insomnia	1)Yes	11.1	33.8	31.6	32.3	27.5	24.8	11.1
			2)No	88.1	66.2	68.2	67.6	72.3	75.2	88.1
			missing	0.9	-	0.2	0.1	0.3	-	0.8
Q4 other		HEALTH—Other/Don't Know	8)Other	0.3	0.5	0.4	1.1	1.0	0.8	3.0
			9)DK	0.4	-	0.2	0.2	0.1	-	0.8
Q5	#2. 3g	Health Satisfaction	1)Very Satisfied	13.5	11.9	14.4	8.4	8.6	8.1	32.1
			2)Fairly Satisfied	62.6	62.1	61.0	70.7	67.3	46.6	58.9
			3)Fairly Dissatisfied	16.1	19.3	20.4	17.4	18.3	33.0	6.7
			4)Very Dissatisfied	6.0	6.7	4.0	3.0	5.1	11.6	2.1
			8)Other	0.5	-	0.1	0.2	-	-	-
			9)Don't Know	1.3	0.1	0.1	0.3	0.7	0.7	0.2
Q6	#1. 8	Class	1)Upper	1.3	2.3	0.4	0.1	0.4	0.7	0.9
			2)Upper Middle	10.4	10.6	10.0	5.7	8.9	6.2	5.5
			3)Middle	56.2	51.2	56.4	49.6	64.5	45.9	76.5
			4)Lower Middle	23.3	25.7	24.6	32.9	18.6	29.7	12.2
			5)Lower	5.7	9.0	7.6	10.9	3.1	16.7	4.2
			8)Other	0.1	-	0.2	-	-	-	-
			9)Don't Know	2.9	1.1	0.9	0.9	4.5	0.8	0.7
			missing	0.1	-	-	-	-	-	-

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q7	#7. 81	Money or Free Time	1)More Money	55.1	72.3	72.8	65.6	71.2	63.7	47.7
			2)More Free Time	33.8	24.0	23.5	29.3	26.9	33.6	41.4
			8)Other	4.7	1.7	1.8	2.4	-	1.1	8.4
			9)Don't Know	6.1	1.9	1.9	2.7	1.9	1.6	2.5
			missing	0.3	0.1	-	-	-	-	-
Q8	#2. 8	Continuing Work in Spite of Enough Money	1)Continue to Work	54.3	72.3	71.3	66.0	71.9	71.8	67.7
			2)Stop Working	34.8	25.1	26.9	31.7	26.1	27.1	27.6
			8)Other	1.7	0.4	0.9	0.3	0.1	0.1	2.5
			9)Don't Know	8.6	2.2	0.9	2.0	1.9	1.0	2.2
			missing	0.6	-	-	-	-	-	-
Q9	#7. 24	The First Condition for one's own Work	1)Good Salary	14.9	17.9	31.1	22.6	33.1	30.4	27.3
			2)Safe Job	23.6	18.6	20.1	18.0	16.3	19.5	28.6
			3)People You Like	27.7	26.8	23.8	29.2	22.5	28.3	18.3
			4)Doing an Important Job	25.7	33.5	23.6	26.4	24.9	21.3	23.0
			8)Other	1.8	1.4	0.2	0.6	-	0.2	0.8
			9)Don't Know	6.1	1.7	1.2	3.2	3.3	0.3	2.0
			missing	0.3	-	-	-	-	-	-
Q10a	#2. 30	ANXIETY— Serious Illness	1)Very Much	12.8	34.6	25.1	55.8	23.8	4.5	66.2
			2)Somewhat	22.7	23.2	18.6	25.4	30.5	14.8	18.5
			3)Slightly	47.1	24.0	29.4	12.6	33.2	51.9	8.4
			4)Not at All	16.6	17.3	26.0	4.9	11.6	27.8	6.1
			8)Other	-	0.1	0.2	0.3	-	-	0.4
			9)Don't Know	0.5	0.8	0.7	0.9	1.0	1.0	0.4
			missing	0.1	0.1	-	-	-	-	-

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q10b	#2. 30d	ANXIETY—Car Accident	1)Very Much	14.9	28.2	16.8	58.4	24.0	5.5	51.7
			2)Somewhat	26.9	21.3	17.0	21.4	29.4	17.1	23.7
			3)Slightly	48.0	23.8	27.4	11.7	35.5	47.3	12.0
			4)Not at All	8.9	25.4	37.7	6.9	10.1	28.8	10.6
			8)Other	-	0.5	-	0.1	-	0.5	1.0
			9)Don't Know	1.3	0.5	1.0	1.5	1.0	0.8	1.1
			missing	-	0.3	-	-	-	-	-
Q10c	#2. 30f	ANXIETY—War	1)Very Much	10.7	19.9	12.0	44.8	23.2	2.9	45.2
			2)Somewhat	16.5	12.7	9.9	22.3	21.6	10.3	16.9
			3)Slightly	41.9	18.9	14.8	18.4	25.0	38.1	14.1
			4)Not at All	25.4	46.0	60.1	11.3	28.0	44.6	21.6
			8)Other	0.4	0.3	0.6	0.3	-	0.7	0.9
			9)Don't Know	5.0	2.1	2.7	2.9	2.2	3.4	1.4
			missing	0.1	0.2	-	-	-	-	-
Q11a		EXIST—God or the Buddha	1)There is	30.7	12.1	13.9	42.7	48.1	28.8	70.4
			2)There Might be	43.6	20.3	26.1	33.2	38.1	29.8	17.8
			3)There is Not	20.8	65.7	58.2	21.6	9.7	34.7	7.1
			9)Don't Know	4.8	1.8	1.8	2.6	4.1	6.7	4.6
Q11b		EXIST—The Other Side	1)There is	15.5	5.9	7.5	31.8	31.0	20.5	47.8
			2)There Might be	39.3	14.8	22.8	28.2	44.1	30.9	24.1
			3)There is Not	33.2	76.8	64.5	30.0	15.8	36.8	16.5
			9)Don't Know	12.1	2.4	5.2	10.0	9.0	11.8	11.6
			missing	-	0.1	-	-	-	-	-
Q11c		EXIST—The Soul	1)There is	27.1	13.1	9.4	40.4	39.6	28.0	54.8
			2)There Might be	42.3	19.0	25.3	28.9	39.9	36.9	24.1
			3)There is Not	21.9	66.0	61.4	25.0	13.9	27.3	13.6
			9)Don't Know	8.5	1.9	3.9	5.7	6.6	7.8	7.5
			missing	0.3	-	-	-	-	-	-

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q11d		EXIST — The Devil	1)There is	5.6	4.0	4.0	25.2	22.8	19.5	42.4
			2)There Might be	23.6	9.1	14.9	24.5	34.7	25.4	24.9
			3)There is Not	56.5	84.4	77.1	43.0	32.8	43.8	22.5
			9)Don't Know	14.0	2.4	4.0	7.3	9.7	11.2	10.2
			missing	0.3	-	-	-	-	-	-
Q11e		EXIST — Hell	1)There is	8.3	4.0	5.2	27.9	29.9	20.0	51.6
			2)There Might be	25.8	10.5	15.3	25.6	40.4	25.8	23.3
			3)There is Not	52.6	82.9	74.9	38.3	20.4	42.7	16.4
			9)Don't Know	13.3	2.6	4.6	8.1	9.3	11.4	8.7
			missing	-	0.1	-	-	-	-	-
Q11f		EXIST — Heaven or Paradise	1)There is	13.2	4.1	7.1	29.7	29.8	22.7	54.6
			2)There Might be	33.4	13.3	19.2	26.5	40.4	28.9	22.8
			3)There is Not	40.7	80.3	68.9	35.7	20.4	38.5	14.9
			9)Don't Know	12.7	2.2	4.8	8.1	9.4	9.9	7.8
			missing	-	0.1	-	-	-	-	-
Q11g		EXIST — Sin	1)There is	10.9	8.2	8.6	35.1	28.3	22.7	59.9
			2)There Might be	30.2	16.6	17.9	26.2	44.0	29.6	23.5
			3)There is Not	44.1	70.6	67.6	32.1	19.4	37.5	11.0
			9)Don't Know	14.5	4.6	5.8	6.5	8.3	10.2	5.6
			missing	0.3	-	-	0.1	-	-	-
Q12a	#5. 81a modified 変更	IMPORTANCE — Immediate Family and Children	1 point (Not important at all)	1.1	0.9	0.4	0.4	-	0.7	0.5
			2 point	0.4	0.5	-	0.1	0.7	0.5	0.2
			3 point	0.5	0.4	0.2	0.4	0.3	0.5	0.3
			4 point	3.6	2.3	1.2	4.3	1.8	1.4	0.8
			5 point	4.7	4.5	5.2	10.4	5.9	3.6	1.8
			6 point	9.1	6.4	11.4	15.9	11.7	6.0	7.4
			7 point (Very important)	80.1	84.5	81.2	67.9	79.4	87.4	85.3
			8)Other	-	0.1	-	-	-	-	0.3
			9)Don't Know	0.5	0.5	0.4	0.7	0.3	-	3.4

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q12b	#5. 81b	IMPORTANCE — Career and Work	1 point (Not important at all)	1.7	3.5	1.2	2.2	0.5	0.4	3.4
			2 point	1.4	1.1	0.6	0.9	0.7	0.4	2.6
			3 point	2.0	2.0	0.9	3.5	2.3	0.6	2.1
			4 point	12.6	6.1	5.4	11.0	7.4	3.4	7.2
			5 point	16.1	12.9	9.9	24.1	18.9	9.1	12.2
			6 point	17.2	26.6	34.1	25.4	26.8	19.0	21.3
			7 point (Very important)	44.9	47.0	47.2	31.8	42.8	66.9	47.9
			8)Other	0.3	0.4	-	0.2	0.1	-	0.1
			9)Don't Know	3.9	0.4	0.7	1.0	0.5	0.2	3.2
			missing	-	0.1	-	-	-	-	-
Q12c	#5. 81c	IMPORTANCE — Free Time and Relaxation	1 point (Not important at all)	0.8	4.6	1.5	1.2	0.3	0.5	0.4
			2 point	0.9	3.2	1.9	1.1	0.8	0.8	0.7
			3 point	2.2	7.1	6.3	5.5	2.3	0.5	2.6
			4 point	18.7	16.3	16.3	18.0	12.3	4.6	8.2
			5 point	20.5	24.9	26.0	28.9	23.1	15.1	18.7
			6 point	20.3	20.8	30.8	20.2	25.7	23.2	28.4
			7 point (Very important)	36.2	22.5	16.8	24.4	35.5	55.1	40.8
			8)Other	-	0.2	0.1	0.2	-	0.2	0.1
			9)Don't Know	0.5	0.3	0.3	0.5	-	0.1	0.2
			missing	-	0.2	-	0.1	-	-	-

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q12d	#5. 81d	IMPORTANCE — Friends and acquaintances	1 point (Not important at all)	0.8	1.9	0.2	0.5	0.1	0.4	0.6
			2 point	0.5	1.5	1.1	0.9	0.4	0.3	1.2
			3 point	2.2	5.0	3.6	5.2	4.4	1.4	2.3
			4 point	10.9	16.0	12.6	17.2	19.0	5.1	8.3
			5 point	18.2	24.9	26.1	30.7	28.0	14.3	18.5
			6 point	27.7	26.2	36.7	25.3	23.4	23.5	28.2
			7 point (Very important)	38.8	24.5	19.6	20.0	24.7	54.8	40.8
			8)Other	-	-	-	0.1	-	0.2	0.1
			9)Don't Know	1.0	-	0.1	0.3	-	0.1	0.1
			missing	-	0.1	-	-	-	-	-
Q12e	#5. 81e	IMPORTANCE — Parents, Brothers, Sisters, and Other Relatives	1 point (Not important at all)	1.3	0.7	0.5	0.4	-	0.6	0.1
			2 point	0.5	0.8	0.6	0.4	0.1	0.4	0.6
			3 point	0.3	2.3	0.8	0.9	0.7	0.4	0.6
			4 point	5.8	4.3	4.1	6.1	5.2	1.5	1.4
			5 point	11.8	10.5	10.5	14.4	15.4	5.5	8.3
			6 point	22.6	23.4	28.5	26.5	24.9	15.3	16.4
			7 point (Very important)	57.2	57.3	54.8	51.1	53.7	76.2	72.5
			8)Other	-	0.5	0.2	0.2	-	0.1	0.1
			9)Don't Know	0.4	0.1	0.1	-	-	-	-
			missing	0.1	0.1	-	-	-	-	-

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q12f	#5. 81f	IMPORTANCE—Religion	1 point (Not important at all)	20.8	56.7	40.1	23.6	5.5	12.7	4.7
			2 point	12.3	11.9	17.5	11.4	8.6	8.1	4.9
			3 point	13.3	11.1	11.8	13.9	15.4	11.1	4.6
			4 point	24.5	7.5	12.3	21.2	26.4	17.2	12.9
			5 point	11.1	4.6	8.8	10.7	19.1	13.6	14.6
			6 point	5.3	3.7	5.4	8.1	11.9	12.2	17.4
			7 point (Very important)	8.0	2.6	3.5	9.5	12.3	22.7	40.1
			8)Other	0.3	-	0.1	0.1	-	0.5	0.1
			9)Don't Know	4.2	1.8	0.6	1.5	0.8	1.9	0.7
			missing	0.1	0.1	-	-	-	-	-
			Q12g	#5. 81g	IMPORTANCE—Politics	1 point (Not important at all)	4.4	17.5	11.5	21.9
2 point	4.8	10.5				10.1	12.8	16.1	9.1	14.0
3 point	9.5	12.4				12.3	18.0	20.2	12.6	12.9
4 point	29.2	17.3				21.6	25.8	20.5	19.0	22.2
5 point	19.6	14.3				21.5	11.7	11.2	12.1	17.8
6 point	12.6	11.7				14.5	4.9	5.1	12.0	9.5
7 point (Very important)	16.0	15.3				8.3	3.0	5.3	21.0	9.3
8)Other	0.1	0.1				0.1	0.1	-	0.7	0.1
9)Don't Know	3.6	0.8				0.3	1.8	1.8	5.5	1.5
missing	0.1	-				-	-	-	-	-
Q13	#2. 3c	Family Life Satisfaction				1)Completely Satisfied	47.9	73.2	64.4	55.9
			2)Somewhat Satisfied	33.5	17.0	26.6	31.0	38.4	29.6	47.9
			3)Neutral	11.2	4.9	5.0	6.5	2.9	11.2	6.1
			4)Somewhat Dissatisfied	5.6	2.9	2.4	5.3	2.3	9.9	2.7
			5)Completely Dissatisfied	1.4	1.7	1.3	1.1	1.1	3.7	0.6
			8)Other	0.1	-	0.1	-	-	-	-
			9)Don't Know	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.3	-
			missing	-	0.1	-	-	-	-	-

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q14	#2. 82	Life Satisfaction	1) Completely Satisfied	33.7	37.1	34.4	37.7	48.1	29.9	34.7
			2) Somewhat Satisfied	40.5	28.5	36.8	38.7	42.1	35.5	53.6
			3) Neutral	14.9	7.0	7.3	6.5	3.3	9.4	6.4
			4) Somewhat Dissatisfied	8.3	14.5	11.4	12.9	3.8	18.4	4.2
			5) Completely Dissatisfied	2.4	12.8	10.0	4.0	2.6	6.6	1.0
			8) Other	0.1	-	-	0.1	-	-	-
			9) Don't Know	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1
Q15	#7. 19 modified 変更	Ability, Luck, or Relationship?	1) Ability and Effort	60.1	52.8	52.6	67.1	69.4	60.2	67.1
			2) Luck and Chance	23.1	34.3	34.6	22.7	23.5	14.8	15.4
			3) Relationship on Blood, the Same Hometown, or Same School	10.3	7.7	7.9	7.8	3.3	22.7	10.4
			8) Other	1.1	4.5	3.5	0.2	0.8	0.3	4.5
			9) Don't Know	5.1	0.7	1.4	2.3	3.0	2.0	2.5
			missing	0.3	-	-	-	-	-	-
Q16	#7. 1	Science and Human Feeling	1) Agree	53.2	54.9	60.2	75.9	83.5	80.3	75.5
			2) Disagree	18.3	23.2	24.1	12.5	10.5	11.1	13.7
			3) Undecided/It Depends	23.6	21.7	14.3	10.1	4.9	6.8	7.8
			8) Other	0.1	-	0.3	-	-	-	-
			9) Don't Know	4.7	0.3	1.0	1.5	1.1	1.8	3.0
Q17	#8. 1b	Political Leaders	1) Agree	13.5	34.2	30.2	36.7	34.7	36.3	36.5
			2) Disagree	60.1	32.1	38.9	45.2	35.1	51.6	45.2
			3) Undecided/It Depends	20.8	31.3	26.8	11.7	22.1	9.8	13.9
			8) Other	-	-	-	-	-	-	-
			9) Don't Know	5.6	2.4	4.1	6.3	8.1	2.3	4.4

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q18	#7. 2 modified 変更	Mechanization and Human Feeling	1)Agree	36.5	37.0	34.7	44.7	21.7	43.8	72.2
			2)Disagree	33.4	36.5	45.1	40.6	66.9	47.1	15.2
			3)Undecided/It Depends	25.2	25.6	18.7	11.9	8.1	7.8	8.3
			8)Other	0.1	-	0.1	-	-	-	-
			9)Don't Know	4.8	0.7	1.4	2.7	3.1	1.3	4.2
			missing	-	0.2	-	-	0.1	-	-
Q19	#4. 30	Home is Relaxing Place	1)Yes	74.8	70.4	73.8	78.7	89.8	91.8	85.6
			2)No	19.9	28.5	24.7	19.3	9.4	7.5	13.5
			8)Other	1.3	-	0.9	0.5	-	0.1	0.3
			9)Don't Know	3.9	0.8	0.6	1.4	0.8	0.6	0.6
			missing	-	0.2	-	0.1	-	-	-
Q20	#4. 32	Marriage is Permanent	1)Permanent	23.5	16.7	13.6	16.3	21.2	42.4	57.6
			2)broken Only under Serious Circumstances	43.3	50.1	52.2	46.4	53.7	33.9	31.5
			3)broken by Simple Agreement of the Partners	26.8	30.6	32.0	34.2	19.9	22.4	5.6
			8)Other	0.9	0.8	0.5	0.3	-	-	0.8
			9)Don't Know	5.5	1.7	1.7	2.9	5.2	1.3	4.5
			missing	-	0.1	-	-	-	-	-
Q21	#2. 5	Man and Nature	1)Follow Nature	40.3	34.8	26.1	35.4	43.6	54.3	49.7
			2)Make Use of Nature	38.9	38.5	45.6	44.7	30.7	33.1	33.6
			3)Conquer Nature	5.7	24.5	25.5	14.1	15.7	8.8	4.4
			8)Other	1.9	1.1	0.4	0.1	-	0.1	1.3
			9)Don't Know	13.2	1.0	2.5	5.8	10.0	3.7	11.1

シンガポールの調査に
おいてのみ、選択肢の
1、2番における括弧内
の内容が日本版と入れ
替わっている。

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q22	#7. 4	Individuals or Country	1)Making Individuals Happy	30.1	4.7	4.8	8.6	8.7	36.3	25.9
			2)Improving the Country	19.8	49.2	55.8	27.2	25.1	26.7	33.5
			3)Same Thing	41.6	45.4	38.9	62.1	60.8	35.4	32.6
			8)Other	0.4	0.4	0.3	-	-	-	0.1
			9)Don't Know	8.0	0.4	0.4	2.2	5.3	1.6	7.9
			missing	0.1	-	-	-	-	-	-
Q23a	#5. 1d	TWO IMPORTANT THINGS – Respect for Parents	1)Yes	77.4	87.9	89.4	80.2	89.5	84.4	90.3
			0)No	20.3	12.1	10.4	19.2	9.6	15.6	9.0
			missing	2.3	-	0.2	0.6	1.0	-	0.8
Q23b	#5. 1d	TWO IMPORTANT THINGS – Repaying People	1)Yes	58.6	56.5	55.9	44.9	61.5	51.1	53.6
			0)No	39.1	43.5	43.9	54.5	37.6	48.9	45.6
			missing	2.3	-	0.2	0.6	1.0	-	0.8
Q23c	#5. 1d	TWO IMPORTANT THINGS – Respect for the Right of the Individual	1)Yes	25.5	32.2	34.9	29.2	25.8	30.9	32.8
			0)No	72.2	67.8	65.0	70.2	73.2	69.1	66.4
			missing	2.3	-	0.2	0.6	1.0	-	0.8
Q23d	#5. 1d	TWO IMPORTANT THINGS – Respect for the Freedom of the Individual	1)Yes	33.9	23.4	19.5	43.4	20.2	28.2	21.2
			0)No	63.8	76.6	80.3	56.0	78.8	71.8	78.0
			missing	2.3	-	0.2	0.6	1.0	-	0.8
Q23 other		TWO IMPORTANT THINGS – Other / Don't Know	8)Other	0.3	-	0.3	0.6	-	-	0.3
			9)Don't Know	2.3	0.1	0.1	0.6	0.8	0.6	0.8
Q24a	#5. 1c1	Employment of Relative	1)One with the Highest Grade	67.3	79.2	79.0	66.2	70.4	77.3	73.5
			2)Your Relative	18.8	15.9	18.7	30.5	20.6	19.5	18.0
			8)Other	1.9	1.9	0.9	0.8	0.4	0.7	2.4
			9)Don't Know	11.9	3.0	1.3	2.6	8.6	2.5	6.1

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q24b	#5. 1c2	Employment of Benefactor	1)One with the Highest Grade	44.1	59.3	54.4	46.7	52.9	55.2	55.3
			2)Son of Your Benefactor	39.9	35.7	43.2	48.4	38.4	41.1	36.5
			8)Other	1.9	2.2	1.1	0.9	0.4	1.0	2.1
			9)Don't Know	14.0	2.8	1.2	4.0	8.3	2.8	6.2
			missing	0.1	-	-	-	-	-	-
Q25	#5. 6	Type of Boss Preferred	1)Never Does Anything for You Personally	14.2	21.8	18.7	11.1	19.3	15.3	23.4
			2)Looks after You Personally	75.9	72.4	76.3	86.0	67.1	82.9	70.9
			8)Other	0.5	2.8	1.2	0.3	0.3	0.1	1.0
			9)Don't Know	9.4	2.9	3.8	2.6	13.3	1.7	4.7
			missing	-	-	-	-	0.1	-	-
Q26	#2. 12	People Helpful Most of the Time	1)Try to Be Helpful	35.8	61.6	58.9	36.4	38.4	58.4	51.2
			2)Look out for Themselves	45.7	36.1	37.3	58.5	57.2	39.1	43.6
			8)Other	2.4	0.7	2.1	0.9	0.1	0.1	1.2
			9)Don't Know	16.0	1.7	1.7	4.2	4.2	2.4	4.1
Q27	#2. 12b	Most People Fair	1)Take Advantage	30.5	33.5	21.6	49.2	30.2	49.1	41.5
			2)Try to be Fair	54.5	53.0	64.8	45.6	57.5	44.7	52.3
			8)Other	1.4	8.2	5.8	0.6	0.4	0.1	1.4
			9)Don't Know	13.6	5.3	7.9	4.6	11.9	6.1	4.8
Q28	#2. 12c	Most People Trustworthy	1)Can Be Trusted	40.5	35.5	33.0	18.6	13.5	28.1	33.3
			2)Can't Be Too Careful	44.5	62.5	65.3	80.2	82.9	69.2	59.5
			8)Other	2.8	1.0	1.0	0.1	0.3	0.6	1.5
			9)Don't Know	11.8	0.9	0.7	1.0	3.3	2.1	5.7
			missing	0.4	-	-	-	-	-	-

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q29a	#7. 83 modified 表記の み変更	SCIENCE AND TECHNOLOGY— Illness Treatment	1)Strongly Agree	18.4	11.8	9.4	12.8	17.2	7.0	21.1
			2)Agree to Some Extent	49.3	56.0	50.1	60.4	54.0	63.5	63.5
			3)Disagree to Some Extent	16.8	26.3	27.6	18.4	19.9	19.7	7.9
			4)Strongly Disagree	6.5	4.0	8.1	3.1	2.5	6.3	2.2
			8)Other	1.1	—	1.2	0.2	—	—	—
			9)Don't Know	7.9	2.0	3.5	5.2	6.4	3.6	5.3
Q29b	#7. 84	SCIENCE AND TECHNOLOGY— Understanding the Human Mind	1)Strongly Agree	1.9	4.3	5.6	3.3	8.9	2.5	10.7
			2)Agree to Some Extent	9.5	35.0	26.1	30.7	36.3	25.0	45.7
			3)Disagree to Some Extent	52.9	45.7	49.7	44.3	35.4	47.3	20.3
			4)Strongly Disagree	28.6	12.1	11.5	15.0	9.4	20.9	12.8
			8)Other	0.1	0.1	1.5	0.2	—	—	—
			9)Don't Know	6.9	2.8	5.6	6.5	10.0	4.3	10.4
			missing	0.1	—	—	—	—	—	—
Q29c	#7. 85 modified 表記の み変更	SCIENCE AND TECHNOLOGY— Resolution of Social and Economic Problems	1)Strongly Agree	1.4	7.3	6.9	3.8	5.2	4.2	7.1
			2)Agree to Some Extent	9.1	47.7	37.4	32.7	39.3	35.1	48.7
			3)Disagree to Some Extent	59.6	38.7	41.3	47.5	40.3	46.6	25.1
			4)Strongly Disagree	21.9	4.9	8.9	11.0	6.8	9.5	11.0
			8)Other	0.4	0.3	0.9	0.3	—	0.1	—
			9)Don't Know	7.2	1.0	4.5	4.7	8.3	4.5	8.1
			missing	0.4	—	—	—	—	—	—
Q29d		SCIENCE AND TECHNOLOGY— Living on the Mars	1)Strongly Agree	1.9	5.1	8.1	4.6	4.9	3.2	5.3
			2)Agree to Some Extent	18.9	45.3	42.1	36.4	39.5	39.5	36.8
			3)Disagree to Some Extent	41.8	35.6	31.9	32.1	32.8	36.2	20.3
			4)Strongly Disagree	18.7	7.6	4.2	13.5	6.8	11.9	27.3
			8)Other	0.3	0.1	2.1	0.1	—	—	—
			9)Don't Know	18.4	6.3	11.7	13.2	16.0	9.2	10.3

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q31a	#3. 1a	Religious Faith	1)Yes	24.4	9.2	19.1	34.0	74.9	50.5	79.5
			2)No	75.6	90.7	80.9	66.0	25.1	49.5	20.5
			missing	-	0.1	-	-	-	-	-
Q31b	#3. 1b	Religions ※【国別質問】ブランクは、各調査票で設定されていない回答肢 ※日本はキリスト教は一回答肢、その他はカトリックとプロテスタント(キリスト教)は二回答肢	Buddhism	1) 20.5	1) 5.3	1) 15.5	1) 16.0	1) 33.7	1) 21.0	1) 32.8
			Shintoism	2) 1.1						
			Christianity	3) 1.0						3) 15.7
			Catholic		2) 0.6	2) 0.8	2) 4.2	2) 0.5	3) 6.2	6) 1.8
			Protestant(Christian)		3) 1.3	3) 2.4	3) 12.3	3) 3.1	2) 21.6	
			Islamism		4) 1.5	4) 0.4	4) -	4) -		4) 13.7
			Taoism					5) 34.2		2) 7.7
			I-Kuan-Tao					6) 2.0		
			Confucianism						4) 0.6	
			The Chondokyo religion						5) 0.2	
			Hinduism							5) 6.6
			Punjabi / Sikhism							7) 0.8
			Other	8) 1.4	8) 0.4	8) 0.1	8) 1.3	8) 0.5	8) 0.9	8) 0.3
			Don't Know	9) 0.4	9) 0.2	9) -	9) 0.2	9) 0.5	9) 0.1	9) 0.1
missing	75.6	90.8	80.9	66.0	25.2	49.5	20.5			
Q32	#3. 2	religious heart	1)Important	66.5	34.6	42.4	60.5	73.9	74.2	75.6
			2)Not Important	16.8	58.9	41.3	31.7	19.1	18.3	16.4
			8)Other	2.3	1.0	2.8	0.6	0.3	-	2.9
			9)Don't Know	13.9	5.0	13.5	7.2	6.7	7.6	5.1
			missing	0.6	0.6	-	0.1	-	-	-
Q33	#3. 3	All Religions Same	1)Agree	47.1	55.2	58.1	60.6	76.1	72.8	77.7
			2)Disagree	23.3	30.4	24.3	30.9	17.1	19.6	17.7
			8)Other	0.6	-	0.9	0.4	-	-	-
			9)Don't Know	28.5	14.4	16.6	8.0	6.8	7.7	4.5
			missing	0.5	-	-	-	-	-	-

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q34		Observation of Law	1)We Should	32.5	65.9	72.0	54.0	55.2	48.2	58.9
			2)We Cannot Help	52.8	33.1	25.9	41.7	36.5	50.3	36.3
			8)Other	1.0	0.1	1.3	-	0.1	0.1	-
			9)Don't Know	13.9	0.9	0.8	4.3	8.2	1.4	4.8
Q35		Written Contract	1)Close to A's Opinion	3.8	5.2	7.1	8.8	11.7	6.3	14.8
			2)Close to B's Opinion	92.8	93.9	91.2	89.3	83.9	93.3	82.4
			8)Other	0.3	-	0.1	-	-	-	0.1
			9)Don't Know	3.2	0.9	1.6	1.9	4.4	0.4	2.7
Q36		Style of Contract	1)Close to A's Opinion	5.8	3.4	7.7	10.9	11.3	10.0	12.8
			2)Close to B's Opinion	90.2	95.7	90.3	86.7	83.7	89.8	84.4
			8)Other	0.4	-	0.3	-	0.1	-	-
			9)Don't Know	3.4	0.9	1.7	2.5	4.8	0.2	2.8
			missing	0.1	-	-	-	-	-	-
Q37		Environment of Economy	1)Protecting the Environment	63.4	87.8	75.0	51.9	47.0	64.1	59.2
			2)Economic Growth	16.0	10.0	18.0	42.4	36.2	27.0	27.8
			8)Other	3.6	1.7	5.7	0.5	1.9	1.1	2.5
			9)Don't Know	16.9	0.6	1.2	5.1	14.6	7.8	10.5
			missing	0.1	-	-	0.1	0.3	-	-
Q40		Trust and Operation	1)I Would Ask Dr. B	36.2	16.7	19.9	12.8	26.9	35.7	19.2
			2)I Would Decide	51.0	79.8	78.1	84.5	66.4	59.8	75.4
			8)Other	1.9	1.7	0.7	0.7	0.8	0.7	1.4
			9)Don't Know	10.5	1.5	1.3	2.0	5.9	3.8	4.1
			missing	0.4	0.3	-	0.1	-	-	-
Q41a		TRUST(WVS) — Religious Organization	1)Very Much	2.8	3.1	7.8	9.7	11.1	8.4	23.9
			2)Some What	9.4	16.9	20.9	49.2	53.3	40.1	57.6
			3)Not Very Much	45.0	42.3	43.8	28.5	29.2	38.4	9.5
			4)Not at all	35.1	33.7	22.7	8.6	4.4	11.9	2.4
			9)Don't Know	7.8	3.7	4.8	4.0	2.0	1.2	6.7
			missing	-	0.3	-	-	-	-	-

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q41b		TRUST(WVS) — Law and Judgment System	1)Very Much	11.1	34.9	52.0	31.9	12.8	3.0	38.3
			2)Some What	62.5	47.5	40.2	53.6	52.5	55.8	54.6
			3)Not Very Much	18.3	14.7	6.5	11.4	30.6	35.2	3.5
			4)Not at all	3.3	2.1	0.8	1.2	3.0	4.8	0.2
			9)Don't Know	4.7	0.8	0.6	1.8	1.1	1.3	3.5
			missing	0.1	0.1	-	-	-	-	-
Q41c		TRUST(WVS) — Newspaper, Television	1)Very Much	6.5	8.3	14.5	4.2	1.9	2.7	20.6
			2)Some What	67.6	48.8	56.5	36.7	35.5	57.8	61.4
			3)Not Very Much	22.7	37.2	26.2	49.1	51.4	34.9	13.0
			4)Not at all	1.7	5.0	2.6	9.1	9.8	4.5	1.4
			9)Don't Know	1.5	0.8	0.2	0.9	1.4	0.2	3.5
Q41d		TRUST(WVS)—Police	1)Very Much	7.5	18.6	25.9	14.7	6.6	2.4	35.6
			2)Some What	56.8	52.5	47.6	60.5	43.9	46.6	56.9
			3)Not Very Much	30.2	22.6	23.2	21.5	41.7	41.7	4.9
			4)Not at all	3.4	5.5	2.9	2.3	7.0	8.6	0.1
			9)Don't Know	2.0	0.7	0.4	1.0	1.0	0.7	2.5
			missing	-	0.1	-	-	-	-	-
Q41e		TRUST(WVS)—Administration	1)Very Much	2.9	36.9	45.3	9.1	1.9	1.4	29.2
			2)Some What	38.5	47.1	43.1	46.5	40.6	28.2	59.6
			3)Not Very Much	45.7	12.4	10.2	32.9	43.3	51.2	4.3
			4)Not at all	7.6	2.5	0.5	6.4	9.0	17.5	0.2
			9)Don't Know	5.0	0.9	0.9	5.1	5.2	1.7	6.7
			missing	0.3	0.1	-	-	-	-	-
Q41f		TRUST(WVS)—The Diet	1)Very Much	1.9	45.8	51.9	9.6	2.5	0.6	26.3
			2)Some What	31.8	38.7	35.5	44.9	27.2	12.9	59.5
			3)Not Very Much	48.7	11.0	10.6	33.2	48.9	46.6	5.0
			4)Not at all	11.9	3.6	0.8	7.1	16.4	37.0	0.3
			9)Don't Know	5.3	0.9	1.1	5.1	5.1	2.9	8.9
			missing	0.4	-	-	-	-	-	-

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q41g	TRUST(WVS') -- NPO - NGO (Non Profit Organization, Non Government Organization)	1)Very Much		6.2	5.7	12.3	8.7	2.6	1.5	15.9
		2)Some What		48.5	30.7	40.6	49.8	35.4	39.9	60.1
		3)Not Very Much		24.7	42.5	34.2	29.3	39.3	43.1	13.3
		4)Not at all		3.6	14.3	3.8	6.2	8.6	10.1	2.0
		9)Don't Know		16.8	6.7	9.0	5.9	13.9	5.4	8.7
		missing		0.3	0.1	-	0.1	0.1	-	-
Q41h	TRUST(WVS') -- Social Welfare Facilities	1)Very Much		5.6	17.1	28.1	14.8	4.2	3.7	19.6
		2)Some What		62.0	52.4	51.7	61.8	47.7	58.0	64.3
		3)Not Very Much		21.1	23.7	17.5	18.2	35.2	29.7	9.8
		4)Not at all		2.3	3.6	0.7	2.4	4.9	6.3	0.7
		9)Don't Know		8.8	3.1	2.0	2.9	7.8	2.4	5.6
		missing		0.3	-	0.1	-	0.1	-	-
Q41i	TRUST(WVS') -- The United Nations	1)Very Much		6.9	19.0	21.0	16.3	5.2	2.6	15.2
		2)Some What		55.1	39.5	40.9	46.4	45.2	47.9	55.4
		3)Not Very Much		19.9	27.2	28.4	24.4	33.1	36.5	11.9
		4)Not at all		2.0	7.5	3.4	4.8	6.6	5.0	2.3
		9)Don't Know		16.0	6.7	6.3	8.1	10.0	8.1	15.2
		missing		-	0.1	-	-	-	-	-
Q41j	TRUST(WVS') -- Scientific Technology	1)Very Much		11.8	78.4	76.8	26.2	15.8	8.3	22.1
		2)Some What		61.6	18.7	20.3	58.0	60.5	69.5	65.1
		3)Not Very Much		11.9	1.6	2.1	10.0	15.6	16.6	4.3
		4)Not at all		0.4	0.3	0.1	1.6	1.8	1.5	0.6
		9)Don't Know		14.2	0.9	0.7	4.2	6.3	4.1	7.9
Q42a	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	1)As a Boy		52.9	58.3	57.5	58.5	48.9	63.8	48.9
		2)As a Girl		37.5	28.6	28.7	33.8	28.1	32.8	35.2
		8)Other		0.9	9.3	9.5	2.1	10.5	0.3	2.5
		9)Don't Know		8.8	3.8	4.4	5.7	12.4	3.1	13.4

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q42b		Boy or Girl again(Looking ahead of Future)	1)A Boy	52.1	60.9	58.1	55.3	53.1	63.8	48.2
			2)A Girl	38.5	26.6	27.9	35.6	29.0	33.6	37.8
			8)Other	1.3	8.3	9.5	2.2	5.5	0.2	3.1
			9)Don't Know	8.1	4.2	4.5	6.9	12.4	2.4	10.9
			missing	-	-	-	0.1	-	-	-
Q43		Country to be Born again ※【国別質問】ブランクは、各調査票で設定されていない回答肢 ※中国と中国大陸は別回答肢 ※韓国調査は、台湾の代わりにタイが含まれている ※各国調査票での中国、中国大陸、香港、台湾の分類の違いに注意	China	1) 10.8					1) 16.8	1) 13.9
			Mainland of China				4) 26.5	3) 8.9		
			Japan		1) 9.2	1) 12.6	1) 24.5	1) 37.7	2) 29.4	2) 22.2
			South Korea	2) 5.2	2) 7.4	2) 4.9	2) 3.1	2) 1.4		3) 3.3
			Taiwan	3) 5.6	3) 4.4	3) 4.1	3) 4.2			4) 3.1
			Hong Kong	4) 13.0	4) 21.5	4) 24.3		4) 3.0	4) 7.7	5) 7.2
			India	5) 2.7	5) 0.5	5) 0.5	5) 0.6	5) 0.7	5) 1.5	6) 4.7
			Philippines	6) 0.4	6) 0.6	6) 0.6	6) 0.2	6) 0.1	6) 1.1	7) 0.5
			Singapore	7) 18.9	7) 39.4	7) 39.9	7) 30.4	7) 20.2	7) 20.9	
			Thailand						3) 1.9	
			Other	8) 10.2	8) 8.8	8) 5.4	8) 0.8	8) 6.3	8) 2.0	8) 26.1
			Don't Know	9) 28.2	9) 8.3	9) 7.7	9) 9.8	9) 21.3	9) 18.8	9) 19.0
			missing	5.1	-	-	-	0.4	-	-

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q44	Country for Friendship ※【国別質問】ブランクは、各調査票で設定されていない回答肢 ※中国と中国大陸は別回答肢	USA		1) 38.5	1) 53.1	1) 61.7	1) 49.1	1) 47.4	1) 55.9	1) 23.7
		EU(European Union)		2) 8.0	2) 27.1	2) 22.3	2) 24.6	2) 8.5	2) 7.9	2) 7.9
		China		3) 22.4					3) 21.8	3) 32.9
		Mainland of China						6) 14.2		
		Japan			3) 2.5	3) 4.0	3) 3.7	3) 8.5	4) 3.9	4) 5.7
		South Korea		4) 8.0	4) 4.0	4) 2.4	4) 1.4	4) 0.7		5) 1.1
		The Other Asian than China and South Korea		5) 6.7						
		The Other Asian than Japan and South Korea			5) 6.3	5) 4.3	5) 9.0	5) 4.4		
		Country other than China and Japan							5) 5.4	
		An Asian country other than China, Japan and South Korea								6) 8.8
		Malaysia								7) 2.4
		Other		8) 1.4	8) 3.4	8) 1.2	8) 0.5	8) 0.4	8) 0.9	8) 4.1
		Don't Know		9) 14.7	9) 3.6	9) 4.1	9) 11.7	9) 15.8	9) 4.4	9) 13.5
		missing		0.3	-	-	-	0.1	-	-
Q45	Adviser	1)Father		3.6	9.6	9.6	3.3	7.7	3.0	3.6
		2)Mother		8.5	12.1	9.2	6.7	9.8	6.8	8.8
		3)Brother or Sister		14.2	15.7	13.8	12.7	11.6	17.1	11.2
		4)The Other Family Member or Relatives		44.0	25.8	31.2	32.9	40.6	34.7	47.1
		5)Teacher of Your School		0.4	0.3	0.2	0.6	-	0.2	-
		6)Friend		18.3	29.8	28.3	35.8	22.5	27.8	18.9
		7)Other		1.7	1.0	1.4	0.9	0.3	2.0	5.7
		8)I don't have anyone		3.3	4.5	5.2	5.7	4.0	7.3	3.1
		9)I don't have any problems		6.1	1.1	1.0	1.5	3.6	1.2	1.7

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q46	Personal Honor	1)Very Important		3.9	13.7	22.8	30.0	29.6	13.8	35.8
		2)Somewhat Important		36.5	47.5	54.5	44.1	56.8	57.4	45.1
		3)Not Very Important		38.0	32.7	19.2	22.0	10.4	24.4	12.8
		4)Not Important at all		11.4	5.0	2.1	2.4	1.9	4.0	4.9
		8)Other		0.6	0.7	1.1	0.2	0.3	-	0.3
		9)Don't Know		9.4	0.5	0.3	1.3	1.0	0.5	1.1
		missing		0.1	-	-	-	-	-	-
Q47	Purposes of Bringing up Children	1)Passing down to Generation		41.4	9.0	13.3	31.2	39.3	42.5	30.7
		2)Social Responsibilities		36.0	58.7	50.0	25.5	40.0	27.9	23.6
		3)Improving the Quality of Life		6.9	10.8	4.7	6.0	2.5	15.4	23.8
		4)Preparing for Old Age		5.6	17.0	23.8	26.5	12.6	5.5	13.2
		8)Other		2.5	2.6	5.7	4.4	1.5	2.9	4.4
		9)Don't Know		7.4	1.8	2.5	6.4	4.1	5.8	4.2
		missing		0.3	-	-	-	-	-	-
Q48	Care of Old Parents	1)Child Should Take Care Of		44.5	70.5	77.0	79.9	71.3	47.1	82.7
		2)Parents Should Care for Themselves		47.4	24.3	18.7	18.5	27.5	51.3	14.1
		8)Other		2.0	5.1	3.9	0.5	0.4	0.5	1.6
		9)Don't Know		6.1	0.1	0.4	1.0	0.8	1.1	1.5
Q49a	Benefactor's Operation ※【国別質問】ブランクは、各調査票で設定されていない回答肢	1)Spend All of My Property		50.4	89.7	84.8	86.7	78.8	78.2	82.4
		2)Give up the Operation		31.4	8.1	11.6	8.6	11.1	14.1	7.0
		8)Other		17.4	0.8	1.2	1.2	1.2	7.6	9.3
		9)Don't Know			1.4	2.4	3.5	8.7	0.1	1.3
		Missing		0.8	-	-	-	0.1	-	-

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q49b	Parent's Operation ※【国別質問】ブランクは、各調査票で設定されていない回答肢	1)Spend All of My Property		64.7	93.5	88.4	90.6	87.3	90.5	87.8
		2)Give up the Operation		21.7	5.2	8.7	6.0	7.0	6.9	5.0
		8)Other		12.8	0.5	0.9	1.1	0.5	2.7	6.0
		9)Don't Know			0.8	1.9	2.2	5.1	-	1.3
		missing		0.8	-	-	0.1	0.1	-	-
Q50a	ASIAN TRADITIONAL VALUES —We should Respect Ancestor	1)Strongly Agree		34.7	41.1	53.8	44.7	46.9	24.6	45.3
		2)Agree Some Extent		57.3	54.8	43.2	52.4	52.7	63.3	50.2
		3)Disagree for Some Extent		5.2	3.2	2.6	2.3	0.3	10.1	2.1
		4)Strongly Disagree		1.4	0.2	0.2	0.2	-	1.4	1.3
		8)Other		-	0.2	-	0.1	-	-	0.2
		9)Don't Know		1.4	0.5	0.3	0.4	0.1	0.6	0.9
		missing		-	0.1	-	-	-	-	-
Q50b	ASIAN TRADITIONAL VALUES —The First Son should His Old Parents	1)Strongly Agree		6.6	13.2	14.8	24.6	22.1	9.0	14.0
		2)Agree Some Extent		24.7	36.3	36.0	39.2	45.2	36.1	27.1
		3)Disagree for Some Extent		54.6	45.5	42.8	32.4	28.8	46.2	51.6
		4)Strongly Disagree		11.9	3.6	5.5	3.0	3.3	7.7	5.4
		8)Other		0.4	0.9	0.6	0.4	0.3	0.4	1.1
		9)Don't Know		1.8	0.4	0.3	0.5	0.3	0.6	0.9
		missing		-	0.1	-	-	-	-	-
Q50c	ASIAN TRADITIONAL VALUES —A Wife should be Obedience to Her Husband	1)Strongly Agree		5.1	1.9	2.1	8.0	9.4	9.6	17.8
		2)Agree Some Extent		27.1	10.4	8.9	31.8	45.5	54.7	47.0
		3)Disagree for Some Extent		51.5	66.0	64.9	50.7	38.9	30.5	28.4
		4)Strongly Disagree		14.4	20.8	23.8	7.9	4.8	4.1	4.1
		8)Other		0.4	0.8	0.3	0.8	0.8	0.3	1.5
		9)Don't Know		1.7	0.2	-	0.9	0.5	0.8	1.3

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q50d	ASIAN TRADITIONAL VALUES — We should not Get Married with Our Parent Oppose to	1)Strongly Agree	3.0	0.4	0.5	1.6	2.2	4.1	4.1	
		2)Agree Some Extent	19.1	2.9	5.1	4.9	16.0	27.8	20.4	
		3)Disagree for Some Extent	57.1	68.1	64.5	53.5	56.0	56.2	60.6	
		4)Strongly Disagree	15.9	28.4	29.6	39.6	24.2	9.4	8.3	
		8)Other	0.4	0.2	0.3	0.1	0.7	0.5	1.6	
		9)Don't Know	4.3	-	-	0.3	1.0	2.0	4.9	
		missing	0.3	-	-	-	-	-	-	
Q50e	ASIAN TRADITIONAL VALUES — We should Follow Senior People's Opinion	1)Strongly Agree	3.7	2.8	3.7	6.1	10.5	4.1	6.5	
		2)Agree Some Extent	39.0	34.0	36.3	43.0	57.0	57.6	39.0	
		3)Disagree for Some Extent	45.4	57.0	49.1	43.9	28.6	32.6	45.2	
		4)Strongly Disagree	7.6	3.3	7.3	4.7	1.8	4.3	3.3	
		8)Other	0.6	2.0	2.8	0.9	1.5	0.5	3.1	
		9)Don't Know	3.6	0.9	0.8	1.3	0.7	1.0	3.0	
		missing	0.1	-	-	-	-	-	-	
Q50f	ASIAN TRADITIONAL VALUES — We Need a Son in order to Continue Our Family Line	1)Strongly Agree	4.8	1.6	1.4	5.7	9.2	7.8	10.5	
		2)Agree Some Extent	23.3	13.0	9.7	24.0	43.4	33.4	31.3	
		3)Disagree for Some Extent	54.3	68.4	66.2	56.7	40.8	45.6	50.3	
		4)Strongly Disagree	15.4	15.5	21.8	12.4	5.5	12.5	6.4	
		8)Other	0.1	0.7	0.7	0.3	0.5	0.1	0.8	
		9)Don't Know	2.0	0.8	0.2	0.9	0.5	0.6	0.7	
		missing	0.1	0.1	-	-	-	-	-	
Q50g	ASIAN TRADITIONAL VALUES —A Husband Work Outside and His Wife should Keep Their House	1)Strongly Agree	3.7	1.6	2.4	4.9	6.0	6.1	6.1	
		2)Agree Some Extent	19.4	10.7	11.8	19.6	40.3	29.0	22.7	
		3)Disagree for Some Extent	55.1	63.7	59.4	57.0	44.8	48.4	56.4	
		4)Strongly Disagree	20.2	22.7	25.9	17.5	7.9	15.8	13.0	
		8)Other	-	0.9	0.5	0.3	0.5	0.1	1.2	
		9)Don't Know	1.5	0.4	-	0.7	0.4	0.6	0.7	

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q51		Religions and the World	1)Should Familiarize Each Own Religion	1.1	0.2	1.3	1.6	8.6	5.3	1.9
			2)Make one's Religion Understood	3.7	7.0	8.2	6.6	9.6	15.3	3.6
			3)Mutual Understanding of various Religions	18.0	11.6	8.5	8.0	9.4	18.8	20.3
			4)Should Respect Each Other's Religion	57.9	76.2	71.2	77.9	66.0	54.1	70.0
			8)Other	1.3	0.3	0.5	0.2	-	0.1	0.5
			9)Don't Know	17.7	4.8	10.3	5.7	6.4	6.5	3.7
			missing	0.3	-	-	-	-	-	-
Q52_1		LEADER'S QUALIFICATIONS – Technical expertise	Yes	21.7	64.7	62.1	36.1	31.7	38.5	21.9
			No	77.5	35.2	37.9	63.2	68.3	61.1	77.8
			missing	0.8	0.1	-	0.7	-	0.4	0.3
Q52_2		LEADER'S QUALIFICATIONS – Fairness to Junior Workers	Yes	49.0	48.6	43.9	54.4	52.9	40.0	48.1
			No	50.2	51.3	56.1	44.9	47.1	59.6	51.6
			missing	0.8	0.1	-	0.7	-	0.4	0.3
Q52_3		LEADER'S QUALIFICATIONS – Respected and Liked by Junior Workers	Yes	41.7	17.0	21.2	21.2	29.0	47.3	29.4
			No	57.6	82.9	78.8	78.1	71.0	52.3	70.3
			missing	0.8	0.1	-	0.7	-	0.4	0.3
Q52_4		LEADER'S QUALIFICATIONS – Seriousness, Responsibility on one's Work	Yes	48.0	31.4	27.9	31.0	20.5	16.3	30.2
			No	51.2	68.5	72.1	68.3	79.5	83.3	69.5
			missing	0.8	0.1	-	0.7	-	0.4	0.3
Q52_5		LEADER'S QUALIFICATIONS – Good Relations with External People, Broad Personal Network	Yes	14.4	9.0	10.3	7.5	14.6	36.6	37.4
			No	84.9	90.9	89.7	91.9	85.4	63.0	62.3
			missing	0.8	0.1	-	0.7	-	0.4	0.3
Q52_6		LEADER'S QUALIFICATIONS – Sincerity toward Colleagues	Yes	36.5	31.8	33.7	30.6	42.3	35.2	45.4
			No	62.8	68.1	66.3	68.8	57.7	64.4	54.3
			missing	0.8	0.1	-	0.7	-	0.4	0.3

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q52_7		LEADER'S QUALIFICATIONS – Decisiveness, Resolution	Yes	23.5	29.5	24.8	35.4	10.2	34.9	24.1
			No	75.7	70.4	75.2	64.0	89.8	64.7	75.6
			missing	0.8	0.1	–	0.7	–	0.4	0.3
Q52_8		LEADER'S QUALIFICATIONS – Good Judgment	Yes	49.2	33.4	23.4	47.9	30.7	33.4	35.4
			No	50.1	66.5	76.6	51.5	69.3	66.2	64.3
			missing	0.8	0.1	–	0.7	–	0.4	0.3
Q52_9		LEADER'S QUALIFICATIONS – Bring Benefits to Junior Workers	Yes	5.7	32.6	51.4	20.6	42.2	10.1	18.4
			No	93.5	67.3	48.6	78.7	57.8	89.5	81.3
			missing	0.8	0.1	–	0.7	–	0.4	0.3
Q52_10		LEADER'S QUALIFICATIONS – Seniority	Yes	0.8	0.8	0.8	10.8	2.5	3.3	3.0
			No	98.5	99.1	99.2	88.6	97.5	96.3	96.7
			missing	0.8	0.1	–	0.7	–	0.4	0.3
Q52_11		LEADER'S QUALIFICATIONS – Good Family Background	Yes	0.3	0.4	0.6	1.3	2.7	1.1	3.4
			No	99.0	99.5	99.4	98.0	97.3	98.5	96.3
			missing	0.8	0.1	–	0.7	–	0.4	0.3
Q53		Organ Plant	1)Good	77.6	87.9	84.9	90.7	77.9	82.4	83.0
			2)No Good	10.0	10.1	14.0	7.0	16.1	15.1	11.1
			8)Other	1.7	0.8	0.4	0.4	–	–	0.9
			9)Don't Know	10.5	1.2	0.8	1.9	5.9	2.5	5.0
			missing	0.1	0.1	–	–	0.1	–	–

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
Q54 number	SOCIAL TIE #voluntary associations	※右表では、other(s)の回答があった場合、other(s)を1団体として含め、所属団体数の総計を示した。	0	21.3	9.2	53.6	68.8	73.2	41.7	74.7
			1	34.2	69.2	34.7	20.7	19.1	34.0	17.9
			2	21.2	14.4	7.4	7.1	5.3	15.5	4.8
			3	13.1	5.3	3.1	2.7	1.4	6.0	1.0
			4	6.0	1.3	0.5	0.3	0.7	1.9	0.5
			5	3.0	0.3	0.5	0.4	0.3	0.4	0.3
			6	0.8	0.2	0.2	-	-	0.3	0.3
			7	0.1	-	0.1	-	-	0.1	0.1
			8	-	-	-	-	-	0.1	0.4
			missing	0.3	0.1	-	-	-	-	-
			Q55	Injustice and Benefactor	1)Tell My Boss	52.0	49.9	38.1	43.8	34.7
2)Stop to Tell My Boss	25.7	40.9			53.1	44.7	48.0	42.1	39.3	
8)Other	3.8	4.0			4.5	2.2	1.4	2.6	11.7	
9)Don't Know	18.3	5.2			4.4	9.3	15.8	6.9	8.9	
missing	0.3	-			-	-	0.1	-	-	

				Japan	Beijing	Shanghai	HK	Taiwan	S. Korea	Singapore
F1		Gender	1)Male	47.5	46.1	49.9	47.4	46.3	50.4	43.4
			2)Female	52.5	53.4	50.1	52.6	53.7	49.6	56.6
			missing	-	0.5	-	-	-	-	-
F2		Age ※【国別質問】blankは、各国調査票で設定されていない回答肢 ※成人年齢が各国で異なる場合あり	18~19yrs		1) 4.3	1) 3.8	1) 4.8			
			20~24yrs	1) 2.9	2) 10.5	2) 10.3	2) 7.6	2) 6.6	1) 9.6	1) 9.4
			25~29yrs	2) 5.5	3) 7.8	3) 6.8	3) 7.6	3) 9.0	2) 7.8	2) 9.9
			30~34yrs	3) 9.5	4) 8.6	4) 6.1	4) 12.4	4) 14.1	3) 16.3	3) 12.7
			35~39yrs	4) 6.9	5) 9.5	5) 6.1	5) 15.1	5) 13.3	4) 14.4	4) 15.4
			40~44yrs	5) 9.5	6) 12.1	6) 13.7	6) 17.9	6) 13.5	5) 14.3	5) 14.4
			45~49yrs	6) 8.1	7) 13.0	7) 18.8	7) 10.5	7) 11.6	6) 8.3	6) 11.7
			50~54yrs	7) 13.7	8) 7.9	8) 10.2	8) 7.9	8) 10.5	7) 7.6	7) 8.4
			55~59yrs	8) 10.3	9) 5.1	9) 6.6	9) 3.2	9) 6.8	8) 6.5	8) 5.4
			60~64yrs	9) 11.7	10) 7.3	10) 6.1	10) 3.8	10) 5.6	9) 6.1	9) 3.8
			65~69yrs	10) 9.4	11) 6.2	11) 3.2	11) 2.8	11) 4.5	10) 5.9	10) 3.9
			70yrs & over	11)12.5	12) 7.5	12) 8.4	12) 6.2	12) 4.4	11) 3.4	11) 5.1
			missing	-	0.2	-	0.1	0.1	-	-

対になっている項目のクロス表

就職 (親戚 vs. 恩人)

Employment of Relative と Employment of Benefactor のクロス表 (Q24aとQ24b)

Nation or Area				Employment of Benefactor		
				One with the Highest Grade	Son of Your Benefactor	Other
Japan	Employment of Relative	One with the Highest Grade	度数 総和の %	336 42.7%	166 21.1%	4 .5%
		Your Relative	度数 総和の %	10 1.3%	132 16.8%	2 .3%
		Other	度数 総和の %	1 .1%	4 .5%	9 1.1%
		Don't Know	度数 総和の %		12 1.5%	
		合計	度数 総和の %	347 44.1%	314 39.9%	15 1.9%
Beijing	Employment of Relative	One with the Highest Grade	度数 総和の %	611 57.5%	213 20.1%	12 1.1%
		Your Relative	度数 総和の %	16 1.5%	152 14.3%	
		Other	度数 総和の %	1 .1%	6 .6%	11 1.0%
		Don't Know	度数 総和の %	2 .2%	8 .8%	
		合計	度数 総和の %	630 59.3%	379 35.7%	23 2.2%
Shanghai	Employment of Relative	One with the Highest Grade	度数 総和の %	558 53.0%	262 24.9%	7 .7%
		Your Relative	度数 総和の %	12 1.1%	184 17.5%	1 .1%
		Other	度数 総和の %	1 .1%	5 .5%	3 .3%
		Don't Know	度数 総和の %	2 .2%	4 .4%	1 .1%
		合計	度数 総和の %	573 54.4%	455 43.2%	12 1.1%
Hongkong	Employment of Relative	One with the Highest Grade	度数 総和の %	471 44.6%	209 19.8%	4 .4%
		Your Relative	度数 総和の %	23 2.2%	294 27.8%	
		Other	度数 総和の %		3 .3%	5 .5%
		Don't Know	度数 総和の %		6 .6%	
		合計	度数 総和の %	494 46.7%	512 48.4%	9 .9%
Kunming	Employment of Relative	One with the Highest Grade	度数 総和の %	557 54.7%	132 13.0%	17 1.7%
		Your Relative	度数 総和の %	14 1.4%	160 15.7%	
		Other	度数 総和の %	9 .9%	14 1.4%	31 3.0%
		Don't Know	度数 総和の %	4 .4%	5 .5%	
		合計	度数 総和の %	584 57.4%	311 30.6%	48 4.7%
Hangzhou	Employment of Relative	One with the Highest Grade	度数 総和の %	413 45.3%	120 13.2%	12 1.3%
		Your Relative	度数 総和の %	11 1.2%	193 21.2%	3 .3%
		Other	度数 総和の %	2 .2%	9 1.0%	14 1.5%

Employment of Relative と Employment of Benefactor のクロス表(Q24aとQ24b)

Nation or Area				Employment of Benefactor		
				One with the Highest Grade	Son of Your Benefactor	Other
Hangzhou	Employment of Relative	Don't Know	度数	6	17	
			総和の %	.7%	1.9%	
	合計		度数	432	339	29
			総和の %	47.4%	37.2%	3.2%
Taiwan	Employment of Relative	One with the Highest Grade	度数	380	130	1
			総和の %	51.9%	17.8%	.1%
		Your Relative	度数	6	144	
			総和の %	.8%	19.7%	
		Other	度数		1	2
			総和の %		.1%	.3%
Don't Know	度数	1	6			
	総和の %	.1%	.8%			
	合計		度数	387	281	3
			総和の %	52.9%	38.4%	.4%
South Korea	Employment of Relative	One with the Highest Grade	度数	531	229	6
			総和の %	52.8%	22.8%	.6%
		Your Relative	度数	19	170	1
			総和の %	1.9%	16.9%	.1%
		Other	度数	2	2	3
			総和の %	.2%	.2%	.3%
Don't Know	度数	3	12			
	総和の %	.3%	1.2%			
	合計		度数	555	413	10
			総和の %	55.2%	41.1%	1.0%
Singapore	Employment of Relative	One with the Highest Grade	度数	553	184	8
			総和の %	53.3%	17.7%	.8%
		Your Relative	度数	10	174	1
			総和の %	1.0%	16.8%	.1%
		Other	度数	5	7	13
			総和の %	.5%	.7%	1.3%
Don't Know	度数	5	13			
	総和の %	.5%	1.3%			
	合計		度数	573	378	22
			総和の %	55.3%	36.5%	2.1%

Employment of Relative と Employment of Benefactor の対照表 (Q24aとQ24b)

Nation or Area				Employment of Benefactor		合計
				Don't Know	missing	
Japan	Employment of Relative	One with the Highest Grade	度数 総和の %	24 3.0%		530 67.3%
		Your Relative	度数 総和の %	4 .5%		148 18.8%
		Other	度数 総和の %	1 .1%		15 1.9%
		Don't Know	度数 総和の %	81 10.3%	1 .1%	94 11.9%
		合計	度数 総和の %	110 14.0%	1 .1%	787 100.0%
Beijing	Employment of Relative	One with the Highest Grade	度数 総和の %	5 .5%		841 79.2%
		Your Relative	度数 総和の %	1 .1%		169 15.9%
		Other	度数 総和の %	2 .2%		20 1.9%
		Don't Know	度数 総和の %	22 2.1%		32 3.0%
		合計	度数 総和の %	30 2.8%		1062 100.0%
Shanghai	Employment of Relative	One with the Highest Grade	度数 総和の %	5 .5%		832 79.0%
		Your Relative	度数 総和の %			197 18.7%
		Other	度数 総和の %	1 .1%		10 .9%
		Don't Know	度数 総和の %	7 .7%		14 1.3%
		合計	度数 総和の %	13 1.2%		1053 100.0%
Hongkong	Employment of Relative	One with the Highest Grade	度数 総和の %	16 1.5%		700 66.2%
		Your Relative	度数 総和の %	5 .5%		322 30.5%
		Other	度数 総和の %			8 .8%
		Don't Know	度数 総和の %	21 2.0%		27 2.6%
		合計	度数 総和の %	42 4.0%		1057 100.0%
Kunming	Employment of Relative	One with the Highest Grade	度数 総和の %	16 1.6%		722 70.9%
		Your Relative	度数 総和の %	6 .6%		180 17.7%
		Other	度数 総和の %	2 .2%		56 5.5%
		Don't Know	度数 総和の %	51 5.0%		60 5.9%
		合計	度数 総和の %	75 7.4%		1018 100.0%
Hangzhou	Employment of Relative	One with the Highest Grade	度数 総和の %	3 .3%		548 60.2%
		Your Relative	度数 総和の %	7 .8%		214 23.5%
		Other	度数 総和の %	1 .1%		26 2.9%

Employment of Relative と Employment of Benefactor の加算表 (Q24aとQ24b)

Nation or Area				Employment of Benefactor		合計
				Don't Know	missing	
Hangzhou	Employment of Relative	Don't Know	度数	100		123
			総和の %	11.0%		13.5%
	合計		度数	111		911
			総和の %	12.2%		100.0%
Taiwan	Employment of Relative	One with the Highest Grade	度数	4		515
			総和の %	.5%		70.4%
		Your Relative	度数	1		151
			総和の %	.1%		20.6%
		Other	度数			3
		総和の %			.4%	
		Don't Know	度数	56		63
			総和の %	7.7%		8.6%
	合計		度数	61		732
			総和の %	8.3%		100.0%
South Korea	Employment of Relative	One with the Highest Grade	度数	12		778
			総和の %	1.2%		77.3%
		Your Relative	度数	6		196
			総和の %	.6%		19.5%
		Other	度数			7
		総和の %			.7%	
		Don't Know	度数	10		25
			総和の %	1.0%		2.5%
	合計		度数	28		1006
			総和の %	2.8%		100.0%
Singapore	Employment of Relative	One with the Highest Grade	度数	17		762
			総和の %	1.6%		73.5%
		Your Relative	度数	2		187
			総和の %	.2%		18.0%
		Other	度数			25
		総和の %			2.4%	
		Don't Know	度数	45		63
			総和の %	4.3%		6.1%
	合計		度数	64		1037
			総和の %	6.2%		100.0%

Religious Faith と Religious Heart のクロス表 (Q31aとQ32)

Nation or Area				Religious Heart		
				Important	Not Important	Other
Japan	Religious Faith	Yes	度数 Religious Faith の %	179 93.2%	6 3.1%	4 2.1%
		No	度数 Religious Faith の %	344 57.8%	126 21.2%	14 2.4%
	合計		度数 Religious Faith の %	523 66.5%	132 16.8%	18 2.3%
Beijing	Religious Faith	Yes	度数 Religious Faith の %	73 74.5%	14 14.3%	2 2.0%
		No	度数 Religious Faith の %	293 30.4%	611 63.4%	9 .9%
	missing		度数 Religious Faith の %	1 100.0%		
	合計		度数 Religious Faith の %	367 34.6%	625 58.9%	11 1.0%
Shanghai	Religious Faith	Yes	度数 Religious Faith の %	154 76.6%	36 17.9%	5 2.5%
		No	度数 Religious Faith の %	292 34.3%	399 46.8%	25 2.9%
	合計		度数 Religious Faith の %	446 42.4%	435 41.3%	30 2.8%
Hongkong	Religious Faith	Yes	度数 Religious Faith の %	307 85.5%	36 10.0%	3 .8%
		No	度数 Religious Faith の %	332 47.6%	299 42.8%	3 .4%
	合計		度数 Religious Faith の %	639 60.5%	335 31.7%	6 .6%
Kunming	Religious Faith	Yes	度数 Religious Faith の %	137 67.5%	41 20.2%	13 6.4%
		No	度数 Religious Faith の %	218 26.7%	384 47.1%	45 5.5%
	合計		度数 Religious Faith の %	355 34.9%	425 41.7%	58 5.7%
Hangzhou	Religious Faith	Yes	度数 Religious Faith の %	135 73.4%	23 12.5%	6 3.3%
		No	度数 Religious Faith の %	178 24.5%	325 44.7%	20 2.8%
	合計		度数 Religious Faith の %	313 34.4%	348 38.2%	26 2.9%
Taiwan	Religious Faith	Yes	度数 Religious Faith の %	455 83.0%	61 11.1%	2 .4%
		No	度数 Religious Faith の %	86 46.7%	79 42.9%	
	合計		度数 Religious Faith の %	541 73.9%	140 19.1%	2 .3%
South Korea	Religious Faith	Yes	度数 Religious Faith の %	473 93.1%	24 4.7%	
		No	度数 Religious Faith の %	273 54.8%	160 32.1%	
	合計		度数 Religious Faith の %	746 74.2%	184 18.3%	
Singapore	Religious Faith	Yes	度数 Religious Faith の %	718 87.1%	61 7.4%	19 2.3%
		No	度数 Religious Faith の %	66 31.0%	109 51.2%	11 5.2%
	合計		度数 Religious Faith の %	784 75.6%	170 16.4%	30 2.9%

Religious Faith と Religious Heart のクロス表 (Q31aとQ32)

Nation or Area				Religious Heart		合計
				Don't Know	missing	
Japan	Religious Faith	Yes	度数 Religious Faith の %	2 1.0%	1 .5%	192 100.0%
		No	度数 Religious Faith の %	107 18.0%	4 .7%	595 100.0%
	合計		度数 Religious Faith の %	109 13.9%	5 .6%	787 100.0%
			度数 Religious Faith の %			
Beijing	Religious Faith	Yes	度数 Religious Faith の %	3 3.1%	6 6.1%	98 100.0%
		No	度数 Religious Faith の %	50 5.2%		963 100.0%
	合計		度数 Religious Faith の %	53 5.0%	6 .6%	1062 100.0%
			度数 Religious Faith の %			
Shanghai	Religious Faith	Yes	度数 Religious Faith の %	6 3.0%		201 100.0%
		No	度数 Religious Faith の %	136 16.0%		852 100.0%
	合計		度数 Religious Faith の %	142 13.5%		1053 100.0%
			度数 Religious Faith の %			
Hongkong	Religious Faith	Yes	度数 Religious Faith の %	13 3.6%		359 100.0%
		No	度数 Religious Faith の %	63 9.0%	1 .1%	698 100.0%
	合計		度数 Religious Faith の %	76 7.2%	1 .1%	1057 100.0%
			度数 Religious Faith の %			
Kunming	Religious Faith	Yes	度数 Religious Faith の %	12 5.9%		203 100.0%
		No	度数 Religious Faith の %	168 20.6%		815 100.0%
	合計		度数 Religious Faith の %	180 17.7%		1018 100.0%
			度数 Religious Faith の %			
Hangzhou	Religious Faith	Yes	度数 Religious Faith の %	20 10.9%		184 100.0%
		No	度数 Religious Faith の %	204 28.1%		727 100.0%
	合計		度数 Religious Faith の %	224 24.6%		911 100.0%
			度数 Religious Faith の %			
Taiwan	Religious Faith	Yes	度数 Religious Faith の %	30 5.5%		548 100.0%
		No	度数 Religious Faith の %	19 10.3%		184 100.0%
	合計		度数 Religious Faith の %	49 6.7%		732 100.0%
			度数 Religious Faith の %			
South Korea	Religious Faith	Yes	度数 Religious Faith の %	11 2.2%		508 100.0%
		No	度数 Religious Faith の %	65 13.1%		498 100.0%
	合計		度数 Religious Faith の %	76 7.6%		1006 100.0%
			度数 Religious Faith の %			
Singapore	Religious Faith	Yes	度数 Religious Faith の %	26 3.2%		824 100.0%
		No	度数 Religious Faith の %	27 12.7%		213 100.0%
	合計		度数 Religious Faith の %	53 5.1%		1037 100.0%
			度数 Religious Faith の %			

男女生まれかわり (過去 vs. 将来)

Boy or Girl again(Looking back Past Life) と Boy or Girl again(Looking ahead of Future) のクロス表 (Q42aとQ42b)男性の回答

Nation or Area				Boy or Girl again(Looking ahead of		
				A Boy	A Girl	Other
Japan	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の %	326 87.2%	5 1.3%	3 .8%
		As a Girl	度数 総和の %	3 .8%	5 1.3%	
		Other	度数 総和の %	1 .3%	1 .3%	1 .3%
		Don't Know	度数 総和の %	2 .5%	1 .3%	
		合計	度数 総和の %	332 88.8%	12 3.2%	4 1.1%
Beijing	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の %	355 72.4%	10 2.0%	6 1.2%
		As a Girl	度数 総和の %	20 4.1%	25 5.1%	
		Other	度数 総和の %	7 1.4%	1 .2%	43 8.8%
		Don't Know	度数 総和の %	2 .4%		
		合計	度数 総和の %	384 78.4%	36 7.3%	49 10.0%
Shanghai	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の %	357 68.0%	13 2.5%	6 1.1%
		As a Girl	度数 総和の %	15 2.9%	52 9.9%	2 .4%
		Other	度数 総和の %	6 1.1%		46 8.8%
		Don't Know	度数 総和の %	1 .2%	2 .4%	2 .4%
		合計	度数 総和の %	379 72.2%	67 12.8%	56 10.7%
Hongkong	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の %	408 81.4%	22 4.4%	4 .8%
		As a Girl	度数 総和の %	2 .4%	18 3.6%	
		Other	度数 総和の %	1 .2%		6 1.2%
		Don't Know	度数 総和の %	2 .4%	2 .4%	
		合計	度数 総和の %	413 82.4%	42 8.4%	10 2.0%
Kunming	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の %	277 52.6%	10 1.9%	10 1.9%
		As a Girl	度数 総和の %	6 1.1%	27 5.1%	
		Other	度数 総和の %	11 2.1%	1 .2%	106 20.1%
		Don't Know	度数 総和の %	5 .9%		4 .8%
		合計	度数 総和の %	299 56.7%	38 7.2%	120 22.8%
Hangzhou	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の %	270 58.8%	7 1.5%	4 .9%
		As a Girl	度数 総和の %	6 1.3%	47 10.2%	
		Other	度数 総和の %	3 .7%		51 11.1%
		Don't Know	度数 総和の %	4 .9%	2 .4%	1 .2%
		合計	度数 総和の %	283 58.8%	56 11.6%	56 11.6%

Boy or Girl again(Looking back Past Life) と Boy or Girl again(Looking ahead of Future) のクロス表(Q42aとQ42b)男性の回答

Nation or Area				Boy or Girl again(Looking ahead of		
				A Boy	A Girl	Other
Hangzhou	合計		度数	283	56	56
			総和の %	61.7%	12.2%	12.2%
Taiwan	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数	205	7	1
			総和の %	60.5%	2.1%	.3%
		As a Girl	度数	15	34	
			総和の %	4.4%	10.0%	
		Other	度数	11	2	20
		総和の %	3.2%	.6%	5.9%	
	Don't Know	度数	3	1	1	
		総和の %	.9%	.3%	.3%	
	合計		度数	234	44	22
			総和の %	69.0%	13.0%	6.5%
South Korea	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数	409	27	1
			総和の %	80.7%	5.3%	.2%
		As a Girl	度数	7	45	
			総和の %	1.4%	8.9%	
	Don't Know	度数	5	3		
		総和の %	1.0%	.6%		
	合計		度数	421	75	1
			総和の %	83.0%	14.8%	.2%
Singapore	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数	337	12	2
			総和の %	74.9%	2.7%	.4%
		As a Girl	度数	4	21	
			総和の %	.9%	4.7%	
	Other	度数			15	
		総和の %			3.3%	
	Don't Know	度数	10	1	1	
		総和の %	2.2%	.2%	.2%	
	合計		度数	351	34	18
			総和の %	78.0%	7.6%	4.0%

Boy or Girl again(Looking back Past Life) と Boy or Girl again(Looking ahead of Future) のクロス表 (Q42aとQ42b)男性の回答

Nation or Area				Boy or Girl	
				Don't Know	合計
Japan	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の %	3 .8%	337 90.1%
		As a Girl	度数 総和の %	1 .3%	9 2.4%
		Other	度数 総和の %		3 .8%
		Don't Know	度数 総和の %	22 5.9%	25 6.7%
	合計	度数 総和の %	26 7.0%	374 100.0%	
Beijing	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の %	4 .8%	375 76.5%
		As a Girl	度数 総和の %		45 9.2%
		Other	度数 総和の %	4 .8%	55 11.2%
		Don't Know	度数 総和の %	13 2.7%	15 3.1%
	合計	度数 総和の %	21 4.3%	490 100.0%	
Shanghai	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の %		376 71.6%
		As a Girl	度数 総和の %		69 13.1%
		Other	度数 総和の %	3 .6%	55 10.5%
		Don't Know	度数 総和の %	20 3.8%	25 4.8%
	合計	度数 総和の %	23 4.4%	525 100.0%	
Hongkong	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の %	9 1.8%	443 88.4%
		As a Girl	度数 総和の %	2 .4%	22 4.4%
		Other	度数 総和の %		7 1.4%
		Don't Know	度数 総和の %	25 5.0%	29 5.8%
	合計	度数 総和の %	36 7.2%	501 100.0%	
Kunming	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の %	7 1.3%	304 57.7%
		As a Girl	度数 総和の %		33 6.3%
		Other	度数 総和の %	10 1.9%	128 24.3%
		Don't Know	度数 総和の %	53 10.1%	62 11.8%
	合計	度数 総和の %	70 13.3%	527 100.0%	
Hangzhou	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の %	5 1.1%	286 62.3%
		As a Girl	度数 総和の %	2 .4%	55 12.0%
		Other	度数 総和の %	4 .9%	58 12.6%
		Don't Know	度数 総和の %	53 11.5%	60 13.1%

Boy or Girl again(Looking back Past Life) と Boy or Girl again(Looking ahead of Future) のクロス表(Q42aとQ42b)男性の回答

Nation or Area				Boy or Girl	
				Don't Know	合計
Hangzhou	合計		度数 総和の%	64 13.9%	459 100.0%
Taiwan	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の%	3 .9%	216 63.7%
		As a Girl	度数 総和の%	1 .3%	50 14.7%
		Other	度数 総和の%	5 1.5%	38 11.2%
		Don't Know	度数 総和の%	30 8.8%	35 10.3%
	合計		度数 総和の%	39 11.5%	339 100.0%
South Korea	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の%	3 .6%	440 86.8%
		As a Girl	度数 総和の%	1 .2%	53 10.5%
		Don't Know	度数 総和の%	6 1.2%	14 2.8%
	合計		度数 総和の%	10 2.0%	507 100.0%
Singapore	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の%	4 .9%	355 78.9%
		As a Girl	度数 総和の%		25 5.6%
		Other	度数 総和の%	1 .2%	16 3.6%
		Don't Know	度数 総和の%	42 9.3%	54 12.0%
	合計		度数 総和の%	47 10.4%	450 100.0%

Boy or Girl again(Looking back Past Life) と Boy or Girl again(Looking ahead of Future) のクロス表(Q42aとQ42b)女性の回答

Nation or Area				Boy or Girl again(Looking ahead of Future)			
				A Boy	A Girl	Other	Don't Know
Japan	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数	63	12		4
			総和の%	15.3%	2.9%		1.0%
		As a Girl	度数	12	269	2	3
			総和の%	2.9%	65.1%	.5%	.7%
		Other	度数			4	
			総和の%			1.0%	
		Don't Know	度数	3	10		31
総和の%	.7%		2.4%		7.5%		
合計			度数	78	291	6	38
			総和の%	18.9%	70.5%	1.5%	9.2%
Beijing	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数	218	20	2	1
			総和の%	38.4%	3.5%	.4%	.2%
		As a Girl	度数	34	218	3	4
			総和の%	6.0%	38.4%	.5%	.7%
		Other	度数	6	4	32	1
			総和の%	1.1%	.7%	5.6%	.2%
		Don't Know	度数	2	4	1	17
総和の%	.4%		.7%	.2%	3.0%		
合計			度数	260	246	38	23
			総和の%	45.9%	43.4%	6.7%	4.1%
Shanghai	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数	206	18	4	1
			総和の%	39.0%	3.4%	.8%	.2%
		As a Girl	度数	21	206	5	1
			総和の%	4.0%	39.0%	.9%	.2%
		Other	度数	5	2	35	3
			総和の%	.9%	.4%	6.6%	.6%
		Don't Know	度数	1	1		19
総和の%	.2%		.2%		3.6%		
合計			度数	233	227	44	24
			総和の%	44.1%	43.0%	8.3%	4.5%
Hongkong	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数	149	21	1	4
			総和の%	26.8%	3.8%	.2%	.7%
		As a Girl	度数	20	307		7
			総和の%	3.6%	55.2%		1.3%
		Other	度数		1	12	2
			総和の%		.2%	2.2%	.4%
		Don't Know	度数	2	5		24
総和の%	.4%		.9%		4.3%		
合計			度数	171	334	13	37
			総和の%	30.8%	60.1%	2.3%	6.7%
Kunming	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数	169	9	4	3
			総和の%	34.4%	1.8%	.8%	.6%
		As a Girl	度数	23	121	5	3
			総和の%	4.7%	24.6%	1.0%	.6%
		Other	度数	10	7	84	8
			総和の%	2.0%	1.4%	17.1%	1.6%
		Don't Know	度数	3	3	2	37
総和の%	.6%		.6%	.4%	7.5%		
合計			度数	205	140	95	51
			総和の%	41.8%	28.5%	19.3%	10.4%
Hangzhou	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数	137	10	1	3
			総和の%	30.3%	2.2%	.2%	.7%
		As a Girl	度数	8	156	2	2
			総和の%	1.8%	34.5%	.4%	.4%
		Other	度数	7	4	38	3
			総和の%	1.5%	.9%	8.4%	.7%
		Don't Know	度数	8	2		71
総和の%	1.8%		.4%		15.7%		

Boy or Girl again(Looking back Past Life) と Boy or Girl again(Looking ahead of Future) のクロス表(Q42aとQ42b) 女性の回答

Nation or Area				Boy or Girl again(Looking ahead of Future)			
				A Boy	A Girl	Other	Don't Know
Hangzhou	合計		度数 総和の %	160 35.4%	172 38.1%	41 9.1%	79 17.5%
Taiwan	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の %	127 32.3%	13 3.3%	1 .3%	1 .3%
		As a Girl	度数 総和の %	15 3.8%	138 35.1%	2 .5%	1 .3%
		Other	度数 総和の %	7 1.8%	16 4.1%	15 3.8%	1 .3%
		Don't Know	度数 総和の %	6 1.5%	1 .3%		49 12.5%
		合計	度数 総和の %	155 39.4%	168 42.7%	18 4.6%	52 13.2%
South Korea	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の %	175 35.1%	23 4.6%	1 .2%	3 .6%
		As a Girl	度数 総和の %	38 7.6%	236 47.3%		3 .6%
		Other	度数 総和の %	3 .6%			
		Don't Know	度数 総和の %	5 1.0%	4 .8%		8 1.6%
		合計	度数 総和の %	221 44.3%	263 52.7%	1 .2%	14 2.8%
Singapore	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の %	124 21.1%	23 3.9%	1 .2%	4 .7%
		As a Girl	度数 総和の %	21 3.6%	315 53.7%	1 .2%	3 .5%
		Other	度数 総和の %	1 .2%	1 .2%	8 1.4%	
		Don't Know	度数 総和の %	3 .5%	19 3.2%	4 .7%	59 10.1%
		合計	度数 総和の %	149 25.4%	358 61.0%	14 2.4%	66 11.2%

Boy or Girl again(Looking back Past Life) と Boy or Girl again(Looking ahead of Future) のクロス表(Q42aとQ42b) 女性の回答

Nation or Area				Boy or Girl	合計
				missing	
Japan	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の %		79 19.1%
		As a Girl	度数 総和の %		286 69.2%
		Other	度数 総和の %		4 1.0%
		Don't Know	度数 総和の %		44 10.7%
		合計	度数 総和の %		413 100.0%
Beijing	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の %		241 42.5%
		As a Girl	度数 総和の %		259 45.7%
		Other	度数 総和の %		43 7.6%
		Don't Know	度数 総和の %		24 4.2%
		合計	度数 総和の %		567 100.0%
Shanghai	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の %		229 43.4%
		As a Girl	度数 総和の %		233 44.1%
		Other	度数 総和の %		45 8.5%
		Don't Know	度数 総和の %		21 4.0%
		合計	度数 総和の %		528 100.0%
Hongkong	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の %		175 31.5%
		As a Girl	度数 総和の %	1 .2%	335 60.3%
		Other	度数 総和の %		15 2.7%
		Don't Know	度数 総和の %		31 5.6%
		合計	度数 総和の %	1 .2%	556 100.0%
Kunming	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の %		185 37.7%
		As a Girl	度数 総和の %		152 31.0%
		Other	度数 総和の %		109 22.2%
		Don't Know	度数 総和の %		45 9.2%
		合計	度数 総和の %		491 100.0%
Hangzhou	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数 総和の %		151 33.4%
		As a Girl	度数 総和の %		168 37.2%
		Other	度数 総和の %		52 11.5%
		Don't Know	度数 総和の %		81 17.9%

Boy or Girl again(Looking back Past Life) と Boy or Girl again(Looking ahead of Future) のクロス表 (Q42aとQ42b) 女性の回答

Nation or Area			Boy or Girl		合計
			missing		
Hangzhou	合計		度数		452
			総和の %		100.0%
Taiwan	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数		142
			総和の %		36.1%
		As a Girl	度数		156
			総和の %		39.7%
		Other	度数		39
		総和の %		9.9%	
	Don't Know	度数		56	
		総和の %		14.2%	
	合計		度数		393
			総和の %		100.0%
South Korea	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数		202
			総和の %		40.5%
		As a Girl	度数		277
			総和の %		55.5%
	Other	度数		3	
	総和の %		.6%		
	Don't Know	度数		17	
		総和の %		3.4%	
	合計		度数		499
			総和の %		100.0%
Singapore	Boy or Girl again(Looking back Past Life)	As a Boy	度数		152
			総和の %		25.9%
		As a Girl	度数		340
			総和の %		57.9%
	Other	度数		10	
	総和の %		1.7%		
	Don't Know	度数		85	
		総和の %		14.5%	
	合計		度数		587
			総和の %		100.0%

恩人・親の臓器手術 Benefactor's Operation と Parent's Operation のクロス表 (Q49aとQ49b)

Nation or Area				Parent's Operation		
				Spend All of My Property	Give up the Operation	Others
Japan	Benefactor's Operation	Spend All of My Property	度数 総和の%	378 48.0%	15 1.9%	2 .3%
		Give up the Operation	度数 総和の%	91 11.6%	150 19.1%	5 .6%
		Others	度数 総和の%	38 4.8%	6 .8%	93 11.8%
		missing	度数 総和の%	2 .3%		1 .1%
		合計	度数 総和の%	509 64.7%	171 21.7%	101 12.8%
Beijing	Benefactor's Operation	Spend All of My Property	度数 総和の%	943 88.8%	8 .8%	1 .1%
		Give up the Operation	度数 総和の%	39 3.7%	47 4.4%	
		Others	度数 総和の%	3 .3%		4 .4%
		Don't Know	度数 総和の%	8 .8%		
		合計	度数 総和の%	993 93.5%	55 5.2%	5 .5%
Shanghai	Benefactor's Operation	Spend All of My Property	度数 総和の%	864 82.1%	22 2.1%	
		Give up the Operation	度数 総和の%	51 4.8%	69 6.6%	2 .2%
		Others	度数 総和の%	4 .4%	1 .1%	8 .8%
		Don't Know	度数 総和の%	12 1.1%		
		合計	度数 総和の%	931 88.4%	92 8.7%	10 .9%
Hongkong	Benefactor's Operation	Spend All of My Property	度数 総和の%	904 85.5%	7 .7%	2 .2%
		Give up the Operation	度数 総和の%	33 3.1%	55 5.2%	1 .1%
		Others	度数 総和の%	4 .4%		9 .9%
		Don't Know	度数 総和の%	17 1.6%	1 .1%	
		合計	度数 総和の%	958 90.6%	63 6.0%	12 1.1%
Kunming	Benefactor's Operation	Spend All of My Property	度数 総和の%	822 80.7%	8 .8%	3 .3%
		Give up the Operation	度数 総和の%	37 3.6%	34 3.3%	4 .4%
		Others	度数 総和の%	18 1.8%	1 .1%	27 2.7%
		Don't Know	度数 総和の%	34 3.3%	1 .1%	2 .2%
		合計	度数 総和の%	911 89.5%	44 4.3%	36 3.5%
Hangzhou	Benefactor's Operation	Spend All of My Property	度数 総和の%	611 67.1%	5 .5%	4 .4%
		Give up the Operation	度数 総和の%	36 4.0%	80 8.8%	
		Others	度数 総和の%	11 1.2%	1 .1%	19 2.1%
		Don't Know	度数 総和の%	40 4.4%	9 1.0%	1 .1%
		合計	度数 総和の%			

Benefactor's Operation と Parent's Operation のクロス表(Q49aとQ49b)

Nation or Area				Parent's Operation		
				Spend All of My Property	Give up the Operation	Others
Hangzhou	合計		度数	698	95	24
			総和の %	76.6%	10.4%	2.6%
Taiwan	Benefactor's Operation	Spend All of My Property	度数	572	4	
			総和の %	78.1%	.5%	
		Give up the Operation	度数	32	47	
			総和の %	4.4%	6.4%	
		Others	度数	5		4
			総和の %	.7%		.5%
	Don't Know	度数	29			
		総和の %	4.0%			
	missing	度数	1			
		総和の %	.1%			
	合計		度数	639	51	4
			総和の %	87.3%	7.0%	.5%
South Korea	Benefactor's Operation	Spend All of My Property	度数	776	10	1
			総和の %	77.1%	1.0%	.1%
		Give up the Operation	度数	81	58	3
			総和の %	8.1%	5.8%	.3%
		Others	度数	52	1	23
	総和の %	5.2%	.1%	2.3%		
	Don't Know	度数	1			
		総和の %	.1%			
	合計		度数	910	69	27
			総和の %	90.5%	6.9%	2.7%
Singapore	Benefactor's Operation	Spend All of My Property	度数	822	23	5
			総和の %	79.3%	2.2%	.5%
		Give up the Operation	度数	43	26	4
			総和の %	4.1%	2.5%	.4%
		Others	度数	40	2	53
	総和の %	3.9%	.2%	5.1%		
	Don't Know	度数	5	1		
		総和の %	.5%	.1%		
	合計		度数	910	52	62
			総和の %	87.8%	5.0%	6.0%

Benefactor's Operation と Parent's Operation のクロス表 (Q49aとQ49b)

Nation or Area				Parent's Operation		合計
				Don't Know	missing	
Japan	Benefactor's Operation	Spend All of My Property	度数 総和の %		2 .3%	397 50.4%
		Give up the Operation	度数 総和の %		1 .1%	247 31.4%
		Others	度数 総和の %			137 17.4%
		missing	度数 総和の %		3 .4%	6 .8%
	合計	度数 総和の %		6 .8%	787 100.0%	
Beijing	Benefactor's Operation	Spend All of My Property	度数 総和の %	1 .1%		953 89.7%
		Give up the Operation	度数 総和の %			86 8.1%
		Others	度数 総和の %	1 .1%		8 .8%
		Don't Know	度数 総和の %	7 .7%		15 1.4%
	合計	度数 総和の %	9 .8%		1062 100.0%	
Shanghai	Benefactor's Operation	Spend All of My Property	度数 総和の %	7 .7%		893 84.8%
		Give up the Operation	度数 総和の %			122 11.6%
		Others	度数 総和の %			13 1.2%
		Don't Know	度数 総和の %	13 1.2%		25 2.4%
	合計	度数 総和の %	20 1.9%		1053 100.0%	
Hongkong	Benefactor's Operation	Spend All of My Property	度数 総和の %	2 .2%	1 .1%	916 86.7%
		Give up the Operation	度数 総和の %	2 .2%		91 8.6%
		Others	度数 総和の %			13 1.2%
		Don't Know	度数 総和の %	19 1.8%		37 3.5%
	合計	度数 総和の %	23 2.2%	1 .1%	1057 100.0%	
Kunming	Benefactor's Operation	Spend All of My Property	度数 総和の %	1 .1%		834 81.9%
		Give up the Operation	度数 総和の %	1 .1%		76 7.5%
		Others	度数 総和の %			46 4.5%
		Don't Know	度数 総和の %	25 2.5%		62 6.1%
	合計	度数 総和の %	27 2.7%		1018 100.0%	
Hangzhou	Benefactor's Operation	Spend All of My Property	度数 総和の %	3 .3%		623 68.4%
		Give up the Operation	度数 総和の %	6 .7%		122 13.4%
		Others	度数 総和の %			31 3.4%
		Don't Know	度数 総和の %	85 9.3%		135 14.8%

Benefactor's Operation と Parent's Operation のクロス表 (Q49aとQ49b)

Nation or Area			Parent's Operation		合計	
			Don't Know	missing		
Hangzhou	合計	度数	94		911	
		総和の %	10.3%		100.0%	
Taiwan	Benefactor's Operation	Spend All of My Property	度数		1	577
			総和の %		.1%	78.8%
		Give up the Operation	度数	2		81
			総和の %	.3%		11.1%
		Others	度数			9
			総和の %			1.2%
	Don't Know	度数	35		64	
	総和の %	4.8%		8.7%		
	missing	度数			1	
		総和の %			.1%	
	合計	度数	37	1	732	
		総和の %	5.1%	.1%	100.0%	
South Korea	Benefactor's Operation	Spend All of My Property	度数		787	
			総和の %		78.2%	
		Give up the Operation	度数		142	
			総和の %		14.1%	
	Others	度数		76		
	総和の %		7.6%			
	Don't Know	度数		1		
		総和の %		.1%		
	合計	度数			1006	
		総和の %			100.0%	
Singapore	Benefactor's Operation	Spend All of My Property	度数	5	855	
			総和の %	.5%	82.4%	
		Give up the Operation	度数		73	
			総和の %		7.0%	
	Others	度数	1	96		
	総和の %	.1%	9.3%			
	Don't Know	度数	7	13		
		総和の %	.7%	1.3%		
	合計	度数	13		1037	
		総和の %	1.3%		100.0%	

b. 東アジア及び過去の国際比較調査データとの比較表

比較表では各調査での対応する項目の回答分布(%)を示しているが、対応する質問項目や回答カテゴリーは、研究目的に関連して、それぞれの調査票において必ずしも厳密に同じ表現、数、順番ではないことがあるので注意する。また、それらが同じ場合でも、避けられない各国・各地域の言語の違い、固有の標本抽出方法、データ収集法の差異のために、単純な回答分布の数値の大小比較には十分な注意が必要である。(「国民性七カ国比較」林、吉野他、1998、p.17;「データの科学」,2001,pp.74-81;「心を測る」,2001)等を参照せよ。)

東アジア価値観調査の日・中・台・韓は、2002年から2003年に実施した。昆明と杭州の調査は、(2002)統計数理研究所共同研究(14共研・2059代表 鄭躍軍)による。

また、表の各調査のデータ数値は以下の統計数理研究所・研究レポート等に掲載されているので、利用する際は再確認していただきたい。(但し、修正され、些少な数値の差が出ている可能性に注意。)

- ・ハワイ調査 1978, 1983, 1988, 1999…研究レポート No.47, No.63, No.64, No.70, No.86
- ・ブラジル調査 1991…研究レポート No.72, No.74にあるが、本表は再集計によった。
- ・米国西海岸日本人調査 (JAWCS) 1998…研究レポート No.84
- ・日本人の国民性調査 1953-1998 までのデータ…研究レポート No.83。但し、1953-1988 までのデータは「日本人の国民性」水野他(1992).出光書店
これらの表では%が四捨五入された整数値で表わされていることに注意。
- ・日, 米, 仏, 独, 英(1987-1988)及び伊(1992)、蘭(1993)調査…特別推進研究、及び試験研究による「国民性七か国比較」林、吉野他(1998). 出光書店 及び 研究レポート No71, No.72, No.73, No.76, No.77, No.78, No.79, No.80, No.81, No.82
- ・昆明・杭州・台湾・韓国のデータは、データ・クリーニング前の第一次データを利用しているので、後に再集計による頻度の多少の変化が起こる可能性があるので注意。

なお、東アジア価値観調査の日本調査以外(北京・上海・香港・台湾・韓国・シンガポール等)については、順次、本研究レポートのシリーズとして発刊する予定である。

【記号の説明】

- ・Japan, Beijing, Shanghai, Hong Kong, Taiwan, South Korea…東アジア価値観調査のうち日本、北京、上海、香港、台湾、韓国
- ・Kunming, Hangzhou…14共研・2059日中国国民性データの統計的解析(代表 鄭躍軍)の調査のうち昆明、杭州
- ・JAWCS…米国西海岸日系人調査
- ・JPN・A…特別推進研究による日本調査A(国際比較用)
- ・HA・JA…ハワイ日系人
- ・HA・NJ…ハワイ非日系人

なお、78 - 88 は 1978 年, 1983 年, 1988 年の 3 回の調査データの平均値であるが、一部の年度の調査で用いられなかった項目については、*と表示した。

- USA, FRA, UK, FRG…特別推進研究 (1987-1988) の 5ヶ国調査のうち米、仏、英、独
- ITA, HOL…試験研究 A (2) (1992-1993) によるイタリアとオランダ
- BRZ・JB…ブラジル日系人
「地点抽出」と「世帯から一人を抽出」するためのウェイトがかかっていることに注意。また、「世代不明」及び「性別不明」の回答が数名分含まれていた。
- JPN・B…特別推進研究による日本調査 B (本来の日本語らしい表現)
- J・KS8, J・KS9, J・KS10…「日本人の国民性」調査第 8 次(1988)、第 9 次(1993)、第 10 次(1998)。但し、これには K (継続) 型調査と M (未来) 型調査とがあり、その一方のみで用いられた項目、両方で用いられた項目があり、後者の場合は K+M のデータについて記した。各項目先頭の K, M, + はこれを示す。
- Omni JPa, Omni JPb, Omni JPc…日本オムニバス調査 JPa は 1993、JPb は 1998 年、JPc は 2003 年
- Omni U.S.A.…オムニバス調査米国 1998 年実施

【表中の記法】

空白…… 該当する項目やカテゴリーがもともとたてられなかった場合

— …… 0.0% (該当者が一人もない) の意味

0.0 …… 四捨五入の 0.0% の意味、

特別の場合を除き、DK には missing も含まれている

(この記法については、他の研究レポートとは必ずしも一致していないことに注意する。)

表の左端の◎記号 …… 項目により、調査間で多少の表現の差違 (質問文、又は回答肢) があるので注意せよ。7C. 項目の出典履歴を参照

東アジア価値観調査の対象地域・国に関しては、「others」、「DK」等において、a. 東アジア国際比較表の分布を、過去の国際比較調査データとの比較表に合わせたので、計算の都合上、元のデータに基づく分布とは、1%程度の誤差がありうることに注意せよ。

EAVS	Common code	Item	category	2002	2002	2002	2003	2002	2002	2003	2003	2004	1998	1999	1999	1988	1988	1988	1988	1987	1987	1987	1992	1993	1991	1988	1988	1988	1993	1998	1998	1993	1998	2003	1998									
				Japan	Beijing	Shang-hai	Kunming	Hang-zhou	Hong Kong	Taiwan	South Korea	Singapore	JAWC S	HA JA	HA NJ	HA NJ	JPN-A	HA JA	HA NJ	USA	FRA	UK	FRG	ITA	HOL	BRZ JB	JPN-B	J-KS8	J-KS10	Omni JPc	Omni JPb	Omni JPc	Omni USA											
				#sample	787	1062	1053	1018	911	1057	732	1006	1037	344	206	294	2265	180	319	1563	1013	1043	1000	1048	1083	492	1017																	
F1		Gender	1)Male	47.5	46.1	49.9	51.8	50.4	47.4	46.3	50.4	43.4	58.4	53.2	52.9	46.2	47.2	48.6	50.5	46.6	47.6	44.4	47.8	44.7	53.6	45.3	+	45	+	45							48.5							
			2)Female	52.5	53.4	50.1	48.2	49.6	52.6	53.7	49.6	56.6	43.6	46.8	47.1	53.8	52.8	51.4	49.5	53.4	52.4	55.6	52.2	55.3	46.0	54.7	55	55										51.5						
			missing		0.5																							0.4																
F2		Age ※【国別質問 ブランクは、各 ※成人年齢カ	18~19yrs		1) 4.3	1) 3.8	1) 2.8	1) 2.4	1) 4.8					0.6	-	-	2.8	1.7	0.6	3.3	4.4	4.2	3.9	4.3	3.5	1.6	3.3	+		+														
			20~24yrs	1) 2.9	2) 10.5	2) 10.3	2) 7.1	2) 8.6	2) 7.6	2) 6.6	1) 9.6	1) 9.4	3.8	2.4	4.1	7.0	3.3	3.8	6.8	10.8	9.8	9.7	10.7	8.0	12.8	5.8	10	7											14.9					
			25~29yrs	2) 5.5	3) 7.8	3) 6.8	3) 12.7	3) 8.3	3) 7.6	3) 9.0	2) 7.8	2) 9.9	3.8	7.3	6.1	6.1	3.3	7.5	10.0	11.6	9.4	12.6	9.3	11.1	5.5	7.7	8	7																
			30~34yrs	3) 9.5	4) 8.6	4) 6.1	4) 13.7	4) 9.9	4) 12.4	4) 14.1	3) 16.3	3) 12.7	5.5	3.9	5.4	9.0	7.8	8.2	9.9	12.5	10.0	9.7	9.2	11.9	8.8	10.3	9	8													17.1			
			35~39yrs	4) 6.9	5) 9.5	5) 6.1	5) 10.1	5) 11.3	5) 15.1	5) 13.3	4) 14.4	4) 15.4	9.0	5.3	8.8	10.4	6.7	12.5	10.3	10.8	8.9	11.4	8.4	11.1	11.3	11.3	13	8																
			40~44yrs	5) 9.5	6) 12.1	6) 13.7	6) 9.2	6) 9.3	6) 17.9	6) 13.5	5) 14.3	5) 14.4	17.2	6.3	8.2	10.9	10.0	11.3	9.0	8.4	8.9	8.4	8.0	11.3	11.3	11.4	10	8														15.9		
			45~49yrs	6) 8.1	7) 13.0	7) 18.8	7) 9.2	7) 8.8	7) 10.5	7) 11.6	6) 8.3	6) 11.7	10.8	12.1	9.5	10.9	7.2	7.5	7.5	5.8	8.6	9.9	8.7	9.1	8.6	9.7	10	11																
			50~54yrs	7) 13.7	8) 7.9	8) 10.2	8) 7.7	8) 9.4	8) 7.9	8) 10.5	7) 7.6	7) 8.4	9.0	8.3	12.2	9.9	5.6	6.0	6.1	7.1	7.5	8.6	8.9	6.1	10.7	10.1	9	10																
			55~59yrs	8) 10.3	9) 5.1	9) 6.6	9) 5.4	9) 7.7	9) 3.2	9) 6.8	8) 6.5	8) 5.4	7.0	7.3	12.9	10.1	10.6	5.6	7.0	7.1	6.3	7.0	7.4	6.0	9.1	9.1	9	10															19.1	
			60~64yrs	9) 11.7	10) 7.3	10) 6.1	10) 6.8	10) 6.4	10) 3.8	10) 5.6	9) 6.1	9) 3.8	6.4	6.8	9.2	8.3	13.3	10.3	6.8	6.7	7.4	6.5	8.1	6.5	4.6	8.0	8	11																
			65~69yrs	10) 9.4	11) 6.2	11) 3.2	11) 5.3	11) 6.6	11) 2.8	11) 4.5	10) 5.9	10) 3.9	8.4	10.7	8.2	6.1	11.1	9.7	8.3	5.2	5.8	5.2	7.4	5.2	4.7	6.6	6	8																17.7
			70yrs & over	11) 12.5	12) 7.5	12) 8.4	12) 10.1	12) 11.3	12) 6.2	12) 4.4	11) 3.4	11) 5.1	18.6	29.6	15.3	8.6	19.4	16.3	15.0	9.5	13.2	7.1	9.6	10.2	11.1	6.6	8	12															15.4	
missing					0.2					0.1	0.1							0.6							0.1																			

4. 各国の自由回答データの個別回答 (問 30、問 38、問 39a、問 39b)

自由回答データの個別回答

日本

サンプルNo.	問30	問38	問39a	問39b
1	わからない	健康	ナシ	ナシ
2	わからない	家族	警察	わからない
3	わからない	家族	わからない	わからない
4	お寺	思いやり	一生懸命働いている人	役に立つ仕事
5	残業	家族	スポーツ選手	わからない
6	お寺	家族	陰になって支えて仕事をしている人	ナシ
7	お寺	健康	医者	わからない
8	古い物	血のつながり	わからない	わからない
9	民謡、着物	子供	人が嫌がる仕事をする	サービス業
10	わからない	家族	教師	なし
11	お正月、おまいり	健康	技術者	わからない
12	わからない	家族	わからない	公務員
13	わからない	わからない	わからない	わからない
14	歴史	家族	別にな	つりかんけい。
15	わからない	家族	わからない	わからない
16	きもの	健康	わからない	わからない
17	かぶき	家族		
18	わからない	健康・子供	なし	わからない
19	わからない	健康	わからない	わからない
20	古くて良いものがたくさん有る。	健康	人とかがわかること	わからない
21	わからない	家族	わからない	わからない
22	伝統建築物の技術	健康な身体	特にナシ	考えたことナシ
23	わからない	家庭	大工	大工
24	歌舞伎、相撲	家族	きこり	きこり
25	天皇	家族	別にナシ	特にナシ
26	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
27	浮かんでこない	家族	特にない	特にない
28	お祭り、茶道、歌舞伎	健康、家族	特にナシ	真面目に働いていればどんな職業でも良い 専ら職
29	おまつり、能、歌舞伎	家族、お金、友達	これと云うのはナシ	秘書
30	着物、茶道華道、たたみの部屋	家族	医者	看護婦
31	能、歌舞伎	人のこころ	医師	思いうかばない
32	幸せ、平和	家族	医師、国家公務員	わからない
33	建築物	家族	特にナシ	自動車検査員
34	和	わからない	自動車検査員	自動車検査員
35	わからない	健康	グラフィックデザイナー	グラフィックデザイナー
36	礼儀	家族	医者	わからない
37	歌舞伎	命	芸術家	音楽家
38	能舞い	家族	わからない	機械(技術者)
39	書道	家族、命	わからない	会社員
40	お茶、茶道	家族	わからない	デザイナー
41	わからない	家族	医療機関	医者
42	習い事、茶道、華道	自分にほこりを持つ事	職人	介護師
43	わからない	家族	医療関係、ボランティア、社会福祉の仕事	子供の育成にかかわる仕事
44	いっぱいあってわからない	家族	医療関係	看護婦
45	わからない	命	一番はない	わからない
46	芝居	家族	すべての職業	電気技術
47	京都	健康	医師	司書
48		健康	福祉関係の仕事	福祉関係の職業
49	歌舞伎	命	特にない	特にない
50	わからない	わからない	わからない	わからない
51	閉鎖的国	自分自身	NPO、NGO	NPO
52	言葉	時間	特にない	医師
53	義理、人情	他人への思いやり	特にない	NPO等ボランティア
54	重要文化財	命	特	福祉士
55	古寺	健康	特にない	医療関係の職業
56	歌舞伎、古典落語	親、子供	わからない	わからない
57	わからない	仕事、家族	医者	わからない
58	わからない	わからない	わからない	わからない
59	わからない	わからない	わからない	わからない
60	すもう、じゅう道	体、健康	わからない	わからない
61	わからない	家族	人の為になる職業	わからない
62	舞踊	感謝の気持ち	先生	カウンセリング
63	わからない	家族	わからない	わからない
64	わからない	家庭、子供	看護婦	わからない
65	京都、奈良などの仏閣	家族	わからない	わからない
66	民よう	健康	わからない	わからない
67	わからない	健康	わからない	わからない
68	伝統行事(七夕、節分、ひなまつり)	家族、仕事	裁判官	公務員
69	わからない	家族、子供	ない	わからない
70	わからない	子供	わからない	わからない
71	わからない	健康	わからない	わからない
72	日本舞よう	家族	ない	保母さん
73	わからない	健康	農家	わからない

サンプルNo.	問30	問38	問39a	問39b
74	わからない	命	わからない	わからない
75	わからない	健康	新聞記者	学校の先生
76	わからない	やさしい心	弁護士	わからない
77	礼節、情	夢、理想	国際NGO	難民救済派遣員
78	たたみ、まじめ	家族、健康	なし	公務員
79	わからない	家族	大工	わからない
80	わからない	家族	わからない	わからない
81	ずもう	家族	農業	公務員
82	伝統芸能	家族、趣味	先生(小中学)	役場
83	着物、茶道、華道、庭園	家族	わからない	わからない
84	信仰、宗教	仕事	ない	公務員
85	書物、建物	健康	作家	美容師
86	歌ぶ伎、生け花、茶道	家族	農業	編集者
87	箸、畳、華道	家族、両親	レスキュー隊	小学校の教員、カメラマン
88	四季	命、健康、家族	介護	保母
89	着物	友達	ない	会社事務
90	平泉文化	健康と家族	総理大臣	普通の会社員
91	道路整備による文化、このゆとりが文化の充実につなが	健康、孫の成長	先生	特になし
92	何もない	いなか	政治家	わからない
93	特になしわからない	仕事	特になし	特になし
94	中尊寺	健康	民生委員	事務職(雨が降っても大丈夫なこと)
95	思い浮かばないわからない	家族	看護婦・医者	特になし
96	特になし	家族	公務員	わからない
97	わからない	健康	公務員	なし
98	特になしわからない	子供の成長	特になし	特になし
99	お城、神社、仏閣。	家庭。	写真家。	写真家。
100	和服	健康。	自分の仕事。	今の仕事。
101	伝統	家庭	特になし。	現在の職業
102	歴史	健康	公務員	今の職業
103	柔道	家庭	わからない	今の職業
104	わからない	健康と家庭。	社会福祉に関わってる人。	現在の職業。
105	能や祭典。	家族の健康	福祉(介護センター等)に従事してる人	現在で良い
106	俳句	家庭	わからない	公務員
107	和服(着物)	健康	医者	わからない
108	舞楽	家族と健康	特になし	看護師
109	柔道、さくらの木	体の健康	医者	看護婦
110	わからない	わからない	わからない	わからない
111	たたみ	健康	特になし	あまり思い浮かばない
112	祭り、茶道	信用、尊敬、親切、愛情、友情	教員、公務員、政治家	会社社長(製造業)か学校の先
113	能、カブキ	家族	今の自分の仕事(ガラス加工	今の自分の仕事(ガラス加工
114	和服	家族の健康	わからない	わからない
115	わからない	家族	わからない	小説家
116	祭りなどの伝統行事	家族	警察官	わからない
117	わからない	家族	特になし	特になし
118	わからない	健康	医者	デザイナー
119	木の文化	家族	特になし	特になし
120	食の文化	仕事、家族	なし	なし
121	たたみ、芸能、食	仕事、家族	なし	なし
122	木の文化(古い木造の寺等、例法隆寺)	人間及び自然への敬愛	芸術家、宗教家、消防士	なし
123	歌舞伎	自分を信じる心	特になし	自分自身の力を最も出せるとこ
124	和食、歌舞伎	家族、家庭	なし	なし
125	和食	家族、家庭	なし	なし
126	たたみ、和食	家族、家庭	なし	なし
127	和(たたみ)	家族(子供)	医者、看護婦など人の為に役に立つ仕事	幼稚園の先生、保母
128	礼ぎ、作法、たたみでの生活	他人への思いやり、気づかい	飛行機のパイロット(旅客機)	医者
129	わからない	平和	医者	特になし(充実感が有れば良
130	なし	人権の尊重	職業に上下はない答えない	経営する事
131	世界イサン	自分の生命	技術者	わからない
132	和	家族	好きな事をやっている自由業(画家、小説家)	スポーツ選手
133	京都	家族	医者	なし
134	わからない	家族	特になし	特になし
135	ひらがな	家族	医者	なし
136	着物、行事	家族	医者	小児科の先生
137	皇室、歌舞伎	家族	富益を欲しない学者	パイロット
138	祭ごと	家族	わからない	わからない
139	野球	妻、子供	なし	ファッション関係の仕事
140	京都、仏像	家族	大学教授	学者
141	わび、さび	家族	職業ではないがボランティア活	わからない
142	仏像	健康	職業とは違うがボランティア活	わからない
143	相撲	家族	わからない	わからない
144	着物、義理人情	宗教	どんな仕事でも真面にコツコツ働いている人	保母
145	着物、歌舞伎	健康	教師	服飾関係裁縫

サンプルNo.	問30	問38	問39a	問39b
146	能、茶道、日本語	どれが一番ということはない	なし	研究職
147	なし	家族	なし	教員(小学校)
148	和食。相撲。	仕事、家庭の両方	今言えない	今言えない
149	すし、てんぷら等の和食	信用。	わからない	わからない
150	茶道、庭園(日本式)	子供	わからない	わからない
151	着物、お茶づけ	子供	わからない	わからない
152	おみこし、すし、梅干し	特になし	わからない	わからない
153	(1)先祖のお墓まいり(2)和食	家族	特になし	特になし
154	花火	子供	なし	なし
155	お祭り	家族	わからない	看護師
156	茶道	健康、家族	医師	看護師
157	社寺、仏閣	家族	わからない	科学者
158	茶道、花道	健康	裁判官	弁護士
159	古い歴史	家庭	大学の学長	銀行の経営者
160	神社	わからない	わからない	わからない
161	仏教文化(寺、社)	家族	自信を持てる職業	研究者(化学)
162	まあまあ平和であること	家庭	わからない	科学者
163	経済の発展	信用	わからない	なし
164	国技	わからない	わからない	わからない
165	寺、僧	家族	わからない	生活を豊にする職業
166	書道絵画	世界が平和、家族	運送業	わからない
167	昔の言い伝え	夫や子供	わからない	わからない
168	日本古来の言い伝え	家族	働いている人	なし
169	節目事のお祝い、七五三、成人式、お正月	家族 親	医療の仕事	福祉関係
170	先進国	家族	わからない	わからない
171	段々畑のある農村文化	家族	自分の仕事が一番	現在の仕事
172	急に思い浮かばない	家族	自分の仕事	観光事業(現在の職)
173	喰べ物、料理、職人の技術	健康	特になし	新聞記者
174	わからない	健康、平和な家庭	なし	なし
175	京都一お寺とか歴史的建造物	家族	なし	なし
176	礼儀正しい	家族の調和	看護婦	看護婦
177	観光と四季の変化や景色	家族	わからない	なし
178	古い建造物、食、自然	健康	なし	なし
179	社寺、仏閣	家族	特になし	わからない
180	わからない	お金	わからない	なし
181	歌舞伎	健康	人間が幸せになる様な仕事	物を造る仕事
182	わからない	家族 健康	わからない	食料品関係の商売
183	日光東照宮	友人	人のためになる仕事、生がいのある仕事	人と直接、接する仕事、ひとりでコツコツやる仕事は好
184	かぶき	健康	考えたことない	歌手
185	曇・障子	家族	人を喜ばせることができる仕	洋裁
186	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
187	和食	家庭	技術職	技術職
188	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
189	きもの、かぎをかげずに留守ができること	家族	ナシ	技術者
190	わび、さび	妻	サラリーマン	ナシ
191	茶の湯	家族	ナシ	ナシ
192	歴史はくり返される	心	ナシ	福祉関係
193	わからない	家族	わからない	わからない
194	華道、茶道、和食、着物	家族	無医村の医師NPO、NGOの職員	占星家
195	桜、和服	家族	わからない	わからない
196	建築、着物、言語	家族、お金	看護師	デザイナー
197	国語(日本語)	親	わからない	F1レーサー
198	自然(山、川、谷、湖、海等)	家族	学者(科学者)	子供の頃は機関車の運転手
199	日本文学(古典も含め)古典芸能、和歌	国と家族	人の嫌がる仕事(職業)	医者
200	四季(自然)、(山水の風景)日本料理	家族	科学者	特にナシ
201	古典音楽、浮世絵	自分、家族	教師	教師
202	女性のやさしさ、伝統工芸、草木染の古くからある	家族や友人等人とのかかわり合いを大切にしたい	思い浮かばない	美容師
203	日本古来の古典的文化(能等)タキノウ、狂言	家族、子供	なし	服装デザイナー
204	わからない	お金、友達	わからない	わからない
205	短歌、俳句	自分	医者	お花や、お茶の先生
206	正月、お金等の伝統行事	家族	医者	介護士
207	歴史古い伝統	家族	医者	子供の頃は看護婦大人になってから考えた事がない先生(小学校)
208	古典的な文芸(能や落語等)、文学、美術	家	学者	先生(小学校)
209	わからない	自分の体	わからない	わからない
210	わからない	わからない	わからない	わからない
211	日本家屋	人の命	わからない	わからない
212	わからない	人のいのち	わからない	医者
213	わからない	人間性	わからない	わからない
214	わからない	命	わからない	わからない

サンプルNo.	問30	問38	問39a	問39b
215	わからない	わからない	わからない	わからない
216	わからない	わからない	わからない	わからない
217	わからない	わからない	わからない	わからない
218	寺院	健康	無し	裁判官
219	言葉	家族	ボランティア医者	国会議員
220	歌舞伎	家族	コンピューターハード・ソフト製作者	コンピューター関係者
221	わからない	家族	無し	無し
222	わからない	わからない	わからない	わからない
223	京都	思いやり、やさしさ	先生	わからない
224	わびさび	家族	医者	教師
225	歌舞伎	家族	ボランティアの医師	手芸家
226	日本人形	ゆとり	わからない	わからない
227	茶道、歌舞伎	家族(主人、子供、孫)	介護士、看護婦	通訳
228	歌舞伎	信頼関係、家族	ボランティアの医師	保母さん
229	わからない	わからない	わからない	わからない
230	寺	人を思いやる心	教師	わからない
231	着物	家族	わからない	ない
232	わからない	わからない	わからない	エンジニア
233	歴史	子供	わからない	わからない
234	着物	家族	先生	わからない
235	寺	子供	わからない	わからない
236	歌舞伎	子供	裁判官	警察官
237	寺、神社	子供	わからない	わからない
238	特になし	家族、友だち	わからない	わからない
239	特になし	家族	わからない	わからない
240	芸術、美術	家族、子供	職業に区別はない	わからない
241	特になし	わからない	わからない	わからない
242	わからない	友だち、家族	わからない	わからない
243	特になし	愛、何に対しても	不自由な人のお世話をする事	わからない
244	住居、食物、衣服	健康(体と心)	わからない	わからない
245	おくゆかしい事	家族	本人が満足いれればよい	なし
246	なし	わからない	わからない	わからない
247	わからない	わからない	わからない	わからない
248	わからない	家族	わからない	わからない
249	お寺	家族	わからない	農業
250	能楽	愛	わからない	販売業
251	わからない	主人	わからない	わからない
252	わからない	財産	わからない	わからない
253	文学	信頼関係	わからない	犬をあつかう仕事
254	わからない	わからない	わからない	わからない
255	わからない	家族	医者	医者
256	宗教	家族	医者	弁護士
257	伝統	命	医者	先生
258	歴史	家族	わからない	サラリーマン
259	日本語	子供	医者	医者
260	こけし、たこ	子供	消防士	わからない
261	四季	子供、金、自分。	先生(学校)	海外ツアーコン、幼稚園保母
262	わからない	わからない	わからない	わからない
263	仏像、庭園、建築物	家族	医者	わからない
264	寺社仏閣	家族	ナシ	わからない
265	わからない	金	わからない	わからない
266	伝統的な昔からある物歌舞伎	家族と自分の健康	特になし	人の為になる様な仕事
267	歌舞伎とか伝統芸能	家族の幸せ	特になし	特になし
268	島国の文化をひきつぐ	家族	特になし	特になし
269	わからない	家族	ナシ	ナシ
270	わからない	お金	ナシ	ナシ
271	わからない	わからない	特になし	なし
272	わからない	家族の幸せ	わからない	わからない
273	文楽、歌舞伎	子供	ナシ	わからない
274	わからない	人の命、家族の幸せ	特になし	なし
275	寺社	人間味	医者	わからない
276	日本人の良い所	家族	ナシ	大工
277	わび、さび	家族	特になし	自由業
278	カブキ	家族	わからない	わからない
279	わからない	平和	わからない	教員
280	伝統	幸福	わからない	わからない
281	和服	生活	わからない	わからない
282	食	生きる事	わからない	スチュワーデス
283	食生活	生活環境	神夫	わからない
284	正月	金と健康	すべての会社員	わからない
285	わからない	家族	医者	特になし
286	礼せつ	家族、子供	わからない	わからない
287	寺社仏かく	健康	ない	ない
288	着物	命	難しい	ない
289	昔からの伝統的な言い伝えと	家族	わからない	わからない
290	ぜいたく	家族	人の役に立つ仕事	わからない
291	先祖のくよう	家族	主婦	サービス業
			わからない	わからない

サンプルNo.	問30	問38	問39a	問39b
292	わからない	家ぞく	ない	具体的というより、能力が発揮できる仕事ならなんでも
293	伝統芸能	家族	どんな職業も尊敬できる。反対に尊敬できない仕事がある	ない
294	言葉、家族形態	家族	介護	民生委員
295	わからない	心	ない	看ゴ(介護)
296	茶道、華道	家族	医者	学校の先生
297	日本人として身に(生涯を通して)つけていくもの	自然	教育者	教育者
298	お祭り	家族	わからない	わからない
299	習慣、国民性、一般生活の様式	家族	なし	経営者
300	わからない	健康	わからない	医者
301	かぶき、浮世絵	仕事	芸術家	創造していく職業
302	タタミ	家族	教育者	政治家
303	杉鉢の蔵の街や日光など	健康	わからない	わからない
304	先祖や親を尊ぶ	家庭	わからない	看護婦、弁護士
305	書道、すもう	感謝の気持ち	本人が納得していればよい	医療関係
306	教育	人間同士信頼仕合えること	職業に区別はない	営業
307	京都	家族	野球プレーヤー	システムエンジニア
308	寺院	家族	ない	ボランティア活動
309	天皇制、国体	家族	教員	教育
310	平和(争いごとがない)	家族	一生懸命働ける仕事	今はない
311	皇室の行事、お神楽	健康	医者、看護婦、人がイヤがる仕事	食べものや
312	日本独特の精神性	家族、健康	どんな仕事も尊敬出来る	人の役に立つ仕事
313	わからない	家族	教員	教員
314	寺院、神社(木造建築)	家族	福祉関係	福祉関係
315	わからない	家族	なし	公務員的なもの
316	たたみ	家族	なし	公務員
317	武士	心の豊かさ	ない	公務員
318	おまつり	健康	なし	管理人
319	着物	子供	医者	なし
320	書道。かぶき。人形じょうり。	健康	教育者	特にない
321	しやくは、おこと、お寺、着物、米	家族	なし	図書館の司書
322	わからない	お金	医者	医者
323	特になし	家族	特になし	特になし
324	古い	家族	プロスポーツ選手	プロボクサー、プロレスラー、プロゴルファー
325	わからない	家族	わからない	わからない
326	わからない	家族	わからない	サービス業
327	わからない	子供	わからない	わからない
328	着物、葬し、季節の行事(盆・正月など)	家族、健康	技術がなければ出来ない専門職	専門職
329	わからない	子供	わからない	わからない
330	着物	わからない	わからない	わからない
331	わからない	感謝の心、愛	本当の意味で人の心をいやす職業	アロマセラピスト、ヒーラー
332	わからない	家族	わからない	わからない
333	わからない	わからない	わからない	わからない
334	わからない	わからない	わからない	わからない
335	歌舞伎、茶道、華道	健康、仕事	わからない	わからない
336	茶道、華道	家族、仕事、健康	わからない	わからない
337	神社、お寺	健康、お金、仕事	わからない	わからない
338	和服、華道	健康、家族	わからない	わからない
339	和太鼓、和服	自分	なし	なし
340	(1)和服	家族、仕事	特にない	教祖の様な仕事
341	茶道、華道	家族、仕事	わからない	わからない
342	和服、お正月、指し物(木工)	家族、友人、健康、お金	わからない	(手仕事)
343	(1)おまつり(2)芝居(3)お正	家族、健康	わからない	わからない
344	(1)おまつり(2)和服	健康、家族	わからない	わからない
345	歌舞伎、お寺、神社	健康、家族、友人、お金	わからない	わからない
346	和服	家族の健康	特定する職業はない	デザイナー、工芸職人
347	日本庭園	健康	教師	医者
348	献上の文化	家族	国会議員職	政治家
349	茶道、華道	家族	特になし	写真家
350	わび、さびの文化	健康	医者	弁護士
351	古都(鎌倉、京都)	自分又、家族の生活	特になし	教師
352	和歌、短歌	家族	なし	特になし
353	郷土芸能、狂言、歌舞伎	家族	和裁の先生	介護の仕事
354	わからない	家族	医者	サービス業
355	鬼瓦(日本建築)	自分の健康、家族の健康	わからない	料理教室の先生
356	盆踊り、夏祭り	健康	消防士	コンピューター関係の仕事
357	寺社、仏閣	家族	裁判官	看護婦
358	生活がしやすい	お金	自分がおぼえた仕事	なし
359	四季がある	健康	特になし	特になし
360	わからない	健康がいちばんだいじ	わからない	わからない
361	芸術	子供	職人	しゅげい
362	茶花道、日本庭園、かぶき	自分、家族、社会	なし	なし
363	お寺	家族	なし	なし

サンプルNo.	問30	問38	問39a	問39b
364	陶芸	海	自営業(自分で何かやっている人)	特になし
365	わからない	人間関係	特になし	なし(現在で満足)
366	植木、日本料理(漬物、味噌汁)	身内(家族の健康)	わからない	なし
367	なし	家族	特になし	ここまでできたので特になし、わからない
368	教育	家族	特になし(その人にあっていればよい)	今は、考えていないなし
369	わからない	生活(家族)	手に職のある職業	資格をとって何かしたいが今のところ自分に何が出来る
370	奈良の大仏	家族	医者	なし
371	行事、お正月、料理、四季折々、冠婚そうさい	平和	なし	年なのでなし
372	歴史、京都奈良の建築、和服、和の物全て。	まず自分の健康	わからない	わからない
373	能、日本舞踊	健康	わからない	わからない
374	日本人の精神性(つつまじやかさとか)(今回のノーベ	家族の健康(私が、今年乳ガンの手術をしたので)	自分で創造して作り出す職業(芸術その他)	考えていない
375	わからない	家族	わからない	わからない
376	古典文化、能	家族	社会に役立つ仕事。具体的にわからない	サラリーマン
377	刺身	健康	なし	なし
378	茶道、華道	家族	医者	職人、木工芸、芸をきわめる職
379	神様	家族	看護師	特になし
380	伝統文芸、工芸(具体的に出てこない)	家族	なし	わからない
381	陶芸	友達	なし	なし
382	わからない	心	わからない	わからない
383	庭園	自分	なし	なし
384	お茶、お花	家族	医師	わからない
385	神社仏閣	自分達の家族	わからない	政治家
386	着物	心	ボランティア活動	弁護士
387	京都の寺等	家族	わからない	エンジニア
388	住宅(和室の)	健康	福祉等で働いている方々	精神的カウンセラー
389	日本人の心	家族	病院の医師	保育園保育士
390	着物(和服)	家族	医師	看護婦
391	わからない	家庭	わからない	人の為になる職業社会福祉(養護アシスタント)
392	道の世界	親と友人等の信頼関係	看護婦	保育士
393	四季のいろいろな行事	家族	会社等で一番下の方で働いている生産に直接たずさわっ	獣医
394	四季	家族	教師	なし
395	かぶき、能	肉親、友人	3Kといわれる職業	ピアノ教師
396	かぶき、茶道、花道、語りべ。	家族	わからない	公務員
397	わからない	子供	なし	デザイナー
398	かぶき、お茶	家族	町工場でこつこつと何かを研究して発明したりしている	保母
399	わからない	家族	わからない	じゅう医
400	わび、さび	命、家族	わからない	わからない
401	古都	家族	裁判官	わからない
402	着物	家族	わからない	なし
403	伝統	家族	なし	なし
404	音楽	経済	サラリーマン	サラリーマン
405	車	家族	特になし	なし
406	なし	家族	配管業	配管業
407	京都	家族	下水掃じ	エステシャン
408	京都	健康	・人のためにできる仕事・ノーベル賞をとった人達がや	医者
409	歌舞伎	家庭 健康	なし	なし
410	着物	家族	宗教関係	宗教関係
411	能、相撲	家族	なし	もし生まれ変わってきたら政治
412	お茶、花、日本舞踊、太鼓	自分本人	福祉関係	医療関係、看護師
413	わからない	健康	何がよいとも言えない	なし
414	教育水準の高いこと	家族	科学者	研究者
415	律義なこと	家族	技術を必要とする職	技術者
416	農耕	健康(精神的なこと含む)	医師、道具を作る仕事、食に係る仕事	農業(品種改良の研究したり)関係
417	わからない	妻、友人、お金	なし	スポーツ選手
418	村祭り	健康	なし	なし
419	古り芸能	家族	なし	なし
420	歌舞伎	子供、親、夫	なし	幼稚園の先生
421	歴史の遺産があること	心、人情	医者	先生
422	きもの	家族	ない	トリマー
423	歌舞伎	健康	医者	わからない
424	富士山	自分	なし	医者
425	すわる事	家族	なし	農業
426	遺せき	家族	わからない	職人
427	歴史	家族	なし	なし

サンプルNo.	問30	問38	問39a	問39b
428	武士道	健康	職人	生産(野菜)
429	わからない	お金	わからない	工場で生産する仕事
430	着もの	自分自身	研究者(医者)	地質学者
431	能	家族	医者	芸術家
432	畳	健康	医者	サービス業(スーパーの店員)
433	戦争	じいちゃん(ご主人)	農業	農業
434	生活がよくなかった	家族	わからない	わからない
435	伝統・技術	心、家族	海とか山、自然を相手にする職業	(1)環境保護に従事する仕事 (2)農家
436	法隆寺、着物、お茶	自分自身、家族	職業に貴賤はない。	ミュージシャン
437	わからない	健康	人や社会に役立つ仕事	技術(エンジニア)者
438	歴史、伝統芸能	家族・健康	人のためになる仕事	サービス業
439	仏教、神社仏閣	健康、お金、財産	公務員	教師
440	環境、風土、美しい自然	家族、健康	わからない	わからない
441	寺神、仏閣などの建物	家族	公務員	設計士
442	急にいわれてもわからない	健康、周囲に負担をかけない生	わからない	公務員
443	絵(日本画)	家族	わからない	わからない
444	食べ物(日本食)と建て物	家族・健康・お金	わからない	特にならない
445	お正月行事(ししまいetc.)	家族	わからない	先生(学校の)
446	茶道わび、さび、能	健康、家族	わからない	わからない
447	芸術、音楽	両親、夫	わからない	看護婦(士)
448	わび、さび	家族・友人・健康	医療機関	国際的な職業
449	日本語	家族	農業	機械の修理
450	わからない	健康	今は身体が不自由だから何を 思っても仕方ない	わからない
451	わからない	家庭	自分に合った仕事	現在している仕事
452	有り難とうとの言葉	家族	現在、働いている仕事	教師
453	古い寺等	健康であること	?わからない	?わからない
454	タタミ	家庭	?わからない	?わからない
455	わからない	家族	現在の仕事	変らない
456	古い木造建築、神社	家族	考えたことないのでわからない	わからない
457	世界遺産	家庭	わからない	わからない
458	祭り	家族	わからない	わからない
459	わからない	わからない	わからない	わからない
460	仏教、仏像、仏教寺院	健康	福祉介護員	公務員
461	仏教、仏像	家族	(農家)農業	(建設業)大工
462	お茶の流儀・作法。	健康	(エンジニア)電機の技術者	エンジニア
463	寺の建物、寺院建築	家族・健康	高潔な政治家	大工
464	民謡	家族	先生(学校の)	公務員
465	京都の建物(寺院建築)	家族	弁護士	公務員
466	お祭り	仕事	製造メーカーの作業員	製造作業員
467	男尊女卑が通じる世界	家族、健康	看護婦、医師	保母
468	日本庭園	健康	看護婦さん	農家
469	温泉	お金	お百姓さん	偉い人学校の(先生)
470	和食(懐石料理)	家族	生産者(農家)	農家(米作り)
471	お寺の建築(寺院)	健康	農業	農業
472	お寺のお講	家族	お百姓さん	お百姓さん
473	和服、米	(御)主人	米作り(お百姓)	農業
474	茶道	家族	スポーツ、全般	スポーツインストラクター
475	寺	夢	わからない	検察官
476	寺	家族	わからない	わからない
477	京都	子供	医者	医者
478	寺	家族	警官	サラリーマン
479	わからない	家族	医者	学校の先生
480	わからない	夫	わからない	わからない
481	祭り	家族	看護婦	保母
482	なしわからない	心	農業	自営業
483	お茶	家庭	ナシ	ナシ
484	京都寺院	健康	製造業	ナシ
485	芸術	ない	ない	ない
486	医学の進歩	健康	農業	ナシ
487	着物(和服)	家族と友達	農業	ない
488	わからない	わからない	わからない	わからない
489	お茶	家庭	医者	わからない
490	わからない	家族	なし	お花屋さん
491	わからない	命	なし	通訳
492	なし	わからない	わからない	なし
493	歴史	家族	医者	若い頃はパイロット今はなし
494	ノウ	養	医者	エンジニア
495	お茶	家族	わからない	わからない
496	お花	健康	医者	わからない
497	わからない	家族	わからない	わからない
498	歴史	主人	先生	わからない
499	わからない	子供	友達	わからない
500	わからない	子供	わからない	わからない
501	寺院	自分と、その周辺	なし	研究職
502	日本画、寺、神社	自分	わからない	わからない
503	わからない	家族	学校の先生	わからない
504	日本語・祭	家族と家庭、仕事	専門の職人	伝統・工芸師

サンプルNo.	問30	問38	問39a	問39b
505	国技	家族	主婦	マンガ家
506	日本語、文字、俳句、文学	家族	わからない	わからない
507	寺、神社、参拝	家族、健康	わからない	国家公務員
508	佛教	家族、健康と平和	職業で差別出来ない	先生と(尊敬される人)云われる様な職業なら何でも。
509	わからない	わからない	わからない	わからない
510	わからない	親、友人	ない	わからない
511	わからない	家庭	わからない	車にかかわる仕事
512	神社、寺院、鳥居	自分の家族、自分自身	わからない	なしわからない
513	わからない	わからない	わからない	ない
514	田舎、田畠の風景を残していること。食文化を感じる。	家族	看護師	介護をする仕事
515	わからない	生きると云うこと	わからない	わからない
516	わからない	わからない	わからない	わからない
517	日本歴史	身近な人	わからない	PG(プログラマー)
518	わからない	家族	自分の仕事(鉄鋼関係)	自分の仕事
519	お茶、お花、仏教	命	わからない	教師
520	“こしきゆかしく…”みたいな事	和楽	わからない	わからない
521	かぶき	相談出来る友人や肉親	わからない	わからない
522	すもう	人	公務員	公務員
523	わからない	家族	不明	事業を興し社長になる
524	皇室の伝統	家庭	なし	公務員
525	四季の行事やまつり	心	わからない	わからない
526	木造建築(古い)、和食	家族	わからない	わからない
527	自然	生命	わからない	わからない
528	きもの	親兄弟	農業	ダイビングのインストラクター
529	お寺	子供	なし	ジャズ歌手
530	衣食住	家族	なし	介護職
531	わからない	家族	わからない	看護婦
532	京都のお寺	家族	わからない	会社の事務員
533	能、狂言など	健康	農業、漁業	漁師
534	水田	家族	どの職場でも現場が一番偉い!	今の仕事、自動車エンジン関係のエンジニア
535	出て来ない。	健康	今、自分がしている農業	今はなし
536	出ないわからない	家族	職業に尊敬という言葉はおかしい。(今自分のしている特になし(どれか尊敬と云わず仕事は総て大切だ!))	公務員のように安定している仕事。
537	国民のまとまり(他の国々から見ると)	お金	医者(病院の医師)	今は停年度なので仕事があれば何んでもの思し。
538	(1)和食(2)和服など	家族、自然環境、生命	教育関係する仕事(児童の)	特になし
539	日本古来の文化(茶道、華道)など	家族		地域で子ども達を育てること。
540	伝統ある歴史	家族全部の健康	特になし(どれも仕事はそれぞれに尊敬出来ると思う。)	特になし。
541	古典的な芸能など	家族	自分の仕事	特になし
542	昔からある古典芸能(伝統)	家族	職業として決めないで自分のしている仕事に自信を持つ	特になし。
543	思いつかない。わからない	自分を含む家族	なし(みんな同じ)	なし
544	城、和式建築、タタミ	家族	わからない	なし
545	能、歌舞伎、日本刀、すもう、柔道、着物、お寺	家庭、健康	なし	なし
546	建物	わからない	わからない	わからない
547	わからない	健康	わからない	わからない
548	わからない	子供、仕事	わからない	書店
549	わからない	家族、お金	わからない	わからない
550	京都、奈良の建物	家族	わからない	わからない
551	わからない	家族	わからない	わからない
552	お寺	自分	なし	なし
553	わからない	康健	わからない	医者、弁護士
554	遺跡、能楽	康健	わからない	公務員(市役所職員)
555	城、寺院	康健	なしわからない	実業家
556	わからない	仕事	わからない	わからない
557	わからない	わからない	わからない	わからない
558	四季と共に生きる事	時間と両親	医療機関に携わる医者及び看護師	システムエンジニア
559	わからない	健康	わからない	わからない
560	?わからない	家族	やりがいを持って仕事をしている人の職業すべて。	他人の為になる仕事
561	京都のお寺	家族	一生懸命になって働ける職業なら何でも。	老人福祉施設のヘルパー
562	和楽器	家族	医者	教師
563	お寺、能楽	家族	教師	教師
564	昔の伝統芸能	家族の健康	なしわからない	なしわからない
565	お城、お寺	家族	スポーツ選手	スポーツ選手
566	寺	家族	なしわからない	公務員
567	勤勉さ	家族	わからない	わからない
568	教育	健康	医者	わからない
569	思い浮かばないわからない	家族	わからない	わからない
570	わからない	家族	わからない	わからない

サンプルNo.	問30	問38	問39a	問39b
571	わびさびの世界、書道、日本の言葉	家族	学者	デザイナー
572	古典芸能	健康	わからない	わからない
573	わからない	家族	歯科医師	歯科医
574	京都	家族	なし	なし
575	昔の歴史	家族	特になし	特になし
576	歴史的な財産、屋久島の杉	健康、経済力	医療関係	自然環境に関するもの
577	わからない	奥さん	わからない	わからない
578	わからない	家族	なし	なし
579	古典	健康	芸術家	わからない
580	わからない	子供	医師	医師
581	伝統芸術	家族	特になし	マスコミ関係
582	神社仏閣	わからない	わからない	なし
583	贈物(中元)	自分、子供、主人	教師	医師
584	お寺	妻	力士	サラリーマン
585	伝統工芸	健康	消防士	特になし
586	お祭り	健康	農業者	なし
587	お祭り	健康	農業者	なし
588	伝統工芸	両親	なし	なし
589	静寂	家族	医師	文筆業
590	日本建築	人間	なし	華道の教師
591	寺院、神社	家族	田中耕一さん	なし
592	歌舞伎	家族	特になし	なし
593	能、歌舞伎	健康	芸術家	音楽家
594	神社、お寺	子供	医者	教師
595	過去から現在までのかてい	家族と健康	なし	なし
596	能や、きょう言の古典	健康	弁護士	経営者
597	ながいで人とう	健康	なし	公務員
598	世界遺産	家族	なし	裁判官
599	昔からつたえられているもの	仕事	なし	技術者
600	伝とう工芸	家族、仕事	わからない	わからない
601	伝統	健康	きゅうきゆう車の運転手	公務員
602	伝統	家族	なし	なし
603	わからない	健康	なし	なし
604	昔からの伝統のもの	子供	なし	デザイナー
605	着物	家庭	なし	なし
606	伝統のいろいろ	家族	医者	なし
607	城	体、健康	教師	わからない
608	仏教	家族	なし	現在の職業
609	神社	家族	特になし	わからない
610	発展	自分自身	思い浮かばない	現在の仕事
611	コンピューター、インターネットの 繁栄	音楽	医者	薬学系統の研究者
612	京都の町	家族	わからない	看護師
613	琴、三味線	子供への愛情	なし	なし
614	芸術	家族	職業に貴賤はない	考えられない
615	囲炉裏、壁	家族	努力している人	自分に合う職業なら何でも良い
616	寺、神社	健康	何でも人に役立つ仕事	物作りに関した仕事
617	伝統的な行事	家族	わからない	わからない
618	なし	自分の家族	特になし	特になし
619	天皇、侍	家庭	先生	先生
620	尺八	自分自身	発明家	創造的な職業
621	特になし	お金、子供	技術のある仕事	わからない
622	歌舞伎、すもう	子供	わからない	わからない
623	和服、おすし	家族	なし	特になし
624	お茶、お花、着物	家族	わからない	わからない
625	古典	真実	自分自身の職業(機械のメンテナ ランス)	サービス業関係(現在している 職業のこと)
626	農業	家族	鍼灸師	鍼灸師(現在についている)
627	島国	自分自身	自分のしている仕事	営業
628	わからない	健康	そんなものはないどの職業も同	わからない
629	米作り	妻	福祉関係の仕事	とび職
630	着物	家族	医療関係の仕事	事務職
631	お寺、神社仏閣の建物	家族	わからない	医者
632	富士山の絵や小説や写真	家族	主婦(職業ではないけどあえて 言うとのこと)	事務関係の仕事
633	古風	家族	洋服業(自分の生活面で助けら れたから)	看護士
634	様式美、作法	家族	一生懸命食うできれば何の職業で も良い	心理学者
635	わからない	命	工業職人(物を作り後世に伝え る人)	配管業(今の自分)
636	鎮国、社会主義	自分	自営業(職種は何でも良いが、 自分が経営する事)	自営(サービス系)
637	武道、剣道、柔道	自分	わからない	わからない
638	茶道、日舞	家族の健康	ホスピスの医者	医者
639	着物	友人	先生(教員)	店長
640	伝統	健康	尊敬できる職はない	働きたくない
641	わからない	長寿	わからない	自動車の運転手

サンプルNo.	問30	問38	問39a	問39b
642	わからない	健康	販売業(何でも良い)	販売業
643	木造家屋	子供	わからない	看護婦
644	わからない	家庭	わからない	わからない
645	わからない	子供	わからない	スポーツ選手かくとう技
646	わからない	親	わからない	わからない
647	わからない	わからない	わからない	わからない
648	日本人らしい心	家族	わからない	学校の先生
649	わからない	家族	わからない	わからない
650	能、狂言	健康	なし	わからない
651	わからない	家族	車の配達	車関係
652	着物、作法、礼儀、能	健康	わからない	わからない
653	茶道、伝統芸能、日本画	家庭	わからない	教育
654	わからない	家族	わからない	調理師
655	茶道(日本文化の集大成としての)	生命、平和	わからない	わからない
656	お正月の行事	健康	農業	農業(裏の方に畑をしている、柿の木も継ぎ木をした)
657	邦楽、国技、建築、陶芸	親族	わからない	わからない
658	わからない	家族	わからない	わからない
659	習字、日本画、かぶき	お金	わからない	運転手
660	わからない	わからない	わからない	わからない
661	わからない	生命	わからない	なし
662	なし	家族	わからない	公務員
663	古い	家族	わからない	なし
664	お米、水田	自分の心	なし	主婦が良い
665	わからない	家族、身内	わからない	わからない
666	義理	家族、金	なし	なし
667	なし	家族	なし	なし
668	なし	子供	福祉関係	介護の仕事
669	なし	住みやすい環境	手に職を付けた人	医者
670	昔の本、源氏物語等	家族の絆	看護婦	看護婦
671	伝統文化、思いやり、茶道	人の「心」	人のために人力をつくす仕事	子供の教育に関係する仕事、教師
672	歴史の事実	仕事	特になし	特になし
673	仏像、ひな祭、味噌汁、名刺	金、愛情	地方公務員	地方公務員
674	仏教芸術	妻	事務員	事務員
675	わからない	家族	特になし	特になし
676	文化財	家族の幸福	医者	弁護士
677	茶道、着物	家族	医者	医療関係の職業
678	正月行事、皇室行事、7、5、3行事	家族、環境	医者	栄養士
679	生真面目さ	家族、自分らしく生きる	医者	エステティシャン
680	着物、茶道、華道	家族	看護婦	花屋
681	着物、祭	家族	医者	保母
682	茶道	家族	医者	特になし
683	着物、茶道、味噌汁	神様	主婦業	ボランティア
684	わからない	人とのつきあい	自営業の人(自分の力で出来)	船のり
685	能、神楽	家族	自営業(事業を起す)	わからない
686	思い浮かばないわからない	お金	自分の仕事	電気工事
687	農業	自分	肉体労働の人	サービスの店員
688	家族の制度	家庭	なし	わからない
689	恥の文化	親	学校の先生	獣医
690	わからない	家族	わからない	わからない
691	わからない	健康	わからない	わからない
692	わからない	わからない	わからない	わからない
693	伝統芸能(琴、三味線、能)	商売繁盛	自営業	趣味を生せる仕事(三味線、おどりとか)
694	文化遺産	主人の気持	公務員	公務員
695	太鼓、三味線、能、文楽、浄瑠璃、詩吟	健康	理、美容	理、美容
696	わからない	わからない	わからない	わからない
697	わからない	家族	わからない	わからない
698	武道	家族	わからない	わからない
699	わからない	心	わからない	今の時代特にない
700	わからない	わからない	ない	ない
701	わからない	わからない	わからない	わからない
702	わからない	わからない	わからない	わからない
703	わからない	わからない	わからない	わからない
704	わからない	わからない	わからない	わからない
705	すもう	わからない	わからない	わからない
706	能	わからない	わからない	わからない
707	日本庭園	趣味	消防士	消防士
708	歌舞伎、浄瑠璃、茶道	家庭	わからない	特になかった
709	日本食(お米の御飯)、日本庭園	家族	医者	医者
710	わからない	家族	わからない	わからない
711	歌舞伎、相撲、着物、壘	家族	教師	アナウンサー
712	わからない	親族	身を捨ててかかる宗教人(僧侶など)	高校教師

サンプルNo.	問30	問38	問39a	問39b
713	神楽	家族の健康	介護職	保母職
714	雅楽、歌舞伎、お祭	健康、資産、子供。	医者	バスガイド
715	着物	家族	介護士	介護士
716	祭、日本料理	家族	政治家	会社の事務系の仕事、洋服店
717	花道、茶道、歌舞伎	家族	介護職	福祉の仕事
718	茶道、花道	家族、友人	わからない	司書
719	祭	家庭	わからない	測量士
720	伝統	命	政治家	政治家
721	着物	家族	わからない	公務員
722	わからない	わからない	わからない	わからない
723	わからない	家族	わからない	官吏
724	日本人形	絆	主婦	保母
725	能	思想	教育者	先生
726	豊	自己管理	弁護士	弁護士
727	わからない	家族	わからない	わからない
728	わからない	家族	わからない	わからない
729	日本古来の芸能	家族	わからない	わからない
730	能	家族	わからない	わからない
731	こうげいびじゅつ	家庭	わからない	わからない
732	わからない	金	事務員	わからない
733	かぶき、すもう	家族	看護婦	わからない
734	すばらしい日本の文化	家族	なし	なし
735	寺院	家族	公務員	公務員
736	わからない	家族	医者	わからない
737	わからない	家族	わからない	社長
738	わからない	妻子	わからない	わからない
739	サムライ	家族	わからない	わからない
740	歌舞伎、すもう、武道	家族	教師	弁護士
741	すもう	健康	公務員	技術
742	すもう	命、健康	ヘルパーさん	わからない
743	わからない	家族	医者	技術を身につける仕事、洋服
744	わからない	家族	医者	技術者
745	茶道、武道	子や孫	教師、地域の良き指導者	わからない
746	わからない	家族	わからない	医者
747	おまつり	生命	プロ野球の選手	公職
748	江戸時代	友達	スポーツ選手	とくに思いつかない、わからない
749	歴史	家族	なし	パソコン
750	歴史	家族	一生けん命働く職業	専ら職
751	わらぶき屋根	お金	医者	助産婦
752	着物	家族	なし、わからない	わからない
753	着物	子供	医者	医者
754	わからない	心と体の健康	教育	なし
755	わからない	家族	普通に食べれる仕事	美容師
756	武士、木造住宅、米作り、四季 おりおりの行事	家族、食事、寝る事	なし	なし
757	わからない	家族	弁護士	わからない
758	わからない	わからない	わからない	わからない
759	城	人とのかかわり	わからない	職人
760	わからない	自己受容、自己実現、社会貢 献、奉仕	セラピスト	セラピスト
761	わからない	家族	わからない	ピアノ教師
762	わからない	家庭であり日本の国である	なし	政治家
763	古い建物	環境	自分の職業	わからない
764	わからない	家族	なし	なし
765	着物	人とのかかわり	自分のしている仕事	自動車整備
766	わからない	健康	なし	なし
767	佗び寂	両親	先生(学校の)	農業
768	わからない	家族	わからない	わからない
769	わからない	子供	別になし	公務員
770	相撲	子供	弁護士	看護婦
771	歴史	命	なし	人の助けになる様なもの
772	歴史	家族	学校の先生	なし
773	芸能、日本建築(神社、仏閣)	家族	科学者	建築家
774	人情	子供	わからない	農業
775	わからない	健康	飲食業	わからない
776	わからない	健康(身も心も)	わからない	わからない
777	おくんち	家内	わからない	わからない
778	遺跡。手作りオモチャ。	家族、健康。	農業	事務職
779	宗教画	家族	農業	菓子製造業
780	わからない	家族	わからない	わからない
781	吉野ヶ里	お金	わからない	わからない
782	わからない	健康	わからない	園芸
783	昔しの物を大切にすひらがな	家族、家、車、友 子供、家族、お金	学校の先生、病院の先生	わからない
784	着物	家族	お医者	わからない
785	わからない	家族	わからない	わからない
786	わからない	家族	わからない	美容師
787	わからない	家族	わからない	わからない

问30 如果问起您中国文化, 最初浮现在您脑海的是什么? (自由回答)

(番号/No., 回答)

1 中国古代文化	51 四大名著/四大发明	101 饮食/四大发明/科技
2 长城	52 文字	102 中国四大发明
3 中国文字/长城(历史悠久)	53 艺术	103 书法
4 秦始皇兵马俑	54	104 考古 / 古典文化
5 儒家思想	55 文化渊源流长	105 科学
7 三国	56 孔孟之道	106 长城
8 儒家	57	107 瓷器
8 四大发明	58 儒家思想	108 尊老爱幼, 谦虚谨慎
9 古建筑	59 古典诗词	109
10 孔孟思想	60 文字/建筑/人	110
11 建筑	61	111 酒
12 万里长城	62 诗歌/音乐/长城	112 甲骨文/四大发明
13 建筑	63 孔子/鲁迅/老子	113 丝绸/中国饮食文化
14 龙的形象/长城	64 孔子/提高教育质量及德育	114 封建文化
15 孔子的儒学	65 四书五经	115 儒学思想/琴棋书画/吃文化
16 京剧	66 四大名著	116 几千年文明历史
17 兵马俑/长城	67 汉字	117 圆明园遗址
18 古代建筑	68 长城/黄河	118
19 故宫	69 五千年文明历史	119 孔子
20 中代中国	70	120 孔孟思想
21 京剧	71 人的生活习惯/艺术/戏剧/陶瓷/烹饪/ 古建筑/兵马俑/敦煌壁画/文物等古文化	121 文房四宝
22 文化越来越发展	72 古代帝工/古代历史故事	122 考古
23 孔孟之道	73 四大发明	123 文房四宝
24 中国教育/人的素质	74 四大发明/建筑	124 美术文化
25 中国人的素质	75 古老/传统/四大发明/皇宫	125 四大发明
26 儒家思想	76 礼仪/儒家思想	126
27 儒家学说	77	127 孔子
28 历史/饮食/民族风情	78 几千年的文明/文化古迹	128 五千年历史
29	79 文化水平	129 唐诗 / 宋词 / 楚辞 / 飞天
30 民族英雄	80 孔子/四大发明	130 儒家文化 / 孔子
31 科学/戏曲/服装/书法/语音/古典音乐 /诗词	81 尊重长辈/继承优良传统/民族团结	131 书法
32 古代诗词	82	132 儒家思想 / 百家争鸣
33 四大发明/卫星/化学武器/相声/话剧	83 佛道儒三教合一的思想	133 封建社会
34 历史悠久/礼义/孝道/任劳任怨/艰苦 朴素	84 中国菜	134 人的亲情
35	85	135 建筑
36 为古代国家发展做出贡献的古人	86 汉字	136 长城 / 天安门 / 紫禁城 / 南京大屠杀
37 京剧/莫高窟	87 茶/服饰	137 传统文化
38 文房四宝/建筑	88 悠久历史	138 兵马俑
39 胡同	89 故宫/天安门/天坛	139 孔子 / 四大发明 / 故宫 / 长城
40 礼义廉耻	90 长城	140 传统
41 四大发明	91 长城/中医	141 历史悠久, 挺发达
42 京剧	92 长城	142 五千年文化历史
43 孔孟之道	93 中国的历史	143 四大发明
44 唐诗	94 仁义	144 《离骚》
45 四大发明/孔子	95 长城	145 饮食文化
46 传统风俗	96 中国的历史	146 四大发明
47 百家姓/三字经	97 故宫/四大发明/儒家思想/中国以前的 封建制度	147 民族服装
48 盘古开天地	98 中国猿人/太空船	148 饮食文化
49 京剧	99 饮食/京剧/杂技	149 儒家传统思想
50 孔孟之道	100 文化古迹	150 中国古代建筑

151 四大发明	201 京剧	251 诗词歌赋/音乐/舞蹈
152	202 国画	252 丝绸之路
153 炎黄	203 祖先	253 诗词
154 唐朝	204 儒家思想/道家思想	254 孔孟之道
155 黄河	205 历史/四大名著/政治方面	255 科学
156	206 四大发明/中国的传统文化	256 中国饮食文化
157 石窟	207 四大名著	257
158 大唐盛世	208 佛教文化	258 中国古代的文化
159 孙子兵法	209 三国	259 四大名著
160 文学	210	260 源远流长
161 汉字	211 长城/故宫	261
162 社会发展	212 孔子/四大发明	262 有文化好呗
163 影视	213 长城/天安门/古址	263 孔子/老子/庄子/唐宋诗词/古典音乐/茶 /秧歌/京剧
164 传统/古老文明 /文物古迹/吃饮食文化	214 故宫/长城	264 儒家
165 秦始皇/统一货币	215 悠久历史文化	265
166 唐朝	216 孔子/三字经	266 虚伪/虚假
167 敦煌/儒家	217 四大发明	267 古代文明和现代文明的结合
168 唐诗	218 四大名著/中医学	268 古迹
169 传统/茶文化/古建筑	219 四大发明	269 孔子/中庸
170 从繁荣到落后然后繁荣	220 汉字/民族文化	270 尊师重教/孝道/相互帮助
171 历史悠久/儒家思想	221 四大发明/京剧	271 五千年的文化史
172 文明/祖先的智慧	222 诗词歌赋	272 文字/对联/青铜器/兵马俑
173 儒家思想	223 四大发明	273 四大发明
174 人的素质	224 四大发明	274 四大发明
175 中国结	225 四大发明	275 四大发明
176 京剧	226 四大发明	276 京剧/中国武术/传统道德
177 唐朝	227 四大发明	277 四大发明/人文古迹
178 北京四合院	228 四大发明	278 四大名著
179 长城	229 敦莫高窑	279
180 京剧	230 四大发明	280 四大发明
181 深奥	231 诗	281 四大发明
182 自己的国家	232 红楼梦/故宫	282 古代工艺品
183 甲骨文/兵马俑	233 诗词歌赋	283 中国菜
184 中庸	234 四大名著	284 历史悠久
185 长城/史记/孔孟言论/毛泽东名言	235 长城	285 故宫
186	236 水平低/办学	286 京剧
187 孔子/长城	237 长城	287 巴金《秋》《春秋》
188 最古老/最悠久	238 四大发明	288 五千年文明
189 毛泽东	239 孔子	289 历史悠久
190 文字/四大发明	240 茶叶	290 历史
191 《康熙字典》/马王堆/兵马俑/陶瓷/景泰 兰/造纸/度量衡/地震仪	241 四大发明	291 鲁迅
192 儒家	242 国家富强	292 中国传统
193 书画/语言艺术/文学/服装	243 中医	293 四大发明
194 陶瓷	244 礼仪之邦	294 长城
195 古建筑/古迹	245 四大发明	295 长城
196 四大发明/孔子	246 长城	296 教育
197 龙	247 孔子	297 唐朝的衣服/北京古代建筑
198 国画	248 五千年历史	298 四大发明
199 中国五千年的文化	249 孔孟之道	299 历史
200 秦始皇	250 孔孟之道	300 教育

301 京剧	351 忠孝仁义	401 四大发明
302 古代建筑	352 孔子 / 儒家思想	402 文化悠久
303 长城	353 孝敬父母 / 正视宗教	403 指南针/四大发明
304 故宫	354 文明古国 / 历史悠久	404 文艺方面/文化艺术
305 陶瓷等古代工艺品	355 绘画	405 建筑/京剧
306 中国菜	356 孔子	406 文学
307	357 传统美德	407
308 近代史/耻辱	358 礼仪 / 爱心	408 五千年/发展情感/孔子/儒学/孙中山
309 长城	359 戏剧	409 民间工艺
310 四大发明	360 孔子	410 历史
311 长城	361 古文明建设	411 历史
312 陶瓷	362 陶瓷 / 古董 / 京剧 / 茶艺	412 长城/造纸/火药
313 长城	363 古代的音乐	413 历史
314 中国食品	364 传统文化 / 古代文学	414 道教
315 故宫	365 故宫 / 长城	415 汉字
316 圆明园建筑	366 文字 / 中国传统	416 长城/京剧
317 北京故宫	367 四大发明	417
318 几千年文明史	368 四大发明/长城/故宫	418 长城
319 儒家思想	369 四大发明 / 故宫	419 龙
320 悠久历史	370 故宫	420 文字
321 文字/诗歌	371 炎黄	421 长城
322 京剧	372 孔子	422 在代人的勤劳诚实
323 长城	373 四大发明	423 建筑/饮食
324 古代建筑	374 兵马俑	424 上下五千年
325 四大发明	375 原始人	425 中国的历史
326 京剧	376 越来越发达	426 四大发明
327 四大发明	377 解放以后建立新中国	427 历史文物
328 四大发明	378 孔子	428 长城/古老的文化
329 四大发明	379 经书	429 四大名著/孔孟之道
330 为中国渊源流和的历史文化感到自豪	380 天安门 / 故宫	430 四大发明/长城/皇帝/诸子百家
331 文字	381 天坛	431 艺术/文化
332 京剧/古董	382 上下五千年	432 长城/老北京
333 孔子	383 儒家	433 绘画/陶瓷艺术/相声/京剧
334 中国的历史	384 故宫	434 科学家/对国家有贡献有人
335 孔孟之书/古书	385 保守	435 京剧/相声
336 文房四宝	386 北海	436 京剧/文化/四大发明
337 四大发明	387 圆明园	437 四大发明
338 中医/京剧	388 长城/黄河	438 儒家学
339 古代人类精华	389 古代音乐	439 五千年历史/京剧
340 孔子/墨子/中国文字	390 故宫	440 唐诗/四大发明/古老建筑
341 文物/古建筑	391 古老的传统	441 名胜古迹
342 五千年的历史	392	442 尊老爱幼
343 中国传统/三从	393 孩子上大学/老年大学	443 孔子/孟子
344 儒家文化	394 历史文化	444 孔子
345 长城	395 京剧	445 儒家文化
346 博大精深/长城	396 孔/孟	446 龙/青铜器
347 故宫	397	447 古代传统文化
348 四大发明	398 传统文化	448 医学/古文字
349	399 唐/宗/宋祖/黄帝	449 春秋战国时期的文学
350 孔夫子	400 四大名著/四大发明/史记	450 三国/四大名著

451 音乐	501 四大发明	551 长城
452 京剧	502 文字	552 故宫
453 京剧/北京古迹	503 革命	553 长城
454 四大名著	504 汉字	554 文明古国
455 古文化	505 甲骨文	555 长城
456 四大发明	506 戏曲	556 古代发明
457 一时想不起来	507 建筑	557 传统教育
458 旗袍/脸谱	508 中国人类历史文明	558 孔子儒学/孟子
459 京剧(现代样板戏)	509 中国文化渊源流长/历史悠久	559 万里长城
460 古都	510 四大发明	560 四大发明
461 长城	511 万里长城/孔子/鲁迅	561 五千年的历史/四大发明/智慧
462 古代建筑/文化(茶艺)	512 四大发明	562 孔子儒学教育
463 京剧	513 孙中山/故宫/天坛	563 四大发明/诗词之类
464 京剧(革命样板戏)	514	564 甲骨文化/孔儒教育
465 孔子/仁义礼智信	515 传统文明	565 儒家思想
466 儒家学说	516 丝绸之路	566 毛泽东语录
467 山顶洞人	517 书法	567 四大发明/宋词
468 四大发明	518 中国历史	568 四大发明
469 提高人的文化素质	519 风俗习惯	569 兵马俑
470 四大发明	520 茶	570 孔子
471 孝顺父母/与人为善/精忠报国/先人后己/天下为公	521 继源流长/博大精深	571 京剧
472 建筑	522 儒家文化	572 明清小说/史记/诗经
473 文学	523 传统	573 长城
474 情感/生活	524 古籍/书/历史人物	574 孔子/庄子/老子
475 学习	525 文物/遗址	575 从没想过
476 古都	526 茶文化/文艺	576 唐诗/宋词/长城
477	527 古文明/古建筑	577 古建筑
478 四大发明	528 电脑/网络	578 中国文化/孔子
479 四大发明	529 古老的东西	579 长城
480 尊老爱幼	530 唐诗/宋词	580 民族服装/古建筑
481 高科技产业信息	531 四合院	581 孔孟道儒家学说
482 京剧/书法	532	582 诗词
483 历史悠久	533 长城/四大发明/汉字	583 古代清廉官员的所做所为流传下来的文明文化
484 书画艺术	534 长城	584 长城
485 儒家文化/古代思想有其局限性	535 尊老爱幼	585 鲁迅的作品/老舍/巴金
486 四大发明/龙/黄河/京剧	536 儒家思想	586 历史悠久
487 历史/丝绸之路	537 孔子	587 孔子
488 诗经/孔子	538 保守	588 国家文化/贫困山区的孩子
489	539 祖先古老的文化	589
490 甲骨文	540 遥远/渊博	590 孔子
491 儒家思想	541 民歌	591 文字/文化
492 周易	542 尊老爱幼	592 中华民族的美德
493 乐山大佛/万里长城/天安门	543 京剧	593
494 中国历史,文学	544 源远流长	594 中国古代孔孟思想法道等学说
495 孔子	545 食文化等各方面文化	595 汉字
496	546 四大发明	596 长城/中国文化现水平低
497 传统/文明	547 先进的科学	597 建筑
498 历史	548 中国文化挺好的	598 龙/凤
499 古建筑/莫高窟/敦煌艺术	549 甲骨文/长城	599 民风/民俗
500	550 孔子儒学	600 民族服饰/民族饮食

601 知识方面	651 长城/绒装书/丝绸/瓷器/八股文	701 长城
602 戏曲	652 古代的诗词/小说/名著	702 字画/毛笔
603 戏剧/书籍	653 文学/诗词	703 建筑
604 四大发明/李白杜甫留下的知识	654 中国古老的建筑	704 四大名著
605 几千年文明史	655 鲁迅	705 四大发明/传统东西
606 四大发明/书法/绘画/音乐乐器	656 孔子	706 四大发明/中国革命史
607 孔子/老子	657 素质教育	707 工作
608 唐诗	658 五千年的历史	708 孔子
609 随道潮流的变化而变化	659 唐诗/宋词	709 古代文明
610 古井贡酒	660 文学艺术	710 毛泽东思想
611 长城/黄河	661 中国的传统/文化/科学/礼仪	711 秦始皇/焚书坑儒/优秀的传统文化
612 唐至清以前的各方面文化	662 渊源流长	712 炎黄大帝/黄河/长江/祖先
613 民族/乐器	663 中国古建筑	713 尊老爱幼/家庭
614	664 五千年的文明	714 四书五经/一些文学上的东西
615 共产主义	665 孔孟之道/文字/语言/文学艺术作品/ 三大发明/医学/天文	715 古诗
616 国画/茶	666 文字	716 三字经
617 书法/儒家思想	667 中国五千年的历史	717 孔孟之道
618 三字经	668 甲古文	718 大型文物
619 围棋	669 黄土高原	719 四大发明
620 长城	670 红楼梦	720 孔孟之道/毛泽东思想
621 戏曲/电影/教学文化	671 孝顺父母/和睦邻居	721 古典文明文化
622 故宫	672 文化古城/名胜古迹	722 尊老爱幼/注重亲情
623 戏曲/道德	673 文化古迹	723 光辉的历史
624 长城	674 清朝文化和民国	724 古代遗址/文明
625 诗词	675 甲骨文	725 故宫/长城/名胜古迹
626 孔夫子	676 中国四大发明	726 甲骨文/汉字/秦兵马俑
627 中国的人口问题	677 历史性的东西,如孔子,孟子	727 甲骨文
628 孔夫子	678 长城	728 象形字/古劳动人民的智慧
629 饮食文化/唐诗	679 长城	729 书法/武术/针灸
630 中国的古文化/科学技术	680 天安门/北海/故宫	730 汉字
631 古建筑/四大发明	681 孔孟之道	731 儒家思想/先秦百家的理论
632 古建筑	682 古建筑	732 甲骨文
633 毛泽东时代	683 方块字/老北京文化	733 四大发明
634 语言/书画/戏曲/传统	684 京剧	734 长城/故宫/古老建筑
635 人文/地理/习俗	685 故宫/天安门	735 礼仪
636 儒家思想/孔子	686	736 素质/修养
637 五千年文化	687 家	737 孔孟之道/文革
638 孔子	688 文学	738 文物
639 孔子	689 秦朝的历史/四大名著	739 古代的历史/中医药/古建筑
640 孔孟	690 长城	740 工艺品
641 传统文化	691 书法/绘画/封建文化	741 四大发明
642 古老的文明/地震测量仪	692 四大发明/《本草纲目》/地动仪	742 长城/故宫
643 茶道	693 古建筑物	743 语言/文字/文物古迹
644 仁义	694 民歌	744 长城/故宫/中国历史
645 八年抗战	695 文化提高了	745 陶瓷/四大发明
646 长城/瓷器/书法/风景	696 中国历史文化	746 皇帝/六朝古都/封建
647 落后/封闭	697	747 儒家文化
648 古文/文学/古画	698 孔子教育仁道	748 京剧/故宫
649 习惯/信仰/价值观	699 经济发展	749 科技文化
650 和谐(和平/和气/合而不同等)	700 历史方面/诗人/最早的百家争鸣/孔子等	750 长城

751 秦始皇	801 甲骨文	851 中国音乐
752 应县木塔	802 黄河	852 中国的体育文化
753 毛泽东	803 京剧	853 四大发明
754 故宫	804 礼义廉耻	854 中国的音乐/天文知识
755 古建筑	805 丝绸	855 书法/故宫/天安门
756	806 龙	856 中国的武术
757 京剧	807 中国的悠久历史	857 孔子
758 长城	808 古老建筑	858
759 饮食文化	809 鲁迅	859 戏曲
760 四大发明	810 庄子/孔子/古诗	860 甲骨文
761 悠久的历史	811	861 长城/文字
762 尊重长辈	812 孔子礼教	862 长城
763 孔孟	813 传统信仰	863 故宫
764 中国古代文明	814 儒家文化	864 饮食文化
765 儒家思想	815 应该借鉴西方取长补短	865 经济
766 中国古代建筑	816 京剧	866
767 唐诗	817 京剧	867 京剧
768 甲骨文	818 儒家	868 方字
769 汉字	819 丝绸之路/历史悠久	869 先进不落伍
770 龙	820 三国演义/焚书坑儒	870 优良传统
771	821 长城	871 上下五千年/古典诗词
772	822 文房四宝	872 中华五千年的历史文化
773 四大发明/长城	823 唐诗	873 京剧/武术
774 故宫	824 唱戏剧的皇帝	874 中国倍方
775 炎帝/黄帝	825 文化古迹	875 汉语/文字
776 长城	826 中国的老字号	876 道教古典侍伺/传统道德观
777 茶文化/食文化	827 吃文化/食文化	877 四大发明
778 四大发明	828 五千年的中国文明	878 长城
779 孔孟之道	829 中医	879 长城
780 封建/佛教/四大发明	830 五千年的中国历史	880 四大发明
781 丝绸	831 中国古老的历史文化	881 秦皇汉武/汉唐雄风/丝绸之路/深厚/沉重
782 礼仪/孝	832 唐宋时期的诗词	882
783 历史悠久/博大精深/古文物	833 孔子	883 古书/京剧
784 饮食文化	834 历史文学	884 长城
785 饮食文化	835 故宫建筑	885 唐朝
786 京剧/名胜	836 文字	886 画
787 孔孟	837 古建筑	887 医学/四大发明
788 百家争鸣/儒家思想与封建礼教	838 甲骨文	888 四大发明/医学
789 长城	839 古代文学/音乐	889 北京猿人
790 长城/二环/三环/环路/轻轨	840 孔儒家思想	890 建筑
791 悠久历史	841 中国现代文化	892 甲骨文
792 孔孟之道	842 儒家思想	893 故宫
793 古代文化	843 京剧	894 长城
794 京剧	844	895 四大发明
795 北京古建筑	845 长城	896 孔孟之道
796 和平	846 四大发明	897 四大发明
797 四书五经	847 长城	898 孔孟
798 京剧/书法	848 饮食文化	899 四大发明/长城
799 长城/西藏的布达拉	849	900
800 继承/不能丢掉	850 古代英雄/模范事迹	901 京剧

902 中国远古文化留下的基础	952 故宫	1002
903 四大发明	953 古诗/风俗习惯	1003 五千年历史
904 四大发明	954 故宫/圆明园	1004 勤劳人民
905 长城	955 四大发明/史书	1005 人的基本素质/科学
906 四大发明	956 论语	1006 中国历史
907 儒教	957 中国字画	1007
908 古老文化	958 故宫	1008
909 精神/物质文化	959 文字	1009 唐诗/宋词
910 音乐/艺术	960 祖先	1010 汉字
911 古代/古皇朝/历史/文化/国宝	961 四大发明	1011 四大发明
912 四大文明古国	962 三字经	1012 尊老爱幼
913 敦煌莫高窟/长城/兵马俑	963 历史悠久/古文明	1013 四大发明
914 唐宋文化	964 四大发明	1014 四大发明
915 长城	965 四大发明	1015 历史古老/文明
916 故宫	966 诗	1016 书籍/古文
917 五千年的文明史	967 孔子	1017 甲骨文
918 服饰/古建筑	968 京剧	1018 四大发明
919 传统文化/历史/遗迹/文物/思想观念	969 佛教文化	1019 四大发明
920 历史悠久的文化传统	970 吃	1020 四大发明
921 十三经/文化经典/京剧/唐诗	971 传统观念	1021 孔子儒学教育
922 孔子	972 四大发明	1022 古代长城
923 文字	973 甲骨文	1023 孔儒教育
924 儒家	974 几千年的文明古国	1024 古长城
925 历史/社会	975 长城/兵马俑/故宫/天坛	1025 儒家思想
926 天安门	976 考古	1026 颐和园
927 儒家/封建主义/集权	977 民族的东西	1027 尊老爱幼
928 京剧/毛笔字/中医	978 宗教/食物/中国结/桂林山水/过年/考试	1028 指南针/故宫/长城/十三陵/云冈石窟/敦煌
929 保护	979 历史很悠久/渊远流长	1029 五千年文明史
930 长城	980 四大发明	1030 甲骨文
931 长城	981 古典文化/天文学	1031 长城
932 唐诗/长城	982 四大发明/京剧/汉字/算盘/在拱桥/古建筑/武术	1032 长城
933 悠久历史/四大发明/文字	982 饮食	1033 长城
934 中国结/戏剧	984 比较古老	1034 秦皇汉武唐太宗
935 传统美德	985 历史悠久/文明古国	1035 孝敬父母/数理化论
936 科技/娱乐	986 孔孟之道/宗教道德	1036 世界第一
937 四大发明	987 长城/兵马俑/故宫	1037 赵州桥
938 历史	988 戏曲	1038 琴/棋/诗/画
939 古文物	989 先秦时代的历史	1039 文明的历史
940 酒	990 春秋战国时的文化	1040 中国五千年文明史
941 古老的文化	991 文学 /历史/艺术	1041 长城/故宫
942 文明史	992	1042 故宫
943 国宝/京剧	993 五千年的文明史/四大发明	1043 长城
944 活字印刷/算盘/四大发明	994 家庭/皇天在上/中庸待人	1044 四大发明
945 孔孟之道	995 长城/兵马俑/孙子兵法	1045 四大发明
946	996	1046 四大发明
947 孔子/儒家思想	997 火药/长城	1047 四大发明/电子科技
948 论语/孔孟之道	998 兵马俑	1048 故宫
949 王府井/古代服饰	999 陶器	1049 诗词歌赋
950 古文字	1000 长城	1050 四大发明
951 长城	1001 四大发明	1051 故宫

- 1052 长城
- 1053 传统的特色的文化
- 1054 四大发明
- 1055 饮食
- 1056 唐朝
- 1057 封建等级制度
- 1058 博大
- 1059 孔子/诗词
- 1060 长城
- 1061 饮食文化
- 1062 长城
- 1063 愚忠/迷信

问38 对您来说，最宝贵的东西是什么？（自由回答）

(番号/No., 回答)

1 国家/生命	51 女儿	101 生命
2 朋友/金钱	52 朋友/家人	102 生命
3 国家的安危和个人的生命	53 生命	103 生命
4 时间	54 孩子	104 生命
5 生命	55 对社会的责任	105 人才
7 生命	56 生命	106 时间
8 生命	57 生命	107 生命 / 儿子
8 生命	58 生命	108 信仰
9 生命	59 生命	109 时间
10 时间	60 自由/时间	110 生命
11 知识	61 幸福/健康	111 身体健康
12 健康	62 感情/音乐/时间	112 家庭
13 时间	63 生命/健康	113 生命/家人
14 健康/家庭	64 生命/与亲人的关系/共产党	114 孩子
15 生命	65 时间	115 生命
16 生命/身体	66 孩子	116 生命
17 生命	67 亲情	117 生命
18 生命/金钱	68 生命	118 生命
19 家庭	69 生命	119 事业
20 亲情	70 青春	120 家庭
21 生命	71 时间	121 生命
22 生命	72 生命	122 生命
23 空气/生命	73 人的自由/快乐	123 身体健康
24 生命/时间/金钱	74 生命	124 金钱
25 生命/孩子/一家人的生活/工作/孩子的学习	75 情	125 身体健康
26 财富/生命	76 生命/时间/效率/工作/体育锻炼	126 亲情
27 社会安定/百姓安居乐业	77 生命	127 优质的生命
28 家庭/健康	78 生命	128 学习
29 生命/眼睛	79 平安/身体健康	129 爱心 / 真诚
30 真诚的朋友	80 人	130 生命
31 生命/金钱/思想	81 国家富强/生命	131 生命
32 亲情	82 人	132 充分体现自己的价值
33 以诚相待/互相信任/传统美德	83 时间	133 知识 / 能力
34 生命/健康/幸福	84 钱	134 家庭
35 生命	85 长城	135 生命
36 感情(包括亲情/友情)/工作	86 快乐	136 命
37 生命/亲情/身体健康/水	87 快乐的生活	137 生命 / 健康 / 财产
38 健康	88 健康	138 生命
39 亲情/友情/爱情/才能/成就/健康	89 别有病,身体健康	139 亲情 / 友情 / 钱
40 健康	90 生命	140 生命 / 家庭
41 生命	91 健康/权力	141 健康
42 自由	92 生命	142 生命 / 儿子
43 人的一种精神	93 社会稳定	143 生命 / 健康 / 亲人 / 个人发展
44 生命/时间	94 生命/权力(做人的)	144 时间
45 生命	95 朋友	145 生命
46 身习健康	96 生命	146 生命 / 朋友
47 生命	97 亲人/家庭/朋友/事业	147 生命
48 健康	98 工作/医疗	148 生命
49 生命	99 时间	149 身体健康
50 生命	100 身体	150 生命 / 朋友

151 友情 / 亲情	201 自由	251 健康/经济/精神
152 孩子	202 生命	252 生命
153 生命	203 生命	253 生命
154 亲情	204 生命/家庭/爱情/知识	254 人间情
155 生命	205 时间/社会的稳定/没有腐败	255 生命
156 生命	206 健康	256 信心
157 健康	207 生命/家庭/职业	257 家庭
158 生命	208 家庭/父母	258 身体
159 生命	209 父母/家庭	259 家人/朋友
160 个人品质	210 生命/身体健康/亲戚朋友	260 生命
161 生命	211 家人/生命/幸福	261 生命
162 能力	212 亲戚/朋友	262 家庭生活条件好
163 职业	213 家人/生命	263 健康
164 家庭/孩子	214 生命	264 亲情/健康
165 生命	215 法律/生命	265 健康
166 生命	216 道德	266 生命
167 生命	217 自由	267 健康
168 政治信仰	218 生命	268 生命
169 人与人之间的信任/和平共处	219 生命	269 自由
170 自由	220 健康/家庭	270 真情
171 生命	221 健康/亲情	271 生命
172 健康	222 生命	272 家庭
173 孩子	223 生命	273 亲情
174 生命	224 家庭	274 生命
175 钱	225 家庭	275 健康
176 生命	226 健康	276 时间
177 生命	227 生命	277 健康
178 感情	228 快乐的时光/幸福的家庭	278 健康
179 感情	229 友谊	279 健康
180 家庭	230 健康	280 生命
181 生命	231 家人	281 健康
182 生命	232 家人与自身的健康	282 身体健康
183 健康	233 亲情	283 生命
184 健康	234 生命	284 生命
185 生命	235 生命	285 生命
186 生命	236 知识	286 生命
187 健康	237 子女	287 健康
188 生命	238 家庭/健康	288 生命
189 生活/生命/钱	239 国家/昌盛/富强	289 健康
190 健康	240 健康	290 生命
191 爱	241 生命	291 生命
192 健康	242 好身体	292 家庭幸福
193 生命	243 亲情	293 孩子
194 生命	244 时间/生命	294 钱
195 生命	245 生命	295 健康
196 朋友和家人	246 健康	296 生命
197 家人/健康/心灵的自由	247 生命	297 健康
198 家人	248 亲人/家庭	298 家庭
199 家庭	249 生命	299 生命
200 家人	250 健生	300 生命

301 健康	351 生命	401 经济条件
302 家庭	352 尊严	402 身体
303 生命	353 健康	403 亲情/友情/生命
304 事业	354 健康	404 生命
305 亲情	355 生命	405 家庭
306 家	356 生命	406 生命
307 健康	357 生命	407 生命
308 钱/知识	358 生命 / 身体健康	408 孩子/事业/战争/国家前途
309 健康	359 生命	409 生命
310 家庭	360 生命	410 时间
311 亲情	361 生命	411 父母/朋友
312 生命	362 生命	412 家庭
313 生命	363 政府的公正 / 生命	413 生命
314 生命	364 时间 / 健康	414 生命
315 生命	365 亲情 / 友情	415 人格
316 健康	366 身体健康 / 家庭生活稳定 / 社会有秩序	416 生命
317 家庭	367 时间	417 子女
318 生命/信仰	368 身体健康	418 朋友
319 亲情/友情	369 亲情	419 亲情
320 钱	370 生命	420 亲情
321 女儿	371 生命	421 儿子
322 自身家庭	372 生命	422 金钱
323 生命	373 健康	423 家庭/生命
324 生命	374 亲人	424 孩子
325 生命	375 亲人	425 身体健康
326 健康	376 生命	426 健康
327 工作	377 健康	427 健康
328 诚信	378 时间	428 生命
329 生命	379 工作	429 自由/随遇而安
330 友情	380 时间 / 工作	430 家庭
331 亲人/朋友	381 健康	431 自由/身体健康
332 亲情	382 身体健康	432 亲人
333 生命/父母/朋友	383 健康	433 人的身体健康最宝贵
334 生命/金钱	384 朋友	434 生命价值
335 生命	385 善良之心	435 快乐/健康
336 钱	386 生命	436 房子/汽车/收入
337 儿子/丈夫/家庭	387 家庭	437 友谊
338 工作/家庭	388 亲情	438 生命/亲情
339 生命	389 生命	439 生命
340 健康/妻子/孩子/家庭	390 友情	440 中国传统美德
341 生命	391 生命	441 生命/家庭
342 健康	392 生命	442 生命/家庭
343 健康/生命	393 忠诚	443 健康
344 家庭	394 生命	444 健康
345 亲情	395 生命	445 亲情/个人隐私
346 家庭	396 生命	446 亲人/自由
347 生命	397 生命	447 生命
348 父母	398 人情/真挚	448 生命/家人/朋友
349 生命	399 生命	449 健康/孩子/家人
350 生命	400 生命	450 生命/家人

451 健康/家庭	501 健康	551 生命
452 生命/时间	502 生命	552 生命
453 友情/供我生活的物质	503 身体健康	553 健康
454 生命	504 生命	554 健康
455 有休息时间	505 健康	555 家庭
456 健康	506 家庭	556 家人健康平安
457 健康	507 亲情	557 生命
458 自由/时间	508 生命	558 生命
459 生命,实现自我价值	509 亲情	559 钱
460 亲情	510 生命	560 家庭
461 友谊	511 生命	561 生命
462 生命/健康	512 精神	562 生命
463 时间	513 快乐	563 家庭
464 事业	514	564 生命
465	515 生命	565 时间
466 身体健康	516 生命/女儿	566 生命
467 生命/友情/亲情	517 生命	567 生命/时间
468 生命	518 健康	568 生命
469 健康	519 家庭/健康	569 生命
470 信誉	520 生命	570 亲情
471 健康	521 生命	571 健康
472 生命	522 人与人之间信任/帮助/友爱	572 健康
473 生命	523 健康	573 生命
474	524 能学到更多的东西/有能力	574 生命/家庭/金钱
475	525 生命/家人/朋友	575 健康
476 生命	526 家庭/感情	576 健康
477 身体健康	527 亲情/钱	577 亲情/健康
478 生命	528 家庭/老伴儿子平安	578 生命
479 生命	529 生命	579 生命
480 生命	530 健康	580 生命
481 机遇	531 尊严	581 自由
482 生命	532 亲情	582 生命
483 健康/家人	533 家庭幸福/健康	583 健康
484 生命	534 感情	584 国家长治久安/家庭生活幸福
485 对翅有所认识	535 健康	585 人格/亲人
486 健康/儿女孝顺	536 生命	586 家庭
487 身体健康	537 幸福	587 健康
488 事业/朋友	538 心情愉快	588 团结/幸福
489 社会稳定/家庭和睦/经济增长	539 子女的成就	589 生命
490 健康	540 身体	590 生命
491 身体健康/家庭幸福	541 生命	591 生命
492 诚信	542 健康	592 生命
493 时间	543 家庭	593 健康
494 健康/自由	544 生命	594 生命
495 生命	545 生命	595 生命
496 生命	546 感情	596 以诚相待/人与人之间的情谊要真诚/ 爱心
497 生命	547 生命	597 生命
498 生命	548 时间	598 健康
499 工作机会	549 健康	599 和平/稳定
500 身体	550 健康	600 亲情/友情

601 家庭	651 自由/生命/时间	701 自己
602 健康	652 健康	702 生命
603 健康	653 家庭	703 身体
604 做人要有诚信	654 充沛的精力与时间	704 家庭
605 两个女儿	655 健康/事业/亲情/友情	705 家庭
606 感情	656 家庭	706 家产/事业
607 事业	657 家庭/健康/国家的安定	707 生活
608 家人	658 生命	708 健康
609 时间	659 家庭/老伴	709 健康
610 时间	660 生命	710 生命/家庭
611 健康	661	711 感觉/感受
612 时间/美好的回忆/难忘的经历/瞬间即逝的东西	662 健康	712 生命/事业/父母/子女/朋友
613 亲情	663 生命	713 家庭和睦/身体健康
614 社会主义	664 平安	714 家庭
615 生命	665 生命	715 精神
616 生命	666 生命	716 生命/健康
617 家人/工作的机会/自己的能力	667 亲情	717 家庭和睦
618 生命/家庭/自己父母	668 时间	718 友谊/亲情
619 实现自身价值	669 事业	719 身体
620 亲情	670 家庭/生命	720 生命
621 道德	671 爱心	721 健康/智慧
622 生命/爱情	672 家庭	722 身体
623 健康/家庭/自由	673 认识上帝	723 生命
624 生命	674 健康	724 健康
625 生命	675 时间/生命	725 家庭/事业
626 朋友/亲人	676 真诚	726 身体健康
627 亲人	677 家庭	727 生命
628 家庭	678 收入	728 亲情/友情
629 创业/家长	679 知识/财富	729 健康
630 亲情	680 身体健康	730 信仰
631 生命	681 爱心和道德	731 生命
632 健康	682 时间	732 做人的准则/人品
633 钱	683 金钱	733 健康
634 健康	684 身体健康	734 生命
635 亲情	685 生命	735 亲情/友情/爱情
636 健康	686 生命	736 家庭
637 时间	687 身体	737 时间/健康
638 生命	688 感情	738 生命
639 信任	689 音乐	739 生命
640 健康	690 亲情	740 孩子
641 健康	691 感情	741 生命/健康/金钱/孩子/家庭
642 生命	692 家庭/父母健康	742 生命
643 亲情	693 生命/友情	743 生命/事业/家庭
644 家人的健康/友情	694 生命	744 生命
645 亲戚	695 子女	745 亲情
646 家庭	696 健康	746 时间/健康
647 生命	697 真情	747
648 健康	698 信誉人活为着信誉	748 亲情
649 健康	699 时间	749 人的价值
650 生命/信仰/事业	700 感情/对家人朋友的感情	750 健康

751 生命	801 亲情	851 健康/家庭
752 健康	802 生命	852 生命/家庭
753 人格	803 亲人	853 生命/金钱/家庭
754 生命	804 生命	854 健康
755 身体健康	805 健康	855 生命
756 生命	806 盘(软盘)	856 健康
757 要工作	807 亲人/自己的人生价值/工作	857 生命
758 生命	808 儿女孝心	858 健康
759 事业	809 生命	859 时间
760 孩子	810 家庭	860 家庭
761 生命	811 生命	861 亲情/友情/爱情
762 生命	812 生命	862 家庭
763 知识	813 智慧	863 健康
764 健康/钱	814 健康	864 家庭
765 健康	815 生命/健康	865 健康
766 生命	816 生命	866 金钱
767 生命	817 生命	867 家人
768 生命	818 生存	868 生活幸福
769 家庭幸福	819 生命/金钱	869 生命
770 健康	820 亲情/时间	870 亲情
771 人/身体	821 文物/时间	871 生命
772 生命	822 生命	872 友情
773 亲情/友情	823 健康	873 亲情
774 健康	824 家人平安	874 生命
775 自由	825 身体健康	875 友情
776 亲情	826 健康	876 生命/国家的利益/个人的自由/个性
777 生命	827 家人	877 时间
778 家人	828 家人	878 家人
779 健康	829 生命	879 生命
780 生命	830 家人	880 亲情等/人间的真情
781 生命	831 生命	881 安排时间
782 生命	832 健康	882 生命
783 国家繁荣昌盛/个人富裕安康	833 生命	883 生命
784 生命家庭	834 亲人和家庭	884 生命
785 家庭	835 时间	885 生命
786 生命	836 失去的东西	886 全家都好
787 家人	837 健康	887 收入房子
788 生命	838 生命	888 汽车/房子
789 妻子/孩子	839 亲情/身体/健康	889 家人
790 生命/父母/朋友/亲戚/感情	840 生命	890 家庭
791 生命/时间	841 生命	892 家庭
792 时间	842 亲人/健康/事业/友谊/个人感情	893 时间
793 生命	843 生命	894 时间
794 生命	844 生命/健康	895 健康
795 健康	845 亲情	896 生命
796 生命	846 时间	897 生命
797 家庭/事业	847 家人	898 生命
798 孩子	848 家庭	899 家庭/父母
799 健康	849 身体/家庭	900 家庭身体/亲情/友情
800 健康	850 时间/健康	901 亲情

902 精神	952 生命	1002 生命
903 生命	953 亲情/友情/金钱	1003 生命
904 生命	954 孩子幸福/身体健康	1004 亲情
905 生命	955 身体健康	1005 健康
906 家庭幸福	956 身体健康	1006 生命
907 健康	957 很难回答	1007 时间/金钱
908 家庭	958 亲情关系	1008 生命
909 生命	959 国家的富强	1009 健康
910 健康	960 情/爱	1010 生命
911 生命	961 健康	1011 健康
912 艺术	962 家庭	1012 生命
913 生命/知识文化/健康/朋友真情	963 孩子	1013 时间
914 生命	964 家庭	1014 家人
915 生命	965 健康	1015 亲情
916 生命	966 时间	1016 生命
917 亲人/朋友	967 生命	1017 家庭幸福
918 人之间的信任/人情味	968 亲情	1018 亲情
919 家庭	969 生命	1019 生命
920 事业	970 儿子/家人/狗	1020 诚信
921	971 生命	1021 生命健康
922 友谊 /朋友	972 生命	1022 生命
923 生命	973 生命	1023 家庭
924 自我	974 生命	1024 生命
925 健康	975 生命	1025 家庭
926 健康	976 时间	1026 生命
927 健康	977 亲情关系	1027 健康
928 生命	978 亲情/爱情/友情	1028 儿子
929 生命	979 我学人的感情	1029 亲情
930 健康	980 生命	1030 生命
931 健康	981 生命	1031 生命
932 生命	982 人的事业/家庭	1032 生命
933 生命	982 亲情	1033 生命
934 感情/事业	984 时间 和生命	1034 生命
935 眼睛	985 生命	1035 生命
936 身体	986 孩子的未来/生命/健康	1036 国家安全
937 生命	987 身体健康	1037 生命
938 生命	988 亲情	1038 亲情
939 健康/快乐	989 良好的人关系	1039 生命
940 生命	990 钱	1040 亲情
941 生命	991 自由/人权/民主	1041 健康
942 生命	992 生命	1042 生命
943 生命	993 时间	1043 家庭
944 生命	994 生命和事业都很宝贵	1044 生命
945 生命	995 生命	1045 时间
946 家庭	996 生命	1046 健康
947 生命/身体健康	997 人格	1047 亲情/母爱
948 身体健康	998 爱情	1048 生命/亲情
949 亲情	999 家庭	1049 亲情/爱情
950 情	1000 生命	1050 生命
951 亲情	1001 亲情	1051 亲情/身体健康

1052 时间/生命

1053 生命

1054 友谊

1055 自己

1056 爱情/生命

1057 生命

1058 自由

1059 自由

1060 亲情

1061 快乐

1062 生命

1063 健康/财富/家庭

问39a请说出您最尊敬的职业是什么? (自由回答)

(サンプルNo., 回答)

1 教师	51 军人	101 医生
2 科学家	52 农民	102 教师
3 教师	53 教师	103 医生
4 会计师	54 律师	104 设计师
5 军人	55 不论什么工作,只要对国家,人民有益	105 科学家
7 教师	56	106
8 军人	57 救生员	107 文化人
8 教师	58 教师	108 科学家
9 老师	59 教师	109 外交官
10 只做自己喜欢做的	60 没有特别尊敬的	110 老师
11 计算机职业	61 教师/医生(心理学)	111 教师
12 军人	62 教师/环境保护志愿者	112
13 军人	63 教师	113 作家
14 最成功的企业家	64 管理员/技术人员/外交官	114 经理
15 医生	65 法官	115 教师
16 工人	66 教师	116 教师
17 教师	67 教师	117 医生
18 法律	68 记者	118 科学工作者
19 政治家	69 科学家	119 清洁工
20 教师	70 医生	120 教师
21 医生	71 医生/老师/建筑工人/环卫工人	121 政府官员
22 国家领导人	72 教师	122 律师
23 科学家	73 警察	123
24 环卫工人	74 科教人士	124 清洁工
25 护士	75 只要还有人认真努力做着的事,都让人尊敬	125 工人
26 环卫工人	76 教师	126 医生
27 无	77 警察/医生	127
28 教师	78 律师	128 教师
29 劳动人员	79 医生	129 教师
30 为人民服务	80 医生	130 环卫工人
31 厨师/科研人员	81 各行各业	131 教师
32 考古专家	82	132 教师
33 教师/律师	83 政治家	133 教师
34 电气工工程师	84 总理	134 教师
35 医生	85 医生	135 教师
36 科学家/教师/军人	86 社会服务者	136 律师
37 医生	87 教师	137 老师
38 教师	88 教师	138 手工业
39 服装设计师/造型师/艺术大师	89 什么都尊敬,说不清楚	139 企业家 / 白领
40 教师	90 无所谓的事	140 老师 / 警察
41 医疗工作者	91 医生	141 军人
42 医生	92 劳动者	142 开车
43 法律工作者	93 工人阶级	143
44 警察	94 做庆实劳动的工作	144
45 老师/医生/律师	95 电脑工程师	145 老师
46 国家公务员	96	146 律师
47 国家公务员	97 教师/医生	147 医生 / 律师
48 老师	98 教师	148 艺术家
49 医生	99 老师	149 教师
50 医生	100 法官	150 国家 / 主席

151 律师	201 教师	251 大夫
152 体力劳动者	202 科学家	252 法官
153 医生	203 教师	253 医生
154 科研人员	204 军人(时刻准备为国捐躯的人)	254 教师
155 老师	205 教师/医生/政治家	255 科学家
156 教师	206 法官	256 军人
157 教师	207 教师	257 红十字会
158 军人	208 教师	258 国家公务员
159 医生	209 医生/警察	259 系统分析员
160 保护野生动物工作人员	210 医生/教师	260 财务
161 教师	211	261 工人
162 教师	212	262
163 教师	213 教师	263 医生
164 国家公务员	214 自由职业者	264 没有
165 厨师	215 军人	265 医生
166 科学家	216 教师	266 教师
167 医生	217 医生	267 教师
168 军人	218 从事科学研究的人	268 查腐败分子者
169 没有	219	269 大学教师
170 教师	220 教师	270 老师
171 能为人民服务的工作	221 医生	271 医生
172 教师/医生/服务性和职业	222 律师	272 医生
173 教师	223 军人	273 工人
174 教师	224 老师	274 教师
175 老板	225 科学家	275 教师
176 老师	226 文学家	276 教师
177 医生	227 环卫工人	277
178 工人	228 老师	278
179 老师	229 商人	279 教师
180 项目管理师	230 医生	280 教师
181 教师	231 老师	281 科学家
182 革命工作	232 医生	282 公务员
183	233 军人	283 医生
184 医生	234 领导人	284 科学家
185 教师	235 医生	285 医生
186 科研	236 技术面/专业技术人才	286 老师
187 管理者	237 军人	287 医生
188 没有	238 都尊敬	288 科学家
189 老师	239 所有有贡献的职业	289 军人
190 教师	240 军人	290 国家干部
191 法官	241 热能工程	291 老师
192 设备管理	242 电力设计	292 警察
193 社会工作者	243 中医	293 教师
194 医生	244 科技工作者	294 教师
195 老师	245 医生	295 教师
196 军人/中学教师	246 老师	296 教师
197 老师	247 医生	297 演员
198 企业家	248 老师	298 老师
199 医生	249 会计	299 教师
200 军人	250 教师	300 清洁工

301 教师	351 只要属于正当的职业范围之内，都是被尊敬的	401 清洁工/医生
302 教师	352 科学家	402 工人
303 教师	353 科研工作	403 老师/警察
304 教授	354 医生	404 医生/白领
305 警察	355 教师	405 教师
306 教师	356 医生	406 科学工作者
307 军人	357 国家公务员	407 医生
308 经济学家/科学家	358 所有为社会创造物质财富及精神财富的职业	408 老师
309 教师	359 教师	409 手工业
310 教师	360 教师	410 外交官
311 教师	361 环卫工人	411
312 教师	362 金融从业人员	412 管理
313 教师	363 生物系教师	413
314 教师	364 文学家	414 科学家
315 教师	365 教师	415 计算机操作
316 教师	366 警察 / 律师	416 法官
317 教师	367 医生	417 医生
318 士兵	368 教师/医生	418 营销
319 教师	369 白领	419 教师
320 教师	370 教师	420
321 没有好坏之分	371 教师	421 白领
322 教师	372 教师	422 没有
323 幼儿教师	373 教师	423 医生/教师
324 教师	374 科学家	424 清洁工
325 教师	375 教师	425 环卫工人
326 清洁工	376 测量 (建筑)	426 教师
327 医生	377 教师	427 工人
328 律师	378 老师	428 都该尊敬
329 周总理那样的	379 老师	429 教师/律师/医生
330 商人	380 总统	430 教师/法官
331 医生	381 妇联工作	431 搞艺术的
332 警察	382 企业家	432 教师
333 教师	383 医生	433 干一行爱一行/艺术工作
334 军人/治安警/消防人员	384 警察	434 医生
335 为人民服务的工作都尊敬	385	435 模特
336 教师	386 老师	436 教师
337 老师	387 医生	437 老师
338 教师	388	438 老师
339 教师	389 法官	439 医生
340 医生/教师	390 工人/农民	440 医生
341 工人	391 空姐	441 教师
342 革命者	392 科学家	442 医生
343 医生	393 科学家	443 医生
344 医生	394 律师/医生	444 教师
345 老师	395	445 艺术家
346 科学家	396	446 无
347 医生/教师/律师	397 成功的企业家	447 教师
348	398 对国家有贡献的职业	448 医生
349 管理人才	399 老师	449 教师
350 教师	400 医生	450 医生

451 科学家	501 老师	551 警察
452 无	502 教授	552 教师
453 律师	503 科学家	553 只要是正当职业都应当尊敬
454 教师	504 会计师	554 教师
455 自由职业者	505 教师	555 军人
456 医生	506 医生	556
457 为社会服务的都挺好	507 科研	557 教师
458 有经济头脑或办有较为严谨的工作	508 登山运动员/地质工作者	558 老师
459 服务行业的从业人员	509 法官	559 建筑工程师
460	510 坐办公室	560 军人
461 教师	511 医生	561 医生
462 知识分子/科研人员	512 医生	562 教师
463 老师	513	563 老师/师长之类
464 环卫工人	514	564 教师
465 清洁工	515 教师和医生	565 教师
466 种种社会职业的存在就说是离不开这些职业,就应去尊重	516 公安	566 教师
467 军人	517 老师	567 教师/医生
468 教师	518 教师	568 教师
469 医生	519 律师	569 教师
470 医生	520 医生	570 电工
471 教师	521 高科技职业	571 教师
472 为人民服务	522 什么职业都一样	572 教师
473 科技工作者	523 教师	573 医生/教师
474 社会活动家	524 律师/医生	574 老板
475	525 广告公司的经理	575 律师
476 老师	526 教师	576 医生
477 老师	527	577 科学家
478 医生	528 事业单位	578 军人
479 塑料制造	529 每种都挺好	579 教师
480 军人	530 教师	580 律师
481 科学工作	531 老师	581 教师
482 警察	532 医生	582 军人
483 为人民服务的职业	533 军人/老师	583 搞科学技术的人
484 工人	534 老师	584 教师
485 对社会有所贡献的职业	535 科技工作者	585 计划/统计
486 教师	536 搞技术工作	586 教师
487 法律	537 科学家	587 教师
488 实业家/哲学家	538 教师	588 教师
489 体育	539 工人	589
490 所有自食其力的工作	540 医生/服务行业	590 教师
491 政治家	541 律师	591 政治家
492 教育事业	542 老师	592 平凡的工作者
493 教师	543 每个职业都该受人尊敬	593 教师
494 直接为大我数人谋福利的职业,如伟大的政治家	544 商业	594 科研者
495	545 医生	595
496 教师	546 科研	596 公务员
497 教师	547 会计	597 医生
498 为人民就值尊敬	548 教师	598 作家
499 工人	549 商人	599 飞行员
500 清洁工	550 医生	600 司机

601 医生	651 教师	701 教师
602 老师	652 科学家/教师	702 教师
603	653 教师	703 没有
604 科技工作者	654 教师	704 摇滚乐队里的主唱/吉他手
605 教师	655 市场营销	705
606 教师	656 教师	706
607 音乐方面的	657 科学家	707 教师/职员白领
608 教师/医生	658 教师	708 科学家
609 教师	659 教师	709 教师
610 医生	660 科学家	710
611 医生	661 教师	711 教师
612 医生/科技情工作者/社会福利方面的工作者	662	712 军人
613 教师	663 教师	713 教师
614 医生	664 教师	714 医生
615 教师	665 教师	715 靠自己为人民服务/服务行业
616 教师	666 各行各业	716 教师
617 慈善事业工作人员	667 白领	717 科学家
618 教师	668 法官	718 教师/医生
619 教师	669 绘画	719 网络安全
620 医生	670 无	720 老师
621 教师	671 政治家	721 许多职业都值得尊敬,不存在“最”
622 医生/教师	672 教师	722 教师
623 工人	673 能服务于人类,帮助别人	723 教师
624	674 教师	724 学者
625 教师	675 老师	725 律师
626 教师/律师	676 IT	726 老师
627 教师	677 医生	727 国家领导人
628 金融	678 医生	728 教师
629 设计师	679 律师	729 心理医生
630 老师	680 公安	730 教师
631 医生	681 搞自然科学的工作	731 教师
632 医生	682 导游	732 法官
633 现在从事的本行业	683 IT行业	733 教师
634 教师	684 高科技的人材从事的工作	734 律师
635 环保工作	685 清洁工,这种脏活只有他们做,值行尊敬	735 教师
636 科学家	686 本职工作	736 医生
637 技术工作人员	687 厂子里工作	737 有人们有利,有用的职业都尊敬
638 医生	688 设计师	738 刑警
639 医生	689 音乐师	739 教师
640 教师	690 教师	740 会计
641 医生	691 艺术家	741 教师
642 司机	692 高级知识分子	742 法官
643 白领	693 教师	743 教师
644 教师	694 能为人类做出贡献的职业/私企老板	744 教师
645 金融	695	745 医生
646 维护社会治安者	696 教师	746 教师
647 农民	697 会计师	747 医生
648 教师	698 经商	748 教师
649 教师	699	749 教师
650 教师	700 老师	750 慈善事业工作者/救助人员

751 法官	801 医生	851
752 教师	802 工程师	852
753 教师	803 记者	853 工程师
754 教师	804 无	854
755 教师	805 医生	855 教师
756 医生	806 经理	856
757 医生	807 医生/教师	857 教师
758 木工	808 教师	858
759 律师	809 MBA	859 公务员
760 老师	810 教师	860 警察
761 教师	811 老师/医生	861 新闻论者
762 证券	812 医生	862 教师
763 医生/科研工作者	813 科学家	863 新闻
764 教师	814 驻边官兵	864 老师
765 军人	815	865 医生
766 铁路工人	816 医生/科研共员	866
767 医生	817 教师	867
768 律师/教师	818 老师	868 军人
769 解放军	819 服务人员/主持人	869
770 教师	820 医生	870 老师
771 老师/医生/解放军	821 企业管理者	871 老师
772 医生	822 科学技术人员	872 老师
773 翻译	823 教师	873 警察
774 科学家	824	874 高科技 从业人员
775 都一样,任何一个有道德的职业	825 老师	875 老师
776 护士	826 该怎么说呢/不好回答	876 老师
777 教师	827 教师	877 老师
778 营销	828 律师	878 老师
779 工程师	829 科学家/可以造福人类的	879 老师
780 科学家	830 法官	880 教师
781 医生	831 医生	881 考古学者/牙签诊所的经营者,大公司的 部门经理
782 教师	832 教师	882 教师
783 教师/工人	833 教师	883 军人
784 教师	834 科学家	884 清洁工
785 律师	835 医生	885 军人
786 外交官	836 警察	886 军人
787	837 军人	887 白领丽人
788 教师	838 教师	888 科学家
789 领导	839 军人	889 服务员
790 护士	840 医生	890 科学家
791 园林机械	841 医生	892 教师
792 律师	842 医生	893 教师
793 没有	843 医生	894 律师
794 教师*医生	844 政治家	895 医生
795 公务员	845 工程师	896 教师
796 司机	846 画家	897 教师
797 心理医生	847	898 比尔·盖茨
798 教师	848 律师	899 环境保护工作人员
799 教师	849 教师/技术人员	900
800	850 教师	901 教师

902 在几十年的生涯中,每个阶段所经过的职业都是最尊敬的	952 科学家	1002 教师
903 自由职业	953 自由职业者	1003
904 律师	954 医生	1004 教师
905 医生	955 建筑	1005 教师
906 工人	956 自由职业	1006 IT
907 科学家	957 很难回答	1007 医药行/医生
908 医生	958 医生	1008
909 劳动者	959 真正为老百姓办事的公务员	1009 只要对社会有贡献/工程师
910 声乐家	960 目前自己的职业	1010 职业不分贵贱都认为值得尊敬
911 教师	961 教师	1011 医生
912 对社会有用的职业都尊敬	962	1012 老板
913 教师/从事环保事业的/帮助爱滋病患者的医护人员	963 律师	1013
914 机关职业	964 公务员	1014 医生
915 运动员	965 律师	1015 教师
916 医生	966 医生	1016 外企职员
917 教师	967 教师	1017 医生
918 教师/科学家	968 教师	1018 无偏向
919 教师	969 兽医	1019 老师
920 每个职业都值得尊敬	970 医生	1020 教师
921 所有职业	971 工人	1021 教师
922 技术性能强的职业	972 医生	1022 医生
923 医生/教师	973 医生	1023 任何正当的职业都尊敬
924 环卫工人	974 服从组织分配	1024 律师
925 企业家	975 大学教授	1025
926 会计	976 教师	1026 医生
927	977 职员	1027 教师
928 医生	978 老师	1028 军人
929 服务业	979 外交官	1029 教师
930	980 科学家	1030 象牙雕刻师
931	981 体育方面的职业	1031 教师
932 领导人	982 医生/教师/律师/工人/公务员	1032 教师
933 财务	982 军人	1033 会计
934 技术工作者	984 教师/医生	1034 医生
935 航天事业	985 律师	1035 教师
936 救死扶伤	986 教师	1036 清洁工人
937 科学家	987 教师	1037 教师
938 教师	988 教师/科学家	1038 没有任何尊敬的职业
939 社会服务者	989 政治家	1039 工程师
940 法官	990 高层工商理人员	1040 医生
941 没有	991 科学/教育	1041 医生
942 老师	992	1042 教师
943 律师/老师	993 教师	1043 教师
944 律师	994	1044 老师
945 作家	995 军人	1045 老师
946 个体户	996 医生	1046 老师
947 信息与技术	997 公务员	1047 律师
948 教师	998 老师	1048 医生
949 环卫工人	999 考古工作者	1049 科学家
950 老师	1000 医生	1050 军人
951 母亲/公务员	1001 特警	1051 律师

1052 公务员
1053 医生
1054 教师
1055 医生
1056 警察
1057 为人类的发展做出贡献的职业
1058 教师
1059 学者
1060 服务行业
1061 老师
1062 教师/医生
1063 老师

问39b 那么，您本身实际上最想从事的职业是什么呢？（自由回答）

(ツブ MNo., 回答)

1 教师	51 军人	101 工人/做好本职工作
2 科学家	52 自由职业	102 自由人
3 教师	53 教师	103 邮局工作
4 计算机网络	54 私营业主	104 医生
5 教师	55 为人民服务的职业	105
7 医生	56 技师	106 律师
8 科研	57 救生员	107 文化方面的
8 军人	58 教师	108 技术工作
9 老师	59 教师	109 外交官
10 经济领域(经济贸易方面的)	60 休闲(任何事情都不想做)	110 经理
11 司机	61 自由职业者	111 值班主任
12 建筑工程师	62 科学家	112 当兵
13 自由职业者	63 老板/志愿者	113 旅行家
14 一个优秀的企业家	64 会计/统计员	114 经理
15 个体经营	65 经济师	115 警察/军人
16 军人	66 医生	116 法官
17 广告	67 高级主管	117 医生
18 经商(画廊,艺术品)	68 律师	118 科学工作者
19 公务员	69 解决社会问题的工作	119 职业经理
20 教师	70 自由职业	120 建筑设计
21 办公室工作	71 教师	121 政府官员
22 在家不工作	72 老师	122 律师/心理学家
23 医生	73 警察	123 社区服务
24 教师	74 科教人士	124 政府官员
25	75 发挥创意的	125 工人
26 律师	76 教师	126
27 能挣钱就可以	77 警察	127
28 研究动物	78 律师	128 科学研究工作者
29	79 生活有保障的职业	129
30 政府工作	80 电力工作	130 教师
31 厨师	81 经济管理	131 教师
32 军人	82	132 科研工作者
33 会计/经商/福利院的管理人员	83 经商	133 法官
34 电气工程师	84 不劳而获的那种工作	134 教师
35 医生	85 管理人员	135 教师
36 比较自由不被很约束的职业/军人/体育方面的管理人员	86 财务工作	136 律师
37 医生	87 应用科学/工程师	137 法律
38 教师	88 财务	138 手工艺品业
39 明星	89	139 自己开公司
40	90 医生	140 财务
41 金融	91 医生/教师	141 解放军
42	92 教师	142 开出租车
43 律师	93 劳动,只要是劳动就可以	143
44 科学家	94 教师	144 教师
45 老板	95 电脑工程师	145 播音员 / 主持人
46 国家公务员	96 管理者	146 商人
47 国际交流行业(如翻译/外交部)	97 搞科研	147 教师
48 公关	98 有工作就行	148 摄影记者
49 医生	99 管理人员	149 律师
50 金融/证券行业	100 医生	150 金融

151 医生	201 教师	251 大夫
152	202 科学家	252 医生
153 销售	203 教师	253 教师
154 科研人员	204 自由职业者	254 企业经理人
155 医生	205 政治家	255 白领阶层
156 修理工人	206 裁判员	256 军人
157 IT/互联网/计算机	207 律师/法律方面的工作	257 程序员/金融分析
158 军人	208 教师	258 法官
159 非盈利团体	209 医生	259 系统分析员
160 游记	210 医生	260 财务
161 电子	211 司机/政治家	261 厨师
162 科学家/技术工作	212	262 什么工作都一样
163 音响师	213	263 医生
164 城管	214 自由职业者	264 没有
165 厨师	215 管理者	265 医生
166 教授	216 教师	266 工人
167 老师	217 自由职业者	267 文学创作
168 军人	218 为人民服务的职业	268 商业
169 老板	219 从没想过	269 大学教师
170 国家行政	220 警察	270 老师
171 教师/科技	221 医生	271 医生
172 教师	222 律师	272 医生
173 图书管理员	223 机械维修	273 干部
174 敬老助残业	224 老师	274 教师
175 老板	225 科学家	275 医生
176 饭店	226 公务员	276 医生
177 舞蹈/音乐	227 工人	277
178 企业家	228 幼儿园老师	278
179 老师	229 商人	279 图书馆馆员
180 项目管理师	230 医生	280 商人
181 职业经理人	231 厨师	281
182 无产阶级的革命工作	232 医生	282 园林工作者
183	233 律师	283 售票员
184 搞经济	234 旅游	284 没有
185 医生	235 没想过	285 个体户
186 勤务员	236 技术工	286 老师
187 管理	237 军人	287 医生
188 没有	238 没有特别喜欢的	288 教书/科研
189	239 教师	289 会计
190 医生	240 军人	290 医生
191 法官	241 信息专业	291 老师
192	242 医务工作	292 警察
193 IT	243 中医	293 服饰行业
194 传媒	244 计算机行业	294 经理
195 老师	245 工程师	295 播音员
196 军人	246 建筑	296 足球教练
197 翻译家	247 医生	297 厨师
198 网络电脑方面	248 钢琴老师	298 教练
199 警察	249 市长	299 教授
200 军官	250 传教士	300 人民法官

301 经理	351 工程师	401 警察
302 职业女性	352 I T	402 钳工
303 教师	353 科研工作	403 警察
304 管理人员	354 教师	404 商业
305 医生	355 室内设计师	405 护士
306 推销	356 管理人员	406 科研
307 军人	357 国家公务员	407
308 经济工作	358	408 企业方面
309 教师	359 医生	409 能创造财富就行
310 教练/军人	360 医生	410 会计
311 当女军人	361 园林工人	411
312 军人	362 金融从业人员	412 管理
313 军人	363 医生	413
314 当总统	364 文学家	414 律师
315 教师	365 自由职业者	415 服装设计
316 教师	366 律师	416 运动员
317 教师	367 律师	417 医生
318 士兵	368 教师	418 营销
319 医生	369 工人	419
320 有工作部门	370 司机	420 哲学家
321 园艺	371 技术工作	421 白领
322 演员	372 教师	422 警察
323 幼儿教师	373 法官	423
324 演员	374 科学家	424 物业工作
325 军人	375 会计	425 当兵/医生/舞蹈家/画家
326 企业经理	376 建筑测量	426 财务人员
327 警察	377 公务员	427 工人
328 公司经理	378 编辑	428 技术人员
329 教师	379 律师	429 医生
330 市场营销	380 会计师	430 设计师
331 IT业	381 对外贸易经济	431 艺术家/书法/绘画/雕刻
332 律师/军人	382 导游	432 教师
333 外交官/外事人员	383 科技工作者	433 艺术老师
334 当官/警察	384 计算机网络工作	434 医生
335 机械方面的/飞行员	385	435 世界名模
336 教师	386 老师	436 歌星
337 家庭主妇	387 艺术家	437 商人
338 从事医疗临床工作	388 医生	438 老师
339 教师	389 国家公务员	439
340 医生	390 厨师	440 医生
341 环保工作	391 银行会计	441 文艺工作者
342 共产主义	392 工人	442 军官
343 医生	393 科学家	443 律师
344 文艺工作	394 老板	444 艺术工作者
345 服装设计师	395	445 教师
346 科研工作	396 计算机	446 生物学家/考古学家
347 医生/律师	397 企业家	447 医生
348 运动员	398 管理方面	448 医生
349	399 老师	449 自由职业者
350 教师	400 医生	450 科技人员/研究人员

451 科学家	501 老师	551 警察
452 经商	502 管理工作	552 教师
453 么企老板/人人职业	503 制冷	553 从事力所能及的职业
454 总经理/自己开公司	504 会计师	554 教师
455 画家	505 律师	555 律师
456 从事与体育有关的职业	506 私企老板	556 外企职员
457 为社会做贡献的,也说不太好	507 传媒	557 教师
458 自己现在的职业就不错	508 自由职业	558 工程师
459 服务和业的从业人员	509 警察	559 医生
460 管理人员	510 坐办公室	560 医生
461 房地产	511 董	561 民营企业老板
462 医生	512 白领	562 教师
463 建筑	513	563 司机
464 军人	514	564 老师
465	515 教师	565 私企老板
466 看机遇和社会的分工	516 军人	566 教师
467	517 司机	567 医生
468 只要上班就行	518 教师	568 公务员
469 医生	519 金融业	569 警察
470 公司职员	520 老板	570 主席
471 教师	521 科研	571 管理人员
472 司机	522 文化艺术类	572 图书管理员
473 医生	523 教师	573 广告
474	524 计算机	574 警察
475 工人	525 部队中的阻击手	575 护士
476 老师	526 什么也不想干	576 书法/绘画 /艺术家
477 挣钱多的职业	527 教师	577 司机/管理人员
478 护士	528 会计	578 宇航员
479 公务员	529 健美教练	579 [家庭主妇
480 军人	530 教师	580 司机
481	531 翻译	581 教师
482 警察	532 医生/科技工作者	582 行政人员
483 办公室职员	533	583 科技成果
484 工人	534 医生	584 工程师
485 教育行业	535 科技工作	585 计划/统计
486 电脑工程师	536 搞技术工作	586 法官
487 老师	537 艺术	587 咨询人员
488 音乐家	538 教师	588 教师
489 体育	539 文艺	589 饮食业
490	540 作家	590 画家
491	541 军人	591 服务
492 研究易经	542 老师	592 平凡的工作者
493 导游/法官	543 金融业	593 教师
494 伟大的政治家,作家	544 秘书	594 科研学者
495 司机	545 教师	595 自由职业
496 医生	546 有自己的事业	596 社区服务
497 机械设计	547 自由职业	597 工程师
498 为人民服务	548 教师	598 社区工作者
499 管理人员	549 音乐	599 企业管理员
500 读书/唱歌/跳舞	550 医生	600 科研工作者

601 医生	651 教师	701
602 老师	652 教师	702 无所谓
603	653 有兴趣,能自主	703 司机
604 教师	654 教师	704 摇滚乐队里的主唱/吉他手
605 图书馆管理员	655 市场营销	705
606 教师	656 教师	706
607 指挥	657 医生	707 教师
608 教师	658 科研	708 经济工作者
609 女警	659 教师	709
610 医生	660 教师	710
611 工人	661 艺术家	711 有成就感/有挑战性的职业
612 各种适合自己的职业	662	712 军人
613 艺术家	663 教师	713 教师
614 医生	664 商人	714 IT
615 教师	665 教师	715 为下岗职工多找些有利的工作,再就业
616 工程师	666 经商	716 教师
617 高级研究员/技术顶尖高手	667 工人	717 技术工程师
618 警察	668 律师	718 售货员
619 策划	669 绘画	719 国家安全方面的/国家网络安全/网络安全工程师
620 商人	670 自由职业	720 金融专家
621	671 教师	721 我们生活的年代是服从分配
622 空姐	672 教师	722 机关干部
623 运动员	673 医生	723 军人
624	674 大厨	724 自由职业
625	675 IT	725 警察
626 律师	676 医生	726 推销员
627 教师	677 老师	727 国家领导人
628 金融	678 教育方面,如教师	728 教师
629 设计师	679 法律工作者	729 能用外语采访的记者
630 白领丽人	680 公安	730 教师
631 医生	681 科研方面的工作	731 医生
632 医生	682 导游	732 法官
633 当市长	683 服务员	733 工人
634 搞文物工作	684 科学研究员	734 律师
635 搞农业	685 传教士	735 自由职业者
636 个人创业	686 消费	736 律师
637 维修工作	687 工厂工作	737 从事自己专业相同的专业的工作
638 医生	688 设计师	738 法官
639 自己创业	689 音乐师	739 教师
640 教师	690 幼教	740 会计
641 医生	691 艺术家	741 民航系统/外经贸部门
642 有权工作	692 司机	742 火车的乘务员
643 秘书	693 司机	743 教师
644 校长	694 司机	744 科研
645 证券/金融/法律	695	745 医生
646 警察	696	746 教师
647 总统	697 保姆	747 足球明星
648 教师	698 管理工作	748 自己开公司,不受别人管制
649	699 自己做生意	749 企业家
650 教师	700 广告设计	750 研究人员

751 记者	801 自由职业者	851 经商
752 教师	802 个体企业老板	852 运动员
753 会计	803 老师	853 司机
754 医生	804 无	854
755 推销员	805 医生	855 医生
756 医生	806 自己开服装店	856
757 医生	807	857 教师
758 木工	808 教师	858
759 律师	809 MBA	859 公务员
760 老师	810 教师	860 警察
761 教师	811 商业	861 新闻论者
762 证券	812 医生	862 教师
763 经济类	813 经理	863 老师
764 领导干部	814 教师	864 老师
765 军人	815	865 医生
766 铁路工人	816 医生/科研人员	866 会计
767 医生	817 教师	867 建筑业
768 艺术家	818 文化工作	868 军人
769	819 科室人员	869 军人
770 教师	820 领导人/自由职业	870
771 医生	821 企业管理人员	871 管理人员
772 经商	822 医生	872 CEO
773 旅游	823 教师	873 警察
774 舞蹈家	824	874 高收入的职业
775 自由职业	825 都退休了不再想什么理想了	875 金融从业人员
776 IT产业人员	826 理想和实际差的很远	876 成为一名讲师
777 教师	827 个体经营者	877 老师
778 营销领域中的佼佼者,如高级管理人员	828 律师	878 IT业
779 工程师	829 只要是最大程度可以发挥自己的能力 不论是个人从事还是集体行为都是受 访者最愿从事的	879 医生
780 企业家	830 教练	880 教师
781 医生	831 老师	881 考古学者
782 慈善	832 工程师	882 教师
783 棋手	833 慈善事业	883 记者
784 教师	834 研究自然科学	884 警察
785 律师	835 工程师	885 公务员
786 导游	836 只想自己	886 老师
787 公务员	837 公务员	887 白领
788 外交家	838 铁路职员	888 领导者
789 领导	839 医生	889 警察
790 警察	840 工程师	890 设计师
791 绘画/书法	841 医生	892 医生
792 律师	842 作家	893 教师
793 个体户	843 医生/教师	894 律师
794 教师	844 领导	895 计算机技术人员
795 自由职业者	845 管理人员和经理	896 科学家
796 领导	846 律师	897 法官
797 心理医生	847	898 老板
798 医生	848 律师	899 发挥自己=特质的职业
799 教师	849 教师	900 个体职业
800 群众工作	850 教师	901 教师

902 教书匠	952 工人	1002 幼教
903 销售经理	953 作家	1003 老板
904 职业女性(白领)	954 护士/医学方面工作者	1004 自由职业
905 计技人员	955 建筑师	1005
906 领导级别	956 电脑设计者	1006 IT
907 科研	957 很难回答	1007 医药行
908 医生	958 当国家总理	1008 商人
909 教师	959 公务员	1009 律师
910 搞声乐	960 销售	1010 工人
911 老师	961 科研	1011 医生
912 搞艺术	962	1012 做商人
913 音乐家/教师	963 律师	1013
914 司机	964 公务员	1014 医生
915 教师	965 律师	1015 设计师
916 教师	966 教师	1016 工商工作者
917 翻译	967 教师	1017 医生
918 管理工作	968 当上司	1018 军人
919 教师	969 海洋训兽员	1019 企业家
920 教师	970 医生	1020 军人
921	971 当官	1021 教师
922 力所能及的工作	972 没想过	1022 医生
923 教师	973 军人	1023 从事有关孩子的工作
924 编辑	974 一般的科员	1024 律师
925 创业者	975 技术工人	1025
926 有活儿就行	976 医生	1026 医生
927 旅游业	977 种植业	1027 教师
928 医生	978 记者	1028 军人
929 航空	979 外交官	1029 社会科学家
930	980 教师	1030 军人
931	981 科学方面的	1031 企业高级管理人员
932 富翁	982 公务员	1032 教师
933 厨师	982 首席行官	1033 会计
934 技术工作者	984 国家安全部工作	1034 商人
935 科技	985 律师	1035 教师
936 搞技术	986 教师	1036 清洁工
937 医生	987 自由职业	1037 工人
938 艺术家	988 财会	1038 CEO (首席执行官)
939 公务员	989 商人	1039 工程师
940 法官	990 高层工商管理人員	1040 商人
941 没有	991 科学/教育	1041 演员
942 医生	992 教师	1042 教师
943 导游	993 教师	1043 公司经理
944 老师	994	1044 教练
945 医生	995 军人	1045 律师
946 个体户	996 农民	1046 服装设计
947 信息与技術	997 公务员	1047 公务员
948 医生	998 IT	1048 会计
949 环保工作者	999 考古工作者	1049 文学家
950 老师	1000 警察	1050 当兵
951 公务员	1001 特警	1051 白领

1052 公务员
1053 文字性的工作
1054
1055 老师
1056 教师
1057
1058 教师
1059
1060 服务行业
1061 公务员
1062 项目管理
1063 自由职业

问30 如果问起您中国文化, 最初浮现在您脑海的是什么? (自由回答)

(番号/No., 回答)

1 四大发明	61 名著	121
2 晋唐宋元	62	122 四大发明
3 长城等古建筑	63 鲁迅	123 四大发明
4 琴棋书画	64 电器	124 唐诗
5 四大发明	65 长城	125 泥人、陶瓷
6 明清小说	66 鲁迅文学	126 语言、文学、作品
7 唐宋文化	67 长城	127 瓷器
8 四大发明	68 古玩	128 小说
9 河母渡文化	69 语言	129 科学
10	70 孔子	130 国画
11 龙门石窟	71 书籍	131 建筑
12 京剧	72 古董、文物	132
13 秦始皇兵马俑	73 故宫、长城	133 四大发明
14 古建筑	74 陶瓷	134 孔子
15 五千年历史	75 秦始皇兵马俑	135 孔子
16 绘画(山水画)	76 文房四宝	136 中国武术
17 长城	77 长城	137 故宫
18 三字经	78 北京	138 大学教育、四大发明
19 五千年历史	79 长城	139 四大名著
20 红楼梦等明清小说	80 上海、长城	140 博大精深、申奥
21 四大发明	81 四大发明	141 长城
22 唐诗	82 瓷艺	142 长城、太极拳
23 迅速改变落后面貌	83 东方明珠	143 四大发明、文明古国
24 长城、故宫	84 古迹	144 文化、儒家
25	85 孔子	145 音乐、舞蹈
26	86 长城	146 京剧、评弹
27 长城、文化丰富、历史悠久	87 孔子	147 长城、京剧
28 中国文字	88 宗教	148 鲁迅
29 四大发明	89 四大发明	149 故宫、孔子
30 国画	90 四大名著	150 孔子
31 中国文字	91 孔子	151 教育
32 长城	92 历史悠久	152 山顶洞人, 钻木取火
33 文明古国, 万里长城	93 张乐平画家	153 文艺方面的, 音乐, 舞蹈
34	94	154
35 国画	95 孔子	155 孔孟之道
36 戏曲、京剧越剧	96 四大发明	156 四大名著, 孔子
37 长城	97 巴金的作品	157 鲁迅, 老舍
38 长城	98 <<红楼梦>>	158 甲骨文
39 中国历史、朝代变迁	99 古文化	159 要保护文化 遗产
40 音乐文化	100 故宫	160 文艺, 戏剧
41 国家经济文化	101 <<史记>>	161 儒家思想
42 古迹	102 四大发明	162 故宫, 长城
43 沪剧	103 宋词	163 孔孟之道, 四大发明, 红楼梦
44	104 中庸之道、传统保守	164 四大发明
45 唐诗宋词	105 丝绸之路	165 长城
46 历史文化	106 上下五千年历史	166 文艺
47 中国历史	107	167 唐诗宋词
48 儒家	108 文天祥	168 鲁迅先生的文章
49 食文化	109 唐诗	169 孔子
50 长城	110 儒学	170 长城
51 甲骨文	111 书法	171 故宫
52 民族风情	112 京剧	172 书法
53 书法、绘画	113 戏曲	173 汉字
54 孔夫子	114 火药	174 中医
55	115 书法	175 书法
56 道 教	116 四大名著	176 纸张
57 四大名著	117 古人老话	177 长城、故宫
58	118 京剧、戏曲	178 四大发明
59 科举	119 压抑	179 长城
60	120 长城	180 孔子

181 融合力	241 京剧	301 孔子学说
182 孔子	242 茶道	302 北京故宫
183 纸张	243 书法	303 饮食文化
184 四大发明	244 孔孟之道	304 长城
185 悠久的历史	245 长城	305 京剧
186 孔孟之道	246 孔子	306 <<上下五千年>>
187 四大发明	247 科学(四大发明等)	307 古人的古板,中国的风俗
188 孔子	248 长城	308 战争
189 历史	249 孔子	309 四大发明
190 四大发明	250 孔子	310 佛教,儒教,道教
191 兵马俑	251 没印象	311 兵马俑
192 茶文化	252 文学、历史	312 戏曲文化、年俗
193 算命	253 孔子	313 人文教育
194 黄帝	254 孔子	314 文明古国、历史悠久
195 孔子	255 长城	315 中国古代知识常识
196 历史	256 书法	316 戏曲
197 历史传统	257 书法	317 京剧
198 文学	258 历史	318 悠久的历史文化
199 四大发明	259 火药	319 中国古建筑
200 读书	260 孔孟之道、孝	320
201 科学技术	261 道家	321 古建筑
202 孔孟之道	262 孔子	322 诚信
203 佛教	263 山水画	323 中国古老、悠久的历史文化
204 四大发明	264 书法、绘画	324 孔孟之道
205 四大发明	265 养花	325 孔孟之道
206 戏曲	266 秦始皇统一中国	326 悠久的历史文化
207 京剧	267 长城	327 悠久的历史文化
208 四大发明	268 古代铜版	328 戏曲
209 甲骨文	269 四大发明	329 古建筑
210 历史悠久	270 刺绣艺术	330 中国古典文学
211 孔孟之道	271 中国的戏曲艺术	331 悠久的历史文化
212 四大发明	272 书法	332 历史文物
213 四大发明	273 北京的四合院	333 甲骨文
214 四大发明	274 诸子百家	334 长城, 故宫
215 悠久的历史	275 丝绸之路	335 中国书法, 丝绸
216 四大发明	276 中国古代服饰文化的演变	336 四大发明
217 甲骨文	277 戏曲艺术	337 中国瓷器文化, 忠孝
218 儒家学说	278 秦朝的兵马俑	338 故宫, 圆明园
219 书法	279 唐诗宋词	339 传统文代
220 京剧	280 京剧	340 中国的茶道
221 龙	281 战国时期的纷争	341 长城
222 丝绸之路	282 战国时期的纷争	342 戏曲
223 中国音乐	283 旅游资源丰富, 风景秀丽	343 圆明园
224 中国历史悠久	284 京剧	344 文明古国
225 中国古代艺术	285 博大精深	345 四大发明
226 诗词文学艺术	286 四大发明	346 孔孟之道, 唐诗宋词
227 中国古代建筑艺术	287 沪剧等戏剧	347 儒家, 道家, 秦始皇
228 中国的建筑	288 京剧	348 四大发明, 秦俑
229 建筑艺术	289 龙文化	349 天安门
230	290 京剧	350 礼义之邦, 孝为先。乐于助人
231 中国古代建筑	291 东方明珠	351 唐诗, 宋词
232 中国的悠久历史	292 长城, 故宫, 五千年的文明	352 书法, 儒家思想
233 京剧	293 农民起义, 清, 唐腐败	353 天安门, 故宫, 唐诗宋词
234 古代建筑艺术	294 孔子孟子老子	354 佛
235 人的文明程度	295 四大发明	355
236 儒家思想	296 秦陵兵马俑	356 历史
237 名·古迹, 诗歌艺术, 书籍	297 兰花文化	357
238 中国的悠久历史	298 汉语文字	358
239 勤劳	299 水浒, 三国演义	359 古代文化
240 孔子	300 京剧	360 历史

361 历史	421 瓷器	481
362 原始文明	422 美食	482 四大发明
363 历史	423 唐装、陶瓷	483 长城
364 古典名著	424 瓷器	484 儒学
365 饮食	425 四大发明、茶叶	485 青铜器, 甲骨文
366 历史	426 四大发明	486 古典文学
367 四大发明	427	487 四书五经
368	428	488 儒学
369 历史	429	489 中国人的传统美德
370 孝	430	490 长城, 故宫
371 茶	431 古代建筑	491 悠久的历史
372 儒家文化	432 孔子	492 菩萨
373 悠久的历史	433 长城	493 四大发明
374 孝道	434	494 封建时期领先于世界
375	435	495 文化大革命
376 中国文字	436 长城	496 科学, 田
377 中庸之道	437 孔子	497 四大发明, 封建, 地主, 农民
378 京剧	438	498 上大学
379 文学成就巨大	439	499
380 历史悠久	440 古迹	500 赚钱
381	441	501 悠久的历史特点
382 京剧	442 孔夫子、长城	502 祖先的发明
383	443 长城、故宫	503 大学
384 中国四大发明	444 古建筑、长城	504 文化高, 修养好
385 长城	445 孔孟文化	505 站争
386 京剧	446	506
387 建筑	447	507 文学艺术
388 茶文化	448 孔夫子	508 孝顺, 保守
389 茶文化	449 围棋、书法	509 高大的佛像
390 中国四大发明	450	510 武术, 戏剧, 文物
391	451 孔孟思想	511 稳定, 赚钱
392	452 琴棋, 书画, 四大发明, 文房四宝	512 古典性
393 红楼梦之类艺术作品	453 皇帝、历史	513 文化的悠久性和古典性
394 诗歌	454 春节、月饼	514 战争
395 发达的科学	455 丝绸	515 长城
396 古典音乐	456 四大发明、毛笔	516 长城
397 京剧	457 武术	517 悠久历史
398 红楼梦	458 瓷器、丝绸	518 孔子, 儒家
399	459 孔孟、道教、文化	519 茶文化
400	460 古建筑	520 长城
401 长城	461 毛笔、四大发明、儒家学说	521 鲁迅
402 红楼梦	462 文化、艺术	522 孔子
403	463 文化知识(文学作品、艺术)	523 文明古国
404	464 历史、龙	524 文字
405 毛笔、旗袍	465 四大发明、文字	525 书法, 国画
406 丝绸、陶瓷	466 毛笔、文字、龙	526 紫禁城
407 四大发明、华佗中医	467 兵马俑、古代的建筑	527 饮食文化
408 陶瓷	468 历史	528 万里长城
409 茶叶	469 四大发明	529 故宫
410 陶瓷	470 历史	530 孔子, 孟子
411 旗袍	471 古文化	531 历史
412 元宵、粽子、食品	472 儒家人化, 孔孟之道	532 茶道, 饮食文化
413 诗词、四大发明	473 儒学	533 故宫
414 服装、茶叶	474 中国历史	534 兵马俑
415 五千年历史, 唐诗, 宋词, 元曲, 明清小说	475 长城等名·古迹	535 故宫
416 茶叶	476 孔子	536 兵马俑
417 茶叶	477 长城, 故宫	537 唐诗宋词
418 丝绸瓷器、四大发明	478 中国历史	538 孔孟之道
419 丝绸	479 尊敬祖先	539 四大发明
420 美食	480 四大发明	540 四大发明

541 长城	601 京剧	661 筷子
542 孔孟之道	602 红楼梦	662 长城
543 戏曲	603 长城	663 鲁迅
544 古典文学	604 唐朝文化、秦始皇	664 文字、艺术、书法、四大发明
545 三国	605 孔孟之道	665 兵马俑
546 秦始皇兵马俑	606 古典四大名著	666 书法
547 孔子	607 鲁迅先生	667 孔孟之道
548	608 长城	668 古老文化、四大发明、长城、茶、吃文化
549 京剧	609 茶	669 中国的文学作品、哲学思想
550 四大发明	610 饮食文化	670 长城
551 兵马俑	611 京剧	671 鲁迅
552 长城	612	672 中国历史
553 三国演义	613 茶文化、书法、琴艺	673 中国文字、历史
554 红楼梦	614 长城	674 长城
555 孔子	615 长城	675 中国的风俗习惯
556 京剧	616 长城	676 长城
557 长城	617 京剧、国画	677 唐朝文化
558 国画	618 龙、武术、书法	678 诗歌、诗词
559 戏曲	619 书、四大发明	679 北京
560 紫禁城	620 长城	680 古城、名迹、历史悠久的小城
561 孔孟之道	621 传统文化	681 长城
562 戏曲	622 电脑、长城	682 北京
563 长城	623 长城	683 北京
564 古玩	624 古董、服饰、气质、思维	684 孔子
565 书法	625	685 政治
566 长城	626 历史传下的文章	686 京剧艺术
567 历史	627 秦始皇	687 北京
568 戏曲	628 沪剧	688
569 古典小说	629 京剧	689 古诗
570 京剧	630 中国武术	690 北京
571 孔子	631 中国 武术、长城	691 古诗
572 国画	632 长城	692 古代文明、长城
573 孔孟	633 世博会	693 故宫、长城
574 历史	634 四大发明	694 北京、申报奥运
575 食文化	635 孔子、唐朝	695 北京
576 科技教育	636 历史悠久	696 故宫
577 龙文化	637	697 北京
578 朝代帝王	638 戏曲	698 北京
579 朝代、统治者	639 皇帝	699 鲁迅、古文物
580 历史悠久	640 五千年悠久的历史	700 北京
581 长城	641 唐诗宋词	701 传统美德
582 少数民族	642 长城	702 国画
583 四大发明	643 沪剧	703
584 四大发明	644 小说、例如四大名著	704
585 佛教	645 长城、故宫	705 京剧
586 风景文化	646	706 建筑(长城)、手工艺品
587 服装	647 茶文化	707 佛
588 5000年文化史	648	708 佛文化
589 丝绸、长城	649	709 孔子
590 长城、建筑、民族文化	650 长城	710 文化人物
591 历史悠久	651 名·、四大发明	711 孔子、孟子
592 长城	652 长城、四大发明	712 长城
593 民族风情	653 长城	713 五千年历史
594 历史悠久	654	714 书法
595 儒家、伦理道德	655 四大发明	715 各地区教育发展不平衡
596 唐文化	656 民间手工艺品	716 上下五千年
597 中国菜	657 民族文化	717 戏曲
598 长城、孔子	658 古典文学(四大名著)	718 长城、孔子
599 苏州园林	659 审辨	719 四大发明
600 兵马俑	660 孔子	720 古币、古代武器

721 秦始皇、兵马俑	781 四大发明	841 电脑
722 戏曲	782 长城	842 建筑, 书画, 儒家文化
723 四大发明	783	843
724 唐文化	784 伦理道德	844 京剧
725 出工的木乃伊	785 古典音乐	845 文化遗产
726 古代的文化、儒家文化等 等	786 古建筑	846 书法, 戏曲
727	787 唐诗宋词	847 文字
728 四大发明	788 五千年的历史	848
729 传统观念	789 龙的传人	849 京剧, 陶瓷
730 唐诗宋词	790 孔子	850 历史文化
731 儒家文化	791	851
732 长城	792	852
733 四大发明	793	853 孔子学说, 岳飞爱国精神
734 传统保守的观念	794 长城	854 解放战争
735 四大发明	795	855
736	796	856
737 四大发明	797 中庸之道	857 北京故宫、长城等
738 悠久的历史	798 儒家文化, 长城, 兵马俑	858 故宫
739 民族自豪感	799	859 对中国传统文化的认识及理解
740 中国书法文化	800 书法	860
741 古迹, 建筑物	801	861
742	802	862 孔子儒家学说
743 四大发明	803	863
744 勤劳的人民群众	804 京剧	864
745 四书五经	805	865
746 四大发明	806 悠久	866 中国人民的传统美德
747 中医	807 瓷器	867 礼教
748 诗歌	808	868 四大发明
749 古老建筑、茶道	809 瓷器、孔子	869 孔子
750 国画	810 服饰, 语言, 文艺, 杂技, 音乐, 饮食, 健康	870 传统美德
751 长城、故宫	811 中国的饮食、古代文明	871
752 兵马俑	812 敦煌、造纸、印刷术、火药、焰火	872
753 长城	813	873
754 饮食文化	814	874 长城
755 孔孟之道	815 龙、饮食文化、礼仪	875 东方明珠、外滩
756 孔子	816 孔子、儒家文化	876 京剧
757 丝绸	817 中国结、民俗、春节	877 长城
758 儒家思想	818 民歌、服饰、中药	878 兵马俑
759 四大发明	819 长城	879 东方明珠塔
760 古老的文明	820 故宫、紫禁城	880 四大发明
761 四大发明	821 国画、饮食	881 四大发明
762 饮食文化	822 古代四大发明	882 丝绸之路
763 茶道	882 龙、长城	883 书法
764 古典小说	882	884 北京
765 饮食文化	825	885 北京猿人、三国、水浒、红楼梦等
766 唐诗宋词	826 长城、兵马俑	886 古诗词
767 古代建筑物	827 少林、武术	887 古典小说(三国、红楼梦)
768	828 兵马俑	888 孔子
769 儒家文化	829 天安门、瓷器	889 长城、古老建筑
770 古代文学	830 古迹	890 长城
771 古代建筑	831 悠久的历史	891 书法、书画
772 四大发明	832 京剧	892 东方明珠塔
773 古建筑	833 历史	893 四大名著
774 长城	834 国画, 书法	894 书法、水墨画
775	835 围棋	895 李白, 杜甫等古代诗人
776	836	896 戏剧
777 故宫	837 古建筑	897 悠久的历史
778	838	898 长城
779 伦理	839	899 四大名著
780 古代科技	840 京剧	900 茶道

901 四大发明	961 长城	1021 唐诗宋词
902 孔子	962 中华美食	1022 景德镇瓷器
903 佛教	963 四大名著	1023 甲骨文
904 孔子, 茶道, 书法	964 书画	1024 少数民族特色文化
905 中国饮食文化	965 四大发明	1025 旗袍
906 古代建筑	966 京剧	1026 文化知识和社会知识
907 中国的悠久历史	967 李白	1027 佛教、道教
908 诗词艺术	968 沪剧	1028 四大名著
909 儒学	969 诗歌	1029 古代书籍, 名人, 名著
910 古代思想	970 兵马俑	1030
911 儒家学说	971 长城	1031 孔子, 儒学
912 历史	972 长城	1032 四大发明, 四大名著
913 中国历史悠久	973 诗歌	1033 四大发明
914 四大发明	974 四大发明	1034 传统美德, 古代书籍
915 孝	975 诗歌	1035
916 长城	976 服饰	1036 秦俑, 兵书
917 文物	977 四大发明	1037 传统美德, 名人, 建筑, 书籍
918 京剧	978 佛教	1038 古诗, 四大发明
919	979 长城	1039
920 龙的形象	980 长城	1040 中国的礼仪, 传统美德
921	981 四大发明	1041 佛教
922	982 四大名著	1042 尊老爱幼的传统美德
923	983 鸦片战争	1043 中国古代名人如李白
924 悠久的历史	984 长江, 黄河	1044 四大发明
925 文字	985 民族文化	1045 中国古代的图画, 比如山水画
926 文字	986 茶道	1046 京剧, 四大名旦, 戏服
927 戏剧、文物	987 中医	1047 中国的戏曲
928 饮食文化、语言、文字	988 西藏、兵马俑	1048 中国的沪剧
929 古玩文物	989 京剧	1049 四大发明, 四大名著, 中国古典诗歌, 中国雕塑, 青铜器, 建筑, 壁画
930 传统美德	990 四大发明	1050 长城, 兵马俑
931 文物	991 四大发明	1051 建筑
932 文学	992 古典名著	1052
933 秦始皇陵墓、长城	993 名·古迹	1053 戏剧
934 历代封建王朝	994 书法、国画	1054 中国的悠久历史
935	995 唐诗、宋词	1055 长城, 兵马俑, 故宫
936 京剧	996 四大发明、戏曲	1056 戏曲文化
937 文物	997 孔孟之道	1057
938 古玩文物、龙	998 保守	1058 悠久的历史, 五千年文明
939 古长城	999 科举制度	1059 历史 悠久
940 唐宋文学作品地方戏	1000 四大名著	1060 孔孟
941 巴金	1001	1061 文明古国
942 四大名著	1002 名·古迹	1062 长城, 武术, 书法
943 戏剧	1003 戏曲	1063 长城
944 京剧	1004 长城	1064 文物
945 京剧	1005	1065 儒教影响
946 传统道德	1006 京剧	1066 四大发明
947 沪剧	1007 武术	1067 历史
948 戏曲	1008 四大发明、京剧	1068 各·不同的民族文化
949 武术, 围棋, 杂技	1009 丝绸	1069 戏剧文化, 文字, 古典书籍
950 书法, 绘画	1010 戏剧	1070 长城, 故宫, 文物, 兵马俑
951 古建筑	1011 四大发明	
952 沪剧, 昆剧	1012 京剧	
953 历史	1013 《水浒传》、《三国演义》	
954 长城, 兵马俑	1014 瓷器、书法	
955 四大名著	1015 陶瓷	
956 孔孟文化	1016 故宫、长城、天坛	
957 长城, 文化名著	1017 兵马俑	
958 书法, 绘画, 手工艺	1018 秦陵	
959 民族音乐	1019 儒家	
960 龙	1020 围棋	

问38 对您来说，最宝贵的东西是什么？（自由回答）

(ツツ' MNo.，回答)

1 亲情	61 生命	121 生命
2 生命	62	122 生命
3 亲情	63 身体健康	123 生命
4 实现自身价·的理想	64 生命	124 健康
5 生命	65 平安	125 生命
6 亲情	66 生命	126 感情
7 青春	67 家庭	127 健康的身体
8 生命	68 家庭	128 尊严
9 生命	69 生命	129 9
10	70 生命	130 儿子
11 生命	71 亲情	131 生命
12 生命	72 时间	132 生命
13 健康	73 亲情	133 家庭
14 健康	74 女儿	134 生命
15 精神财富	75 生命	135 孩子
16 生命	76 家庭	136 金钱
17 健康	77 生命	137 生命
18 生命	78 生命	138 家庭
19 生命	79 亲情	139 身体
20 健康	80 慧眼,朋友,家人	140 生命
21 自由	81 生命	141 9
22 生命	82 家人	142 生命
23 生活安定	83 家庭	143 金钱、生命
24 生命	84 健康	144 家庭和睦
25 生命	85 生命	145 生命
26 身体健康,国家兴旺,家庭幸福	86 生命	146 生命
27 家庭	87 健康,物质基础	147 生命
28 助人为乐	88 时间	148 金钱
29 家庭和睦,父母身体健康	89 生命	149 生命
30 生命	90 生命	150 身体健康
31 生命	91 亲情	151 生命, 金钱, 事业
32 生命	92 生命	152 生命
33 亲情	93 生命	153 生命
34 增加工资	94 儿子	154 亲人
35 时间,生命	95 生命	155 时间, 身体
36 家庭幸福	96 时间	156 时间
37 金钱	97 生命	157 青春
38 钱	98 生命	158 亲情
39 人的真情	99 生命	159 生命
40 生命,身体健康	100 亲情	160 生命, 健康
41 生命	101 生命	161 人生, 努力
42 身体健康	102 身体健康	162 聪明才智, 生命
43 亲情	103 生命	163 时间, 亲情, 生命
44	104 感情	164 生命
45 生命	105 孩子	165 生命, 亲情
46 个人信用	106 生命	166 身体健康
47 生命	107 亲情	167 生命
48 家人	108 生命	168 金钱
49 生命	109 生命	169 金钱
50 生命	110 亲情	170 生命
51 健康	111 家庭	171 生命, 家庭
52 生命	112 生命,青春	172 生命, 财产
53 生命	113 儿女	173 生命
54 爱情, 亲情	114 思想	174 生命, 钱
55 生命	115 生命	175 生命
56 生存权	116 时间	176 生命, 健康
57 自由	117 前途	177 钱
58 生命	118 妻子	178 生命, 健康
59 生命	119 生命	179 健康, 心态
60 健康	120 家庭	180 亲情

181 生命	241 生命健康	301 人格
182 家庭	242 儿子	302 女儿
183 生命	243 生命健康	303 生命
184 家庭	244 家、亲戚、朋友平安	304 时间
185 家庭	245 诚信	305 生命
186 生命	246 家庭	306 生命
187 生命	247 亲情、友情	307 生命
188 健康	248 家庭、团结	308 生命
189 生命	249 亲情	309 亲人能在一起
190 生命	250 家庭	310 健康
191 家庭	251 健康、钱	311 金钱
192 生命	252 自己的感觉、认知的程度	312 个人成长、幸福
193 下一代的幸福	253 经历	313 身体健康
194 健康	254 亲情	314 家庭、个人成就
195 家庭	255 家庭	315 生命
196 生命	256 健康	316 身体健康
197 人的平等	257 小孩	317 女儿健康
198 生命	258 生命	318 家庭
199 生命	259 生命	319 身体健康
200 努力	260 生命、健康、家庭	320 健康
201 生命	261 家庭、孩子	321 健康
202 家庭	262 生命	322 生命
203 家庭	263 生命	323 生命
204 生命	264 亲情	324 健康
205 生命	265 钱、健康	325 知识文化
206 身体健康	266 时间	326 有一个良好的环境
207 生命	267 生命,身体健康	327 健康
208 家庭幸福	268 身体健康	328 健康
209 健康	269 生命	329 健康
210 生命	270 身体健康	330 生命
211 生命	271 生命	331 身体健康
212 生命	272 事业及身体健康	332 历史贵遗产
213 生命	273 有份好的,理想的工作	333 家庭,健康
214 个人生命	274 快乐,自由	334 生活的舒适,幸福
215 生命	275 自己及亲人的身体健康	335 家庭幸福
216 生命	276 事业有成	336 家庭
217 家庭幸福	277 生命及事业	337 生活的舒适
218 健康	278 事业有成	338 生活的舒适幸福
219 健康	279 身体健康	339 生命
220 生命	280 工作,有成就	340 生命,健康
221 生命	281 自己及亲人的身体健康	341 健康
222 生命,金钱	282 亲情,家庭和睦	342 健康
223 生命	283 一份合适自己的工作	343 健康,子女幸福
224 生命	284 亲情,友情,爱情	344 家庭
225 身体健康	285 生命	345 家庭的幸福
226 生命	286 生命	346 女儿的成功
227 经济收入	287 生命	347 儿子的成才
228 生命	288 生命	348 健康,年轻
229 生命	289 生命	349 健康
230 生命	290 生命	350 政治制度,社会环境,人身自由
231 生命	291 亲情,友情	351 生命,健康
232 生命	292 亲情,友情	352 家庭幸福
233 健康	293 国富民·	353 家庭的幸福
234 家庭工作	294 健康	354 家
235 家庭	295 时间	355 生命
236 家人朋友	296 爱情,青春	356 命
237 人的生命	297 人格	357 生命
238 身体健康	298 健康,家人的幸福	358 生命
239 健康	299 亲情,友情	359 生命
240 亲情	300 生命	360 生命

361 生命	421 生命	481
362 友情	422 时间	482 生命
363 亲情	423 生命、健康	483 生体健康
364 生命	424 健康	484 健康
365 时间	425 生命	485 生命
366 生命	426 生命	486 健康
367 自己爱的人	427 时间、金钱	487 环境
368 时候	428 亲情	488 生体健康
369 崇高理想	429 生命、健康	489 生体健康、事业
370 老婆	430 生命	490 时间
371 生命	431 时间	491 事业
372 知识	432 自由	492 生命
373 亲情、财富	433 健康	493 生命, 幸福的生活
374 诚信	434 健康	494 父母, 家庭
375 生命	435 生命	495 人的精神
376 时间	436 生命、健康	496 生命
377 快乐	437 生命	497 信仰
378 健康	438 健康	498 身体
379 生命	439 生命	499
380 生命	440 生命	500 孩子
381	441 健康、金钱	501 家人
382 女儿	442 自由	502 青春
383 金钱	443 家庭	503 钱, 生命
384 家庭	444 生命	504 身体健康
385 健康	445 生命	505 生命, 金钱
386 金钱	446 生命	506 生命
387 生命	447 生命	507 生活, 生命
388 金钱、身体	448 生命	508 子女
389 生命	449 时间、家庭	509 生命, 父母, 家庭
390 生命	450	510 家庭
391 生命	451 友情	511 钱
392 生命	452 友情、时间	512 钱
393 时间	453 家人	513 事业学者
394 人情	454 家庭、亲情、友情、事业	514 金钱
395 生命	455 时间	515 生命
396 良知、亲情	456 时间	516 生命
397 生命	457 家人	517 健康
398 金钱	458 友情	518 生命
399 金钱	459 生命	519 生命
400 生命	460 亲情	520 生命
401 金钱	461 时间	521 生命
402 生命	462 人生	522 生命
403 生命	463 时间	523 健康
404	464 孩子	524 信念
405 好工作	465 人生、生命	525 身体健康
406 生命、工作	466 时间	526 生命
407 生命、健康	467 家庭	527 感情
408 健康、家庭	468 生命	528 生命
409 生命	469 健康	529 健康
410 生命	470 家人、朋友、金钱	530 家庭, 事业, 生命
411 生命	471 亲情最重要	531 身体
412 健康	472 时间	532 健康, 家人
413 家庭、事业	473 生命健康	533 家人, 朋友
414 健康	474 生命	534 家庭
415 事业	475 生命	535 生命
416 生命	476 生命健康	536 灵魂
417 生命	477 生命	537 生命
418 生命、健康	478 生命	538 生命
419 生命	479 生体健康	539 生命
420 家庭	480 亲情	540 家庭

541 前途	601 身体	661 家庭
542 儿子	602 生命	662 子女
543 生命	603 身体健康	663 生命
544 生命	604 生命	664 生命、自由、理想、信仰
545 生命	605 家庭	665 家庭
546 儿子	606 友情	666 家庭、朋友
547 家庭	607 儿子	667 健康
548	608 身体健康、家庭和睦	668 家庭
549 生命	609 感情	669 精神、理想
550 亲情	610 家人	670 生命、尊严
551 生命, 家庭	611 生命	671 生命
552 爱情	612 家庭幸福	672 家人平安、幸福
553 生命	613 自身健康	673 亲情
554 家庭	614 家庭	674 亲情
555 生命	615 生命	675 知识财富
556 家庭健康	616 真诚	676 尊严
557 生命	617 生命	677 家庭
558 生命	618 生命, 事业, 自由	678 家庭、亲情
559 家庭	619 孩子, 朋友, 亲人	679 生命
560 生命亲情时间	620 生命	680 亲情
561 生命	621 生命, 金钱	681 健康
562 生命	622 生命, 子女	682 健康
563 生命家庭幸福	623 生命	683 生命
564 人生	624 时间自由权利	684 身体
565 家庭	625 钱, 身体, 儿子成绩好	685 身体健康
566 生命知识	626 品德	686 生命
567 生命, 名誉	627 生命, 金钱	687 身体
568 家庭健康	628 工作, 健康	688
569 生命	629 生命, 健康	689 健康
570 生命, 健康	630 家庭	690 生命
571 老师	631 生命, 健康的身体	691 生命
572 生命	632 生命, 子女	692 生命
573 尊严, 生命	633 生命	693 身体健康、长命百岁
574 生命家庭	634 身体好	694 生命
575 健康	635 生命	695 家庭
576 生命, 职业	636 亲情, 友情, 爱情	696 生命
577 身体	637 身体健康	697 亲情
578 家人	638 亲人	698 身体
579 生命	639 生命	699 时间、金钱、亲情
580 友情	640 亲情、友情、爱情	700 生命
581 家人	641 工作	701 身体健康
582 生命	642 健康	702 子女
583 健康	643 生命	703 子女身体健康
584 亲情	644 子女	704 事业和生命
585 家人	645 家庭	705 生命
586 生命, 家人	646 健康、工作	706 建筑
587 家人, 生命	647 生命、健康	707 亲人
588 友谊	648 健康、物质基础(财富)	708 生命
589 生命	649 生命、健康	709 生命
590 家人	650 健康	710 生命、健康
591 健康	651 生命	711 家庭亲情、朋友友情
592 生命	652 家人	712 家人
593 健康	653 生命	713 健康
594 健康	654 生命	714 家人
595 生命	655 生命	715 健康
596 家人	656 家庭	716 健康、家庭、事业
597 身体健康、家庭和睦	657 生命	717 生命
598 亲情	658 物质基础	718 生命
599 生命、身体、健康	659 生命	719 生命
600 生命	680 知识	720 时间

721 钞票、工作	781 生命	841 生命
722 子女	782 生命	842 亲情、友情、自由、学情
723 家庭	783 亲情	843 9
724 生命、亲情、友情	784 女儿	844 对国家
725 健康	785 健康	845 家庭稳定
726 生命	786 生命	846 生命
727 生命	787 生命	847 健康
728 金钱	788 智慧、爱	848 人际关系
729 家庭	789 家庭和睦	849 健康
730 生命	790 家人	850 亲情
731 时间	791 朋友之间的友谊	851 个人生命健康
732 家庭	792 朋友之间的友情	852 身体
733 个性、家庭	793 9	853 9
734 青春	794 朋友	854 感情
735 生命	795 家人	855 生命
736 生命	796 9	856 儿子
737 生命	797 自我实现健康自由	857 亲情、友情、事业
738 家人	798 亲情、健康	858 儿子
739 诚信	799 9	859 亲情、友情、生命、诚信
740 生命	800 亲情、友情	860 9
741 生命	801 9	861 生命
742 身体健康	802 9	862 孝顺父母、忠于家庭
743 生命	803 9	863 家人
744 理想	804 生命	864 身体
745 生命	805 9	865 身体、国家
746 知识	806 生命	866 家庭
747 健康	807 子女	867 生命
748 生命	808	868 时间
749 自身价值的体现	809 生命、尊严	869 感情
750 生命	810 生命、财产、子女、工作	870 时间
751 生命、家庭	811 生命、钱财、工作	871 生命
752 家庭	812 生命、幸福	872 生命
753 健康	813	873 身体
754 生命	814	874 钱
755 家庭、健康	815 家庭和睦、生命	875 健康
756 健康	816 生命、健康	876 亲情、友情
757 家庭	817 信息	877 生命
758 生命	818 家庭	878 身体健康
759 生活质量	819 子女	879 身体健康
760 生命	820 生命	880 钱
761 理想	821 身体健康	881 生命、健康
762 亲情、友谊	822 生命、健康	882 儿子
763 家庭	823 生命、工作	883 生命、家庭、子女
764 自由、生命	824	884 生命、家庭
765 生命	825	885 生命、健康
766 生命	826 生命	886 家庭
767 身体健康、家庭美满	827 财产、健康	887 工作、学业
768 生命	828 爱情	888 健康
769 知识	829 健康、身体	889 家庭
770 身边的亲人	830 家庭和谐	890 钱
771 事业	831 家庭	891 身体健康
772 生命	832 时间	892 家庭
773 时间、生命、健康	833 自由	893 生命
774 孩子	834 生命	894 身体健康
775 健康	835 健康	895 工作
776 身体健康	836 健康和稳定收入	896 家庭
777 健康	837 健康	897 生命
778 生命	838 家庭、工作 稳定	898 健康
779 身体健康	839 生命、健康	899 工作
780 亲情、友谊	840 青春	900 家庭

901 生命	961 娱乐	1021 人与人之间的感情
902 健康	962 家庭	1022 身体健康
903 家庭, 子女	963 金钱	1023 家庭幸福、子女成才
904 生命	964 健康	1024 亲情
905 生命	965 健康、时间	1025 健康
906 时间	966 父母	1026 人情、时间
907 健康	967 亲情	1027 事业
908 生命	968 生命	1028 生命
909 生命	969 身体健康	1029 环境, 家庭, 人的品质
910 健康	970 钱	1030 家人, 健康
911 生命	971 健康	1031 人的思想品德, 素质
912 生命	972 健康、家庭	1032 时间, 家庭
913 生命	973 健康	1033 身体健康
914 生命	974 家庭	1034 亲情
915 时间, 生命	975 健康	1035 时间, 青春
916 生命	976 家庭	1036 时间, 健康, 生命, 家庭
917 家庭	977 家庭	1037 生命, 健康
918 亲情、财富、知己	978 健康	1038 生命, 健康
919 家庭	979 钱	1039 健康, 家庭, 生命
920 儿子	980 生命	1040 健康, 生命
921	981 生命	1041 生命
922 亲人	982 生命	1042 身体健康, 家人
923 亲情	983 生命、生活质量	1043 家庭, 钱, 健康
924 身体健康、国家安定	984 生命	1044 儿子, 身体健康
925 亲情	985 生命	1045 人的素质, 品德
926 生命、家庭	986 生命	1046 生命, 健康, 家庭, 工作
927 健康、家人	987 人与人之间的感情	1047 生命, 健康
928 9	988 青春、父母、完美的家庭、时间	1048 生命, 健康, 家人
929 生命	989 健康	1049 时间, 健康, 家庭
930 社会稳定	990 经济来源稳定、生活稳定	1050 钱
931 生命	991 健康	1051 追求
932 生命	992 精神财富	1052 家庭
933 亲情、友情	993 尊严	1053 生命, 健康
934 生命	994 健康	1054 亲人
935 子女、家人	995 健康家庭	1055 健康, 家人
936 健康	996 思想意识、品德	1056 健康
937 生命	997 生命	1057 家庭
938 生命	998 回忆	1058 生命, 乐观的心态, 事业
939 亲情	999 生命	1059 生命
940 生命, 亲情	1000 诚实	1060 健康
941 金钱	1001 健康	1061 亲情友情
942 家庭亲情	1002 生命	1062 生命
943 健康亲人	1003 生命、健康	1063 生命
944 生命、健康	1004 社会安定	1064 家庭
945 亲情	1005	1065 自由
946 生命, 亲情	1006 身体健康	1066 父母
947 金钱	1007 一个美满的家庭, 孝敬父母	1067 家庭
948 生命, 金钱	1008 健康	1068 身体, 家庭
949 朋友事业	1009 生命	1069 真诚, 健康
950 生命, 健康	1010 家人平安	1070 生命
951 时间	1011 生命	
952 生命财富	1012 亲情	
953 生命	1013 生命	
954 生命	1014 身体健康	
955 健康	1015 时间	
956 身体健康	1016 健康	
957 生命, 家庭	1017 生命	
958 生命	1018 生命	
959 家庭	1019 亲情、友情	
960 金钱, 事业	1020 身体健康	

问39a请说出您最尊敬的职业是什么? (自由回答)

(注) No. , 回答)

1 律师	61 一切职业都是·得尊敬的	121 教师
2 教师	62	122 白领
3 教师	63 警察	123 教师
4 教师	64 科技	124 工程师
5 教师	65 慈善工作者	125 科学家
6 演艺人员	66 医生	126 医生
7 教师	67 教师	127 艺术家
8 医生	68 教师	128 老师
9 教师	69 科学家	129 司机
10	70 公务员	130 白领
11 教育家	71 护士	131 老师
12 教师	72 会计	132 教师
13 计算机专家	73 医生	133 教师
14 医生	74 教师	134 教师
15 科技工作者	75 警察	135 工人
16 国家公务员	76 警察	136 教师
17 军人	77 科学家	137
18 法官	78 维修员	138 行政人员
19 医生	79 科学家	139 法官
20 教师	80 老师	140 机械制造方面
21 医护人员	81 医生	141 警察
22 公务员	82 自己的工作	142 军人
23 化学技术工业	83 医生	143 教师
24 老师	84 教师	144 教师
25 会计	85 工人	145 知识分子
26 教育方面,教师	86 医生	146 警察
27 法律工作者	87 教师	147 工人
28 旧社会劳动工	88 医生,律师	148 教师
29 科学家	89 法官	149 工人
30 教师	90 老师	150 佛教大师
31 有职业道德的医生	91 军人	151 金融业
32 工人	92	152 教师
33 白领	93 医生	153 军人
34 航空工业	94 医生	154
35 靠劳动吃饭的工作	95 知识分子	155 科研工作,发明创造
36 老师	96 技工	156 律师,科学家
37 人民警察	97 警察	157 教师
38 自由职业	98 医生	158 动物学家
39 学者	99 医生	159 公务员
40 消防人员	100 老师	160 科学家
41 刑警,维护	101 老师	161 什·职业都好
42 医生	102 老师	162 教师
43 警察	103 警察	163
44	104 老师	164
45 律师	105 医生	165 科学家
46 国家公务员	106 老师	166 科研性
47 教师	107 老师	167 科研工作
48 老师	108 老师	168 公务员
49 教师	109 军人	169 教师,公务员
50 老师	110 老师	170 教师
51 老师	111 知识分子	171 科研人员
52 没有	112 教师	172 销售员
53 知识分子	113 工程师	173 公职
54 没有	114 教育家	174 教师
55 国家领导	115 老板	175 公务员
56 人民公仆	116 教育工作者	176 老师
57 都尊敬	117 老师	177 律师
58	118 公务员	178 环卫
59 军人	119	179 运动员
60 医生	120 教师	180 公安

181 自由职业者	241 法院、教师、学者	301 教师
182 教师	242 老师	302 清·工
183 医生	243 老师、医生	303 老师
184 律师	244 科长	304 老师
185 警察	245 医生	305 建筑业
186 对社会有贡献的都·得尊敬	246 设计师	306 老师
187 医生	247 无	307 老师
188 教师	248 茶	308 军人
189 只要对社会有贡献	249 CEO	309 对社会有贡献的工作
190 老师, 医生	250 都差不多	310 没有
191 医生	251 医生	311 教师、医生
192 企业家	252	312 科学家
193 老师	253 律师	313 很难说
194 为人民服务的	254	314 任何职业都应该得到尊敬
195 律师	255 司机	315 ·个职业都应受尊敬
196 医生	256 政法、医生、建筑	316 从未想过
197 医生	257 没有、说不上	317 教师
198 老师	258 工程师	318 没有
199 律师	259 科研人员	319
200 工人	260 政治家	320 科技
201 老师	261 科学家	321 教师
202 所有为社会作出贡献的都·得尊敬	262 医生	322 有利人民利益的职业
203 企业家	263 律师	323 医生
204 医生	264 管理人员	324 ·个职业都应受尊敬
205 教师	265 医生	325 科技工作
206 老师, 医生	266 医生	326 对人民有利、有富的职业
207 教师	267 教师	327 没想过
208 法官	268 教师	328 没想过
209 警察	269 工人、农民	329 技术人员
210 法官	270 医生	330 老师
211 医生	271 教师	331 没想过
212 医生	272 教师	332 医生
213 医生	273 教师	333 医生
214 企业家	274 教师	334 医生
215 教师	275 公务员	335 教师
216 医生	276 律师	336 律师
217 教师	277 国家机关工作人员	337 医生
218 医生	278 医生	338 律师
219 律师	279 医生	339 工 程师
220 企业家	280 解放军战士	340 教师
221 教师	281 教师	341 医生
222 记者	282 普通工人	342 教师
223 医生, 公务员	283 军人	343 医生
224 教师	284 教师	344 教师
225 工人	285 军人	345 警察
226 医生	286 国家公务员	346 律师
227	287 教师	347 律师
228 科技工作者	288 工人、农民	348 公务员
229 领导工作	289 新闻工作者	349 医生
230	290 自由职业和学习	350 律师
231 医生	291 医生	351 医生
232 艺术家	292 教师	352 律师
233	293 建筑业	353 律师
234 医生老师	294 医生律师	354
235	295 律师	355 老板
236 教师	296 律师、科学家	356
237 科学家	297 教师	357 医生
238 画家	298 医生	358 工人
239 老师、医生	299 警察	359 自由职业者
240 老师、医生	300 公务员、法律工作者	360

361 老师	421 医生	481
362 老师	422 教师	482 教师
363 会计	423 医生	483 教师
364 教师	424 警察	484 教师
365 医生、经济专家	425 教师	485 医生
366 老师	426 教师	486 医生
367 军人	427 干部领导	487 教授
368 司机	428 医生	488 教师
369 科研人员	429	489 科学家
370 老师	430	490 医生
371 医生	431	491 科学家
372 老师	432 律师	492 医生
373 老师	433	493 军人
374 医生	434	494 医生
375 老师	435 医生	495 医生
376	436 工程师	496 银行职员
377 外交官	437	497 慈善工作者
378	438	498 企业职工
379	439 医生	499
380 教师	440	500 总经理, 老板
381	441	501 军人
382 公务员	442 老师	502 老师
383 书店营业员	443 律师	503 老师
384 教师	444 老师	504 教师
385 医生	445	505 教师, 军人, 农民
386 舞蹈家	446 法官	506 医生
387 医生	447 汽车修理工	507 法律从业者
388 医务工作者	448	508 慈善, 事业
389 总经理	449 警察	509 大使, 外交官
390 从事法律工作	450	510 军人
391	451 教师	511 老师, 医生
392 医生	452 滑·工	512 体力劳动
393	453 医生	513 农民, 国家公务人员
394 驾驶员	454 医生、老师	514 军人
395 工人	455 军人	515 法官
396 个体户老板	456 农民	516 老师
397 保卫人员	457 工人	517 行政管理人員
398 搞学问的人	458 企业家	518 法官
399 知识分子	459 教师	519 教师
400 科学家	460 医生	520 律师
401 教师	461 军人	521 医生
402	462 军人	522 医生
403	463 教师	523 医生
404	464 文职类	524 警察
405 医生	465 政治家	525 教师
406 经理	466 知识分子干的都很尊重(用脑的)	526 教师, 医生
407 教师	467 教师	527 医生
408 医生	468 警察、医生	528 医生
409 教师	469 有文化的(教师, 有知识的)	529 教师
410 士兵	470 军人	530 律师
411 服装设计师	471 教师	531 科学家
412 医生	472 医生	532 教师
413 教师	473 医生	533 老师
414 老师	474 教师	534 医生
415 企业家	475 教师	535
416 教师	476 教师	536 医生
417 教师	477 科学家	537 教师
418 医生	478 教师	538
419 教师	479 科学家	539
420 警察	480 自己创业成功的老板	540 警察

541 律师	601 法官	661 教师
542 医生	602 领导	662 老师、医生、为人民服务的人
543	603 国家干部	663 医生
544 教师	604 工程师	664 教师、科学家、诚实的劳动者
545 服装设计师	605 白领	665 医生
546	606 教师	666 工程师
547 军人	607 医生	667 清·工人
548	608 一个行业都·得尊敬	668 医务人员、医生
549 医生	609 医生	669 教师
550 教师	610 教师	670 教师
551 护士	611 教师	671 军人
552 教师	612 教师	672
553 律师	613 医生	673 教师
554 法官	614 外交官	674 老师
555 老师	615 教师	675 教师
556 老师	616 教师	676 警察
557 老师	617 医生	677 医生教师
558 医生	618 律师,教师	678 科学家
559 老师	619 教师	679 企业管理人员
560 医生	620 警察	680 警察
561 医生	621 医生	681
562 会计	622 公务员	682 老师
563 老师	623 教师	683 律师
564 企业家	624 律师	684 司机
565 老师	625 教师	685 医生
566 公务员	626 医务工作者	686 老师
567 老师	627 教师	687 医生
568 老师	628 服务行业	688
569 老师	629 医生	689 从事金融业的工作者
570 老师	630 公安	690 医生、老师
571 生命	631 教师	691 科学工作者
572 工人	632 客运行业	692 大众服务行业
573 干部	633 法官	693 律师、老师、医生
574 医生	634 国家公务员	694 军人
575 医生	635 法官	695
576 科学家	636 主持人	696 医生
577 科学家	637 工人	697 医生
578 医生	638 老师	698 油漆工
579 教师	639 专业技术人员	699 警察
580 医生	640 IT、咨询	700 医生、老师
581 教师	641 文员	701
582 医生	642	702 货运
583 教师	643 教师	703 工人
584 教师	644 教师	704 个体经营者
585 教师	645 教师	705 薪水高的工作(白领)
586 教师	646	706 社会志愿者
587 科学家,医生	647 医生	707 法律工作者
588 教师	648 领导人员(经理,厂长)	708
589 自由职业	649 白领	709 司机
590 教师	650 商人	710 教师
591 医生	651 医生、教师	711 专业技术人员
592 知识分子	652 教师	712 教师、律师
593 医生	653 律师	713 中小学教师
594 医生	654 教师	714
595 律师,教师,医生	655 船员	715 教师、医生
596 工程师	656 主席	716 医生
597 360行,行行出状元任何职业都·得尊敬	657 普通劳动者	717 白领
598 教师	658 教师	718 军人
599 医生、教师	659 仪表工人	719 医生
600 医生、教师	660 理工科的职业	720

721	781 教师	841 公安局派出所人员
722 老师	782 白领	842 教师, 律师, 公务员
723 医生	783 医生	843 医生
724 科学家	784 医务工作者	844 教师
725 发是创造者	785 医生	845
726 教师	786 司法工作人员	846 老师
727 司机	787 法官	847
728 工人	788 医生法官教授	848 医生
729	789 医生	849 律师
730 职业平等, 只要努力肯干	790 会计	850 档案工作
731 科学家	791	851
732 医生	792	852 医生
733	793	853 造船工业, 内燃机专业
734 IT业	794 教师	854 教授
735 教师	795 教师	855 医生
736	796	856 教师
737 教师	797 所有职业都· 得尊敬	857 教育工作者
738	798 科学家	858 财务
739 医生	799	859
740 医生	800 医生教师	860
741 劳动创造业职业	801	861 打字员
742 科学家	802	862 教师
743 医生	803	863 教师
744 农民	804 教师	864 餐饮业主
745 工人	805	865
746 医生	806 医生	866 自由职业
747 政府官员	807 科学家	867 医生、教师
748 教师、医生	808	868 电脑从业人员
749 科技人员	809 发明家	869 医生
750 律师	810 医生、教师、法官、公安	870 教育工作者
751 新闻工作者	811 从事社会保障的人员, 医生, 清· 工人	871
752 司法人员	812 法官	872
753 教师	813	873
754 政府官员	814	874 老板
755 科技工作者	815 工程师	875 科学家
756 设计师	816 工程师	876 医生
757 医生	817 宇航员	877 医生
758 律师	818 科学家	878 警察
759 教师	819 教师	879 工人
760 服务人员	820 法官	880 科学家
761 科学家	821 解放军	881 科学家
762 教师	822 飞行员	882 国家干部
763 警察	882 医生	883 教师
764 作家	882	884 律师
765 教师	825	885 教师
766 律师	826 教师	886 白领
767 劳动者	827 科学家	887 工程师
768 教师	828 艺术家	888 医生
769 教师	829 外交官	889 军人
770	830 援助员	890 科学家
771 教师	831 法官	891 科研人员
772	832 教师	892 医生
773 教师	833 医生	893
774 白领	834 有文化的人	894 工人
775	835 国家行政人员	895 军人
776 律师	836 教师	896 军人
777 教师	837 医生	897 医生
778 教师	838 技术工人	898 教师
779 工人	839	899 CEO
780 科学家	840 会计	900 教师

901 医生, 教师, 法官, 律师	961 画家	1021 教师
902 法官, 律师	962 教师	1022 人民教师
903 教师	963 教师	1023 教师
904 教师	964 医生	1024 销售业
905 律师, 法官	965 工人	1025 教师
906 医生	966 跆拳道教练	1026 公益事业
907 医生	967 导游	1027 经济金融人员
908 教师	968 军人	1028 汽车销售
909 科研人员	969 医生	1029 所有的默默的平凡工作者
910 医生	970 科学家	1030 领导
911 法律工作者	971 医生	1031 国家公务员
912	972 老师	1032 街道管委
913 教师	973 医生	1033 白领
914	974 教师	1034 司机守平凡工作者
915 科研人员	975 厨师	1035 医生
916 医生	976 教师	1036 教师
917	977 军人	1037 销售行业
918	978 教师	1038 政治家
919	979 老师	1039 解放军
920 教师	980 老师	1040 有爱心的职业
921	981 老师	1041 平凡的职业, 工人
922	982 律师	1042 老板
923	983 老师	1043 法官
924 教师	984 教师	1044 老师
925	985 教师	1045 教师
926 教师	986 教师	1046 医生, 公务员, 商业成功人士
927	987 科学家	1047 戏剧演员
928 贫困地区志愿者	988 医生、教师	1048 戏剧演员
929 律师	989 教师	1049
930	990 教师	1050 操盘手
931 科研人员	991 医生	1051 军人
932 教师	992 教师	1052
933	993 环保工作者	1053 军人
934	994 教师	1054 律师
935	995 教师	1055 军人
936	996 科学家	1056 为人民服务的业务
937 教师、医生	997 教师	1057
938 律师	998 教师	1058 演员
939 好的医生	999	1059 服务行业
940 教师	1000 教师	1060
941 企业家	1001 教师	1061 老师律师医师
942 教师军人	1002 公务员	1062
943 科学家	1003 医生	1063 教师
944 教师	1004 教师	1064 教师
945 学者	1005	1065 教师
946 科技人员	1006 教育工作者	1066 会计, 律师
947 企业家	1007 经商者	1067
948 教师	1008 教师	1068 教师
949 医生	1009 医生	1069 科研工作
950 自己从事的职业	1010 教师	1070 教研人员, 教师
951 教师	1011 人民教师	
952 本质工作	1012 警察	
953 律师	1013 科学家	
954 技术员	1014 老师	
955 教师	1015 科学家	
956 科学家	1016 律师	
957 军人	1017 老师	
958 军人	1018 警察	
959 艺术家	1019 教师	
960 教师	1020 救死扶伤的医护人员	

问39b 那么，您本身实际上最想从事的职业是什么呢？（自由回答）

(サンプルNo., 回答)

1 环保工作	61 法官, 军人	121
2 医生	62	122 白领
3 教师	63 干部	123 公务员
4 教师	64 科学家	124 工程师
5 医生	65 运动员	125 老板
6 演艺人员	66 医生	126 教师
7 医生	67 医生	127 和艺术有关的工作
8 公务员	68 自己做老板	128 老师
9 教师	69 体育运动员	129 司机
10	70 公务员	130 空姐
11 教育家	71 医生	131 老师
12 行政管理人員	72 会计	132 工程师
13 计算机工作者	73 医生	133 军人
14 教师	74 运动员	134 经商
15 军人	75 警察	135 医生
16 创新人员	76 警察	136 工程师
17 医生	77 医生	137 清·工、环保工作者
18 律师	78 驾驶员	138 行政人员
19 医生	79 领导	139 做生意
20 教师	80 律师	140 工程师
21 律师	81 律师	141
22 企业家	82 经理	142 军人
23 无·染的化学技术工业人员	83 教师	143 教师
24 有关经济的职业	84 老板	144 教师
25 会计师	85 工人	145 军人
26 营业员	86 律师	146 警察
27 运动员	87 公务员, 私营企业家	147 工人
28 劳动工	88 艺术家	148 教师
29 自由职业	89 法官	149 使自己开心的职业
30 教师	90 机械化学农	150 教师
31 学有所用的职业	91 公务员	151 金融业
32 机关工作人员	92 有关贸易的工作	152 教师
33 白领	93 网络工程师	153 文艺工作者, 部队文书
34 航空工业	94 公务员	154
35 公务员	95 干部	155 环境保护
36 老师	96 电工	156 科学家
37 教师	97 企业家	157 企业家
38 自由职业	98 医生	158 诗人
39 医生	99 教师	159 民营企业
40 当兵, 做善人	100 业务员	160 科学家
41 医生, 看病	101 军人	161 投入自己爱好的职业就行了
42 最能赚钱的职业	102 老师	162 不是教师的职业
43 警察	103 老师	163 能发挥特长的
44	104 老师, 医生	164 金融
45 会计	105 医生	165 政法类
46 国家公务员	106 老师	166 科研性
47 保险	107 老师	167 科研工作
48 老师	108 管理人员	168 公务员
49 老板	109 企业家	169 金融类
50 老师	110 老师	170 公务员
51 老师	111 科技研究人员	171 公务员
52 医生	112 幼儿园教师	172 饭店总经理(开饭店者)
53 绘画	113 商人	173 公职
54 美国总统	114 保险业	174 医生
55 为人民服务的行业	115 老板	175 公务员
56 人民公仆	116 投机商	176 老师(幼)
57 商界女·人	117 策划人	177 律师
58 有稳定收入的职业	118 公务员	178 总裁
59 军人	119	179 IT
60 医生	120 空姐	180

181 自由职业者	241 公务员	301 自由职业者
182 喜欢	242 美容师	302
183 老板BOSS	243 工程师	303 裁缝
184 老板	244 科长	304 律师
185 老板	245 公务员	305 工人
186 企业家	246 公务员	306 会计师
187 作家	247 老板	307 老师
188 文艺	248 公务员	308 军人
189 作家	249 CEO	309 老师
190 老师	250 没什·	310 没有
191 医生	251 老板	311 公务员
192 企业家	252 作家	312 演员
193 工人	253 老板	313 能赚钱的工作
194 为人民服务的	254 地理学家	314 工程技术
195 在学教师	255 司机	315 科技人员
196 医生	256 医生	316 相对稳定的工作
197 慈善机构	257 自由职业	317 没想过
198 老板	258 工程师	318 没有
199 医生	259 科学家	319
200 工人	260 公务员	320 科技人员
201 老师	261 画家、音乐家	321 具有管理的工作
202 作家	262 医生	322
203 企业管理	263 法院	323 教师
204 记者	264 教师	324 公务员
205 管理人员	265 公务员	325 科技人员
206 曲艺工作者	266 作家	326 有关计算方向的工作
207 老板	267 白领	327 没想过
208 教师	268 教师	328 没想过
209 工人	269 医生、医务人员	329 技术人员
210 老板	270 医生	330 老师
211 教师	271 教师	331 没想过
212 老板	272 公务员	332 医生
213 医生	273 律师	333 教师
214 企业管理者	274 自由职业者	334 医生
215 警察	275 公务员	335 警察
216 医生	276 律师	336 律师
217 律师	277 个体经营	337 医生
218 医生	278 教师	338 律师
219 律师	279 律师	339 工程师
220 老板	280 教师	340 医生
221 老板	281 教师	341 医生
222 记者	282 普通工人	342 管理者
223 医生	283 · 外导游	343 教师
224 教师	284 教师	344 教师
225 科学工作者	285 军人	345 警察
226 医生	286 个体经营	346 翻译
227	287 普通工人	347 法官
228 科学家	288 律师	348 公务员
229 公务员	289 飞行员	349 医生
230	290 经纪人	350 律师
231	291 医生	351 医生
232 警察	292 社工人员	352 律师
233	293 建筑业	353 律师
234 科研工作	294 医生	354 科研人员
235	295 律师	355 老板
236 教师	296 律师	356 工人
237 科学工作者	297 地质工作	357 无
238 医生	298 自由职业者	358 工人
239	299 消防员、警察、公务员	359 自由
240 老师	300 公务员、人民警察	360 赚钱多的

361	421 医生	481
362	422 教师	482 动物饲养员
363 会计	423 教师	483 教师
364 医生	424 法律工作者	484 教师
365 经济专家	425 企业家	485 老板
366 科技人员	426 教师	486 教师
367	427	487 汽车制造
368 司机	428 医生	488 干部
369 科研人员	429 药剂师	489 工程师
370 警察	430	490 软件工程师
371 老板	431 建筑师	491 医生
372 科研人员	432 自由职业者	492 教师
373	433	493 军人CEO
374	434	494 老板
375 IT工程师	435 医生	495 医生
376 企业经营管理者	436 工程师	496
377 外交官	437 经理	497 CEO
378	438 海员	498 企业职工
379 科学工作者	439 人事管理人员	499
380 医生	440 医生	500 老板
381	441	501 医生
382 公务员	442 老师	502
383 书店营业员	443 警察	503 老板
384 做老板	444 管理人员	504 养鸟养花
385 医生	445	505 CEO, 老板
386 投机商	446 公司老板	506 医生
387 医生	447 汽车修理工	507 机械制造或维修
388 医生	448 国家公务员	508 慈善事业
389 司机(开自己的车)	449 教师	509 公务员
390 医生	450	510 自由职业
391	451	511 小学老师
392 白领	452 军人	512 商业
393 会计	453 医生	513 外交官
394 自由职业	454 政治家、军人	514 老板
395 工人	455 经理	515 会计
396 个体户老板	456 商人	516 自由职业
397	457 军人	517 白领办工人员
398	458 企业家	518 律师
399 搞科研	459 律师	519 环保行业
400 科技工作者	460 医生	520 财务
401 医生	461 军人、商人、企业家	521 法官
402 工人	462 医生	522 个体老板
403 开个小店做老板	463 商人、企业家	523 医生
404	464 军人	524 银行金融业工作
405 经理	465 军人	525 企业家
406 经理	466 医生	526 医生
407 医务	467 飞行员、宇航员	527 医生
408 医生	468 教师	528 医生
409 老师	469 教师	529 教师
410 医生	470 警察	530 科学家
411 模特	471 教师	531
412 护士	472 医生	532 教师
413 公务员	473 环保	533 翻译
414 老师	474 教师	534 银行职员
415 企业家	475 管理人员	535
416 医生	476 教师	536 医生
417 教师	477 党务管理	537 教师
418 医生	478 会计	538
419 教师	479 工程师	539
420 企业家	480 医生	540 经商

541 律师	601 科学家	661
542 医生	602 会计	662
543 个体经商	603 做生意	663 医生
544 军人	604 工程师	664 航海
545 设计师	605 医生	665 医生
546	606 厨师	666
547 管理人员	607 医生	667 文字工作
548	608 科学家	668 医生
549 医生	609 医生	669 教师
550 教师	610	670
551 护士	611 翻译	671 军人
552 教师	612 教师	672 商人
553 工厂业	613 医生	673 教师
554 律师	614 外交官	674 医生
555 公务员	615 教师	675 商人
556 公务员	616	676 军人、当兵
557 公务员	617 教师	677 医生
558 医生	618 律师	678 金融
559 公务员	619 教师	679 企业管理人员
560 行政	620 警察	680 画家
561 医生	621 医生	681
562 财务	622	682 老师
563 老师	623 工程师	683 律师
564 企业家	624	684 司机
565 老师	625	685 医生
566 军人	626 医务工作者	686 老师
567 老师	627	687 工人
568 设计	628 服务行业	688
569 园艺工作	629 医生	689 从事金融业的工作者
570 里奔干部	630 当兵	690 老师
571 生命	631 商人	691 科学工作者
572 老师	632 教师	692 大众服务行业
573 法官	633	693 管理人员、企业主管
574 公务员	634 公安部门	694 私营企业老板
575 医生	635 金融家	695 做旧货生意
576 技术人员	636 主持人	696 电器工程师
577 自由职业	637 工人	697 医生
578 医生	638 工人	698 油漆工
579 教师	639 工人	699 老板
580 医生	640 IT	700 服装工人
581 教师	641 文员	701 纺织工人
582 医生	642 国家机关工作人员	702 货运
583 教师	643 公司职员	703 工人
584	644 教师	704 个体经营者
585 教师	645 白领	705 幼儿园教师
586 医生	646 薪水高比较稳定的职业	706 企业领导
587 医生	647 自由职业者	707 事业单位领导
588 教师	648 厂长	708 管理人员
589 教师	649 白领	709 司机
590 教师	650 商人	710 教师
591 医生	651 服务行业	711 办公室人员
592 教师	652 教师	712 律师
593 医生	653 自由职业者	713 教师
594 医生	654 教师	714 幼儿园教师
595 公务员	655 船员	715 教师
596	656 形象设计师	716 会计师
597 科研	657 从事思想政治工作	717 营业员
598 警察	658 教师	718
599 技术工人	659 仪表工人	719 技术员
600 银行职员	660 理工科的职业	720 自由职业

721 薪水多的工作	781 教师	841 商人
722 办公室人员	782 白领	842 公务员, 管理类职务
723 医生	783 医生	843
724 科学家	784 医生	844
725 发明创造者	785	845 律师
726 教师	786 行行出状元, 哪一行都行	846
727 司机	787 会计	847 体育事业
728 工人	788 经理人, 工程师, 创业者	848
729	789 建筑	849 军人
730	790 会计	850 医生
731 工程师	791 飞行员	851
732 工程师	792 职业足球运动员	852 医生
733 商人	793	853 造船工业, 内燃机专业
734 IT业	794	854 公务员
735 教师	795 会计	855 会计
736	796	856
737	797 艺术方面的	857 空姐, 红马夹
738	798 大学教授	858 财务
739 医生	799	859 法院、医生
740	800 教师	860
741 教师	801	861 领导
742	802	862 教师
743 医生	803	863 教师
744 工人	804 报关员	864 餐饮业主
745 工人	805	865
746 医生	806 律师	866 销售
747 政府官员	807 作家	867 教师
748 教师	808	868 电脑从业人员
749 科技人员	809 管理人员	869 教师
750 画家	810 法官	870 教育工作者
751 新闻工作者	811 工人	871
752 司法人员	812 科学家	872 外贸服装行业
753 教师	813	873
754 个体经营者	814	874 老板
755 科技工作者	815 教师	875 科学工作
756 设计师	816 演员	876 医生
757 医生	817 歌唱演员	877 会计
758 律师	818 老板	878 办公室工作人员
759 教师	819 教师	879 医生
760 服务人员	820 科学家	880 工程师
761 高级管理人员	821 护士	881 文艺工作
762 教师	822 飞行员	882 工人
763 警察	882 医生	883 财务工作
764 作家	882	884 律师
765 教师	825	885 教师
766 律师	826 医生	886 自由职业者
767 国家需要的工作	827 政府工作人员	887 工程师
768 高尚的职业	828 翻译	888 工人
769 金融业	829 医生	889 工人
770 旅行家	830 援助员	890 电子学工程师
771 军人	831 公务员	891 文艺工作者
772	832 商人	892 医生
773	833 设计师	893 电子工程师
774	834 技术型	894 医生、教师
775	835 科研工作者	895
776	836 工程师	896 公司经理
777 教师	837 技术工人	897 医生
778	838 让自己的技能为社会作贡献	898 教师
779 工人	839 建筑工人	899 CEO
780 服装设计	840 音乐	900 教师

901 CEO	961 画家	1021 飞机驾驶员
902 法官	962 教师	1022 人民教师
903 教师	963 工程师	1023 医生
904 IT	964 学者	1024 军人
905 律师	965 工人	1025 教师
906 医生	966 跆拳道教练	1026 科技业
907 医生	967 导游	1027 从商
908 教师	968 医生	1028 国家公务员
909 公务员	969 教师	1029 公务中员
910 教师	970 记者	1030 领导
911 律师	971 医生	1031 国家公务员
912 自由职业	972 医生	1032 公务员
913 教师	973 医生	1033 科室
914 钱多的	974 教师	1034 IT行业
915 科学家	975 厨师	1035 医生
916 医生	976 教师	1036 CEO
917	977 医生	1037 销售行业
918 作家	978 教师	1038 政治家
919	979 老师	1039
920 医生	980	1040 老板
921	981 科研人员	1041 工人
922	982 律师	1042 老板
923	983 管理人员	1043 营业员
924 教师	984 教师	1044
925	985 作家	1045 公务员
926 慈善事业	986 律师	1046 公务员
927	987 生物工程师	1047 戏剧演员
928 高新技术工程师	988 医生	1048 戏剧演员
929 白领	989 幼儿园教师	1049 自由职业者, 可以全球旅行的职业, 做背包一族
930	990 教师	1050 操盘手
931	991 医生	1051 自由职业
932 教师	992 教师	1052
933 美食家	993 · 水处理	1053
934	994 工程师	1054 外贸
935 有钱的工作	995 教师	1055
936 翻译	996 教师	1056 为人服务
937 设计师	997 经商	1057
938 律师	998 医生	1058 编导
939 企业家	999 管理人员	1059 建筑业, 医护
940 自由职业	1000 教师	1060 资本运作相关的职业
941 企业家	1001 教师	1061 律师
942 教师	1002 公务员	1062
943 科学家	1003 医生	1063 管理员
944 科学家	1004 技术工程师	1064
945 企业经理人	1005	1065 自由职业
946 电脑	1006 医生	1066 会计
947 企业家	1007 工商业	1067 广告设计
948 教师	1008 医生	1068 老板, 自由职业
949 医生	1009 医生	1069 科研工作
950 医生	1010 警察	1070
951 教师	1011 预算工程师	
952 本质工作	1012 IT业	
953 管理	1013 董事长	
954 医生	1014 医生	
955 个体户	1015 教师	
956 企业领导	1016 律师	
957 律师	1017 董事长	
958 教师	1018 警察	
959 音乐家	1019 IT业	
960 教师	1020 医生	

問30 如果問起您中國文化, 您首先諗到嘅會係乜嘢呢? (自由回答)

(#) No., 回答)

1 中國歷史	65 情	136 秦始皇, 孔子
2 建築物-長城	67 歷史	137 多束縛, 比較傳統封建
3	69 茶	138 尊師重道
4 古墓, 詩詞	70 書法	140
5 宗教	73	141 歷史悠久
7 飲食, 粵曲...特色	75 節日	143
8 迷信	76 中文	144 毛筆, 食物
9 迷信	77 共產黨	146 歷史
10 歷史	78 歷史	147 飲食
12 奸人	79 禮義廉恥	148 瑜珈, 孔孟之道
13 中國節日	81 歷史	149 民族意識
14 傳統, 家庭觀念, 勤力	83 歷史	150 成語
15 孫中山先生	84 經濟	152 粵劇
16 中國歷史, 電腦	86 龍, 五星旗, 廟	154 孔子, 道德
17 萬里長城, 製造紙	87 無規律, 無制度	155
19 科技發達	89 萬里長城	157 誠信
20 親情	90 考試	158 書法
21 飲食文化	91 歷史悠久	159 尊師重道 禮義廉恥
22	92 節日	160
23 沒有	93 節日	164 書法
24 黑暗、無才能、自私	94 儒家	166 食
26 普通話	95 仁義, 孝順	167 北京, 歷史
27 生活方式	96 三國演義	168
28 六四運動	98 皇宮	170 歷史
29 好黑暗	100 大戲	171 北京
31 孝, 人情味	102 節日	172 萬里長城
32 孝, 義	103 四書五經	173 中國藝術
33 傳統思想	104 歷史、秦朝	174
35 龍的傳人	105 藝術	175
36 文化大革命	106 麻雀	176 文字
38 秦始皇, 萬里長城	107 龍	177 萬里長城, 共產黨
40 生活方式	108 歷史	178 茶
42 龍	110 畫法	180 生活方式
43	112 歷史, 傳統的東西	181
44 鬼神, 廟	115 字	183 長江
45 歷史	117 權力, 保守	184 學術
46 文字, 歷史, 哲學思想	118 文房四寶, 唔同既歷史	185 儒家
47 藝術品	119 食物, 生活習慣	186 建築
48 古詩	120 文字, 中醫	188 傳統, 古舊o野
50 中國長城, 四大發明	122 神, 佛	189 國內
51	123 傳統習俗	190 孝順
54 中史	124 僵化	191 麻雀、象棋、熊貓
55 中國字	125 美食	192 孝順父母
56 道德	126 語言 文字	193 孝順
57 食, 中國文學	127 節日	196 建築
58 皇帝	128 儒家思想	197 詩經
60 發達	130 文字	198 孝、親情
62	131 傳統道德	199 冇
63 羊	133 倫理、道德	201 書法
64 國畫	134 節目	204 冇

206 布	270 中國歷史, 食物, 文學	337 糧食
209 節日 (中國傳統)	272 兵馬備	339 中國長城
211	273 節日	341 家庭倫理關係
213	274 布	342 識者生存
214 食的文化	276 陶瓷	343 功夫
215 老子	277	344 戲曲
216 節日	278 歷史	345
217 禮	281 龍	346 禮義廉恥
218 書法	282 中文	348 象牙, 筷子, 長城
220 民主/自由	283	350 中國文學
221 粵劇	284 皇帝	351
222 禮貌	285	352 書法, 建築
223	286 飲食文化	353 龍
226 孝道	287	354 可以再統一, 現在比較零碎
227 中國食物	288 道德	357 家庭觀念
228 歷史	290	359
229 孔子	292 儒家思想	360 節日
230 歷史	297 龍	361
231 建築城 -- 長城	298 封閉	362
232	299 食物, 書法, 詩	363 藝術, 工藝, 歷史, 遺址, 中醫
233	300 不斷進步	364 歷史
234 食物 (飲茶)	302 武術	365
235	303 古代文學	366 節日
236	304 文化古蹟	368 咬蠟
237	305	369 北京
239 龍 -> 中國文學/文字	307 儒家思想	370 家庭觀念
240 政治	308 書法	371 古文
242 語言	309 生活習慣	372 書法
244 中國人民的生活方式/文化	310 萬里長城	373 孝
245 儒家	311 佛學	374 北京
247 中國傳統食物	312 紙張	376 讀書
248 長城	314 封建	377 傳統觀念
250	315 保守	378 中國歷史
251 廣闊, 深奧	316 江澤民	379 食
252 魯迅	317 新年, 中秋	380 儒家思想
253 歷史	318 身體	381
254 道德	319 寫大字, 國畫	382 中醫
255 歷史	321 皇帝	383 中國歷史
256	322 歷史	384
257 製造; 中國傳統宗教, 孔子, 儒家學術思想	323 布	385 傳統習俗
258 歷史	324 1. 時間久遠, 值得人懷念; (2. 文字)	386 仁義禮智
259	325	387 尊師重道
260 豐富	326 真親, 濃親	388 北京
261 喝茶	327 中國文化	389 書畫
262 歷史	330 粵劇, 武術	392 文字
263 德智體群美	331 觀音, 拜神	393 萬里長城
264 打牌	333 萬里長城	394 孝
265 漢字	334 過年, 龍舟, 帆船	397 儒家
266 書法	335	399 歷史、豐富文化
268 文字、紙	336 龍, 家庭關係, 鄰居, 重男輕女	400 領導人

402 兵馬俑	469 文字	535 指南針
403 新年, 傳統文字, 文學	470 腐敗	538 大戲
404 人	472 孝悌忠信	540 尊敬父母
405 筷子, 中秋節吃月餅	473 讀書制度	542 毛筆字
408 文學, 音樂, Arts	474 傳統習俗	545 中國
409 皇帝	475 貧窮	546 佛教
411	476 傳統	548
412 遼闊, 廣	477 文字	549
413 粵劇, 著古裝	479 皇帝	550 皇帝
415	480 新年	552 大陸
418 書法, (畫山水)	483 宗教信仰	553 祖先
420 宗教	484 歷史遺跡	554 打牌
421	486 民族	555 歷史
422	487 詩詞	556 天人合一
423 萬里長城	488 藝術	557 長城
424 落後	489 食物	558 古老的東西
425	490	559
426 越來越進步, 好	491 傳統, 冇其他	560
428 孝順父母	493 傳統的生活	561 儒家思想
429 舞蹈	494 保守, 傳統	562 節日
430 茶道	496 字, 傳統/民族的思想	563 道德, 歷史
432 龍	497	564
433 皇帝	498 中國歷史	565 道德
435 龍	500 粵劇	567 民族
436 書法	501	568
437 萬里長城	502 歷史	570 毛筆
438 皇帝	503 建築	571
440	504 禮儀廉恥	572 龍
441 佛寺	505	574 毛筆字
442 佛祖, 書法	506 過年	576 中國歷史
443 文字, 耕種	510 中文	578 故宮
444 山水畫	511 孝道	580 愚忠
445 書法, 長衫, 孝敬父母	512 四大發明	581 久遠的歷史
446 長城	513 長城	582 充實自己
447 冇學識, 禮貌	515 國畫	585 毛筆
449 中國人進步	516 書法, 戲曲	586 皇帝
450 孔子	517 詩詞	587 孔子
453 食野文化	518 廟	588 書法
454 詩詞歌賦	520 詩經	590
457	521 書法	591 無禮貌
458 儒家	523 孝順	592 儒家思想
459 恭喜發財	524 唐裝	595 國, 家
460 唐裝衫	526 新年氣氛	596 長城
461	527 煮食	597 粵劇
462 習俗	529 龍	598 貧民, 皇帝, 故宮, 書法
463 兵馬俑	530 祖先	600 忠孝
465 長城	531 歷史	601 儒家
466 兵馬俑	532 書法	602 儒家思想
467 歷史	533 古蹟	603 歷史人物
468 龍	534 文字, 功夫	604 龍

607 求神問卜	680 道德	744 節日, 歷史
608 秦始皇	681 古蹟, 歷史	745 五千年歷史, 四大發明
609 字	682	746 仁義禮智
610 詩人	683 優厚歷史, 四大發明, 優良傳統及文化	748 拜神, 宗教
611	684 道德	749 語言
614 尊師重道	685 長城	750
616 兵馬俑	686 中國舞, 雜技, 民族舞	751 人生觀
617 麻雀	687 禮儀	752 傳統習俗
618 古典小說	689 國父孫中山	753 傳統習俗, 傳統建築
620 詩	690 孔子 老子	754 食
621 琴棋書畫	692 道德	756 六四
623 新年	693 博大精深5000年歷史	759 歷史
625 禮義廉恥	695	761 歷史
626 毛筆書法	696 禮貌	763 歷史
627 國畫	697 悠長的歷史	764 孔子, 四書五經
628 歷史	698 節日	765 歷史事物, 道德觀念
630 傳統, 歷史	699 教育	766 儒家思想
633 蔣介石, 孫中山, 廟	700 技術	767 仁義禮智
634	702	769 戰爭, 貪污
639	704 四大發明	770 經濟進步
641	706 歷史	771 中國歷史
642 粵曲	707 古蹟, 建築	772 四大發明
643 北京, 長城, 古跡	708	773 粵劇
645 龍	710 歷史	774 少數民族
646 書籍	711 傳說	775 仁義
647 共產黨	712 國語, 英文	776 儒家思想
648 兵馬俑	714 傳統	777 粵劇
649 古董	715 中國習俗	779 習俗
650 共產黨	716 中國樂器	781
651 兵馬俑	717 中國歷史	782 古舊建築物
653 孝敬父母	718 歷史	783 忠, 孝, 節, 義
654 四大發明	720 書法	785 文學
656 書法	721	787 佛教, 道教, 習俗, 文學, 詩畫
657 孔子	722 人際關係 深遠流長	788 封建
659 新年	723 過年, 中秋	789 歷史, 人物
662 中國歷史, 宏偉, 不可思議	724 文字, 祖先	790 歷史
664	725 萬里長城	791 歷史經過, 文字
665 長城	727 國家	794 民族
666 傳統	728 幾千年來中國人所累積, 經濟, 歷史, 地理 - 人際關係	795 書法
667 人	730 歷史, 傳統, 人倫	797 進步好快
668 孫中山	731	798 造紙
669 書法	732 皇帝	799 歷史
670 服飾	733 古老	800
671 歷史價值	734 習俗	803 長城
672	735 禮儀	805 冇
673 自私	736 長城	806 食的文化
674 鄧小平	738 中國書法	807 古董
675 歷史	740 儒家	809 孔子
676 經濟	741	810 國家
678 長城	743 長久歷史	811 屈原

812 京劇	873 龍、五千年	923 思想
814 中國人, 中國人的性格, 地大	874 政治	924 倫理、親情
815 新年	875 政治方面	925
816 農曆新年	876 農產品	926 絲綢
817 朝代歷史	877	927 道德觀念
818 食物, 地方, 風景	878 孝義	928 書法
819 思想保守, 尊敬父母	879 書法、畫	929 禮儀
821 孝順	880 布	930 禮儀
823	881 鄧小平, 董特首下台	931 長城
824 孔子	882 中國人, 中國古典建築	932 中國文物、歷史
826 北京, 歷史	883 中國傳統節目, 如中秋節、端午節	933 文字火藥
827 節日	884 龍、刺繡、中文字	934 歷史書
828 好, 偉大	885 禮義, 孝道	935 孔子
829	886 北京, 兵馬俑	936 禮、義、廉、恥、孝
830	887 中文	937 溝通
831 歷史	888 封建	938 禮儀
832 歷史	889 1, 落後 (比起西方) 2, 拜神, 傳統思想	939 文學家
833 宗教	890 古代	940 旅遊
834 五倫	891 龍	941
835 宗教	892 語言文字	942 火藥
836 生活方式	893 禮義廉恥	943 玄學、文學
837	894 皇帝	944 康熙、岳飛
839 傳統, 保守	895 中國歷史	945 1, 書法 2, 歷史古蹟
841 六四民運	896 食物	946 儒家思想
842 仁義禮智	897 孔子	947 1. 文字繁多 2. 道德觀念較重 3. 家庭觀念比較重
845 秦始皇	898 孔子, 儒家	948
847 文學	899 秦始皇	949 儒家學說
848 食, 賭博	900	950 中國人等-Sense of Superior
849 孝順	901 毛澤東, 鄧小平	951 儒家學說
850 長城	902 皇帝	952 燒炮仗
851 書法	903 吃	953 秦俑
852 歷史	904 傳統	955 1. 皇帝
853 家庭	905 歷史	956 佛教起源
854 禮儀	906 歷史	957 鄉村
855 詩	907 儒家	958 粵曲
856	908 歷史	959 1. 民族服裝 2. 中國舞
857 歷史	909 中國人自私自利	960 1. 歷史悠久 2. 保守 3. 家庭觀念重
858 唐詩	910 仁義禮智	961 修養
859	911 孝義	964 家庭倫理
861 佛教	912 布	965 傳統道德標準, 學術
862 古蹟文物	913 書法	966
864	914 禮義廉恥	967 萬里長城, 孫中山, 林則徐燒鴉片, 南京大屠殺
865 長城	915 拜神	968
866 食, 歷史, 博物館	916 孝順父母	969 自私, 貪錢, (解放之後)
867	917	970
868 雍正	918 古董	971 布
869 布	919 食	974 傳統事物
870 衣食住行	920 食	975
871 龍	921 粵劇	976 歷史悠久
872 戲劇	922 唐詩	977 中國歷史

978	1033 詩詞歌賦	1083 儒家思想
979 電視節目	1034 古蹟 傳統習慣	1084 龍, 君臣父子, 儒家, 佛學
980 歷史書	1035 中國婦女三從四德	1085 中文
982 尊師重道, 尊敬師長	1036 張信剛 CCIV	1086 歷史
983 冇	1037 求神問卜	1087 北京(中國歷史)
985 皇帝	1038 歷史	1088 食
987	1039 宗教, 食物	1089 萬里長城
988 農村生活	1040 市儈, 錢代表一切	1090 儒家思想
989 漢字	1041 皇帝	1091 孔子
990 龍的傳人	1042 優質食物	1092 龍的傳人
991 龍	1043 龍	1093 with very long history
992 祖先	1044 文字, 交物	1094
993 官僚制度	1045 煩悶	1095 歷史古跡, 中國四大發明
994 儒家思想	1046	1096 孝, 悌, 忠, 信
995 中國歷史	1047	1097 儒家思想
996 燒炮仗	1048	1098 道家思想
997 文房四寶	1049 藝術 傳統觀念	1099 文物
998 書法	1050	1100 歷史
999 文字	1051 國家古蹟文物	1101 Temple
1000 長城	1052 落後幾十年, 人性貪婪	1102 儒家
1001 醫學	1053 茶葉	1103 秦始皇
1002 粥, 粉, 麵, 飯	1054 筷子 碗 新年 花樽 拜山	1104
1003 龍	1055 食物	1105
1004 中國歷史	1056	1106
1005 詩, 詞, 歌, 賦	1057 建築長城	1107
1006 龍	1058 傳統 保守0既觀念	1108 傳統, 保守, 言行不一
1007 建築	1059	1109
1008 政治	1060	1110 祠堂
1009 中文書	1061 故宮	1111 四合院
1010 火藥, 造紙	1062	1112 論理
1011	1063 1. 龍 2. 萬里長城	1113 儒家
1012 歷史悠久	1064 1. 中國民族音樂 2. 古物遺跡	1114 牙刷
1013 歷史	1065 1. 宗教	1115
1014 毛筆字	1066 1. 造紙 2. 兵馬俑 3. 萬里長城	1116 長城
1015 火藥, 造紙, 指南針, 印刷	1067	1117 燒炮仗
1016 中國節日	1068	1118 麻雀
1017 出土文物, 道家, 儒家思想	1069	1119 新年
1018 食	1070 1. 書法 2. 雕刻	1120 萬里長城
1019 尊重傳統, 友愛	1071 1. 孝敬父母	1121 佛教
1020 長城	1072 1. 萬里長城 2. 天壇	1122 道家, 儒家
1021	1073 1. 山水畫	1123 人和人之間的和諧共處, 互相尊重
1022 鄉下	1074 1. 道德觀念	1124 孔子
1023	1075 龍, 長城, 共產黨, 紅為兵, 古董, 少林寺, 皇帝, 書法, 食, 國家自掃門前說(中國人自私), 中國三千年歷史	1125 傳統
1024	1076 無	1126 儒家
1025 長城	1077 1. 孝順	1127 文字
1026 宗教	1078 文字	1128 敬老, 孝順父母
1027 道德	1079 毛澤東	1129 萬里長城
1028	1080 冇	1130 新年
1029 冇	1081 冇	1131 多啲食, 地方大
1032 做大戲	1082 人禽之辨, 儒家思想	1132 火藥, 造紙, 指南車, 印刷

1133 儒家思想	1183	1234 茶葉
1134 新年	1184 1. 孝順父母	1235 四大文明
1135 萬里長城	1185 中國內戰歷史	1236 儒釋道
1136 文字	1186 1. 書法 2. 中樂	1237 優質食物
1137 權力	1187 儒家, 道家, 建築	1238 文物
1138 文字	1188 1. 粵劇 2. 中國舞	1239 有特別論起
1139 刺繡	1189	1240 有道德及貪污
1140 毛筆字	1190 禮, 長城	1241
1141 仁義禮智	1191 長城	1242 傳統禮義廉恥
1142 毛筆字	1192 長城	1243 文字起源
1143 龍	1193 中國歷史	1244 皇帝
1144	1194 黃帝制度	1245 古人
1145	1195	1246 有特別
1146 佛寺	1196 孔子	1247 字典
1147 廟宇	1197	1248
1148 讀書	1198 無	1249 皇帝
1149 筷子	1199 重情	1250 龍
1150 孔子	1200 歷史	1251 孔子
1151 節日	1201 親情	1252
1152 長城	1202 麻雀	1253 1. 長城 2. 兵馬俑
1153 慈禧太后	1203 北京, 長城	1254 1. 佛 2. 皇帝 3. 嫁娶習俗
1154 祖先	1204 天安門廣場	1255
1155	1205 龍的傳人	1256 1. 古書
1156 書法	1206 新年利息	1257 1. 國畫 2. 歷史朝代
1157 旗袍, 戰爭	1207 萬里長城	1258
1158 新年節日, 工藝品	1208 龍	1259 道德, 成語
1159 手工藝品 孔子	1209	1260 故步自封 自吹自擂
1160	1210 萬里長城	1261
1161 貧富懸殊	1211	1262 1. 山歌
1162 宗教, 禮義廉恥	1212 China	1263
1163 歷史	1213 食物, 粥粉麵飯	1264
1164 文學	1214 禮儀	1265 儒家思想
1165 文字官語統一	1216	1266 1. 水墨畫 2. 中菜
1166	1217	1267
1167 古蹟建築物	1218 文字	1268
1168	1219 佛教	1269 1. 禮義
1169 萬里長城	1220 民間手工藝	1270
1170	1221 黃河	1271 唐君毅, 孔子, 諸子百家
1171 皇帝	1222 揮春	1272 皇帝 大陸
1172 尊敬長者	1223 釣魚	1273 統一文字
1173	1224 傳統觀念	1274 龍
1174 古蹟	1225 新年	1275 先人留下的產物, 發明品
1175 文學	1226 中文	1276 人類
1176	1227 北京	1277 中國科技
1177	1228 佛教	1278 藝術 - 文化大革命
1178	1229 家族(長幼有序)	1279 經濟強國
1179 1. 詩 2. 陶瓷 3. 古蹟	1230 拜祖先	1280 長城
1180 長城, 造紙, 中醫	1231 中國字	1281
1181	1232 桑儀	1282 歷史
1182	1233 詩詞	1283 三皇五帝 祖先

1284 思想, 儒家, 孔子, 孟子, 歷史, 過去的
歷史很偉大

1285 孔子, 文藝小說, 太白

1286 係中國人

1287

1288 孔子

1289

1290

問38 對您來說，最寶貴嘅東西是乜嘢? (自由回答)

(サンプルNo., 回答)

1 家庭	65 生命	136 家庭, 親人
2 生命	67 健康	137 生命
3	69 健康	138 生命
4 生命	70 兒子	140 身體健康
5 家人	73 生命	141 健康, 朋友, 家人
7 親人	75 家人	143 生命
8 家人, 朋友	76 互相信任, 關心, 身體健康, 世界和平	144 家人
9 健康	77 生命	146 家庭
10 身體健康	78 生命	147 愛心
12 家人	79 1. 老婆 2. 家人, 3. 健康	148 生命
13 健康, 親情	81 健康	149 金錢, 生命環境
14 生命	83 親人	150 思考、智慧
15 生命	84 友情, 家庭, 事業	152 健康
16 生命	86 錢, 家人, 朋友	154 家人健康
17 家人, 生命	87 健康, 家庭	155 家庭
19 健康	89 健康	157 社會安定, 經濟安定
20 身邊的人	90 家庭, 朋友, 自己能力	158 子女
21 身體健康	91 家人	159 家庭
22 家人	92 健康	160 子女
23 人生自由	93 家庭	164 自己
24 子女	94 健康	166 生命
26 生命, 錢	95 目標, 朋友, 家人, 發揮才能	167 太太
27	96 家庭	168 生命
28 家庭和子女	98 健康	170 健康
29 女兒	100 家人	171 健康
31 自由, 自由時間	102 生命	172 生命
32 健康	103 家庭, 健康	173 健康
33 健康	104 健康	174 家人, 朋友
35 家庭	105 生命	175 兩個兒子
36 健康	106 朋友, 家人	176 朋友
38 自由, 時間	107 生命	177 家庭
40 家人	108 生命	178 人與人之間的真誠
42 生命	110 身體	180 生命
43 宗教	112 家庭, 健康	181 健康
44 健康	115 快樂	183 生命
45 健康	117 家庭	184 生命
46 健康, 財富	118 生命、財富	185 健康
47 親情	119 工作, 健康	186 生命
48 家人	120 夫妻	188 健康
50 健康, 財富	122 家庭	189 信仰
51 生命, 身體	123 生命	190 家庭
54 健康	124 心安	191 屋企
55 生命	125 健康	192 健康
56 自由	126 家人	193 健康
57 知識	127 家人	196 生命
58 生命	128 親情, 友情	197 生命
60 健康	130 生命	198 健康、家人、生命、錢
62	131 生命	199 生命
63 丈夫	133 和平	201 自由
64 生命	134 家人	204 生命, 自由

208 生命, 兒女, 丈夫	270 健康, 快樂, 親情	337 生命, 家人, 財產
209 人的生命	272 健康	339
211 健康 安全	273 親人, 朋友, 錢	341 生命
213 生命	274 金錢	342 家庭
214 家人	276 自由	343 生命
215 生命	277 家庭	344 家庭, 親情
216 生命	278 生命	345 錢
217 健康	281 家人	346 生命
218 健康	282 家庭	348 子女
220 健康	283 家庭	350 個人空間
221 生命	284 生命	351 生命
222 生命	285 健康	352 生命
223 生命	286 健康	353 健康
226 親情	287 親人 - 女兒	354 生命
227 健康	288 家人	357 生命
228 錢	290 生活休閒	359 時間
229 生命	292 生命	360 親人
230 生命	297 家人	361 生命
231 屋企人	298 可以發展所長之工作, 開心的家庭	362 安穩生活
232 家庭	299 屋企人	363 健康, 和平, 自由, 法律公正
233 屋企	300 身體健康	364 生命、健康
234 健康	302 健康	365 生命
235 健康	303 生活安定	366 健康, 友情, 親情
236	304 自由	368 生命
237 生命	305 屋企人	369 家庭, 生命
239 工作	307 生命	370 生命
240 學業	308 生命	371 健康
242 金錢	309 職業及儲蓄	372 家人
244 親情	310 自由	373 家人
245 家庭子女	311 家庭	374 親情
247 親人	312 眼	376 生命
248 生命	314 自由	377 生命和家庭
250 社會安定, 經濟, 人際關係好	315 親情	378 健康和金錢
251 屋企人, 健康	316 健康	379 家庭
252 子女	317 family, time, health	380 自由、健康
253 親情	318 自己生命, 希望社會好	381 家人
254 健康, 家庭, 朋友, 生命	319 生命, 親人 (因錢買唔到)	382 學業
255 親人	321 生命, 家人	383 健康
256 子女	322 健康	384 生命
257 健康	323 身體健康	385 健康
258 家庭	324 健康	386 家庭, 朋友生命, 健康
259 家庭	325 子女	387 家庭
260 生命	326 家庭	388 家庭
261 生命	327 家庭	389 生命
262 家庭	330 生命, 健康	392 生命
263 空間	331 生命	393 健康
264 工作, 金錢, 家庭	333 家庭	394 身體
265 生命	334 生命	397 家人
266 健康	335 生命	399 親情
268 信仰	336 生命, 家人, 朋友, 名譽	400 生命

402 自己	469 錢, 生命	535 屋
403 生命	470 生命	538 生命
404 生命	472 健康	540 健康
405 健康	473 健康	542 家庭
408 健康	474 家人	545 家庭
409 命	475 健康, 家庭, 事業	546 健康
411 家人, 女兒, 太太, 親人	476 信仰, 家庭, 朋友	548 家庭
412 健康	477 生命	549 錢
413 屋企人	479 家庭	550 自由
415 親情	480 健康	552 我的兒子
418 生命	483 生命	553 子女
420 生命	484 生命 健康	554 家庭
421 生命	486 親情	555 家人, 朋友
422 人生	487 健康	556 親情
423 生命	488 生命	557 生命
424 健康	489 家庭	558 健康
425 性命	490 健康	559 生命財產
426 生命	491 生命, 家人	560 生命, 財產
428 生命	493 健康, 錢	561 健康
429 生命	494 生命, 家人, 健康	562 健康, 財產
430 健康	496 自由, 世界和平	563 健康, 運氣, 自由度
432 屋企人	497 家庭	564 生命
433 生命	498 家人	565 生命
435 子女	500 生命	567 感情
436 時間	501 生命	568 親情
437 家人	502 健康	570 家人
438 人	503 健康	571 生命
440 生命	504 家庭	572 生命
441 屋企人	505 家人	574 子女
442 家庭	506 健康	576 健康
443 生命, 愛	510 生命	578 朋友
444 健康	511 生命	580 健康
445 生命	512 健康	581 健康
446 自由	513 生命	582 生命
447 金錢, 事業, 家庭	515 自由	585 健康
449 健康	516 子女, 老公	586 健康
450 生命	517 親情, 錢	587 家庭
453 wealth	518 老婆	588 生命
454 親情	520 生命	590 波鞋
457 家人	521 親人	591
458 健康, 尊嚴	523 生命	592 生命
459 生命	524 家人的健康	595 家庭
460 屋企	526 生命	596 健康
461 健康	527 家人	597 生活安定
462 家庭	529 健康	598 時間
463 健康	530 子女	600 健康
465 健康	531 家人	601 家庭
466 家人	532 健康	602 生命
467 可以生存, 活下去	533 生命	603 健康
468 生命	534 生命	604 生命

607 夫婦感情	680 健康	744 親情, 錢, 工作
608 親情	681 生命	745 自由, 生命
609 生命	682 生命	746 智慧
610 家庭, 親人	683 健康	748 生命
611 家庭	684 安定的生活	749 生命
614 健康	685 生命	750 健康
616 家庭	686 生命	751 信仰
617 家人關係	687 生命	752 生命
618 健康	689 家人	753 自由
620 私人空間時間	690 健康 家庭	754 健康
621 生命	692 生命	756 親情
623 親情, 感情	693 親情	759 健康
625 生命	695 家庭, 國家	761 家庭
626 健康, 家人	696 生命	763 健康
627 生命, 自由	697 健康	764 生命, 正念
628 自由	698 生命	765 友誼, 金錢
630 金錢	699 生命	766 自由
633 生命	700 生命, 財產	767 健康, 家庭, 愛情
634 生命	702 健康	769 錢, 生命
639 健康	704 健康	770 生活(生命), 住所
641 健康	706 健康	771 健康
642 家庭健康	707 家庭人員	772 生命
643 生命	708 家庭人員	773 友情, 真情
645 家庭	710 生命	774 健康, 自由
646 生命	711 親情	775 快樂
647 生命, 家人, 金錢	712 生命	776 工作
648 家人, 健康	714 生命	777 家庭
649 家人	715 健康	779 生命
650 健康	716 家庭	781 生命
651 家人	717 健康, 快樂	782 生命
653 生命	718 家庭	783 生命
654 家庭	720 家庭	785 生命
656 事業, 家庭...	721 健康	787 子女
657 健康	722 生命	788 身體健康
659 親人	723 健康, 家庭	789 家人
662 金錢, 家庭	724 生命, 健康	790 生命
664 生命	725 生命	791 生命
665 健康	727 生命	794 生命
666 健康	728 父母, 家人, 朋友	795 生命
667 生命	730 健康, 家庭	797 身體健康
668 生命	731 生命	798 健康
669 健康	732 生命	799 健康、親人、財富
670 健康	733 生命	800 屈企人
671 生命	734 行	803 生命
672 健康	735 生命, 家人	805 家人
673 親情	736 生命	806 錢
674 生命	738 家人	807 家人朋友
675 生活	740 家人	809 健康
676 家庭	741 生命	810 子女
678 家人	743 身體健康, 錢	811 爸媽

812 生命	873 健康	923 健康
814 生命	874 兒子	924 自己身體、家庭、子女
815 家庭	875 生命	925 家人的健康
816 健康	876 仔	926 家庭
817 家人	877 子女, 先生, 父母	927 健康(自己與家人)
818 生命, 女兒	878 健康	928 生命
819 子女	879 家庭	929 健康
821 生命	880 家庭、生命、生活	930 健康
823 生命	881 生命	931 生命
824 親人	882 自己, 金錢, 家庭	932 健康
826 生命	883 家庭	933 生命
827 家庭	884 生命、家人、朋友	934 子女
828 健康, 生活質素	885 生命, 助人為快樂之本	935 自己
829 生命	886 親情, 友情	936 健康
830 生命	887 生命、家庭	937 子女、家庭
831	888 生命	938 生命
832 健康	889 生命	939 生命
833 健康	890 生命	940 老公仔女
834 家庭	891 老婆	941 生命
835 生命	892 時間	942 親人
836 生命	893 家庭	943 生命、健康
837 人情	894 健康	944 家庭生活、家人、健康
839 生命, 家庭	895 親情	945 1. 生命 2. 家庭 3. 錢
841 親情, 家庭, 愛	896 健康	946 家庭、工作
842 自由, 健康, 家人, 朋友	897 家庭	947 1. 神
845 錢	898 生命	948 生命
847 自己的生命	899 兒女, 家人	949 生命
848 生命	900 家庭, 生活安定	950 生命
849 家人	901 生命	951 家庭
850 親情	902 屋企	952 健康
851 生命	903 健康	953 錢
852 屋企人	904 生命	955 1. 家庭 2. 財富 3. 健康
853 經濟	905 生命	956 生命
854 家庭	906 生命	957 家庭
855 家庭	907 愛	958 生命
856 兩個兒子	908 生命	959 1. 錢 2. 健康 3. 親情 4. 快樂
857 親人	909 生命	960 1. 時間 2. 家庭 3. 親人 4. 朋友
858 屋企人	910 自由、家人	961 健康
859 時間, 金錢	911 自由、健康	964 自由
861 健康	912 自由	965 健康
862 健康	913 自由	966 生命, 金錢, 親情
864 生命	914 生命	967 生命 子女 丈夫 家庭
865 健康	915 人的關係	968 生命
866 健康, 事業, 家庭	916 生命	969 健康
867 家人	917 生命	970 生命
868 生命	918 屋企人	971 家人
869 家庭	919 生命	974 冇乜0野
870 子女	920 生活	975 健康
871 家庭	921 親情	976 生命
872 生命	922 小孩子	977

978 生命	1033 健康	1083 自由
979 兒女	1034 無憂慮地生活	1084 健康, 家人, 金錢
980 知識	1035 生命	1085 安居樂業
982 健康, 運氣	1036 健康	1086 人情
983 生命	1037 生命	1087 仔仔
985 子女	1038 親人	1088 家庭
987 家人的健康	1039 生命	1089 家庭
988 光陰	1040 家人	1090
989 家人健康	1041 親情	1091 神
990 life	1042 親情	1092 生命
991 life	1043 家庭	1093 Health. Family, Well balance between career & leisure
992 家人	1044 生命	1094 生命
993 life	1045 時間	1095 屋企
994 健康, 家庭	1046 生命	1096 生命, 家庭
995 life	1047 生命	1097 家庭
996 健康	1048 仔	1098 自由
997 健康	1049 健康	1099
998 生命	1050 生命	1100 生命
999 工作	1051 生命	1101 freedom
1000 家庭和平	1052 冇	1102 親人
1001 生命	1053 家人	1103 生命
1002 家人	1054 健康	1104 健康
1003 生命	1055 家庭	1105 健康
1004 生命	1056 健康	1106
1005 生命	1057 健康	1107 別人的意見
1006 生命	1058 健康	1108 健康
1007 生命	1059 家人	1109 自由
1008 生命	1060 健康	1110 健康
1009 自由	1061 仔	1111 自由
1010 家庭	1062 1. 健康	1112 生命
1011 健康, 子女	1063 1. 生命 2. 家庭	1113 仔女
1012 金錢	1064 1. 健康 2. 家人 2. 朋友	1114 錢
1013 家人	1065 1. 生命	1115 健康
1014 生命	1066 1. 健康	1116 生命
1015 生命	1067	1117 生命
1016 自由	1068 1. 生命	1118 健康
1017 家庭	1069 生命	1119 要對人好
1018 金錢	1070 1. 健康 2. 家庭	1120 財產
1019 事業	1071 1. 生活愉快	1121 生命
1020 生命	1072 1. 自由 2. 人權	1122 生命
1021 生命	1073 1. 家庭	1123 生命
1022 家庭	1074 1. 家庭	1124 生命, 健康
1023 生命	1075 健康, 家人, 財富, 自由, 工作, 朋友, 娛樂, 助人, 信仰, 和平。	1125 生命
1024 生命	1076 1. 時間	1126 家庭
1025 生命	1077 1. 健康	1127 健康
1026 家人	1078 健康	1128 家庭
1027 生命	1079 生命	1129 健康
1028 健康	1080 健康, 自由	1130 家庭
1029 生命	1081 生命	1131 生命
1032 Life	1082 自己	1132 生命

1133 人與人之間的關係	1183 1. 生命	1234 親情
1134 生命	1184 1. 生命	1235 親情
1135 家庭	1185 1. 友誼 2. 自由 3. 智識	1236 生命
1136 生命	1186 1. 生命 2. 親人	1237 金錢
1137 健康	1187 1. 友情	1238 生命
1138 健康	1188 1. 生命	1239 生命
1139 健康, 自尊, 親情	1189 1. 健康	1240 家人
1140 自由	1190 大自然	1241 健康
1141 生命	1191 親人	1242 家人
1142 生命	1192 生命	1243 太太
1143 家人	1193 TIME	1244 健康
1144 健康	1194 親人	1245 生命
1145 生命	1195 親情	1246 生命
1146 愛情	1196 足球比賽	1247 女兒
1147 家庭	1197 生命	1248 健康的家庭
1148 健康	1198 生命, 自由	1249 子女
1149 生命	1199 情	1250 自由
1150 生命	1200 身體, 生命	1251 健康
1151 生命	1201 健康	1252 1. 仔女
1152 子女	1202 家庭	1253
1153 親情	1203 感情, 人情	1254 1. 生命 2. 親情
1154 生命	1204 家庭	1255 1. 生命 2. 金錢 3. 家人
1155 子女	1205 自由	1256 1. 生命
1156 家人	1206 女朋友	1257 1. 時間 2. 生命
1157 生命	1207 女兒屋企人, 生命	1258 生命
1158 健康	1208 屋企, 生命質素	1259
1159 自由	1209 健康, 家庭和睦	1260 健康
1160 生命	1210 親朋戚友	1261
1161 生命	1211 生命	1262 1. 家人 2. 生命
1162 情感	1212 life, Healthy	1263 家庭
1163 生命	1213 健康, 休息時間	1264 工作 兒女 家庭
1164 仔	1214 錢	1265 幸福
1165 健康	1216 生命	1266 1. 健康(自己及家人)
1166 生命	1217	1267
1167 健康	1218 生命	1268 生命
1168 生命	1219 子女	1269 1. 家人
1169 友誼	1220 心境平靜	1270 健康
1170 健康	1221 生命	1271 家庭, 朋友, 生活過得去, 宗教, 知識, 自由
1171 生命	1222 親人	1272 健康
1172 敬神愛人	1223 錢	1273 孩子(仔)
1173 健康	1224 健康	1274 健康
1174 子女	1225 Time	1275 生命
1175 人的感情	1226 生命 / 家人	1276 生命
1176 1. 生命	1227 生命	1277 生命
1177 1. 性命	1228 健康	1278 自由
1178	1229 自由	1279 生命
1179 1. 生命	1230 生命	1280 生命
1180 1. 自由 2. 健康 3. 家庭	1231 生命	1281 金錢
1181 1. 青春 2. 生命	1232 健康	1282 家庭
1182	1233 時間 健康	1283 親人

1284 朋友
1285 生命
1286 健康
1287 生活環保&素質
1288 生命
1289 健康
1290 家庭

問39a請您講出您最尊敬嘅係乜嘢職業呢? (自由回答)

(#No., 回答)

1 特首	65 醫生	136 無國界醫生, 義工
2 護士	67 醫生	137 醫生
3	69 老師	138 裝修
4 消防員	70	140 律師
5 任何職業	73 醫生	141 自己做生意的人
7 軍人	75 教師	143
8 冇	76 Teacher	144
9 律師	77 發明家	146 教師
10 消防員	78 消防員	147 醫生
12	79 學者, 醫生	148 神父
13 醫生	81 教師	149 藝術家
14 自己的職業	83 其實每一個職業都尊敬	150 無
15	84 教師	152 醫生, 消防員
16 消防員	86 醫生, 科學家	154 老師
17 老師	87 警察	155 消防
19 科技人員	89 科學家	157 律師
20 警察	90 醫生, 消防員	158 消防
21 紡織業	91 老師	159
22 老師	92 醫生	160 老師
23 各行各業	93 醫生	164 醫生
24 汽車維修 (因自己果行)	94	166 醫生
26 Doctor	95 消防員	167 消防員
27	96 律師	168 老師
28 專業人士	98 醫生	170
29 Policeman	100 醫生	171
31 厭惡性工作 - Eg. 死人化妝師	102 母親	172
32 醫生, 消防員, 警員	103	173
33 科學家	104 醫生	174
35 消防員	105 醫生	175
36	106 消防員	176 警察
38	107 老師	177
40 服務業	108 醫生	178 所有職業
42 醫生	110 老師	180 廚師
43	112	181
44 所有	115 醫生	183 教師、醫生、律師
45 醫生	117 醫生	184
46 ICAC 專員	118 醫生	185 醫生
47 法官, 醫生	119 建築師	186 消防員
48 老師	120	188
50 doctor, 工人	122 消防員	189 任何職業
51 doctor	123	190 紀律部隊
54 doctor	124 醫生, 老師	191
55 行行出狀元, 冇一行特別尊敬	125 醫生, 醫護人員	192 醫生
56 doctor	126	193 消防員
57 醫生	127 法官	196 消防員
58 每一行都有價值, 有值得尊敬的地方	128 醫生	197 警察
60 Doctor	130 紀律部隊	198 醫生
62	131 清道夫, 護士	199 冇
63 老師	133	201 醫生
64 修女 (e.g. 德蘭修女)	134 醫生	204 Doctor

206 法官	270 律師	337 地產經紀股票經紀, 銀行經紀, 商人,
209 醫生	272 神父	339
211	273	341 醫生
213 照顧家庭	274 冇	342 消防員
214 警察, 消防員	276 老師	343 醫生
215 醫生	277 醫生	344 教師
216 任何職業	278 所有職業都係尊敬	345
217	281 愛護動物協會人員	346 任何職業
218 消防員	282 義工	348 老師, 清潔
220 消防員	283	350 消防員, 醫生
221 特首	284	351 醫生
222 警察	285	352 歌星
223 工務員	286 正當職業	353 教師
226 醫生	287 樓面	354 社工, 醫生
227 義工	288 消防員	357
228 消防員	290	359 公務員
229 醫生	292 無	360
230 醫生	297	361 醫生
231 醫生	298 可以幫到別人的工作, e.g. 無國界 醫生, 山區偏遠之醫生	362 清潔
232 警察	299 醫生	363 律師, 老師, 醫護人員
233 老師	300 董事長	364 科學家
234	302 醫生	365 醫生
235	303 建造業	366 醫生
236	304 消防	368 設計師
237 高官	305 服務性	369 醫生
239 護衛員	307	370 教師
240 教師	308 醫生	371 醫生
242	309 沒有	372 審員
244 教師	310 消防員	373 醫生
245 律司	311 教師	374
247 醫生	312 建築	376 大老闆
248 醫生	314 消防員	377 一份滿足的工作
250 醫生	315 醫生	378 能賺錢的職業
251 醫生	316 醫生	379 醫生
252 花王	317 大學教師	380 服務行業 (低收入)
253 教學工作者	318 正當職業	381
254	319 醫生	382 醫生
255 醫生	321 醫生, 社工	383 教書
256 醫生	322	384 消防員
257 醫護人員	323 冇	385 教師
258	324 教師	386 法官
259 救生員, 醫生, 消防員	325 醫生, 老師	387 護士
260 教師	326 醫生	388
261 醫生	327 醫生	389 醫務人員
262 任何	330 醫生	392
263 服務性行業	331 消防員	393 老師
264 行行出狀元	333	394 doctor
265 很多都有職業操守, ... 冇	334 牧師	397
266 清潔工人	335	399 科學研究
268 教師	336 老師	400 義工

402 沒有	469 醫生	535 警察
403 醫生	470 保安員	538 醫生
404 醫生	472 醫生	540 醫生
405 醫生, 消防員	473 清潔工人	542
408 doctor	474 醫生	545
409 醫生	475 醫生	546 科學技術人員
411 差人, 消防員	476 傳道人	548 醫生
412 差人	477	549
413 醫生	479	550 警察
415 醫生, 救護人員	480	552 修女
418 音樂家	483	553 專業人仕
420 消防員	484 老師	554 醫生
421 義工, 對人民有貢獻的工作	486 運動員	555 妓女
422 醫生	487 醫生	556 無國界醫生
423 消防員	488 教師	557 警察
424 護士, 醫生	489 幫到人的工作	558
425	490 冇	559 裝修
426	491 醫生	560
428 科學家	493	561 老師
429 醫生	494	562 警員
430 藝術教師	496 Policeman	563 建築工人
432 醫生	497	564 醫生
433	498 消防員	565 消防員
435 警察	500 設計師	567 律師
436 醫生	501	568 醫生
437 醫生	502 醫生	570
438 教師	503 醫生	571 消防員, 警察
440	504 醫生	572 醫生
441	505 消防員	574
442 神職人員	506 用勞力工作的職業	576
443 法官	510 消防員	578 醫生
444	511 科學家	580 沒有
445 家庭主婦	512 教師	581 醫生
446	513 護士	582 所有職業
447 自己的職業	515 法官	585 醫生
449	516 doctor	586
450 消防員	517 消防員	587 醫生
453 服務人士(障礙), 出於真心, 細心去照顧	518 設計師	588 護士
454 醫生	520 社會工作	590
457	521 醫生	591 消防員
458 醫生	523 醫生	592
459 宗教上的工作	524 所有職業	595 醫生
460	526 醫護人士	596
461 醫生	527 醫生	597 醫生
462 社工	529 律師	598 特首
463	530 醫生	600 醫生
465 公務員	531 消防員	601 Police
466 消防員	532 醫生	602 警察
467 所有對社會有貢獻的工作	533 牧師	603 老師, 醫生
468 醫生	534 醫生	604 牧師

607	680 無分貴賤	744 醫生, 教師
608 醫生	681 科學家	745 教師/神職人員
609 老師	682 任何	746 服務性行業
610 醫生	683 醫生	748 警察
611 文職人員	684 真心幫人的社工	749 小販
614 醫生	685 消防員	750 教師
616 社會工作者	686 醫生	751 教師
617 沒有	687 醫生	752 醫生
618 Sales	689 無國界醫生	753 教師, 醫生
620 教師	690	754 老師
621 醫生	692 教師	756 醫生
623	693 清潔	759 科學家
625 doctor	695	761 醫生
626 法官	696 消防員	763 醫生
627 律師	697 消防員	764 社會工作者
628 老師	698 醫生	765 teacher
630 教師	699 醫生	766 冇
633 護士	700	767 冇
634 醫生	702 醫生	769 消防員, 警察
639 冇	704 消防員	770 電腦業
641 醫生	706	771 政治家/科學家
642 科學家	707 醫生, 消防員, 警員	772 醫生 (救死扶傷的)
643 醫生	708 消防員	773 醫生
645 教師	710 消防員	774 醫生, 教師
646 警察	711 醫生	775 醫生
647 法官	712 醫生	776 消防員
648 醫生, 教師	714 電腦/廣告	777 醫生
649 消防員, 醫療人員	715	779 醫生
650 警察, 法官	716 公共汽車司機	781 家庭主婦
651	717 醫療	782
653 主婦	718 醫生	783 醫生
654	720 消防員	785 經紀
656 義工, 醫生	721 醫生	787 佛學講師
657 消防員	722 傳道人	788 醫生 服務行業 教師 警察
659 醫生	723 消防員	789 創作
662 牙科醫生	724 老師	790 律師
664 警察	725 自己做	791 冇
665 家庭主婦	727 社工, 義工	794 車衣工人
666 醫生, 教師	728 教師	795 無
667 農夫	730 冇	797 區議員
668 消防員	731	798
669 醫生	732 消防員	799 消防員
670 醫生	733 醫生	800
671 每一樣都尊重	734 冇	803 戰地醫生, 護士 (不為錢幫人, 自我犧牲)
672 醫生	735	805 義工
673 科學家	736 教師, 社工	806
674 護士	738 科學家, 工程師	807 消防員
675 消防員	740	809 教授
676 教育老師	741	810 教學
678 消防員	743 冇聽過	811 消防員

812 護士	873 醫生	923 教師
814 醫生	874	924 教師
815 老師	875 醫生	925 醫生
816 老師	876	926 醫生
817 老師	877	927 工人(已追問)
818 醫生	878 父母	928 醫生
819 冇所謂,做 開心最緊要	879	929 醫生
821 老師	880 玻璃工程	930 政府人員
823	881 冇	931 美容
824	882 消防員	932 消防員
826 警察	883 所有對社會有貢獻的職業	933 教師
827 消防員	884 公園	934 廚師
828 法官	885 教師	935 P.C.警察
829	886 神職人員	936 醫生
830	887 老師	937
831	888 all	938 教師
832 醫生	889 Doctor	939 醫生
833 教師	890 政治人物	940 醫生
834	891	941
835	892 冇	942 法官
836 醫生, 護士	893 護士	943 冇, 職業無分貴賤
837 教師	894 科學家	944 消防員
839 老師, 醫生	895 任何職業	945 所有職業都應該被尊重
841 任何	896 醫生	946 冇
842 無國界醫生	897 任何職業	947
845	898 醫護人員, 消防員	948
847 清道夫	899 doctor	949 文學家
848 正行正業	900 教育工作者	950 科學家、醫學權威人士、先驅者
849 消防員	901 寫字樓職員	951 政治家
850 醫生	902 醫生	952 醫生
851 科學家	903 社工, 義工	953 旅遊業
852	904 創業, 經商	955 冇
853	905 警察	956 消防員
854 醫生	906 商人	957
855 行政人員	907 教師	958 醫生
856 沒有	908	959 1. 醫生 2. 警察 3. 消防員
857 醫生	909 冇	960
858	910 醫生	961 老師
859 沒有	911 義工	964 醫院(專業人士)
861	912 醫生	965
862	913 冇	966 Police teacher
864 醫生	914 教師	967 律師 醫生
865 醫生	915 醫生	968 點心師傅
866 護理界 (hospital)	916 護士	969 醫生
867 醫生, 限於專科, 非全部醫生	917 自己做到的職業	970
868 建築師	918	971 製衣業
869	919 死人化妝	974 沒有
870	920 機械操作員	975 醫生
871 消防員	921	976
872 老師	922 老師	977

978	1033 清潔工人	1083 飛機師
979 醫生, 教師	1034 無特別	1084 醫務人員
980 護士	1035 清道夫	1085 doctor
982 doctor	1036 消防員	1086 醫生
983 doctor	1037 教師	1087 醫生
985 消防員	1038 醫生	1088 醫生
987	1039 醫生	1089
988	1040 醫生	1090 清潔工人
989	1041 消防員	1091 教師
990 豬肉零售	1042 醫生	1092 消防員
991 科學家	1043 教育工作	1093 I respect those denote whole-heartedly to their work. Job that is taken seriously is worth being respected.
992	1044 醫生, 律師, 警察	1094
993 lawyer	1045 警察	1095 教師
994 Teacher, Doctor	1046 醫生	1096 紅十字會. 義工
995 Doctor	1047 商人	1097 服務性e.g. 社工
998 醫生	1048	1098 冇
997 醫生	1049 冇特別	1099
998 消防員	1050 職業無分貴賤 冇特別	1100 為人民服務的工作
999 醫生	1051 冇特別	1101 Fireman
1000 賣報紙	1052 冇特別	1102 教師
1001 公務員	1053 消防員	1103
1002	1054 醫生	1104
1003 醫生	1055 冇	1105 教師
1004 清潔員	1056 資訊科技	1106
1005 工程師	1057	1107
1006 醫生	1058 醫生	1108 科學家
1007 藝術家	1059	1109 1. 醫生 2. 護士
1008 醫生	1060	1110 醫生
1009 Sales 店員	1061 科學家	1111 教師
1010 醫生	1062 1. 醫生	1112 警察
1011	1063 冇	1113 教師
1012 醫生	1064	1114 懲教署
1013 律師	1065 2. 社工	1115 教師
1014 會計人員	1066 消防員	1116 醫生
1015 醫生	1067	1117 醫生
1016 科學家	1068 1. 裁縫	1118
1017 科學家	1069 消防員	1119
1018 醫生	1070 1. 教師 2. 宣教士	1120 doctor
1019 法官, 高官, 教師	1071 1. 消防員 2. 警察 3. 醫護人員	1121 教書, 紀律部隊
1020 消防員	1072 1. 義務工作	1122 消防員
1021	1073	1123 教師
1022 醫生	1074 1. Doctor 2. Teacher 3. Police 4. fireman	1124 法官
1023 冇	1075 所有'正當'職業都應尊重	1125 醫生
1024 冇	1076 醫護人員, 醫生	1126 醫生
1025 教師	1077	1127 記者
1026 Teacher	1078 科學研究	1128 科學家
1027 Teacher	1079 會計	1129 醫生
1028	1080 法官	1130 醫生
1029 Teacher	1081 doctor	1131 醫生
1032 Doctor	1082 法官	1132 底層體力工作者

1133 無國界工作者	1183	1234 醫生
1134 律師	1184 1. 無國界醫生	1235 醫生
1135	1185 1. 消防員 2. 救護員	1236 醫生
1136 警察	1186	1237 環保界成功人士
1137 老闆 (任何行業)	1187	1238 任何職業也應尊敬
1138 醫生	1188 1. 醫生	1239 醫生
1139	1189	1240 建築主管
1140 消防員	1190 醫生	1241 為民請命的工作
1141 醫生	1191 醫生	1242 冇特別
1142 律師	1192 醫生	1243 醫護人員
1143	1193	1244 只有義工值得尊敬, 其他冇特別
1144 消防員	1194	1245 醫生
1145	1195	1246 冇特別
1146 醫生	1196 律師	1247 教師
1147 社工	1197 警察	1248 法官
1148 地產經紀	1198 DOCTOR	1249 社工
1149 警察	1199 司機	1250 樣樣職業都值得尊敬, 冇特別註明
1150 醫生	1200 老師	1251 醫生
1151 保護大自然工作者	1201 醫生	1252
1152 消防員	1202	1253
1153 消防員	1203 醫生	1254 1. 社工
1154 老師	1204 醫生	1255
1155	1205 消防員	1256 冇
1156 冇	1206 policeman	1257 1. 醫生 2. 老師
1157 物業管理總經理	1207 消防員	1258
1158 醫生	1208	1259
1159 財政司	1209 醫生	1260 醫生
1160	1210 國家的元首	1261
1161 係正當職業也值得尊敬	1211	1262 冇
1162 老師	1212	1263 冇
1163 警察	1213 發明家, 政治家, 廚師	1264 所有行業
1164 醫生	1214 醫生	1265 所有敬業者
1165 職業無分貴賤	1216 警察	1266
1166 政府官員	1217	1267
1167 醫生	1218 醫生	1268 Doctor
1168 醫生	1219 醫生	1269 冇
1169 無國界醫生	1220 修女	1270 醫生
1170 老師	1221 消防員	1271 家庭主婦, 導演, 藝術家
1171 老師	1222 科學家	1272 消防員
1172 醫護人員	1223 賭神	1273
1173 醫生	1224 教師, 護士	1274 醫生
1174 醫生	1225 做父母	1275 醫生
1175 教師	1226 警察 / 醫生	1276 醫生
1176 1. Doctor	1227 運動員, 足球員	1277 老師
1177	1228 無	1278 消防員
1178	1229 醫生	1279 警察
1179 1. 醫生	1230	1280 醫生
1180	1231 法官	1281 教師
1181 1. Doctor 2. 國家領袖	1232 教師	1282 教師
1182	1233 醫生	1283 醫生

1284 義工

1285 醫生

1286 醫生

1287 白手成家的entrepreneur

1288

1289 醫生

1290 教師

問39b 而您自己本身實際上最想從事乜嘢職業呢? (自由回答)

(#ノフ' MNo., 回答)

1 律師	65 電台工作	136 律師
2 空姐	67 教師	137 科學家
3 護士	69 老師	138 家庭主婦
4 義工	70	140 電腦技工
5 酒店服務	73	141 行政人員, 公務員
7 商人	75 銀行界	143
8 服務性行業	76 當兵	144
9 護士	77 旅遊家	146
10 警察	78 警員	147 義工
12 醫院的工作	79	148 會計師
13 寵物治療員	81 教師	149 教師
14 生意	83 老師	150 教師、語言治療師、話劇演員
15 家庭主婦	84 資訊科技, 設計	152
16 當兵	86 教師	154 飛機師
17 老師	87 教師	155 設計
19 科技人員	89 律師	157 企業
20 設計	90 管理	158 警察
21 紡織業	91 老師	159 地產
22	92 醫生	160
23 電腦	93	164 傳道
24 唔使憂家計既工作	94 管理公司	166 作家
26 歌手	95 設計, 導演	167
27	96 公關類別	168 文員
28	98	170 適合的工作就可
29 Doctor	100 幫人工作	171
31 作家, 創作性工作	102 老師	172 會計師
32 警員	103	173 金融
33 紀律部隊, 如海關	104 警察	174 售貨員
35	105 服務業	175 家庭主婦
36	106 老闆	176 自願人士
38 老師	107 老師	177 醫護人員
40	108 空姐/護士	178 只要做得開心的工作就OK啦
42 律師	110 化妝師	180 廚師
43	112 設計(興趣), 自己開	181
44	115 生意(玩具)	183 護士
45 建築管理	117	184 任何職業(能搵食)
46 銀行	118 生意(自己)	185 教師
47 藝術發展	119 設計(所有方面)	186 醫生
48 老師	120	188 幼兒工作
50 三行	122 創業, 運輸	189 治療技工(醫院)
51 在旅行社做(送文件)	123 警察	190 紀律部隊
54 紀律部隊	124 工程師	191 社工
55 Work In Factory	125 創業, 空姐	192 醫生
56	126	193
57 藝術家	127 公關	196
58 商人	128 社工	197 教書
60 Anything	130 公務員	198 銀行服務員
62	131	199 冇
63 老師	133 技術、發明	201 醫生
64	134 家庭主婦	204 自己做老闆

206 冇	270 會計	337 建築業
209 醫生	272 律師	339 樣樣都想試
211	273	341 姑娘 (護士)
213	274 冇	342 無憂無累既職業
214 文職	276 冇	343
215 執法者 (incl. 法官, 警員)	277	344 設計
216 fashion designer	278	345 保母車司機
217 SALES & MARKETING	281 愛護動物協會人員	346 時裝設計
218 駕車/倉務	282 家庭主婦	348 老師
220	283 因為未做過o野, 所以無餘過	350
221 醫生	284 漁農處, 接近大自然	351 小食買賣
222 車衫工人	285	352
223 工務員	286 學生	353 教師
226 醫生	287 做緊要搵到一餐就得	354 護士
227 政府公務員	288	357 醫生
228 工程師	290	359
229 老師	292 資本家	360
230 醫生	297 無	361
231 商業老闆	298 shipping 的CEO	362 銀行
232 警察	299 警察	363
233	300 自由的工作	364 設計
234	302 教師	365 護士
235	303 建造業	366 髮型師
236	304 無想過	368 設計師
237 寫字樓工	305	369
239	307	370 牙醫
240 教師	308 文員	371 傳道人
242	309 船廠採購員	372 商人
244 教師	310 消防員	373 經理
245	311 工程師	374 社工
247 會計司	312 建築工人	376 旅遊業
248 侍應生	314	377 老闆
250 醫生	315 律師	378 能賺錢的職業
251 會計師, 護士	316	379 空姐
252 花王	317 教師	380 創作成份高
253 汽車設計者	318 總之自己有能力便可	381
254 老師	319 畫家	382 醫生
255 醫生	321 社工	383 教育
256 政府官員	322	384 工程
257 旅遊行業	323 冇	385 教師
258	324 教師	386 教師
259	325 飲食業老闆	387 電腦專家
260 社會工作者	326 醫生	388 義社工
261 律師	327	389 無特別職
262 醫生	330	392 設計
263	331 無所關	393 幼稚園老師
264	333	394 教師
265 老師	334 工程師	397 能幫助人
266 廚師	335	399 研究
268 神續人員	336 保母	400 秘書

402 沒有	469 家庭主婦	535 醫生
403 醫生	470 演員	538 警察
404 冇	472 機械工程	540
405 教師, 髮型師	473 商人	542 物流文職工作
408 商人	474 金融行業	545
409 護士	475 護士	546 零售生意
411 投資-->Stock-->經紀	476 傳道人	548
412 藥劑師	477	549 醫院阿媽
413	479	550 警察
415 家庭主婦	480	552 文職
418 音樂家, 畫家	483 研究開發	553 警察
420	484 設計師	554 出入口貿易
421 醫護人員	486 運動員	555 設計
422 耕田	487	556
423 警察	488 護士	557 警察
424	489 社工	558
425	490 做自己生意	559 裝修
426	491 自己生意 (買賣)	560
428 廚師	493	561 會計
429 律師	494 工程師 (建築)	562 老師
430 藝術教師	496 Policeman	563 作家
432 運動員	497	564
433 護士	498 工程師	565 護士
435	500 設計師	567 教師
436 護士	501	568
437 Police	502	570
438 紀律部隊	503 科學家	571 警察
440	504 護士	572
441	505 消防	574
442 廚師	506 文員	576 文職
443 警察	510 藍領	578 商人
444	511 建築	580 沒有
445 義工	512 郵差	581
446 旅遊業, e.g. 導遊	513 文員	582 車衣
447 現時的工作	515 消防員	585 秘書
449	516 police	586
450 冇	517 Marketing	587 酒店業
453	518 設計師	588 警察
454 登記護士	520 設計	590 懲教署
457 唔洗用腦的職業 (酒樓清潔)	521 商人	591 消防員
458 會計師	523 醫生	592 接觸人的工作
459 creative 的 job	524 (有成就感的工作) 採購	595 律師
460	526 警察	596
461 主婦	527	597 裝修
462 老闆	529	598 市場管理工作
463 建築	530 空中小姐	600 老師
465 職業足球員	531	601 軍人
466 消防員	532 基金經理	602 戒毒所職員
467 樹械	533 警察	603 社工, 幫別人的工作
468 醫生	534 醫生	604 工程師

607 導師 + 主婦	680 工程師	744 冇諗過
608 護士	681 裝修	745 電子業 (設計)
609 老師	682	746 顧問
610	683 醫生, 從事專業行業的人及對社會有 貢獻的人	748 寵物美容
611 家庭玩具從業員	684 社工	749
614	685 建築師	750 醫生
616 社會工作者	686 醫生	751 傳道人
617 Nil	687 醫生	752 待應
618 倉務管理	689 行政人員	753 圖書館長
620 教師	690 散工裝修	754
621 專業人士	692	756 電子
623 冇錢有自由o既職業	693 建築	759 科學研究
625 teacher	695 做生意	761 文具店老闆
626 空姐	696 零售業	763 醫生
627 警員	697 消防員	764 社工
628 消防員	698 醫生	765 teacher
630 百貨	699	766 與學術有關職業
633 醫生	700	767 translator
634 冇	702 警察	769 消防員
639 冇	704 社工	770 車衣
641 冇	706	771 雜工 (能力所做到的)
642 文學家	707	772 政券業
643 教師	708	773 HCA (Health Cart Assistant)
645 護士	710	774 科學家
646 警察	711 電器技工	775 警察
647 政官	712 醫生	776 消防員
648 警察	714 I.T.	777 警察
649	715	779
650	716 冇	781
651 五金	717 電子technique	782
653 主婦	718 義工	783 托兒院
654	720 醫生	785 小股東
656 義工	721 車衣	787 保健員 (老人院)
657	722 教師	788 醫生 / 教師
659	723 醫生	789 社會服務
662 無特別	724 老師	790 研究員
664	725 冇	791 修理行業
665 人事管理	727 義工	794 車衣工人
666	728 教師	795 冇
667 無	730 冇	797 區議員
668 文員	731 文員	798 醫生
669 欄師	732 文職人員	799 消防員
670 教書	733 醫生, 護士	800
671 建築工程	734 冇	803 演講家
672	735 工程師	805 冇
673 天文學家	736 教師	806 police
674 教師	738 會計	807
675 航海員	740	809
676 電腦技術員	741	810 冇
678 資訊科技	743 冇諗過	811 文員

812 護士	873 product management	923
814 建築師	874	924 有教育意義
815 冇	875 運動員	925
816 商人	876	926
817 社工	877	927 飲食業老闆
818 冇	878 義工, 老師或醫生	928 律師
819 冇	879 服務業	929 管理人員
821	880 玻璃工程	930 教師
823	881 冇	931 美容師
824	882 冇	932 醫生
826 自己生意	883	933 社工
827 髮型師	884 公關	934 廚師
828 商人	885 已脫離社會...冇所謂	935 建築技工
829	886 秘書	936 警察
830	887 工程維修員	937
831 醫生	888 doctor	938 電台DJ
832 醫生	889 自由職業(冇驅速)未能具體講出	939 作家
833 廚師	890 設計師	940 醫生
834 社工, 幫人	891	941
835	892 公務員(紀律部、警隊)	942
836	893 護士	943 冇特別提及
837	894 冇	944 文員
839 社工	895 老師	945 1, 政治家 2, 科學家 3, 地產老闆
841 義工	896 旅遊家	946
842 teacher	897 傳道人	947 1. 商標設計
845	898 宣教士	948
847	899 銷售員	949 文學家
848 建築	900	950
849 商人	901 寫字樓職員	951 生意人
850 工程師	902 醫生	952 醫生
851 創作	903 醫生	953 旅遊業
852 IT	904 商人	955 冇
853	905 製造業, 機械操作員	956 消防員
854 醫護人員	906	957
855 會計	907 花店老闆	958 幼兒教師
856 沒有	908	959 1. 醫生
857 商人	909 生意人	960 1. 老闆(任何行業)
858	910 護士	961 護士
859 沒有	911 做生意	964 專業人士
861 專業行業	912 冇	965
862 貿易	913 金融從業員	966 家庭主婦
864	914 教師	967
865 製衣	915 教師	968
866 冇	916 教師	969 醫生
867 出口貿易	917 沒有	970 飲食業
868 記者	918	971 製衣業
869	919 幫人化妝	974
870	920 機械操作員	975
871 生意(商人)	921 馬評家	976
872 老師	922 教書	977 幼兒護理

978 教師	1033 冇特別	1083 消防員
979	1034 無特別	1084 護士
980 模特兒	1035 商人	1085 建築
982 企業家	1036 冇特別	1086
983 老闆	1037 冇特別	1087 警察
985 美容	1038 醫生	1088 醫生
987	1039 科學研究員	1089
988	1040 室內設計師	1090 教師
989	1041 消防員	1091 Designer
990	1042 冇特別	1092 消防員
991	1043 教育工作	1093
992	1044 廣告設計師	1094 文員
993 lawyer	1045 電腦技術員	1095 律師
994 Teacher	1046 冇特別	1096 家庭主婦
995 送貨員 (logistic) 任何貨物	1047 冇特別	1097 服務性行業e.g. 社工
996 工程師	1048 冇特別	1098 作家
997 教師	1049 教學老師	1099 冇
998 教師	1050 冇特別	1100 老闆
999 社工	1051 冇實際考慮過	1101 修女
1000 賣報紙	1052 冇特別	1102
1001 警察	1053 警察	1103
1002	1054 空姐	1104 飲食業
1003 東主 (任何行業)	1055	1105 社工
1004 清潔員	1056	1106
1005 工程師	1057 清潔工人	1107 社工
1006 Director (任何行業)	1058 律師	1108 老師
1007 作家	1059	1109 無
1008 醫生	1060	1110 幼兒教師
1009 店員 Sales	1061	1111 機械工程師
1010 醫生	1062 冇	1112 花店
1011	1063 土木工程師	1113 幼兒教師
1012 律師	1064	1114 地盤 (勞動者)
1013 教師	1065	1115 精品店 (東主)
1014 醫生	1066 記者	1116 運動員
1015 教師	1067	1117 醫生
1016 軍人	1068 1. 出口公司東主	1118
1017 科學家	1069 社工	1119
1018 Director (任何行業)	1070 1. 時裝設計師	1120 老闆
1019 總裁 (商業), 投資顧問	1071 1. Banker	1121 教育
1020 唔想做	1072 1. 金融業	1122 製衣貿易東主
1021	1073 生意 (任何行業)	1123 廚師
1022 普通文員	1074 1. fashion Designer	1124 保險
1023 冇	1075 法律工作, 不只是看'錢', 能有貢獻, 和有意義。有興趣。	1125 律師
1024 冇	1076 教師	1126 醫生
1025 理髮師	1077	1127 出家人
1026 商人	1078 物理學家	1128 醫生
1027 醫生	1079 會計	1129 商業文職
1028 Teacher	1080 老師	1130
1029 Teacher	1081 冇	1131
1032 Sales 服裝	1082 律師	1132 藝術工作者

1133 心理學家	1183	1234 Dancer
1134	1184	1235 醫護人員
1135 藝術工作者	1185 1. 文職	1236 教育工作者
1136	1186 裝修師傅	1237 冇特別, 但係要有挑戰性的工作
1137	1187	1238 冇特別
1138 飛機師	1188 冇	1239 護士
1139 設計師	1189	1240 建築主管
1140 義工	1190 醫生	1241 冇特別
1141 銀行家	1191 醫生	1242 暫時未諗到, 總之靈活性高的行業
1142 酒店主管	1192 醫生	1243 服務人群的事業
1143 老板(任何行業)	1193 律師	1244 冇
1144	1194 足球員	1245 教育工作者
1145	1195	1246 商人
1146 醫生	1196 律師	1247 教師
1147 社工	1197 醫生	1248
1148 醫生	1198 做生意	1249 社工
1149 空姐	1199 作家	1250
1150 醫生	1200 商人	1251 高級警務人員
1151 保護大自然工作者	1201 律師	1252 1. 生意人
1152 水電工程師	1202 幫人的工作	1253
1153 政府高官	1203 從商	1254 1. 曬相有關工作
1154 冇特別	1204	1255 冇
1155 冇特別	1205 消防員	1256 裝修
1156 醫生	1206 policeman	1257 1. 服裝零售東主
1157 物業管理總經理	1207 家庭主婦/幼稚園教師	1258 冇
1158 無特別	1208 律師	1259
1159 教師	1209 文學	1260 生意人
1160 冇特別	1210 旅遊社經理	1261
1161	1211	1262
1162 領導者	1212 行船	1263 義工
1163 飛機師	1213 九巴高級熟練技工	1264
1164 消防員	1214	1265
1165 室內設計師	1216 醫生	1266 幼稚園或小學教師
1166 冇	1217 氣車維修員	1267
1167 商人	1218 律師	1268 幼稚園教師
1168 醫生	1219 教師	1269 幼稚園教師
1169 無國界醫生	1220 教師	1270 管理階層
1170	1221 醫生	1271 從事廣告業, 老師
1171 文員	1222 有冒險性(航海, 探險)	1272 醫生
1172 教育工作者	1223 與賭有關的職業	1273 從商
1173 無特別	1224 交通警	1274 老師
1174 船務文員	1225 無	1275 工程師
1175 教師	1226 飛機師	1276 教師
1176	1227 商人	1277 無所謂
1177	1228 老闆	1278 空中小姐
1178	1229 船員	1279 運輸工人
1179 醫生	1230 船家(自由)	1280 警察
1180 1. 旅遊公司東主	1231 Trading Agent	1281 教師
1181 1. 空姐 2. 護士	1232 社會工作者	1282 社工
1182	1233 冇特別	1283 冇特別諗過

1284

1285 醫生

1286 不適合

1287 白手成家的entrepreneur

1288

1289 推銷

1290 護士

4. 自由回答データの個別回答 (注意. 表中の“9” = DK)

問 30 如果問起中國文化，最先浮現在您腦海的是什麼？(如果遇到複數回答時，請將全部回答記錄下來)

ID	Q30				
		10604	9	11202	道德
10101	孔子	10605	長江黃河	11203	人情味
10102	論語	10606	長城、唐朝文化	11204	9
10103	萬里長城	10607	長江三峽、長城	11301	9
10104	拜拜		歷史上的偉人-孔	11302	童玩
	歷史人物：堯、舜、	10701	子	11303	吃
10105	禹、湯、文武、周	10702	八千里路大陸尋奇	11304	吃的文化
	公	10703	9	11305	9
10106	歌仔戲	10704	孝道	11306	抗日8年
10107	兵馬俑	10705	9	11307	命理師、地理師
10201	中國古董	10801	9	11401	古物
10202	犁牛耕耘	10802	台灣人的孝道	11402	傳統文化
10203	9	10803	神明	11403	文物
10204	中國親情畫	10804	9	11404	9
10205	原住民	10805	孝道	11405	孔子
10206	三國演義	10901	拜拜	11406	大陸
10207	很多文化	10902	拜祖先	11407	孔子
10301	孝順	10903	佛教	11501	沒有
10302	9	10904	萬里長城	11502	倫理道德
10303	9	11001	9	11503	造字奧妙
10304	三從四德	11002	三國演義	11504	史記
10305	媽祖	11003	唐朝	11505	國父紀念館
10306	大陸妹	11004	地大物博	11506	萬里長城
10307	中國古董	11005	9	11507	歌仔戲
10308	孔子	11006	龍的傳人	11601	教育
10402	9	11007	對岸風景	11602	倫理
10403	9	11101	倫理	11603	善良、守規矩
10404	詩詞	11102	宗教	11604	孝道
10501	讀書	11103	傳統	11605	孔子、孟子
10502	唐三彩	11104	9	11701	9
10503	房子	11105	9	11702	9
10601	武則天、上海灘	11106	歷史	11703	孔子
10602	李世民、大唐文化	11107	堯舜	11704	9
10603	秦始皇、長城	11201	博大精深	11801	9

11802	9	20603	古文物	30604	9
11803	9	20604	古代文物,甲骨文	30605	客家人,歷史
11804	9	20605	宗教信仰	30606	道德觀念
11805	拜拜	20701	傳統文化美德	30607	知書達禮,道德觀
11806	9		歷史悠久、傳統美		濃厚的人情味,祖先
11807	書法	20702	德、幅員廣闊	40101	的智慧,易經
20101	文化道德、長城、 長江	20703	宗教	40102	9
20102	傳統美德	20704	甲骨文、文字		歷史悠久,文字,語
20103	道德觀念	20705	宗教、傳統思想	40103	言
20104	9	30102	歷史	40104	9
20105	孔孟思想	30103	9		拜拜,婚喪禮俗,人
20201	神農氏, 嚐百草救 世的精神。	30104	三國演義	40105	情味
20202	孔孟思想	30201	9	40201	9
20203	武則天	30202	大陸		不侵犯他國,博愛,
20204	佛祖	30203	9	40202	仁愛,歷史悠久
20205	繪畫	30204	9	40203	歷史悠久,源遠流長
20301	固有道德文化	30205	9	40204	9
20302	文字與繪畫	30206	9	40205	9
20303	傳統製香業	30207	9	40206	9
20304	秦始皇、長城	30302	9	40207	秦始皇,唐朝
20305	美髮師	30303	悠久的歷史	40301	倫理關係,長幼有序
20401	孔子思想	30304	長城	40302	傳統的觀念,父慈子
20402	長城黃河	30401	盤古開天		孝
20403	中國歌仔戲	30402	孔孟思想	40303	孔子,孟子,友愛
20404	繪畫花鳥	30403	9		5000年歷史,秦始
20405	文化—史艷文	30404	貪官污吏	40304	皇,戰爭
20501	宗教文化思想與道 德	30501	9	40305	9
20502	中國道德傳統美德	30502	9		倫理道德,侵略別
20503	兵馬備、黃陵	30503	無	40306	人,孝道
20504	甲骨文、古文物	30504	9	40307	9
20505	歌仔戲	30505	禮教	40401	權勢
20601	長城、黃河、長江	30506	9	40402	9
20602	武則天,唐代文物	30507	9	40403	中國的論語
		30601	中國服飾	40404	9
		30602	歷史	40405	孔子,偉人
		30603	歷史	40406	世界之最好歷史

40407	歷史長遠,興盛到衰 敗,改朝換代	50402	龍 國語、以前的家庭	60602	紡織業
40501	宗教,血緣	50403	教育制度比較好 (尊長、孝親)	60603	孔子
40502	9	50404	9	60604	三民主義
40503	世世代代相傳	50405	孔孟思想、倫理道 德	60605	孔子
40504	黃種子孫	60101	萬里長城	60606	9
40505	傳統歷史文化	60102	一代女皇	70101	古時人情味濃
40506	家族延續、人文、 天文	60103	歌仔戲	70102	醬缸文化
40507	考古,歷史,道德觀 念	60104	歌仔戲、布袋戲	70103	9
40601	9	60201	9	70104	9
40602	中國文字、繁體字 的美、吃食與別的 國家不同	60202	詩與畫	70105	孔子
40603	9	60203	石器和食物	70106	武則天
40604	9	60204	兵馬俑	70107	萬里長城
40605	吃食文化、發明造 紙工藝	60301	9	70201	中國歷史
50101	倫理與道德	60302	9	70202	易經、道德經
50102	秦始皇、孔夫子、 鄭成功、太極拳、 書法、六四天安門、	60303	萬里長城	70203	書與字體的演變
50103	五千年歷史	60304	9	70204	萬里長城
50104	老子	60305	9	70205	萬里長城
50105	9	60306	9	70206	9
50201	9	60307	9	70207	歷史
50204	中國大陸、中國歷 史地理	60308	古物、古蹟	70301	唐詩
50205	五千年歷史	60309	9	70302	傳統的民俗技藝
50301	9	60401	歌仔戲	70303	9
50302	故宮博物院	60402	文字、語言	70304	很豐富歷史悠久
50303	9	60403	孔孟思想、忠恕之 道	70305	藝術產品多
50304	五千年歷史	60404	禮義廉恥,忠恕之道	70401	9
50401	中國大陸 V.S 台灣 本土化之爭	60405	佛教、道教	70402	9
		60501	萬里長城	70403	9
		60502	孫中山	70404	9
		60503	萬里長城	70405	9
		60504	9	70406	中國人孝順父母的 美德
		60505	孫中山	70407	9
		60601	四書五經	70408	9
				70501	9
				70502	刻苦耐勞
				70503	9

70504	9	70806	歷史悠久5千年	80503	歷史
70505	武術		較古老的東西、保	80504	9
70601	秦始皇統一文字、	80101	留歷史	80505	9
	度量衡	80102	原始文化	80506	五千年
70602	9	80103	孝道	80507	9
70603	人民較樸實、較不		為天地力心、為百	80508	歷史悠久
	鑽牛角間	80104	姓力命	90101	孔子
70604	萬里長城	80105	9	90102	悠久歷史
70605	9	80106	五千年歷史	90103	5000年悠久歷史
70606	中國大陸人民鬥	80107	中國五千年歷史	90104	歷史悠久
	爭、爭權奪利	80108	9	90105	國父
70607	中國的古董、畫、	80201	歷史文化	90106	皇帝
	銅器	80202	佛教	90107	歷史古蹟
70701	9	80203	拜祖先	90108	9
70702	9	80204	民族文化	90109	奪權、鬥爭
70703	歌仔戲	80205	9	90201	歷史悠久
70704	中國文化、發明了	80206	9	90202	國父紀念館
	造紙、火箭	80207	孔、孟儒家思想		教育文化、歷史文
70705	中國新娘嫁來台灣	80208	佛教	90203	化
	中國2岸、會想到	80301	秦始皇、長城、滿	90204	9
70706	歷史文化名人、唐		清13皇朝	90205	萬里長城
	太宗、清朝康熙	80302	9	90301	孔子
70707	潮流改變、越來中	80303	長城	90302	五千年歷史悠久
	國大陸越開放	80304	9	90303	9
70708	9	80401	秦始皇	90304	歷史
70709	9	80402	9	90305	悠久的歷史
70710	9	80403	9	90306	雕刻
70711	秦漢、漢武帝	80404	9	90307	文化教育
70712	中國2岸人民很開	80405	9	90308	孔子、孟子
	放	80406	中國人重視倫理家	109205	皇帝
70801	歷史悠久		庭	150101	中庸之道
70802	有5千年的歷史	80407	9	150102	9
70803	歷史上有皇帝有浩	80408	瓷器	150103	宗教
	大的萬里長城	80501	9	150104	9
70804	9		悠久歷史、根深蒂	150105	兵馬俑
70805	醫術高明	80502	固、老古板	150106	9

150107	歷史		四書五經、禮佛敬	220201	9
170101	宋美齡	180104	天	220202	9
170102	地方習俗		倫理道德、侵略別	220203	9
170103	中國小姐、吃的文 化	180105	人、孝道	220204	文字
170104	9	180201	國父孫中山	220205	孔子
	經歷很多朝代，歷	180202	孔子孟子.三國演義	220206	9
170105	史悠久	180203	9	220301	道德
170201	5000年文化	180204	博大精深的美食文 化	220302	9
170202	忠孝.仁愛.信義.和 平，禮義廉恥	190101	中文文字	220303	倫理
170203	孫中山	190102	皇帝	220304	9
170204	歷史悠久，發明很 多東西如指南針	190103	皇帝	220305	萬里長城
170301	宗教	190104	孔子、孟子	220306	長城
170302	9	190105	長袍馬褂	220307	道德
170303	9	190106	孔孟儒家思想	220401	9
170304	儒家思想、孝道、 歷史悠久	190201	9	220402	9
170401	中華民國萬萬"稅"	190202	9	220403	故宮
170402	佛教	190203	倫理、孝道	220404	共產主義
170403	台灣文化	190204	倫理、文化	220405	9
170404	釋加摩尼、觀世音、 阿彌陀佛	190206	五千年歷史	220501	孔子
170501	皇帝	190207	五千年	220502	佛教
170502	孔子	190301	儒家思想	220503	孔子
170503	武則天、慈禧太后	190302	古董、字畫	220504	9
170504	萬里長城、江南美 食	190303	文字	220505	茶道
170505	儒家思想、佛教思 想	190304	文字	220506	9
180101	燒餅、油條，精美 絲製品	190305	9	220601	9
180102	龍鳳呈祥的宮殿、 過年時的舞獅	190401	萬里長城	220602	9
180103	9	190402	萬里長城	220603	自私
		190403	孔子、孟子、長江、 黃河、宗教	220604	孝順
		190404	秦始皇、兵馬俑	220701	禮儀之邦
		190405	國劇	220702	中國歷史乾隆皇帝
		190406	布袋戲	220703	孔孟思想
		190407	歌仔戲	220704	故宮
		220101	山水畫	220705	父慈子孝
		220102	毛筆	220706	歷史場景三國誌
				220707	萬里長城
				220801	兵馬俑

220802	論語.孔子	31004001	9	31103007	隋朝 唐朝
220803	吃、滿漢全席	31004002	親情	31104001	9
220804	故宮	31004003	9	31104002	9
220805	四書五經	31004004	9	31104003	9
220806	道德經	31004005	9	31104004	9
220807	紙風箏	31004006	親情	31104005	9
220901	麻將	31005001	9	31104006	9
220902	書法.孔子	31005002	麻將 其它無	31104007	百善孝爲先,以孝爲
220903	9	31005003	文字 佛教		根本的傳統
220904	長城	31005004	9	31105001	9
220905	慈禧太后	31005005	二胡	31105002	9
220906	火藥.炸彈	31005006	9	31105003	9
220907	儒家思想	31005007	9	31105004	孔子是中國文學
31001001	孝順	31005008	傳統戲劇		至聖先師
31001002	萬里長城(文化古蹟)	31101001	古蹟	31105005	故宮博物院的古董
		31101002	9	31105006	9
31001003	歷史悠久(有五千年文化)	31101003	9	31105007	紅樓夢 文學經典
		31101004	9	31106001	9
31001004	9	31101005	9	31106002	9
31001005	麻將	31101006	五千年歷史	31106003	9
31001006	泡茶	31101007	9	31106004	萬里長城(文化古蹟)長江黃河
31001007	9	31102001	9		
31002001	9		傳統禮俗(兄友弟	31106005	中醫學
31002002	9	31102002	恭,父慈子孝)	31106006	9
31002003	9		萬里長城,宏偉的建	31106007	隋唐明清(歷史)
31002004	9	31102003	築	31107001	9
31002005	戰爭	31102004	9	31107002	9
31002006	9	31102005	9	31107003	廟宇
31003001	9	31102006	9	31107004	9
31003002	有五千年的歷史	31102007	演奏國樂(拉胡琴)	31107005	9
31003003	9	31103001	9	31108001	9
31003004	9	31103002	9	31108002	廟宇
31003005	9	31103003	飲水思源	31108003	9
31003006	優良傳統道德 其他無	31103004	9	31108004	9
		31103005	三字經	31108005	廟宇 其他無
31003007	9	31103006	9	31201001	孔子

31201002	9	教.道教)	人情味		里長城
31201003	9	31301006	忠孝仁愛信義和平	31305003	孝道
31201004	9	31301007	媽祖	31305004	過年 孝道
31201005	9	31301008	宗教(佛教.道教)	31305005	9
31201006	孔子		傳統民俗(廟會活	31305006	9
31201007	9	31302001	動、捏麵人)		茶道 麻將 象棋
31202001	9		孔子、孟子、古蹟	31305007	圍棋
31202002	萬里長城 (古跡文 化)	31302002	很多(歷史悠久名 勝古蹟)	31305008	廟 媽祖廟
31202003	道教	31302003	先人	31306001	古蹟、原始人
31202004	廟會	31302004	先人、原始人	31306002	孔子、唐宋八大家
31202005	9	31302005	祭祖	31306003	古蹟、古代人、歷 史人物(孔子)
31202006	9	31302006	孔子、廟宇	31306004	故宮博物館
31202007	萬里長城 (古跡文 化)	31302007	祖先、廟	31306005	廟宇
31203001	國粹(毛筆)	31303001	廟宇多、古蹟多、 祠堂多	31306006	唐宋八大家
31203002	發明數學	31303002	儒家思想	31306007	歷史文化
31203003	書法 陶器	31303003	9	31306008	五千年的歷史文化
31203004	9		道德教育(如尊敬	31307001	9
31203005	秦始皇統治者的事 蹟	31303004	老師孝順父母)很 完善	31307002	古蹟(蕭家古厝)
31203006	9		廟會(宋江陣)傳統	31307003	古蹟(蕭家古厝)
31203007	9	31303005	藝術(手工藝品	31307004	9
31204001	宗教(道教)		龍 鬚糖 捏麵人)	31307005	9
31204002	孔子思想	31303006	9	31307006	古典建築物(富麗 堂皇)如:孔廟
31204003	9	31303007	儒家思想	31307007	9
31204004	孔子學說(有教無 類)	31304001	寺廟 中藥	31401001	五千年歷史文化 蒙古人
31204005	家庭倫理,傳統習俗	31304002	民主 人民有自主 權	31401002	9
31204006	9	31304003	9	31401003	神明 孝道
31204007	中國五千年的歷史	31304004	古禮(古老禮儀)	31401004	9
31301001	端午節划龍舟	31304005	東隆宮(廟宇)	31401005	9
31301002	麻將	31304006	親情	31401006	9
31301003	9	31304007	9	31401007	國父
31301004	古蹟 媽祖廟	31305001	中秋節 端午節	31401008	9
31301005	賭博 宗教(佛	31305002	皇帝 古蹟 萬	31401009	中國科技(尺寸丈 量、蔡倫造紙、發

	明火藥)		民主意識的抬頭漸	32301008	儒家思想
		32103002	漸走入民主	32301009	古蹟
	原住民文化(豐年		易經的深奧理論	32302001	歌仔戲
31402001	祭、跳舞、上山狩	32103003	山水畫與國畫代表	32302002	9
	獵、下海捕魚)	32103004	中國文化	32302003	9
31402002	9	32103005	9	32302004	佛教
31402003	9	32103006	9	32302005	9
31402004	9	32103007	9	32303001	9
31402005	9		隋唐歷史 神像	32303002	孝道
31402006	9	32104001	雕像		中國古蹟、房子古
31402007	孔子		孔子思想 四	32303003	典建築物(三合
31402008	9	32104002	書五經		院)、兵馬俑
	道德觀(敬老尊賢)		唐詩三百首 古	32303004	9
31402009	的優良傳統文化	32104003	董 李後主的詩	32303005	龍(古老的動物)
31402010	9		書法	32303006	寺廟(古蹟)
31402011	史蹟文化及原住民	32104004	9	32303007	9
	的遺址	32104005	9	32304001	9
32101001	廟宇	32104006	9	32304002	9
32101002	古蹟		孔子 孟子 儒家	32304003	9
32101003	9	32104007	思想	32304004	9
32101004	9	32105001	土地公	32304005	五千年傳統的美德
32102001	落伍的(跟不上時	32105002	9	32305001	南胡
	代就是中國文化)	32105003	9	32305002	歌仔戲
32102002	忠孝仁愛信義和平	32301001	佛寺	32305003	五千年傳統
32102003	9	32301002	9	32305004	9
32102004	道德倫理 仁義	32301003	9	32305005	9
	禮智信	32301004	書法		
32102005	9		中國注重身體健康,		
32102006	大陸(文化發源地)	32301005	因為有美食		
32102007	9	32301006	五千年歷史		
32103001	9	32301007	9		

問 38 對您來說，最寶貴的東西是什麼？（遇到複數回答時，請將全部回答記錄下來）。

ID	Q38	10607	家庭、經濟、錢	11303	生命、健康
10101	健康	10701	生命	11304	錢
10102	健康	10702	家	11305	吃飯
10103	家人	10703	自己	11306	9
10104	小孩	10704	親情	11307	家庭
10105	健康	10705	親情	11401	健康
10106	自由	10801	生命	11402	生命健康家庭
10107	親情	10802	錢	11403	家人
10201	錢	10803	健康	11404	孩子
10202	時間	10804	生命	11405	錢
10203	錢財	10805	愛	11406	生命
10204	金錢	10901	黃金、珠寶	11407	家人
10205	生命	10902	健康	11501	沒想過
10206	錢	10903	金錢	11502	生命
10207	錢	10904	小孩	11503	小孩我的寶貝
10301	名譽	11001	家庭、生命、金錢	11504	小孩
10302	生命	11002	家人	11505	健康
10303	生命	11003	家人	11506	貞操
10304	健康	11004	健康	11507	車子
10305	健康	11005	身體健康	11601	健康
10306	生命	11006	身體健康	11602	家庭
10307	金錢	11007	9	11603	生命
10308	健康	11101	家庭	11604	孫子
10402	9	11102	家庭	11605	親情
10403	金錢	11103	親情	11701	金錢
10404	家庭	11104	家庭	11702	家庭
10501	生命	11105	9	11703	家庭
10502	健康	11106	生命	11704	9
10503	親情	11107	健康、生命	11801	親情
10601	家庭	11201	生命	11802	錢
10602	老婆、錢	11202	環境乾淨	11803	健康、金錢
10603	錢、家庭	11203	健康	11804	生命
10604	家庭、小孩	11204	9	11805	小孩
10605	錢、健康	11301	親情、友情	11806	健康、金錢
10606	家庭	11302	錢、家庭	11807	親情

20101	健康、家庭、錢	30103	健康	40105	感情、親情、朋友
20102	健康、家庭		錢、父母、個人家	40201	9
20103	健康與金錢、家庭	30104	庭	40202	家庭倫理
20104	孩子成長	30201	生命	40203	家人、錢、惜福
20105	健康、錢、家庭	30202	親情	40204	家庭親戚朋友
20201	生命	30203	9	40205	家人
20202	健康	30204	家人	40206	家庭家人
20203	小孩、健康	30205	健康	40207	生活安定
20204	健康	30206	生命	40301	金錢、時間
20205	家庭、錢	30207	錢、老婆	40302	生命、時間、親情
20301	健康、錢	30302	9	40303	工作、親人的愛
20302	健康與家庭	30303	健康	40304	生財的本領
20303	家庭、事業	30304	9	40305	生命、親人、錢
20304	家人	30401	健康	40306	親人、財產、生命
20305	家庭	30402	健康	40307	鑽石
20401	錢、家庭	30403	健康	40401	平安、健康
20402	青春、生命	30404	家庭子女	40402	朋友
20403	生命、家庭	30501	無	40403	工作權
20404	老公、親情	30502	愛情	40404	金錢
20405	錢、家庭	30503	9	40405	錢
20501	親情、錢、生命	30504	家人	40406	另一半、小孩
20502	青春、健康	30505	家人	40407	小孩
20503	健康、自由	30506	9	40501	經驗
20504	家庭、子女	30507	無	40502	生命
20505	錢、家庭	30601	家人	40503	健康、友誼長久
20601	小孩、健康、錢	30602	生命	40504	家人
20602	健康、家庭	30603	錢、健康身體	40505	親情、生命
20603	親情、福氣	30604	生命、健康身體	40506	生命價值
20604	家庭、親情	30605	親情	40507	親情、愛情
20605	親情	30606	錢、健康身體	40601	生命、財產
20701	健康、錢	30607	親情、健康	40602	生命
20702	自由生活		慈善、平安、自在踏	40603	家庭
20703	健康、家庭、錢	40101	實	40604	生命、金錢、健康
20704	健康、家庭	40102	家庭		親情、有情、社區
20705	健康、家庭	40103	健康、家庭、時間	40605	情感
30102	健康	40104	家庭、金錢	50101	時間

50102	生命	60402	健康快樂	70403	生命
50103	親情	60403	親情	70404	健康,錢
50104	親情	60404	金錢	70405	時間
50105	健康	60405	家人	70406	親情
50201	家人	60501	親情	70407	健康
50204	家人,職業	60502	親情	70408	家和萬事興
50205	家庭	60503	兒女	70501	平安
50301	9	60504	家庭	70502	生活正常
50302	生命	60505	生命	70503	親情
50303	9	60601	親情	70504	身體健康
50304	生命、健康	60602	時間	70505	健康
50401	生命	60603	家人,親情	70601	健康的身體
50402	親情	60604	生命	70602	家庭幸福美滿
50403	家庭的溫暖、社會的和諧	60605	生命	70603	健康的身體
50404	健康	60606	生命	70604	健康的身體
50405	父母、妻子、兒子	70101	家人	70605	家庭幸福美滿和樂
60101	身體健康、財室	70102	生命	70606	子女教育性格發展,家庭和諧
60102	金錢、健康	70103	生命	70607	親人的照護,經濟來源
60103	錢錢、財富	70104	狗	70701	家庭和樂溫馨
60104	金錢、健康	70105	小孩,家人	70702	家和萬事興
60201	金錢	70106	家人	70703	時間
60202	生命	70107	生命		兩位有情人能互相
60203	擁有一份好的工作和自己喜愛的工作	70201	親情	70704	扶持體恤對方最寶貴
60204	9	70202	赤子心	70705	親情
60301	親情	70203	親情	70706	親情、友情
60302	真心	70204	錢	70707	水最寶貴、沒水怎麼可能活下去
60303	金錢	70205	錢		康健、沒病、不憂愁
60304	金錢	70206	生命、健康	70708	身體健康
60305	親情	70207	錢	70709	生命健康
60306	健康	70301	家庭	70710	家人、親人
60307	真心真情	70302	健康,快樂	70711	家人、親人
60308	金錢、生命	70303	家人	70712	親情、友情
60309	親情有情	70304	名譽信用		
60401	健康	70305	兒女		
		70401	國家繁榮興旺		
		70402	時光		

70801	受別人的尊重	80501	身體健康	150106	9
70802	身體健康	80502	生命	150107	家庭
70803	有健康的身體	80503	健康自然的生命	170101	生命
70804	金錢、生命	80504	身體健康	170102	家
70805	家人	80505	小孩	170103	錢
70806	快樂生活	80506	親情	170104	家人
80101	家庭	80507	身體健康	170105	家人
80102	家庭	80508	生命	170201	家庭,先生,小孩
80103	親情	90101	信仰、神	170202	自由
80104	空氣、水、食物	90102	親情	170203	錢
80105	生命	90103	生命	170204	家人
80106	身體健康	90104	生命	170301	生命、健康
80107	生命	90105	親情	170302	健康
80108	身體健康、子女有 成就	90106	親情	170303	身體健康
80201	生命	90107	生命	170304	幸福美滿、小孩、 健康、金錢
80202	錢	90108	親情	170401	孩子、健康、平安
80203	家庭的和樂	90109	青春	170402	兒女
80204	財產和家庭	90201	生命	170403	家庭和樂
80205	生命	90202	親情	170404	生命、孩子、家庭
80206	生命健康	90203	生命	170501	生命
80207	錢和親情	90204	錢	170502	家
80208	身體健康、平安有 錢	90205	生命	170503	錢
80301	家人	90301	真愛	170504	時間、親情、友情
80302	生命	90302	父母	170505	親情、工作的自由
80303	家	90303	親情	180101	人與人之間的互信 瞭解
80304	生命、家庭	90304	生命	180102	愛情、老婆
80401	生命	90305	家庭快樂	180103	生命、財產
80402	生命	90306	生命	180104	家人的幸福
80403	9	90307	親情	180105	親人、財產、生命
80404	生活品質好	90308	生命	180201	朋友之間的友誼
80405	兒女	109205	生命	180202	生命,錢財
80406	孩子家庭,教育	150101	生命	180203	家庭
80407	身體健康	150102	生命	180204	國家安全
80408	友情	150103	家人	190101	家人
		150104	身體		
		150105	生命		

190102	親情	220306	生命	220906	財產
190103	家人	220307	親情	220907	健康
190104	親情	220401	金錢	31001001	健康
190105	父母親	220402	家庭	31001002	生命
190106	親情	220403	親情	31001003	有和樂的家庭
190201	家人	220404	親情	31001004	9
190202	家人	220405	9	31001005	親情
190203	親情	220501	家人	31001006	9
190204	家庭	220502	家人	31001007	9
190206	健康	220503	上帝	31002001	生命
190207	親情	220504	錢	31002002	9
190301	家庭	220505	親情->兒女	31002003	自己
190302	家人	220506	家人	31002004	健康
190303	生命	220601	生命	31002005	9
190304	親情	220602	9	31002006	親情
190305	自由	220603	家庭	31003001	生命
190401	家庭	220604	健康	31003002	家人親情
190402	家人	220701	生命	31003003	金錢
190403	家人	220702	生命	31003004	父母子女的親情
190404	親情	220703	生命	31003005	親情
190405	親情	220704	空氣	31003006	身體健康
190406	親情	220705	愛	31003007	親情 其它無
190407	生命	220706	生命	31004001	健康
220101	孩子	220707	生命	31004002	金錢
220102	健康	220801	知識	31004003	生活快樂平安就好
220201	身體、心理健康	220802	生命	31004004	身體健康
220202	錢	220803	生命健康	31004005	金錢
220203	家人	220804	健康	31004006	健康
220204	感情	220805	生命	31005001	身體健康
220205	小孩	220806	健康	31005002	錢
220206	生命	220807	另一件	31005003	親情 友情
220301	家庭	220901	家庭	31005004	身體健康 子孫平安
220302	孫子	220902	家庭	31005005	個人健康
220303	健康身體	220903	車子	31005006	錢
220304	9	220904	親密愛人	31005007	錢
220305	水	220905	快樂		

31005008	親情	31105006	自己的生命	31203003	家人親情
31101001	生命,健康	31105007	生命 榮譽	31203004	健康
31101002	小孩	31106001	親情、錢	31203005	身體健康
31101003	親情	31106002	家庭	31203006	身體健康
31101004	錢	31106003	生命	31203007	家人 親情
31101005	親情	31106004	生命、親情	31204001	心靈自由
31101006	錢	31106005	9	31204002	生命
31101007	錢	31106006	親情、錢	31204003	親情
31102001	金錢	31106007	親情	31204004	生命
31102002	自己要愛自己,對自 己好一點	31107001	父母	31204005	健康
31102003	子女	31107002	家人的生命健康	31204006	身體健康
31102004	寶貝自己的生命	31107003	身體的健康	31204007	自由
31102005	生命	31107004	父母	31301001	家庭和諧
31102006	健康的身體	31107005	家人平安 錢	31301002	人情 親情
31102007	身體健康	31108001	錢 家庭的和諧	31301003	健康
31103001	錢 親情	31108002	錢 親情	31301004	親情 經濟
31103002	錢 健康	31108003	錢 身體健康	31301005	親情 快樂
31103003	錢 親情	31108004	生命的健康	31301006	身體健康
31103004	錢 健康 家人	31108005	錢 身體健康	31301007	生命健康
31103005	錢 健康 親情	31201001	閤家歡樂	31301008	健康 錢 親情
31103006	健康 生命	31201002	生命(身體健康)	31302001	家人、金錢
31103007	親情 健康	31201003	孩子	31302002	生命、小孩
31104001	家人	31201004	9	31302003	家庭、身心健全
31104002	健康 錢財	31201005	錢 親情	31302004	身體健康、家庭美 滿
31104003	家庭	31201006	小孩	31302005	親人、金錢
31104004	健康的身體	31201007	家庭	31302006	快樂、家庭幸福
31104005	子女	31202001	錢	31302007	生命、家庭、朋友
31104006	太太	31202002	親人	31303001	信用
31104007	9	31202003	親情	31303002	身體健康 時間
31105001	身體健康	31202004	生命	31303003	健康
31105002	照顧自己的身體,使 身體健康	31202005	親情	31303004	時間
31105003	家庭	31202006	身體健康	31303005	生命
31105004	家人	31202007	親情	31303006	9
31105005	家庭 子女	31203001	家人親情	31303007	健康 生命
		31203002	家庭 財富 知識 人際關係	31304001	生命 兒子

31304002	家庭和諧	31401006	親情	32104003	家庭 事業 錢
31304003	9	31401007	健康	32104004	家
31304004	生命	31401008	健康	32104005	親情
31304005	平安	31401009	家庭的親情	32104006	健康 孩子 家庭
31304006	親情	31402001	身體健康	32104007	家庭 錢
31304007	身體健康	31402002	9	32105001	金錢 權利
31305001	親情	31402003	身體健康	32105002	親情
31305002	感情 金錢	31402004	健康	32105003	自己的健康
31305003	生命 金錢 女人	31402005	家庭圓滿	32301001	身體健康
31305004	生命 金錢	31402006	家人的親情	32301002	錢
31305005	無	31402007	身體健康	32301003	生命
31305006	生命 家庭	31402008	生命	32301004	健康
31305007	自由	31402009	健康	32301005	身體健康
31305008	家庭 親情	31402010	家庭溫暖	32301006	生命
31306001	家庭、財產	31402011	家庭和樂,身體健康	32301007	身體健康
31306002	生命	32101001	自己的小孩	32301008	家人
31306003	家庭、身體健康	32101002	自己的小孩	32301009	錢
31306004	生命、DVD	32101003	身體健康	32302001	生命
31306005	生命	32101004	親情	32302002	親情
31306006	親情、友情、愛情	32102001	生命 親情 錢	32302003	親情
31306007	身體健康、子女有 成就	32102002	生命 健康	32302004	幸福
31306008	身體健康、小孩有 成就	32102003	生命 親情	32302005	全家平安
31307001	小孩(親情)	32102004	身體健康 親情	32303001	家庭幸福
31307002	親情,城信	32102005	生命 親情 錢	32303002	身體健康
31307003	親情	32102006	生命 親情	32303003	金錢、身體健康
31307004	家人身體健康	32102007	生命	32303004	健康
31307005	耶穌	32103001	錢財	32303005	錢
31307006	親情	32103002	父母親	32303006	親情
31307007	錢 親情	32103003	生命	32303007	身體健康
31401001	健康	32103004	時間	32304001	生命
31401002	9	32103005	金錢	32304002	健康
31401003	健康	32103006	金錢,親情,權力,健 康	32304003	健康
31401004	9	32103007	家人	32304004	機車
31401005	親情	32104001	生命 親情 錢	32304005	生命 健康
		32104002	愛 親情	32305001	生命 身體健康
				32305002	健康

32305003 生命

32305005 生命

32305004 生命

32305006 生命

32305007 生命

32305008 生命

32305009 生命

32305009 生命

32305010 生命

32305010 生命

32305011 生命

32305011 生命

32305012 生命

32305012 生命

32305013 生命

32305013 生命

32305014 生命

32305014 生命

32305015 生命

32305015 生命

32305016 生命

32305016 生命

32305017 生命

32305017 生命

32305018 生命

32305018 生命

32305019 生命

32305019 生命

32305020 生命

32305020 生命

32305021 生命

32305021 生命

32305022 生命

32305022 生命

32305023 生命

32305023 生命

32305024 生命

32305024 生命

32305025 生命

32305025 生命

32305026 生命

32305026 生命

32305027 生命

32305027 生命

32305028 生命

32305028 生命

32305029 生命

32305029 生命

32305030 生命

32305030 生命

32305031 生命

32305031 生命

32305032 生命

32305032 生命

32305033 生命

32305033 生命

32305034 生命

32305034 生命

32305035 生命

32305035 生命

32305036 生命

32305036 生命

32305037 生命

32305037 生命

32305038 生命

32305038 生命

32305039 生命

32305039 生命

32305040 生命

32305040 生命

問 39a 請說出您最尊敬的職業是什麼? (如果遇到複數回答時, 請將全部回答記錄下來)

ID	Q39A	都好	11301	9
10101	義工	10607 醫生	11302	9
10102	老師	10701 總統	11303	9
10103	建築工人	10702 義工	11304	看護人員、保母
10104	警察	10703 家庭主婦	11305	9
10105	社工	10704 法官	11306	地理師
10106	母親	10705 9	11307	醫生
10107	義工	10801 9	11401	9
10201	高科技員	10802 9	11402	9
10202	家庭主婦	10803 老師	11403	9
10203	貿易商	10804 9	11404	9
10204	志工	10805 9	11405	9
10205	板磨業	10901 9	11406	9
10206	警察	10902 9	11407	志工
10207	科技人員	10903 醫生	11501	想不出來
10301	保險業	10904 環保義工	11502	醫生
10302	9	11001 9	11503	藝術家、創作家
10303	醫生	11002 9	11504	沒有
10304	啟蒙老師	11003 9	11505	社工
10305	9	11004 志工	11506	醫生
10306	老師	11005 9	11507	社工
10307	老師	11006 幼稚園老師	11601	司機
10308	啟智老師	11007 9	11602	9
10402	沒有	11101 做工的工人	11603	神職人員
10403	看護	11102 老師	11604	9
10404	大學教授	11103 9	11605	餐飲
10501	老師	11104 貨運行	11701	9
10502	軍人	11105 9	11702	9
10503	無	11106 醫生	11703	護士
10601	正當的工作即可	11107 老師、會計師、律師、醫師	11704	9
10602	有錢人的老闆	11201 會計師	11801	清潔隊員、護士
10603	總統	11202 醫生	11802	9
10604	9	11203 9	11803	9
10605	9	11204 9	11804	只要是正當職業即可
10606	正當工作.不做壞事			

11805	醫生	20703	裝潢業(本業)	40101	老師
11806	9	20704	正當工作	40102	郵差
11807	9		只要正當的工作皆可	40103	清潔人員
20101	正當工作即可	20705	可	40104	出賣勞力的人
20102	警察		行行出狀元、各有	40105	人壽保險從業員
20103	正當工作	30102	期敬處	40201	有錢有閒的老闆
20104	裝潢業(本業)	30103	9	40202	正常職業都尊敬
20105	雕刻師	30104	運輸業	40203	任何職業都可
20201	中醫	30201	9		用無名氏為捐錢做
20202	老師	30202	9	40204	慈善工作的人
	大貨車司機(聯結	30203	9	40205	清潔人員
20203	車)	30204	老師	40206	有錢的企業人
20204	生物學家、收屍員	30205	9	40207	法官
20205	9	30206	9	40301	清潔隊員
20301	正當工作	30207	無可尊敬	40302	老師
20302	花藝	30302	9	40303	礦工
20303	製香業	30303	無	40304	9
20304	老闆	30304	無	40305	9
20305	美髮師	30401	老師、醫生	40306	服務業.老師
20401	老闆	30402	9	40307	勞動體力的工作者
20402	警察	30403	9	40401	農夫, 軍人
20403	老師	30404	9	40402	太陽下工作的人
20404	幼教老師	30501	無	40403	保育
20405	正常工作..有錢的	30502	無	40404	護理
20501	保險業務員	30503	無	40405	設計工程師
20502	尼姑	30504	無	40406	專業技職
20503	醫生	30505	慈善團體	40407	保母
20504	正當工作	30506	9	40501	專技
20505	9	30507	教師	40502	工人
20601	老闆	30601	農夫	40503	農夫,工人
20602	正當工作	30602	醫生	40504	掃街人員
20603	正當工作	30603	9	40505	科學家
20604	大老闆	30604	幼教老師	40506	教育者-藝術工作
20605	正當的工作	30605	9	40507	科學家
20701	義工	30606	義工	40601	公務人員
20702	各行各業	30607	生物研究員	40602	政府官員

40603	警察	60104	電器修理技術員	70104	工人
40604	殯葬業者		有苦楚但不是虛榮	70105	資源回收
40605	清道夫	60201	的妓女	70106	老師
50101	9	60202	醫護人員	70107	老師
	只要是認真去面對	60203	9	70201	醫生
50102	工作，各種職業都	60204	消防人員		志工與義工清潔隊
	是可敬的	60301	9	70202	員
50103	教師		畫家（教畫）、書	70203	9
	無（平等），各種	60302	法家（教書法）	70204	公務人員
50104	職業都是有可敬之	60303	研究實驗者	70205	總統
	處	60304	9	70206	醫生
50105	塑膠業	60305	腳踏車店老闆	70207	消防人員
50201	教育業	60306	9	70301	沒有
	沒有特別尊敬的，各		只要是正當職業即	70302	沒有
50204	職業有其專長	60307	可	70303	醫護人員
	視職業而定，每個職	60308	9	70304	科學家
50205	業都有可敬之處	60309	電腦設計業	70305	沒有
50301	消防人員	60401	醫生	70401	老師
50302	義工	60402	9	70402	9
50303	9	60403	慈善工作人員	70403	服裝業老闆
50304	民意代表	60404	郵差	70404	義工
	職業不分貴賤、正	60405	教育人員	70405	9
50401	當職業皆因尊重	60501	護士	70406	9
	自己的職業（醫療	60502	農民	70407	9
50402	方面）	60503	老師	70408	9
	對人類有益的都	60504	老師	70501	9
	好、職業無貴賤、	60505	農民	70502	9
50403	只要是不以害人為	60601	9	70503	醫生
	賺錢手段的職業都	60602	醫生	70504	老師
	是可敬的	60603	護士	70505	9
50404	護士	60604	醫生	70601	醫生救世
	行行出狀元、什麼	60605	科學家	70602	9
50405	職業都值得人尊敬	60606	土木工程師	70603	9
60101	政治家	70101	9	70604	消防人員
60102	教育人員	70102	賣麵的人	70605	9
60103	政治家	70103	垃圾回收	70606	9

70607	消防人員	80207	社工	員
70701	9	80208	金飾買賣老闆	90301 老師
70702	醫師	80301	法醫	90302 中醫師
70703	老師	80302	總統	90303 老師
70704	農夫，農夫最勤 勞，較不奸滑狡詐	80303	醫生	90304 勞工階層的人
70705	農夫	80304	9	90305 小吃店老闆
70706	公務人員	80401	農夫	90306 雕刻師父
70707	義務消防隊員	80402	9	90307 電器行老闆
70708	9	80403	9	90308 9
70709	9	80404	醫師	109205 義工
70710	9	80405	老師	只要正當職業就尊
70711	教師	80406	各行各業都尊敬	150101 敬
70712	公務人員	80407	農夫	150102 9
70801	自己創業成功的人 (自己做生意)	80408	勞工	150103 教師
70802	鋼琴家	80501	衣服批發業	150104 生意人
70803	老師	80502	9	150105 醫生
70804	公務人員	80503	9	150106 母親
70805	無	80504	賣豬肉商	150107 鐵土
70806	無	80505	9	170101 老師
80101	為人民奔波做義工 沒領薪水的人	80506	志工	170102 無
80102	醫生	80507	9	170103 無
80103	義工照顧老人	80508	9	170104 無
80104	9	90101	牧師	170105 無
80105	9	90102	9	170201 沒有
80106	中醫師	90103	護士	170202 沒有
80107	只要是正常的工作	90104	護士	170203 沒有
80108	9	90105	9	170204 老師
80201	貿易業老闆	90106	9	170301 回收資源的人士
80202	9	90107	消防人員	170302 9
80203	9	90108	農夫	170303 9
80204	9	90109	家庭主婦	170304 9
80205	手錶買賣業老闆	90201	清潔隊員	170401 醫生、義工
80206	9	90202	義工	170402 醫生
		90203	製油加工業	170403 教育
		90204	9	170404 教育、製造業、服
		90205	電子公司、工程人	務業

170501	薪水高即可	190406	9	220705	慈濟義工
170502	軍人	190407	警察	220706	家庭主婦
170503	科技新貴	220101	環保人員	220707	會計師
170504	無	220102	醫生	220801	護士
170505	老師	220201	醫生	220802	沒有
180101	空中小姐	220202	9	220803	老師、警察、義工
180102	廚師	220203	自由業、保險業務	220804	法官
180103	賽車選手	220204	醫生	220805	社會服務志工
180104	捕魚的人	220205	醫生	220806	護士
180105	老師	220206	9	220807	行銷公關經理
180201	空中小姐	220301	9	220901	老師
180202	外交官	220302	9	220902	沒有
180203	科學家	220303	居家看護	220903	汽修
180204	大學教授	220304	9	220904	空軍軍官
190101	老師	220305	警察	220905	老師
190102	義工	220306	義工	220906	部長
190103	9	220307	9	220907	哲學家
190104	老師	220401	9	31001001	9
190105	檢察官	220402	理髮業	31001002	9
190106	消防人員	220403	老師	31001003	9
190201	9	220404	9	31001004	9
190202	護理人員	220405	9	31001005	只要是正當職業都 值得尊敬
190203	義工	220501	科學家	31001006	9
190204	慈濟工(義)	220502	科學家	31001007	9
190206	9	220503	老師	31002001	服務業(只要是正 常職業都可)
190207	環保員	220504	電腦資訊業	31002002	9
190301	救難人員	220505	會計師	31002003	9
190302	9	220506	洗衣店	31002004	9
190303	慈濟義工	220601	建築業	31002005	廚師
190304	醫護人員	220602	9	31002006	9
190305	老師	220603	全部職業都是	31003001	9
190401	老師	220604	裁縫師	31003002	9
190402	研究科技人員	220701	老師公務人員	31003003	9
190403	科技人員	220702	醫師	31003004	9
190404	醫生	220703	義工		
190405	法官	220704	義工		

31003005	9	31103004	9	員
31003006	9	31103005	律師	31108003 老師
31003007	9	31103006	9	31108004 科學家
31004001	家庭主婦	31103007	最基礎的勞工	31108005 像當地的農會鄉公所上班的職員
31004002	公務人員	31104001	9	31201001 公教人員
31004003	9	31104002	醫生	31201002 9
31004004	9	31104003	9	31201003 做生意的老闆
31004005	自己做老闆(賣冰)	31104004	9	31201004 9
31004006	公務人員	31104005	農夫	31201005 公家機關的職員
31005001	9	31104006	鐵路局工作人員 (開火車)	31201006 老師
31005002	總統	31104007	9	31201007 9
31005003	9	31105001	9	31202001 9
31005004	任何有技術性的工作	31105002	醫生	31202002 警察
31005005	理髮業 流汗錢	31105003	9	31202003 老師
31005006	9	31105004	9	31202004 老師
31005007	醫生	31105005	中藥房藥師	31202005 消防隊的救火員
31005008	9	31105006	9	31202006 勤勞生意人
31101001	行行出狀元,只要正當職業都值得尊敬	31105007	慈善機構的志工人員	31202007 機車修護員
31101002	醫生	31106001	不偷不搶努力工作都值得尊敬	31203001 美髮美容師
31101003	9	31106002	9	31203002 消防員
31101004	警察	31106003	9	31203003 檢察官
31101005	9	31106004	9	31203004 老師 警察
31101006	廚師	31106005	9	31203005 餐飲業的服務生
31101007	9	31106006	9	31203006 9
31102001	9	31106007	電腦工程師	31203007 社福人員
31102002	9	31107001	9	31204001 老師
31102003	老師	31107002	老師	31204002 9
31102004	高科技工業的老闆	31107003	科學家	31204003 科學家,發明家
31102005	9	31107004	9	31204004 社服人員
31102006	9	31107005	警察	31204005 醫生
31102007	護士	31108001	醫生	31204006 醫生
31103001	醫生	31108002	軍人 在鄉公所	31204007 教育工作者
31103002	9			31301001 護理人員
31103003	9		農會上班的公務人	31301002 醫生
				31301003 警察

31301004	9	31306003	義工	32101003	老師
31301005	清潔夫	31306004	9	32101004	9
31301006	老師	31306005	9	32102001	9
31301007	清潔夫	31306006	飛機機長	32102002	老師
31301008	清潔夫	31306007	廚師	32102003	9
31302001	醫生	31306008	老師	32102004	9
31302002	警察		每一個正當職業兜	32102005	9
31302003	老師	31307001	可以	32102006	老師
31302004	環保車的隨車人員	31307002	律師	32102007	9
31302005	老師	31307003	9	32103001	9
31302006	消防隊	31307004	9	32103002	醫生
31302007	志工	31307005	9	32103003	地理,風水師
31303001	家管	31307006	白領上班族		人死後幫人化粧的
31303002	9	31307007	9	32103004	化粧師
31303003	老師	31401001	軍人	32103005	9
31303004	警察	31401002	9	32103006	9
31303005	9	31401003	義工	32103007	老師
31303006	警察	31401004	一般生意人	32104001	9
31303007	9	31401005	9		維護環境清潔人員
31304001	中醫師	31401006	醫生	32104002	"好"的警察
31304002	9	31401007	義工	32104003	9
31304003	9	31401008	義工	32104004	9
31304004	9	31401009	9	32104005	9
31304005	9	31402001	沖印店老闆	32104006	9
31304006	導遊	31402002	9	32104007	環保清潔人員
31304007	9	31402003	9	32105001	發明家
31305001	老師	31402004	9	32105002	9
31305002	醫生	31402005	營造業老闆	32105003	老師
31305003	養鴿家	31402006	一般作生意的商人	32301001	鋼琴老師
31305004	無	31402007	9	32301002	公務人員
31305005	無	31402008	牧師	32301003	服裝設計師
31305006	9	31402009	老師	32301004	專業技術人員
31305007	醫生	31402010	9	32301005	9
31305008	無	31402011	醫生、律師	32301006	任何正當職業
31306001	調解委員會的職員	32101001	9	32301007	9
31306002	志工	32101002	醫生(家庭醫生)	32301008	軍人

32301009	律師	32303005	馬路上的清道夫	都可)
32302001	小吃老板	32303006	9	
32302002	只要是正當職業都 值得尊敬	32303007	9	32305001 任何正當的工作
32302003	所有正當的職業	32304001	家庭主婦	32305002 專業技術人員
32302004	9	32304002	9	32305003 醫生
32302005	公務人員	32304003	9	32305004 9
32303001	9		專業技術人員(有	32305005 9
32303002	法師	32304004	一技之長的工作者 都可)	
32303003	9		專業技術人員(有	
32303004	餐飲業老闆	32304005	一技之長的工作者	

問 39b 您本身實際上最想從事的職業是什麼呢？（如果遇到複數回答時，請將全部回答記錄下來）

ID	Q39B	10606	9	11301	9
10101	音樂家	10607	醫生	11302	只要當老闆
10102	老師	10701	老師	11303	9
10103	軟體設計師	10702	義工	11304	9
10104	房子業務	10703	家庭主婦	11305	9
10105	設計師	10704	廚師	11306	9
10106	嫁入豪門當少奶奶	10705	9	11307	導遊
10107	上市公司的負責人	10801	9	11401	9
10201	家庭主婦	10802	9	11402	9
10202	家庭主婦	10803	演員	11403	服務業
10203	公務人員	10804	9	11404	9
10204	空姐		房屋仲介不動產經	11405	能夠賺錢的職業
10205	泡沫紅茶店	10805	濟人	11406	服務業
10206	總統	10901	9	11407	科技人員
10207	服務業	10902	9	11501	無業遊民
10301	教師	10903	賽鴿	11502	志工
10302	9	10904	室內設計	11503	慈善大使、社工
10303	9	11001	9	11504	空中飛行員
10304	9	11002	9	11505	廣播員
10305	總統	11003	資訊人員	11506	室內設計
10306	服裝設計師	11004	服務業	11507	上市公司總經理
10307	老師	11005	9	11601	司機
10308	法官	11006	幼稚園老師	11602	9
10402	沒有	11007	律師	11603	電腦工程師
10403	9	11101	9	11604	9
10404	保險業	11102	職業軍人	11605	日本料理
10501	算命師	11103	9	11701	9
10502	軍人	11104	貨運行	11702	9
10503	開咖啡店	11105	9	11703	幼稚園老師
10601	好好的當家庭主婦	11106	生意人	11704	9
10602	都可以.只要輕鬆. 錢多即可	11107	老師	11801	電腦資訊人員
10603	總統	11201	會計師	11802	生意人
10604	9	11202	9	11803	9
10605	老闆	11203	運輸業	11804	生意人
		11204	9	11805	導遊

11806	9	20704	裸母	40104	生物科技學者
11807	服務業(餐飲)	20705	義工	40105	9
20101	有興趣又不會太累的工作	30102	生意人	40201	服裝販賣店
20102	文化義工	30103	9	40202	老師
20103	義工	30104	交通運輸	40203	輕鬆賺錢的事業
20104	義工	30201	9	40204	法官
20105	雕刻師	30202	生意人	40205	賺錢的商人
20201	中醫	30203	9	40206	9
20202	廚師	30204	9	40207	老師
20203	空服員	30205	9	40301	開一家完全屬於自己的中餐廳
20204	家庭主婦	30206	9	40302	護士
20205	9	30207	生意人	40303	律師
20301	農夫	30302	9	40304	老師
20302	花藝師	30303	無	40305	上班族
20303	香舖	30304	無	40306	沒有特別喜好
20304	開花店	30401	自由業服務業	40307	美髮師
20305	美髮師	30402	相夫教子	40401	軍人
20401	師公	30403	9	40402	9
20402	服飾店老闆	30404	文化工作	40403	保母
20403	正當工作即可	30501	無	40404	汽車保修
20404	老師	30502	無	40405	紡織
20405	道士	30503	無	40406	教師
20501	環保義工	30504	無	40407	保母
20502	義工	30505	義工	40501	鄰長
20503	醫生	30506	9	40502	自由、服務業務
20504	當王永慶做老闆	30507	有教無類的教師	40503	自由之身
20505	賣衣服	30601	自由業	40504	家庭主婦
20601	正當工作	30602	老師	40505	護士
20602	正當工作	30603	醫生	40506	製造
20603	義工	30604	導遊	40507	老師
20604	正當有興趣的工作	30605	業務員	40601	9
20605	正當有興趣的工作	30606	老師	40602	自由業、旅遊業
20701	義工	30607	電腦公司老闆	40603	9
20702	服務業	40101	社會服務	40604	電子公司工程師
20703	裝潢師	40102	運輸業	40605	工廠廠長
		40103	水電技術工		

50101	9	60306	9	70302	老師
50102	服務人羣的職責， 如社工	60307	9	70303	電腦工程師
50103	公務人員	60308	大學教授	70304	從事堆高機工作
50104	投資者：以投資股 票、基金獲利為主 者	60309	電腦業	70305	美容美髮
50105	自己當老闆、自營	60401	護士	70401	9
50201	9	60402	9	70402	9
50204	翻譯家、導遊	60403	慈善義工	70403	服裝業老闆
50205	陶瓷業	60404	志工	70404	9
50301	9	60405	老師	70405	工人
50302	無本生意	60501	藝術工作者	70406	9
50303	9	60502	農夫	70407	環保業
50304	為民服務如社工	60503	老師	70408	工人
50401	老師	60504	保姆	70501	小吃業
50402	自己經營的事業 (自營業者)	60505	老師	70502	食品買賣業
50403	老師	60601	房地產	70503	9
50404	9	60602	美髮師	70504	9
50405	政治、法律方面的 職業	60603	藝術創作	70505	9
60101	9	60604	老師	70601	社工人員
60102	教育人員	60605	藝術工作	70602	家庭主婦
60103	9	60606	土木工程	70603	粗工
60104	電器專賣老闆	70101	老師	70604	9
60201	新聞播報員	70102	醫生	70605	9
60202	醫護人員	70103	牛郎	70606	能夠養家活口,士農 工商均可
60203	公務人員	70104	外務員	70607	自營業老闆娘
60204	機車行老闆	70105	醫生	70701	老闆娘
60301	銀行主管	70106	推廣幼教	70702	總統
60302	當個有藝術的人： 國畫家、書法家	70107	高爾夫球店老闆	70703	9
60303	幼教專員老師	70201	直銷人員	70704	老闆
60304	理髮業	70202	製造業老板	70705	農夫
60305	腳踏車店老闆	70203	傢俱、油漆業	70706	公務人員
		70204	開美髮店	70707	消防人員
		70205	和尚	70708	9
		70206	賣煙酒	70709	農夫
		70207	義工	70710	9
		70301	自己創業-小說出 租店	70711	工程師

70712	老闆	人員	150105	一般公務人員
70801	醫生	80501 木材批發業	150106	母親
70802	教師	80502 廚師	150107	鐵土
70803	運動選手	80503 9	170101	老師
70804	9	80504 公家機關	170102	無
70805	營養食品、藥品買賣業	80505 買賣業、商店老闆	170103	演員
70806	司法人員	80506 務農	170104	無
80101	畫畫	80507 麵店老闆	170105	無
80102	老師	80508 醫生	170201	沒有
80103	服飾業老闆	90101 牧師	170202	畫家
80104	中醫師	90102 金飾店老闆	170203	沒有
80105	種花(花農)	90103 獸醫	170204	老師
80106	中醫師	90104 9	170301	社服人員
80107	9	90105 家管	170302	9
80108	開藥局	90106 老師	170303	9
80201	家庭百貨業老闆	90107 家管	170304	特殊教育
80202	算命師	90108 農夫	170401	手藝老師
80203	畫家	90109 美容業	170402	教師
80204	9	90201 9	170403	教育
80205	9	90202 9	170404	服務業
80206	9	90203 製油業	170501	9
80207	醫生	90204 美髮業	170502	老師
80208	9	90205 畫家	170503	時尚自由的工作
80301	旅遊業	90301 老師	170504	幼稚園老師
80302	買賣業(藥品)	90302 中醫師	170505	軍人
80303	家庭主婦	90303 電腦工程師	180101	模特兒
80304	9	90304 9	180102	9
80401	作家	90305 小吃店老闆	180103	幼稚園老師
80402	農人	90306 咖啡廳老闆	180104	女記者
80403	9	90307 9		可賺正當錢的工作
80404	9	90308 中醫師	180105	就可以，公司職員、公務人員
80405	9	109205 鎖匙店老闆	180201	9
80406	美髮	150101 9	180202	外交官
80407	9	150102 9	180203	公務人員
80408	企業公司裡的行政	150103 旅行業工作人員	180204	游泳教練
		150104 生意人		

190101	老師	220304	9	220904	開飛機 747
190102	公務人員	220305	9	220905	藝術家
190103	9	220306	DJ	220906	交通部長
190104	老師	220307	9	220907	外交官、醫生
190105	公務人員	220401	作者	31001001	9
190106	海釣人員	220402	理髮業	31001002	9
190201	9	220403	保母	31001003	餐飲業老闆
190202	老師	220404	電腦相關行業	31001004	9
190203	老師	220405	餐飲業	31001005	9
190204	嫁妝百貨業	220501	電腦週邊製造	31001006	9
190206	修理鐘錶	220502	可以研究大自然的	31001007	9
190207	公務人員	220503	老師	31002001	自營業的老闆
190301	9	220504	導遊	31002002	9
190302	大廚師	220505	會計師	31002003	9
190303	義工	220506	洗衣店	31002004	9
190304	美容師	220601	美容業	31002005	餐飲
190305	律師	220602	9	31002006	9
190401	廚師	220603	9	31003001	9
190402	科技人員	220604	裁縫師	31003002	商(財稅管理者)
190403	科技業人員	220701	老師	31003003	護士
190404	老師	220702	醫師	31003004	老師
190405	經商貿易	220703	家庭主婦	31003005	9
190406	做生意商人(製造商)	220704	旅遊導遊	31003006	教育 如老師 教授
190407	農夫	220705	義工	31003007	9
220101	9	220706	總統	31004001	家庭主婦
220102	9	220707	會計師	31004002	老師
220201	9	220801	醫生	31004003	9
220202	9	220802	律師	31004004	9
220203	9	220803	老師	31004005	公務人員
220204	公務員	220804	教授	31004006	水果攤老闆
220205	家庭主婦	220805	社會服務志工	31005001	9
220206	9	220806	醫院義工	31005002	9
220301	公務員	220807	外交官	31005003	9
220302	9	220901	軍警人員	31005004	做小生意的老闆
220303	9	220902	沒有	31005005	理髮業老闆
		220903	汽修		

31005006	小買賣(老闆)	31105004	房屋仲介營業員	31202007	機車修護員
31005007	醫生	31105005	中醫師	31203001	美髮美容師
31005008	公家單位(公務人員)	31105006	9	31203002	金融放款員
31101001	公務員	31105007	終身志工(如:慈濟志工)	31203003	美髮師
31101002	9	31106001	9	31203004	9
31101003	9	31106002	9	31203005	小吃店老板
31101004	警察	31106003	9	31203006	9
31101005	9	31106004	9	31203007	社工人員
31101006	廚師	31106005	9	31204001	老師
31101007	9	31106006	9	31204002	9
31102001	9	31106007	電腦工程師	31204003	醫生
31102002	銀行辦事員	31107001	貿易 進出口商	31204004	小本生意的生意人
31102003	服務店老闆	31107002	老師	31204005	律師
31102004	9	31107003	瓦斯行老闆	31204006	9
31102005	9	31107004	餐飲的外燴廚師	31204007	社服人員
31102006	9	31107005	9	31301001	導遊
31102007	老師	31108001	醫生	31301002	護士
31103001	警察	31108002	餐廳的廚師	31301003	護士
31103002	9	31108003	務農	31301004	律師
31103003	9	31108004	美食家	31301005	園藝作者
31103004	9	31108005	醫生	31301006	研究社會經濟的專家
31103005	幼教老師	31201001	公教人員	31301007	公務人員
31103006	9	31201002	藝術家	31301008	批發檳榔的業主
31103007	用腦力的工作	31201003	做生意的老闆	31302001	老師
31104001	9	31201004	賣菜的老闆	31302002	老師
31104002	9	31201005	公務人員	31302003	老師
31104003	高科技電子業工程師	31201006	9	31302004	家庭主婦
31104004	9	31201007	修車老闆	31302005	董事長
31104005	9	31202001	老師	31302006	消防隊
31104006	老師	31202002	賣早餐的生意人	31302007	志工
31104007	9	31202003	公務人員	31303001	家管
31105001	9	31202004	老師	31303002	生化科技的老闆
31105002	老師	31202005	婚喪喜慶業的生意人	31303003	公務員
31105003	9	31202006	合法生意人	31303004	老師

31303005	科技公司的老闆	31401001	軍人	員
31303006	警察	31401002	9	32103003 地理,風水師
31303007	計程車司機	31401003	一般白領上班族	32103004 自助餐自資人
31304001	中醫師	31401004	一般小本生意人	32103005 修理機車技師
31304002	鄉民代表	31401005	餐廳老闆	32103006 9
31304003	9	31401006	醫生	32103007 老師
31304004	9	31401007	公務人員	32104001 生活發明家
31304005	老闆	31401008	9	32104002 公益事業(不給職
31304006	9	31401009	9	的)
31304007	9	31402001	沖印店老闆	32104003 園藝家 書法
31305001	美容師		一般的勞工階級,	家
31305002	科學家	31402002	賺血汗錢的正當職	32104004 9
31305003	養鴿家		業	32104005 9
31305004	做大地主	31402003	9	32104006 9
	不接觸外界的工作	31402004	家庭主婦	32104007 9
31305005	就可以 坐辦公室	31402005	營造業老闆	32105001 9
	白領階級	31402006	一般作生意的商人	32105002 連鎖超商老闆
31305006	老師	31402007	公務人員	32105003 9
31305007	美食評論家	31402008	農夫	32301001 佛教住持
31305008	護士	31402009	老師	32301002 公務人員
31306001	志工	31402010	9	32301003 服裝設計師
31306002	志工	31402011	百貨公司的經理	32301004 9
31306003	義工	32101001	電器行老闆	32301005 9
31306004	9	32101002	藝術工作-畫畫	32301006 公司老闆
31306005	董事長	32101003	老師	32301007 公務人員,可準時下
31306006	旅遊業	32101004	幼教老師	班
31306007	攝影師	32102001	9	32301008 行政工作
31306008	志工	32102002	9	32301009 銀行家
31307001	9	32102003	9	32302001 家庭主婦
31307002	公務人員	32102004	9	32302002 9
	只要是正當職業的	32102005	9	32302003 小商店老板
31307003	老闆就好了		娛樂公司(酒店)老	32302004 工廠職員
31307004	9	32102006	闆	32302005 小商店老板
31307005	家管	32102007	9	32303001 9
31307006	9	32103001	9	32303002 9
31307007	買賣業的老闆	32103002	精緻農業開發研究	32303003 政府機關的公務員

32303004	餐飲業老闆		專業技術人員(有	32305004	9
32303005	老師	32304004	一技之長的工作者	32305005	9
32303006	精品店的老闆		都可)		
32303007	軍公教人員	32304005	零售業老闆		
32304001	9	32305001	藝術工作		
32304002	9	32305002	專業技術人員		
32304003	護士	32305003	幼教		

自由回答データの個別回答

自由回答のQ30、Q38およびQ39(a,b)、について、それぞれの設問において出現した回答をカテゴリー化し、それらに番号を付与した。

以下に

- 1 : カテゴリー番号とラベルの対応表 (Q30)
- 2 : カテゴリー番号とラベルの対応表 (Q38)
- 3 : カテゴリー番号とラベルの対応表 (Q39a,b)
- 4 : サンプル番号とカテゴリー番号の対応表(Q30)
- 5 : サンプル番号とカテゴリー番号の対応表(Q38)
- 6 : サンプル番号とカテゴリー番号の対応表(Q39a,b)

を掲載する。

ここで、それぞれの項目で最大3個まで回答が得られている。

以下、Q38(2)は問38の設問において2番目に得られた回答を示す。

自由記述におけるカテゴリー番号とラベルの対応表 (Q30)

番号	ラベル	番号	ラベル		
1	Korean traditional clothes	한복	36	Temple	사찰
2	Ancestor-memorial services	제사	37	Nature	자연
3	Affection(Jeong)	정나눔	38	Relics	유적
4	Polite nation in eastern World	동방예의지국	39	Thick soypaste mixed with red pepper	고추장
5	Wisdom of ancestors	선조들의 지혜	40	Olympics	올림픽
6	Korean traditional village	민속촌	41	Asian Games	아시안게임
7	Ha-hoe mask	하회탈	42	Korean traditional wedding	전통혼례
8	Patriarchal system	가부장적 제도	43	Buddism	불교
9	Confucian culture	유교문화	44	Development of science	과학 발달
10	Kyong-ju	경주	45	Pal-man-dae-jang-kyoung	팔만대장경
11	Sa-mul-no-ri	사물놀이	46	The economic development	경제 발전
12	Pan-so-ri	판소리	47	Large family	대가족
13	Kim-chi	김치	48	Confucianism	유교사상
14	Unkindness	불친절	49	Unification of South and North Korea	남북통일
15	Korean traditional music	국악	50	History	역사
16	Korean soybean paste	된장	51	Respect	공경
17	Etiquette	예절	52	Han-Guel(Korean character)	한글
18	Serving the parents	부모봉양	53	Dan-o	단오제
19	Arirang(Korean traditional song)	아리랑	54	Head family	종가집
20	Customs	풍습	55	Bul-go-gi	불고기
21	Sa-mul-no-ri	풍물놀이	56	Family-orientation	가족주의
22	Authoritarianism	권위주의	57	Humanity	인정
23	Tile-roofed house(Giwa house)	기와집	58	Having a preference to male	남아선호사상
24	Pagoda	탑	59	New Year's day	인정
25	Conservative institutions	보수적인 제도	60	Chu-soek	추석/한가위
26	Classic	고전적	61	Friend	친구
27	Clean air	공기가 좋다	62	Cultural inheritance	문화유산
28	Bulkuksa	불국사	63	Agricultural society	농경사회
29	Filial piety	효	64	The white-clad folk	백의민족
30	Telecommunication	통신	65	Korean playing cards	고스톱
31	Shipbuilding	조선업	66	Korean traditional family	전통가족
32	Ultramodern business	첨단사업	67	White clothes	흰옷
33	Visiting the ancestors graves	성묘	68	Food	음식
34	Festive days	명절	69	Cultural property	문화재
35	Drinking culture	음주문화			

番号	ラベル		番号	ラベル	
70	Sexual discrimination	남녀 차별	105	Ancient palace	고궁
71	Private education	사교육	106	Confucian tradition	유교적인 전통
72	Korean traditional culture	전통문화	107	Su-won castle	수원성
73	Bi-bim-bob(rice food mixed with seasonings)	비빔밥	108	Dance	춤
74	Five thousand-year history	5000년 역사	109	Shaman	무당
75	Corrupt politics	부정부패 정치	110	Water mill	물레방아
76	Individualistic culture	개인주의 문화	111	New Year's gift of money given to one's juniors	세배돈
77	Korean traditional house	전통가옥	112	Nam-dae-mun	남대문
78	Korean traditional music	전통음악	113	Mask	탈
79	Tourism culture	관광문화 발달	114	Gang-gang-sul-lae(Korean traditional dance)	강강술래
80	Single nation	단일민족	115	Chang-duk-gung	창덕궁
81	Relationship on Blood, the same hometown, or same school	혈연+지연+학연 중시 문화	116	Korean traditional house	한옥집
82	Fan	3색 부채	117	The head of family	호주제
83	Football	축구	118	Four seasons	사계절
84	Korean traditional song	민요	119	Dance with the fans	부채춤
85	Tale	설화	120	Pottery	도자기 축제
86	Tale	민담	121	Spear	창덕궁
87	Inner room	안방	122	Mask dance	탈춤
88	Song and dance	가무	123	Building	건축물
89	Desire for material gain	물질주의	124	Blood relation	혈연
90	Money worship	배금사상	125	Changku(a double-headed drum pinched in at the middle)	장구
91	Quickly	빨리빨리	126	Korean traditional dance	민속춤
92	Prestige	체면	127	Ssireum(Korean traditional wrestling)	씨름
93	Closeness	폐쇄성	128	Rapid growth	고속성장
94	Taekwondo	태권도	129	Great moral principle	대도집단
95	Two upper classes of old Korea(Yang-ban)	양반	130	Ancestors	조상
96	Swing	그네타기	131	Movie	영화
97	Exchange of work	품앗이	132	Collective selfishness	집단이기주의
100	Predominance of men over women	남존여비	133	Freshness	참신하다
101	Ceramic festival	도자기 축제	134	Established social morals and customs	미풍양속
102	Kyong-bok-gung	경복궁	135	Freedom of religion	종교의 자유
103	Humanity	인간미	136	Respect of ancestors	조상 숭배
104	Rice	쌀	137	Korean traditional games	민속놀이

番号	ラベル		番号	ラベル	
138	Instrumental music of peasants	of 농악놀이	170	Pot culture	냄비 문화
139	Instrumental music of peasants	of 농악놀이	171	The four-stick game(Yout game)	윷놀이
140	Ambivalence	이중성	172	Che-ju island	제주도
141	Ordinal relationship	서열관계	173	Friendship organization	친목단체 모임
142	Dong-dae-mun	동대문	174	National history	국사
143	Tourism	관광	175	Humor	해학
144	Rose of Sharon(the national flower of Korea)	무궁화	176	Informality	소탈하다
145	Reception culture	접대문화	177	Korean traditional juvenile story	전래동화
146	Worldcup	월드컵	178	Tangible cultural asset	유형문화재
147	Demonstration	대모	179	Soup of dog's meat	영양탕
148	Relaxation	여유	180	Treasure	보물
149	Respect of others	타인존중	181	Koream traditional market	재래시장
150	Dance	춤	182	Korean national flag	태극기
151	Academic clique	학벌	183	National treasure	국보
152	Human network	인맥	184	Dolmen	고인돌
153	Concession	양보	185	Legacy	유물
154	Bravery of Koguryo people	고구려인의 용맹	186	Ancestor's grave	산소
155	Chosun dynasty	조선시대	187	Puppet	꼭두각시
156	Internet	인터넷	188	Slave	노예
157	Seniority rule	연공서열	189	Ka-ya-geum(Korean instrument)	가야금
158	Novel	소설	190	Dae-geum(Korean instrument)	대금
159	Tiger	호랑이	191	Chaste and modest woman	요조숙녀
160	Customs	관습	192	Wise mother and good wife	현모양처
161	Duk-su-gung	덕수궁	193	New Year's greetings	세배돈
162	Countryside	시골	194	Seesaw	널뛰기
163	Chinese characters	한문	195	Unity	단결
164	King Se-jong	세종대왕	196	Ddeuk(Korean rice cake)	떡
165	Conservative sexual culture	보수적인 성문화	197	Confusion from opening the market	과동한 개방에 따른 혼란
166	Intangible culture	무형문화	198	Dog meat	개고기
167	The 15th of the first month(lunar)	대보름	199	Korea time	코리아 타임
168	Christian	기독교	200	Red devils	붉은 악마
169	Education	교육	201	Walking naturally	자연스럽게 걸어다니는 것

番号	ラベル		番号	ラベル	
202	Confusion	문란하다	235	Agricultural culture	농촌 문화
203	Confucius	공자	236	Self	자기
204	Rash female culture	여자들의 무분별한 바깥 문화	237	Korean war	6.25
205	Subway	지하철	238	Underdeveloped country	후진국
206	Korean-style food	한정식	239	Disorder	무질서
207	Shamanism	무속	240	Fan	부채춤
208	Agriculture	농업	241	Genealogical table	족보
209	Ddeuk-guk(rice cake soup)	떡국	242	Frost	서리
210	Playing shuttlecock	제기차기	243	Home-coming	명절귀향
211	Wars	역대전쟁	244	Celadon	청자
212	In-sa-dong	인사동	245	White porcelain	백자
213	Popularity	대중적이다	246	Korean traditional industrial arts	전통공예
214	Bae-dal min-jok(the earliest name for Korea)	배달민족	247	Pride	자존심
215	Arts	예술	248	Shamanism	샤머니즘
216	Respect	존경심	249	Good to live	살기 좋다
217	Grave of King Kyon-wheen	견훤왕묘	250	High-storied building	고층빌딩
218	Political culture	정치문화	251	Apartment	아파트
219	Ailment supposedly caused by one's pent-up resentment	화병	252	Classic	고전적
220	Originality	독창적	253	Rattan industrial art	등공예
221	Dialects	사투리	254	Stuffy	답답하다
222	Beauty	아름답다	255	Seok-ga-tap	석가탑
223	Tile(Giwa)	기와	256	Development of tourism site	관광지 개발
224	Sports	체육	257	Trot	트로트
225	Collectivism	집단주의	258	Forgetfulness	쉽게 잊어버린다
226	Respect for the old	경로사상	259	Korean aesthetics	한국의 미학
227	Imitation	모방	260	Losing the traditional culture	고유문화를 안 찾는다
228	Self-preservation culture	보신문화	261	Heartburning(Han)	한
229	Straw sandals	짚신	262	Do-san-seo-won in Andong	안동도산서원
230	Ramie fabric/hemp clothes	삼베모시 짜는 것	263	Chung-ryeol-sa	충렬사
231	Meeting of two love-stars (on July 7 of the lunar calendar)	견우직녀 행사	264	Se-byong-kwan	세병관
232	Korean traditional arts	전통예술	265	Tongyong five clowns play	동영 오광대
233	Succession of tradition	전통 계승	266	Colony	식민지
234	Baek-je culture	백제문화	267	Nan-ta	난타
			268	Seok-gul-am	석굴암
			269	Over-consumption	과소비

番号	ラベル	番号	ラベル		
270	Ancestor-memorial services	차례	292	Earthen bowl	죽배기
271	New year's garb	설빔	293	Shim-cheong-jun	심청전
272	Mutual aid	상부상조	294	Kim-chi soup	김치찌개
273	Superstition	미신	295	Delightful nation	흥이 많은 민족
274	Family	가정문화	296	Strike of union	노동조합 파업
275	Ancestor-memorial services	제례의식	297	Kindness	친절성
276	Beautiful land	금수강산	298	Drama	드라마
277	Folk culture	민속문화	299	Considering the ancient valuable	옛것을 소중히 여긴다
278	Mutual benevolence group	계	300	Absent-minded work	대충하는 일처리
279	Kyong-ju Bo-mun tourism complex	경주보문관광단지	301	Jing(Korean instrument)	징
280	Rapid transit railway	고속전철	302	Saving	저축하는 국민성
281	Cheom-seong-dae	첨성대	303	Relationship on Blood	친인척간의 유대관계 유지
282	Sung-rae-mun	승례문	304	Korean traditional lifestyle	전통 생활 방식
283	Independence memorial hall	독립기념관	305	Song	노래가락
284	Ha-hoe towm in Andong	안동 하회마을	306	Corruption	부패된 느낌
285	Kite	연날리기	307	Belief	믿음
286	Dong-rae crane dance	동래학춤	308	Harmony	조화
287	Competitive culture	경쟁이 치열한 문화	309	Full dress	예복
288	Invasion from the foreign countries	외세로부터 침략을 받아왔다	998	None	
289	Soybean paste soup	된장찌개	999	Don't know/Not answer	
290	Makkoli(raw rice wine)	막걸리			
291	Pusan international festival	부산국제영화제			

自由記述におけるカテゴリー番号とラベルの対応表 (Q38)

番号	ラベル	番号	ラベル		
1	Family	가족	32	Life	생명
2	Health	건강	33	Happiness	행복
3	Sons and daughters	자녀	34	Love	사랑
4	Money	돈	35	Attainment of job	일에 대한 성취
5	Freedom	자유	36	Etiquette	예의 범절
6	Parents	부모님	37	Sense of Order	질서의식
7	Self	자신	38	Consideration	toward 타인에 대한 배려
8	Friend	친구		others	
9	House	주택	39	Ability	능력
10	Occupation	직업	40	Cultural life	문화생활
11	Happiness of family	가족의 행복	41	Living environment	생활 환경
12	Health of family	가족의 건강	42	Leisure	여가
13	Wife or husband	아내/남편 배우자	43	Truth	진실
14	Knowledge	지식	44	Prestige	명예
15	Love among family members	가족간의 사랑	45	Antiques	골동품
16	Belief	믿음	46	Bible	성경책
17	Borthers	형제	47	Drink and cigarette	술, 담배
18	God	하느님	48	One's values	가치관
19	Social network	인맥	49	Humanity	인간성
20	The perfection of self	자아실현	50	Dream	꿈
21	Religious life	종교생활	51	Peace of mind	마음의 평화
22	Relationship among peoples	사람과의 관계	52	Natural environment	자연환경
23	Social stability	사회안정	53	Beautiful world	아름다운 세상
24	Automobile	자동차	54	Success	성공
25	Reason	이성	55	Marriage	결혼
26	Relaxation of life	생활의 여유	56	Stability of life	안정된 생활
27	Moral life	바른 생활	57	Colleague	동료
28	National well-being	국가안녕	58	Harmony	between 부부화합
29	Relatives	친척		husband and wife	
30	Providing for one's old age	노후설계	59	Land	땅
31	Acting according to one's conviction	소신있는 삶	60	Mobile phone	핸드폰
			61	Certificate	자격증
			62	Blood relation	혈연
			63	Separation of waste	쓰레기 분리
			64	Cultural asset	문화 유산

番号	ラベル		番号	ラベル	
65	National wealth	나라부강	73	Mental power	정신력
66	Mental attitude	마음가짐	74	Stability of politics	정치안정
67	Future	미래	75	Conscientiousness	양심
68	Honesty	정직	76	Neighbors	이웃
69	Education of sons and daughters	자녀교육	77	Relatives	인척
70	Mutual aid	상부상조	78	Travel	여행
71	Succession of traditional etiquette	동방예의지국을 지키는 일	998	None	
72	Sincerity	성실	999	Don't know/Not answer	

自由記述におけるカテゴリー番号とラベルの対応表 (Q 3 9 ab)

番号	ラベル	番号	ラベル
1	Teacher	35	Computer programmer
2	Marketing		
3	Network Marketing	36	Nurse
4	Freelancer	37	Practical affairs
5	An independent enterprise	38	Engineer
6	Lawyer	39	Athlete
7	The construction industry	40	Laundry
8	Cook	41	Social welfare work
9	President	42	Herb doctor
10	CEO of department store	43	Football player
11	Professor	44	Physicist
12	Social welfare work	45	Real estate broker
13	Medical doctor	46	Physical labor
14	Lecturer	47	Fashion franchise
15	Civic activist	48	Restaurant
		49	The publishing business
16	Photographer	50	Manager of bookstore
17	Civil servant	51	Secretary
18	Writer	52	Artist
19	Prosecutor	53	PR of Korean culture
20	Agriculture		
21	Designer	54	Office work
22	Specialist in law	55	Housewife
23	General	56	Manager of flower shop
24	Optician	57	Tourist guider
25	Engineer in construction industry	58	Musician
26	Delivery service of chinese restaurant	59	Manager of live caf?
27	Accounting	60	Manager of billiard hall
28	Judge	61	Professional work
29	Clergyman	62	Bodyguard
30	Office work	63	Manager of accessory shop
31	Sweeper		
32	Policeman	64	Manager of fishing place
33	Lease industry	65	Plumber
34	Reporter	66	Soldier

番号	ラベル	番号	ラベル
67	Interpreter	102	Hospice
68	Service industry	103	Businessman
69	Owner of farm	104	CEO
70	Productive work	105	Entertainer
71	Welder	106	Singer
72	Specialist in art	107	Actor
73	Teacher of kindergarten	108	Radio actor
74	Dentist	109	Real estate investor
75	Priest	110	Owner of trading company
76	Politician	111	Educational business
77	Potter	112	Fire fighter
78	Gardener	113	Hotel manager
79	Technical service	114	Pilot
80	One who serves the public at large	115	Announcer
81	Work in press	116	Sculptor
82	Manager of kindergarten	117	Pharmacist
83	Florist	118	Woman CEO
84	Minister of the Ministry of Home Affairs	119	Job concerning fashion
85	Social welfare work	120	Make-up artist
86	Interior designer	121	Industrial designer
87	Model	122	Social welfare worker for the disabled
88	Churchman	123	Professional technician
89	Fashion coordinator	124	Hotel CEO
90	Hair designer	125	Owner-drive taxi
91	Owner of linen and cotton store	126	Vocalist
92	Venture businessman	127	Financial consultant
93	Manager of interior shop	128	Owner of ballon store
94	Nun	129	Environmental activist
95	Diplomat	130	Scientist
96	Owner of fashion store	131	Driver
97	Translation freelancer	132	CEO of game industry company
100	Painter		
101	Fire fighter		

통역사

서비스업

농장주인

생산직

용접공

미술전문가

유치원교사

치과의사

신부님

정치인

도예가

원예가

기능인

봉사자

언론인

유치원 원장

플로리스트

내무부 장관

사회 사업가

인테리어 디자

이너

모델

성직자

코디네이터

헤어디자이너

포목점 주인

벤처 사업가

인테리어 관련

가게 운영

수녀님

외교관

옷가게 사장

번역 프리랜서

화가

119 대원

환자 돌보는 자

원 봉사

영업사원

전문 경영인

연예인

가수

연극인

성우

부동산 투자

무역회사 사장

교육사업

소방관

호텔 지배인

비행기 조종사

아나운서

조각가

약사

여성 경영인

유패션 관련일

메이크업

아티스트

산업 디자인

디자이너

장애인 복지사

전문 기술직

호텔 경영자

개인 택시

성악가

금융 컨설턴트

풍선 가게 주

인

환경 운동가

과학자

운전사

게임 업체

회장

番号	ラベル		番号	ラベル	
133	Appraiser	감정 평가사	165	Manager of small drink shop	포장마차 운영
134	Veterinary surgeon	수 의사	166	Professional golfer	프로골퍼
135	Archeologist	고고학자	167	Producer	PD
136	Fashion designer	의상 디자이너	168	Scientific servant	과학공무원
137	Counselor	상담사	169	Public work	공공 근로
138	Missionary	선교사	170	Korean traditional singer	소리꾼
139	Architect	건축가	171	Licensed tax accountant	세무사
140	Distribution industry	유통업	172	Security dealer	증권가
141	CEO of construction company	건설 업체 운영	173	Guard	경비
142	Operator of heavy equipment	중장비 운전	174	Ph. D of literature	어문학 박사
143	Theoretical physicist	이론 물리학자	175	Development of new medical appliance	의료업 계몽의 개발
144	Critic of movie	영화 평론가	176	Owner of traditional tea-shop	전통차집 운영자
145	Scholar	학자	177	Certified public accountant	CPA
146	Navigation officer	항해사	178	Owner of golf course	골프장 운영
147	Comedian	개그맨	179	Teacher of art	미술 교사
148	Director of company	사업체 종역	180	Car mechanic	자동차 정비 기술자
149	Stewardess	스튜어디스	181	Interior construction	실내 건축업자
150	Job concerning dance	춤과 관련 일	182	Spy	첩보원
151	Ph. D of psychology	심리학 박사	183	Construction supervisor	감리사
152	Wedding consultant	결혼 상담사	184	Certified public accountant	세무회계사
153	Sky diver	스카이 다이버	185	Monk	스님
154	Job concerning cosmos study	우주 연구에 관한 것	186	Computer graphic designer	컴퓨터 그래픽 디자이너
155	Fund manager	펀드 매니저	187	CEO of large company	대기업 총수
156	Event industry	이벤트 사업	188	Ph. D of economics	경제학 박사
157	Jewelry desinger	보석 디자이너	189	Professional in car audio	카오디오 전문가
158	Leisure industry	레저 산업	190	Breeder	사육사
159	Congressman	국회의원	191	Engineer in computer	컴퓨터 전문 엔지니어
160	Electrical manufacturing company	전기 회사	192	Foreign exchange specialist	외환 전문가
161	Pianist	피아니스트	193	Musical actor	뮤지컬 배우
162	Leader of the weak	소외 계층의 지도자	194	Elementary school teacher	초등학교 교사
163	The worker of difficult, dirty industry	3D 업종의 근로자	195	Nutritionist	영양사
164	Car racer	카레이서			

番号	ラベル	番号	ラベル
196	Poet	229	Baseball player 야구선수
197	Director of association of agriculture and fishery	230	Paduk player 바둑가
		231	Commentator 평론가
198	Technician in agriculture	232	Trading industry 무역업
199	Technician of copy machine	233	Information and IT telecommunication industry IT 업종
		234	Middle school teacher 중등 교사
200	Designer	235	Architect Designer 건축 설계사
201	Fishery	236	Manager of orphanage 고아원 원장
202	Banker	237	Special correspondent in foreign country 외국 특파원
203	Foreign exchange dealer		
204	Countryman	238	CEO of construction company 건설 회사
205	Lecturer of natural therapy		시장
		239	Educator 교육자
206	Mountain climber	240	Scientist and technologist 과학 기술자
207	Leader	241	Soldier 직업 군인
208	Broadcaster	242	CEO 지업체 사장
209	Mailman	243	Manager of small business 소규모 자영업
210	Member of chorus	244	Daily job 일용직
211	Writer in broadcasting	245	Psychiatrist 정신과 의사
212	Livestock industry	246	Manager of studio 스튜디오 운영
213	Religionist	247	CEO 경영자
214	Judicial officer	248	Ph. D 박사
215	Patent attorney	249	Leader of religion 종교 지도부
216	Owner of coffee shop	250	CEO of department store 백화점 사장
217	Owner of restaurant	251	Teacher of nursery school 보육원 교사
218	The worker		
219	Civil servant	998	None
220	Technical service	999	Don't know/Not answer
221	Lecturer of sports		
222	Civilian attached to the military		
223	Transportation industry		
224	Technician in telecommunication		
225	Owner of orchard		
226	Engineer in construction industry		
227	Business regarding the bringing up the children		
228	Researcher		

問30のサンプル番号(#)とカテゴリー番号の対照表

#	Q30(1)	(2)	(3)	#	Q30(1)	(2)	(3)	#	Q30(1)	(2)	(3)
1	34			51	59	60	167	101	999		
2	38	1		52	122	84	60	102	78	84	29
3	1			53	2	122	171	103	28		
4	17			54	999			104	34		
5	137			55	999			105	999		
6	2			56	999			106	38		
7	183	180		57	999			107	145	151	152
8	999			58	1			108	1	13	105
9	17			59	999			109	999		
10	17	57		60	13			110	78		
11	184	185	38	61	1			111	121	84	
12	77			62	172			112	122		
13	77	137		63	2			113	999		
14	69			64	172	6		114	1		
15	17	137		65	126			115	2	136	
16	55	77		66	13	51	124	116	999		
17	68	1	77	67	173			117	999		
18	2	34	68	68	182			118	102	161	
19	2	186	1	69	28			119	1	13	
20	59	60	1	70	999			120	108		
21	2	1	68	71	1	29	17	121	163		
22	108	69	105	72	1			122	13		
23	38	84	68	73	65			123	999		
24	189	190	1	74	120	180		124	999		
25	136			75	136	120		125	999		
26	13	39	119	76	120	122		126	999		
27	47	56	48	77	174	50		127	999		
28	187	55		78	175	176		128	999		
29	29	2	7	79	12	177	28	129	998		
30	122	11	13	80	1	38		130	164		
31	33			81	166	178	105	131	3		
32	36	43		82	68	13	179	132	10	28	
33	16			83	108	69	180	133	999		
34	47	17	68	84	69	119		134	28		
35	84	121	193	85	122	120		135	999		
36	1	194	171	86	122			136	123	166	
37	60	59	13	87	120	102		137	13	1	
38	1	2	84	88	112	181		138	170		
39	72	23		89	999			139	999		
40	198	199	200	90	2	136	13	140	1		
41	202	204		91	999			141	78	42	39
42	999			92	12	1	13	142	999		
43	999			93	58			143	17		
44	38			94	1			144	50	69	
45	206	12		95	51			145	120		
46	84	126		96	146			146	48		
47	207			97	136			147	1	42	11
48	51			98	137			148	48		
49	6	8		99	122	127	60	149	6		
50	17			100	29			150	999		

#	Q30(1)	(2)	(3)	#	Q30(1)	(2)	(3)	#	Q30(1)	(2)	(3)
151	999			201	12	100	8	251	9		
152	999			202	101			252	34		
153	999			203	29			253	136		
154	999			204	102			254	999		
155	34			205	17	57		255	999		
156	999			206	100	17		256	162	201	
157	13	1	59	207	68	12	1	257	52		
158	29			208	59	68	1	258	999		
159	153			209	34	2		259	1		
160	154			210	108	17	1	260	17	29	
161	155			211	34	17		261	203		
162	999			212	17	68		262	999		
163	36			213	110	35	111	263	13	205	
164	72			214	1	59	13	264	19		
165	131	158		215	1	13		265	208	2	
166	999			216	13	1	34	266	72	62	
167	113	159		217	9	2		267	999		
168	84	78	108	218	77	119		268	213		
169	42			219	43	120		269	214		
170	29			220	1	125		270	28		
171	28	102		221	4	2		271	43		
172	999			222	127			272	34		
173	18			223	129			273	17		
174	4			224	65			274	17	72	
175	999			225	1	126	121	275	138		
176	56	29		226	17	8	100	276	132		
177	999			227	1			277	17		
178	48			228	999			278	122	8	73
179	146	195		229	133			279	999		
180	1			230	38			280	134	2	
181	1	196		231	136			281	135		
182	34	196	193	232	136	47		282	999		
183	60	17		233	137			283	13		
184	197			234	137	138		284	13	1	
185	72			235	137	6		285	17		
186	17	43		236	1	48		286	72		
187	167	127	122	237	999			287	999		
188	209	2	210	238	56			288	999		
189	65	171	210	239	142	112		289	999		
190	122	2	105	240	2	120		290	84		
191	999			241	19	144		291	138		
192	112			242	102	28		292	140	141	
193	211			243	126			293	136	47	
194	48			244	999			294	143		
195	170	76		245	147			295	2		
196	13			246	29			296	999		
197	108	29		247	148	149		297	77	1	
198	999			248	13	1	39	298	146		
199	122	138	120	249	48	43		299	999		
200	120	212		250	108	29	134	300	13		

#	Q30(1)	(2)	(3)	#	Q30(1)	(2)	(3)	#	Q30(1)	(2)	(3)
301	72			351	168	48		401	96	97	
302	1			352	169			402	17		
303	999			353	47			403	17		
304	11			354	1	48		404	999		
305	68	156		355	169	48		405	999		
306	3	157		356	11			406	69		
307	1	120	68	357	126			407	104		
308	11			358	48			408	106		
309	4			359	121	12		409	29		
310	998			360	13	55	68	410	19		
311	17			361	57			411	112		
312	13	1		362	1	13		412	37		
313	56	2		363	17	118		413	84		
314	13			364	136			414	28		
315	72	20		365	51	48		415	48	2	
316	8			366	48			416	68		
317	1	56	162	367	17			417	51	2	
318	17	51	36	368	64			418	117		
319	999			369	29			419	118		
320	13	95	58	370	999			420	1		
321	13			371	999			421	13		
322	72			372	72			422	121	122	120
323	165			373	1			423	123		
324	76			374	12			424	1		
325	56			375	999			425	23		
326	19	1		376	1			426	64		
327	48	77		377	17			427	91	128	
328	29			378	78			428	6	102	
329	999			379	999			429	131	130	
330	105	19	68	380	120	1		430	999		
331	33	84	3	381	122			431	12		
332	12	7	107	382	68			432	8		
333	109	73		383	1			433	137		
334	3			384	188			434	105	137	
335	112	7		385	29			435	136	303	
336	113			386	999			436	17		
337	11	114	9	387	999			437	137		
338	78	102	115	388	999			438	19	125	
339	48			389	191	192		439	84	1	17
340	17			390	999			440	62	304	
341	12			391	999			441	305	17	136
342	78			392	999			442	4	17	
343	4			393	29			443	1	137	
344	124			394	29			444	999		
345	4			395	29			445	306		
346	121			396	1			446	26	50	
347	77	126	13	397	34	136	13	447	56	195	
348	60	84		398	1			448	999		
349	59	122	6	399	2			449	307		
350	68	126	59	400	1	16	39	450	13		

#	Q30(1)	(2)	(3)	#	Q30(1)	(2)	(3)	#	Q30(1)	(2)	(3)
451	26			501	68	300	91	551	999		
452	26	17		502	8	3		552	126		
453	78	126	136	503	4	60	59	553	999		
454	122			504	29			554	34		
455	130	72		505	999			555	64	13	
456	34	51	68	506	1	13		556	19	112	261
457	308	195	295	507	64			557	262		
458	309	120	23	508	13			558	999		
459	122	305	68	509	19	51	20	559	163	264	265
460	126	122	119	510	301	125		560	2		
461	999			511	1	113		561	999		
462	19	1	23	512	999			562	35	13	
463	309	42		513	9	17		563	999		
464	1	13	77	514	1			564	19	127	13
465	69	1	42	515	302			565	267		
466	17			516	2	13		566	28	268	
467	998			517	2			567	34	60	
468	999			518	36	126	12	568	58		
469	999			519	218	279		569	269		
470	1	2	17	520	999			570	999		
471	72	17		521	4			571	17		
472	137			522	13			572	269		
473	1	119		523	13	280		573	233	126	
474	305	1		524	999			574	12	13	
475	77	34	96	525	999			575	56		
476	29	56		526	84	13		576	56		
477	999			527	13			577	56		
478	48	12	207	528	84	1		578	43	56	
479	999			529	17			579	17	4	1
480	17			530	19	10	7	580	136	273	
481	75			531	131	120		581	999		
482	1			532	17			582	17		
483	1	126	19	533	171	84		583	122	284	
484	297			534	126			584	34	194	285
485	8	23	13	535	17	47		585	13	244	245
486	17			536	183	69	42	586	171	65	
487	299			537	136	13		587	17		
488	56	47		538	17	29	57	588	999		
489	108	29	48	539	17	20		589	999		
490	42	2		540	131	298		590	999		
491	999			541	47			591	72		
492	999			542	120	28		592	999		
493	76			543	58			593	999		
494	72	1	48	544	42	171	34	594	999		
495	68	13		545	17	84	120	595	999		
496	76			546	138	121		596	29		
497	17			547	17			597	64		
498	76			548	68	75		598	999		
499	42	2		549	136	51		599	295	56	
500	59	209	1	550	999			600	80		

#	Q30(1)	(2)	(3)	#	Q30(1)	(2)	(3)	#	Q30(1)	(2)	(3)
601	2			651	84	85		701	1	2	
602	60	108	29	652	87			702	6	7	
603	194	1	209	653	91	90		703	10		
604	59	60	1	654	1	47		704	14		
605	209	13	16	655	48			705	22		
606	277			656	2			706	26		
607	48	17		657	13			707	13		
608	278	17		658	999			708	998		
609	16			659	35	88	65	709	11		
610	119	281		660	999			710	999		
611	136			661	89			711	999		
612	13			662	92			712	13	16	39
613	136			663	93			713	25		
614	1	196		664	13			714	43	45	
615	999			665	4	1	77	715	46		
616	13			666	9			716	11		
617	69	282	283	667	94			717	999		
618	72	286	120	668	95			718	998		
619	999			669	3			719	78	50	
620	136	2		670	999			720	1		
621	4			671	999			721	50		
622	80			672	8			722	13	54	55
623	288			673	11	12		723	1	59	60
624	80			674	998			724	13		
625	999			675	998			725	68		
626	269			676	78			726	4	5	
627	289			677	2			727	9		
628	17	60		678	10			728	13		
629	13			679	18	19		729	3		
630	290	171	19	680	20	3		730	16		
631	59	60	1	681	48			731	17		
632	19	7	291	682	62			732	8		
633	63	48		683	63			733	13	11	
634	13	292	16	684	999			734	23	24	
635	17	97		685	999			735	25		
636	287	269		686	34			736	999		
637	3	157		687	25			737	27		
638	269			688	66			738	30	31	32
639	17	2	12	689	67			739	12	35	
640	56	3		690	69			740	38		
641	77			691	72			741	40	41	
642	79			692	13	73		742	999		
643	2			693	17			743	44		
644	9			694	17			744	999		
645	75			695	999			745	17		
646	17			696	78			746	13	39	
647	48			697	80			747	13	16	
648	78			698	69			748	49		
649	83			699	1			749	999		
650	999			700	11			750	999		

#	Q30(1)	(2)	(3)	#	Q30(1)	(2)	(3)	#	Q30(1)	(2)	(3)
751	52			801	34			851	4		
752	234			802	35			852	13		
753	195			803	169	143		853	80	4	64
754	130			804	12			854	293		
755	50			805	1	65		855	179		
756	999			806	229			856	999		
757	235			807	114			857	84		
758	11	138		808	230	231	42	858	58	235	
759	999			809	999			859	294		
760	998			810	34			860	78		
761	999			811	216			861	112		
762	999			812	72	62		862	999		
763	999			813	1	60		863	128		
764	13			814	19	146	218	864	72		
765	235			815	219			865	225	296	
766	999			816	220	222		866	999		
767	999			817	999			867	2		
768	17			818	9			868	42	272	
769	17			819	223			869	56	72	34
770	29			820	119	59	34	870	12		
771	17	136		821	130	17		871	137	120	
772	60			822	999			872	60	34	56
773	42	2		823	999			873	254		
774	232			824	124	225	34	874	52		
775	72	17		825	1			875	67		
776	96	194		826	19	13	1	876	136		
777	29	233		827	35			877	999		
778	34			828	13			878	999		
779	29	226		829	3	57		879	104		
780	29	216		830	999			880	255	13	
781	17			831	11			881	256	3	57
782	999			832	4			882	57		
783	999			833	62	215		883	4	108	29
784	29			834	17	63		884	195	146	
785	999			835	999			885	84	121	257
786	29	226		836	217			886	999		
787	134	29		837	999			887	91	3	258
788	136	2	29	838	221			888	91	3	
789	999			839	215	223		889	162		
790	999			840	999			890	259		
791	146	64	17	841	68	11	78	891	233	260	
792	1	3		842	1			892	1	3	84
793	182	72		843	17			893	119	138	12
794	999			844	227	228		894	67	19	266
795	68	29		845	13			895	105	2	271
796	226	29		846	999			896	17	272	
797	72			847	17			897	136	233	272
798	68			848	78			898	17	233	
799	68			849	999			899	97		
800	1			850	999			900	272		

#	Q30(1)	(2)	(3)	#	Q30(1)	(2)	(3)	#	Q30(1)	(2)	(3)
901	999			951	17	138		1001	138	17	
902	4			952	64	17	78	1002	17		
903	999			953	126	236		1003	1	7	122
904	999			954	17	136	48	1004	120		
905	999			955	11			1005	4		
906	26			956	34	2	51	1006	131	137	
907	274			957	136	17					
908	276			958	17	51					
909	999			959	999						
910	143			960	113	1	240				
911	137			961	138	1					
912	162			962	97	242	243				
913	137			963	999						
914	999			964	17	241					
915	207			965	17						
916	249	250	251	966	17	240					
917	999			967	999						
918	17			968	999						
919	999			969	999						
920	999			970	28	29	8				
921	1			971	33	34					
922	26			972	1	36	37				
923	42			973	999						
924	11			974	999						
925	999			975	78						
926	999			976	999						
927	17	94	241	977	1	42	29				
928	999			978	9						
929	241	77		979	3						
930	253	138	17	980	47						
931	237	238	239	981	2						
932	17	126	1	982	48						
933	36	48	138	983	51						
934	78	1		984	53						
935	241			985	4						
936	17	1		986	56	57					
937	17			987	58						
938	4	29		988	61						
939	1	12		989	64						
940	136	17	1	990	35	65					
941	2	1		991	13	55	1				
942	48			992	70	71					
943	17			993	13	74	75				
944	17	29	51	994	76	81					
945	223	244	245	995	1	12					
946	51	138	246	996	47						
947	17	64	247	997	12						
948	17	126		998	77	82					
949	17	1	57	999	1						
950	17	137	1	1000	78	13	55				

問38のサンプル番号(#)とカテゴリ番号の対照表

#	Q38(1)	(2)	(3)	#	Q38(1)	(2)	(3)	#	Q38(1)	(2)	(3)
1	1	4		51	3	2	4	101	12		
2	1	4		52	3	2	4	102	1	2	4
3	1			53	27	2		103	2		
4	12	1	4	54	2			104	3		
5	1			55	2			105	22		
6	1			56	2			106	2		
7	1			57	1			107	15	16	
8	2	34	4	58	1			108	1		
9	2	1		59	1			109	1	22	10
10	1	2	4	60	1			110	21	2	4
11	1	34	10	61	1			111	2		
12	3			62	1			112	12		
13	2			63	1			113	3	4	8
14	12			64	1			114	3		
15	1			65	31			115	1	13	13
16	4	1	2	66	11			116	7	1	
17	1	4		67	2			117	1		
18	2	1	4	68	2			118	6	1	2
19	2	1	4	69	2			119	1	8	2
20	3	5	4	70	1			120	2		
21	3	11	2	71	2			121	11		
22	3	4	2	72	1			122	1		
23	2	4	3	73	7			123	3	2	
24	21	3	4	74	1	2		124	31		
25	1			75	1	5	2	125	2	11	28
26	1	21		76	2	1	10	126	3	2	4
27	3	7	4	77	1	2	10	127	3		
28	55	4		78	2	1		128	28	3	2
29	1	10	4	79	1	4		129	21	4	
30	1	21		80	20	1	43	130	1	4	29
31	1	4		81	22			131	1	2	
32	998			82	1	4		132	2	30	1
33	1			83	1	2		133	1	2	4
34	1	4		84	1	2		134	1	13	3
35	2	1		85	1	2	10	135	1	3	13
36	1	21	32	86	1	2		136	16		
37	2	4	32	87	1	2		137	1		
38	2	4	1	88	1	10		138	1		
39	2	4		89	1	2	10	139	2		
40	56	4	6	90	1	54		140	12		
41	1			91	1	2	10	141	1	32	
42	6	4	17	92	1			142	12		
43	2			93	1	2		143	2		
44	1	34		94	1			144	1	2	10
45	1	4		95	2			145	3		
46	35			96	1			146	12		
47	7	6		97	1			147	2	1	33
48	4			98	2			148	1		
49	1	4		99	3	32	2	149	1		
50	1			100	3	2		150	1		

#	Q38(1)	(2)	(3)	#	Q38(1)	(2)	(3)	#	Q38(1)	(2)	(3)
151	2			201	1	4		251	1	2	
152	12			202	2			252	1		
153	2	4	10	203	12			253	10		
154	2	4	10	204	2			254	10	2	1
155	2	1	4	205	1	10	4	255	3	1	
156	6	8		206	1			256	21		
157	2	1	41	207	1	2	10	257	1	8	
158	1			208	1	10	4	258	1		
159	11			209	1	2	4	259	1	8	
160	16			210	2	10	1	260	1		
161	1	8	42	211	1	2	10	261	3		
162	34	43		212	1	2	10	262	32		
163	1	8	44	213	47	25		263	1	8	
164	45			214	1	2	41	264	2	4	
165	1	10	21	215	1			265	1	4	
166	999			216	2	1	4	266	2	1	
167	25			217	1	8		267	6	2	
168	2			218	1	4		268	7	6	
169	46			219	10	1	8	269	32		
170	2			220	4	1	8	270	1		
171	1	2		221	10			271	21		
172	3			222	2			272	1		
173	12			223	49			273	1		
174	4			224	1			274	1	10	
175	1	2		225	50	35	1	275	10	1	2
176	1			226	1	4	10	276	1	10	
177	1	2		227	10	2		277	2	1	
178	1			228	34	16		278	1	2	10
179	1			229	2	10	4	279	11		
180	12			230	1	35		280	2	1	10
181	10	1		231	1	10		281	2		
182	2	1	10	232	36	37	38	282	1		
183	1			233	2	1		283	18		
184	1			234	4			284	1		
185	1	2		235	1			285	1		
186	2	1		236	39			286	2		
187	32	2	1	237	1			287	6	1	4
188	1	2	4	238	12			288	32		
189	1	10	8	239	1	2	10	289	2		
190	7	1		240	1	10		290	2		
191	1			241	1			291	1		
192	1			242	1	6		292	35	40	8
193	1	4	16	243	2			293	7		
194	4			244	3			294	1		
195	1			245	4			295	4		
196	1			246	2			296	2		
197	1	2	10	247	1			297	1		
198	1			248	1	4	22	298	1	10	2
199	1	10	5	249	2			299	6		
200	1	2	10	250	1			300	1		

#	Q38(1)	(2)	(3)	#	Q38(1)	(2)	(3)	#	Q38(1)	(2)	(3)
301	2			351	1	2	21	401	2	1	
302	1			352	34	10		402	1		
303	1			353	21			403	2	13	
304	1			354	21	43	12	404	2	4	44
305	1	25		355	1	2	10	405	7		
306	1	34		356	1			406	7		
307	999			357	1			407	1		
308	1	10		358	1	2	8	408	1		
309	1			359	2			409	28		
310	3			360	1			410	11		
311	12			361	42			411	1		
312	18			362	2	1		412	1		
313	1			363	1			413	16	48	
314	1			364	2	1	17	414	1		
315	12	4		365	1	2		415	1		
316	1			366	1	10	4	416	1		
317	18	16	3	367	4	26	2	417	1		
318	1	8		368	7			418	2		
319	22	1		369	1			419	13	12	
320	3	13	6	370	2			420	1		
321	1	2		371	1	10		421	1	10	33
322	33			372	7			422	1	2	
323	3			373	12			423	1		
324	1			374	1			424	2		
325	1			375	2			425	2		
326	1	2		376	1	2		426	2		
327	1	2		377	6			427	1	2	10
328	2	1		378	2			428	51	2	1
329	4	34		379	1			429	1	19	
330	1	2	33	380	16			430	1	2	10
331	18	1		381	1			431	1		
332	1	10		382	1	2		432	1		
333	1			383	1			433	1		
334	1			384	1			434	1		
335	1	2	4	385	1			435	12		
336	52	1		386	3	32		436	1		
337	2	53	1	387	1	8		437	1		
338	2	1		388	2			438	1	76	8
339	1	2	8	389	1	4		439	1	10	2
340	2			390	1	33		440	1	28	23
341	1			391	1	4		441	2	4	28
342	4	1		392	1			442	68	44	69
343	2			393	1			443	1		
344	1			394	52			444	1	4	2
345	50			395	16			445	1	3	44
346	1			396	1			446	2	4	10
347	1	2	22	397	1	2		447	7	6	17
348	32	2	1	398	1	8		448	2	1	4
349	1	32	2	399	1	10	4	449	3	76	4
350	2	1	4	400	1	18	7	450	1		

#	Q38(1)	(2)	(3)	#	Q38(1)	(2)	(3)	#	Q38(1)	(2)	(3)
451	13	7	1	501	999			551	2	1	
452	10	13	3	502	1	2		552	1	2	
453	2	4	1	503	11	2		553	2		
454	55	4	66	504	2	11		554	1	4	
455	1	2	4	505	2	4		555	1	2	
456	1	2	4	506	1	2		556	13	3	4
457	22			507	1			557	2		
458	2	12	4	508	1			558	2	1	
459	1	2	4	509	2	1		559	1		
460	999			510	1	21		560	1		
461	2	16	33	511	1	7		561	1	4	
462	1	2	4	512	999			562	4		
463	12	4		513	11	20		563	11	2	
464	2	1	21	514	1	22	2	564	1	25	10
465	3	6	13	515	3	1		565	1	4	2
466	12	11		516	1	2		566	1	28	2
467	1	4	76	517	1	2		567	2		
468	7	1	29	518	21	1	34	568	1		
469	1	4	78	519	33	1	10	569	1		
470	10	4	1	520	2			570	1	4	10
471	1			521	1	3	2	571	6	8	
472	1	33	21	522	4	2	1	572	1		
473	1	4		523	3	4		573	66	2	
474	1	8		524	1	4	2	574	2	1	4
475	12			525	2	1	4	575	1	2	
476	1	2	4	526	1	4	2	576	1		
477	2	11		527	2	21	1	577	1		
478	1	7	10	528	7	1	4	578	1		
479	999			529	1	8		579	1	19	10
480	1			530	6	1		580	4		
481	1			531	13	3	7	581	2	4	
482	1			532	1	2		582	1		
483	1	33		533	1	2		583	2	1	
484	1			534	1	8		584	1	4	2
485	1	2	72	535	1	2		585	12	1	
486	1	2		536	2	1	4	586	1	2	4
487	12	11		537	1	2	4	587	1		
488	1			538	1	2	44	588	1	2	
489	1	7		539	7	2		589	1	2	
490	1	2		540	1	4		590	1	6	
491	6	8	4	541	1			591	2	10	3
492	12			542	1	2	4	592	2	4	
493	1			543	2	1		593	67	4	
494	1	50		544	1	6	4	594	2	1	
495	1			545	2	1		595	2	1	
496	1			546	1	2		596	1	2	
497	1			547	4	1		597	1		
498	1			548	7	3		598	1		
499	2	1		549	3	75		599	1	4	2
500	1	2		550	1	4		600	2	1	16

#	Q38(1)	(2)	(3)	#	Q38(1)	(2)	(3)	#	Q38(1)	(2)	(3)
601	1	2	54	651	1	2		701	7		
602	1	2		652	1	2		702	1		
603	1	2		653	1	2		703	2		
604	1	2		654	2	12		704	22		
605	2	1	4	655	1			705	1	7	
606	1			656	1			706	1	2	4
607	1			657	1			707	1	23	
608	7	1		658	1			708	2		
609	1			659	4	2		709	4		
610	73	49		660	1	2	4	710	12		
611	4			661	4	25	24	711	12		
612	1			662	11			712	4		
613	1			663	26			713	1		
614	6			664	1			714	3		
615	1	2		665	1	4		715	2		
616	1			666	1			716	1		
617	1			667	3			717	1	2	
618	1			668	21			718	1		
619	999			669	3	2		719	2	1	
620	1			670	1			720	1		
621	2			671	3			721	1	16	8
622	2			672	12	20		722	1	8	10
623	2			673	1	2		723	12	4	22
624	1			674	1			724	2		
625	2			675	8	1		725	2		
626	1			676	2			726	3	4	5
627	2			677	1			727	1		
628	7	1	54	678	1	4		728	7		
629	1			679	2	13		729	9		
630	2	1	4	680	2			730	1		
631	1	2	4	681	2	10		731	1		
632	1			682	1			732	1		
633	12	11		683	2	4		733	2		
634	2	1		684	1			734	1	3	
635	1	2		685	7	16		735	7		
636	32	2		686	1	2		736	7		
637	22	21		687	18	1		737	13		
638	1			688	1	2	10	738	2	4	14
639	6			689	4			739	6		
640	12	4		690	1			740	15	4	
641	1			691	1			741	1	2	
642	2			692	4	1	8	742	3		
643	12			693	7			743	2		
644	3			694	1			744	7		
645	10			695	1			745	1	3	18
646	2	1		696	1			746	1	2	
647	1			697	2			747	2	1	
648	1	8		698	1			748	3	2	4
649	2	1		699	2			749	2		
650	2			700	2			750	1		

#	Q38(1)	(2)	(3)	#	Q38(1)	(2)	(3)	#	Q38(1)	(2)	(3)
751	20			801	2	26		851	1		
752	6	25	2	802	10	3	1	852	2	1	
753	2	26		803	5	2		853	11	12	
754	41	74	4	804	1			854	1	2	
755	2	3	13	805	1	10	2	855	7	1	8
756	999			806	1	9	59	856	4	1	5
757	1			807	1	24	60	857	1		
758	2			808	6	61		858	1	10	
759	12			809	1			859	1		
760	3	2		810	1			860	2		
761	2	21	3	811	11	27		861	1		
762	2	28		812	31			862	2		
763	3	2	13	813	1	8		863	74		
764	2			814	1	2	4	864	34		
765	3	4		815	13	2	16	865	12		
766	13	3	4	816	1	8	4	866	4		
767	3			817	1			867	1		
768	2	1		818	11			868	1	2	4
769	2	1		819	3	2	4	869	1	2	4
770	2	1	4	820	3	13	6	870	1	29	
771	1	2		821	3	2	13	871	1	6	
772	2	1		822	3	13	2	872	1	2	
773	4	1		823	2	4		873	1		
774	1	2		824	1	2	4	874	1		
775	4	2	1	825	2	3		875	3		
776	2	1		826	1	2	4	876	4		
777	2	1	4	827	2	4		877	2		
778	2	1	4	828	3	2		878	3		
779	2	1	4	829	1	22		879	2		
780	1	2		830	2	16		880	1		
781	16			831	1	3		881	64	2	56
782	2	1		832	2	4		882	998		
783	998			833	13			883	33	4	42
784	12	4		834	4			884	16	4	42
785	1	2		835	2			885	2	11	65
786	2	4	1	836	2	1		886	1	10	21
787	1	2		837	2	1		887	33	11	2
788	2	4	1	838	1	8		888	11	2	4
789	1	4	2	839	1	40	10	889	66		
790	6	7		840	2			890	3		
791	1	8	57	841	7	1	19	891	68	4	
792	1	4	49	842	1			892	1	22	21
793	1			843	1	2		893	1	2	4
794	4	1		844	12			894	1	2	4
795	2	1	4	845	3			895	69	2	1
796	1	2	4	846	1			896	3	32	
797	2	12		847	1			897	4	49	70
798	4	12		848	1	2	3	898	3	2	
799	1	2	4	849	1	2		899	4		
800	2	4		850	2	1		900	54		

#	Q38(1)	(2)	(3)	#	Q38(1)	(2)	(3)	#	Q38(1)	(2)	(3)
901	3			951	1	7		1001	2	1	4
902	71	34	70	952	1	7	4	1002	2	3	
903	1	41		953	2	1		1003	5	11	
904	12			954	4	2	3	1004	1	2	10
905	2	3	4	955	2	1		1005	1		
906	16			956	2	1		1006	21	1	4
907	1			957	2	1					
908	2			958	2	19	1				
909	2			959	1	2	28				
910	4			960	2	1	6				
911	4			961	33	2	21				
912	3			962	1	44	4				
913	2			963	58	2					
914	63	2		964	2	1					
915	1			965	2	15					
916	3	4	21	966	1	17					
917	12			967	7	3	13				
918	1	2		968	1						
919	12			969	2	3					
920	21	3	28	970	1						
921	2			971	3	6					
922	2			972	1	4	2				
923	4			973	1						
924	2			974	12	4					
925	2	1		975	3						
926	17	3		976	1						
927	1	4	27	977	4	10	11				
928	1	7		978	2						
929	1	11		979	1						
930	7	6	4	980	1						
931	54	2	33	981	1						
932	3	7		982	2						
933	2	4	3	983	1						
934	11	2		984	1						
935	3			985	1						
936	2	1		986	7						
937	2			987	1						
938	2	3	28	988	1						
939	2	1	4	989	1	4	17				
940	3	2	13	990	7						
941	2	13	3	991	1						
942	1	6	4	992	7	10					
943	2	1	8	993	1	2	19				
944	2	3		994	11	12	21				
945	1	7	62	995	1	10					
946	7	1	10	996	1						
947	3	2	4	997	1						
948	7	3	13	998	1						
949	10	1	4	999	7						
950	4	1	28	1000	1	7					

問39abのサンプル番号(#)とカテゴリ番号の対照表

#	Q39a(1)	(2)	(3)	Q39b(1)	(2)	(3)	#	Q39a(1)	(2)	(3)	Q39b(1)	(2)	(3)
1	13	19	28	13			51	5	28	19	90		
2	1			56			52	11	36	58	1		
3	5			5			53	998			1	13	
4	1			23			54	998			998		
5	998			998			55	998			5		
6	13	1		1			56	80			217		
7	29			13	1		57	998			999		
8	998			35	30	5	58	13			1		
9	999			84			59	152	129		152	34	
10	999			998			60	4			999		
11	87	21	1	87	89	90	61	80			13		
12	12			21			62	42			117		
13	998			52			63	6			5		
14	1			1			64	999			5		
15	1			1			65	998			5		
16	998			1			66	13			1	17	
17	75	94		95			67	1			17		
18	80			38			68	5			155		
19	80			998			69	12			13		
20	1	29		97	1		70	13			5		
21	101	102		1			71	13			11		
22	101			1	100		72	157			157		
23	31	103	80	105	18	8	73	999			5		
24	75			6	18	12	74	999			1		
25	13			77			75	999			100		
26	6	61		107	108		76	998			144		
27	13			1	52		77	135			135		
28	13	31		30			78	145			145		
29	105			110	59		79	80			124		
30	13	38		95	11		80	107	147		5		
31	1			1			81	11			87		
32	998			998			82	999			149		
33	1			998			83	90			150		
34	13	29		998			84	13			1		
35	6	13		6	13		85	999			217		
36	101	32		113	11		86	151			999		
37	6	114	115	90			87	999			1		
38	13	117	19	117	6	36	88	38			32		
39	118			17			89	999			1	17	
40	17	101	31	17	19		90	5			140		
41	55			119			91	17	1		55		
42	120			120			92	999			17		
43	1			999			93	999			5		
44	1			121			94	998			1		
45	88			6			95	29			17		
46	18			118			96	13			1		
47	44			106			97	999			190		
48	5			38			98	90			21		
49	1			5			99	13	29	1	36	13	1
50	1			1			100	13			5		

#	Q39a(1)	(2)	(3)	Q39b(1)	(2)	(3)	#	Q39a(1)	(2)	(3)	Q39b(1)	(2)	(3)
101	13			999			151	13			1		
102	999			999			152	1			13		
103	17			1	80		153	5	6		5	6	
104	999			11			154	999			5		
105	101			101			155	100	11		1		
106	13			73			156	1			32		
107	999			161			157	20	101		101	66	
108	1			1			158	5			134		
109	999			999			159	999			999		
110	29			29			160	13			13		
111	999			80			161	1	68		100	17	
112	1			1			162	11	168		11	168	
113	999			17			163	1			1		
114	999			217			164	13			11		
115	20			36	12	90	165	29	61	123	16	22	
116	80			1			166	999			999		
117	999			999			167	999			68		
118	13	1		13	1		168	999			170		
119	35	1	105	35			169	171			68		
120	5			76			170	90			90		
121	1			1			171	998			998		
122	29			165			172	998			999		
123	88			999			173	13			13		
124	998			80			174	34			172		
125	5			5			175	13			13		
126	999			999			176	13			1		
127	1			1			177	88			88		
128	999			999			178	17			998		
129	999			999			179	5			217	158	
130	999			17			180	17			159		
131	11			11	17	5	181	114			114		
132	153	20		153	20		182	998			19		
133	999			999			183	998			104		
134	38			114			184	1			998		
135	17			5			185	999			30		
136	998			154	106		186	75			5		
137	115			30			187	1			1		
138	12			156			188	18	100	13	35	21	
139	999			6			189	13	1	117	134	160	
140	52			52			190	31			1	32	66
141	80			80			191	999			999		
142	1			45	1		192	80			80	12	
143	1			5			193	163	162		12	11	5
144	22			22			194	139			164		
145	999			38			195	88			28		
146	12			117			196	11			999		
147	1			1	100		197	66	1		66		
148	999			132			198	129			12		
149	12			12			199	31	92		30		
150	66			66			200	5			19		

#	Q39a(1)	(2)	(3)	Q39b(1)	(2)	(3)	#	Q39a(1)	(2)	(3)	Q39b(1)	(2)	(3)
201	13			999			251	13			998		
202	998			141			252	13			999		
203	142			80			253	998			6		
204	17			139			254	998			998		
205	999			999			255	88			5		
206	1	32	5	5			256	999			22		
207	88			999			257	999			999		
208	11	88		11	5		258	5			999		
209	75	94	1	75			259	999			17	13	
210	998			5			260	999			19		
211	1			11	5		261	999			20		
212	999			999			262	999			999		
213	129	140		110			263	80			34	167	
214	20	101	66	20	101	66	264	22	13		38		
215	101	32	66	114	146	19	265	999			999		
216	20	101		1	6		266	28	19		5		
217	13			148			267	76			169		
218	6	13		148			268	998			999		
219	6			6			269	9			1		
220	13			5			270	998			1		
221	998			998			271	11			166		
222	115			123			272	5			999		
223	12			1			273	13			5		
224	999			998			274	1			1		
225	998			1			275	173			217		
226	11	13		11	13		276	52			52		
227	11			1			277	999			1		
228	998			5			278	13	1		17		
229	66			174			279	140			140		
230	11			175			280	5			141		
231	22			95			281	999			80		
232	1	13	29	1	13		282	5			5		
233	12			38			283	86			35		
234	29			23			284	5			5		
235	13			13			285	999			5		
236	177			177			286	17			17		
237	11			11			287	999			999		
238	999			178			288	38			38		
239	998			35			289	17			17		
240	998			999			290	1			1		
241	28	19		28	19		291	999			114		
242	999			999			292	143			13		
243	999			5			293	31			95		
244	19	28		19	28		294	999			999		
245	114			114			295	999			999		
246	999			999			296	999			999		
247	999			176			297	80			999		
248	90			90			298	999			999		
249	1			1			299	30			30		
250	1			6			300	1	90		90		

#	Q39a(1)	(2)	(3)	Q39b(1)	(2)	(3)	#	Q39a(1)	(2)	(3)	Q39b(1)	(2)	(3)
301	999			5			351	1			21	82	
302	61			5			352	1			8		
303	998			131			353	29			55		
304	999			999			354	29	75		29		
305	999			132			355	29			83		
306	999			133			356	12			32		
307	999			999			357	13			86		
308	999			90	136	95	358	11	12	88	11		
309	1			73			359	13			91		
310	103			115			360	999			50		
311	137			137			361	12			12		
312	1	138		138			362	92			93		
313	998			86			363	1			58		
314	999			131			364	13			1		
315	1	80		999			365	17	1		1		
316	999			999			366	90			90		
317	999			999			367	5			96		
318	1			999			368	61			100		
319	999			999			369	999			999		
320	1	13	52	13	52		370	999			999		
321	1			12			371	999			1		
322	30			30			372	999			999		
323	998			999			373	13	1		999		
324	998			998			374	998			999		
325	998			998			375	999			999		
326	1			5			376	998			13		
327	998			12			377	66			66		
328	17			999			378	999			999		
329	90			90			379	999			104		
330	1			17			380	999			999		
331	999			126			381	13			1		
332	998			1			382	13			18		
333	998			43			383	1			1		
334	32			32			384	1			999		
335	1			17			385	55			55		
336	129			129			386	999			999		
337	11	130		11			387	36	1	32	73	67	36
338	12			12			388	106			5		
339	12			13			389	19	28		90		
340	999			22			390	999			999		
341	999			999			391	61			109		
342	999			17			392	999			999		
343	998			30			393	999			86		
344	12			999			394	17			61		
345	5			5			395	93			999		
346	30			5			396	999			999		
347	13	66	32	134	12	135	397	999			111		
348	5	6	13	76	1	13	398	13	1		90	36	
349	998			139			399	999			1	6	
350	66	5	101	18	66	29	400	999			999		

#	Q39a(1)	(2)	(3)	Q39b(1)	(2)	(3)	#	Q39a(1)	(2)	(3)	Q39b(1)	(2)	(3)
401	39			52			451	5			40		
402	1			5			452	17	11	105	105	11	17
403	19	28		19	28		453	5	17		5		
404	1	19	28	19	28		454	76	244		245		
405	998			116			455	17	246	13	17	5	
406	998			998			456	17			17		
407	1			1			457	999			999		
408	998			30			458	104	6	13	104	6	248
409	13			13			459	5			10		
410	999			114			460	999			999		
411	12			12			461	17	5	30	5		
412	80			12	80		462	80	11	213	13		
413	17			20			463	13			998		
414	13			13			464	1			27	1	
415	13			6			465	1	13	39	1	42	
416	13			5			466	1			1		
417	5			5			467	30	13		30	117	
418	122			999			468	1			18		
419	123			5			469	6			61	6	
420	17			32			470	1	75	251	104		
421	124			125			471	29			202		
422	12	1		6			472	11	35		998		
423	999			999			473	1	11		17	58	
424	127			127			474	998			998		
425	128			128			475	13	6	21	21	13	
426	998			998			476	1	249		249		
427	32			1			477	1			1		
428	80			5			478	999			999		
429	9			999			479	999			999		
430	999			999			480	17			17		
431	11			6			481	11			1		
432	141			19			482	999			999		
433	239			5			483	1			21		
434	239			28			484	195			195		
435	75			1			485	13	1		1		
436	28	13		1			486	28			28		
437	239			11			487	13	6		5	57	
438	5			5			488	13			13		
439	228	6	13	228	13	6	489	35			1		
440	240			240			490	13			6		
441	13			999			491	35	1	92	221	5	
442	66			66			492	17			17		
443	999			999			493	90			90		
444	30			30			494	998			222		
445	13			999			495	88			100		
446	32	17	11	32	11	17	496	1			100		
447	17			104			497	998			66		
448	998			243			498	90			90		
449	13			13			499	80	130		6		
450	19			19			500	1	13		1		

#	Q39a(1)	(2)	(3)	Q39b(1)	(2)	(3)	#	Q39a(1)	(2)	(3)	Q39b(1)	(2)	(3)
501	999			202			551	17			17		
502	163			195			552	17			17		
503	999			36	73		553	80			80		
504	999			1			554	17			186		
505	17			17			555	187			999		
506	13	117	1	217			556	999			125		
507	1			136			557	125			39		
508	999			999			558	999			999		
509	13			1			559	1	39		39		
510	17	117		138			560	13			139		
511	999			5			561	17			17		
512	999			999			562	159	13		188		
513	13	1		42			563	999			999		
514	80			80			564	31	20		189		
515	28			1			565	999			999		
516	999			999			566	999			12		
517	203			999			567	13			5		
518	1	88		1			568	1			1		
519	19	17		5			569	13			6		
520	12			12			570	17			17		
521	1			1			571	190	180		190		
522	999			999			572	35			191		
523	1			1			573	80			80		
524	999			999			574	1	31		1		
525	999			999			575	13			8		
526	31			999			576	1			1		
527	999			999			577	1			52		
528	999			32			578	1			136		
529	164	43		43			579	999			192	117	
530	999			1			580	17			161		
531	999			1	66		581	999			999		
532	5			999			582	1			193		
533	32	1		32			583	1	17	13	17	13	
534	13			19	28		584	73	31	32	136	32	
535	197			198			585	8			194		
536	999			199			586	13	1	101	136	13	101
537	1	21		1			587	999			999		
538	28	19	201	19	201	20	588	6	13		13		
539	999			202			589	999			999		
540	17	5		5			590	1			17		
541	17			17			591	13			17		
542	5	180	1	1			592	1	17		1	13	
543	999			999			593	117	195		195		
544	117	1		1			594	999			999		
545	1	17		1			595	1	17		17	1	
546	1			1			596	1	17		1	17	
547	13			13	1		597	1			13		
548	11			1			598	1			1		
549	999			999			599	999			196		
550	1	17		1			600	999			999		

#	Q39a(1)	(2)	(3)	Q39b(1)	(2)	(3)	#	Q39a(1)	(2)	(3)	Q39b(1)	(2)	(3)
601	21	13	19	17			651	12			12		
602	1			133			652	998			1		
603	1			999			653	44			44		
604	1	13		179			654	998			998		
605	31			13			655	1			1		
606	11			11			656	2			3		
607	145			1			657	4			4		
608	80	130		180			658	998			5		
609	5			998			659	998			6		
610	80			5			660	998			7	8	
611	998			5			661	9			10		
612	17			17			662	11			1		
613	17			17			663	12			12		
614	999			999			664	1			1		
615	101			1			665	13			14		
616	999			5			666	15			16		
617	32			32	181		667	6			17		
618	1	19		11			668	18			18		
619	999			999			669	17			55		
620	11			11			670	30			30		
621	999			999			671	999			999		
622	999			17			672	61			5		
623	1			66			673	75			73		
624	1			182			674	1			17		
625	999			999			675	998			36		
626	139			139			676	1			77	78	
627	75			75			677	1			1		
628	104	183		177			678	67			16		
629	999			999			679	998			1		
630	13	1		185			680	79			999		
631	1	13	6	6			681	998			19		
632	999			159	9		682	13			20		
633	5	1		1	34		683	11			11		
634	999			20			684	17			17		
635	183	133		139			685	23			26		
636	28			19			686	999			999		
637	998			17	80		687	29			29		
638	1			114			688	20			20		
639	25			25			689	17			17		
640	28	19		5			690	13			5		
641	15			33			691	17			17		
642	34			34			692	999			999		
643	1			35			693	999			37		
644	999			999			694	40			9		
645	999			38			695	12			42		
646	25			7			696	1			43		
647	17			17			697	1			998		
648	22			5			698	13			1		
649	5			5			699	998			46		
650	1			5			700	999			1		

#	Q39a(1)	(2)	(3)	Q39b(1)	(2)	(3)	#	Q39a(1)	(2)	(3)	Q39b(1)	(2)	(3)
701	49			4			751	81			16		
702	999			39			752	13			20		
703	1			51			753	20	13	75	998		
704	1			1			754	13			80		
705	52			52			755	999			5		
706	30			998			756	998			999		
707	17			57			757	20			998		
708	998			13			758	20			998		
709	28			32			759	998			998		
710	998			20			760	28			998		
711	999			20			761	999			999		
712	13			1			762	9			998		
713	67			67			763	11			207	1	
714	36			36			764	998			30		
715	9			999			765	13			20		
716	998			1			766	20			20		
717	998			50			767	32	17		20		
718	1			998			768	17			20		
719	13			998			769	17			17		
720	999			72			770	20			20		
721	4			4			771	17			139		
722	998			74			772	80			999		
723	17	1	76	999			773	20			20		
724	17			17			774	1			55		
725	999			20			775	104	17		20		
726	999			5			776	17			20		
727	1			6			777	17	208		115		
728	999			30			778	17	13	28	36		
729	998			50			779	29	17	13	20		
730	999			999			780	11			17		
731	1			24			781	20			999		
732	11			11			782	999			999		
733	18			53			783	998			998		
734	998			998			784	1			5		
735	61			4			785	999			999		
736	62			62			786	999			20		
737	7			65			787	1			1		
738	1	70		1			788	999			20		
739	13	1		71			789	149			149		
740	1			20			790	999			999		
741	20			20			791	149			149		
742	17			59			792	80			211		
743	9			17			793	998			212		
744	17			999			794	17			17		
745	29	1	22	1			795	17	1		55		
746	20			20			796	30	13	28	999		
747	17			20			797	28	13		36		
748	17			20			798	1	17		5		
749	17			80			799	17	104		30		
750	999			20			800	1			999		

#	Q39a(1)	(2)	(3)	Q39b(1)	(2)	(3)	#	Q39a(1)	(2)	(3)	Q39b(1)	(2)	(3)
801	998			998			851	1			1		
802	213			52			852	998			998		
803	214	13		214			853	1	13		104		
804	32			32			854	223			999		
805	999			5			855	13	17		17		
806	209			216	217		856	17			32		
807	139			164			857	28			5		
808	19	215		214	32		858	224	1		1		
809	88			999			859	1			25		
810	5			5			860	999			999		
811	998			17			861	998			998		
812	998			998			862	999			20		
813	17	13		17	229		863	999			999		
814	28	80		232	233		864	32			19		
815	80	101		235			865	80			114		
816	1			1			866	998			20		
817	999			999			867	13			5		
818	999			17			868	13			61		
819	998			107			869	1	20	13	137	1	36
820	998			998			870	1			202		
821	1			1			871	999			115		
822	17			999			872	1			1		
823	998			42			873	1			68		
824	13	6	1	13	6	1	874	999			999		
825	999			999			875	72			100		
826	80	237	13	237			876	13			1		
827	88			998			877	55			91		
828	998			998			878	17			998		
829	80			12			879	998			20		
830	13	1		13			880	1			1		
831	13			5			881	123	76		76	30	
832	80			80			882	998			998		
833	20			20			883	20	17		20	68	
834	204			205			884	5			228		
835	998			5			885	163			223		
836	998			999			886	68			68		
837	20			30			887	8			76		
838	13			39			888	80			5		
839	30			206			889	999			224		
840	21	6	104	21	5	105	890	20			201		
841	11	5	105	11	5	38	891	20			12		
842	999			1			892	214	1	13	6	1	36
843	998			998			893	1	13		32	1	
844	29			999			894	218	80		1		
845	998			5			895	214	1		5		
846	11			1			896	17	13	42	42	17	13
847	11			1			897	130	13		11		
848	20			30	131		898	13			999		
849	5			999			899	13			1		
850	999			999			900	1			1		

#	Q39a(1)	(2)	(3)	Q39b(1)	(2)	(3)	#	Q39a(1)	(2)	(3)	Q39b(1)	(2)	(3)
901	17			5			951	13	6		1		
902	20			998			952	13	11	6	45		
903	101	1		20			953	61			61		
904	17			139			954	998			1		
905	30			17	173		955	230			231		
906	999			79			956	1			217		
907	13			13			957	1	11		11		
908	17			20			958	998			999		
909	13			17			959	999			999		
910	5			20			960	58			61		
911	5			225			961	999			998		
912	999			999			962	228	80	31	194	234	11
913	17			76			963	999			55		
914	17	38		1			964	13			13		
915	80	29		227			965	999			1		
916	13	29		80			966	998			998		
917	999			998			967	1			1		
918	1	29		1			968	999			5		
919	17			20			969	999			21		
920	999			998			970	999			17		
921	29			20			971	20			20		
922	1			1			972	6	13		22	13	
923	5			20			973	24			24		
924	61			21			974	999			999		
925	13			1			975	999			5		
926	17			999			976	999			1		
927	13	10	5	5			977	999			27		
928	999			1			978	999			30		
929	5			999			979	31			32		
930	1			1			980	1			1		
931	12	209		86			981	29			1		
932	1	210		210	13	1	982	13			5		
933	13	28	1	1			983	13			36		
934	1	17		5			984	11			1		
935	66			105			985	39			39		
936	75			19	130		986	12			12		
937	1			38			987	998			217		
938	17	36		1			988	17			998		
939	999			13			989	5			5		
940	13			1	13	6	990	45			45		
941	1			1			991	12			47		
942	76	12		76			992	55			56		
943	1			5			993	58			59		
944	999			36			994	11			60		
945	998			1			995	999			11		
946	11	5		5			996	32			63		
947	13	1	117	13			997	999			64		
948	117	6	13	117			998	998			13		
949	5	13	185	5			999	999			21		
950	6	13	1	998			1000	66	13	31	68	69	66

#	Q39a(1)	(2)	(3)	Q39b(1)	(2)	(3)
1001	17			17		
1002	17			1		
1003	236			5		
1004	999			999		
1005	998			998		
1006	213			213		

自由回答データの個別回答

問 30 日本文化と聞いて、まず思い浮かべることは何ですか。(自由回答)

(サンプル No.、回答)

1 Don't know	42 Very competitive society
2 Don't know	43 Multi-racial country
3 Respect for elders	44 No culture of its own
4 Artist	45 Don't lose out to others
5 No culture	46 Singaporeans want to be No.1 in everything
6 Don't know	47 Competition among education, need qualification
7 Kiasu	48 Boastful
8 Don't know	49 Multi-racial society
9 Racial harmony	50 People like to buy 4D
10 Racial harmony	51 Competitive society
11 Race culture	52 Education not enough to survive
12 Money - no money no talk	53 Stressful society
13 Clean & green	54 Self-centred
14 Singlish	55 Greedy society
15 Own Chinese culture	56 People are straight forward and realistic
16 4 different races live harmony	57 Singapore has no identity
17 Don't know	58 Think of themselves first
18 Eat	59 Don't know
19 Don't know	60 Kiasu , cheap grabbers
20 Harmony	62 Kiasu
21 Multi-racial nation	63 Contained (listen to government)
22 Think of multi national races	64 Money country
23 Respected culture. (gives a lot of respect - combined culture)	65 Multi-racial and food paradise
24 Multi-racial	66 Kiasu
25 Unity	67 Multi-lingualism society
26 Harmony	68 Don't know
27 Multi-racial	69 Loving and caring
28 Multinational country	70 Bilingualism
29 Multi-races	71 No culture
30 Unity	72 Merlion
31 Multinational nation	73 Nothing that distinguishes a Singaporean culture
32 Lack of originality. Adapt life from other temperate countries	74 Don't know
33 Respectful country (Spore recognise others cultures as well)	75 Multi-races
34 Multi-racial and friendly	76 Different races living together
35 Modern Country, westernised culture	77 Many different races
36 Family oriented society	78 Food
37 Multi-racial	79 Multi-races
38 Competitive environment	80 Multi-racial nation
39 Singaporeans only care about their goals	81 Combination of different races
40 Singaporeans are hardworking	82 Mixture of races
41 Multi-racial harmony society	83 Multi-racial nation

84 Multi-racial nation	132 Kiasu
85 Don't know	133 Helpful people
86 Don't know	134 Don't know
87 Don't know	135 Lost the accent of culture
88 Don't know	136 Don't know
89 Don't know	137 Kiasu
90 Kiasu	138 Only take care of themselves
91 Selfishness	139 Job discrimination
92 Disciplined people	140 S'porean are friendly
93 Don't know	141 Neat and clean - S'porean very helpful with other race
95 Don't know	142 All S'porean work very hard
96 Kiasuism	143 The fashion + costume very up to date
97 Don't know	144 Kiasu
98 Don't know	145 Mostly Singaporean are helpful and kind people
99 Justice	146 Materialistic
100 Kiasuism	147 Kiasu, bad nature
101 Racial harmony	148 Don't know
102 Imitating the eastern	149 Kiasu
103 Don't know	150 Don't know
104 Not willing or prepared to work hard compared to foreigner worker	151 Exhibitions
105 Money face	152 No culture
106 Singaporean are quite kind	153 Don't know
107 Helpful people	154 Harmony among all races
108 Don't know	155 Diversity
109 Working very hard	156 Kiasu
110 People here are materialistic	157 Kiasu
111 Know a bit of everything	158 Think of nothing
112 Materialistic	159 Kiasu and people with poor knowledge
113 Many not married	160 Co-operative people
114 Generally are nice people	161 Singaporean are good people
115 Kiasu	162 Selfish
116 The children nowadays very different from my time	163 Kiasu
117 Don't know	164 Materialistic
119 Materialistic	165 Selfish
120 Hardworking people to earn living	166 S'porean people are good
121 Helpful people here	167 Kiasu
122 Get well with other races living together	168 The S'porean very clean
123 Kiasu	169 Selfish - only care for themselves
124 Kiasu, selfish	170 Materialistic
125 S'porean still following some traditional belief or activities in their culture	171 No comment
126 Too materialistic	172 People are comfortable
127 Is a way multi racial society	173 Kiasu
128 Don't know	174 Caring People
129 All follow others, not creative	175 S'porean are generous
130 No much culture here compare to Japan, the history here is still rather new	176 Helpful people
131 Multi-racial living together, don't see in other country	177 Don't know

178 Selfish and materialistic	229 Don't know
179 Materialistic	230 Unity and harmony
180 Worrying people	231 Family oriented
181 Kiasu	232 Tolerance
182 Kiasu	233 Friendly
183 Generous	234 Don't know
184 Helpful people	235 Hardworking
185 Helpful people	236 Kiasu
186 Generous people	237 Don't know
187 Kiasu & materialistic	238 Lack of vibrant
188 Kiasu	239 Racial harmony
189 Materialistic & self centre	240 Unique
190 Selfish	241 Don't know
191 Materialistic	242 Multi-racial
192 Everyday work never think of much other	243 Singlish
193 S'porean are hard working	244 Fair and just
194 S'porean are very good and respect people	245 Live for yourself
195 Kiasu Singaporeans	246 Ambitious/workaholic
196 Kiasu Singaporeans	247 Makan/Shopping
197 Lacks tradition	248 Food palace
198 Quite peaceful	249 Multi-cultural
199 Kiasu Singaporeans	250 Kiasu
200 Don't know	251 Singlish/Kiasu
201 Stamford Raffles	252 Safe place to live
202 Don't know	253 Workaholic
203 Don't know	254 Don't know
204 National day	255 Live peace & harmony
205 Don't know	256 Kiasu, self centred
206 Don't know	257 Multi-racial/Singlish
207 S'pore living standard	258 Taking lots of foreign workers
208 Don't know	259 Kiasu
209 Don't know	260 Singaporeans very advanced in technology
210 Respect elderly	261 Multi-racial
211 Pragmatic	262 Pot-pourri
212 Don't know	263 Don't know
213 Individually	264 Don't know
214 Don't know	265 Easily influence
215 Racial harmony	266 No money no talk
216 Don't know	267 Generosity
217 Reunion dinner	268 Helpful & generous
218 Don't know	269 Law abiding
219 Religion	270 Materialistic
220 Ok everybody preserve their own culture	271 Kiasu & materialistic
221 Don't know	272 Western culture inclination
222 Chinese New Year	273 Kiasu & materialistic
223 Money fate	274 Cosmopolitan & integrated
224 Don't know	275 Never think about it
225 Kiasuism	276 Don't know
226 Don't know	277 Friendly & multi-racial
227 Chinese New Year	278 Very lucky
228 Chinese - respect - one another	279 Merlion, Lee Kuan Yew

280 Togetherness	329 Kiasu
281 Don't know	330 Arrogance & selfish
282 Don't know	331 Generous
283 Don't know	332 Kiasu
284 Food	333 Kiasu
285 Afraid to die	334 Pragmatic
286 Meritocracy	335 Kiasu
287 Kiasu / Kiasi	336 Kiasu
288 Must work hard	337 Conservative
289 Kiasu	338 Multi-racial
290 Hardworking/Nothing is free	339 Racial harmony
291 Hardworking	340 Kiasu, competitive, materialistic
292 Hardworking, kiasu	341 Don't know
293 Don't know	342 Don't know
294 Modern/Kiasu	343 Don't know
295 Based on merit	344 Hardworking
296 Don't know	345 No culture, multiracial. Singaporeans are proud in the negative way
297 Multi-racial	346 Selfishness
298 Kiasu	347 Kiasuism
299 Don't know	348 Multi-racial
300 Friendly & hardworking	349 Rushing
301 Don't know	350 Multi-culture
302 Mixed racial	351 Don't know
303 History	352 Smart
304 Don't know	353 Don't know
305 Don't know	354 Unique
306 Different religion	355 Don't know
307 Don't know	356 Don't know
308 Kiasu	357 Interesting
309 Filial to parent	358 Losing culture
310 Technology advance	359 Don't know
311 Don't know	360 Don't know
312 English speak society	361 Kiasu
313 Cosmopolitan	362 Don't know
314 Don't know	363 Don't know
315 Multi-racial	364 Kiasu
316 Kiasuism	365 Good
317 Rojak	366 Don't know
318 Combination-mixed	367 No culture, lost somehow
319 Don't know	368 Clean
320 Don't know	369 Don't know
321 Don't know	370 Mixed
322 Chinese New Year	371 Competition
323 Helpful	372 Mixing around
324 Generous, helpful people	373 Different races united together but very kiasu
325 Kiasuism	374 Racial harmony
326 Kiasu	375 Multi-races living together
327 Too robotic and don't enjoy lives	376 Different races living together
328 Kiasu	377 Don't know

378 Food	430 Very realistic
379 Multi-races living together	431 Street performances
380 Racial harmony	432 Don't know
381 Racial harmony	433 Don't know
382 Racial harmony	434 Kiasu Singaporeans
383 Equality	435 No culture
384 Harmony	436 Religion and civic-minded
385 Government	437 Kiasu
387 No culture	438 Unity and different races
388 Kiasu	438 Unity and different races
389 No culture	439 Sentosa
390 No culture	440 "Rojak" culture
391 Multi-racial	441 Religion
392 Don't know	442 Food
393 No culture	443 Kiasuism
394 Technology	444 Not fun enough, lacking in vibrancy
395 Don't know	445 Don't know
396 Study	446 Kiasu
397 Ancestors	447 Don't know
398 Don't know	448 Don't know
399 Religion	449 Never think about it
400 Don't know	450 Efficiency
401 Don't know	451 Does not see that there is culture here in singapore
402 Don't know	452 Don't know
403 Confusion thinking	453 Don't know
404 Multi-racial	454 Don't know
405 Kiasu. Youngster lost moral, family values	455 Materialism
406 Don't know	456 Interesting
407 Don't know	457 Harmony
408 Passionate about others (not selfish)	458 Very proud of Singaporean culture
409 Variety of food	459 No comment
410 Not strong - doesn't have any strong culture	460 Mix, Diverse
411 Kiasu	461 Unique
412 Kiasu	462 Non-existent
413 Don't know	463 Kiasu
414 Mixed races	464 Singlish
415 Combine people of all races	465 Uptight, fearful, too much government control, people are compassionate
416 The multi racial society	466 Multi-racial country
417 Multi-culture country	467 Fearful of government
418 Multi-culture society	468 Multi-racial
419 Don't know	469 Competitiveness
420 Multi-religious culture	470 Don't know
421 Very conservative	471 Multi-culture country with positive thinking
422 Kiasu	472 Don't know
423 Conservative in thoughts	473 Don't know
424 Don't know	474 Work hard to earn a living
425 Pathetic	475 Don't know
426 Don't know	476 Don't know
427 Vaned traditional practice	477 Don't know
428 Food - variety	478 Don't know
429 Don't really have a culture	479 Don't know

480 Kiasu attitude	528 Friendly
481 Don't know	529 Don't know
482 Don't know	530 Face keeping, difficulty in communication with elders
483 Don't know	531 Too westernised
484 Don't know	532 Don't know
485 Don't know	533 Don't know
486 Don't know	534 Don't know
487 Don't know	535 Don't know
488 Kiasu attitude	536 Don't know
489 Don't know	537 Don't know
490 Don't know	538 Don't know
491 Don't know	539 Don't know
492 Don't know	540 Don't know
493 Don't know	541 Don't know
494 Don't know	542 Don't know
495 Don't know	543 Don't know
496 Don't know	544 Don't know
497 World class country, alot of culture mixed	545 Diverse culture
498 Earn money is the most important thing to Singaporean	546 Don't know
499 Don't know	547 Don't know
500 Materialistic	548 Don't know
501 Don't know	549 Don't know
502 Selfish	550 Don't know
503 Money	551 Kiasu
504 Self-centredness	552 Don't know
505 Must try culture	553 Kiasu , impatient
506 Currently no homogenous culture (one) for S'pore	554 Kiasu
507 Caring Nature	555 Don't know
508 Asian values	556 Clean
509 Kiasu	557 Multi-racial
510 Kiasu	558 Don't know
511 Selfish	559 Don't know
512 Singapore nice people	560 Don't know
513 Kiasu	561 Don't know
514 Kiasu	562 Don't know
515 Peace	563 Don't know
516 Don't know	564 Can't think of
517 Selfish	565 Don't know
518 Messy	566 Singaporean likes to eat
519 Very helpful and approachable	567 Don't know
520 Individualistic, busy chasing success in terms of wealth & possession	568 More money - Singaporean always work day and night
521 Don't know	569 Don't know
522 Don't know	570 Don't know
523 Multi-racial	571 Different race living together in harmony
524 None	572 Realistic
525 Don't know	573 Multi-racial
526 Don't know	574 Competitive
527 Don't know	575 Competitive

576 Kiasu	634 Multi-racial
577 Safety, happy & helpful, respectful	635 Don't know
578 Kiasu	636 Selfish
579 Kiasu	637 Too westernised
580 Scared	638 United
581 Follow the rules	639 Deteriorating as it is more prone to Western culture (eg: way of dressing)
582 Kiasu	640 "Yes man" attitude
583 Multi-ethnic society, east west culture	641 Interesting because we are multi-racial
584 Kiasu	642 Don't know
585 Kiasu, helpful	644 Don't know
586 Not very friendly	645 Multi-racial, living in peace and harmony
587 Kiasu	646 Unity of races and religion
588 Poor people more kiasu	647 Learn to value each other's culture/religion
589 Wealthy	648 Mainly talk about food, have a multi-cultural society
590 Kiasu	649 Don't know
591 Kiasu	650 We have mixed traditional believe and yet S'poreans accept & respect each other
592 Kiasu, stressful	651 Respect each individual religious background
593 Normal	652 We learn the multi-racial society or crime free society
594 Kiasu, Helpful towards foreigners	653 Multi-racial society and able to learn and respect of every s'porean belief
608 Materialistic	654 We are able to accept the multi racial living - food.
609 Not much human feeling	655 We develop close understanding between the races.
610 Kiasu	656 Multi-racial harmony - customs + religion
611 Self-centred	657 Kiasu, helpful, harmony, discipline
612 Kiasu	658 Courtesy
613 Safe	659 Generous
614 Materialistic & lack passion	660 Ok
615 Strict / obedient	661 Kiasu, hardworking
616 Follow the leader (conforming)	662 Kiasu, 5k
617 Kiasu	663 Multi-racial
618 Nothing unique	664 Very good, friendly, discipline
619 Kiasu / Kiasi	665 Friendly
620 Open minded	666 Kind
621 Bilingual, multi-racial	667 Generous
622 Kiasu / Well-mannered	668 Multi-racial and harmony
623 Many different and interesting festivals	669 Not challenging, peaceful
624 Multi-racial	670 Safe
625 Multi-cultural	671 Don't know
626 Don't know	672 No culture
627 Work & stress	673 Don't know
628 Very materialistic	674 Don't know
629 Mixture of culture in Singapore is healthy	675 Don't know
630 Money	676 Different race
631 Don't know	677 Different types of food
632 Money	678 Don't know
633 Neither too traditional nor too advance	679 Don't know

680 Kiasu	728 Western infuse culture
681 Don't know	729 Behaviour, kiasu
682 Don't know	730 Motivated people
683 Don't know	731 Great sense of respect for elders
684 Don't know	732 Many races united together
685 Don't know	734 Don't know
686 Hawker food	735 Don't know
687 Don't know	736 Kiasuism
688 Don't know	737 Not up to the standard of having S'pore culture, A mixture of diff races culture
689 Don't know	738 Don't know
690 Multi-racial	739 Kiasu
691 Don't know	740 Are more self-individual - more self centred
692 Food (hawker food)	741 Peaceful people
693 Don't know	742 Multi national
694 Don't know	743 Extreme racist
695 Don't know	744 Don't know
696 Don't know	745 Multi-racial
697 Multi-racial	746 Mixture of culture
698 Courteous	747 Don't know
699 Don't know	748 Unique
700 Kiasu behaviour	749 Very good, freedom
701 Kiasu behaviour	750 Clean
702 Comfort	751 Only think of oneself
703 Selfish people	752 Economical , effective workforce
704 Not very cultural, modern teaching but traditional mindset	753 Don't know
705 Don't know	754 Don't know
706 Kiasu behaviour	755 Don't know
707 Don't know	756 Political stability
708 Traditional culture	757 Don't know
709 Don't know	758 Kiasu
710 Multi-racial	759 Don't know
711 Multi-racial	760 Trying to act westernese
712 Multi-racial	761 Kiasu
713 Kiasu behaviour	762 Discipline
714 People not frank enough	763 Proud
715 Food heaven	764 Selfishness
716 Don't know	765 Unique
717 Don't know	766 Kiasu , late for appointments
718 Multi-racial	767 Self protective
719 Unpredictable nature	768 No good , not healthy
720 Take perspective from older people	769 Lucky people
721 Multi-racial	770 The richness of one ulti racial society like food customs and festival
722 Kiasu behaviour	771 Multi-racial
723 Friendly people	772 Kiasuism , show off money
724 Social behaviour, kiasu	773 Complacent
725 Don't know	774 Kiasu
726 Multi-language/racial society	775 Kiasu
727 Kind hearted people	776 Don't know

777 Modified culture , mixture	827 Never think about it
778 Goodness, unique	828 Don't know
779 Taking advantage of every possible avenue	829 Monotonous
780 Multi-racial	830 Don't know
781 Multi-racial	831 Don't know
782 Singaporean lives are economically driven	832 Afraid of losing to others
783 Don't know	833 Globalisation society
784 Generous singaporeans	834 Harmony society
785 Ethics	835 Multi-racial society
786 Too dependent on government	836 Singapore has a good education system
787 Kiasu	837 Copy cat culture
788 Don't know	838 Multi-racial society
789 Multi-racial	839 Singlish language
790 Singlish	840 Busy society
791 A strong sense of belonging	841 Multi-racial society
792 Rojak	842 We have a good government
793 Kiasu	843 Singaporean care for themselves
794 Don't know	844 Afraid of losing out to others
795 People are very helpful	845 Competitive society
796 Multi-racial	846 Very competitive
797 Don't know	847 Competitive society
798 Kiasu	848 Hardworking culture
799 Gracious and open up, more compassionate.	849 Modernisation society
801 Respect elders	850 Clean city
802 Don't know	851 Competitive society
803 Don't know	852 Competitive society
804 Don't know	853 Multi-racial society
805 Don't know	854 Multi-racial society
806 Don't know	855 Education qualification very important
807 Don't know	856 Competitive society
808 Don't know	857 Don't know
809 Don't know	858 Kiasu
810 Racial harmony	859 Kiasu
811 Racial harmony	860 Kiasu
812 Racial harmony	861 No culture
813 Racial harmony (Different races & culture living together)	862 Multi-cultural
814 Multi nationality	863 Kiasu
815 Unique culture	864 Work, sleep, eat
816 Very unique	865 Clean & green
817 Multi-races living together	866 Kiasu
818 Multi-races living peacefully	867 Kiasu
819 Racial harmony	868 Kiasu
820 Racial harmony	869 Kiasu
821 Racial harmony	870 Conservative
822 Multi-racial	871 Kiasu
823 Racial harmony	872 Arts
824 Losing our culture	873 Mixed races / languages
825 Don't know	874 Making money
826 Don't know	875 Food

876 Kiasu	927 Don't know
877 Hardworking	928 Don't know
878 Work	929 Selfish
879 Broad-minded	930 Don't know
880 Don't know	931 Don't know
881 Food	932 Don't know
882 Don't know	933 Rojak
883 No culture	934 Work very hard - stressful, serious
884 Rojak - no culture	935 Self-centred
885 Follow fashion	936 Self-centred
886 Festival	937 Money - prosperity
887 Generous & kind	938 Don't know
888 Money-minded	939 Don't know
889 Filial piety	940 Don't know
890 Kiasu	941 Don't know
891 Kiasu	942 Friendly
892 Kiasu	943 Kiasu
893 Don't know	944 Don't know
894 Don't know	945 Kiasu
895 Friendly	946 Don't know
896 Food	947 Rush for thing
897 Kiasu	948 Don't know
898 Kiasu	949 Like to queue
899 Kiasu	950 Friendly
900 Don't know	951 Friendly
901 Obedient	952 Don't know
902 Self-centred	953 Don't know
903 Self-centred	954 Proud
904 Hardworking & obey the rules	955 Friendly
905 Don't know	956 Don't know
906 Don't know	957 Kiasu
907 Kiasu	958 Kiasu
908 Friendly & helpful	959 Proud
909 Don't know	960 Friendly
910 Don't know	961 Don't know
911 Like to queue	962 Don't know
912 Don't know	963 Don't know
913 Don't know	964 Don't know
914 Proud	965 Don't know
915 Don't know	966 Don't know
916 Religion	967 Don't know
917 Don't know	968 Don't know
918 Kiasu	969 Don't know
919 Kiasu	970 Friendly
920 Don't know	971 Don't know
921 Don't know	972 Money-oriented
922 Unique	973 Distinguished
923 Proud	974 Don't know
924 Don't know	975 Don't know
925 Don't know	976 Kiasu
926 Don't know	977 Don't know

978 Food varieties	1026 Food
979 Don't know	1027 Don't know
980 Multi-racial country	1028 Don't know
981 Don't know	1029 Kiasu mentality
982 Don't know	1030 Multi-racial - culture
983 Don't know	1031 Harmonized "Mix & Match" - Culture through marriage
984 Don't know	1032 Don't know
985 Multi-racial country	1033 Don't know
986 Kiasu	1034 Bo chap
987 Multi-cultural, rich	1035 Don't know
988 Kiasu behaviour	1036 Don't know
989 Behaviour	1038 Multi-racial & harmonious
990 Kiasu behaviour	1039 Multi living society understanding of race & religion
991 Competitive society	1040 Racial harmony
992 Don't know	1041 Working
993 Kiasu	
994 A lot of university student	
995 Don't know	
996 Multi-racial society	
997 Loving people	
998 Multi-cultural society	
999 Don't know	
1000 Dedicated to work	
1001 Know how to enjoy themselves	
1002 Only care for ownself	
1003 Behaviour, kiasu	
1004 Behaviour	
1005 Money-minded	
1006 Chinese	
1007 Don't know	
1008 Kiasuism	
1009 Singlish	
1010 Kiasu Singaporeans	
1011 Follow rules	
1012 Helpful, friendly Singaporeans	
1013 Money minded	
1014 Uptight/rigid	
1015 Care for themselves	
1016 Generous/sometimes selfish	
1017 Kiasu	
1018 Kiasu	
1019 Food, Singaporean loves to eat	
1020 Kiasuism	
1021 S'poreans are proud of their culture, Multi-racial culture	
1022 Multi-racial	
1023 Multi-racial living together	
1024 Not punctual in most situation	
1025 Multi-religious country	

問 38 あなたにとって一番大切と思うものはなんですか。(自由回答)

(サンプル No.、回答)

1 Family	48 Health
2 Health & wealth	49 Stable income
3 Life	50 Relationship with people around me
4 Life	51 Family members
5 Family	52 Life
6 Life	53 Life
7 Family	54 No trouble in my mind, no worry
8 Health	55 Health
9 Happiness	56 Health
10 Health	57 Career
11 Wife (but still single)	58 Life
12 Freedom	59 Wealth, Health
13 Daughter	60 Studies
14 A goal in life	62 Health
15 Life	63 Family
16 Family	64 Family
17 Family	65 Career
18 Health	66 Family
19 Don't know	67 Health
20 Good health	68 Family
21 Money	69 Money
22 Happy living	70 Family's health
23 Money	71 Family
24 Good health	72 Health
25 Healthy life	73 Health
26 Good health	74 Family
27 Relaxation	75 Good health
28 Money	76 Peaceful living
29 Money	77 Money
30 Money	78 Achieve her career and family
31 Enjoyment	79 Money
32 Accomplishment in life	80 Peaceful living
33 Live healthily	81 Peace & healthy living
34 Career	82 Money
35 Health	83 To achieve her career
36 Health	84 Good health
37 Time	85 Able to marry the woman he love
38 Health	86 Husband's love
39 Health	87 Healthy lifestyle
40 Career	88 Have free time to accompany his sons
41 Well-being of my family members	89 More money
42 Love from everywhere.	90 Make more money
43 To live happily	91 Family happiness
44 Family	92 Good health
45 Family	93 Eat well and live well
46 Health	95 Happy life in this world
47 Family members	96 Family

97 Health	146 Be happy
98 Family	147 Health
99 Good health & money	148 Son
100 Family	149 Family
101 Relationship with families and friends	150 Peace to herself
102 Family member's health	151 Kinship
103 Health	152 Health
104 Health	153 Be happy & satisfied
105 Children education	154 Health
106 Health	155 Family
107 Family	156 Health
108 Family	157 Enjoyment of life
109 Money	158 Relationship, family life
110 Health	159 Job
111 Family	160 Family
112 Health	161 Health
113 Health	162 Health
114 Money	163 Life
115 Family	164 Life
116 Money	165 Family
117 Health	166 Money
118 Life	167 Health
119 To obey God	168 Money
120 Life	169 Health
121 Family	170 Children
122 Family	171 Money
123 Family	172 Family
124 Family	173 Family
125 Health	174 Education
126 Health	175 Family
127 Job	176 Children
128 Freedom	177 Life
129 Life	178 Full filling life
130 Family	179 Family
131 Peaceful life	180 Family & life
132 Children	181 Caring to other
133 My child	182 Children
134 Family	183 Health & happiness
135 Contentment	184 Health
136 Life	185 Health
137 Health	186 Health & happiness
138 Take care my ownself	187 Time
139 Got enough money	188 Money
140 Health	189 Family support
141 Live with our environment	190 Family
142 Must be happy, then only can be healthy	191 Health
143 The children upbringing	192 Health & life
144 Career	193 Life & health
145 Try to get a job and able to support my parents	194 Health

195 Life	246 Career
196 Kinship	247 Relative
197 My family	248 Money
198 Family	249 Happiness
199 Life	250 Family
200 Family & life	251 My family
201 Don't know	252 Healthy life
202 Don't know	253 Stay in good health
203 Don't know	254 Food/Work and find money
204 Happiness	255 No comment
205 Happiness	256 Happiness
206 Healthy	257 Work
207 Life	258 Money
208 Peaceful	259 Happiness
209 Healthy	260 Education
210 Healthy	261 Money
211 Work	262 Family
212 Family	263 Family members
213 Family members	264 Family happiness
214 Healthy	265 Healthy family
215 Peaceful	266 Money
216 Family	267 Family
217 Health	268 Happy healthy family
218 Life	269 Happy healthy family
219 Health	270 Purpose of living
220 Be happy & better life	271 A healthy happy family
221 Freedom - no worry	272 Healthy & happy family
222 Children	273 Healthy & happy family
223 Money	274 Healthy & happy family
224 Health	275 Health
225 Marriage	276 Freedom
226 Nothing	277 Family
227 Family's member	278 Children
228 Good environment	279 Family
229 Money	280 Peace
230 Family	281 Family
231 Family	282 Family
232 Stability of future	283 Health
233 Family	284 Don't know
234 Children	285 Health
235 Father	286 Good health
236 Health	287 Good health
237 Health	288 My family
238 Health	289 Family & life
239 Family	290 My family
240 Family	291 Family & good health
241 To live happily	292 Health
242 Family	293 Life & health
243 Stay healthy	294 Happiness & health
244 Money	295 Family values
245 Career	296 Money & health & family

297 Someone to take care of her	348 Family
298 My family	349 Money
299 Good health	350 To fulfil all my dreams
300 Family & friends	351 Health
301 Family	352 Free time
302 Happy life	353 Health
303 Health	354 Happiness
304 Happy family	355 Happiness
305 Family	356 Family
306 Health	357 Family
307 Peaceful life	358 Health
308 Family	359 Time with family
309 Peaceful living	360 Don't know
310 Health	361 Health
311 Health	362 Life
312 Peaceful life	363 Family
313 God	364 Health
314 Leave behind legacy for future generation	365 Family
315 Health	366 Health
316 Health	367 Health
317 Own time/space	368 Health
318 Love	369 Family
319 Friend	370 Family & friends
320 Healthy	371 Fullfilling and less stress
321 Health	372 Family
322 Family	373 Live healthy
323 Family	374 Good health
324 Good health	375 Money
325 Happiest	376 Good health
326 Health, home & happiness	377 Happy life - without illness
327 To practice closely to religion	378 Money
328 Family	379 Family
329 Family	380 Good health
330 Family & children	381 Healthy living
331 Money	382 Peaceful living
332 A healthy happy family	383 Religions, family
333 Health	384 Family
334 Happy healthy family	385 Myself
335 Happiness	387 Love people around
336 My family	388 To do more good deeds
337 Family	389 Family
338 Doing what think is right	390 To live to the fullness
339 Good health	391 Happiness
340 Family & relationships	392 Life
341 Health	393 Family
342 Life	394 Love
343 Family	395 Health
344 Family	396 Kinship
345 Family	397 Life
346 Love & peace	398 Son
347 My family	399 Family

400 Maintain current lifestyle	450 Happiness, good health, peace
401 Don't know	451 Health & family relationships and money
402 Life	452 Family
403 Health	453 Life
404 Life	454 Children
405 Health	455 To obey God
406 Health	456 Family
407 Happiness (to be happy at all times)	457 Good health & a happy family
408 Family happiness	458 Family
409 Religion	459 Family
410 Don't know	460 Family
411 Good health	461 Family
412 Good health	462 Maintaining standard of living
413 Family & life	463 Family & friends
414 Family	464 Health
415 Don't know	465 Happiness
416 S'pore economy	466 Family
417 Don't know	467 Health
418 Life is most important, family comes next	468 Career
419 My children	469 Happiness
420 Stable job & be sufficient	470 Family stable
421 Peace	471 Money, safer place, given a chance to France. To work
422 Love	472 Time
423 Children & family	473 Family happiness
424 Health	474 Family happiness
425 Health & freedom	475 Family happiness
426 Happiness	476 Family & health
427 Stable income to support family	477 Family happiness
428 Family	478 Able to find a suitable job
429 Freedom	479 Family happiness
430 Self improvement, social life	480 A good family life
431 Family	481 Good health
432 Money	482 Health
433 Family	483 Personal health
434 Family	484 Good health
435 My family	485 Family & health
436 My children who grows up must be good	486 Family happiness
437 Happiness	487 Family happiness
438 Family values	488 Health
439 Family	489 Health
440 Family	490 More money & family happiness
441 Family, relatives and friends	491 Health
442 My family	492 Family happiness
443 Family	493 Family happiness
444 Career	494 Family & life
445 Child - my sons	495 Health & money
446 Family	496 Health
447 Life	497 Health
448 Family & money	498 Earn as much money
449 Health	499 Love

500 Health	551 Health
501 Health	552 Family
502 Health	553 Life
503 Don't know	554 Life & health
504 Family	555 Family
505 Family, peace & healthy	556 My son
506 Health, peace & harmony, family	557 Family
507 Good & healthy family life	558 Children
508 Freedom	559 Life
509 Freedom	560 Family
510 Family	561 Money
511 Family	562 Knowing and obeying god
512 My son	563 Health & family members
513 Family	564 Being healthy
514 Family	565 Working life - have a stable income
515 Happiness	566 Being healthy
516 Faith	567 Don't know
517 Family, health, happiness	568 Very healthy and peaceful life
518 Family	569 Health
519 Family	570 Health
520 Companionship, family and stability, health	571 Peace in the world
521 Health	572 Time
522 Family	573 Happiness
523 Family relationship	574 Happiness
524 Family	575 Career
525 Life	576 Health
526 Health	577 Family & children to be successful
527 Wealth	578 Loyalty
528 Family ties, career, children	579 Job
529 Health	580 Life
530 Health	581 People around you protected from harm
531 Successful career	582 Family
532 Don't know	583 Life & health
533 Don't know	584 Children
534 Family harmony, peace for family life	585 Happiness
535 Family members, health	586 Family & friends
536 Don't know	587 Peace
537 Family & health	588 Health
538 Personal health	589 Happiness
539 Earn more money	590 Family
540 Better health	591 Life
541 Healthy life	592 Family & health
542 Family & health	593 Life
543 Family happiness, world peace	594 Money and work
544 Health	595 Peaceful family & country
545 Kinship, relationship with the family	596 Health
546 Family	597 Family
547 Family	598 Family relations
548 A healthy life	599 Happiness
549 Don't know	600 Happiness , family , friends
550 Family	601 Family

602 Family	650 Health
603 Good health	651 Health
604 Fulfillment	652 To've a humble & peaceful life of also love trust the good job - peace
605 Family	653 Understand + prosperity + health
606 Have a job / health	654 Family live to understand my family and the environment.
607 Family & good health	655 To've a happy family
608 God	656 To built a successful life one need to work hard - success
609 Health	657 Money
610 To do the best I can for the family	658 Family
611 Family	659 Family
612 Health	660 Family
613 Happiness and good health	661 Money
614 Health & love	662 Family
615 Contented	663 Health
616 Have a good retirement	664 Family
617 Health	665 Family
618 Family	666 Life
619 Love	667 Family
620 Family	668 Family
621 Family	669 Children
622 Health & family harmony	670 Time
623 Health	671 Health
624 Money, happiness	672 Career
625 Live your life honestly, live according to the will of God	673 Career
626 Family	674 Kinship
627 Health, money, family and more time	675 Kinship
628 Love, happiness, freedom	676 Money
629 To make money, with money everything comes	677 Family
630 Kinship & love	678 Kinship
631 Life	679 Money
632 Freedom, money	680 Asset, financial
633 Happiness & health	681 Kinship
634 Health	682 Family
635 Health, money, happiness	683 Family
636 To be happy with the one you love and to do whatever you want to do	684 Kinship
637 Family, money, health, general, well-being	685 Kinship
638 Family	686 Career
639 Health, money, wisdom	687 Career
640 Happiness	688 Family
641 Family, career	689 Good marriage
642 Money, health	690 Kinship
644 Security	691 Kinship
645 To be happy	692 Money
646 Peace & harmony	693 Family
647 Harmony	694 Family
648 I believe in health/human relationship for my age	695 Health
649 Harmony	696 Career

697 Healthy	748 Career
698 Healthy	749 Family
699 Family	750 Family
700 Health	751 Family
701 Happiness	752 Happy life
702 God	753 Career
703 Life	754 Life & health
704 Family & health	755 Family
705 Family	756 Good health
706 Family	757 Families
707 Family	758 Water and electricity
708 Children	759 Life
709 Family	760 Family
710 Family	761 Family
711 Kids	762 To relax
712 Son	763 Family
713 Happiness	764 Stay healthy and able to work
714 Love	765 Family
715 Husband	766 Career
716 Family	767 Family
717 Family	768 Stay healthy
718 Health	769 Love & care for the environment
719 Time	770 Peace
720 Happiness	771 Family
721 Family	772 Family
722 Family	773 Health
723 Health	774 Health
724 Health	775 Family
725 Daughter & sons (children)	776 Money
726 Health	777 Happiness
727 Health	778 Money
728 Family	779 Money
729 Money	780 Family relations
730 Family	781 My family
731 Health	782 Family
732 To be a good parent	783 My life
733 Family	784 Family & health
734 Family	785 Family
735 Being healthy	786 Health & family
736 Family	787 Health
737 Children	788 Family relations
738 Being healthy	789 Family
739 Family	790 Health & family
740 Family	791 Religion , health and family
741 Family	792 Health & wealth & happiness
742 Family	793 My health
743 Family	794 My family
744 Health	795 My family
745 Family	796 Family
746 To be happy in all aspect	797 Family
747 Family	798 My family

799 My family and health	848 Life
800 To be happy	849 Health
801 Family happiness	850 Family members
802 Personal health	851 Family
803 Family happiness	852 My children
804 Family happiness	853 Family
805 Good family life	854 Health
806 Personal happiness	855 Health
807 Family happiness	856 Money
808 Personal happiness	857 Happiness
809 Personal health	858 Money
810 Good health	859 Children
811 Happy living	860 Family ties
812 More money	861 Health
813 Good health	862 Family ties
814 Should be effected with any serious illness	863 Happiness
815 Living happily	864 Family
816 Have more money	865 Family
817 Peaceful life	866 Family
818 Family	867 Health
819 Good health is very important	868 Happiness
820 Peaceful living	869 Career
821 Achieve her career	870 Children
822 Healthy living	871 Happiness
823 Happy life with family	872 Stress-free life
824 Happiness	873 Children
825 Personal health	874 Love
826 Family	875 Practicing to be a good Muslim
827 Health	876 Happy life
828 Family happiness	877 Daughter
829 Health	878 Health & children
830 Don't know	879 Peace & harmony
831 Don't know	880 Money
832 Family members	881 God
833 Health	882 Life
834 Bring up my children	883 Family
835 Health	884 Health
836 Life	885 Health
837 Money	886 Health
838 Family members	887 Children & grandchildren
839 Happiness	888 Watch tv
840 God	889 Family relationship
841 Family members	890 Children & grandchildren
842 Parents	891 Life
843 Happiness	892 Health
844 Victory in things you do	893 Health
845 Happy family	894 Money
846 Family	895 Peace of mind
847 Money	896 Family

897 Happiness	947 Less stressful life
898 Career	948 Health
899 Happiness	949 Health
900 Family	950 Health
901 Family	951 Satisfaction
902 Career & health	952 Life
903 Money	953 Health
904 Happy life	954 Health
905 Family	955 Family
906 Health & family	956 Family, grandchildren, health
907 Health & family	957 Money
908 Health	958 Health & money
909 Health	959 Family
910 Family	960 Love
911 Health	961 Children
912 Health	962 Health
913 Be a good husband to wife & be a good father to children	963 Health
914 Health	964 Peace & good health
915 Health	965 To relax, more healthy
916 Peace & harmony	966 Family & life
917 Family	967 Health
918 Health	968 Family
919 Health	969 Healthy
920 Health	970 To be contented
921 Health	971 Health
922 Family	972 Family & health
923 Money	973 Love other
924 Roof over hand, freedom	974 Happy
925 Health	975 Good health
926 Health	976 Family
927 Money & family	977 Peace & good health
928 Take care of grandchildren/family	978 Happy daily life
929 Money to spent, simple life	979 Health
930 Health	980 Retiring & do charity work
931 Family happiness	981 Health & career
932 Family	982 Good health
933 Family	983 My spouse
934 Family	984 Good health
935 Career	985 Family
936 Health	986 Good health
937 Family & health	987 Don't know
938 Health	988 Family
939 Family	989 Family
940 Money	990 Health
941 Health	991 God
942 Freedom	992 Family & health
943 Love & family	993 Money
944 Money	994 Healthy
945 Family	995 My health
946 Make more money	996 Establish career to greater height

997 Family
998 Good family life
999 Good health
1000 Religious life
1001 Kinship

1002 Life
1003 Family
1004 Money
1005 Health
1006 Career
1007 Family
1008 Family
1009 Everyone's life
1010 Nothing
1011 Life
1012 My family & work
1013 To have less problems
1014 Happiness
1015 Good health & good families surrounding
1016 Family
1017 Family
1018 Healthy
1019 Family
1020 Happiness
1021 To have a family
1022 Happiness
1023 Family
1024 To be happy & healthy
1025 Good education
1026 Family
1027 Family
1028 Money
1029 Health
1030 Be happy
1031 Family
1032 Family
1033 Live happily with good health
1034 Family
1035 Peaceful life
1036 Family
1037 To bring up children as well as he could
1038 Financial freedom
1039 Success
1040 Health
1041 Health

問39a あなたが一番尊敬する職業は何ですか。(自由回答)

(サンプル No.回答)

1 Don't know	45 Nurse
2 Don't know	46 Volunteer
3 Don't know	47 Politician
4 Minister of Religions	48 Police
5 Cleaning Job	49 MPs
6 Doctors	50 Monk
7 Teacher	51 Teacher
8 Don't know	52 Judge
9 Doctor	53 Doctor
10 Don't know	54 Social worker
11 Teacher	55 Doctor
12 Too wide to think	56 Businessman
13 Don't know	57 Politician
14 None	58 Actor
15 All	59 Teacher
16 Doctor	60 Volunteer
17 All	62 Don't know
18 Doctor	63 Police
19 Don't know	64 Prime minister
20 Teacher	65 Teacher
21 Teacher	66 Doctor
22 No comment	67 Never think about it
23 No comment	68 Pastor
24 Service line (medical , transport)	69 Government service
25 No preference	70 Teacher
26 Teacher	71 Teacher
27 Doctor	72 Doctor
28 No comment	73 Scientist
29 No comment	74 Banker
30 No comment	75 No comment
31 Doctor	76 None
32 Director of a media	77 No comment
33 Teachers, Country's leader	78 All service lines (medical, education)
34 Teacher	79 No comment
35 Doctor	80 Doctor
36 Social worker	81 No comment
37 Medical staff	82 No comment
38 Doctor	83 Service line (nurse)
39 Charity worker	84 No comment
40 Doctor	85 Architect
41 Judge	86 Teacher
42 Doctor	87 Nurse
43 Volunteer job	88 Doctor
44 Doctor	89 Doctor
32 Director of a media	90 Doctor
33 Teachers, Country's leader	91 Teacher
34 Teacher	92 None

93 Businessman	150 Don't know
95 Doctor	151 Teacher
96 Teacher	152 Anything is right
97 Sales person	153 Entreprenuer
98 Don't know	154 Nurse
99 President	155 Politician
100 Doctor	156 Homemaker
101 Nurse	157 Doctor
102 Nurse	158 None
103 Social worker	159 Teacher
104 Doctor	160 Police
105 Doctor	161 Policeman
106 Politician	162 Nurse
107 Don't know	163 Self employed - Businessman
108 Don't know	164 Teacher
109 Can't think of any	165 Seamstress
110 Nurse	166 Doctor
111 Doctor	167 Doctor
112 Police	168 Nurse
113 Police	169 Businesswoman
114 Don't know	170 Nurse
115 Nurse	171 Don't know
116 Doctor	172 Doctor
117 Teacher	173 Teacher
118 Garang guni	174 Doctor
119 Doctor	175 Scientist
120 Teacher	176 None
121 IT consultant	177 Don't know
122 Scientist	178 Doctor
123 Don't know	179 Nurse
124 Nurse	180 Lawyer
125 Doctor	181 Doctor & Nurse
126 Doctor	182 Service customer
127 Teacher	183 Doctor
128 Army	184 Don't know
129 Don't know	185 Doctor
130 Doctor	186 Doctor
131 Teacher	187 Doctor
132 Housewife	188 Don't know
133 Teacher	189 Doctor
134 Lawyer	190 None
135 Homemaker	191 Politician
136 Businessman	192 Don't know
137 Look after the grandchildren	193 Police
138 Doctor	194 Teacher
139 Goverment servant	195 Doctor
140 Doctor	196 Doctor
141 Doctor	197 System architect
142 Doctor	198 Doctor
143 Sales lines	199 Sales person
144 Judge in court	200 None
145 Army	201 None
146 No particular occupation, just service line	202 Don't know
147 Blue collar job - cleaner - clean dustbin, sweep road	203 Teacher
148 Don't know	204 All jobs
149 Doctor	205 Doctor

206 Doctor	271 People who donate their lives to help public - fireman
207 Doctor	272 Medical professional
208 Sweeper	273 Medical professional
209 Clerk	274 Healthcare worker
210 Engineer	275 All occupation must respect
211 Social worker	276 Doctor
212 None	277 Civil servant
213 Doctor	278 Doctor
214 None	279 Don't know
215 Teacher	280 Social worker
216 General manager	281 Entrepreneur
217 Bank teller	282 Don't know
218 Cleaner	283 Doctor
219 Politician	284 Healthcare worker
220 Law enforcement - police	285 Don't know
221 Self employ job	286 None. Every job has its merit
222 Odd job	287 Doctor & Nurse
223 None	288 Don't know
224 Rubbish collector	289 Engineer
225 Music writer/producer	290 Social worker
226 Electrician	291 Nurse
227 Doctor	292 Doctor
228 Boss	293 Teacher
229 Housewife	294 Customer related occupation/Police
230 Doctor	295 Social worker
231 Doctor	296 Teacher
232 Nurse	297 Don't know
233 Doctor	298 Doctor
234 Member of Parliament	299 Engineer
235 Don't know	300 Volunteer
236 Teacher	301 Teacher
237 Don't know	302 None
238 General	303 Doctor
239 Politician	304 Doctor
240 Teacher	305 Doctor
241 Every occupation is important	306 Travel agent
242 Doctor	307 None
243 Beggars	308 None
244 Doctor	309 Businessman
245 Social worker	310 Cleaner
246 Doctor	311 Don't know
247 Nurse	312 Housewife
248 Teacher	313 None
249 Teacher	314 Housewife
250 Doctor	315 Good educator
251 Doctor	316 Environmentalist
252 Cleaner	317 Entrepreneur
253 Doctor & Lawyer	318 None
254 Doctor	319 Don't know
255 Doctor	320 Cleaner
256 Volunteer worker & Doctor	321 Labourer
257 Cleaner	322 Cleaner - strive your own job
258 None	323 Doctor
259 Occupation that look after/take care of old people	324 Doctor
260 Teacher	325 Professional - engineer
261 Lawyer	326 Politician
262 Doctor	327 Religious Teacher
263 Never think about it	328 Medical professional
264 Doctor	329 Law enforcement officer
265 Caregiver	330 Teaching professional, medical professional
266 Volunteer	331 Volunteer
267 Caregiver	332 Military personel
268 Caregiver	333 Medical professional
269 Volunteer	334 Medical professional
270 Complementary medicine	335 Scientist

336 Nursing	410 Soldier
337 Doctor	411 Social worker
338 Workers (hardwork everyday)	412 Construction worker
339 Teacher	413 Teacher
340 Social work & Nurses	414 None
341 All	415 Doctor
342 Doctor	416 Prime minister
343 Doctor	417 President or Minister
344 Volunteer work	418 Teacher
345 Volunteer (social worker)	419 President
346 Service lines/Tourism	420 Social worker
347 Educators	421 Social worker
348 Lawyer	422 Volunteers for community work
349 Teacher	423 Lawyer
350 Cleaners	424 Scientist
351 Nurse	425 Doctor
352 None	426 Scientist
353 Social worker & Nurse	427 Teacher
354 Politician	428 Social service workers & councillors
355 Doctor	429 Doctor & Social worker
356 Nurse	430 Social worker & Volunteer
357 Husband's business	431 Doctor
358 Nurse	432 Teacher
359 Never think about it	433 Occupation which can earn a lot of money
360 Don't know	434 Doctor
361 Any proper upright job	435 Don't know
362 Lawyer	436 Healthcare worker
363 Don't know	437 Doctor & Pilot
364 Doctor	438 Volunteer worker
365 Nurse	439 Lawyer
366 None	440 Anything that is skill-related
367 Respect all	441 Counsellor
368 Doctor	442 Doctor
369 All	443 Nursing
370 Teachers	444 Head of the country
371 Waste collectors	445 Nurse
372 Depends on individual	446 Garbage collector, Religious leader
373 Doctor	447 Doctor
374 None	448 Engineering & Doctor
375 All the same	449 Pastor
376 None	450 Teachers
377 Teacher	451 Doctor & Teacher
378 Designer	452 Doctor
379 None	453 Soldier
380 Teacher	454 Any career has its own respect
381 Doctor	455 Honest jobs; none particular
382 None	456 Teacher
383 Doctor	457 Office work
384 Don't know	458 Teacher
385 Cleaner	459 All
387 Volunteer	460 Prime minister
388 Don't know	461 Minister
389 Doctor	462 Medical professional
390 Doctor	463 Doctor
391 One who contribute to nation building	464 Doctor
392 Don't know	465 Doctor
393 Decent job	466 Pastor
394 Job humanity	467 Doctor
395 Foreign worker, their hardwork	468 Being a parent
396 Doctor	469 Teacher
397 Plastic packaging	470 Teacher
398 Volunteer	471 Police force (uniform group)
399 Doctor	472 CEO
400 Don't know	473 Scientist
401 Don't know	474 Doctor
402 Don't know	475 Nurse
403 Can't think of any	476 Teacher
404 Politician	477 Teacher
405 Every job	478 Sweeper
406 None	479 Businesswoman
407 Social & volunteer workers	480 Doctor
408 Teacher	481 Nurse
409 Pastor	482 Doctor

483 Manager	556 Equal
484 Surgeon	557 I respect all occupation
485 Nurse	558 Don't know
486 Doctor	559 Teacher
487 Professor	560 Army
488 Nurse	561 Any post that given high money
489 Doctor	562 Clergy
490 Director	563 Doctor
491 Computer programmer	564 Doctor
492 Doctor	565 Can't think of
493 Manager	566 Doctor
494 IT job	567 Police
495 Don't know	568 Doctor
496 Don't know	569 Doctor
497 Any respectful & jobs contrinuting to the society	570 Labour
498 Writer	571 Teacher
499 Cleaner	572 Army
501 As long as have ability	573 Medical line
502 None	574 Teacher
503 Educationist	575 Nursing
504 Educational professional	576 Don't know
505 Don't have	577 Doctor & Nurse
506 Medical professional, social volunteer	578 Warrior / Soldier
507 Medical professional	579 Don't know
508 Good political leaders	580 Don't know
509 Volunteer job	581 Cleaner
510 Nurse	582 Civil servant
511 Teacher	583 Volunteer
512 Nurse	584 Don't know
513 Entrepreneur	585 Volunteer
514 Teacher	586 Doctor
515 Soldier	587 Never think about it
516 Booter	588 Prime minister
517 Police	589 Don't know
518 Doctor	590 Can't think of any
519 Doctor & Nurse	591 President
520 Welfare / charity workers, teachers	592 Doctor
521 Nurse	593 Politician
522 Factory	594 Doctor
523 Shopkeeper	595 Volunteer
524 None	596 Medical, homemaker
525 Nurse	597 Teacher
526 As long as not heavy work	598 HR
527 Doctor	599 Doctor
528 Teacher	600 Volunteer
529 Anything that is upright, morally right	601 Nurse
530 Doctor	602 No fixed occupation
531 Counsellor	603 Teacher
532 Teacher	604 Doctor
533 None	605 Doctor
534 Respect all types of occupations	606 Service agent
535 Entrepreneur	607 Pilot
536 Don't know	608 Doctor
537 Doctor	609 Doctor
538 Doctor	610 Teacher
539 Doctor	611 Judge
540 Doctor	612 Teacher
541 Nurse	613 Nurse
542 Hawker	614 Teacher, Ttrainer and Volunteer
543 Don't know	615 Doctor
544 Teacher	616 Doctor
545 None	617 Doctor
546 Doctor	618 Doctor & Teacher
547 Nurse & Doctor	619 Fatherhood / Parenthood
548 Doctor & Nurse	620 Teacher
549 Doctor	621 Doctor
550 R & D	622 Volunteer
551 Political leader	623 Doctor & Nurse
552 Doctor	624 Police
553 Police	625 Teacher, Doctor, Volunteer
554 Doctor	626 Lawyer
555 Manager	627 Teacher

628 Music industry (musician)	701 Teacher, Educator
629 Technician	702 None
630 Doctor	703 Doctor
631 Don't know	704 None
632 Doctor & Nurse	705 Accountant
633 Entrepreneur	706 Teacher
634 Lawyer & Teacher	707 None
635 Volunteer	708 None
636 Artist, travellers, designers, housewife	709 Don't know
637 Doctor	710 Medical field
638 Sweeper (Cleaner), Bus driver, Train operator	711 Businessman
639 Doctor	712 All
640 Nurse	713 Everyone
641 IT analyst	714 Healthcare worker
642 Don't know	715 Healthcare worker, social worker
644 Prime minister	716 All occupation
645 All that is available	717 IT industry workers
646 All occupation	718 None
647 All occupation	719 None
648 There is no such thing as which occupation you respect	720 None
649 All occupation	721 High rank executive
650 All positions and we have to work faithfully	722 Doctor
651 Office Administrator	723 Educator
652 No preference	724 All occupation
653 Legal job	725 None
654 All jobs concern	726 Doctor
655 Business or all other occupations	727 Doctor
656 All positions	728 Customer service sector
657 Police	729 All occupation. (eg. doctors, lawyers)
658 Police	730 Doctor
659 Teacher	731 Doctor
660 Lawyer	732 Social worker
661 Government officer	733 Doctor
662 Doctor	734 Doctor
663 Teacher	735 Don't know
664 Teacher	736 Doctor
665 Teacher	737 Don't know
666 Sales pple	738 Don't know
667 Doctor	739 Lawyer
668 Housewife	740 Don't know
669 Medical personnel	741 Uniformed personnel
670 Doctor & Lawyer	742 Finance - banking lin
671 Doctor	743 Cleaner
672 Teacher	744 Can't think of
673 Towkay	745 Politician
674 Lawyer	746 Teacher
675 Social worker	747 Housewife
676 Architect	748 Doctor
677 Lawyer & Doctor	749 Doctor
678 Worker	750 Don't know
679 Lawyer	751 None
680 Lawyer & Doctor	752 Peace loving people
681 All jobs	753 Soldier
682 Teacher	754 None
683 Technician	755 Businessman
684 All jobs	756 Don't know
685 Financial Analyst	757 Don't know
686 Doctor	758 Teacher
687 All jobs	759 Prime minister
688 Doctor	760 Nurse
689 Banker	761 Teacher
690 Teacher	762 Uniform group
691 Doctor & Nurse	763 Social welfare worker
692 Businessman	764 Taxi driver
693 All kind of jobs	764 Taxi driver
694 All jobs	765 Political leaders
695 Lawyer	766 Volunteer worker
696 Social worker	767 Teacher
697 Social worker	768 Teacher
698 Doctor	769 Bishop & Father
699 None	770 All job concern
700 Teacher	771 Pilot

772 Prime minister	841 Doctor
773 Don't know	842 Politician
774 CEO	843 Volunteer
775 Don't know	844 Doctor
776 Doctor	845 Businessman
777 Teacher	846 Civil defense
778 Engineer	847 Doctor
779 Doctor	848 Taxi driver
780 Housewife	849 Business owner
781 Medical- related occupations	850 Doctor
782 Volunteer (social care)	851 Volunteer
783 Don't know	852 Doctor
784 Anything	853 Police
785 Teacher	854 Priest , Monk , Nun
786 Education - realated	855 Doctor
787 Don't know	856 Doctor
788 Don't know	857 Doctor
789 Teacher, homemaker, country leader	858 Entrepreneur
790 Vountary worker (charity organization)	859 Entrepreneur
791 There's no specific one	860
792 None	861 Doctor
793 Healthcare worker	862 Doctor
794 Security guard	863 Teacher
795 Director	864 Volunteer
796 Doctor	865 Nurse
797 Don't know	866 Any respectable job (eg:cleaners)
798 Doctor	867 Doctor
799 Doctor & Political leader	868 Entrepreneur
800 Teacher	869 Businesswoman
801 Senior minister	870 Don't know
802 Ship Captain	871 Doctor
803 Director	872 Anything honest
804 Hawker	873 Policeman
805 Secretary	874 Engineering
806 Hawker	875 Doctor
807 Bus driver	876 Doctor
808 Domestic helper	877 Doctor
809 Policeman	878 Cleaner
810 Teacher	879 Doctor
811 None	880 Construction worker
812 None	881 Soldier
813 Social worker	882 Doctor
814 Teacher (all education levels & religious teacher)	883 Volunteer
815 None	884 None
816 None	885 None
817 None	886 Doctor
818 Teacher	887 Businessman
819 Nurse	888 Bus driver
820 Social work	889 Doctor & Nurse
821 Social worker	890 Homewife
822 Missionary (social services)	891 Doctor
823 Teacher & Guardian	892 Nurse
824 Customer services	893 Doctor
825 Businessman	894 Plumber
826 Painting, artists	895 Medical field (Doctor)
827 Decent job	896 Teacher
828 Doctor	897 None
829 Soldier	898 Nurse
830 Cleaner, because it is very good	899 Scientist
831 Doctor	900 None
832 volunteer	901 Doctor
833 Volunteer	902 Politician
834 Teacher	903 Doctor
835 Doctor	904 Doctor
836 Teacher	905 Wedding service
837 Volunteer	906 None
838 Volunteer	907 Doctor
839 Doctor	908 Don't know
840 Educator for disable children	909 Doctor

910 Teacher	979 Doctor
911 Nurse	980 Charity worker
912 None. Respect person not the occupation	981 None
913 Teacher	982 Don't know
914 Nursing	983 Doctor
915 None	984 Teacher
916 Make-up for the dead	985 Doctor
917 Teacher	986 Don't know
918 Teacher	987 Health workers
919 Volunteer	988 Volunteer worker
920 Cleaner	989 None
921 Doctor	990 Rubbish cleaner, toilet cleaner
922 None (respect individual)	991 Businessman
923 Carpentry	992 Doctor
924 Volunteer	993 None
925 None	994 Doctor
926 Teacher	995 Respect all occupations
927 Police , civil defence , army	996 Everything
928 I.T. technology	997 Lawyer
929 All the same, cleaner or minister	998 None
930 Do not respect the occupation. (none). Respect individual	999 All occupation
931 Respect individual but occupation	1000 All Government position
932 Doctor	1001 All occupation
933 Doctor	1002 Doctor
934 Housewife	1003 All occupation
935 Nurse	1004 Teacher
936 Volunteer	1005 Doctor
937 Humanitarians (volunteer work)	1006 Social worker
938 Teacher	1007 Doctor
939 Police	1008 Volunteer worker
940 Doctor	1009 Sales person
941 Volunteer	1010 Service line
942 Police	1011 Giving to society (volunteer)
943 Teacher	1012 Shipping-related
944 CEO of a company	1013 Civil servant (e.g Army)
945 Surgeon	1014 Nurse & Teacher
946 Doctor	1015 Teacher
947 Surgeon	1016 Leadership (who can lead) e.g Manager or CEO
948 Teacher	1017 Teacher
949 Surgeon	1018 Logistic line
950 Police - defence	1019 Teacher
951 Army, SAF	1020 Any job
952 Cleaner	1021 Any occupation with stable income
953 Nurse	1022 All - Everyone plays a part
954 Doctor	1023 Social worker
955 Teacher	1024 Clerical officer
956 None	1025 Engineer
957 Doctor	1026 Teacher
958 Teacher	1027 Any dangerous job
959 Teacher	1028 All occupation - each individuals play their part
960 Doctor	1029 Can't think of
961 Research (medical)	1030 Teacher
962 Doctor	1031 Nursing
963 Teaching	1032 Teacher
964 Politician	1033 Don't know
965 Social worker	1034 Doctor
966 Social worker	1035 Don't know
967 Doctor	1036 Don't know
968 Nursing, social welfare, volunteering	1037 Musician
969 Doctor	1038 White collar job - Shipping Executive
970 Volunteer	1039 Doctor
971 Doctor	1040 Investment
972 Enterprises	1041 Teacher
973 Leader of people	
974 Teacher	
975 Nurse	
976 Doctor	
977 Doctor & Nurse	
978 Don't know	

問 39 b では、ご自身が実際につきたいと思う職業は何ですか。(自由回答)

(サンプル No.、回答)

1 Social Worker	46 Pilot
2 Don't know	47 Businessman
3 Don't know	48 Mathematician
4 Don't know	49 Entrepreneur
5 Entrepreneur	50 Accountant
6 Don't know	51 Entrepreneur
7 Don't know	52 Lawyer
8 Don't know	53 Doctor
9 Successful woman	54 Teacher
10 Don't know	55 Doctor
11 Engineer	56 Businessman
12 Don't know	57 Sports minister
13 Customer Service	58 Housewife
14 Publish comic, develop own set of comic & break into world market.	59 Teacher's aid
15 Seamstress	60 Businessman
16 Cookery teacher	62 Warehouse Assistant
17 Don't know	63 Sewing
18 Teacher	64 Own boss
19 Don't know	65 Own business
20 Supervisor of a pre-school	66 Teacher
21 IT line	67 Housekeeping
22 No comment	68 Teacher
23 No comment	69 Office admin
24 No comment	70 Teacher
25 No comment	71 Teacher
26 Teacher	72 Teacher
27 Supervisor	73 Manager
28 No preference (low education)	74 Banker
29 Senior supervisor	75 No comment (age catch up & qualification is low)
30 Successful businessman	76 No comment
31 Accountant	77 No comment
32 Media Director	78 Journalist
33 Too old to answer the question	79 No comment
34 Administrator	80 Engineer
35 Accountant	81 Engineer
36 Park ranger	82 No comment
37 Own boss	83 Insurance leader
38 Businessman	84 No comment
39 Doctor	85 Animal trainer
40 IT manager	86 Hawker
41 Finance Minister	87 Never think about it
42 Politician	88 Businessman
43 Volunteer job	89 Manager
44 Politician	90 Pilot
45 Scientist	91 Teacher

92 Soldier	144 As a bank manager
93 Businessman	145 Security guard
95 Doctor	146 Police
96 Banker	147 Own boss
97 Sales personal	148 Don't know
98 Own business	149 Doctor
99 Own business - big boss	150 Don't know, never study
100 Doctor	151 Businesswoman
101 Can't think of	152 None
102 In technology & electric desgin	153 Accountant
103 Voluntary worker	154 Police
104 Piano teacher	155 News presenter
105 Businessman	156 Businesswoman
106 Own business	157 Researcher, Scientist
107 Don't know	158 Businesswoman
108 Don't know	159 Puchaser
109 Business (self employed)	160 Clerk
110 Clerk	161 Being a housewife
111 Clerk	162 Don't know
112 Fireman	163 Businessman
113 Teacher	164 Businessman
114 Don't know	165 Cook
115 Nurse	166 Messenger
116 Beautician	167 Doctor
117 Teacher	168 Pilot
118 Forklift driver	169 Restaurant owner
119 Stradegy consultant	170 Businesswoman
120 Politician	171 Cleaner
121 IT profession	172 Teacher
122 Can't Recall	173 Don't know
123 Don't know	174 Engineer
124 Artist	175 Seamstress
125 Teacher	176 None
126 Teacher	177 Hawker
127 Teacher	178 Teacher
128 Can't think of	179 Don't know
129 Businessman	180 Engineer
130 Bakery	181 Nurse
131 Management post in a private company	182 Florist
132 Housewife	183 Admin officer
133 Teacher	184 Seamstress
134 Reporter	185 Can't think of
135 Body therapist	186 Merchandiser
136 Teacher	187 Cook
137 Factory operator	188 Businesswoman - self employed
138 Don't know	189 Police
139 Police	190 Businessman
140 Factory worker	191 Farmer
141 Business	192 Cleaner
142 Don't know	193 NEA worker
143 Sales job	194 Retailer - self employed

195 Actress	246 Administration
196 Engineer	247 Business
197 System architect	248 Teacher
198 Explorer (nature)	249 Teacher
199 Sales personal	250 Teacher
200 None	251 Accountant
201 Football player	252 Engineer
202 Businesswoman	253 Businessman
203 Teacher	254 Own business
204 Anything	255 None
205 Teacher	256 No comment
206 Cook	257 Customer Service
207 Accountant	258 Robber
208 Horse keeper	259 Own business
209 Clerk	260 Office Assistant
210 Engineer	261 Own business
211 Teacher	262 Regional show organiser
212 Finance accounting	263 Teacher
213 Lawyer	264 Businessman
214 Housewife	265 Social services
215 Teacher	266 Successful entrepreneur
216 Part time - worker	267 Caregiver
217 Administration clerk	268 Administrator
218 Cleaner	269 Pilot
219 Doctor	270 Naturopath
220 Freelance - driver	271 Fireman
221 Self-employed	272 Medical professional
222 Part time work	273 Doctor
223 Businessman	274 Human resources
224 Athletic	275 Never think about it
225 Music producer	276 Businessman
226 Electrician	277 Nursing
227 Scientist	278 Shop-keeper
228 Handicraft worker	279 Work in a nature-green environment
229 Housewife	280 Happy with current - engineer
230 Architect	281 Food
231 Don't know	282 Don't know
232 Actuarial - Actuarer	283 Never think about it
233 Lawyer	284 Technology industry
234 Entrepreneur	285 Nurse
235 Don't know	286 None
236 Police	287 Florist
237 Teacher	288 Not working all this while
238 Don't know	289 Engineer
239 Engineer	290 Own business
240 Counsellors - Family affair	291 Engineer
241 None at the moment	292 Social Workers/Volunteers
242 Lecturer	293 Businessman
243 Business	294 Customer relation executive
244 Teacher	295 Volunteer
245 Social Worker	296 Own boss

297 Factory worker	346 Own boss
298 Doctor	347 Educator
299 Engineer	348 Lawyer
300 Businessman	349 Management level
301 Housewife	350 Any job that gives me a sense of accomplishment
302 Retiree	351 Don't know
303 Cook	352 Work in the factory
304 Doctor	353 Army
305 Childcare Owner	354 Human relations manager
306 Self-employed	355 Housewife
307 Businessman	356 Own boss
308 None	357 None
309 Housewife	358 Start own business
310 Clerk	359 Businessman
311 Freelance worker	360 Don't know
312 Housewife	361 Construction line
313 Teacher	362 Don't know
314 Pilot	363 Florist
315 Health professional	364 Professional
316 Food technology	365 Office job
317 Human resource officer	366 Start a pet shop
318 Finance Manager	367 Inventor
319 Entertainment circular	368 Engineer
320 Despatch boy	369 Customer service related occupation
321 Labourer	370 Never think about it
322 Cleaner	371 Cashiers
323 Finance Manager	372 Taxi driver
324 Tailor	373 None
325 Engineer	374 To be a boss
326 Social Volunteer	375 None
327 Outdoor field work golf green maintenance	376 Own boss
328 Businessman (trading)	377 Teacher
329 Technical specialist	378 Interior designer
330 Tailoring	379 None
331 Graphic designer	380 Teacher
332 IT specialist	381 Teacher
333 Pilot	382 None
334 Entrepreneur	383 Aerospace
335 Researcher	384 Volunteer
336 Fl driver	385 Teacher
337 Doctor	387 Teacher
338 Industrialist giving jobs to poor people	388 Social Worker
339 Teacher	389 Own boss
340 Banker, social worker	390 Doctor
341 Any job that makes me happy	391 Scientist
342 Never think about it	392 Don't know
343 Lawyer	393 No preference
344 Nurse	394 Something that would help anyone
345 Volunteer work	395 Business

396 Tailor	447 Artist
397 Own boss	448 Doctor
398 Floral shop boss	449 Never think about it
399 Technician	450 Teacher
400 Don't know	451 Be managing director of a company
401 Don't know	452 Beautician
402 Don't know	453 Any honest job
403 Engineer	454 Don't know
404 Doctor	455 IT job
405 Don't know	456 Teacher
406 Never think about it before, dont know	457 Office work
407 Don't know	458 In the sales line
408 Lawyer	459 Anything that suit me
409 Business consultant	460 Businessman
410 Diver	461 Air Stewardess
411 Self-employed businessman	462 Anything related to medicine
412 Inventor	463 Psychologist
413 Businesswoman	464 Teacher
414 Teacher	465 Artist
415 Good beautician	466 Sales personal
416 Customer service officer	467 To be wealthy person
417 Doctor	468 Engineer
418 Teacher	469 Don't know
419 Teacher	470 Doctor
420 Sales job	471 Police
421 Top sales executive	472 Sales job
422 Lawyer	473 Mechanic
423 Hair stylist	474 Clerk
424 Engineer	475 Secretary
425 Physicians	476 Teacher
426 Businessman - Be own boss	477 Cook
427 Lawyer	478 Clerk
428 Teacher	479 Businesswoman
429 Pilot	480 Engineer
430 Successful businessman	481 Hawker
431 Police	482 Homemaker
432 Cashier	483 Factory supervisor
433 Freelance job	484 Supervisor
434 Housewife	485 Clerk
435 Do the things that i like	486 Supervisor
436 Healthcare-related occupations	487 Surveyor
437 Pilot	488 Seamstress
438 Pilot	489 Factory worker
439 Architect	490 Manager
440 Service-related (healthcare)	491 Seamstress
441 Counsellor (family)	492 Homemaker
442 Teacher	493 Mechanic
443 Volunteer (in social services)	494 IT job
444 Head of the country	495 Don't know
445 Teacher	496 Businessman
446 Something to do with social work	

497 Any respectful & jobs contributing to the society	547 Volunteer
498 Police	548 Own boss
499 Homemaker	549 Stable job
500 Don't know	550 R & D
501 Don't know	551 To be a boss
502 None	552 Volunteer
503 Educationist	553 Police
504 Law enforcement professionals	554 Doctor
505 Own a chain of hotel	555 Secretary
506 Social Volunteer	556 Don't know
507 Medical professional	557 Homemaker , management
508 Financial Analyst	558 Artist , related to handicrafts
509 Volunteer work	559 Retired. So don't want to work
510 Air Stewardess	560 IT job
511 Lawyer	561 Occupation which gives money
512 Ticketing	562 Writer
513 Entrepreneur	563 Doctor
514 Teacher	564 Doctor
515 Doctor	565 Can't think of
516 Lawyer	566 Can't think of
517 Nurse	567 Any service hotel line
518 Lawyer	568 Doctor
519 Teacher	569 Doctor
520 Writer	570 Own boss
521 Don't know	571 Lawyer and interior design
522 Don't know	572 Own business
523 None	573 Air Stewardess
524 Housewife	574 Air Stewardess
525 Detective	575 Teacher
526 Housewife	576 Businessman
527 Businessman	577 Teacher
528 Childcare Teacher	578 Many - can't seem to say
529 High-flyer	579 Anything to my ability
530 Doctor	580 Any job will do
531 Scientist	581 Nursing
532 Teacher & Engineer	582 Don't know
533 None	583 Volunteer service
534 None	584 Nurse
535 Entrepreneur	585 Don't know
536 Happy with current job	586 Businessman
537 Salesgirl	587 Just a job will do
538 Salesgirl	588 Doesn't matter
539 Clerical line in office	589 Don't know
540 None	590 Good pay
541 Factory worker	591 Business
542 Hawker	592 Lawyer
543 Homemaker	593 Jack of all trades
544 Doctor	594 Manager
545 None	595 Don't know
546 Lawyer	596 Homemaker

597 Homemaker	647 Administration
598 Social Worker	648 IT and accountancy
599 Doctor	649 I am a retiree - never thought about it
600 None	650 I never think as I am a housewife
601 Physiotherapist	651 Managing Director
602 Not so stressful job	652 Not available - I'm a housewife
603 Volunteer	653 Technician
604 Missionary	654 I'm old & I do gd thanks of all this
605 Mechanic	655 I would ot think of at the moment
606 Businessman	656 Security officer - i am satisfied
607 Engineer	657 Police
608 Doctor	658 Custom officer
609 Engineer	659 Teacher & Doctor
610 Customer service professional	660 CEO
611 Businessman	661 Religious leader
612 Company director	662 Doctor
613 Trainer	663 Teacher
614 Businessman	664 Business
615 Businessman	665 Teacher
616 Trainer	666 CEO
617 Doctor	667 Pilot
618 Finance	668 Housewife
619 Pilot	669 Teacher
620 Businessman	670 Air Stewardess
621 No qualification. As long as I am happily working	671 Don't know
622 Customer Service	672 Brand executive
623 Doctor	673 Sales executive
624 Teacher	674 Lawyer
625 Doctor	675 Technician
626 Don't know	676 Self-employed
627 Motivator	677 Lawyer
628 Musician	678 Self-employed
629 Desk job (eg: clerical)	679 Lawyer
630 Doctor	680 Businessman
631 Don't know	681 Now not working anymore, don't know what kind of jobs in the market
632 Hawker	682 Sales job
633 Own and manage my own business	683 Engineer
634 Owner of a restaurant	684 So old already, don't want to work. ok
635 Accountant, owning a business	685 Banker
636 Traveller, travel-related jobs	686 Engineer
637 Engineer	687 Artist
638 Chef	688 Writer
639 Teacher	689 Banker
640 Social Worker	690 Teacher
641 IT analyst	691 Manager
642 Property agent	692 Businessman
644 None	693 Food industry, own a shop
645 I am a retiree	694 Teacher
646 Finance	695 Social Worker

696 Businessman	746 Teacher
697 Businessman	747 Housewife
698 None	748 Banker
699 None	749 Doctor
700 Self-employed	750 Property
701 Doctor	751 None
702 Something i like	752 Present work-painter
703 None	753 Photographpy
704 None	754 Driver
705 None	755 Businessman
706 Teacher	756 Entreprenuer
707 Manager	757 Don't know
708 Businessman	758 Office work
709 Self-employed	759 Renovation contrator
710 Rich housewife	760 Own boss
711 Self-employed	761 Director of a company
712 Retiree	762 Teacher
713 Prime minister of singapore	763 Engineer
714 Healthcare workers	764 Taxi driver
715 Childcare industry	765 Own business
716 Businessman	766 Investment banker
717 IT personnel	767 Teacher
718 Self-employed	768 Engineer
719 None	769 Teacher
720 None	770 Housewife
721 Manager	771 Businessman
722 Engineer	772 Painter, Artist
723 None	773 Jack of all trades
724 None	774 Air Stewardess
725 Supervisor	775 Any job will do
726 Housewife	776 Doctor
727 Self-employed	777 Councillor
728 Don't know	778 Teacher
729 None since i am unable to work already	779 Doctor
730 Lawyer	780 Don't know
731 None	781 Same as above (Medical - related occupations)
732 Engineer	782 Technical specialist
733 Doctor	783 None
734 Never think about it	784 Manager
735 Anything that give good income	785 Teacher
736 Sales job	786 Education, environment conservation
737 Can't think of	787 None at the moment
738 Don't know	788 Teacher
739 Can't think of	789 Children's education related
740 Don't know	790 None
741 Own business	791 None at the moment
742 Never think about it	792 Actress
743 Maintenance	793 Doctor
744 Any occupation of higher post	794 Security guard
745 Can't think of	795 Teacher

796 Teacher	846 Police
797 Doctor	847 Businessman
798 Doctor	848 Businessman
799 Doctor	849 Business owner
800 Teacher	850 Business owner
801 Businesswoman - retail	851 Footballer
802 Seamen	852 Architect
803 Electrician	853 Teacher
804 Babysitter	854 Volunteer
805 Salesgirl	855 Business owner
806 General worker	856 Doctor
807 F & B waitress	857 Doctor
808 Salesgirl	858 Entrepreneur
809 Hawker	859 Entrepreneur
810 None	860 Engineer
811 None	861 Full-time housewife
812 None	862 Research Scientist
813 None	863 Teacher
814 Teacher	864 Engineer
815 None	865 Nurse
816 None	866 Businessman
817 None	867 Engineer
818 Teacher	868 Housewife
819 Nurse	869 Businesswoman
820 None	870 Clerical
821 IT specialist	871 Doctor
822 Teacher	872 Don't know
823 Bank officer	873 Businessman
824 Own boss, start own business	874 Engineering
825 Bartender	875 Businessman
826 Animator	876 Pilot
827 Don't know	877 Nurse
828 Factory worker	878 Doctor
829 Doctor	879 Accountant
830 Kitchen helper, because it has a good prospect	880 Construction worker
831 Doctor	881 Administrator
832 site supervisor	882 Teacher
833 Scientist	883 Professional
834 Businessman	884 None
835 Doctor	885 Entrepreneur
836 Fashion designer	886 Doctor
837 Doctor	887 Successful businessman
838 Army Lt.col	888 Lawyer
839 Fitness trainer	889 Cook, chef
840 Chef	890 Housewife
841 C.I.D (Police)	891 Don't know
842 Nurse	892 Secretary
843 Volunteer	893 None
844 Doctor	894 Own business
845 Businessman	895 Doctor

896 None	946 Architect
897 Engineer	947 Own business
898 Banking (Finance)	948 Small business
899 Pilot	949 Own boss
900 Judge	950 Nurse
901 Enterprise	951 Army
902 Own business	952 Accountant
903 Professional gambler	953 Seamstress
904 Doctor	954 None
905 Own business	955 Teacher
906 None	956 Childcare Nanny
907 Sales job	957 No education at all, so never think about it
908 Don't know	958 Self-employed businessman
909 Doctor	959 Own business
910 Housewife	960 Accountant
911 Own business	961 Childcare Teacher
912 Doctor	962 Driver
913 Teacher	963 Teacher
914 Own business	964 Teacher
915 None	965 Don't know
916 High-rank in Navy	966 Teacher
917 Teacher	967 Doctor
918 Childcare Teacher	968 Own business
919 Admin	969 Volunteer
920 Own business	970 Sales job
921 None	971 Not educate so never think about it
922 Volunteering	972 Own business
923 Carpentry	973 Businessman
924 Volunteer	974 In-charge of school (Principal)
925 Own business	975 Nurse
926 Teacher	976 None
927 Police	977 None
928 Teacher	978 None
929 Captain - sea	979 Doctor
930 None	980 Teacher
931 None	981 Don't know
932 Own business	982 Don't know
933 Teacher	983 Doctor
934 PR (public relations)	984 Artist
935 Teacher	985 Don't know
936 Volunteer	986 Doctor
937 Volunteer work	987 Hotel industry
938 Seamstress	988 CEO
939 Police	989 Retiree
940 Own business	990 Satisfactory with current occupation
941 Housewife	991 Pilot
942 Operation ass. (clerk)	992 Botanologist
943 Teacher	993 Sailor
944 CEO	994 None
945 Childcare Teacher	995 Businessman

996 Police
997 Teacher
998 Don't know
999 None
1000 CEO of a company
1001 One that give steady & good income like
management people
1002 None
1003 Be self-employed
1004 Self-employed
1005 Entertainer
1006 Nurse & Social worker
1007 Doctor
1008 To run a small business
1009 Any job
1010 Sales job
1011 None
1012 Government sector-related
1013 Police
1014 Job that deals creativity
1015 Sales & marketing line
1016 Administration/Human Resource
1017 Managing Director of a company
1018 Shipping line
1019 Teacher
1020 Manager
1021 Chef industry
1022 IT line
1023 Social Worker
1024 Clerk
1025 Own business
1026 Never think about it
1027 Can't think of
1028 Doctor
1029 Teacher
1030 Teacher
1031 Already have - research in biology
1032 Teacher
1033 Hospital line
1034 Businessman
1035 Don't know
1036 Can't think of
1037 Musician
1038 Shipping Executive
1039 Scientist
1040 Own boss
1041 Teacher

信 頼 の 時 代

——「日本人の国民性」調査および
「意識の国際比較」調査の観点から——

吉 野 諒 三

（文部科学省統計数理研究所 助教授）

1. 新たな時代への過渡期における信頼感の崩壊

本稿の目的は、我々の「国民性」調査で収集された人々の意識、態度、価値観等に関するデータに映し出された「信頼感」や関連する意識調査データについて、その統計量としての意味、時系列的比較や国際比較の問題点や可能性について概観することである。

この十数年間、東西ドイツの再統合やソ連の崩壊等、冷戦後の世界の歴史的変革があり、他方、各地で「文明の衝突」という言葉に象徴される摩擦やテロ等が続き、ついには今回のイラク戦争へと繋がってきた。一地方の局地的摩擦が世界的な紛争へと繋がる危惧が、常に付き纏い続けている。この国際情勢に平行し、国内でも、伝統的工業社会から高度情報化社会への移行期にあり、確立していた従来の社会システムが崩壊し、それに依存していた人々の中の「信頼感」も崩壊しつつある。これが、家族のあり方、教育現場の混乱、職場の人間関係や職業倫理、政治や行政に関する信頼等の変化にも現れている。

しかし、これは人々の心が荒廃し、互いに信頼できなくなってきたということではない。今日、NGOやNPOの活動はかつて見られなかったほど盛んである（林・入山，1997）。おそらく、社会変化の過渡期にあり、人々の信頼のエネルギーが新たな時代への方向を模索して、通常の社会活動の枠外で発揮されているのであろう。それゆえ、社会資本としての「信頼」が国家や世界の政治や経済に与える影響を考慮すると、人々の信頼感が今後どのように変化するかを探求することの意義は深い。

こういった背景があり、この10年程、「信頼」について国内外で盛んに議論が展開されてきた。特に、著書『歴史の終わり』の中で、人々の気概（guts）が重要となる民主主義の発展と位置

づけた F. Fukuyama (1995) が、さらに著書 *TRUST* でこのテーマを扱って以降、広く論じられるようになった。彼は、日本や米国は高信頼性社会で、信頼感が社会資本として機能し、「家族」と「国家」の中間組織（ボランティア組織、大企業等）が発達し、それが経済発展に繋がったが、中国、イタリア、フランスは歴史的に中央集権が強かったために、血族の結束が強い一方、そのような中間組織はあまり発展せず、低信頼性社会となり、経済発展を妨げている、とした。我々は必ずしも、彼の言明をそのまま受け入れることはできないが、研究の重要な手がかりとして検討の価値はある。

Weber (1904-05) は合理性や職業倫理を民族に遺伝的に固定されたものと考えていたようだが、彼の時代以降の非欧州の人々の経済や科学技術の分析での成功は彼の観点を明白に退けるものである。例えば、日本も明治の開国時、国際貿易に乗り出した時、欧米からは必ずしも信頼されていなかったが、努力してそれを克服したのであった。ここに、今、新しい時代に向けて、再び「信頼感」確立のための各国の挑戦がある。

「信頼」には多様で、多次元的な側面があるが、例えば Hosmer (1995) は、これを広義の取引や交易上の信頼 (trust in transaction) と、倫理哲学上の信頼 (trust in moral philosophy) に分類する。後者は古い時代からの長い研究の歴史があるが、現代のグローバリゼーションの時代に焦点が当てられているのは前者であろう。

一方、Zucker (1986) は、「信頼」醸成に3つの様式があるとする。即ち、1) 過去の交換（取引）の経験に基づく信頼、2) 家族のあり方や人種等の人格特性（国民性等）に結びついた信頼、及び3) 公式の社会構造に結びついた制度（司法、行政等）に基づく信頼である。Shapiro (1987) は、この3) に対し、「信頼」は制度化でき得ないと批判している。また、Putnam (1995) は社会の「信頼」を社会参画の程度で測定しようとするが、Zucker は「信頼」は直接には測定でき得ないと議論する。この影響か、フクヤマ (1995) のように「信頼」を逆の発想で、「不信」に繋がる犯罪や離婚率等の統計により扱う研究者もいる。

2. 日本における計量的「国民性」研究

統計数理研究所では1953年以来、半世紀にわたり、多くの同一質問項目を用いて「日本人の国民性」に関する意識調査を行い、時系列的データを蓄積してきた（水野他, 1992）。この調査は、1948年の「日本人の読み書き能力」調査（文部省, 1951）とともに、戦後民主主義発展のための世論調査システム確立と緊密に結びついていた（吉野, 近刊）。この調査は、当初から継続調査を意図したのではないが、高度経済成長に伴う人々の意識の変化を目の当たりにし、継続調査の必要性を認識し、今日までの研究へと繋がったのである。

この研究は、1971年頃より、日本人の国民性をより深く考察するために、「意識の国際比較調査」へと拡張されてきた。調査された国・地域の幾つかは、言語や人種を共有しているために、

比較研究の興味深い対象となる。例えば日本人とハワイ日系人、ハワイ日系人とハワイ在住アメリカ白人、アメリカ人とイギリス人というように比較の連鎖を拓き、よりグローバルな比較可能性を追求することができる。今日では、この国民性の国際比較調査は「連鎖的比較(Cultural Link Analysis、CLA)」と呼ばれ、その基盤の上で「データの科学」(Yoshino, 2002b)が展開されている。詳細は水野他(1992)、林他(1998)、林(1993, 2001)、吉野(2001)を参照していただきたい。

これらの調査データ分析を通し、特に、「人間関係(家族関係や、義理人情)」の軸や科学文明観と結びついた「伝統-近代の対比」の軸の重要性が浮かび上がり、さらに「宗教・倫理観」の軸が加わり、各国の多様な国民性が展開する。また、一般的な回答傾向の国民差(例;日本人の中間的回答の選好傾向、フランス人の否定的回答傾向等)も判明してきた。

日本人の人間関係に関しては、1963年以降の25年間、義理人情を重んじる回答とそうでない回答のパターンが明瞭に分かれ、その安定性が確認されている。一方、「伝統-近代」については、日本では明治以来、近代化路線に乗って国家発展に努め、多くの面にわたって伝統と近代とを対比させる考えが形成されてきた。1953年からオイルショックまでの20年間は伝統的回答が強固になり、伝統・近代を常に対比させる考え方があった。しかし、1978年を境に、近代的回答が伝統的回答群の中に入り込み、異なる様相が現れ始めた。つまり、従来の意味での「近代化」が崩壊し、一種の伝統回帰傾向すら見られ始めた。さらに、今日では社会全体の雰囲気も反映し、方向が定まらぬ様相が続いている。

日本人の意識の大きな変化は、例えば「自然と人間との関係—利用すべきか、服従か、征服か」、「生まれかわれるとしたら、男か女か」という質問への回答に現れている。即ち、結果は「自然と人間」では1968年までは、「自然に従え」が減少し、「自然を征服」が増加する形で推移したが、1970年前後から顕著になった公害や環境問題に影響され、1973年には「従え」と「征服」の率が逆転し、それ以降「地球環境を守る」という意味での回答傾向が明瞭に現れている。時代につれて「自然」という言葉の意味のニュアンスが変化してきたことは、他の時系列調査においても言葉の意味の変化、延いては尺度や指標の時間変化について注意を喚起する。「男女の生まれかわり」については、男性はこの半世紀ほとんど不変で約9割が「もう一度男に生まれたい」であるが、女性は1958年には「男に」が64%、「女に」が27%であったのが徐々に変化し、ついに1998年には「男に」28%、「女に」67%と全く逆転した。男女共同参画が唱えられる時代に、象徴的なデータであろう。

一般に、政治や経済状況に関する人々の態度や意見は短期変動を示すことも多いが、人間関係のあり方や宗教的態度・価値観は半世紀を経過しても比較的安定しているといえる。また、連鎖的比較により、日本人に特徴的な人間関係(義理人情的態度)や宗教心(信心していない人も宗教心を大切と思う)は、ハワイ、米西海岸、ブラジルの日系人にも見られるのが確認さ

れている。一方、日本人の中間回答選好傾向は、ハワイやブラジルの日系人には見られるが、米西海岸の日系人には見られない。この辺りに、民族の共通性と社会環境の相互関係が浮かび上がってくる。(同様に、3節の「信頼感」についても、各地の日系人の社会環境の差異が影響していると思われる。図2参照。)

3. 「信頼」を測る —— GSS3項目による「信頼感」尺度 ——

冷戦時代、その世界情勢を背景に社会心理学では「信頼感」尺度の構成が種々試みられた(Osgood, 1960; Rosenberg, 1956; Rotter, 1971)が、米国のGSS(一般社会調査)(NORC-ROPER, 1986)では時系列調査データが収積されており、その中には以下のa)、b)、c)のような人々の「信頼感」を尋ねる3項目が含まれている。

a) たいていの人、他人の役にたとうとしていると思いますか、それとも自分のことだけ考えていると思いますか。

1. 他人の役にたとうとしている 2. 自分のことだけ考えている

b) 他人は、機会があれば、あなたを利用しようとしていると思いますか、それともそんなことはないと思いますか。

1. 他人は機会があれば利用しようとしていると思う 2. そんなことはないと思う

c) たいていの人、信用できると思いますか、それとも、常に用心した方がよいと思いますか。

1. 信頼できると思う 2. 常に用心した方がよい

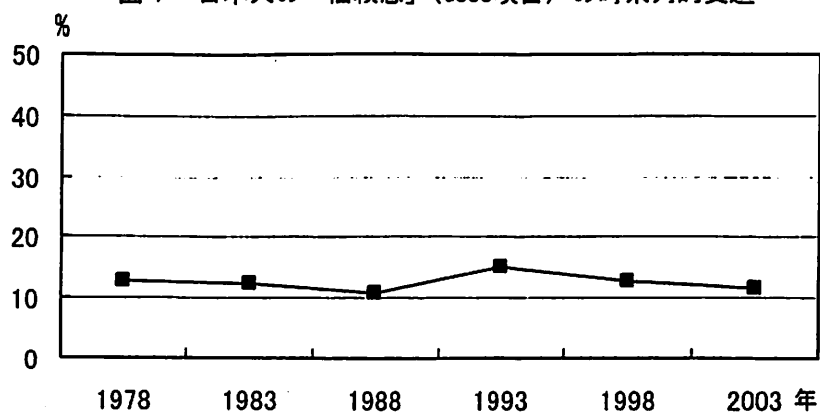
これらは、本来 Almond & Verba (1963)の研究で多数の項目から因子分析法により精選された項目である(項目cの表現については、Yoshino(2002a, p. 238)に議論がある)。

GSSは「日本人の国民性」調査に刺激を受けて開始されたのであったが、上記3項目は逆輸入され、「日本人の国民性」調査等で用いられている。「信頼」が直接測定可能か否か(Zucker, 1986)はともかく、上記のような意識データが人々の「信頼感」と全く無関係であるはずはなく、問題はそのデータがどのようにどの程度、それを表現し(本音と建前の問題)、どのように他の信頼感や社会資本の指標・尺度と関連し、また時系列比較や国際比較(各国民の一般回答傾向の差異の問題)に耐え得るか否かということである。

図1はこれら3項目全てに楽観的回答(aは1、bは2、cは1)をした日本人の割合を、この四半世紀にわたり示している。概して、この指標に関しては、日本人の「信頼感」は安定している。

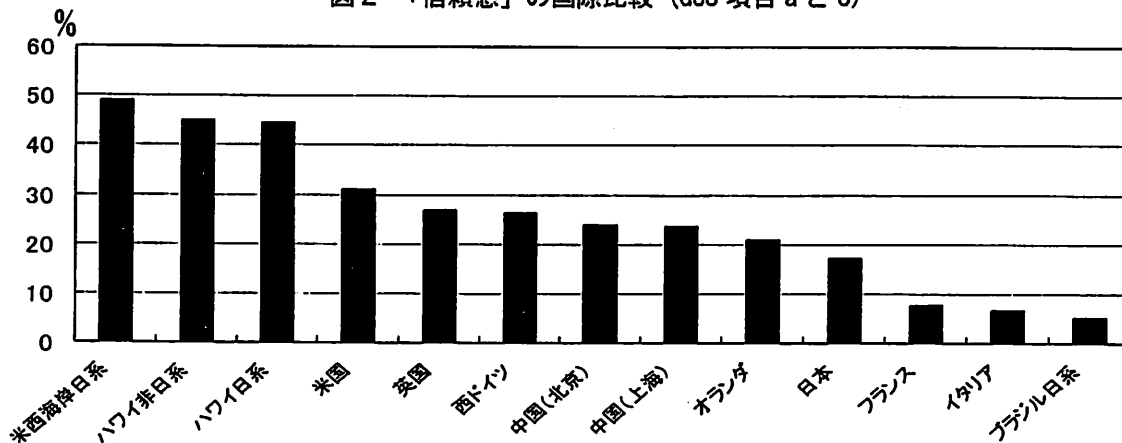
さらに、我々の国際比較調査データではYoshino(2002a)のFig.6のようになるが、海外調査の一部では、GSS3項目中a)とc)のみ採用した場合もあり、それらの国や地域も含めると図2のようになる。結果として、前者の比較にも加わっていた国々について、a)とc)のみでの順位と、a)、b)、c)すべてを用いた順位とはほぼ同じとなっている。特に、各地の日系人や中国人を含めたデータなので、先述のFukuyama(1995)の主張や、GSS項目のように一つの尺度で広

図1 日本人の「信頼感」(GSS3項目)の時系列的変遷



1978、1983、1993、1998(年)は統計数理研究所による「日本人の国民性」調査、1988は「国民性七か国比較」調査(林他、1998)、2003は「日本の国際化に関する調査」(佐々木正道代表)の結果。「信頼感」(GSS3項目全てに楽観的回答をした人々の割合)は、少なくともこの25年間、比較的安定している傾向にある。

図2 「信頼感」の国際比較 (GSS 項目 a と c)



調査年度は日本、米国1988年、英国、西ドイツ、フランスは1987年、イタリアは1992年、オランダは1993年、ブラジルは1992年、ハワイは1999年、米西海岸日系は2000年、中国(北京、上海)は2001年である。(但し、図1の日本の時系列調査結果では、GSS項目で計測された各国内での「信頼感」は時間的に比較的安定していると推察される。)

い範囲の国々の「信頼感」の国際比較可能性を追求することの是非に関する議論のために、参考となろう。

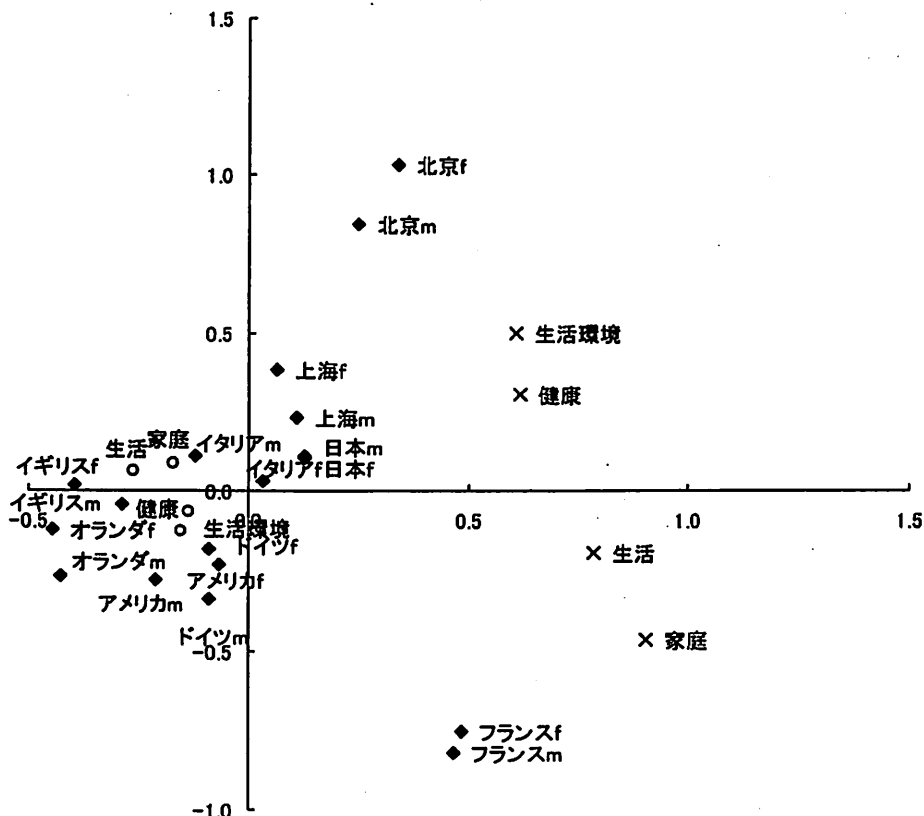
三宅(林他、1998、7章)は我々の日欧米の七か国比較調査データ分析の結論として、信頼感の男女差(一般に女性の方が楽観的)や宗教・信心の効果(宗派によらず信心をもつ人の方が楽観的)、教育や収入との関連等について報告している。我々はそれらの種々の要因が、各国の事情で異なる影響を与える可能性にも注意しなければならない。

「信頼感」が、比較的直接に人々間の関係や行動に影響を与えるのに対して、人々の「満足感」や「幸福感」はその社会の一般的雰囲気や特性づけ、また、人々の信頼感とも相互に影響を与えあうこともある。ここでは、参考として生活、生活環境、健康、家庭の満足度を問う項目の回答データの数量化3類による分析（図3）にも触れておこう。

一般に、これまで満足感、各項目間の相関が高いことが確認されている。しかし、我々のデータでは満足感の高い方は、比較的すべての面で満足しているグループがまとまるが、満足感の低い方は、各々の不満の側面ごとに分離しているのが分かる。（各国毎の分析でも多くの国々が同様のパターンを示す。）円は大小の差はあっても、全て同じ形だが、円の欠け方は様々であるということか。これは、トルストイの「アンナ・カレーニナ」の冒頭、「幸せな家庭は皆似ているが、不幸な家庭にはそれぞれの様相がある……」という文章を思い起こさせるかもしれない。

また、いままで一般に他国間比較の枠組みでは、歴史的に中央集権が強かったために家族の結束が強くなり、信頼のあり方を含めて、多くの側面で比較的類似であるといわれてきたイタリア、フランス、中国が、心理的には「家庭」（家族のあり方）の満足度に差異があり（第2軸

図3 満足感による国の位置づけ（数量化3類）



○は「満足」と「やや満足」、×は「やや不満」と「不満」をあわせたもの。fは女性、mは男性を示す。各項目の「満足カテゴリー」は原点左側にまとまるが、「不満カテゴリー」は右側に広く各項目で広がっている。家族・血族の結束の強さで類似といわれるイタリア、フランス、中国に家庭の不満足度で様相の違いが浮き上がっている。（固有値は、横軸 $\lambda_1 = 0.35$ 、縦軸 $\lambda_2 = 0.25$ である。）

上下に生活環境・健康の不満足と生活・家庭の不満足が分布)、それらの三国、特にフランスと中国の異なる様相を現しているようだ(cf. Fukuyama, 1995, chapter11)。

一般に満足度の尺度と経済指標との関連については、注意が必要である。1980年代、日本が世界経済のトップクラスにあった時期でも、日本人の生活満足度はそれほど高くなく、世界の人々が不思議に思っていたが、この10年程の経済的昏迷にも拘わらず、最近の調査(『朝日新聞』、2003年1月8日発表)では、むしろ高くなっている。一方、全てに楽観的なブラジルは経済的には世界最大の債務国となるほどでも、幸福感や満足度は欧米や日本を超えていた(Inkeles, 1997)。また、男女の社会参画における平等感では、フィンランドは法律制度的には世界の最先進であるのに、人々の不平等感は最も高い(内閣府男女共同参画局, 2003)。このように、客観指標と主観指標との関係は単純ではない。

他に、「世界価値観調査」(電通総研, 1999)のように信頼の程度を裁判制度、国連、政治家、NPO等について直接尋ねた調査もある。例えば、『朝日新聞』2003年1月8日発表では、「政治家」は「占い」と同程度にしか信頼されていないという結果であった。しかし、Dogan(2000, p. 258)が述べているように「不信」の表明が常に好ましくない事態を現しているとは限らない。即ち、「…信頼の低下は、第一に政治的成熟の徴候である。民主主義が悪化したというのではなく、むしろ大多数の市民の批判精神が向上したのである。」

ここで、社会調査データ一般の国際比較可能性について触れておこう。

我々は国際比較可能性を追求する中で、CLAという方法論を開発してきた。CLAは、1) 時系列的比較の連鎖、2) 国際比較の対象の連鎖、3) 比較項目の連鎖を考える。そして、この3)において、指標の比較可能性と適用範囲に一種の相補性があることに留意している。即ち、グローバルに標準化された指標は各国間の概略的な様相を現せようが、各国の事情の差を考慮した深い分析に供するのは難しい。逆に、例えば特定の国の事情を詳細に考慮した敏感な指標は、それ以外の国々との比較には適さないことが多い。例えば、我々の扱う義理人情尺度(親や親戚に対する行動と恩人に対する行動の違いを測る項目)(吉野, 2001, p.104)は、日本人固有の人間関係を示す状況を扱い、日本人や日系人の人間関係の特徴を測るのに有効であるが、他の国の人々には、あまり有効ではないかもしれない。さらに、国際比較の際に調査項目の翻訳の微妙な差異や各国の標本抽出方法の差異に関わる問題を考えると、国際比較における各国同一条件の調査や尺度とは何かという大問題に直面する。

この問題へのアプローチとして、我々は、特定のテーマに関する指標や尺度(質問項目群)の集合からの標本抽出と誤差を考慮した理論を考えることになる。通常、「回答者の母集団」から標本を抽出する過程を考慮して抽出誤差を推定するように、「あるテーマに関する調査項目の母集団」から項目を抽出したと考え、その抽出誤差を扱うのである。この枠組みでは、翻訳過程における多少の表現の差異は、項目の標本抽出に伴う差異とみなせる。そして、それに伴

う回答誤差の下で、安定した回答パターンの特定を目指すのである (Guttman (1972) の Facet 理論も、類似の発想である)。例えば、ある単一の項目は同一言語ですら、その表現をわずかに違えただけでも大きな回答差を生じることがあり、仮に国際比較で2国間の回答分布の差を見出しただけでもそれが本質的なものか、単に翻訳上の効果か直ちには判断し難い。しかし、質問項目群に対する回答データを多次元パターン分析 (例; 林の数量化3類や吉野の superculture モデル) を適用すると、多少の表現の差や標本抽出法の差異に依らず、多国間の比較的安定した回答パターンが得られることがあり、我々はそれを測定における本質的な結果としてとらえるのである (吉野, 2001, pp. 57-61)。

「信頼感」については今後も多様な側面からの指標や尺度が提案され、その妥当性が検討されるべきだが、明確な操作的定義のもとで収集されたデータ上の指標が有意味であるか否かには留意すべきである (吉野, 1989)。一度、もっともらしいラベルがつけられた指標は、公表されると一人歩きをし、社会に大きな影響を与えてしまうことがある。

4. 富国信頼の時代へ —— 「信」と「富」との相補的發展へ ——

信は財を膨らませる。しかし、逆に財が信を一義的に定めはしない。かつて、Banfield (1958) は、「不信は貧者の文化である」と述べた。しかし、日本の「清貧」の思想は、人生の成功を収入の多寡で象徴させる米国流とは異なる (Yoshino (2002a) は収入や階級と「信頼感」との相関の各国の差異を示す)。貧しくとも人望のある者は、社会的には大きな資産をもっているのと同じ効果をもつとみなせることもあろう。

現在の社会混乱は、産業革命の時に、家内産業から工場での産業システムへと移行するに連れ、人々のあり方がゲマインシャフト的なものからゲゼルシャフト的なものへと移る時の混乱に類似している。その移行期には、伝統的な社会での暗黙の相互信頼の崩壊を、法律・規則等が補完した。今日の混乱も、やがて新たな社会システムが十分に確立すれば、その下で人々の間に新たな相互信頼が発展するのであろう。しかし、その過渡期の混乱を早く收拾するために、将来を見据えた社会共通の目的や方針、ルールが社会のリーダーによって明示され、人々がそれを尊重、遵守するようになることが必要であろう。

信頼はある程度安定した面もあるが、時代を超えて絶対的に固定しているのではなく、人々が努力して高めていくものであろう。例えば、日本も明治の開国期には国際貿易において海外から不信の眼で見られていたが、信頼確立という困難な事業を、年月をかけて着実に達成したのである (角山, 1995)。21世紀の今日、再び国内外の「信頼感」を高揚させることができぬ理由はない。問題は、先進モデルがあった時代と異なり、自ら新しい世界秩序の中で成功の指針を創造していかねばならぬ困難さに直面していることである。

この問題解決には、世界中から人種、世代、性別等を超え、最適の知恵を結集することが重

要であり、高度情報化産業の時代への飛躍の必要条件に思える。冷戦期、盛んに「囚人のジレンマ」等の「ゲーム理論」が展開された。今後は、世界がゼロ・サム・ジレンマではなく、プラス・サム社会へと向かっていくことが望まれ、その鍵となるのが人々の「信頼」であろう。川勝(2000)は「富国有徳」を掲げるが、中国が国際的信頼の確立のために「徳治(人治)主義」の失敗から「法治主義」へと移行する中で、私は国の富と人々の信頼が相補的に発展していく「富国信頼」を唱えたい。

<参考文献>

- Almond, G. A. & Verba, S. (1963), *Civic Culture*, Boston: Little Brown.
- Banfield, E. C. (1958), *The Moral Basis of a Backward Society*, The Free Press: NY.
- Dogan, M. (2000), "Deficit of confidence within European democracies," in M. Haller (ed.), *The Making of the European Union*, pp. 243-261, Springer-Verlag: Paris.
- Fukuyama, F. (1995), *Trust*, Free Press: NY, (加藤寛訳『「信」なくば立たず』三笠書房, 1996) .
- Guttman, L. (1972), "The concept of common range," (unpublished paper), pp. 1-5, in Levy, S. (ed.), *On Theory and Methodology: Selected Writings*, pp. 37-41, Dartmouth Publishing.
- Hosmer, L.T. (1995), "Trust: the connecting link between organizational theory and philosophical theory," *Academy of Management Review*, 20, 2, 379-403.
- Inkeles, A. (1997), *National Character*, Transaction Publishers: New Brunswick, (吉野諒三訳『国民性論—精神社会的展望—』出光書店).
- Kuroda, Y. & Suzuki, T. (1989), "Language and attitude," in *Thinking across Cultures*, Topping, D.M., Crowell, D. C. & Kobayashi, V. N. (eds.), pp. 147-161, Lawrence Erlbaum Associates.
- NORC-ROPER (1986), *General Social Surveys, 1972-1986: Cumulative Codebook*, University of Connecticut.
- Osgood, C. E. (1960), "A case for graduated unilateral disarmament," *Bull. Atomic Scientists*, 16, 127-139.
- Putnam, R. D. (1995), "Bowling alone: America's declining social capital," *Journal of Democracy*, 6, pp. 65-78.
- Rosenberg, M. (1956), "Misanthropy and political ideology," *American Sociological Review*, XXI, 690-695.
- Rotter, J. B. (1971), "Generalized expectations for interpersonal trust," *American Psychologist*, 26, 443-452.
- Shapiro, S. (1987), "The social control of interpersonal trust," *American Journal of Sociology*, 93, 623-658.
- Weber, M. (1904-05), *The Protestant Ethics and the Spirit of Capitalism* (translated by T. Parsons), Routledge Classics.
- Yoshino, R. (2002a), "A Time to Trust," *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, pp. 231-260.
- (2002b), "An overview of cultural link analysis of national character," *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, pp. 125-141.
- Zucker, L. G. (1986), "Production of trust: institutional sources of economic structure, 1840-1920," *Research in Organizational Behavior*, 8, pp. 53-111.

- 電通総研・余暇開発センター (1999), 『価値観データブック』.
- 林知己夫 (1993), 「日本人の国民性」『Phase' 93』.
- (2001), 『日本人の国民性研究』南窓社.
- ・入山映 (1997), 『公益法人の実像』ダイヤモンド社.
- 他 (1998), 『国民性七か国比較』出光書店.
- 角山榮 (1995), 『アジア・ルネサンス』PHP 研究所.
- 川勝平太 (2000), 『富国有徳論』中央公論文庫.
- 水野欽司他 (1992), 『第5日本人の国民性』出光書店.
- 文部省 (1951), 『日本人の読み書き能力』東大出版部.
- 内閣府男女共同参画局 (2003), 『男女共同参画に関する国際比較調査』, 平成14年度調査.
- 吉野諒三 (1989), 「公理的測定論の歴史と展望」『心理学評論』, Vol. 32, No. 2, pp. 119-135.
- (1994), 「国民性意識の国際比較調査研究」『統計数理』, 42巻2号, 259-276.
- (2001), 『心を測る一個と集団の意識の科学一』朝倉書店.
- (近刊), 「日本における国民性研究」『国民性論』(A・インケルス著, 吉野訳), 付章, 出光書店.

AN OVERVIEW OF CULTURAL LINK ANALYSIS OF NATIONAL CHARACTER

Ryozo Yoshino and Chikio Hayashi*

The Institute of Statistical Mathematics has been conducting a longitudinal nationwide survey on the Japanese national character every 5 years since 1953. Since 1971, this survey has been extended to foreign nations for a more advanced understanding of the Japanese national character in the context of a cross-national comparative study. The main focus of a cross-national survey is the comparison of the social values, ways of thinking, feelings, and other relevant aspects of people from various nations. Another important purpose of our study is to investigate those conditions under which meaningful cross-national comparability of social survey data is guaranteed.

As the introduction in this special issue, we will explain our research paradigm, which we refer to as 'cultural link analysis', discuss the methodological problem of cross-national survey and give an overview of our past surveys. Finally, we will provide some comments for our future research.

1. Introduction

The last two decades have witnessed a rapid global change that has been leading us to the destruction of the traditional world order and the construction of a new one. Therefore, we are now undergoing the reconstruction of social trust (Fukuyama, 1999) for the next age. In this global reorganization, several military or political conflicts are occurring in certain areas, and they are potential threats to all the peoples on the earth. Each nation or race has its own culture, social value and way of thinking, which underlie its system of economy, politics, social life, etc. Therefore, the mutual understanding of these aspects with respect to each nation and/or race is the key to the peaceful development of the world in the time of globalization.

The Institute of Statistical Mathematics (ISM) has been conducting a longitudinal nationwide social survey (public opinion research) on the Japanese national character every 5 years since 1953, using the same questionnaire items (Hayashi, 1992a; Mizuno et al., 1992). Here the term "national character" means the characteristics shown in people's response patterns in these questionnaire surveys (cf. Inkeles, 1997). The question items cover various aspects of people's opinions about their culture, daily life, economy, education, environment, interpersonal relationships, politics, safety, etc. This survey research was started to establish a public opinion survey system based on a statistical sampling theory introduced from the USA immediately after World War II and to clarify the Japanese national character. This statistical and sociological survey must have been important at the

Key Words and Phrases: cross-national comparison, cultural manifold, cultural link analysis, Japanese, Japanese Americans, national character, public opinion, social survey, super-culture model.

* The Institute of Statistical Mathematics, 4-6-7 Minami-Azabu, Minato-ku, Tokyo, JAPAN 106-8569. e-mail address: yoshino@ism.ac.jp

time when Japan was expected to change from a military regime to a democratic country (Yoshino, 1997). Furthermore, stimulated by this survey, the World Value Survey (Abramson & Inglehart, 1995) was initiated and now covers forty nations. Currently, many countries have been carrying out similar time series surveys: Eurobarometer (EU committee), GSS (General Social Survey) in USA, Allbus in Germany, Credoc in France, etc.

Since 1971, this survey research has been extended to foreign nations for a more advanced understanding of the Japanese national character in the context of cross-national comparative study (Hayashi et al, 1973). The main focus of cross-national surveys is the comparison of peoples' social values, their ways of thinking and their feelings, more explicitly, their cultural identities, interpersonal relationships, leaderships, religious attitudes, social values on science and technology, politics, economy, social security, freedom of speech, etc. These aspects may yield psychological distances between nations or races which are evidenced in certain response patterns. Based on statistical survey data on these aspects, our research team has been attempting to clarify peoples' attitudes as well as the characteristics of their civilizations quantitatively. Our final goal is to develop a behaviormetric study of civilizations through social survey data as a social science. This will give us fundamental information for the peaceful development of the world (Hayashi, 1998, 2000; Hayashi et al., 1998; Yoshino et al., 1995a, 2000).

In order to be considered a scientific study, the cross-national survey must overcome a multi-faceted methodological problem. First of all, it is a difficult task to scientifically compare responses collected under different conditions. Since the different countries may utilize different languages and statistical sampling methods, there is no a priori knowledge as to how these varying conditions influence peoples' responses even in cases where there is no substantive difference between the peoples.

Thus, an important problem for our study is to investigate those conditions under which meaningful **cross-national comparability** of social survey data is guaranteed. This problem involves many analytical and methodological sub-problems; namely, among others, 1) the same questionnaire items must be written in different languages (i.e., translation problem), 2) comparison of data sets collected by different sampling procedures used in different countries, 3) characterization of the nations (or races), i.e., in which aspects and to what degree certain nations (or races) are similar or dissimilar to others and 4) the description of nations (or races) in terms of common logic, rather than logic particular to a certain nation (or race). These problems are, however, complementary in the sense that the solutions of these four sub-problems are related to each other, and this will be later clarified in our theoretical development.

Once we establish the methodology, we will be able to step forward toward a scientific foundation of cross-national comparison. This will be useful for the mutual understanding of peoples all over the world, for the prediction of mass behavior of a certain nation in response to a particular event, the prediction

of the attitude or political determination of a particular nation in international relations, the scientific understanding of the rise and fall of civilizations, the investigation of an ideal condition in Japan and the world for the development and the maintenance of world peace.

As an introduction in this special issue, we explain briefly the paradigm and history of our cross-national surveys. Considering the nature of an introductory paper, we shall keep the explanation of each section to a minimum and leave the details to references.

This introduction comprises Section 1. We will present an explanation of our research paradigm, 'cultural link analysis', in Section 2, the methodological problem of the cross-national survey, that is, cross-national comparability in Section 3, an overview of our past surveys in Section 4, and finally present some comments for our future research in Section 5.

2. Cultural Link Analysis

In our search for conditions which can guarantee meaningful cross-national comparability of social survey data, we decided that beginning our study by a comparison of two nations (or races) which have some similarity or dissimilarity, e.g., in their racial origin or language, would have more meaning than attempting to begin from a comparison of two totally different nations (or races). Therefore, our task is to investigate in what aspects and to what degree the peoples of the nations (or races) involved are similar or dissimilar to each other.

Table 1: List of our past surveys

1971	Japanese Americans in Hawaii
1978	Honolulu Residents, Americans in the Mainland
1983	Honolulu Residents
1987	Britain, Germany & France
1988	Honolulu Residents, Americans in the mainland of U.S.A., the Japanese in Japan
1991	Japanese Brazilians (JB) in Brazil
1992	Italy
1993	The Netherlands
1998	Japanese ancestry Americans in the West coast of U.S.A.
1999	Japanese Americans in Hawaii

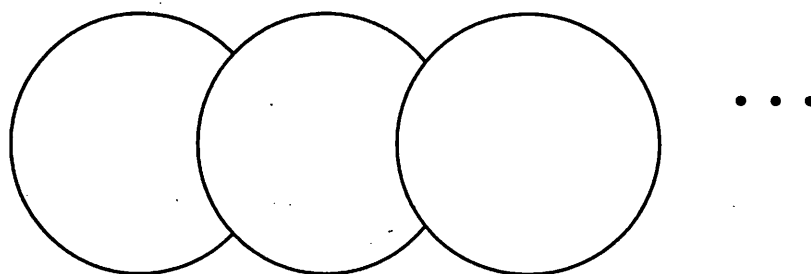
(All these surveys are based on the nationwide sampling data.)

Our cross-national survey was started with the comparison of the Japanese in Japan to Americans of Japanese ancestry in Hawaii in 1971. Table 1 is a partial list of our past cross-national surveys since 1971. Some of those nations or areas share certain common features such as race or language. Therefore, they provide

meaningful links for comparison: it becomes meaningful to see what aspects and to what degree certain pairs of nations are similar or dissimilar to each other. Extending the chain of links, eventually we obtained a chain of global cross-national comparison. (This idea came to Hayashi when he carried out a nationwide survey of USA in 1978.) (See Figure 1 for an illustration). Therefore we call our research methodology **cultural link analysis (CLA)** for cross-national comparison (Hayashi, 1992a; Hayashi et al., 1998).

More precisely, CLA includes the following three subjects: a spatial link as described as above, a temporal link inherent in longitudinal analysis (e.g., Japanese national character survey by ISM), and an item-structure link inherent in the commonalities and the differences in item response patterns within and across different cultures (cf. Guttman, 1982).

The Japanese in Japan
& The Japanese in Hawaii



Non-Japanese in Hawaii
& Non-Japanese in USA

Figure 1: Cultural link analysis

This methodology can be considered as an example of **Data Science** in the field of statistics (see Hayashi et al., 1998; Yoshino, 2001) (“Data Science” has recently emerged as a sort of reaction to the development of mathematical statistics which we believe has ‘strayed too far away from the real world’. It is closely linked with the philosophy of Tukey’s (1962) philosophy of “exploratory analysis.”)

We intend to develop our theory on data science under the **principles of complementarity** (cf. Heisenberg, 1949) toward a certain practical problem in the world. Here the meaning of “complementary approach” is multi-fold, and it covers the following aspects:

- 1) Complementarity in the methodology: data collection vs. theory.
- 2) Complementarity in the range of aspects to investigate: analysis of a single aspect vs. synthetic study of various aspects.
- 3) Complementarity in the areas or nations to compare: local region vs. more global area.

- 4) Complementarity in statistical scaling: uni-dimensional scaling vs. multi-dimensional pattern analysis.

Some aspects of these complementary approaches can be seen in the analyses in Sec.4.

3. Cross-national Comparability

The procedure of our cross-national surveys generally consists of the following eight steps (see Yoshino et al., 1995b; Yoshino, 2001).

- Step 1. Making a Japanese questionnaire
- Step 2. Making a foreign language questionnaire (Back-Translation)
- Step 3. Choosing a survey sampling method (Steps 1, 2 and 3 are parallel.)
- Step 4. Completion of a semi - final version of the questionnaire
- Step 5. Preliminary survey on a small sample before finalizing the questionnaire
- Step 6. Nationwide survey (Data collection)
- Step 7. Data cleaning (including recoding of response categories)
- Step 8. Data analysis (cross - tabulation, pattern analysis, ...)

One should keep in mind that the problem of comparability of cross-national survey data is involved in all eight steps.

A brief explanation of the processes used in Steps 1, 2 and 3 follows. (The other steps will be dealt with in the remaining part of this special issue.)

Step 1. Making a Japanese questionnaire

When making a questionnaire, we first check to see whether there are relevant items used in past surveys that we can use as comparative data for the present survey. In our case, we have made use of the collection of question items used in the past surveys of the Japanese National Character survey, GSS, Credoc, Allbus, Eurobarometer, etc. In addition, we included some new items of our own. The history of all items used is listed on pp. 423 - 445 in Hayashi et al. (1998).

Step 2. Making a foreign questionnaire

If an item that we want to use has never been used in a cross-national survey, we need to translate it into a certain language(s) for cross-national survey. Here we explain the case where we used the Back-Translation (BT) technique to make an English questionnaire from a Japanese questionnaire (Yoshino, Hayashi & Suzuki, 1995).

The procedure of translation and back-translation in making foreign questionnaires is as follows. 1) A certain bilingual translates a certain Japanese question item into English. 2) Then another bilingual translates the translated English back into Japanese. 3) We compare the wordings of the original Japanese item and the back-translated Japanese item. If there is no difference between them, we may conclude that the translated English can be used as an equivalent to the Japanese question. If there is an essential difference between them, we have

to modify it appropriately (we may repeat the translation and back-translation process for confirmation, if necessary).

Occasionally, however, we had some difficulty in deciding whether or not a certain difference in wording was critical, even though we were sure that there was no grammatical error in the translation. This motivated us to carry out the following experimental survey. By a split half method, we made two homogeneous Japanese samples, and we administered Questionnaire A to one of these two samples (Japan A) and Questionnaire B to the other (Japan B), respectively. Here Question B consisted of those items in the **original** Japanese wordings, whereas Question A consisted of those items in the back-translated Japanese wordings. Note that the wordings of some items are completely the same in both Japan A and B, but the wordings of others have a slight difference between them. We compared the two sets of responses from Japan A and B.

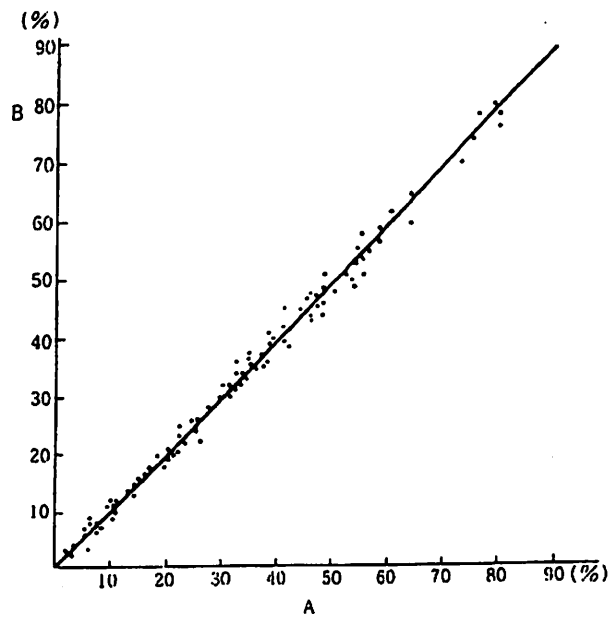
Figure 2a shows the variance of responses to exactly the same Japanese items in those two questionnaires, some in percentages. (Roughly the variance can be considered as sampling errors.) On the other hand, Figure 2b shows the differences of response percentages to the slightly different but corresponding items between Japan A and B. This shows that a slightly different wording of items may produce certain response differences, sometimes up to 10~15%. Therefore we have to be very careful when we compare response percentages of various nations in the same questionnaire but where different languages are used. That is, even if we find a certain difference of responses, we cannot be sure whether it is due to a real difference or due to a difference in wording.

Some people may think that a potential response difference up to 10~15% due to wording difference is too large, and that therefore, it is almost impossible to deal with cross-national survey data for comparative purposes in a scientific sense. However, the following result of pattern analysis gives us some insight on how to deal with this sort of comparative data.

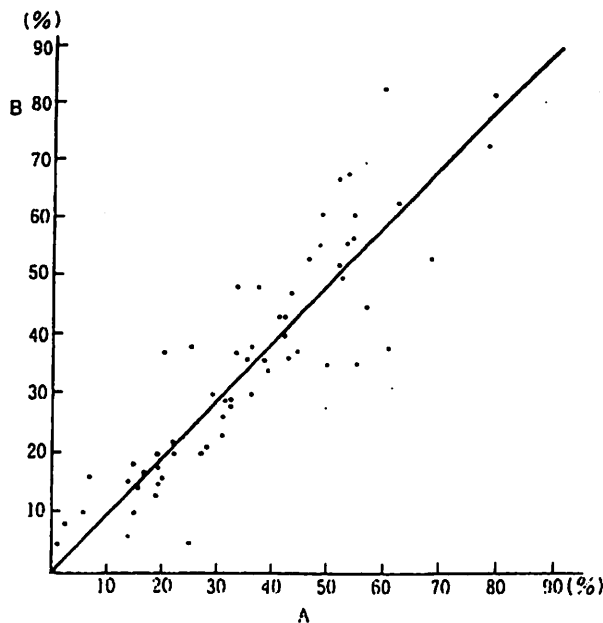
Figure 3 is the result of Hayashi's Quantification Method III (e.g., Hayashi, 1993) applied to the data sets of survey responses of several nations or areas for all the items of the same questionnaire. It is easy to see that the difference between Japan A and Japan B is so small, compared to the differences between several nations.

Therefore, this leads us to the conclusion that if we compare response percentages of two nations with respect to a single item, it may be difficult to see whether or not the difference is essential; whereas if we compare response patterns of several nations with respect to many items, we may be able to ignore the influence of minor differences in wordings involved in translation processes.

(Here we show the BT technique for the case where we make an English questionnaire from a Japanese questionnaire. In the case of, e.g., an Italian questionnaire, we translated the English into the Italian, then translated it back to Japanese. In the case where the original questionnaire was, e.g., in German, we translated it into Japanese sometimes through English).



- a. In the case where the wordings are completely the same in both Japan A and Japan B, there are some percentages of variance, which may be considered sampling errors



- b. In the case where there are some wording differences between Japan A and Japan B, the variance sometimes amounts up to 10-15%

Figure 2: Comparison of response percentages of Japan A (the back-translated Japanese questionnaire) and Japan B (the original Japanese questionnaire)

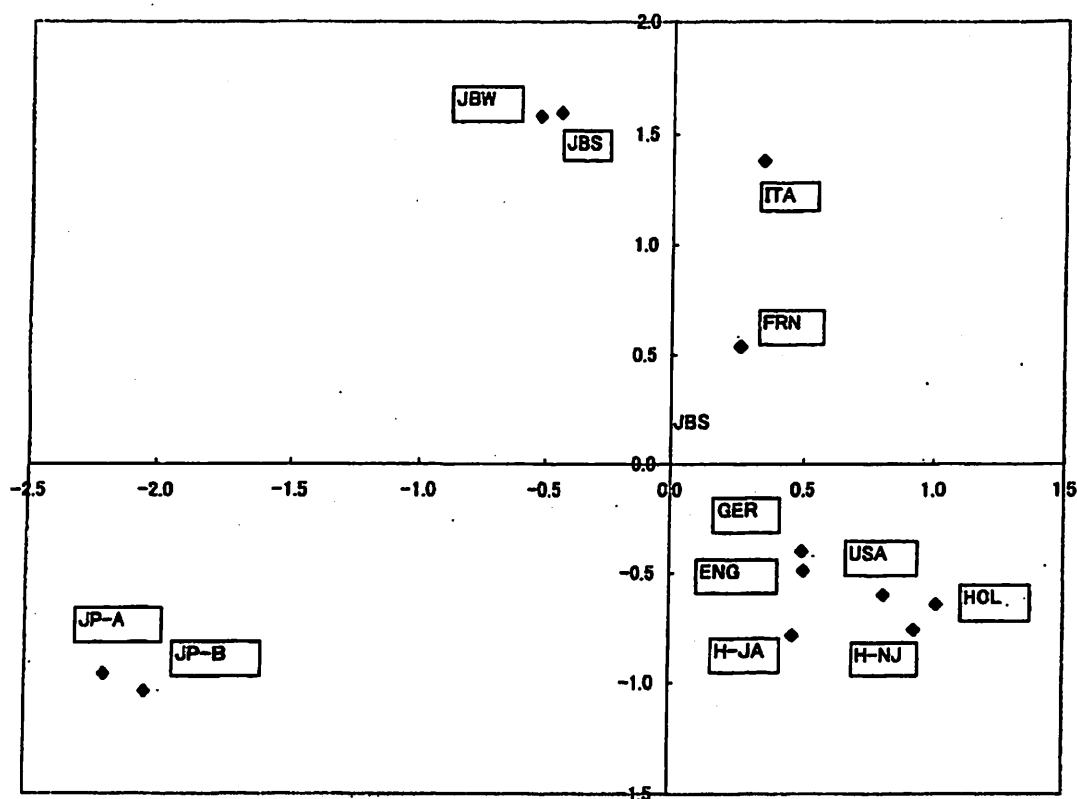


Figure 3: The result of Hayashi's Quantification Method III applied to the response data of all common items on several nations and areas. Note that the difference due to wording difference (Japan A & Japan B) or due to the sample weighting (JBS & JBW) is so small that we may disregard it in the global comparative framework.

It may be worthwhile to note here that in a bilingual comparative survey, some people may suspect that there may be response differences even in the same bilingual respondent when he/she is administered the same questionnaire in different languages. In order to investigate this problem, we carried out a certain comparative survey of Japanese and English bilinguals by the split half method (Hayashi & Suzuki, 1997), and we detected certain differences. Roughly, respondents of the Japanese questionnaire tended to avoid polar answers and to choose middle answer categories or "DK", whereas the respondents of the English questionnaire tended to choose polar categories ("very..."). Moreover, the Japanese were as individualistic and optimistic as Americans if they were responding to a question in English (cf. linguistic relativity, Sapir & Whorf hypothesis). See Hayashi and Suzuki (1997) for more detailed explanation.

Step 3. Choice of survey sampling method

In the scientific social survey, we usually use a statistical random sampling on the population under investigation. In cross-national comparative surveys,

however, we cannot avoid situations where each country uses its own traditional method of sampling. For example, many European countries use random-route sampling, and many survey agencies in Britain and USA use quota sampling. In addition, some agencies often modify the response percentages by weighting the questionnaire with respect to age, sex, rate of absence, etc. These differences also seem critical to cross-national comparability. For the comparability under question, the following comparative analysis would be suggestive.

We carried out a Japanese Brazilian survey in 1991 (Hayashi et al., 1991). Because of the spatial distribution of Japanese Brazilians in Brazil, we needed to adjust the data with respect to sampling points and the number of Japanese Brazilians in each family. However, we had to assign unusually large weights to certain sampling points because of large regional discrepancies of population densities in Brazil. For simple tabulation, it may seem reasonable to consider even such large weights. However, once we proceed to, for example, cross-tabulation or multivariate analyses, we are not sure as to how such large weights influence the variances of statistics of our concern. See Figure 3 for the comparison of the two sets of data: a) the weighted sample data of Japanese Brazilian (JBW) survey with respect to sampling points; b) the non-weighted sample data (JBS). As in the case of comparison of the two Japanese surveys (Japan A and Japan B), the difference between the two sets of data is so small that we can ignore it for the comparison of several countries in the pattern analysis of responses with respect to various items.

4. Overview of Our Past Surveys

In this section, we briefly explain some results of our past survey. Since the explanation is kept to a minimum, please see the references for the details.

4.1 Longitudinal analyses of Japanese national character survey (1953-present)

As mentioned in the introduction of Sec.1, the longitudinal survey on the Japanese national character is one of the main data sources for cultural link analysis in our survey research. We have found a central dimension that shows the characteristics of the Japanese people and the society which can be labeled as modernization vs. tradition. Various aspects of Japanese social systems are concerned with this dimension (e.g., views of nature, acceptance of science and technology, etc.) in one way or another. In fact, it has been showing up in the acculturation and acceptance of European cultures since the beginning of Meiji era (1868) following the national isolation of Tokugawa shogunate for some 300 years (1635-1858). This dimension may represent a sort of conflict between innovation and conservation.

We have found also that five enduring predominant values held by more than 2/3 of the Japanese without any regard to age, education, and gender over some

five decades are: 1) fairness on the employment question (Q.48), 2) preference for Japanese style gardens (#9.3), 3) preference for a workplace to be governed by the rule of primary group relations (paternalistic department chief, family-like firm) (Q.50, #5.6b), 4) only 1/3 of the Japanese have religious faith, but most non-religious Japanese also think that a religious attitude is important (Q62a-2 & Q63-1). (Note. These numbers such as Q48 are an item in the comparative survey of seven nations (Hayashi et al., 1998), and those such as #5.6b are items in the Japanese national character survey (Mizuno et al., 1992).)

It is natural to think that some changes must be connected with 1) transformation of Japan into post-industrial era, 2) collectivity to individual orientation (The number of people "going my way" is decreasing.), 3) liberalization: subjects to citizens (becoming more democratic). Possible causes of these changes in Japan would be 1) the move from an agriculture-based economy, 2) a more affluent economy and 3) the internationalization of Japanese economy. See Hayashi and Kuroda (1997) for more details.

4.2 Macro comparison of several nations

1) Seven nations (1987-93)

With special financial aid from the Ministry of Education, we carried out a cross-national survey of seven nations: Japan, USA, Britain, France, West Germany (before the unification)(1987-88), Italy (1992), and the Netherlands (1993). This gives a typical example of a spatial comparative link. Applying a psychometric pattern analysis called a "super-culture model" (Yoshino, 1992), we found two main dimensions: a) European vs. Japanese and b) Latin vs. Anglo-Saxon (see Figure 4). In the dimensional coordinate, there are three clusters: a) Britain and USA (common origin & language), b) France and Italy (Latin nations and geographical neighbors), and c) Germany and the Netherlands (geographical neighbors).

A closer analysis of each item showed that Japan is similar to Germany and the Netherlands but dissimilar to France and Italy in one aspect (business life, living conditions etc.). On the other hand, Japan is similar to Britain and USA but dissimilar to Germany, the Netherlands, France and Italy in another aspect (attitudes, social values, views on future, respect of ancestors, marriage, etc.). It is generally known that the French tend to give a pessimistic answer to any question. See Yoshino (1998) for more details.

Here it may be interesting to show an example where an item which initially seemed to have nothing to do with national character in our cross national survey later was found to have some hidden relevance to national character. The item is as follows.

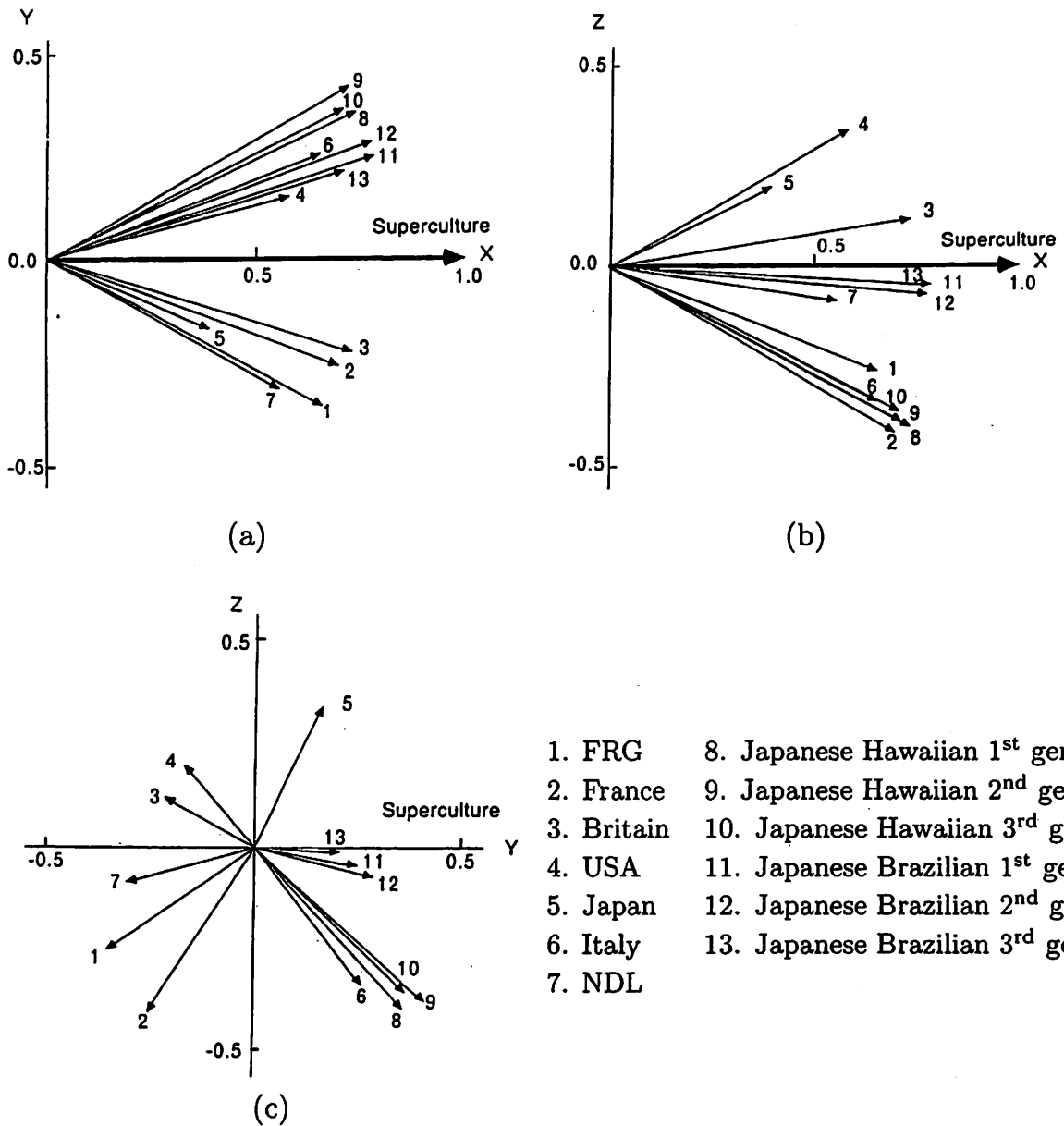


Figure 4: The Super-culture model applied to the data of seven nations, Japanese Brazilians, and Hawaii residents

Q14. During the last four weeks, have you suffered from any of the following?

	Yes	No	DK
Headaches/migraines	1	2	0
Backaches	1	2	0
Nervousness	1	2	0
Depression	1	2	0
Insomnia	1	2	0

We once thought that this item was about nothing but health problems, there-

fore, irrelevant to national character, and we deleted it in certain surveys. Later, however, we found a potential relevance of the item to national character. That is, it was found that the rates of those who claimed to have suffered from those health problems are higher among the women in France and Italy. Furthermore, the rate itself as well as the difference of the rates between men and women are the lowest in Japan (Hayashi et al., 1998, pp.129-128). All seven of the countries involved here are highly industrialized states. Thus, there seems to be no significant material difference in the stressful conditions of their environments. Therefore, the above-mentioned condition may be closely linked to the aspect of Japanese patience.

2) Japanese Americans in Hawaii (1971, 1978, 1983, 1988 & 1999), Brazil (1991) and the West Coast of USA (1998)

As mentioned before, our cross national survey started with a Hawaii survey project. This survey on emigrants gives us some important information about acculturation. For example, the general Japanese tendencies to avoid polar answers and prefer ambiguous or middle category responses (high DK rate) and that even the non-religious respect a religious attitude are conserved among people of Japanese ancestry in Hawaii, Brazil, and the West Coast of USA. Probably the language is a key factor of the ambiguity of the Japanese as well as the diffuse nature of the Japanese self (Hayashi & Kuroda, 1997).

Yamaoka (2000) compared the Japanese with other peoples with respect to the following two aspects: first, interpersonal relationships (harmony in family, relatives, coworkers, etc.) measured by the Giri-Ninjo scale (Q40-2, Q41-1&Q42-2, Q48-1&Q49-2, Q45-a&b, Q50-2), which shows a degree of emotional conflict between obligation and warm heartedness (Figure 3, Yamaoka, 2000) and second, religious attitude measured by Q62 & Q63 (Table3, Yamaoka, 2000). (Note that the number of Q is the item number used in the comparative survey of seven nations.)

Briefly, the Giri-Ninjo scale captures the interpersonal relationships particular to the Japanese. On the other hand, the rate of those who have a particular religious faith (about 1/3) is smaller in Japan than in the other countries. But, among those people who do not have a particular religious faith, the rate of those who think that religious attitudes are important is the largest in Japan. These tendencies are more or less conserved among the people of Japanese ancestry in Hawaii, in the West Coast of USA and in Brazil (Hayashi et al., 1998; Yamamoto, 1992; Yoshino, 1999).

4.3 Detection of falsified data

It may be useful to also explain our comparative survey of bilinguals of English and Arabic (Kuroda et al., 1997) in order to give an example where we detected falsified data. (For the possible sources of forgery in social survey, see Hara's (1992) report.) As shown in Sec.3, Hayashi's Quantification Method III cancels

out minor differences of wordings of items and those of sampling methods, and gives us a stable macro pattern. In addition, it is shown here that this type of macro pattern analysis can detect the forgery of data in a certain condition.

We administered the same questionnaire in different languages to two homogeneous groups of bilinguals of English and Arabic in the USA and in some areas of the Middle East by the split half method. However, the samples were students in those local areas and therefore, not representative random samples.

The first survey was carried out in the USA (Los Angeles). Since this was our first experience to collect data on the Arabic people, at the beginning we did not have any clue as to whether or not the data was adequately collected. Later, however, it was found that the graduate student who worked as the survey supervisor faked the data himself. As evidenced in this case, we cannot detect forgery of data collected on a certain race that is not familiar to us unless we have additional information on the data.

We can, however, detect certain extraordinary patterns in the comparison of other data sets. Figure 5 is the result of the application of the Super-culture model (Yoshino, 1992), a sort of psychometric model, and it gives us another example of macro analysis on cross-national survey data. In this model, the existence of a "super-culture" (a sort of average image of those samples or nations under comparison) is assumed, each sample group is represented as an arrow in the multi-dimensional coordinate (e.g., X-Y-Z coordinate), the degree of conformity of each sample group to the "average image" is represented as the X-component, and the matching rates of responses of pairs of sample groups are represented as the cosine angle of the corresponding arrows (if the angle between two arrows is smaller, the response patterns of corresponding two sample groups are more similar to each other).

In Figure 5 a large discrepancy can be immediately seen between "1 and 2 (the faked data)" and other data. Note also that Figure 5c shows two clusters (the right half and the left half), one corresponding to those samples who responded in English, and the other in Arabic. Interestingly, the faked data sets of "1 and 2" also are consistent with the clustering of English and Arabic groups.

Although, of course, no statistical method alone can automatically detect forgery, the above-mentioned example shows how we can utilize a sort of macro-pattern analysis to see a certain abnormality.

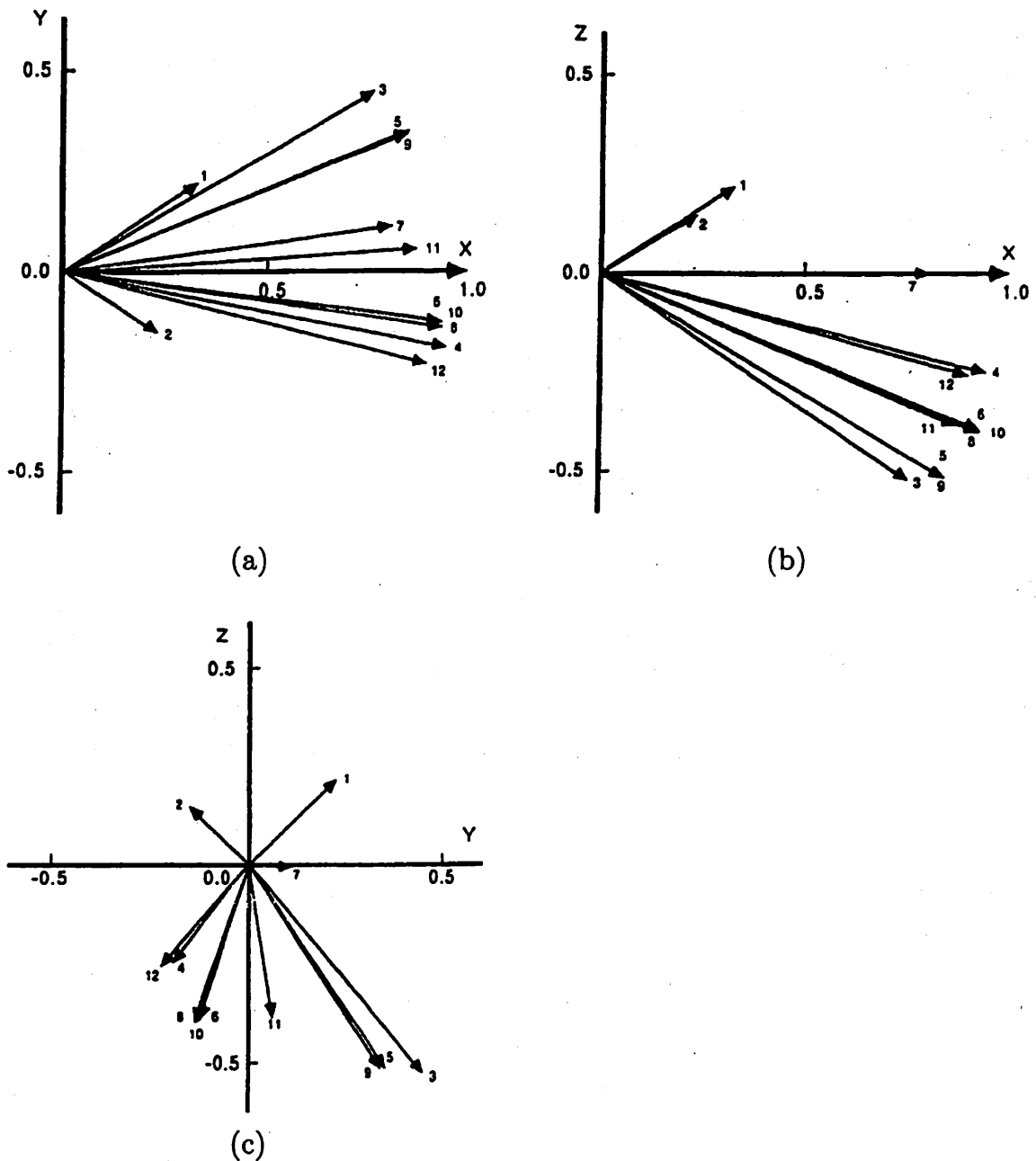


Figure 5: Comparisons of responses of bilinguals of Arabic and English to the same questionnaire but in the different languages. At each location, the same questionnaires but in two languages were administered to two homogenous Arabic bilingual student samples, respectively: Arabic questionnaire to one group and English questionnaire to the other group. 1 & 2 and 3 & 4 in USA; 5 & 6 in Amman; 7 & 8 and 11 & 12 in Cairo; 9 & 19 in Jordan (The even number and odd numbers correspond to the English and the Arabic, respectively). Two clusters were found: one for the Arabic group and the other for the English group (the right half and the left half in the Y-Z coordinate, respectively).

5. Towards a New Trustful Social System in the 21st Century

The Japanese mind is the world of an ambiguous self, multiple realities, and multi-valued attitudes (Hayashi & Kuroda, 1997). Occasionally, Japan is considered as a homogeneous society with respect to individual opinions, but this is not the case in reality. Simply because the Japanese tend to refrain from making definite commitments in order to avoid possible conflicts, they often appear to be ambiguous and homogeneous.

A new style of society demands a new style of trust system. Bringing this about would first necessitate the destruction of the traditional trust system. Could we make use of Japanese ambiguity as a strategy to cooperate on a multi-cultural level to avoid conflicts between different cultures or races within and between countries? Or, will Japan have a harder time under the reorganization towards a new trustful social order because of their ambiguity?

The history of Japan has repeatedly shown us the importance of consensus for the maintenance of stable society. However, at the times when the Japanese faced rapid social changes, such as in the Meiji Civil Revolution or during WW II, the Japanese needed **quick decision makers** rather than consensus seekers in the responsible positions of government. Japan succeeded in the former case, whereas she failed in the latter case.

Now we are facing another change for the new century. And it is certain that responsible quick decision-makers are needed in the economy, politics, administration, education and research, as well as in many other organizations, to direct the transition from traditional rules and social systems to those of a new age with highly advanced information technology. A leader in Japan would have to think about the balance between traditional consensus seeking and quick decision making in the transitional age, as would the leaders all over the world.

Acknowledgement

The Ministry of Education, Science, Culture & Sports, the Toyota Foundation, and the Sasagawa Peace Foundation have financially supported our survey research for many years. The survey results have been published as a series of ISM Research Reports, in addition to appearing in many books and research papers in academic journals. We extend our sincere appreciation to the above organizations as well as to all who have given us their assistance and support in our work through the years.

REFERENCES

- Abramson, P. R. & Inglehart, R. (1995). *Value change in global perspectives*. Ann Arbor: The University of Michigan Press.
- Fukuyama, F. (1999). *Trust*. Tokyo: Free Press Paperbacks.
- Guttman, L. (1982). What is not what in theory construction. In Hauser, R.M., Mechanic, D., & Haller, A. (Eds.), *Social structure and behavior* (pp. 331-348). New York: Academic Press.
- Hara, J. (1992). *Hiteikei deita no syori-bunseki-hou ni kansuru kisoteki kenkyu (A fundamental study of the analyses on non-typical data.)* A report submitted to Ministry of Education.
- Hayashi, C. et al. (1973). *Japanese Americans in Hawaii*. ISM Research Report, No. 33. Tokyo: The Institute of statistical mathematics.
- Hayashi, C. (1992a). Quantitative social research—Belief systems, the way of thinking and sentiments of five nations—. *Behaviormetrika*, 19, 127-170.
- Hayashi, C. (1992b). Belief systems, Japanese way of thinking: Interchronological and international perspectives. *Social, Educational and Clinical Psychology, Proceedings of the 22nd International Congress of Applied Psychology*, 3, 3-34. Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.
- Hayashi, C. (1993). *Suhryoka [Theory and Methodology of Quantification]*. Tokyo: Asakura-syoten.
- Hayashi, C. (1998). The quantitative study of national character: Interchronological and international perspectives. In Sasaki, M. (Ed.), *Values and attitude across nations and time* (pp. 91-114). Boston: Brill.
- Hayashi, C. (2000). The future study on national character - to quantitative study on civilization from comparative study of national character - (in Japanese). *The proceeding of ISM*, Vol.48, No.1, pp. 33-66.
- Hayashi, C. & Kuroda, Y. (1997). *Japanese culture in comparative perspective*. London: Praeger.
- Hayashi, C. & Suzuki, T. (1997). *Shakai-chosa to Suryo-ka (Social survey and quantification methods)*. Tokyo: Iwanami-shoten.
- Hayashi, C., Yoshino, R., Suzuki, T., Murakami, M., Hayashi, F., Kamano, S., Miyake, I., & Sasaki, M. (1998). *Kokumin-sei nanaka-koku hikaku (Comparison of national character of seven countries)*. Tokyo: Idemitsu-syoten.
- Hayashi, C., Yoshino, R., Yamamoto, K., Kawai, T., Wakisaka, K., Miyao, S., Mori, K., Mizuno, H., Suzuki, T., & Hayashi, F. (1991). *Research on Japanese Brazilians in 1991*. ISM Research Report, No.74.
- Heisenberg, W. (1949). *The physical principles of the quantum theory*. NY: Dover Publications, Inc.
- Inkeles, A. (1997). *National character*. Transaction Publications.
- Kuroda, M. (1990). *Restrictions by mother tongue and the international mutual Understanding—survey on Arabic college students*. Toyota Foundation.
- Mizuno, K., Yoshino, R., Hayashi, C., Nishihira, S., Hayashi, F., Sakamoto, Y., Murakami, M., & Nakamura, T. (1992). *Nihonjin no kokuminsei (Japanese national character)*, Vol. 5. Tokyo: Idemitsu-Shoten.
- Tukey, J. W. (1962). The future of data analysis. *Annals of Mathematical Statistics*, 33, 1-67.
- Yamaoka, K. (2000). Variation in attitudes and values among Japanese Americans and Japanese Brazilians across generations. *Behaviormetrika*, 27, 125-151.

- Yoshino, R. (1992a). Superculture as a frame of reference for cross-national comparison of national character. *Behaviormetrika*, **19**, 23-41.
- Yoshino, R. (1992b). The unbiased BIGHT model and its application to the distinction of responses to a free-answer question in a social survey. *Behaviormetrika*, **19**, 83-96.
- Yoshino, R. (1995a). *Application of cultural link analysis for comparative social survey*. ISM Research Report, No.76. Tokyo: The Institute of Statistical Mathematics.
- Yoshino, R. (1995b). *Application of cultural link analysis for comparative social survey -manual of cross-national social survey on national character-*. ISM Research Report, No.77. Tokyo: The Institute of Statistical Mathematics.
- Yoshino, R. (1996). Degree of conformity for the cross-national comparative studies. In Hayashi, C. & Scheuch, E. K. (Eds.), *Quantitative social research*. Oplanden: Reske+Budrich.
- Yoshino, R. (1997). Introduction to an institute of public opinion survey-the Institute of Statistical Mathematics. *The Journal of JAPOR, YORON*, **79**, 82-90.
- Yoshino, R. (1998). A social quantum theory-for analysis the study of public opinion survey-. *Behaviormetrika*, **25**, 111-132.
- Yoshino, R. (2000). *The Japanese American on the West coast survey*. ISM Research Report No.84. The Institute of Statistical Mathematics: Tokyo.
- Yoshino, R. (2001). *Kokoro wo hakaru (Measurement of mind)*. Tokyo: Asakura-syoten.
- Yoshino, R. Hayashi, C., & Suzuki, T. (1995). Kokuminsei no kokusai-hikaku-chousa no tame no situmon-bun no sakusei (Construction of questionnaire for cross-national comparative social survey). *Koudou-keiryogaku*, Vol. **22**, No. 1, 62-79.

A TIME TO TRUST

– A Study on Peoples' Sense of Trust from a Viewpoint of
Cross-National and Longitudinal Study on National Character –

Ryozo Yoshino*

The objective of this paper is to overview people's sense of trust as it is reflected in the response data of questionnaire surveys. I will study the variability of people's trust systems in order to explore which aspects of their sense of trust are stable over many decades and which aspects are variable under the longitudinal changes of economical and political conditions. To begin with, I will explain briefly the history of our longitudinal and cross-national survey research on national character. Secondly, I will summarize some aspects of people's sense of trust in our longitudinal survey of Japanese national character. Thirdly, I will present cross-national comparative analysis of trust in our seven-country survey. Fourthly, I will consider the acculturation of the Japanese immigrants in Brazil, Hawaii, and the West Coast of USA. Finally, I will provide some comments for our future research.

1. Social Collapse of Trust in the Transition Period

The objective of this paper is to overview of people's sense of trust as it is reflected in the response data of questionnaire surveys. The background and the significance of this study are as follows.

The last decade has led to the rapid transition from the established social system based on traditional industry to the system founded on highly advanced information technology. Under the transition after the end of the cold war, domestic and international confusion, including military and/or political conflicts, has been incessantly occurring in various areas on the earth. Many people say that the style of international conflicts is also changing the traditional style of war in the face of the terrorism which occurred at the World Trade Center in New York. Each nation or race has its own culture, social value and way of thinking, and these underlie each nation's system of economy, politics and social life. Culture is a system that may unite the people within it, but it often excludes peoples outside it. In this sense, culture is a system of distrust to outsiders, and therefore, it can be a factor of collision between different peoples. Thus the mutual understanding of cultures in different countries and races is the key to the construction of a wider trust system for the peaceful development of the world in this time of globalization.

The above-mentioned global movement has also brought us confusion into our daily life. As a result, we are facing the collapse of our sense of trust in the tradi-

Key Words and Phrases: cross-national comparison, cultural link analysis, interpersonal relations, Japanese, longitudinal survey, national character, public opinion, social survey, superculture model, trust.

* The Institute of Statistical Mathematics, 4-6-7 Minami-Azabu, Minato-ku, Tokyo, JAPAN 106-8569. e-mail address: yoshino@ism.ac.jp

tional systems of education, ethics, family, law, marriage life, work environment and so on. This does not necessarily mean, however, that each individual has totally lost his or her interpersonal trust. For, nowadays, many people are engaged in activities of NGO or NPO more extensively and more intensively than we have ever seen (Hayashi & Iriyama, 1997). It may be that people's sense of trust and energy are being directed toward the development of a new interpersonal system under construction. Thus it is important to investigate how people's attitudes toward the traditional trust system will be changed in the near future.

Under these conditions, "trust" has been extensively studied for the past ten years or so, probably as a result of the transitional confusion which resulted in the aftermath of the end of the cold war. Namely, it is now necessary to consider how we can develop international trust in order to prevent conflicts between different countries, races or religious groups released from the control of the political ideologies of the old world system.

This topic has become distinguishably popular, particularly since Fukuyama (1995)'s influential book, "Trust". In his comparative economic theory, Fukuyama treated "trust" as a social capital and contrasted Japan, USA and Germany as highly trustful countries with China and Italy as less trustful countries. Although he focused on aspects of trust as a property of national character, there are various possible definitions of "trust," all of which may be roughly classified into "trust in transaction" and "trust in normative philosophy," as summarized in Hosmer (1995). The study of trust in normative philosophy has a long history, at least since Aristotle in the West or Buddha and Confucian in the East, but it is rare these days. On the other hand, the study of trust in transaction has been the focus of many papers published during these years of globalization.

Zucker (1986) pointed out three ways of trust production: 1) process-based trust tied to past exchanges, 2) characteristic-based trust tied to personal characteristics, such as family background and ethnicity, and 3) institutional-based trust tied to formal societal structures. (Shapiro (1987) criticized the third category because, he believes, trust cannot be institutionalized.) Besides, Zucker claimed that trust was not directly measurable. This may have had an influence on Fukuyama's methodology as he used various datasets concerning "distrust" such as crime rate, divorce rate, and unemployment rate. My focus in this paper is mainly on the second of Zucker's 3 ways of trust, although the three ways must be mutually dependent.

Miyamoto (in this volume) develops a theory of interpersonal relation derived from G. H. Mead's approach. In the theory, he presents a psychological framework balancing direct behavior and deep cognition for the understanding of, for example, the differences of character between the Japanese and Americans. His theory can be used also to explain the acculturation of Japanese Americans (or Japanese migrants in general) and the characteristic transitions from Issei and Nisei to Sansei, and so on.

Banfield (1958) regarded "distrust" as the culture of the poor. This motivates

us to investigate the relationships of peoples' sense of trust and their economic conditions. I will deal with this issue in the cross-national comparative data in the later sections.

Inkeles (1997) claimed that aspects directly related to economical or political conditions should not be regarded as part of "national character." It is reasonable, however, to assume that peoples of different countries may respond differently to certain economical or political items in a questionnaire (i.e., "Are you satisfied with your living conditions?") even under the same economical and political conditions, and that such differences of response patterns may be closely related to "national character." Then a real problem is to identify general tendencies of peoples' ways of responses, such as "Nation A tends to be more negative even under a good economical condition, whereas Nation B tends to be more positive in spite of a large amount of international debt."

In this paper, I will consider certain aspects of "trust" reflected in responses of questionnaire survey data in nationwide surveys. I will pay attention also to the variability of people's trust systems in order to explore which aspects of people's sense of trust are stable over many decades and which are variable under the longitudinal changes of economical and political conditions. As mentioned-above, some people say that "trust" is not directly measurable, but I believe that people's responses in questionnaire surveys can show certain aspects of their sense of trust if time series patterns or cross-national patterns of those responses are adequately analyzed. (I don't mean to imply that a certain established scale on the sense of trust can always work in the same way for cross-national and for longitudinal comparative studies.) This type of study is based on the methodology called "Science of Data" (Hayashi, 2001b; Yoshino, 2001c).

In Section 2, I will explain briefly the history of our longitudinal and cross-national survey research on national character. In Section 3, I will summarize some aspects of people's sense of trust in our longitudinal survey of Japanese national character. In Section 4, I will present a cross-national comparative analysis of trust in our seven-country survey. In Section 5, I will consider the acculturation of the Japanese immigrants in Brazil, Hawaii, and the West Coast of USA. Finally, in Section 6, I will provide some comments for our future research.

2. Some History on Our National Character Survey

The Institute of Statistical Mathematics (ISM) has been conducting a longitudinal nationwide social survey on the Japanese national character every five years since 1953, using the same questionnaire items (Mizuno et al., 1992). The survey is called "Nihonjin no Kokuminsei Chosa (Survey of Japanese National Character)". Although definition of the term "national character" may be very problematic, here it simply means the characteristic shown in people's response patterns of the questionnaire survey (Hayashi, et al., 1998; cf. Inkeles, 1997). The question items cover various aspects of people's opinions about their culture

and daily life. This survey was one of the foundations of the public opinion survey system based on the statistical sampling theory developed immediately after the end of World War II in Japan. The significance of this survey was clear at the time when Japan was expected to shift from the military regime to a democratic system in the latter half of 1940s (Yoshino, 1994). This survey stimulated many countries to carry out the same sort of time series surveys such as the World Value Survey, Eurobarometer by the EU committee, GSS (General Social Survey) of USA, Allbus of Germany, CREDOC of France, etc.

Since 1971, the survey of ISM has been developed to a cross-national comparative study for more advanced understanding of Japanese national character (Hayashi, 1973). The main focus of our cross-national surveys is the investigation of the statistical comparison of peoples' social values and their ways of thinking and feeling. More explicitly, our concern has been with cultural identities and people's attitudes toward economy, freedom of speech, interpersonal relationship, leadership, politics, public acceptance of science and technology, religion, social security, etc. These aspects may clarify certain similarities or dissimilarities which are represented by psychological distances between countries or races in certain statistical pattern analyses of responses (Hayashi, 2001a, 2001b; Hayashi et al., 1998; Yoshino, 1994, 2001c).

The cross-national survey, however, involves methodological problems. It is not a simple task to scientifically compare response data collected under different conditions. For different countries may use the same questionnaire but in different languages and employ different statistical sampling methods as well. In addition, there is no a priori knowledge as to how these different conditions influence peoples' responses even in the case where there is no substantive difference of opinions and social values between peoples (Yoshino, 2001c). Thus, an important problem of our study is to investigate those conditions under which meaningful cross-national comparability of social survey data is guaranteed. Yoshino & Hayashi mention this problem in the introductory paper in this special issue. There it is explained that we have been developing the methodology called CLA (cultural link analysis) by which we utilize the back-translation technique and statistical pattern analyses such as Hayashi's Quantification Method (Hayashi, 1992) or Yoshino (1992a, 1992b, 1994, 2001c)'s Superculture Model. The utilization of those pattern analyses as an important part of our methodology should be emphasized here again. Namely, although a simple cross-national tabulation of people's responses with respect to a single item may not be reliable because people's responses may occasionally be sensitive to slight differences in the wording of certain questions, certain pattern analyses or scaling on a set of items can be fairly reliable.

On the other hand, in this cross-national study, we have found some response tendencies particular to certain countries. It is said that, for example, the Japanese tend to avoid polar answer categories and to choose intermediate categories, whereas the French generally tend to give negative response to

any question. (Here I may be exaggerating these tendencies to make the points clearer.) I think that these tendencies should not be considered to be directly related to people's sense of trust, but that they are important for understanding the data in cross-national comparisons of public opinion or social values.

3. Japanese National Character Survey (1953-present)

Our longitudinal survey of Japanese national character shows some stable aspects of attitudes and social values of the Japanese (Hayashi & Kuroda, 1997; Yoshino, 1994). Among others, the stability of interpersonal attitudes and religious attitudes may distinguish the Japanese from other countries. That is, the Japanese show a higher score on the "Giri-Ninjo scale" than the other countries; although only one third of the Japanese have religious faith, more than 60% of the Japanese support the opinion that religious attitudes are important, as shown in Yoshino & Hayashi (in this volume) and Yamaoka (2000).

In this section, I will briefly explain certain fundamental dimensions of the Japanese social values, following which I will show some results of the analysis on the sense of trust in the Japanese along several dimensions.

3.1 Fundamental dimensions of the Japanese social values

Hayashi (1993) has identified two important dimensions which underlie the Japanese national character in the survey: 1) the dimension of interpersonal relationships ("Giri-Ninjo" attitude, or a sort of conflict of obligation and humanism that is particular to the Japanese interpersonal relationships) and 2) the dimension of a modern-traditional contrast in their way of thinking. On one hand, as mentioned-before, the Japanese interpersonal attitude has been stable, at least over the last half century, and probably much longer. This corresponds to the first dimension. On the other hand, for over 100 years since the Meiji Restoration in 1868, Japan has been doing her best to overtake western science and technology and to develop it into a Japanese adaptation. Probably this enduring effort has underlined the dimension of the Japanese traditional vis-a-vis a modern orientation in the Japanese way of thinking.

However, the Japanese way of thinking has been gradually changing, and there appeared a generation gap between people of 20-24 years old and those older than 25 years in our survey of 1978 (Note that the younger generation were born more than 10 years after the end of World War II. In 1956, the Economic White paper declared, "Japan is no longer in the post-war condition," and this symbolized the start of the high-speed development of industry and economy. On the other hand, however, Japan had to face many social problems concerning pollution as a result of the high-speed industrialization around 1970). Since the signs of the younger generation's changes appeared as early as 1978, their current way of thinking has become more complicated than ever. Furthermore, the Japanese are presently

in the confusion of the transition period from the established social system to a system of a highly advanced information age. In this confusion, some recent survey reports the majority of Japanese people's distrust toward traditional systems such as banking, bureaucracy as well as of congressmen, police, etc. (Central Research Services, Inc., 2000), in spite of the stereotype of the Japanese as a highly trustful nation (Fukuyama, 1995).

As mentioned before, in people's attitudes, values, or ways of thinking, there are some aspects that may change according to economic and political changes as well as some relatively stable aspects. In this section, I will go over several aspects relating to people's sense of trust in the longitudinal survey.

3.2 Sense of trust

Psychological studies of scaling on interpersonal trust have been developed in the past several decades (Rosenberg, 1956; Rotter, 1971). Many of these studies may have some methodological limitations due to the scaling being based on small size samples (at most hundreds) or on non-random student samples. The significance of such studies, however, may have been justified by the statement of Osgood (1960) or Rotter (1971): "It seems clear that disarmament will not proceed without an increase in trust on one or both sides of the iron curtain (Rotter, 1971, p. 443)." Now the iron curtain has been torn down for more than a decade, but new local conflicts have been incessantly occurring here and there on the earth. Thus the study of trust production necessitates the measurement of trust.

Zucker (1986) questioned direct measurement of trust, and Fukuyama (1995), probably influenced by Zucker's idea, used several objective measures related to distrust such as crime rate, divorce rate, or unemployment rate for the study of cross-national comparison of trust levels. Although it may be questionable whether trust can be *directly* measured or not, it is certain that people's responses in questionnaire surveys may provide us with some information on their sense of trust if some items are adequately chosen and the response data are adequately analyzed.

Three items have been used to scale people's sense of trust by the Institute of Social Research at the University of Michigan in their survey on "Americans' Quality of Life" (NORC-ROPER, 1986). Our survey of the Japanese National Character also has adopted the three items since 1978, and they are stated as follows (See the ISM Research Report No. 83, 1999, for the Japanese questionnaire. Note: All through this paper, figures, such as #2.12, correspond to the common item code of the questionnaire of our surveys. Except in some cases, I will leave the exact wording of items and the precise data of response rates to the ISM Research Report No. 85 (Sakamoto et al., 2000).)

- #2.12) Would you say that most of the time, people try to be helpful, or that they are mostly just looking out for themselves?
1. Try to be helpful,
 2. Look out for themselves,
 3. Other (PLEASE SPECIFY),
 4. Don't know.
- #2.12b) Do you think that most people would try to take advantage of you if they got the chance, or would they try to be fair?
1. Take advantage,
 2. Try to be fair,
 3. Other (PLEASE SPECIFY),
 4. Don't know.
- #2.12c) . Generally speaking, would you say that most people can be trusted or that you can't be too careful in dealing with people?
1. Can be trusted,
 2. Can't be too careful,
 3. Other (PLEASE SPECIFY),
 4. Don't know.

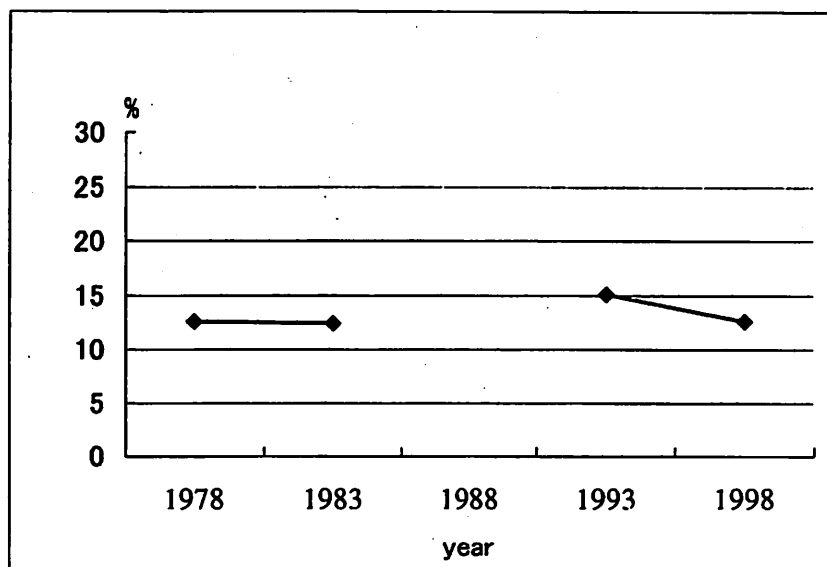


Figure 1: The trust scale of the Japanese on the 3 Items
 Note: The items were not asked in the 1988 survey.

Figure 1 shows the rate of those who chose optimistic categories in all the three items ("1" of #2.12, "2" of #2.12b, & "1" of #2.12c). (Note. In this paper, I frequently use the rate as a trust scale thus defined, although there must be some other possible definitions of a trust scale based on the response rates of these three items.) As far as the aspects of interpersonal trust on this scale are concerned, the Japanese people's sense of trust does not seem to show a remarkable change over the last two decades. Closer analysis shows that the younger generations generally have more positive attitudes on interpersonal trust (#2.12c) than the senior generations. Interestingly, the people who were 60-64 years old showed a remarkably low degree of trust in the 1998 survey. This category of people had not necessarily shown such a low degree of sense of trust when they were younger. Probably we should pay attention to the fact that they were children during WWII

and experienced a drastic social change from the military regime to democracy, in addition to having a hard time to survive in the time of famine during and immediately after the war. Furthermore, it is their generation who have reconstructed the once collapsed Japan into a highly advanced industrialized country. In 1998, most of people of this generation had attained the age of retirement of the lifelong employment system in Japan, the exceptions being high-class executives and self-employed workers. Under the economic depression of the 1990s, they were not able to get as high a pension as they had been expecting, and many of those people had a hard time finding new jobs. The above-mentioned data may reflect their distrust towards the social systems that did not sufficiently compensate them for their lifelong hard work and patience over the decades. (It may be interesting that people of this generation form a remarkable cohort in the sense that their opinions and values tend to be different from the other generations in many cases. See Mizuno, et al., 1992) (Note on #2.12c. Some people may doubt that the second answer category "can't be too careful" means distrust, because the response rate of this category is more than the rate of the first category "can be trusted" in many countries (Yoshino, 1995). NORC-ROPER (1986) shows the comparative survey data with respect to the effect of the second category: Case 1 to use the same wording as #2.12c and Case 2 to use the wording "can't be trusted." In Case 2, the response rate of the second category was smaller than the rate of the first rate, that is, more people answered "can be trusted." The same pattern of response change is confirmed in the surveys of Japan (See Sakamoto, et al., 2000, and Oosaka-syogyo University & Tokyo University, 1999)).

3.3 Distrust of politics

It is known that the Liberal Democratic Party (LDP), which acted as the governmental party for many years since 1955, rapidly lost the support of the people, and that the number of non-party supporters significantly increased in the first half of 1990s (see #8.7, #8.7g and #8.7h in Sakamoto et al., 2000). Here the term "non-party supporters" means those who do not specify support for any established political party in the survey.

Figure 2, however, confirms that the recent non-party supporters have not totally lost interest in politics (Miyake, 2001). They are concerned with politics, but they do not support any party because there is no established party that they want to support. In 1968, the lower level of education in general as well as the higher level of education in the middle age or older class lead them to become supporters of the LDP. As for the younger generation, the majority became "non-party," regardless of their academic backgrounds. In 1998, however, the majority in every class or category had become the non-party supporter, regardless of their demographics, ages, education, gender, and/or income. Particularly, more than 70% of the younger generation and of the classes with a high level education had become non-party supporters regardless of their age. This means that the most

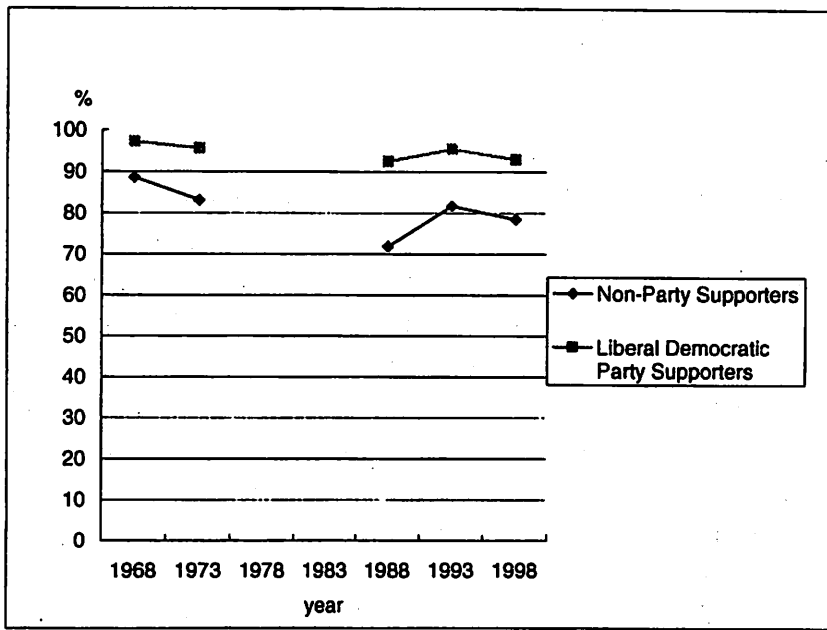


Figure 2: Interest in elections

clearly distinguishable trait of those who changed from LDP supporters to non-party supporters was their high level of education. Comparing the concern over voting of the non-party supporters in 1968 and in 1998, there is not much change over time (#8.6). Therefore, it can be suspected that the change of the quality and the quantity of non-party supporters has brought about the drastic change in the constellation of the Japanese political world in the 1990's.

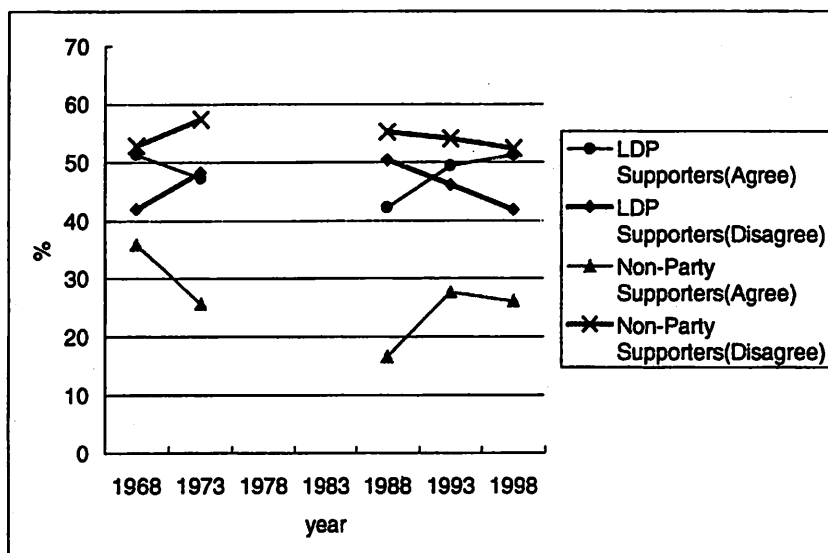


Figure 3: Trust on political leaders

Figure 3 shows a gradual decrease of trust towards political leaders in Japan, and this is consistent with the general observation in the multi-national comparative study by Dogan (2000, p. 248). (Interestingly, a sign of drastic political change was seen around 1989 in public polls of mass media, and the Japanese expected some significant change in the national election of congress in 1990, but Prime Minister Ohira's (President of LDP) sudden death during the election campaign seemed to have psychologically prevented the possible drastic change. Thus, the remarkable change was delayed until the election in 1993, which was termed as "the end of the established regime of LDP since 1955." Although matters directly related to economy and politics generally should not be regarded as part of national character (Inkeles, 1997), the delay of political change in Japan does seem to be closely related to the Japanese national character primarily because the Japanese usually prefer gradual change, and secondly, because their sympathy often goes beyond reason, as in the case when their sympathy at the time of Mr. Ohira's death caused them to forget or to ignore the severe criticism of the mass media against the Ohira Cabinet before his death.) Overall, the above-mentioned movement in Japan may at least partially explain the landslide victory of the current cabinet of Mr. Koizumi in the 2001 Senatorial Election as a strong repulsion to the past LDP cabinets. (Before the appearance of Mr. Koizumi as candidate for Prime Minister, non-supporters showed their distrust toward both the governmental party and the non-government parties.)

3.4 Distrust of science and technology

A definite change of attitudes and values in the Japanese occurred around 1973, when the Japanese had become more sensitive to the destruction of natural environments because of problems concerning pollution which resulted from the high speed industrialization after WW II and the oil shock in the global economy (#7.1 "science & loss of human feeling"; #7.2 "mechanization & human feeling"). It was the time when Prime Minister Tanaka's doctrine "Nihon-Rettou Kaizou (Reconstruction of the Japanese Islands)" caused a strong reaction of the people against his attitude associated with the destruction of natural environments. Although response patterns of some items in our survey remained stable, those of other items showed clear changes. An example of such a definite change can be seen in the views on nature (#2.5 "man & nature"). The item asks people what they think they should do with nature in order to be happy. The rate of people who chose the answer category "man must follow nature" began to increase around 1973. This increase is contrasted with the decrease in the response rate of the category "man must conquer nature" and the constant response rate of category "man must make use of nature." This can be interpreted an example of how people's concepts, such as their concept of "nature", change over time. The term "nature" has now become associated with a more innovative movement of environmental protection than in the past. It should be noted that this change of

meaning among the Japanese is not totally irrelevant to the global movement of “the return to tradition” in 1970s and 1980s in reaction to the “(western) modernization.” (This may be paralleled to the recent reaction to the “globalization”.) Thus, in conducting the longitudinal survey study, we should be aware of changes in the meanings of a certain terms over time. See Zheng and Yoshino (2003) for a more detailed explanation.

As for the ability of scientific technology, the Japanese were losing their confidence (#9.12 “level of science & technology in Japan”) as the economic conditions were declining in 1990’s (#9.12c). I suggest here that items such as #7.1 and #7.2 measure the sense of trust on a relatively long-term basis whereas #9.12 measures a particular aspect of the sense of trust on a short-term basis, although all these items are related to the people’s attitudes towards science and technology.

In 4.2.2., I will deal with the sense of trust on science and technology in cross-national comparison.

3.5 Distrust on work ethics

Weber (1904-05) claimed that the success of capitalism and industrialization in the West was attributed to the protestant ethic, e.g., the emphasis on diligence and punctuality. In order to explain the success of Japanese industrialization in Asia, he and other researchers (e.g., Morishima, 1984) paid attention to Confucianism because of its analogical role to Protestantism in capitalism. For the ethics of both Protestantism and Confucianism emphasize diligence, punctuality, observance of promise, and regulations in daily life; thus, society under Confucianism also was supposed to satisfy those necessary conditions for the industrialization of capitalism in the same manner as Protestantism did. (We, however, should be careful to remember that this supposition is not consistent with the fact that Confucianism does not necessarily put value on labor. See, e.g., Sengoku & Qian, 1992.)

However, the empirical facts do not seem to support such a theory. Confucianism was originated in China, and Japan had been only partially influenced by the philosophy. How can we explain the fact that the industrialization of Japan was faster than that of China in the 19th and 20th centuries, if Confucianism is the main factor for the success of industrialization in Asia? Furthermore, we should notice that Vietnam and Thailand are also advancing toward capitalistic industrialization although Confucianism has rarely influenced those countries.

It should be noted that the previously mentioned western view is strongly influenced by the idea of social evolution, or uni-dimensional development of social groups on a certain pre-determined track. Fukuyama (1995) wrote “The End of History” to give a perspective of a world after the end of cold war. By the term “history,” he meant a scenario of Hegelian and Marxist social evolution from capitalism to socialism, and eventually to communism. As he also has noted, however, such a scenario itself is constrained by the western view, and it ignores

a variety of possible ways of social developments in the real world history.

On the contrary, the rapid development of China, Korea, NIES, and the other South East Asian countries are exemplifying themselves that any country can succeed in modern industrialization by their efforts, disregarding their religion or ethics. Each country shows its own attitude for work, adapting itself necessarily to its own social conditions.

As for diligence as a factor of successful industrialization, the Japanese image as "diligent and patient people" seems to have been established among the Japanese themselves (#9.1 "strong points of Japanese character") and even among other peoples (Youth Affairs Administration Management & Coordination Agency, 1999). However, there is no evidence that the Japanese have been *always* more diligent than other peoples. Looking back to the past history of Japan, we must notice that the Japanese had to keep hard working in order to overtake the western world after the Meiji Restoration (1868) when a large part of Asia had been colonized by the western imperialism. Then the Japanese had spent a large amount of energy in order to accept and digest western science and technology, adapting it to the Japanese condition and improving it. Since the Meiji era, many Japanese have emigrated to foreign countries such as USA, Brazil, and other South American countries. They must have kept hard working in order to succeed in the those countries. They had frequent conflicts with the native workers because the Japanese immigrants accepted longer working hours and lower wages in order to survive (not because they particularly like working hard). These historical facts may have established the stereotype of the Japanese diligence.

Incidentally, Japan closed the country in 1648, except for a certain limited region such as Nagasaki, but succeeded in developing new industrial technologies during the Edo era (1603-1868). This domestic development eventually facilitated the modern industrialization when the Meiji era (1868-1912) started. (Umesao (2001) claims the modernization of Japan had started even before the Edo era, around the end of 16th century. It is called "Industrious Revolution" (Hayami & Miyamoto, 1988) in contrast to "Industrial Revolution." This is particularly the case of intensive agriculture. It does not necessarily mean that people had to spend much more time than before, although they had come to investing more resources into their limited fields.) There is no particular evidence that the Japanese had been more diligent by nature than other peoples simply because of the influence of Confucianism.

Now see Table (#2.4) the recent data on the Japanese preference of their life styles. The percentage of the Japanese who prefer "3. Don't think about money or fame; just live a life that suits your own taste" or "4. Live each day as it comes, cheerfully and without worrying" has been increasing. This trend is universally seen among the younger generation in many countries (Youth Affairs Administration Management & Coordination Agency, 1999). This may confirm that the attitudes toward work are not necessarily linked to certain ethics such as Confucianism, but they are variable under the social conditions, particularly

economic conditions (See Matsudo and Takada (2000, ch. 2) for a cross-national study of work ethics. They reported a cross-national study of the attitudes and values of the Japanese, Chinese and Vietnamese, considering their transitional stages of modern industrialization of capitalism.) In these ten years or so, Japan has been under economic depression after the collapse of the "bubble economy." Also Japan has been in the transitional period from the traditional industrial society to a society of highly advanced information technology. Accordingly, the employment system is also under reformation, and the sense of trust between employers and employees seems to be collapsing. This may be eventually lead to collapses of traditionally trustful systems such as the family and the school. Incidentally, the survey on issues of foreign workers in Japan (Prime Minister's Office, 2000) reports the increase of people's anxiety and concern about the rapidly increasing number of foreign illegal workers in these ten years or so.

Overall, it seems sure that these economic and political conditions are short-term factors influencing people's way of thinking or social values.

3.6 Summary of sense of trust of the Japanese

It has been suggested so far that some aspects of trust may be variable according to the economic and political conditions whereas other aspects may be more stable over time. Generally, the Japanese show stability on interpersonal trust. On the other hand, although the Japanese have the stereotype of diligent worker even among themselves (called the "economic animal"), their attitudes toward work or work ethics seems adaptive to their economic and political conditions. This may remind us of Banfield (1958)'s statement that distrust is a culture particular to the poor class. We should note that his statement can be contrasted with Fukuyama (1995)'s observation. Namely, Fukuyama stated that certain peoples such as the Japanese and Americans are more trustful than other peoples such as Chinese and Italians because the latter have had a long history of too strong political centralization and did not develop a trustful community beyond their families. I will consider this problem with cross-national comparative data in the next section.

4. Cross-National Comparison of Trust

In this section, I will overview several aspects of peoples' sense of trust shown in some data of cross-national surveys, which include the world value survey conducted in 23 countries and our own survey in seven industrial countries.

4.1 The world value survey and the Japanese Language Census

First, let us look at the data of the world value survey 1995, a well-known worldwide survey on peoples' social values. Figure 4 shows a general relationship on trust in a cross-national comparative framework of 16 countries in the survey

(Dentsu-Soken & Yoka-kaihatsu Center, 1999, pp. 270-285). This is an application of the Superculture Model (Yoshino, 1992a) to the response data of all the items directly concerning peoples' sense of trust in 15 organizations and institutions, such as administration, congress, government, legal system, police, labor union, religious sects, news media, and the United Nations. The answer categories are 1) "can be trusted very much," 2) "can be trusted somehow," 3) "cannot be trusted," and 4) "cannot be trusted at all." (Here I used the categorical modes of response percentages of each nation with respect to each item for the analysis. This is a way to extract more reliable information from statistics obtained under different conditions of sampling and languages.)

(In the Superculture model, the existence of an average image of those countries under consideration, called Superculture, is assumed, and it is represented as the vector (1, 0, 0, ..., 0). Each country is represented by vector, and the degree of conformity of each country to the Superculture is represented as the X-component of the vector. The matching rates of response modes of two countries are represented by the cosine angles between the corresponding two vectors. Therefore, if the response modes of a pair of countries are totally the same, the corresponding vectors overlap each other; if they are totally different, the vectors are orthogonal to each other. See Yoshino, 1992a, 2001a for more details.)

Although the World Value Survey covered 22 countries, I excluded six countries here because the necessary conditions for the application of Superculture model are not satisfied when those six countries are included. That is, their response patterns are very different from the other 16 countries, so that the matching rates of response modes are not always more than the average number of response alternatives for all the 22 countries. (This means that it is not appropriate to assume the existence of the "average image" of those 22 countries. Here the average image is supposed to be a framework for comparison.)

In the excluded countries, the Middle American countries such as Venezuela and Dominica were remarkable in showing their sense of distrust to most authorities except for religious organizations and environmentalist groups. Nigeria also showed the same distrustful pattern, but showed their trust to the United Nations. Slovenia shows more distrust consistently to all the organizations and institutions, although the degrees of distrust may be slightly weaker than for Nigeria. These patterns may reflect the domestic political confusions in those countries.

Figure 4 of Superculture model shows a sort of cultural link manifold: a cluster of south East Asia (Japan, Korea, Taiwan & Philippine), a cluster of Europe (Finland, Sweden, Russia, Germany, Spain, Switzerland, & Croatia), and a cluster of America (USA, Puerto Rico & Chile).

Next, Figure 5 shows a pattern by Correspondence Analysis of the Japanese Language Census of 28 countries conducted by the Institute of National Language in Japan (Mizutani (Ed.), 1999). Although the focus of the survey was on languages, the questionnaire included the items on the degrees of their sense of trust in 1) the Japanese people and 2) Japan, and as to how much they like

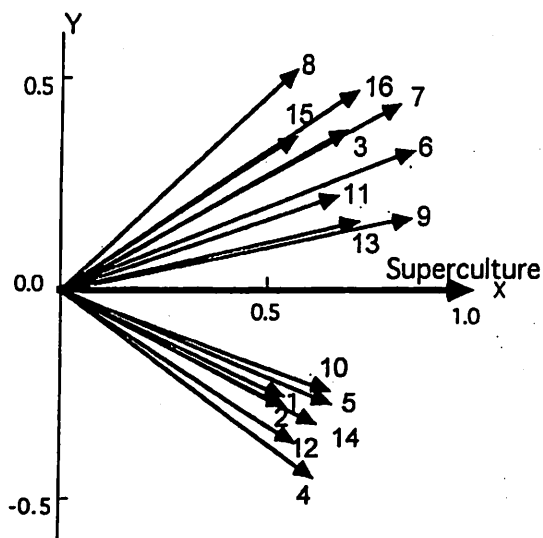


Figure 4a

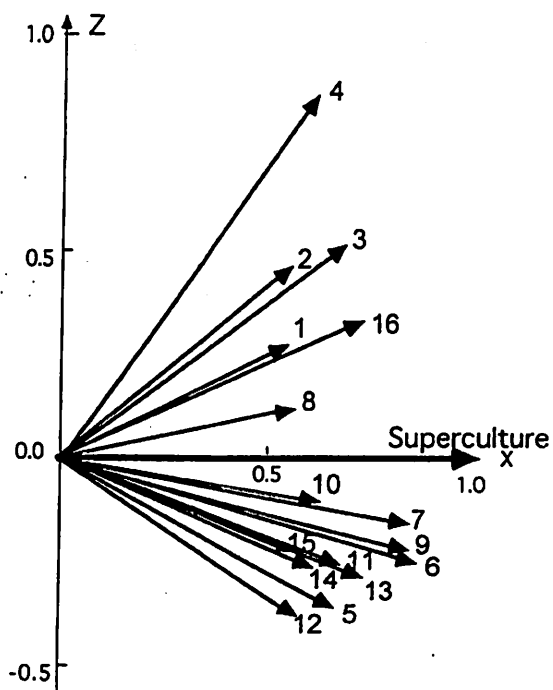


Figure 4b

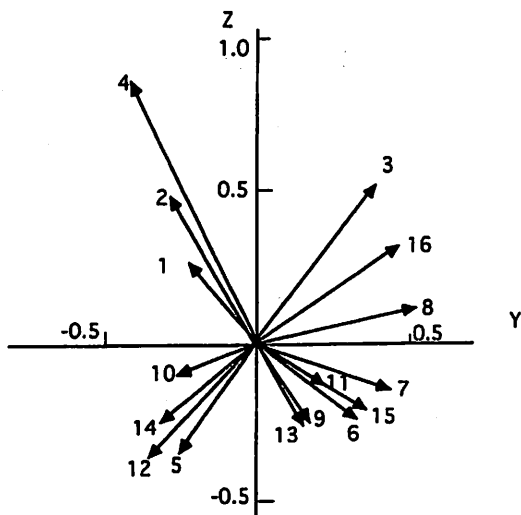


Figure 4c

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. Japan | 9. Sweden |
| 2. Korea | 10. Finland |
| 3. Taiwan | 11. Germany |
| 4. Philippines | 12. Switzerland |
| 5. Australia | 13. Spain |
| 6. USA | 14. Russia |
| 7. PuertoRico | 15. Croatia |
| 8. Chile | 16. South Africa |

Figure 4: The superculture model of the 16 countries in the World Value Survey. The X component shows the degree of conformity to the average image (1.0, 0.0, 0.0). The cosine-angles between pairs of 3 dimensional vectors show the matching rates of the corresponding countries.

3) the Japanese people and 4) Japan on 5 point scale. As for the bond sample of 28 countries, we have found that the answer categories 1-6 (5 point scale and "6.DK") of each of those four items are almost overlapping as a U-shaped curve

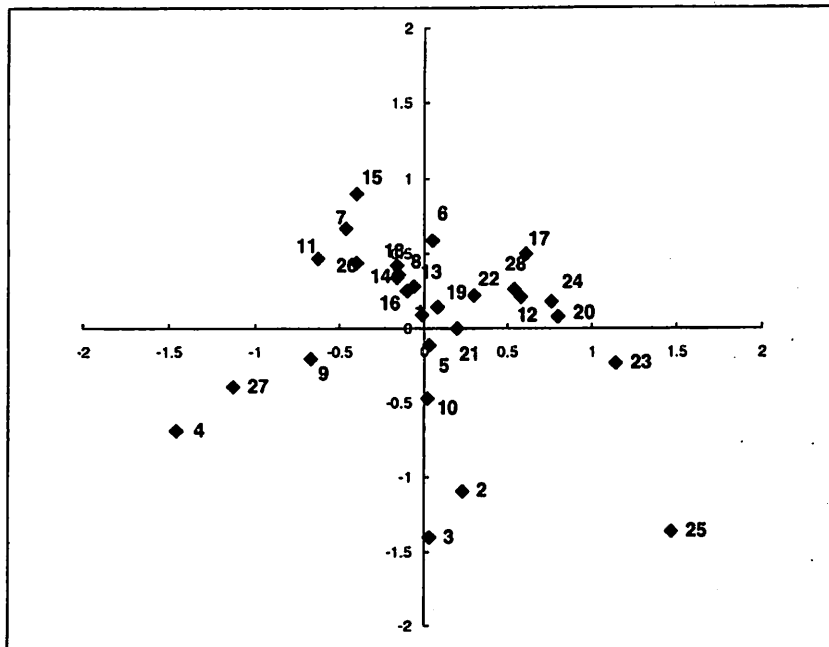


Figure 5a: 1-2 Dimension

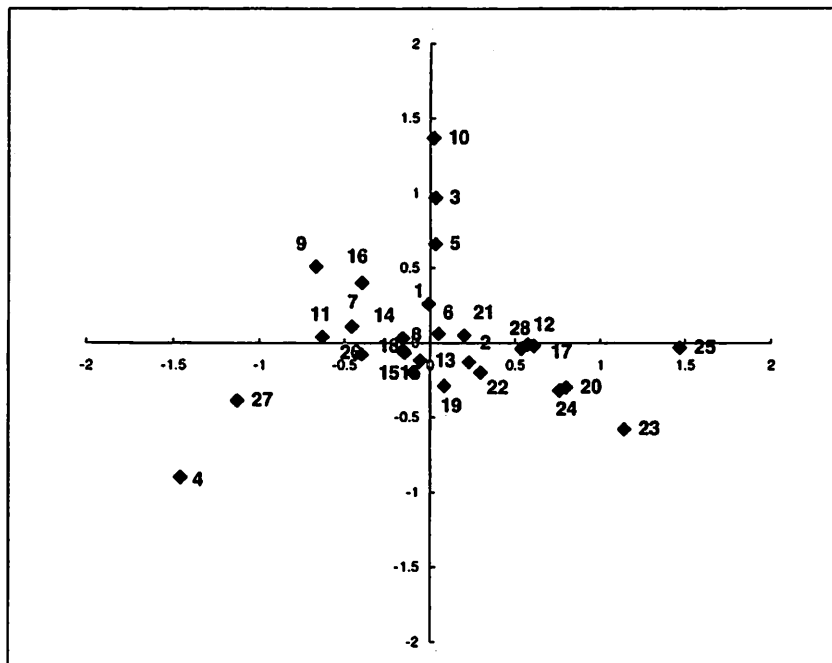


Figure 5b: 1-3 Dimension

- | | | | | | | |
|-------------|-------------|----------------|---------------|---------------|------------|------------|
| 1.U.S.A | 5.Australia | 9.France | 13.Italy | 17.India | 21.Mongor | 25.Egypt |
| 2.Brazil | 6.Singapore | 10.Germany | 14.Spain | 18.Indonesia | 22.Israel | 26.Twaiwan |
| 3.Argentine | 7.Thailand | 11.Netherlands | 15.Portuguese | 19.Philippine | 23.Turkey | 27.China |
| 4.Korea | 8.Britain | 12.Hungary | 16.Russia | 20.Vietnam | 24.Nigeria | 28.Japan |

Figure 5: Peoples' attitudes towards the Japan and the Japanese in the Japanese Language Census

in the output of correspondence analysis (See Yoshino, Zheng, & Park (in press) for more details). In Figure 5, the right-hand side corresponds to the positive countries whereas the left-hand side to the negative countries on those items. Argentine and Brazil are located closely to the category "DK." Argentine shows higher rate of "DK" than any other country, whereas Brazil shows high scores on all four items. Although Brazilians are more positive on all three items than most of the other peoples, a more detailed analysis shows that their degree of trust towards *the Japanese* as well as their degrees of liking of the Japanese are slightly smaller compared to their degree of trust towards *Japan*.

4.2 Comparative survey of seven countries (1988-1993)

4.2.1 Sense of trust

In the cross-national study by ISM, we surveyed Japan, USA, Britain, West Germany, and France during 1987-1988, and in addition, Italy and the Netherlands during 1992-1993. Our survey also included the three items of trust scale shown in Section 3.2. As a member of this survey, Miyake presented an analysis on this topic in Hayashi et al. (1998, ch. 7 of Part I). He concluded that the trust scale has little correlation with gender and religion, but stronger correlation with family income, academic background, and social classes (the higher the classes in these attributes, the higher the scores on the trust scale). On this scale, West Germany, Britain, and USA were higher than Japan and the Netherlands, but the difference is not very much, whereas France and Italy were clearly lower than the others. In addition, he found that those people who have religious faith gave the higher rate of positive response to item #2.12) "most of time, people are trying to be helpful for others," disregarding kinds of their religions.

Interestingly, he found a gender difference in the response to item #2.12b) "most people would try to take advantage of you if they got the chance." Namely, women gave the optimistic answer more than men, that is, "they would try to be fair." As for item #2.12c "most people can be trusted," there was a clear difference between the social classes in all the seven countries: the higher the classes, the more trustful. Particularly, the difference between classes was remarkably large in France and in USA. Miyake observed also that the higher level of education was linked with more trust, and suspected a correlation between education and social classes in the response patterns of this item. (Although there seemed a relatively strong correlation between education and social class or income in USA, this is not necessarily the case for all other countries.)

Figure 6 shows the rate in each country of those people who gave optimistic answers to *all* three items of trust. Rates in the USA and the Britain are high, whereas in Italy and France, they are low. In a sense, this result may be consistent with Fukuyama's claim about trust and national character, but the reality seems more complicated than he mentioned. Because those items are constructed as a trust scale of the people in USA, they may be suitable to the measurement of trust

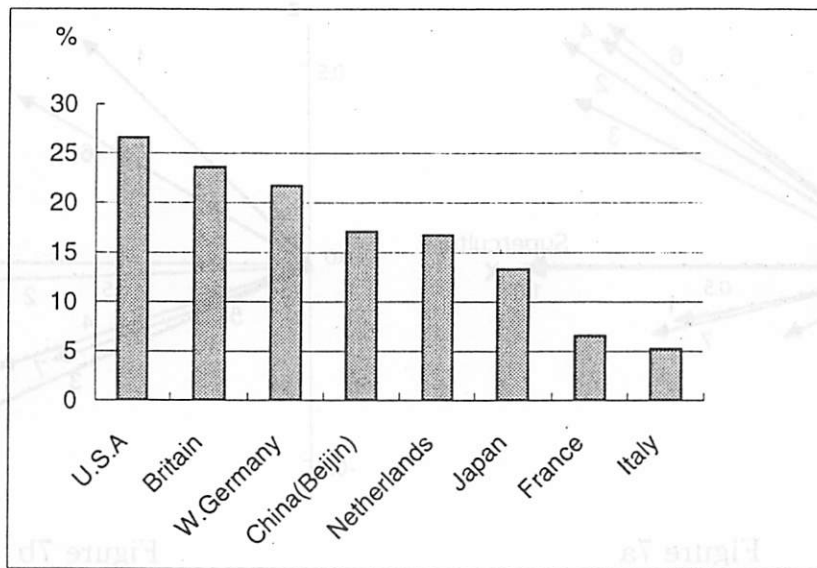


Figure 6: Trust scale of the seven countries

for the people of USA or Britain, but not necessarily for the other peoples. (The translation of these items seems to have another problem in cross-national comparability, particularly in #2.12c. The Japanese wording of the answer category “2. can’t be too careful” sounds as if concerned with, not distrust, but self-discipline. This may explain a lower rate of Japanese who choose “1” than expected. See Section 3.2 & Yoshino (2001, pp. 58-59) for comparison of the wordings in Japan A survey and Japan B survey.)

4.2.2 Trust on science & technology

As for the items of trust on science and technology, Hayashi (1993) has already given cross-national analyses for the data of our seven-country survey. Hayashi concluded that the Japanese showed positive attitudes toward science in general, but that they were negative as to scientific approaches towards the understanding of human heart and mind (“kokoro” in Japanese), solving social and economic problems, and the realization of living in space stations. Figure 7 shows the results of the superculture model for the items relating to science and technology (#7.1, 7.2, 7.36, 7.33, 7.83, 7.84, 7.85, 7.86a, b, c, d).

Remember that the components of each vector show the degree of conformity to the average image of those countries under consideration. It is easy to see that W. Germany is the closest to the average image (Fig 7a). Three countries, France, W. Germany and the Netherlands make a cluster. Japan, Italy and the Netherlands are, respectively, more or less different from the others.

The Netherlands were less positive on the power of science and technology than any other countries, particularly on solving social problems and elucidating

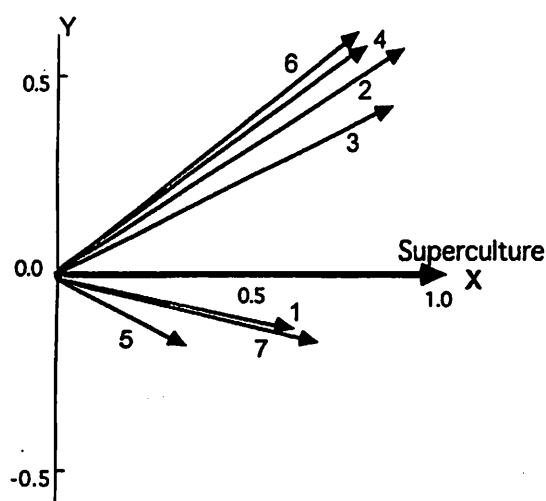


Figure 7a

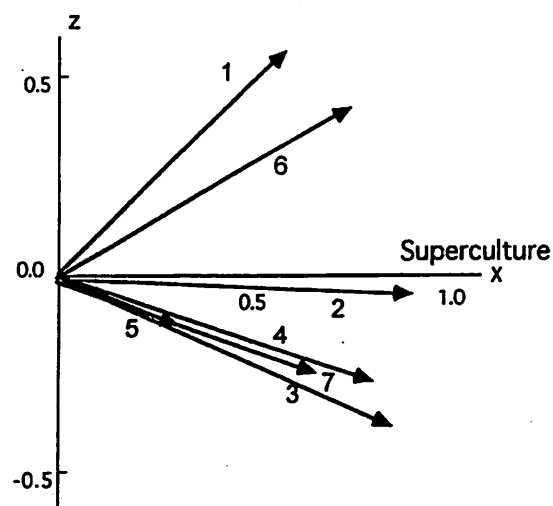


Figure 7b

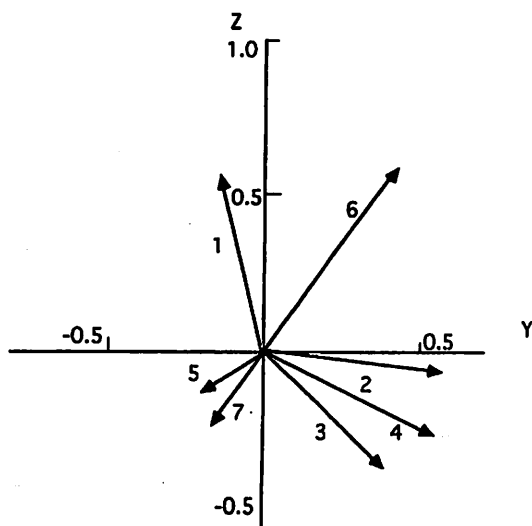


Figure 7c

- 1. Japan
- 2. USA
- 3. France
- 4. Britain
- 5. Germany
- 6. Italy
- 7. The Netherlands

Figure 7: The sense of trust on science and technology. In the comparison of the 7 countries on the X-Y-Z space in the 3 dimensional representation space, the X component shows the degree of conformity to the hypothetical superculture (1.0, 0.0, 0.0). The cosine-angle between pairs of 3 dimensional vectors show the matching rates of the corresponding countries.

the human mind.

As mentioned above, the Japanese were more skeptical about the power of science and technology in the areas concerning the human heart and mind, and the German were more positive on solving social problems but more negative on elucidating the human mind through science (Hayashi et al., 1998).

Both Japan and Germany have been frequently quoted as the successful ex-

amples of post-war industrial development after the total collapses in WWII. Therefore, one might expect that both countries have the similar attitudes in accepting advanced science and technology. As mentioned above, however, there were some differences between them. As for the strategy of industrial development, the Japanese did not seem to hesitate to accept the advanced science and technology probably because they experienced their strong motive to overtake the western countries in the Meiji Restoration in 1868. In those days, the Japanese experienced a spiritual conflict between the attitude of acceptance of western things and the traditional nationalistic attitudes, but they had overcome the conflict as "Wa-Kon-You-Sai" (utilization of the western learning with Japanese spirit "Yamato Damashii"). Actually, the Japanese must have experienced this sort of situations several times in their long history.

On the other hand, Germany had been one of the leading figures of modern science and technology in the world since the end of 19th Century, but they experienced difficult times as the defeated nation in both world wars. Probably the past experience strongly influences the attitudes of the Germans toward science and technology, as well as on their attitudes toward mechanization (#7.1 and #7.84) and natural environment (#2.5), although I should reserve a possibility to explain it by their longer experiences.

As a final comment in this section, it should be noted that Sasaki and Suzuki (2000, ch.11) concluded that a single scale is not adequate to measure people's sense of trust on science and technology because people's attitudes differ from one issue to another on science and technology.

5. Trust in Acculturation

— Japanese Immigrants in Hawaii, Brazil, and the West Coast of USA —

Some analyses of our past survey have already clarified some similarity and dissimilarity between the Japanese in Japan and Japanese migrants abroad. Firstly, the Japanese tendency to avoid polar response categories and to prefer intermediate response categories in a questionnaire survey (Hayashi & Kuroda, 1997) is not necessarily transmitted among the Japanese migrants in the same way (Hayashi et al., 1998, p. 388). There are some variations of this Japanese tendency due to social contexts of the immigrated countries. For example, the emigrants need to make clear their intention for successful communication in the emigrated countries such as USA (mainland). Otherwise they would be unable to get along with others.

Secondly, we found that the Japanese styles of interpersonal attitudes (Giri-Ninjo attitudes) or religious attitudes were preserved in the migrants Issei and Nisei (the first & the second generations), e.g., in U S A. The third generation and younger generations seem to have become more adaptive to the country where they were born and live now. These observations have been already explained by

Hayashi (1993), Yamaoka (2000, Figure 4 & Table 3), and Yoshino (2000, p. 197; 2001b, p. 52). Here I will show an analysis on the sense of trust among the Japanese migrants in Brazil, Hawaii, and the West Coast of USA as follows.

Generally, Brazilians showed a much lower degree of sense of trust on each of the three items (#2.12a, #2.12b, #2.12c) than most of seven countries mentioned in Section 4.2.1 (see also Hayashi et al., 1993, p. 435). Furthermore, the third or younger generation showed even lower degrees than the first and the second generations. (We should keep in mind that the economic condition of Brazil was still not good in the year of survey, 1991.) As a whole, the pattern of sense of trust in Brazil appeared close to those of France (1987 survey) and Italy (1992 survey). As for the immigrants of Hawaii and the West Coast, they showed higher degrees of the sense of trust than most of the seven countries including Japan and USA. (Unfortunately, the survey of the West Coast did not include #2.12b.) It should be noted that there is a sort of frame of comparison on the generations of Japanese immigrants in USA (Kitano, 1993, ch.13). Namely, the first generation (Issei) were called "Japs" and discriminated against as the immigrants from Japan. The second generation (Nisei) are the Japanese Americans who have been constantly in search of their own identity in-between USA and Japan (many of them voluntarily went to WWII as American soldiers while their parents were captured in allocation camps by the American government). The third generation or younger are simply Americans of Japanese descent.

Figure 8 shows that there is no significant difference between the Japanese Americans and the non-Japanese Americans on their sense of trust (#2.12, b, c) among Hawaii Honolulu residents. Figure 9 shows more details of the cross-racial comparison in the Hawaii residents (several races of small sample sizes, e.g., less than 20, are omitted). Although this figure may show a certain tendency of sense of trust with respect to races, we should be discrete to conclude anything definite, because the number of the sample for each race is not necessarily large enough to consider it as representative.

As for the Hawaii survey, the time series data sets are available. Figure 10 shows longitudinal changes in the Japanese Hawaii resident's sense of trust by each generation (note: the number of Issei is rapidly decreasing, whereas the number of people of higher than third generation is increasing. Therefore, certain generations are omitted in these figures if their sample sizes are too small. In addition, the numbers of new Issei and new Nisei are increasing, but they are excluded from our survey data, although the study of new Issei and Nisei itself may be an interesting subject.) There seems no remarkable difference between generations in the Japanese American residents of Hawaii over two decades as a whole, except a certain difference between Nisei and Sansei in 1988 (I do not see any reason as to this particular difference at this point of the research). This may be explained by the social condition of the highly mixed races in Hawaii. Also, there was not so much change in their sense of trust by each generation over these two decades as a whole. (It may be worthwhile noting that those with higher

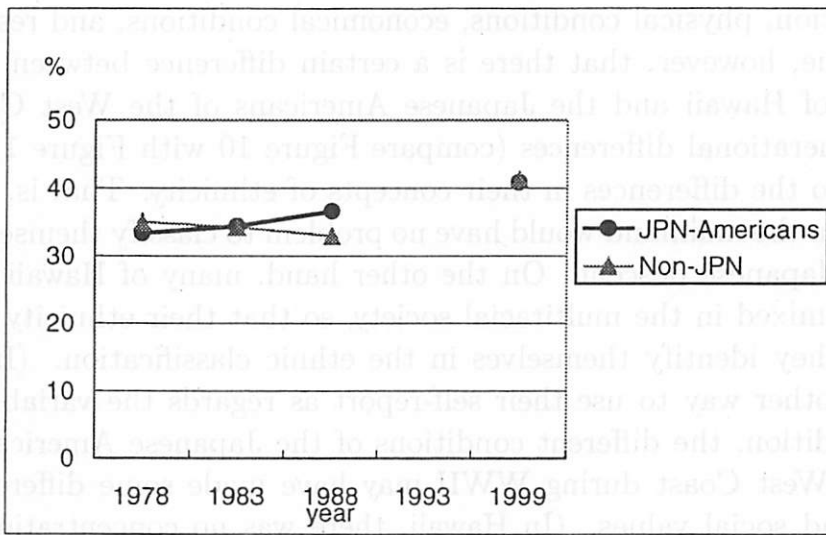


Figure 8: Trust scale on the Hawaii residents with Japanese descent and the non Japanese Residents

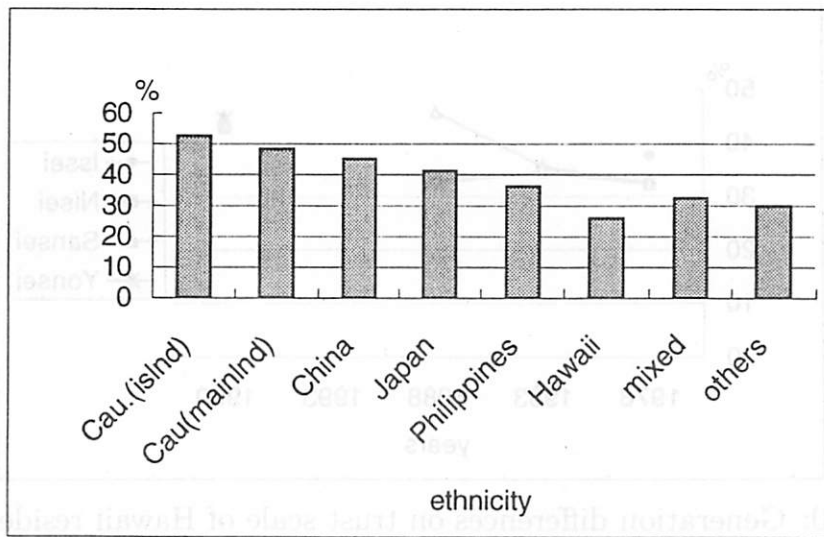


Figure 9: Ethnicity difference on trust in Hawaii

education has been increasing (Yoshino, 2001b, p. 67).

As for the Japanese Americans on the West Coast, the survey questionnaire included only two items of trust (#2.12 & #2.12c). (Regarding the data of the Japanese National Character, I have confirmed that the patterns of sense of trust on the two items are almost the same as those on the three items.) In the data of the West Coast, there is a definite difference between generations (see Figure 11) which was not seen in the data of Hawaii. Namely, the older generation seems the more trustful. Again, we should be very careful when interpreting the

data, because there may be compound effects of several relevant factors, such as age, generation, physical conditions, economical conditions, and residential area. It seems true, however, that there is a certain difference between the Japanese Americans of Hawaii and the Japanese Americans of the West Coast with respect to generational differences (compare Figure 10 with Figure 11). This may be related to the differences in their concepts of ethnicity. That is, the Japanese Americans in the mainland would have no problem to classify themselves as Americans with Japanese descent. On the other hand, many of Hawaii residents are now highly mixed in the multiracial society, so that their ethnicity is dependent upon how they identify themselves in the ethnic classification. (In our survey, we had no other way to use their self-report as regards the variable of "ethnicity.") In addition, the different conditions of the Japanese Americans in Hawaii and in the West Coast during WWII may have made some differences in their attitudes and social values. (In Hawaii, there was no concentration camp, and the Japanese American Nisei soldiers did not have as much spiritual conflict with their Japanese parents. These conditions are contrast with those of the West Coast. For the detailed story, see Dowds, 1986.)

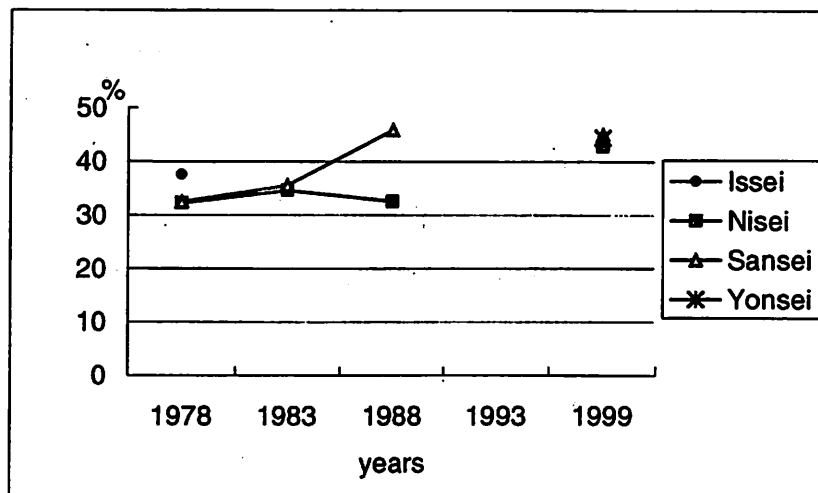


Figure 10: Generation differences on trust scale of Hawaii residents with Japanese descent

To conclude this section, let us consider the relationships between trust and economic conditions. As mentioned in Section 3.6, there are different perspectives as to the production of people's sense of trust, such as the historical perspective of Fukuyama (1995) or the economic perspective of Banfield (1958). Here I will show some relationships between peoples' senses of trust and their social class or income (both self-reported variables).

Figure 12 shows the relationship between trust and social class in the longitudinal survey of Japanese National Character. This seems consistent with Banfield(1958)'s claim. In order to analyze it in more detail, however, see the

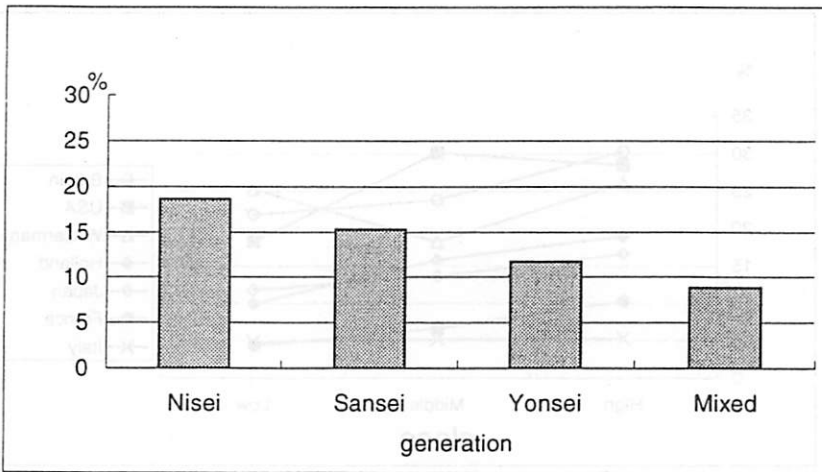


Figure 11: Generation differences on trust scale of the Japanese Americans in the West Coast

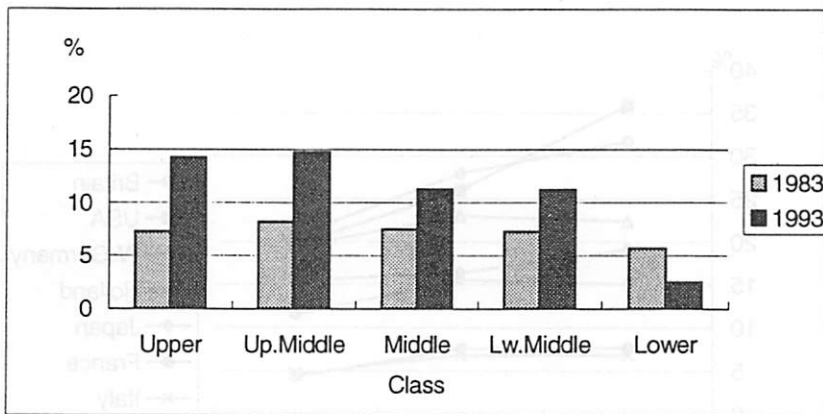


Figure 12: Class difference of trust scale in the Japanese national character survey

comparative data of seven countries (Figure 13). Although, overall, this figure also seems consistent with the Banfield's claim, there are some differences between countries. W. Germany is remarkably different from the others: the middle category (not necessarily "middle class") of the social class is less trustful than the high and the low categories. The pattern of USA is contrary to that of W. Germany.

Figure 14 shows the relationship between trust and income, rather than social class. The variable "income" may be more directly related to people's economical conditions than the variable "social class." Although this figure seems consistent with Banfield's claim, there are some differences between countries again. As for Britain and USA, the rate of trust is almost linearly related to the income categories: the higher income, the more trustful. W. Germany and Japan do not

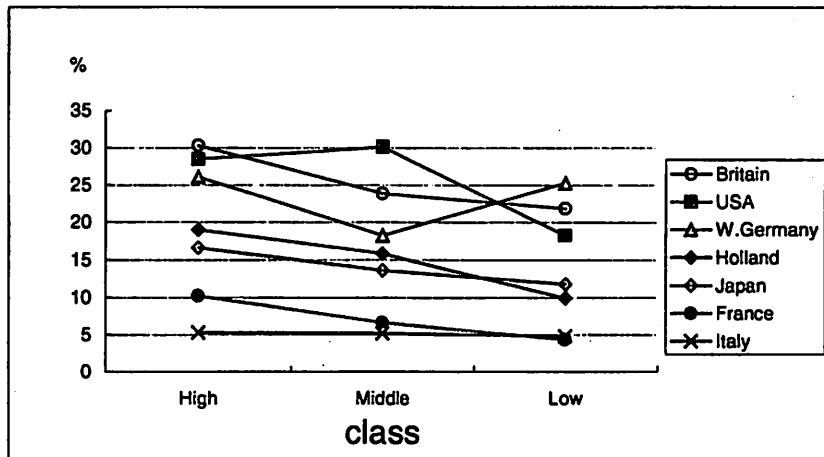


Figure 13: Trust scale and social classes of the 7 nations

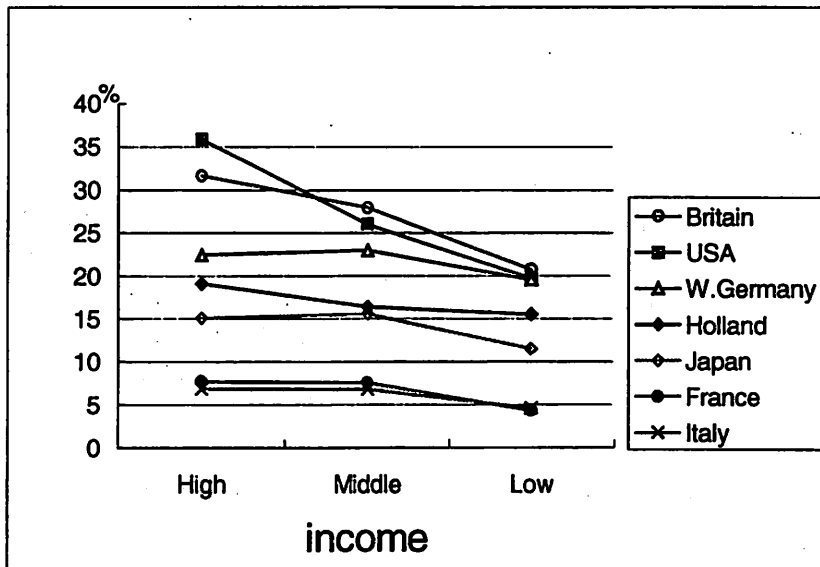


Figure 14: Trust scale and income of the 7 nations

follow such a pattern. Italy and France show a lower degree of trust in both Figure 13 and Figure 14. For reference, the correlation coefficients (Kendall's tau) between the social classes and the income level (both 3-point ordered categories) are, respectively, 0.47 in the Netherlands, 0.36 in USA, 0.34 in Britain, 0.30 in W. Germany, 0.29 in Italy, 0.28 in France, and 0.24 in Japan. These patterns of correlation themselves may represent some interesting differences in social structure (or national character) between countries. For example, a variable such as "income" or "education" may be more directly related to the variable "social class" in USA than in Japan. (Remember one of the old Japanese principles, "Sei-Hin (honorable poverty).") Thus we have to be careful about social backgrounds and

institutions for more advanced understanding on this matter.

6. Conclusions

In this paper I have overviewed people's sense of trust as shown in social survey data. As a whole, this study has shown some differences between countries, races, and generations on their senses of trust as measured on the ISR trust scale. We cannot be too careful when we interpret the results of survey data because "trust" is often composed of compounds of variables including economical and political factors. In addition, we should be careful about the items that are used as a scale of trust. The scale may be used to measure some important aspects related to trust, but there must be several other important dimensions of trust because "sense of trust" can be considered in various contexts, such as intra-personal or interpersonal relationships, inter-social groups, transaction, or moral philosophy. Nevertheless our survey data has clarified certain aspects of the differences among several countries in the ways they represent their sense of trust, as well as certain aspects of the differences of acculturation of the Japanese Americans in Brazil, Hawaii, and the West Coast. Some comments are provided for the future development of our survey research as follows.

Firstly, as for the scaling on sense of trust, it is important to note that people's negative responses do not necessarily mean that they lack a sense of trust. (This is closely related to the distinction between "behavior and cognition" in psychology.) Dogan (2000, p. 258) states "... Erosion of confidence is first of all a sign of political maturity. It is not so much that democracy has deteriorated, but rather the critical spirit of most citizens has improved...." This suggests that we have several positive interpretations on what we had found concerning people's sense of distrust. People may express distrust or complaint toward the government or others, not because they lack intra-personal or interpersonal trust, but because they know it is the way to improve their own country and eventually our world in a democratic way.

Secondly, a comment is provided for a more sociological development of the framework of CLA. The last century was the time of expansion of western civilization. In this time of globalization, I think that the world leaders should be knowledgeable about world geography and history and sensitive to the conditions of all countries and nations, if they wish to take seriously their responsibility to develop and maintain world peace. This, however, does not seem to be the case. Differences of cultures occasionally prevent us from deeply understanding each other. Their own culture or civilization, the East or the West, naturally bias people. Studying world history as well as the regional histories of different civilizations, however, we should remember the fact that there are various ways of successful social development. Thus we should not impose our own social values on any other country or nation.

In the time of globalization, some institutional systems or customs are neces-

sarily being changed, converging towards more universal ones under the influences of transnational exchange or trade. On the other hand, some other systems are becoming more and more sensitive to cultural differences, as a reaction to globalization.

At least for the foreseeable future, globalization does not seem to be leading us to a single unified global culture or a single "superculture" on the earth. (For a detailed review on the literature of "globalization" and cultures, see Guillen, 2001, pp. 252-254.) As mentioned before, our survey team has been developing the methodology called "Cultural Link Analysis (CLA)" for cross-national comparisons in this research. I think it is possible to use the idea of CLA to develop the framework of a policy making for bringing about a gradual globalization, so-to-speak, Cultural Manifold (CM). CM may be a sort of a set of hierarchical overlapping local charts, and each chart covers a certain area (region, country, national groups, civilization, etc.). In each chart, we may assume that people share a certain culture or principle: the larger chart corresponds to the less restrictive but the more universal culture or principle. Thus, according to the size of chart (or population under consideration), people may be able to consider the degree of rigidity of decision-making or the extent of regulations concerning various types of exchanges, e.g., contracts in transnational business or international trades within the members in the region. The charts of CM must be dynamic. Therefore, each chart may be enlarged, shrunk, or disappeared over time, whereas a new chart may appear. The EU may exemplify the concept of CLM. I wonder whether or not East Asia and South East Asia could give another example in the near future, although some people doubt such a unification because of their too complicated diversity.

At this moment of my writing, we are experiencing severe political tension in the world in the aftermath of the serious incident in New York on September 11, 2001. Some people seem to be making use of a farfetched argument "that this is a war between civilizations or religions such as Christianity and Islam" to further for their political causes. It is my sincere hope that mutual understanding among the various cultures and civilizations will prevent further unnecessary conflicts between nations and races and will lead to the development of a peaceful world in the 21st century.

Acknowledgments

This study is supported by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science & Technology, Grant in Scientific Research A (2), No.10308007 (1998-2000 fiscal years) and A (2) No.11691111 (1999-2001 fiscal years), both conferred to Ryozo Yoshino. The author is very grateful to Prof. F. Miyamoto, Prof. T. Kashima (University of Washington), Prof. S. Fugita (Santa Clara University), Prof. Y.

Kuroda (University of Hawaii), Prof. C. Hayashi, Prof. F. Hayashi, Prof. K. Yamaoka, and my colleagues for their valuable comments on my early draft of this paper. We could not have obtained the important survey data reported here without these researchers.

REFERENCES

- Banfield, E. C. (1958). *The moral basis of a backward society*. NY: The Free Press. Central Research Services, Inc. [Chuo Chousa Sha]. (2000). Giin, kanryou, daikigyou, keisatu tou no sinrai-kan n ikansuru tyousa [Survey of trust on congressmen, bureaucrats, big companies, police, etc.]. <http://www.crs.or.jp/data.htm>.
- Dowds, M. (1986). *Buriera no kaihou-sya-tati* [Liberation army of Briar]. Bunsyunbunko. Tokyo: Bungeisyunjyuu.
- Dentsu-Soken & Yokokaihatu Center (Eds.). (1999). *Kachi-kan chosa deita* [Data of world value survey].
- Dogan, M. (2000). Deficit of confidence within European democracies. In M. Haller (ed.), *The making of the European union* (pp.243-261). Paris: Springer-Verlag.
- Fukuyama, F. (1995). *Trust*. NY: The Free Press.
- Gullen, M. F. (2001). Globalization civilizing, destructive or feeble? A critique of five key debates in the social science literature. *Annual Review of Sociology*, 27, 235-260.
- Hayami, T. & Miyamoto, M. (1988). *Industrial revolution*. Tokyo: Iwanami-syoten.
- Hayashi, C. (Ed.) (1973). *A study of Japanese-Americans in Honolulu, Hawaii (in Japanese)*. ISM Research Report General Series, No.33. Tokyo: ISM.
- Hayashi, C. (1992). *Suuryou-ka* [Hayashi's quantification method]. Asakura-syoten.
- Hayashi, C. (1993). *Nihon-jin no kokuminsei* [Japanese national character]. Phase' 93.
- Hayashi, C. (2001a). *Nihon-jin no kokuminsei kenkyu* [a study on the Japanese national character]. Tokyo: Nansou-sya.
- Hayashi, C. (2001b). *De-ta no kagaku* [The Science of Data]. Tokyo: Asakura-syoten.
- Hayashi, C. & Iriyama, A. (1997). *Koueki hojin no jitsuzo* [The Reality of NPO]. Tokyo: Daiamond-sha.
- Hayashi, C. & Kuroda, Y. (1997). *Japanese culture in comparative perspective*. CT: Praeger.
- Hayashi, C., Nishihira, Y., Hayashi, F. (1992). *Dai 5 Nihon-jin no Kokuminsei* [A study on the Japanese national character]. Tokyo: Idemitsu-syoten.
- Hayashi, C. & Yamamoto, K. (1993). *Research on national character of Japanese Brazilian —1991&1992—*. ISM Research Report General Series, No.74.
- Hayashi, C., Yoshino, R., Suzuki, T., Hayashi, F., Kamano, S., Miyake, I., Murakami, M., & Sasaki, M. (1998). *Kokuminsei nanaka-koku hikaku* [cross-national comparison of seven nations]. Tokyo: Idemitsu-syoten.
- Hosmer, L.T. (1995). Trust: The connecting link between organizational theory and philosophical theory. *Academy of Management Review*, 20, 2, 379-403.
- Inkeles, A. (1997). *National character*. New Brunswick: Transaction Publishers.
- Kitano, H. H. L. (1993). *Generations and identity: The Japanese American*. MA: Ginn Press.

- Matsudo, T. & Takada, T. (Eds.) (2000). *Henbou suru Asia no Shakai-Shinri* [Social psychology in the changing Asia]. Kyoto: Nakanishiya Publishing Co.
- Miyake, I (2001). *Senkyo-seido gohenkaku to touhyo koudou* [Reformation of voting rule and people's voting behavior]. Tokyo: Bokutaku-sya.
- Miyamoto, F. (1986). Problems of interpersonal style among the Nisei. *Amerasia*, 13, 2, 59-45.
- Mizuno, K., Suzuki, T., Sakamoto, Y., Murakami, M., Nakamura, T., Yoshino, R., Mizutani, O. (Ed.) (1999). *International census on views of Japanese language*. Tokyo: National Institute of Language.
- Morishima, M. (1984). *Naze nihon ha seikou sitaka* [Why did Japan succeed]? Tokyo: TBS Britannica.
- NORC-ROPER (1986). *General social surveys, 1972-1986: Cumulative codebook*. The Roper Center for public opinion research, University of Connecticut.
- Osaka University & Tokyo University (1999). *The Japanese version of general social survey (JGSS)*. The second preliminary survey, simple tabulation & codebook.
- Osgood, C. E. (1960). A case for graduated unilateral disarmament. *Bulletine of Atomic Scientists*, 16, 127-139.
- Prime Minister's Office. (2000). *Hanzai-higaisha ni kansuru yoron-tyousa* [a report of survey on the crime victims].
- Rosenberg, M. (1956). Misanthropy and political ideology. *American sociological review*, XXI, 690-695.
- Rotter, J. B. (1971). Generalized expectations for interpersonal trust. *American Psychologist*, 26, 443-452.
- Sakamoto, Y., Nakamura, T., Tsuchiya, T., Maeda, T., & Fouse, D.B. (Eds.) (2000). *A study of the Japanese national character: The tenth nationwide survey (1998)*. ISM Research Report, General Series, No. 85.
- Sasaki, M. & Suzuki, T. (2000). *Social attitudes in Japan*. Boston: Brill.
- Sengoku, T. & Qian, O. (1992). *Social values and life style in China today*. The Simul Press.
- Shapiro, S. (1987). The social control of interpersonal trust. *American Journal of Sociology*, 93, 623-658.
- Umesao, T. (ed.) (2001). *Bunmei no seitaishi-kan-ha, ima* [Revisit of the ecological view on civilization]. Tokyo: Chu-ou-kouron-sya.
- Warren, M. E. (ed.) (1999). *Democracy and trust*. UK: Cambridge University Press.
- Weber, M. (1904-05). *The Protestant ethics and the spirit of capitalism* [translated by T. Parsons]. Routledge Classics.
- Yamaoka, K. (2000). Variation in attitudes and values among Japanese Americans and Japanese Brazilians across generations. *Behaviormetrika*, 27, 125-151.
- Yoshino, R. (1992a). Superculture as a frame of reference for cross-national comparison of national characters. *Behaviormetrika*, 19, 23-41.
- Yoshino, R. (1992b). The unbiased BIGHT model and its application to the analysis of responses of national characters. *Behaviormetrika*, 20, 171-186.
- Yoshino, R. (1994). An overview of the longitudinal studies of national character by ISM (in Japanese). *Proceedings of the Institutional Statistical Mathematics*, 42, 2, 259-276.
- Yoshino, R. (Ed.) (1995). *A handbook of cross-national comparative survey*. ISM Research Report No.77. Tokyo: ISM.

- Yoshino, R. (Ed.) (2000). *A study of statistical science on cultural transmission*. The ISM Research Report No.84. Tokyo: ISM.
- Yoshino, R. (Ed.) (2001a). *A study of statistical science on cultural transmission based on social survey data of National Character*. A report submitted to The Ministry of Education, Culture, Sports, Science & Technology.
- Yoshino, R. (Ed.) (2001b). *Hawaii resident survey 1999-2000*. The ISM Research Report, No.86. Tokyo: ISM.
- Yoshino, R. (2001c). *Kokoro wo hakaru* [Measuring the mind]. Tokyo: Asakura-syoten.
- Yoshino, R., Zheng, Y., & Park, S. (in press). Asian peoples' views on Japanese. *The Japanese Journal of Behaviormetrics*. (In Japanese)
- Youth Affairs Administration Management & Coordination Agency. (1999). *The detailed analyses on the sixth world youth survey*.
- Zheng, Y. & Yoshino, R. (2003). Diversity patterns of attitudes towards nature and environment in Japan, USA, and European countries. *Behaviormetrika*.
- Zucker, L. G. (1986). Production of trust: institutional sources of economic structure, 1840-1920. *Research in Organizational Behavior*, 8, 53-111.

DIVERSITY PATTERNS OF ATTITUDES TOWARD NATURE AND ENVIRONMENT IN JAPAN, USA, AND EUROPEAN NATIONS

Yuejun Zheng* and Ryozo Yoshino*

This paper analyzes the longitudinal changes of Japanese attitudes toward nature and environment (ATNE) using Japanese character survey data, and explores the structural characteristics of response patterns to the ATNE in Japan, USA and five European nations based on analytical results derived from cross-national survey data. We also discuss the relationships of respondent's attributes relative to the structure of their response patterns using the visual configuration obtained by correspondence analysis. In addition, we verify how racial, cultural, geographic diversities change people's ATNE in various circumstances. As a result, we have found that Japan is similar to France, and Germany is similar to Britain and the Netherlands. We have also seen that the USA is similar to Italy in the aspect of the ATNE whereas the Japanese have their own distinctive structures of response patterns to the ATNE when compared to the Americans and the Europeans.

1. Introduction

The influence of the environmental destruction on modern life has been a globally crucial problem since the beginning of the late 1960s with its increasing high industrialization and extra resource utilization. Governments and intergovernmental organizations have taken many measures involving a wide range of technical regulations to deal with serious environmental problems, such as restricting the release of carbon dioxide and controlling air and water pollution etc. Unfortunately, a decisive key for mitigating the environmental crisis on a global scale has not been found yet in an integrated sense. In fact, in most situations, the destruction of environmental quality is caused by the improper understanding of the importance of the natural environment around us, and the situation is gradually getting worse year by year. For this reason, taking correct Attitudes Toward Nature and Environment (hereafter ATNE) is important in order to improve the environmental quality and to preserve its original nature. In other words, if we cannot reconsider the seriousness of the world wide environmental problems, and think over our life style locally, the future of succeeding generations will be undoubtedly getting darker and darker globally. Consequently, we have no other alternative except to exert every effort to restore and to preserve nature and our environment in order to insure and maintain our survival on this earth.

The people's ATNE, however, are often influenced by the individual's racial origin, native language, and living space; hence, we feel a strong need for conducting a cross-national comparison on the ATNE. Clarifying and understanding

Key Words and Phrases: attitudes toward nature and environment, cross-national comparison, national character research, social survey, correspondence analysis.

* The Institute of Statistical Mathematics, The Graduate University for Advanced Studies, 4-6-7 Minami-Azabu, Minato-Ku, Tokyo, Japan 106-8569. E-mail: zheng@ism.ac.jp

the differences of ATNE in different nations with diverse cultures is an extremely important step toward solving the current environmental problems.

The meanings of the words "nature" and "environment" may change for different people in various historical eras and cultural backgrounds, and for this reason, it is an arduous task to assign a unique definition to these terms. The ATNE we use here implies the people's response patterns to problems with reference to natural and environmental consciousness as well as actual activity. For the purpose of constituting a series of reasonable preservation policies with regard to nature and environment globally, it is meaningful to analyze various people's ATNE based on a sampling survey data. On the other hand, improving environmental quality requires extensive cross-national co-operation making way for the understanding of differences of national character and cultural transmission which will serve as a key for the realization of true globalization in the new century. We also note that it may be valuable for societies to adopt the reasonable aspects from the peoples' ATNE among the various nations for the common good and future of the human race.

The aim of this paper is to analyze the longitudinal changes of Japanese ATNE using Japanese character survey data, and to explore the structure of the response patterns to these attitudes between Japan and the USA and five European nations, including Britain, France, Germany, Italy and the Netherlands by analyzing the cross-national survey data conducted by the Institute of Statistical Mathematics. We then discuss the relationships of the respondent's attributes with the response patterns to survey questions in a macro scale. In addition, we also verify how the people's ATNE changes under specific backgrounds with racial, cultural, and geographic diversities.

2. Changing Structure of Japanese Attitudes toward Nature and Environment

The Institute of Statistical Mathematics has been conducting a longitudinal nationwide social survey on Japanese national character every 5 years since 1953, using the same question items (Hayashi, 1992; Mizuno et al., 1992). The term "national character" embraces the characteristics shown in people's response patterns to survey question items covering various aspects of people's opinions about their culture, daily life, economics, nature, environment, interpersonal relationships, religious faith, politics etc (Inkeles, 1997). This statistical and sociological survey must have been important in the time when Japan was expected to change from a military regime to a democratic country (Yoshino, 1997). The cohort analysis of longitudinal data can show how people's response patterns are changed due to aging and survey period, but the aging and cohort effects are minimal whereas the effects of period are the greatest in the Japanese character survey data (Mizuno et al., 1992). Therefore, our topic is aimed at the periodically-changing aspects of the Japanese ATNE. Several questions with regard to opinions on nature and en-

vironment have been used continuously in the Japanese national character survey; we focus on two of them for a longitudinal analysis of frequency distribution. One is Question #2.5 in which Japanese opinions on man and nature have been asked from 1953, and the other is Question #7.35, that is the question on environmental preservation, which was first asked in 1983.

The following question concerning opinions about man and nature has been continued for 10 times since the first survey.

#2.5 Here are three opinions about man and nature. Which one of these do you think is closest to the truth?

- 1) In order to be happy, man must follow nature.
- 2) In order to be happy, man must make use of nature.
- 3) In order to be happy, man must conquer nature.

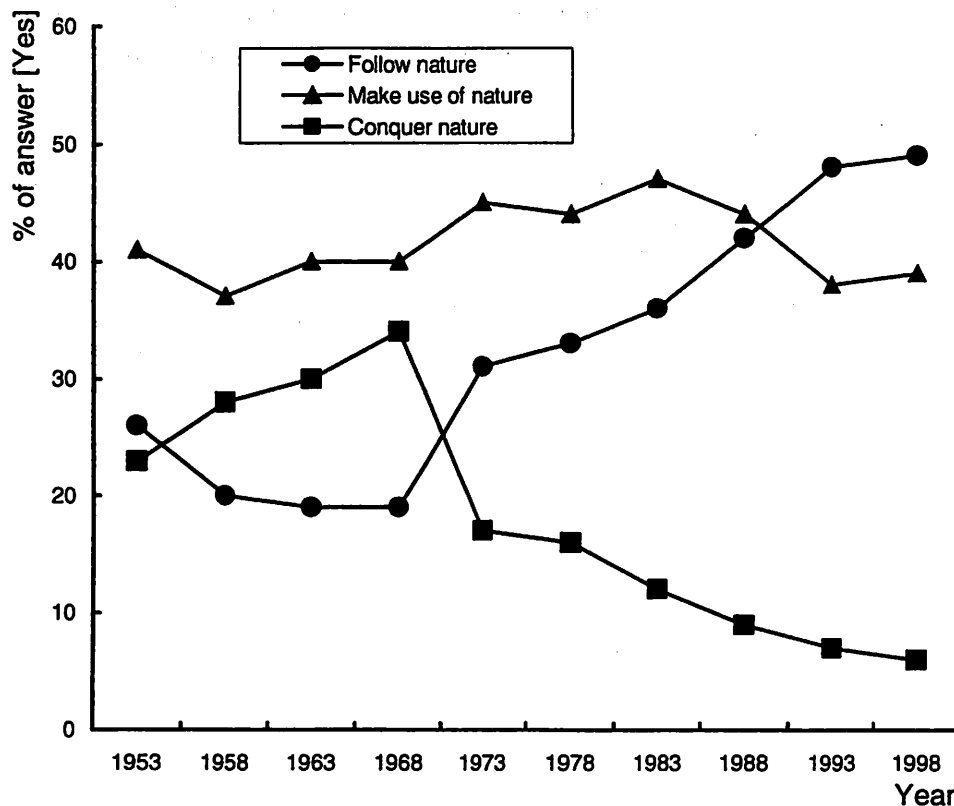


Figure 1: Longitudinal changes of Japanese attitudes toward nature (#2.5)

In Figure 1 we can see that the opinion to “conquer nature” was supported by few in the beginning of this longitudinal survey, but it was increasing for a while, from 23 percent in 1953 to 34 percent in 1968. In reality, we can predict that the percentage supporting this opinion should continue to rise after 1968 as a result of the emphasis on a high economic growth and the idea of remaking nature at that time. However, the opinion to “conquer nature” took a sudden nose-dive to 17 percent in 1973 and continued to decline to 6 percent by 1998. Likewise the “follow nature” opinion plunged from 26 percent in 1953 to 19 percent in 1968, but

the trend reversed itself in 1973, when 31 percent chose this category. The upward trend continued rising to 49 percent by 1998. Furthermore, although this opinion was rarely supported by the young generation in 1960s, there have been almost no differences between age classes since 1970s. On the other hand, the percentages supporting the “make use of nature” option have been showing a relatively steady distribution in the past almost 50 years, with some small fluctuations during the same period.

We still remember that, after a great many pollution accidents occurred, there was a sudden rise in the awareness of environmental problems in the late 1960s through 1970s in many industrialized nations, including Japan. The extent of the damage done to the environment as a result of the rapid development of the Japanese economy in the 1960s was so devastating that a huge number of ordinary citizens took to the street to protest. This rise in consciousness regarding the importance of environmental preservation must have resulted in the change in Japanese attitudes toward nature. Due at least in part to a delayed response to the rising concern voiced by citizens groups, in the early 1970s, the Japanese parliament was forced to pass one stringent law after another against large corporations to protect and clean up the environment (Kuraoda, 1997).

The above shows that there is, to some extent, a trend among the Japanese to return to their traditional values, but we found no other items in this longitudinal survey where this type of change has occurred so dramatically.

In view of this historical background, Question #7.35 concerning environmental preservation has been added to questionnaire survey for the first time since 1983.

#7.35 How important is environmental preservation to you?

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1) Very important | 3) Not very important |
| 2) Important | 4) Not important |

We can find that Japanese response patterns to the question concerning environmental preservation have been displaying a notable change since the first survey (see Figure 2). The opinions “very important” and “important” have been supported by more than 87 percent of Japanese since the this question was asked first, but the percentage supporting the opinion “very important” was lower than the opinion “important” in the first survey carried out in 1983. However, the percentage approving the “very important” opinion has been surpassed by other categories from the second survey carried out in 1988, the total percentage approving the “not very important” opinion and the “not at all important” opinion was less than 10 percent over the past four surveys. This trend implies the Japanese attitudes toward environmental preservation have been changing as time goes on.

The longitudinal trend of response patterns to #2.5 and #7.35 clearly shows a change of the attitudes toward nature and environment in Japan over the years. We found that the Japanese are inclined to put much stress on following nature and preserving environment and desire to return to some extent to the traditional values originated from the eastern civilization.

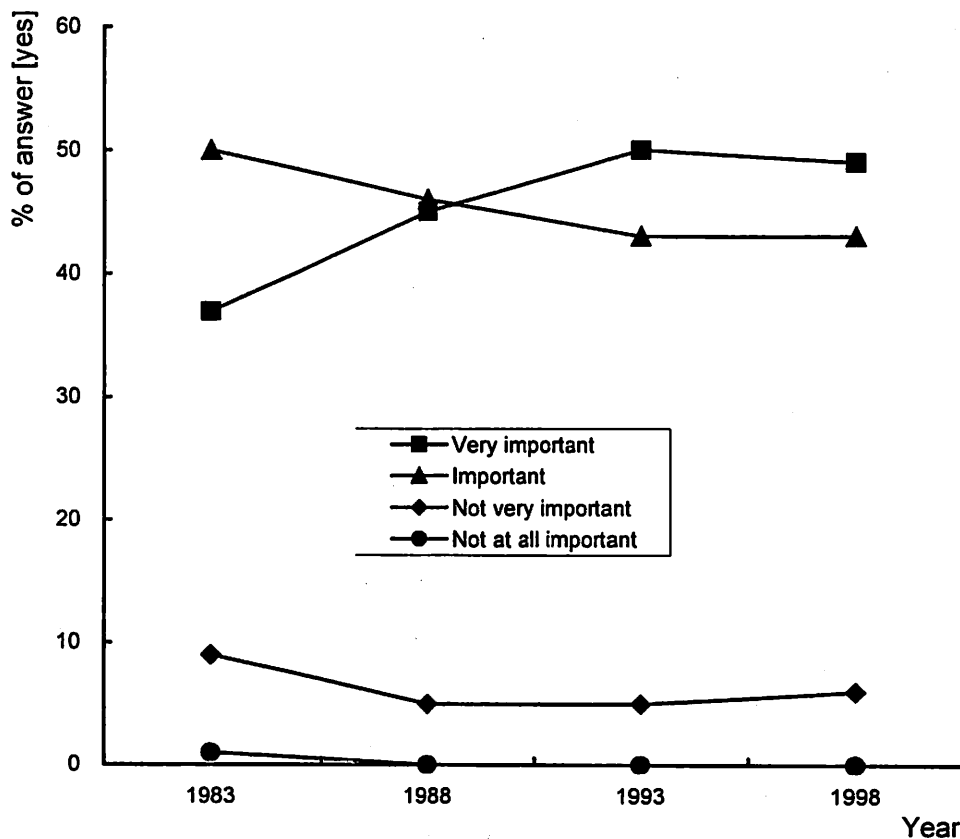


Figure 2: Longitudinal changes of Japanese attitudes toward environmental preservation (#7.35)

3. Cross-National Comparison of the ATNE

Since the early 1970s, the Japanese character survey research has been extended to foreign nations for an integrated understanding of national character in the context of the cross-national comparative study. Based on the statistical survey data on people's values, the way of thinking and feeling, interpersonal relationships, religious faith, acceptance of science and technology, nature and environment, politics, economy etc, we have been attempting to clarify quantitatively people's attitudes and the characteristics of their civilizations. This will give us fundamental information for the peaceful development of the world (Yoshino et al., 1995; Hayashi et al., 1998). The objective nations, where the cross-national surveys were conducted one by one, included the USA, Britain, France, Federal Republic of Germany (hereafter Germany), Italy, Japan and the Netherlands from 1987 to 1993 (see Table 1).

Obviously, some of the seven nations share certain common features such as racial origin, language, culture and geography etc. The main task for a cross-national comparison is to find the similarities and dissimilarities in people's attitudes in different nations through the statistical survey data. Therefore, it is

important to introduce the Cultural Link Analysis (CLA) for a cross-national comparison (Hayashi, 1992; Hayashi et al, 1998). What is called the CLA mainly includes a spatial link (e.g. France, Germany, Italy and the Netherlands are the neighbor nations one another), a temporary link (e.g., the Japanese national character survey), and a questionnaire item-structure link within and across different cultures (Guttman, 1982). The seven nations were chosen based entirely on the doctrines of the CLA as the objective nations of our cross-national research. In this section, we will first conduct a cross-national comparative study on the ATNE using the response results to questions regarding the natural and environmental consciousness. Secondly, we will analyze the mutual relationships between the respondent's attributes, e.g., gender, age, educational level, social class and family income, and the response patterns to specific questions on a national scale. Finally, we will classify the seven nations into groups based on the results of statistical analysis, and draw the characteristics of the ATNE in each nation.

3.1 An overview of the ATNE in the seven nations

Before analyzing the differences of the people's ATNE in the seven nations, we need to clarify a complementary point about the survey questions we used here. In our cross-national comparison survey, we used the original questions #2.5 and #7.35 as well as another question concerning attitudes toward energy conservation that is labeled as #7.34 in the Japanese Character Survey. The contents of Question #7.34 are as follows.

- #7.34 We hear a lot about energy conservation these days. Do you feel that saving energy is ... (READ)
- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1) Very important | 3) Not very important |
| 2) Important | 4) Not important |

The marginal distribution for #2.5, #7.34 and #7.35 in the seven nations shows the percentage supporting the opinion to "follow nature" is 67 percent in Italy, which is more than 2-3 times that of the other six nations (see Table 1). This discrepancy in response results probably stems from the understanding of the word in the Italian language. The Italians may easily understand the word "nature" as the word "Lord" on the basis of the nuance of the term in the Catholic sense. The marginal distributions for #2.5 in USA, Britain, France and the Netherlands are similar to each other, and Japan is similar to Germany.

On the other hand, Table 1 also shows that the American is similar to the Italian, and the British is similar to the German and the Dutch in attitudes toward energy conservation. Moreover, the British is similar to the German, the Italian and the Dutch in the attitudes toward environmental preservation, whereas there is a dissimilarity on this issue between the Japanese and the Americans.

Table 1: Marginal distribution for question items concerning attitudes toward nature and environment in the seven nations

Item No.	Item name	Category name	Code	USA	Britain	France	Germany	Italy	Japan	The Netherlands
		Sample size		1,563	1,043	1,013	1,000	1,048	2,265	1,083
		Survey year		1988	1987	1987	1987	1992	1988	1993
#2.5	Man & nature	1. Follow nature	N:1	25.5	22.5	22.0	36.8	66.7	36.6	20.5
		2. Make use of Nature	N:2	66.2	67.1	66.0	46.6	24.2	47.9	64.4
		3. Conquer nature	N:3	4.5	4.5	6.4	6.7	4.8	5.3	1.8
#7.34	Energy conservation	1. Very important	EC:1	66.0	50.9	33.1	56.2	65.1	41.9	49.2
		2. Important	EC:2	30.4	39.4	54.2	39.2	29.3	47.5	44.0
		3. Not very important	EC:3	2.8	6.3	10.0	3.4	3.1	5.7	4.2
		4. Not at all important	EC:4	0.6	1.4	1.9	0.0	0.3	0.5	0.3
#7.35	Environmental preservation	1. Very important	EP:1	84.2	74.0	69.6	74.2	72.9	45.6	70.1
		2. Important	EP:2	14.7	23.2	28.1	24.3	23.5	45.7	25.9
		3. Not very important	EP:3	0.6	1.5	1.2	0.7	1.8	0.2	1.8
		4. Not at all important	EP:4	0.2	0.1	0.4	0.2	0.7	0.0	0.2

*Note:

1. Gender
G:1 Male
G:2 Female

2. Age
A:1 -29
A:2 30-39
A:3 40-49
A:5 50-59
A:6 60+

3. Educational level
E:1 Low
E:2 Middle
E:3 High

4. Social class
C:1 Low
C:2 Middle
C:3 High

5. Family income
I:1 Low
I:2 Middle
I:3 High

6. Man & nature
N:1 follow nature
N:2 make use of nature
N:3 conquer nature

7. Energy conservation
EC:1 very important
EC:2 important
EC:3 not very important

8. Environmental preservation
EP:1 very important
EP:2 important
EP:3 not very important

To reveal the similarities and dissimilarities of the people's ATNE on a national scale, we first analyzed pooled survey data of the response categories shown in Table 1 using correspondence analysis (Greenacre, 1993). This is a useful technique similar to Hayashi's quantification method for comparing different nations' similarities and dissimilarities in response patterns to questions. As a result, the numeric scores for response categories corresponding to the first two axes were calculated based on the survey data of #2.5, #7.34, and #7.35 in the seven nations.

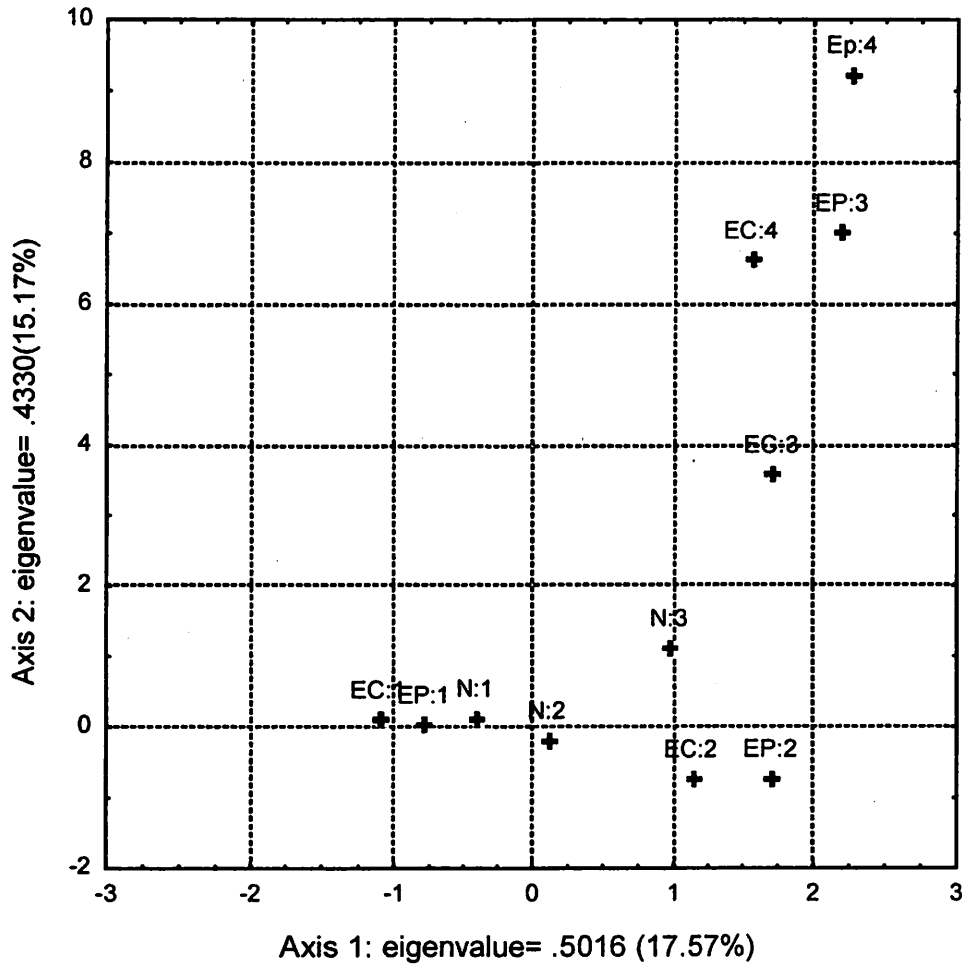


Figure 3: Configuration of attitude toward nature and environmental issues obtained by correspondence analysis

From the configuration of scores, it is obvious that the category "follow nature" (N:1) in #2.5, the categories "energy conservation is very important" (EC:1) in #7.34, and the category "environmental preservation is very important" (EP:1) in #7.35 are significantly separated from other categories by the origin of the first axis (see Figure 3). Furthermore, the second axis divides the categories on the right side of the first axis into two clusters, the first cluster is composed of the "make use of nature" (N:2), the "energy conservation is important" (EC:2) and the

“environmental preservation is important” (EP:2) and is distributed around the lower right quadrant, and the other cluster is located on the upper right quadrant and includes the “conquer nature” (N:3), the “energy conservation is not very important” (EC:3), the “energy conservation is not all important” (EC:4), the “environmental preservation is very important” (EP:3), and the “environmental preservation is not at all important” (EP:4). Viewing the numeric scores on the first axis for each category, we can find the following characteristics macrocosmically:

- (1) The respondents who are in favor of following nature tend to support positive opinions to energy conservation and environmental preservation.
- (2) The respondents who approve of making use of nature incline to support neutral attitudes toward energy conservation and environmental preservation.
- (3) The respondents with negative attitudes toward environmental issues insist on conquering nature.

In brief, the left side of the first axis represents the positive attitudes toward natural and environmental issues and the right side of the first axis represents the neutral and negative attitudes. The second axis divided all neutral and negative categories into two different groups significantly.

When we superimposed the locations of the seven nations based on the average scores for the seven nations over the locations of the positive, neutral, and negative attitudes toward these three questions related to nature and environment (see Figure 4), we found that the USA is located in the area with the most positive attitudes, followed by Italy. Conversely, Japan is located in the area with the most negative attitudes, followed by France, and the Netherlands and Britain which were almost located in the area with the half positive and half negative attitudes, followed by Germany. From these findings, it is clear that there are significant differences in Guttman scaling of response patterns to the ATNE among the seven nations with respect to the three selected items. More precisely, we can divide the seven nations into three clusters as follows:

- 1) USA and Italy: The respondents from these two nations tend to answer the most positive options to the three items, such as “follow nature”, “energy conservation is very important” and “environmental preservation is very important”. These three components indicating the most positive ATNE are consistent for most respondents.
- 2) Britain, the Netherlands, and Germany: These three nations tend to give half positive and half negative responses. The British, the Dutch and the Germans prefer to accept the “energy conservation is very important” and “environmental preservation is very important” opinions, but they also tend to support the opinion to “make use of nature” in the same time.
- 3) Japan and France: This group tends to give negative opinions rather than positive ones, for example, both the Japanese and the French tend to support

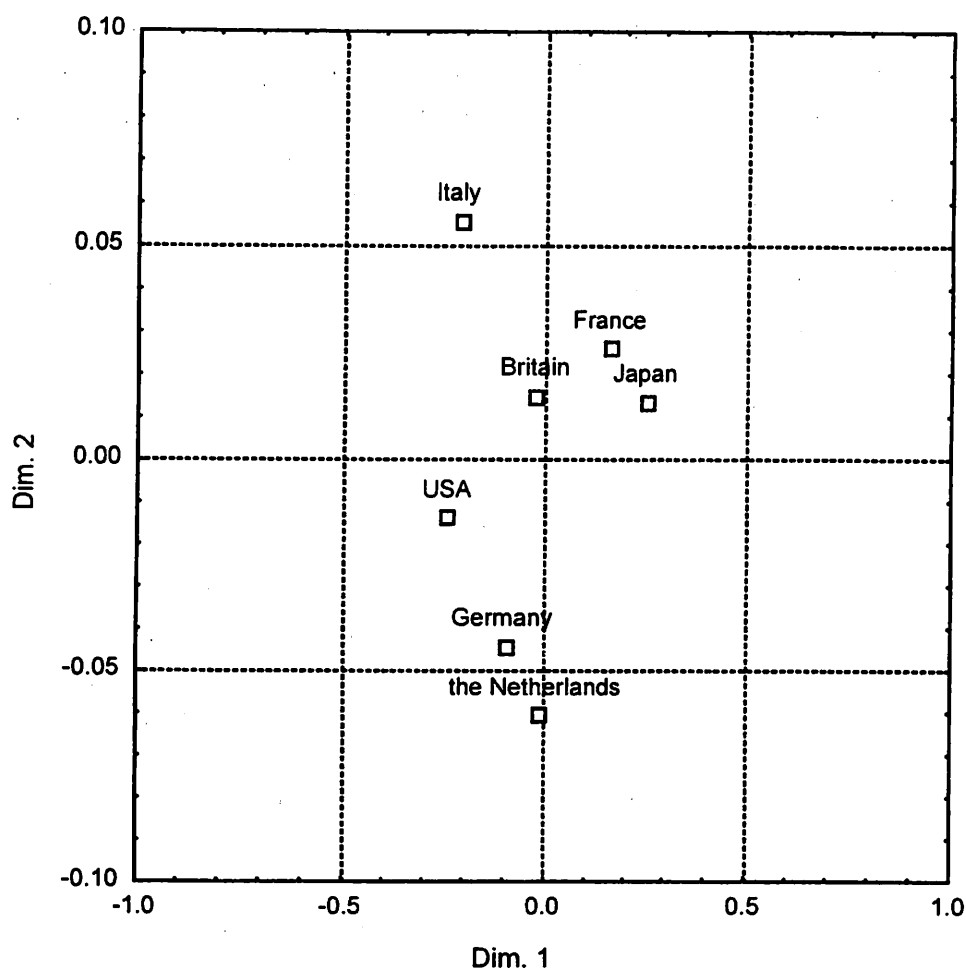


Figure 4: The average scores for the seven nations on attitudes toward nature and environment obtained by correspondence analysis

the opinions to “make use of nature” and “energy conservation is important”. However, at the same time, the Japanese tend to approve “environmental preservation is very important” and “environmental preservation is important” on an equal basis, while the French tend to support the opinion that “environmental preservation is very important”. In the other words, the response patterns of #2.5, #7.34 and #7.35 are relatively independent one another in Japan and France.

The above findings indicate that the ATNE vary significantly from one issue to another for the respondents in the seven nations. Therefore, when we predict the people’s ATNE, we must take the various aspects of nature and environment into account carefully. That is, even if we see the acceptance of the opinion to “follow nature”, this will not certainly mean that we will see positive attitudes toward energy conservation and environmental preservation. However, it will be important to compare the similarities and dissimilarities among nations through

constructing some kind of one-dimension scale.

On the basis of our classification results, we also found that Japan is similar to France, but dissimilar to USA and Italy in the aspects of natural and environmental consciousness. Nevertheless, Yoshino and Hayashi once disclosed that Japan is similar to USA and Britain in the aspects of social values, views on the future and respect toward ancestors, but similar to Germany and the Netherlands in attitudes toward business life and living conditions etc (Yoshino et al, 2001). Considering the opposite conclusions, we shall emphasize that people who have similarities in some issues do not necessarily support similar opinions on other issues, and it is rarely meaningful to discuss the similarities between two nations in general if we lose contact with given issues related to national character.

3.2 Relationships between the respondent's attributes and the ATNE

To clarify the mutual relationships between the respondent's attributes and their response patterns with regard to the attitudes toward natural and environmental issues, we put much attention here on examining the influences of the respondent's gender, age, educational level, social class and family income on the response patterns to the ATNE on a national scale.

Our assumption is that the respondent's attributes have relationships with their response patterns on issues regarding nature and environment. We also took religious faith and religious attitude into account as attributes in our analysis, but we found these two items do not have a significant influence on the response patterns to the issues of interest here. That is, the natural and environmental consciousness among people with different religions may vary for each issue, but people with the same religion may hold inverse attitudes toward the same issue in different nations (Hayashi et al, 1998). Therefore, we analyzed the cross-national survey data on the three items and the five attributes to derive a visual configuration of response categories in a two-dimensional coordinate using correspondence analysis. In addition, we excluded the "not at all important" categories in #7.34, and #7.35, because there are no respondents at all who answered these two categories in Germany and Japan. Moreover, we divided age into five categories that include -29, 30-39, 40-49, 50-59 and 60+ years old, and used the social class, educational level and family income, respectively, as the three-category divisions according to Guttman scaling.

Now we return to the questions of how gender, age, social class, educational level and family income affect the response patterns to issues concerning the ATNE in each nation. The discussions in this section will be extended basically on the basis of the scores for categories distributed in the 25%, 50% and 25% intervals along the distribution of the first axis. The three intervals may be considered as a classification such as the orders of 'positive-neutral-negative' or 'bright-moderate-black' or 'good-medium-bad' etc depending upon the specific issues. For the purpose of simplification, we will start our analysis from the first cluster classified

in section 3.1.

USA: Observing the distribution of scores for each category obtained by correspondence analysis on the two-dimensional coordinates (see Figure 5a), we found that the positive, negative, and neutral categories distributed on the left-hand side, the area around the origin, and the right-hand side of the first axis, except for the categories referring to age. In Figure 5a three of the most basic findings are as follows: First, the senior Americans (A:5), who have a low educational level (E:1), social class (C:1), and family income (I:1), tend to give negative opinions to natural and environmental issues (N:3, EP:3). Next, the younger women (A:1, G:2) tend to support neutral attitudes toward energy conservation and environmental preservation (EC:2 and EP:2), while some of them agree to the most positive opinion, to “follow nature” (N:1), or the most negative opinion on energy conservation (EC:3). Finally, the American men (G:1), who are of middle or high social class (C:2, C:3), educational level (E:2, E:3), and family income (I:2, I:3) tend to approve of the most positive opinions in EC:1 and EP:1, but they also agree to a neutral attitude toward nature (N:2).

Italy: When we located all categories of the five attributes and three ATNE items in the Euclidean space using the scores for each response category (see Figure 5b), we found that all categories distributed orderly along the first axis following Guttman scaling. The characteristics of relationships between the respondent's attributes and their response patterns to natural and environmental items in Italy are: Foremost, the senior respondents (A:5), who have a low social class, educational level, and family income, tend to accept the most negative opinions to environmental issues such as EC:3 and EP:3. Secondly, the middle-aged women have a negative attitude toward nature (N:3) generally, but they incline to support neutral opinions on energy conservation and environmental preservation (EP:2, EP:2). Thirdly, the Italian men under 50 years old, who have middle or high educational level, social class, and family income, tend to support the most positive opinions to N:1, EC:1, and EP:1. This trend is almost same as that of American men.

Germany: The distribution of scores for categories of the three items related to natural and environmental consciousness in Germany is opposite to the situations in USA and Italy (see Figure 5c). We found that the most positive categories were located in the right-hand side of the first axis, and the neutral and negative, on the left-hand side of the first axis. Moreover, there is no significant difference between the first and second eigenvalues (0.2206, 0.1980), so we must use both the first axis and second axis to explain the characteristics of the ATNE in Germany. The main findings can be summarized as follows: First of all, those young women with high educational level, social class, and family income, tend to support the most positive opinions to N:1, EC:1, and EP:1, but meanwhile, some of them also agree to the most negative opinions to EP:3. Secondly, the senior men with middle social class and family income tend to support the neutral opinions to N:2, EC:2 and EP:2, but, on the contrary, some of them also consent to the most

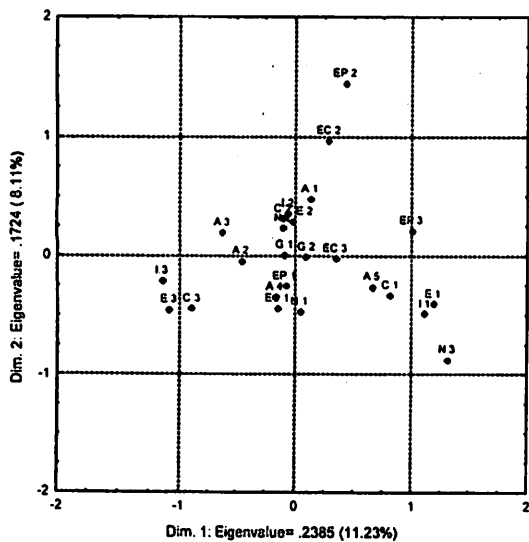


Figure 5a (USA)

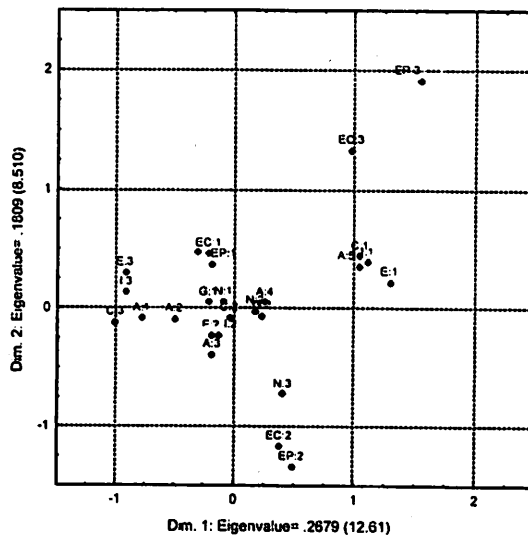


Figure 5b (Italy)

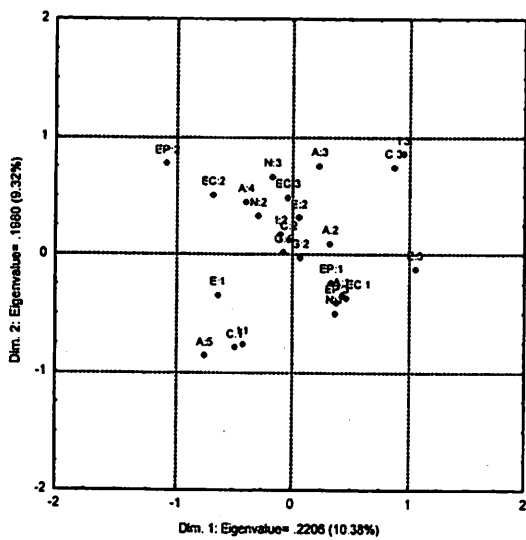


Figure 5c (Germany)

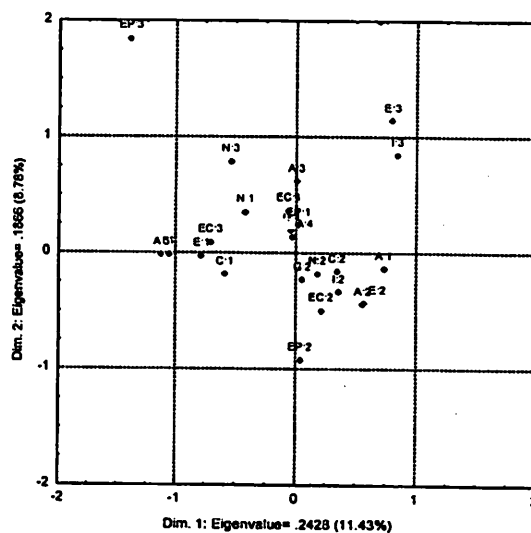


Figure 5d (Britain)

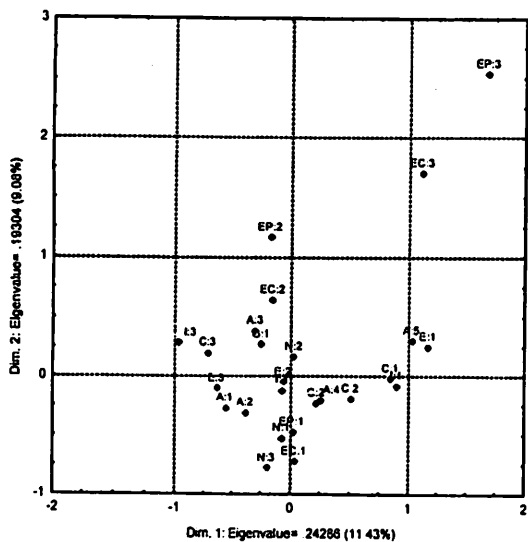


Figure 5e (the Netherlands)

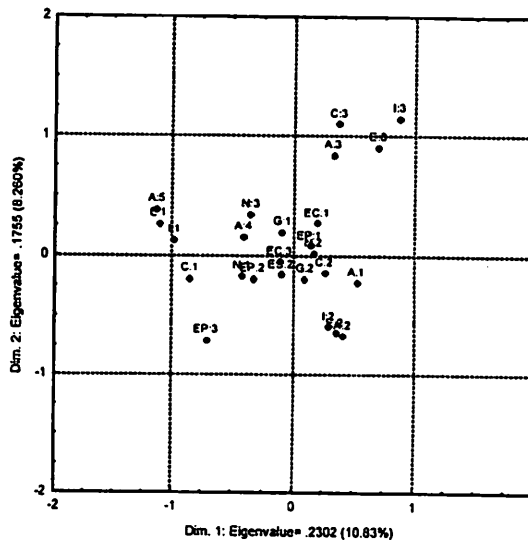


Figure 5f (France)

Figure 5: Configuration of attitudes toward nature and environment in the seven nations obtained by correspondence analysis

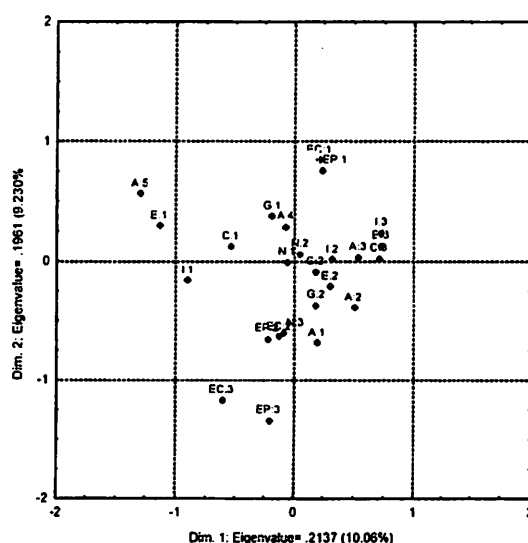


Figure 5g (Japan)
Figure 5: Continued

negative opinions to N:3 and EC:3.

Britain: The distribution of the scores for categories of the three items with regard to the ATNE in Britain show that the positive categories are located around the origin of the first axis, and the neutral options on the right-hand side of the first axis and the negative ones on the left-hand side of the first axis (see Figure 5d). Based on the scores for each category on the first axis, we found the following findings on Britain: First, the middle-aged respondents tend to support the positive attitudes in N:1, EC:1, and EP:1. Secondly, the younger women, with middle educational level, social class, and family income, tend to support the neutral opinions, like N:2, EC:2 and Ep:3. Finally, the senior respondents with low social class, educational level, and family income tend to approve of the negative opinions, such as N:3, EC:3, and EP:3.

The Netherlands: Similar to the distribution of scores for categories of the ATNE in Britain, we confirmed that the most positive categories of the three items related to natural and environmental issues are located around the origin of the coordinates, the left-hand side of the first axis represents neutral attitudes, and the right-hand side of the first axis represents negative attitudes (see Figure 5e). We then found that the characteristics of the Netherlands in aspects of the ATNE as follows: First of all, the middle-aged women, with middle educational level, social class, and family income, tend to support the positive options N:1, EC:1, and EP:1, but some of them also agree to the neutral attitude N:2. Next, the middle-aged men with the high educational level, social class, and family income tend to support the neutral attitudes such as EC:2 and EP:2, but some of them also agree to the opinions N:1 and N:3. Finally, the senior respondents with low educational level, social class, and family income incline to approve of

the most negative attitudes, like EC:3 and EC:3.

France: The configuration of response patterns to the three natural and environmental items and categories with regard to the five attributes indicates that the scores for categories related to gender, educational level, social class, and family income distributed on the two sides of the first axis. The second axis separated the positive and negative attitudes toward environmental items in the upper right quadrant and the lower left quadrant, respectively (see Figure 5f). Three of main findings on France are as follows: First, the middle-aged French with high social class, educational level, and family income tend to support the most positive opinions to environment, EC:1 and EP:1, but they also agree to the neutral attitude toward nature, N:2. Next, the respondents with the most positive attitude toward nature incline to approve of the neutral or negative attitudes on the environmental item. Finally, the relationships between attributes and the ATNE are so vague that we could not divide the French into different groups based their attributes and ATNE.

Japan: The results of correspondence analysis show a configuration of response patterns to the five attributes and three natural and environmental items similar to France (see Figure 5g). The scores for categories related to gender, educational level, social class and family income distributed on the right and left sides of the first axis based on Guttman scaling. The second separated the positive and negative attitudes toward environmental items in the upper right quadrant and the lower left quadrant. We then learnt that there is a similarity to the French distribution of scores for the categories of the five attributes and three environmental issues on the first axis. The characteristics of the relationships between the attributes and response patterns to the ATNE in Japan can be summarized as follows: First, the younger Japanese with middle or high social class, educational level, and family income tend to support the positive opinions to environment EC:1 and EP:1, but most of them also agree to the neutral attitude toward nature in N:2. Secondly, the senior respondents with low educational level, social class, and family income incline to approve of the neutral or negative attitudes toward environmental issues, but some of them also agree to the most positive attitude toward nature. Thirdly, it is difficult to distinguish which groups really show a neutral or negative ATNE based on the results of correspondence analysis in Japan. That is, the respondents with the most positive attitude toward nature did not necessarily have positive attitudes toward environment in Japan. Although the Japanese ATNE has been rising dramatically since the 1970s based on the longitudinal analysis, here we found that it is still in a low state compared to the other six nations.

Figure 5b shows the younger Italians have more positive attitudes toward natural and environmental problems compared to the seniors, but the results obtained by correspondence analysis suggest that the response patterns to the ATNE were seldom influenced by the respondent's age in the other six nations. Most of men in each nation, who have positive attitudes toward energy conservation and envi-

ronmental preservation, tend to support the "make use of nature" opinion rather than "follow nature" one, but men also have a more positive attitude toward nature than women in Japan. As common characteristics of the seven nations, the respondents with the high educational level, social class, and family income, often had positive attitudes toward energy conservation and environmental preservation, but they did not necessarily have positive ones toward nature. Based on the relationships between the attributes and response patterns to the ATNE, USA is still similar to Italy in all aspects. The Japanese are similar to the Americans and the Italians in the aspects of attitudes toward energy conservation and environmental preservation, but are dissimilar to the British, the German, and the Dutch. On the other hand, the Japanese are different from the Americans, the British, the Dutch, the French, the Germans, and the Italians in the aspect of attitudes toward nature.

4. Conclusion Remarks

Through discussing the longitudinal changes in the Japanese attitudes toward nature and environmental issues, we have found that the response patterns to the ATNE have changed significantly along with the development of economy, the extension of industrialization, and the increasing of environmental accidents in the past half century. In particular, the Japanese have been paying more and more attention to natural protection and environmental preservation since the early 1970s.

On the other hand, the results derived from correspondence analysis on the cross-national survey data with regard to attitudes and the natural and environmental consciousness provided us with a beneficially visual configuration of the scores for categories in the Euclidean space. As one of our important findings, we have discovered that the USA is similar to Italy, Germany is similar to Britain and the Netherlands, and Japan is similar to France in the aspect of the ATNE from a macroscopic viewpoint. In our comparative study, we recognized that the formation of attitudes toward nature and environmental consciousness depends not only on specific cultural background, but also on the respondent's social position, educational level, and economic situation etc. For example, although the USA and Italy occupy two separate spaces, both these nations share a much closer sketch of the ATNE based on the results obtained by correspondence analysis, and Japan and France are also in the same position in the same way. The reason for this tendency may be that most natural and environmental failures often happen in a limited area, and the people's understanding of nature and environment may be greatly changed by these accidents. Therefore, we conclude that the attitudes toward nature and environmental issues are influenced greatly by the local society rather than the cultural characteristic behind the civilization system.

Moreover, we have clarified that the respondent's attributes can influence his response patterns to the ATNE in any society. In particular, gender, educa-

tional level, social class, and family income have high correlation with the attitude toward nature and environmental issues. We also found that the Japanese have distinctive relationships between their attributes and their response patterns, compared with the Americans and the Europeans.

Today we are facing diversely transnational problems related to natural and environmental destruction, hence cross-national cooperation will become more and more important. Therefore, the approach seeking common ground while reserving differences should be considered as an advantageous instrument in order to promote cooperation among different nations. The analytical results of the characteristics of the people's attitudes toward nature and environmental issues on a national scale can provide us with important references in the new century.

REFERENCES

- Greenacre, M. J. (1993). *Correspondence analysis in practice*. London: Academic Press.
- Guttman, L. (1982). What is what in theory construction? In R. I. M. Hauser, D. Mechanic & A. Haller (Eds.), *Social structure and behavior* (pp.331-348). New York: Academic Press.
- Hayashi, C. (1973). *Japanese Americans in Hawaii*. ISM Research Report, No.33. Tokyo: The Institute of Statistical Mathematics (in Japanese).
- Hayashi, C. (1992). Quantitative Social Research – Belief System, the Way of Thinking and Sentiments of five nations –. *Behaviormetrika*, 19, 127-170.
- Hayashi, C. & Hayashi, F. (1995). Comparative study of national character. *Proceedings of the Institute of Statistical Mathematics*, 43, 27-80 (in Japanese).
- Hayashi, C., Yoshino, R. et al. (1998). *Comparison of national character of seven nation*. Tokyo: Idemitsu-Syoten (in Japanese).
- Inkeles, A. (1997). *National character*. London: Transaction Publications.
- Kuroda, Y. & Hayashi, C. (1997). *Kokuminsei nanakakokku hikaku (Japanese culture in comparative perspective)*. Westport: Praeger Publishers.
- Mizuno, K., Yoshino, R., Hayashi, C., Hayashi, F., Sakamoto, Y., & Murakami, M., Nakamura, T. (1992). *Nihonjin no kokuminsei, Vol.5*. Tokyo: Idemitsu Shoten (in Japanese).
- Yoshino, R., Hayashi, C., & Suzuki, T. (1995). *Kokuminsei no kokusai-hikaku-chousa no tame no situmon-bun no sakusei (Construction of questionnaire for cross-national comparative social survey)*. *The Japanese Journal of Behaviormetrics*, 22, 62-79 (in Japanese).
- Yoshino, R. (1997). Introduction to an institute of public Opinion Survey –the Institute of Statistical Mathematics. *The Journal, JAPOR, Yoron*, 79, 82-90 (in Japanese).
- Yoshino, R. (2001). *Ko to shyudan no kokoro wo hakaru (Measurement of individual and group)*. Tokyo: Asakura-syoten (in Japanese).
- Hayashi, C., Suzuki, T., Murakami, M., Yoshino, R., Hayashi, F. et al (1995). *Application of cultural link analysis for comparative social survey* (in Japanese), Research Report, 77. Tokyo: The Institute of Statistical Mathematics.

特集 「東アジア価値観国際比較調査」その1

東アジア価値観国際比較調査

——文化多様体解析 (CULMAN) に基づく計量的文明論構築へ向けて——

吉野 諒 三

East Asia Value Survey
—— For the Development of Behaviormetric Study of Civilization on the
Cultural Manifold Analysis (CULMAN) ——

Ryozo YOSHINO

The main objective of this special issue is to show some data analyses of the East Asia Value Survey conducted by the cross-national survey team centered in the Institute of Statistical Mathematics (ISM) during 2002-2004. This survey is closely linked with the longitudinal survey on the Japanese National Character in the past half-century and the cross-national comparative survey in the past three decades by ISM. Our past data analyses have shown that some stability and some changes of peoples' attitudes and social values. The data analyses on the present survey with those past surveys will be useful for the understandings of the countries and regions under development of international cooperation or unification as the "East Asia Community."

This is an introductory paper. I will explain about the survey on "Japanese National Character (JNC)" as well as its historical background in Section 1, and explain about the East Asia Value Survey in the relationships with the cross-national comparative survey as an extension of JNC survey in Section 2. Finally, in Section 3, I will briefly explain the significance of development of a Behaviormetric study on civilization as "Data Science", which is based on the rigorous statistical theory of sampling methods. Also I will explain about our paradigm of survey study, what is called Cultural Manifold Analysis (CULMAN).

Some detailed data analyses on several topics by the other members of the survey and myself will follow this introductory paper.

Key words: Cultural Linkage Analysis (CLA), Cultural Manifold Analysis (CULMAN), Data Science, East Asia, National Character, Cross-National Comparison, Nationwide Statistical Sampling

キーワード: 文化多様体解析, データの科学, 東アジア, 国民性, 国際比較調査, 標本調査

序

本特集号の目的は、統計数理研究所を中心とする国

大学利用共同法人情報・システム研究機構 統計数理研究所, 及び総合大学院大学先導科学研究科生命体科学専攻

(The Institute of Statistical Mathematics, Tokyo, Japan.)

連絡先: 〒106-8569 東京都港区南麻布4-6-7

国際比較調査グループによる「東アジア価値観国際比較調査 — 「信頼感」の統計科学的解析」(吉野代表 2002-2005年度)のプロジェクトにおいて遂行された調査のデータ解析の一端を紹介することである。この調査研究を提案した数年前の時点では、まだ、「東アジア」という言葉さえ、その範囲すら必ずしも明瞭ではなかったが、折しも、この地域の政治・経済の急激な変化、EUに匹敵するような地域共同体の編成として、ASEANを拡大した「東アジア共同体構想」なるものが各所、各

国で提案、議論される時代となった。その成功へ導く鍵となる基本情報の一端を収集するために当該地域の国民性の比較調査を企画したことの意義が再確認されたといえる。ただし、今後、我々の調査データの一般公開を含め、多くの方々による解析を促進するという課題が残っており、また、そのデータ解析から如何に社会に役立つ情報を抽出し、政策立案等の基礎情報を提供し社会に貢献するかという本当の課題が待っている。その課題解決のために、本特集号における本研究の背景説明が、世界の人々にとって東アジアの近い将来を予見するための手がかりとして、少しでも役に立つことがあれば幸いである。

以下の1章では、本調査研究の源である「日本人の国民性」調査とその時代背景について、第2章では、その拡張としての「意識の国際比較」調査について概説し、「東アジア価値観国際比較」調査がそれらの延長上に位置づけられることを説明する。最後に第3章において、「データの科学」という我々の統計哲学に基づいた調査データの研究方法論としての「文化多様体解析(CULMAN)」について概説する。本論文に続いて、各研究者により各研究テーマについて、具体的なデータ解析が例示されるであろう。

1. 「日本人の国民性」調査

—— 歴史と実践と理論の三位一体 ——

統計数理研究所では、1953年以来、半世紀にわたり、5年毎に成人の男女を対象に「日本人の国民性」に関する調査を続けている。昨春(2004年)には、11回目(2003年秋)の調査結果が公表された。

この調査の先駆として、戦後(1948年)にGHQ/SCAPの指示で、統計数理研究所、国立教育研修所、あるいは後の国立国語研究所のスタッフとなる研究者たちを含め、日本全国の社会学、心理学、言語学、その他の関連分野の研究者が集まり遂行された「日本人の読み書き能力調査」がある。これは現実の課題解決のために各分野の人々が集合した、学際的事業であった(読み書き能力調査委員会、1951)。

この調査の背景には、日本語の漢字使用が初等・中級教育に困難を生じ民主主義の発展を阻害しているのではないか、日本の公用語をローマ字化すべきではないかという議論があり、この問題に関連して米国からの教育使節団が訪れている(村井訳、1979)。しかし、当時の占領軍は彼らの考えを直ちに押し付けるのでは

なく、現地の実態と住民の意向を尊重して事を進めるという方針をとった。それが民主主義の大義であった。文部省の統括の下に、日本全国から各分野の関連研究者が集合し、戦後初めての学際的研究調査プロジェクトが、現実の政策立案のための基礎情報収集として開始された。

当時この仕事に携わった人々はCIE(民間情報教育局)ライブラリーから入手した書籍を勉強しながら、日本の事情に則した標本抽出計画を練った(木田、2001;高倉、2004;柳原、1998)。(実は、標本抽出理論自体は戦前、既に大正13年亀田豊治明の先駆的研究により、単純ランダムサンプリングの精度計算がなされ、日本での第一回のISIで報告されていた[高橋、2004, p.109]。しかし、これは実践に結びつかず、戦後に米国から輸入されるという形になってしまった。どんなにすばらしい理論でも、実践に結びつかねば発展しないという例の一つである。)小田原で実験的に全数調査が遂行され、その有効回収票から無作為抽出した回収票(標本)に基づいて計算した推定値と実際の値(母集団)とを比較して、標本抽出理論の有効性を確認したという。この成果を受けて、戦後民主主義を発展させる基盤となる科学的(統計的)世論調査が官民で推進されていくことになる(林、1990;今井、1996a, 1996b, 1997)。ここで開発された実践的標本抽出法を活用して、昭和28年には統計数理研究所の「日本人の国民性」調査が開始されることになる。これは、さらに米国のGSSなど、諸外国での同様の時系的調査開始の刺激となっていく。

これらは表の話である。実は現在の視点で当時の世界の流れを眺めると、戦前、戦中、戦後にわたり、米国社会学会では戦争相手国の「国民性」や「読み書き能力」が戦略や占領政策立案のために大きなテーマとなり、各国、各地で関連する調査研究が遂行されていたことが分かる(Inkeles, 1996)。他方、戦中の太平洋諸島では、日系人による日本人捕虜の尋問調査により、戦略が大幅に効率化され、また戦後の占領政策の骨子作成に利用するための重要な情報を収集することに成功している。山本(2001)の著書「日本人捕虜は何をしゃべったか」の表(p.181)には天皇、軍部、マスコミ、政府に対する信頼感のデータが示されている。天皇への不信は0%、軍部への不信の高さ、マスコミへの信と不信の拮抗など、わずかこれだけの限られたデータだが、戦後の天皇の位置、軍部の処置、政府やマスコミの改革など、占領政策立案に見事に反映されて

いったのではないか。

また、戦後には、各国や各地で、人々が民主主義発展の必要条件としての読み書き能力（一部のリーダーに盲目的服従をしない条件としての基礎学力）が調査されていった。日本調査の背景には、1932年のトルコの国字改革研究を念頭に置き、また検閲の簡便化をも検討していた Hall が関与していたことがある（アンガー、2001、4章）。しかし、当時の彼らが卓見であったのは、調査遂行を現地の研究者（統計学者、文化人類学者）に任せたことである。占領軍側の本当の目的が日本側には知らされていなかったために、日本人の現地調査監督者や調査員にバイアスのかからない調査（いわば DOUBLE BLIND 法）ができ、結果として、現地の実態や住民の意向を的確に調査できたといわれる。それらの調査に関与した人も、当時すぐには自身が関与した仕事の本当の意味（米側の目的）は知らず、後になって、米側の責任者の回顧録（パッシン、1981）等によって真の目的が理解できたと告白している。現実には、米国側にも日本語のローマ字化には様々な議論や思惑があったようだが、形としては先の「読み書き能力調査」の結果を受けて、日本人の十分な能力を確認し日本語は生き残ることになった。

実は、戦後、米軍のアジア戦略上の要地であった奄美大島、琉球などでも住民調査が遂行され、その報告書が極秘裏で米国本土へ送付されている。調査の担当は、後に米国 Ohio 大学の社会学教授となった日系人将校 Ishino であり、その報告書や手紙は POSR (Public Opinion & Sociology Research Division) 文書の一部として保管され、機密解除後、15年ほど前に日本側に返還され、現在は（財）日本世論調査協会が保管している。この Ishino の報告書の中には、「現地の優秀な若手の統計学者（草創期の統計数理研究所員であり、後に総務省統計局の参事となり、一昨年9月に亡くなられた）水野坦氏と二人の文化人類学者の助力を得て調査を遂行した」という主旨の記述がある。現実には、住民運動や政府間の裏交渉など複雑な政治上の駆け引きがあったのだが（エルドリッチ、2003）、いずれにせよ、形としては住民調査の結果を受けて奄美は戦後比較的早い時期に日本へ返還されたが、沖縄の返還は昭和47年まで延ばされるという運命をたどることになる。

今回のイラク戦争では、日本の識者が米軍による戦後の「日本占領モデル」は適用可能かと問われ、多くは「明治以降、民主主義の歴史のあった日本とアラブ

諸国とは異なる」と回答したそうである。しかし、それは正解の半分であろう。戦前、戦中の慎重な調査研究、戦後の日本で、信頼のできる現地人によるバイアスのない調査を遂行し、それを施策の基盤とした「米国モデル」の重要性を米国自身が十分に認識していれば、今回のイラクでもはるかに適切な対応ができたであろう。Newsweek (Oct. 22, 2003) などによると、今回は、失敗を続けた後ようやく、現地の人々を雇用することにより味方につけるといふ、どちらかといえば戦後の「米国」モデルに近い発想へ進み始めたようだ。

いずれにせよ、「読み書き能力調査」は戦後の民主主義を進展させるために民意を広く偏らず汲みあげるための「世論調査」の基盤を整える契機ともなった。戦後の物資不足の中で用紙の配給を GHQ が握っていたこともあり、新聞各社は GHQ の指示により、統計数理研究所の指導を受け、統計学的に厳密な世論調査を確立していったのである（今井、1996a, 1996b, 1997）。戦時中にできた研究所が次々と廃止されていく中で、統計数理研究所（開所1944年）は、戦後民主主義の科学的基盤を支える使命を担い、新たに出発したのであった（吉野、1997）。

民主主義発展のための世論調査は、GHQ の圧力の下で開始されたと言えるが、統計理論上からは、整備された住民票や選挙人名簿が活用できる日本のみが理想に近い標本抽出（偏らない回答者の選び方）が可能となっている。戦後、長年にわたり「日本の民主主義は民主主義ではない」という欧米からの批判（日本異質論）があったが、奇妙なことに、米国を含め、他の国々では、割当法など、統計学上は望ましくない標本抽出方法に甘んじているのが実情である。（米国の2000年大統領選挙や2002年中間選挙のマスメディアによる予測失敗は、象徴的であった。）つまり、世論調査の方法に限って言えば、日本が最も民主主義的で科学的なのである。

このような流れの中で、「読み書き能力調査」で開発された実践的技法を活用して、1953年（昭和28年）に統計数理研究所による「日本人の国民性」調査が開始された。先述のように、米国の社会学会では、戦中から戦後にかけて戦争や占領の相手国の国民性に対する関心が増大していた頃であったが、不思議なことに日本の側で、当時、この背景について意識して調査に携わってきた人は、必ずしも多くはなかったようだ。統計数理研究所・元所長の林知己夫によると、米国が本当の目的を知らせずに、日本人自身に各種の調査を遂

行させていったということである。

「日本人の国民性」調査は、今日では、内閣府政府広報室の「社会意識に関する世論調査」、NHKの「生活時間調査」と共に日本の三大標本調査として有名になった。さらに、米国の「一般社会調査 General Social Survey」や「世界価値観調査 World Value Survey」、ヨーロッパEUの「ユーロ・バロメーター Eurobarometer」など、世界の各国の大規模な調査や国際調査を開始させる刺激となったと言われている。

「日本人の国民性」調査は半世紀にわたって継続されてきたが、この調査や次節で述べる国際比較調査で明確に浮かび上がってきた日本人の特徴は、例えば次のようなことである。

一つには、長年、日本人の意識を探る上で、「伝統と近代」の対照軸があり、価値観や態度の種々の側面をこれに関連づけることができた。欧米流の「近代化理論」(富永, 1999)の中で各国の発展が論じられてきたが、特に、日本の場合、「伝統」と「近代」が必ずしも対立するのではなく、矛盾なく併存している側面があった。これは、明治以来の欧化政策、「和魂洋才」を経てきた結果でもあろうか。しかし、この対照軸も1973年ぐらい(オイルショックや、環境問題が大きくなってきた頃)に若年層から徐々に崩壊の兆しを見せはじめ、さらに1990年代からは全体として混沌とした様相を見せている。おそらく、世界経済の一翼を担うようになった日本が参考にすべき先行モデルのない状況で、伝統的産業社会から高度情報化社会への移行期における人々の意識の混乱を示しているかとも思われる。たとえば、対人間の信頼感にも混乱が見られるようになったかもしれないが、これは直ちには、人々の信頼感が損なわれているということではあるまい。NPOなどのボランティア活動は、かつてなかったほどに盛んになってきたのである(林, 入山, 1997)。おそらく、社会の再構築の混乱の中で、人々の善意のエネルギーが新たな場に流れ込んでいるのではないであろうか(Yoshino, 2002)。

基本的な人間関係については、日本人固有の「義理人情」的態度は半世紀にわたりほとんど不変であった。国民性に関する諸側面では、例えば政治・経済に関係する側面は比較的短期の変動も見られる。例えば、1990年代からの経済的低迷の下で、日本人の科学技術に対する自信も低下が見られるし、政治に対する期待や信頼も混迷を深めている。しかし、人間関係における態度や意識は、日本人のみならず、一般に長期にわたり

変化し難いものであるようである。これは海外移民や、政治・経済体制の変化に伴う「文化変容」について考える場合にも重要である。例えば、ソ連や旧共産国の崩壊、「社会主義」中国の急激な変化について、社会体制と各国民の意識や態度の相互関係というような社会学の大問題を考える際には重要であろう。

国民性研究の大家 Alex Inkeles(1996)は、常々、政治や経済の要因は、国民性の一部としては考えるべきではないと強調している。しかし、同じような経済状態にあっても、例えばフランス人は悲観的、ブラジル人は楽観的であるというようなこともある。1980年代の日本は経済的には世界のトップクラスに踊り出たにもかかわらず、日本人の満足感はそれほど高く示されなかったが、近年は不況にも関わらず、むしろ満足感が高く示されているというパラドクスも報告されている。したがって、政治・経済も国民性と分離できない側面があるのである。これについては、私はインケルスと議論したことがあるが、結局、同じ状況に対しての反応は国民によって異なるのは確かであろうが、政治・経済状況の各国での客観的差異を割引いて考慮すべきという結論では一致した。

宗教的な態度については、日本人の約3分の1が実際に信心をもち、年齢を重ねるうちに信心を持つようになっていく傾向がある。また、信心していない人々も含めて、全体の6~7割もの人々が「宗教心は大切」と回答している。これらの傾向も約半世紀にわたり、ほとんど不変であった。欧米一般と比べて、これらのどれも日本人が欧米人とは異なる点として浮かび上がっている(オランダ1993年調査でも年齢の高い方が信心している率が高かったが、これはコホート効果で年齢効果ではなかった)。なお、海外(ハワイ、ブラジル、米国西海岸)の日系人についても、宗教心及び人間関係(義理人情的態度)については、日本にいる日本人と同様の傾向があることが確認されている。(欧米人に「義理人情」がないと言っているのではない。日本人が「義理人情」を感じる固有の場面での意識や態度と比較した結果であり、他の場面や状況では各国の人々もそれぞれの形での「義理人情」を示すのかもしれない。)

詳細は第1~第5「日本人の国民性」(至誠堂, 出光書店)、あるいは林(2001)、吉野(2001)、林・桜庭(2002)を参照していただきたい。

2. 「意識の国際比較調査」

我々の研究は、1971年頃から、国民性をより深く考察する目的で日本以外に住む日本人・日系人を初め、他の国の人々との比較調査へと拡張されてきた。

初めからいきなり全く異なる国々を比較しても、我々のような意識調査では計量的に意味のある比較は出来ない。言語や民族の源など、何らかの重要な共通点がある国々を比較し、似ている点、異なる点を判明させ、その程度を測ることによって、初めて統計的「比較」の意味がある。この比較の環を徐々に繋ぐことによって、比較の連鎖を拡張し、やがてはグローバルな比較も可能になろう。我々は、この方針の下で、国際比較を進め、「連鎖的調査分析(Cultural Linkage Analysis, CLA)」と呼ぶ方法論(Suzuki, 1989)の確立を目指してきた。様々な国を比較する時は、翻訳の問題、各国固有の調査方法の違いに関わる問題など、そもそも国際比較など可能なかが大問題となる。厳密に言うと、我々はこの「国際比較可能性」を追求するための方法を研究しているのであり、単純に調査結果

の表面上の数値を比べ、解釈しているわけではない。ここにおいて、「データの科学」(林, 2001; 吉野, 2001; Yoshino & Hayashi, 2002)と称する統計哲学を計量的文明論(林, 2000; 吉野, 2001)のために試行錯誤しているのである。

また、最近では、世間一般で国際比較調査が数多く遂行されているようであるが、資金さえ十分あれば、この国でも我々の取り扱うような統計的標本調査がすぐに可能であるわけではない。対外的な政治的理由、国内事情により、調査が不可能なこともある。例えば、統計数理研究所が国際比較調査として最初(1971年)に企画したブラジル日系人調査では、当時、軍政下のブラジル政府からはビザが発給されず、急遽、ハワイ日系人調査へ変更したというエピソードがあった。また、中国や東南アジアの国々の中には正確な国勢調査の統計がなかったり、全国レベルの正確な戸籍簿や住民票などが一般に手に入るような状況ではなかったり、偏らず適切に国民を代表する調査データを得るのは容易ではないところもある。

今日までに、我々のグループが調査した地域や国々

表1. 統計数理研究所の国際比較調査

実施年	日系人関係	(サンプルサイズ)	調査対象 各国全国規模の標本抽出調査	(サンプルサイズ)
1971	ハワイ在住の日系人	(434)		
1978	ハワイ住民(日系人を含む)	(751)	米国本土のアメリカ人	(1,571)
1983	同上	(807)		
1987	イギリスのイギリス人	(1,043)		
			(旧)西ドイツのドイツ人	(1,000)
			フランスのフランス人	(1,013)
1988	同上	(499)	米国本土のアメリカ人	(1,563)
			日本人(A調査)	(2,265)
1992	ブラジルの日系人	(492)	イタリアのイタリア人	(1,048)
1993			オランダのオランダ人	(1,083)
1998-1999	米国本土(西海岸)の日系人	(346)		
1999-2000	ハワイ住民(日系人を含む)	(500)		
2001-2002			中国(北京, 上海)	(1,087, 1,042)
			日本	(787)
2002-2003			中国(北京, 上海, 香港)	(1,062, 1,053, 1,057)
			台湾	(732)
2003			韓国	(1,006)
2004			シンガポール	(1,037)

注) ハワイ調査はホノルル市のみ。中国も北京や上海の中心市街地のみ。ブラジル調査はサンパウロを中心とする地域。上記の1993年までの調査については、「国民性七か国比較」(林他, 1998, 出光書店)を参照せよ。近年の「東アジア価値観国際比較調査」を含む多くの研究成果は統計数理研究所・研究レポート等として発刊されている。

には、表1のようにハワイ(日系人・非日系人)、ブラジル(日系人)、米国本土(一般及び日系人)、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、オランダの他、中国や東南アジアの国々が含まれる。特に、2002年度より4か年計画で、日本、中国(北京・上海・香港)、韓国、台湾、シンガポールを含む「東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析」を遂行した。本特集号はその調査メンバーによるこれまでのデータ解析の一端を示すものである。

我々の調査では「国民性」という言葉を用いているが、これは過去の経緯でニックネームとして用いている言葉であることに御注意願いたい。この国民性という概念は、一方で社会学や生物学などでは、そもそもそのような概念の定義や実証性が大きな問題となり、他方では広く一般社会でも民族間の衝突に関与してきた、学術的にも社会的にも問題のある言葉であった。そのため、場合によっては過敏なほどに、この言葉の使用を避ける人々も多いのである。我々の立場は、国民性の特定の定義にとらわれず、実証的な「国民性」などというものが存在するにせよ、しないにせよ(あるいは、一部の国の人々にだけにそれが存在するにせよ)、またそれが比較的永続的な部分も、逆に政治・経済状況等により短期的変動を見せる部分もあるにせよ、「人々の意識構造」について、各国民の統計的な(科学的な)調査を遂行して浮かび上がってくる重要な情報を捉えるべく、データの収集とその解析の方法を開発しようとするものである。この点では、我々はInkeles(1996)と同様の認識を持っているといえよう。

一般に、科学において、最も重要な概念は、実は未定義のままであることが多い。例えば、物理学において「力」は最も重要な概念の一つであろうが、それ自体の定義はない。力学的な力や電磁気的な力の単位に対しては、それぞれ厳密な操作的定義が与えられている。しかし、「力」一般の定義はないのである。同様に、我々のテーマの「国民性」という最も重要な概念にも、作業仮説的な定義や仮説はともかく、確立した定義などないのである。その定義がなされたときは、このテーマについて世の中の全てが判ってしまったときであろうが、それは近い将来にはありそうにない。しかしそれゆえに、他方で、「国民性」に実証的にアプローチするためには、調査におけるデータの収集法、解析法などは科学的に厳密に定義し、管理しなければならないのである。

多くの研究者がそれぞれの国民性の定義や方法論を提案して、特にアメリカ流の研究者は、「個人」の集合としての「国民」の科学的研究として、例えば精神分析学を利用している。しかし、我々、長い歴史を持つ日本人であれば、人は「個人」ではなく「人間(じんかん)」に暮らす存在と見る。そして、その理解のためには、自然に歴史の流れの中で、人々の相互作用から現われる関係を相補的に把えるのが妥当と考える。このような研究視点の違いには、WASP(アングロサクソン系の白人新教徒)中心の米国が短い歴史しかもたず、その繁栄を科学技術が支えていること、一方で日本は長い歴史があり、現在の我々の社会を常に歴史の観点から位置づけるという認識の違いがあることを反映していると思われる。(あるいは、19世紀の欧米の社会学が「歴史」を科学的に取り入れることに失敗してきたことが影響を与えているという観点も考慮すべきか。)

「日本人の国民性」が国際比較の枠組みの中で、より明確に浮かび上がってきたことも多い。前述したように、宗教的態度や人間関係における意識や態度は、日本人固有の側面もある。さらに、例えば、日本人は両極端な回答を避け、「中間回答(「ふつう」、「どちらともいえない」、「場合による」等)」を選択する傾向が強いのことは幾度も確認されてきた。ハワイやブラジルの日系人調査でも比較的同様の傾向があると言われてきたが、米国本土の日系人(吉野編, 2000)はそうではなかった。これは、米国本土のような多民族社会では以心伝心は通じず、明確な自己主張をしなければ生きていけないという、社会環境と性格の相互作用の結果であろう。一方で、バイリンガルによる比較調査では、同じ日本人でも日本語で質疑応答する場合と英語でする場合では、回答傾向が異なることも判明してきた。つまり、中間回答傾向は、文化、社会と広範に関連した言語の特性とも言える(Kuroda & Suzuki, 1989b; 吉野, 1994)。

我々の国際比較調査の詳細は、「国民性七か国比較」(林, 吉野他, 1996)、「心を測る」(吉野, 2001)、吉野(1994)、Yoshino & Hayashi(2002)、Yoshino(2002)、「国民性論」(Inkeles著, 吉野訳, 2003)の附章「日本における国民性研究の系譜」(吉野著)、「学際」の特集号(No.12, 2004b)や、一連の統計数理研究所・研究リポートや調査報告書、それらの参考文献を参照されたい。

なお、余談ではあるが、総務庁(現内閣府)の「青

少年の意識の国際比較」は、1972年以來5年毎の時系列国際比較調査として今日まで継続している貴重な事業であるが、これは当時、総務庁青少年対策本部に在職されていた、千石保氏(現青少年問題研究所・所長)、遠山敦子氏(前文部科学大臣)が、当時、海外調査を展開し始めた統計数理研究所の西平重喜所員(現名誉所員)と共に、開始したのであった。

3. 計量的文明論の確立に向けて

3.1. 「データの科学」と「文化多様体解析 CUL-MAN」

最近、「データの科学」という言葉が各所で使われ始めた。しかし、「データの科学」という言葉を行動計量学の研究者が用いる場合は、故・林知己夫元会長を中心に2001年頃より出版物(朝倉書店・データの科学シリーズ、林, 2001; 林文・山岡, 2001; 吉野, 2001)で唱えられているような意味で用いられることを意図している。すなわち、これは現実社会の課題解決のための実験や調査の企画から始まり、データ収集からデータ解析までの全過程を通して現象を理解するという哲学である。戦後の数十年にわたり、数理統計の机上の論理に反発して登場した「統計数理」(これは研究所の名前ではない)、「数量化」(林・水野・青山, 1952)(これは多変量解析の特定の技法ではない)、「行動計量学」(林, 1993b)、「多次元データ解析」(多変量解析と数学的には強く関連しているが、哲学的には区別されるべき)(林, 1993a; 林, 2001, 107-108; 林, 飽戸, 1976参照)、そして「調査の科学」の延長上に昇華された、社会科学分野の複雑現象を解析するための新たな統計哲学である(この経緯については、林, 2001; 高橋, 2004; 森本, 2005も参考となろう)。

この「データの科学」に至る過程で、一つには本特集号でも取り上げている「意識構造の国際比較」調査研究において連鎖的方法論(CLA)という研究パラダイム(1978年の米国調査において林が着想)が生み出されたのであった(詳細は、林, 2001; 吉野, 2001; Yoshino & Hayashi, 2002)。この連鎖的方法論に関して、我々は過去の研究を通じて、以下のような認識を強めてきた。

我々は国際比較可能性を追求する中で、指標や尺度の比較可能性と適用範囲に一種の相補性(森を見るか、木を見るか)があることに留意している。即ち、グローバルに標準化された指標や尺度は、各国間の概略的な

様相を現わすが、各国の事情の差を考慮した深い分析に供するのは難しい。逆に、例えば日本の事情を詳細に考慮した敏感な指標は、海外との比較には適さないことが多い。ここで、我々は、「特定のテーマに関する指標や尺度(質問項目群)の母集団」からの標本抽出と誤差の理論を考えることになる。例えば、ある単一の項目は同一言語ですら、その表現をわずかに違えただけでも大きな回答差を生じることがあり、仮に国際比較で2国間の差を見出してもそれが本質的なものか、単に翻訳表現の微妙な差の効果か直ちには判断し難い。しかし、質問項目群全体(複数の項目)に対する回答データを多次元パターン分析すると、多少の表現の差や標本抽出法の差違に依らず、多国間の比較的安定した回答パターンが得られる(吉野, 2001)。

やがてこのような考え方は整理され、以下のような3種類の比較の連鎖を徐々に拡大し、やがては多様な項目に関してグローバルな時系列的かつ国際比較を目指すという、文化の連鎖的比較の方法論が発展したのである。即ち、

1) 時系列的連鎖(temporal link inherent in longitudinal analysis)

例えば統計数理研究所による「日本人の国民性」調査のような長年にわたる継続調査が想定される。5カ年毎の各回の調査(時間の局所チャート temporal local chart)が少しずつ重複しながら、その時代、時代をカバーし、それらが全体として長期の時系列調査(temporal atlas)を構成する。(図1参照)。

さらにこれは以下の3)と関連するが、各時代の調査に対応する調査票(調査項目群)の項目を時代とともに少しずつ修正、または新項目に入れ替えていく必要がある。長年にわたる比較では徐々に比較尺度の内容や表現を適宜に変えていかないと、計測の意味がな

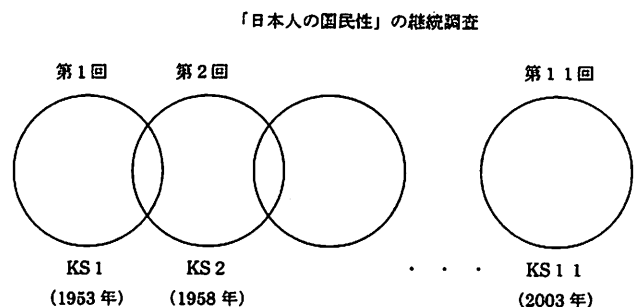


図1. 時間の連鎖(時系列的連鎖)
各調査が各時代をカバーしながら、連鎖をなし、対応する調査票(項目群)も連鎖をなす。

なくなってくることもある。(例えば、物価指数や株価インデックスの場合でも、物価指数を計算する基礎となる生活用品等の集合、日本の産業を代表する株式会社の集合は、50年前と今と同じでよいはずがない。)この場合、ただ新たなものを取り入れ、新たな尺度へいきなり移行すればよいのではなく、比較の連続性が保障されるように、ある期間は古い尺度と新たな尺度とを併用して対象を計測していき、双方の尺度の一致性、連続性、また必要であれば変換式 [cf. 物理学におけるゲージ理論] などを考察していき、それが明確になった時点で新たな尺度へ移行する。そういった尺度使用の連鎖を拡大することにより、短・中期の比較尺度を徐々に繋げた長期の変動傾向を表すパターン分析が可能となろう。

2) 空間的連鎖 (spatial link inherent in cross-national analysis)

いきなり全く地理的にも文化的にも離れた国々や社会集団同士の意識を比較しようとしても、異なる言語での「同じ」質問項目の調査を保障する点において、疑義が生じやすく、場合によっては解析法や解釈において誤解が生じる危惧がある。その点に鑑み、文化・歴史・人種や民族等の重要な属性において、ある程度の共通性が想定される国々や集団間 (spatial local

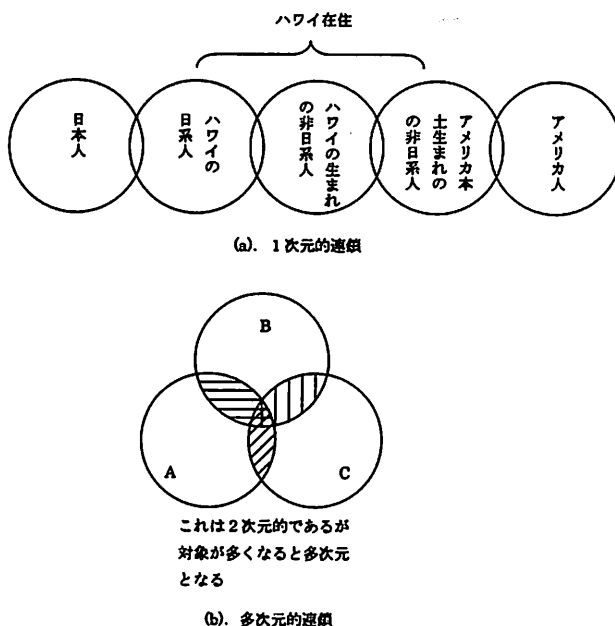


図2. 空間的連鎖(国際比較等, 異なる集団の比較) 各調査は特定の国・地域・社会集団をカバーしながら、連鎖をなし、対応する調査票(項目群)も連鎖をなす。

chart)の比較の連鎖をはじめとして、徐々にその連鎖を拡大し、空間比較の地図帳 (spatial atlas) を構成していく。やがてはグローバルな世界的比較も可能となろう(図2参照)。ここでも、以下の3)に関連して、各国・地域でのそれぞれの調査票(調査項目群)も、空間的連鎖に対応して、連鎖を構成する。

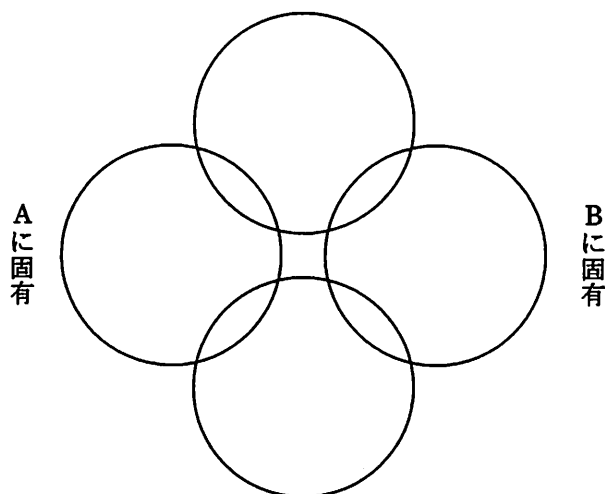
3) 項目の連鎖 (item-structure link inherent in the commonalities and the item response patterns within and across different cultures)

これは、まず上記の1)と2)のそれぞれの場合(temporal local chart), 各測定対象(調査国や集団 spatial local chart)に対応する調査票, 即ち、質問項目の集合 (item local chart) が定まる。時系列的調査では、質問項目の表現や内容を、共通なものを大幅に残しながらも、必要に応じて、少しずつ古い項目と新たな項目を入れ替えていき、「調査の継続の意義」と「調査尺度の連続性」の双方を担保していかねばならない。国際比較では、同じ比較テーマ、例えば「信頼感」について調査するとしても、欧米諸国では意味のある比較尺度となっている項目も、東アジア地域ではそのまま翻訳しても文化背景の違いからあまり意味を為さず、別の表現の項目で調査すべきということもあろう。このような事実を鑑みて、時代の変換の幅、国際比較の対象の広がりや範囲を考慮して、ある特定の時代(期間)の比較対象となる国々や社会の集合に応じた適切な尺度(調査項目群)で構成される調査票が必要である。

(cf. ここで述べている項目群と調査の精度について、Guttman「[1982]」の考え方が参考になる。すなわち、あるテーマに関する類似の表現の質問項目の母集団を想定し、具体的な項目一つ一つは、その母集団から抽出されたものと捉え、統計的標本抽出理論によって、人間の社会の母集団からの標本抽出に伴う誤差が計算できるように、質問項目の母集団から抽出された個々の表現(国際比較の場合は異なる言語)の項目は、ある程度の誤差を伴いながらも、「同じ」母集団から抽出された同じ意味の項目として捉えられ、それらに対応する回答データも比較可能であると考えるのである。我々の用語では、各テーマの項目群が全体として項目帖(item atlas)をなすと表現する。これは直ちに、国際比較において、異なる言語で表現された「同じ」項目に対する回答データの比較可能性についての考え方に通じる。) (図3参照)

これらの1), 2), 3)の各調査対象(連鎖のリンクの

近代化社会として A, B に共通



日常的な社会生活, 人間としての
基本的感情や気持ちに関係するも
のとして A, B にある程度共通

図3. 項目の連鎖(例)

一つ) に対応する局所チャート (local chart) が考えられることに注意する。そして、この文化の比較連鎖は、各連鎖チャートが場合によっては一部が重複 (overlapping local chart) し、または包含関係を見せながら、さらに国際比較の範囲の大きさの大小、時系列的な長さの長短に対応して、階層構造 (hierarchical structure)、いわば文化の多様体 (Yoshino, 1991; Yoshino & Hayashi, 2002, p. 257) をなすと考えられる。

即ち、まず上記1), 2)における各 chart が集合関係で階層構造を構成すると見ることができのことに注意する。時系列的連鎖では、各調査がカバーすると想定される時代の幅に応じて、local temporal chart の重複や包含関係があり、これから階層構造が構成される。2) の空間連鎖でも、spatial local chart が対応する地理的範囲に応じて、重複や包含関係があり、階層構造をなす。そして、1) と2) の連鎖の拡張に対応して、項目 (item local chart) の連鎖があり、それが3) の項目の集合として階層構造をなす。さらに、項目構造に関しては、例えば「産業近代化」を調べる項目群 A と「科学技術」を調べる項目群 B がある時、それら A と B に共通の項目群、A に固有の項目群、B に固有の項目群などが考えられる。つまり、あらゆるテーマに関する項目の集合 (項目の母集団) を考え、その集合として

の包含関係から、やはり項目の階層構造が得られるのである。

これらの構造において、chart の重複がうまく接続 (connection) されることが連鎖の拡張の条件となる。例えば時系列では、調査項目群が尺度としての連続性が保証されること、国際比較では2調査で鍵となる共通の地域・国が含まれ、それらが矛盾のない回答パターンを示すことなどである。例えば、我々の「日欧米七か国調査」(1988-1993) と「東アジア価値観調査」(2002-2005) では、双方に日本(1988年と2001年)が含まれている。もし、双方のデータが特定の項目や尺度に対し安定した回答パターンを示したとすれば、時を置いても安定した側面として、2調査を接続し、同じ枠組の中で比較できよう。あるいは、2調査をそれぞれの枠組の中で比較し、その双方の結果における日本のパターンの異同を参考に、全体の傾向について言及できよう。

このような観点からの解析のパラダイムを、文化多様体解析 (Cultural Manifold Analysis, CULMAN と略す) と呼ぼう。問題は、この比較チャート間の尺度の繋ぎ(チャート A の尺度とチャート B の尺度が、A と B の和集合のチャートにおける尺度や解析方法等) をどのようにあたえるかを示すことが課題となる。尺度の時間的安定性、国際比較での様々な非標準誤差を伴う条件のもとでの安定した回答パターン解析法など、「適度に敏感で、かつ適度に鈍感な」尺度項目の設計とデータ解析法が求められ、その知見が蓄積されていき社会で共有されていくことが肝要であろう(図4参照)。

この解析法の試行には、次のような多重な意味での(人文社会科学における、あるいは調査データ解析における)「相補性原理(Principles of Complementarity)」が示唆される。

1) 理論と実践における相補性: データ収集の実践方法(調査方法)と理論(データの代表性や誤差推定計算を与える標本抽出理論など)は、互いに他方を支え合い、正当化する。

2) 比較すべき国々や社会集団の範囲における相補性: 日本全国か、アジアの国々か、グローバルな世界の国々か、先進工業国か発展途上国かなど、に応じて調査項目の比較の妥当性や信頼性が影響される(比較調査対象の範囲において、森を見るか、木を見るか)

3) 調査テーマの範囲における相補性: 単一のテーマに焦点を当て深く分析するのか、多様な側面を包括して概括的に調査・解析するか(データ解析において、

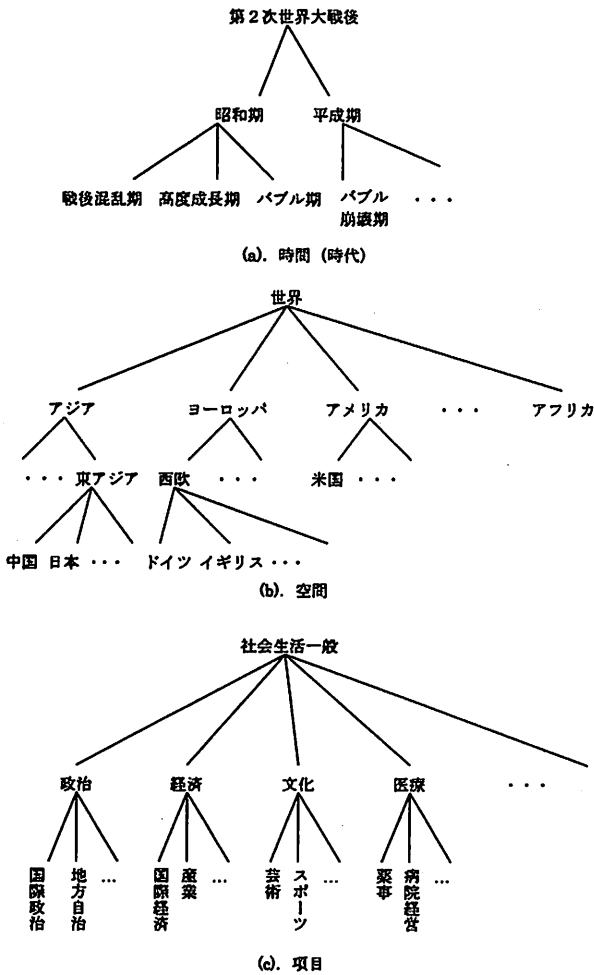


図4. 連鎖の階層構造「文化多様体」(Cultural Manifold) の例 (各連鎖のチャートは重複する部分もある)

木を見るか、森を見るか)

4) 統計尺度や指標における相補性: 1次元尺度構成と多次元尺度構成(多変量データ解析), あるいは尺度の感受性: 広範囲の国々や社会集団を概括的に比較解析する尺度か, 限定された国や集団を精確に深く捉える尺度かなど, 適度に敏感(目的の対象を弁別する)で適度に鈍感(ノイズに対して安定している)である, 目的にかなった尺度構成 (Yoshino & Khor, 1995 参考).

等々.

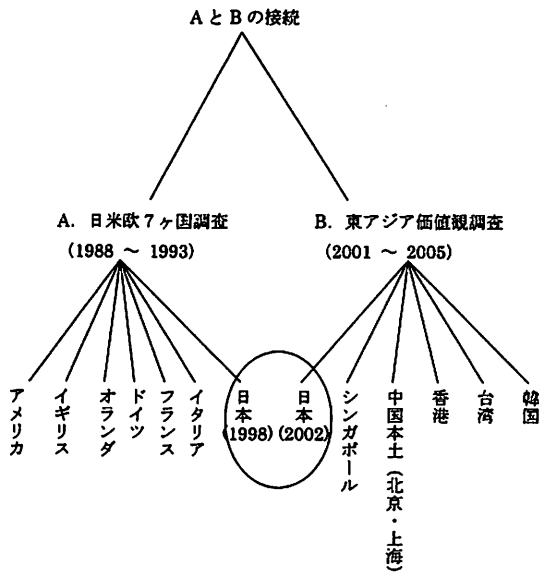
本特集の各論文では, 「日米欧7か国比較」と「東アジア価値観国際比較」のデータの解析において, (用語の明示は別にして) 上記の考え方を念頭に置いた具体的試行錯誤が例示されるであろう.

3.2. 「信頼の世紀」に

折しも, 昨秋, 故・林知己夫記念刊行物が発刊された(林知己夫著作集刊行委員会, 2004). 林の業績のうち, 既に著作となっているものや英文論文などを除くにもかかわらず, 15巻にも及ぶ大部である. この中に戦後日本の統計学の柱の一つの哲学的発展が理解されるべく, 知恵が詰まっている. 本人と匿名査読者しか読まないような論文の全集などとは違い, 現実社会の課題解決のために考案された統計手法がどのように開発されたかが, しみじみと了解されてくる. 晩年, おそらく最も身近で仕事を続けてきたつもりでいた筆者ではあるが, 林が狭義の学術論文や著作を少し離れたところでは, 通常の学術的討論での慎重な表現とは打って変わり, ここまで自由に強い思想を明言していたのかと思う記事にも邂逅し, 今更ながら感慨が深い. 国内外の学術討論では, 「理論」や「仮説」などという言葉は表には出さず (欧米流の仮説・検定の手法は現実社会の複雑な現象を解くには幼稚すぎるとして), データを虚心坦懐に眺め, 現象を理解し, 問題解決に繋ぐことが肝要と唱えていた. この「虚心坦懐」を誤解し, 偏見のない白紙でものごとを判断することなどできないとって批判していた方々もあった. しかし, これは誤解である. 虚心坦懐とは, 雑念を消し去ることではなく, むしろ雑念が浮かんで消え, 浮かんで消える, その自他の相互作用の様子を冷静に眺め, やがて心が定まっていくこと (禅定) である.

林の1996年の仕事「日本人の心とガン告知」(日本癌病態治療研究会 QOL 班) を, 最近になり手にした. この仕事のすばらしさを考えると, 大きなことを数年間も看過してしまったことを遺憾に思っている. そこでは, 癌患者の QOL を考慮した「告知」の問題を扱っている. 医療では同じ病気の患者でも, 同じ薬を同じ量与えればよいというものではない. 各人のパーソナリティや, 家族との絆や医師・看護師との関係をはじめとする社会的環境をも考慮した, 人間社会の関係系の中で, 事を考えていかねばならない.

先に記した林の哲学は, 近年では我々のグループで文化の連鎖的比較方法論や計量的文明論など, 人々の意識の国際比較調査に関連させ展開されていて, 異文化間の相互理解を通じた平和の創造と発展という大義があった. しかし, 我々が通常扱う調査では, 科学的に大標本を抽出する操作には気を配るが, その分, どうしても広く浅い調査になりがちである. それでも林を中心とする数十年の調査経験の積み重ねにより, か



日本調査（1988）と日本調査（2002）を共通項として、回答データの変化傾向や安定性を解析し、2つの調査A、Bの接続を考え、共通比較可能性を検討、試行する。

図5. 文化多様体解析（Cultural Manifold Analysis, CULMAN）における接続（比較の連鎖の拡張）

なり深い考察を可能としてきた。

先の医療研究では、一見無関係な調査項目（迷信尺度、超自然観、義理人情など）への回答が、内在的には強く結びついていて、意識の深いレベルを明らかにし、表面的な回答が同じであっても、個人によっては意義が異なり、それを考慮した医療現場での対処が示唆されている。人々の回答を性・年齢・学歴・職業・収入などの外的基準ではなく、パーソナリティという内的基準から観る（診る）という、深い仕事である。

林の生涯の仕事を顧みる中で、この医療問題と、原子力安全システム研究所のメンバーとともに遂行していた原子力安全性に関する意識の解析（林、守川、1994）、マスコミ関係者との選挙投票行動の研究（予測を困難にしている無党派層の特性付けなど）において、上記のような広く深い視点からの仕事が推進されていたのが了解できる。我々の今後の調査研究は、この視点から調査研究のパラダイム（調査票設計からデータ解析まで）を飛躍的に変革していくことに繋げることを考えるべきではないか。今後は、この点を念頭に計量的文明論を展開すべきと考えている。

新世紀を迎え、伝統的な産業社会から高度情報化社会へと移りつつある世界において、これまでの人間関

係や人々の信頼感のあり方にも急激な変化が見られる（Yoshino, 2002）。この中で、近い将来において、欧州共同体や南北アメリカとともに、東アジア圏が世界の極となる可能性も示唆されている。このような背景があり、我々は国際比較研究の対象として、アジア人の視点からの東アジアに着目するようになった。Inglehartらの「世界価値観調査」（電通総研・余暇開発センター、1999）においては、既にアジアのいくつかの国々もカバーされてはいるが、調査項目の設定、調査票の誤訳、標本抽出法の差異、誤ったデータ解釈などに関する問題を見ていて、やはりアジアの調査はアジア人の視点から遂行すべきであると認識するようになった。これが、「東アジア価値観国際比較調査」の強い動機となったのである。この研究を推進する枠組みが、「文化の多様体」（Yoshino, 2002）であり、例えば調査項目や尺度のカバーする範囲とその深さとの相補性を明らかにしようとするものである。これは世界の政策立案にも関与するであろう。例えば、グローバルな法律や規則は各国各地域の多様な条件の差を考慮し緩やかな大義名分にし、局所的なものは具体的、詳細な規定にして現実の実効性を考えることなどである。文化や価値観の相互理解がなくては、平和の創出と維持、経済協力による繁栄は望めない。

我々は、旧ソ連崩壊、中国の急変を目の当たりにし、Inkeles（1996）が長年取り組んできた「人格と社会体制の相互作用」という社会学の大問題について、かつてよりも、有利な状況で考えることができる立場にある。今後、これまでの国民性研究を、地理、政治、経済を含めた「歴史的視点」を枠組みとして、文化多様体解析の確立と、それに基づいた「計量的文明論」の展開を推進させていこうとも考えている（林、2000；吉野、2001）。

かつて「近代化」が「欧米化」であると非西欧諸国が批判し、1990年代に「グローバリゼーション」が「アメリカナイゼーション」であると諸国が批判し、さらにハーバード大学のハンチントンが新しい時代を「文明の衝突」という言葉で予測したときも、世界中に大きな波紋を呼び、各方面から反発も起きた。これに関して、最後に、Stanford大学のAlex Inkelesが1998年3月に統計数理研究所で行なった公開講演の一部をここで紹介することにより、我々の研究の未来への展望としよう。

「南米アマゾンの上流に、二つの大河が出合うところ

があり、一方は半透明な褐色の水、もう一方は濁った泥の水が注ぎこんでいる。面白いことに、合流してもすぐには二つの河の水は混ぜせず、あたかも河の真中にガラスの壁があるかのように、河の片方は半透明な流れ、反対側は濁流が続いている。しかし、やがて数マイルほど下ったところで双方の流れが融合し始め、一つの流れとなっていく。異なる文化や文明の出会いも、この自然の流れと同様、初めはなかなか融合せず対立するようなこともあるだろうが、やがては自然に融合し、新たな時代の流れを創り出していくのではないだろうか。」

(本稿は、「国民性論」(インケルス著、吉野訳、2003)の付章(吉野著)、「市場調査」(吉野、2004a)をもとに、その後の経緯をも考慮して、本特集号のために加筆修正したものである。)

謝 辞

本研究のうち、特に東アジア価値観国際比較調査の研究は、文部科学省研究費補助金・基盤研究 A(2), No. 14252013 (2002年度~2005年度)の財政援助を受け、遂行したものである。これまでも、文部省、文部科学省、日本学術振興会、トヨタ財団、笹川財団をはじめとする官民の多くの機関からの御援助により、今日までの一連の調査研究が成し遂げられてきました。ここに、深く感謝の意を表します。

参 考 文 献

- J・マーシャル・アンガー (2001). 占領下日本の表記改革. 奥村陸世訳. 三元社.
- 電通総研・余暇開発センター (1999). 世界23カ国価値観データブック.
- ロバート・D・エルドリッチ (2003). 「奄美返還と日米関係」. 南方新社.
- Guttman, L. (1982). What is not what in theory construction. In R.M. Hauser, D. Mechanic and A. Haller (eds.), *Social structure and behavior* (pp. 331-48). New York: Academic Press.
- 林知己夫 (1990). 市場調査事始め. pp. 157-189. (社)日本マーケティング・リサーチ協会.
- Hayashi, C. (1992). Quantitative social research—belief systems, the way of thinking and sentiments of five nations—. *Behavior-metrika*, 19, 127-170.
- 林知己夫 (1993a). 数量化—理論と方法—. 朝倉書店.
- 林知己夫 (1993b). 行動計量学序説. 朝倉書店.
- 林知己夫 (1996). 日本人の心とガン告知. 日本癌病態治療研究会 QOL 班.
- 林知己夫 (2000). これからの国民性研究—人間研究の立場と地域研究・国際比較研究から計量的文明論の構築へ—. *統計数理*, 48(1), 33-66.
- 林知己夫 (2001). 「データの科学」. 朝倉書店.
- 林知己夫, 飽戸 弘 (1976). 多次元尺度解析法. サイエンス社.
- 林知己夫, 入山 映 (1997). 公益法人の実像. ダイアモンド社.
- 林知己夫, 水野 坦, 青山博次郎 (1952). 数量化と予測. 東京丸善株式会社.
- 林知己夫, 守川伸一 (1994). 国民性とコミュニケーション (原子力発電に対する態度構造と発電側の対応のあり方). *INSS JOURNAL*, No. 1, pp. 93-135.
- 林知己夫, 桜庭雅文 (2002). 数字が明かす日本人の潜在力. 講談社.
- Hayashi, C., Suzuki, T. & Sasaki, M. (1992). *Data analysis for comparative social research: International perspectives*. Amsterdam: North-Holland.
- 林知己夫, 鈴木達三, 吉野諒三, 三宅一郎, 佐々木正道, 村上征勝, 林 文, 釜野さおり (1998). 国民性七か国比較. 出光書店.
- 林知己夫著作集刊行委員会 (2004). 林知己夫著作集全 15 巻. 勉誠出版.
- 今井正俊 (1996a). 朝日新聞世論調査半世紀の歩み (上). 朝日総研レポート, No. 122, pp. 94-106.
- 今井正俊 (1996b). 朝日新聞世論調査半世紀の歩み (中). 朝日総研レポート, No. 123, pp. 108-120.
- 今井正俊 (1997). 朝日新聞世論調査半世紀の歩み (下). 朝日総研レポート, No. 124, pp. 103-116.
- Inkeles, A. (1996). *National Character*. New Brunswick, USA: Transaction Publishers. 「国民性論」吉野諒三訳 (2003). 出光書店.
- 木田 宏 (2001). 占領下の読み書き能力調査. 教育と情報 (2月号), No. 515, pp. 30-31.
- 国際価値会議事務局 (1980). 13ヶ国価値観調査データ・ブック. 1980年国際価値観調査会議事務局.
- Kuroda, Y., & Suzuki, T. (1989a). A comparative attitudinal analysis of rationality: Arabs, American and Japanese students. The proceedings of international conference on urbanism in Islam (ICUIT), 3, 65-95. Tokyo: The middle eastern culture center.
- Kuroda, Y., & Suzuki, T. (1989b). Language and attitude: a study in Arabic, English, and Japanese the role of language in cross-cultural thinking. Thinking across cultures: the third international conference on thinking. (eds. Topping, D.M., Crowell, D.C., & Kobayashi, V.N.), pp. 147-161. New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates.

- 水野欽司, 鈴木達三, 坂元慶行, 村上征勝, 中村 隆, 吉野諒三, 林知己夫, 西平重喜, 林 文 (1992). 第5日本人の国民性—戦後昭和期総集—. 出光書店.
- 森本栄一 (2005). 戦後日本の統計学の発達—数量化理論の形成から定着へ—. 行動計量学, 32(1), pp. 45-68.
- 村井 実[訳] (1979). アメリカ教育使節団報告書. 講談社学術文庫 253.
- ハーバート・パッシン (加藤英明訳) (1981). 米陸軍日本語学校. TBS プリタニカ.
- 末綱恕一, 林知己夫, 西平重喜, 鈴木達三, 多賀保志, (1961). 日本人の国民性. 至誠堂.
- Suzuki, T. (1989). Cultural link analysis: its application to social attitudes a study among five nations. Bulletin of the International Statistical Institutes, Proceedings of the 47th Session, Paris, (pp. 343-379).
- 高橋正樹 (2004). 科学史と科学者—林知己夫氏公開インタビュー—. 行動計量学, 31(2), pp. 107-124.
- 高倉節子 (2004). 林先生の足跡を訪ねて—1950年代の頃—. 行動計量学, 30(2), pp. 193-198.
- 富永健一 (1999). 「近代化の理論」講談社学術文庫.
- 山本武利 (2001). 日本兵捕虜は何をしやべったか. 文春新書 214.
- 柳原良造 (1998). 日本語を救った? 「読み書き能力調査」. 教育と情報 (11月号) No. 512, pp. 24-25.
- 読み書き能力調査委員会編 (1951). 日本人の読み書き能力調査. 東京大学出版会.
- Yoshino, R. (1991). A note on cognitive maps: an optimal representation of spatial knowledge. Journal of Mathematical Psychology Vol. 35, No. 3, pp. 371-393.
- 吉野諒三 (1992). 社会調査データの国際比較の枠組みのための“superculture”, 統計数理, 40, 1-16.
- 吉野諒三 (1994). 国民性意識の国際比較調査研究—統計数理研究所による社会調査研究の時間・空間的拡大—. 統計数理, 42, 259-276.
- 吉野諒三 (1997). 世論調査機関紹介—文部省統計数理研究所—. 日本世論調査協会報, 第79号.
- 吉野諒三 (2001). 「心を測る」—個と集団の意識の科学—データの科学シリーズ. 朝倉書店.
- 吉野諒三 (2003). 「信頼の時代」, Eco-Forum, Vol. 22, No. 1, 特集号「ソーシャル・キャピタル Part II」, pp. 42-51. (財団法人) 統計研究会.
- 吉野諒三 (2004a). 科学的「世論」調査法の価値. 市場調査, No. 259, pp. 4-13.
- 吉野諒三 (2004b). —特集—国民性を学際的に見る「国民性」の調査—計量的文明論の確立に向けて—. 学際 No. 12, pp. 6-12. (財団法人) 統計研究会発行.
- Yoshino, R. & Khor, D. (1995). Complementary scaling for cross-national analyses of national character. Behaviormetrika, 22(2), 155-184.
- Yoshino, R. (2002). A Time to Trust—A Study on Peoples' Sense of Trust from a Viewpoint of Cross-National and Longitudinal Study on National Character—. Behaviormetrika Vol. 29, No. 2, pp. 231-260.
- (注) 特に, 我々の国際比較調査データの参考として, 以下に研究レポートや調査報告書, 関連文献を記す.
- 国民性の国際比較調査関連の統計数理研究所・研究レポート等のリスト
- No. 54. 社会調査による国際比較方法の研究 (1981年, 林知己夫編)
- No. 59. 社会的態度基底構造についての国際比較方法の標準化に関する研究 (1984年, 林知己夫編)
- No. 70. 意識の国際比較方法論の研究: 連鎖的比較方法の確立とその展開 (1988年ハワイ・ホノルル市民調査, 林知己夫・鈴木達三編)
- No. 71. 意識の国際比較方法論の研究: (新しい統計的社会調査法の確立とその展開) (1991年, 林・鈴木編)
- No. 72. 意識の国際比較方法論の研究: (5カ国調査共通ファイルコードブック) (1992年, 林知己夫編)
- No. 73. 意識の国際比較方法論の研究: (5カ国調査性別, 年齢別集計) (1993年, 林知己夫編)
- No. 74. ブラジル日系人意識調査 (山本勝造, 森 浩一編) (1991-1992)
- No. 75. 国民性の研究 第9回全国調査 (1993年全国調査)
- No. 76. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用に関する研究: (総合報告書) (吉野編, 1994)
- No. 77. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用に関する研究: (国民性の国際比較の為のマニュアル) (吉野編, 1994)
- No. 78. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用に関する研究: (イタリア調査の回答コードブック) (吉野編, 1994)
- No. 79. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用に関する研究: (イタリア調査の自由回答データ) (吉野編, 1994)
- No. 80. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用に関する研究: (オランダ調査の回答コードブック) (吉野編, 1994)
- No. 81. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用に関する研究: (オランダ調査の自由回答データ) (吉野編, 1994)
- No. 82. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用に関する研究: (イタリア・オランダ調査の共通ファイルコードブック) (吉野編, 1994)
- No. 83. 国民性の研究 第10次全国調査—1998年全国調査—
- No. 84. 国民性に関する意識調査データに基づく文化の伝播変容のダイナミズムの統計科学的解析 (吉野編, 2000)
- No. 86. 文化の伝播変容の統計科学研究—ハワイ日系人・非日系人国際比較調査— (吉野編, 2001)

- No. 89. 日本・中国の国民性比較のための基礎研究—中国北京市における意識調査—(鄭編, 2003)
- No. 90. 日本・中国の国民性比較のための基礎研究(2)—中国上海市における意識調査—(鄭編, 2003)
- No. 91. 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析— 2002年日本調査報告(吉野編, 2004)
- 吉野諒三編(2004). 東アジア価値観国際比較調査—2002年度中国調査(北京・上海・香港)報告書—, 統計数理研究所研究.
- 吉野諒三編(2005). 東アジア価値観国際比較調査—2003年度台湾調査報告書—, 統計数理研究所.
- 吉野諒三編(2005). 東アジア価値観国際比較調査—2003年度韓国調査報告書—, 統計数理研究所.
- 吉野諒三編(2005). 東アジア価値観国際比較調査—2004年度シンガポール調査報告書—, 統計数理研究所.
- 特に, 昭和28年以來の「日本人の国民性」継続調査研究については, 至誠堂(第1-3巻)と出光書店(第4-5巻)より, 「日本人の国民性」として出版されている。それらの本には, 関連する参考文献表も掲載されている。その他, 「統計数理」第43巻第1号には, 「日本人の国民性調査」に関する論文が, *Behaviormetrika* Vol. 29, No. 2 (2002年7月)及びVol. 30, No. 1 (2003年1月)には以下のように「国民性の国際比較調査」研究が特集されている。
- Behaviormetrika* Vol. 29, No. 2 (2002).
- Yoshino, R., & Hayashi, C. Editorial. pp. 121-124.
- Yoshino, R., & Hayashi, C. An Overview of Cultural Link Analysis of National Character. pp. 125-142.
- Fugita, S.S., Kashima, T., & Miyamoto, S.F. Methodology of Comparative Studies of National Character. pp. 143-148.
- Miyamoto, S.F., Fugita, S.S., & Kashima, T.A. Theory of Interpersonal Relations for Cross Cultural Studies. pp. 149-184.
- Fugita, S.S., Miyamoto, S.F., & Kashima, T. Interpersonal Style and Japanese American Organizational Involvement. pp. 185-202.
- Kashima, T., Miyamoto, S.F., & Fugita, S.S. Religious Attitudes and Beliefs among Japanese Americans: King Country, Washington and Santa Clara County, California. pp. 203-230.
- Yoshino, R. A Time to Trust—A Study on Peoples' Sense of Trust from a Viewpoint of Cross-National and Longitudinal Study on National Character—, pp. 231-260.
- Behaviormetrika* Vol. 30, No. 1 (2003).
- Kuroda, Y. The Rainbow Model of American Ethnic Groups and Environment in Japan, USA, and European Nations. pp. 39-62.
- Yamaoka, K., & Hayashi, C. Cultural Link Analysis of Japanese American. pp. 7-20.
- Zheng, Y., & Yoshino, R. Diversity Patterns of Attitudes Toward Nature and Environment in Japan, USA, and European Nations. pp. 21-38.
- さらに, 「学際」No. 12 (2004b) ([財団法人] 統計研究会発行)では, 特集「国民性を学際的に見る」で以下の論文や記事が発表されている。
- 吉野諒三. 「国民性」の調査—計量的文明論の確立に向けて—, pp. 6-12.
- 鈴木達三. 「一番大切なもの」—国際比較調査からの2, 3の話題, pp. 13-22.
- クロダ・ヤスマサ. 「羅生門と山桜」—日本文化の真髄, pp. 23-31.
- 林 文. 日本人の自然観と素朴な感情, pp. 32-38.
- 山岡和枝. 健康と国民性, pp. 39-45.
- 三好美浩. 「職人かたぎ」—日本人の仕事(勤労)観, pp. 46-53.
- 関啓子. 国民性と人間形成, pp. 54-57.
- 速水 融. 「国民性」はあるのか? pp. 58-61.

(2004年12月1日受付, 2005年7月20日最終修正)

富国信頼の時代へ

—— 東アジア価値観国際比較調査における「信頼感」の統計科学的解析 ——

吉野 諒 三

A Time to Trust in the East Asia

—— A Behaviormetric Study on the Sense of Trust in East Asia Value Survey ——

Ryozo YOSHINO

The objective of this paper is to discuss the sense of trust of the East Asian countries (Japan, China [Beijing, Shanghai, & Hong Kong], Taiwan, South Korea, & Singapore) as it is reflected in the response data of our East Asia Value Survey conducted during 2002-2005. I will present some data analyses on the variability of people's trust systems in order to explore what aspects of their sense of trust are stable over many decades and what aspects are variable under the longitudinal changes of economic and political conditions. Firstly, I will explain briefly the background of this study. Secondly, I will explain the history of our longitudinal and a series of cross-national surveys on national character. Thirdly, I will summarize some aspects of people's sense of trust in our longitudinal survey of Japanese national character as well as cross-national comparative surveys. I focus my analysis on the data of the East Asia Survey, but I integrate also data of other surveys such as our seven-nation survey conducted during 1987-1993, General Social Survey and World Value Survey. Finally, I will provide some comments for the future research.

Key words: Cultural Manifold Analysis (CULMAN), East Asia survey, sampling, national character, sense of trust, general social survey, World Value Survey, multivariate analysis

キーワード: 文化多様体解析, 東アジア, 国際比較調査, 国民性

1. 新たな時代への過渡期における 「信頼感」の崩壊

本論文の目的は、我々の「国民性」に関する意識調査で遂行されてきた人々の意識、態度、価値観等に関する回答データに映し出された「信頼感」について、その標本調査統計としての意味、時系列的比較や国際比較の可能性について、文化多様体解析 (CULMAN) という発想 (本特集の導入論文参照) に基づくデータ

解析の一端を紹介することである。特に活用するのは、統計数理研究所による1953年以来、半世紀に及ぶ「日本人の国民」調査(水野他, 1992)、1987-93年における「意識の国際比較調査」(林他, 1998)、2002-2005年度の「東アジア価値観国際比較調査」(吉野編, 2004a, 2004b)、そして「医療と文化の多次元的連関調査」(山岡, 2004a, 2004b)における対人関係における信頼感や、社会制度に関する信頼感を探る項目のデータである。この解析によって、「信頼感」を測る項目や尺度の国際比較可能性について慎重に考察を進め、我々が研究してきたCULMANに基づく計量的文明論(林, 2000; 吉野, 2001b)の試行的実践として、東アジアにおける尺度と欧米など他地域をも含む場合の尺度の相違や尺度間関係を考察しよう。

冷戦終了以降に急激な世界的再編が進み、文化や歴

大学利用共同法人情報・システム研究機構 統計数理研究所、及び総合大学院大学先導科学研究科生命体科学専攻
(The Institute of Statistical Mathematics, Tokyo, Japan.)

連絡先: 〒106-8569 東京都港区南麻布4-6-7

史的背景の多様性のために統合は難しいとされてきた東アジアでも、急速に経済を中心とする協力関係が模索され、実現されつつある。その成功には人々の「信頼」が一つの鍵となっており、その鍵を見出すための基礎情報としての当該地域の人々の「信頼感」に関する意識の国際比較データの収集と解析の意義が了解されよう。さらに、その意義の詳細を以下に概説しよう。

この10数年間は、東西ドイツの再統合やソ連の崩壊等、冷戦後の歴史的・世界的変革があり、他方で、各地域での民族紛争、内戦、そして（その内実はともかく）「文明の衝突」という言葉に象徴される摩擦、テロ等が続き、ついにはイラク戦争という国際紛争へと繋がってきた。世界各地の局地的摩擦が世界的な武力紛争へと繋がりがかねない危惧が、常に付きまとい続けている。

この国際情勢に平行し、各先進国内でも、伝統的な工業社会から高度情報化社会への移行期にあり、確立していた従来の社会システムが崩壊するにつれ、それに直接的にも間接的にも依存していた人々の間の「信頼感」も崩壊しつつある。これが、家族のあり方、男女の社会的役割、教育現場の混乱、職場の人間関係や職業倫理、政治家や行政機関に関する信頼等々の変化にも現れているようである（中央調査社、2000）。

しかしながら、これは人々の心が荒廃して、信頼できなくなってきたということではない。今日、NGOやNPOの活動はかつて見られなかったほど盛んになっている（林・入山、1997）。経済的貢献に比べて人的貢献が少ないと諸外国から批判されていた日本からも、多くの人材が海外でボランティアとして大きな貢献をするようになってきている。おそらく、社会の変化の過渡期にあり、人々の信頼のエネルギーが新たな時代への方向を模索して、通常の世界活動の枠外で発揮されているのであろう。それゆえに、social capital（宮川・大守編、2004）としての「信頼」が国家、あるいは世界の経済に与える影響を考慮すると、近い将来に、人々の信頼のシステムがどのように変化していくのかを探求することの意義は深い。

こういった背景があり、この10年ほど、「信頼」について、国内外の学会、学術雑誌等で盛んに議論が展開されてきた。特に、日系米国人の歴史経済学者F. Fukuyama (1995)の著書「TRUST」が出版されて以降、このテーマについてマスコミも含め、広く論じられるようになった。Fukuyama (1989)は米国政府のブレインとして、著書「歴史の終わり」の中で、冷戦後

の世界の流れを人々の気概(guts)（プラトンが「国家」の中で論じた「気概(thymos)」からきている）が重要な要素となる民主主義の発展として位置づけたことで有名である。（ただし、その後の世界情勢の変化を受け、その素朴なシナリオは見直されている。）Fukuyamaは、例えば米国やドイツ、日本、韓国は地域共同体やボランティア組織など国家と各家庭との中間にある組織が発達しているため人々の間の信頼性が高く、大企業が発達し経済的にも豊かな国となっている一方、イタリア、フランス、中国は中央集権が強い歴史が長かったために血族間の結束は強いが、それを越えた一般の対人関係では信頼性が低く、大企業が発達し難く、経済的にも成功し難い社会であると位置づけた。（彼は、広範で多様な統計データで自説を展開し、確かに、通常の経済学を超えて、社会集団の特性にも着目している点では意義が深い研究をしている。しかし、なおかつ、各集団特性の短期変動と中・長期変動を区別できるほどには、統計データが十分ではないように思える。これは、彼の場合に限らず、正確な実証的歴史データの蓄積は限られており、また、そのようなものがあってもそれにアクセスできる立場にある人々は限られていることが多いためであろう。）

しかし、個人のレベルでも国家のレベルでも、「信頼」確立には長い年月がかかるであろうが、それは個人や国家の「信頼」が永遠に固定したものであることを意味しない。例えば、日本も明治の開国時、国際貿易に乗り出したとき、欧米からは必ずしも信頼できる国とは見られなかった。しかし、明治期の日本は、欧米、特に英国との競争でその困難を、年月をかけた着実な努力で克服した経験がある（角山、1995, p. 128 参照）。ここに、世界の相互信頼の醸成と確立という、新しい時代に向けた各国の挑戦がある。

「信頼」には多様な側面、多次元的な側面があり、したがって定義も多様であり得る。例えばHosmer (1995)は、これを大きく1) 広義の個人間の交換、商売や取引、交易上の信頼 (trust in transaction) と、2) 倫理哲学上の信頼 (trust in moral philosophy) に分類している。後者の方が古い時代からの長い研究の歴史があるが、特にこの10数年、グローバリゼーションとともに焦点を当てられているのは前者の方であろう。

一方、Zucker (1986)は、「信頼」の醸成に三つの様式があると指摘している。即ち、1) 過去の交換（取引）の経験に基づく信頼、2) 家族のあり方や人種等

の人格的特性（国民性等）に結びついた信頼、及び3）公式の社会的構造に結びついた制度（裁判制度等）に基づく信頼である。

Shapiro (1987) は、上記の3）に対して、「信頼」は制度化でき得ないと批判している。また、Putnam (2000) らが、社会の「信頼」をクラブ活動、ボランティア、PTA 等の団体活動への社会参画 (social participation) の度合いで測定しようとするのに対して、Zucker は、「信頼」は直接には測定でき得ぬものと主張している。この主張の影響か、Fukuyama (1995) のように、「信頼」を、逆の発想で、「不信」につながる犯罪率、離婚率等の統計データによって扱う研究者たちもいる。（この辺りの議論については、Yoshino, 2002a, も参照。）

2. 日本における計量的「国民性」研究

統計数理研究所では1953年以来、半世紀にわたり、多くの同一質問項目を用いて「日本人の国民性」に関する意識調査を行い、時系列的データを蓄積してきた（水野他, 1992）。この調査は、1948年の「日本人の読み書き能力」調査（文部省, 1951）とともに、戦後民主主義発展のための世論調査システム確立と緊密に結びついていた（吉野, 2003a, 2004c）。この調査は、当初から継続調査を意図したわけではなかったが、安定していると想定されていた「国民性」調査の回答が高度経済成長に伴い、人々の意識が著しく変化する側面があるのを認識して、継続調査の必要性を認識し、今日までの研究へと繋がったのであった。

この研究は、1971年頃より、日本人の国民性をより深く考察するために、「意識の国際比較調査」へと拡張されてきた。調査された国・地域の幾つかは、言語や人種を共有しているために、比較研究の興味深い対象となる。例えば日本人とハワイ日系人、ハワイ日系人とハワイ在住アメリカ白人、アメリカ人とイギリス人というように比較の連鎖を挙げ、よりグローバルな比較可能性を追求することができる。今日では、この国民性の国際比較調査は「連鎖的比較 (Cultural Link Analysis, CLA)」と呼ばれ、その基盤の上で「データの科学」(Yoshino, 2002b) が展開されている。詳細は水野他 (1992)、林他 (1998)、林 (1993, 2001b)、吉野 (2001b) を参照していただきたい。

これらの調査データ分析を通し、特に、「人間関係（家族関係や、義理人情）」の軸や科学文明観と結び付いた

「伝統－近代の対比」の軸の重要性が浮かび上がり、さらに「宗教・倫理観」の軸が加わり、各国の多様な国民性が展開する。また、一般的な回答傾向の国民による差（例、日本人の中間的回答の選好傾向、フランス人の否定的回答傾向等）も判明してきた。

日本人の人間関係に関しては、1963年以降の25年間、義理人情を重んじる回答とそうでない回答のパターンが明瞭に分かれ、その安定性が確認されている。一方、「伝統－近代化」については、日本では明治以来、近代化路線に乗って国家発展に努め、多くの面にわたって伝統と近代とを対比させる考えが形成されてきた。1953年からオイルショックまでの20年間は伝統的回答が強固になり、伝統・近代を常に対比させる考え方があった。しかし、1978年を境に、近代的回答が伝統的回答群の中に入り込み、異なる様相が現れ始めた。つまり、従来の意味での「近代化」が崩壊し、一種の伝統回帰傾向すら見られ始めた。さらに、1990年代のバブル経済崩壊後、「失われた10年」という社会全体の雰囲気や意識を反映してか、人々の意識も様々な面で方向が定まらぬ様相が続いている。

日本人の意識の大きな変化は、例えば「自然と人間との関係－利用すべきか、服従か、征服か」や「生まれかわれるとしたら、男か女か」という質問への回答に表われている。即ち、結果は「自然と人間」では1968年までは、「自然に従う」が減少し、「自然を征服」が増加する形で推移したが、1970年前後から顕著になった公害や環境問題に影響され、1973年には「従え」と「征服」の率が逆転し、それ以降「地球環境を守る」という意味での回答傾向が明瞭に現れている。時代につれて「自然」という言葉の意味のニュアンスが変化してきたことは、他の時系列調査においても言葉の意味の変化、延いては尺度や指標の時間変化について注意を喚起する。「男女の生まれかわり」については、男性はこの半世紀ほとんど不変で約9割が「もう一度男に生まれたい」であるが、女性は1958年には「男に」が64%、「女に」が27%であったのが徐々に変化し、ついに1998年には「男に」28%、「女に」67%と全く逆転した(2003年も同様)。男女共同参画が唱えられる時代に、象徴的なデータであろう。

一般に、政治や経済状況に関する人々の態度や意見は社会情勢や事件、それらに対するマスコミ報道などにより短期変動を示すことも多いが、人間関係のあり方や宗教的態度・価値観は半世紀を経過しても比較的安定しているといえる。また、連鎖的比較により、日

本人に特徴的な人間関係(義理人情的態度)や宗教心(信心していない人も宗教心を大切と思う)は、ハワイ(吉野編, 2001), 米西海岸(吉野編, 2000), ブラジルの日系人にも見られるのが確認されている。一方、日本人の中間回答選好傾向は、ハワイやブラジルの日系人には見られるが、米西海岸の日系人には見られない。この辺りに、民族の共通性と社会環境の相互関係が浮かび上がってくる。(同様に、次節の「信頼感」についても、各地の日系人の社会環境の差異が影響していると思われる。図3参照。)

3. 対人的「信頼」を測る —— GSS 項目による「信頼感」尺度 ——

冷戦時代、その世界情勢を背景に社会心理学では「信頼感」尺度の構成が種々試みられた(Osgood, 1960; Rosenberg, 1956; Rotter, 1971)が、米国のGSS(一般社会調査)(NORC-ROPER, 1986)では時系列調査データが取積されており、その中には以下のa), b), c)(東アジア調査では問26, 問27, 問28)のような人々の「信頼感」を尋ねる3項目が含まれている。

a) たいていの人は、他人の役にたとうとしていますが、それとも自分のことだけ考えていると思いますか。

1. 他人の役にたとうとして
2. 自分のことだけ考えている

b) 他人は、機会があれば、あなたを利用しようとしていますが、それともそんなことはないと思いますか。

1. 他人は機会があれば利用しようとして
2. そんなことはないと思う

c) たいていの人は信用できると思いますか、それとも、常に用心した方がよいと思いますか。

1. 信頼できると思う
2. 常に用心した方がよい

これらは、本来 Almond & Verba (1963)の研究で多数の項目から因子分析法により精選された項目である(項目cの表現については、「信頼できるか」、「信頼できない」と問う形式の場合について Yoshino [2002a, p. 238]に議論がある。これは簡単に言うと、回答肢2「用心」は必ずしも1に反対に「不信」を表しているとは限らないこと、つまり東洋的な徳義に関係すること、しかしそれ故に建前だけの1の率だけではなく、2との

対比での1の率が意味を持つ。一種の高等テクニックである。日米双方とも、2「用心」の場合よりも2「信頼できない」とした場合のほうが、回答肢1「信頼できる」が多くなることが確認されている。)

GSSは「日本人の国民性」調査に刺激を受けて開始されたのであったが、上記3項目は逆輸入され、「日本人の国民性」調査等で用いられている。「信頼」が直接測定可能か否か(Zucker, 1986)はともかく、上記のような意識データが人々の「信頼感」と全く無関係であるはずはなく、問題はそのデータがどのようにどの程度、それを表現し(本音と建前の問題)、どのように他の信頼感やソーシャル・キャピタルの指標・尺度と関連し、また時系列比較や国際比較(各国民の一般回答傾向の差違の問題)に耐え得るか否かということである。

図1はこれら3項目全てに楽観的回答(aは1, bは2, cは1)をした日本人の割合を、この四半世紀にわたり示している。概して、この指標に関しては、日本人の「信頼感」は安定している。

しかし、他方、米国人の回答パターンは、図2に見られるように時代とともに相応の変動を見せ経済変動との連関を想起させる(Uslander, 2002)。Banfield (1958)は、「不信は貧困の文化である」と主張したが、

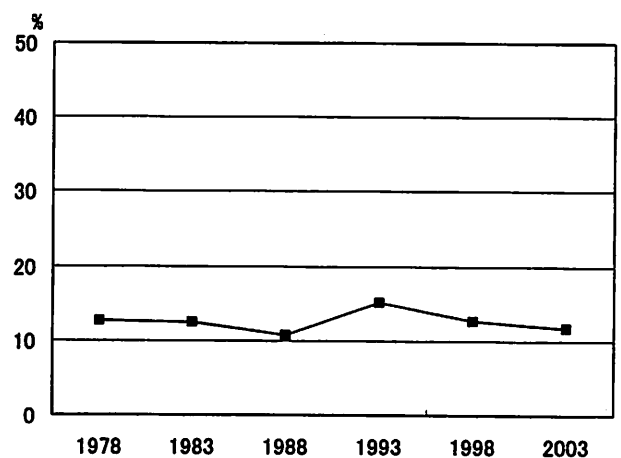


図1. 日本人の「信頼感」(GSS3項目)の時系列的変遷

1978, 1983, 1993, 1998(年)は統計数理研究所による「日本人の国民性」調査, 1988は「国民性七か国比較」調査(林他, 1998), 2003は「日本の国際化に関する調査」(佐々木正道代表)の結果。「信頼感」(GSS3項目すべてに楽観的回答をした人々の割合)は、少なくともこの25年間、比較的安定している傾向にある。

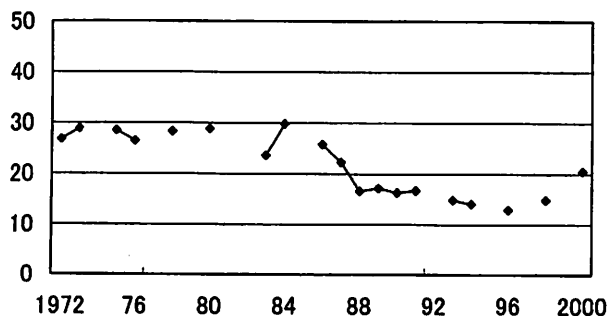


図2. 米国における「信頼感」(GSS3項目)の時系列的変遷

縦軸はGSSの対人的「信頼感」3項目のすべてに楽観的に回答した割合を示すが、米国の経済の動向と連関している可能性がある。

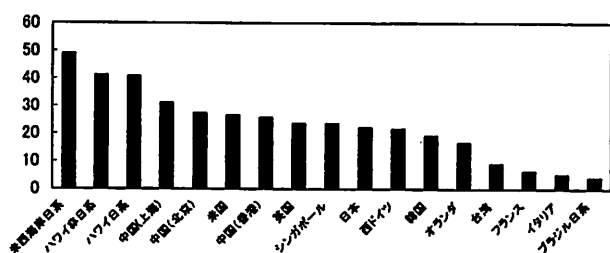


図3. 「信頼感」の国際比較 GSS項目 a) と c)

調査年度は日本、米国は1988年、英国、西ドイツ、フランスは1987年、イタリアは1992年、オランダは1993年、ブラジルは1992年、ハワイは1999年、米国西海岸日系は2000年、中国(北京、上海、香港)は2002年、韓国、台湾は2003年、シンガポールは2004年である。

米国のデータはこれに合致しているが、日本のデータは合致しているとは言えない。

さらに、我々の過去の一連の国際比較調査データではYoshino (2002a) のFig. 6 のようになるが、海外調査の一部では、GSS3項目中 a と c のみ採用した場合もあり、それらの国や地域も含めると図3のようになる。結果として、前者の比較にも加わっていた国々について、a と c のみでの順位と、a, b, c すべてを用いた順位とはほぼ同じとなっている。特に、各地の日系人や中国人を含めたデータなので、先述のFukuyama (1995) の高信頼性の国々と低信頼性の国々に関する主張や、GSS項目のように一つの尺度で広い範囲の国々の「信頼感」の国際比較可能性(global standard)を追求することの是非に関する議論のために、参考となろう。

特に、この尺度において、比較的信頼感の高いと想定された米国人の中の日系人は、より高く、他方で低

いと想定されたラテン系の国での(ブラジル)日系人は、より低く出ているのは、注目すべきではないであろうか? またシンガポールは今回の東アジア調査国の中で、主要3民族から構成される社会として、特別に興味深い国である。図3ではシンガポール全体では23.6%であるが、民族別では中国系23.7%、マレー系26.4%、インド系16.3%となっている。単に「人種」による「信頼感」の差異と見るのではなく、過去の歴史の経過を経た人種間の政治的、経済的関係などの複合関係の中で、それぞれの人種の現在その国の中で置かれた状況を踏まえて結果を解析すべきであろう。他方で、例えば、中国人の「信頼感」はそれほど低くなく、Fukuyamaの主張と矛盾するようである。これは、1)このような尺度では「信頼感」が直接には測定できないからか、あるいは2)中国人が国際的信用回復のために努力した結果なのか、あるいは3)そもそも各国の信頼感Fukuyamaの言うようにはなっていないということなのか。今後、それぞれの視点から検討が必要であろう。

総じて、この尺度の安定性や、政治、経済、治安などの要因との連関、さらに多国間比較可能性とその範囲について、多方面からの、より詳細な検討が望まれる。

三宅(林他, 1998, 7章)は我々の日欧米の七ヶ国比較調査(1985-1993)における同項目のデータ分析の結論として、信頼感の男女差(一般に女性の方が楽観的)や宗教・信心の効果(宗派によらず信心をもつの方が楽観的)、教育や収入との関連等について報告している。我々はそれらの種々の要因が、各国の事情で異なる影響を与える可能性にも注意しなければならない。

4. 社会制度(institutions)やシステム等への信頼感

本節では、Michigan大学のInglehartらによる「世界価値観調査(World Value Survey)」(電通総研・日本リサーチセンター, 2004)に含まれる社会制度(institutions)やシステム等への信頼感に関する調査項目(一部修正し、さらに「科学技術」に対する信頼を追加)に関して、我々の「東アジア価値観調査」のデータを分析してみよう。

用いた質問項目は、以下のとおりである。

問41 [カード24]あなたは、次にあげる組織や制度、事がらをどの程度信頼しますか。「非常に信頼する」「やや信頼する」「あまり信頼しない」「全く信頼しない」の

いずれかでお答え下さい。

尋ねる項目は、以下の通りである。

- a. 宗教団体, b. 法律や裁判の制度, c. 新聞・テレビ, d. 警察, e. 国の行政, f. 国会, g. NPO・NGO (非営利団体や非政府組織), h. 社会福祉施設, i. 国連, j. 科学技術 (基本的には、世界価値観調査と同じ項目であるが、「j. 科学技術」を追加してある。)

また、回答カテゴリーは「非常に信頼する」、「やや信頼する」、「あまり信頼しない」、「全く信頼しない」である。この項目に対する東アジアの諸国の回答分布は吉野編 (2004a, 2004b, 2005a, 2005b, 2005c) に示されているが、各国の回答傾向 (回答の分散が異なる) の差異や国際比較に置ける尺度の頑健性 (信頼性) を考慮して国際比較可能性を追求する (情報縮約して回答パターンを安定にするため) に、「非常に信頼する」と「やや信頼する」というポジティブの二つのカテゴリーをあわせた回答の割合を、各国毎に全項目を標準化された得点 (平均 0.00, 標準偏差 1.00) に変換して比較を試みた (表 1 参照)。

総じて、どこの国も「科学技術」に対する信頼感が高い。宗教団体に関しては、台湾を除き、どこの国もネガティブな態度を示している。日本では、一般に、「宗教的な心」は大切であるという回答が長年にわたり安定して 6, 7 割に上る (吉野 [水野他, 1992, 第 3 章 3 節] を参照) のであるが、1995 年のオウム真理教の事件以来、宗教「団体」には警戒心があるのではないかと、中国では、法輪講の事件の影響か、古来、新興宗教の勢力によって政権が交代することが多々あったという

中国の歴史が、まず政府の態度に影響し、さらにそれが人々に反映しているのではないであろうか。これについては、さらに宗教社会学の観点からの深い考察が必要に思える。

各国ごとに特徴を概観してみると、日本は国会に対してネガティブ、北京、上海、昆明では NPO/NGO に対してネガティブであり (調査時点では、中国本土の国内事情で、まだ一般の人には NPO/NGO はあまり、なじみがなかったかもしれない)、上海では法律や裁判制度に対してはポジティブである。各国・各地域の中で杭州は宗教団体に一番ネガティブな態度が見られる。香港は、法律や裁判制度に対してはポジティブであるが、新聞やテレビに対してはネガティブである。香港では各種の新聞が北京政府との対話の関係や国際情勢について、(今にも戦争がおきそうな) 激しい論調の様々な記事を掲載、出版しているようであるが、これが日常化されて、人々に信頼されていないということか。台湾では、新聞やテレビに対しても、国会に対してもネガティブな態度を示している。韓国では政府や官僚、国会に対してネガティブな態度が見られる。日本もそのような側面があるが、時として台湾や韓国の国会での闘争 (暴力) がテレビを通じて国内外で報道されることがあるが、これは欧米流の民主主義国会では考え難いことであろう。

ここでは、これ以上のデータ分析には踏み込まないが、既存の世界価値観調査の欧米の結果と対照して比較することも面白いかもしれない。

他に、例えば、朝日新聞 (2003 年 1 月 8 日) 発表で

表 1. 社会制度やシステムに関する「信頼感」に関する東アジアの国際比較

	日本	北京	上海	香港	昆明	杭州	台湾	韓国	シンガポール
a. 宗教団体	-2.11	-1.99	-2.21	-0.47	-1.87	-2.25	0.85	-0.09	-0.60
b. 法律や裁判制度	0.70	0.65	0.88	1.30	0.82	0.70	0.85	0.50	1.08
c. 新聞, テレビ	0.61	-0.41	-0.20	-1.83	-0.40	-0.44	-1.03	0.55	-0.97
d. 警察	0.21	0.18	-0.05	0.55	0.11	0.28	-0.16	-0.04	0.89
e. 政府や官僚	-0.75	0.74	0.73	-0.61	0.52	0.75	-0.56	-1.11	0.89
f. 国会	-1.10	0.78	0.68	-0.67	0.62	0.75	-1.50	-1.98	0.71
g. NPO・NGO	0.21	-1.22	-0.84	-0.40	-0.90	-0.75	-0.63	-0.36	-1.34
h. 社会福祉施設	0.57	0.18	0.34	0.76	0.01	0.13	0.17	0.66	-0.22
i. 国連	0.57	-0.20	-0.45	0.01	-0.60	-0.34	0.17	0.23	-1.34
j. 科学技術	1.09	1.29	1.12	1.37	1.69	1.16	1.85	1.63	0.89

数値は、各国の一般的な回答傾向や国際比較における頑健性を考慮して、「非常に信頼する」と「やや信頼する」というポジティブの二つのカテゴリーをあわせた回答の割合について、各国ごとに全項目を標準得点 (平均 0.00, 標準偏差 1.00) に変換した。

は、政治家、警察官、教師、占い、天気予報などについての信頼感を比較した結果を報告している。「政治家」は「占い」と同程度にしか信頼されていないという結果であった。しかし、著名な国際政治学者 Dogan が述べているように「不信」の表明が常に好ましくない事態を現しているとは限らない。即ち、「…信頼の低下は、第一に政治的成熟の徴候である。民主主義が悪化したというのではなく、むしろ大多数の市民の批判精神が向上したのである。…」(Dogan, 2000, p. 258)

5. 満足感と幸福感の国際比較

他者、社会制度や組織に対する「信頼感」が比較的直接に人々間の関係や行動に影響を与えるのに対して、人々の「満足感」や「幸福感」はその社会の一般的雰囲気や特性づけ、また、人々の信頼感とも相互に影響を与えあうことであろう。本節では、生活、生活環境、健康、家庭の満足度を問う項目の回答データの数量化3類による分析(図3)にも触れよう。データは日米欧七か国調査(林他, 1998)、「医療と文化に関する調査」(山岡, 2004a, 2004b)、及び「鄭躍軍編(2003b)「日本・中国の国民性比較のための基礎研究(北京・上海調査)」(鄭, 2003a, 2003b)を利用し、各項目に対する満足感を正負の2段階に縮約し、データ形式を揃えた。(残年ながら、東アジア価値観調査での当該の項目の回答カテゴリーの形式が合わないために、共通のデータ形式に揃えることができなかった。)

一般に、これまで満足感、各項目間の相関が高い事が確認されている。しかし、我々のデータでは満足感の高い方は、比較的すべての面で満足しているグループがまとまるが、満足感の低い方は、各々の不満の側面ごとに分離しているのが分かる。(各国毎の分析でも多くの国々が同様のパターンを示す。)円満の円は大小の差はあっても、全て同じ形だが、円の欠け方は様々であるということか。これは、トルストイの「アンナ・カレリーナ」の冒頭、「幸せな家庭は皆似ているが、不幸な家庭にはそれぞれの様相がある……」という文章を思い起こさせるかもしれない。

また、いままで一般に他国間比較の枠組みでは、歴史的に中央集権が強かったために家族の結束が強くなり、信頼のあり方を含めて、多くの側面で比較的類似であるといわれてきたイタリア、フランス、中国が、心理的には「家庭」の満足感に差異があり(第2軸上下に生活環境・健康の不満足と生活・家庭の不満足が分布)、それらの三国、特にフランスと中国の家族のあり方が異なる様相を現しているようだ(cf. Fukuyama, 1995, chap. 11).

一般に満足度の尺度と経済指標との関連については、注意が必要である。1980年代、日本が世界経済のトップクラスにあった時期でも、日本人の生活満足度はそれほど高くなく、世界の人々が不思議に思っていたが、この10年程の経済的昏迷にも拘わらず、最近の調査(朝日新聞, 2003年1月8日発表)では、むしろ高くなっている。一方、全てに楽観的なブラジルは経済的には世界最大の債務国であった時期でも、幸福感や満足度は欧米や日本を超えていた(Inkeles, 1997)。また、男女の社会参画における平等感では、フィンランドは法律制度的には世界の最先進国であるのに、人々の男女不平等感是最も高い(内閣府男女共同参画局, 2003)。このように、客観指標と主観指標との関係は単純ではない。現実を深く理解するためには、政治でも経済でも文化でも、客観的指標と主観的指標の両方が必要であり、それらが相補的に現実の本質を浮かび上がらせるように工夫すべきであろう。

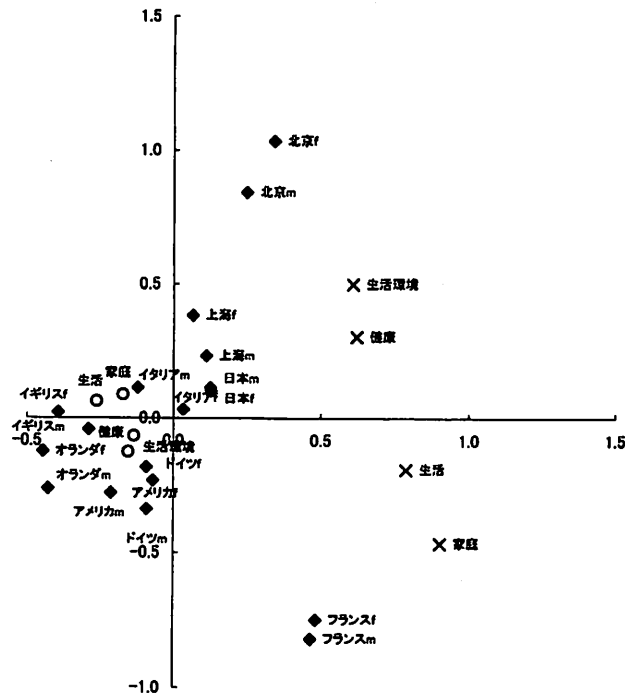


図4. 満足度による国の位置づけ
 図中○×は、それぞれ回答カテゴリーの正負2段階に対応する。fとmは各国・地域の女性と男性を示す。各国の男女差は全体の構図の中では小さい。フランスとイタリアと中国(北京, 上海)の位置づけに注意せよ(本文参照)。

ここで、我々の国際比較調査の主要な研究課題のひとつである、社会調査データ一般の「国際比較可能性」について触れておこう。

我々は国際比較可能性を追求する中で、CLA という方法論を開発してきた。CLA は、1) 時系列的比較の連鎖、2) 国際比較の対象の連鎖、3) 比較項目の連鎖を考える。そして、この3)において、指標の比較可能性と適用範囲に一種の相補性があることに留意している。即ち、グローバルに標準化された指標は各国間の概略的な様相を現わせようが、各国の事情の差を考慮した深い分析に供するのは難しい。逆に、例えば特定の国の事情を詳細に考慮した敏感な指標は、それ以外の国々との比較には適さないことが多い。例えば、我々の扱う義理人情尺度（親や親戚に対する行動と恩人に対する行動の違いを測る項目）（吉野，2001b, p. 104）は、日本人固有の人間関係を示す状況を扱い、日本人や日系人の人間関係の特徴を測るのに有効であるが、他の国の人々には、あまり有効ではないかもしれない。さらに、国際比較の際に調査項目の翻訳の微妙な差違や各国の標本抽出方法の差異に関わる問題を考えると、国際比較における各国同一条件の調査や尺度とは何かという大問題に直面する。

この問題へのアプローチとして、我々は、特定のテーマに関する指標や尺度（質問項目群）の集合からの標本抽出と誤差を考慮した理論を考えることになる。通常、「回答者の母集団」から標本を抽出する過程を考慮して抽出誤差を推定するように、「あるテーマに関する様々な表現の調査項目の母集団」から項目を抽出したと考え、その抽出誤差を扱うのである。この枠組みでは、翻訳過程における多少の表現の差異は、項目の標本抽出に伴う差異とみなせる。そして、それに伴う回答誤差の下で、安定した回答パターンの特定を目指すのである（Guttman [1972] の Facet 理論も、類似の発想である）。例えば、ある単一の項目は同一言語ですら、その表現をわずかに違えただけでも大きな回答差を生じることがあり、仮に国際比較で2 国間の回答分布の差を見出してもそれが本質的なものか、単に翻訳上の微妙な差による効果であるかは直ちには判断し難い。しかし、複数の質問項目の群に対する回答データに多次元パターン分析（例、林の数量化3 類や吉野の superculture モデル [Yoshino, 1992a]）を適用すると、多少の表現の差や標本抽出法の差違に依らず、比較的安定した多国間の回答パターンが得られることがあり、我々はそれを測定における本質的な結果として扱

えるのである（吉野，2001b, pp. 57-61）。（これらの研究の基本的な方法論は、さらに文化の多様体解析（Cultural Manifold Analysis, CULMAN）として発展中である。）

「信頼感」については今後も多様な側面からの指標や尺度が提案され、その妥当性が検討されるべきだが、明確な操作的定義のもとで収集されたデータ上の指標が、厳格な測定論の観点（吉野，1989）から有意味であるか否かには留意すべきである。一度、尤もらしいラベルがつけられた指標は、公表されると一人歩きをし、社会に大きな影響を与えてしまうことがある。

6. 法意識の比較

冒頭で、現在、世の中が新たな時代への移行期の混乱にあると述べた。同様の混乱は、かつての産業革命の時代にも生じ、それ以前の伝統的な人間関係が崩壊し、人々間の信頼関係にも混乱が生じた。その際に、その「信頼感」の喪失を、新たな社会状況を考慮した法律が補う社会機能を果たしたという（Warren, 1999）。法律の社会的機能は、各国間でも人々の法意識に差異があり、したがって、名目上同じ法律が成立している国々でも、その運用の仕方に差異が見られることもある。「日本人の法意識」については川島（1967）の著書が有名であるが、これに関連して日本文化会議（1973）の日本人と東南アジアの人々の法意識に関する意識の国際比較調査研究があった。

世界の国々が経済的な国際協力を発展させていく中で、法意識の違いが「契約」履行の問題に関して国際的な摩擦を生むこともある。特に、東アジア地域では、1990 年代になり開放政策へ変換した中国市場の将来的発展を期待して、日本や他の国々が中国との合併会社を急速に作っていった。その中で、契約不履行の場合の中国の対処の仕方が国際社会としては受け入れ難いものであり、関連する各国を悩ませてきたこともあった。法意識の差異が国民性として固有（比較的不変）であり国際的な摩擦の種となり続けるのか、あるいは国家体制が変化するに伴い、最初は混乱が見られても、やがては国際相互理解の中で法意識の国際的適応が生じるのかという検討は重要であろう。

本節では、そのための基礎資料として、「東アジア価値観国際比較」の調査票に含まれる法律や契約に関する三つの項目のデータについて報告しよう。

調査項目は、以下のとおりである。

問34 「法律はどんなときにも守るべきである」という意見と「目的が本当に正しいものだと確信がもてるときには、法律をやぶることもやむをえない」という意見があります。どちらの考えがあなたにぴったりしますか。

- 1 「どんなときにも守るべきだ」という意見
- 2 「目的が正しい時には、法律をやぶることもやむをえない」という意見

問35 [カード20] 契約書というものについて、あなたは次のAさんとBさんの意見のうち、どちらに近いですか。

A 「契約書をとりかわすなどというのは、お互いに信頼し合っていない証拠だ。信頼し合っていれば、契約書など必要ない」

B 「いくらお互いに信頼し合っている、契約は契約として、ちゃんと文書をと리카わしておく方がよい」

- 1 A の意見に近い
- 2 B の意見に近い

問36 [カード21] また、次のAさんとBさんの意見ではどちらに近いですか。

A 「契約書をとりかわすときでも、契約などというのは形式的なものだから、できるだけ簡単にして、契約書の表現もできるだけ融通がきくようなものにして

おく方がよい」

B 「契約書というものは、あとで解釈などをめぐってもめないように、できるだけこまかく具体的にキチッと決めておく方がよい」

- 1 A の意見に近い
- 2 B の意見に近い

これらの3項目に対する各国の回答データ（個人の回答データ）に林の数量化3類を適用して、全体のパターン解析してみると、図5のようになる。（各項目に対する単純集計データは、吉野編[2004a, 2004b, 2005a, 2005b, 2005c]を参照していただきたい。）

全体を概括すると、日本人は「契約は正式に詳細に取り決めておくべきだが、その運用は臨機応変にする」が、中国本土では、「契約を正式に詳細に取り決め、厳格に守るべき」という回答パターンが支配的である。他の項目に対する回答のパターン分析でもしばしば見られたのであるが、経済開放し始めた中国本土（北京と上海の大都市、昆明と杭州の地方都市）、1世紀に渡り資本主義市場を支配してきた英国から返還され「一国二制度」として正統化された体制の香港、本土中国から事実上分離し、なおかつ、複雑な政治的関係を続ける台湾、経済的には台湾とともに（近年の金融や経済の問題はあったものの）NIESとして経済発展と遂げてきた韓国、戦後の目覚ましい経済発展に成功し、アジアの経済モデルとなってきた日本として、それぞれの国々のいわば、「連鎖的類似性」が、ここでもある程度確認できよう。契約や法律の意識が、特に経済や人々（労働者や観光客）の国際的交流を通じて、相互に変化していくことは、ありそうなことである。ここでの回答パターンが本来の各国の意識を表しているのか、近年の国際関係の中での現在の姿を現しているかは、にはわかには結論できない。その検討のために、時系列的国際比較データの収集が望まれる。

1990年代には、開放政策に伴って造られた多くの合弁企業で国際的トラブルが見られ、国によっては中国市場から撤退し始めたことを顧みると、中国の回答パターンは意外な感じがする。これは、中国政府の国内問題（朱・前首相の政治家、官僚の不正の厳格な取締り）の流れとともに、対外政策においても、本当に、それまでの歴史的な徳治（人知）政治の失敗から法治国家への脱却の結果なのか、あるいは表面的な適応（建前）にすぎないのか、より詳細な考察が必要であろう。ただし、中国政府としてはWTO加入など、近未来の東アジアあるいは世界のリーダーシップを得るための

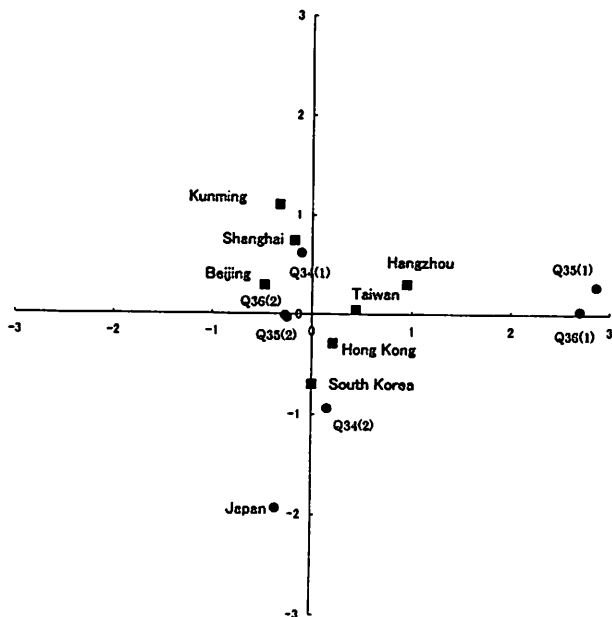


図5. 東アジアの法意識(問34, 35, 36のデータに数量化3類適用)
 図中、例えばQ35(2)は問35の回答カテゴリー2を示す。各国の人々の法律や契約に対する態度には差が見られる(本文参照)。

方策として、真剣に国際的信用を勝ち得ようとしているのは間違いないようである。

7. 社会的価値観

—— 伝統的価値観 (親孝行と恩返し) と 西洋的価値観 (自由と権利) ——

欧米の研究者が東アジアの発展について云々する際、多くの場合、儒教道徳の影響にふれて議論を展開することが多い。たとえば、Weber (1904-5) が資本主義の発展をプロテスタントの倫理との関係で議論を展開した時、中国など、儒教の伝統の下にある国は資本主義を発展させることはできないと論じた。その後の日本の近代化、経済的発展の成功に対しては、「儒教道徳」が「プロテスタント倫理」を代行したと、後知恵の議論も現れた (森嶋, 1984)。しかし、「日本モデル」に続いた NIES や東南アジアの目覚ましい経済発展を目の当りにして、さらに、中国が 1990 年代の開放政策以降、著しい経済発展に成功し、儒教倫理と資本主義的経済発展との関係についての素朴な議論は消えた。しかしながら、儒教が経済発展の「常に」阻害要因となるか、促進要因となるかという素朴な議論は別にしても、人々の価値観のあり方が、政治や経済、文化等と緊密に結びついていて、その基本的理解が現在と将来の政治や経済の発展と国際協力の鍵となる事実とは、皆、認めるところであろう。

我々の東アジア価値観調査では直接に人々の価値観を尋ねる項目として、伝統的儒教の価値観を表す幾つかの徳目の是非を問う項目と、比較的欧米と東洋の価値観を対比させ、そのどちらを選択させる項目とが含まれている。後者については、過去の 7 カ国国際比較データ (林他, 1998) もあるので、あわせて検討できる。

上記のうち、伝統的儒教価値観の項目は、もともとは毎日新聞社と各国の機関が遂行した「東京・ソウル・北京 3 都市の国民意識」調査 (1996 年 7 月) に用いられたものであるが、項目の翻訳に疑義があったので、ここでは我々の方法論に則り、バックトランスレーションの検討を経て、調査項目を以下のように確定した。

問 50 [カード 32] あなたは次のような伝統的な価値観についてどう思いますか。

- a. 先祖を尊ぶべき b. 長男は両親の面倒を見るべき
c. 妻は夫に従う d. 親が反対する結婚はしない

- e. 年上の人の意見に従う f. 家系を続かせるため息子は必要だ g. 男性は外で働き、女性は家庭を守るべき

回答カテゴリーは「全くそのとおりだと思う」「そう思う」「そうは思わない」「全くそうは思わない」であった。

回答結果は、表 2 のとおりであり、全体として調査された東アジアの国々では、既に伝統的儒教道徳で唱えられてきた価値観をそのまま尊重し続けているわけでは全くないことがわかる。その意味では、既に近代化されているといえよう。(このことについて確証できる時系列的データが存在すれば興味深いところだが、残念ながら過去に戻って調査することはできない。)

一方、欧米と東洋の価値観を対比選択させる項目は、以下のように「親孝行」「恩返し」というどちらかという東洋的(日本的?) 価値観を現す事柄と、「個人の権利」と「個人の自由」という欧米近代の価値観と思われる事柄から、大切と思う二つを選択させるのである。

問 23 [カード 15] 次のうち、大切なことを二つあげてくれといわれたら、どれにしますか。

- a. 親孝行、親に対する愛情と尊敬 b. 助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する c. 個人の権利を尊重すること d. 個人の自由を尊重すること

四つの項目から二つ選択する仕方は、六通りある。過去の日欧米調査の結果(表の下段)と今回の東アジアの調査の結果(上段)を合わせて、表 3 に示す。(表中、親孝行、恩返し、個人の権利、個人の自由をそれぞれ、parental love, benefactor, individual's right, individual's freedom の略で、par, ben, right, free で示す。)

まず、調査時期が 14 年以上の差異があるものの、両方の調査に共通の日本の回答パターンはほとんど同じ(標本誤差の水準より小)であるのに注意いただきたい。我々が国際比較で扱っている価値観は経験から、通常、この程度の安定性があると想定している。これを手がかりに、欧米の結果と東アジアの結果を比較してみると、東アジアでは、本来、東洋的価値観とも思われている「親孝行」と「恩返し」という組み合わせのパターン A が、各国とも圧倒的(香港以外では、過半数)である。

一方、西洋近代化の価値観を象徴する「権利」と「自由」に関しては、欧米でもフランスとドイツがそれぞれの国内では比較的に多いというだけで、欧米全体で圧倒的に多いようには見えない。一つ一つの選択項目

表2. 儒教の伝統的価値観に関する項目
(すでに東アジア諸国は狭義の儒教的伝統から脱却しているようである。)

調査年	2002	2002	2002	2003	2002	2002	2003	2003	2004	
サンプル・サイズ	787	1,062	1,053	1,018	911	1,057	732	1,006	1,037	
問番号	回答カテゴリ/ 国・地域	日本	北京	上海	昆明	杭州	香港	台湾	韓国	シンガポール
Q50a 先祖を 尊ぶ	1) Strongly Agree	34.7	41.1	53.8	39.7	47.9	44.7	46.9	24.6	45.3
	2) Agree Some Extent	57.3	54.8	43.2	53.6	46.3	52.4	52.7	63.3	50.2
	3) Disagree Some Extent	5.2	3.2	2.6	4.7	4.1	2.3	0.3	10.1	2.1
	4) Strongly Disagree	1.4	0.2	0.2	0.3	0.3	0.2	-	1.4	1.3
Q50b 長男が 親面倒	1) Strongly Agree	6.6	13.2	14.8	15.1	18.4	24.6	22.1	9.0	14.0
	2) Agree Some Extent	24.7	36.3	36.0	35.5	40.7	39.2	45.2	36.1	27.1
	3) Disagree Some Extent	54.6	45.5	42.8	42.1	36.6	32.4	28.8	46.2	51.6
	4) Strongly Disagree	11.9	3.6	5.5	2.8	2.0	3.0	3.3	7.7	5.4
Q50c 妻は夫 に	1) Strongly Agree	5.1	1.9	2.1	2.2	2.5	8.0	9.4	9.6	17.8
	2) Agree Some Extent	27.1	10.4	8.9	12.6	11.0	31.8	45.5	54.7	47.0
	3) Disagree Some Extent	51.5	66.0	64.9	67.6	65.9	50.7	38.9	30.5	28.4
	4) Strongly Disagree	14.4	20.8	23.8	14.0	17.0	7.9	4.8	4.1	4.1
Q50d 親反対 の結婚	1) Strongly Agree	3.0	0.4	0.5	0.7	1.0	1.6	2.2	4.1	4.1
	2) Agree Some Extent	19.1	2.9	5.1	4.6	5.4	4.9	16.0	27.8	20.4
	3) Disagree Some Extent	57.1	68.1	64.5	67.6	71.2	53.5	56.0	56.2	60.6
	4) Strongly Disagree	15.9	28.4	29.6	25.1	19.5	39.6	24.2	9.4	8.3
Q50e 年上の 意見	1) Strongly Agree	3.7	2.8	3.7	2.3	3.2	6.1	10.5	4.1	6.5
	2) Agree Some Extent	39.0	34.0	36.3	27.6	28.8	43.0	57.0	57.6	39.0
	3) Disagree Some Extent	45.4	57.0	49.1	56.9	56.6	43.9	28.6	32.6	45.2
	4) Strongly Disagree	7.6	3.3	7.3	5.2	4.4	4.7	1.8	4.3	3.3
Q50f 家系と 息子	1) Strongly Agree	4.8	1.6	1.4	2.4	2.9	5.7	9.2	7.8	10.5
	2) Agree Some Extent	23.3	13.0	9.7	12.5	14.1	24.0	43.4	33.4	31.3
	3) Disagree Some Extent	54.3	68.4	66.2	67.7	68.2	56.7	40.8	45.6	50.3
	4) Strongly Disagree	15.4	15.5	21.8	13.2	11.2	12.4	5.5	12.5	6.4
Q50g 男は外 女は家	1) Strongly Agree	3.7	1.6	2.4	1.7	2.6	4.9	6.0	6.1	6.1
	2) Agree Some Extent	19.4	10.7	11.8	14.3	9.0	19.6	40.3	29.0	22.7
	3) Disagree Some Extent	55.1	63.7	59.4	64.9	67.6	57.0	44.8	48.4	56.4
	4) Strongly Disagree	20.2	22.7	25.9	16.3	18.1	17.5	7.9	15.8	13.0

としては、欧米諸国でも、「親孝行(respect and love for parents)」が多い。米国は、「親孝行」と「個人の権利」の組み合わせが多く、その次が「個人の権利」と「個人の自由」の組み合わせである。英国は東アジア諸国のパターンに近いが、東アジアよりもやや「個人の権利」と「個人の自由」の組み合わせが多いようである。

総じて考えると、先の儒教項目の結果では、東アジアの国々が(欧米の近代化と対立するような)狭義の

伝統的儒教価値からは脱却しているのは明瞭だが、他方で「親孝行」などの人間関係の基本にある伝統的価値観(家族関係など)は洋の東西を越えた(あるいは時間をも越えた)比較的普遍的価値観であるように見える。こう考えると、西洋近代化の要である「個人の権利」や「個人の自由」などの価値観よりも、歴史がはるかに永く、人類の発展に寄与してきた深い価値観が、国や時を越えて普遍的に存在すると思われる。した

表3. 東洋的伝統価値と西洋近代的価値(「親孝行」, 「恩返し」, 「個人の権利」, 「個人の自由」の四項目から二つ選択)(パターンA, B, ..., Fは本文参照.)

パターン	A	B	C	D	E	F
	par & ben	par & right	par & free	ben & right	ben & free	right & free
日本 (2002)	47.2	13.5	18.8	4.8	8.1	7.6
北京	51.0	21.8	14.9	3.8	1.8	6.6
上海	51.5	25.7	12.3	3.3	1.3	5.8
香港	35.6	16.3	29.1	4.1	5.7	9.2
昆明	49.8	20.6	17.1	4.4	2.9	5.1
杭州	48.6	22.5	16.1	4.5	2.6	5.8
台湾	56.7	19.5	14.2	3.2	2.8	3.6
韓国	45.2	21.7	19.2	4.0	3.4	6.5
シンガポール	50.3	25.5	15.2	2.9	1.2	4.8
	par & ben	par & right	par & free	ben & right	ben & free	right & free
イタリア	23.7	29.2	26.3	4.4	2.5	14.0
フランス	19.3	13.7	20.4	8.4	11.4	26.8
西ドイツ	8.8	28.0	19.3	3.6	3.4	37.0
オランダ	11.6	30.1	26.3	2.7	1.1	28.2
英国	31.8	20.4	12.5	11.3	8.0	16.1
米国	19.5	39.4	12.5	6.3	2.8	19.6
日本 (1988)	47.4	13.7	19.5	4.8	6.9	7.8

がって、これを国際相互理解の礎にしていくべきではないであろうか。

8. 富国信頼の時代へ

——「信」と「富」との相補的發展へ——

信は財を膨らませる。しかし、逆に財が信を一義的に定めはしない。かつて、Banfield (1958) は、「不信は貧者の文化である」と述べた。しかし、日本の「清貧」の思想は、人生の成功を収入の多寡で象徴させる米国流とは異なる (Yoshino [2002a] は収入や階級と「信頼感」との相関の各国の差違を示す)。貧しくとも人望のある者は、社会的には大きな資産をもっているのと同じ効果をもつと見做せることもあろう。また、人々の信頼のネットワークはそれぞれの人々の生命や人生の質(QOL),そして寿命にも積極的な効果をもたらすこともあろう(cf. カワチ, 2004)。

現在の社会混乱は、産業革命の時に、家内産業から工場での産業システムへと移行するに連れ、人々のあり方がゲマインシャフト的なものからゲゼルシャフト的なものへと移る時の混乱に類似している。その移行

期には、伝統的な社会での暗黙の相互信頼の崩壊を、法律・規則等が補完した。今日の混乱も、やがて新たな社会システムが十分に確立すれば、その下で人々の間に新たな相互信頼が発展するのであろう。しかし、その過渡期の混乱を早く収捨するために、将来を見据えた社会共通の目的や方針、ルールが社会のリーダーによって明示され、人々がそれを尊重、遵守するようになることが必要であろう。

信頼はある程度安定した面もあるが、時代を超えて絶対的に固定しているのではなく、人々が努力して高めていくものであろう。例えば、日本も明治の開国期には国際貿易において海外から不信の眼で見られていたが、信頼確立という困難な事業を、年月をかけて着実に達成したのである(角山, 1995)。21世紀の今日、再び国内外の「信頼感」を高揚させることができぬ理由は無い。問題は、先進モデルがあった時代と異なり、自ら新しい世界秩序の中で成功の指針を創造していかねばならぬ困難さに直面していることである。

この問題解決には、世界中から人種、世代、性別等を超え、最適の知恵を結集することが重要であり、それが高度情報化産業の時代への飛躍の必要条件に思え

る。冷戦期、盛んに「囚人のジレンマ」等の「ゲーム理論」が展開された。今後は、世界がゼロ・サム・ジレンマではなく、プラス・サム社会へと向かっていくことが望まれ、その鍵となるのが人々の「信頼」であろう。川勝(2000)は「富国有徳」を掲げるが、中国が国際的信頼の確立のために「徳治(人治)主義」の失敗から「法治主義」へと移行する中で、私は国の富と人々や信頼が相補的に発展していく「富国信頼」を唱えたい。

(注。本論文は、吉野(2003b)を下に、新たな調査データと解析を加えて、本特集号のために大幅に加筆修正したものである。また、本調査研究は、文部科学省研究補助金基盤研究A(2)No.14252013によるものである。)

参 考 文 献

- Almond, G.A. & Verba, S. (1963). *Civic culture*. Boston: Little Brown.
- Banfield, E.C. (1958). *The moral basis of a backward society*. The Free Press: NY.
- 中央調査社(2000). 議員, 官僚, 大企業, 警察等の信頼感に関する調査. <http://www.crs.or.jp/data.htm>.
- 電通総研・日本リサーチセンター(2004). 価値観調査データブック. 同友館.
- Dogan, M. (2000). Deficit of confidence within European democracies. In M. Haller (ed.), *The making of the European union* (pp. 243-261). Springer-Verlag: Paris.
- Fukuyama, F. (1992). The end of history and the last man. *International creative management*: NY. 歴史の終わり上・下(渡部昇一). 三笠書房.
- Fukuyama, F. (1995). *Trust*. Free Press: NY. (加藤 寛 [1996] 訳「信」なくば立たず. 三笠書房)
- Guttman, L. (1972). The concept of a common range: four applications and four fallacies (unpublished paper), pp. 1-5. In Levy, S (Ed.), Guttman, L., *on theory and methodology: selected writings* (pp. 37-41). Brookfield, USA: Dartmouth Publishing Company Limited.
- Hayashi, C. (Ed.) (1973). *A study of Japanese-Americans in Honolulu, Hawaii (in Japanese)*. ISM Research Report General Series, No. 33. ISM: Tokyo.
- 林知己夫(1993). 日本人の国民性. Phase' 93.
- 林知己夫(2000). これからの国民性研究—人間研究の立場と地域研究・国際比較研究から計量的文明論の構築へ—. *統計数理*, 48(1), pp. 33-66.
- 林知己夫(2001a). 日本人の国民性研究. 南窓社.
- 林知己夫(2001b). データの科学. 朝倉書店.
- 林知己夫, 穂山貞登(1982). 日本と東南アジアの文化摩擦. 出光書店.
- 林知己夫, 入山 映(1997). 公益法人の実像. ダイアモンド社.
- Hayashi, C. & Kuroda, Y. (1997). *Japanese culture in comparative perspective*. Praeger: CT.
- 林知己夫, 吉野諒三, 西平重喜, 林 文(1992). 第5日本人の国民性. 出光書店: 東京.
- 林知己夫, 山本勝造編(1993). ブラジル日系人の意識調査—1991~1992—. *統計数理研究所, 研究リポート74*. 統計数理研究所: 東京.
- 林知己夫, 吉野諒三, 鈴木達三, 林 文, 釜野さおり, 三宅一郎, 村上征勝, 佐々木正道(1998). 国民性七か国比較. 出光書店.
- Hosmer, L.T. (1995). *Trust: the connecting link between organizational theory and philosophical theory*. *Academy of Management Review*, 20, 2, 379-403.
- Inkeles, A. (1997). *National character*. Transaction Publishers: New Brunswick. (吉野諒三訳「国民性論考」出光書店)
- 角山 榮(1995). アジア・ルネサンス. PHP 研究所.
- 川勝平太(2000). 富国有徳論. 中央公論文庫: 東京.
- 川島武宜(1967). 日本人の法意識. 岩波書店.
- カワチ・イチロー, ブルース・P・ケネディ(2004). 不平等が健康を損なう. 日本評論社.
- 宮川公男, 大守 隆(編)(2004). ソーシャル・キャピタル. 東洋経済新報社.
- 文部省(1951). 「日本人の読み書き能力」. 東大出版部.
- 森嶋通夫(1984). なぜ日本は成功したか? TBSブリタニカ: 東京.
- 内閣府男女共同参画局(2003). 男女共同参画に関する国際比較調査. 平成14年度調査.
- 日本文化会議編(1973). 日本人の法意識—分析方法. 至誠堂.
- NORC-ROPER (1986). *General social surveys, 1972-1986: cumulative codebook*. The Roper Center for public opinion research, University of Connecticut.
- Osgood, C.E. (1960). *A case for graduated unilateral disarmament*. *Bulletine of Atomic Scientists*, 16, pp. 127-139.
- Rosenberg, M. (1956). *Misanthropy and political ideology*. *American sociological review*, XXI, pp. 690-695.
- Rotter, J.B. (1971). *Generalized expectations for interpersonal trust*. *American Psychologist*, 26, 443-452.
- Shapiro, S. (1987). *The social control of interpersonal trust*. *American Journal of Sociology*, 93, 623-658.
- Uslaner, E.M. (2002). *The moral foundations of trust*. Cambridge University Press: Uk.

- Warren, M.E. (ed.) (1999). *Democracy and trust*. Cambridge University Press: UK.
- Weber, M. (1904-05). *The Protestant Ethics and the spirit of capitalism* [translated by T. Parsons]. Routledge Classics.
- 山岡和枝 (2004a). 医療と文化の多次元の連関に関する統計科学的研究: 台湾調査. 国立医療保健科学院技術評価部 研究レポート TAB-04-001.
- 山岡和枝 (2004b). 医療と文化の多次元の連関に関する統計科学的研究: 韓国調査. 国立医療保健科学院技術評価部 研究レポート TAB-04-002.
- 吉野諒三 (1989). 公理的測定論の歴史と展望. 心理学評論, Vol. 32, No. 2, pp. 119-135.
- Yoshino, R. (1992a). *Superculture as a frame of reference for cross-national comparison of national characters*. Behaviormetrika, 19, 1, 23-41.
- Yoshino, R. (1992b). *The unbiased BIGHT model and its application to the analysis of responses of national characters*. Behaviormetrika, 20, 2, 171-186.
- Yoshino, R. (1994). *An overview of the longitudinal studies of national character by ISM (in Japanese)*. Proceedings of the Institutional Statistical Mathematics, 42, 2, 259-276.
- 吉野諒三 (編) (1995). 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—国民性の国際比較の為のマニュアル—. 統計数理研究所, 研究レポート 77. 統計数理研究所: 東京.
- 吉野諒三 (編) (2000). 国民性に関する意識調査データに基づく文化の伝播変容のダイナミズムの統計科学的解析. 統計数理研究所, 研究レポート 84, 統計数理研究所: 東京.
- 吉野諒三 (編) (2001a). 文化の伝播変容の統計科学的研究—ハワイの日系人・非日系人国際比較調査—. 統計数理研究所, 研究レポート 86, 統計数理研究所.
- 吉野諒三 (2001b). 心を測る—個と集団の意識の科学—. 朝倉書店.
- Yoshino, R. (2002a). *A Time to Trust— a study on peoples' sense of trust from a viewpoint of cross-national and longitudinal study on national character—*. Behaviormetrika, Vol. 29, No. 2, pp. 231-260.
- 吉野諒三 (2003a). 「国民性論」(A. インケルス)の付章「日本における国民性研究の系譜」. 出光書店.
- 吉野諒三 (2003b). 「信頼の時代」. Eco-Forum, Vol. 22, No. 1, 特集号「ソーシャル・キャピタル Part II」, pp. 42-51. 統計研究会.
- 吉野諒三 (編) (2004a). 東アジア価値観国際比較調査—2002年日本調査報告書—. 統計数理研究所, 研究レポート 91, 統計数理研究所.
- 吉野諒三 (編) (2004b). 東アジア価値観国際比較調査—2003年中国(北京・上海・香港)調査報告書—. 統計数理研究所.
- 吉野諒三 (編) (2005a). 東アジア価値観国際比較調査—2003年度台湾調査報告書—. 統計数理研究所.
- 吉野諒三 (編) (2005b). 東アジア価値観国際比較調査—2003年度韓国調査報告書—. 統計数理研究所.
- 吉野諒三 (編) (2005c). 東アジア価値観国際比較調査—2004年度シンガポール調査報告書—. 統計数理研究所.
- Yoshino, R. & Hayashi, C. (2002b). *An overview of cultural link analysis of national character*. Behaviormetrika, Vol. 29 No. 2, pp. 125-141.
- 鄭 躍軍編 (2003a). 「日本・中国の国民性比較のための基礎研究—中国北京市における意識調査」統計数理研究所研究レポート No. 89.
- 鄭 躍軍編 (2003b). 「日本・中国の国民性比較のための基礎研究—中国上海市における意識調査」統計数理研究所研究レポート No. 90.
- 鄭 躍軍編 (2005). 「日本・中国の国民性比較のための基礎研究—中国杭州市と昆民市における意識調査」総合地球環境学研究所・研究レポート 01.
- Zucker, L.G. (1986). Production of trust: institutional sources of economic structure, 1840-1920. Research in Organizational Behavior, 8, pp. 53-111.

(2004年12月1日受付, 2005年7月29日最終修正)

国際比較調査データの安定性についての検証

— 2003年度韓国と台湾における「健康と文化調査」および
「東アジア価値観国際比較調査」データの比較 —

山岡和枝*, 李相侖**

A Note on the Stability of International Comparative Survey Data: Comparison of
survey data of "Health and Culture Survey" and "East Asian
Value Survey" in Korea and Taiwan

Kazue YAMAOKA* and Sangyoon LEE**

In this research note, we examined the degree of difference/concordance among the response rates and the differences between the response rates due to the effect of weighting on the response data acquired from two surveys, the Health and Culture Survey and the East Asian Value Survey. The differences between the response rates, as well as the scale values between the two surveys, were relatively small and the structures of the response patterns were relatively similar. These findings indicate that the reliability of the survey results is relatively high. The difference between the original and the weighted Korean survey proved to be relatively minor (maximum difference of 3.5%), and the effect of weighting on the response data proved negligible. It has been recognized that comparison of pattern structures in groups of multiple questions, rather than comparison of response rates for each question, is important when seeking cross-national comparability.

Key words: stability, cross-national comparability, Health and Culture Survey, East Asian Value Survey, reliability

1. 目的と意義

著者らは「健康と文化」に関する東アジア調査の一環として、2003年度に韓国および台湾において調査を

実施した。この調査は「東アジア価値観国際比較調査」(吉野編, 2004)と共通のサンプリングフレームを用い、ほぼ同時期に(1~2週間の遅れで)、共に訪問面接調査により実施したものである。両調査は複数の共通質問を含む、一般成人男女を対象とした標本調査法に基づく全国調査である。詳細は後述するが、台湾では、地域を層別し、電話帳(住民基本台帳よりも実態に近いといわれる)から人口分布を勘案した上で、第1段抽出で地点を抽出し、第2段抽出の各地点ではランダムウォークで1軒おきに計15軒を訪問し、第3段抽出の各軒ではKish法(Kish, 1995)で個人を抽出した。一方、韓国調査は韓国Gallup社に委託して行ったが、2000年国勢調査の人口分布を勘案した上で、第1段抽出で地点を抽出し、第2段抽出の各地点では世帯をあらかじめ割り当てられた標本数に至るまで系統抽出

* 国立保健医療科学院 技術評価部
(Department of Technology Assessment and
Biostatistics, National Institute of Public
Health)

** 東京大学医学系研究科 健康科学・看護学専攻
(Department of Social Gerontology, School of
Health Sciences and Nursing, Graduate School
of Medicine, the University of Tokyo)

連絡先: 山岡和枝
〒351-0197 埼玉県和光市南2-3-6
国立保健医療科学院 技術評価部
TEL: 048-458-6228 FAX: 048-469-3875
E-mail: yamaoka@niph.go.jp

し、第3段抽出では各世帯から誕生日法で個人を抽出している。通常、韓国 Gallup 社では、得られた有効回収データについてセンサスデータと比較し、性・年齢層別重み付け調整を行った回答比率を報告している。

このような違いも含め、国際比較においては、本質的な国の間の意識の差異の有無以前に、調査票の翻訳やサンプリングなど、異なる方法で得られるデータの比較可能性という大問題が常につきまとう (Yoshino, 2002)。これについて、言語の問題については吉野・林・鈴木 (1995)、吉野 (2001) が既にバックトランスレーションの実践的方法と実証例の検討を報告している。他方で林 (2000) は割り当て法 (クォータ法) でのデータの安定性についての検討を行い、林・田中 (1996)、吉野 (2002)、Kish (2003) では回収データについての重み付け調整 (post stratification, 回収データと母集団での性・年齢層の分布の違いを、前者に重みをかけて調整しようとする) について、そうすることがむしろデータの歪みをもたらす、表面上の算術的調整よりもはるかに深い問題を生じる可能性を報告している。新たな調査を行った際には、得られたデータの信頼性についての検討が必要不可欠である。本研究ノートでは、速報としてほぼ同時期に行った「東アジア価値観国際比較調査」(吉野編, 2004) との共通項目に関する回答データの比較により、まずデータの信頼性(安定性)に関する検討を行う。次いで韓国調査での回収データを用いて、回収データに対する重み付け調整の問題を検討する。以上2点について、今後、国際比較可能性について検討するための基礎資料を提供する。

2. 「健康と文化」調査票の作成と翻訳

大貫 (1985) が医療社会学の立場から「病気と健康観、その実践は一見現代医学に基づいているように見えながら、実際は非常に根深く文化的に意味付けられたものである。」と指摘したように、社会的緊張から生じるストレスと対処方法は社会、経済、文化的環境等により異なる可能性がある。単に同様の対処法を文化や社会環境の異なる民族へ適用することには問題があり、各社会における「文化的背景」を認識することは重要な意味をもつ。これまで、主として観察研究に基づく医療文化人類学や医療社会学研究 (たとえばリン, 1999; 瀧澤, 1998; 医療人類学研究会編, 1992; 大木, 2002) や、実証的な国際比較調査に基づく社会疫学的研究 (Berkman & Kawachi, 2000) が行われてきた

が、大規模標本調査に基づく国際比較研究は国内外ともに少ない。このような背景の下で、大規模標本調査による「健康と文化調査」を実施した。

調査票の質問は、関連する国内・国外の先行調査の資料を参考にして、新たに作成した項目を追加した。基本的に統計数理研究所で行われてきた国民性に関する「7か国国際比較調査」(林・鈴木・村上・吉野・林・釜野・三宅・佐々木, 1998) および「東アジア価値観国際比較調査」(吉野編, 2004) の質問項目をベースとし、さらに必要と思われる医療関連の項目を追加した。質問項目については、比較可能性を考慮し、可能な限り調査出典の明確な質問を取りあげるよう心がけたが、いくつかの項目に関しては新たに質問を作成した。なお、文章が長いもの、回答選択肢が多い質問に関しては、調査対象に見せるための質問カードを作成した。こうして「健康と文化調査」の調査票案として計41問を日本語版で準備した。41問のうち、「東アジア価値観国際比較調査」と共通な質問は36問(付表, A質問群+B質問群)、さらに「7か国国際比較調査」とも共通な質問は19問(A質問群)である。

調査票案として作成した日本語版調査票を、各国ともそれぞれ、まず一人のバイリンガルにより韓国語あるいは台湾語に翻訳させ、各国側の研究協力者と検討を重ねた上で、調査票の項目を決めた。さらに別のバイリンガルにより韓国語と台湾語調査票それぞれについて日本語再翻訳 (back translation) させ、われわれが調査項目の吟味を行った上で、最終的に韓国版および台湾語版調査票を確定した。これら41問は韓国と台湾で共通である。調査票のスキームや調査方法の詳細については Yamaoka & Lee (2003) および Yamaoka & Lee (2004) を参照されたい。

3. 調査の概要

(1) 韓国調査

本調査の母集団は、20歳以上の韓国在住の一般国民を母集団とした標本調査で、訪問面接法で行った。標本抽出の際に、韓国の政府機関の調査でない場合、住民基本台帳を利用することはできないとされる。そこで、調査地点を2000年国勢調査の人口分布を勘案し、層別無作為抽出で抽出し、調査地点からの個人の抽出はあらかじめ計画された世帯数を系統抽出するという方式をとった。具体的な標本抽出と訪問調査は韓国 Gallup 社に委託し、調査遂行の詳細は同社との検討の

上で一任した。同社は、長年にわたり韓国の世論調査に携わってきている。その概要は以下の通りである。

a. 調査内容 健康と文化に関する意識 (計 41 項目)

b. 調査対象

母集団：韓国全国の班および村に居住する満 20 歳以上の国民

c. 標本数 有効回収標本 1,007 名

d. 地点数 125 地点 (大都市 63 地点, 都 62 地点)

e. 調査時期 2003 年 10 月 7 日～25 日

f. 抽出の方法と手順 都市規模により地域を層別後、次の手順で個人を抽出した。

① 第 1 次抽出単位の層別は、2000 年の韓国国勢調査結果の人口分布 (韓国統計庁, 2000) に基づき、都市規模で計 31 層 (最大行政単位大都市 (7 市) と都 (8 都×3 部 [都市部, 市部, 郡部]) に層別し、割り当てる標本数を決定した。その際、済州島は標本から除かれた (済州島の人口は全人口の 1.2% で、標本数が 1,000 の場合、12 ケースであるが、通常の全国調査でもサンプリングの際に対象外とされることが多い。)

② 各々の割り当てられた標本の大きさに応じて洞・邑・面を無作為に抽出し、そこから第 1 次抽出単位の調査地点 (班・村) を無作為に抽出した。

③ 各調査地点から、計画された世帯数 (班: 6～8 世帯, 村: 12～15 世帯) を抽出した。この際、マーケットや商店の世帯は除外した。

④ 1 つの世帯に 20 歳以上の成人が 2 名以上の場合、誕生日ルールに基づき、調査時点から先 12 ヶ月以内で誕生日がもっとも近い人を選択した。(各地点で抽出される世帯数、したがって個人の数、あらかじめ割り当てられている。)ただし、この際、一時的な在宅者、および軍隊への入隊、長期的な出張、海外出張の者は除外した。

g. 訪問調査員の訓練

訪問調査は韓国 Gallup 社に登録している調査員が行った。調査概要、一般面接調査要領と調査票の質問方法などに関する 1 日間のオリエンテーションを行い、3 回のロールプレイがなされた。

(2) 台湾調査

本調査は、20 歳以上の台湾一般住民を母集団とした

標本調査で、訪問面接法で行った。台湾では住民基本台帳を利用することは可能であるが、移動が多いためか、必ずしも居住の実態を反映しておらず、実際の調査ではむしろ電話帳を用いた方が適当という台湾側研究者の指摘があり、「電話帳」(後述)を利用して標本抽出を行った。調査にあたり天主教輔仁大学 謝邦昌教授の協力を得た。訪問調査実施は台湾の Trendgo 社に委託した。調査方法は、同社とわれわれとの検討により、以下のように確定した。

a. 調査内容 健康と文化に関する意識 (計 41 項目)

b. 調査対象

母集団：台湾全地域に居住する満 20 歳以上の個人
標本抽出台帳：「電話帳」(356 area code) により地点抽出を計画した。

台湾の電話帳登録状況は、90% 以上の世帯が自宅に電話を保持しており、都市部と農村部の違いは大きくないといわれている。(台湾ではおよそ 600 万世帯あり、電話番号も 600 万を超えている。)台湾の電話番号は、各「区」(Ch'u) を区別できるようなコード (始めの 3 桁の数字) が割り当てられている。

c. 計画標本数 1,800 名

d. 地点数 120 地点 (つまり、120 地点×15 名/1 地点=1,800 名)

e. 調査時期 2003 年 11 月 12 日～27 日

f. 抽出の方法と手順 都市規模で地域を層別後、次の手順で個人を抽出した。

① 層別は、8 層 (4 部 [北部, 中部, 南部, 東部] × 2 部 [都市部・非都市部]) で層別し、国勢調査の人口分布 (2003 年 5 月の政府報告) に基づき、人口比例で抽出地点数 (ほぼ「区」に対応している) を決定した。

② 各層から第 1 次抽出単位の調査地点を、無作為に抽出した。

③ 地点ごとに、調査を開始する世帯を「電話帳」より無作為に 1 軒抽出した。その世帯からランダムウォークで 1 軒おきに 1 地点あたり 15 世帯を選択した。

④ 1 世帯から 1 標本 (個人) を抽出した。1 世帯に成人が 2 名以上の場合は、Kish 法 (Kish, 1995) により個人を選択した。

4. 調査結果の概要

4.1. 「東アジア価値観国際比較調査」との比較に見る回答の一致の程度

本調査は「東アジア価値観国際比較調査」(吉野編, 2004) とほぼ同時期に開始され, ほぼ半数くらいの質問を共通質問としてとりあげている。そのため, 共通質問を用いて調査結果の信頼性(安定性)を検討することが可能である。そこでまず, 共通質問における回答の一致の程度を, 各項目の回答比率の比較と回答パターン構造の比較および共通項目すべての比較という観点から検討した。

まず, 「東アジア価値観国際比較調査」と共通の(A群+B群)質問項目(計36問)の各カテゴリー回答比率を求め, 両比率の差異を検討した。韓国および台湾における回答比率(付表参照)の一致の程度を示すプロットをそれぞれ図1, 図2として表示する。図中では差が5%以上あったカテゴリー名を表示した。韓国での最大差は19.7%(中央値1.2%)であり, 台湾での最大差は13.2%(中央値1.1%)であった。特に差が大きかったのは韓国ではEA50(伝統的価値観), Q7.85(科学観・社会問題), Q2.12b(信頼感・スキあれば利用), 台湾ではEA50(伝統的価値観), Q7.84(科学観・心の解明), Q2.12b(信頼感・スキあれば利用), EA11(お

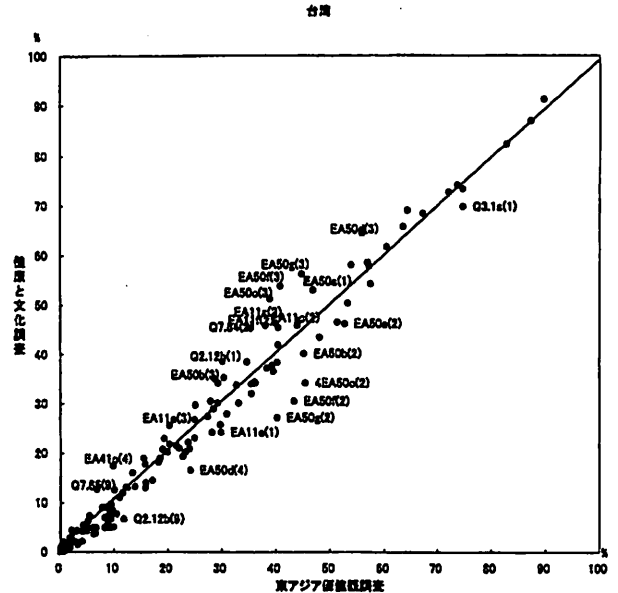


図2. 「健康と文化に関する調査」(縦軸)および「東アジア価値観国際比較調査」(横軸)の共通質問における回答分布の一致の程度(台湾)

化けなどの存在の有無), などであった。

次に数量化III類を用いたパターン分類により, 2つの調査をあわせ(縦ボンド), これに「東アジア価値観国際比較調査」の他国(北京, 上海, 香港)と, 同調査と同じ調査票を用いて実施された「日中国民性データの統計解析」(統計数理研究所共同研究, 14共研-2059 代表 鄭躍軍)での昆明, 杭州も含めた場合(分析1: 質問項目はA群+B群), 「分析1」の東アジア諸国にさらに「7か国国際比較調査」(日, 米, 英, 独, 仏, 伊, 蘭)のデータを含めた場合(分析2: A質問群のみ)について, 第1軸と第2軸でのカテゴリーの付置の中での国・地域の位置の相違を視覚的に比較した(図3, 図4)。「7か国国際比較調査」結果も含めた場合には共通な質問数が36問から19問へと減少したため, 関連性が異なる可能性がある。そこで, 「東アジア価値観国際比較調査」での国・地域のみについてもA質問群のみでの分析を行い, 構造を確認した。視覚的ではあるが, 両図での2つの調査の位置づけはほとんど変わらないと判断されたため, 「7か国国際比較調査」を含めた結果(図4)を示した。「分析1」には, 回答比率の差が大きかった伝統的価値観関連の質問項目が含まれており, これらを含まない「分析2」の結果では, 韓国と台湾ともに2つの調査(「健康と文化調査」と「東アジア価値観国際比較調査」)は, より近くに付置されていた。

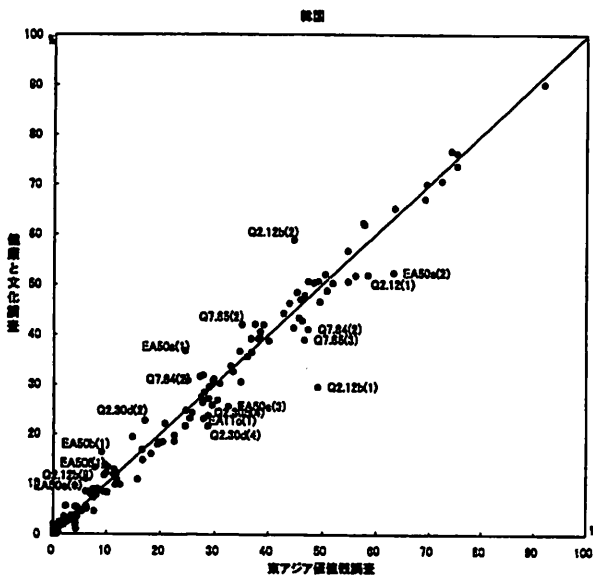


図1. 「健康と文化に関する調査」(縦軸)および「東アジア価値観国際比較調査」(横軸)の共通質問における回答分布の一致の程度(韓国)
図中の記号は付表のコード名(カテゴリー)を示す(以下の図も同様)

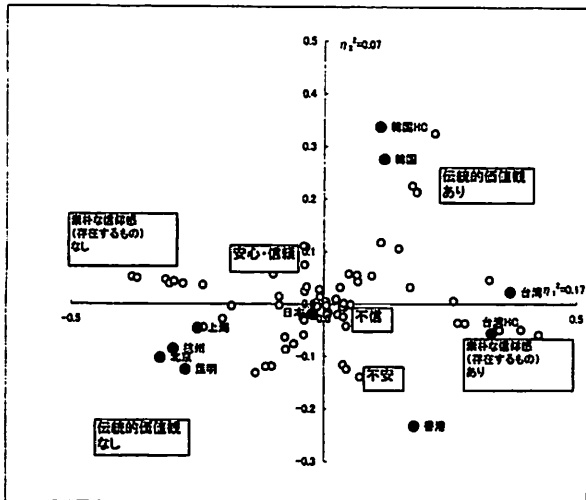


図3. 2つの調査での回答傾向の相違：「健康と文化に関する調査」に「東アジア価値観国際比較調査」+（昆明，杭州）での国・地域をカテゴリーとして含めたボンドサンプルによるパターン分類（A質問群+B質問群，計36問）（数量化III類での第1軸（横軸）と第2軸（縦軸）にカテゴリーに付与された数値の付置，四角の中は関連する項目・カテゴリーの内容，HCは「健康と文化に関する調査」を示す）

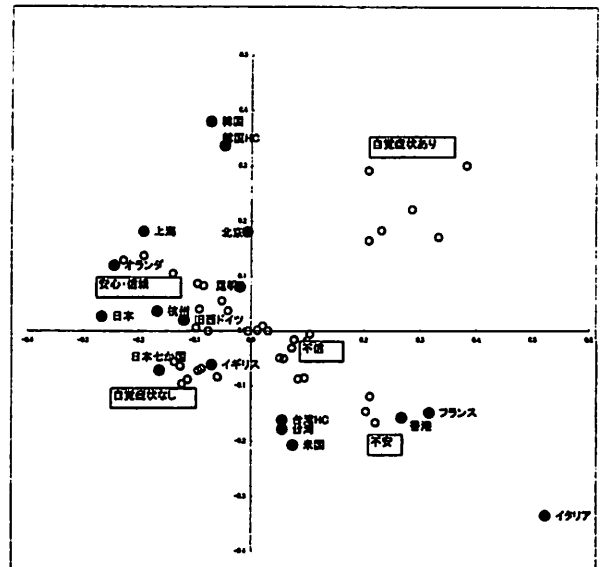


図4. 2つの調査での回答傾向の相違：「健康と文化に関する調査」に「東アジア価値観国際比較調査」+（昆明，杭州）および「7か国国際比較調査」での国・地域をカテゴリーとして含めたボンドサンプルのパターン分類（A質問群，計19問）（数量化III類での第1軸（横軸）と第2軸（縦軸）にカテゴリーに付与された数値の付置，四角の中は関連する項目・カテゴリーの内容，HCは「健康と文化に関する調査」を示す）

以上，韓国および台湾において，ほぼ同時期に行った2つの調査から回答傾向の信頼性（安定性）について検討してきた。一般に，経時的な変化を検討するにはデータや指標の安定性と敏感性の間の trade-off の問題がある。今回の調査では2つの調査の間に回答に影響を及ぼすような大きな社会的問題等は生じていなかったため，変化に対する敏感性というより，質問に対する回答分布の標本誤差に近いものがみられたと考えることができよう。質問項目のうち，特に両国とも2つの調査でばらつきが大きかったのは伝統的価値観とお化けなどの存在の有無，および信頼感に関する1問（スキあれば利用）であった（これらは多くの場合， $p=0.5$ 付近を中心にばらつきが大きかった）。したがって伝統的価値観と，お化けなどの「存在の有無」の質問を除いたA質問群のみで分析した結果は，それらが含まれている「分析1」に比べて当然ながら2つの調査結果のパターン分類で示された国や地域の位置づけは相対的に近くなり，2つの調査結果の関連がより強かった。このように取りあげる質問によって安定性の違いが生じる可能性があり，これらについては取り扱う内容ごとに十分に吟味し解釈を行う必要がある。少なくとも本調査の結果では，健康感や社会階層意識，

不安感などを含むA質問群に関しては比較的安定していることが示唆されたといえよう。

また，項目の中で，健康問題の自覚症状（5問，Q2.80a～e）および信頼感（3問，Q2.12，Q2.12b，Q2.12c），不安感（3問，Q2.30，Q2.30d，Q2.30f）はスケールを作成して検討することが多い。そこで，スケールとして反応個数の総和を用いた場合を取り上げ，「健康と文化調査」および「東アジア価値観国際比較調査」の2つの調査での，それぞれのスケール値（得点）をウィルコクソン順位和検定により比較した。韓国では「健康と文化調査」の方が「東アジア価値観国際比較調査」に比べてやや不安を訴える者が多く，不安感スケール値に有意差（ $p<0.05$ ）が認められた。ただし，これについては，質問文の表現や組み合わせが多少変更されたことがどのような影響があるか，今後の検討が必要であろう。しかし，他のスケールに関して差は認められず，スケール値として捉えても，比較的安定していることが示唆された。

4.2. 回収データに対する重み付け調整の問題

韓国 Gallup 社では、系統抽出と誕生日法を適用して個人を抽出したが、通常、実際の有効回収データに国勢調査の人口構成に基づき重み付け調整を行った回答比率を最終データとして報告している。本調査結果の報告に際しても、この手続きに従って 2000 年度国勢調査データ (Korea National Statistical Office) をもとにした、性・年齢層別の重み付け調整後の回答比率が報告されてきた(表1参照)。われわれは、もとの回収データ(重みなし)について単純集計、および性・年齢層別集計を行い、回収データに重みを付けた場合と付けない場合についてそれぞれのカテゴリーの回答比率を比較した。その差異を比率の差で見たところ、最大 3.5% (中央値 0.3%) の差異であった。図5は全項目における重みの有無による回答比率の比較を示している。比率の大きさに係わらず、ほぼ 45 度の直線上に分布しており、重み付けの影響による差異は小さいこ

とが分かる。

一般に、必要サンプル数を確保するために、特定層の抽出確率を高くし、標本抽出計画段階で、全体での集計の際には母集団の人口構成にあわせるためにあらかじめ回収標本に重み付け調整を計画することがある。これは、回収率が 100% となることを想定する限りにおいては、正当化できる立場であろう。たとえば、回収データに対して、今回の台湾調査のように世帯を抽出し 1 世帯から 1 標本を抽出する場合に、世帯を等確率で抽出しても最終抽出単位の個人の抽出確率が世帯構成によって異なってしまふことから、集計にあたり抽出確率の逆数に比例した重み付け調整をすることが考えられる。このような重み付け調整に関しては、2001 年と 2002 年に統計数理研究所で行われた「中国における意識調査」での世帯構成員数での重みの有無による差異の検討が参考になる。鄭らによると、北京市では最大 2.3% (鄭編, 2003a)、上海市では最大 2.1% (鄭編, 2003b) の差異がみられるだけで、一般の標本抽出誤差の水準を勘案すると、重みの有無により本質的な違いがないことが確認されている。しかし、標本計画においてではなく、回収データの性・年齢層の属性が母集団からずれていることを考えて、事後の重み付け調整をするに関しては、異論がある (吉野, 2002)。韓国 Gallup 社の用いている重み付け調整は、世帯の構成比などの違いを理論的に考慮したものではないが、本研究の結果では重みの有無による差違はほとんど認められなかった。ここには示さなかったが数量化 III 類で捉えた項目・カテゴリー間の関連性をみるとほぼ類似した結果であり、重み付けの有無による差異はみられなかった。

表1 韓国 Gallup 社の回収データに対する重み。

年齢層	20-29	30-39	40-49	50歳以上
男性	123/82	132/147	114/136	128/135
女性	117/80	126/160	109/142	158/125

Weighted cases (1,007)/Unweighted cases (1,007)

回答比率(%)の差異

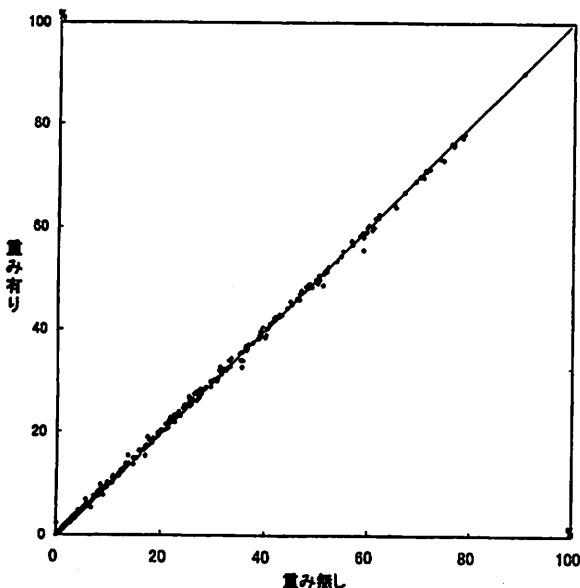


図5. 韓国調査における回収データに対する性年齢層に対する重みの有無による回答比率(%)の差異

林・田中 (1996)、吉野 (2002)、Kish (2003) が指摘するように、母集団の性・年齢分布との比較のみによる「重み付け」は、回収率の低さ(属性による回収率の偏り)などの影響もあり、それにより逆にバイアスが増長される可能性も否定できない。最近では、小柳 (2004) もシミュレーションおよびフィールドテスト結果に基づいてこの点を指摘している。今回の調査の回収率も高いとはいえ、回収データに対しての重み付け調整については慎重でなければならない。この問題に対しての一般的な答えはなく、Kish も理論と実践とその両面からの今後の検討が必要であると指摘している (Kish, 2003, p197)。なお、数量化 III 類で捉えた回答パターンの構造は比較的安定しており、吉野 (2002) も述べているように、複数質問群の回答パター

ンを国際比較に用いることは意味があると判断された。

5. ま と め

本研究ノートでは、韓国と台湾における「健康と文化調査」と、ほぼ同時期に行った「東アジア価値観国際比較調査」結果との回答比率の一致の程度の検討、および回収データの重みの有無による回答比率の差異について検討した。その結果、2つの調査結果からは回答比率に差異のみられた項目もあったものの、健康感や不信感などの質問に関する回答比率と回答パターン構造は比較的一致していた。またスケール値としても差異はほとんど認められず、調査結果の信頼性(安定性)は比較的高いものと考えられた。韓国調査による回収データの調整に対する影響の検討に関しては、単純な回答比率の比較においても最大差が高々3.5%であり、重み付け調整の影響はほとんどないことが確認された。さらに、項目ごとの比率の比較ではなく、複数項目群のパターン構造の比較が、国際比較可能性を考慮する上で重要であることが確認された。

謝 辞

本研究は、平成14年度より3カ年計画の文部省科学研究補助金・基盤研究B(2)(課題番号14402043, 代表山岡和枝)、および、平成14年度より4カ年計画の基盤研究A(2)(課題番号14252013, 代表吉野諒三)を受けた。また、本研究ノートは、平成16年5月22日に開催された行動計量学会シンポジウム「今こそ、調査の哲学を」における研究討論にも大きな示唆を得ている。

参 考 文 献

- Berkman, L. & Kawachi, I. (2000). *Social Epidemiology*. Oxford University Press.
- 林知己夫 (2000). これからの国民性研究—人間研究の立場と地域研究・国際比較研究から計量的文明論の構築へ—。統計数理, 48(1), 33-66.
- 林知己夫, 鈴木達三, 村上征勝, 吉野諒三, 林文, 釜野さおり, 三宅一郎, 佐々木正道 (1998). 国民性7か国比較. 出光書店.
- 林文, 田中愛治 (1996). 面接調査と電話調査の比較の一面: 読売新聞社世論調査室の比較実験調査から. 行動計量学, 23(1), 10-19.
- 韓国統計庁 (2000). Table of population by age, sex and marital status (15years old) (English). [on line] http://kosis.nso.go.kr/cgi-bin/sws_999.xls.
- Kish, L. (1995). *Survey sampling*. John Wiley & Sons, Inc. New York.
- Kish, L. (2003). Weighting for Unequal P_i . In "Leslie Kish: Selected Papers". Kalton G and Heeling S. (eds.) John Wiley & Sons, Inc. New Jersey.
- 小柳雅司 (2004). 住民基本台帳を使用しない個人サンプリング方法の研究. よろん, 93, 16-19.
- 大貫恵美子 (1985). 日本人の病気観—象徴人類学的考察. 岩波書店.
- 大木昌 (2002). 病と癒しの文化史—東南アジアの医療と世界観. 山川出版社.
- リン・ペイヤー (1999). 健康と文化 (円山誓信, 張知夫訳). 世界思想社.
- 瀧澤利行 (1998). 健康文化論. 大修館書店.
- 鄭躍軍編 (2003a). 日本・中国の国民性比較のための基礎研究: 中国北京市における意識調査. 統計数理研究所研究レポート 89, pp. 43.
- 鄭躍軍編 (2003b). 日本・中国の国民性比較のための基礎研究 (2): 中国上海市における意識調査. 統計数理研究所研究レポート 90, pp. 25.
- 統計数理研究所国民性調査委員会編 (1992). 第5日本人の国民性. 出光書店.
- Yamaoka, K. & Lee, S.Y. (2003). A Study of Statistical Science on Health and Culture: Korea Survey. Technical Report No. TAB-03-002 (in Japanese) (国立保健医療科学院技術評価部).
- Yamaoka, K. & Lee, S.Y. (2004). A Study of Statistical Science on Health and Culture: Taiwan Survey. Technical Report No. TAB-04-002 (in Japanese) (国立保健医療科学院技術評価部).
- 山岡和枝, 吉野諒三 (2003). 健康感と関連要因: 東アジア価値観国際比較調査結果の分析. 日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集, 250-251. 医療人類学研究会編 (1992). 文化現象としての医療. メディア出版.
- 吉野諒三 (1994). 国民性意識の国際比較調査研究. 統計数理, 42(2), 259-276.
- 吉野諒三 (2001). 心を計る 個と集団の意識の科学. 朝倉書店, pp. 52-72.
- 吉野諒三 (2002). 調査環境悪化の中で、より信頼性を確保する標本調査法とは何か. 平成13年度世論調査に関する調査研究—世論調査のサンプリング方法について—, 研究報告書, 内閣府大臣官房政府広報室, pp. 66-72.
- Yoshino, R. (2002). An overview of cultural link analysis of national character. *Behaviormetrika*, 29(2), 125-141.
- 吉野諒三編 (2004). 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—2002年日本調査

報告書. 統計数理研究所研究レポート 91.
吉野諒三, 林知己夫, 鈴木達三 (1995). 国民性の国際
比較調査の為の質問文の作成—翻訳のプロセスを

中心として—. 行動計量学, 22(1), 62-79.

(2003年12月15日受付, 2004年9月22日最終修正)

付表

A 質問群

コード			韓国		台湾	
			EA	HC	EA	HC
Q2.3g	健康状態	1)非常に満足 2)満足 3)あまり満足していない 4)満足していない	8.1 46.6 33.0 11.6	7.8 47.8 33.7 9.8	8.6 67.4 18.3 5.1	9.0 68.3 18.2 4.3
Q2.80a	自覚症状－頭痛・偏頭痛・頭が重い	1)あり 2)なし	45.2 54.8	48.4 50.5	25.0 74.9	26.8 73.3
Q2.80b	自覚症状－背中への痛み（肩こりや腰痛など）	1)あり 2)なし	49.2 50.8	50.6 48.7	36.2 63.7	34.4 65.6
Q2.80c	自覚症状－いろいろ	1)あり 2)なし	24.7 75.3	21.6 76.2	12.6 87.3	13.1 86.9
Q2.80d	自覚症状－うつ状態	1)あり 2)なし	27.6 72.4	27.5 70.6	12.3 87.4	13.1 86.9
Q2.80e	自覚症状－不眠症	1)あり 2)なし	24.8 75.3	24.7 73.7	27.5 72.3	27.4 72.6
Q1.8	社会階層	1)上 2)中の上 3)中の中 4)中の下 5)下	0.7 6.2 45.9 29.7 16.7	0.6 5.6 47.0 30.7 14.7	0.4 8.9 64.5 18.6 3.1	0.3 6.8 68.9 19.0 4.3
Q4.30	家庭はくつろぐ場所	1)そう思う 2)そうは思わない	91.9 7.5	90.1 8.8	89.8 9.4	91.2 8.3
Q2.12	他人のためか自分のためか	1)他人の役に 2)自分の事だけ	58.5 39.1	51.7 41.9	38.4 57.2	37.2 57.7
Q2.12b	スキがあれば利用されるか	1)利用しようとしている 2)そんなことはない	49.2 44.6	29.5 58.8	30.2 57.5	38.6 54.1
Q2.12c	人は信頼できるか	1)信頼できると思う 2)常に用心した方がよい	28.1 69.2	28.4 67.0	13.5 82.9	16.1 82.3
Q2.30	不安感－重い病気	1)非常に感じる 2)かなり感じる 3)少し感じる 4)全く感じない	4.5 14.8 51.9 27.8	3.5 19.4 50.2 26.3	23.8 30.5 33.2 11.6	22.2 35.3 30.1 12.0
Q2.30d	不安感－交通事故	1)非常に感じる 2)かなり感じる 3)少し感じる 4)全く感じない	5.5 17.1 47.3 28.8	4.6 22.6 50.6 21.6	24.0 29.4 35.5 10.1	20.9 34.1 32.0 12.6
Q2.30f	不安感－戦争	1)非常に感じる	2.9	2.6	23.2	20.3

		2)かなり感じる	10.3	13.2	21.6	21.5
		3)少し感じる	38.1	39.1	25.0	23.1
		4)全く感じない	44.6	41.3	28.0	30.5
Q7.83	科学技術-病気の治療	1)全くそのとおりだと思う	7.0	7.9	17.2	14.5
		2)そう思う	63.5	65.1	54.0	58.0
		3)そうと思わない	19.7	18.3	20.0	20.3
		4)決してそうと思わない	6.3	5.1	2.5	2.3
Q7.84	科学技術-人間の心の解明	1)全くそのとおりだと思う	2.5	2.4	8.9	5.7
		2)そう思う	25.1	30.8	36.3	34.1
		3)そうと思わない	47.3	41.0	35.4	45.4
		4)決してそうと思わない	20.9	22.1	9.4	9.7
Q7.85	科学技術-経済的, 社会的問題の解決	1)全くそのとおりだと思う	4.2	2.1	5.2	6.2
		2)そう思う	35.1	41.9	39.3	37.7
		3)そうと思わない	46.6	38.9	40.3	38.3
		4)決してそうと思わない	9.5	11.7	6.8	12.7
Q3.1a	宗教を信じるか	1)はい	50.5	51.9	74.9	69.7
		2)いいえ	49.5	46.5	25.1	29.7
Q3.2	「宗教心」は大切か	1)大切	74.2	76.7	73.9	74.0
		2)大切でない	18.3	16.0	19.1	20.8

B 質問群

コード			韓国		台湾	
			EA	HC	EA	HC
EA11A	存在の可否-神や仏	1)ある・存在する	28.8	23.6	48.1	43.4
		2)あるかもしれない	29.8	31.1	38.1	45.9
		3)ない・存在しない	34.7	36.6	9.7	8.5
EA11B	存在の可否-死後の世界	1)ある・存在する	20.5	18.4	31.0	27.9
		2)あるかもしれない	30.9	30.2	44.1	46.8
		3)ない・存在しない	36.8	39.1	15.9	17.8
EA11C	存在の可否-靈魂 (たましい)	1)ある・存在する	28.0	23.0	39.6	36.6
		2)あるかもしれない	36.9	36.4	39.9	46.4
		3)ない・存在しない	27.3	31.6	13.9	13.3
EA11D	存在の可否-悪魔	1)ある・存在する	19.5	17.9	22.8	19.4
		2)あるかもしれない	25.5	23.1	34.7	38.5
		3)ない・存在しない	43.8	46.2	32.8	33.8
EA11E	存在の可否-地獄	1)ある・存在する	20.0	18.2	29.9	24.2
		2)あるかもしれない	25.8	24.2	40.4	41.9
		3)ない・存在しない	42.7	44.2	20.4	25.6
EA11F	存在の可否-天国や極楽	1)ある・存在する	22.7	19.7	29.8	25.7
		2)あるかもしれない	28.9	27.1	40.4	45.5
		3)ない・存在しない	38.5	40.5	20.4	21.8
EA11G	存在の可否-宗教上の罪や罰 (ばち)	1)ある・存在する	22.7	18.5	28.3	24.2

		2)あるかもしれない	29.6	25.8	44.0	45.9
		3)ない・存在しない	37.5	42.0	19.4	22.9
EA50A	伝統的価値観—先祖を尊ぶか	1)全くそのとおりだと思う	24.6	36.7	46.9	53.0
		2)そう思う	63.3	52.2	52.7	46.5
		3)そうは思わない	10.1	8.2	0.3	0.4
		4)決してそうは思わない	1.4	1.7	0.0	0.0
EA50B	伝統的価値観—長男は両親の面倒を見るか	1)全くそのとおりだと思う	9.1	16.3	22.1	21.0
		2)そう思う	36.1	35.6	45.2	40.1
		3)そうは思わない	46.2	42.7	28.8	35.0
		4)決してそうは思わない	7.7	4.6	3.3	1.9
EA50C	伝統的価値観—妻は夫に従うか	1)全くそのとおりだと思う	9.6	13.8	9.4	6.8
		2)そう思う	54.7	56.6	45.5	34.1
		3)そうは思わない	30.5	26.8	38.9	51.2
		4)決してそうは思わない	4.1	1.9	4.8	5.1
EA50D	伝統的価値観—親が反対する結婚はしないか	1)全くそのとおりだと思う	4.1	5.5	2.2	1.9
		2)そう思う	27.8	31.9	16.0	14.0
		3)そうは思わない	56.2	51.6	56.0	64.3
		4)決してそうは思わない	9.4	8.3	24.2	16.6
EA50E	伝統的価値観—一年上の人の意見に従うか	1)全くそのとおりだと思う	4.1	9.5	10.5	7.8
		2)そう思う	57.6	62.2	57.0	58.5
		3)そうは思わない	32.6	25.5	28.6	28.9
		4)決してそうは思わない	4.3	1.0	1.8	1.7
EA50F	伝統的価値観—家系(家紋)を続かせるため息子は必要か	1)全くそのとおりだと思う	7.8	13.2	9.2	5.0
		2)そう思う	33.4	32.6	43.4	30.5
		3)そうは思わない	45.6	43.3	40.9	53.8
		4)決してそうは思わない	12.5	9.8	5.5	7.4
EA50G	伝統的価値観—男性は外で働き、女性は家庭を守るべきか	1)全くそのとおりだと思う	6.1	8.4	6.0	5.0
		2)そう思う	29.0	29.5	40.3	27.1
		3)そうは思わない	48.4	50.3	44.8	56.2
		4)決してそうは思わない	15.8	10.9	7.9	9.0
EA41A	信頼感—宗教団体	1)非常に信頼	8.5	8.7	11.1	11.1
		2)やや信頼	40.1	38.7	53.3	50.3
		3)あまり信頼しない	38.4	39.3	29.2	30.1
		4)全く信頼しない	11.9	10.8	4.4	5.5
EA41J	信頼感—科学技術	1)非常に信頼	8.4	8.9	15.9	13.0
		2)やや信頼	69.5	70.0	60.5	61.5
		3)あまり信頼しない	16.6	16.8	15.6	19.0
		4)全く信頼しない	1.5	1.8	1.8	2.8
EA41C	信頼感—新聞・テレビ	1)非常に信頼	2.7	2.9	1.9	0.9
		2)やや信頼	57.8	61.9	35.5	34.0
		3)あまり信頼しない	34.9	30.5	51.4	46.5
		4)全く信頼しない	4.5	4.0	9.8	17.5

東アジアの職業観

—— 日本・中国・台湾・韓国の比較 ——

三好美浩*, 吉野諒三**

A Comparative Study of Work Value of the East Asian People
—— Japan, China, Taiwan, and South Korea ——

Yoshihiro MIYOSHI and Ryozo YOSHINO

This study focuses on the similarities and differences of the work values among the peoples studies in our East Asia Value Survey conducted during 2002-2004. It shows useful aspects of cross-national comparison on the East Asia.

Some researchers consider that the East Asia is under the influence of Confucianism, as the western countries under the influence of Christianity. It is said that scholars and civil servants are more respected than practical workers in Confucian ethics. Therefore, Maoism in China emphasized practical workers (farmers and labors) more respected. On the other hand, Confucian ethics of Japan was accepted among samurai (warrior)'s ethics at Edo era, may have been lost in the stream of democratization after Meiji era and in the reorganization after World War II.

The questionnaire of our East Asia Value Survey included two open questions about the occupation: "What occupation do you respect most?"; "What is the occupation you yourself would like to have?" The results of these responses indicate that the three categories as "Teacher", "Medical Doctor" and "None or Don't Know" are useful criteria for the comparison among East Asian Peoples.

Key words: cross-national comparative survey, East Asia, Work Value, occupation-related open questions

キーワード: 職業観, 労働観, 国際比較

1. はじめに

我々が2002年から遂行中の「東アジア価値観国際比較調査」(これ以後「東アジア価値観調査」と呼ぶ)の調査票には、「あなたが一番尊敬する職業は何ですか(自由回答項目)」という質問がある。日本の調査デー

タは、この質問に対して有効回答票787人中15人が「職業に貴賤はない」という意味の回答をしている。一方、米国では、誰もが努力によってより高いステータスの職業に就くことができるという前提(建前?)があり、職業階層意識を形成している。社会集団のなかで共有される価値観が、このような職業意識の断片にも現われる。

これまでの職業観に関する日本の調査としては、1955年から10年ごとに全国規模のSSM(社会階層と社会移動)調査が実施されてきた。日本社会学会調査委員会(1956)により1955年に実施されたSSM調査では、全国の20歳から69歳までの男子有権者を対象としており、層別無作為抽出された4,500の標本に対して、面接調査で回答を得ている。この調査の中で、32

*兵庫教育大学教育・社会調査研究センター
(Educational and Social Survey Research Center,
Hyogo University of Teacher Education)
連絡先: 〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6 キャンパス・イノベーションセンター304号
**大学利用共同法人情報・システム研究機構 統計数理研究所
(The Institute of Statistical Mathematics)
連絡先: 〒106-8569 東京都港区南麻布4-6-7

種の職業名を5段階(「最も高い」「やや高い」「ふつう」「やや低い」「最も低い」)の階層に分類してもらい、5段階のそれぞれに高い方から低い方へ100点、75点、50点、25点、0点の得点を与えて、それらの平均点に基づいた職業ランキングを示している。例えば、この結果をまとめている Nisihira (1958) は、SSM 調査のデータについて、ILO (International Labor Office) の標準職業分類に準じて、国際比較の枠組みのなかで各職業分類の層の大きさや、父と子との間の職業移動を分析している。更に、西平 (1964) では、1964年に東京都23区の有権者から、無作為抽出した標本(回答者)に対して、98種の職業名を1955年のSSM調査と同様に5段階で分類してもらった結果についても1955年の結果と比較しながら論じている。その後も継続されているSSM調査の結果は、直井・鈴木(1977)では1975年調査について、直井・盛山編(1990)では1985年調査について述べられている。東アジアのSSM調査の適用結果と解釈との妥当性については、園田編(2005)で考察されている。他にも父と子との間の職業の世襲、性別による各職業分類の層の大きさ、職業移動の流動性、職業威信に関する研究が、特に社会学のなかで積極的に取り組まれてきた(Breiger, 1981; Duncan, 1979; Ganzeboom & Treiman, 1996; Ganzeboom, Treiman, & Ultee, 1991; Hauser & Mossel, 1985; Hout, 1984, 1988; Jencks, Perman, & Rainwater, 1988; Nakao & Treas, 1994; Perrin, 1904; Yamaguchi, 1983)。米国のように職業選択の自由が保障されているという前提があるからこそ、職業威信の研究として職業階層を認める観点を明示できる。職業選択の自由がない国や職業間の流動性が低い国では、職業階層は単に身分や地位の差別化につながるものでしかない。そのため、米国流の職業威信研究のような職業観の調査を、東アジア諸国において同様に適用するのは適当とは思えない。

我々の「東アジア価値観調査」において、東アジアの人々の職業観を解明するという課題があった。そのため、職業観の国際比較の可能性を考慮するために、職業に関わる各国の状況の違いを理解し、制約を極力緩くした自由回答形式の質問を設けることになった。

統計数理研究所の国際比較調査グループによって実施されてきた「意識の国際比較」調査の延長上に位置づけられる「東アジア価値観調査」では、日本(2002年)、中国(2002年)(北京、上海、香港)、台湾(2003年)、韓国(2003年)、シンガポール(2004年)におい

て調査が実施された(吉野, 2001, 2004)。調査票の質問項目は、「国民性七か国比較調査」(林他, 1997)で用いたものを土台としながら、東アジアの国々の国際比較可能性を検討し、質問の選定、追加、修正を行った。現在既に、日本の調査データに加え、中国(北京、上海、香港)、台湾、韓国、シンガポールの調査データの収集とデータクリーニングを終えている(吉野編, 2004a, 2004b, 2005a, 2005b, 2005c)。本論文では、最新のシンガポールの調査データを除いたものについて分析を行った結果をまとめた。また、「東アジア価値観調査」と並行して、同調査の北京と上海で利用したものと同一の調査票を用いて、2003年に杭州(中国)、昆明(中国)でも調査が実施された(鄭編, 2005)。そこで、これらの日本、中国5都市、台湾、韓国の調査データに基づいて、職業観や勤労観に焦点を当て、各国の人々の価値観の相異を論じる。

2. 勤労観とその背景

欧米におけるキリスト教の職業倫理と資本主義との関連を述べた Weber(1920)は、資本主義の定着に、プロテスタントのカルヴァン派の倫理が大きく寄与したことを論じた。暴利や利子禁止といった倫理的規定を課していたカトリックや、プロテスタントのルター派の倫理よりも、プロテスタンティズムのカルヴァン派や洗礼派の倫理の筋道に、資本主義が定着してきた理由を見てとった。カルヴァン派は、より多くの仕事を行うことは社会からの要求に貢献や献身することであり、その結果として経済的に豊かになったとしても、それは積極的に社会貢献や献身を行ったことを意味するとした。そして、このような勤労観を、カルヴァン派は「隣人愛の実践」と位置づけたと Weber は指摘した。この勤労観が、資本主義の定着へと発展してきたという。

欧米がキリスト教の倫理に大きな影響を受けているように、東アジア地域が儒教倫理から大きな影響を受けていると考える研究者も多い。儒教倫理では、農業や肉体労働といった実業的な職業よりも、文官や学者といった頭脳を使う職業の方が尊敬される傾向にあった。近代中国における毛沢東主義では、実業の尊重、男女平等観の徹底などが強調され、それまでの伝統的な価値観を変革することが試みられた。これらは、中国人を取り巻く仕事環境にも大きな影響を与えた。日本では、江戸時代に武士階層を中心に儒教精神が受入れ

られていったが、その後、Reischauer (1981) が指摘するような自由民権運動や普通選挙の確立といった明治期以降の日本における近代化の流れや、第二次大戦後の改革によって儒教精神が少なからず失われてきたと考えられている。

現在の日本人に共有される職業観や勤労観の水脈を歴史的に辿っていくと、少なくとも江戸時代初期まではたどり着くように思える。戦国時代の混乱から、江戸時代になり天下泰平の世の中へと進むなかで、日常の実生活を重んずる思想が説かれるようになった。江戸時代初頭の学問として朱子学の活躍が目覚しいが、その後に実生活の思想として、鈴木正三の禅と実生活を関連づける試み(鈴木編, 1962)、石田梅岩に始まる石門心学(柴田校注, 1971)、貝原益軒の訓え(貝原, 1938)などが生まれた。これらの思想には、神道、仏教、儒教の内容が、各々の枠組を越えた実生活の倫理として総合されていた。江戸時代に生まれた実生活の思想は、現代日本の実生活の規範にもその跡が見られる。本節の以下では、これらの実生活の思想で述べられた職業倫理を概説してみる。

鈴木正三『万民徳用』では、武士、農民、職人、商人についてそれぞれの修業のあり方が述べられている。「農人日用」では「農業則仏行なり、意得悪時は賤業也」、「職人日用」では「一切の所作、皆以世界のためとなることを以しるべし」、そして「商人日用」では「売買をせん人は、先得利の益べき心づかひを修行すべし」と述べ、職分が異なるとしても心を修めることには変わりはなく、一意専心に事業に取り組むことが諭されている(鈴木編, 1962)。

石田梅岩『齊家論』に「上より下に至り、職分は異なれども理は一なり」とある。この「一なる理」とは、職分に関わらず身を修めることであり、身を修めるために心を深く知ることを説いている。『石田先生語録』には、「職分ノ外ニ望ミ有ラバ有心ニシテ無心ノ天ニ違ヘリ。違ヘバ天命ニ背ク。」とある。士農工商の身分制度のなかで、職業選択の自由がほとんどなかった時代に、職分を天命として受入れることが諭された。身分の上下はありながら、職分を転じる不自由を天命として受け入れ、身を修めることを勧めているのである。深く心を知り、身を修めたときの理想的な心のあり方として、「仁心」「正直」「儉約」「実情」「本心」「明德」「本来ノ面目」という概念が示されている(柴田校注, 1971)。これらの実生活の思想は、職分が何であれ、各々の職分のなかで深く深く心の奥を知ることによって、

動かない心を獲得することが重要だという点では共通している。このような梅岩の学問を継承した手島堵庵が、やさしい言葉で『前訓』などを記し、講舎を組織化し、そして石門心学の伝播につとめたことによって、実生活の思想が庶民の生活に広がっていった。

3. 職業に関する自由回答の概要

今回、「東アジア価値観調査」の調査票を作成するにあたり、以下のような職業に関する二つの質問が加えられた。これらの二つの質問は、互いに自由回答項目となっている。

問 39a あなたが一番尊敬する職業は何ですか。

問 39b では、ご自身が実際につきたいと思う職業は何ですか。

1978年にNHK放送世論調査所が実施した「日本人の職業観」調査(NHK放送世論調査所編, 1979)では、回答者に選択肢カード(回答票)を見せながら「問5(回答票)のように分けた場合、どれが理想的な職業だと思いますか。あなたのお考えにいちばん近いものをお答えください。」を尋ねる質問がある。選択肢は14種の具体的な職業分類カテゴリーからなり、それ以外の回答は「この中にはない、わからない、無回答」のカテゴリーにまとめられている。この質問を参考に、新しい自由回答形式の質問として、上記の問39a、問39bを作成し、「東アジア価値観調査」調査票に加えたのであった。

問39a、bを個別に分析のためのコーディングの基準についての概要を、簡単にまとめる。

「尊敬する職業」と「つきたいと思う職業」の両質問とも、複数の職業をあげた場合は、最初にあげた職業を採択することにした。つまり、一人の回答者のあげた職業は、複数あげた場合でも一つの職業となる。そのため、各国・地域の回答頻度の総数は、回答者総数と同一になる。該当率は、各職業の回答頻度を、具体的な職業名をあげた各国・地域の回答者の総数で割った値となっている。

つぎに、問39aと問39bを個別に分析する場合のコーディング基準は、「尊敬する職業」と「つきたいと思う職業」の回答を分類するに当たり、「教師」は基本的に初等教育と中等教育の先生を指す場合とし、汎用な意味を持つ「先生」や「教師」、かつ「学校の先生」「教員」という回答は「教師」に含むことにした。この基準によると、日本においては小中高の先生が該当す

る。そのため、具体的な「大学教授」「幼稚園の先生」「保母」の回答は、明らかに高等教育、あるいは就学前教育に含まれるので「教師」のカテゴリーから除いた。より汎用な意味をもつ「教育者」の回答は、現場で活躍する初等教育や中等教育の先生という以外に教育行政に携わる人も含むので、「教師」のカテゴリーから除いた。各国において教育制度の違いはあるが、初等教育と中等教育を受ける年齢や期間に、それほど違いはない。また、「科学者」には、「科学研究者」も含み、「科学技術者」という場合は「科学者」のカテゴリーからは除いた。「科学技術者」という場合、「技術者」の意味合いが強くなり、自然法則や原理の解明に取り組むというよりも、自然法則や原理を生かしたモノづくりが重視されるので、「科学者」のカテゴリーと区別することにした。「なし」「わからない」「無回答」は、「なし・わからない」のカテゴリーにまとめた。「なし・わからない」以外の回答については、回答の具体的表現の程度に相異はあるが、総称として「具体的回答」と呼ぶことにする。

また、「尊敬する職業」と「つきたいと思う職業」とのクロス表を分析する場合は、改めてコーディング基準を編成しているが、これについては後述する。

4. 分析と考察

4.1. 問39a「あなたが一番尊敬する職業は何ですか。」の回答傾向

「尊敬する職業」(表1)の上位10位までを見ると、日本、中国5都市、台湾、韓国の調査データすべてにおいて上位2位が「医者」と「教師」によって占められている。ただし、日本と香港は、「医者」が第1位、「教師」が第2位の順位で「教師」よりも「医者」の方が尊敬される職業であることが示されており、北京、上海、昆明、杭州、台湾、韓国では、「教師」が第1位、「医者」が第2位の順位である。各国・地域の「教師」の順位だけではなく該当率についても見ると、日本3.9%、香港9.9%、台湾9.0%に比べて、中国4都市の「教師」が極めて高い該当率を示しており、北京33.0%、上海27.4%、昆明28.7%、杭州19.3%である。香港については、「医者」と「教師」の順位が逆転しており、中国の他の都市と回答傾向が異なっている。香港のその他の特徴は、「軍人」の回答が中国の他の都市に比べて著しく少ないこと、上位10位の中に「消防員」と「宗教人」が上がっていることである。特に「消防員」は

8.0%を示している。また香港は、中国の他の都市よりも「公務員」をあげる率が低い様子が伺える。ただし、全体的に各国・地域の調査データの該当率を見ると、第3位、第4位の職業において、すでに5%以下の回答しか得られていないことから、そのような低い該当率の職業ランキングを比較する意味は小さい。しかしながら、北京、上海、昆明、杭州では、低い該当率ながら「科学者」が第3位に入っていることは、注目に値する。さらに「科学者」は、香港で第5位、台湾で9位に入っている。このことは、「東アジア価値観調査」に含まれる科学観に関する他の質問(吉野編, 2004a)に見られる中国人の科学への高い信頼感と、「尊敬する職業」として「科学者」という回答を上げる結果とが緊密に結びついているようである。そこで、本調査の科学観に関する質問のなかから、各国の違いが鮮明に現れた科学技術への信頼感を尋ねた問41jの質問文と回答分布(表2)を見てみたい。

問41 [カード24]あなたは、次にあげる組織や制度、事がらをどの程度信頼しますか。「非常に信頼する」「やや信頼する」「あまり信頼しない」「全く信頼しない」のいずれかでお答え下さい。

非常に やや あまり 全く わから
信頼 信頼 信頼し 信頼 ない
する する ない しない

j. 科学技術 …………… 1 2 3 4 9

問41jで「非常に信頼する」の選択率は、北京78.4%、昆明77.0%、上海76.8%、杭州54.4%と、中国4都市において過半数を示している。香港を除く中国4都市の結果から、中国で科学への高い信頼感が形成されていることが伺える。これに続いて、香港26.2%、台湾15.8%、日本11.8%、韓国8.3%の順番に選択率が低くなっている。「非常に信頼する」と「やや信頼する」の選択率を合計すると、北京、上海、昆明では95%以上となり、最も選択率の低い日本でも70%を越える結果を示している。この結果は、東アジアの科学観を比較する際に、科学や科学技術を単純な二元論の視点から「信頼する」と「信頼しない」に分けることが適切とは言えないことを示唆しており、むしろ「信頼する」の程度をより細かく段階的に見ていくことが肝要である。

問39a「尊敬する職業」に戻って「なし・わからない」の該当率を見ると、日本は54.0%にのぼる。それに対して、北京、上海は、「なし・わからない」と回答した人が少なく、それぞれ7.3%、10.2%である。日本、北

表1. 問39a「尊敬する職業」の回答ランキング

日本				上海			
sample	787	度数	%	sample	1,053	度数	%
1	医者	78	9.9	1	教師（教師）	288	27.4
2	教師	31	3.9	2	医生（医者）	166	15.8
3	農業	22	2.8	3	科学家（科学者）	52	4.9
4	看護師	13	1.7	4	律师（弁護士）	45	4.3
5	公務員	10	1.3	5	军人（軍人）	36	3.4
6	介護職	9	1.1	6	警察	31	2.9
7	福祉関係	8	1.0	7	公務員（公務員）	27	2.6
7	スポーツ選手	8	1.0	8	工人（労働者）	21	2.0
9	医療関係	7	0.9	9	法官（裁判官）	18	1.7
10	教育者	6	0.8	10	白領（ホワイト・カラー）	11	1.0
10	弁護士	6	0.8	10	工程师（技師）	11	1.0
10	技術職	6	0.8	10	企业家（企業家）	11	1.0
欄外	科学者	3	0.4	欄外	护士（看護師）	4	0.4
	警察	3	0.4		农民（農民）	3	0.3
	なし・わからない	425	54.0		なし・わからない	107	10.2

北京				香港			
sample	1,062	度数	%	sample	1,057	度数	%
1	教師（教師）	350	33.0	1	醫生（医者）	286	27.1
2	医生（医者）	147	13.8	2	教師	105	9.9
3	科学家（科学者）	53	5.0	3	消防員	85	8.0
4	军人（軍人）	43	4.0	4	警察	34	3.2
5	律师（弁護士）	34	3.2	5	科學家（科学者）	22	2.1
6	警察	19	1.8	6	護士（看護師）	17	1.6
7	工人（労働者）	16	1.5	6	律師（弁護士）	17	1.6
8	公務員（公務員）	15	1.4	8	法官（裁判官）	16	1.5
9	法官（裁判官）	14	1.3	9	宗教人	12	1.1
10	清洁工（清掃労働者）	11	1.0	10	清潔員	10	0.9
欄外	护士（看護師）	3	0.3	欄外	軍人	3	0.3
	农民（農民）	2	0.2		農夫	1	0.1
	なし・わからない	78	7.3		なし・わからない	242	22.9

表1. 問39a「尊敬する職業」の回答ランキング(つづき)

昆明			
sample	1,018	度数	%
1	教師(教師)	292	28.7
2	医生(医者)	128	12.6
3	科学家(科学者)	44	4.3
4	军人(軍人)	33	3.2
5	警察	21	2.1
6	公务员(公務員)	16	1.6
7	律师(弁護士)	19	1.9
8	工人(労働者)	11	1.1
8	企业家(企業家)	8	0.8
10	环卫工人	7	0.7
欄外	农民(農民)	5	0.5
	护士(看護師)	2	0.2
	なし・わからない	227	22.3

杭州			
sample	911	度数	%
1	教师(教師)	176	19.3
2	医生(医者)	82	9.0
3	科学家(科学者)	34	3.7
4	军人(軍人)	23	2.5
5	公务员(公務員)	17	1.9
6	警察	16	1.8
7	律师(弁護士)	10	1.1
8	工程师(技師)	9	1.0
8	科技工作者	9	1.0
10	法官(裁判官)	7	0.8
欄外	护士(看護師)	3	0.3
	农民(農民)	1	0.1
	なし・わからない	358	39.3

台湾			
sample	732	度数	%
1	教師(教師)	66	9.0
2	醫生(医者)	52	7.1
3	義工	19	2.6
4	警察	14	1.9
5	護士(看護師)	13	1.8
6	公務員	12	1.6
7	消防員	11	1.5
7	農夫	11	1.5
9	科學家(科学者)	10	1.4
9	正當工作	10	1.4
欄外	軍人	6	0.8
	法官(裁判官)	4	0.5
	律師(弁護士)	3	0.4
	なし・わからない	256	35.0

韓国			
sample	1,006	度数	%
1	Teacher(教師)	136	13.5
2	Medical Doctor(医者)	100	9.9
3	Civil Servant(公務員)	71	7.1
4	An independent enterprise	38	3.8
5	Religionist(宗教人)	33	3.3
6	Professor(教授)	30	3.0
7	One who serves the public at large	28	2.8
8	Agriculture	22	2.2
9	Social welfare work	21	2.1
10	Judge	13	1.3
欄外	Lawyer	11	1.1
	Soldier	8	0.8
	Nurse	2	0.2
	なし・わからない	291	28.9

表 2. 問 41j 「信頼感—科学技術」の回答傾向 (%)

問 41j		2002	2002	2002	2002	2003	2003	2003	2003
Item	category	日本	北京	上海	香港	昆明	杭州	台湾	韓国
信頼感— 科学技術	1) 非常に信頼する	11.8	78.4	76.8	26.2	77.0	54.4	15.8	8.3
	2) やや信頼する	61.6	18.7	20.3	58.0	18.2	35.8	60.5	69.5
	3) あまり信頼しない	11.9	1.6	2.1	10.0	2.2	6.0	15.6	16.6
	4) 全く信頼しない	0.4	0.3	0.1	1.6	0.8	0.5	1.8	1.5
	9) わからない	14.2	0.9	0.7	4.2	1.9	3.2	6.3	4.1

京、上海ほど極端ではないが、その他の国・地域では回答者全体の 20% から 40% の範囲で「なし・わからない」と回答している。これらの結果から、「なし・わからない」の該当率は、各国・地域によって大きく異なっていることが分かる。林 (1996, 2001) は、日本では中間回答の選択率が高い傾向や極端な表現を好まない回答傾向を示しているが、「尊敬する職業」の質問において「なし・わからない」の回答が多いことは、先行研究で指摘された日本の曖昧な回答傾向と密接な関係がある可能性も考えられる。また、各国の「医者」、「教師」、「なし・わからない」の 3 カテゴリーを合計した該当率は、日本 67.8%、北京 54.1%、上海 53.3%、香港 59.9%、昆明 63.6%、杭州 67.6%、台湾 51.1%、韓国 52.4% となり、軒並み 50% 以上の回答が含まれ、日本や杭州では 70% に届くほどの回答が含まれている。つまり、これらの 3 カテゴリーで、具体的に職業をあげた回答者全体の半分から 3分の2の「尊敬する職業」は説明できることを示している。

「医者」と「教師」への該当率 (%) をそれぞれ縦軸と横軸にとり布置する (図 1) と、まず北京、上海、昆明の相互の距離が近く、よく類似していることがわかる。香港は、他の国や地域と大きく異なり、固有の傾向がみられる。さらに、日本、台湾、韓国、杭州が比較的類似した回答パターンを示している。香港を除く中国 4 都市では、「教師」が多くの人々に尊敬される職業であることが理解できる。香港は、「教師」よりも「医者」がより高い該当率であることから、「医者」の方がより多くの尊敬を集めている職業である。日本、台湾、韓国との比較から、「教師」や「医者」を尊敬するという意識が、中国ではより多くの人々に共有されていることも分かる。

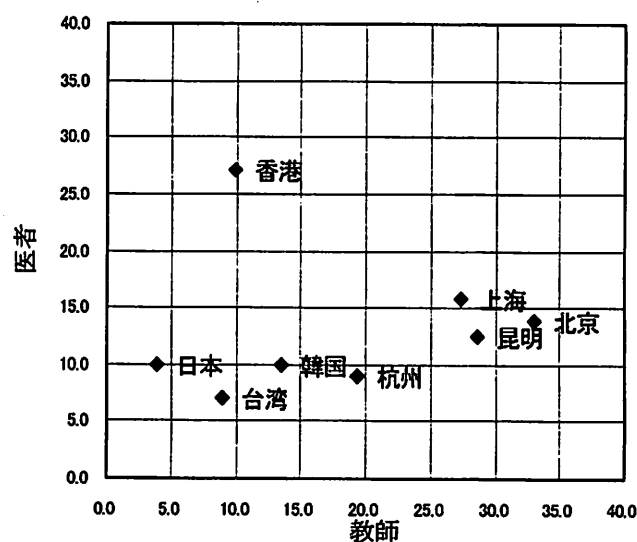


図 1. 問 39a 「尊敬する職業」の「教師」と「医者」の百分率による布置図

4.2. 問 39b「では、ご自身が実際につきたいと思う職業は何ですか。」の回答傾向

「つきたいと思う職業」についても問 39a と同様に上位 10 位までを表 3 に示す。前問では、各国・地域の上位 2 位までを「医者」と「教師」が占めたが、問 39b では、北京、上海、香港、昆明、杭州の中国 5 都市で「教師」が第 1 位、「医者」が第 2 位となり、問 39a と同様に「教師」と「医者」が上位 2 位までを占めている。日本、台湾、韓国では、「教師」は上位 2 位以内に入っているが、「医者」は順位を下げている。その代わりに、日本では「公務員」が第 1 位、台湾では「公務員」が第 2 位、韓国では「独立企業」が第 2 位に入っている。「尊敬する職業」で常に上位 2 位までに入っていた「医者」の順位は、日本と台湾では第 3 位、韓国では第 5 位となっている。

表3. 問39b「つきたいと思う職業」の回答ランキング

日本			
sample	787	度数	%
1	公務員	30	3.8
2	教師	25	3.2
3	医者	23	2.9
4	看護師	18	2.3
5	農業	13	1.7
6	保育士	12	1.5
6	技術者	12	1.5
8	介護職	8	1.0
8	サービス業	8	1.0
10	弁護士	7	0.9
10	事務職	7	0.9
10	サラリーマン	7	0.9
欄外			
	なし・わからない	383	48.7

上海			
sample	1,053	度数	%
1	教師 (教師)	151	14.3
2	医生 (医者)	135	12.8
3	公務員 (公務員)	55	5.2
4	律师 (弁護士)	40	3.8
5	老板 (商店の主人)	31	2.9
6	科学家 (科学者)	30	2.8
7	工人 (労働者)	25	2.4
8	军人 (軍人)	23	2.2
9	自由职业者	21	2.0
10	工程师 (技師)	19	1.8
欄外	警察	17	1.6
	なし・わからない	112	10.6

北京			
sample	1,062	度数	%
1	教師 (教師)	156	14.7
2	医生 (医者)	101	9.5
3	军人 (軍人)	38	3.6
4	律师 (弁護士)	36	3.4
5	科学家 (科学者)	31	2.9
6	公務員 (公務員)	29	2.7
7	警察	27	2.5
8	自由职业者	22	2.1
9	管理人員	17	1.6
10	司机 (運転手)	15	1.4
10	工人 (労働者)	15	1.4
欄外			
	なし・わからない	80	7.5

香港			
sample	1,057	度数	%
1	教師 (教師)	74	7.0
2	醫生 (医者)	67	6.3
3	警察	33	3.1
4	護士 (看護師)	26	2.5
5	社會工作者	24	2.3
6	律師 (弁護士)	21	2.0
7	商人	18	1.7
8	消防員	16	1.5
8	設計師	16	1.5
10	文職人員	15	1.4
欄外			
	なし・わからない	307	29.0

表3. 問39b「つきたいと思う職業」の回答ランキング(つづき)

昆明			
sample	1,018	度数	%
1	教師(教師)	129	12.7
2	医生(医者)	109	10.7
3	公务员(公務員)	32	3.1
4	军人(軍人)	31	3.0
5	自由职业者	29	2.8
6	警察	26	2.6
7	律师(弁護士)	21	2.1
8	科学家(科学者)	20	2.0
9	老板(商店の主人)	12	1.2
9	工人(労働者)	12	1.2
欄外			
	なし・わからない	215	21.1

台湾			
sample	732	度数	%
1	教師	58	7.9
2	公務員	25	3.4
3	醫生(医者)	22	3.0
4	家庭主婦	13	1.8
5	義工	12	1.6
5	美髪師	12	1.6
7	服務業	10	1.4
8	幼教	9	1.2
8	護士(看護師)	9	1.2
10	藝術家	8	1.1
10	農夫	8	1.1
欄外	軍人	7	1.0
	なし・わからない	213	29.1

杭州			
sample	911	度数	%
1	教師(教師)	86	9.4
2	医生(医者)	47	5.2
3	公务员(公務員)	31	3.4
4	自由职业者	23	2.5
5	老板(商店の主人)	16	1.8
6	律师(弁護士)	14	1.5
7	军人(軍人)	13	1.4
8	科学家(科学者)	12	1.3
8	警察	12	1.3
10	白领(ホワイト・カラー)	10	1.1
欄外			
	なし・わからない	356	39.1

韓国			
sample	1,006	度数	%
1	Teacher(教師)	135	13.4
2	An independent enterprise	82	8.2
3	Civil servant(公務員)	53	5.3
4	Agriculture	39	3.9
5	Medical doctor(医者)	35	3.5
6	Professor	21	2.1
7	Leader	18	1.8
8	Office work	17	1.7
9	Social welfare work	16	1.6
10	Prosecutor	14	1.4
10	Policeman	14	1.4
欄外			
	なし・わからない	194	19.3

また「つきたいと思う職業」の「なし・わからない」は、該当率の高い順番に日本 48.7%、杭州 39.1%、台湾 29.1%、香港 29.0%、昆明 21.1%、韓国 19.3%、上海 10.6%、北京 7.5% であった。ここでも日本の具体的回答が少なく、それとは反対に、北京、上海では具体的回答が多いことが確認できる。

4.3. 問 39a「尊敬する職業」と問 39b「つきたいと思う職業」の回答パターンのマクロ比較

4.3.1. コーディング後の職業と頻度の傾向分析

「教師」は、日本、中国5都市、台湾、韓国のすべてにおいて、「尊敬する職業」と「つきたいと思う職業」の両方の質問で、上位2位までに入った。「医者」は、「尊敬する職業」では、すべての国・地域で上位2位までに入ったが、「つきたいと思う職業」では、日本、台湾、韓国で順位を下げた。この結果は、尊敬される職業であることと、実際に自分が就くことができる職業(就業の難易度)であるかということが、各国・地域の事情により異なっている状況が現れたと考えることができる。更には、尊敬する職業と就きたい職業とは、必ずしも一致しない可能性もある。「尊敬する職業」の質問では、「自分の仕事」、「現在の仕事」という回答が得られたように、回答者の自尊心が反映されている場合もあるが、基本的に「尊敬する職業」の質問では回答者自身の願望を直接尋ねているわけではない。

各国・地域の「尊敬する職業」と「つきたいと思う職業」の質問へのそれぞれの回答について、質問間の対応を考慮して分析してみよう。

日本の回答を見ると、「尊敬する職業」の医者 9.9%を除き、他の職業は 4% 以下である。そのことを考慮したうえで、「尊敬する職業」と「つきたいと思う職業」の両方の質問で上位5位までに入った職業は、「医者」、「教師」、「農業」、「看護師」、「公務員」と共通している。順位は、第2位の「教師」、第4位の「看護師」は変わらず、「尊敬する職業」で第1位の「医者」、第3位の「農業」、第5位の「公務員」が、「つきたいと思う職業」では、第1位が「公務員」、第3位が「医者」、第5位が「農業」となった。「尊敬する職業」から「つきたいと思う職業」への該当率の変化を見ると、「医者」、「教師」、「農業」は減少しており、その反対に、「看護師」、「公務員」は増加している。

北京の「尊敬する職業」から「つきたいと思う職業」への順位の変化では、「教師」は第1位で変化なし、「医者」も第2位で変化なし、「科学者」は第3位から第5

位へ、「軍人」は第4位から第3位へ、「弁護士」は第5位から第4位に変化している。「尊敬する職業」から「つきたいと思う職業」への該当率の変化を見ると、「弁護士」の該当率は増加し、その他の「教師」、「医者」、「科学者」、「軍人」の該当率は減少している。北京の上位5位までの職業は、順位は異なるが両方の質問とも同様の職業が上がっている。このことは、北京において「尊敬する職業」と「つきたいと思う職業」の上位にあがる職業の関連性は、比較的安定した傾向があることを示しているといえよう。

上海における「尊敬する職業」と「つきたいと思う職業」の具体的回答の順位では、「教師」が第1位、「医者」が第2位、「弁護士」が第4位と変化がない。変化がみられる上位の職業は、「科学者」が第3位から第6位へ順位を下げ、その反対に、「公務員」が第7位から第3位へと順位をあげているのが特徴的な傾向である。特に、日本において「つきたいと思う職業」に「公務員」と回答した人が多かったが、上海でも同様に「つきたいと思う職業」の「公務員」の該当率が増加していることがわかる。順位の変化がなかった「教師」、「医者」、「弁護士」、順位の変化のあった「科学者」は、「尊敬する職業」から「つきたいと思う職業」への該当率の変化において、すべて減少している。

香港の「尊敬する職業」と「つきたいと思う職業」の具体的回答の順位は、「医者」が第1位から第2位へ、「教師」が第2位から第1位へと順位が入れ替わっている。さらに香港の特徴は、「消防員」が第3位から第8位へと順位を下げ、「警察」が第4位から第3位へと順位をあげている。さらに取り上げた「医者」、「教師」、「消防員」の該当率の変化は、軒並み減少している。「警察」の該当率は、ほとんど変化がみられない。「尊敬する職業」と「つきたいと思う職業」の順位は、「医者」「教師」「警察」が上位で比較的安定した傾向を示している。

昆明の「尊敬する職業」から「つきたいと思う職業」への具体的回答の順位の変化では、第1位は「教師」、第2位は「医者」で変化なし、「科学者」が第3位から第8位へ、「公務員」が第6位から第3位へと変化している。「尊敬する職業」から「つきたいと思う職業」への該当率の変化は、「教師」、「医者」、「科学者」では減少しており、それとは逆に、「公務員」の該当率は増加している。

杭州の「尊敬する職業」から「つきたいと思う職業」への具体的回答における順位の変化では、第1位の「教

師、第2位の「医者」には変化がなく、上位2位までは安定した結果を得られた。「科学者」が第3位から第8位へと順位を下げ、その反対に、「公務員」が第5位から第3位へと順位を上げている。これらの順位の変化は、昆明の変化によく似ている。「尊敬する職業」から「つきたいと思う職業」への該当率の変化は、「教師」、「医者」、「科学者」の該当率は減少しており、「公務員」の該当率は増加している。

台湾の「尊敬する職業」から「つきたいと思う職業」への具体的回答の順位の変化は、「教師」は第1位で変化がなく、「医者」が第2位から第3位に順位を下げ、「公務員」が第6位から第2位へと順位を上げている。該当率の変化では、「教師」、「医者」は減少しており、「公務員」の該当率が増加している。さらにここでも、「つきたいと思う職業」での公務員志向の高さが現れている。

韓国では、「尊敬する職業」から「つきたいと思う職業」への順位の変化は、「教師」は両方の質問で第1位、「医者」は第2位から第5位へと順位を下げ、「公務員」は第3位で変化がない。「独立企業」が第4位から第2位へと順位を上げている。「尊敬する職業」から「つきたいと思う職業」への該当率の変化も見てみると、「教師」、「医者」、「公務員」で該当率が減少しており、その反対に「独立企業」の該当率は増加している。韓国の特徴として、「つきたいと思う職業」における独立企業志向の高さが伺える。

「尊敬する職業」と「つきたいと思う職業」について、国・地域別で具体的回答の職業を見てきたが、上位にランクされた職業は、両方の質問で共通する職業があがっているといえよう。「つきたいと思う職業」の結果と比べて「尊敬する職業」の結果は、最上位の該当率が高く、特定の職業に尊敬が集まる傾向がみられる。この傾向は、特に中国5都市において顕著に現れている。

次に、「なし・わからない」の回答傾向について見ていきたい。「尊敬する職業」では、韓国の「なし・わからない」は8つの国・地域中の4番目に高い該当率を示していたが、「つきたいと思う職業」では6番目に高い該当率に順位を下げた。それに伴い、「尊敬する職業」の該当率において5位の香港、6位の昆明が、「つきたいと思う職業」の該当率では韓国を抜いて一つ順位をあげ、4位に香港、5位に昆明が入った。他の国は、「尊敬する職業」と「つきたいと思う職業」で該当率に基づいた各国の順位に変化はなかった。その他の国は、高い該当率の順で、1位が日本、2位が杭州、3位が台湾、

7位が上海、8位が北京である。これらの結果から、韓国では、「つきたいと思う職業」よりも「尊敬する職業」の方が、具体的な回答をあげやすい様子が伺える。

国別で「尊敬する職業」の「なし・わからない」の該当率から「つきたいと思う職業」の「なし・わからない」の該当率を引いた差を見てみると、日本-5.3%、北京+0.2%、上海+0.4%、香港+6.1%、昆明-1.2%、杭州-0.2%、台湾-5.9%、韓国-9.6%となる。これらの該当率の差から、北京、上海、昆明、杭州では、「尊敬する職業」と「つきたいと思う職業」の「なし・わからない」の該当率の変化はほとんどない。日本、香港、台湾、韓国は、無視できない該当率の差があり、香港は「尊敬する職業」よりも「つきたいと思う職業」の「なし・わからない」の該当率が高く、その反対に、日本、台湾、韓国は、「尊敬する職業」よりも「つきたいと思う職業」の「なし・わからない」の該当率が低いという違いが現れている。二つの質問における該当率の順位と差の両方の視点から総合すると、該当率の差では、変化の増減が極端に小さい中国4都市と、増減が大きい日本、香港、台湾、韓国に分けられる。しかし、該当率の順位では、該当率の差の影響は韓国の順位の変化のみに反映されているようにしか見え、順位の比較的頑健な安定性が示された。

二つの質問への回答傾向のまとめとして、「具体的回答」と「なし・わからない」を見てみると、日本は問39a、b共に約半数の回答者が「なし・わからない」と回答した。それに対して、「なし・わからない」の回答が少ないのは、北京、上海で、特に北京は「なし・わからない」の回答が、10%以下である。これらの結果の理由としては、日本の回答者の年齢分布が中国に比べて高齢であることが考えられるが、該当率の差の大きさを考えるとそれだけが理由とはいえない。

4.3.2. 「尊敬する職業」と「つきたいと思う職業」との各回答者の対応の一致・非一致

ここでは各回答者が「尊敬する職業」と「つきたいと思う職業」の両方の質問について同様の回答をしたかどうかを分析する(表4)。両方の質問に同様の回答をした場合を「一致」、異なる回答をした場合を「非一致」と呼ぶことにする。「一致」の回答は、全体の結果だけではなく、さらに「具体的回答」と「なし・わからない」に2分類した結果も示す。ただし、この「一致」における「なし・わからない」は、問39aと問39bの両方の回答が4.3.1と4.3.3の「なし・わからない」に

表4. 「一致」と「非一致」の該当頻度

	一致			非一致
	全体	具体的回答	なし・わからない	
日本	350 (44.5%)	70 (8.9%)	280 (35.6%)	437 (55.5%)
北京	359 (33.8%)	324 (30.5%)	35 (3.3%)	703 (66.2%)
上海	431 (40.9%)	380 (36.1%)	51 (4.8%)	622 (59.1%)
香港	279 (26.4%)	149 (14.1%)	130 (12.3%)	778 (73.6%)
昆明	402 (39.5%)	276 (27.1%)	126 (12.4%)	616 (60.5%)
杭州	414 (45.4%)	165 (18.1%)	249 (27.3%)	497 (54.6%)
台湾	251 (34.3%)	113 (15.4%)	138 (18.9%)	481 (65.7%)
韓国	364 (36.2%)	239 (23.8%)	125 (12.4%)	642 (63.8%)

該当する場合でも、内容が一致していないときは「非一致」として扱ったので、必ずしも4.3.1と4.3.3の頻度と同じではない。

「一致」の全体の該当率が、最も高いのは杭州45.4%であり、反対に最も低いのは香港26.4%である。「非一致」の該当率では、香港が最も高い73.6%を示しており、反対に「非一致」の該当率が最も低いのは杭州54.6%である。

ところで、「一致」と「非一致」との各国・地域の比較では、日本の「一致」の該当率が一見高くみえる。しかしながら、日本は「なし・わからない」の該当率が高く、「一致」の具体的回答は、各国・地域のなかで最低の該当率となっている。香港の該当率は、「一致」と「非一致」との比較においても、さらに「一致」の具体的回答をみても、低い傾向を示している。それに対して、「一致」の具体的回答において該当率が高いのは上海で、「尊敬する職業」と「つきたいと思う職業」との間に強い関連性があることが分かる。「一致」の全体の該当率と、「一致」の具体的回答の該当率とを比較すると、具体的回答の該当率の方が、バラツキが見られる。「一致」の具体的回答における該当率は、日本が最も低く8.9%、上海が最も高く36.1%となり、程度の相違は

大きい。

4.3.3. クロス表による傾向分析

二つの質問について回答傾向の対応を分析するにあたり、問39a「尊敬する職業」と問39b「つきたいと思う職業」を個別に分析した結果を踏まえて、再コーディングを行った。再コーディングの内容は、前述した部分で区別した「教師」と「教育者」を、「教育者」の該当率が極めて低いことから「教師・教育者」の категорияにまとめた。具体的回答に含まれ、かつ「医者」と「教師・教育者」に該当しない回答は「他(その他)」にまとめた。そこで、「医者」、「教師・教育者」、「他(その他)」、「DK/NA(なし・わからない)」の4カテゴリーへの分類から、「尊敬する職業」と「つきたいと思う職業」によるクロス表(表5)を分析する。

日本のひとつの特徴は、他の国・地域に比べて「なし・わからない」の該当率が高いことであった。さらにクロス表からこの特徴を分析すると、「つきたいと思う職業」の「なし・わからない」の該当率が、「尊敬する職業」の54.0%よりも低い48.7%であり、「つきたいと思う職業」は「尊敬する職業」よりも具体的回答が多く得られた。順序効果の影響を検討することも含めて、今後、実験的調査による捕捉が必要ではあるが、現段階では日本の「つきたいと思う職業」の該当率が「尊敬する職業」の該当率よりも高い結果を示したことを確認した。また、日本では「尊敬する職業」と「つきたいと思う職業」の両方の質問に対して「なし・わからない」の回答をした人は36.7%、両方の質問へ具体的回答をした人は34.1%となり、「なし・わからない」の方が具体的回答を上回った。日本では、「尊敬する職業」で具体的回答をした人は、「つきたいと思う職業」でも具体的回答をする傾向が高く、「尊敬する職業」で「なし・わからない」の回答をした人は、「つきたいと思う職業」でも「なし・わからない」を回答する傾向が見られた。「尊敬する職業」で「なし・わからない」、「つきたいと思う職業」で具体的回答をした人は日本の回答者全体の17.3%にあたり、「尊敬する職業」で具体的回答、「つきたいと思う職業」で「なし・わからない」を回答した人は日本の回答者全体の11.9%となり、「尊敬する職業」で「なし・わからない」、「つきたいと思う職業」で具体的回答の組み合わせの方が若干高い該当率を示した。4カテゴリーの対応では、「つきたいと思う職業」に「医者」と回答した人は、「尊敬する職業」でも「医者」と回答している傾向が見られるが、そ

表5. 問39a「尊敬する職業」と問39b「つきたいと思う職業」とのクロス表

日本		つきたいと思う職業				
		医	教	他	DK/NA	合計
尊敬する職業	医者	9 (1.1%)	11 (1.4%)	38 (4.8%)	20 (2.5%)	78 (9.9%)
	教師 教育者	2 (0.3%)	9 (1.1%)	14 (1.8%)	14 (1.8%)	39 (5.0%)
	その他	5 (0.6%)	18 (2.3%)	162 (20.6%)	60 (7.6%)	245 (31.1%)
	DK/NA	7 (0.9%)	8 (1.0%)	121 (15.4%)	289 (36.7%)	425 (54.0%)
	合計	23 (2.9%)	46 (5.8%)	335 (42.6%)	383 (48.7%)	787 (100.0%)

北京		つきたいと思う職業				
		医	教	他	DK/NA	合計
尊敬する職業	医者	55 (5.2%)	13 (1.2%)	71 (6.7%)	8 (0.8%)	147 (13.8%)
	教師 教育者	26 (2.4%)	123 (11.6%)	191 (18.0%)	15 (1.4%)	355 (33.4%)
	その他	18 (1.7%)	30 (2.8%)	413 (38.9%)	21 (2.0%)	482 (45.4%)
	DK/NA	2 (0.2%)	3 (0.3%)	37 (3.5%)	36 (3.4%)	78 (7.3%)
	合計	101 (9.5%)	169 (15.9%)	712 (67.0%)	80 (7.5%)	1,062 (100.0%)

上海		つきたいと思う職業				
		医	教	他	DK/NA	合計
尊敬する職業	医者	81 (7.7%)	18 (1.7%)	60 (5.7%)	7 (0.7%)	166 (15.8%)
	教師 教育者	21 (2.0%)	116 (11.0%)	133 (12.6%)	27 (2.6%)	297 (28.2%)
	その他	31 (2.9%)	23 (2.2%)	403 (38.3%)	26 (2.5%)	483 (45.9%)
	DK/NA	2 (0.2%)	1 (0.1%)	52 (4.9%)	52 (4.9%)	107 (10.2%)
	合計	135 (12.8%)	158 (15.0%)	648 (61.5%)	112 (10.6%)	1,053 (100.0%)

香港		つきたいと思う職業				
		医	教	他	DK/NA	合計
尊敬する職業	医者	43 (4.1%)	23 (2.2%)	159 (15.0%)	61 (5.8%)	286 (27.1%)
	教師 教育者	2 (0.2%)	35 (3.3%)	53 (5.0%)	19 (1.8%)	109 (10.3%)
	その他	18 (1.7%)	23 (2.2%)	290 (27.4%)	89 (8.4%)	420 (39.7%)
	DK/NA	4 (0.4%)	9 (0.9%)	91 (8.6%)	138 (13.1%)	242 (22.9%)
	合計	67 (6.3%)	90 (8.5%)	593 (56.1%)	307 (29.0%)	1,057 (100.0%)

昆明		つきたいと思う職業				
		医	教	他	DK/NA	合計
尊敬する職業	医者	54 (5.3%)	11 (1.1%)	50 (4.9%)	13 (1.3%)	128 (12.6%)
	教師 教育者	27 (2.7%)	104 (10.2%)	132 (13.0%)	36 (3.5%)	299 (29.4%)
	その他	21 (2.1%)	22 (2.2%)	284 (27.9%)	37 (3.6%)	364 (35.8%)
	DK/NA	7 (0.7%)	8 (0.8%)	83 (8.2%)	129 (12.7%)	227 (22.3%)
	合計	109 (10.7%)	145 (14.2%)	549 (53.9%)	215 (21.1%)	1,018 (100.0%)

杭州		つきたいと思う職業				
		医	教	他	DK/NA	合計
尊敬する職業	医者	30 (3.3%)	7 (0.8%)	33 (3.6%)	12 (1.3%)	82 (9.0%)
	教師 教育者	7 (0.8%)	66 (7.2%)	78 (8.6%)	31 (3.4%)	182 (20.0%)
	その他	8 (0.9%)	12 (1.3%)	205 (22.5%)	64 (7.0%)	289 (31.7%)
	DK/NA	2 (0.2%)	7 (0.8%)	100 (11.0%)	249 (27.3%)	358 (39.3%)
	合計	47 (5.2%)	92 (10.1%)	416 (45.7%)	356 (39.1%)	911 (100.0%)

台湾		つきたいと思う職業				
		医	教	他	DK/NA	合計
尊敬する職業	医者	10 (1.4%)	7 (1.0%)	26 (3.6%)	9 (1.2%)	52 (7.1%)
	教師 教育者	— (—)	33 (4.5%)	36 (4.9%)	11 (1.5%)	80 (10.9%)
	その他	8 (1.1%)	26 (3.6%)	255 (34.8%)	55 (7.5%)	344 (47.0%)
	DK/NA	4 (0.5%)	12 (1.6%)	102 (13.9%)	138 (18.9%)	256 (35.0%)
	合計	22 (3.0%)	78 (10.7%)	419 (57.2%)	213 (29.1%)	732 (100.0%)

韓国		つきたいと思う職業				
		医	教	他	DK/NA	合計
尊敬する職業	医者	18 (1.8%)	23 (2.3%)	48 (4.8%)	11 (1.1%)	100 (9.9%)
	教師 教育者	3 (0.3%)	78 (7.8%)	77 (7.7%)	12 (1.2%)	170 (16.9%)
	その他	10 (1.0%)	32 (3.2%)	359 (35.7%)	44 (4.4%)	445 (44.2%)
	DK/NA	4 (0.4%)	27 (2.7%)	133 (13.2%)	127 (12.6%)	291 (28.9%)
	合計	35 (3.5%)	160 (15.9%)	617 (61.3%)	194 (19.3%)	1,006 (100.0%)

の反対の「尊敬する職業」に「医者」と回答した人が、「つきたいと思う職業」でも「医者」と回答した場合は、該当率が大きく低下した。それに対して、「尊敬する職業」と「つきたいと思う職業」の「教師・教育者」への該当率は、「医者」とは逆の傾向を示している。この結果は、日本では「教師・教育者」よりも「医者」の方が尊敬される傾向が示されたが、実際に就業すると「教師・教育者」になるよりも「医者」になる方が遥かに難しい社会環境があるといえよう。

つぎに日本と同様に、中国5都市（北京、上海、香港、昆明、杭州）、台湾、韓国における「尊敬する職業」と「つきたいと思う職業」のクロス表（表5）の該当率を比較したい。

北京は、両方の質問への具体的回答をした人が88.5%、「なし・わからない」と回答した人が3.4%であった。以下同様に両方の質問への回答傾向について、上海は、具体的回答84.1%、「なし・わからない」4.9%。香港は、具体的回答61.1%、「なし・わからない」13.1%。昆明は、具体的回答69.3%、「なし・わからない」12.7%。杭州では、具体的回答49.0%、「なし・わからない」27.3%。台湾は、具体的回答54.8%、「なし・わからない」18.9%。韓国は、具体的回答64.4%、「なし・わからない」12.6%であった。これらの結果から、両方の質問に対して具体的回答をした人は、北京と上海で極めて高い該当率を示したことが確認できる。それとは反対に、日本以外で両方の質問への具体的回答が低い該当率であったのは杭州である。ただし、杭州の該当率を見ると、日本よりも具体的回答の該当率は明らかに高く、日本と杭州との具体的回答の該当率の差では14.9%、「なし・わからない」の該当率の差では9.4%になる。

日本以外の各国・地域のクロス表を、もう少し詳細に見てみたい。

北京は、両方の質問に具体的回答をする人が圧倒的に多いことを踏まえたうえで、他の回答傾向を見ると、クロス表のその他の該当率は、軒並み回答者全体の5%を下回る結果となっている。上海も北京と同様に、両方の質問に具体的回答をする人が極めて多く、クロス表のその他の該当率を見ると、北京よりは若干高いが、それでもすべて6%を下回る結果である。北京と上海は、両方の質問に「なし・わからない」と回答した人が、クロス表の組み合わせで最低の該当率となり、北京3.4%、上海4.9%を示した。

香港は、「尊敬する職業」で具体的回答、「つきたい

と思う職業」で「なし・わからない」と回答した人は回答者全体の16.0%、「尊敬する職業」で「なし・わからない」、「つきたいと思う職業」で具体的回答をした人は回答者全体の9.8%であり、「つきたいと思う職業」に比べて「尊敬する職業」の方が具体的回答をより多く得られた。この結果から、香港では、「つきたいと思う職業」よりも「尊敬する職業」の方が、具体的回答をあげやすいことが考えられる。

昆明は、北京や上海に続いて両方の質問に具体的回答をする人が、69.3%を示した。また、「尊敬する職業」で「なし・わからない」と回答し、「つきたいと思う職業」で具体的回答をした人は8.4%、その逆の組み合わせが9.6%となり、この違いは決して大きくはない。

杭州は、日本に次いで両方の質問に「なし・わからない」という回答が多かったことは前述したが、「尊敬する職業」で具体的回答をした人が、「つきたいと思う職業」で「なし・わからない」を回答した組み合わせは回答者全体の11.7%、その逆の組み合わせは回答者全体の12.0%となっており、二つの組み合わせの該当率に差があるとはいえない。

台湾において、「尊敬する職業」で具体的回答した人が、「つきたいと思う職業」では「なし・わからない」に回答した組み合わせは回答者全体の10.2%、その逆の「尊敬する職業」が「なし・わからない」、「つきたいと思う職業」が具体的回答の組み合わせは16.1%であり、後者の組み合わせが若干高い該当率を示した。そのため、台湾では「尊敬する職業」よりも「つきたいと思う職業」の方が、具体的回答をしやすことが考えられる。この回答傾向は、該当率は異なるが、日本の回答傾向と類似した特徴を示している。

韓国では、「尊敬する職業」で具体的回答、「つきたいと思う職業」で「なし・わからない」の回答の組み合わせは、回答者全体の6.7%である。その逆の「尊敬する職業」で「なし・わからない」、「つきたいと思う職業」で具体的回答の組み合わせは、回答者全体の16.3%である。この二つの該当率の差は9.6%であり、本研究の8つの国・地域のなかで最も差が大きい。このデータの特徴は、「尊敬する職業」で「なし・わからない」と回答しながら、「つきたいと思う職業」では具体的回答をした人が多い傾向として現れている。両方の質問への回答傾向が、圧倒的に具体的回答に偏っていた北京と上海では同様の傾向がみられていたが、この場合は「なし・わからない」が、両方の質問において極端に低い該当率を示していた。韓国の場合は、「尊

敬する職業」で「なし・わからない」、「つきたいと思う職業」で具体的回答という組み合わせは、回答者全体の16.3%であるので、極端に低い該当率であるとはいえない。それにも関わらず、このような結果が得られたことは、「尊敬する職業」は具体的に答え難いけれども、「つきたいと思う職業」は具体的にあげられるという意識が比較的多くの韓国人に形成されていることが考えられる。

クロス表の回答傾向を総合的に見ると、日本以外の国では、明らかに具体的回答の該当率が「なし・わからない」の該当率を上回る結果であった。積極的に具体的回答をするという集団意識は、日本と比較して中国、台湾、韓国においてより強く形成されていると考えられ、特に中国の北京と上海において具体的回答を得られた結果が鮮明に示された。これとは反対に、日本の具体的回答が低い該当率を示した要因については、今後十分な検証が必要であるが、先行研究で指摘されている日本人の中間回答を好む傾向や、あいまいな表現を好む傾向が、問39aや問39bの具体的回答を避ける傾向にも現れていることが考えられる。

また、「尊敬する職業」で具体的回答をした人が、「つきたいと思う職業」でも具体的回答をする傾向、その反対に「尊敬する職業」で「なし・わからない」と回答した人が、「つきたいと思う職業」でも「なし・わからない」と回答することが多い傾向は、日本の特徴に見られたが、香港、昆明、杭州、台湾においても同様の傾向が現れている。

5. まとめに代えて

一見同じ職業のように思えながらも、各国でそれぞれの職業の社会的（主観的）位置づけやイメージが異なることも少なくない。初期のSSM調査の分析では、特定の職業分類基準（ILOの標準職業分類）をあらゆる国に当てはめて、同一の基準で職業分類を行い、国際比較するという強引な分析方法もあった（Nisihira, 1958）。このような職業階層の国際比較は、社会環境や職業イメージが比較的類似する国の間においてのみ妥当ではあろうが、文化や社会状況の大きく異なる国々に当てはめるには、多くの課題があろう。

1955年、1964年のSSM調査の結果から、西平（1964）が、「他の調査と比較するとき、どんな職業を組み合わせるかによって、スコアが変わってくるということについての警告ともいえる。」と指摘しているよ

うに、調査者が職業名を明示する場合、職業名のセットの組み合わせによる得点への影響（効果）が現れる可能性を含んでいる。このような影響も考慮にいれながら本研究における日本調査の質問別の結果と対照してみると、SSM調査において「大学教授（大学の先生）」は、「医師（医者）」の順位よりも上位であるが、「東アジア価値観調査」に基づく本研究で「教師」に括った初等教育の先生に当たる「小学校の教諭（小学校の先生）」が「医師（医者）」よりも下位である関係は、「尊敬する職業」の順位と類似している。本調査研究の「尊敬する職業」で第3位であった「農業」に対応する「自作農」、「小作農」は、SSM調査の職業ランキングでは、半分より下位に位置づけられており、「小作農」については下位10位以内に入る結果であった。単純に本調査の自由回答の結果と、SSM調査の職業ランキングとを比較することはできないが、データ収集の方法が異なれば、結果も異なることを示唆している。

SSM調査などの先行研究を踏まえたとうえで、今回新たに「東アジア価値観調査」で「尊敬する職業」と「つきたいと思う職業」の質問を加えたのは、単にこれらの質問への回答について個別に分析することだけが意図されたわけではない。SSM調査のように、明示された職業名について段階が設定された分類課題を行い、得点を与える方法は、調査主体が職業名を明示しない自由回答の方法に比べて一見比較可能性を容易にするかに思える。しかし、この方法による尺度構成に課された回答者の回答プロセスにおいて想定される制約は厳しく、現実的ではなく、職業を単純な一次元の物差で評価することにも問題が残る。自由回答は、そのような制約を想定せず、回答の多様性により集計や比較の難しさは生まれるが、回答者の意見をより直接的に回答に反映できるという利点がある。そして、先入観を持つことなく、調査対象の職業観についてデータを収集したい場合に、回答者自身の言葉で回答を得ることが最初の段階では必要である。この段階の方法は、調査主体が回答者に厳しい制約条件を与えるトップダウン型の調査項目よりも、回答者自身の言葉を調査から収集し、データに基づいて回答を整理するボトムアップ型の自由回答の調査項目が適している。

尺度水準（Stevens, 1946）の視点からデータの性質について考察すると、SSM調査の評価の5段階に与えている得点の考え方は、データを間隔尺度水準で扱っていることを意味している。それに対して、自由回答形式はデータを名義尺度水準で扱うことになる。この

後の段階で、両調査とも職業ランキングを示しているが、尺度水準が異なる二つの順位は、同一の意味を持ち得ない。では、評価の5段階に得点を与える扱い方が、本当に間隔尺度を保証するといえるであろうか。このようなデータは、本当は個人差も、心理量の曖昧さの幅も含んでいる。そこで、SSM 調査の結果をどう見るかという点、少なくとも同一の手続きの得点と順位について比較した場合は意味を持つといえよう。このような理由から、SSM 調査に代表される先行研究との比較は、現時点では十分に行えてはいない。大きく異なるデータ収集の方法を用いた複数の結果を、解釈の段階でのみ比較することに躊躇いがあるからである。慎重すぎる態度であるかもしれないが、調査計画の段階から他の調査方法との比較を念頭に入れていない場合、最終的な結果の相違を生じさせている可能性を多様に拡大させてしまうように思える。例えば、要因の特定ができないことによって、データ収集の方法に内包される制約条件によるデータへの影響による差異と、集団的意識や最頻的意識の本来の差異とが判別しにくくなるという問題点を指摘できよう。調査計画の段階から比較を念頭に置くということは、最終的に結果の相違を断定するときに要因の特定や限定をするためである。

また、調査における回答者の回答は、意識や尺度のどの位置やどの水準で扱われると考えるのであろうか。本論文では、回答者自身の言葉による表象という水準で、比較可能性を検討している。ここでの表象の取り扱い、本音か建前かを問題とする段階ではなく、その前段階にあり、回答者が使った言葉をそのまま記述し、その記述を出来るだけ加工せずにまとめることである。そのまとめたものを示したのが、今回の結果である。これらの示された言葉がもつイメージや意味の解明は、今後の課題に位置づけられるであろう。

今回、東アジアにおける人々の価値観一般を比較する多数の項目の中での限られた項目数で、職業の国際比較の可能性を検討しなければならないという制限の下で、自由回答形式を選択した。その調査結果から、「尊敬する職業」と「つきたいと思う職業」の両方の質問において、「教師」、「医者」、「なし・わからない」が各国で共通してある程度高い該当率を示したことから、日本、中国、台湾、韓国における国際比較の可能性として、まずこれらの回答傾向を分析すべきことが理解できた。今回示された「教師」、「医者」、「なし・わからない」というカテゴリーを見るため、同様のボトム

アップ型の調査項目を継続調査するのほひとつの考え方であるが、「教師」をSSM 調査の「大学教員」、「高等学校教員」、「中学校教員」、「小学校教員」、「幼稚園教員」のようにトップダウン型の調査項目に反映させて国際比較に用いることも考えられる。ボトムアップ型の結果があるから、トップダウン型へ取り込んだ際に、SSM 調査のように膨大な職業についてひとつずつ評価してもらわなければならない。これによって、職業観だけではなく他の質問項目も多く取り入れたい調査では、国際比較のモノサシとなる質問項目を調査票のなかで効果的に用いることができる。

また、自由回答のため、回答の多様性が大きく、その他の職業カテゴリーについて詳細な国際比較が可能といえるほど共通の職業はあがってこなかった。ただし、特定の国に限定して職業観を調査する場合は、低い該当率の職業の結果も参考にはなると思われる。今後の研究の方向は、極めて低い該当率に基づいて国際比較の可能性を探索するよりは、ある程度高い該当率を得られたカテゴリーと他の質問項目との関連性において国際比較の可能性を探索する方向へと発展させていきたい。

謝 辞

本論文の原稿に対して、首都大学東京の中尾啓子先生(社会学)から貴重なコメントとアドバイスをいただきました。深く感謝いたします。

参 考 文 献

- Breiger, R.L. (1981). The Social Class Structure of Occupational Mobility. *American Journal of Sociology*, 87(3), 578-611.
- Duncan, O.D. (1979). How Destination Depends on Origin in the Occupational Mobility Table. *American Journal of Sociology*, 84(4), 793-803.
- Ganzeboom, H.B.G., Treiman, D.J. & Ultee, W.C. (1991). Comparative Intergenerational Stratification Research: Three Generations and Beyond. *Annual Review of Sociology*, 17, 277-302.
- Ganzeboom, H.B.G. & Treiman, D.J. (1996). Internationally Comparable Measures of Occupational Status for the 1988 International Standard Classification of Occupations. *Social Science Research*, 25, 201-239.
- Hauser, R.M. & Mossel, P.A. (1985). Fraternal

- Resemblance in Educational Attainment and Occupational Status. *American Journal of Sociology*, 91(3), 650-673.
- 林知己夫 (2000). これからの国民性研究—人間研究の立場と地域研究・国際比較研究から計量的文明論の構築へ—. *統計数理*, 48 (1), 33-66.
- 林知己夫 (2001). *データの科学*. 朝倉書店.
- 林知己夫編 (2002). *社会調査ハンドブック*. 朝倉書店.
- 林知己夫, 鈴木達三, 吉野諒三, 三宅一郎, 佐々木正道, 村上征勝, 林 文, 釜野さおり (1998). *国民性7か国比較*. 出光書店.
- Hout, M. (1984). Status, Autonomy, and Training in Occupational Mobility. *American Journal of Sociology*, 89 (6), 1379-1409.
- Hout, M. (1988). More Universalism, Less Structural Mobility: The American Occupational Structure in the 1980s. *American Journal of Sociology*, 93 (6), 1358-1400.
- Jencks, C., Perman, L. & Rainwater, L. (1988). What Is a Good Job? A New Measure of Labor-Market Success. *American Journal of Sociology*, 93 (6), 1322-1357.
- 貝原益軒 (1938). *大和俗訓*. 岩波文庫. 岩波書店.
- 三好美浩・吉野諒三 (2003). 自由回答に見る職業意識の分析. *日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集*, 252-253.
- 三好美浩 (2004). 「職人かたぎ」—日本人の仕事(勤労)観. *学際*, 12, 46-53.
- Nakao, K. & Treas, J. (1994). Updating Occupational Prestige and Socioeconomic Scores: How the New Measures Measure Up. *Sociological Methodology*, 24, 1-72.
- 直井 優・鈴木達三 (1977). 職業の社会的評価の分析—職業威信スコアの検討. *現代社会学*, 4(2), 115-156.
- 直井 優・盛山和夫編 (1990). *現代社会の階層構造① 社会階層の構造と過程*. 東京大学出版会.
- NHK放送世論調査所編 (1979). *日本人の職業観*. 日本放送出版協会.
- 日本社会学会調査委員会 (1956). わが国における社会的移動. *社会学評論*, 25, 2-60.
- Nisihira, S. (1958). Cross-National Comparative Study on Social Stratification and Social Mobility. *Annals of the Institute of Statistical Mathematics*, 8 (3), 181-191.
- 西平重喜 (1964). 成年の常識および職業の社会的評価. *統計数理研究所研究リポート12*, 統計数理研究所.
- Perrin, E. (1904). On the Contingency between Occupation in the Case of Fathers and Sons. *Biometrika*, 3, 467-469.
- Reischauer, E.O. (1981). *JAPAN: The Story of a Nation*.
- 國弘正雄訳 (2001). *ライシャワーの日本史*. 講談社学術文庫, 講談社.
- 柴田実校注 (1971). *石門心学*. 日本思想体系42, 岩波書店.
- 園田茂人編著 (2005). *東アジアの階層比較*. 中央大学社会科学研究所研究叢書15, 中央大学出版.
- Stevens, S.S. (1946). On the theory of scales of measurement. *Science*, 103, 677-680.
- 鈴木寸鉄編 (1962). *鈴木正三道人全集*. 山喜房仏書林.
- 鄭 躍軍編 (2005). *日本・中国の国民性比較のための基礎研究—中国杭州市と昆明市における意識調査—*. 総合地球環境学研究所研究リポート01, 総合地球環境学研究所.
- Yamaguchi, K. (1983). The Structure of Inter-generational Occupational Mobility: Generality and Specificity in Resources, Channels, and Barriers. *American Journal of Sociology*, 88 (4), 718-745.
- 吉野諒三 (2001). 心を測る—個と集団の意識の科学—. 朝倉書店.
- 吉野諒三 (2004). 「国民性」の調査—計量的文明論の確立に向けて—. *学際*, 12, 6-12.
- 吉野諒三編 (2004a). *東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—2002年日本調査報告書*. 統計数理研究所研究リポート91, 統計数理研究所.
- 吉野諒三編 (2004b). *東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—2002年度中国[北京・上海・香港]調査報告書*. 統計数理研究所.
- 吉野諒三編 (2005a). *東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—2003年韓国調査報告書*. 統計数理研究所.
- 吉野諒三編 (2005b). *東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—2003年台湾調査報告書*. 統計数理研究所.
- 吉野諒三編 (2005c). *東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—2004年シンガポール調査報告書*. 統計数理研究所.
- Weber, M. (1920). *Die Protestantische Ethik und der Geist des Kapitalismus*.
- 大塚久雄訳 (1989). *プロテスタント主義の倫理と資本主義の精神* (改訳版). 岩波文庫, 岩波書店.

(2005年6月9日受付, 2005年8月5日最終修正)

東アジア諸国の伝統的価値観の変遷に関する計量分析

鄭 躍 軍

Cross-national Comparison of Transitions of Traditional Values in Eastern Asian Countries

Yuejun ZHENG

Confucianism, as the typical Chinese thought, has influenced the people's attitude toward life, set the patterns of living and the standards of social values in China, Japan, Korea, and the other Oriental countries historically. Confucian ethical teachings include the traditional values such as benevolence & humaneness (*Ren*), righteousness (*Yi*), ritual & etiquette (*Li*), love within the family (*Xiao*), loyalty to the state (*Zhong*), honesty & trustworthiness (*Xin*) etc.

This paper presents the results of comparative analysis of Chinese, Japanese, and Korean values based on the East Asian values survey conducted with the face-to-face interview in the mainland China, Hong Kong, Taiwan, Korea, and Japan from October 2002 to November 2003. Data analysis in this study was mainly focusing on some aspects of people's attitudes toward family, marriage, gender, traditional values using correspondence analysis. Except general pattern classification based on "Traditional-Modern" axis, the relationship between people's attitudes and their attribute variables such as gender and age have also been identified.

Key words: cross-cultural comparison, confucian thought, categorical data analysis, social survey

キーワード: 異文化比較, 儒教思想, 社会調査, 数値化3類

1. はじめに

中国を始め、朝鮮半島、日本などのアジア諸国において、儒教は典型的中国思想として歴史的に人々の人生観に影響し、ライフ・スタイル、価値観の形成に大きな役割を果たしてきた。儒教の道徳思想では、徳を感じて恩を返し、仁義忠孝を尊ぶことを中心とし、倫理的、政治的な教えを述べ、修己治人の道理を講究する。儒教の道徳思想は、紀元前5世紀頃孔子によって確立されてから、すでに2,500年以上の歴史をもっている。中国から朝鮮半島、ベトナムなどに、さらに5世紀初めには日本に伝わり、次第に東アジア諸国から世界に伝播し始め、各国の歴史、文化、政治、道徳など

に影響を及ぼし続けてきた。もちろん、各国においては儒教思想をそのままの形ではなく、変容を受け、次第に独自の意識形態体系に至ったと考えられる。特に、近代以後各国は異なる道を歩み始め、それぞれの社会的激動が起こり、それにともなって、東アジア諸国は、儒教思想を部分的に守りながらも自国の固有の価値観が形成されてきたと考えられよう。たとえば、日本では明治維新以後、西洋の近代化の著しい影響の下でそれまでとまったく違う道を歩んでいくようになった。一連の歴史の流れの結果として、今日では中国、日本、韓国がともに東アジアに位置しながらも、時には相互理解を妨げる社会的価値観や意識をもつようになっているのが現状ではないであろうか。

一方、Inglehart は、近代産業化社会において個人は物質の豊富さによる影響を受け、世俗、合理化を中心とする物質主義的価値観から生活の質、自己表現を重視する脱物質主義的価値観へシフトしていると主張した (Inglehart, 1977)。さらに、社会の歴史的遺産は価値観体系に恒久的影響を与えるとともに、経済発展も

総合地球環境学研究所研究部
(Research Department, Research Institute for
Humanity and Nature)
連絡先: 〒602-0878 京都市上京区丸太町通河原町西
入高島町 335 番
E-mail: zheng@chikyu.ac.jp

一般大衆の価値観に予測できる変化をもたらすことを指摘した (Ingelhart, 1997)。前者については、伝統的道德観、宗教観が価値観のかなりの部分を占めているという事実から解釈できる。しかし、後者については、いわゆる社会が貧困から裕福へと移動するにつれて、世俗性、合理性、自己表現を重視するという経済決定論は、「脱物質主義」、「ポストモダン」と同じく、一面的な議論であるに過ぎない。価値観は、歴史を継承した一般大衆の事象に対する主観的考え方、見方であるため、一時的経済発展による影響は限りのあるもので価値観の本質が本当に改変できるのだろうか？この近代化理論を検証することがきわめて重要な課題となっている。

他方、グローバリゼーションの時代に突入した今日の東アジアでは、政治、経済のみならず、文化、学問などの多領域にわたる交流や、文化的多様性への相互理解がますます求められているようになってきて、未来に向けて隣国の友好関係を積極的に築いて行くことが望まれている。Stiglitz はグローバリゼーションのルールは誰から見ても公正なものでなければならず、権力者と貧者に対しても当然の配慮をした、基本的良識と社会正義を反映するものでなければならないと指摘した (Stiglitz, 2002)。したがって、東アジアにおいて本当の国際協調社会を実現させるためには、関係諸国の間に横たわるさまざまな伝統的価値観の類似性や相違を解明し、客観的に相互理解を促進することが重要な鍵となるであろう。

そこで、各国において統計科学的に適正に収集した「社会調査データ」を解析し、相互交流の促進の一助となりうる情報を抽出することが肝要となる。このような複雑な異文化比較を客観的に遂行するために、科学的方法論の発明と確定が必要とされる。ここ数十年来、個人や世帯を対象とした意識調査に基づくデータ収集は、すでに異文化比較研究の標準化手法として定着している。集団間、文化間、国家間、大陸間の比較によって、それぞれ固有の特徴と共通の規範を区別することができると同時に、多様な価値観をもつ人々の意識を明らかにすることは、相互理解、国際協調の基礎となるべき知見を得ることが可能である (鄭, 2004a)。

本研究では、2002年から開始している「東アジア価値観国際比較調査」より得られたデータを基に、中国・日本・韓国の3カ国の伝統的価値観の比較に焦点を絞り、それぞれの国の文化、政治、経済などの社会的変遷とともに男女別、年齢層別の価値観が変わっている

か、変わらないかを分析するとともに、価値観の構造的な異同を明らかにする。まず、家庭・婚姻観、男女の役割、儒教思想の価値観に関連する質問項目群を取り上げ、現代の中日韓における男女間、世代間の意識の構造的な特徴を抽出する。そして、「伝統—近代」という尺度で3カ国の大局的位置づけを検討することによって、当該の国々の伝統的価値観の共通性と特殊性の全貌を浮き彫りにすることを目指す。その上で、国際比較研究の視点から伝統的価値観の変遷と政治変動、文化変化、経済成長などの関連性に関する検討を展開していく。

2. 分析に用いた調査データの概要

本研究で分析対象とする調査データは、2002年11月から2003年11月にかけて、中国本土の北京市、上海市、杭州市、昆明市の中心部、香港全土、台湾全島、日本全国、韓国全国の8つの国・地域で実施した東アジア価値観国際比較調査から収集したものである。中国本土においては、南方と北方を代表する国際的な大都市としてそれぞれ上海、北京を、沿岸部・内陸部の中規模地方都市として杭州と昆明を選定した。各調査地域において、統計的無作為抽出した成人男女 (中国本土と香港では18歳以上、日本、韓国と台湾では20歳以上とした) を対象に個別面接聴取法により調査を遂行した。

韓国以外の国・地域において、多段抽出法または層別多段抽出法で個人標本を無作為に抽出した。一方、韓国では都市規模の大きさにより標本数を割り当てた上で、割当法を用いて世帯から誕生日ルールに基づき個人抽出を行った。調査地域別の地点数と標本回収数は、表1に示す通りである。なお、東アジア価値観国際比較調査の詳細については統計数理研究所研究リポート等 (鄭と吉野, 2003, 2004; 鄭, 2005; 吉野他, 2004a, 2004b, 2005a, 2005b) を参照されたい。

東アジア価値観国際比較調査の質問項目は、一般市民の広範な生活・社会・価値観などに関する質問が中心となっている。内容としては、不安感、満足感、婚姻・家庭・家族、人間関係・信頼感、伝統的道德観、宗教観、政治・国家意識、自然・環境観、科学文明観、文化、一般的社会問題などを含む55の質問項目がある。

上記の国際比較調査データに基づいて、家庭・婚姻観、男女志向、儒教思想に関する質問項目を取り上げ、中国人、日本人、韓国人の伝統的価値観の構造的な特

表1. 調査地域別の調査地点数と回収標本数

調査地域	日本	北京	上海	杭州	昆明	香港	台湾	韓国
地点数	80	50	50	50	50	50	120	123
回収標本数	787	1,062	1,053	911	1,021	1,057	732	1,006

徴、性別、年齢などの属性と伝統的価値観がどのような関係があるかを調査データの周辺分布によって分析すると同時に、多重対応分析 (Greenacre と Balsius, 1994) を用いて伝統的価値観と属性変数との関連性の全体像を探索してみる。なお、本研究の分析では、得られた回答結果のうち、原則として「その他」、「わからない」と「無回答」に帰属する選択肢のデータを解析から除いている。また、年齢については若年層 (34歳以下)、中年層 (35-49歳)、高年層 (50歳以上) の3段階に分けている。

3. 家庭・婚姻観から見た中日韓の社会的変遷

家庭は、家族と一緒に生活する集まりとして、社会の基本的存在単位となっている。婚姻はこの小さな集合の基礎である。この意味で、家庭・婚姻に対する態度は伝統的価値観の差異を反映する基本的尺度としても重要だと考えられる。この節では、家庭・婚姻観に関する以下の四つの質問項目を取り上げて、「近代—伝統」という軸で3カ国の家庭・婚姻に関する意識の差を比較してみる。また、男女別と年齢層別による家庭・婚姻観の特徴に関する考察を行う。

問3 現在、一般的な家庭にとって望ましい子供の数は何人だと思いますか。

人

問13 あなたは自分の家庭に満足していますか、それとも不満がありますか。

- 1 満足 2 やや満足
3 どちらともいえない 4 やや不満
5 不満

問19 次のような考え方があります。「家庭は、こちよく、くつろげる、ただ一つの場所である」というのですが、あなたはそう思いますか、そうは思いませんか。

- 1 そう思う 2 そうは思わない

問20 次の三つの意見の中で、どれが一番あなたの意見に近いですか。

- 1 離婚はすべきではない

2 ひどい場合には、離婚してもよい

3 二人の合意さえあれば、いつ離婚してもよい

以上の四つの質問に対して各国・地域における回答の周辺分布は、表2に示す通りである。以下、周辺分布を基に3カ国の家庭・婚姻観の比較を行う。

3.1. 望ましい子供の数

まず、各国・地域に見られる望ましい子供の数について比較してみる。各国・地域では望ましい子供の数が0~7人の範囲におさまるが、「5人以上」(回答者数は少ない)は5人とした上で平均値を求めると、国・地域別に1.5~2.4の間で差があるにもかかわらず、モードはいずれも2人となっている。中国本土の4都市ではともに40%弱の回答者が「1人」と答えており、全体で平均1.5~1.6人という低い結果となった。これに対して、日本、韓国と台湾において、「3人」と回答した割合が高く、「1人」はほとんどない。これは、東アジアにおいて「児女満堂」、「多子多福」などの伝統的思想が依然として強い影響がある一方で、中国本土において、1980年代以降導入された「1人っ子政策」が人びとの望ましい子供の数への本来の考え方を変えてしまったことが裏付けられた。ちなみに、もっとも高い割合で「3人」と答えたのは日本で、韓国、台湾と香港が次いでいる。ここでは、近代の日本では実際の世帯当たりの子供数1.72人に比べ、望ましい子供の数は遙かに多いこと、そして、中国本土、香港と台湾には「0人」(子供が欲しくない)という回答がわずかながらもあり、特に北京では男女別、年齢層と学歴層を問わずに約6%の回答者を占めるのは非常に意味深いことである。

また、表2に示したように、各国・地域とも望ましい子供の数はほとんど1~3人となるので、これだけを男女別にまとめると、図1のようになる。国・地域ごとの左側は男性の回答、右側は女性の回答を示すが、他の国・地域に比べ、中国本土では「1人」と答えた人が多く、「3人」と答えた人はほとんどないことをあらためて確認できたと同時に、北京以外の国・地域において性別にはほとんど差はないことがわかった。北京に

表2. 家庭・婚姻観に関する質問に対する回答の周辺分布 (%)

質問項目と内容	北京	上海	杭州	昆明	香港	台湾	日本	韓国
望ましい子供の数								
不要	6	1	2	2	2	2	0	1
1人	39	38	35	39	10	6	2	6
2人	51	56	57	54	76	60	45	55
3人	3	2	2	2	7	24	45	28
4人	1	1	0	0	2	5	3	7
5人以上	0	0	0	0	1	1	1	3
家庭に満足度しているか								
満足	73	64	65	71	56	55	48	45
やや満足	17	27	21	11	31	38	34	30
どちらともいえない	5	5	8	9	7	3	11	11
やや不満	3	2	3	4	5	2	6	10
不満	2	1	2	3	1	1	1	4
家庭はくつろげる場所であるか								
そう思う	70	74	63	66	79	90	75	92
そうは思わない	29	25	31	28	19	9	20	7
離婚に対する態度								
離婚はすべきではない	17	14	17	19	16	21	24	42
ひどい場合には離婚してもよい	50	52	47	52	46	54	43	34
二人の合意さえあればいつ離婚してもよい	31	32	21	21	34	20	27	22

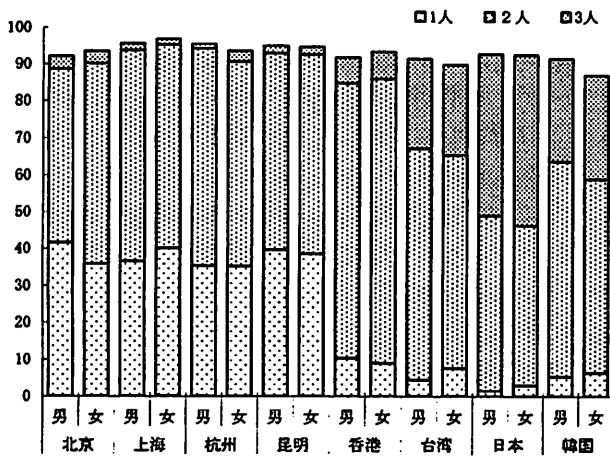


図1. 男女別の望ましい子供の数

において「1人」と回答する男性は女性より多いが、「2人」と回答する男性は女性より少ない。なお、年齢層をみても各国・地域ではっきりとした傾向は見られなかった。

3.2. 家庭満足度

「家庭に満足しているか」に対する回答では、「満足」

と「やや満足」というポジティブな回答の割合を合わせると、韓国の75%が一番低く、他の国・地域はいずれも80%を超えており、台湾は94%ともっとも高い。中国本土において「満足」は60%以上であるが、韓国と日本はいずれもそれは50%以下である。「満足」と「やや満足」を総じてみても、日本人と韓国人に比べ、台湾、香港を含む中国人の家庭に対する満足度が平均的に高いと言える。なお、別の研究では、中国人は、日本人と韓国人に比べ、健康、生活に満足している割合も高いことが明らかになった(鄭, 2003, 2004b)。

一方、図2は男女別の「満足」だけの割合を示すもので、中国本土と香港においては、性別による差は見られない。しかし、日本と台湾では「満足」とした女性が男性より5%以上多く、逆に韓国では男性が女性より10%も多く「満足」と答えている。これは、近代以降の日本と台湾では女性の社会的地位が徐々に高くなっていること、一方、韓国の家庭構造においては現在も男性が主役となっていることに関係するのかもしれない。

年齢層別に見ると、中国本土と台湾では、若年層に比べ、中・高年層の方に「満足」が多いが、逆に日本

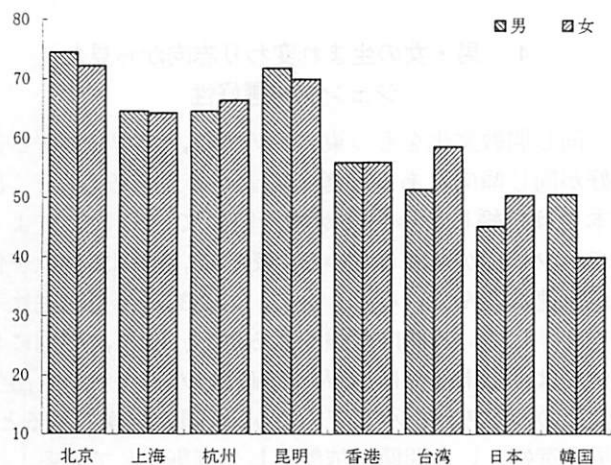


図2. 男女別の家庭満足度(満足)

と韓国では若年層に「満足」が明らかに多い。一方、香港では年齢層との関連性はない。

3.3 家庭はくつろげる場合か

表2の「家庭は、ここちよく、くつろげる、ただ一つの場所である」に対する回答結果をみると、「そう思う」の回答率の高い順から並べると、韓国、台湾、香港、日本、中国本土となる。つまり、中国本土と日本に比べ、韓国、台湾と香港は家、家庭が人生の避難所と言われる伝統的意識が相変わらず強いのではないか。一方、中国と日本において、激しい時代的变化とともに男女の社会的地位も大きく変わりつつある中で、家や家庭に対する従来の憧れ、責任感も希薄化している傾向が見られるのではないか。

図3は、男女別の「家庭はくつろげる場所であると思う」の周辺分布を示すものである。性別では韓国以外の国・地域は男性に比べ、女性の方に「そう思う」が

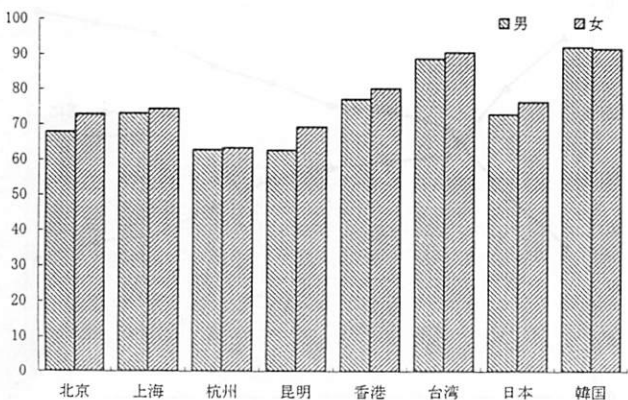


図3. 男女別の「家庭はくつろげる場所」と思う割合

多いが、韓国では男女差は全く見られない。年齢層別に見ると、すべての国・地域において、若年層、中年層、高年層の順に「そう思う」がだんだんと増えていく。つまり、年齢層が高くなるにつれて、「そうは思わない」より「そう思う」が多くなる。中日韓に共通するのは若年層より中・高年層の家庭に対する意識は伝統的だと言える。

3.4 離婚に対する態度

「離婚はすべきではない」と答えたのは、韓国で42%と最も高く、次いで日本と台湾で20%台、中国本土と香港でいずれも10%台である。「二人の合意さえあれば、いつ離婚してもよい」と回答する割合の上位3カ所は香港、上海と北京となっている。つまり、香港、上海と北京において離婚に対する態度に関して、近代的回答がわりと多いことから、中国の大都市では人々が伝統的家庭観、婚姻観を捨てて、個人の幸福をより重視するようになってきていることが浮き彫りになった。

図4は、男女別の「離婚はすべきではない」の周辺分布を表すものである。北京、香港、韓国と日本は、男性の方に「離婚はすべきではない」が多いが、逆に上海、杭州、昆明と台湾は女性の方に「離婚はすべきではない」がわずかに多いが、大差は見られない。つまり、同じ東アジアでも、婚姻に対する態度に関しては、男性が伝統的婚姻観と思われる態度に賛成する地域と、逆に女性がそれに賛成する地域が分かれている。

年齢層では、すべての国・地域において若年層、中年層、高年層の順で「離婚はすべきではない」が多くなるが、中国、香港と台湾に比べると、韓国と日本は若年層の方に「離婚はすべきではない」が比較的高い。この結果からは、日本と韓国では男性と若年層は伝統

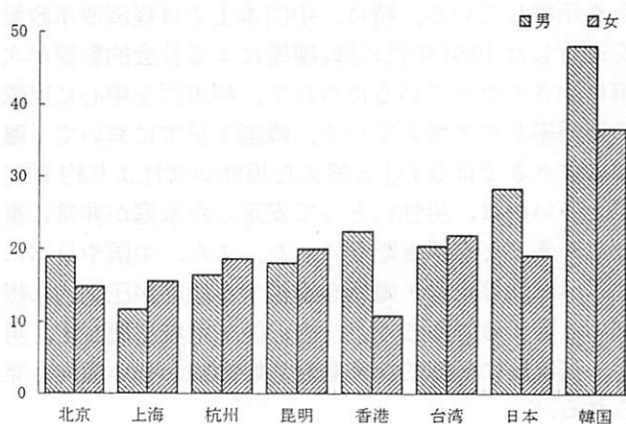


図4. 男女別の「離婚はすべきではない」の割合

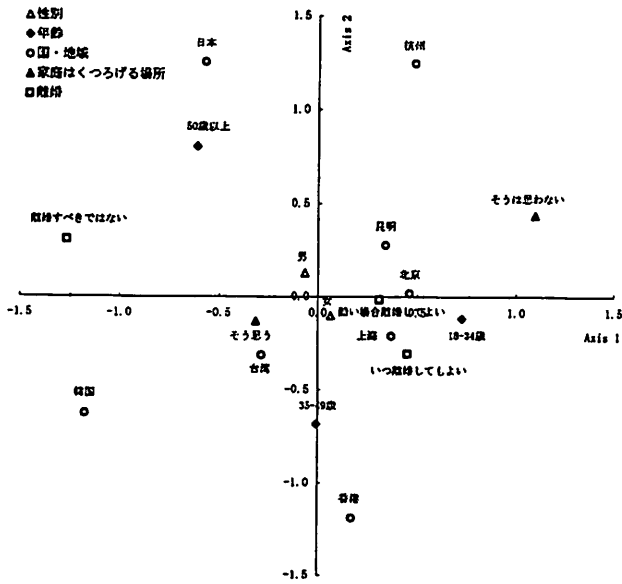


図5. 家庭・婚姻観による国・地域別のパターン分類

的婚姻観を好んでいると言えようか。

なお、家庭・離婚に対する態度と性別および年齢との関連を全体的に分析するために、多重対応分析によるパターン分析を行った。各国・地域の回答パターンの類似性を図上の距離（遠いか近い）で表した結果は、図5のようになる。

大局的な位置づけを見ると、家庭・婚姻を重視する日本と韓国と台湾は第1軸の左側に位置し、家庭・婚姻観が比較的薄れる中国本土の4都市と香港は第1軸の右側に集まっている。すなわち、韓国、日本と台湾において、伝統的家庭・婚姻観は今も重視されており、家庭を大切に、離婚を出来るだけ避けるべきと考えている人が多いことを表す。一方、図5は中国本土と香港では安定した家庭を求める傾向が弱まっていることを示唆している。特に、中国本土では経済改革政策を遂行した1980年代以降、離婚による社会的影響が次第に小さくなっていくにつれて、都市部を中心に実際の離婚率が年々増えている。韓国と日本において「離婚はすべきではない」と答えた男性が女性より約10%以上多いのは、男性にとって安定した家庭が非常に重要であることを浮き彫りにした。また、中国や日本に比べ、韓国は家庭・婚姻を重視する傾向が圧倒的に根強いと言えるであろう。一方、国・地域を問わず、男性、高年層に伝統的な家庭観や婚姻観が強い傾向も見られる。

4. 男・女の生まれ変わり志向から見たジェンダー選好性

同じ儒教文化をもつ東アジアでは、男女に対する選好が同じ傾向にあると考えてよいのであろうか？日本では結婚しない男女が増え続けていることにより、少子化が進展している。そして、韓国では少子化が急速に進んでいるとともに、人為的に男児出生比率を高くしている傾向が強く見られる。また、中国においては、都市部では「1人っ子政策」がもたらした出生性比のゆがみが縮小しているが、全国的規模で見ると、男児選好という問題が依然として深刻化している。

日本人の男女志向に関しては、統計数理研究所が実施している国民性調査では「もういちど生まれかわるとしたら、あなたは男と女の、どちらに、生まれてきたいと思いませんか？」という質問があり、1958年から5年毎に調べ続けられている。その結果、過去45年間の10回にわたる調査において、毎回日本人男性の約90%が「男に生まれたい」と答え、強い男性志向はほとんど変わっていない一方で、日本人女性の生まれ変わり志向の時系列変化は、図6に示しているように著しく変わってきている（統計数理研究所国民性調査委員会、2004）。1958年には64%の女性が「男に」と答えたが、それ以降この選好は単調に減少し、2003年の調査では25%にまで落ちている。代わりに、「女に」が1958年の27%から2003年の69%へと増えた。一口で言えば、女性が女性であることを選好するような回答が、過去半世紀に着実に増加しつつある。これは、日本では男性優位の状況はそれほど変わっていない

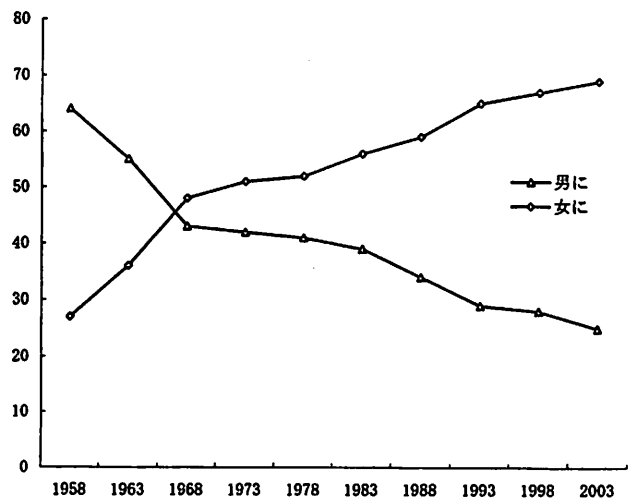


図6. 日本人女性の生まれ変わり志向の時系列変化

が、長期にわたり女性の社会的地位が上昇し続けていることを表していると解釈できるのではないであろうか。

コウホート分析により、「女に生まれかわりたい」女性が増えたのは、加齢的効果より時代的效果が顕著で、女性が世代を問わずに時代とともに意識を変えることによって、もたらしたと明らかにした（坂元，2000）。さらに、坂元は、なぜ女性は女に生まれたがるようになったかについて、その理由は単一ではなさそうであると指摘している。

次に、中国、韓国、日本では、政治、経済などの状況が異なることを考慮した上で、男女の生まれ変わり志向の比較を行う。性別に関連する質問として、以下の2つの項目を取り上げ、男女間と年齢層間の特徴を分析する。なお、この問に対して、中国本土と台湾では「どちらでもかまわない」、「性別には関係ない」など中間回答の割合が他の調査地点より遙かに高いため、この分析では「その他」も取り入れた。

問 42a 今までの人生をふりかえって、もう一度やり直せるとしたら、男に生まれてきた方がよかったですか。それとも女に生まれてきた方がよかったですでしょうか。

- 1 男に生まれてきた方がよかったです
- 2 女に生まれてきた方がよかったです
- 3 その他

問 42b それでは、これからの世の中を考えたとき、今、もう一度生まれ変われるとしたら、あなたは男と女のどちらに生まれかわりたいと思いますか。

- 1 男に生まれかわりたい

- 2 女に生まれかわりたい

- 3 その他

問 42a と問 42b は、それぞれこれまでの人生に対する回顧とこれからの世の中への展望による判断に分けて、聞いたものである。ここでは、この2つの質問項目により各国・地域で得た調査結果を基に、表3のように性別と生まれかわり志向とのクロス集計表を作成した。但し、中国本土の都市間の違いは少ないため、4都市をまとめて提示することにした。

すべての国・地域において、男性と女性とともに「今までの人生をふりかえるとき」と「これからの世の中を考えたとき」に対する回答がほとんど一致している。中国本土と台湾は、「男に」と答えた男性が日本、韓国と香港に比べ20%以上少ない一方で、「女に」と答えた女性も約40%に留まり、日本、韓国と香港に比べ15%以上少ない。但し、2カ所とも「その他」の割合は他の調査地域より10%以上高いという事実から、男女の生まれ変わり志向は比較的強くないと言えよう。一方、日本では、「日本人の国民性」調査（第11回）の結果と同じように、90%の男性が「男に」、69%の女性が「女に」と回答しており、もっとも高い値となる。次いで、韓国では男性に「男に」と答えた割合が87%と多い一方で、40%の女性も「男に」を選んだことは、韓国社会において相変わらず男女の社会的地位の差違の大きいことを示唆しているのだと思われる。香港では、男性は「男に」が88%と非常に高いが、女性は「女に」が60%に留まり、31%の女性は「男に」を選んでいる。

一方で、中国本土と台湾では、男性は「男に」と答

表3. 国・地域別の男・女の生まれかわり志向

	性別	今までの人生をふりかえるとき			これからの世の中を考えたとき		
		男に	女に	その他	男に	女に	その他
中国本土	男	67	10	15	67	10	14
	女	40	40	12	42	38	11
香港	男	88	4	1	82	8	2
	女	31	60	3	31	60	2
台湾	男	64	15	11	69	13	6
	女	36	40	10	39	43	5
日本	男	90	2	1	89	3	1
	女	19	69	1	19	70	1
韓国	男	87	10	0	83	15	0
	女	40	56	1	44	53	0

えた割合がそれぞれ67%と64%で、最も低い値となる。しかし、これは男性に「女に」が多いというほどではない。逆に、女性は「女に」がともに40%と非常に低い一方で、「男に」がそれぞれ40%と36%とである。つまり、中国本土と台湾において男性には男性の社会的地位の評価があまり高くないが、女性には男性のそれを高く評価していると言えるであろう。いずれにしても、東アジアにおいて、男性には女性の社会的地位への評価は低いことが明確であるように思われるが、女性には男性への評価が高いところと、女性への評価が高いところに分かれていると思われることは世界的に「男女共同参画の時代」が叫ばれている今日、大きな特徴の一つを示しているのではないであろうか。

表3では、「今までの人生をふりかえるとき」と「これからの世の中を考えたとき」に対する回答の一致率が高いことから、質問の順序効果がありうると考えられる。これを除くために、調査では先に聞いた「これまでの人生をふりかえるとき」のみをもう一度分析してみた。なお、男性では「男に」がいずれも多数を占めたため、ここで女性の生まれ変わり志向だけを示した結果は、図7の通りである。女性が「男に」と答えた割合の大きい順は、韓国、中国本土、台湾、香港、日本で、女性で「女に」が「男に」を多く上回ったのは、日本、韓国と香港だけである。中国、台湾は「女に」と「男に」がほぼ同じである。

ほとんどの国・地域において男性で「女に」が10%以下に留まることと、日本以外は女性で「男に」が30%以上に達していることから、東アジアにおいて男性優位の社会ということは変わっていないと読みとれる。しかし、急展開しつつある東アジアの国々、社会情勢

の変化とともに、国・地域間の差が何を意味しているかを分析していく価値がある。

5. 儒教思想から見た伝統的価値観の変容

社会変化と人々の生活の質の変化にともなって、意識の近代化、合理化も求められるようになったとともに、東アジアの人々の儒教思想を中心とする伝統的価値観も変わりつつあるに相違ないであろう。ここで、次の質問項目に主眼を置いて、3カ国の伝統的価値観の現状について検討することによって、社会変遷、経済発展などの変化は人々の伝統的価値観にどのような影響を与えるかを探ってみる。伝統的価値観に関する質問は次の通りである。

問50 あなたは次のような伝統的な価値観についてどう思いますか。

- 先祖を尊ぶべき
- 長男は両親の面倒を見るべき
- 妻は夫に従う
- 親が反対する結婚はしない
- 年上の人意見に従う
- 家系を続かせるため息子は必要だ
- 男性は外で働き、女性は家庭を守るべき

以上の七つの質問項目に対しては、それぞれ回答者に「全くそのとおりだと思う」、「そう思う」、「そうは思わない」、「決してそうは思わない」の四つの選択肢から一つだけ選ばせた。表4は国・地域別の肯定的な回答（「全くそのとおりだと思う」+「そう思う」）の単純集計を示すものである。表4の国・地域と肯定的な回答結果との関連を見ると、7項目のうち、3カ国で共通するのはほとんどの回答者が「先祖を尊ぶべき」に賛成することのみであるが、残りの6項目については大きな差異がある。

日本と韓国は「長男は両親の面倒を見るべき」がともに31%と45%と低いが、他の国・地域はいずれも50%以上で、香港と台湾の割合はそれぞれ64%と67%と高い。これは、中国本土、香港と台湾では相変わらず長男の家族に対する社会責任を重視する傾向があることを示唆していると考えられる。

一方、「妻は夫に従う」について、韓国は64%と最も多く、台湾、香港、日本が次いでいる。逆に中国本土においては15%と最も低い。また、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」についても同じ傾向がある。これは、中国本土に比べると韓国をはじめ、台湾、

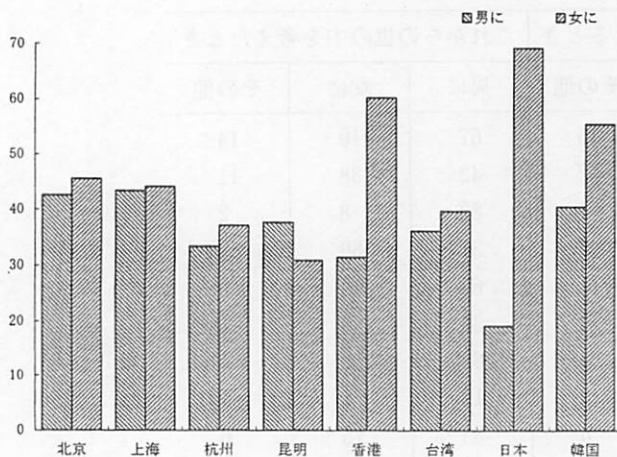


図7. 女性の生まれ変わり志向

表4. 伝統的価値観への肯定的な回答（「全くそのとおりだと思う」+「そう思う」）の周辺分布

質問内容	北京	上海	杭州	昆明	香港	台湾	日本	韓国
先祖を尊ぶべき	96	97	94	93	97	100	92	88
長男は両親の面倒を見るべき	50	51	59	51	64	67	31	45
妻は夫に従う	12	11	14	15	40	55	32	64
親が反対する結婚はしない	3	6	6	5	7	18	22	32
年上の人の意見に従う	37	40	32	30	49	67	43	62
家系を続かせるため息子は必要だ	15	11	17	15	30	53	28	41
男性は外で働き、女性は家庭を守るべき	12	14	12	16	25	46	23	35

香港と日本において、家庭では男性優位の意識が強いと言える。これは戦後中国の政策で男女が同等に職業と家庭を両立させてきたことの結果であろうが、市場開放後の中国社会の今後の変化を見守ることは興味深いであろう。

また、「親が反対する結婚はしない」について、やはり韓国において32%と最も高く、次に日本と台湾となる。逆に中国本土においては約5%しかない。なお、「年上の人の意見に従う」と「家系を続かせるため息子は必要だ」についても、韓国と台湾において最も高い。

以上をまとめると、香港、台湾、日本、韓国に比べ、中国本土では儒教思想から由来した伝統的価値観に賛成する人が比較的少数に過ぎないことから、中国人の伝統的価値観に対する態度が政治・社会的変動とともに

に変容していることが窺える。

次に、各国・地域におけるこの質問に対する男女別の回答を比較してみる。表5の男女別の回答を比較してみると、すべての国・地域において「先祖を尊ぶべき」、「親が反対する結婚はしない」と「年上の人の意見に従う」への回答に男女差は見られない。「長男は両親の面倒を見るべき」、「妻は夫に従う」、「家系を続かせるため息子は必要だ」と「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」について、各国・地域に共通するのは、女性より男性の方が賛成する割合が多いことである。それについて、男女差の大きい順から並べると、日本、韓国、香港、台湾と中国本土となる。このことから、東アジアにおいて、男女の社会的地位、役割分担などについて儒教思想の影響が広範に存在する現実が

表5. 男女別の伝統的価値観への肯定的な回答（「全くそのとおりだと思う」+「そう思う」）の周辺分布

質問内容	性別	中国本土	香港	台湾	日本	韓国
先祖を尊ぶ	男	95	98	100	92	91
	女	95	96	99	92	84
長男は両親の面倒をみるべき	男	55	71	68	42	52
	女	50	57	66	22	38
妻は夫に従う	男	16	48	62	38	73
	女	9	32	49	27	55
親が反対する結婚はしない	男	5	8	20	24	30
	女	5	6	17	20	34
年上の人の意見に従う	男	33	50	67	46	62
	女	36	49	68	40	61
家系を続かせるため息子は必要だ	男	16	37	59	37	47
	女	12	23	47	20	35
男性は外で働き、女性は家庭を守るべき	男	15	28	53	31	39
	女	13	21	41	16	31

あらためて浮き彫りになった。特に、中国本土に比べれば、日本、韓国では男女の地位差が依然として認知されていると言える。

年齢層について見ると、中国本土においてすべての質問項目に対して年齢差は見られない。香港、台湾、日本と韓国においては、七つの質問項目に対する肯定的な回答の割合が年齢層の増加とともに、増える傾向が見られる。これまでの男女別と年齢層別の結果をまとめると、近代中国において、男女、世代を問わずに儒教思想の価値観は希薄化しており、儒教の発祥地だと考えられないほど伝統的価値観を排除するようになっていると言わざるを得ないであろう。言い換えれば、中国本土の人びとの価値観の軸は伝統的軸から離れ、次第に近代的軸へと転換していることは大変興味深い。但し、政治体制と人々の価値観の相互規定を考慮すると、急速に変化しつつある、中国の社会情勢が人々の価値観をさらにどの方向へ変化させていくかを分析するのは重要な課題であろう。

図8は、以上の7項目への回答について、国・地域の回答のパターン分類の結果を示すものである。第1軸は「伝統的」と「近代的」を分ける軸で、右側に位置するのは伝統的価値観を支持する「伝統的国・地域」で、左側に位置するのは伝統的価値観を否定する「近代的国・地域」となっている。これに対して、第2軸は「伝統的」または「近代的」傾向の度合を表す軸となっている。つまり、第2軸に沿って上方に行けばいくほど「伝統的」あるいは「近代的」という意識が強くなることを意味する。

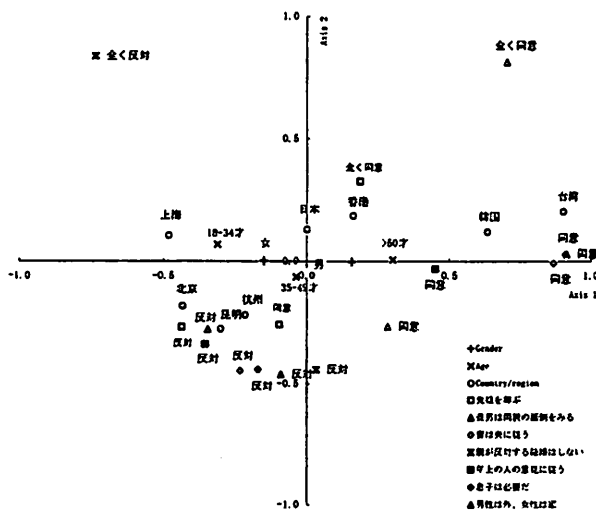


図8. 伝統的価値観による国・地域のパターン分類

図8では、台湾、韓国、香港、日本、杭州、昆明、北京、上海は第1軸に沿い、「伝統的」から「近代的」の順で並んでいる。なお、日本はほぼ第1軸の原点に位置し、すなわち、すべての国・地域の中で日本人は中間的位置づけにある。一方、香港、台湾、韓国は北京、昆明、杭州に比べ、以上の伝統的志向が強いことがわかる。逆に、上海では北京、昆明、杭州に比べ、伝統的価値観を否定する傾向はかなり強いことが明らかになった。

中国本土に比べ、香港・台湾、韓国と日本が伝統的価値観をより強く守ってきていることは、経済発展や生活の質の向上がむしろ伝統的価値観にそれほど大きな影響を及ぼさないことを示唆している。以上の国・地域では、1960年代から順次に経済状況が発達してきたにもかかわらず、伝統的価値観は廃れずに、代々伝わってきたわけである。一方、中国本土では、第2次世界大戦終戦まで儒教思想が中華思想の要として伝わってきたにもかかわらず、その後の複数の政治運動は儒教思想を全面的に否定することを中心に展開していた。つまり、中華人民共和国建国直後の1950年代後半から1980年代半ばまでの間に続いてきた「反右派闘争」、「鎮圧反革命運動」、「文化大革命」などの一連の政治的な災禍によって多くの伝統的価値観が徹底的に否定され、未だにその影響は続いていることが事実である。わずか数十年間で2,000年以上守ってきた伝統的価値観が破壊された中国本土の例を見れば、伝統的価値観が永劫に伝わっていくのはそう簡単なことではないであろうが、ほんの短い間にそれが廃れてしまう恐れが確かにありうることを理解できる。一方で、中華人民共和国建国以来、「男女平等」というスローガンが強調され続けた。その結果、今日では中国本土においてあらゆる側面から見ても、男女の意志差はほとんど見られなくなっている。しかし、他方で、一度否定された儒教思想の復活の動きがないわけではなく、今後も、人々の社会生活全般の変化に注目していきたい。なお、伝統的価値観を変化させる要因として、経済発展や生活の質の改善よりも、むしろ大きな社会変革や政治運動の影響は遙かに大きいと考えられる。

6. まとめ

これまでの分析は、国・地域の伝統的価値観を男女別、年齢層別に比較してきた。標本抽出法に則って収集した調査データに基づき、中国人・日本人・韓国人

の伝統的価値観に関するいくつかの側面が浮き彫りになってきた。とりわけ、家庭・婚姻観、男女の生まれ変わり志向、伝統的価値観に対する態度の三つの側面から国・地域の共通性と特殊性の概観を俯瞰した。東アジアにおける伝統的価値観の全体像については次のようにまとめることができるのではないだろうか。

中国人は、男女、年齢層を問わずに、儒教思想を中心とした伝統的な家庭観・婚姻観と価値観から離れつつ、個人主義を中心とした自分本位の価値観へ転向してきた傾向が窺われる。中国本土では、人びとは「1人っ子政策」、「男女平等」などの国策や、一連の政治運動による思想的混乱は蔓延しており、男女、年齢層を問わずに欧米の個人主義も崇拝するようになっていく。その結果、現在の中国は個人主義と国家主義の隙間を徘徊しているように見える。なお、「1人っ子政策」という抑制がある一方で、男性の社会的地位がやはり高く認知されていることが明らかになった。中国本土に比べ、長い間に中国本土と政治的に分断した香港と台湾は、伝統的価値観の継承を重視した結果、現在でも家庭・婚姻に対する態度、伝統的価値観が社会に根づいているように見える。

日本では、明治維新以後大きな社会変革は経験せず、伝統的家庭・婚姻観、価値観を部分的に留保しながら欧米の自由主義思想も吸収した結果、日本人は、子供は欲しいが結婚しない人が増え、また家庭を重視するが家庭にそれほど満足していないという両面性のある意識が強いと見える。なお、欧米の人々からは根強い男性優位の社会と言われるが、それにもかかわらず女性に女性の社会的地位認識が着実に上昇してきた。なお、男性、高年齢層には伝統的価値観に肯定的な態度をとる割合が比較的多い。

一方で、中国と日本に比べ韓国では、社会は大きく変わってきたにもかかわらず男性優位の社会として、伝統的家庭観、婚姻観、価値観を守ってきていると言えるであろう。安定した家庭や婚姻を大切にすること、男性志向などの伝統的価値観を何より優先的に重視することが特徴である。もちろん、男女、年齢層に伝統的価値観に対する意識差も現れていることを無視するわけにはいかない。

本研究の分析結果、同じ儒教文化をもつといわれる中国、日本と韓国においても、社会の激動にしたがって、伝統的価値観に対する意識も変化してきたことが裏づけられた。特に、男女別、年齢層別で見られる伝統的価値観の相違性は一体何を語ろうとしているかを

慎重に解明することは、今後の東アジア諸国の将来の変化を見通す研究において重要な課題の一つとなると考えられよう。一方、東アジアにおいて経済発展や物質の豊富さによる影響を受け、個人は物質主義的価値観から脱物質主義的価値観へシフトするという Inglehart の主張と異なって、社会変革や政治運動による価値観への影響により一層注目すべきである。

参 考 文 献

- 坂元慶行 (2000). 日本人の考えはどう変わったか—「日本人の国民性調査」の半世紀—, 統計数理, 48, 3-32.
- 鄭 躍軍 (2004a). 国際比較調査研究のあるべき姿, 「人類の幸福に資する社会調査」の研究, 第二回国際シンポジウム成果報告書, 50-61.
- 鄭 躍軍 (2004b). 意識調査データから見た中国人・日本人の国民性の全体像, よろん, 93, 15-20.
- 鄭 躍軍, 吉野諒三 (2003). 中国人・日本人の国民性特徴の抽出 (I) —不安感・満足感, 家庭・家族観と伝統的な価値観を中心に—, 第 31 回日本行動計量学会大会発表論文抄録集, 187-190.
- 鄭 躍軍, 吉野諒三 (2004). 中国人・日本人の国民性特徴の抽出 (II) —リーダーの資質, 愛国心, 政治意識を中心に—, 第 32 回日本行動計量学会大会発表論文抄録集, 52-55.
- 鄭 躍軍編 (2005). 日本・中国の国民性比較のための基礎研究—中国杭州市と昆明市における意識調査報告書, 総合地球環境学研究所 研究レポート No.1, 333 pp.
- 統計数理研究所国民性調査委員会 (2004). 国民性の研究 第 11 次全国調査, 統計数理研究所研究レポート No. 91, 165 pp.
- 吉野諒三他 (2004a). 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—(2002 年度日本調査報告書), 統計数理研究所研究レポート No. 91, 337 pp.
- 吉野諒三 (編) (2004b). 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—(2002 年度北京, 上海, 香港調査報告書), (統計数理研究所), 423 pp.
- 吉野諒三 (編) (2005a). 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—(2003 年度韓国調査報告書), 238 pp.
- 吉野諒三 (編) (2005b). 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—(2003 年度台湾調査報告書), 233 pp.
- Greenacre, M.J. and Balsius, J. (eds.) (1994). Correspondence Analysis in the Social Sciences. Academic Press.
- Inglehart, R. (1977). The Silent Revolution: Changing Values and Political Styles Among Western Public, Princeton, N.J.: Princeton

University Press.
Inglehart, R. (1997). *Modernization and Post-modernization: Cultural, Economic, and Political Change in 43 Societies*. Princeton, N.J.: Princeton University Press.

Stiglitz Joseph E. (2002). *Globalization and its discontents*, W.W. Norton & Company, Inc.

(2005年1月8日受付, 2005年8月2日最終修正)

東アジアの人々の「健康感」と関連する社会・文化要因:

——「東アジア価値観調査」と「医療と文化調査」結果の分析——

山岡和枝

Health and social and cultural factors in East Asia

—— Analysis of the East Asia Value Survey and the Health and Culture Survey ——

Kazue YAMAOKA

The aim of the study was to examine the relationship between health and social and cultural factors in cross-cultural settings among general populations in the East Asia using statistical survey results of "East Asia Value Survey" in 2002-2004 and "Health and Culture Survey" in 2003.

The target population included adults aged 20 years and older residing in each nation and area. Items related to health were satisfaction of health and self-rated health symptoms, while those related to social and cultural factors were gender, age, education, life satisfaction, family life satisfaction, interpersonal relation to trust, anxiety, and self-rated social class. Relationships were examined using Hayashi's Quantification Method III, logistic regression model, and general regression model.

It was shown that satisfaction of life, self-rated social class were related to health satisfaction, while self-rated health was much more related to anxiety in addition to satisfaction of life.

Key words: Cultural Link Analysis (CLA), East Asia Value Survey, Health and Culture Survey, health satisfaction, self-rated health, anxiety

キーワード: 健康感, 国際比較

1. はじめに

病気と健康の研究, 医療の実践は, 一見現代科学に基づいているように見えながら, 実際は非常に根深く文化的に意味付けられた側面が少なくない。人々の健康状態を左右する要因は, 人種 (race) あるいは民族 (ethnic group) により影響を受ける。特に, 文化や民族による痛みや病気の表現の仕方, あるいはストレスの影響については古くから検討されている (ペイヤー, 1999)。今日のように社会的緊張がより大きな問題とな

るにつれて, そのような緊張と身体の問題との深い関わりを研究する必要がある。特に, 社会的緊張から生じるストレスと対処方法は社会や文化的環境等により異なる場合もあろうし, さらにこのような問題は個別的で表面的な計測だけでは本質を把握できない側面もあり, 社会・文化的視点から捉えることは意義があると思われる。

身体と社会・文化要因との関連では, 近年では自覚的健康度やうつや心身症とソーシャル・キャピタルとの関連なども取り上げられ, 「医療文化人類学」(医療人類学研究会編, 1992) や「社会疫学」(Berkman & Kawachi, 2000) が展開されてきた。例えば Kawachi (Kawachi, Kennedy & Glass, 1999) は, 人々の寿命と対人的「信頼感」やソーシャル・キャピタル (ボランティア活動への参画など) との相関を報告している。一方で, 林知己夫らは連鎖的比較研究法 (CLA)

国立保健医療科学院 技術評価部
(Department of Technology Assessment and Biostatistics, National Institute of Public Health)
連絡先: 〒351-0197 埼玉県和光市南2-3-6
TEL: 048-458-6223 FAX: 048-469-3875
E-mail: yamaoka@niph.go.jp

(Hayashi, 1996; Yoshino & Hayashi, 2002) に基づく計量的文明論 (林, 2000) の立場から、標本調査に基づく実証的データを用いて、「病気の症状の訴え」という態度が深く文化の相違を反映していることを、日欧米7カ国で行なった「7カ国国際比較調査」のデータ解析から浮き彫りにした。そして「不安感」と「自覚症状」の回答パターンについて、日本人、アメリカ人、イタリア人では両者が関連し、フランス、ドイツ、オランダ、イギリスでは両者の関係がなく、自覚症状の訴えという観点からも国の類似性を捉え得ることを指摘した (林, 2001)。

本研究では、特に「健康感」について、東アジアの国・地域の特徴およびそれに関連する社会・文化要因を、日欧米7カ国における調査結果も踏まえて統計科学的な標本調査データを用いて検討する。用いる調査データは、1987～1993年の間に行なわれた「7カ国国際比較調査」結果 (林・吉野・鈴木・林・釜野・三宅・村上・佐々木, 1998; 吉野, 1994) も参考にして、主として最近行われた「東アジア価値観比較調査」(吉野, 2004a,b, 2005a,b,c) および「医療と文化調査」(山岡, 2005) に基づき、「健康感」を健康満足度および身体の不調の「自覚症状の訴え」という側面から捉え、各国・地域の人々の特徴を比較する。

2. データと分析方法

2.1. 用いたデータ

各調査の詳細は文献に示すが、主として「東アジア価値観国際比較調査」(北京, 上海, 香港, 台湾, 韓国, シンガポール) (吉野, 2004a,b, 2005a,b,c), 「日本 A 調査」(吉野, 2005d), 「日本 B 調査」(吉野, 2005e) と、「医療と文化調査」(台湾, 韓国) (山岡, 2005), 「中国杭州市と昆明市における意識調査」(昆明, 杭州) (鄭, 2005) を用いた。特に個別の調査について述べない限り、本報告では以上の東アジアでの調査を取りまとめて「東アジア」と記す。この他、日欧米のデータとして「7カ国国際比較調査」(日本, 旧西ドイツ, フランス, イギリス, 米国, オランダ, イタリア) (林, 他, 1998; 吉野, 1994) を用いた。用いたデータの標本数を表1に示す。

調査対象はそれぞれの国・地域における一般の成人で、「東アジア」の国・地域 (日本, 韓国, 台湾, 北京, 上海, 杭州, 昆明, 香港, シンガポール) は20歳以上の男女、「7カ国国際比較調査」での欧米諸国 (旧西ド

表1. 解析に用いた調査での標本数

国・地域	調査年	標本数 (男・女)	
東アジア価値観比較調査			
日本	2002	373	410
北京市	2002	490	567
上海市	2002	523	528
香港	2003	501	556
韓国	2003	507	499
台湾	2003	339	392
シンガポール	2004	448	587
日本 A 調査	2004	537	601
日本 B 調査	2004	370	409
中国杭州市と昆明市における意識調査			
昆明	2002	524	485
杭州	2002	452	447
医療と文化調査			
韓国	2003	497	500
台湾	2003	332	453
7カ国国際比較調査			
日本	1988	1,046	1,219
英国	1987	496	547
旧西ドイツ	1987	444	556
フランス	1987	472	541
米国	1988	790	773
イタリア	1992	501	547
オランダ	1993	484	599

イツ, フランス, イギリス, 米国, オランダ, イタリア) は18歳以上の男女である。

調査方法は各国・地域とも統計的標本抽出した調査対象への個別面接聴取法であり、調査項目は一般人の生活・社会・価値観などに関する質問50問前後を用いた。

2.2. 用いた質問項目

属性 (年齢と学歴) のほか、以下の項目 (詳細は付表参照) を分析に用いた。

a. 健康満足度 「3. あまり満足していない」と「4. 満足していない」への反応を「不満足」とし、「それ以外」とに2区分にした。

b. 自覚的健康度 フランスの CREDOC で用いられた5つの自覚症状 (頭痛, 背中の痛み, いろいろ, うつ, 不眠症) について、それぞれの有無を尋ねているが、ここではその訴えた症状の個数の各地域での平均

値を求め、自覚的健康度とした。また、自覚症状の個別の割合についての分析も行なった。

c. 生活満足度(LS) 生活一般の満足度および家庭生活の満足度は相関が一般には比較的強いこと、選択肢が5カテゴリーの場合と4カテゴリーの場合(「医療と文化調査」と「日本B」)があったため、すべてを5点に基準化して、二つの合計得点を求めた。

d. 信頼感(Trust) 「米国一般社会調査(GSS)」で用いられている「信頼感(trust)」に関する2項目(吉野, 2005d)を取り上げ、信頼するに対するポジティブな反応数を得点とした。

e. 不安感(Anxiety) 不安感に関する3項目の質問に対して、不安ありと回答した反応数を得点とした。

f. 病気に対する科学観(SPH) 「病気の中には近代医学(西洋医学)とは別の方法で治療した方がよいものもある」について、肯定的回答(そのとおり、まったくそのとおり)と「その他」とに2区分した。

g. 自己の社会階層の位置づけ(SC) (1.上~5.下)までの5段階をそのまま数値として取り扱った。

h. 属性 年齢(Age)および学歴(Edu)を用い、学歴は1. 低学歴(中学校以下)、2. 中学歴(高校・専門学校)、3. 高学歴(大学・短大以上)の3区分とした。

3. 健康感のパターン分類

数量化3類(SAS CORRESP プロシージャ)を用いたパターン分類により「健康感」に関する質問項目間の関連を国・地域ごとに分析し、さらに全調査を合わせた(縦ボンド)場合について分析した。結果は第1軸と第2軸でのカテゴリーの付置の中での国・地域の位置の相違を検討した。

国・地域別に分析した結果では、その多くで第1軸では症状の訴えの有無が、第2軸では「いらいら」「うつ」「不眠」といった精神的症状の訴えと、「頭痛」「背中の痛み」といった身体的症状の訴えが分かれており、これらが主要な構造を成していた。一部異なった関連を示すところもあったが、比較的類似した関連を示していた。そこで、「東アジア」のみと「東アジア」に7カ国を加えた場合の「健康感」の項目の関連性から国・地域の関連の分析を試みた。この際、国による標本数の違いが結果に影響しないように調整した(国・地域が同ウェイトになるように人口サイズの逆数の重みをかけた)上で、「東アジア」のみと、「東アジア」に欧米7カ国を合わせた場合、さらに日系人(米国西海岸

日系人(吉野, 2000)とハワイ日系人(吉野, 2001))を含めた場合について分析した。なお、韓国では健康不満足が男女とも他に比べ顕著に高く、健康満足度を含めるとその影響のみが強調されてしまうため、これを除いてパターン分類を行なった。「東アジア」のみで行なった場合と、「東アジア」に日欧米7カ国と日系人(ハワイ、米国西海岸)を含めて分析した場合とでは、「東アジア」の国・地域の関連状況はほとんど変わらなかったため、後者のみを図1に示す。図中では近い位置にある国・地域や項目で関連が強いことを表している。

国・地域別の分析結果と同様に、第1軸(横軸)では症状の有りがプラス方向(右)に、無しがマイナス方向(左)に、第2軸では自覚症状の中で「いらいら」「不眠」「うつ」などの精神的症状と「頭痛」「背中の痛み」といった身体的症状とが分かれた。この布置なかでは、香港、北京、昆明、上海および韓国は自覚症状の訴えが多く図中の右側に位置していたが、第2軸目で韓国と中国の地域とが分かれた。韓国は身体的症状と関連し、中国の地域は精神的症状と関連が強いことが示された。他方、日本、台湾、シンガポールは第1軸マイナス側に布置し、症状の少なさが示され、杭州はマイナス側ではあったが、比較的上海と近い位置にあった。なお、このなかで韓国(E, H)、台湾(E, H)、日本(A, B)は同じ母集団からの標本を抽出する調査をほぼ同時期に行なっており、それらは互いに近い位置に布置されており、回答パターンは相対的に類似していることが示唆された。一方、その他の国・地域に関しては、精神的症状の多いフランス、イタリアは中国と比較的近く布置し、イギリス、オランダ、米国が原点付近にあった。日系人はいずれも第1軸マイナス側に布置しており、西海岸日系人は日本と米国との中間あたりに、ハワイ日系人は日本人とほぼ同じ値のあたりにあることがわかり、「健康感」という側面でも、日本人、日系人、米国人という比較の連鎖(ある程度の類似性を持ちながら、少しずつ差を示す)が確認された。

4. 健康感の単純比較

「健康感」に関する質問項目として、健康満足度および自覚的健康度と各自覚症状の訴えの割合を「7カ国国際比較調査」および「東アジア」調査結果から男女別に求め、図示した。

「7カ国国際比較調査」は1987年~1993年、東アジアでの調査は2002年~2004年と10年程度の差があ

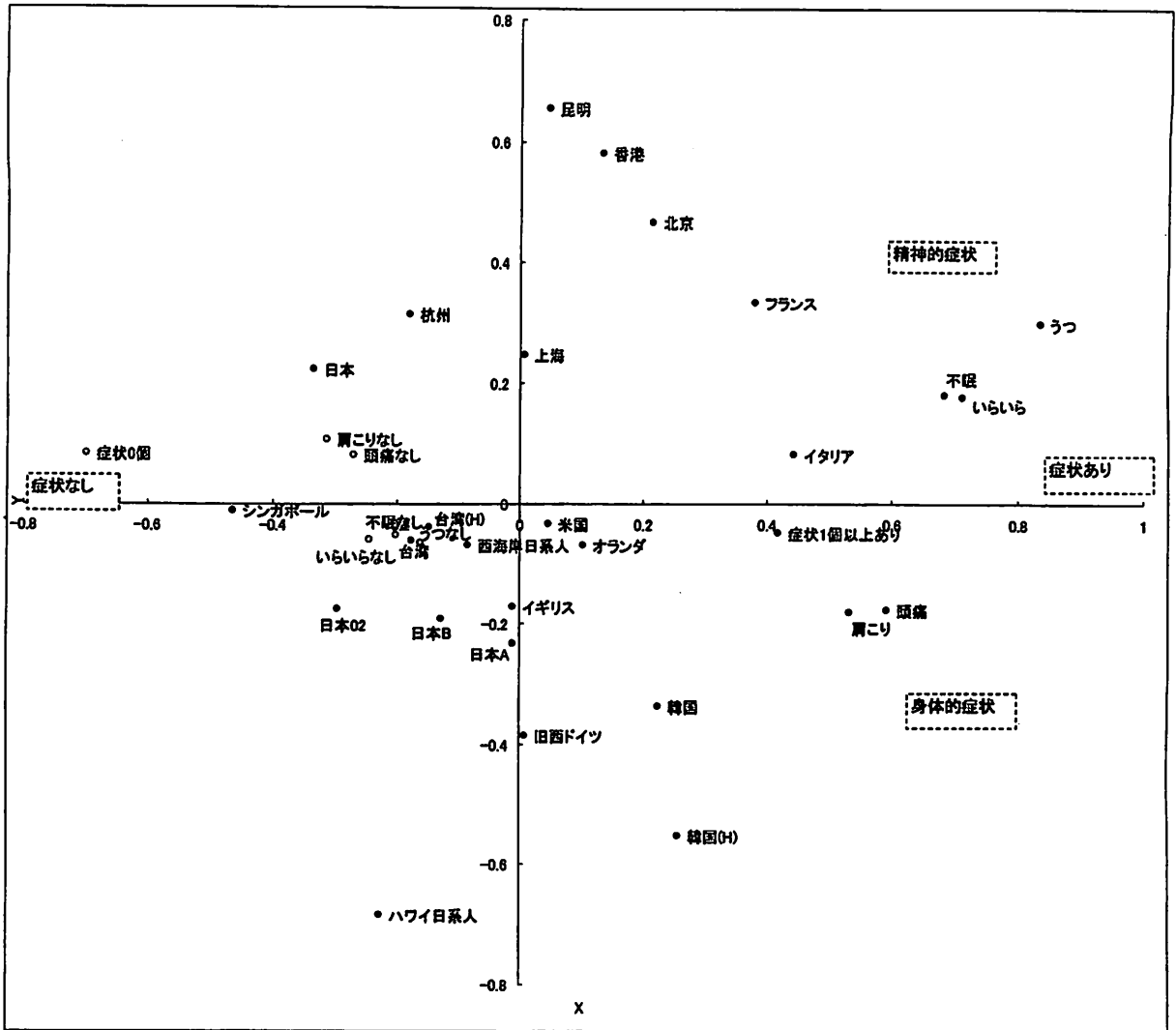


図1. 自覚症状の回答のパターン分類 (東アジア諸国に日欧米7カ国と日系人を含めた場合)

るが、健康満足度について双方の時期で調査が実施された日本人のデータを見ると、ほとんど一致している。健康満足度に関しては、「7カ国国際比較調査」結果のなかでは、欧米に比べて日本で不満足が多かったが、「東アジア」を加えた分析から欧米諸国に比べ「東アジア」で不満足が多く、その一つとして日本でも高い傾向であったことがわかった。中でも韓国の高さは男女とも顕著であった。なお、男性に比べ女性で高い傾向は、国を問わず一定であった(図2)。

他方、自覚的健康度として5項目の症状への平均反応個数を指標としてみた場合、双方の時期で調査が実施された日本人のデータを見ると、健康問題に関する訴えは男女とも高くなっていった。これは「背中の痛み」に関して「東アジア」調査では(肩こりや腰痛など)と

いう説明が付記された影響であろうと思われる。なお、他の項目にも付表に示すように()内の説明が加えられたが、回答にはほとんど差が見られなかった。自覚症状の平均反応個数は、「東アジア」の中ではシンガポール、杭州、台湾、日本で低く、韓国で高く、「7カ国国際比較調査」では、日本で低く、フランス、イタリアで高い傾向が認められた(図3)。一方、個別の症状では、頭痛や背中の痛みの訴えが韓国で多く、不眠の訴えが北京、上海、昆明、香港などの中国の各都市でやや多い傾向があった。なお、「日本B調査」の結果ではやや高めになっていたが、ほぼ同時期に行なわれた「日本A調査」では、男性0.7、女性1.1とやや低く、調査によるばらつきがあった。

健康満足度および自覚的健康度に関して、欧米諸国

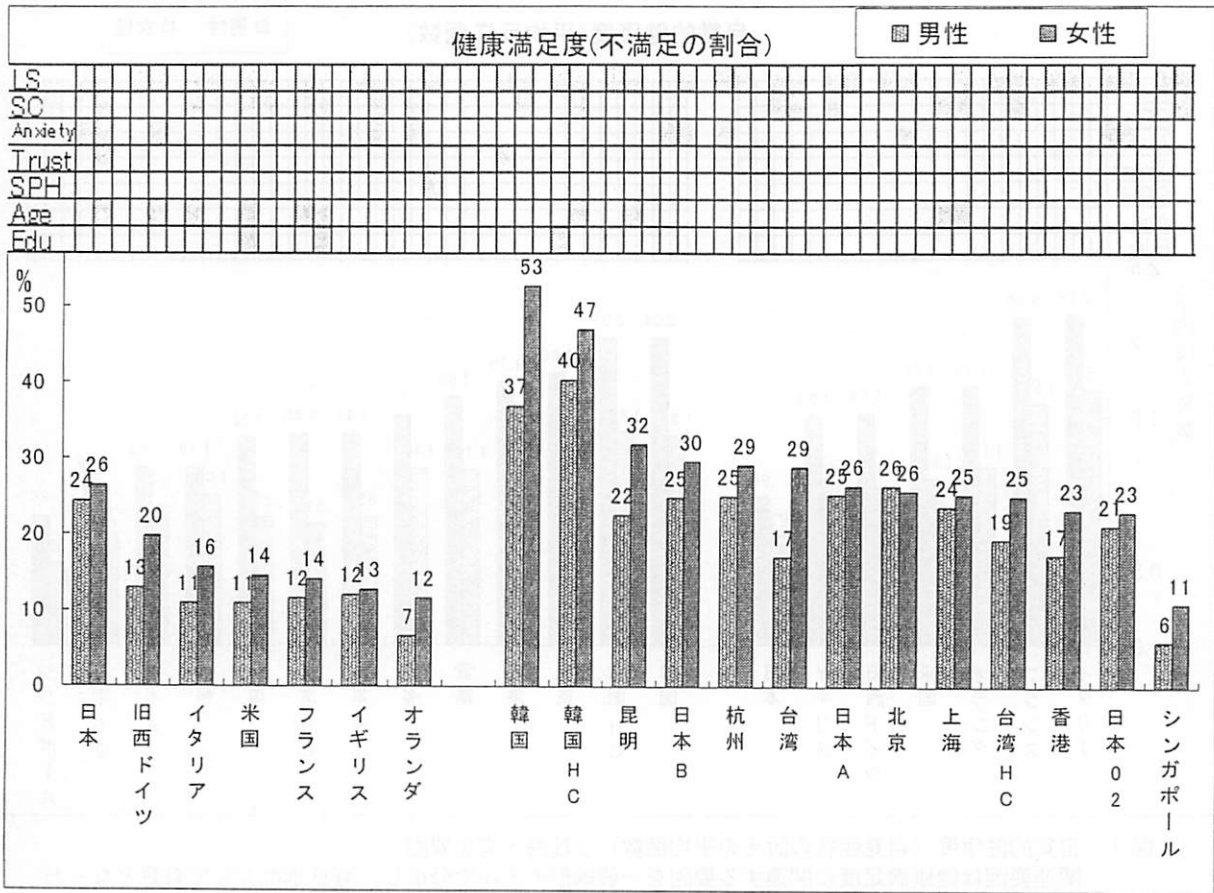


図2. 健康満足度 (不満足)の割合と社会・文化要因
 関連要因は健康満足度に関連する要因をロジスティック回帰分析で国・地域別、性別に分析し、有意水準5%で有意となった項目を■で示した。
 LS: 生活/家庭満足度 (不満足), SC: 自己の社会階層の位置づけ (下), Anxiety: (不安感), Trust: (不信感), SPH: 病気に関する科学観 (西洋医学と別の方法で治療したほうがよい), Age: (高年齢), Edu: 学歴 (低学歴). () 内は健康満足度 (不満足) と関連する方向を示す。

と同様、「東アジア」においても一貫して女性の訴えが男性に比べ高かった (ただし、北京の満足度は、ほぼ同等)。

5. 健康感と社会・文化要因との関連

つぎに「健康感」と社会・文化要因との関わり方を、生活満足度 (LS)、自己の社会階層の位置づけ (SC)、不安感 (Anxiety)、信頼感 (Trust)、病気に対する科学観 (SPH)、年齢 (Age)、学歴 (Edu) について検討した。

社会・文化要因と健康満足度 (不満足 vs. 満足) との関連性をロジスティック回帰分析 (SAS LOGISTIC プロシージャ) により、それらと自覚的健康度 (0-5 得点) との関連を一般線形モデル (SAS GLM プロシージャ) により国・地域別、性別に分析した。

健康満足度に関しては、「7 カ国国際比較調査」および「東アジア」ともすべての国・地域で健康と生活一般の不満とは強く相関していることがわかった。その他では自己の社会階層の位置づけで「下」と表明しているものや不安感が健康不満足に関連していた (図2 参照)。

他方、自覚的健康度に関しては、生活不満足と不安感が特に強く関連していた。なお、信頼感に関しては、オランダ、フランス、イギリスで関連していたが、「東アジア」で信頼感と関連を示したのはシンガポールのみであった (図3 参照)。

6. ま と め

本研究では、「健康感」に着目して、「東アジア」の

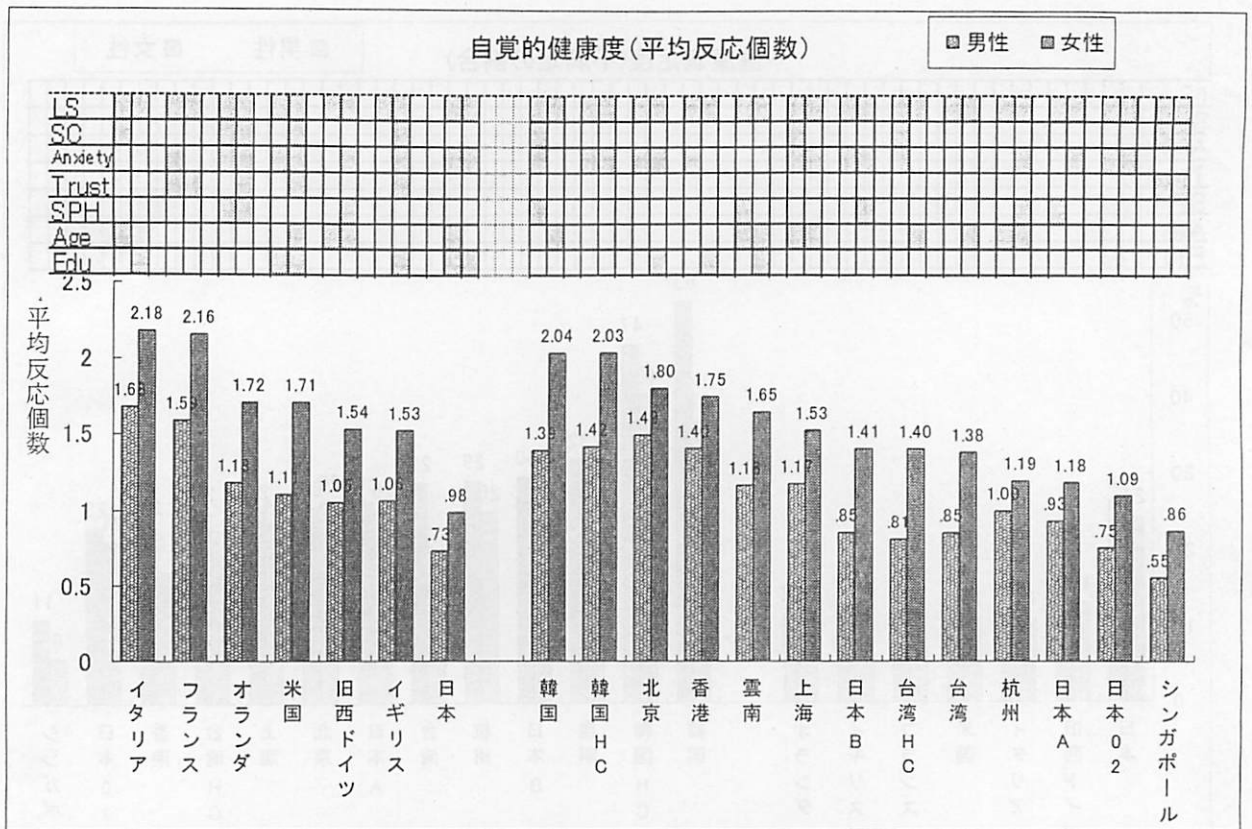


図3. 自覚的健康度(自覚症状の訴えの平均個数)と社会・文化要因
 関連要因は健康満足度に関連する要因を一般線形モデルで分析し、有意水準5%で有意となった項目を■で示した。
 (凡例は図2と同じ)

国・地域および欧米諸国における比較連鎖と「健康満足度」と「自覚的健康度」の関連要因を比較検討した。「健康満足度」は欧米に比べ「東アジア」で高く(シンガポールを除く)、特に韓国で高かった。一方、「健康感」を「自覚的健康度」という側面で捉えた場合には、欧米と「東アジア」との間には大きな相違はなく、フランス、イタリア、韓国で高く、シンガポールや日本、台湾で低かった。また、個別の症状の訴えではいろいろ、うつ、不眠といった精神的症状の訴えがフランス、イタリア、中国の各地域で多く、頭痛や肩こり・腰痛などの身体的症状の訴えが韓国で多い傾向がみられた。「健康感」に関連する要因は、「健康満足度」には生活満足度、自己の社会階層の位置づけを低く位置づけることが関連し、「自覚的健康度」には、生活満足度のほかは、特に不安感との関連が強いことが示唆された。

自覚症状の国や地域での違いに影響する交絡要因として、まず翻訳の影響があげられよう。本研究で用い

た調査票は、翻訳作業を終えた後、さらに別のバイリンガルにより翻訳版調査票の日本語再翻訳版(back translation)を作成させ、調査項目の表現(wording)の吟味を行った上で、最終的に各国版調査票を確定したものである。特に韓国、台湾については、共通質問を含む、同じ母集団からの標本に基づいてほぼ同時期(2週間程度の差)に行った調査により、共通質問による回答の一致度などはすでに確認されている(山岡・李, 2004)。また、これらの訴えの相違には、こういった翻訳に避け難い文化の相違に起因することも考えられ得るが、同じ中華圏でも相違が見られたことや、日系人が日本と米国の中間地点に位置していたのは、より本質的な民族や社会や文化の影響があることを示唆していよう。なお、WHOでは自覚的健康度を異文化間での測定に用いるため用語表現に関する国際比較調査も行われている(Janca, Isaac, Bennett & Tacchini, 1995)。その研究では、文化的特徴を明らかにするというより、グローバル・スタンダード(世界共通の尺度)

が当然存在するという前提に立ち自覚的健康度を1次元の物差しで測定しようとするものであり、その視点は本研究とは著しく異なる。

一方、標本比率を求める際の母集団からの人口構成の相違の影響がも否定できない。そのため、調査によっては回答データに国勢調査の人口構成に基づき重み付けを行った比率を求める場合がある。この点についても、重みを付けた場合と付けない場合についてそれぞれ比率の差と項目間の関連性という側面から検討した結果、重み付けの影響はほとんどなく、生データを用いた分析により関連性の検討を行うことの妥当性が示されている(山岡, 他, 2004)。なお、年齢の相違の影響に関しては、年齢調整を行なった場合の反応個数を求めて確認したが、国・地域の「自覚的健康度」の値には大きな相違がなかった。

洋の東西を問わず、女性は男性に比べて健康不満足を訴える割合と自覚的健康度(自覚症状を訴える平均個数)が多かった。自覚症状から女性の健康状態を評価した場合には、自己評価(Fayers & Sprangers, 2002)、心身症等(Wool & Barsky, 1994)、有病率(Hensing, Alexanderson, Akerlind & Bjurulf, 1995)では女性が男性よりも悪いという性差に関する特徴が指摘されており、本論文で確認された傾向もこれに一致していた。男女の間では、ストレスに対してコーピングの方法や生理的反応の違いのほか、ストレスの評価に違いがあり、同じストレスを受けても女性のほうが苦痛を訴えやすいという傾向が現われているのかもしれない。しかし一方で、死亡率や平均余命という観点から見れば女性は男性に比べて死亡率は低く、長生きである。短絡的に捉えれば女性は自覚症状を抱えながら長生きしているということになりかねないが、おそらく女性は「他者に訴える」という自己開示(Jourard, 1961)でストレスを軽減しており、男性とは別の行動様式や特徴を表しているのであろうか。なお、「東アジア」調査では所属する団体について尋ねており、粗い分析ではあるが、この個数を自己開示と関連するsocial networkの一つの指標として性差の影響を検討したところ、有意な関連はみられなかった。男女の間で自己開示性と健康という、心身問題に関しては更なる検討が必要であろう。また、日本はシンガポールや台湾と同様、「東アジア」の国・地域や欧米諸国と比べて、症状の訴えが男女とも低かった。これはこれらの国が他国と比べてストレスの少ない社会であるのか、自己開示しないだけであるのかなど、さらに検討

を要するところである。

社会・文化要因との関連では、生活満足度や自己の社会階層の低い位置づけは、健康不満足や自覚的健康度と強く関連していた。これらはいずれも自己評価に基づくものであり、両者はともに人々の生命(life)あるいは幸福感(well-being)といったものの否定的な要因を、異なった側面で表現している可能性もある。この点に関してはさらに検討していく必要があるが、少なくとも国・地域における関連の違いを検討することは意味があろう。オランダ、フランス、旧西ドイツ、シンガポールでは(対人的)信頼感と自覚症状の訴えとが関連していたのに対し、米国、韓国、上海、日本、杭州では男女とも不安感との関連が強かったことなどは、健康問題を捉えていく上で国や地域により対策のあり方が一律ではいかなない可能性を示唆していよう。

人々の信頼感、不安感、健康感といった一つ一つの要素は、それぞれの国や地域の社会のなかでも当然見出し得るものであり、それらの要素の関連性やパターンがそれぞれの社会の一側面を特徴づけている。それはCLAとして日本人と日系人、米国人やそれぞれの社会の関連でも特徴づける(Yamaoka & Hayashi, 2003)。本研究でも、「健康感」に関して日本人と日系人、日系人と米国人との連鎖がみられたが、今後、より広い範囲での医療に関しても、CLAやCULMANの観点からの分析により、明らかにしていきたい。

(注記) 本論文は、山岡(2004)を基に、新たな調査データと解析を加えて、本特集号のために大幅に加筆修正したものである。

謝 辞

本研究は、平成14年度より3カ年計画の文部省科学研究補助金・基盤研究B(2)(課題番号14402043、代表山岡和枝)および基盤研究A(2)(課題番号14252013、代表吉野諒三)の財政的援助を受けた。ここに感謝の意を表します。

参 考 文 献

- Berkman, L.F., & Kawachi, I. (2000). *Social Epidemiology*. Oxford Press.
- Fayers, P.M., & Sprangers, M.A. (2002). Understanding self-rated health. *The LANCET* 359: 187-188.
- Hayashi, C. (1996). Cultural link analysis (CLA)

- for comparative quantitative social research and its applications. pp. 209-229 in *Quantitative social research in Germany and Japan* edited by C. Hayashi and E. Scheuch. Opladen: Leske+Budrich.
- 林知己夫 (2000). これからの国民性研究—人間研究の立場と地域研究・国際比較研究から計量的文明論の構築へ—. *統計数理*, 48(1), 33-66.
- 林知己夫 (2001). 日本人の国民性研究. 南窓社.
- 林知己夫, 吉野諒三, 鈴木達三, 林文, 釜野さおり, 三宅一郎, 村上征勝, 佐々木正道 (1998). 国民性七か国比較. 出光書店.
- Hensing, G., Alexanderson K., Akerlind I., & Bjurulf P. (1995). Sick-leave due to minor psychiatric morbidity: role of sex integration. *Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology* 30: 39-43.
- 医療人類学研究会編 (1992). 文化現象としての医療. メディア出版.
- Janca, A., Isaac, M., Bennett, L.A. & Tacchini, G. (1995). Somatoform disorders in different cultures—a mail questionnaire survey. *Social Psychiatry and Psychiatry Epidemiology* 30: 44-48.
- Jourard, S. (1961). Religious denomination and self-disclosure. *Psychological Bulletin*, 8, 446.
- Kawachi, I., Kennedy, B.P. & Glass, R. (1999). Social Capital and Self-Rated Health: A Contextual Analysis." *American Journal of Public Health* 89: 1187-93.
- ペイヤー L. (1999). 医療と文化. 丸山哲心信・張友夫躍, 世界思想社.
- 鄭躍軍編 (2005). 日本・中国の国民性比較のための基礎研究—中国杭州市と昆民市における意識調査. 総合地球環境学研究所・研究レポート 01.
- Wool, C.A. & Barsky, A.J. (1994). Do woman somatize more than men? Gender differences in somatization. *Psychosomatics* 35: 445-52.
- Yamaoka, K. & Hayashi, C. (2003). Cultural link analysis of Japanese Americans. *Behaviometrika* 30, 7-19.
- 山岡和枝, 李相命 (2004). 国際比較調査データの安定性についての検証—2003年度韓国・台湾における「健康と文化調査」および「東アジア価値観国際比較調査」データの比較—, *行動計量学*, 31(2), 125-135.
- 山岡和枝 (2004). 健康と国民性. *学際*, 12: 39-45.
- 山岡和枝 (2005). 「医療」と「文化」の多次元的連関に関する統計的研究. 平成14~平成16年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書.
- 吉野諒三 (1994). 国民性意識の国際比較調査研究. *統計数理*, 42(2), 259-276.
- 吉野諒三(編) (2000). 国民性に関する意識調査データに基づく文化の伝播変容のダイナミズムの統計科学的解析. 統計数理研究所, 研究レポート 84, 統計数理研究所: 東京.
- 吉野諒三(編) (2001). 文化の伝播変容の統計科学的研究—ハワイの日系人・非日系人国際比較調査—. 統計数理研究所, 研究レポート 86, 統計数理研究所.
- Yoshino, R. & Hayashi, C. (2002). An overview of cultural link analysis of national character. *Behaviometrika*, 29(2), 125-141.
- 吉野諒三 (2003). 信頼の時代: 「日本人の国民性」調査および「意識の国際比較」調査の観点から. *ECO-FORUM*, 22(1), 42-51.
- 吉野諒三(編) (2004a). 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—, 2002年日本調査報告書. 統計数理研究所研究レポート 91, 統計数理研究所.
- 吉野諒三(編) (2004b). 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—2003年中国(北京・上海・香港)調査報告書. 統計数理研究所.
- 吉野諒三(編) (2005a). 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—2003年韓国調査報告書. 統計数理研究所.
- 吉野諒三(編) (2005b). 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—2003年台湾調査報告書. 統計数理研究所.
- 吉野諒三(編) (2005c). 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—2004年シンガポール調査報告書. 統計数理研究所.
- 吉野諒三(編) (2005d). 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—2004年日本 B 調査報告書. 統計数理研究所.
- 吉野諒三(編) (2005e). 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—2004年日本 A 調査報告書. 統計数理研究所.

(2005年6月15日受付, 2005年7月29日最終修正)

付表：用いた質問

<健康満足度> (3+4) を「不満足」とし、それ以外と2区分にした。

問1 あなたと同じ年の人と比べて、あなたの健康状態はいかがですか。

- 1 非常に満足している
- 2 満足している
- 3 あまり満足していない
- 4 満足していない

<自覚的健康度>

問4 ここ1ヶ月の間につぎにあげるものに悩みましたか。(かかりましたか。)

- a. 頭痛・偏頭痛・頭が重い
- b. 背中痛み(肩こりや腰痛など)
- c. いろいろ
- d. うつ状態(ゆううつになる、気がふさぐ)
- e. 不眠症(よく眠れない)

(回答選択肢)

- 1 あり
- 2 なし

注) ()内の説明は、東アジア国際比較調査に付け加えられた。

<信頼感> (GSSの2質問：信頼感回答数への反応個数)

問26 たいていの方は、他人の役にたとうとしていますか、それとも自分のことだけ考えていると思いますか。

- 1 他人の役にたとうとしている
- 2 自分のことだけ考えている

問28 たいていの方は信頼できると思いますか、それとも、常に用心した方がよいと思いますか。

- 1 信頼できると思う
- 2 常に用心した方がよい

<自己の社会階層の位置づけ> (上から下の5段階)

問6 かりに現在の日本社会全体を、ここに書いてあるように5つの層に分けるとすれば、お宅はこのどれにはいると思いますか。

- 1 上
- 2 中の上
- 3 中の中

4 中の下

5 下

<生活満足度> (生活と家庭生活の満足度を4カテゴリーのものは5段階に変換し、2つの合計得点を生活満足度得点とした。)

問14 あなたの生活についておききします。ひとくちにいってあなたは今の生活に満足していますか、それとも不満がありますか。

問8 あなたは自分の家庭に満足していますか、それとも不満がありますか。

- 1 満足
- 2 やや満足
- 3 どちらともいえない
- 4 やや不満
- 5 不満

注) 4カテゴリーの場合は(「日本B調査」,「医療と文化調査」)「どちらともいえない」を除く

<不安感> (3項目(a, b, c)に対しての「非常に感じる」の個数を得点とした)

問10 ときどき、自分自身のことや家族のことで不安になることがあると思います。あなたは、次のような危険について不安を感じることがありますか。

- a. まず、「重い病気」の不安はどの程度でしょうか。
- b. では、「交通事故」についてはどうでしょうか。
- c. では、「戦争」についてはどうでしょうか。

(回答選択肢)

- 1 非常に感じる
- 2 かなり感じる
- 3 少しは感じる
- 4 全く感じない

<科学観>

問25 つぎに読みあげる事柄についてあなたはどう思いますか。

a. 病気の中には近代医学(西洋医学)とは別の方法で治療した方がよいものもある。

- 1 全くそのとおりだと思う
- 2 そう思う
- 3 そうは思わない
- 4 決してそうは思わない

特集 「東アジア価値観国際比較調査」その2

「一番大切なもの」

—— 東アジア国際比較調査データ分析から幾つかの話題 ——

角田弘子*, 鈴木達三**

The Most Important Thing

—— Several Topics from Analysis of the East Asia Value Survey ——

Hiroko TSUNODA and Tatsuzo SUZUKI

In this paper we present several attempts at data analyses concerning the East Asian peoples' attitudes and social values on the data of our East Asia Value Survey conducted in Japan, China (Beijing, Shanghai, Kunming, Hangzhou), Hong Kong, Taiwan, South Korea, and Singapore during 2002-2004.

Among these, we focused on the response patterns to the open-ended question "What is the most important thing(s) for you?" Although the responses were so various, overall each country or region shows some distinctive features closely related to their own social values.

We also show the relationships between the respondents' attitudes and their answer patterns to items relating to the question, using the data of our East Asia value surveys as well as the previously conducted cross-national survey including European countries and USA.

These results show that the social systems may influence attitudes and values of these people under racial, cultural and geographic diversities and life.

Key words: East Asia value survey, cultural link analysis, open-ended questions, rating method, social values.

キーワード: 東アジア価値観調査, 国際比較調査, 自由回答, 評定法, 社会的価値観

1. はじめに

人々の価値観を尋ねる自由回答法(回答者に自由に答えさせ、それを記録する)という形式の質問項目は、半世紀に及ぶ「日本人の国民性調査」の初回(1953年)より調査されている(第11次「日本人の国民性」調査委員会, 2004)。第1回調査では「あなたの家で一番大

切と思うものはなんですか、一つだけあげてください(何でもかまいません)」という表現で尋ねており、この調査の初期には「家」についての関心が強かったように推測される。これと関連して、一般の人々の「家」に対する考え方をみるために作成された質問に「子供がないときは、血のつながりのない他人の子供を、養子にとって家をつがせた方がよいと思いますか、それとも、つがせる必要はないと思いますか」という項目がある。この質問の回答肢「つがせる」の回答比率は第1回調査では74%であったが、その後急速に減少し60年代には50%、90年代には22%になり、継続質問項目全体の中で最も変化の幅が大きい項目となっている。このような変化の兆候にいち早く気がつき、先の項目は2回目(1958年)以降の調査では「あなたにとって、一番大切なものは…」とした。回答結果をみると

*三重大学大学院医学系研究科 公衆衛生学
(Department of Public Health Graduate School of
medicine Mie University)

連絡先: 〒514-8507 三重県津市江戸橋2-174

E-mail: hirokok-tky@umin.ac.jp

**大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
統計数理研究所

(The institute of Statistical Mathematics)

連絡先: 〒106-8569 東京都港区南麻布4-6-7

60年代には「生命・健康・自分」と分類される回答が一番多く、1968年まではわずか13%程度にすぎなかった「家族」が、それ以後の35年間は一貫して「家族」と「子供」を合わせた回答が最も多くなり、90年代以降は50%前後に達した。

本論文では、「ブラジル日系人の意識調査」(林編, 1993b), 「7カ国国際比較調査」(林・吉野・鈴木・林文・釜野・三宅・村上・佐々木, 1998) や「ハワイ日系人・非日系人国際比較調査」(吉野編, 2001) の結果を参考にしながら、特に、最近遂行された「東アジア価値観比較調査」(吉野編, 2004a, 2004b, 2005a, 2005b, 2005c, 2005d), 「医療と文化の多次元的連関に関する統計科学的調査」(山岡, 2005) や「日本・中国の国民性比較のための基礎研究」(鄭編, 2005) (以下、これらを総称して「東アジア価値観調査」と記す) に含まれた、「あなたにとって一番大切なものはなんですか」(自由回答) という質問について得られた回答結果について、回答データの傾向や特徴について触れてみる。同様に「7カ国国際比較調査」や「日系人比較調査」に含まれる幾つかの質問についても、「人間関係」と「社会に対する価値観」に焦点をあて網羅的ではないが基礎情報について分析した。これにより、日本人や各国の人々の価値観の一端を浮かび上がらせることができるであろう。

2. 調査データと分析方法

用いた調査データと質問項目

調査の対象は、「東アジア価値観国際比較調査」では日本、北京、上海、香港、台湾、韓国及びシンガポール、「医療と文化調査」では台湾と韓国、「日本・中国の国民性比較のための基礎研究」では昆明と杭州の成人男女である。調査が遂行されたのは、日本、北京、上海、杭州(2002年)、昆明、香港、台湾、韓国(2003年)とシンガポール(2004年)である(詳細な調査手続きと集計結果は、吉野[2004a, 2004b, 2005a, 2005b, 2005c, 2005d], 山岡[2005]と鄭[2005]を参照)。これら3つの調査のうち、「医療と文化調査」のみ、本来の目的が医療や健康感関連の調査であり、他の2つの一般的な社会意識調査とはかなり異なる調査項目が多いのであるが、3つの調査で共通項目があるので利用する。各国・地域ともそれぞれの社会事情に応じた統計的無作為標本抽出した調査対象への個別面接法を用いている。

自由回答質問「一番大切なもの」の回答のカテゴリ分類について

対象者の回答を、「日本人の国民性」調査(“大切なもの”キーワード辞典(第4版))の分類を参考に、事後的に5個のカテゴリ、「生命・健康・自分」、「家族」、「愛情・精神」、「その他」及び「DK」に分類した(分析に用いた質問項目は付表参照)。

3. 「一番大切なもの」の比較

3.1. 東アジア調査の結果

図1は、2002年から2004年にかけて行われた「東アジア価値観調査」の自由回答の結果である。概観すると、各国・地域の中で「一番大切なもの」を「家族」と回答した比率が最も高いのは韓国54.5%、日本53.1%、シンガポール33.8%となっている。「日本人の国民性調査」によると、日本の場合、自由回答法による80、90年代の「家族や子供」の回答比率は40~50%であり、今回の2002年日本調査においても第1位である。「生命・健康・自分」についてみると、高い比率を示すのは昆明56.2%、北京と上海が55.1%、香港54.8%、杭州53.8%となっており、中国本土及び香港では50%以上となった。各国・地域間の比較において「愛情・精神」の比率が高いのは、台湾15.6%、北京・シンガポール13.7%、上海10.8%である。

3.2. 自由回答と7段階評価法の質問形式の効果の比較

「一番大切なもの」を尋ねる項目は、日常、一般の人々がどのようなことを気にかけてながら過ごしているのかを知るといった目的で用いられているが、質問の形式と

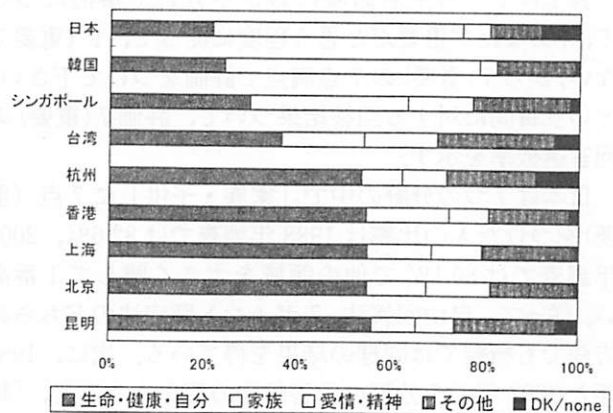


図1. 自由回答「一番大切なもの」(回答のパーセントを示す)

表1. 様々な生活領域に関する質問 (数値は7ポイントのうち評価7 (重要) のパーセントを示す)

生活領域	1988 日本	1992 イタリア	1987 フランス	1987 西ドイツ	1993 オランダ	1987 イギリス	1988 アメリカ	1988 ハワイ 日系人	1991 ブラジル 日系人	1999 ハワイ 日系人	1998 西海岸 日系人
家族や子供	82.6	90.4	80.1	66.9	80.1	88.9	91.6	89.4	90.3	96.6	89.8
職業や仕事	54.6	30.8	43.5	12.0	16.1	26.4	29.8	32.2	78.9	24.3	26.5
余暇・くつろぎ	31.2	21.9	25.8	27.0	29.2	21.5	27.0	31.1	32.8	25.7	39.0
友人・知人	39.4	27.7	24.7	29.0	34.4	26.7	36.0	35.0	59.8	36.9	42.7
両親, 兄弟, 姉妹, 親戚	58.1	63.8	44.1	33.6	46.5	52.6	62.3	66.1	86.8	74.3	75.0
宗教	13.8	25.8	11.9	9.4	14.8	13.8	47.2	24.4	51.9	28.2	17.4
政治	18.2	6.1	5.0	5.9	5.6	6.0	12.2	7.2	24.2	5.8	2.9

生活領域	2002 日本	2002 北京	2002 上海	2003 昆明	2002 杭州	2003 香港	2003 台湾	2003 韓国	2004 シンガポール
家族や子供	80.1	84.5	81.2	82.3	81.7	67.9	79.4	87.4	85.3
職業や仕事	44.9	47.0	47.2	55.8	52.6	31.8	42.8	66.9	47.9
余暇・くつろぎ	36.2	22.5	16.8	30.9	32.5	24.4	35.5	55.1	40.8
友人・知人	38.8	24.5	19.6	36.0	35.8	20.0	24.7	54.8	40.8
両親, 兄弟, 姉妹, 親戚	57.2	57.3	54.8	63.7	63.8	51.1	53.7	76.2	72.5
宗教	8.0	2.6	3.5	7.8	7.8	9.5	12.3	22.7	40.1
政治	16.0	15.3	8.3	20.5	15.6	3.0	5.3	21.0	9.3

しては自由回答法でも、評定法でも目的を達成することはできる。自由回答法では、回答結果を整理するとき事後の分類基準 (2節参照) がしばしば問題になり、少し異なる基準で再分類をすると結果が大きく変動する場合もあり得る。一方、十分に幅広い分野の事項を考慮して選択肢方法や評定法でデータを収集するには、取り上げる項目の選択などあらかじめ十分な検討が必要となる。

表1は7つの生活領域における分野や事柄について、「あなたが重要だと思う程度に従って、1 (重要でない) から7 (重要) の7点満点で評価をつけて下さい」という質問に対する回答結果について、評価7 (重要) の回答選択率を示す。

日本は7つの分野の中で「家族・子供」に7点 (重要) をつけた人の比率は1988年調査では82.6%、2002年調査では80.1%で他の領域を大きく離して1番高い。従って、自由回答法、7ポイント評定法のどちらの方法でも概観では同様の結果を得ている。次に、1988年と2002年で7分野の回答傾向の変化をみると、「職業や仕事」を7点 (重要) とする比率が減少し、「余暇・くつろぎ」を7点 (重要) とする比率がやや増加して

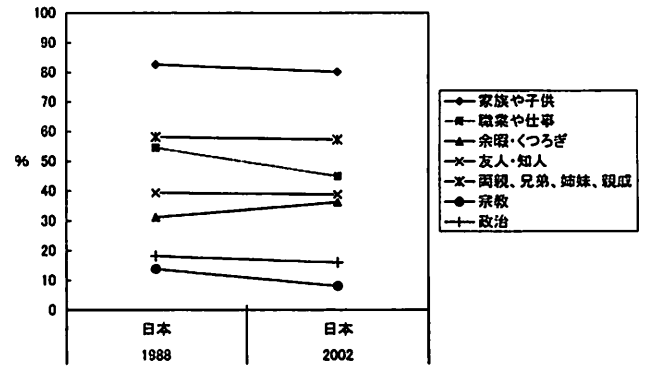


図2. 生活領域に関する質問 (数値は1~7ポイントのうち評定7 (重要) のパーセントを示す)

いるが、大方は約14年間を経ても急激な変化はなく、ほぼ一定の形を保持しており、安定したパターンを確認することができる (図2)。

3.3. 各国・地域の共通性と特色について

前節で述べた生活領域の重要性については、7ポイント評定法による多くの国々・地域の調査結果が得られており、表1には7カ国調査及びハワイ日系人調査 (林編, 1993a), (吉野編, 2001) ブラジル日系人調査 (林

編, 1993b), アメリカ西海岸日系人調査(吉野編, 2000), 東アジア価値観調査の結果が並記してある。各国のデータを比べてみると, 7カ国調査, 日系人調査ではどの国(社会)でも「家族・子供」が1位で「親族(両親, 兄弟, 姉妹, 親戚)」が2位という特徴があり, 家族や身内がまず大事というのが洋の東西を問わず各国の人々の共通の考え方ということになる。そして, 3位以下になると各国(社会)固有の特徴が現われているように見える。日系人の結果をみると, ハワイ日系人も米本土西海岸日系人も他の面で日系人以外のアメリカ人と同じように見える場合も多いが, 「宗教」に対する評価については, アメリカ的ではなくどちらかといえば日本的な色彩が残っているようである。さらに, 韓国, シンガポールでは, 他の東アジアの国々と比べて宗教を7点「重要」と位置づける人の率が高く(それぞれの回答は22.7%, 40.1%), 香港, 台湾においては, 中国本土よりは「宗教」を重要とする人の率が高い(それぞれ9.5%, 12.3%)。一方, 「政治」の部分を見てみると, 7点「重要」とする人の割合は香港, 台湾やハワイ日系人は宗教の重要度に比べると, 低い傾向(それぞれ3%, 5.3%, 7.2% [1988], 5.8% [1999])を示している。

4. 質問順や文脈による影響

ここでは, 日本人の義理人情に関係すると言われる「入社試験」の質問項目(付表参照)について, この事象(試験の成績と採用)に各国の特徴が現われるので, 取り上げてみることにする。質問文は, A, Bが一つの組となっており, A→Bの順に質問している。各国の調査結果をみると, 表2のようになる。

日本におけるこれまでのいろいろな比較実験調査で, この質問項目の組は質問の順をA→BからB→Aと変えると「1番の人を採用」の回答比率が変化することが知られている。これはSchuman (1991)らのいうContext effects(質問の順や文脈, 前後関係による影響)に類似しており, 回答比率が質問順や文脈による影響を受ける具体例となることが確かめられている(鈴木, 1995, 2000, 2001)。

先述の日米欧の7カ国調査, 海外日系人調査と東アジア価値観調査では, いずれもA→Bの順に質問されている。「1番の人を採用する」という回答比率がA, B両質問で大きく相違するのはブラジル, 米本土西海岸日系人及び東アジア地域となった。

より詳細には, 先行質問Aに対比してBの回答を考え意見を変える(Bでは「1番」が少なくなる)のは

表2. 「入社試験どちらを採用するか(質問順はA→B)」(回答のパーセントを示す) 回答肢(8)「その他」(9)「わからない」については省略

		1988 日本	1992 イタリア	1987 フランス	1987 西ドイツ	1993 オランダ	1987 イギリス	1988 アメリカ	1988 ハワイ 日系人	1991 ブラジル 日系人	1999 ハワイ 日系人	1998 西海岸 日系人
A (前)	[1] 1番の人	60.4	67.3	58.8	44.5	60.6	72.6	65.9	68.3	75.6	63.6	74.1
	[2] 親戚の人	22.8	24.7	34.9	39.8	28.5	21.3	29.5	26.7	16.2	26.2	23.3
B (後)	[1] 1番の人	40.6	62.9	50.2	36.2	68.2	68.6	64.9	51.7	50.3	58.3	57.0
	[2] 恩人の子	42.3	27.6	43.2	46.9	19.4	23.9	30.4	42.2	42.3	31.6	40.1
	A[1]-B[1] [%]	19.8	4.4	8.6	8.3	-7.6	4.0	1.0	16.6	25.3	5.3	17.1
	B[2]-A[2] [%]	19.5	2.9	8.3	7.1	-9.1	2.6	0.9	15.5	26.1	5.4	16.8
		2002 日本	2002 北京	2002 上海	2003 昆明	2002 杭州	2003 香港	2003 台湾	2003 韓国	2004 シンガポール		
A (前)	[1] 1番の人	67.3	79.2	79.0	70.9	60.2	66.2	70.4	77.3	73.5		
	[2] 親戚の人	18.8	15.9	18.7	17.7	23.5	30.5	20.6	19.5	18.0		
B (後)	[1] 1番の人	44.1	59.3	54.4	57.4	47.4	46.7	52.9	55.2	55.3		
	[2] 恩人の子	39.9	35.7	43.2	30.6	37.2	48.4	38.4	41.1	36.5		
	A[1]-B[1] [%]	23.2	19.9	24.6	13.5	12.8	19.5	17.5	22.1	18.2		
	B[2]-A[2] [%]	21.1	19.8	24.5	12.9	13.7	17.9	17.8	21.6	18.5		

東アジア、日本及び日系人に多い。それとは逆にオランダはBの方「1番の人を採用」が増加している。このことは、「入社試験で1番の人を採用する」といういわば「社会的にみた公正さ」という考えと、「親戚」あるいは「恩人の子」という身近な人間関係における判断がそれぞれの社会や文化で相違していることが、これらの回答パターンに現われていると考えられる。

日本では、先述の「日本人の国民性」調査の結果によると、1963年からの40年間、A、B両質問項目の「1番の人を採用」の比率の差は20~25%で安定している。これからみるとAB両質問項目について質問Aを先に、質問Bを後に質問した時の「1番の人を採用」と回答する比率は、A、B両項目で大きく変化するのはヨーロッパ・アメリカと対比した時、日本人の特徴の一つと考えられる。米本土西海岸の日系人、ブラジルの日系人の差をみると、日系人にもまだ日本人の特徴ともいえるこの傾向が残っている（伝播、保持されている）とみられ、また東アジアではこの傾向が欧米に比べ強く現われるようである。従って、この特徴（恩人に対する義理人情の感覚）は、日本の特徴というよりも東アジアの特徴といえるのであろう。

（義理人情）は日本人（日系人）や東アジアの人々との特徴とであることを確認した。身近な生活領域で7点「重要」の比率が2位であった「両親、兄弟、姉妹、親戚」は欧米も含む各国共通の結果であるから、「両親、兄弟、姉妹、親戚」はどこでも相応に大切にされていることになるのだが、それ以上に日本（日系）、東アジアでは「恩人の子」（助けてくれた人に感謝・援助する）を重くみる考えが入ってくる。これは「大切な道徳」の質問（「親孝行」「恩返し」「権利」「自由」の中から2つ選択（付表 問23）で「恩返し」の選択回答比率が日本も他の東アジアの国や地域及びイギリスを除く欧米の国々よりも高いことと関連するかもしれない（表3）。あるいは、この関連を日系人調査データでみると、ハワイ日系人に比べて「恩返し」の選択比率のやや高くなっているブラジル日系人や米本土西海岸の日系人が日本人同様に回答比率の変化を示しているのは興味ある結果といえる。

義理人情をめぐる回答を通して、日本人や日系人と東アジアには、一見複雑に見える人間関係のあり方がうかがえる。しかし、この辺りの価値観や態度が人間のもつ攻撃性を和らげ、人間同士の直接的な衝突を回避させることに役立っているのかもしれない。

5. 義理人情をめぐる回答

前節で、「恩人の子」を「親戚」より重くみる考え方

表3. 「大切な道徳」（回答のパーセントを示す）
回答肢(8)「その他」(9)「わからない」については省略

	1988 日本	1992 イタリア	1987 フランス	1987 西ドイツ	1993 オランダ	1987 イギリス	1988 アメリカ	1988 ハワイ 日系人	1999 ハワイ 日系人	1998 西海岸 日系人	1991 ブラジル 日系人
親孝行・親に対する愛情	77.7	78.6	52.4	55.0	66.5	63.4	69.4	78.3	79.1	71.8	82.3
助けてくれた人に感謝、援助	56.8	30.2	38.2	15.0	14.6	49.6	27.6	22.8	16.0	33.4	42.4
個人の権利	25.2	46.9	47.8	65.9	58.9	46.4	62.3	72.2	69.9	63.7	33.6
個人の自由	32.8	42.3	57.7	57.4	55.3	36.1	33.1	25.6	28.6	30.2	32.5
	2002 日本	2002 北京	2002 上海	2003 昆明	2002 杭州	2003 香港	2003 台湾	2003 韓国	2004 シンガポール		
親孝行・親に対する愛情	77.4	87.9	89.4	86.4	85.7	80.2	89.5	84.4	90.3		
助けてくれた人に感謝、援助	58.6	56.5	55.9	56.4	54.7	44.9	61.5	51.1	53.6		
個人の権利	25.5	32.2	34.9	29.9	32.4	29.2	25.8	30.9	32.8		
個人の自由	33.9	23.4	19.5	24.9	24.1	43.4	20.2	28.2	21.2		

6. 信 頼 感

1990年代以降、「信頼」に対する関心が急激に高まり、その理由のひとつとして、アメリカに代表される西欧社会における信頼崩壊に対する危機意識がある。Putnam (1995)は、信頼感を「ソーシャル・キャピタル (social capital)」と考え、それが効率的な経済と政治の運営に及ぼす重要性を指摘した上で、米国のGSS (一般社会意識調査)に表れたアメリカ人の一般的信頼の水準が過去20年間にわたって次第に低下していることに人々の注意を促している。

GSSには時系列調査データが取積されており、その中には以下の「信頼感」を尋ねる3項目が含まれている(問26 他人のためか自分のためか 問27 スキがあれば利用されるか 問28 人は信頼できるか)。これらの項目は、対人的「信頼感」尺度を作成するためにその構成が試みられ、日本では「日本人の国民性調査」に1978年から加えられた。

このなかで、楽観的回答の割合をみたものが、図3である。たとえば、問28「人は信頼できるか」に対する回答パターンは、各国においてかなりの差異が認められる。回答を額面通りとったとすれば、オランダやアメリカは基本的には他人に信頼をおいている。反対に、イタリア及びフランスは他人に対して不信感が強い。同じヨーロッパ大陸でも、ドイツ・イギリスとイタリア・フランスは異なる結果となった。他方、東アジアでは台湾や香港の不信感が目立つ。問28だけをみると、東アジアのなかでは、日本人が人を信頼する傾向

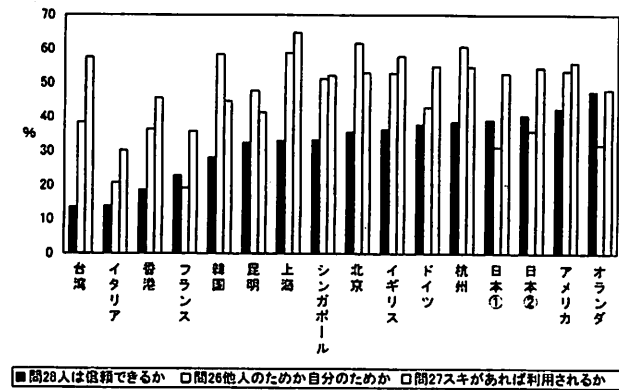


図3. 「信頼感」の楽観的回答 (問26と問28は回答肢「1」、問27は回答肢「2」のパーセントを示す) 国は問28回答肢「1」の順に並べた。日本①は1988年、日本②は2002年調査 (他の調査年は表1参照)

がみられる。それとは逆に、問26「他の人の役にたとうとしている」では、北京・杭州・上海(それぞれ61.6%, 60.7%, 58.9%)の楽観的回答の割合に比べ、日本①(1988年)と日本②(2002年)(それぞれ31.2%, 35.8%)は低いことがわかる。これについては、本節で後述する問題に関係している可能性がある。

日本人の「信頼感」に関連して、林(1996)は質問文による回答の変化について注目し、頭つき調査(質問をこのまま実施)と頭なし調査(基本質問の下線部を削除)の結果を比較している。

質問① (問26) 他の人を手助けしようとしている人もいますが、自分のことだけに気をくばっている人もいます。あなたのまわりを見たとき、たいていの人は他人の役にたとうとしていると思いますか。それとも、自分のことだけに気をくばっていると思いますか。

- 1 他の人の役にたとうとしている
- 2 自分のことだけに気をくばっている
- 3 その他 ()
- 4 D.K

質問② (問27) スキがあれば利用しようとしている人もいますが、そうでない人もいます。あなたのまわりと見たとき、たいていの人はスキがあれば、あなたを利用しようとしていると思いますか。それとも、そんなことはないと思いますか。

- 1 利用しようとしていると思う
- 2 そんなことはないと思う
- 3 その他 ()
- 4 D.K

質問③ (問28) 信頼できる人もいますが、用心した方がよい人もいます。あなたのまわりを見たとき、たいていの人は信頼できると思いますかそれとも用心することにこしたことはないと思いますか。

- 1 信頼できると思う
- 2 用心することにこしたことはないと思う

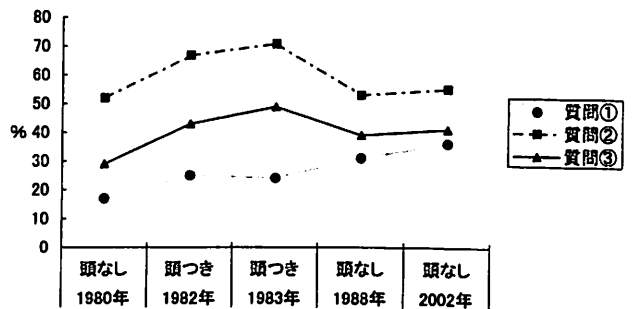


図4. 質問文による回答の変化 (楽観的回答のパーセントを示す)

3 その他 () 4 D.K

実際に調査すると、頭なしの質問の場合と頭つきの質問で、回答の率に相異がみられる(図4)。いずれも、頭つきの質問の場合、質問②、③は楽観的な回答の率が大幅に増える。文頭に偏りを与える誘導とは思えないような文章が置かれることによって、回答に差が出ているのはなぜだろうか。頭の文がない場合、人間を悪くみる方、つまり人間が信用できないという事例が頭に浮かぶことに注意が向かうため、日本人は悲観的な方へ回答する傾向があるのかもしれない。物事の両方の側面を提示したうえでどちらかを選択させる形式では、楽観的な面にも目が留まり、物事の両面を思い浮かべることによって判断できる可能性がある。このことは、データそのものの比率よりもデータが出てくるそのメカニズムという点に注意を払って考えるべき問題があることを示唆している。

一方で、質問③「人は信頼できるか」のように、「頭なし」の質問文でも質問①、②に比較すると楽観的回答が増加している項目もある。このように、文脈以外の影響によっても回答傾向が変化していくことも考えられる。山岸(1999)は、アメリカ人の方が日本人よりも一般的信頼の程度が高いとしている。しかし、質問③の楽観的回答についてみると、日本は39.1%(1998年)、40.5%(2002年)となり、アメリカの42.4%(1998年)との差は少ない。さらに、1988年から約14年

経過した2002年調査をみると、若干ではあるが、3項目の楽観的回答の割合はわずかながら増加もしくは横ばい傾向であることが確認できる。

以上は対人的信頼感についてのみ言及したが、Yoshino(2005)によると、国際間の信頼感の研究では、例えば反日問題で揺れ動く日中、日韓の間でも、「もし生まれ変わるとしたら、自国以外のアジアの国(地域)の中では、どの国(地域)で生まれたいですか。一つだけ選んでください」という質問において、韓国では、生まれたい国が「日本」という回答が最も高く、中国でも「シンガポール」や「香港」に次ぐ率となる。このように、対人関係も対国際関係も単純な次元のものさしでは測り難いことがわかる。

本節では、対人的信頼感についてみてきたが、信頼感の測定については同じ表現の質問でも国によっては意味が大きく異なる可能性もあり、社会・文化的背景を考慮すべきとの指摘がある(角田・吉野, 2005; 吉野, 2005)。現在、OECD(Healy & Cote, 2001)においても、ソーシャル・キャピタルの国際比較のための測定手法の枠組みが開発中であるが、人々の「信頼感」を測定するには、やはり文化的背景を考慮した設問方法、測定方法を考える必要がある。

表4. 科学文明観

	日本①	ドイツ	フランス	イギリス	アメリカ	イタリア	オランダ			
※問29a 近代医学にたよらぬ方がよいものがある	71.6	77.2	62.1	75.7	71.6	49.4	70.3			
※問29b 科学で人の心がわかる	13.8	34.4	64.7	49.7	57.8	52.3	32.0			
※問29c 科学で社会経済問題解決できる	15.1	44.0	49.3	42.8	46.9	52.3	35.2			
	日本②	北京	上海	昆明	杭州	香港	台湾	韓国	シンガポール	
問41j 科学技術を信頼するか	73.4	97.1	97.1	95.2	90.2	84.2	76.3	77.8	87.2	
問29a 近代医学にたよらぬ方がよいものがある	67.7	67.8	59.5	63.3	63.5	73.2	71.2	70.5	84.6	
問29b 科学で人の心がわかる	11.4	39.3	31.7	30.7	44.4	34.0	45.2	27.5	56.4	
問29c 科学で社会経済問題解決できる	10.5	55.0	44.3	43.0	49.6	36.5	44.5	39.3	55.8	

※但し、7カ国比較調査では問番号が異なる
 問29a, b, c「全くそのとおりに思う」と「そう思う」を合計した率を示す
 問41j「非常に信頼する」と「やや信頼する」と合計した率を示す
 日本①は1988年、日本②は2002年調査

7. 科学文明観

信頼感があるとは、人間に対する楽観的な態度をすることである。では、社会に対する楽観的態度はどのような視点からみるべきなのであろうか。東アジアのデータの中には、「科学技術を信頼するかどうか」という科学文明観に関する項目と未来の社会状況についての項目がある(付表参照)。表4にある科学文明観に関する結果をみると、東アジア各国の場合は、問41j「科学技術を信頼するか」に対して、70%以上の人がポジティブな回答を示している。けれども、日本の場合、約14年前よりも問29の回答の割合が低下しており、問29b「科学で人の心の問題を解決する」ことについては、悲観的になることがわかる。人の心が関係していることになると、科学が踏み込めないという意見が強い。特に、問29cの「社会的問題のほとんどは科学技術の進歩により解決される」については、10.5%(2002年)で他の国々と比較すると極端に低い。しかしながら、一般的な事象に関しては「科学を信頼する」という日本人の特徴が表れている。

他方で、北京・上海(97.1%)における、中国の科学技術に対する高い信頼は特筆すべきことである。また、問29a「近代医学にたよらぬ方がよいものがある」にみられるように、近代(西洋)医学の進んだドイツ・イギリス・アメリカより、中国本土では近代医学に信頼をよせている。東洋医学の長い歴史を持つ中国と近代(西洋)医学に頼らないとするドイツやアメリカとの逆説的な対比は興味深い。

8. おわりに—比較研究への一つの展望—

本稿では特に自由回答質問の「一番大切なもの」に着目して東アジアの国・地域を中心とし、さらに、これまでの調査(7カ国国際比較調査、日系人調査)などの基本的な情報にも触れ、他の質問項目の回答分析とあわせて比較研究の一つの方向性を探った。

比較研究は、一面的に行っただけでは十分ではなく、日本人に即した質問票、日本以外の各国の人に即した質問票を、それぞれ特定の意図された軸をもとに構成し、そうした質問票を合わせ用いて調査を進め、その結果を詳細に比較検討することが第一に大事なこととなる(林・鈴木・西平・野元, 1973)。これにとどまらず、我々が分析して導く結論、外国人研究者が同じものを分析して導く結論を付き合せ、相違の全体構造が

一層明確なものになってくるものである。

また、東アジア価値観調査を通して、欧米との比較を振り返り、以下の言葉に示される世界観が垣間見られた。「計量的方法は、日本人とても一様ならず、外国人とても一様ならず、ヨーロッパは一つにならず、アジアは一つにならず、しかし一様ではないままに大局的に似ているところ、異なっているところの筋を客観的に、つまり彼我ともに理解し合える科学的方法によって見通すことを考えるのである」(林・鈴木 1997, p2)。

今後も、積み重ねられた国際比較調査の基礎情報をもとにして、各国の人々の「考え方の筋道」を明らかにするため行動計量学的方法を駆使して、新たな観点からの議論を進めていくことが重要であろう。

謝 辞

本論文は、鈴木(2004)をもとに、基盤研究A(2)(課題番号14252013 代表 吉野諒三)、及び基盤研究(B)(2)(課題番号14402043 代表 山岡和枝)により得られたデータを、角田が研究協力者として活用させていただいた分析結果の一部をまとめたものである。この過程で編集長及び匿名審査員の方々には貴重なご助言をいただきました。ここに感謝の意を表します。

参 考 文 献

- 第11次日本人の国民性調査委員会(2004). 国民性の研究第11次全国調査—2003年全国調査—。統計数理研究所・研究レポート92, 統計数理研究所。
 林知己夫(1996). 日本人らしさの構造。東洋経済新報社。
 林知己夫, 鈴木達三, 西平重喜, 野元菊雄(1973). 比較日本人論。中公新書。
 林知己夫(編)(1993a). 意識の国際比較方法論の研究: 連鎖的比較方法の確立とその展開—1988年ハワイ・ホノルル市民調査—。統計数理研究所研究レポート70, 統計数理研究所。
 林知己夫(編)(1993b). フラジル日系人の意識調査—1991~1992—。統計数理研究所研究レポート74, 統計数理研究所。
 林知己夫, 鈴木達三(1997). 社会調査と数量化(増補版)。岩波書店。
 林知己夫, 吉野諒三, 鈴木達三, 林文, 釜野さおり, 三宅一郎, 村上征勝, 佐々木正道(1998). 国民性七か国比較。出光書店。
 Healy, T. & Cote, S. (2001). *The Well-Being of Nations: The Role of Human and Social*

- Capital, Education and Skills*. Organization for Economic Co-operation and Development. Paris. (日本経済調査協議会 [2002] 訳『国の福利：人的資本及び社会的資本の役割』OECD 教育イノベーションセンター報告書)
- Putnam, RD. (1995). Bowling alone: America's Declining Social Capital. *Journal of Democracy*, 6, (1), 65-78.
- Schuman, H. (1991). "Context Effects: State of the Past/State of the Art". In N. Schwarz & S. Sudman (eds.), *Context Effects in Social and Psychological Research*, Springer-Verlag, Chapter 2, 5-20.
- 鈴木達三 (1995). 調査法に関する一考察—質問の順や文脈、前後関係による影響 (Context Effects). *ESTRELA*, 7, 8-15.
- 鈴木達三 (2000). 質問の仕方の違いによる回答への影響(1). 新情報, 83, 10-18.
- 鈴木達三 (2001). 質問の仕方の違いによる回答への影響(2). 新情報, 84, 16-22.
- 鈴木達三 (2004). 「一番大切なもの」—国際比較調査からの二、三の話題—. 学際, 12, 13-22.
- 角田弘子, 吉野諒三 (2005). 健康満足度に及ぼす人間関係における信頼感の影響. 日本行動計量学会第33回大会発表論文抄録集, 88-90.
- 山岸俊男 (1999). 安心社会から信頼社会へ—日本型システムの行方—. 中公新書.
- 山岡和枝 (2005). 「医療」と「文化」の多次元の連関に関する統計的研究. 平成14~平成16年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書.
- 吉野諒三 (2004). 「国民性」の調査—計量的文明論の確立に向けて—. 学際, 12, 6-12.
- 吉野諒三 (2005). 富国信頼の時代へ—東アジア価値観国際比較調査における「信頼感」の統計科学的解析—. 行動計量学, 32(2), 147-160.
- Yoshino, R. (2005). The Trust of East Asia—cultural manifold of attitudes are values of Japanese, Chinese, South Korean, Taiwanese, and Singaporean.—*Proceedings of the 37th world congress of International of Institute of Sociology*. Sweden.
- 吉野諒三(編) (2000). 国民性に関する意識調査データに基づく文化の伝播変容のダイナミズムの統計科学的解析. 統計数理研究所, 研究レポート 84, 統計数理研究所.
- 吉野諒三(編) (2001). 文化の伝播変容の統計科学的研究—ハワイの日系人・非日系人国際比較調査—. 統計数理研究所, 研究レポート 86, 統計数理研究所.
- 吉野諒三(編) (2004a). 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—, 2002年日本調査報告書. 統計数理研究所研究レポート 91, 統計数理研究所.
- 吉野諒三(編) (2004b). 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—2003年中国(北京・上海・香港)調査報告書. 統計数理研究所. 韓国調査報告書. 統計数理研究所.
- 吉野諒三(編) (2005a). 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—2003年台湾調査報告書. 統計数理研究所.
- 吉野諒三(編) (2005b). 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—2004年日本 A 調査報告書. 統計数理研究所.
- 吉野諒三(編) (2005c). 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—2004年日本 B 調査報告書. 統計数理研究所.
- 吉野諒三(編) (2005d). 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—2004年シンガポール調査報告書. 統計数理研究所.
- 鄭躍軍(編) (2005). 日本・中国の国民性比較のための基礎研究—中国杭州市と昆明市における意識調査—総合地球環境学研究所, 研究レポート 01.

(2005年11月30日受付, 2006年1月20日最終修正)

付 表: 本稿で用いた質問 (問番号は東アジア調査票より)

問 12 [カード 8] 次にあげる生活領域のそれぞれについて、あなたが重要だと思う程度に従って 1~7 の評価をつけてください。

	重 要 で な い						重 要	そ の 他	わ か ら な い (該 当 せ ず)
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
a. まず、「あなた自身の家族や子供」についてはどうですか。...	1	2	3	4	5	6	7	8	9
b. では、「職業や仕事」についてはどうですか。.....	1	2	3	4	5	6	7	8	9
c. では、「自由になる時間とくつろぎ」についてはどうですか。	1	2	3	4	5	6	7	8	9
d. では、「友人、知人」については	1	2	3	4	5	6	7	8	9
e. では、「両親、兄弟、姉妹、親戚」については	1	2	3	4	5	6	7	8	9
f. では、「宗教」については	1	2	3	4	5	6	7	8	9
g. では、「政治」については	1	2	3	4	5	6	7	8	9

問 23 [カード 15] つぎのうち、大切なことを 2 つあげてくれといわれたら、どれにしますか。

	あ り	な し
a. 親孝行、親に対する愛情と尊敬	1	0
b. 助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する	1	0
c. 個人の権利を尊重すること	1	0
d. 個人の自由を尊重すること	1	0
8 その他 (記入)		
9 わからない		

(上の質問では、2 つの項目をあげてもらうこと)

問 24a. [カード 16] あなたが、ある会社の社長だったとします。その会社で、新しく職員を 1 人採用するために試験をしました。入社試験をまかせておいた課長が、「社長のご親戚の方は 2 番でした。しかし、私としましては、1 番の人でも、ご親戚の方でも、どちらでもよいと思いますがどうでしょうか」と社長のあなたに報告しました。あなたはどちらをとれ (採用しろ) といえますか。

- 1 1 番の人を採用するようにいう
- 2 親戚を採用するようにいう
- 8 その他 (記入)
- 9 わからない

b. [カード 17] それでは、この場合 2 番になったのがあなたの親戚の子供でなくて、あなたが昔世話になった人の子供だったとしたら、あなたはどうしますか。(どちらをとれといえますか)

- 1 1 番の人を採用するようにいう
- 2 昔世話になった人の子供を採用するようにいう
- 8 その他 (記入)
- 9 わからない

問 26 たいていの人は、他人の役にたとうとしていると思いますか、それとも自分のことだけ考えていると思いますか。

- 1 他人の役にたとうとしている
- 2 自分のことだけ考えている
- 8 その他 (記入)
- 9 わからない

問 27 他人は、機会があれば、あなたを利用しようとしていると思いますか、それともそんなことはないと思いますか。

- 1 他人は機会があれば利用しようとしていると思う
- 2 そんなことはないと思う
- 8 その他 (記入)
- 9 わからない

問 28 たいていの人は信頼できると思いますか、それとも、常に用心した方がよいと思いますか。

- | | | | |
|--------------|----------------|--------------|-------|
| 1 | 2 | 8 | 9 |
| 信頼できる
と思う | 常に用心した
方がよい | その他
(記入) | わからない |

問 29 [カード 19] つぎに読みあげる事柄についてあなたはどう思いますか。それぞれについて、この中からお答えください。(a~d についてそれぞれ聞く)

a. 病気の中には近代医学とは別の方法で治療した方がよいものもある。

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 全くそのとおりだと思う | 4 決してそうは思わない |
| 2 そう思う | 8 その他 (記入) |
| 3 そうは思わない | 9 わからない |

b. 科学技術が発展すれば、いつかは人間の心の中までも解明できる。

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 全くそのとおりだと思う | 4 決してそうは思わない |
| 2 そう思う | 8 その他 (記入) |
| 3 そうは思わない | 9 わからない |

c. 今日、我々が直面している経済的、社会的問題のほとんどは科学技術の進歩により解決される。

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 全くそのとおりだと思う | 4 決してそうは思わない |
| 2 そう思う | 8 その他 (記入) |
| 3 そうは思わない | 9 わからない |

問 38 あなたにとって一番大切と思うものはなんですか。(もし回答者が複数あげた場合は、すべて記す)

(記入)	9 わからない
------	------------

問 41 [カード 24] あなたは、次にあげる組織や制度、事がらをどの程度信頼しますか。「非常に信頼する」「やや信頼する」「あまり信頼しない」「全く信頼しない」のいずれかでお答え下さい。(1つずつ〇印)

	非常に 信頼する	やや 信頼する	あまり 信頼しない	全く 信頼しない	わから ない
a. 宗教団体.....	1	2	3	4	9
b. 法律や裁判の制度.....	1	2	3	4	9
c. 新聞・テレビ.....	1	2	3	4	9

d. 警察	1	2	3	4	9
e. 国の行政	1	2	3	4	9
f. 国会	1	2	3	4	9
g. NPO・NGO (非営利団体や非政府組織)	1	2	3	4	9
h. 社会福祉施設	1	2	3	4	9
i. 国連	1	2	3	4	9
j. 科学技術	1	2	3	4	9

宗教と素朴な宗教的感情

林 文

A Study of Religious Faith and Religious Feelings

Fumi HAYASHI

In the contemporary world conflicts of different cultures among different nations and regions have become a serious problem. Specifically, religions exist as the basis for different cultures. In our Cross-national survey results, it was found that only 30% of the Japanese have religious faith but 70% think that religious feeling is important and that the meaning of religion is different between the Japanese and Westerners based on our cross-national surveys. The meaning of religion can be understood in the relation between religious attitudes and other social attitudes. The structure of thinking about religion and its relation to other items in our East Asia Value Survey were analyzed using multivariate analysis. The results concerning the differences among these areas were as follows. In Japan, Korea and Hong-Kong, satisfaction about daily life and religious feeling are related positively, whereas in Beijing, Shanghai and Taiwan, these are related negatively. Concerning attitudes toward science and technology, in some areas, including Japan, the medium attitude is related to religious feeling. We are continuing our on-going analysis toward seeking the meaning of religion in contemporary societies by including the results of seven Western nations' surveys.

Key words: religion, East Asia, cross-national comparison, life satisfaction
キーワード: 宗教, 信仰, 東アジア, 日米欧比較, 生活満足度

はじめに

東アジア価値観調査では、「日本人の国民性調査」(統計数理研究所国民性調査委員会, 1961) から発展した国際調査比較方法論としてのCLA(連鎖的比較分析法)(林他, 1991)を念頭に、様々な分野の問題をとりあげて、各国や地域で人々が織り成す社会の文化や価値観の比較を試みている。ここでは、宗教に焦点をあてて分析したものを報告する。

今世界は、「文明の衝突」という言葉に象徴されるように、文明が宗教によって色分けされ、宗教に関する諸問題は現代社会の中でも重要な課題の一つとして注目されている。一部の過激なイスラム教を標榜するテロが清教徒信徒者の国アメリカ社会に与えた影響は大き

く、人々は否応なく宗教の対立について考えさせられた。一方、人々の幸福感に信仰が影響していることもいわれ、宗教問題の明と暗の両面が浮き上がってくる。

近年、人々の生活の充実の質的な面の重要性がQOL(Quality of Life, 生活の質, 生命の質, 生きがい)として重視され、特に健康に関連するHR(Health-Related) QOLに、WHO(世界保健機構)は霊性(Spirituality)という要素を取り入れるようになっていく(WHO, 1995)。既成の宗教の範疇に留まらず、何か霊的なものに対する精神性を重視する考えともいえる。社会調査によって、それらについて現実の人々の考え方をとらえようとする研究もなされているが、多くは既存の宗教の視点から離れていない。しかし、例えば日本人にとっての宗教は、欧米のキリスト教文化圏やイスラム教文化圏の人々におけるものとは多少とも違った意味をもつに違いない(保坂, 2003)。

宗教とは何かという根本問題はさておき、なにかしら宗教的と思われる感情まで広げて、「日本人の国民性

東洋英和女学院大学
(Toyo Eiwa University)
連絡先: 〒226-0015 神奈川県横浜市緑区三保町32
E-mail: fumih@toyoeiwa.ac.jp

調査」「日米欧七カ国調査」「東アジア価値観調査」から人々の価値観や態度、感情をとらえてみたい。

1. 「日本人の国民性」調査から

「日本人の国民性」調査の1958年(第2次)調査から「信仰を持っているか」と「宗教的な心は大切か」という2つの質問が用いられている。日本では、信仰を持つ人は少ないが、信仰を持っていないことが西欧における無宗教とは対応しないことを実証しようとしたものである。その第2次調査の結果、信仰を持っている人は35%であるが、信仰を持たない65%の人の中で、「宗教的な心は大切」と考える人が70%もあり、それらを合わせると8割の日本人が宗教や宗教心という言葉に対してポジティブな態度を持っていることが示された。これを西欧のキリスト教社会からみると、日本人のいう宗教は本当の宗教ではないという見方となる。ここでは宗教の理論的な定義を論ずることは他書にまかせ、むしろ広い見方での人々の意識調査の結果を分析することにより、日本人の宗教意識を浮き彫りにすることを試みる。

この「日本人の国民性」の研究は、その後、ハワイの日系人研究から国際比較研究に発展した(林他, 1973)が、その過程で、日本調査においても質問の形式が変更されている。つまり、1978年(第6次)調査までは、「宗教的な心は大切か」の質問はその前問で「信心・信仰をもっている」(「信仰あり」と略記する)と回答した人には尋ねず、「信心・信仰を持っていない」(「信仰なし」と略記する)と回答した人にだけ質問していたが、1983年(第7次)調査からは、「信心・信仰の有無」と「宗教心の大切さ」を独立して質問するようになった。当初は「信仰あり」の人は当然「宗教的

な心は大切」と思うのは当然という発想であった。この2つの質問に対する1958年から2003年の結果は表1に示すとおりである。1983年から独立して質問された結果から、「信仰あり」のほとんど(93%~94%)が「宗教的な心は大切」と回答し、少なくとも日本では「信仰あり」の回答者は当然「宗教的な心は大切」と思うであろうと想定したことが、大方間違いでなかったことが確認されたといえる。

最近の宗教離れの傾向は、「信仰なし」という回答者の中で「宗教的な心は大切」とする率が、1980年台に減少したことに現れているように見える。

ここで、宗教と年齢との関係を見ると、「信仰あり」は、若年層では少なく、加齢とともに増える傾向が長年にわたり一貫して見られる。1958年から2003年の変化の様子を図1に示す。それぞれの年齢層における「信仰あり」の率は時代とともに減少しているが、変化が大きいのは40代から60代であり、若い層では低いままそれほど変化していない。なお全体での「信仰あり」の率の変化が小さいのは、サンプルの年齢分布が高い方に動いているためである。

さて、「宗教的な心は大切」という考えの変化を詳しくみよう。信心・信仰を持っているならば9割以上(20歳台でも8割)が「宗教的な心は大切」と回答していることは、1983年調査から2003年調査まで同じである。信仰を持たないもののうちで「宗教的な心は大切」と回答する率の年齢層別変化を図2に示す。1988年調査から全体的に減少していることがわかる。その中でも20歳台における減少が30歳台以上に比して特に大きかったことがわかる。

このように、日本人の宗教離れは、宗教を信じることの減少と同時に、これまで日本人の特徴とされてきた「宗教を信じてはいないが宗教的な心は大切と思う」

表1. 「信仰あり」と「宗教的な心は大切」の時代変化 (%)

調査年	1958	1963	1968	1973	1978	1983	1988	1993	1998	2003
「信仰あり」	35	31	30	25	34	32	31	33	29	30
「信仰あり」の中の宗教的な心大切	—	—	—	—	—	(94)	(93)	(94)	(93)	(94)
「信仰なし」の中の宗教的な心大切	70	77	76	69	74	(73)	(63)	(61)	(58)	(60)
全体の中の宗教的な心大切	(80)	(84)	(83)	(77)	(83)	80	72	72	68	70

*「日本人の国民性調査」(統計数理研究所)による。

* 3行目と4行目の1983年以降の()内はクロス集計による。

* 5行目の1958年から1978年の()は、「信仰あり」と「宗教的な心大切」の合計。

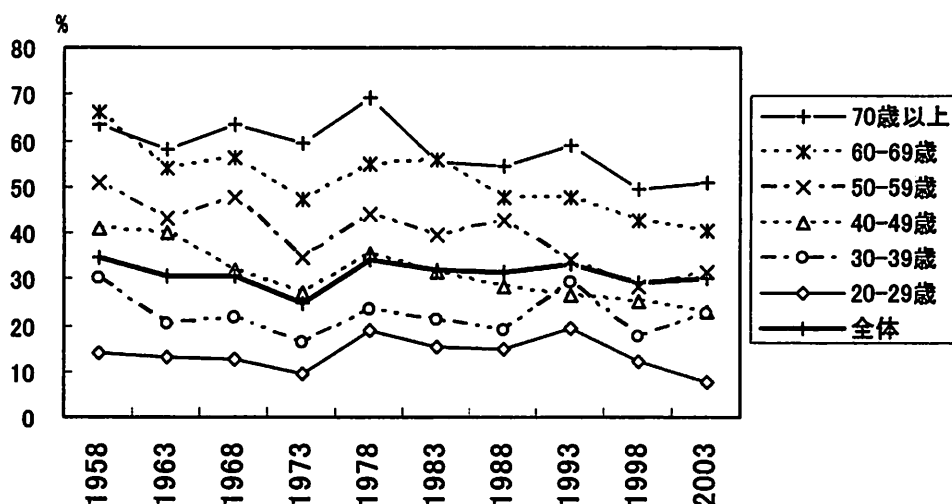


図1. 年齢層別の「信仰あり」の率の変化 (「日本人の国民性調査」)

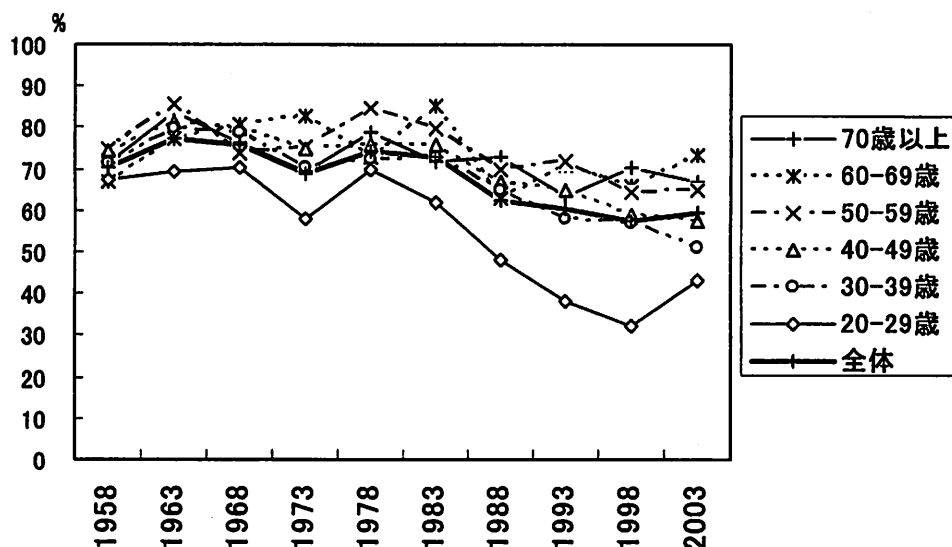


図2. 年齢層別「信仰なし」中の「宗教的な心大切」の率の変化 (「日本人の国民性調査」)

という考えが特に20歳台で大きく減少するという形で現れているようである。2003年調査では反転、増加しているように見えるが、20歳台は調査回収率が低く、解釈には注意を要する。

2. 国際比較調査から

国際比較にあたって、「宗教的な心」の翻訳は単純ではない。十分に検討され、我々の日米欧七カ国調査(林他, 1998)における英米では'Religious attitude'が用いられ、東アジア価値観調査のシンガポール英語版では'religious mind'が用いられた。完全に対応した翻

訳ができ難い概念であるという事実が浮き上がってくる。しかし、かといって対応する概念が全く「ない」とはいきれないのではないか。日本人の「宗教的な心」にあたるものが日本以外の国や地域で存在するのか、存在するとすれば、どのような言葉で捉えることができるのか、ある程度の許容範囲の中で翻訳を通して調査を行い、他の様々な質問との関連の中から見出していくことが現実的と思える。

図3に、日米欧七カ国調査(1987-1993)(林他, 1995a, 1995b)と、東アジア価値観調査(2002-2004)(吉野他, 2003a, 2003b, 2004a, 2004b, 2005)から、それぞれの国・地域の「信仰を持っているか」と「宗教的な心を

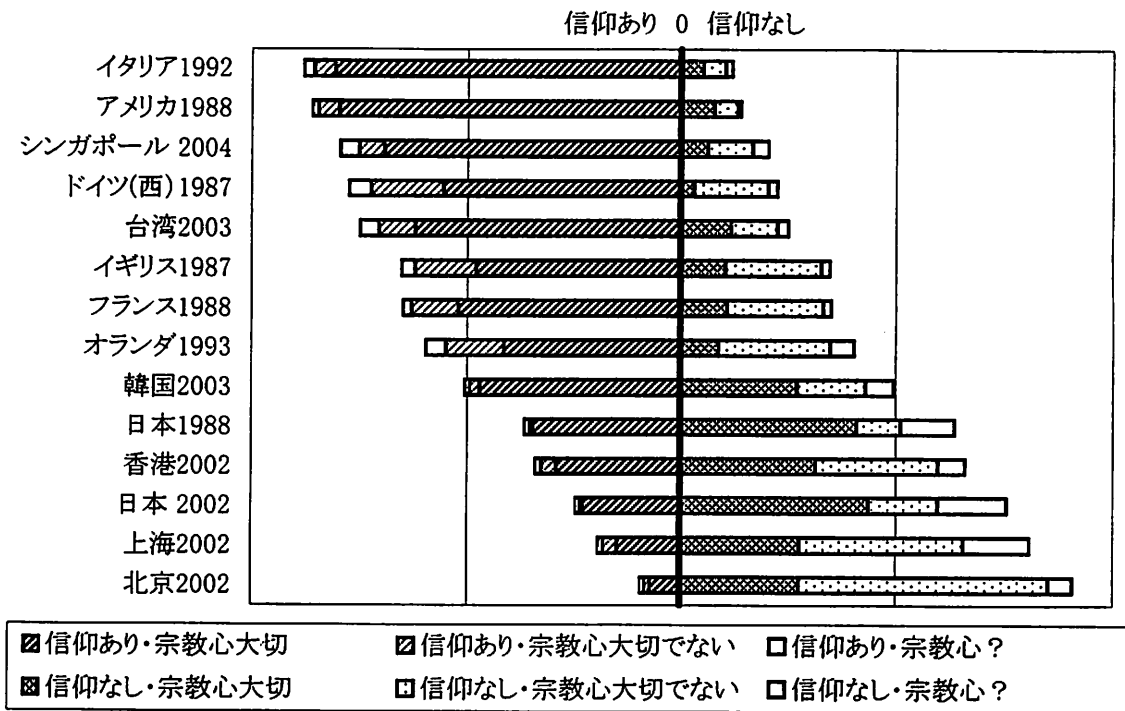


図3. 「信仰の有無」と「宗教的な心大切か」との関係

大切と思うか」の項目の回答データの関係をまとめた。中央より左が宗教を信じる人の比率であり、右は信じていない人の比率である。中心部に近い左の部分は、宗教を信じ宗教的な心を大切と考える人の率である。七カ国調査と東アジアの調査の間で15年ほどの時間差があり、この間の世界的な宗教離れの傾向の影響も多少あろうが、概観や考え方の関連パターンは比較的安定していると想定される。日本の2時点の調査でも信仰を持つ人の率は変化しているが、ともに、信仰を持つもののほとんどが宗教的な心を大切としていることが示されている。前述のように、初期の「日本人の国民性調査」で、信仰を持つ人には宗教的な心を大切と思うかを尋ねていなかったことによる情報ロスはあまりなかったことが確認される。これに比して、ドイツ、イギリス、オランダでは、信仰を持っているのに宗教的な心は大切でないと考える人もあることが読み取れる。

香港は日本と同様で、「信仰あり」の率は低いが「宗教的な心は大切」とする率が高く、両方をあわせると宗教というものに対する肯定的な考えは欧米の国々と同程度といえる。宗教を政治的に統制された中国の北京、上海では「信仰あり」の率は低く、「宗教的な心は大切」という回答を合わせても半数以下である。

「信仰あり」の人のほとんどが「宗教的な心は大切」と回答しているのは、日本と韓国である。中国は少なめである。「信仰なし」の人の中で「宗教的な心は大切」と回答する人の割合も、日本では58%、韓国54%、香港48%、台湾47%、上海34%、北京30%である。「信仰あり」だが「宗教的な心は大切でない」という回答が、ドイツ、オランダ、イギリスで10%以上あり、宗教に対して懐疑的な傾向があるが、東アジアでは最高でも台湾の8%であり、一概に、「信仰あり」と回答するならば「宗教心を大切と思う」傾向は強いといえるようである。

「信仰をもたない」と「宗教的な心は大切でない」とこととの相関は、北京が最もはっきりしている。上海も北京と同様である。図3からは省いてある昆明、杭州も同様であるが、詳細にみると「その他」やD.K.の回答が多く、地方によっては北京ほどに宗教を否定しきれない気持ちがあることを示しているのではないだろうか。中国本土以外では、「信仰なし」という人の中で「宗教的な心は大切」という人の方が「大切でない」という人よりも多いが、香港と台湾は、日本や韓国よりも中国本土に近い傾向がみられるのは、興味深い。政治のみならず、文化の連鎖 (Cultural linkage) を示しているのかもしれない。

3. 日常行動・意識からみる宗教の意味

日米欧七カ国調査では、宗教の意味を他の様々な社会的日常的意識の違いから捉えることを試みた。どの国でも「信仰あり」・「なし」の差は社会的日常的態度や価値観との関連からみて同様で、ある国の信仰をもつ人々の価値観を他の国の人々が予測可能であることが示された。しかし、アメリカとドイツにおけるプロテスタントとカトリックに分けた分析によると、態度や価値観が両者間である意味では逆転する（アメリカのプロテスタントとドイツのカトリック、アメリカのカトリックとドイツのプロテスタントが対応）ような傾向も見られた（Hayashi, F & Suzuki, T., 1995）。名目上の宗教が同じであっても、歴史的な背景や社会状況からその意味するところが異なることが、こうした意識調査データの分析から確認されたのであった。

東アジア価値観調査から、日本を中心に、台湾、韓国、中国において、信仰の有無と宗教的な心がどのような意味を持つか、多少宗教と関連のありそうな意識との関連に注目してみた。

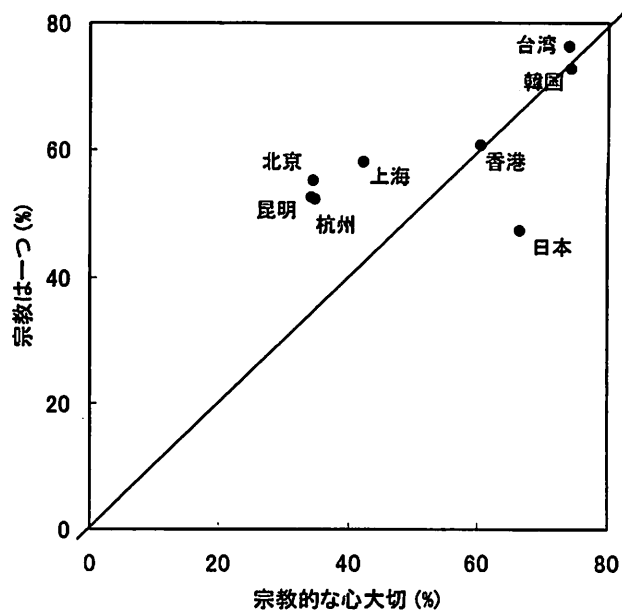


図4. 「宗教は一つ」と「宗教的な心は大切」
(東アジア価値観調査)

表2. 「信仰あり」内の選択率から「信仰なし」内の選択率を引いた差

	宗教は一つ	先祖普通より尊ぶ	先祖尊ぶべき	養子につがせる	親孝行	恩返し	権利尊重	自由尊重	臓器移植賛成
日本	6.5	33.0	26.5	6.8	6.5	5.2	-1.4	-11.1	-8.3
韓国	2.9	1.6	6.5	4.6	4.1	4.6	-1.2	-7.3	0.2
台湾	7.3	7.5	8.1	-0.1	5.5	9.5	-10.5	-7.1	-8.5
シンガポール	5.1	14.7	8.0	11.0	7.2	5.4	-7.8	-7.0	-6.0
香港	-3.7	6.5	6.2	4.6	0.8	-1.4	-2.1	3.4	-0.3
上海	2.0	7.1	4.9	-4.0	3.3	9.0	-9.9	-3.2	-7.8
北京	12.3	7.1	14.3	-0.6	4.4	-1.5	-2.8	0.2	-4.6

網掛けは有意差(危険率5%)

表3. 「宗教的な心大切」内の選択率から「宗教的な心大切でない」内の選択率を引いた差

	宗教は一つ	先祖普通より尊ぶ	先祖尊ぶべき	養子につがせる	親孝行	恩返し	権利尊重	自由尊重	臓器移植賛成
日本	9.8	25.8	18.4	3.0	7.2	11.6	-10.0	-8.4	-5.9
韓国	9.2	0.7	2.4	4.5	4.8	-1.1	0.2	-0.2	4.2
台湾	21.7	11.2	20.2	9.4	7.7	-0.4	-6.7	-1.5	-9.4
シンガポール	5.7	16.3	6.9	16.9	6.2	-1.3	-5.4	-2.2	4.4
香港	0.7	0.8	12.7	2.9	-1.7	-3.0	3.9	-0.1	3.8
上海	21.4	-0.4	-2.0	1.8	-1.3	0.2	-2.4	3.8	-5.7
北京	5.9	-2.7	2.0	-3.7	-0.5	-2.1	0.5	2.6	-1.4

網掛けは有意差(危険率5%)

まず、「いろいろな宗教の教えは結局は同じ」という考えに賛成する人の割合が高いのは、台湾 76%、韓国 73%、香港の 61% であり、これは「宗教的な心は大切」と回答する比率の高さとほぼ対応している。日本だけが、「宗教的な心は大切」の率の高さに比べて「宗教の教えは結局は同じ」という考えが少な目であり、「宗教の教え」という考えに懐疑的な人々が多いのかもしれない (図 4)。

次に、「信仰あり」・「なし」間、「宗教的な心は大切」・「大切でない」間の意見差をとらえてみた (表 2, 表 3)。台湾では、「信仰の有無」よりも「宗教的な心を大切と思うか」の方に「宗教の教えは同じ」の考え方の違いが強く現れており、日本、韓国も同様の傾向がある。

表 2 と表 3 には、同じように、他の考え方についての意見差をも示した。差が大きいもの (一応、危険率 5% で有意な差) を網掛けで示した。「信仰あり」・「なし」間の違いも、「宗教的な心は大切」・「大切でない」間の違いも、概して同様の傾向が見られ、北京、上海では「宗教的な心は大切」・「大切でない」間の意識の違いが「宗教は一つ」の考え以外に殆どないこと、有意ではないものの、「臓器移植に賛成」の率、親孝行、恩返し、権利、自由から大切なものを 2 つ選ぶ回答で「権利」をあげる率、「自由」をあげる率が、国・地域によって意見差の方向に違いがあることなど、気にな

る結果である。また、臓器移植に賛成という考えは、「信仰あり」より「なし」の方に多いが、宗教的な心との関連では逆に「宗教的な心は大切」な方に賛成が多い傾向が、韓国、シンガポール、香港で見られるのは興味深い。一方で、「宗教的な心は大切」と他者愛との関係、他方で身体を傷つけることを禁忌 (タブー) とする宗教的教えとの関連を交絡させて考察する必要があるか。

次に、「先祖を尊ぶ」こととの関連をみたい (注 1)。日本では、「信仰あり」・「なし」間でも、「宗教的な心は大切」・「大切でない」間でも、「先祖を尊ぶ」という考えに大きな差がある。

筆者は、この先祖を尊ぶことと宗教あるいは宗教的な心との相関の傾向は、以前から、日本の特徴なのかアジアの特徴なのかと考えてきた。東アジアの調査結果をみると、日本の他に比較的大きな差がみられたのは、シンガポールと台湾と、北京における信仰あり・なし間であり、それ以外の国・地域は同じような差の傾向はあるもののそれほど大きくない。つまり、宗教との関連は、アジア一般の特徴とはいえないようである。

では、欧米はどうであろうか。図 5 は東アジア価値観調査と日米欧七カ国調査の結果である。先祖を「普通より尊ぶ」「普通」「普通より尊ばない」の回答分布

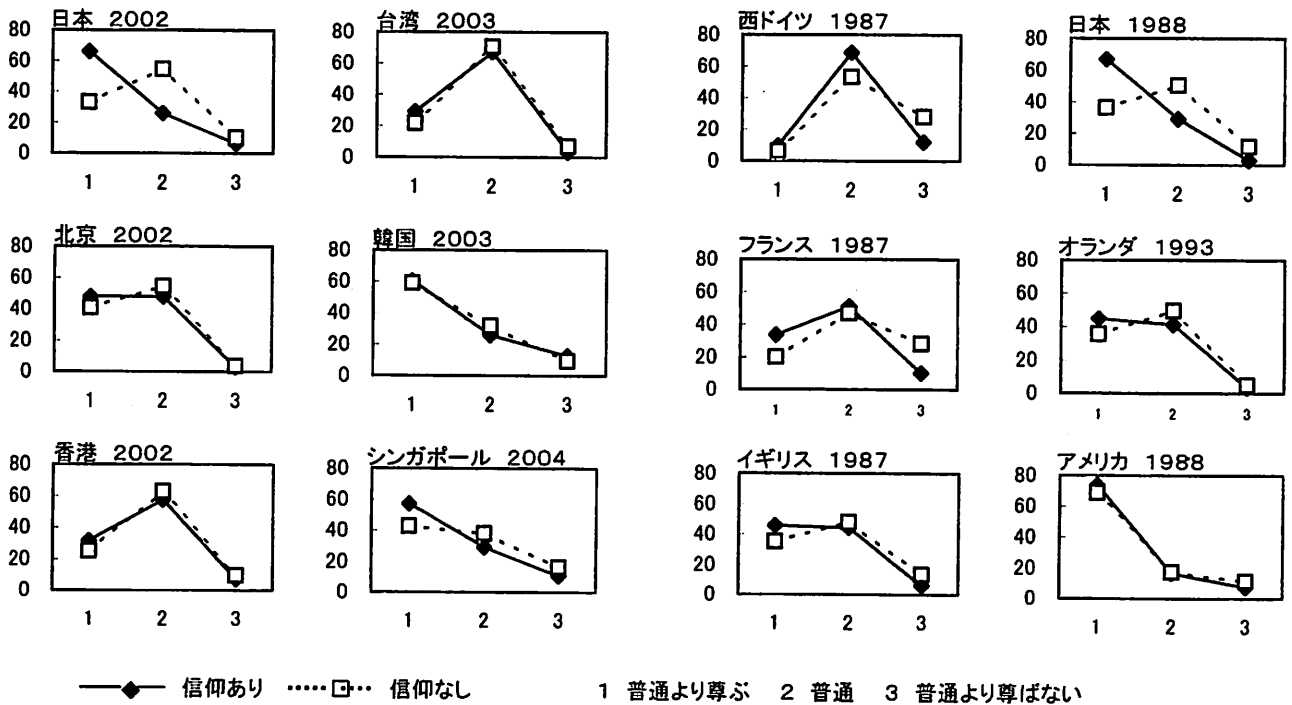


図 5. 「信仰あり」と「信仰なし」の「先祖を尊ぶか」の回答分布比較

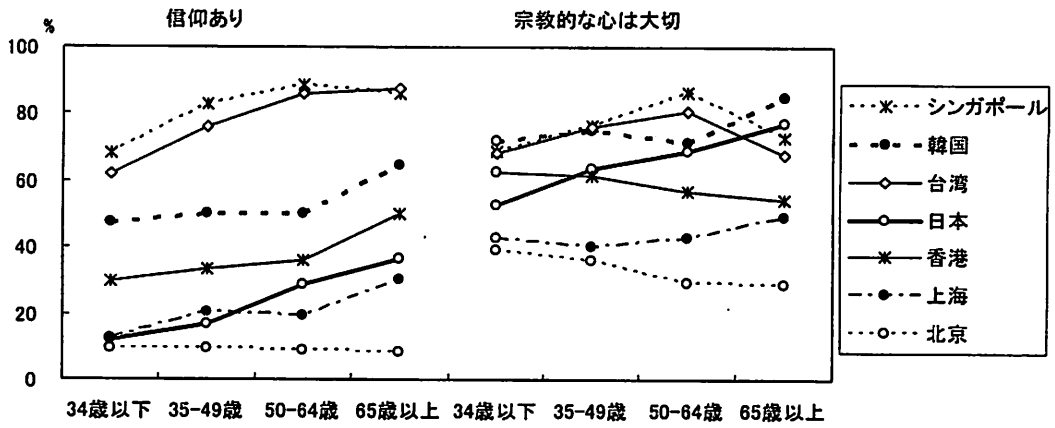


図 6a. 年齢層別「信仰あり」「宗教的な心は大切」
(東アジア価値観調査)

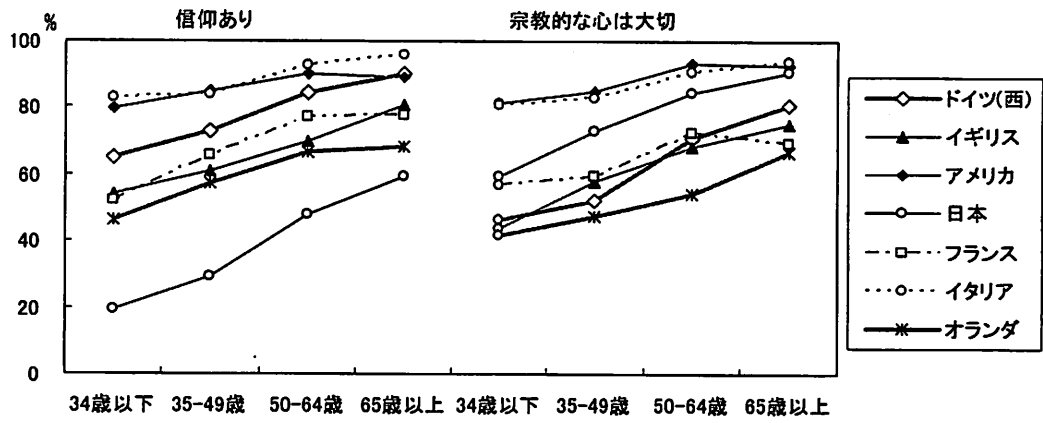


図 6b. 年齢層別「信仰あり」「宗教的な心は大切」
(日米欧七カ国調査)

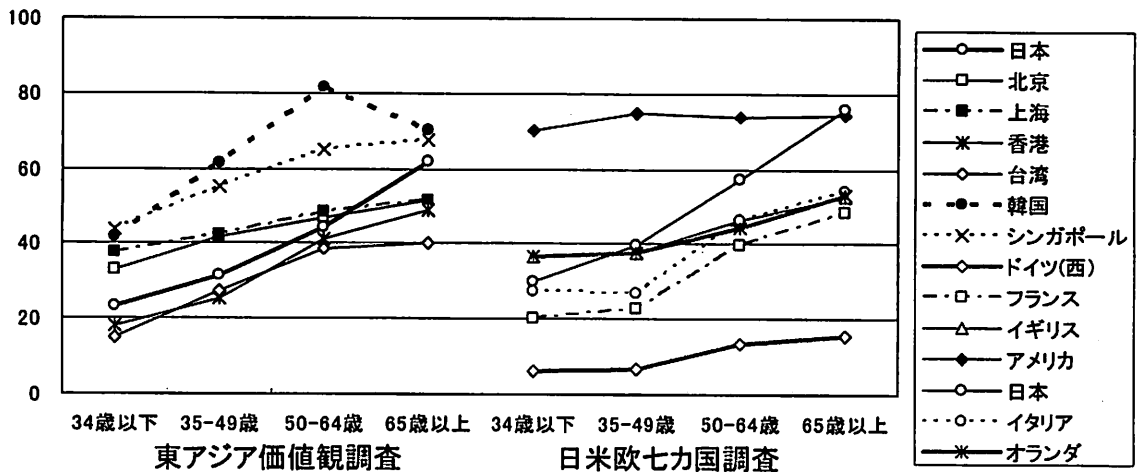


図 7. 年齢層別「先祖を普通より尊ぶ」

を「信仰あり」・「なし」別に示したものである。両者に関きがあることは先祖を尊ぶことと信仰と関連があるということであるが、西欧は、むしろ東アジアよりも関連があり、このことから、先祖を尊ぶことと信仰が強く結びついているのは、一般アジアの特徴とは言えず、日本の人々の考えの特徴であることが明らかになってきた。

ここで、一般に信仰も先祖を尊ぶことも年齢と相関があると思われるので、その様子を図6、図7に示す。確かに、中でも日本における年齢と信仰や先祖を尊ぶこととの関連は強いが、それだけでは説明できない日本人の宗教に対する考え方の特徴を示しているのではないだろうか。

4. 宗教的な心と満足感

さて、宗教やスピリチュアルなものが人々の生活の満足感に影響を与えているという考え方がWHOでも提起されている(厚生省, 1999)ので、東アジア価

値観調査のデータでも分析を試みた。取り上げた質問項目は、宗教は従来の信仰ではなく、素朴な宗教的な関心として「宗教的な心は大切か」、「靈魂」や「死後の世界」が存在すると思うか、生活上の満足感(健康、家庭、生活)、科学文明観ポジティブかネガティブか、などである。これらの回答の関連をパターン分類の数量化(数量化III類)で分析した。取り上げた質問と回答選択肢を表4に示す。

それぞれの国・地域毎にパターン分類の数量化による分析の結果をみていくと、回答間の結びつきが大きくなって3つのタイプに分けられるようである。3つのタイプに該当する、日本と韓国と台湾の結果を図8a, b, cに示した。図中の記号は表4の数字(質問項目カテゴリ)に対応している。

日本は、「満足感」と「宗教的な関心」とが近い関係にあり、科学文明観はポジティブでもネガティブでもない中間意識と宗教的な関心との関係が近い。韓国は、満足感と宗教的な関心とが近い関係にあるのは日本と同様であるが、ネガティブな科学文明観と宗教的な関

表4. パターン分類に用いた質問と回答選択肢
回答選択肢と内容(記号は図8中の記号と対応する質問項目カテゴリ)

先祖	1.1 普通より尊ぶ	1.2 普通より尊ばない	1.3 普通		
靈魂	11b1 存在する	11b2 あるかもしれない	11b3 存在しない		
死後の世界	11c1 存在する	11c2 あるかもしれない	11c3 存在しない		
健康状態	5.1 非常に満足	5.2 満足	5.3 あまり満足していない	5.4 満足していない	
家庭に満足か	13.1 満足	13.2 やや満足	13.3 どちらともいえない	13.4 やや不満	13.5 不満
生活に満足か	14.1 満足	14.2 やや満足	14.3 どちらともいえない	14.4 やや不満	14.5 不満
人の心の解明できる	29b1 全くそのとおり	29b2 そう思う	29b3 そうは思わない	29b4 決してそうは思わない	
経済・社会的問題解決	29c1 全くそのとおり	29c2 そう思う	29c3 そうは思わない	29c4 決してそうは思わない	
火星での生活できる	29d1 全くそのとおり	29d2 そう思う	29d3 そうは思わない	29d4 決してそうは思わない	
宗教的な心	32.1 大切	32.2 大切でない			
親の難しい手術	49b1 全財産なげうつ	49b2 無理しない			

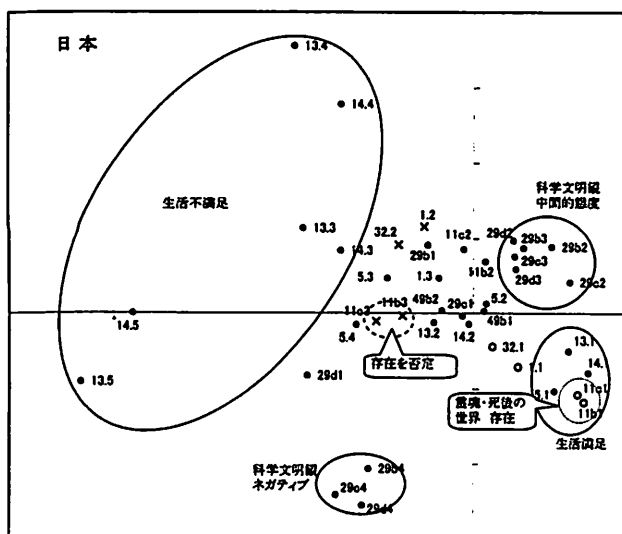


図 8a. 宗教的感情, 幸福観, 科学文明観などのパターン分類 (日本)

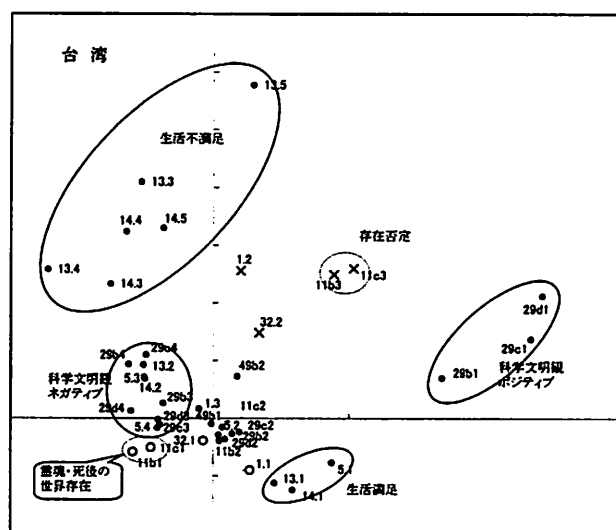


図 8c. 宗教的感情, 幸福観, 科学文明観などのパターン分類 (台湾)

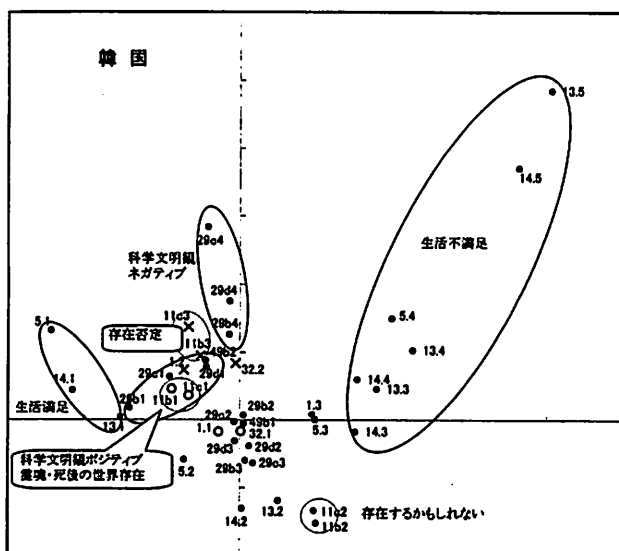


図 8b. 宗教的感情, 幸福観, 科学文明観などのパターン分類 (韓国)

心との関係が近い。台湾は、宗教的な関心と関連があるのは満足感が低い方とネガティブな科学文明観であり、北京と上海は台湾と比較的似ている。

宗教的な関心と生活満足感との結びつきは、単純にどの国・地域でもみられるものではなさそうである。関連がみられたとしても、宗教的な関心が高いから満足感があるのか、満足だから宗教的なものへも関心を示せるのか、また逆の関係からは、生活に不満なものがあつたために宗教的な関心が高くなるということもある

だろう。さらに、分析を深める必要がある。

5. ま と め

人々の意識に関する調査データから、様々な意識との関連の中に日本人にとっての宗教の意味を探ろうと試み、「宗教的な心」という考え方そのものや先祖を尊ぶこととの関連を特徴として捉えてみた。それぞれの国・地域によって、それらの概念の意味が異なることが示唆された。イスラム教の国・地域の調査は科学的な標本抽出調査が今のところ困難であり行っていないが、宗教そのものや宗教的な心の、現実の生活と意識との関連からみられる意味の研究が、異文化間の相互理解につながる鍵と考えている。

本稿は平成 16 年日本分類学会第 21 回研究報告会、平成 17 年 8 月の日本行動計量学会第 33 回大会における発表原稿を加筆修正したものであり、内容の一部は林 (2006) で発表した。

注

- (1) 先祖を尊ぶことについての質問は、日本人の国民性調査でも用いられてきた質問「あなたはどちらか」というと先祖を尊ぶ方ですか、それとも尊ばない方ですか」を国際比較用に変更した「あなたはどちらかといえば、普通より先祖を尊ぶ方ですか、それとも普通より尊ばない方ですか」としたものと、伝統的価値観の一つとして「先祖を尊ぶ

べき]についてどう思うか、の2つの質問が用いられている。後者では「1. 全くそのとおりだと思う」「2. そう思う」「3. そうは思わない」「4. 決してそうは思わない」の4回答選択肢のうち1と2に9割が集中し、1と2の違いを論じることになり、中間回答傾向の問題と絡み分析し難いので、ここでは前者の「尊ぶか」の質問の回答を主に取り上げた。

参考文献

- 林知己夫編 (1976) 「比較日本人論—日本とハワイの調査から」, 中公新書。
- 林知己夫ほか (1991) 「意識の国際比較方法論の研究—新しい統計的社会調査法の確立とその展開—」, 統計数理研究所研究レポート71, 統計数理研究所。
- 林知己夫, 統計数理研究所国民性国際調査委員会 (1998) 「国民性七カ国調査」, 出光書店。
- Hayashi, F. & Suzuki, T. (1995) Data Analytic Representation of Characteristics of Various Breakdowns in Cross-Cultural Survey, "Data Science and Its Applications (Hayashi, C. et al. eds.), Academic Press.
- 林 文 (2004) 日本人の自然観と素朴な感情, 特集「国民性を学際的に見る」, 学際, No. 12, 32-38.
- 林 文 (2006) 日本人の素朴な宗教的感情, TASC MONTHLY, No. 361, たばこ総合研究センター。
- 保坂幸博 (2003) 「日本の自然崇拜, 西洋のアニミズム」, 新評論。
- 厚生省報道発表資料 (1999) WHO憲章における「健康」の定義の改正案について, http://www1.mhlw.go.jp/houdou/1103/h0319-1_6.html
- 末綱恕一監修, 統計数理研究所国民性調査委員会 (1961) 「日本人の国民性」, 至誠堂。
- 統計数理研究所国民性調査委員会 (2004) 国民性の研究第11次全国調査, 統計数理研究所。
- WHO (1995) The Structure of the WHOQOL-100, <http://www.who.int/evidence/assessment-instruments/qol/q15.htm>
- 吉野諒三編 (2003a) 日本・中国の国民性比較のための基礎研究—中国北京市における意識調査—, 統計数理研究所研究レポート89, 統計数理研究所。
- 吉野諒三編 (2003b) 日本・中国の国民性比較のための基礎研究—中国上海市における意識調査—, 統計数理研究所研究レポート90, 統計数理研究所。
- 吉野諒三編 (2004a) 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析— 2002年度日本調査報告書, 統計数理研究所研究レポート90, 統計数理研究所。
- 吉野諒三編 (2004b) 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析— 2002年度中国[北京・上海・香港]調査報告書, 統計数理研究所研究レポート91, 統計数理研究所。
- 吉野諒三編 (2005) 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析— 2004年シンガポール調査報告書, 統計数理研究所研究レポート92, 統計数理研究所。

(2005年10月30日受付, 2006年1月30日最終修正)

付 本文で用いた調査質問文と回答選択肢
(東アジア価値観調査の日本調査による)

問1 あなたはどちらかといえば、先祖を尊ぶほうですか、それとも普通より尊ばない方ですか。

- 1 普通より尊ぶ方 2 普通より尊ばない方
3 普通

問2 子どもがないときは、血のつながりがない他人の子供を、養子にとって家をつがせた方がよいと思えますか、それとも、つがせる必要はないと思えますか。

- 1 つがせた方がよい 2 つがせる必要はない
3 場合による

問11 次にあげるものをあなたは「ある」または「存在する」と思えますか。それぞれについてお答え下さい。

- a. 神や仏
1 ある・存在する 2 あるかも知れない
3 ない・存在しない

- b. 死後の世界
1 ある・存在する 2 あるかも知れない
3 ない・存在しない

問5 あなたと同じ年の人と比べて、あなたの健康状態はいかがですか。

- 1 非常に満足している 2 満足している
3 あまり満足していない 4 満足していない

問13 あなたは自分の家庭に満足していますか。それとも不満がありますか。

- 1 満足 2 やや満足 3 どちらともいえない
4 やや不満 5 不満

問14 あなたの生活についておきします。ひとくちについてあなたは今の生活に満足していますか、それとも不満がありますか。

- 1 満足 2 やや満足 3 どちらともいえない
4 やや不満 5 不満

問23 つぎのうち、大切なことを2つあげてくれといわれたら、どれにしますか。

- a 親孝行、親に対する愛情と尊敬
b 助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する
c 個人の権利を尊重すること
d 個人の自由を尊重すること

問29 つぎに読みあげる事柄についてあなたはどのように思えますか。それぞれについて、この中からお答えください。

b. 科学技術が発展すれば、いつかは人間の心の心まで解明できる。

- 1 全くそのとおりだと思う 2 そう思う
3 そうは思わない 4 決してそうは思わない

c. 今日、我々が直面している経済的、社会的問題のほとんどは科学技術の進歩により解決される。

- 1 全くそのとおりだと思う 2 そう思う
3 そうは思わない 4 決してそうは思わない

d. 将来、科学技術の発展により、火星でも、地球と同じような生活ができるようになる。

- 1 全くそのとおりだと思う 2 そう思う
3 そうは思わない 4 決してそうは思わない

問31a 宗教についておききたいのですが、たとえば、あなたは、何か信仰とか信心とかを持っていますか。

- 1 もっている、信じている
2 もっていない、信じていない、関心がない

問32 それでは、いままでの宗教にかかわりなく、「宗教的な心」というものを、大切だと思えますか、それとも大切だとは思いませんか。

- 1 大切 2 大切でない

問33 宗教について、こんな意見があります。「宗教にはいろいろあり、それぞれ独自の教えを説いているが、そうした教えは、けっきょくは同じものだ」というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか。それとも反対ですか。

- 1 賛成 2 反対

問49a 次のような場面を想像してください。あなたは幼いときに両親と死に別れ、近所に住んでいた田中さんに育てられました。そのおかげで、大学を卒業し、いまでは生活に余裕もできました。ところが、今、恩人の田中さんは病の床にふし、苦しんでいます。本人はしりませんが、医者にはあと3ヶ月の命と聞きました。しかし、特別な手術をすれば苦しみはとれ、回復できる可能性があると聞きました。身よりもなく、経済的余裕もない田中さんを救うためには、あなたの全財産を使わなければなりません。あなたはどのように思いますか。

b 今の質問では、恩人の場合をききました。もし病気なのがあなたの本当のご両親のどちらかの場合だったらどうしますか。

- 1 全財産をなげうっても、ぜひ手術をしてもらう

2 無理せず、手術はあきらめる

問 53 現代の進んだ医療の一つとして、交通事故や病気などで亡くなった方の心臓や肝臓などの臓器を、重い病気で苦しんでいるほかの人に移植することが可能になっています。このような医療について、あなたのお考えは、次のどちらの

意見に近いですか。

- 1 重い病気の人が元気になれるのだからよいことだ
- 2 いくら人の命を救うためとはいえ、亡くなった人の体の一部を取り出すのはよくないことだ

東アジアにおける組織に対する信頼感

—— 国際比較のための信頼感の分析 ——

松 本 渉

Sense of Trust on Organizations in East Asia
—— Analysis for a Cross-National Comparative Study ——

Wataru MATSUMOTO

The objective of this paper is to examine the structure of trust on organizations of the East Asian countries and the possibility of a cross-national comparative study, using data analysis of the East Asia Value Survey. Multiple Group Analysis and Categorical Principal Component Analysis are principally used in this study. This paper first examines the structure of trust in organizations. Two findings were made. Two types of common factors (establishment trust and civil trust) can be assumed. In addition, these factors can only be considered completely the same either in mainland China or in Japan, Korea, Taiwan and Hong Kong. This paper also investigates whether trust in individuals can explain trust in organizations. Results indicate that trust in individuals cannot alone explain trust in organizations. This suggests the need for synergy trust in organizations.

Key words: sense of trust in organizations, multiple group analysis, a cross-national comparative study, East Asia, categorical principal component analysis (CATPCA)

キーワード: 組織に対する信頼感, 多母集団の同時分析, 国際比較研究, 東アジア, カテゴリカル主成分分析 (CATPCA)

1. 本論文の目的と意義

1.1. 社会関係資本

物的・人的資本の投入量が同程度であれば, どの社会でも経済的な産出量や政治的な機能の実効性が同程度になるとは限らない。このうち, 経済的な産出量については, 経済成長理論に関連した成長会計の中で従来から議論されてきた。いわゆる, 生産要素の伸びと実際の成長率の伸び率における乖離を説明する全要素生産性 (TFP, Total Factor Productivity) のトピックである。アジアに関していえば, Young (1994) が, 香港・シンガポール・韓国・台湾の1966年から1990年

までの経済成長に関して, 全要素生産性の寄与について否定的な見解を示す一方, Page (1994) は, 同時期のアジアの経済成長に関して単なる人的・物的資本の投入以上の改善があると論じている。ただ, いずれにしても, 全要素生産性の議論においては, 労働の質的改善や技術進歩などといった要因がその説明の中心にあった。しかしながら, やがてそのような既存研究が示してきた要因だけでは十分に説明しえない部分が残ると考えられ始めていた (大守, 2004)。

ちょうど同じ時期に, Coleman (1988), Putnam (1993) 以降, ソーシャル・キャピタル (social capital) という概念が, 諸学問の間で注目を集めるようになる。後で述べるように, この動きが経済成長の議論に合流する。なお, ここでいうソーシャル・キャピタルは, 物的インフラストラクチャーを意味する社会的資本のことではない。Baker (2000) や佐藤 (2001), 金光 (2003) を踏まえると, 信頼, 影響力, 精神的サポート,

統計数理研究所/総合研究大学院大学複合科学研究科
(The Institute of Statistical Mathematics/Graduate
University of Advanced Studies)
連絡先: 〒106-8569 東京都港区南麻布4-6-7

善意、協力、人的ネットワーク等のような人的な関係性の資産であると定義できるものである。なお、本論文では、佐藤 (2002) にならって、これらを総称して社会関係資本と呼ぶこととする。

もともと、社会関係資本 (Social Capital) の用語は、Hanifan (1916) が、「善意、親睦、共感しあうこと、社交」といった意味で用いていたように、言葉自体新しいものではない。また、信頼や協力などの社会関係資本として取り扱われる概念の多くの研究も、それ自体珍しいものではない。古くさかのぼれば、アダム・スミスの『道徳感情論』(1759)における「想像上の立場の交換」に基づく同感 (sympathy) の概念にも、その一端が垣間見られると言えよう¹⁾。

しかしながら、昨今における、この社会関係資本という概念の登場は、以下の三つの意義がある。

第一に、諸々の社会関係・社会的機能を一括して命名したことで、一つの共通する概念として考察すべき対象としての地位を与えた (佐藤, 2002)。

第二に、資本という経済学的な概念をインフォーマルな社会制度に適用することで、社会学・人類学等と経済学との間に共通の議論を可能にしたため (坂田, 2002), 後述するように、それまで各学問分野で別々の研究領域されてきた事項を結びつける連結環としての役割を、社会関係資本の概念が果たしつつある。

第三に、(これは、筆者の見解だが、) その結果、これらの諸概念について、学際的に指標化・数値化する取り組みが、再行われるようになってきた。

このことは、次のような社会関係資本の経緯から理解される。

まず、多くの研究を刺激する発端となった Putnam (1993) の研究は、そもそもイタリアの地方分権の成果の差異 (制度のパフォーマンス) に対する疑問に端を発した政治学的な研究であり、社会関係資本の蓄積の多寡が政治的な機能の実効性に差異が生じると主張するものであった。そのため、Putnam (1993) では、社会関係資本の制度パフォーマンスの影響が主張の中心にあり、経済発展への影響は派生的な議論という扱いであった。しかし、Helliwell & Putnam (1995) になると、イタリアの諸都市の一人当たりの GDP のデータを用いて、社会関係資本の経済成長への影響が正面から論じられるようになった。Fukuyama (1995) も、同年、社会関係資本を国単位のマクロ経済成長へ影響する見解を示している。その翌年、Helliwell (1996) は、今度はアジアにおける社会関係資本と経済成長の

関係を論じると同時に、世界価値観調査 (World Values Survey, WVS) のデータを用いた回帰分析によって、OECD 諸国における社会関係資本と経済成長の関係を論じている。1997 年には、La Porta, Lopez-de-Silanes, Shleifer & Vishny (1997) や Knack & Keefer (1997) も、世界価値観調査 (World Values Survey) のデータを用いて、社会関係資本と経済成長との関係を分析している。

一方、この動きと並行するかのようになり、世界銀行²⁾でも、社会関係資本に期待が持たれるようになってきた。この背景には、1980 年代に採用されていた「ワシントン・コンセンサス」に対する多くの批判があったとされている (宮川, 2004)。そのため、1993 年の時点において、すでに「環境の持続可能な開発に対する副総裁諮問委員会」(Advisory Council to the Vice Presidency for Environmentally Sustainable Development) の中で社会関係資本に関する議論があったという (坂田, 2001)。さらに、世界銀行は、その後も Web 上で、“The initiative on defining, monitoring and measuring social capital: overview and program description” (1998 年 4 月) を皮切りに *Social Capital Initiative Working Paper Series* として多数の論文を出すなどして社会関係資本についての積極的な立場を示し続ける。その結果、開発援助の分野でも、社会関係資本に注目が集まるようになってきた (坂田, 2002)。

これだけではない。社会関係資本は、その定義に照らせば、その一部、もしくは関連概念として、NPO (nonprofit organization) や NGO (nongovernmental organization) といった民間非営利組織も含まれるのが自然である。そのため、日本の NPO 研究者の間でも、社会関係資本の概念が、研究対象として注目されるようになってきた。大阪大学 NPO 研究情報センターでは、ソーシャル・キャピタル研究会 (2002 年 9 月～2003 年 1 月)、ソーシャルキャピタル・地域力研究会 (2004 年 4 月～2005 年 1 月) が相次いで開催されている³⁾。

1.2. 組織に対する信頼感に注目する理由

「信頼」は、社会関係資本の一つであるが、単なる一要素の地位にとどまらず、社会関係資本の基本をなすものと考えられている (宮川, 2004)。実際、Fukuyama (1995) が、国家間の経済発展の差異を議論する中で、社会関係資本としての信頼の重要性を強調して以来、山岸 (1998)、荒井 (2001)、Yoshino (2002)、吉野 (2005d)

などにみられるように、信頼に注目して、日本社会を国際比較の観点から理解しようという研究が盛んになってきたという経緯もある。また、Knack & Keefer (1997), La Porta, Lopez-de-Silanes, Shleifer & Vishny (1997) や Uslaner (2002, 2003) においても、一国における人々の信頼感の高低と多くの社会的・経済的指標との関連性が論じられており、信頼の理解は、国際比較の観点から特に重要であるという認識は、多くの論者の中で共有されつつあると言えよう。

この一方で、近年の情報化社会を背景として、「信頼」を重視する見方も出てきている。例えば、國領(1999)は、情報化社会における人間の認知処理能力の負担と限界に注目し、インターネットと電子商取引の普及によって、信頼の希少価値が一層増加していると現状を解釈している。また、金子(1998)は、信頼(信用)を「情報の情報」という解釈する立場から、その提供は、インターネット社会における最大の関心事と位置づけている。

そこで、吉野(2005d)と同様、本論文においても、社会関係資本の中のうち、信頼に注目する。ただし、信頼の中でも、特に組織に対する信頼感に注目することとした。これは、以下で述べるような2つの理由による。

第一の理由は、信頼の蓄積と社会や経済の改善に関係があるとする議論において、しばしば、その中間に組織の形成過程の存在を前提とする論理展開が見受けられることである(例えば、山岸, 1998; 荒井, 2001)⁴⁾。信頼を前提とした組織形成が、社会や経済の改善に寄与するというのなら、人に対する信頼と同時に、組織に対する信頼についても検討する価値があるはずである。

第二の理由は、組織という概念は、いわば社会関係資本に包含される信頼や影響力、協力、人的ネットワーク等の有機物とも言えるものだからである。組織論研究においては、必ずしも社会関係資本という名称が用いられてきたわけではないが、単なる物的資本や人的資本といった経営資源の投入量だけが、経営目的上の成果を決めるものではないということは、古くから常識とされていた。例えば、近代組織論の父 Barnard (1938) において組織成立のために最も重視されていたのは、組織参加者におけるコミュニケーションと貢献意欲、そして共通目的といった三要素のそろった協働システムの維持であり、単なる経営資源の多寡ではなかった。組織そのものが人的な関係性の資産であり、

生産要素以外の見えざる関係性資産を社会関係資本と呼ぶのであれば、システムとしての組織概念は社会関係資本に該当する。協働の成立には、コミュニケーションに信頼が加わることが不可欠であるから(國領, 1999)、組織に対する信頼は、いわば複合的社会関係資本とも言うべきものであろうと思われる。

本論文では、上記の2つの理由を踏まえ、組織に対する信頼に、特に注目して分析を行う。なお本論文では、以降「組織に対する信頼」を「対組織信頼」と呼び、「個人に対する信頼」を「対人信頼」と呼んで、両者を区別することとする。

1.3. 国際比較研究としての位置づけ

対組織信頼(組織に対する信頼)に関連する研究は、数多く見受けられる。

Zand (1972) は、信頼が成員間のコミュニケーションを円滑にし、その結果、組織運営上有用であることを分析から示している。Citrin & Green (1986) は、政府に対する信頼に関するトレンドを他の変数との関連性から議論している。Dyer & Ouchi (1993) のように、企業間の組織間信頼と調和を前提とする日本企業のパートナーシップに注目した研究もある。Morgan & Hunt (1994) は、タイヤ業界のサプライヤーに対する関係性コミットメントと信頼との関連性、および両者の企業間協調に与える影響を論じている。真鍋(2002)は、自動車産業を事例に、企業間協調において、合理的信頼(経済的な合理性を背景とする組織間信頼)よりも関係的信頼(社会的関係性を背景とする組織間信頼)が重要であることを導いている。鈴木(2002)においても、10年分の時系列データをもとに企業のイメージマネジメントを論じる中で、変数の一つとして信頼性が用いられている。

一方、国際比較調査である WVS(世界価値観調査)⁵⁾ においても、対組織信頼に関する質問項目は、以前から取り上げられてきた。さらに、最近では、猪口(2003, 2004)のように、グローバリゼーションの影響を探る観点から、政治組織、国際組織、大企業などの対組織信頼についての国際比較分析も見られる。

本論文では、「東アジア価値観調査」特集ということもあり、対組織信頼に関しての東アジアにおける国際比較というテーマを取り上げる。この意義は、次のような世界の動きに関連する。

1995年の阪神大震災以来のボランティア・NPOの活躍、NPO法制定と施行(1998)、その改正法の制定

(2002)と施行(2003)といった動きをうけ、法人認証された累計団体数も2005年11月末現在で、24,000を超えるようになった⁶⁾。日本国内におけるNPO・NGOは、組織力をつけて、自律的な成長軌道にのせる動きが期待され、また模索されつつある状況であり(松本・高橋, 2002; 松本, 2003a), 概念自体も今後大きく変化を遂げる可能性に満ちた状況である(松本, 2003b)。

これは日本に限った話ではない。NPOWEB⁷⁾の記事(2004年6月30日)によれば、中国でも、近年のNPOセクターの成長を反映して「基金条例⁸⁾」が2004年6月1日に施行され、さらにNPO全体を対象とするより包括的なNPO法の制定も検討されているという。また、1998年の全国人民代表大会での議論から、従来は人民公社の政府からの分離を意味する言葉だった「政社分離」が、社会団体の政府からの分離を意味するものとして用いられるようになってきた(岡室, 2002)。

ここでいう中国のNPOは、いわゆるグラスルーツのNPOを意味するとは限らないであろう。また、日中両国のNPOがどの程度同じ議論の俎上に載るのかは、見解の分かれることかもしれない。しかし、昨今、脱北問題で日本のNGOの中国での活躍がしばしば報道されていることでもあり、中国においても何らかの非営利セクターの活動が芽生えつつある可能性を否定できないであろう。

このような国内外の非営利セクターの勃興の動きや変化を踏まえると、東アジアにおけるNPO・NGOの萌芽と隆盛の土台を考える素材として、組織に対する人々の信頼感をとりあげること意義は、少なからずあると考えられる。

NPOやNGOの国際比較研究としては、Johns Hopkins Comparative Nonprofit Sector Project (JHCNP) が著名であるが、これは欧米と中南米がリサーチの中心で、アジアで詳細な実証的データが集められたのは日本だけであり⁹⁾、その中身も経済データの推計などが中心であった(Salamon & Anheier, 1994)。一方、国別の対人信頼と経済的指標の関係については、Knack & Keefer (1997), La Porta et al. (1997), Uslaner (2002, 2003) などの研究がある。ただし、これらは、国別のマクロ集計を用いたものであるし、対組織信頼を扱ったものではない。この点、Paxton (1999) は、資本社会関係資本の時系列の変遷を示す研究において、対組織信頼に関するデータを構造方程式モデリング(SEM)によって分析している。しか

し、これは、GSS(General Social Survey)の累積データを分析した米国一国の時系列研究で、国際比較の視点はない。

そこで、本研究では、「東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—」で得られた日本・北京・上海・杭州・昆明・韓国・台湾・香港の8つの国・地域の個票データをもとに、対組織信頼の差を生み出す構造を国際比較分析した。

なお、「東アジア価値観国際比較調査」は、2002年度から2003年度にかけて、日本・北京・上海・香港・台湾・韓国について実施された。2003年度には、この「東アジア価値観国際比較調査」(と「データ科学に基づく日中国民性比較の研究」)の一環として、杭州市と昆明市においても生活・文化意識調査が行われている¹⁰⁾。「東アジア価値観国際比較調査」に関する詳細については、吉野(編)(2004a, 2004b, 2005a, 2005b)および鄭(編)(2005)を参照して頂きたい。また、調査全体の趣旨や意義については吉野(2005c, d)が、データの安定性については山岡・李(2004)が議論している。

2. 問題の所在

2.1. 対組織信頼の検討

例えば、何か国かで活動する特定の組織が、特定の国において、何らかの問題に突き当たったとしよう。その組織は、営利企業でも、NPOでもよいのだが、仮にNPOだったとしよう。その際、ある場合は、NPO一般の存在が浸透しておらず、NPOに対する信頼(対組織信頼)が低いからだと考える人もいるだろう。しかし、一方で、その場合であっても、その国では、そもそも一般に信頼(対人信頼)が低いからだと考える人もいるかもしれない。

後者の理屈は、対組織信頼に、対人信頼が大きく影響するという前提に立っている。逆に、もし、そうでないならば、対組織信頼は、対人信頼の単なる集積にとどまらず、組織を形成することによって独自に生み出された価値を多く有しており、組織が形成されるための協働作用の良し悪しによって、大小のシナジーが生み出されることを意味する。この「対組織信頼」から「対人信頼」を差し引いた残差の部分を試行的に想定すれば、さしずめ「シナジー対組織信頼」と呼ぶことができるものである。

本論文では、対組織信頼がどのような成分に分解できるのか、具体的には、対組織信頼は対人信頼だけで

説明できない部分が多いのか少ないのか、言い換えれば、そもそも「シナジー対組織信頼」が有るのか無いのかについて、国際比較研究の観点から検討していくこととしたい。本論文もまたその点で、調査結果の数字を単に比較する研究ではなく、国際比較可能性の方法論の研究(吉野, 2005c)なのである。

2.2. 使用する質問項目

本論文では、前述のような問題意識に基づき、対組織信頼についてのデータの詳細な検討、および対組織信頼と対人信頼との関係を分析する。その際、東アジア価値観国際比較調査において得られた対組織信頼についての質問(Q41)と対人信頼についての質問(Q26, Q27, Q28)を用いる。まず、これらについて、説明を加えておこう。

2.2.1 対組織信頼の質問(Q41)

対組織信頼について尋ねた質問(Q41)は、「a. 宗教団体, b. 法律や裁判の制度, c. 新聞・テレビ, d. 警察, e. 国の行政, f. 国会, g. NPO・NGO, h. 社会福祉施設, i. 国連, j. 科学技術」といった10の項目に関して、「非常に信頼する」「やや信頼する」「あまり信頼しない」「全く信頼しない」の4件法で回答者に選択してもらうものである。しかし、「j. 科学技術」については、①他の項目と概念的にかなり異なっており、後述するような組織の概念に含められないこと、②実際にデータを分析しても他の項目と異なる特異な結果を生じたこと、③WVSなどでは用いられておらず、本調査で追加された独自の項目であること(吉野, 2005d)の3つの理由から、分析の対象から除外した。

また、この設問は、正確には、「組織や制度、事柄に対する信頼についての質問」となっている。しかし、以下の2つの理由から、事柄(j. 科学技術)の項目を除けば、a.~i.の項目を一括りにして「対組織信頼」(組織に対する信頼)として扱うことができる。

第一に、対組織信頼に関する質問項目は、WVS(World Values Survey)にもGSS(General Social Survey)にもあるが、特に、WVSを踏まえて、東アジア価値観国際比較調査で採用されたことに関連する。実際、WVSでは、どの項目についても組織(organizations)として扱われている¹¹⁾。GSSでは、institutionsの語が用いられている(National Opinion Research Center, 1993)が、この単語は、「制度」という訳出も可能であるが、組織・機構の意味もある¹²⁾。

しかし、最大の理由は、次に述べる第二の理由に起因する。それは、Barnard(1938)が、教会や軍隊を典型的な組織として扱って議論していたことから分かるように、制度として考えられがちな概念の多くは、通常、組織として機能するものだということである。実際、組織は、システム概念として考えるのが、近代組織論では普通のことであり(高橋, 1995)、組織論的に言って、質問(Q41)のa.~i.の全項目を組織概念とみなすことに大きな問題は無いと考えられる。もっとも、一般の人々全てがこのような組織の考え方になじみがあるとは限らない。実際に用いられた調査票の質問で、「組織」に加えて「制度」という表現を用いたことは、一般の人々を対象とする社会調査としての実務上の配慮と言える。

2.2.2 対人信頼についての質問(Q26, Q27, Q28)

一方、対人信頼については、以下の3つの質問(Q26, Q27, Q28)を用いた。

- Q26) たいていの方は、他人の役にたとうとしていらっしゃると思いますか、それとも自分のことだけ考えていると思いますか。
1. 他人の役にたとうとしている
 2. 自分のことだけ考えている
- Q27) 他人は、機会があれば、あなたを利用しようとしていらっしゃると思いますか、それともそんなことはないと思いますか。
1. 他人は機会があれば利用しようとしていると思う
 2. そんなことはないと思う
- Q28) たいていの方は信用できると思いますか、それとも、常に用心した方がよいと思いますか。
1. 信頼できると思う
 2. 常に用心した方がよい

これらは、Rosenberg(1956, 1957)が人々の信頼(faith-in-people)を計るために用いた5つの質問が、Almond & Verba(1963)等の研究を経ていくうちに、信頼感を測定するための3つの質問として洗練され、米国GSSを始め、多くの社会調査で採用されてきたものである¹³⁾。最近では、World Bank Working Paperにおいても、途上国での村落調査向けに修正の上、社会関係資本の測定をする目的で類似の質問が採用されている(Grootaert, Narayan, Jones & Woolcock, 2004を参考)。

2.3. 本研究の目的

ここで、改めて本研究の目的を確認しておきたい。本研究の主要な目的は、前述したように、対組織信頼から対人信頼を差し引いたシナジー対組織信頼の有無の検討、すなわち、対組織信頼は、対人信頼だけで説明できない部分が多いのか少ないのかについて探索することであった。この点について、実際の「東アジア価値観国際比較調査」のデータとの関連から、少し具体的に述べる。

例えば、対組織信頼の質問(Q41)の項目gの「NPOやNGOに対する信頼感」について、国・地域ごとの比較（「わからない」と「無回答」を除いて、選択肢1~4で100%となるように再計算¹⁴⁾）を行うと、図1のようになる。

この国際比較上の差異を明瞭にするために、ノン・パラメトリックな検定であるKruskal Wallis検定を試みると、表1のような結果が得られる。

日本と北京でNPO・NGOに対する信頼の差が生じている。この場合、このNPO・NGOに対する信頼の

差が、そもそも対人信頼の差で概ね説明できるのか、それとも、それ以外の部分、すなわちシナジー対組織信頼の影響が大きいのかについて検討するのが、本論文の目的であるが¹⁵⁾、あらかじめ結論を述べておくと、「対組織信頼は、対人信頼だけでは説明されず、シナジー対組織信頼が存在する可能性が示唆される」というものである。

ただし、その結論に至るまでに、本論文では、もう一点、対組織信頼の差異を生み出す構造についても検討する。具体的には、欧米の非営利研究の影響で、日本でもよく用いられる非営利部門 (nonprofit sector, third sector) やシビル・ソサエティー (civil society) といったセクター的概念に関連する (Salamon & Anheier, 1994; 目加田, 2003; Schwartz & Pharr, 2003)。すなわち、組織に対する信頼に、このような包

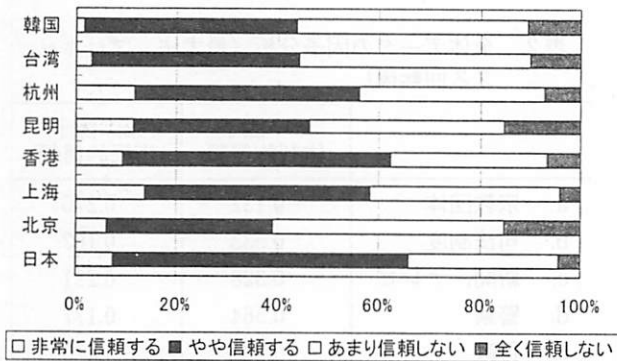


図1. 国・地域別のNPO・NGOへの信頼感

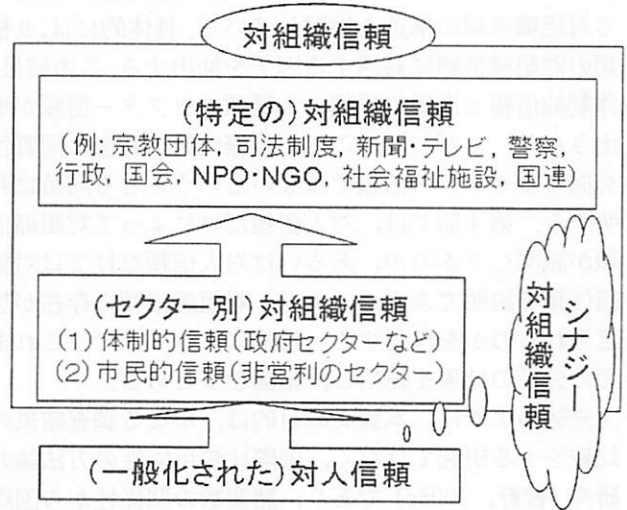


図2. 対組織信頼を説明する概念図

表1. NPO・NGOへの信頼感とKruskal Wallis検定の結果

	日本	上海	香港	杭州	昆明	台湾	韓国	北京	合計
非常に信頼する	49	130	92	92	99	19	15	61	496
やや信頼する	382	428	526	348	301	259	401	326	2,645
あまり信頼しない	194	360	310	290	333	288	434	451	2,209
全く信頼しない	28	40	66	56	131	63	102	152	486
標本サイズ (n)	653	958	994	786	864	629	952	990	6,826
平均ランク	3,888	3,779	3,773	3,634	3,224	3,101	3,050	2,925	
順位	1	2	3	4	5	6	7	8	

$\chi^2=269.377, df=7, p<0.001$

括的なセクターに対する信頼が影響していないかということである。例えば、NPO・NGOであれば、市民社会的なセクターに対する漠然としたイメージに対する信頼、行政や国会であれば、それらを含むような体制的なセクターに対する漠然としたイメージに対する信頼である。後で導出される枠組みを、あらかじめ述べておくと、これらは「体制的信頼」と「市民的信頼」という2種類に分類される（セクター別の）対組織信頼で説明される。

これまでの議論の概念を整理すると、図2のようになる。このセクター別の対組織信頼を導出し、対組織信頼の差異を生み出す構造についても検討するのが、本論文のもう一つの目的である。（なお、以降、対組織信頼のうち、セクター別の対組織信頼を特に明示したい場合には、「セクター信頼」と簡略化している。）

本論文の目的は、大きく2つに集約されることになるが、以下では、まず第3節で国際比較研究の視点から対組織信頼の構造を検討していく。具体的には、9種類の対組織信頼に共通する因子を抽出する。この結果、体制的信頼と市民的信頼の2種類のセクター信頼が導出される。ただし、ここで、国際比較上完全に同質性を保てるセクター信頼ではないということも同時に判明する。第4節では、対人信頼だけによって対組織信頼が説明しうるのか、あるいは対人信頼だけでは対組織信頼を説明できず、シナジー対組織信頼の存在が想定されるのかを検討する。最後に、第5節で、これまでの分析の結果を総括し、議論をまとめる。

先述のように、本論文の目的は、単なる調査結果の比較をする研究ではなく、国際比較可能性の方法論の研究（吉野，2005c）であり、諸変数の関係性から国際比較の可能性を検討することにある。現実の世界の複雑事象について、皮相的に対組織信頼を説明する因果の構造を探求しようとする研究ではないことを強調しておきたい。また、因果を説明する分析でしばしば用いられるデモグラフィックな変数（性別、年齢、学歴など）は、国際比較上、簡単に共通性を前提とすることができるとはならず、回答傾向がその属性を特徴づけるという逆説的な側面も持っている（吉野，2001）。そこで、本論文では、議論の拡散を防ぐためにもこれらをあえて使用せずに、信頼に関する変数の関係性的を絞って分析を行っている。

3. 対組織信頼の共通因子（体制的信頼と市民的信頼）

3.1. 探索的因子分析とカテゴリカル主成分分析

この節では、国際比較研究の視点で対組織信頼の構造を検討するため、先述の9種類の対組織信頼に共通する因子（セクター信頼）を抽出する。一旦、探索的因子分析を実施し、その上で検証的因子分析を行う手続きをとっている。以降は、その具体的な分析の作業とその結果についての解説である。

まず、（シンガポールを除く）東アジアの8つの国・地域における構造上の共通性を仮定する必要があるので、一度、これらの8つの国・地域に全体について、対組織信頼の質問（Q41のうち、科学技術を除いた9項目）に対する回答データを因子分析（最尤法）した。その際、プロマックス回転をかけて回転後のパターン行列を算出した（表2）。この結果を用いて、第一因子と第二因子を二軸とする因子負荷プロットは、図3の通りである。抽出された二つの因子を見る限り、前節で論じたようなセクター別の対組織信頼を命名できる可能性がうかがえる。そこで、第一因子を「体制的信頼」、

表2. 全体データの因子分析（最尤法，プロマックス回転後）

	第一因子 体制的信頼	第二因子 市民的信頼
a. 宗教団体	-0.132	0.275
b. 司法制度	0.533	0.162
c. 新聞、テレビ	0.328	0.221
d. 警察	0.564	0.177
e. 行政	0.984	-0.175
f. 国会	0.923	-0.169
g. NPO・NGO	0.027	0.482
h. 社会福祉施設	0.240	0.516
i. 国連	0.250	0.383

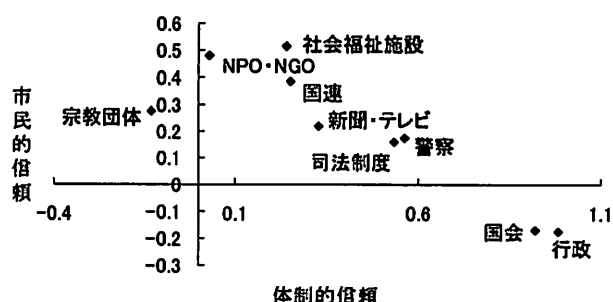


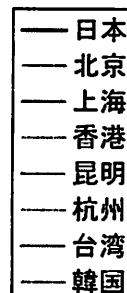
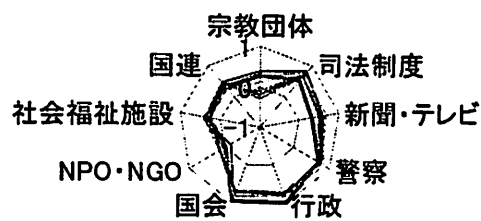
図3. 因子負荷プロット（プロマックス回転後）

表3. プロクラステス回転後のパターン行列

第一因子	宗教団体	司法制度	新聞・テレビ	警察	行政	国会	NPO・NGO	社会福祉施設	国連
日本	0.30	0.50	0.31	0.67	0.98	0.96	-0.01	0.23	0.30
北京	-0.20	0.67	0.63	0.74	0.83	0.80	-0.16	0.35	0.42
上海	-0.21	0.68	0.56	0.72	0.81	0.80	-0.03	0.29	0.37
香港	-0.27	0.63	0.50	0.65	0.79	0.71	0.04	0.36	0.45
昆明	-0.11	0.72	0.69	0.73	0.81	0.79	0.02	0.29	0.28
杭州	0.10	0.71	0.65	0.81	0.83	0.81	0.10	0.46	0.21
台湾	0.38	0.76	0.60	0.73	0.73	0.69	0.13	0.19	0.43
韓国	0.27	0.72	0.69	0.78	0.70	0.65	0.02	0.22	0.31

第二因子	宗教団体	司法制度	新聞・テレビ	警察	行政	国会	NPO・NGO	社会福祉施設	国連
日本	0.09	0.34	0.37	0.17	-0.20	-0.20	0.77	0.64	0.59
北京	0.57	0.14	0.16	0.08	0.01	0.01	0.73	0.56	0.46
上海	0.57	0.06	0.08	0.12	0.08	0.01	0.80	0.60	0.49
香港	0.77	0.08	0.10	0.16	0.12	0.20	0.72	0.51	0.37
昆明	0.62	0.04	-0.01	0.13	0.11	0.11	0.69	0.59	0.51
杭州	-0.07	-0.09	0.07	0.09	0.20	0.25	0.78	0.64	0.70
台湾	0.16	0.04	0.02	0.12	0.20	0.25	0.82	0.81	0.45
韓国	0.40	0.08	-0.03	0.09	0.24	0.15	0.82	0.70	0.59

第一因子



第二因子

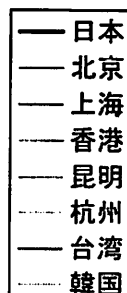
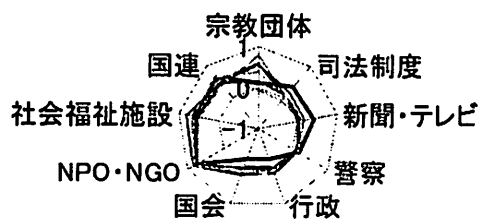


図4. 因子パターン of レーダーチャート

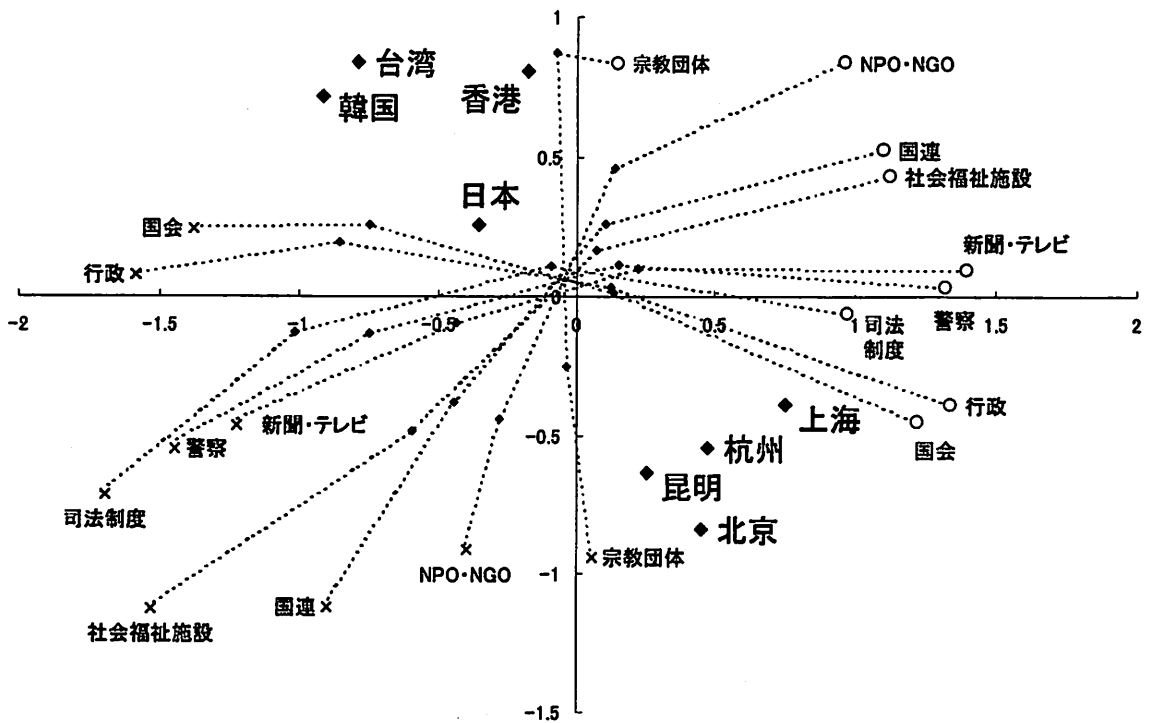


図5. カテゴリカル主成分分析 (CATPCA) の結果の2次元配置
 (注) 対組織信頼については、「非常に信頼する」の重心座標を○、「全く信頼しない」の重心座標を×で表現している。○と×を結ぶ点線上の◆は、○に近い順に、「やや信頼する」「あまり信頼しない」の重心座標を意味している。

第二因子を「市民的信頼」と呼ぶこととした。

次に、東アジアの8つの国・地域のデータ別の因子分析の結果に対し、表2で示されたパターン行列をターゲットとするプロクラステス回転を行った。すると、表3及び図4のような結果が得られた。大きな傾向としては、各地域共通して第一因子が司法制度、新聞・テレビ、警察、行政、国会に対する信頼を色濃く反映しており、第二因子がNPO・NGO、社会福祉施設、国連、宗教団体を色濃く反映している。8つの国・地域で共通して、体制的信頼と市民的信頼の二種類の共通因子でおおよそ表現できる可能性が示唆されたのである。

しかしながら、第二因子における日本の新聞・テレビの因子負荷が、やや他の国・地域よりも大きいことや、宗教団体に対する因子負荷が8つの国・地域でやや不揃いである等、国・地域ごとに若干の構成に違いが見られる。

そこで、対組織信頼に関する順序データ (Q41のうち、科学技術を除いた9項目) と8つの国・地域を識別する名義データを用いて、カテゴリカル主成分分析 (CATPCA) を行った。この手続きを通じて、各カテ

ゴリ変数が二次元の成分グループに縮約され、同時に、各カテゴリーは生成された二次元プロット上に、類似の構造を有しているカテゴリーが近接するように最適に再配置される。

その結果、図5のように、中国本土4地域 (北京・上海・杭州・昆明) と他の国・地域 (日本・韓国・台湾・香港) との間で二分されるカテゴリプロットが得られた。そのため、中国本土4地域と他の4つの国・地域でデータの傾向が大きく異なり、両者が異なる構造を有する可能性が示唆された。

3.2. 検証的因子分析

対組織信頼のデータに対する探索的因子分析の結果から、体制的信頼と市民的信頼という2つの共通因子の存在が示唆された。その一方で、カテゴリカル主成分分析の結果からは、中国本土4地域と他の4つの国・地域でデータの傾向が異なる可能性が示唆された。体制的信頼と市民的信頼という2つの共通因子を潜在変数を想定するモデルを検証する必要があるであろう。つまり、各国・地域の信頼感の差異構造を説明する構造モデルをこれらの二因子を用いて導こうという

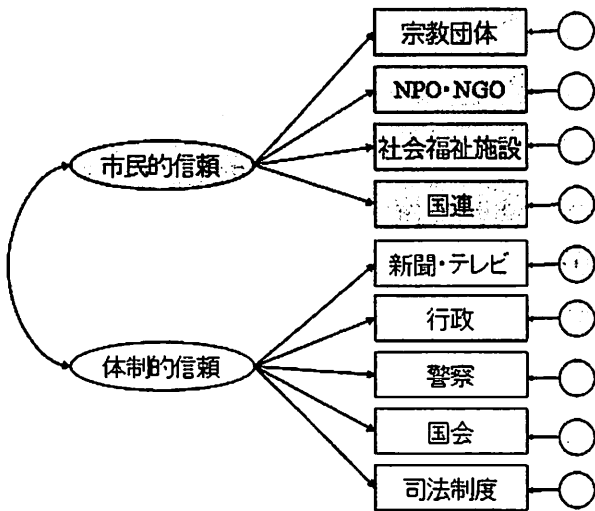


図6. 二因子の検証的因子分析 (CFA) モデル
 (注) □が観測変数を, ○が潜在変数を
 ⊗は独自因子を示す。

表4. 多母集団の同時分析によるモデル適合度の要約 (2因子のCFA) ①

モデル	CFI	RMSEA	AIC	BCC
制約なし	<u>0.911</u>	<u>0.031</u>	2,133.0	<u>2,137.9</u>
因子負荷一定	0.897	<u>0.030</u>	2,321.5	2,325.3
観測平均一定	0.514	0.058	8,644.8	8,647.2
構造共分散一定	0.505	0.056	8,784.3	8,786.2
残差測定一定	0.443	0.055	9,743.7	9,744.3

(注) 下線部は, CFIについては, 0.9以上のもの, RMSEAについては, 0.05未満のもの, AICとBCCについては, 最小の値のもの。

わけである。そこで、今度はここまでの結果に基づき、図6のように9変数を用いて、「体制的信頼」と「市民的信頼」の2つの共通因子を用いた検証的因子分析(確認的因子分析, Confirmatory Factor Analysis, CFA)を行う。

この検証的因子分析モデルについて、多母集団(8つの国と地域)の同時分析を行った。その結果は、表4のようになった。CFI (Comparative Fit Index) が0.9を上回ったのは制約無しの場合だけであり、RMSEA (Root Mean Square Error of Approximation) についても0.05を下回ったのは、制約無しと因子負荷だけを一定にした場合だけであった。また、さらにAIC (Akaike Information Criterion) もBCC (Browne-Cudeck Criterion) も制約が無い場合に最小値をとる結果となった。

表5. 多母集団の同時分析によるモデル適合度の要約 (2因子のCFA) ②

モデル	CFI	RMSEA	AIC	BCC
制約なし	<u>0.911</u>	<u>0.031</u>	2,133.0	<u>2,137.9</u>
因子負荷一定	<u>0.902</u>	<u>0.029</u>	2,255.8	2,259.7
観測平均一定	0.622	0.052	6,860.1	6,862.8
構造共分散一定	0.557	0.055	7,926.1	7,928.5
残差測定一定	0.715	<u>0.041</u>	5,234.6	5,235.8

(注) ただし、中国本土4地域とそれ以外の2グループに分離。また、下線部は、CFIについては、0.9以上のもの、RMSEAについては、0.05未満のもの、AICとBCCについては、最小の値のもの。

表6. 多母集団の同時分析によるモデル適合度の要約 (2因子のCFA) ③

モデル	CFI	RMSEA	AIC	BCC
制約なし	<u>0.911</u>	<u>0.031</u>	2,133.041	<u>2,137.895</u>
因子負荷一定	<u>0.903</u>	<u>0.030</u>	2,238.490	2,242.586
観測平均一定	0.698	<u>0.048</u>	5,613.612	5,616.733
構造共分散一定	0.807	<u>0.037</u>	3,774.801	3,777.597
残差測定一定	0.787	<u>0.037</u>	4,062.633	4,064.453

(注) ただし、日本、中国本土4地域とそれ以外の3グループに分離。また、下線部は、CFIについては、0.9以上のもの、RMSEAについては、0.05未満のもの、AICとBCCについては、最小の値のもの。

つまり、多母集団の同時分析を行ったものの、母集団間における等値条件が何も無い状態が最もモデルに適合する上、因子負荷だけを一定とする制約をかけた場合ですら、CFIの値が0.9を下回る結果となったのである。つまり、配置不変 (configural invariance) は認められるが、測定不変 (metric invariance) ではないという結果となった¹⁶⁾。体制的信頼と市民的信頼の2つの共通因子は、9種類の組織に対する信頼の背後に何らかの形でありえそうであるが、8つの国・地域全体を通じて完全に同じ因子が存在するわけではないという結論になる。もともと文化、言語、宗教、国の体制等が多様な東アジアの国々の国際比較において同じ信頼構造を適用するのが難しいことが再確認させられることになった。

例えば、新聞・テレビに対する信頼は、日本については市民的信頼の方が直感的事実に合う場合もあると

思われる。実際、先述したように、探索的因子分析の結果では、日本だけが市民的信頼における「新聞・テレビ」に対する信頼が突出して大きい。日本では、「新聞・テレビ」といったマスメディアが、それ以外の7地域とは異なり、民主主義の基本として公的権力の市民側の監視役と考えられている程度が強いを示している。

そこで、今度は、先述の多母集団の同時分析について、常に、中国本土（北京、上海、昆明、杭州）とそれ以外の4つの国・地域（日本、香港、台湾、韓国）の2つのグループに分けられるようにして分析を行った。その結果、表5のような結果となり、（グループごとの）因子負荷を一定にしても、CFIが0.9以上になり、RMSEAの値もわずかに下がった。また、AICやBCCの値も全体的に大きく下がった。

さらに、表3・図4・図5の結果を踏まえると、新聞・テレビに対する信頼の議論で触れたように、日本も他の国・地域と比べて特徴的な構造を有している可能性がある。そこで、日本についても同時に制約をかけられないように、3つ目のグループとして分離して多母集団の同時分析を行った。その結果は、表6のようになり、因子間の共分散（構造共分散）を一定にした場合でも、AICやBCCが大きく下がり、また、どの制約をつけた場合でもRMSEAが0.05を下回るようになった。ただし、CFIが0.09以上となるような制約条件の与え方（モデル）は、表5の場合から増えなかった。

以上のことから、調査対象となった8つの国・地域では、対組織信頼について、同じ観測変数に基づく2つの共通因子、体制的信頼と市民的信頼が想定しうることが分かる（配置不変）。しかし、その因子の構成の仕方については、中国本土4地域とそれ以外の地域では、やや性格が異なると考えられた。一方で、その2つのグループ内では、因子負荷が同一である仮説が受容されたので（測定不変）、潜在変数の同質性が確保され、その影響や平均値を国・地域の間で比較することが可能であることが示唆された。文化の連鎖的調査分析（CLA, Cultural linkage Analysis）（吉野, 2005c）の一例といえる。

また、日本については、一国だけの分析をするのであれば、他の国・地域とは異なる2つの潜在変数を考えたほうが最も適切であるが、東アジアにおける国際比較の目的のために、ここで議論されたような体制的信頼と市民的信頼という2つの潜在因子を想定するこ

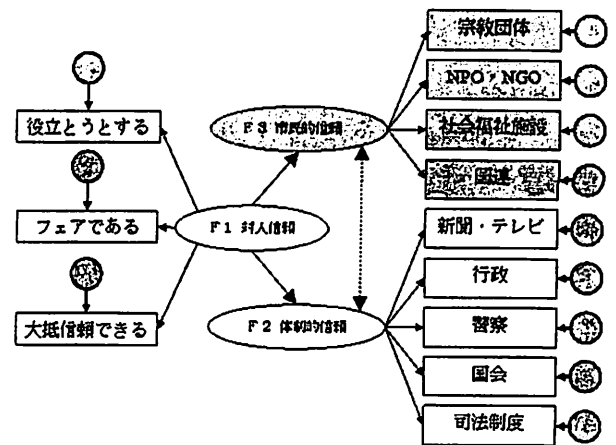


図7. 3因子の多重指標分析モデル
 (注) □が観測変数を、○が潜在変数を、
 ⊖は独自因子を示す。なお、図中左側の「役にとうとする」、「フェアである」、「大抵信頼できる」は、それぞれ順にQ26、Q27、Q28の質問項目を意味している。

表7. 多重指標分析モデルの適合度指標の比較

適合度指標→	CFI	TLI	RMSEA
0 多母集団同時分析	0.940	0.963	0.122 ×
1 日本 (の単独分析)	0.992	0.995	0.126 ×
2 北京 (の単独分析)	0.954	0.963	0.076 △
3 上海 (の単独分析)	0.962	0.965	0.066 △
4 香港 (の単独分析)	0.974	0.978	0.060 △
5 昆明 (の単独分析)	0.983	0.988	0.049 ○
6 杭州 (の単独分析)	0.982	0.986	0.064 △
7 台湾 (の単独分析)	0.900	0.915	0.092 △
8 韓国 (の単独分析)	0.950	0.956	0.075 △

(注) RMSEAについては、0.05以下を○、0.1以上を×、0.005超0.1未満を△とした。

とも可能であると考えられる。特に、香港、台湾、韓国といった資本主義経済の発達した地域との比較では、同質の潜在変数を想定することも可能であると考えられたのである。ここに、尺度の敏感・鈍感の度合いと、その尺度がカバーする国・地域の範囲との間の相補性（吉野, 2001）の具体例を見ることができる。

4. 対人信頼と対組織信頼の関係

本論文の目的の一つは、対組織信頼の差異を対人信

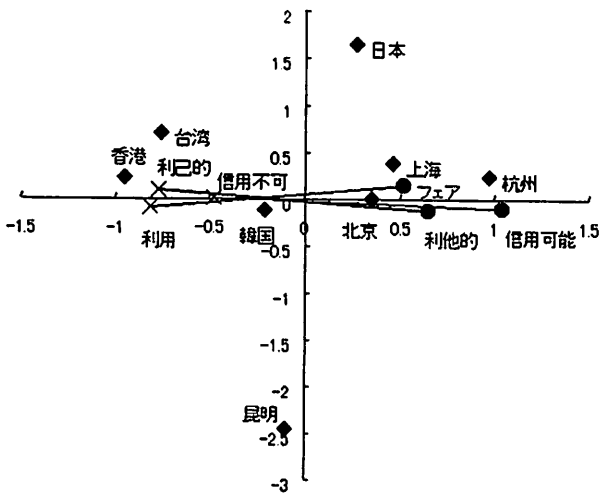


図8. 対人信頼に関する CATPCA
 (注) 「●利他的」「×利己的」「×利用」「●フェア」「●信用可能」「×信用不可」は、それぞれ順に Q26 の 1, 2, Q27 の 1, 2, Q28 の 1, 2 を表している。

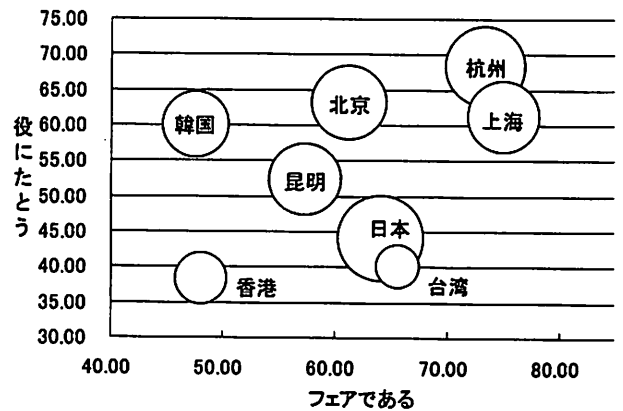


図9. 対人信頼に関する3質問の回答状況
 (注) 横軸の「フェアである」は Q27 の「2. そんなことはないと思う」の割合、縦軸の「役に立とう」は Q26 の「1. 他人の役にたとうとしている」の割合、バブルの大きさは Q28 の「1. 信頼できると思う」の割合を、それぞれ百分率で表したものである。

頼の差異でどの程度説明できるのかを探索し、シナジー対組織信頼の有無を検討することであった。本節では、第3節で分析したような2因子モデルに潜在変数「対人信頼」をモデルへ組み込み、「対人信頼」を含めた多母集団の同時分析を国際比較の観点から行う¹⁷⁾。その「対人信頼」を加味した信頼感を説明する構造を表現したものとしては、図7のような多重指標分析モデルが考えられる。

なお、対人信頼の3つの質問の回答肢は、二値変数であるから、ここで取り扱う多重指標分析モデルについては、多分相関係数を用いた推定方法を採用した。実際に、図7のモデルに基づき、多母集団の同時分析(平均構造モデル)を行うと、CFI=0.940とTLI=0.963となっており、どちらも0.9を上回ったものの、RMSEAの値が0.1を上回っているため、適合しているとは言えない結果となった。

この点について詳しく検討するために、多母集団の同時分析ではなく、各国別の多重指標分析を行った場合のモデル適合度と比較したのが、表7である。どの国・地域でもCFIとTLIの値が0.9を上回って良い適合度を示している点では多母集団の場合と同じである。RMSEAの値については、昆明の場合だけぎりぎり0.05を下回ってあてはまりが良い結果となったものの、日本の場合は、0.1を上回って明らかにあてはまりが悪い結果となっている。

この点については、対人信頼の3変数と国・地域デー

タだけを用いて行ったカテゴリカル主成分分析の結果(図8)が示唆的である。

第一に、カテゴリカル主成分分析の結果は、日本と昆明については、他の6地域と構造上の違いが著しいことを示唆している。第二に、杭州・上海・北京の中国の3地域と韓国・台湾・香港の3地域が、それぞれ緩やかなグループを作りながら、前者の方が後者よりも対人信頼で概ねポジティブな傾向があることを示唆している。これは、ポジティブな対人信頼を示すと考えられるQ26の1、Q27の2、Q28の1の回答比率を、8つの国・地域別にバブルチャートで表現した図9でも確認できる。この図9では、杭州・上海・北京の中国の3地域が韓国や台湾よりも概ね高いことが分かるが、これは図8の結果と概ね整合的である。

いずれにしても、図7のようなモデルは、8つの国・地域に完全に同一の構造モデルを適用するには、やや難しいことが分かってきた。日本について、対組織信頼の面でも対人信頼の面でも他の国・地域との構造上の大きな違いがあることも、その一因となっていると思われる。

また、表7の結果から考えれば、図7のような対人信頼で対組織信頼を説明するモデルは、8つの国・地域別に考えても十分なモデルとは言いがたいことが分かる。対人信頼と対組織信頼のCATPCAの結果である図5と図8を見比べることからも、国・地域別のマクロなレベルで対人信頼の構造と対組織信頼の構造を俯

敵しても、両者の間に見逃せない程のズレが発生していることも分かる。

したがって、この調査のもとでは、対組織信頼とは、対人信頼の影響だけでは説明しがたい、かなり性格の異なる信頼と推定される結果となった。シナジー対組織信頼を想定し、これについて探究する意義が出てきたのである。

5. おわりに

本論文において導かれた結論は、大きく分けて二つある。

第一に、特定の対組織信頼の背後に、体制的信頼と市民的信頼という2つのセクター信頼が、共通因子として存在しうる可能性が示されたことである。ただ、その中身については、東アジアの8つの国・地域を通じて、完全な同質性を有することは保証されなかった。一つには、中国本土4地域と日本・韓国・台湾・香港の資本主義経済の発達した4つの国・地域の違いが原因と考えられたが、日本における対組織信頼の構造の違いも影響があると考えられた。また、この結果、当該8つの国・地域全体を通じて同じ構造モデルを適用するのは適切ではないことが判明したが、中国本土4地域と日本・韓国・台湾・香港の2グループのそれぞれの中では、同質の共通因子を想定できることは確認された。

第二は、対人信頼の対組織信頼に対する影響についてである。現時点での結論としては、対人信頼でセクター信頼を説明するモデルが十分に適合しているとは認められないので、対組織信頼を対人信頼だけでは説明しがたいと考えられる。また、そのため対人信頼とは別に組織独自に蓄積されるようなシナジー対組織信頼の存在を検討する意義が出てきた。このことは、対組織信頼については、対人信頼とは別にシナジー的に生み出される部分が多分に含まれているのであろうから、ある国や地域において、対人信頼が低いからといって、ただちに対組織信頼も当然低いと想定するのは適切ではないことを意味している。

いずれにせよ、本論文は、これらについて試行的なデータ解析を示したに過ぎない。今後、更なる検討を進めていきたいと考えている。

謝 辞

本研究は、文部科学省/日本学術振興会・科学研究費補助金研究 A(2) No. 14252013 (研究代表者：吉野諒三) の一部をなすものです。また、東アジア価値観国際比較調査は、多くの海外の研究者の協力で実施できました。多くの研究協力者の皆様に対して、深く感謝いたします。

また本論文は、松本・吉野(2004)および松本(2005a, b)にその後の研究成果を加え、さらに匿名の審査員のコメントに基づき、加筆修正したものです。その間、データ解析を行うにあたり、前田忠彦先生(統計数理研究所)と星野崇宏先生(東京大学)から大変有益な助言を頂きました。国際開発学会第6回春季大会では、松井範惇先生(山口大学)をはじめ、多くの先生方から貴重なコメントを頂きました。ご助言・ご意見を頂きました多くの皆様に改めて謝意を表します。

注

- 1) Smith (1759) は、人々が利己心に支配される前提に立ちながら、利己的な個人が社会的秩序を作り上げるメカニズムを説明しようとしていた。
- 2) 国際復興開発銀行 (International Bank for Reconstruction and Development, IBRD) および国際開発協会 (International Development Association, IDA)。
- 3) <http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/npocenter/social.html> 参照のこと。
- 4) ただし、山岸 (1998) と荒井 (2001) では、組織論を重視する程度が大きく異なることから、全体の議論の趣旨は、真っ向から対立する結論が導かれている。
- 5) World Values Survey の Web サイト (<http://wvs.isr.umich.edu/>) もしくは、電通総研・日本リサーチセンター (2004) を参照のこと。
- 6) NPO 法人 (特定非営利活動法人) の認証数については、内閣府の Web サイト上で、最新の情報が提供されている。
- 7) NPOWEB (NPO・市民活動を支えるニュース&情報サイト) は、シーズ=市民活動を支える制度をつくる会によって維持・運営されるインターネット上のサイトである。 <http://www.npoweb.jp/>
- 8) 寄付を原資として公益的活動に従事する NPO 法人に関する法律。
- 9) 第一次のプロジェクトではタイも調査対象国に一応含まれているが、タイについては、それほど詳しいデータが集められたわけではない (Salamon & Anheier, 1994)。

- 10) なお、2004年の秋から、シンガポールでも同様の調査が行われ、その結果も2005年春には得られている(吉野, 2005c)。本論文での分析に、このシンガポールデータを加えることも可能であったが、筆者は、以下の理由から今回は見送った。
- まず、東アジア価値観調査の一環としてシンガポールでの調査が行われたのは、当初からこのプロジェクトで広義の東アジア概念が採用されていたためである。また、シンガポール調査では、他の国・地域とは異なり、多言語国家である事情から、三種類の言語の質問紙票を用いて調査にあっているなど、他の調査地域には無い特色がいくつかある。これらの事情は、必ずしも国際比較研究を妨げるものではない。本特集号の他の論文でも問題なく用いられていることと思う。
- しかしながら、主に組織に対する信頼感を扱う本論文では、なお慎重な議論が必要であると考えられた。実際に「組織に対する信頼感」のデータについてカテゴリカル主成分分析を適用すると、シンガポールデータだけ、他の国・地域と異なる性格を示す結果も得られている。議論が拡散する恐れがあるので、本論文ではシンガポールデータを加えた分析は行わないものとした。
- 11) 「1999-2002 WORLD VALUES SURVEY QUESTIONNAIRE」では、「I am going to name a number of organizations.」と切り出して、16個の名詞を列挙している。
- 12) National Opinion Research Center (1993)によれば、この設問は、Louis Harris and Associates, Inc. が実施した調査の質問を参考している。ただし、「Harris 1972 presidential election survey 1972, no. 2236」の調査票では、organizationsやinstitutionsのような明示的な表現は用いられていない。(Louis Harris and Associates, Inc.の実施した調査の多くは、University of North CarolinaにあるOdum Institute for Research in Social Scienceのデータアーカイブに保管され、調査票は、http://www.irss.unc.edu/data_archive/home.aspからも入手できる)
- 13) ただし、近年に入ってから、Glaeser, Laibson, Scheinkman & Soutter (2000)のように、これらの設問の解釈が困難と批判し、改めて実験的なアプローチと併用する論者もいる。
- 14) 国・地域名〔わからない(%)・無回答(%)]の順に、それぞれ日本〔132 (16.8)・2 (0.3)], 北京〔71 (6.7)・1 (0.1)], 上海〔95 (9.0)・0 (0.0)], 香港〔62 (5.9)・1 (0.1)], 昆明〔153 (15.0)・1 (0.1)], 杭州〔124 (13.6)・0 (0.0)], 台湾〔102 (13.9)・1 (0.1)], 韓国〔54 (5.4)・0 (0.0)]であった。「わからない」の率が、日本で意外と高いのは、様々な情報が浸透しすぎて、かえって判断つきかねた可能性が考えられる。中国各地では、都市化が著しい北京・上海・香港に比べ、昆明や杭州の「わからない」の率が高いのは、NPO・NGOという言葉に対する認知の低さが反

映していると考えられる。逆に、北京・上海・香港については、自分なりのイメージで回答されたのではないかと推察できる。

- 15) 北京での回収率が29.2%だったことに代表されるように中国各地での回収率は低く、標本のバイアス等による回答の偏りも無視できない。さらに、国際比較では異なる言語間でのニュアンスの違いを含め、翻訳等価性の程度に対する問題も常に残るが、本論文ではこれ以上踏み込まない。
- 16) 配置不変や測定不変については、Thurstone (1947) や狩野・三浦 (2002) を参照のこと。
- 17) 無論、これまでにも、国際比較研究の観点から、多母集団の同時分析を用いた研究もある。Miller & Sharda (2000) は、中国、インド、ニュージーランド、合衆国の4カ国についての虚栄心(Vanity)に関する国際比較研究の中で多母集団の同時分析を行っている。Durvasula, Lysonski & Watson (2001) は、文化が組織構造に与える影響を研究として、イラン、ヨルダン、合衆国のデータを用いて多母集団の同時分析を行っている。

参考文献

- Almond, G.A. & Verba, S. (1963). *The Civic culture: Political attitudes and democracy in five nations*. Princeton, NJ: Princeton University Press.
- 荒井一博 (2001). 文化・組織・雇用制度—日本的システムの経済分析—。有斐閣。
- Baker, W.E. (2000). *Achieving success through social capital: Tapping the hidden resources in your personal and business networks*. San Francisco, CA: Jossey-Bass. (中嶋豊訳 (2001). ソーシャル・キャピタル—人と組織の間にある「見えざる資産」を活用する—。ダイヤモンド社。)
- Barnard, C.I. (1938). *The Functions of the Executive*. Cambridge, MA: Harvard University Press. (山本安次郎・田杉 競・飯野春樹訳 (1968). 新訳 経営者の役割。ダイヤモンド社。)
- Citrin, J. & Green, D.P. (1986). Presidential leadership and the resurgence of trust in government. *British Journal of Political Science*, 16(4), 431-453.
- Coleman, J.S. (1988). Social capital in the creation of human capital. *American Journal of Sociology*, 94, Supplement, S95-S120.
- 電通総研・日本リサーチセンター(編) (2004). 世界60カ国価値観データブック。同友館。
- Durvasula, S., Lysonski, S. & Watson, J. (2001). Does vanity describe other cultures? A cross-cultural examination of the vanity scale. *Journal of Consumer Affairs*, 35(1), 180-199.
- Dyer, J.H. & Ouchi, W.G. (1993). Japanese-style partnerships: Giving companies a competitive

- edge. *Sloan Management Review*, 35(1), 51-63.
- Fukuyama, F. (1995). *Trust: The social virtues and the creation of prosperity*. Free Press, New York. (加藤寛訳 (1996), 「信」無くば立たず. 三笠書房.)
- Glaeser, E.L., Laibson, D.I., Scheinkman, J.A. & Soutter, C.L. (2000). Measuring trust. *Quarterly Journal of Economics*, 115(3), 811-846.
- Grootaert, C., Narayan, D., Jones, V.N. & Woolcock, M. (2004). *Measuring social capital: An integrated questionnaire*. DC: World Bank.
- Hanifan, L.J. (1916). The rural school community center. *Annals of the American Academy of Political and Social Science*, 67, *New Possibilities in Educations*, 130-138.
- Helliwell, J.F. (1996). Economic growth and social capital. *NBER working paper*, No. 5470.
- Helliwell, J.F. & Putnam, R.D. (1995). Economic growth and social capital in Italy. *Eastern Economic Journal*, 21(3), 295-307.
- 猪口 孝 (2003). グローバリゼーションはよいガバナンスをもたらすのか? 年報政治学—性と政治—. 岩波書店, 199-227.
- 猪口 孝 (2004). 「国民」意識とグローバリズム—政治文化の国際分析—. NTT 出版.
- 金子郁容 (1998). コミュニティ・ソリューション—ボランティアな問題解決にむけて—. 岩波書店.
- 金光 淳 (2003). 社会ネットワーク分析の基礎—社会的関係資本論にむけて—. 勁草書房.
- 狩野 裕・三浦麻子 (2002) 『グラフィカル多変量解析 (増補版) 一目で見る共分散構造分析』現代数学社.
- Knack, S. & Keefer, P. (1997). Does social capital have an economic payoff? A cross-country investigation. *Quarterly Journal of Economics*, 112(4), 1251-1288.
- 國領二郎 (1999). オープン・アーキテクチャ戦略—ネットワーク時代の協働モデル—, ダイヤモンド社.
- La Porta, R., Lopez-de-Silanes, F., Shleifer, A. & Vishny, R.W. (1997). Trust in large organizations. *American Economic Review*, 87(2), *Papers and Proceedings of the Hundred and Ninth Meeting of the American Economic Association*, 333-338.
- 真鍋誠司 (2002). 企業間協調における信頼とパワーの効果—日本自動車産業の事例—. *組織科学*, 36(1), 80-94.
- 松本 渉 (2003a). 霧多布湿原トラストの成長軌道. 赤門マネジメント・レビュー, 2(9), 399-420.
- 松本 渉 (2003b). 民間非営利部門における組織概念. *国際環境協力*, 3, 63-78.
- 松本 渉 (2005a). 組織に対する信頼感の国際比較. 統計数理研究所平成 16 年度研究報告会報告集, 68-69.
- 松本 渉 (2005b). 東アジアにおける組織に対する信頼感—共分散構造分析を用いたソーシャルキャピタルの国際比較—. *国際開発学会第 6 回春季大会報告論文集*, 41-44.
- 松本 渉・高橋伸夫 (2002). NPO の組織評価軸—助成のための外部評価の事例から—. *ノンプロフィット・レビュー*, 2(2), 131-143.
- 松本 渉・吉野諒三 (2004). 組織への信頼と所属についての国際比較—東アジアのシビルソサエティに注目して—. *日本行動計量学会第 32 回大会発表論文抄録集*, 44-47.
- 目加田説子 (2003). 国境を超える市民ネットワーク—トランスナショナル・シビルソサエティ—. *東洋経済*.
- Miller, G.A. & Sharda, B.D. (2000). Organizational structure in the Middle East: a comparative analysis. *International Journal of Comparative Sociology*, 41(3-4), 315-329.
- 宮川公男 (2004). ソーシャルキャピタル論—歴史的背景, 理論および政策的含意—. 宮川公男・大守隆 (編), *ソーシャル・キャピタル—現代経済社会のガバナンスの基礎—*. 東洋経済新報社, 3-53.
- Moorman, C., Zaltman G. & Deshpande, R. (1992). Relationships between providers and users of market research: The dynamics of trust within and between organizations. *Journal of Marketing Research*, 29(3), 314-328.
- Morgan, R.M. & Hunt, S.D. (1994). The commitment-trust theory of relationship marketing. *Journal of Marketing*, 58(3), 20-38.
- National Opinion Research Center (NORC), University of Chicago (1993). *General Social Surveys, 1972-1993: cumulative codebook*, Chicago, Ill.: National Opinion Research Center; Storrs, CT: Distributed by Roper Public Opinion Research Center.
- 大守 隆 (2004). ソーシャル・キャピタルの経済的影響. 宮川公男・大守 隆 (編). *ソーシャル・キャピタル—現代経済社会のガバナンスの基礎—*. 東洋経済, 77-122.
- 岡室美恵子 (2002). 市場経済化における非営利セクター. 王名・李妍焱・岡室美恵子 (著). *中国の NPO—いま, 社会改革の扉が開く—*. 第一書林, 149-167.
- Page, J. (1994). The East Asia miracle: Building a basis for growth. *Finance and Development*, 31(1), 2-5.
- Paxton, P. (1999). Is social capital declining in the United States?: A multiple indicator assessment. *American Journal of Sociology*, 105(1) 88-127.
- Putnam, R.D. (with Robert Leonardi and Raffaella Y. Nanetti) (1993). *Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy*. Princeton University Press, Princeton, New Jersey. (河田

- 潤一訳 (2001). 哲学する民主主義—伝統と改革の市民的構造—. NTT 出版.)
- Rosenberg, M. (1956). Misanthropy and political ideology. *American Sociological Review*, 21 (6), 690-695.
- Rosenberg, M. (1957). Misanthropy and attitudes toward international affairs. *Journal of Conflict Resolution*, 1(4), 340-345.
- 坂田正三 (2002). 社会関係資本と開発—議論の系譜—. 佐藤寛(編), 援助と社会関係資本—ソーシャルキャピタル論の可能性—. 日本貿易振興会アジア経済研究所, 11-33.
- Salamon, Lester M. & Helmut K. Anheier (1994). *The emerging sector: The nonprofit sector in comparative perspective—an overview*. The Johns Hopkins University Institute for Policy Studies, Maryland. (今田 忠(監訳) (1996). 台頭する非営利セクター—12カ国の規模・構成・制度・資金源の現状と展望—. ダイアモンド社.)
- 佐藤 寛 (2002a). はじめに: なぜ「社会関係資本」に注目するのか. 佐藤寛(編), 援助と社会関係資本—ソーシャルキャピタル論の可能性—. 日本貿易振興会アジア経済研究所, iii-ix.
- 佐藤 寛 (2002b). 社会関係資本概念の有用性と限界. 佐藤寛(編), 援助と社会関係資本—ソーシャルキャピタル論の可能性—. 日本貿易振興会アジア経済研究所, 3-10.
- Schwartz, F.J. & Pharr, S.J. (eds.) (2003). *The state of civil society in Japan*. Cambridge University Press, Cambridge, UK.
- Smith, Adam (1759). *The theory of moral sentiments*. London: Printed for A. Millar, in the Strand; and A. Kincaid and J. Bell, in Edinburgh. (水田 洋訳 (2003). 「道徳感情論」上・下, 岩波書店)
- 鈴木督久 (2002). SEMによる企業イメージのマネジメント—平均構造・多母集団解析の応用—. 行動計量学, 29(2), 174-181.
- 高橋伸夫 (1995). 経営の再生—戦略の時代・組織の時代—. 有斐閣.
- Thurstone, L.L. (1947). *Multiple-factor analysis: A development and expansion of the vectors of mind*. Chicago, IL: University of Chicago Press.
- Uslaner, E.M. (2002). *The moral foundations of trust*. Cambridge, UK: Cambridge University Press.
- Uslaner, E.M. (2003). Trust in the knowledge society. Prepared for the Conference on Social Capital, Cabinet of the Government of Japan, March 24-25, Tokyo. (西出優子訳 (2004). 知識社会における信頼. 宮川公男・大守 隆(編). ソーシャル・キャピタル—現代経済社会のガバナンスの基礎—. 東洋経済, 123-154.)
- 山岸俊男 (1998). 信頼の構造—こころと社会の進化ゲーム—. 東京大学出版会.
- 山岡和枝・李 相侖 (2004). 国際比較調査データの安定性についての検証—2003年度韓国と台湾における「健康と文化調査」および「東アジア価値観国際比較調査」データの比較—. 行動計量学, 31(2), 125-135.
- Yoshino, R (2002). A time to trust: A study on people's sense of trust from a viewpoint of cross-national and longitudinal study on national character. *Behaviormetrika*, 29(2), 231-260.
- 吉野諒三(編) (2004a). 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—(2002年日本調査報告書). (統計数理研究所研究リポート91), 統計数理研究所.
- 吉野諒三(編) (2004b). 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—(2002年度中国[北京・上海・香港]調査報告書). 統計数理研究所.
- 吉野諒三(編) (2005a). 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—(2003年台湾調査報告書). 統計数理研究所.
- 吉野諒三(編) (2005b). 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—(2003年韓国調査報告書). 統計数理研究所.
- 吉野諒三 (2005c). 東アジア価値観国際比較調査—文化多様体解析(CULMAN)に基づく計量的文明論構築へ向けて—. 行動計量学, 32(2), 133-146.
- 吉野諒三 (2005d). 富国信頼の時代へ—東アジア価値観国際比較調査における「信頼感」の統計科学的解析—. 行動計量学, 32(2), 147-160.
- Young, A. (1994). The tyranny of numbers: Confronting the statistical realities of the East Asian growth experience. *Quarterly Journal of Economics*, 110(3), 641-680.
- Zand, D.E. (1972). Trust and managerial problem solving. *Administrative Science Quarterly*, 17(2), 229-239.
- 鄭 躍軍(編) (2005). 日本・中国の国民性比較のための基礎研究—中国杭州市と昆明市における意識調査—. (総合地球環境学研究所研究リポート01), 総合地球環境学研究所.

(2005年6月20日受付, 2006年1月20日最終修正)

認知的ソーシャルキャピタルとしての法意識・規範意識・ 契約観と対人信頼感の関連

—— 東アジア価値観国際比較調査データから ——

星野 崇 宏

The Relationships between Cognitive Social Capitals

—— Law-Abiding Spirit, Normative Consciousness, Attitude Toward Contract and Trust in the East Asia ——

Takahiro HOSHINO

Relationships between four elements of cognitive social capital (i.e., law-abiding spirit, normative consciousness, attitude toward contracts, and trust) were examined as part of the "East Asia Value Survey" conducted by the Institute of Statistical Mathematics. To avoid aggregation bias, micro-data analysis, such as multiple group structural equation modeling with categorical variables, was conducted.

A significantly positive relationship between normative consciousness and trust was found for China; however, the relationship between law-abiding spirit and trust was nonsignificant. Additionally, in China, token acknowledgement affected responses to law-abiding-spirit questions but did not affect responses related to normative consciousness.

Attitude toward contracts and trust had a positive relationship in Japan and China but a negative relationship in Taiwan and Singapore. This research also showed that the way demographic variables affect each element of social capital varies according to countries/areas.

Key words: structural equation modeling, cross-national comparison, sample survey, Polychoric correlations.

キーワード: 構造方程式モデリング, 国際比較, 標本調査, ポリコリック相関係数

1. はじめに

近年, 経済学や社会学, 社会心理学, 政治学などの社会科学において, 「ソーシャルキャピタル」という概念が非常に頻繁に取り上げられている(宮川・大守編, 2004)。ソーシャルキャピタルの概念を初めて提唱したのは経済学者の Loury (1977) であり, 人種間の収入格差を説明するための人的資本としての対人関係を

ソーシャルキャピタルとした。また社会学者の Coleman (1988) は個人に協調行動を起こさせる社会の構造・制度としてソーシャルキャピタルを定義している。また, 政治経済学者の Fukuyama (1995) はソーシャルキャピタルの非常に重要な概念のひとつである「一般的対人信頼感」を, 企業と国の繁栄を約束し, 社会を改革する推進力として取り上げている。

このように様々な研究があるが, ソーシャルキャピタルの概念を現在のように非常に広範な分野に応用するきっかけを与えたのは, 政治学者である Putnum (1993) の研究である。Putnum はその著書 *Making Democracy Work* (1993) において, ソーシャルキャピタルを「人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を改善できる, 信頼・規範・ネットワー

東京大学 教養学部 教養教育開発機構 評価部門/
大学院総合文化研究科 生命環境科学系 認知行動科学講座

(University of Tokyo)

連絡先: 〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

(但し, 平成17年3月まで統計数理研究所に所属)

クといった社会組織の特徴」と、経済学の用語で言うところの外部経済効果を持つものの一つとして定義している。また彼はソーシャルキャピタルの主に構造的側面、つまり(地域)共同体が有する側面に注目した。またこれを定量化するために「市民共同体」指数を開発し、イタリアの20州に対して20年に渡りこの指数を算出した。その結果として南部は市民共同体指数が低く、制度の効率が悪く、北部は指数が高く、効果的制度が存在するとした。

近年このようなPutnum (1993) のイタリア北部社会と南部社会の比較研究や、Fukuyama (1995) の「信頼」に対する議論、Paxton (1999) のアメリカでの「信頼感」の低下に関する実証研究など、家族や共同体以外の一般的な他者に対する対人「信頼感」が国・地域の産業発展や社会基盤形成に重要な影響を与えるソーシャルキャピタルであるという認識が広まってきた(Yoshino, 2002)。

このような問題意識から、我々は統計数理研究所が長年行ってきた「国民性」の国際比較(林知己夫他, 1998)の方法論や理念を継承し発展させ、現在「信頼感」を重要な関心の一つとした東アジアにおける実証的な国際比較調査研究を行っている。

ここでKrishna and Uphoff (1999) はソーシャルキャピタルを社会組織や共同体が全体として有する側面、制度に関連する構造的(制度的)ソーシャルキャピタルと、個人の価値観や信条や規範の側面である認知的ソーシャルキャピタルに分類している。また、Grootaert and van Bastelaer (2001) はソーシャルキャピタルをミクロレベルとマクロレベルに分類しており、一般的他者に対する「信頼感」はミクロな認知的ソーシャルキャピタルとしている。彼らは、ミクロな認知的ソーシャルキャピタルには一般的他者に対する「信頼感」以外の様々な価値観が含まれるが、その中で非常に重要なのが法意識であると考えている。価値観が多様化し、また経済活動や個人間の関係が複雑化する現代社会においては、これまで以上に法が社会の構成員によって行為規範として承認されていくことが必要とされている。法律が市民によって遵守される社会は、少なくとも資本主義社会では効率的であることと想定されるため、法意識は認知的ソーシャルキャピタルの一種と考えることができる。

ここで日本を含めた東アジアの国々における法律に対する市民の意識については、例えば法意識国際比較研究会は中国での調査研究(法意識国際比較研究会、

1999, 2000)以降、継続的に調査研究が行っている。しかし、法意識とさまざまな属性変数や信頼感との関係を掘り下げて調べる実証的研究はまだあまり見られない。

本研究では上記調査でも取り上げられている、「どんなときにも法律を守るべきか、それとも目的が正しければ破ってもよいか」という、いわゆる法律の柔軟な適用に関する側面を取り上げる。

また、法に対する意識だけでなく、より日常的なコンフリクト状況での行動に関する規範意識は、単に形式的に「法律は社会にとって重要である」という法意識よりも、個人の日常的な行動を規定する力は大きいと考えられるため、むしろソーシャルキャピタルの要素としてより重要であるかもしれない。

これら法意識や規範意識と、特にソーシャルキャピタルの一種としてすでに様々な先行研究のある「一般的な対人信頼感」との関係を見ていくことは意義があるろう。

また1990年代以降、日本企業の中国進出が非常に盛んであり、日本企業の人々が中国社会独特の法意識や契約観とのギャップに困惑するということがしばしば報告されており、日本と他の東アジア各国の法意識や契約観の違いの問題が浮き上がっている。契約観については、日本の大学生に行ったアンケート調査による検討がある(法意識国際比較研究会, 1996)が、対象者が主に法学部・経済学部の学生であるということから、その知見を国民全体に一般化することはむしろ難しく、また国際比較は行われていない。

契約観が一般的対人信頼感と、どの様に、どの程度の関係があるかを国ごとに比較することは意義があると考えられる。より具体的には、対人信頼感が高い人ほどあまり形式ばった契約を重視せず、契約を結ぶとしても融通性を重視して曖昧にする傾向があるのか、それとも逆にこれらをソーシャルキャピタルの集合体として考えると、一般的な信頼感が高い方が契約も厳格に考える傾向があるのだろうか、ということは検討に値するであろう。

そこで本研究では、東アジアにおける法意識、規範意識、契約観、そして一般的対人信頼感(以降、信頼感と略記する)が様々な属性変数とどのような関連があるかを個人レベルで調べることで、各国においてそれらの意識がどのような要因に規定されているかを検討する。

さらに、法意識・規範意識・契約観と信頼感が個人

内でどのような関係にあるかを解析する。

なぜなら「信頼感」や、法意識、規範意識及び契約観という心理的構成概念は、個人レベルでのソーシャルキャピタルと考えるべきであり、各国での平均値による解析では、個人内でのこれらの関係を理解することはできないからである。

具体的な調査項目としては、日本文化会議（飽戸、1973）が実施した法意識と契約観に関する調査で用いた項目を、今回の解析でも利用する。但し、それらの項目は抽象的であり、また文化によってはいずれかの選択肢が社会的に望ましいものである可能性が否定できない。そこで、法意識と関連があり、かつ具体的な行動の規範のレベルを問う質問項目として、統計数理研究所が行っている国民性の調査の規範意識に関連する質問項目を「規範意識」の項目として利用した。さらに性別・年齢などの属性要因を除去した上での、これらの意識と「信頼感」との関係も個人のレベルで明らかにし、その結果、各国・地域の様相の差を明らかにすることを目的として解析を行った。

2. データの詳細と利用した項目

統計数理研究所を中心とする国際比較調査グループが実施した東アジア価値観国際比較調査（2002～2004年度）の9カ国・地域（日本・北京・上海・昆明・杭州・香港・台湾・韓国・シンガポール）のデータを利用した。各国・地域での標本抽出法の詳細は山岡・李（2004）、鄭（2004）、吉野（編、2004a, 2004b, 2005a, 2005b, 2005c）を参照いただきたい。

本研究で取り上げた質問項目としては、東アジア価値観国際比較調査の① 一般的他者に対する信頼感、② 法意識、③ 契約観に関連する項目、④ 規範意識に関連する項目、⑤ 属性項目（すなわち性別・年齢・学歴・社会的階層の上下）である。これらの項目のもともとの出典は、①については、米国一般社会調査（General Social Survey; GSS, Davis, Smith & Marsden. 1972-2004）の3つの「信頼感」尺度を一部改変したものを利用した。また②については日本文化会議が1971年に実施した法意識に関する調査である（東アジア価値観国際比較調査問34：付録参照）。

この問34は「法律はどんなときにも守るべきである」という意見と「目的が本当に正しいのだと確信がもてるときには、法律をやぶることもやむをえない」という意見のどちらかを選択させる項目である。また

③についても、原典は上記の日本文化会議の調査である（東アジア価値観国際比較調査問35・問36：付録参照）。

④については、国民性調査の「入社試験」の項目群と、東アジア価値観調査での新問である功罪に関するトレードオフに関する項目を用いた（東アジア価値観国際比較調査問24ab・問55）。具体的には問24は自分が社長である時に、1名のみ採用する入社試験において、自分の親戚が2番の成績となり、かつ採用担当がどちらでもよいと言っているときにそれでも1番の人を採用するか、それとも自分の親戚を採用するか（問24のa）、さらに自分の親戚でなく、自分が以前世話になった人の子供であったらどうするか（問24のb）という項目である。

また、問55は、ある同僚が悪いことをして不当に利益を得ているのを知って、それを上司に報告しようしていた時、その同僚に命をすくわれた場合、その不正の報告をやめるかどうか、という項目である。

問24も問55も、理念的なレベルでの規範意識を尋ねたものではなく、実際の状況を想定させて回答させることで、社会的望ましさ（または文化的なステレオタイプ）などの影響を除去した回答を得ることを目的として作成されている。

また、属性項目のうち、年齢は20歳以上を5年ごとに11階級に分けたものを利用し、また学歴については質問票の項目を各国ごとに3段階（初等学校・中等学校・高等教育機関）に再分類した。例えば日本ではそれぞれ初等学校としては小学校と中学校、中等学校としては高等学校、高等教育機関としては短大・専門学校・大学・大学院という分類をし、他の国や地域でも各社会の事情に応じて分類をしている。

また④の社会的階層は国民性調査の項目を利用して、5つの階層（上・中の上・中の中・中の下・下）のどれに自分が所属するかを答えさせる項目である（問6）。

3. 解析と結果

3.1. 国別平均の解析

(1) 法意識や規範意識についての国別平均の解析
問34は法律を厳密に適用することが良いかどうかを、非常に直接的に質問している。表1には問34での「どんなときにも守るべきだ」という方の選択肢への回答の国別平均値と、各国の標本抽出法及び回収率・回

表1. 法意識・規範意識項目の単純集計による比較

		日本 1972	日本 2001	北京	上海	昆明	杭州	香港	台湾	韓国	シンガ ポール
問 34	1	42.5	32.5	65.9	72.0	73.1	54.2	54.0	55.2	48.2	58.9
	2	51.3	52.6	33.1	25.9	20.7	33.9	41.7	36.5	50.3	36.3
	8	0.0	1.0	0.1	1.3	2.8	1.3	0.0	0.1	0.1	0.0
	9	6.3	13.9	0.9	0.8	3.3	10.5	4.3	8.2	1.4	4.8
問 24a	1	—	67.3	79.2	79.0	70.9	60.2	66.2	70.4	77.3	73.5
	2	—	18.8	15.9	18.7	17.7	23.5	30.5	20.6	19.5	18.0
	8	—	1.9	1.9	0.9	5.5	2.9	0.8	0.4	0.7	2.4
	9	—	11.9	3.0	1.3	5.9	13.5	2.6	8.6	2.5	6.1
問 24b	1	—	44.1	59.3	54.4	57.4	47.4	46.7	52.9	55.2	55.3
	2	—	39.9	35.7	43.2	30.6	37.2	48.4	38.4	41.1	36.5
	8	—	1.9	2.2	1.1	4.7	3.2	0.9	0.4	1.0	2.1
	9	—	14.1	2.8	1.2	7.4	12.2	4.0	8.3	2.8	6.2
問 55	1	—	52.0	49.9	38.1	50.0	35.6	43.8	34.7	48.4	40.1
	2	—	25.7	40.9	53.1	28.3	34.7	44.7	48.0	42.1	39.3
	8	—	3.8	4.0	4.5	8.0	5.2	2.2	1.4	2.6	11.7
	9	—	18.6	5.2	4.4	13.8	24.6	9.3	16.0	6.9	8.9
回収率		層別二 段抽出	層別二 段抽出	三段 抽出法	三段 抽出法	三段 抽出法	三段 抽出法	四段 抽出法	三段 抽出法	二段割 当法	二段 抽出法
回収数		70.20%	65.60%	29.20%	54.90%	46.40%	36.10%	35.20%	40.70%	—	20.00%
			787	1,062	1,052	911	1,018	1,057	732	1,006	1,037

収数を記載している。

問 34 の国別平均の値を比較すると、日本にくらべて中国本土（北京・上海・昆明・杭州）では選択肢 1「どんなときにも守るべきだ」の割合がかなり高い。日本は台湾や韓国などと比較しても選択肢 1 の割合が少ないことがわかる。これまで、日本人の回答傾向として中間的選択肢が選択されやすいことが指摘されており（吉野，2005），そのことがこの項目でも「どんなときにも」といった強い言葉が入っている選択肢への選択率が低くなっている原因の一つである可能性もあるが（そこで中間的選択肢 9 を除いた場合の回答の国別平均値を表 2 に記載した），たとえ選択肢 9 を選択肢 1 に併合したとしても，中国本土より選択肢 1 の割合が低いことから，明確に質的な差異が認めらるといえる。

さて同様に規範意識を調べる項目として今回利用した国民性調査の「入社試験」の項目である問 24ab と，東アジア価値観調査において新問として作成された，「功罪のトレードオフ」に関する項目である問 55 の結果も表 1 に記載した。問 24 に関しては，選択肢 1 を選

んだ人の割合が北京・上海・韓国・シンガポールは高いが，日本にくらべて質的に異なる差異とは考えられない。また選択肢 9 を除いた場合（表 2）を見ると，差異が更に小さいことがわかる。

一方，問 55 では規範意識について，より厳格な選択肢 1 の割合が日本では他に比べて高い（表 2 から，中間的選択肢を除いた場合は更に差が開くことがわかる）。問 55 の内容は，「不正な行為」をその後の「よい行為」で帳消しに出来るかどうかを聞いている項目であり，本来は名目どおりの法意識が高ければこの項目に対する回答としては選択肢 1 が選ばれると想定されるので，問 55 に対する中国本土の回答パターンを勘案すると問 34 への選択肢 1 の割合が高いことは，いわば「タテマエ」を示していたという可能性が示唆される。

問 34 のような趣旨の明確な質問は，社会的望ましさによる回答への影響や（「どんなときも」などの）副詞が入っているなどのワーディングの影響が大きいと考えられる。これに対して，問 24 や問 55 などのような，具体的な状況を想起させたり，どちらの選択肢も捨て

表2. 法意識・規範意識項目の単純集計による比較 (9を除いた場合)

		日本 1972	日本 2001	北京	上海	昆明	杭州	香港	台湾	韓国	シンガ ポール
問 34	1	45.3	37.7	66.5	72.6	75.6	60.6	56.4	60.1	48.9	61.9
	2	54.7	61.1	33.4	26.1	21.4	37.9	43.6	39.7	51.0	38.1
	8	0.0	1.2	0.1	1.3	2.9	1.5	0.0	0.1	0.1	0.0
問 24a	1	—	76.5	81.6	80.1	75.4	69.5	67.9	77.0	79.3	78.3
	2	—	21.4	16.4	19.0	18.8	27.2	31.3	22.6	20.0	19.2
	8	—	2.2	2.0	0.9	5.8	3.3	0.8	0.4	0.7	2.6
問 24b	1	—	51.3	61.0	55.1	61.9	54.0	48.6	57.7	56.7	58.9
	2	—	46.4	36.7	43.8	33.0	42.4	50.4	41.9	42.2	38.9
	8	—	2.2	2.3	1.1	5.1	3.6	0.9	0.4	1.0	2.2
問 55	1	—	63.8	52.6	39.8	58.0	47.2	48.3	41.3	52.0	44.0
	2	—	31.5	43.1	55.5	32.8	46.0	49.3	57.1	45.3	43.1
	8	—	4.7	4.2	4.7	9.2	6.8	2.4	1.6	2.8	12.8

難しいがあえて選択させるような設定にしている項目は、(ステレオタイプ的な)社会的望ましさ(建前)などの影響を除去した本音の回答を得るのに有用ではないかと考えられる。

実際に、政府の統制が厳しく、このような質問項目ではより社会的に望ましい選択肢を選びやすいと考えられる中国本土においては、問34では日本などよりも法を厳密に適用する方への選択率が高いが、問24や問55では必ずしもそうではない。また、社会的な望ましさへの構えなどの文化的要因よりも、個人差の影響が大きくなる項目は、他の変数との関連性も大きいと考えられるが、実際に後で示すように、中国本土では問34では属性項目や信頼感との関連があまりないが、問24や問55では属性項目や信頼感との関連が見られる。

(2) 国別平均のレベルでの信頼感と法意識・契約観・規範意識

問26, 27, 28の3項目に対して、対人的信頼感が楽観的である方(それぞれ選択肢1, 2, 1)に回答した数を「信頼感の合成変数(得点)」として定義した。

同様に、問35, 36の2項目に対して、より厳格な契約を重視する立場の方に回答した数を「契約観の合成変数」とし、問24a・24b・55の3項目に対して、より規範意識の強い方(すべて1)に回答した数を「規範意識の合成変数」として定義した。

そして、国別平均のレベルで法意識・契約観・規範意識と信頼感の関係を見るために、信頼感合成変数の

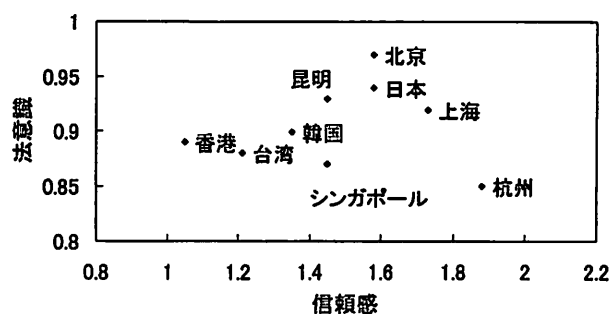


図1. 信頼感合成変数と法意識の国別平均のプロット

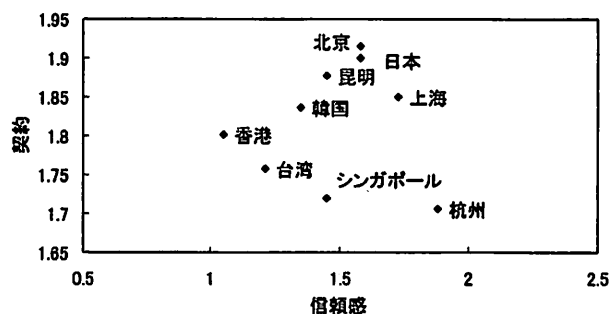


図2. 信頼感合成変数と契約観合成変数の国別平均のプロット

各国平均と、問34に対して「どんなときにも守るべきだ」という方に回答した率を示したものを図1に、信頼感合成変数と契約観合成変数の各国ごとの平均を示したものを図2に、また信頼感合成変数と規範意識合成変数の各国ごとの平均を示したものを図3に示し

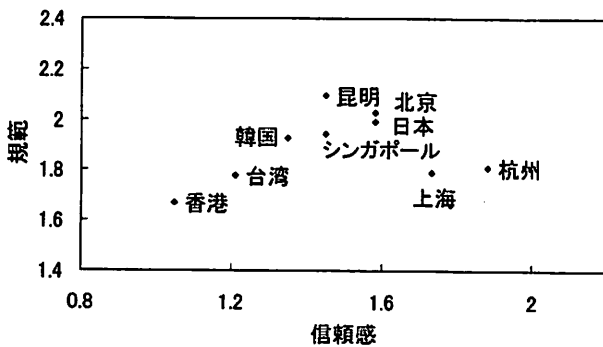


図3. 信頼感合成変数と規範意識合成変数の国別平均のプロット

た。国別平均のレベルでの信頼感と問34とは、ほぼ無相関である。また同様に、信頼感と契約観、信頼感と規範意識も無相関であった。

3.2. 個票データ解析

(3) 個票データ解析の必要性

意識調査データによる国際比較では、そもそも利用したデータからの国際比較可能性自体が大きな問題になる。その原因としては、(i) 翻訳等価性が必ずしも保障できない、(ii) 標本抽出法が違う、(iii) 実施時期の微妙なズレによって社会情勢に大きな変化が生じる可能性がある、(iv) 「わからない」という選択肢やその他への回答頻度が異なる（日本では「わからない」が多いなど）、といった要因から、回答平均の差が本来測定したい平均差から大きく偏る可能性があるからである。これらの問題は、ここでは詳細に扱うことはできないが、さらに本質的な次の問題が存在する。

即ち、各国・地域の個人内では（例えば）正の相関であるのに、国・地域間の平均自体は負の相関になる場合など、国別平均の解析から逆の推論を行ってしまうという、いわゆる Robinson 効果（または「生態学的誤謬」「集計バイアス」）が生じる可能性の問題である。

今回の解析での中国本土における法意識項目と規範意識項目の結果の乖離などからも、吉野（2005）が述べるように、国際比較を行う際には、「2国間の差を見出してもそれが本質的なものか、単に翻訳表現の微妙な差の効果か直ちには判断し難い」ため、平均の高低を直接解釈するのではなく、他の変数との相関構造を考えないと、誤った解釈に到る可能性があるということがわかる。

さらにここで扱っている法意識・規範意識・契約観・信頼感個人レベルのソーシャルキャピタルであり、

国別の平均は単に各国・地域の（回答の）表層的文化差を示しているに過ぎない可能性がある。したがって、各国・地域での平均的な回答傾向を知るだけでなく、信頼感が個人レベルで法意識・規範意識・契約観の構造にどのように影響を与えているか、そしてそれらの関係の国・地域間での差異を知るためには、個票データレベルでの解析をする必要がある。そこで、以下に個票データレベルでの解析により、まず尺度としての信頼感因子が各国で構成されるかどうかを検討し、さらに構成された信頼感と属性変数の関係を調べる。そして多群の構造方程式モデリングによって法意識・規範意識・契約観と属性変数、さらに信頼感の関係を解析した結果を示す。

(4) 尺度としての信頼感

まず基礎的な解析として、3項目の「信頼感」（問26：他人のためか自分のためか・問27：スキがあれば利用されるか・問28：人は信頼できるか）に対する項目に対して、各国ごとに Polychoric 相関係数を算出し、これを用いて因子分析を行うことで、「信頼感因子」を構成できるかどうかを検討した。

ここで1因子に対して指標数は3つであるため、飽和モデルと同じ適合度となる。そこで適合度指標ではなく、因子寄与の観点から因子の妥当性を検討した。

それぞれの国・地域における各項目の Polychoric 相関と、これを用いて因子分析を行った結果得られる因子寄与率を表3に記載した。

結果として香港・韓国を除けば因子寄与率は一定以上あり、各国・地域においてこの3つの項目を1因子で十分説明することができることがわかったため、以後この3項目から構成される因子を信頼感因子として解析に利用した。

3.3. 多群の構造方程式モデリングを用いた解析

規範意識の3項目から規範意識因子を、同様に信頼感の3項目から信頼感因子を構成した。但し、以降の解析では、信頼感の因子寄与が低く、解析に加えることにより Heywood Case（分散要素に対する負の推定値）を生じる韓国を除いて解析を行った。

また、規範意識の3項目と信頼感の3項目、法意識項目、学歴及び問6をカテゴリカル変数とみなす必要があるため、カテゴリカル変数が一部加わった場合に Polychoric・Polyserial 相関係数を用いて適切に解析を行うことができる Mplus (Muthén, & Muthén, 2004) を用いて解析を行った。

表3. 各国での信頼感3項目の相関と寄与率

相関	日本	北京	上海	昆明	杭州	香港	台湾	韓国	シンガポール
T1-T2	0.375	0.321	0.524	0.553	0.428	0.285	0.432	0.074	0.476
T1-T3	0.465	0.431	0.564	0.491	0.344	0.312	0.456	0.232	0.486
T2-T3	0.560	0.229	0.434	0.461	0.421	0.289	0.326	0.389	0.353
寄与率	0.486	0.408	0.517	0.506	0.404	0.296	0.419	0.270	0.454

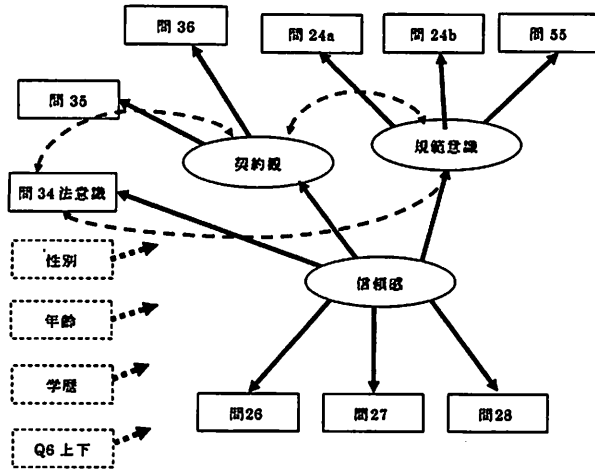


図4. 項目間の関係

*破線の双方向の矢印は誤差相関を表す
*破線の単方向の矢印は共変量であることを表す

さらに、構成された因子の意味を各国・地域で共通とするために、信頼感因子の信頼感3項目、契約観因子の2指標および規範意識因子の3指標に対する因子負荷は国・地域で共通とした。以降、解釈を容易にするために、法意識項目と階層の項目のカテゴリーは高低を反転して利用した。また、項目とモデルの関係を図4に表した。以降の解析は、この図のモデル全体の部分的なモデルの解析となっている。

(5) 信頼感についての基礎的解析

信頼感因子と属性変数がどのような関係があるかについて、多群の離散変数の因子分析モデルを用いて調べた。その結果として、性別・年齢は各国・地域でまったく関連がなかった。一方、学歴の影響は北京 ($p = .0075$)、上海 ($p = .0001$)、香港 ($p = .0032$)、昆明 ($p < .0001$) で有意であり、これらの地域では最終学歴が高いと信頼感が高いということが分かった。また、収入の影響は北京 ($p < .0001$)、上海 ($p < .0001$)、昆明 ($p = .0397$) で有意であり、これらの地域では収入と信頼感単調増加関係だが、それ以外の地域ではそうでは

なかった。

上記の結果は、これらの地域では社会的地位やエリート意識と信頼感が関連していることを示唆している。一方日本などでは、社会的地位が高いかどうかは一般的対人信頼感とは関連がないということの意味すると思われる。

(6) 法意識・規範意識・契約観の相関

法意識・規範意識因子・契約観因子は、属性項目である性別・年齢・学歴・社会的階層によって部分的には説明することができると考えられる。さらに、これらを信頼感がどれくらい説明しているか、また国や地域の間でどのような違いがあるのかを調べるのが本研究の目的の1つである。そこでまずは、法意識・契約観因子・規範意識因子の相関関係が国ごとにどれくらい異なるのかを解析した。

契約観因子への因子負荷の推定値は問35に対しては0.829、問36に対しては0.861であった。また規範意識への因子負荷の推定値は問24aでは(反転項目) -0.908、問24bでは(反転項目) -0.871、問55では(反転項目) -0.433であった。

上記の結果から、それぞれの項目を1つの因子が説明していることがわかった。また以降の解析でもほぼ同様の因子負荷が得られた(従って以降の解析の結果においては省略する)。

相関係数の推定値を表4に記載した。

結果として、法意識と規範意識の間の相関は、昆明を除く中国本土とシンガポールでは有意であった。

また法意識と契約観は、上海と香港以外では無相関であり、これらの2カ国でも相関は低かった。

規範意識と契約観の相関は、日本と上海・香港・昆明とシンガポールで有意であった。しかし、単純に相関だけの情報からでは、実際の社会について意味のある説明をすることは難しい。

(7) 信頼感因子を説明変数として利用した場合の解析結果

ここでは法意識・規範意識因子・契約観因子を、信

表4. 法意識・契約観・規範意識因子の相関係数

	日本	北京	上海	昆明	杭州	香港	台湾	シンガポール
法と規範の相関	0.311*	0.044	-0.235*	-0.237*	0.120	-0.223*	0.001	0.180*
法と契約の相関	0.078	0.367*	-0.278*	-0.093	0.280*	-0.017	0.098	-0.181*
規範と契約の相関	-0.115	-0.016	0.209*	-0.059	-0.012	0.142*	0.114	0.082

表5. 法意識・契約観・規範意識因子と信頼感因子の関係

目的変数	説明変数	日本	北京	上海	昆明	杭州	香港	台湾	シンガポール
規範意識	信頼感	0.116	0.313*	0.343*	0.228*	0.482*	0.050	0.133*	-0.116*
契約観	信頼感	0.407*	0.174	0.275*	-0.084	0.092	-0.103	-0.276*	-0.212*
法意識	信頼感	0.290*	0.215*	0.172*	0.279*	0.207*	0.031	0.033	0.263*

「*」の印がついているものは、5%水準でパス係数が有意であったことを示す。

表6. 属性項目と信頼感による法意識・契約観・規範意識の回帰分析の結果

目的変数	説明変数	日本	北京	上海	昆明	杭州	香港	台湾	シンガポール
規範意識	信頼感	0.059	0.242*	0.295*	0.166*	0.378*	0.055	0.111	-0.008
契約観	信頼感	0.281*	0.133	0.151*	-0.184*	0.011	-0.120	-0.307*	-0.199*
法意識	信頼感	0.253*	0.064	0.104	0.225*	0.105	0.023	0.034	0.225*
規範意識	性別	-0.100	0.142	-0.004	-0.246*	-0.294*	-0.151*	-0.027	-0.071
	年齢	0.036	0.056*	0.033*	0.058*	0.056*	0.059*	0.010	-0.027
	学歴	0.222*	-0.073	0.045	0.071	0.184*	-0.022	0.229*	0.246*
	階層	-0.099	0.100	0.113*	0.200*	0.028	0.019	-0.031	0.142
契約観	性別	0.047	-0.001	-0.024	0.105	-0.128	0.084	0.281*	-0.095
	年齢	0.033	0.040	0.025	0.001	0.000	0.038	-0.035	-0.023
	学歴	-0.078	0.079	0.216*	0.247*	0.117	0.204*	-0.164	0.109
	階層	0.209	0.087	-0.061	-0.074	-0.046	-0.048	0.107	-0.040
法意識	性別	-0.013	0.112	0.070	0.228*	0.189	0.039	-0.018	0.138
	年齢	0.094*	0.088*	0.083*	0.076*	0.057*	0.057*	0.016	0.062*
	学歴	-0.081	-0.115*	0.000	0.009	0.015	0.038	-0.079	-0.117
	階層	0.133	0.022	-0.043	-0.038	0.015	-0.071	0.296*	0.077
法と契約の相関	0.331*	0.001	0.242*	0.174*	0.141	0.042	0.040	0.136*	
規範と契約の相関	0.033	0.308*	0.221*	0.200*	0.155*	0.200*	0.117*	-0.125*	
法と規範の相関	-0.151	-0.090	0.198*	0.002	-0.019	0.143*	0.098	0.222*	

「*」の印がついているものは、5%水準でパス係数が有意であったことを示す。

信頼感因子を用いて説明するモデルを構成した。ここで信頼感への因子負荷の推定値は問26に対しては(反転項目)-0.771, 問27に対しては0.464, 問28に対しては(反転項目)-0.558であった。

結果として得られた標準化パス係数の推定値を表5に記載した。

規範意識は日本と香港以外では信頼感で有意に説明されることがわかる。

法意識も香港と台湾以外では信頼感によって有意に説明できることがわかる。

また、興味深い結果が得られているのは契約観であり、これについては日本、上海、台湾とシンガポール

で信頼感の影響が有意であったが、前二者と後二者では係数の正負が逆転している。有意傾向10%であった北京を加えて考えると、日本、北京、上海では一般的対人信頼感が高いほど契約を厳格に行う傾向があるのに対して、台湾とシンガポールでは逆の傾向があるということであり、国・地域によって個人のレベルでの意識構造の異質性が存在するということを示している。

しかし、各因子に対する年齢などの属性変数の影響を考慮しなければ、信頼感とこれらの変数の関係を正しく理解することはできない。

(8) 属性変数を加えた分析結果

そこで、法意識・規範意識及び契約観が信頼感だけでなく属性変数によってどのように説明されるかを調べた。これによって、属性変数の影響を考慮した上での信頼感の影響を調べることができる。

このモデルに対する適合度指標は、CFIが0.971、TLIが0.958、RMSEAが0.043であり、適合度は十分に高く、解析に利用したモデルがデータを十分説明していると考えられる。

法意識項目・規範意識因子と契約観因子に対する信頼感因子・性別・年齢・学歴・社会的階層の(標準化)パス係数の推定値を表6に記載した。

以下に結果を列挙する。

(i) 解析(7)(表5)との違い

属性変数を考慮することで、規範意識については台湾とシンガポールで信頼感との関係が有意でなくなった。また契約観については逆に昆明で有意になった。

また法意識では北京・上海・杭州で有意でなくなった。

(ii) 規範意識

まず信頼感の規範意識へのパス係数は、中国本土で有意であり、これらの地域では信頼感が高いほど規範意識も高まる傾向がある。一方、他の地域では有意ではなかった。

(iii) 契約観

日本・上海・昆明・台湾・シンガポールで信頼感とのパス係数が有意であった。

(iv) 法意識

一方、信頼間の法意識への回帰係数は日本・昆明・シンガポールで有意であり、これらの国・地域では信頼感が高いほど法意識も厳格であった。

つまり中国本土(北京・上海・昆明・杭州)では信

頼感因子は規範意識因子に影響を与えているが、昆明を除いては、法意識には影響を与えていないということである。ここで、昆明では規範意識と法意識いずれに対しても信頼感が説明力があつた点が中国本土の他の3地域とは結果が異なる。しかしこのことは、昆明が民族構成や地理的位置の点から他の3者とは大きく異なるという点を考慮すると理解できる。

法意識と規範意識は本来、関連が高いものであると考えられるため、この両者と信頼感及び属性変数との関係は似たものになると予想される。しかし上記の結果からは、中国本土では信頼感は法意識とは関連がないが、規範意識とは関連が一定以上存在するということがわかった。このことは、国別平均の解析の部分で議論したように、中国本土においては法意識項目はあまり個人のレベルでの変動はなく、文化及び政治的に回答傾向が規定されている可能性があるが(例えば近年中国政府が取り組んでいる腐敗撲滅キャンペーンなどの影響で法意識に関する項目では厳密な方に回答する「構え」が生じているなど)、規範意識項目に対してはより素直に回答しているために個人差があり、他の変数との関連が見られるという可能性がある。

このようなことは単純に国別平均値を解析するだけでなく、今回のように信頼感や属性変数など、他の変数との関係を個票データ解析によって理解することにより分かることであると考えられる。

更に、契約観については、日本と上海、そして有意ではないものの北京でも信頼感が高い人ほど厳格な契約を重視する傾向がある。一方、昆明と台湾、シンガポールでは信頼感が高いほど契約に対して柔軟な考え方を持っている傾向があつた。このように、国・地域の間で関係が逆転することはあまりなく、珍しいことであるといえる。

直感的には、「一般的に他人を信頼する人は、契約の厳密性よりも融通性を重視する」という後者の関係の方が自然のように思われる。しかしソーシャルキャピタルの集合体として人々の信頼感と契約観を考えると、前者のような関係が妥当であるとも考えられる。これは、前者の国・地域と後者の国・地域での取引形態、契約形態の差異に関係するものであると考えられ、今後このような異質性がどのような原因で引き起こされるのかは調べていく価値がある。

また、属性変数としては年齢の影響が大きく、規範意識に対しては中国本土と香港で、また法意識に対しては台湾以外で有意であり、それぞれ年齢が高くなる

と規範意識も法意識も高まる方向であった。これも、年齢効果であるか、コーホート効果であるかはこのデータだけでは分からないので、今後同様の調査データが得られれば考察したい。

4. ま と め

本研究では、法意識・規範意識・契約観と一般的他者に対する信頼感の関連に焦点を当て、東アジアの人々の意識構造の解析を試みた。

われわれ統計数理研究所を中心とするグループでは、現在ソーシャルキャピタルを研究の軸のひとつに据えた国際比較の調査を、東アジアを中心に継続的に行っており、今後は欧米を含め徐々に比較の連鎖の範囲を拡大させていく予定である。

個票データ解析の必要性の部分で述べたように、ここで得られた結果を含め、一般的に国際比較調査では① 質問項目の翻訳等価性の問題、② 各国ごとで標本抽出方法が異なる場合がある（例えば日本は住民基本台帳からの統計的無作為抽出に対して、韓国では世帯内の個人抽出がパスディー法であるなど）、といった様々な問題があり、そのまま単純に解釈することには注意が必要である。

そのような限界を考慮しながらも、本研究での解析を進めていく上で判明したことは、質問項目に対する回答には社会的望ましさなどの様々な要因（例えば各社会での本音と建前の関係など）が影響を与えているため、単純に国・地域の間で比較することは難しく、例えば他の項目との相関構造から議論を進めていくことに意義があるということである。例えば本研究での中国本土での法意識と規範意識の項目の回答パターンの乖離はこのことを示唆している。

本論文では、このような問題意識に対して、離散変数が混在している場合の多群の構造方程式モデリングによって国際比較解析を行うことの意義を示した。

実質的な知見としては、契約観と信頼感の国ごとの関係の異質性や、中国本土では規範意識と信頼感に関係があること、一方、日本とシンガポールでは信頼感と規範意識とは関係はないが、法意識とは関係があることが分かった。

一般的な対人信頼感については、Fukuyama (1995) は家族や共同体以外の一般的他者に対する信頼が形成されにくい低信頼社会として中国や南部イタリアを挙げ、高信頼社会としてアメリカ、ドイツ、そして日本

を挙げているのに対して、山岸 (1998) では信頼と「安心」を分けて論じることを提唱し、日本の信頼感が実は安心感であると指摘している。

また、これまでの法意識や契約観、信頼感に関する国際比較の議論は実証データによる裏付けに乏しかったり、学生がサンプルの小規模調査から結論を得ている場合が多かった。今後、ソーシャルキャピタルに関するより再現性のある確実な知見を得るためには、これらの構成概念の正確な定義づけや信頼性のある測定項目の開発と大規模な調査による実証的な国際比較調査研究が必要であろう。

謝 辞

本研究は、文部科学省/日本学術振興会・科学研究費補助金研究 A(2) No.14252013 (研究代表者: 吉野諒三) の助成を受けました。また、統計数理研究所/総合研究大学院大学の吉野諒三先生、匿名の査読者の方には、本論文の改訂にあたり数々の建設的なコメントを頂いたことを御礼申し上げます。

参 考 文 献

- 飽戸 弘 (1973) 日本文化会議編 日本人の法意識 (調査分析), p. 22-p. 30. 至誠堂.
- Coleman, J.S. (1988) social capital in the creation of human capital. *The American Journal of Sociology*, 95-120.
- Fukuyama, F. (1995) *Trust: The social virtues and the creation of prosperity*, New York: Free Press.
- Grootaert, C. & van Bastelaer, T. (2001) *Understanding and Measuring Social Capital: A Synthesis of Findings and Recommendations from the Social Capital Initiative*, Social Capital Initiative Working paper No. 24, Washington D.C.: The World bank.
- 林知己夫・鈴木達三・村上正勝・吉野諒三・林 文・釜野さおり・三宅一郎・佐々木正道 (1998). 国民性七カ国比較. 出光書店.
- 法意識国際比較研究会 (1996). 「特集・日本人の契約観と法意識」. *ジュリスト*, 1096.
- 法意識国際比較研究会 (1999). 中国人の法意識 1995 年中国全国調査 (1). *ジュリスト*, 1169, 95-99.
- 法意識国際比較研究会 (2000). 中国人の法意識 1995 年中国全国調査 (3). *ジュリスト*, 1173, 116-127.
- Inglehart, R.F., Basanez, M. & Moreno, A. (1998). *Human Values and Beliefs: A Cross-Cultural Sourcebook*. Ann Arbor: University of Mi-

- chigan Press.
- James Allan, D., Smith, T.W., & Marsden, P.V. (1972-2002). *General Social Surveys, 1972-2002: [CUMULATIVE FILE]* [Computer File]? 2nd ICPSR version. Chicago, IL: National Opinion Research Center [producer], 2003. Storrs, CT: Roper Center for Public Opinion Research, University of Connecticut/Ann Arbor, MI: Inter-university Consortium for Political and Social Research [distributors], 2003.
- Krishna, A. & Uphoff, N. (1999). Mapping and Measuring Social Capital: A Conceptual and Empirical Study of Collective Action for Conserving and Developing Watersheds in Rajasthan, India, Social Capital Initiative Working Paper No.13, Washington D.C.; The World Bank.
- Loury, G. (1977). A dynamic theory of racial income differences. Pp.153-186 in P.A. Wallace & A. Le Mund, eds., *Women, minorities, and employment discrimination*. Lexington, MA: Lexington Books.
- 宮川公男・大守隆編 (2004). ソーシャル・キャピタル. 東洋経済新報社.
- Muthén, L.K., & Muthén, B.O. (2004). *Mplus User's Guide*. [Third Edition.] Los Angeles, CA: Muthén & Muthén.
- Paxton, P. (1999). Is social capital declining in the United States? A multiple indicator assessment. *American Journal of Sociology*, 105, 88-127.
- Putnam, R.D. (1993). *Making Democracy Work*. Princeton: Princeton University Press.
- 山岸俊男 (1998). 信頼の構造. 東京大学出版会.
- Yoshino, R. (2002). A Time to Trust. *Behavior-metrika*, 29, 231-260.
- 吉野諒三(編) (2004a). 『東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—(2002年日本調査報告書)』(統計数理研究所研究リポート91). 統計数理研究所.
- 吉野諒三(編) (2004b). 『東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—(2002年度中国[北京・上海・香港]調査報告書)』. 統計数理研究所.
- 吉野諒三(編) (2005a). 『東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—(2003年台湾調査報告書)』. 統計数理研究所.
- 吉野諒三(編) (2005b). 『東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—(2003年韓国調査報告書)』. 統計数理研究所.
- 吉野諒三(編) (2005c). 『東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析—(2004年シンガポール調査報告書)』. 統計数理研究所.
- 吉野諒三 (2005). 東アジア価値観国際比較調査: 文化多様体解析 (CULMANに基づく計量的文明論構築へ向けて. 行動計量学, 第32巻第2号, pp. 133-146.
- (2005年7月25日受付, 2006年1月12日最終修正)

付録：質問項目

ここでは日本版の質問紙を掲載するが、各国版ではその国において適切な質問項目になるように細かな変更がされている。

問6 かりに現在の日本社会全体を、ここに書いてあるように5つの層に分けるとすれば、お宅はこのどれにはいると思いますか。

- | | | | | |
|--------------|-----|-------|-----|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 上 | 中の上 | 中の中 | 中の下 | 下 |
| 8 | | 9 | | |
| その他
(記入) | | わからない | | |

問24a. あなたが、ある会社の社長だったとします。その会社で、新しく職員を1人採用するために試験をしました。入社試験をまかせておいた課長が、「社長のご親戚の方は2番でした。しかし、私としましては、1番の人でも、ご親戚の方でも、どちらでもよいと思いますがどうでしょうか」と社長のあなたに報告しました。あなたはどちらをとれ(採用しろ)といたしますか。

- 1 1番の人を採用するようという
- 2 親戚を採用するようという
- 8 その他(記入)
- 9 わからない

b. それでは、この場合2番になったのがあなたの親戚の子供でなくて、あなたが昔世話になった人の子供だったとしたら、あなたはどうしますか。(どちらをとれといたしますか)

- 1 1番の人を採用するようという
- 2 昔世話になった人の子供を採用するようという
- 8 その他(記入)
- 9 わからない

問26 たいていの人は、他人の役にたとうとしていると思いますか、それとも自分のことだけ考えていると思いますか。

- 1 他人の役にたとうとしている
- 2 自分のことだけ考えている
- 8 その他(記入)
- 9 わからない

問27 他人は、機会があれば、あなたを利用しようとしていると思いますか、それともそんなことはないと思いますか。

- 1 他人は機会があれば利用しようとしていると

思う

- 2 そんなことはないと思う
- 8 その他(記入)
- 9 わからない

問28 たいていの人は信頼できると思いますか、それとも、常に用心した方がよいと思いますか。

- 1 信頼できると思う
- 2 常に用心した方がよい
- 8 その他(記入)
- 9 わからない

問34 「法律はどんなときにも守るべきである」という意見と「目的が本当に正しいものだと確信がもてるときには、法律をやぶることもやむをえない」という意見があります。どちらの考えがあなたにぴったりしますか。

- 1 「どんなときにも守るべきだ」という意見
- 2 「目的が正しい時には、法律をやぶることもやむをえない」という意見
- 8 その他(記入)
- 9 わからない

問35 契約書というものについて、あなたは次のAさんとBさんの意見のうち、どちらに近いですか。

- A 「契約書をとりかわすなどというのは、お互いに信頼し合っていない証拠だ。信頼し合っていれば、契約書など必要ない」
- B 「いくらお互いに信頼し合っている、契約は契約として、ちゃんと文書をとりかわしておく方がよい」
- 1 Aの意見に近い
- 2 Bの意見に近い
- 8 その他(記入)
- 9 わからない

問36 また、次のAさんとBさんの意見ではどちらに近いですか。

- A 「契約書をとりかわすときでも、契約などというものは形式的なものだから、できるだけ簡単にして、契約書の表現もできるだけ融通がきくようなものにしておく方がよい」
- B 「契約書というものは、あとで解釈などをめぐってもめないように、できるだけこまかく具体的にキチッと決めておく方がよい」

- 1 Aの意見に近い
- 2 Bの意見に近い

- 8 その他（記入）
- 9 わからない
- 問 55 次のような場面を想像してください。あなたは
ある会社に働いています。ある同僚が悪いこと
をして不当に利益を得ているのを知って、それ
を上司に報告しようと思っていました。ところが、ある日、会社に刃物を持った凶悪な強盗
が押し入り、あなたも命の危険にさらされまし
た。しかし、その同僚の活躍によりあなたの命
- も救われ、事件も解決しました。あなたは、そ
の同僚の不正について、つぎのうちどうします
か。
- 1 命が救われたことには感謝するが、なおかつ不正については上司に報告する
- 2 命を救われたことに感謝し、不正を報告するのはやめる
- 8 その他（記入）
- 9 わからない

東アジア諸国の人々の自然観・環境観の解析

—— 環境意識形成に影響を与える要因の抽出 ——

鄭 躍 軍*・吉 野 諒 三**・村 上 征 勝***

An Analysis on Attitudes toward Nature and Environment in East Asia
—— Main Factors in Formation of Environmental Consciousness ——

Yuejun ZHENG, Ryozo YOSHINO and Masakatsu MURAKAMI

The purpose of this paper is to discuss the conceptual framework of people's environmental consciousness (EC) and its influences on the pro-environmental behavior based on analyzing the characters of EC and its influence factors in various countries using the East Asia value survey data collected from 2002 to 2004 by the face-to-face interview. The factors contain two types of variables, one is the attitudinal variable which contains health satisfaction, life satisfaction, trust, and attitudes toward science & technology etc., and the other is the demographic variables including gender, age, education level, household income, and religion etc., have been employed in this research. As results derived from statistical analysis on the relation between people's EC and factors, it has been revealed that the response patterns on EC are definitely different, and the significant factors are also diverse in China, Singapore, South Korea, and Japan.

Key words: environmental issue, environmental consciousness, pro-environmental behavior, cross-cultural comparison, East Asia

キーワード: 環境問題, 環境意識, 環境配慮行動, 異文化比較, 東アジア

1. はじめに

今日、我々が直面している様々な環境問題は、人間行動の結果として引き起こされた側面は無視できない。森林破壊、砂漠化、公害問題などの局地的異変、そして大気汚染、酸性雨、有害廃棄物などの国境を越えて影響を及ぼす問題、さらに地球温暖化、オゾン層の破壊、海洋汚染、野生生物種減少などの地球規模の環

境問題を根本的に解決するために、国際協調的な対応策を見出すことが益々求められるようになってきている。産業先進国において、経済的な手段による越境型環境問題への対策に関する議論が進んでいる一方、開発途上国では活発な経済開発による環境劣化や汚染などへの対応が遅れている状況が続いている。このような環境問題への対応における隔たりは、様々な社会状況下に置かれている人々の、生存の権利への主張の違いによるものだけではなく、異なる文化背景、政治制度、経済体系をもつ社会集団の環境に対する認識や態度、いわゆる環境意識の差異から生じたものでもある。

地球規模の環境問題を根本的に解決する筋道を探るためには、各国の文化的、政治的、経済的差違を直視し、人々の多様な環境意識や各国の利害関係を互いに理解した上での国際協調関係の構築が不可欠である。特に、中国、日本、韓国などの国々が位置する東アジアは、経済的に、EU、北米に比肩できる世界の第3の極として急速に成長しつつあるが、その一方で、大気

*総合地球環境学研究所研究部
(Research Department, Research Institute for
Humanity and Nature)

**統計数理研究所
(Institute of Statistical Mathematics)

***同志社大学文化情報学部
(Faculty of Information Science, Doshisha Univer-
sity)

連絡先: 〒603-8047 京都府京都市北区上賀茂本山
457 番地 4

E-mail: zheng@chikyu.ac.jp

汚染、酸性雨、地球温暖化などの様々な越境型環境問題も深刻化している。このような背景のもとで、経済を中心とする地域共同体の結成については、長い間議論されてきているが、共同体意識の醸成は全く困難なく進んでいるとは言えないのが現状である。民族、言語、宗教などが多様な東アジアでは、経済の面では地域統合の形として共同体形成の意識は進みつつあるが、歴史的かつ政治的な壁はまだ厚いと指摘されている(谷口, 2004)。こういった事情を鑑みて、地域経済共同体とも一線を画し、越境型環境問題を取り扱うための環境協調をまず優先的に促進し、結果として政治や経済の面でも協力して行けるスタイルでの東アジアの共同体構築の可能性を探る議論も有意義だと考えられないであろうか。

「環境」という言葉は1970年代半ばのオイルショックや公害問題が盛んにマスメディアで報道され幅広く使用されるようになって、まだ30年ほどしか経っていない。環境の定義については様々な提案がなされてきたが、国際的に認められた共通のものはまだない。本論文で議論しようとする「環境」というのは、人間を取りまく物理学的、生物学的、社会学的な要素の総体と、人間の生存や動植物の活動に直接または間接に影響を与える周囲の状況と定義しておこう。一方、「環境意識 (environmental consciousness)」とは、人々の環境に対する態度、行動またはその意向を反映する精神活動である。それは、特定の時空間によって定義される環境に関する歴史、現状、変化への人々の認識や理解、価値判断に基づいている。個人の環境意識は多種多様であるが、それらが社会において相互作用した結果として、「市民環境意識」が形成される。したがって、環境意識は人々のライフ・スタイルや「環境配慮行動 (PEB: pro-environmental behavior)」に大きな影響を与えると同時に、環境問題に対処する政策立案にも重要な役割を果たす可能性をもつ。ところで、環境意識は間断なく様々な要因に影響され、時空間的に変わる。この点を看過すると、環境意識の本質について解明することはできないと思われる。このような意味で、環境問題の深刻化にともなって、人間と環境との相互関係を環境意識の面からとらえ、客観的に収集したデータを用いてその本質を把握し、その結果を基に環境問題に対する共通理解、ひいては国際協調を促進させるために有益な情報を発見することが重要である。異なる国・地域において、多様な価値観をもつ人々が各自様々なライフ・スタイルを追求し続けてはいる

が、同じ地球で共存していかなければならないという事実は否定できない。この最も基本的な前提のもとで考えてみると、広域環境問題に取り組む意義は明白である。

本論文では、一般市民の環境意識の概念的枠組、そして環境意識と環境配慮行動の関係を理論的に検討した上で、東アジアにおける価値観国際比較調査データを用いて、各国・地域の環境意識の特徴を行動計量の観点から解析し、環境意識に影響を及ぼす要因を統計的に抽出することを試みる。あくまでも限定された試行ではあるが、今後、人々の自然観と環境観とそれに関連する態度的要因、人口統計学的要因を国・地域別に検討する際の環境意識の概念的枠組や基礎情報が提供できれば幸いである。

2. 環境意識の概念的枠組

本節では、筆者らの意図する一般市民の環境意識の概念的枠組について概説しよう。環境問題の根本原因は「人間」にあるという観点からすると、人々が自らのライフ・スタイルや行動パターンをあらためて見直す必要がある。本論文では、環境意識、人間活動、環境変化との関連性について次のような論理的な仮説を設けておくことにした。

まず、人々は所与の環境について認知した上で、自らの知識や価値観などをもとに、関連する情報を環境意識として昇華させる。そして、個人の信念と能力に基づき意識を制御し、個人的規範にしたがって環境に配慮した行動意向 (behavior intention) を形成する。最後に、人々がこのような行動意向に則って環境配慮行動をとることによって、環境の変化がもたらされる。言うまでもなく、人々の環境配慮行動を規定する最も基本的なものは、環境意識である。したがって、環境問題を研究する際には、環境意識の形成メカニズムとそれに影響する要因を総合的に分析することが重要である。

特定の地理、言語、文化に帰属する社会においては、異なる意識の相互作用によって集団の特徴をもつ一般市民の環境意識が形成される。このような一般市民の環境意識は、企業の環境対策、政府の環境政策ならびに国際環境協力に対して重要な影響を及ぼすことが容易に考えられるが、実際には政府、企業、一般市民の環境に対する意識は相互に影響し合う関係にある。まず政府は環境政策の立案を通して企業と一般市民を指

導する立場にある。また、企業は産業活動を通して政府の環境立案を促したり、一般市民の要望を満足させたりすることもある。そして、一般市民は市民運動や消費行動などを通して政府の行政行為や企業の経済活動を監督、あるいは規制する役割を果たすこともある。このような相互作用の結果、社会全体としての環境意識が形成されることになる。

環境意識の違いによって、国際的に様々な問題が起こりうる。例えば、特定の環境問題について自然科学的に観測した結果、たとえ同じ程度で環境質の悪化が判明したとしても、それはある国にとっては深刻な問題となり得るかもしれないが、別の国にとっては必ずしもそうはならない場合がある（西平, 1997; 鄭, 2002）。また、共通の環境問題に対する意識をもっていても、どのような動機や経緯でその認識が一般市民に現れるかは社会形態によって大きく異なる可能性がある。自明なことであるが、一般市民の環境意識は社会全体の環境観に最も大きな影響を与えているので、一般市民の環境意識の性質については、より具体的に議論することが重要である。

では、一般市民の環境意識はどのように形成されるのか？そして、一般市民の環境意識に影響を与える主な要因は何であるのか？このようなことを明らかにすれば、様々な環境問題の原因や社会的対応策を探るのに不可欠な基礎情報を得ることができる。一般市民の環境意識の形成過程は、概略的には図1のように示すことができよう。多様な制度、規範、宗教などによって規定される社会において、人々は環境質の現状とその変化を各々のレベルで認知、理解した上で、個人の価値観や感性のもとで独自の態度や観点から、最

終的に日常の環境配慮行動につながる環境意識を形成していく。環境意識の形成過程において、まず環境はその時系列変化を通じて一般市民や社会全体に影響を与え、人々の考え方や社会状況を改変させるという働きをもつであろう。これに対して、社会は特有の制度、規範などの調整を通して人々の日常生活や産業活動を制約したり、ひいては環境改変を促進したりするであろう。無論、人々は自らの価値観や感性の違いによって環境意識を多様化させ、社会的規範を一般市民のニーズに応えるよう適応させる役割を担うことであろう。このように、一般市民の環境意識は環境変化、社会、自らの価値観・感性との相互作用によって形成されるものと考えられる。

一方、ほとんどの個人は一般市民であると同時に、その多くが行政機関や企業などの何らかの組織に属する。このような場合、個人は自らの意識を押さえ、所属する組織の意向に従わなければならないこともあり得よう。しかし、組織間の環境意識に関する相互作用についてはきわめて大きな論題となるため、本論文では、政府や企業などの組織的な環境意識およびその関連性は割愛して、一般市民の環境意識に焦点を絞り、議論を展開していく。

ところで、一般市民の環境意識は、特定の地理範囲、文化背景、言語範疇などに依存すると同時に、人々の環境に対する倫理的な判断、すなわち当事者が環境との関係についてどのような価値判断を下し、行動選択をするかという環境倫理にも深く関係しよう。したがって、環境意識は時空間的に定義される環境サイトに対する個人の主観的判断であり、非常に複雑な構造を有するものであると言えよう。このような事象に対する研究のアプローチとして、あらかじめ厳密な理論仮説を設定するのは現実的ではない。探索的な方法によってその本質を少しずつ解明し、意味のある情報を抽出することが望まれる。「データの科学」(林, 2001; 吉野, 2001)という統計哲学が標榜するように、「実証的調査データを中心に現象を理解する」という理念に基づいて、客観的なデータの収集と解析、時系列調査の継続、国際比較調査という3つの側面に力を注ぐことは、信頼性の高い情報を保証し、国・地域別の環境意識の異同、そして影響要因を明らかにするためにも重要であると考えられる。

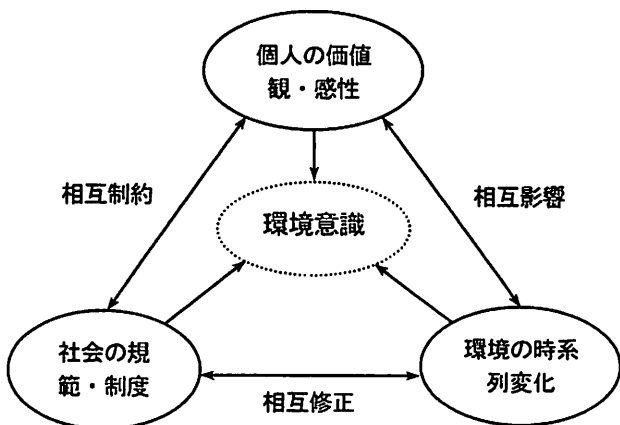


図1. 一般市民の環境意識の形成過程

3. 環境配慮行動モデル

人々の環境配慮行動の誘因を知ることは、環境政策の意志決定者ないし研究者にとってきわめて重要である。これは人々のライフ・スタイルに密接に関係する環境問題の解決策を探るための重要な手がかりとなるからである。環境配慮行動については様々な分類が提案されたが、個人の責任ある環境行動を市民活動（投票、陳情など）、教育活動（環境番組の鑑賞、環境に関する出版物の閲覧など）、財政活動（グリーン消費、環境寄付など）、法的活動（告発、訴訟など）、身体活動（ゴミ分類、減量など）、説得活動（講演、宣伝など）の6分類がよく採用されている（Smith-Sebasto & D'costa, 1995）。

これまでは、人々の環境意識と環境配慮行動との関係について、以下の3つの理論を含め、多くの社会心理学的研究が展開されてきた。そのうち、最も早い段階から注目されているのはAjzenの論理的行為理論（theory of reasoned action）と、その進化として確立された計画的行動理論（theory of planned behavior）である（Ajzen & Fishbein, 1980; Ajzen, 1985; Ajzen, 1991）。計画的行動理論は、環境意識に基づいた行動意向という認知活動から、意識的な行動計画を反映する指標として行動を予測できると説いている。行動意向はその行動に対する態度、主観的な規範、知覚的行動制御によって決められる。特定の行動を最も正確に予測する要因として、当該の行動に対する賛否の態度、行動にかかわる規範と伝統に対する理解、自己制御の下に置かれる個人活動への認識などの行動意向が挙げられている。計画的行動理論は、態度から行動を予測するだけでなく、両者を関連付けることによって意識から行動までの過程について具体的に解釈することを意図している。

利他行動に関するSchwartzの規範喚起理論（norm activation theory）では、行動は道徳的規範と行動の結果に対する信念との関数であると唱導している。この理論では、個人の行動が招く悪い結果に対する知覚（AC: awareness of consequences）は行動の帰属責任（AR: ascribed responsibility）を活性化させ、そして帰属責任が道徳的義務を活性化させた上で、利他行動は個人的規範から生起するものだと主張している（Schwartz, 1977）。具体的に言えば、人々の行動を決定する個人的規範は社会的規範の影響を受け、自己の行動が悪い結果を招くと信じる場合に、利他行動は起

こりやすいということになる。

計画的行動理論と規範喚起理論の欠点は、いずれも個人の態度に関する要因を強調しているが、外的要因による影響を十分に配慮していない点が挙げられる。

これに対して、Sternは環境保全活動（environmentally significant behavior）に関して価値観-信念-規範理論（VBN: value-belief-norm theory）を提案した（Stern et al., 1999）。これは、環境配慮行動に影響する態度的要因を取り扱うと同時に、個人の能力、文脈上の因子、習慣などの外的要因も視野に入れて考えるもので、環境に重要な影響を与える行動の解釈に望ましい理論といえる（Stern, 2000）。VBN理論は、価値観理論、規範喚起理論ならびに新環境パラダイム（NEP: new environmental paradigm）を因果関係連鎖によって有機的に結合させて、様々な環境配慮行動を解釈しようとしている。この因果関係連鎖には、(A) 個人の価値観、(B) 生態学的世界観、(C) 悪い結果に対する知覚、(D) 帰属責任に対する信念、(E) 個人の環境配慮行動規範の5つの変数が含まれている。しかし、VBN理論では、知覚的な認知制御過程に関する記述は欠けている。

本論文では、これまでの3つの社会心理学的な環境行動理論を踏まえ、環境配慮行動に影響する要因を、環境意識、行動に対する信念、知覚的行動制御能力、主観的規範・道徳観、外的要因の5つの類型に帰納することにした。その上で、人々の環境配慮行動モデルとして、図2のような意識から行動までの因果関係連鎖を新たに提案しよう。このモデルでは、一般市民の環境配慮行動は環境学的知識、環境に対する認知、環境に対する価値判断、行動主義態度、社会的責任感、社会的価値観を含む個人的意識から生起するものと想定する。この個人的環境意識は、環境と人間との相互関係を反映する生態学的世界観、行動結果配慮、責任帰属認知などの強い信念を喚起するであろう。その結果、環境に対する感性（受容性）、行動戦略・方法・技能、結果予測能力などを明確にするという知覚的行動制御過程が始まる。そして、環境に配慮した行動をとる義務に関する個人的規範によって行動意向が決まる。これに、情報伝達や行動に伴う費用などの外的要因からの影響が加わり、最終的に行動意向が環境配慮行動の実施に移る。ここでは、図2の因果関係連鎖の上位にある個々の変数が下位に位置する変数に直接影響を与えることを仮定している。なお、環境配慮行動をとる個人的規範は、自分にとって大切な環境サイトに対す

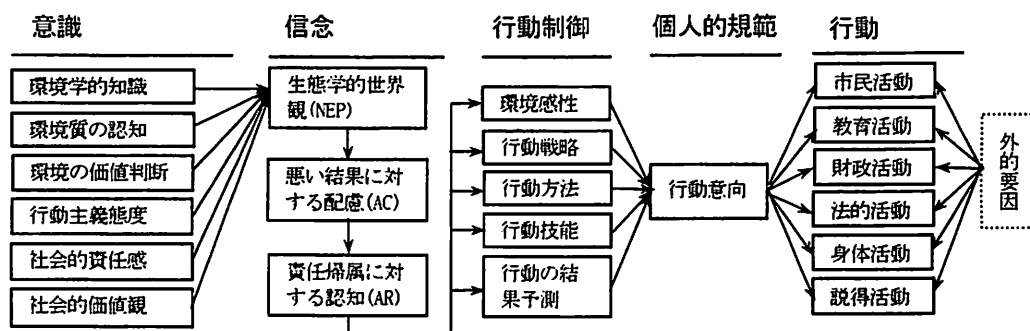


図2. 一般市民の環境配慮行動モデル

る脅威を認知し、そして行動をとる責任を感じるという信念によって活性化される。このような規範は、個人の環境配慮行動意向にかかわるすべての行動に影響を与える全体的な素質を生み出す。もちろん、環境に関する様々な情報発信、環境配慮行動にともなう費用と便益などの社会経済的な要因は、人々の環境配慮行動方式に影響する重要な外的変数である。

これまでの多くの研究は、価値観、信念、行動意向などの内的変数と環境配慮行動との関係分析に主眼を置いてきたが、環境意識分析では認知に関する内的変数のみならず、社会・人口統計 (demography) にかかわる外的要因にも注目すべきである。筆者らは、すでに日欧米の環境意識比較分析では環境意識が特定の文化背景のみならず、回答者の様々な属性に影響されることを確認した (Zheng & Yoshino, 2003)。つまり、環境意識に影響を与える要因は、内的なものもあれば外的なものもある。

言うまでもなく、知識増加や価値観の改変などによって、人々の環境意識には時空間的に変わる部分がある。環境意識の構造を解き明かすには、単なる机上の推論ではなく、客観的に収集するデータを中心に現象を理解するという「データの科学」の理念から、データに秘められている人々の環境意識の本質を探ることが肝要である。環境意識は個人の内的心理活動で、いわゆる主観的なものである。観測者は、観測対象の意識を知る方法として、一般的に理念、理論、数学モデル、図表などで表現する具体的な質問項目を通して、それらへの意見・態度や観点などに関する回答者の反応を調べる。このような過程では様々な不確実な要素が入り込むため、得られた主観的変数の観測値は安定性や信頼性の確保が課題となる。

以上、環境意識の概念的枠組、環境配慮行動モデルに関する議論を展開してきた。これにより、環境問題

の解決の糸口となる環境意識形成メカニズム解明の重要性を明らかにしたと同時に、環境意識の構造的な複雑さも説明した。さらに、環境意識と環境配慮行動との関係を客観的に解明するために、まず一般市民の環境意識の本質を慎重に把握しておかなければならないことが浮き彫りになった。このような実証的な議論は、科学的に集積するデータに基づき進めることがきわめて重要である。現在、関連する国際比較調査が進行している (文部科学省科学研究補助金基盤研究 B 代表 鄭 躍軍, 2004-2008 年度)。それゆえに、以下ではこれまで収集してきた東アジア価値観国際比較調査データを基に、国・地域別の環境意識形成に影響する様々な要因の探索的解明の試みに主眼を置いて、各国・地域の一般市民の環境意識の構造的な異同を分析する。

4. 東アジアの人々の環境意識構造の分析

一般市民の環境意識は、身近な環境サイトから地球環境全体に至るまで様々な規模のものにかかわっている。しかし、これまで環境意識構造の解明を主目的として行われた国際比較意識調査の例は皆無に等しい (鄭, 2002)。ここでは、前述した東アジア価値観国際比較調査データを基に、特定の環境問題に対する態度に限定せず、広い意味での環境意識に焦点を絞り、文化、政治、経済などの多様性をもつ中国、日本、韓国、シンガポールにおける環境意識構造の特徴を明らかにすると同時に、態度的要因、人口統計学的要因と環境意識との関連について分析する。

特に、広義の環境意識として「人間と自然の関係」、「環境保護と経済成長の優先度」に関する質問項目を取り上げ、空間上の大局的な位置づけを検討することによって、国・地域別の環境意識の共通性と特殊性を明らかにする。その上で、態度に関わる内的要因や人口

統計学的要因などが人々の環境意識にどのように影響するかを考察する。

4.1. 用いた調査データの概要

用いた調査データは、2002年度から2004年度にかけて中国本土（北京市，上海市，杭州市，昆明市の中心部），香港全土，台湾全土，日本全国，韓国全国，シンガポールの9つの国・地域で行った「東アジア価値観国際比較調査」で収集したものである。各調査地域において，統計的無作為抽出した成人男女を対象に個別面接聴取法により調査を行った。調査地域別の調査時期，地点数，標本回収数は，表1に示す通りである。なお，東アジア価値観国際比較調査の詳細については統計数理研究所研究リポートと総合地球環境学研究所研究リポート等（鄭，2005；吉野他，2004a, 2004b）を参照されたい。調査内容は，自然・環境観，婚姻・家庭・家族，人間関係，伝統的な道德観，宗教観，政治意識，科学文明観，文化，一般的社会問題などを含む質問項目（55問）と基本属性項目により構成されている。

データ分析では，自然観と環境観の他，態度的要因として，健康・生活満足感，信頼感，科学技術観，宗教観などの4項目，人口統計学的要因として性別，年齢（低：34歳以下；中：35-49歳；高：50歳以上の3区分），学歴（低：中学校卒以下；中：高校卒；高：短大卒以上の3区分），世帯収入（各国・地域ごとの全体的分布から低，中，高の3区分），宗教観（選択肢「宗教心は大切」，「宗教心は大切でない」の2区分）の5項目を用いた（質問項目の詳細については附録を参照されたい）。なお，態度に関する項目のカテゴリーについては，分析のためにすべて次のように2区分に再カテゴリー化した。

(1) 健康満足度：「非常に満足している」と「満足している」を合わせて「満足」とし，「あまり満足していない」と「満足していない」を合わせて「不満」とした。

(2) 生活満足度：「満足」と「やや満足」を合わせて「満足」とし，「どちらともいえない」，「やや不満」と「不満」を合わせて「不満」とした。

(3) 信頼感：総合的社会調査（GSS）で用いられている対人的信頼感の2項目に対して，「他人の役にたとうとしている」と「信頼できると思う」を同時に選択した場合を「信頼」とし，それ以外の場合を「不信」とした。

(4) 科学技術観：「非常に信頼する」と「やや信頼する」を合わせて「信頼」とし，「あまり信頼しない」と「全く信頼しない」を「不信」とした。

分析方法として，まず，多重対応分析によるパターン分類に基づき，自然観・環境観に関する質問項目による国・地域相互の大局的な位置づけを行い，態度的要因，人口統計学的要因と自然観・環境観との関連を国・地域別に考察する。さらに，ロジスティック回帰分析を用いて，自然観・環境観に影響する各要因の有意性を統計的に検討する。

4.2 東アジア全体の環境意識比較

自然観に関する項目に対する回答の周辺分布は，図3のようになっている。まず「自然に従う」の回答状況を見ると，韓国の54%が最も高く，杭州の26%が最も低い。韓国に次いで，シンガポールの48%，台湾の

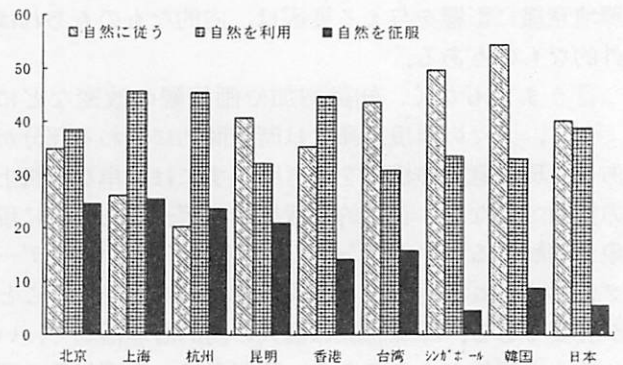


図3. 人間と自然の関係に関する回答の周辺分布

表1. 調査地域別の調査地点数と有効回収標本数

調査地域	日本	北京	上海	杭州	昆明	香港	台湾	韓国	シンガポール
調査年	2002	2002	2002	2002	2002	2003	2003	2003	2004
標本抽出地点数	80	50	50	50	50	50	120	123	—
有効回収標本数	787	1,062	1,053	911	1,021	1,057	732	1,006	1,037

44%、日本の40%と香港の35%が並んでいる。ちなみに、中国本土の平均は31%で、国・地域別に見た場合最も低い。「自然を利用」の割合は国と地域によって大きな差はなく、30%~40%の間にある。なお、約半世紀にわたった「日本人の国民性」調査（統計数理研究所、2004）において、この率はあまり変化していないと明らかになったことも興味深いであろう。また、「自然を征服」の割合は日本、韓国、シンガポールがともに10%前後に留まるのに対して、中国本土は24%、台湾は16%、香港は14%と高い。つまり、中国人は日本人や韓国人やシンガポール人に比べ、「自然を征服」を選好する傾向が強い。なお、顕著な男女差は見られなかったことは各国・地域に共通する。年齢層別では、日本、韓国、シンガポールにおいて若年層より中・高年齢層に「自然に従う」が多い。逆に、中国においては中・高年齢層より若年層の方には「自然に従う」の割合が高い。

一方、環境観を問う質問では、中国本土では約8割の回答者が「環境保護を経済成長よりも優先」に賛成し、割合が最も高い（図4）。日本、韓国、シンガポールでもいずれも6割以上であり、香港と台湾ではそれ

ぞれ51%と47%となっている。しかし、香港と台湾においては「経済成長が最優先」の割合が42%と36%で相対的に高い。各国・地域において男女差は見られず、年齢層別では「環境保護が最優先」を選好する中高年齢層が多いのは韓国、中国本土と香港であるが、他の国・地域においては顕著な差は見られない。

図3と図4の周辺分布から分かるように、中国本土の4都市における各選択肢に対する回答は相対的にか

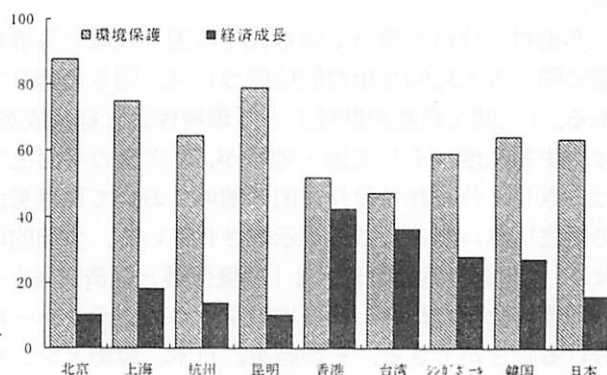


図4. 環境保護と経済成長との優先度に関する回答の周辺分布

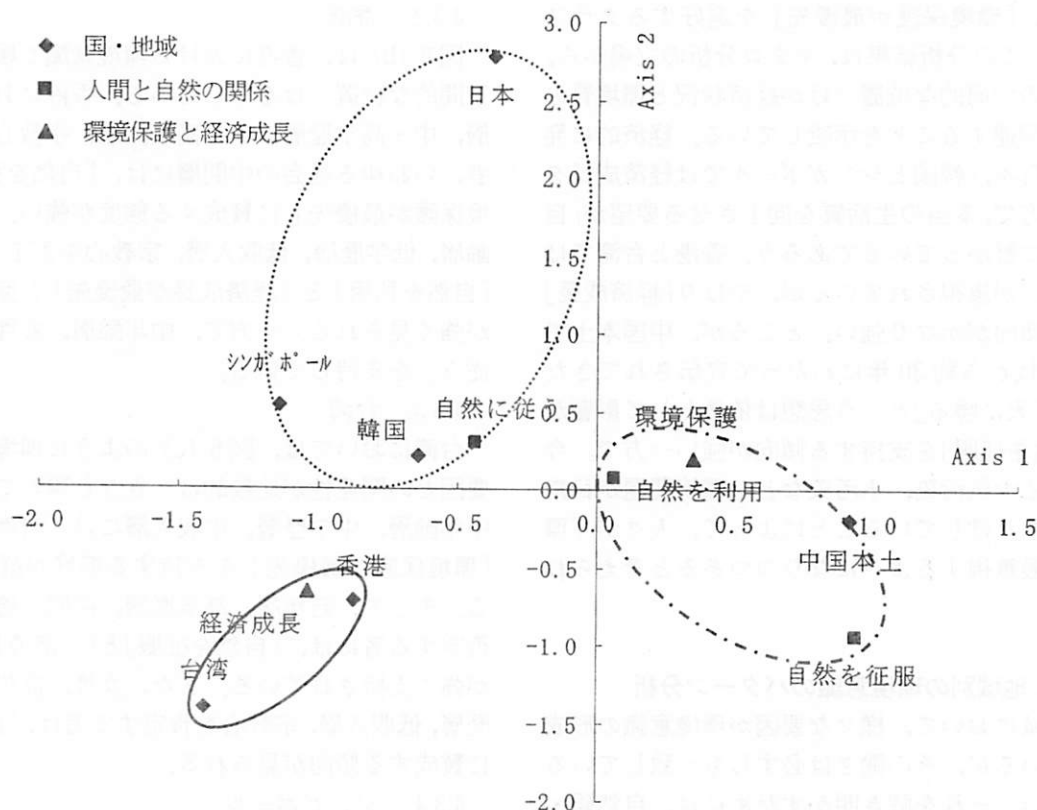


図5. 環境意識に関する国・地域の空間的位置づけ

なり似ている。これを考慮し、以下の分析では中国本土を一つの地域単位とした。「人間と自然との関係」と「環境保護と経済成長の優先度」のクロス集計を行った結果、日本、韓国とシンガポールに共通するのは、4割以上の回答者が「自然に従う」と「環境保護が最優先」を選好しているが、中国本土、香港と台湾においてそれは3割以下で、やや低い。一方、中国本土と香港では「自然を利用」と「環境保護が最優先」を選択した回答者が最も多く、それぞれ36%と27%となっている。

多重対応分析を用いて得られた各国・地域の環境意識に関する大局的な相対的位置づけは、図5の通りである。「人間と自然の関係」と「環境保護と経済成長」に対する態度、そして国・地域が、2次元の平面上ではっきりと分かれており、国・地域において環境意識の根底に違いがあることが示唆されている。大局的には、「人間と自然の関係」と「環境保護と経済成長」との関連性は見られ、6カ国・地域を3つのクラスターに分けることができる。その結果、日本、韓国とシンガポールは「自然に従う」を重視するクラスターで、香港と台湾は「経済成長が最優先」を選好するクラスターで、中国は「自然を利用」や「自然を征服」に賛成すると同時に、「環境保護が最優先」を選好するクラスターである。この分析結果は、マクロ分析の立場から、各国・地域の大局的な位置づけが経済状況と環境質の現状と深く関連することを示唆している。経済的に発達している日本、韓国とシンガポールでは経済成長を重視する一方で、本当の生活質を向上させる要望が「自然に従う」に繋がっているであろう。香港と台湾では「自然に従う」が重視されているが、やはり「経済成長」を優先する傾向がかなり強い。ところが、中国本土では、1950年代から約30年にわたって宣伝されてきた「人間が必ず天に勝る」という思想は依然として影響があり、「自然を征服」を支持する傾向が強い一方で、今直面している大気汚染、水汚染などの環境問題が日常生活に影響を及ぼしていることによって、人々が「環境保護」を最重視するようになりつつあると考えられる。

4.3. 国・地域別の環境意識のパターン分析

各国・地域において、様々な要因が環境意識の形成に寄与しているが、その働きは必ずしも一致しているとは限らない。それを解き明かすためには、自然観・環境観と態度的要因、人口統計学的要因との関連づけ

を分析する必要がある。ここでは、人口統計的的属性変数として性別、年齢、学歴、世帯収入、宗教を取り入れた。なお、世帯収入の基準は、国・地域別に大きく異なるため、各区分に属する個体数がほぼ均等になるように分けた。また、日本と中国では宗教をもつ人々の率がきわめて少ないことが知られているため、代わりに「宗教心を大切と思うか」という質問を用いた。これらの外的属性変数と環境意識の関連性について、多重対応分析によるパターン分類を行った結果、図6のような空間的な位置づけを得た。各国・地域の特徴は次のようにまとめることができる。

4.3.1. 中国本土

中国本土における環境意識と属性変数との関連性は、図6(a)に示されている。中国本土において若年層、高学歴、高収入層に属する回答者はほぼ1つの団塊となっていることが大きな特徴である。男性、若年層、高学歴層、高収入層、宗教心を肯定する回答者は、「自然に従う」か「自然を利用」に賛成し、「環境保護が最優先」を支持する傾向が見られている。これに対して、女性、高年齢層、低学歴層、低収入層、宗教心を否定する者には、「自然を征服」と「経済成長が最優先」を支持する回答者が多い。

4.3.2. 香港

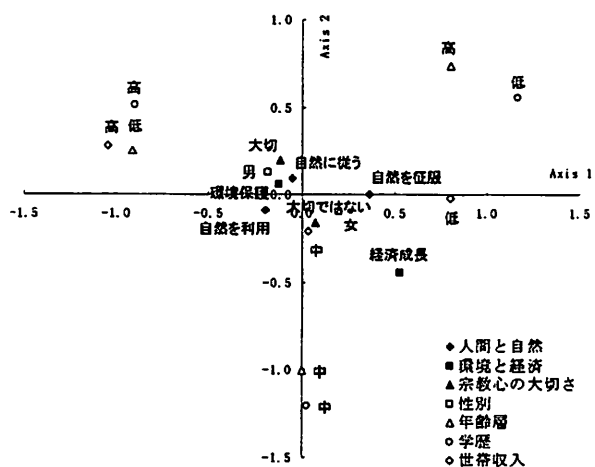
図6(b)は、香港における環境意識と属性変数との空間的な位置づけを示している。香港において、若年層、中・高学歴層、中・高収入層、宗教心を肯定する者、いわゆる社会の中間層には、「自然を利用」と「環境保護が最優先」に賛成する態度が強い。逆に、高年齢層、低学歴層、低収入層、宗教心を否定する層には、「自然を利用」と「経済成長が最優先」と回答する傾向が強く見られる。一方で、中年層、女性は「自然に従う」を支持している。

4.3.3. 台湾

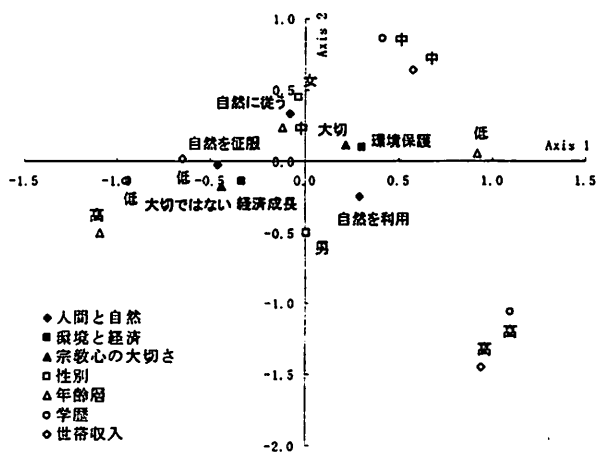
台湾においては、図6(c)のように環境意識と属性要因との関連性が比較的はっきりと現れている。まず、中年層、中学歴層、中収入層には「自然を利用」と「環境保護が最優先」を支持する態度が鮮明に見られる。そして、若年層、高学歴層、高収入層、宗教心を否定する者には、「自然を征服」と「経済成長が最優先」が強く支持されている。また、女性、高年齢層、低学歴層、低収入層、宗教心を肯定する者は、「自然に従う」に賛成する傾向が見られる。

4.3.4. シンガポール

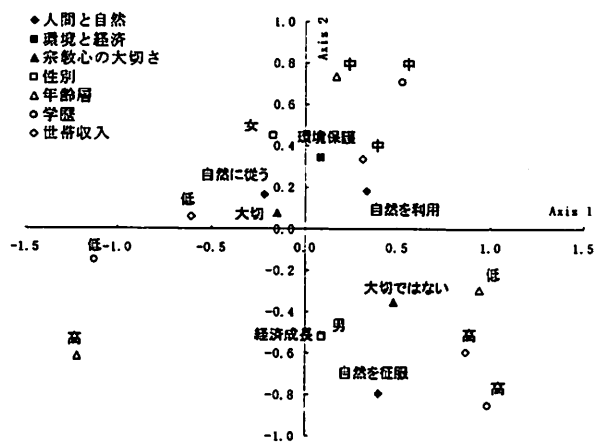
シンガポールの状況は図6(d)のようである。シン



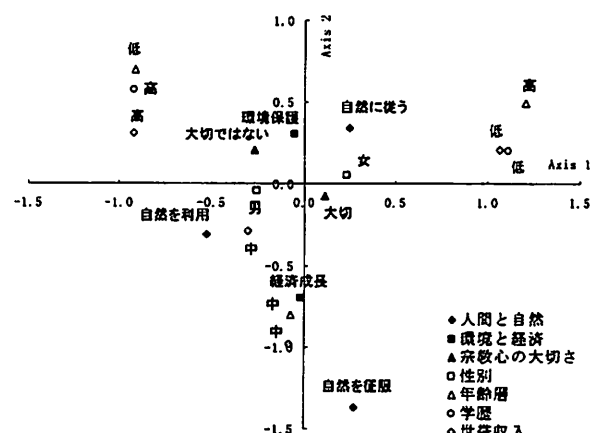
(a) 中国本土



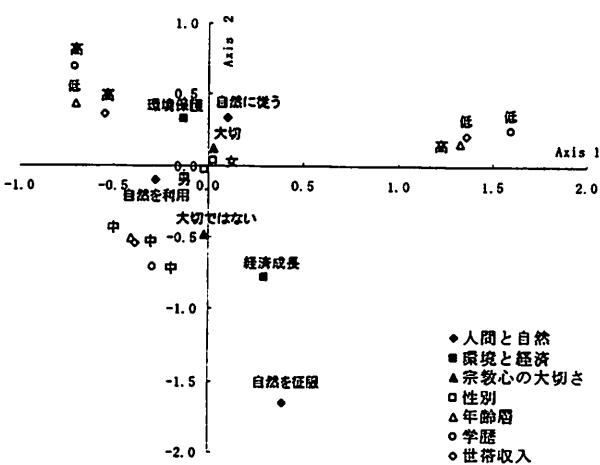
(b) 香港



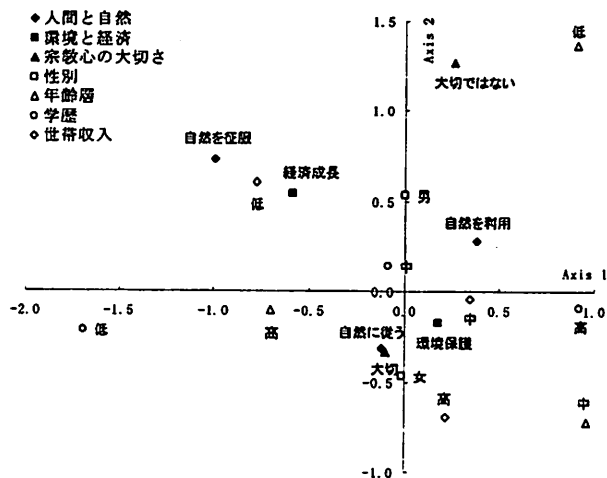
(c) 台湾



(d) シンガポール



(e) 韓国



(f) 日本

図 6. 東アジア 6 カ国・地域における環境意識の要因分析結果

ガポールにおいて、男性、中年層、中学歴層、中収入層という中間層には「自然を利用」と「経済成長が最優先」に賛成する傾向があるが、低年齢層、高学歴層、高収入層および宗教心を否定する回答者は、「環境保護が最優先」を支持する態度が強い。一方、女性、高年齢層、低学歴層、低収入層、宗教心を否定する者は、「自然に従う」に賛成する特徴が見られる。なお、「自然を征服」に賛成する層は特定できない。

4.3.5. 韓国

図6(e)で示している韓国における環境意識に関する要因分析の結果では、韓国において女性、宗教心を肯定する回答者は「自然に従う」に賛成する傾向が強く見られる。一方で、「環境保護が最優先」という意見が若年層、高学歴層、高収入層には強く、宗教心を否定する中間層には「自然を利用」が支持されている。ところが、「自然を征服」と「経済成長が最優先」に賛成する回答者については、特定の層に偏る傾向が見られない。

4.3.6. 日本

日本における環境意識と属性変数とのパターン分類結果は、図6(f)のようになっている。日本において、低収入層には「自然を征服」、「経済成長が最優先」を支持する傾向が見られるが、高年齢層、低学歴、低収入層、宗教心を肯定する回答者には「自然に従う」を支持し、自然をあげめ尊ぶ特徴が現れている。一方、若年層、宗教心を否定する回答者は「自然を利用」、中年層、高学歴層、中・高収入層に属する回答者は「環境保護が最優先」に賛成する態度が比較的強い。全体的に、日本において年齢、学歴、世帯収入といった属性は人々の自然観・環境観に大きな影響を与えている可能性が明らかになった。これは日本における環境質の歴史的経緯、現状を反映していると言えよう。

以上のように、実際の調査データに基づき、国・地域ごとの環境意識分析を行うことによって、各国・地域別の環境意識の構造を明らかにし、地理的、文化的小および社会的要因と環境意識との関連を浮き彫りにすることができた。ここでは、一般市民の環境意識を象徴する調査データだけに限定して示したが、これにより東アジアにおける環境意識の特徴について、次のようなことが明らかになった。

第一に、中国本土、香港、台湾、シンガポール、韓国、日本に共通して、高年齢層、低学歴層、低収入層は、一つの団塊として「自然を征服」を支持する傾向

があり、それらのうち、シンガポール以外の国・地域においては「経済成長が最優先」に賛成することも共通している。なお、中国本土以外のところでは、女性は「自然に従う」を比較的選好することが明らかになった。この中国の特徴は同国における男女の社会的役割が他の国・地域と違っていることを示唆しているのであろうか。

第二に、香港、シンガポール、韓国、日本において、若・中年層、中・高学歴層、中・高収入層には「自然を利用」と「環境保護が最優先」に賛成する意識が比較的強いが、中国本土では若年層、高学歴層、高収入層、そして台湾では若・中年層、中学歴層、中収入層だけに以上のような傾向が見られる。

第三に、中国本土、台湾、日本、韓国では、宗教心を肯定する回答者は、「自然に従う」に賛成する傾向が強く現れたが、香港とシンガポールではそのような傾向が見られない。これは、自然観はとりわけ国・地域の宗教信仰の違いとの関連を示唆しているのではないかと考えられる。

第四に、台湾、シンガポール、韓国、日本に共通するのは、女性の「宗教心を大切」とする傾向が男性より強いことであるが、中国本土と香港では、逆に男性にその傾向が強いと言える。

以上のように、国・地域における環境意識と属性変数との関連をパターン分類によって分析した結果、回答者の人口統計学的要因が環境意識に影響する働きが方向性が明らかになった。しかし、態度的変数を含め、歴史的、社会的、文化的要因などのそれぞれがどの程度人々の環境意識に影響しているかを解明することは、今後の課題である。

4.4. 国・地域別の環境意識の要因分析

自然観と環境観に対する諸要因の影響を検討するために、態度的変数と属性変数の有意性について考察した。なお、分析では要因として性別、年齢、学歴、世帯収入、宗教心といった属性変数の他、態度的変数として健康満足度、生活満足度、信頼感、科学技術観を取り上げた。分析方法としては、以上の変数と自然観・環境観との関連をロジスティック回帰分析により検証することにした。表2は、自然観ならびに環境観に関する各要因の有意性(有意水準は5%)をそれぞれ示している。

自然観については、人間と自然の関係に影響する要因として取り上げた5つの属性変数のうち、国・地域

表2. ロジスティック回帰分析による各要因と自然観・環境観との関連

意識	国・地域		中国本土	香港	台湾	シンガポール	韓国	日本
	要因	カテゴリー	(○は有意水準5%で有意と判断された変数を表している)					
自然観	人口統計学的因子	性別						
		年齢						
		学歴			○			○
		世帯収入	○				○	
		宗教心	○				○	○
	態度的要因	健康満足感	○					
		生活満足感						○
		信頼感			○		○	
		科学技術観			○	○		
		環境と経済	○			○	○	○
環境観	人口統計学的因子	性別						
		年齢			○			○
		学歴	○		○			
		世帯収入						
		宗教心			○	○		○
	態度的因子	健康満足感	○					○
		生活満足感					○	
		信頼感	○					
		科学技術観	○					○
		自然観	○					

によって異なるが、有意と判断される変数は学歴、世帯収入と宗教心のみであった。態度的要因に関しては、5つのすべての変数について少なくとも1つの国・地域で有意と判断された。国・地域別に見ると、まず、中国本土では世帯収入（高収入層）、宗教（大切である）、健康満足度（不満）が「自然に従う」に関連の強い要因として抽出された。次いで、香港では属性変数による影響は見られず、信頼感（信頼）と科学技術観（不信）が有意であった。そして、台湾では学歴（低）、科学技術観（信頼）が強い要因となっている。また、シンガポールでは世帯収入（低収入層）、宗教（大切である）とともに、信頼感（信頼）が有意さを示した。さらに、韓国では学歴（低学歴）、宗教信仰（大切である）、信頼感（信頼）が重要な要因であった。日本に有意と判断された変数はなかった。中国本土、シンガポール、韓国に共通する要因は宗教心で、香港、シンガポール、韓国に共通する要因は信頼感である。

一方、環境保護と経済成長の優先度については、年

齢と世帯収入を除いて他の7つの変数について有意と判断された国・地域がある。中国本土では、「環境保護が優先されるべき」に関係の強い要因として学歴（中・高学歴）、信頼感（信頼）、科学技術観（信頼）、健康満足度（満足）が抽出された。次に、台湾では宗教心（大切である）だけが有意であった。香港ではそれに年齢（若年層）、学歴（中・高学歴）が加わった。また、韓国では年齢（若年層）と宗教心（大切である）に健康満足度（満足）が加わった。一方、シンガポールと日本に共通して有意となった属性変数は全くなく、シンガポールでは生活満足度（満足）、日本では健康満足度（満足）と科学技術観（信頼）が有意であった。

言うまでもなく、ロジスティック回帰分析の結果は自然観と環境観に対して各要因がどれほど影響するかを示すが、回答のパターン分類を目指した多重対応分析による結果とは必ずしも一致していると言えない。しかし、両者を総合してみると、環境意識に関連する要因とその影響度を明らかにすることができる。特に、

人々の環境意識は回答者が直面する環境問題の深刻さ、人々の感性・価値観、情報量などに基づいて総合的に判断したものである。データを中心に探索的にその本質を究明することが重要である。このような意味で、環境意識の構造分析にあたって、ここで取り上げた以外の要因による影響をさらに分析することが不可欠と思えるが、それも今後の課題である。

5. 結びにかえて

経済利益のみを優先させてきた時代のこれまでの環境対応の限界が明らかになった今日では、異なる国・地域における環境意識と環境配慮行動との因果関係を解明することが重要となっている。特に、広域環境問題への対応にあたって、国・地域における文化的、政治的、経済的多様性を正視し、環境問題の根本的な解決に寄与する理論と方法を具体的に示すことが大切である。本論文では、環境意識の概念的枠組、環境意識と環境配慮行動の関係を議論した上で、東アジアにおける自然観・環境観に関する国・地域の特徴、人口統計学的要因と態度的要因による影響について分析してきた。

まず、マクロ分析の立場から各国・地域の大局的な位置づけが経済状況と環境質の現状と深く関連することを明らかにした。経済的に発達している日本、韓国、シンガポールでは経済成長を最優先させる一方で、生活の質の向上を追求する社会的な要望は「自然に従う」という意識への転向を促してきているようである。これに対して、産業活動が比較的進んでいる香港と台湾では「自然に従う」が重視されているが、環境保護に比べ、「経済成長」を優先する傾向が強いことがわかった。他方、高度経済成長が続いている中国本土では、近代的な「人間が必ず天に勝る」という思想は依然として影響があるようで、「自然を征服」を支持する傾向が強いが、当該の調査地域で直面している厳しい環境問題が日常生活まで影響を及ぼしていることも事実である。両者の相乗作用によって、今後人々が「環境保護」を重視するようになりつつあると推察される。

また、国・地域別の環境意識の特徴を分析した結果、東アジア全般において、性別を問わずに高年齢層、低学歴層、低収入層は1つの団塊となって「自然を征服」を支持する一貫した傾向が見られる。しかし、自然観は国・地域の宗教信仰の違いによっても影響があるようである。他の項目に対する態度には、各国・地域に

よって異なる傾向を呈している。

一方、自然観については、中国本土では世帯収入、宗教、健康満足度と「自然に従う」態度に強く関連しているが、香港では信頼感と科学技術観の影響が大きく、台湾では学歴、科学技術観の影響が強い。また、シンガポールでは世帯収入、宗教と信頼感が挙げられており、韓国では学歴、宗教信仰と信頼感が有意となっている。これに対して、環境保護と経済成長の優先度については、中国本土では学歴、信頼感、科学技術観、健康満足度が抽出されたが、台湾では宗教、香港では宗教と年齢、学歴、韓国では年齢、宗教と健康満足度が重要である。シンガポールでは生活満足度、日本では健康満足度と科学技術観が有意となった。つまり、国・地域によって、自然観に影響する要因が異なる様相を呈している。これらのことが、今後の環境意識分析の手がかりとなることを期待する。

本論文では、人々の環境意識が時空間的にどう変わるか、そして環境配慮行動にどのように影響するかを解明するために、提案した環境意識の概念的枠組に則って収集した調査データに基づき、環境意識を総合的に測るための尺度の開発の方法論を示した。環境意識は人々が直面する環境状況、生活水準、把握している情報などによって変わるので、環境意識の感度について探っていくことが今後の重要な課題である。

謝 辞

本研究の一部は文部科学省科学研究補助金・基盤研究A(2)(No.14252013, 代表 吉野諒三)および基盤研究B(No.16402002, 代表 鄭 躍軍)による。また、本論文の修正加筆のために、匿名審査員の方々や編集委員会の貴重なご助言が役に立ちました。合わせて感謝の意をここに表します。

参 考 文 献

- Ajzen, I. & Fishbein, M. (1980), *Understanding attitudes and predicting social behavior*, Englewood Cliffs, NJ: Prentice-Hall.
- Ajzen, I. (1985), *From intentions to actions: A theory of planned behavior*, in J. Kuhl & J. Beckmann (eds). *Action control: from cognition to behavior*, Berlin, Germany: Springer, pp. 11-39.
- Ajzen, I. (1991), *The theory of planned behavior*. *Organizational Decision and Human Decision*

- Process, 50, 179-211.
- 林知己夫 (2001), データの科学, 朝倉書店.
- 西平重喜他 (1997), 発展途上国の環境意識—中国, タイの事例, アジア経済研究所.
- Schwartz, S.H. (1977), Normative influences on altruism. *Advances in Experimental Social Psychology*, 10, 221-279, New York, Academic Press.
- Smith-Sebasto, N.J., D'costa, A. (1995), Designing a Likert-type scale to predict environmental responsible behavior in undergraduate students: A multistep process. *The Journal of Environmental Education*, 27(1), 14-20.
- Stern, P.C., Dietz, T., et al (1999), A value-belief-norm theory of support for social movements, The case of environmental concern, *Human Ecology Review*, 6, 81-97.
- Stern, P.C. (2000), Toward a coherent theory of environmental significant behavior, *Journal of Social Issues*, 56(3), 407-424.
- 谷口 誠 (2004), 東アジア共同体—経済統合のゆくえと日本, 岩波書店, 東京.
- 統計数理研究所 国民性調査委員会 (2004), 国民性の研究 代 11 次全国調査, 統計数理研究所, 163 pp.
- UNEP & WHO (1996), Air quality management and assessment capability in 20 major cities. MARC (The Monitoring and Assessment Research Center), London.
- 吉野諒三 (2001), 心を測る—個と集団の意識の科学—, 朝倉書店.
- 吉野諒三 編 (2004a), 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析— 2002 年度日本調査報告書, 統計数理研究所研究レポート 91.
- 吉野諒三 編 (2004b), 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析— 2002 年度中国 [北京・上海・香港] 調査報告書, 統計数理研究所.
- Zheng Y., Yoshino, R., (2003), Diversity patterns on attitudes toward nature and environment in Japan, USA, and European nations, *Behavior-metrika*, 30(1), 21-37.
- 鄭 躍軍 (2002), 中国・日本における国民の環境意識に関する研究. 環境経済・政策学会 2002 年大会報告要旨集, 72-73.
- 鄭 躍軍他 (2005), 日本・中国の国民性比較のための基礎研究—中国杭州市と昆明市における意識調査—, 総合地球環境学研究所 研究レポート No. 1.

(2005 年 12 月 1 日受付, 2006 年 1 月 30 日最終修正)

分析に用いた質問項目

〈自然観〉

自然と人間との関係について、つぎのような意見があります。あなたがこのうち真実に近い(ほんとうのことに近い)と思うものを、1つだけ選んでください。

- 1 人間が幸福になるためには、自然に従わなければならない。
- 2 人間が幸福になるためには、自然を利用しなければならない。
- 3 人間が幸福になるためには、自然を征服していかなければならない。

〈環境観〉

環境保護と経済成長の議論において2つの意見がよく出されます。どちらがあなたの考えに近いですか。

(一つ選択)

- 1 たとえ経済成長が低下して失業がある程度増えても、環境保護が優先されるべきだ
- 2 環境がある程度悪化しても、経済成長と雇用の創出が最優先されるべきだ

〈健康満足度〉

あなたと同じ年の人と比べて、あなたの健康状態はいかがですか。

- 1 非常に満足している
- 2 満足している
- 3 あまり満足していない
- 4 満足していない

〈生活満足度〉

あなたの生活についておききします。ひとくちに言ってあなたは今の生活に満足していますか、それと

も不満がありますか。

- 1 満足
- 2 やや満足
- 3 どちらともいえない
- 4 やや不満
- 5 不満

〈信頼感〉

問1 たいていの方は、他人の役にたとうとしていると思いますか。それとも自分のことだけ考えていると思いますか。

- 1 他人の役にたとうとしている
- 2 自分のことだけ考えている

問2 たいていの方は信頼できると思いますか。それとも、常に用心した方がよいと思いますか。

- 1 信頼できると思う
- 2 常に用心した方がよい

〈科学技術観〉

あなたは、次にあげる組織や制度、事がらをどの程度信頼しますか。「非常に信頼する」「やや信頼する」「あまり信頼しない」「全く信頼しない」のいずれかでお答え下さい。

j 科学技術

〈宗教観〉

それでは、いままでの宗教にはかかわりなく、「宗教的な心」というものを、大切だと思いますか。それとも大切だとは思いませんか。

- 1 大切
- 2 大切でない

「信の崩壊」

— 世論調査方法論の今日の課題 —

吉 野 諒 三

Time of Reconstruction of Trust

Ryozo YOSHINO

This paper is dedicated to the late Professor Kinji Mizuno in memory of his great contribution to Behaviormetrics and the Behaviormetric Society of Japan. In reviewing several recent issues on survey research in which Professor Mizuno was also very much involved, I consider possible future developments in this area. The issues cover the fields of public opinion survey, election forecast, Japanese national character survey and cross-national comparative survey by the Institute of Statistical Mathematics, as well as their methodologies. Finally, the idea of "the Advanced Institute of Human and Social Sciences", an idea conceived by Professor Mizuno and his associates, is also briefly mentioned. I hope that this will remind our readers of the original concept of Behaviormetrics as it appeared in the 1970s and will lead us to the further development of our research.

本論文は、「行動計量学」という学問と、「行動計量学会」という組織に長年に亘り貢献し、大きな足跡を残した水野欽司氏の業績を称え、氏の業績に関連し、特に社会調査研究の今日の課題について触れるものである。通常の学術論文とは異なった文調となろうが、氏への想いと、調査研究の現状への思いとが重なった複雑な心持ちを、敢えてそのまま記すことにした。

1. 日本の標本調査研究

水野氏の経歴については、おそらく、本特集号の編者である岩坪氏が詳説するであろうが、統計数理研究所に1975年から1991年にわたり在職され、その後、大学入試センターへ移動される前は、研究所の四つの系のうちの一つである調査実験解析研究系の系長を勤

められた。私が入所する以前は、所員の中で心理学出身者は水野氏、一人であった。統計数理研究所が1953年から継続している「日本人の国民性」調査の第8回(1988年)は、水野氏が指揮をして、文部省の財政的支援のもとで全国の大学の教官や学生の方々のネットワークの協力を得て、遂行されたものであった(水野他, 1992)。後から考えると、当時、氏は徐々に病が進んでいる中、奮闘し、この大規模調査の成功を期したのかと想像する。第9回目(1993年)からは、調査回収率の悪化などを考慮して、調査の実施が民間の調査会社への委託の形となってしまったことを思うと、標本調査理論の前提を翻すような調査環境の悪化の中で、最大の努力をして日本各地の大学へと足を運んでいた水野氏の姿が想像される。(私は、1988年に米国から帰国し、統計数理研究所には翌年4月に入所したので、当時の事柄は、先輩諸氏からのお話から想像するしかない。)

戦後の日本の調査研究の萌芽には、少なくとも2つの契機があった。1つは、戦後、米軍の占領下で日本語(漢字)教育への疑問から「日本語のローマ字化」の議論が生じたが、1948年にGHQ内のCIE(民間情報教

統計数理研究所
〒106-8569 東京都港区南麻布4-6-7
The Institute of Statistical Mathematics
4-6-7 Minami-Azabu, Minato-ku, Tokyo, JAPAN
106-8569
e-mail: yoshino@ism.ac.jp

育局)の指導の下で遂行された「読み書き能力調査」(石黒他, 1951)において、「標本調査法の理論」が実践的に展開され、その結果、日本人の読み書き能力はそれ程低くはないことが判明し、ローマ字化が阻止された。この時、文部省のもとで、教育研修所、統計数理研究所などが戦後の日本の学際的共同研究の先駆を展開したのであった。また、もう一つには、民主主義発展の基礎として「世論調査」を展開させることが各新聞社にCIEから下された使命となり、統計数理研究所の支援を得て、発展してきたのであった。

これらの研究の流れが、統計数理研究所の「日本人の国民性調査」(1953年～現在)に繋がり、継続した時系列変化の調査研究となったのである。この背景には、米国社会学会において戦中・戦後に、特に米国の交戦国となった国々の「国民性」研究が盛んであったことも何らかの影響を与えているかもしれない(Inkeles, 1997; 吉野諒三, 2000)。いずれにせよ、昭和20年代は調査研究が華々しく展開され、理論的にも実践的にも、世界の先駆となる独創が生み出されていったのである(日本統計学会, 1982)。数量化理論などの統計手法も、この流れの中で現実の世界の問題解決のために生まれたのであった。なお、「数量化理論」については水野(1996, p.111)氏が指摘しているように、これは思想や哲学の立場に近く、決してデータへの数式の当てはめモデルのようなものではない。(この辺の事情や批判については日本統計学会[1982], 吉野[2000], 林

[1990, 2001]等を参照のこと。)さらに言えば、戦後から今日まで発展的に登場してきた、昭和20～30年代の「統計数理」、その後の「数量化」、昭和40年代後半からの「行動計量」、最近の「データの科学」という統計の哲学は、すべて現実の世界の課題を解決する実践の中で生まれてきたものである。この点を忘れた統計学は凋落の一途を辿るしかない(cf. 木下, 1992; 吉村, 1990)。

しかし、この「日本人の国民性」調査における回収率(表1)の変化でも分かるように、一般に近年著しい回収率の低下が見られ、都市部では1980年代に既に50%を割っていると言われている。通常は標本調査理論の実践上、100%の回収率が得られないまでも、70%程度以上の回収率を得ることが、母集団についての推測を成立させるための要件の目途となっている。これは、「回収された集団」と「回収されなかった集団」の中での意見の比率が、例えば、それぞれ実際はYes:Noが52:48%と48%:52%と逆であっても、回収された標本からの推定の結果(Yes>No)が現実(Yes=0.52×0.7+0.48×0.3=50.8%>No=49.2%)とは逆転しない程度の回収率の下限に近いからである。(参考までに述べると、計画サンプル数が3,000人の場合、サンプル誤差は最大で±1.8%程度[単純無作為抽出で95%の信頼区間]である。)しかし、第8回(1988年)調査では回収率は全国平均で60%程度に落ちてしまったのであった。

調査の初期(1953年, 1958年)の頃は、都市部の方が地方よりも回収率が高かったが、近年は、治安やプライバシー保護の意識から都市・大都市の面接調査における回収率は著しく低くなっている(表2は、全国集計における調査不能の理由を示している。).

表1. 調査不能率の変化

この数十年に回収率の顕著な低下が見られる。(注. 第1～8回までは全国の大学の協力による調査だが、9回目以降は民間の調査会社による。)

調査年度	調査不能率%		
	全体	男	女
第1回(1953年)	17	18	15
第2回(1958年)	18	19	17
第3回(1963年)	25	27	23
第4回(1968年)	24	28	21
第5回(1973年)	24	28	21
第6回(1978年)	27	32	22
第7回(1983年)	26	31	21
第8回(1988年)	39	42	35
第9回(1993年)	31	36	26
第10回(1998年)	36	40	32

表2. 1998年調査での調査不能の理由の内訳(%)

死亡	1
移転	10
該当者なし	1
尋ね当たらず	2
長期不在	4
病気	6
一時不在	25
拒否	46
老衰	1
その他	3

2. 「国民性」の国際比較調査

先述の調査研究は、1971年のハワイ日系人調査を始めとする「意識の国際比較調査」へと拡大されてきた。我々の国際比較では、類似の側面と非類似の側面をもつ2カ国（集団）を比較の環と考え、この比較の連鎖の環を拡大していきよりグローバルな比較を可能にしようとするものであり、これを文化の連鎖的比較方法論（cultural link analysis, CLA と略す）と称している。しかし、この研究においては何よりもまず、「国際比較可能性」が探究されなければならない。複数の国々の比較調査では、用いる言語やサンプリング法、調査方法の詳細が異なることが避けられず、これらの条件の違いの下での計量的な「比較可能性」、あるいはそもそも「比較」するということの意味を慎重に吟味しなければならない。

まず、我々は、個々の質問項目の回答分布の大小比較以前の問題として、各国民の一般的回答傾向の差、例えば日本人は極端な回答を避け、中間的回答が多く、フランス人はどのような質問にも否定的、消極的な回答

をする傾向があることなどを見出している。

翻訳の問題では、我々は back-translation という技法を用いて、翻訳の揺らぎと回答の差を調べている。例えば、本来が日本語の質問文をあるバイリンガルに外国語に訳させ、それをまた別のバイリンガルに日本語へ訳し返させ（A）、もとの日本文（B）と比較検討するのである。場合によっては、微妙な表現の差違が調査の現場でどのような効果を持つかわからないので、統計的には同一と想定される2つのサンプル集団に、それぞれAとBの質問票を施し、回答分布を比較することになる（但し、AとBは表現が全く同じ項目も多く含む）。日本A（翻訳調）と日本B（本来の日本語らしい表現）との比較実験調査の結果として、表現が多少違うだけでも、10～15%程度の回答分布の差が生じることもあることを確認している。このように言語の表現の微妙な違いでも影響が出るので、国際比較データでは、各国の回答差があったとしても、それが本質的な差か、狭義の翻訳の表現や各国民の一般的回答傾向の差によるものか、判断は難しい。また、バイリンガル比較研究では、日英のバイリンガルの方は英語で回答した方が、日本語で回答する場合よりも、

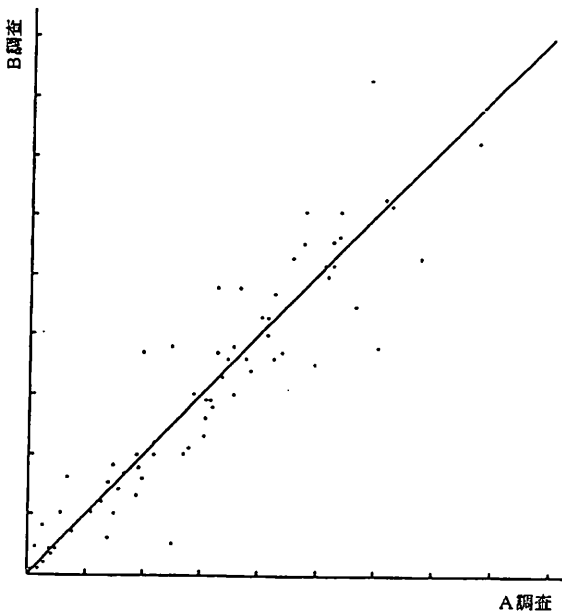


図1. A, B調査で質問文の表現が異なるものの回答
日本調査AとBでは、ほとんど同じ質問文を用いているが、国際比較用の翻訳調の表現を用いる調査Aと、本来の日本語らしい表現を用いる調査Bでは、質問の主旨が同じだが表現がわずかに異なる質問があり、それらに対する回答は、図2の場合に比べて、回答肢の選択率にばらつき（差異）が出るのが確認された。

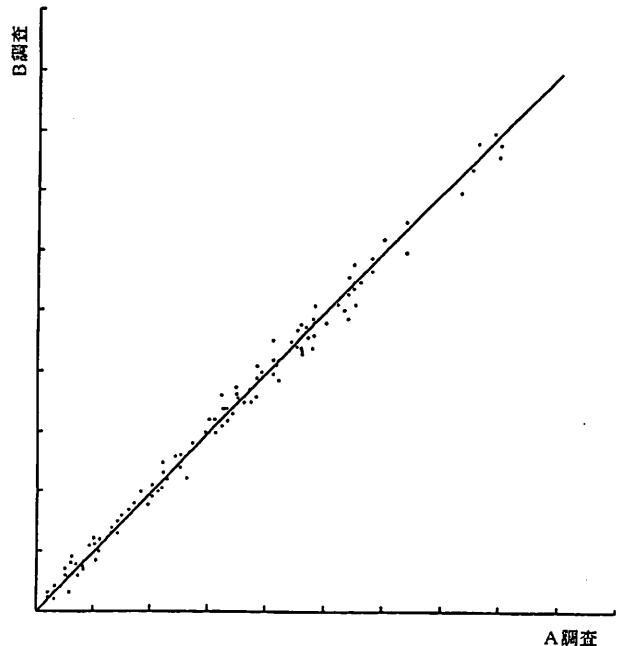


図2. A, B調査同一質問文の回答
同質と想定される2つのサンプルに、全く同じ質問文を適用した場合の回答は、基本的に標本誤差を示すものであり、概してばらつきは小さく、即ち、回答の一致の程度は、図1に比べて高い。

Yes/No を明確にする傾向があること等も確認している (林, 鈴木, 1997)。

さらに, サンプル法の違いの問題については, 各国ではランダム・サンプリング, ランダム・ルート・サンプリング (各地点で道を無作為抽出し, その道に沿って回答者を求めて歩く), クォータ・サンプリング (地点は無作為抽出だが, 各地点で人は割り当て抽出) 等, 各々の伝統的な標本抽出法が用いられている。日本のように比較的理想的なランダムサンプリングをするための住民登録や選挙人の名簿がない状況では, 統計的に理想的なランダムサンプリングができないのはやむを得ないのである。また, 適切な母集団のリストからのランダム・サンプルではあるが, 我々のブラジル日系人調査 (山本他, 1992) においては, サンプルの居住地が陸の孤島のように広大な大陸に散在していると, 地点抽出のレベルで, ある種のバイアスが避けられず, ウェイトをかけた補正を考えることもあった。しかし, もとの統計データという現実と比べて, ウェイト補正した, いわば虚構のデータは, 単純統計レベルでは尤もらしくとも, クロス集計や多変量解析にお

いて (ウェイトの付いた分散が) どのような不合理をもたらすかは必ずしも判然としない。このウェイト補正は, 米国のギャラップでも回収率低下の解決策(?) として, 調査することができた回答者の「調査日を含む, 前3日間の在宅時間」をも調べ, 在宅率に関してウェイト補正することが行われているようである。この場合, 大概是, ウェイト補正したデータと補正しないデータとの分布の差はそれほど大きくはないが, 現実には老若 (在宅率の差が大) で意見の差が大きい項目では, これらの差も大きくなるといわれている (鈴木, 1996)。

このようにサンプリング法や言語に関連する差のある条件下で, 各国の回答分布の数値を比較することにどの程度の意味があるのだろうか?

質問文の表現の差についての比較調査 (日本 A, B) で見られたように, 各項目毎に分布を比較すると多少の表現の差でも標本誤差以上の差を生じる (図1と2)。しかし, 単一項目の回答分布の比較ではなく, 複数の項目群について複数の国々 (地域) の回答分布の全体的なパターン分析をしてみると, 多少の質問項目

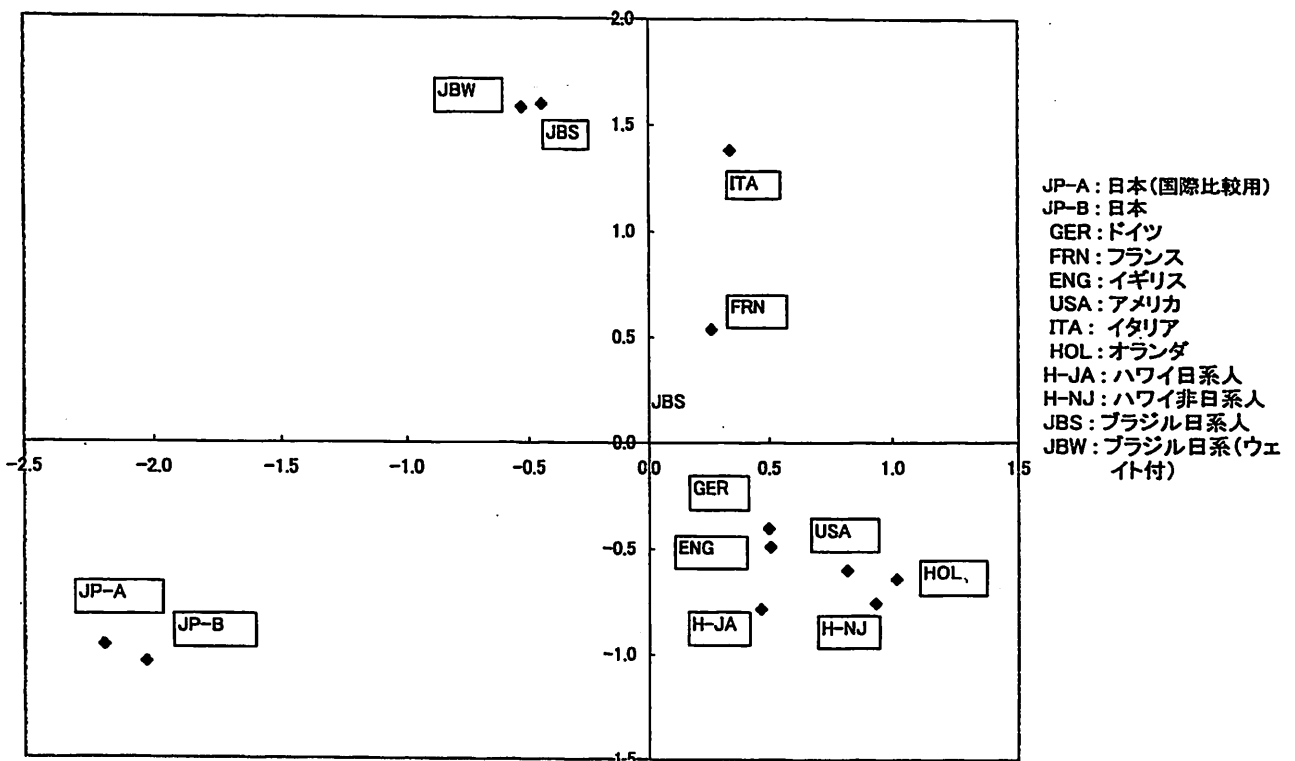


図3. 各国の相互パターンを分析するために, 全共通質問項目に数量化 III 類を適用すると全体の中での各国の位置づけが明確なパターンとなって浮き上がってくる。この中では, 日本 A と B の翻訳表現の差の影響は, ほとんど無視できるのが分かる。

表3. ハワイ・ホノルル住民調査回収率と回収状況

調査年	サンプル数	完了数** (%)
1971	594*	434 (73%)
1978	1205	751 (62%)
1983	1312	807 (62%)
1988	1163	499 (43%)
2000	2101	449 (21%)
	215*	51 (24%)

注) *日系人のみの調査

計画サンプル数	2,101名	%
有効回答者数	449	21.3
拒否	279	13.3
転居	550	26.2
不在	425	0.2
家族に会えたが本人とは接触できなかったり、回答者の家は特定できたが本人とは接触できなかったケース	155	7.4
協力の約束を果たさなかった者	32	1.5
英語が分からぬ者	31	1.5
病気・入院中の者	24	1.1
身体が不自由のため調査不能の者	7	0.3
物故者	19	0.9
居住地に立ち入れないための接触不能	68	3.2
転居され住居自体が廃墟、崩壊のケース	44	2.1
一時的に別の地域に居住している者	14	0.7
指定調査地域の境界外に居住していた者	4	0.2

の表現の差やサンプリング法、ウェイトの有無などは、全体のパターンの中では無視できる程度のものとなる。例えば、図3で見られるように、意識の国際比較調査データ（日欧米の7ヶ国、ハワイ日系・非日系人、日本AとB、ブラジル日系人[地点サンプル補正ウェイト付と、補正なし]に数量化III類を適用すると、米・英、伊・仏の類似性など、了解できる安定なパターンが得られ、日本AとBの差違や、ウェイト補正の有無による差違は全体のパターンの中ではわずかなものと見なせる。このパターンは項目を多少入れ換えても安定していることが多い（吉野，1995）（cf. GuttmanのFacet Theory [Levy, 1994, p. 9]。つまり、適度に敏感で、かつ適度に鈍感な「尺度」の構築によって安定な（項目の微妙な表現の差や、無作為である限り標本

抽出法によらない）構造を見出すこともできるのである。

また、吉野諒三（1992a, 1994）やYoshino（1992）、Yoshino & Khor（1995）のSuper-Cultureモデルのように、回答分布の詳細な数値を用いない（各国の各項目のモード（最頻値）・カテゴリーのみを入力データとする）いわば、粗い多次元表示でも、安定したパターンが得られている。再び繰り返すが、このような意味で、適度に敏感でかつ鈍感な尺度の構成が重要であることが認識される。

先に、「日本人の国民性」調査について回収率の低下を指摘したが、この傾向は世界の各国で一般に見られる（最近のハワイ住民調査については、表3参照）（吉野他，2000；吉野他，2001）のだが、単一の項目ではなく項目群に対しての適切な尺度の構成や適用で、これを解決できる場合もあることを例示した。そして、それに基づいて安定したパターンを確認した上で、再び単一項目の回答分布の比較へ戻って検討する手続きもあり得るだろう（Yamaoka & Yoshino, 2000）。

3. 選挙予測の光と影

3.1 選挙予測—世論調査の花—

先述のように統計的標本調査理論は世論調査の礎となったが、これは特に選挙の予測システムの発展へも繋がった。1960年代より、大きな選挙の度にマスコミ各社の予測データ（議席数）が示され、特にTVの普及とともに華々しく宣伝され、かなりの成功を収めていった。しかながら、前々回（1998年7月）の参議院選挙以来、この成功は鳴りをひそめ、むしろ各社は自らの完敗を強く認識している（日本世論調査協会2001；輿論科学協会，2001）。

これには多くの理由が挙げられようが、特に小選挙区制が導入され、調査すべき選挙区数、即ち調査すべき対象が増えたことが指摘される。このため、コストなどを考慮すると面接調査は難しく、電話調査へ移行せざるを得なくなってしまったのであった。（電話調査にしても、例えば衆議院選挙でA新聞社は全国各所での調査に5億円程度の費用を当てている。）しかも、電話調査の実践には幾通りかの標本抽出法があり、どの方法がどの程度の精度を持っているのかも厳密には判明していない。それまでも、面接調査と電話調査の比較研究も見られている（林，田中，1995）が、十分なノウハウが蓄積しないうちに、電話調査へ移行せざる

を得なかった事態の中で、調査結果を解釈して予測する際に、それまでの面接調査でのノウハウがどこまで適用できるか不確実なこともあり、十分な予測力を持つことができなかつたのが失敗につながったといわれている。

しかし、本当にそれだけなのであったのだろうか？

3.2 選挙システムの内幕

林(林, 高倉, 1964)が選挙予測の創草期に示し、また西平(輿論科学協会, 2000)が最近も指摘しているように、実は、(単発の)世論調査データのみから選挙結果予測するのは、理論によって保証されていないことに注意しよう。各社の調査は、各選挙区でせいぜい500名程度のランダム・サンプルを採るのであり、仮に理想的な単純ランダムとしても標本誤差が最大 $\pm 4.5\%$ 程度、さらに経験的に非標本誤差がこれと同程度と思われ(林, 1984)、結局 $\pm 10\%$ 弱以上もの大きな誤差のある推定値から、当選者を推定しようとしているのである。

それでは、これまで何故、選挙予測は当たっていたか？

一つには、いわゆる「55年体制」が長く続く中では実質上、無風選挙区や抜群の人気者が立候補している選挙区も多く、安定した傾向が読める場合が多かったことがある。(但し、林[日本統計学会, 1982]では詳細な部分では予測はずれていたが、与党議席数など衆人が注目していた部分が当たり、予測全般が評価されていたという指摘もある。)また、もう一つには、データを解釈する際に、標本からの推定値そのものではなく、投票前の数週間前から数日前までの変動傾向を見て、予測していたことがある。つまり、「調査」と、それに基づく「予測」を分けて考えていたことにある。この調査データと予測を結びつけるノウハウは、マスコミ各社の財産であり秘匿されていることが多い。そして、これまでの「調査」での傾向は、投票日まで比較的安定したものであったと思われる。西平(輿論科学協会, 2001, P. 23)は票読みのノウハウを定性的にまとめているが、増加している(支持率等)場合は多めに読み、逆は少なめにというように、力動的変化を読みこんだ予測を行なっているのが分かる。

しかし、最近の選挙では過半数を占める「無党派層」の動向が、投票の直前でも把めず、投票日の一週間前、2日前と前日との比較調査でもかなりの変動を示しているのである。このような状況下で、よりの確に力動

的变化を把むのに有用な統計的予測の理論はあり得るのであろうか、またあるとすればそれはどのようなものであろうか。

4. 社会のダイナミズムを解釈する「データの科学」へ

4.1 「信」の崩壊

新世紀を迎えた今日、世界中で伝統的な社会システムが崩壊し、日本も近未来の高度情報化社会へ突入しつつあるようである。この変化は、就労のあり方を必然的に変え、職場での人間関係、それを支える家庭における人間関係、教育のあり方にも大きな変化を与えつつある。この変化の途上で、家庭の崩壊、教育現場での学級崩壊、政治では無党派層の大幅な増大に見られる既存の政党への不信感の表明など、広義の「信の崩壊」の時代となっている。

しかし、これは必ずしも悲観的な事態というわけではない。NPOやボランティア活動の隆盛は、むしろ、これまでに見られなかった程である。個のレベルの信頼感までもが喪失されたわけではなく、少なくとも日本では伝統的な社会的信頼感が現在の社会システムで機能不全となっている分、そのエネルギーが個のレベルの自発的集合の中で積極的に発揮されているのであろう。このような状態は産業革命の初期に見られたのと同様に、過渡期の混乱であり、新たな社会システムが確立されるとともにこの混乱も収まり、新たな時代の信のあり方が確立されるのであろう。

この伝統的社会システムの崩壊が、社会や日常生活の様々な面で混乱を生じている。これは社会調査のプロセスにも大きな影響を与えている。社会調査は「研究者」という人間が、「調査員」という人間を用いて、「回答者」という人間の集団を探ろうとするのである。治安が保証されない世の中では、調査する側とされる側の不信感が調査を妨げる。プライバシー保護の不安もあろう。選挙の有権者は、既成の政党システムに不信を持ち、「無党派層」を形成する。これは、政治に無関心である人々とは異なり、政治に強い関心を持っているが、与野党を問わず、既成の政党を支持しない人々の無組織の集団である。

また、職業体系、就労意識が変化を生じ、大学を出ても就職できるとは限らないし、大会社に就職できてもリストラがあつたり、潰れたりするのは稀ではない。雇用者側から見ても、期待をかけて若者達を雇用しても、すぐに退職していく者も増えた。雇用者側と被雇

用者側との間が不安定な関係となり、高学歴層の人々の間でも終身雇用体制は既に崩壊し、日本人の労働意識や倫理も、1980年代以前に欧米の企業家が羨んでいた雰囲気からはかけ離れつつある。社会調査の現場でも信頼できる「調査員」の確保は難しくなって、調査データの収集の段階で、十分な仕事ができはいていないことはあり得よう。このような社会状況で、現在の「調査」(回収データの数値だけでなく、調査遂行のすべての段階の状況)は失敗どころか、むしろ現実の混乱を忠実に映しているように思われる。

しかし、従来の「標本調査理論」を越えて、今日のように混乱している状況の中でも通用する、選挙予測のような予測のための理論的枠組を構築できないのであろうか？ そのようなものができるのであれば、それは必ずしも母集団からの無作為抽出のような「統計的バイアスのない代表性」が必ずしも保証されていない断片的なデータから力動的変化の情報を解読して、全体像を推定する理論や方法論となるのであろう (cf. 林 [日本統計学会, 1982]; 竹内, 1995)。そのような理論の構築が、今日の統計学の緊急の課題の一つとしてあげられる。

4.2 「ビー玉のサンプリング」から、「集団のダイナミズムを読む調査」へ

上記のように、混乱した社会状況の中で、断片的で、バイアスのあるデータから、少しでも確実な情報を取り取るための実践的理論を構築するための試行錯誤が必要である。

従来の標本抽出の考えは、例えば、色々なビー玉が入った壺の中から無作為に取り出したサンプルから壺全体のビー玉の色の割合を推定するという考えであった。しかし、人間はビー玉ではない。集合すると、そこに全体として力動的な一貫した (coherent な) 構造が現出することがある (cf. Langton, 1989)。その力動的構造が掴めれば、たとえ断片的でバイアスのかかった、多少は質の劣るデータでも、全体の流れを予測する補助情報となることもあるのではないか。低い回収率の調査で回収されたデータには、不完全であっても、それでもなお回収されなかったデータの情報の影も投げかけられているのではないであろうか？

これを念頭に入れて、以下に試論をスケッチしてみよう。

4.3 試論 (パネル調査への期待)

政党の支持率などの変化を、トレンド調査で調べるのはこれまでもよくみられた。しかし、さらに、変化速度や集団内部の変化等の詳細なダイナミズムをみるためにはパネル調査が必要である。パネル調査では、一度抽出されたサンプルを固定して、同一質問の調査をある一定の期間をおいて幾度か行うので、個人の意見の変化が分かるのである。過去の実験的パネル調査では、国民性に関する意識など短期間では意見が変化しそうでない項目についても、特定の社会的事件がなくとも個人のレベルでは回答は30-50%も変化することがあるが、一方で、総体では数%程度(標本誤差程度)の差しか生じずに、安定していることが知られている (日本統計学会, 1981; Yoshino, 1998; 吉野, 2002)。

パネル調査の問題点は、1つには繰返しの数 (wave 数)が多くなると (現実の調査では回収率が100%というわけにはいかない)、初回のサンプルに比べて回収率が急減することである。1回毎では、たとえ70%の回収率であったとしても、3回目には初回のサンプルの50%を割ることになる。また、コストなども考慮すると、パネル調査はあまり多くは見られない。ここでは朝日新聞が発表している。朝日モニター調査(2000年10月24日の紙上発表)のデータを利用して、試論を展開しよう。なお、一部、詳細な数字は未掲載なので、以下は試論的概算であり、解釈も飽くまで限定された情報の下でのものであり、決定的な判断は政治の総合的な情報が必要であることに注意する。

例えば、2000年の5月から10月の内閣(森政権)支持率の変化は、遷移行列 Q を用いて次の様に現わす。

$$\begin{aligned} &10月の内閣支持 (Yesの率, Noの率) \\ &= 5月の支持 (Yesの率, Noの率) \cdot \text{遷移行列 } Q \\ &(34.09, 65.01) = (42.85, 57.15) \begin{pmatrix} 0.6977, & 0.3022 \\ 0.1044, & 0.8955 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

ここで $Q = (q_{ij})$ は前回にカテゴリー i 選んだ回答者のうち、今回はカテゴリー j を選んだ者の率を表す。但し、YesとNoを各々カテゴリー1, 2とする。(ここでは議論を簡単にするため、一度でも「その他」と回答した者は除き、Yes+No=100.00となるように再計算した。)

遷移行列 Q の転置行列の固有値と固有ベクトルの計算により、一時安定収束点 (Q が一定、即ち、もし将来もこのままの変化を続けるとしたら到達する分布) は (25.67% 支持, 74.32% 不支持) で概ね1:3と

なる。ここで、固有値計算をしなくとも、近似的に一時収束点は

$$(Y, N)^\infty = \lim (Y, N)^0 \cdot Q^n$$

の右辺で、 n を十分大にして求めることができる。 $(Y, N)^0$ は初期値 (5月の支持率) である。あるいは、 $Y/N = q_{12}/q_{21}$ から求められる。この辺の計算は、Yoshino (1998), 吉野 (2002) を参照。

遷移行列の各要素が、個人レベルでの意見の変容を示すことは分かるであろう。個人のレベルで全く意見の変化がなければ、 Q は単位行列となる。

$$Q = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$$

しかし、逆に Q が単位行列でなく、つまり個のレベルで意見の変容がかなりあっても、集団総体としての Yes/No の比率は変化しないこともある。したがって、トレンド調査としてみると集団総体での変化しか分からないが、パネル調査では集団内部の個のレベルの力動的変動がみられるのである。そして、この場合、一時収束点とは、必ずしも Q が時間の変化に対して一定のままという訳ではないので、現実の Yes/No の比率が必ずしもその点へ収束する訳ではないが、現在の比率がその一時収束点に向かって変化していることを示しているのである。

この遷移行列と一時収束点が、集団の意見変容の勢いを表わしているのである。

同様の計算の結果を、参考までにさらに示すと、小

表4. パネル調査によって計算された支持政党率の一時収束点 (%)

	自民	民主	共産	他	無党派
1999年12月 →'00年3月	19.18	15.39	7.99	1.04	56.38
3月→5月	57.85	7.06	4.91	1.51	28.65
5月→6月	29.74	62.96	—	2.5	4.79
6月→10月	27.94	18.70	—	—	53.35

(〔他〕は自民・民主・公・自・共・社民以外。詳細な調査データ不明のため、表記していない政党は、計算結果では0%となる。支持者の変化の流入が一方の政党があると、それはそのままの変化を無限に続けければ消滅するか、極大化するのは自明ではあるが、これは現実とここでの計算とを乖離させる原因となる。また、現実に予測したいのは、この一時収束点等に表われる「勢い」が調査時点から投票日までどの程度の変化をもたらすかであり、今後の検討が必要である。)

小淵政権の1999年12月から3月では、一時収束点は (33.28% 支持, 66.71% 不支持)、小淵 (3月) から森 (5月) では、一時収束点は (36.47% 支持, 63.52% 不支持) であった。(これらの数字は、「その他」の回答を除外していることに再度注意する。いずれにせよ、低い支持率で安定しているのが分かる。)

一方、政党支持のデータを見ると、この一時収束点の計算の上でも、「無党派」勢力が大きな固まりとなっていて、大きな流動的勢力となっている (表4)。これが選挙直前の5月から6月には「民主」に大きな流れ込みをおこし、議席数の増大に繋がった。しかし、これが7月の選挙後から10月には逆流を見せ、選挙以前よりも「無党派」への流れの勢いが大きかった。無党派層は、選挙においては与党への「不信」を示すために「民主」を支持したが、選挙後、実際に既成の野党を支持しているわけでもないので、今度は野党への「不信」を示すために、「無党派」に大きく振り戻ったのではないだろうか。

朝日新聞の世論調査部は、予測調査の混乱の中で、他のマスコミ各社同様、種々の試行を重ねていて、上記のパネル調査とは別に、連続トレンド調査も遂行し、分析している (斉藤, 2000)。トレンド調査では各回の回答サンプルは統計的には同質の集団と見なされるものの、現実には別の人々である。したがって、個のレベルでの意見変容は見ることができない。2000年7月の衆議院選挙前のトレンド調査データによる予測と選挙後の結果との比較分析を、斉藤 (2000) が論じている。その論文のタイトル「民主躍進」は見えが、風はつめず」となっているが、まさにこのタイトルが示すように、トレンド調査は集団総体の回答の分布の変化しか分からないため、パネル調査のような集団内部の力動的変化の情報がなかなか読みきれないのである。しかし、前記パネル調査の一時収束点の計算では、「兆し」どころか、大きな流れが読めたはずである。但し、この「勢い」が、調査時点から投票日までの有限の時間に、現時点の分布から一時収束点へ向かうどの点にまで到達させるかについての理論や、実践的ノウハウは、今後、慎重に蓄積して行く必要がある。さらに、サンプルの母集団についての代表性が保証し難い場合でも、この「勢い」の情報を、母集団全体の推定にどのように組み込めば適切であるかという検討も必要であろう。したがって、現在の Yes/No の比率と一時収束点の比率との乖離の程度も変化の勢いを示す指標となる。さらに、当該の問題に直接関係ないような

項目を挿入して、例えば回答者のパーソナリティに依存する回答傾向（少しの状況変化で意見を容易に変えるタイプ、変えないタイプ等）を調べておき、補助情報として用いることはどうであろうか？（丸山他、1996；日本統計学会、1981, p. 32）

Yoshino (1998) や吉野 (2002) の「社会的量子論 social quantum theory」ではさらに、Prigogine ら (Nicolis & Prigogine, 1979) の「散逸系の理論」を社会調査の文脈の中で展開して、集団の意見変容のダイナミズムをモデル化して、選挙の投票率や得票率について、試論を示している。

以上は、パネル・データに基づいて、集団の意見の力動的変化を探る試論の一端を示したにすぎない。先述のように、パネル調査は回収率漸減やコスト等の問題がある。パネルの継続につれて、初期の標本に対する回収率が減少する問題を回避するため、同じ回答者は2回までとして、少しずつずらした標本集団でパネルを長期に続けること（連鎖的あるいはスライド式パネルのようなもの）が可能であれば、またパネル部分（同一項目）を一部のみとり入れて大半は各々別の調査票となれば、コストや回収率の問題は多少とも減ぜられるであろうか。諸氏の御検討を賜りたい。

5. 結びに代えて—新しい時代の構築のために—

「調査は死んだ。」これは水野氏が亡くなってから、御夫人から筆者への私信にて、氏が晩年にポツリと語った言葉であったと伺った。社会調査研究に尽力した人であったからこそ、様々な意味で従来の調査の理論的枠組、方法論、現場の遂行能力が崩れつつあるのを強く憂えていたのであろうと想う。特に、林知己夫氏が統計数理研究所の所長を退いて以来、一頃を思えば、調査研究者のチームとしての研究遂行能力は低下し、先の言葉が氏の口からこぼれた理由の一つであろう。

水野氏は、昭和50年頃、林知己夫氏とともに、日本の「人文社会科学高等研究所の設立」を構想していた時代があった。この中心的アイデアが「社会調査データ・ライブラリー」の構築であった。ここでいうデータ・ライブラリーとは各国の官民の調査機関が収集した世論調査データを、その国の中心となるデータ・ライブラリー（データ・センター）が集積し、文書等を整備した上で、世界のネットワークで結び、一般の人々に無償で提供する施設のことである。これにより、学問、政治・経済の基礎情報を提供し、異なる国々の相

互理解を促進し、結果として、世界の平和的發展の一助となることが期待されている。

水野氏は、文部省在外研修員として Michigan 大学に留学した経験がある。おそらく、世界的なデータ・ライブラリーと世論調査研究者を多数抱えている同大学附属の ICPSR (Inter-university Consocium) と ISR (Institute of Social Research) の運営について研修してきたのであろうと思われる（大統領選挙や消費行動の調査でも活躍している）。これは、当時 OECD による「日本の社会科学の批判」(OECD 調査団, 1980) が盛んに議論され、また反論が出されていた時代であった。しかし、結局のところ、20年近く経った今日でも、大きな変化は見られず、欧米諸国に見られるような数十名以上のスタッフが常勤し、年間数億～数十億円以上の規模で運営される本格的データ・ライブラリーは構築されていない。一部の意欲のある研究者や組織に限られた条件の下で尽力しているだけである (吉野, 1992b)。

本論文でも触れたように、真に重要な統計学は現実の世界の問題解決のために生まれ、発展するものである。「危機」は同時にチャンスでもある。

私は、宇宙において、生命の生と死は表裏一体をなすものと信じる。一つのものの終わりは、同時に新たなものの初まりを意味する。

さて、「従来の調査研究」の死は、新たな構想の下での調査研究の誕生となるか。このテーマについて多くの方々の関心を集め、近い将来に本質的な発展が見られることを期待する。

参考文献

- 朝日新聞 (2000). 朝日モニター調査. 10月24日朝刊.
- 林知己夫, 高倉節子 (1964). 予測に関する実証的な研究. 統計数理研究所彙報, 12巻1号, pp. 9-86.
- 林知己夫 (1984). 調査の科学. 講談社(ブルーバックス 571).
- 林知己夫 (1990). 市場調査事始め. 興論科学協会報, 7月1日発刊, pp. 157-189.
- 林知己夫 (2001). 日本人の国民性研究. 南窓社.
- 林知己夫, 鈴木達三 (1997). 社会調査と数量化(増補版). 岩波書店.
- 林知己夫, 鈴木達三, 村上征勝, 吉野諒三, 林文, 釜野さおり, 三宅一郎, 佐々木正道 (1998). 国民性七か国比較. 出光書店.
- 林文, 田中愛治 (1995). 面接調査と電話調査の比較の一段面. 行動計量学, 23巻, 1号, pp. 10-

19. Inkeles, A. (1997). *National character*. New Brunswick: Transaction Publishers.
- 石黒 修, 柴田 武, 島津一夫, 野元菊雄, 林知己夫 (1951). 日本人の読み書き能力調査. 東京大学出版部.
- 木下富雄 (1992). 多変量解析に対するユーザーのニーズ. 行動計量学, 19巻, 1号, pp. 40-48. 23巻, pp. 46-62.
- Langton, C.G. (1989). *Artificial Life*. NY: Addison-Wesley Publishing Company, Inc.
- Levy, S. (1994). *Louis Guttman on theory and methodology: selected writings*. Hong Kong: Dartmouth.
- 丸山直子, 柳原良造, 三隅不二不, 林知己夫 (1996). 原子力発電に関する公衆の態度. *Journal of Nuclear Safety System*, No. 3, pp. 5-45.
- 水野欽司 (1996). 多変量データ解析講義. 朝倉書店.
- 水野欽司, 鈴木達三, 坂元慶行, 村上征勝, 中村 隆, 吉野諒三, 林知己夫, 西平重喜, 林 文 (1992). 第5日本人の国民性. 出光書店.
- Nicolis, G. & Prigogine, I. (1979). 散逸構造 [小島陽之助, 相沢洋二郎訳]. 岩波書店.
- 日本統計学会 (1981). 日本における統計学の発展. 第23巻. 話し手 ハーバード・パッシン.
- 日本統計学会 (1982). 日本における統計学の発展. 第22巻. 話し手 林知己夫.
- 日本世論調査協会 (2001). よろん. シンポジウム世論調査は真の世論を捕らえているか. 第87号, pp. 29-58.
- 西平重喜 (2000). 輿論科学協会報, No. 246, p. 20.
- OECD 調査団 (1980). 日本の社会科学を批判する. 文部省訳. 講談社.
- 斉藤博美 (2000). 速報トレンド調査: 民主躍進「兆し」は見えたが風はつかめず. 朝日総研リポート, No. 145, pp. 80-92.
- 鈴木達三 (1996). 国際比較調査における標本計画と調査実施に関する一考察. 行動計量学, 23巻, pp. 46-62.
- 竹内 啓 (1995). 日本統計会誌, 25, 3, pp. 217-221.
- 山本勝造, 河合武夫, 脇坂勝則, 宮尾 進, 森 幸一, 林知己夫, 水野 担, 鈴木達三, 林 文, 吉野諒三 (1992). ブラジル日系人の意識調査—1991～1992—. 統計数理研究所リポート, No. 74.
- Yamaoka, K. & Yoshino, R. (2000). Sample survey of immigrants and data analysis on their acculturation in the way of thinking: Japanese Americans in the west coast. *Proceedings of Japan-China symposium on statistics*, pp. 227-230.
- 吉野諒三 (1992a). 社会調査データの国際比較の枠組みのための“superculture”. 統計数理, 40, 1, pp. 1-16.
- 吉野諒三 (1992b). ドイツの社会調査研究機関の状況と日本への期待. 中央調査報, No. 418, pp. 8-9.
- 吉野諒三 (1994). 国民性意識の国際比較調査研究. 統計数理, 42, 2, pp. 259-276.
- 吉野諒三 (1995). 国民の国際比較調査の為の質問文の作成—翻訳のプロセスを中心にして—. 行動計量学, 22巻, 1号, pp. 62-79.
- Yoshino, R. (1992). Superculture as a frame of reference for cross-national character. *Behaviormetrika*, 19, 1, pp. 23-41.
- Yoshino, R. (1995). Complementary scaling for cross-national analyses of national character. *Behaviormetrika*, 22, 2, pp. 155-184.
- Yoshino, R. (1998). A social quantum theory for the analysis of public opinion survey data. *Behaviormetrika*, Vol. 25, No. 2, pp. 111-132.
- 吉野諒三 (2000). 国際比較の視点から. 日本統計学会誌, 30, 3, pp. 282-290.
- 吉野諒三 (2001). 心を測る一個と集団の意識の科学一. 朝倉書店.
- 吉野諒三 (2002). 階層的2進分解モデル (HiBiD) の構成一個と集団の認知の力動的解析の為の「社会的量子論」一. 認知科学, Vol. 9, No. 2, pp. 213-229.
- 吉野諒三, 林知己夫, 林 文, 山岡和枝, 黒田安昌, 鈴木達三, 佐々木正道, Miyamoto, F., Fugita, S., Kashima, T. (2001). 文化の伝搬変容の統計科学的研究—ハワイ日系・非日系人国際比較調査—. 統計数理研究所研究リポート 86.
- 吉野諒三, 林知己夫, 山岡和枝, 林 文, 鈴木達三, 佐々木正道, 村上征勝, 馬場康維 (2000). 国民性に関する意識調査データに基づく文化の伝播変容のダイナミズムの統計科学的解析. 統計数理研究所研究リポート 84.
- Yoshino, R. & Khor, D. (1995). Complementary scaling for cross-national analyses of national character. *Behaviormetrika*, 22, 2, pp. 155-184.
- 吉村 功 (1990). 統計学における理論と実際の橋渡し. 行動計量学, 17巻, 2号, p. 36.
- 輿論科学協会 (2001). 市場調査. 選挙予測をめぐる諸問題. No. 246, pp. 4-29.

(2001年5月11日受付)

東アジア諸国の人々の日本語観

吉野 諒三*, 鄭 躍軍*, 朴 承根**

Asian Peoples' Views on Japanese

Ryozo YOSHINO, Yuejun ZHENG and Seung-Geun PARK

The main objective of this paper is to investigate East & South East Asian peoples' views on Japanese as represented in the response data of the Japanese census 1997-98 by the National Institute for Japanese Language. Firstly, we summarize the historical and social backgrounds of those 10 Asian countries under investigation, concerning their conditions of language learning. Secondly, we analyze their images on Japanese with respect to certain five linguistic dimensions as well as the relationships between their images about Japanese, Japan, and the Japanese. The result shows that these factors are closely related to each other. Thirdly, we show that most Asian countries expect their further advancement in the relationships with Japan in economy, but that this may not necessarily lead to the rapid increase of learners of Japanese. Finally, we suggest some possibility about the near future development of East & South East Asian zone.

1. 序 —世界の動向と東アジア, そしてその言語と文化—

本論文では、「日本語観センサス」で調査した全28カ国の中で、特に東アジア及び東南アジアの10カ国(または地域。表1参照)を中心とした分析の一部を紹介する。ここで取り上げた以外のアジアの国として、本センサスはインド、トルコ、イスラエルを含むが、それらの日本語学習者が1%以下であることを考慮して、ここでの分析からは除いてある。本論文の以下では、簡単のために「東アジア」という言葉をしばしば用いるが、実際は東アジア、東南アジアを含む範囲を示すことが多いので、文脈からご判断していただきたい。本調査に含まれる多様な調査項目とそのデータの詳細な分析は長い年月をかけて得られるのであろう

が、本論文では、飽くまでも、その方面の努力の概観の一部を示すにすぎない。

1970年代の「近代化」という欧米の価値観の押し付けが特にイスラム諸国に反動を生み「イスラム革命」や「イスラム復興」の運動を生じたように、この10年ほど「グローバリゼーション」と命名された「アメリカナイゼーション」が拡散するのに従い、EUとして統一化が進行するヨーロッパですら、それに対する反動を多少とも生じている。その現われの一つは、「英語帝国主義」—英語を世界の標準語として拡散しようとする考え—に対する各国の人々の反応である。これについては、Eurobarometer No. 54 (EU委員会, 2000) に特集されているように、人々の意識の調査も遂行され、また各国の研究者たちの議論も進んでいる。

一方、21世紀初頭の今日の世界の流れの中で、ヨーロッパ圏の統一 (EU)、南北アメリカの連携や連合の動きと共に、東アジア圏も世界の三極の一つとしての統一、若しくは連合の強化の可能性が想定されている。しかし、これについては、1990年前半の「21世紀はアジアの世紀」と標榜した完全な楽観主義は、1997年のタイの通貨危機に端を発する一種の金融パニックが東アジアの経済的基盤がまだまだ脆弱であることを露呈した以降、鳴りをひそめ、東アジア各国が経済的發展

* 文部科学省 統計数理研究所
〒106-8569 東京都港区南麻布 4-6-7
The Institute of Statistical Mathematics
4-6-7 Minami-Azabu Minato-ku, Tokyo 106-8569, JAPAN

** 韓国統計庁
National Statistical Office in Korea
920 Doosan-dong Seo-ku Daejeon-city Korea

のシナリオをより現実的に考えるようになってきたと思われる。

このような東アジアの動向の中で、その政治、経済の平和的發展を成功させるためには、東アジア各国間の政治、経済のみならず、歴史、文化、学術、社会構造の多様性を考慮し、相互理解を深めた上での国際交流や交易が必要とされよう。狭義の貿易だけのつながりでは、過去の歴史が示してきたように、国々の間に極端な国富の差が生じ、富める国は益々富むが、貧しい国は益々貧しくなり、これが政治的な支配関係へ繋がりが、さらに文化や価値観などの全く異なる次元の分野への支配へも繋がりがちで、事態を悪化させかねない。

い。

第2次世界大戦時に日本軍が起こした出来事が東アジアの国々に影響を投げかけてきた歴史と、戦後、東アジアの国々が日本の経済的復興の成功をモデルとして現実的対応しようとする事の中に価値観の衝突があったに違いない。それは、現時点ではどうなのであるだろうか？

以上の様々な問題意識を持って、それらの解決のための基礎情報の一助となるべく、本論文では、東アジア10カ国の人々の日本語学習の現状と将来、日本人や日本という国に対する意識や態度及び日本語に対する関係を中心に、探索的データ解析あるいは「データの

表1. 性別・年齢層別人口

(単位: 千人)

国		総数	15~24歳	25~34歳	35~44歳	45~54歳	55~64歳	65歳以上
日本 (1998推計)	男	61,919	8,743	9,228	7,986	9,760	7,922	8,516
	女	64,568	8,325	8,981	7,864	9,790	8,321	11,991
インドネシア (1995推計)	男	96,930	18,310	15,060	12,871	7,952	5,235	3,859
	女	97,825	19,120	16,229	12,351	7,419	6,142	4,257
韓国 (1995センサス)	男	22,357	4,225	4,224	3,683	2,291	1,598	975
	女	22,196	3,942	4,143	3,522	2,238	1,811	1,666
タイ (1997推計)	男	30,245	...	5,387	4,380	2,879	1,990	1,451
	女	30,357	...	5,265	4,412	3,003	2,177	1,758
中国 (1996推計)	男	633,347	60,727	125,704	88,029	63,716	47,885	39,828
	女	612,896	60,277	125,566	85,541	61,603	46,165	46,615
フィリピン (1995センサス)	男	34,584	4,090	5,335	3,926	2,418	1,486	1,099
	女	34,032	4,059	5,280	3,796	2,379	1,551	1,316
ベトナム (1992推計)	男	33,313	3,924	4,714	2,835	1,853	1,650	1,448
	女	35,862	4,439	5,806	3,244	2,272	2,040	2,042
シンガポール ① (1997推計)	男	1,559	219	279	302	189	110	82
	女	1,544	213	284	291	185	113	92
モンゴル ② (1989推計)		2,043	418	315	162	123	86	83
台湾 ③ (1996推計)		21,525	3,825	3,805	3,581	2,102	1,537	1,691

総務省 統計局 (2001) より再集計した。

① 国際連合 (2001) より再編集した。

② 国際連合 (1998) より再編集した。

③ 台湾統計局 (<http://www.stat.gov.tw/bs8/bulletin/>) を参照に再編集した。

科学」の視点(林, 2001; 吉野, 2001 参照)から分析を試みる。

以下、第2章では、まず分析する国々に関する基礎的情報を既存の文献、資料を利用してまとめる。第3章では、海外の日本語学習経験者についての概要を示す。第4章、5章、6章では、「外国語学習の理由」、日本語の好悪に関連した「日本、日本人への信頼・好悪」、「日本、日本人及び日本語のイメージ」を中心としたセンサス・データの解析を試行する。最後に、第7章で、解析の概要をまとめ、今後の分析のためにコメントを述べる。

なお、この調査の基本的集計は、既に水谷編(1999)に収録されているので、これを適宜に参照し、本文の内容をご理解願いたい。

2. 日本観の背景となる状況の概念

2.1. 東アジア 10 カ国の人口、教育等の統計的概観

本節では、4 節以降の各国の日本語観を分析する上で参考となる主な基礎情報の一部を概観する。特に分析する東アジアの国々の人口分布、対日関係、人々の教育レベルなどについて簡潔にみていこう。まず表1は、性・年齢別の人口分布を示す。「推計値」となっているのは、日本の場合は、5 年毎の比較的完全な全国調査データからの外挿的推定値であるが、タイやフィリ

表 2. 民族別人口構成比

国(地域)	民族	割合 (%)
シンガポール Ⓒ (1990)	中国人	77.7
	マレー人	14.1
	インド人	7.1
中 国 Ⓓ (1990)	漢(ハン)族	91.9
	壮(ジュアン)族	1.4
	その他 Ⓔ	6.7
ベトナム Ⓐ (1989)	キン族	87.1
	その他 Ⓕ	12.9

Ⓐ 常住人口。Ⓒ 居住者のみ。Ⓓ 30 の省。
 Ⓔ 満州(マンチュウ)族(0.9%)、回(フイ)族(0.8%)、苗(ミャオ)族(0.7%)、ウイグル族(0.6%)、彝(イ)族(0.6%)、土家(トゥジャ)族(0.5%)、モンゴル族(0.4%)。
 Ⓕ タイー(Tay)族(1.8%)、タイ(Thai)族(1.5%)、ハオ族(1.5%)、ムオム族(1.4%)、クメール族(1.4%)
 総務省 統計局(2001)』及び平野(2001)を参照

ピンなどの東南アジアの国々では、国内事情により、完全な国勢調査が難しく、統計的推測値が用いられることがあるので注意する。

1 つ特徴的なのは、ベトナムでは中年層以上の人々の割合が少なく、我々の調査のサンプルも 25 歳以下が約 4 割占めていることに注意しておく。第 2 次大戦後の対仏、対米関係や、ベトナム戦争の終結が 1975 年で

表 3. 言語別人口構成比

国(地域)	言語	割合 (%)
インドネシア Ⓒ (1990)	ジャワ語	38.2
	スンダ語	14.9
	インドネシア語	14.8
	マドラ語	4.3
	ミナン語	2.3
シンガポール ⒸⒺ (1980)	中国語	38.5
	マレー語	8.8
	英語	3.3
	タミル語	1.8
タ イ Ⓓ (1980)	タイ語	94.4
	クメール語	2.6
	マレー語	1.9
フィリピン Ⓓ (1990)	タガログ語	27.9
	セブアノ語	24.3
	その他 Ⓖ	45.8

Ⓒ 5 歳以上。Ⓓ 常住人口。Ⓔ 一時滞在者除く。
 Ⓖ イロカノ語(9.4)、ヒリガイノン語(9.3)、ピコール語(5.8)、ワライ語(4.0)、パンパンガ語(3.1)
 総務省 統計局(2001)』及び平野(2001)を参照

表 4. 海外在留邦人数(長期滞在者と永住者の総数) (単位: 人)

国(地域)	1971	1980	1990	1999
インドネシア	2,128	6,026	7,031	11,766
韓 国	1,198	3,040	5,826	15,217
シンガポール	1,545	8,140	12,701	24,186
タ イ	4,422	6,424	14,289	21,400
台 湾	-	5,022	7,729	13,227
中 国	3,759	6,199	8,269	43,997
フィリピン	1,388	3,958	4,025	8,728
ベトナム	-	52	99	2,585

総務省 統計局(2001, 1981)より再編集した。
 (注) モンゴルは、かなり少数にとどまっている。

表 5. 教育期間及び就学率, 非識字率

国 名	義務教育期間	初等教育期間 (年齢)	中等教育期間 (年齢)	就学率 ¹ (初等及び中・高教育)	非識字率 ² (15 歳以上)
インドネシア	6 年	7-12 歳	13-18 歳	81%	26.0%
韓 国	6 年	6-11 歳	12-17 歳	94%	7.0%
シンガポール	6 年	6-11 歳	12-17 歳	92%	15.0%
タ イ	7 年	7-12 歳	13-18 歳	63%	9.0%
台 湾	9 年	6-11 歳	12-17 歳	90%	16.6%
中 国	9 年	7-12 歳	13-18 歳	70%	31.0%
フィリピン	6 年	7-12 歳	13-16 歳	92%	14.0%
モンゴル	10 年	6-11 歳	12-16 歳	95%	4.6%
ベトナム	12 年	6-10 歳	11-17 歳	69%	16.0%

1. シンガポール・台湾-1984 年, ベトナム-1985 年, インドネシア・中国・タイ・フィリピン・モンゴル-1986 年, 韓国-1987 年基準
 2. インドネシア-1985 年, 韓国-1970 年, シンガポール-1986 年, タイ-1985 年, 台湾-不明, 中国-1985 年, フィリピン-1985 年, モンゴル-1956 年, ベトナム-1979 年基準
- 越田編 (1990, 1995) より編集した。

あったことを考慮すると, この若年層の多いベトナムでは, 大戦中の対日感情の影響は相対的に薄くなっている理由となり得る。

表 2, 3 は, 限られた地域ではあるが, 民族別・言語別の人口比率を示している。東アジア, 東南アジアの国々の複雑な民族性の一端が分かるであろう。

一方, 表 4 は, 過去 30 年程の海外在留邦人数の変化を示している。戦後の混乱の時期を経て, 再び日本とアジア各国との交流が復活し, 特に 90 年代には絶対数としても急速な増加が現れている。なお, 総務省統計局 (2001) には, 日本から各国への訪問者数のデータも示されているが, やはり, 急速な交流の拡大が確認できよう。

表 5 は, 分析する国々の教育水準に関するデータであり, 各国の教育システムの実態を考慮した上で, 分析結果を解釈するように注意すべきであろう。特に, 国際比較調査では, 年齢層別や学歴水準別に国の比較をしようとすることも多いが, 各国の事情の差異を考慮すると, 年齢区分を何歳にするのか, 学歴水準をどう定義して区分するかは必ずしも単純ではない。この問題に対する普遍的回答はなく, 適宜, 事情を勘案して判断するしかない。

2.2. 各国の対日関係

各国の対日関係について, 特に日本語教育や日本と

の最近の交流関係について簡単に触れておこう。「対日関係を知る事典」(平野編, 2001) や「東南アジアの経済」(鈴木, 1996), 「アジアの教科書に書かれた日本の戦争」(越田編, 1990), 「日本語はどのようにつくられたか」(安本監修, 1987) 等を参考にする。

2.2.1. インドネシア

明治維新の頃には, インドネシアはオランダの植民地になっていたが, 20 世紀の初頭前後から日本からの進出も増加した。1942 年 3 月から 45 年 8 月まで, 日本軍による軍政が敷かれた。第 2 次大戦後, オランダとの独立戦争には日本軍も数百名が加わったとされる。58 年に日本と賠償協定が批准され, 国交が回復されたが, スカルノ政権の政治資金供給の役割も果たした。68 年以降 98 年 5 月までスハルト政権, 99 年 6 月までハビビ, 10 月ワヒド大統領就任という流れは, インドネシアの民主化, 腐敗や縁故主義排除のプロセスとされる。1974 年の田中首相 (当時) の訪問時には反日暴動もあった。インドネシアは, 中国, インドに比べて, 人口も少なく, 貧困の度合いも少ないが, 日本からの ODA 累計供与額は世界一であり, これがスハルトの「開発」を支えていた。対外債務の最大源泉は日本であったが, それは必ずしも民衆レベルでの評価につながってはいない。

なお、国内事情としては、華人と現地民との経済や生活の格差が大きく、反華人の運動や暴動が見られることも注意が必要である。さらに、言語については、マライ語派がインドネシアとマレーシアの国語であり、これがインドネシアではインドネシア語、マレーシアではマレーシア語と呼ばれる。しかし、ほとんどのインドネシア人にとって、「母国語」として個々人に認識されているのはそれぞれの地方語であり、インドネシア語は学校教育で修得する言語である。このあたりに、インドネシアが政治・文化的に一つの国家としてのまとまりを欠いていると見られる理由がある。(ただし、マレーシアでは各地で一様に用いられている。)

2.2.2. シンガポール

明治後期の日本とシンガポール間貿易はわずかで、その大半は神戸華僑が扱っていた。1937年からの日中戦争では華僑の日本品ボイコットで日本企業の経済活動は停止に近い状態となり、太平洋戦争が勃発した時には中国系住民がゲリラ隊を組織した。日本軍はマラヤ・インド系住民を優待し、中国系を差別したため人種間対立が深まったともされる。1965年の独立後、シンガポール政府は国民の反日感情を抑えて、経済援助と引き換えに戦時中の華僑虐殺問題を終結させた。70年代には、日本が最大の投資国となり、シンガポール政府は一貫して親日政策を取ってきた。70年代後半には、「日本に学ぶ」運動を展開し、またシンガポール国立大学の中に日本研究学科を創設、一部の中高学校でも日本語コースを設けている。80年代には教科書問題で、反日感情が高まったが、政府は慎重に対処し、大騒動は回避された。

2.2.3. タイ

日本とタイ(当時シャム)との交流は15世紀初頭からである。太平洋戦時では、タイ政府は自国保全のため、日タイ軍事同盟を結んだが、英米駐在の対外交官、留学生らを中心に対日組織が結成された。戦後は70年代の急激な日本投資のタイ進出に対して、バンコクの学生を中心に反日運動が発生した。しかし、現在では、バンコクの商工会議所加盟日系企業は1,100社(2000年3月)、在留邦人も2万2,400人(99年末)、98-99年のタイ観光年には日本人観光客が一時、1ヶ月平均10万人に達するほどになっている。

2.2.4. 中華人民共和国と台湾

清朝末期から中華民国期の日本への中国留学生はとりわけ多く、西洋の学問は日本語訳されたものがさらに中国語訳される形で中国に導入された部分も大きい。そして、同じ漢字圏にあつて、西洋の概念の日本語訳(造語)がそのまま中国語として用いられているものも多い。しかし、1937年日中戦争が本格化すると、中国人留学生は帰国し、多くは抗日運動の指導者となり、一方、中国人の留学先は米国へ移った。

日清戦争によって日本へ割譲された台湾では、日本化教育に根強い反発を見せつつも、徐々に日本文化が浸透していき、大陸中国とも異なる独自の文化を形成していった。台湾を内地化する政策の一環として、日本への留学生も増えた。戦後は、1950~60年代の米国の対中国敵視政策の中で、台湾は多くの西側諸国にとって中国の正統政府とみなされていたが、ベトナム戦争によるアメリカのアジア戦略の転換によって、1971年、国連での地位を失った。台湾は教育レベルが高く、経済的にも比較的 success を収めてきたが、今日まで、大陸中国との統一か、独立かの複雑な問題が続いている。

2.2.5. 韓国

対中国同様に、日韓関係は長い歴史がある。しかし、今日特に強い影響を残しているのは、1910年日本の韓国併合以降の植民地政策であり、反日意識は根深い。戦後の李承晩の極端な排日政策は、朴正熙政権以降緩和されてきたものの、日本文化の導入を禁止する政策は1990年代末まで堅持されてきた。しかし、1998年10月、金大中大統領が日本文化の解禁を正式に宣言した。実際は、すでに長年にわたり、日本の出版物、音楽、映画などの海賊版が多数出回っていたのだが、これが表に出ることになったのである。日本語教育については、1978年より大学入試科目として導入されたことにより、学習者が増えた。第2次大戦中に皇民化政策の中で日本語学習を強制された世代と、自身の必要から日本語学習を選択した比較的若い世帯とが混在し、全体として(日本を除く)世界で一番日本語学習経験者が多い。(我々の調査では49%程度にのぼる。)

2.2.6. ベトナム

ベトナムは、19世紀後半フランスの植民地とされ、第2次大戦中は日本軍の占領があり、1945年独立宣言後も、復権を狙うフランスとの間で46年~54年にイ

インドシナ戦争があり、60年代にはベトナム戦争が激化した。1976年に南北が再統一され、社会主義共和国に改められた。しかし、1986年に刷新(ドイモイ)路線を採択し、日本の企業も関心を持ち始め、1991年のカンボジア平和協定と中越関係正常化の後、1992年交易が再開され、対ベトナムの最大援助供与国となった。日本のベトナム・ブームは、ベトナムのASEAN加盟や米越国交樹立の1995年頃に頂点に達したといわれる。日本からのベトナム観光客も増大傾向にある。人口が若い世代に偏っていて、第2次大戦中の反日感情の残存は、比較的薄いのではないかと推察される。

2.2.7. モンゴル

1930年代以降、ソ連は対日戦略上の要としてモンゴルを位置付けており、「満州国」の国境で起きた1939年のノモンハン事件では、ソ連・モンゴル両軍は日本軍を撃退した。戦後、日本はモンゴルを暗黙に承認していたが、当時日本と国交のあった台湾政府のモンゴルへの主権を主張する強硬な態度などで、外交は樹立していなかった。しかし、アメリカの対中国政策転換の結果、1972年には国交を結ぶこととなった。日本からの無償経済援助によるモンゴル企業の実業もあつたが、80年代後半まではモンゴル在住の日本人はほとんど見られなかった。しかし、その後、ソ連からの援助が減り、モンゴルの刷新政策が始まり、日本への期待に応えて、日本政府が中心となり欧米や韓国と共に経済援助や民主化への支援を行っている。1991年には西側諸国の首脳としては始めて日本の首相がモンゴルを訪問した。

2.2.8. フィリピン

太平洋戦争勃発と同時に日本軍はフィリピンに侵攻し、42年11月より軍政を施行したが、43年以降反日ゲリラ運動が激化していき、アメリカ軍の解放作戦により44年に敗退した。戦後は、56年に日比平和条約の発効を第一歩として、69年には日本からの輸出が第一位になった。70年代以降日本の経済進出とともに、フィリピンから日本への渡航者が急増していった。特に女性の日本への渡航者は90年代末には来日総数13万人のうち8割程度を占めるようになって、日本人男性との結婚が急増した。日本における外国人登録者数では、韓国、朝鮮人、中国人、ブラジル人に次ぐ在日コミュニティが形成されている。フィリピンでは、アキノ政権下で米軍基地が撤廃され、近隣アジア外交重

視へ転換されている。

3. 海外の日本語学習者の現状

世界28カ国全体で見ると、「日本語学習経験者(調査票の設問Q23)」は決して多くはない。分析対象としている10カ国では、日本を除いて韓国が49%で一番多く、その次に台湾が29.3%等の順になっていて、やはり日本近隣の国々が続いている。(表6)

表6以外はイギリス1.7%、ブラジル1.4%で他の国は1%以下になっている。したがって、日本語を(程度の差はあるものの)少しでも学習した経験のあるものは、東アジアに限っても韓国、台湾、フィリピン、シンガポール、インドネシア、中国以外では少ないので、例えば以下で見ると「日本語のイメージ」を「きれいさ、簡単さ、軽快さ、聞きやすさ、好悪」の5属性(設問Q40の1から5)を各国の全サンプルの回答から明瞭に弁別しようとするには限界があるかもしれない。また、日本語学習経験があつたと回答した人でも現実の日本語能力の程度は詳細不明(自己申告の評価)なため、これも各国の人々が「客観的に日本語の特性」を判定できるかは不明である。

図1は各国の日本語学習経験を示す。韓国、台湾、フィリピンなどでは、45-54歳の年代に分布の谷が見られるのに注意する。おそらく、この年代を境として、戦中の日本語学習者と戦後の新しい世代の日本が学習者とが区別できるのであろう。

図2は、日本語学習者数を学歴(学校に通った年数

表6. 28カ国中、日本語学習経験者の多い上位10カ国

順位	国名	有経験者比
1	韓国	49.0%
2	台湾	29.3%
3	フィリピン	16.0%
4	シンガポール	11.3%
5	オーストラリア	11.0%
6	インドネシア	7.8%
7	中国	7.1%
8	モンゴル	5.3%
9	アメリカ	4.5%
10	タイ	3.8%

水谷編(1999)より

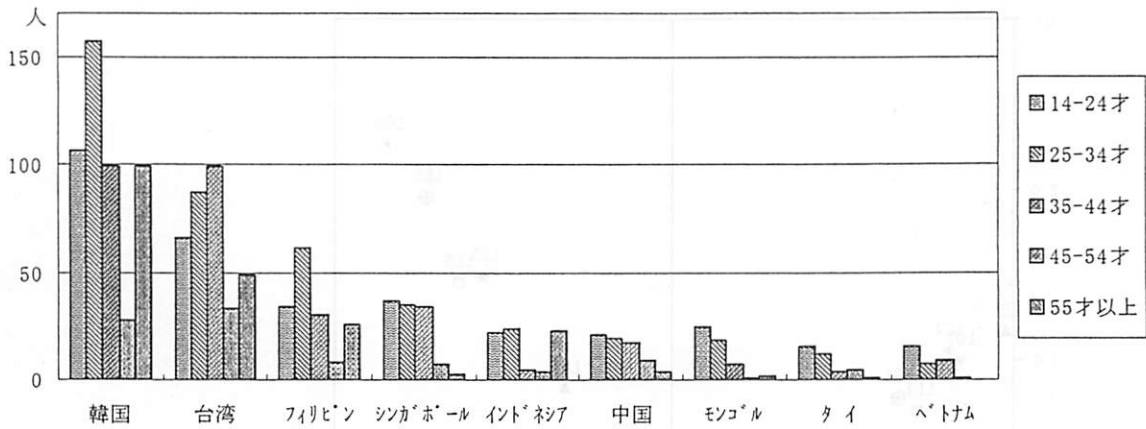


図1. 東アジア9カ国の年齢別(5区分)日本語学習経験者比較 (各国サンプル約1,000名中)

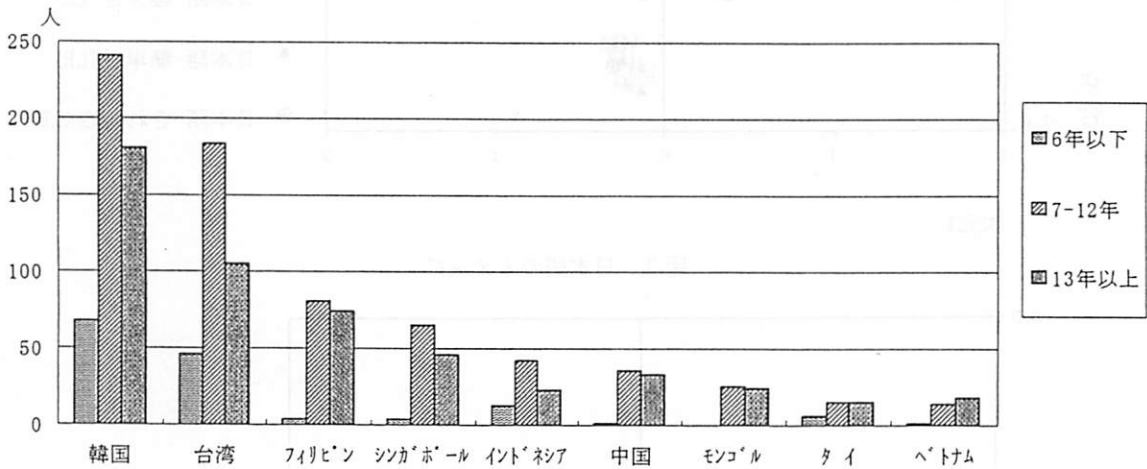


図2. 東アジア9カ国の学歴別(3区分)日本語学習経験者比較 (各国サンプル約1,000名中)

の3段階)水準別に示したものである。必ずしも高学歴層の方が日本語学習者が多いとはいえず、むしろ中学歴層の方が若干多い国々が目立つ。高学歴の方は、英語学習者数がさらに多いからであろう。(但し、図2の学歴の3段階区分は便宜的であり、各国内事情を考慮した区分による分析もあり得よう。)

図3は東アジア10カ国のデータについて、林の数量化III類を日本語のイメージの5属性(きれいさ、簡単さ、軽快さ、聞きやすさ、明瞭さ、好悪)の回答データに適用し分析した結果を示す。全体として、まず、それらの5属性の各尺度(5点法で、①がポジティブ、⑤がネガティブ。例。「好悪」の場合は「①.非常に好き」「②.やや好き」「③.どちらともいえない」「④.やや嫌い」「⑤.非常に嫌い」)は、ほとんど重なり合い、

2次元の表示では、①から②、…、⑤の位置がU字形を示した。すなわち、10カ国の全体としては、これらの属性は全く独立したものとしては捉えられてはいないことが推察される。(一般に、①と⑤の両極端の回答者は必ずしも多くはないので、回答データの安定性には注意する)(図3)

先述したように、日本語学習経験者は少なかったために、上記の5属性が明瞭に弁別できない可能性も高いので、この点を検証するためには、日本語を知っている人だけをさらに調べてみる必要がある。これについては、第6章でさらに詳しく述べる。

アジア10カ国における各国の日本語に対するイメージの対応は、図4に示されている。韓国・中国・インドネシア・フィリピンが日本語に対し負のイメージ

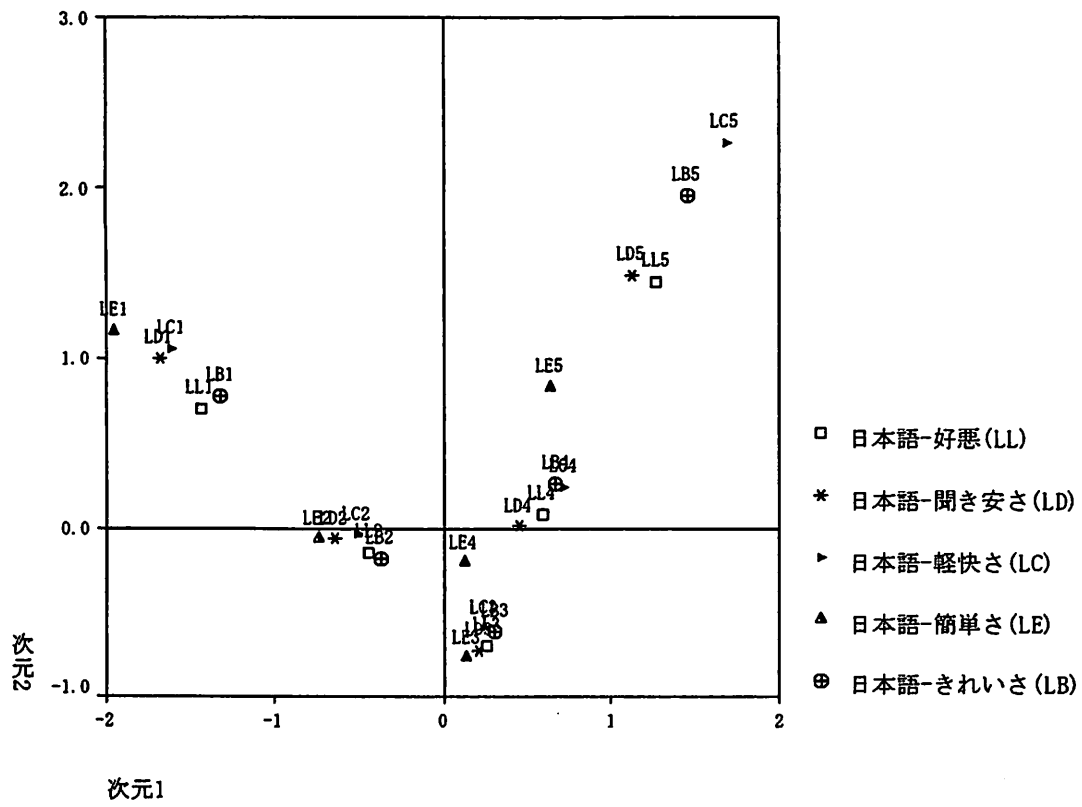


図3. 日本語のイメージ

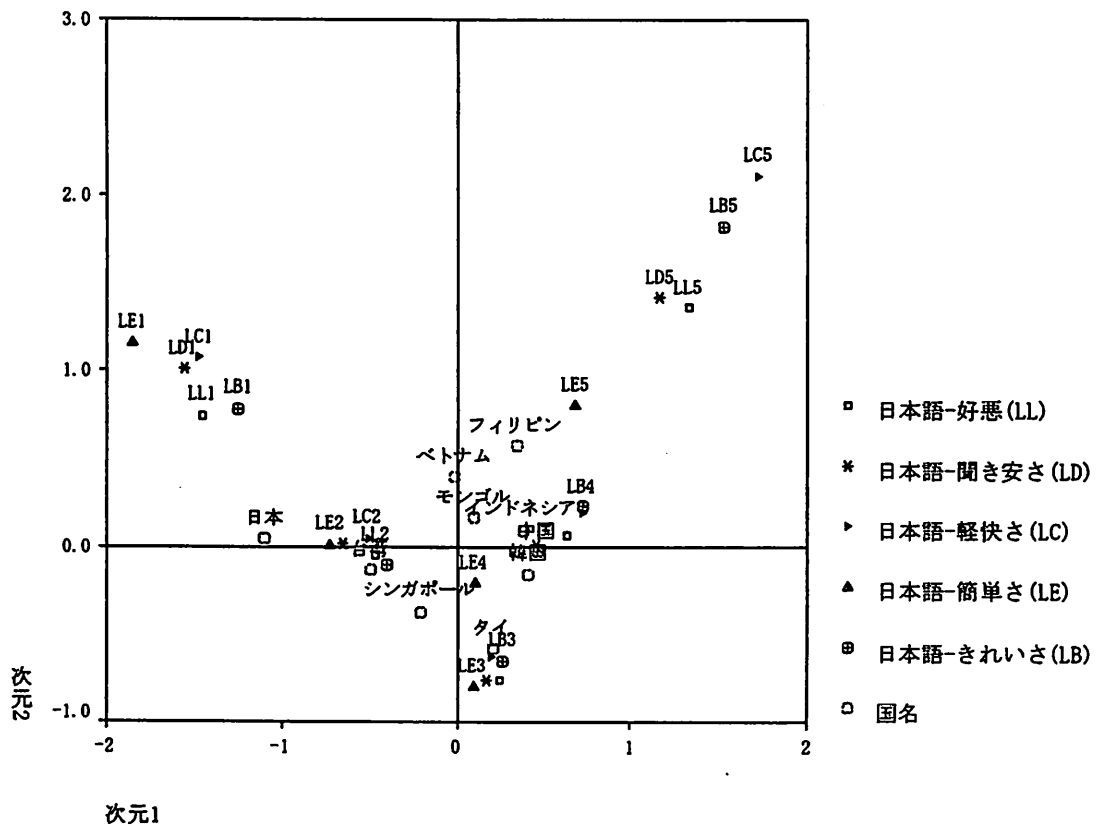


図4. 日本語のイメージと国の位置付け

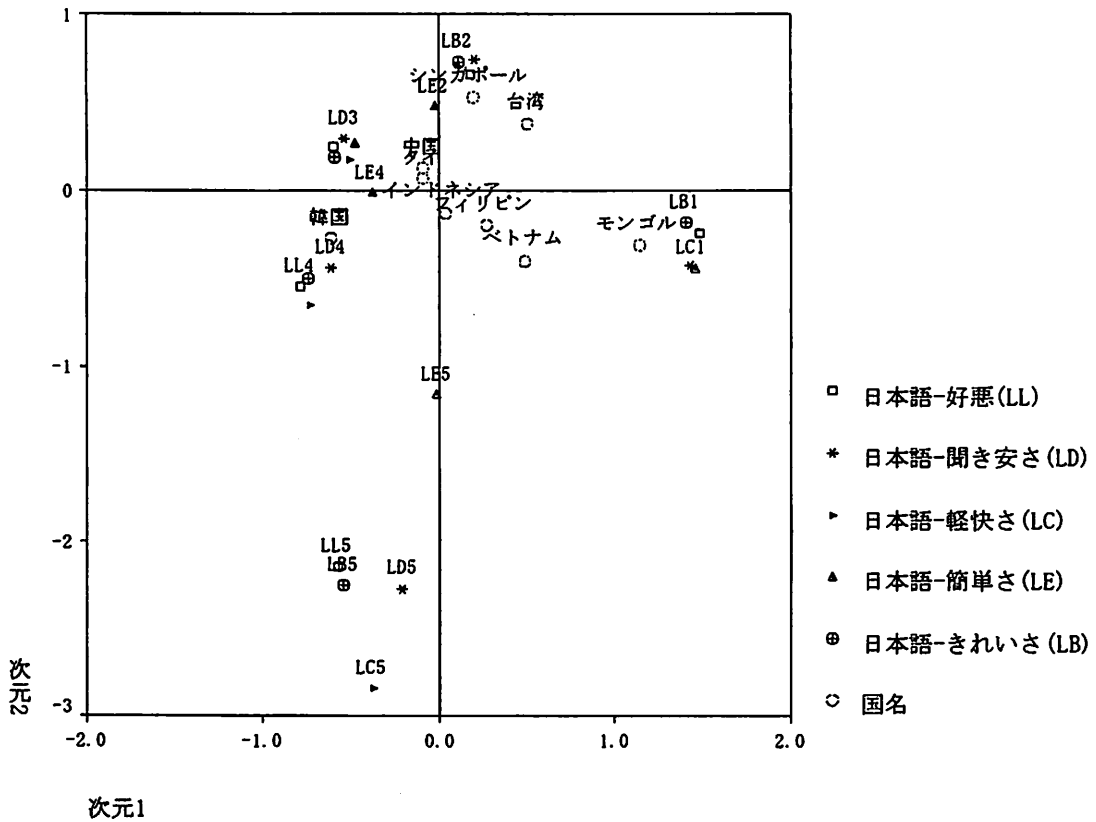


図 5. 日本語学習経験者の日本語のイメージと国の位置付け

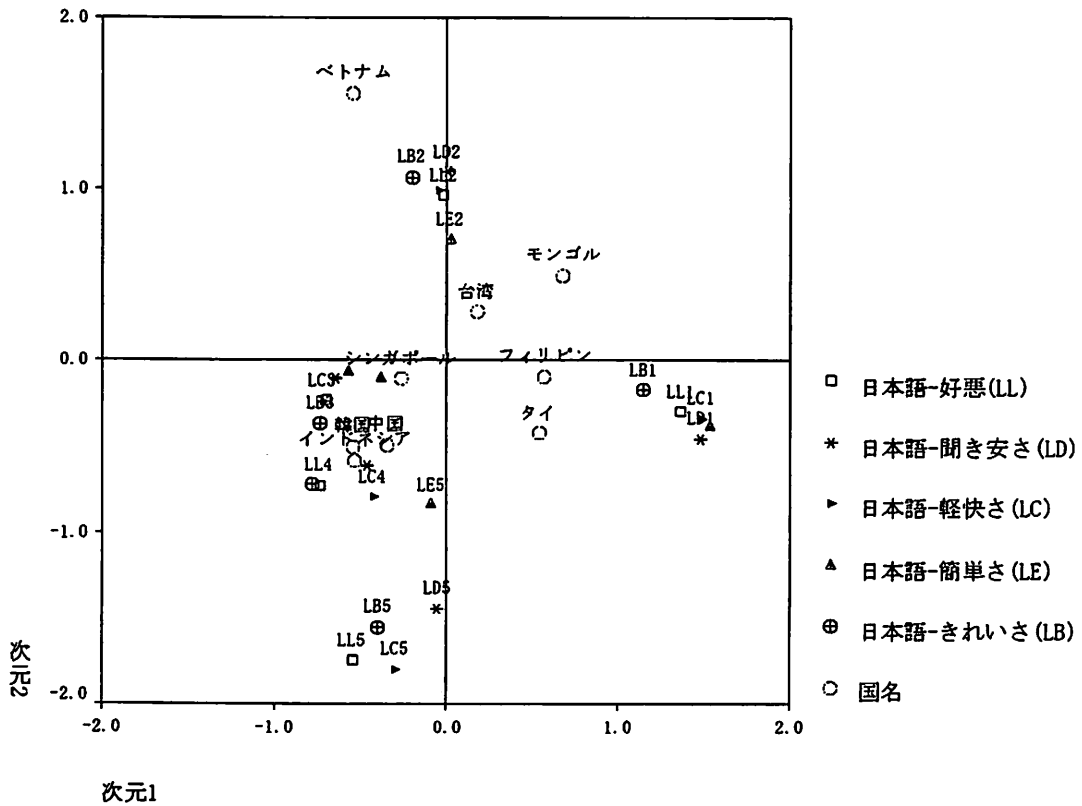


図 6. 日本訪問経験者の日本語のイメージと国の位置付け

にあり、台湾・シンガポールにおいてはやや正のイメージが見られる。タイは中間にある(図4)。

図5は、「日本語学習経験者」のみに限った場合を数量化で示したものである。台湾・シンガポールにおいては正のイメージが強く、中国・韓国についてはやや負のイメージが見られる。他の国々ではやや正のイメージが見られる。韓国を初め東アジアの国々は、第2次大戦中の日本軍による強制的日本語教育の経験国で最近の日本語学習者との間には意識差もあるのかもしれないので、世代による差や学歴の差にまで踏み込んだ分析が必要となろう(図1参照。ある年代で日本語学習者が減り、その次の年代で増加している国々があるのに注意する)。

図6は、同じ東アジア9カ国のデータを日本訪問経験者に限った場合の結果である。(図3と4はカテゴリ①～⑤がU字型をなしているが、図5と6では上下左右が逆になり、逆U字型になっている。この対称性は本質的ではないので、カテゴリの対応に注意する。)

図6を図4と比べてみると、日本を訪問した経験者においては、タイ・フィリピンはやや正の方向へ移り、台湾・韓国・中国・インドネシアなどについてはあまり

変化がないことが示されている。(なお、本論文の分析対象外であるが、トルコとイスラエルの日本への訪問経験者はわずかではあるが、それぞれの国の人々が一般に日本語や日本に対して極めて正のイメージをもっているのに、経験者は負のイメージになってしまっている。この点は日本としては慎重に考慮し、今後何らかの配慮をしていく必要があるかもしれない。)なお、日本語のイメージについては、第5章でさらに他の要因との関連で分析を進める。

4. 日本語学習理由及び役に立つ程度

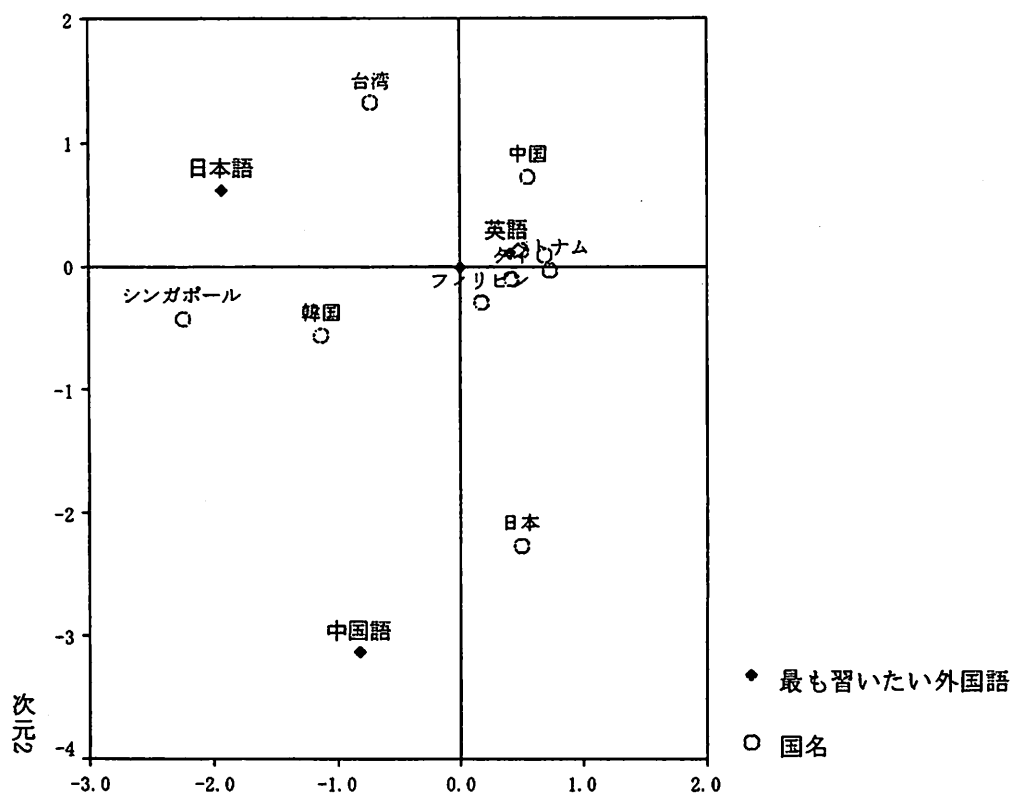
4.1. 最も習いたい外国語

表7は、設問Q14-4「最も習いたい外国語」がある回答した人に、Q15で「その言語を習いたい理由」を聞いた結果である。国別に、日本語・英語・フランス語・スペイン語・中国語・ドイツ語(母語除外)のいずれかを最も習いたいと答えた割合を見ると、アジア10ヶ国はEU8ヶ国や、その他の地域の10ヶ国より英語希望者(43.6%)が多く、また日本語(8.6%)や中国語(3.8%)にも関心が高いが、フランス語(2.8%)やドイツ語(1.0%)、スペイン語(0.7%)には関心が低いことが明

表7. 東アジア10カ国とその他の18カ国の最も習いたい外国語の比率(単位: %)

	日本語①	英語②	フランス語③	スペイン語④	中国語⑤	ドイツ語⑥	その他⑦	無回答
韓国	19.2	35.0	3.0	0.6	7.0	2.1	0.4	32.7
台湾	17.7	40.9	1.0	0.4	—	0.5	0.7	38.8
シンガポール	16.6	12.0	10.6	0.3	4.5	1.1	4.2	50.8
フィリピン	9.1	69.0	4.8	4.0	5.6	0.4	1.5	5.6
タイ	4.4	51.7	1.7	0.0	2.8	0.5	0.7	38.2
中国	4.0	59.0	0.5	0.2	—	0.3	1.9	33.5
モンゴル	2.4	31.2	0.7	0.3	1.2	3.7	24.6	35.9
インドネシア	2.1	53.7	0.2	0.0	1.8	0.8	12.1	29.3
ベトナム	1.6	59.8	3.4	0.0	2.4	0.0	1.6	31.2
日本	—	23.6	1.9	0.8	4.7	0.5	0.8	66.7
10カ国平均	8.6	43.6	2.8	0.7	3.8	1.0	4.8	36.3
EU(8カ国)平均	0.7	34.8	11.6	6.9	0.4	7.8	3.1	34.8
その他(10カ国)平均	3.0	40.3	11.9	5.8	0.8	4.9	9.8	31.5

① 日本除外、② 英語圏(アメリカ・オーストラリア・イギリス)除外、③ フランス除外、④ スペイン除外、⑤ 中国・台湾除外、⑥ ドイツ除外、⑦ ロシア語・アラビア語・ポルトガル語・イタリア語等、モンゴルはロシア語21.2%



次元1

図7. 最も習いたい外国語と国の位置付け (日本語・英語・中国語)

らかに分かり、英語を除外すると、習いたい外国語として近隣の国の言語の方に関心があることが分かる。(表7)

また、一番習いたい外国語の中、東アジア10カ国で比較的に選択率が多い日本語・英語・中国語の3つの言語のみに関して数量化III類を適用してみると、台湾とシンガポールがやや日本語の方へ、日本は英語と中国語の中間、中国・インドネシア・フィリピン・タイ・モンゴルは英語の方へ位置付けられ、韓国は三角形の中央に位置している。しかし、台湾の場合は中国語を母語として使っているので日本語と英語の中間くらいでやや上に位置しているし、シンガポールの場合は日常のコミュニケーションに英語が使われているので日本語や中国語の中間に位置している。但し、日本、中国・台湾のデータでは各国語を除外していることに注意する。また、シンガポールでは英語・中国語も公用語でありながら、回答者の認識では、(人により)それらの言語は外国語であるなど、言語と政治や歴史の複雑な事情が絡み合っている。特に華人・華僑の存在の意

味は深い。これが、東南アジアの人々の言語に関する意識のデータ分析を著しく困難にしていることに深い注意を喚起したい。(図7)

4.2. 東アジアにおける英語、日本語、中国語を習いたい理由

東アジア10カ国における英語・日本語・中国語(中国・台湾での中国語、日本での日本語に関しては除外)を習いたい理由を見ると、英語の場合一番多いのは「国際共用語として」が20%以上を占めているのに対し、日本語の場合は「旅行を楽しむ」が一番多く、他には「いい職につける」や「最新の情報を身につける」など仕事関連が、東アジアとEU8ヶ国を除く10ヶ国より多く見られる。中国語の場合は、「仕事で必要」が一番多く、次に「文化の理解」・「面白そう」・「旅行を楽しむ」等が目立っている。(図8)

東アジアの国々を、「その語を習いたい理由(Q14-4)」に関して数量化III類で位置付けてみた。日本語の場合、第1軸と第2軸上に各国が綺麗に区別されてい

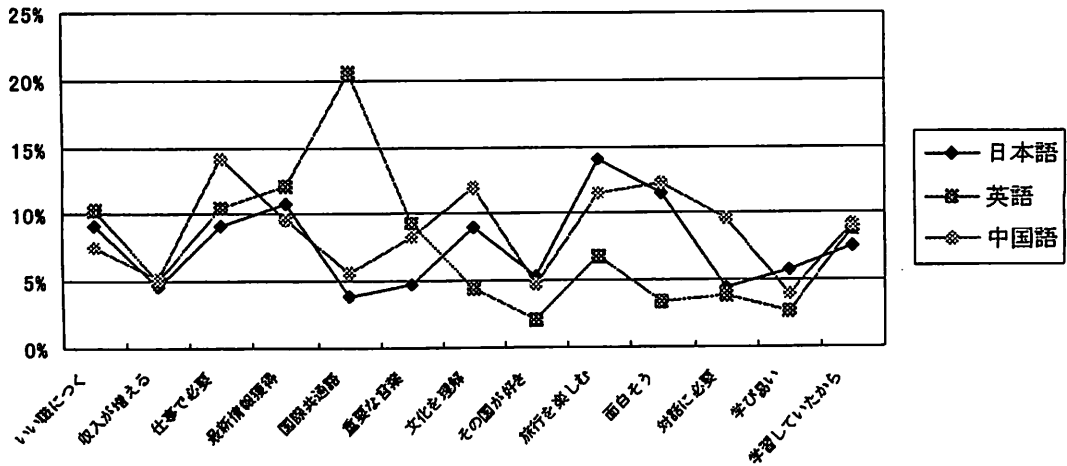


図8. 日本語と英語, 中国語を習いたい理由

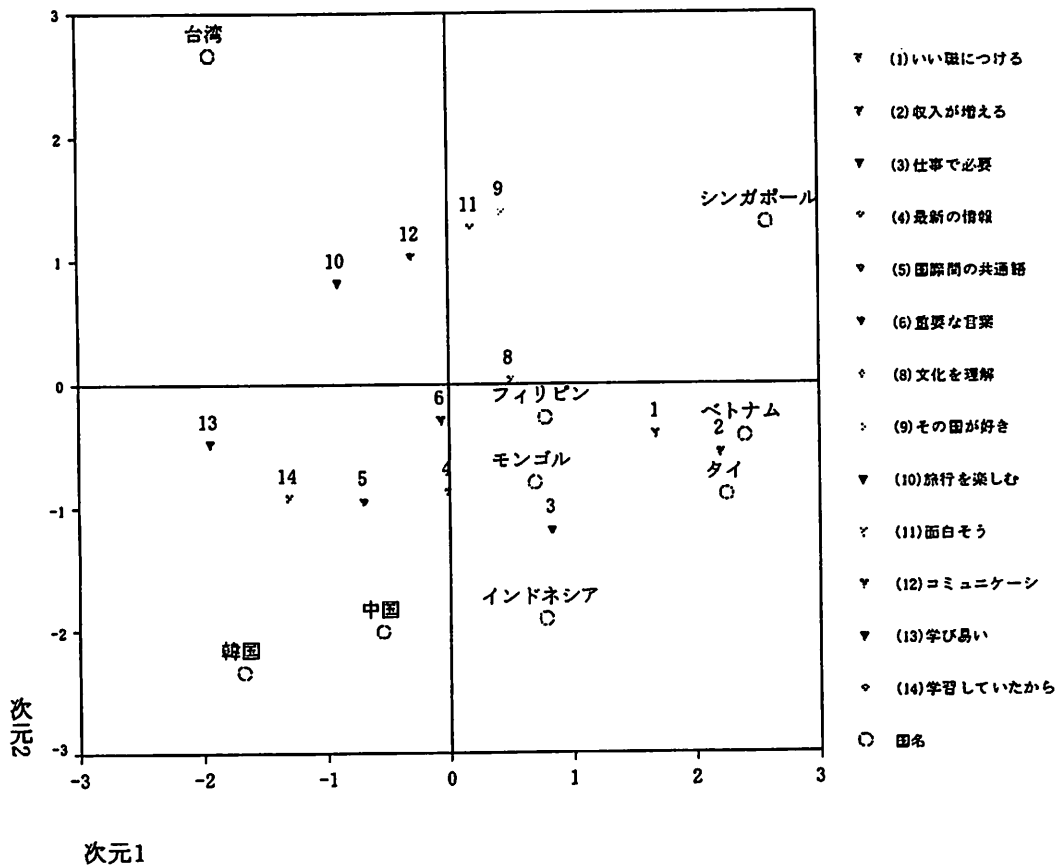


図9. 日本語を習いたい理由及び国の位置付け

て、第1軸の右にタイ・ベトナム・シンガポールがあって「いい職につく」や「収入が増える」の方で、左には台湾・韓国があって「学び易い」や「学習していたから」が多い国である。また、第2軸の上の方には台湾、シンガポールがあって「国が好き」で「面白そう」の

ポジティブなイメージを持っている国で、下の方はややネガティブイメージだが仕事や情報などに日本語が関係ある国々と見られる。(図9)

英語の場合は、第1軸の右には英語が苦手な難しく思っている日本・台湾・韓国があって、左にはシンガ

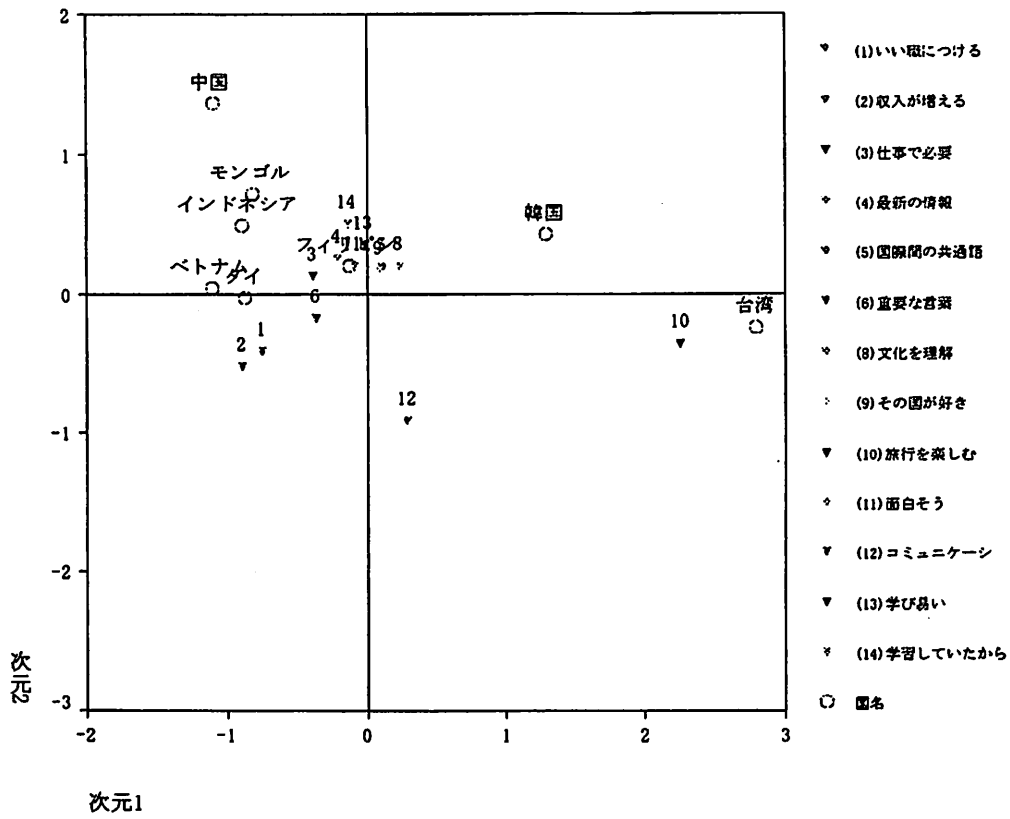


図 10. 英語を習いたい理由及び国の位置付け

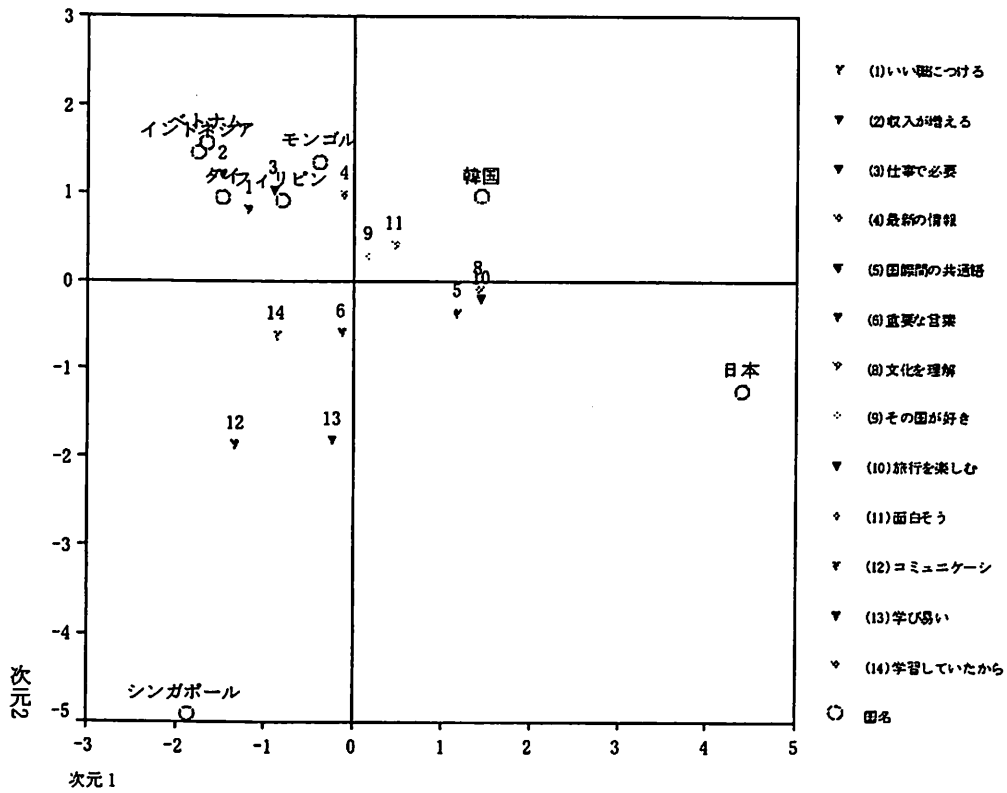


図 11. 中国語を習いたい理由及び国の位置付け

ポールやベトナム等の英語が共通語として入り込んでいる国が現れている。第2軸ではシンガポールが日常のコミュニケーションに英語が必要な方に位置付けられ、他の国とは離れている。図10でシンガポールは(-2.16, -12.5)、日本は(6.9, -0.88)に位置し、表示から外れていることに注意する。(図10)

また、中国語の場合は、同じ中国語を母語として使用している台湾と中国を除いた8カ国を対象にした。第1軸の右に日本と韓国がまとまって「文化の理解」や「旅行を楽しむ」ため、左の方は第2軸で見るとシンガポール(華人・華僑も多い)が下の方に位置付けられ、「学びやすい」ことや「一般のコミュニケーション」に中国語が使用されていることが効いているらしい。(図11)

しかし、いずれにせよ、図7の最後に述べたように、英語や中国語の各国の位置付け(公用語、母語、外国語としての区別)は、人々の意識の中では曖昧な面も少なくなく、上記の結果はあくまでも試行的なものとして停めたい。

4.3. 日本語学習の経緯とその役に立つ程度

4.3.1. 日本語学習の経緯

「日本語をどのように学んだか(Q25)」という学習の経緯に関して、数量化 III 類でグループ化して見ると、第1軸で「個人的に学んだか」、「集合的に学校で学んだか」が、国別にはっきり区別されている(図12)。設問25の回答データ分析と合わせて考えると、第1軸の中央から左方にある韓国と中国が小・中学校や高校の規程過程で学んだ人が多いが、その反対に、右方のフィリピン・シンガポール・ベトナム等は仕事など個人的な必要によって習っている人が多いことが分かる。また、第2軸では、上方に日本語を習った手段が個人又は本による人が多いフィリピンを始め、下方には学校で日本語を学んだ人が多いシンガポール・ベトナムがあり、日本語を習った場所や方法が「日本語学校」のような公式経路か、「日本人または周辺の人を通じた」個人的経路かを示している。

4.3.2. 日本語学習の役に立つ程度

日本語経験者と非経験者を分けて、設問 Q30「日本

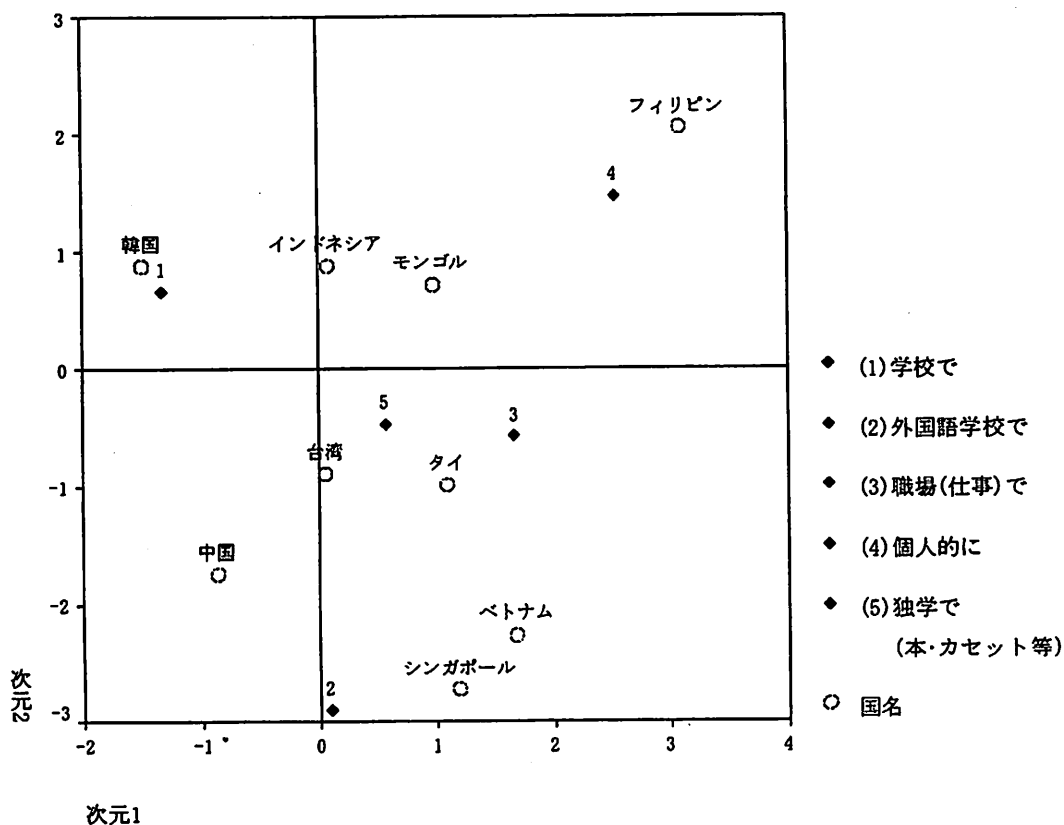


図12. 日本語学習経緯及び国の位置付け

表 8. 東アジア 9 カ国の日本語経験者と非経験者の役に立つ程度
(単位: %)

	日本語学習経験者			日本語学習非経験者			計の差 (a-b)
	非常に役に立つ	まあまあ役に立つ	計①	非常に役に立つ	まあまあ役に立つ	計②	
モンゴル	67.9	26.4	94.3	21.0	42.3	63.4	31.0
フィリピン	31.3	53.8	85.0	10.5	48.6	59.0	26.0
ベトナム	39.4	45.5	84.8	14.3	39.6	53.9	31.0
台湾	24.0	57.2	81.1	5.8	39.8	45.6	35.5
韓国	19.4	51.4	70.8	9.8	40.0	49.8	21.0
中国	11.7	58.4	70.1	4.9	32.2	37.0	33.1
シンガポール	21.6	55.2	76.7	4.2	29.0	33.2	43.6
タイ	26.3	52.6	78.9	5.9	28.0	33.9	45.1
インドネシア	25.6	35.9	61.5	8.5	20.2	28.7	32.9
9カ国平均	24.5	51.8	76.4	9.5	35.0	44.5	31.8

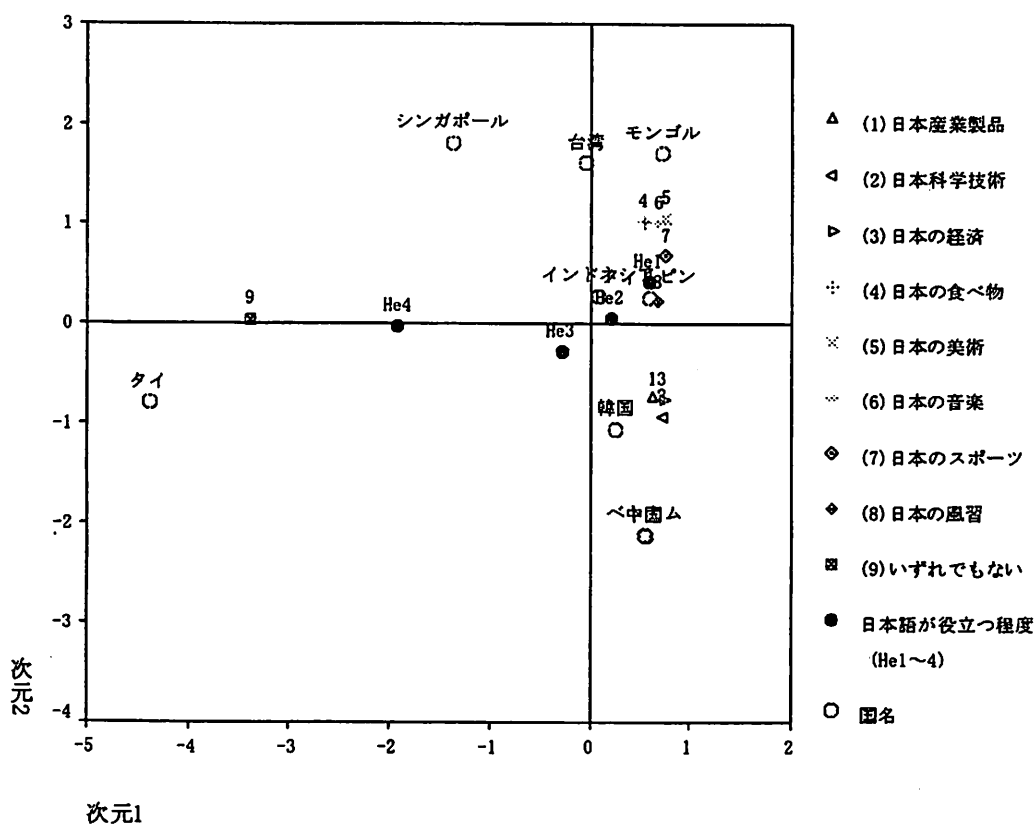


図 13. 日本語の役に立つ程度及び日本語を使うと便利な話題の事柄

語学習が役に立つ程度」に関して日本を除外した東アジア9ヶ国のデータを見ると、学習経験者の場合「①非常に役に立つ」が24.5%、「②まあまあ役に立つ」が

51.8%で、経験ない人の「①非常に役に立つ」(9.5%)と「②まあまあ役に立つ」(35.1%)を大きく上回って、役に立つ程度が日本語学習によって違っているのが判

る。これらの傾向は国別で見ると多少の差はあるものの、大きな差はなく①と②の「役に立つ」を合わせると約 31.8% の差が出ている。(表 8)

また、どう役に立つかを問う「Q41. 話題にする時に日本語を使うと便利な事柄」のデータと共に、数量化で国を位置付けて見ると、第 1 軸では役に立つ程度が右の「非常に役に立つ (He1)」から順調に左へ並んでいる。タイは図 13 で見られるようにあまり便利に思うことなく、役に立つ程度も「全然役に立たない (He4)」が多い。それ以外にはシンガポールが「やや役に立たない (He3)」, 他は「まあまあ役に立つ (He2)」と答えている。第 2 軸に沿って、下の方向に中国・ベトナム・韓国があり、日本の産業製品や科学技術など経済関連の方向を示し、上の方にモンゴル・台湾が日本の食べ物や美術・音楽・スポーツなど非経済の面にも関心があることを表している(図 13)。但し、この分析では、実際に日本語学習を経験している人の少ない国の意識(役に立つか、否か)も含めていることに注意して、解釈すべきであろう。

5. 日本、日本人そして日本語に対する信頼感と好悪感

5.1. 「日本人に対する信頼感」と「日本語の好悪感」
設問 Q40-5 (日本語のイメージ: 好悪感) と Q50-5 (日本のイメージ: 信頼感) の各々日本語と日本人に対する 5 段階の尺度のデータを、各国別に順位相関を計算すると表 9 のようになる。

したがって、ベトナム、日本、タイ、インドネシア

表 9. 「日本語の好悪」と「日本人に対する信頼」の順位相関係数

国 名	順位相関
韓 国	0.28
中 国	0.28
台 湾	0.28
フィリピン	0.28
シンガポール	0.25
モンゴル	0.25
インドネシア	0.22
タ イ	0.20
日 本	0.16
ベ ト ナ ム	0.11

以外は、0.25 から 0.28 の弱い正の相関を示しているが、これは特に驚くにあたらない。「日本に対する信頼」の高低と「日本語のイメージ (好悪)」とに大きな矛盾はないというだけである。しかしながら、各国のデータをさらに詳しく見ると、これらの国々は 3 つに分類できる。すなわち、そもそも人々の回答が Q40-5 (日本語のイメージ: 好悪感) と Q50-5 (日本人のイメージ: 信頼感) の両方の尺度のカテゴリー①~③ (比較的良好な方向) に集中する型、③~⑤ (比較的に悪い方向) に集中する型、そして②~④の中間に集中する型である。

具体的には、

- (1) 正の型…日本、インドネシア、フィリピン、ベトナム、モンゴル
(「日本人への信頼感」と「日本語の好悪」の双方に正の回答が多い)
- (2) 中間の型…タイ、台湾、シンガポール
- (3) 負の型…韓国、中国
(「日本人への信頼感」と「日本語の好悪」の双方に負の回答が多い)

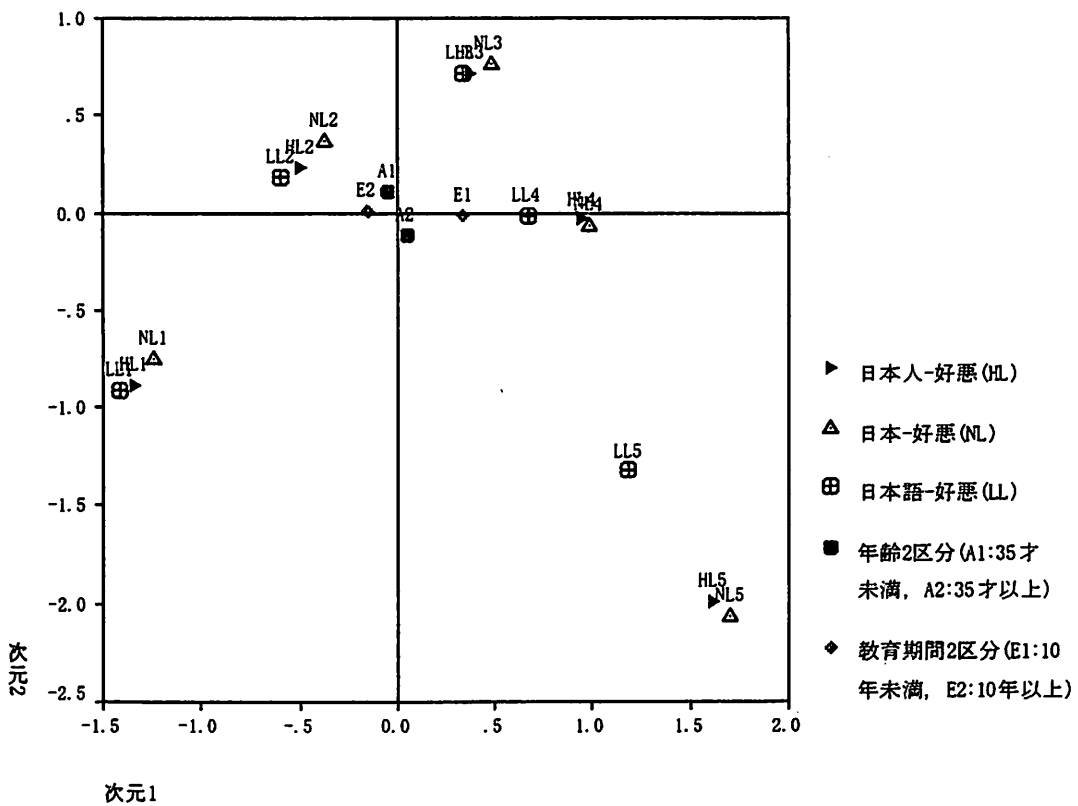
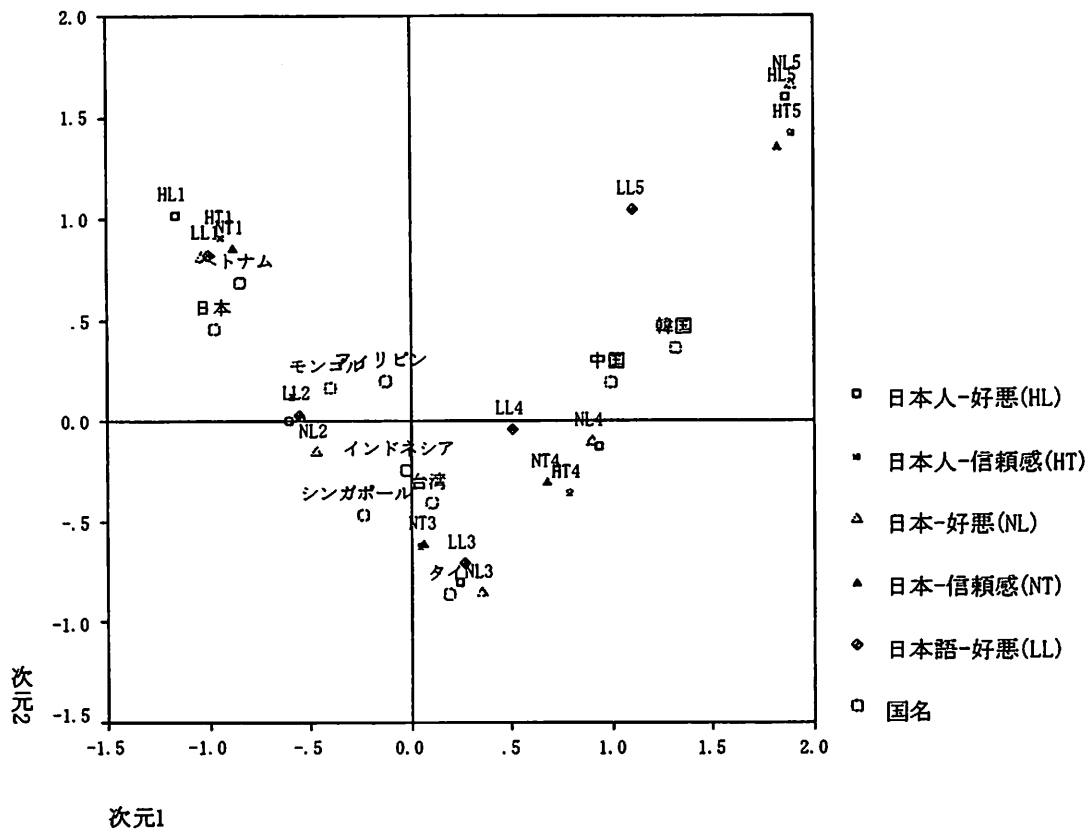
となる。

5.2. 日本人、日本、日本語のイメージの連関

図 14 は、東アジア 10 カ国全体のサンプルに日本人、日本、日本語のイメージに関する項目中、「信頼感」や「好悪」を 5 段階に判定させたもの (質問 Q40-5, Q45-4, Q45-6, Q50-5, Q50-6) (ただし、日本語については「信頼感」の項目はなし) のデータ (「無回答」を除く) に、数量化 III 類を適用した結果である。

全ての項目が、U 字型の 5 点尺度をなして、しかもこれら 5 項目の対応する各カテゴリーは、それぞれほとんど重複している。日本語が「非常に嫌い (LL5)」のカテゴリーが、他の項目⑤のカテゴリーからやや離れているのが目に付く程度である。これは、日本が日本人が「非常に嫌い」で「非常に信用できない」と思っている、それだからといって必ずしも直ちに、日本語も「非常に嫌い」ということにはならないということか。

概していえば、おそらく日本や日本人、日本語への接触の程度が回答者全体としては高くはないために、それらの鋭い弁別は起こらず、日本という国に対しても、日本人という人に対しても、日本語という言語に対しても、茫然としたイメージを持っているだけで、それらの「好悪」や「信頼感」の程度が独立していない



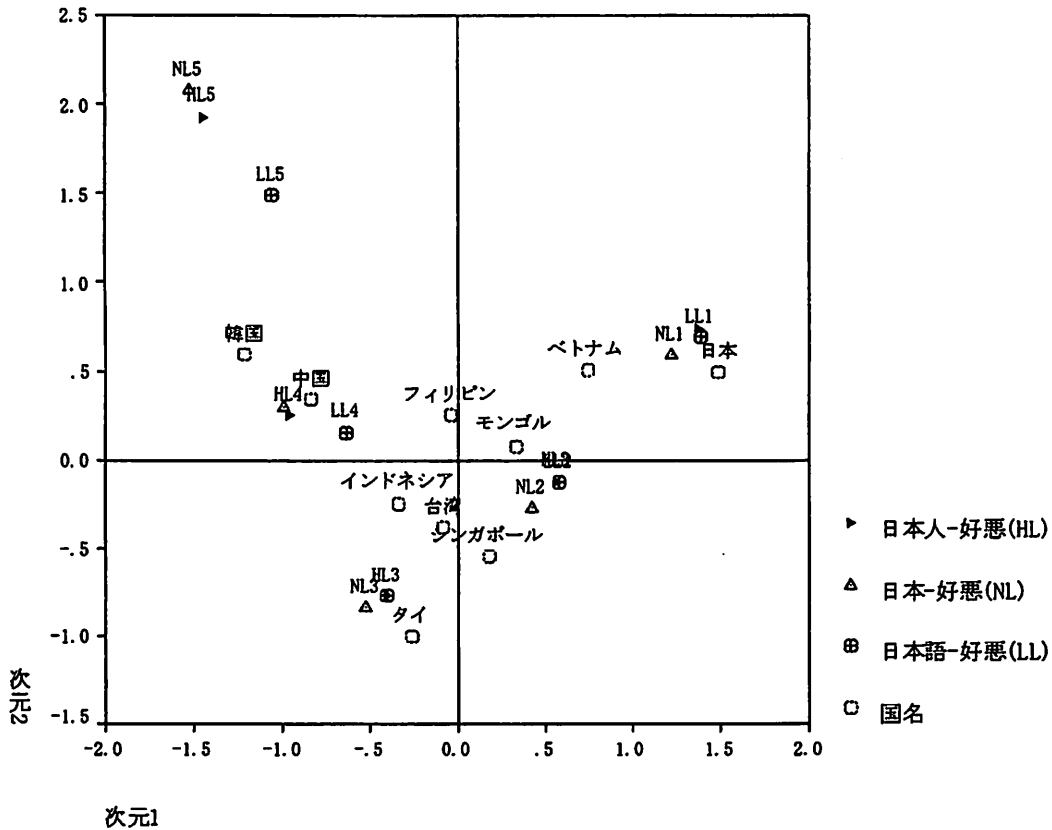


図 16. 日本・日本人・日本語の好悪感と国の位置付け

可能性がある。

次の図 15 は、「好悪」の項目に絞り、さらに、年齢と教育レベルの属性を加えたデータに数量化 III 類を適用した結果である。年齢については 35 歳未満 (若) と 35 歳以上 (老) の 2 段階、教育レベルについては就学期間が 10 年未満 (低)、10 年以上 (高) の 2 段階とした。この分類の安定性については議論の余地 (即ち、区切りや分類数がこれでよいのか等々) があるが、ここでは便宜的なものとしておく。結果は、再び、日本語の好悪イメージのカテゴリー「非常に嫌い」を除いて、3つの項目の 5 点尺度は (逆) U 字型となり、対応する 1~5 点のカテゴリーはそれぞれほとんど重複している。

年齢や教育レベルの各カテゴリーの差は大きくはないが、「年齢が高い者」と「教育レベルが低い者」、逆に「年齢が若い者」と「教育レベルが高い者」が強く関連 (重複) している。そして、前者は比較的日本人、日本、日本語に対して中間から否定的な方向、逆に後者は比較的正の方向に位置している。このあたりに、日本に対する東アジアの国々の態度に関して、高年齢者

層の持つ過去の歴史の影から、若年層の現在そして近い将来への光の兆しへの移行が読みとれるかもしれない。

また各国別に同様の分析をした場合でも、全般的に、このパターンは一貫している。あえて言えば、中国と韓国では若年、高学歴の層も中間程度に位置し、老年、低学歴の層は明確に否定的方向に位置している。タイでは、全ての項目の両極端のカテゴリー以外は、中央につぶれて 1 かたまりとなっている。それほどに日本や日本人、日本語に対する知識や接触がないためなのか、タイ人の各層の中での個人差が大きいのか、今後の検討が必要であろう。

図 16 は、日本、日本人、日本語の好悪と各国の位置付けを示したものである。日本・ベトナム・モンゴルは正、シンガポール・タイ・台湾は中間的で、韓国・中国は負の方向に現れている。

6. 日本語の様々な属性についてのイメージ

前述したように、東アジアで日本語学習経験者はそ

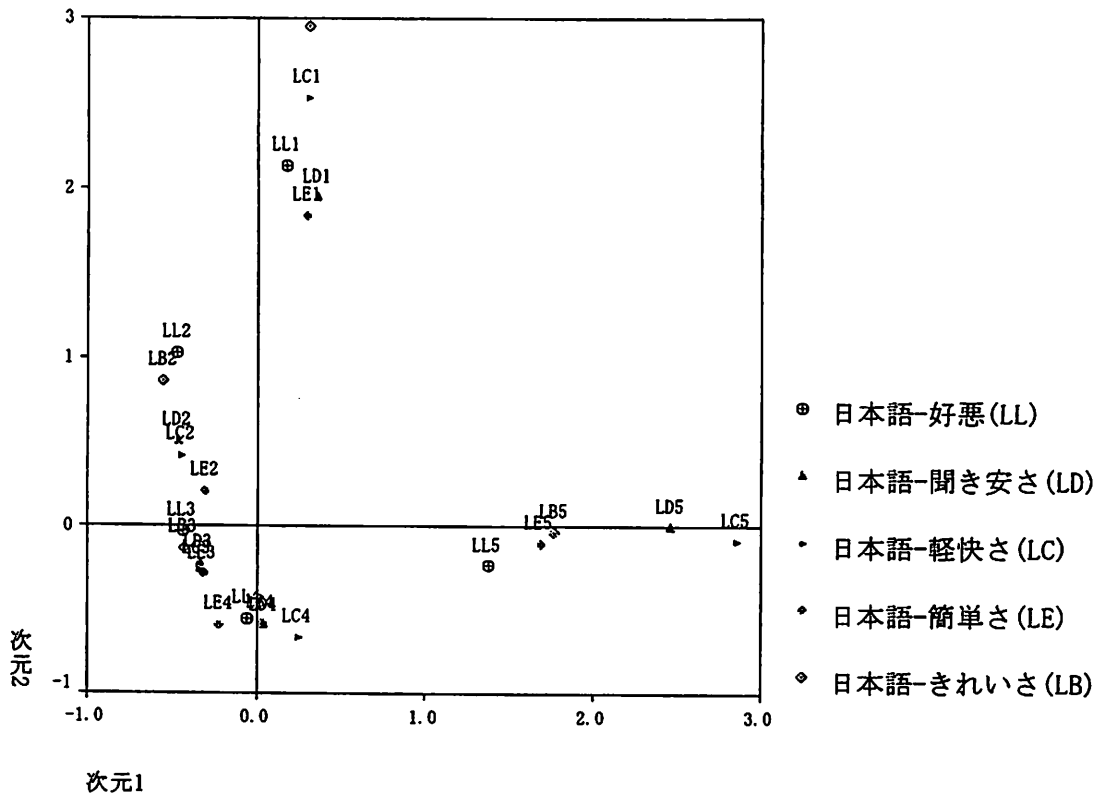


図 17. 韓国での日本語のイメージ

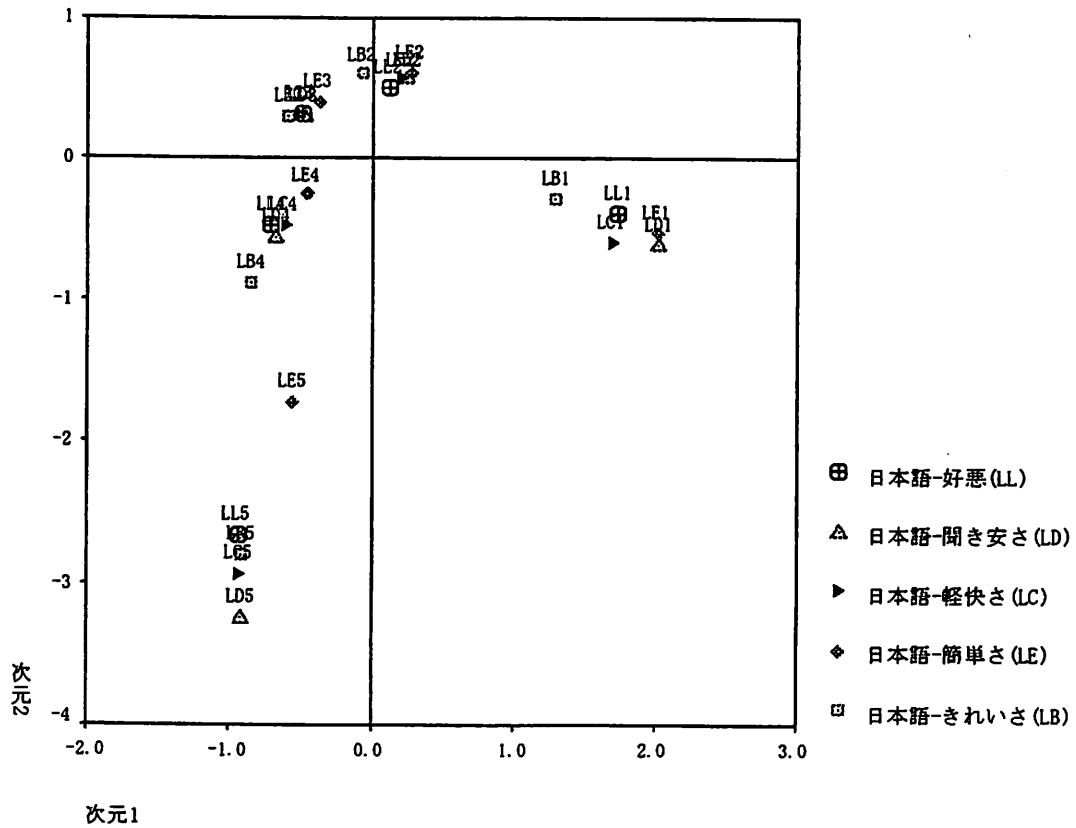


図 18. 台湾での日本語のイメージ

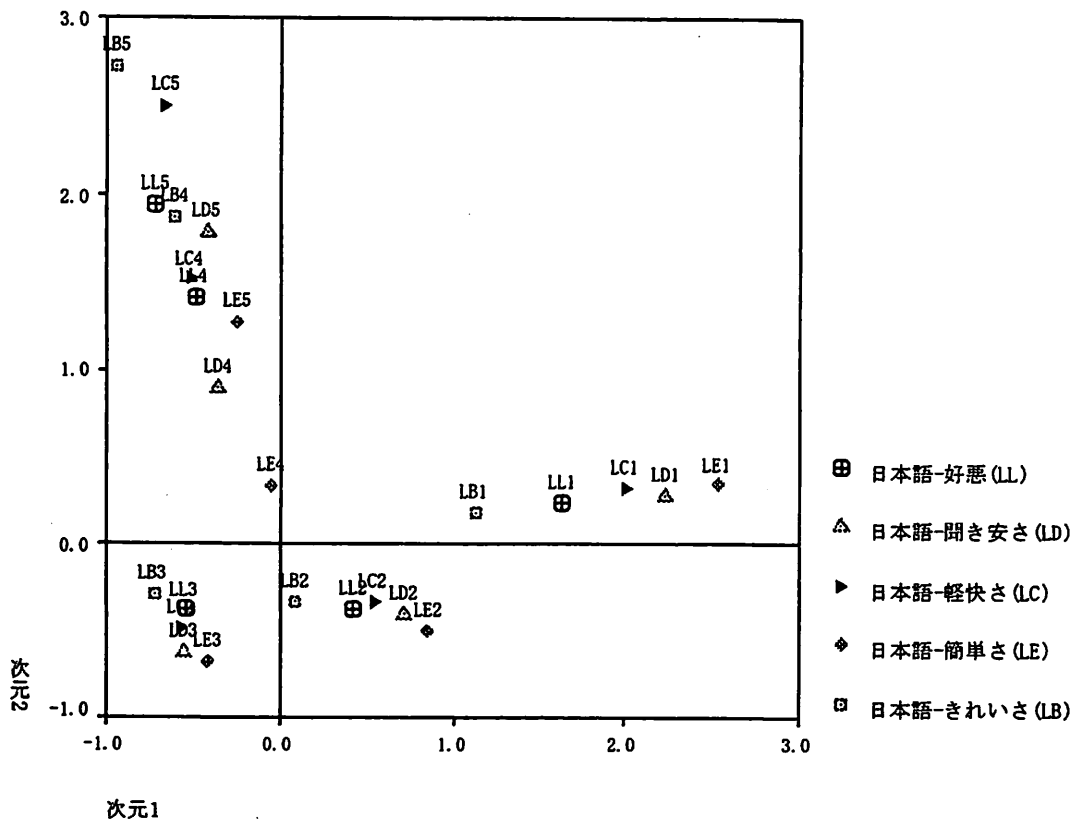


図 19. シンガポールでの日本語のイメージ

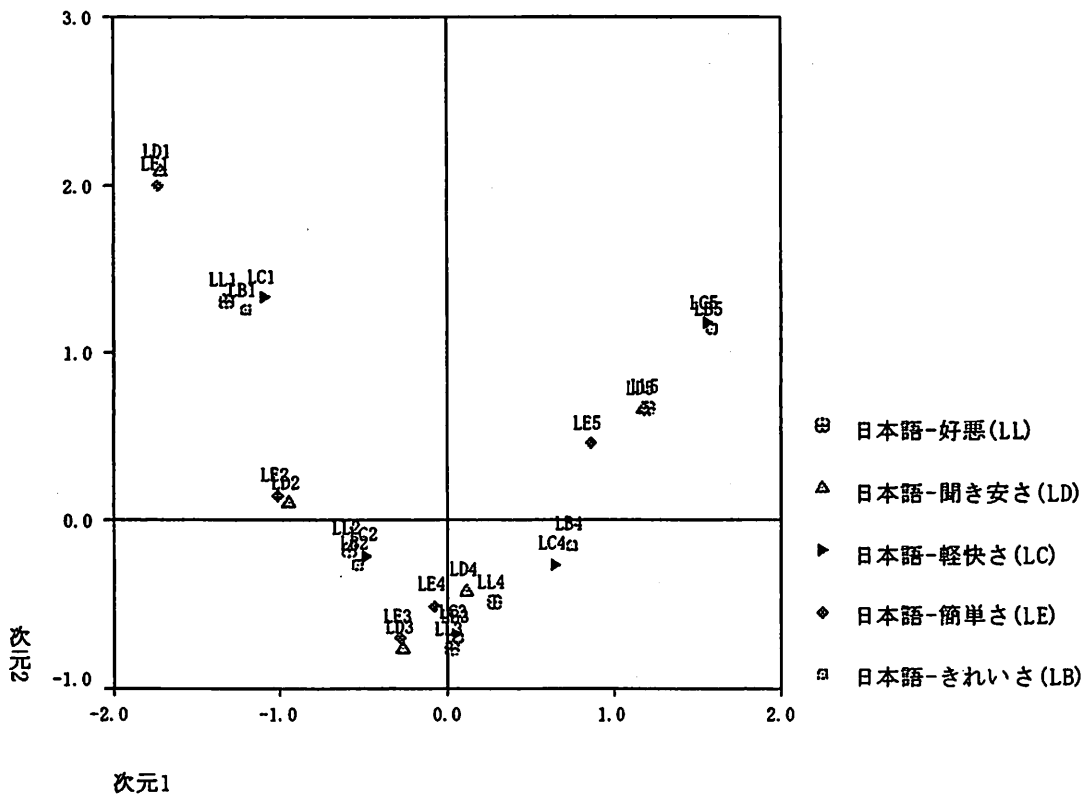


図 20. フィリピンでの日本語のイメージ

れほど多いわけではないので、本調査のように母集団を各国の全国民に想定する標本調査では、もし仮に本調査が取り扱った5つの属性が独立した次元をもつ尺度をなし得るとしても、日本語について詳細に判別することのできる回答者は限られている。そのため、この節では、日本語学習者が比較的多かった韓国、台湾、フィリピン、シンガポールに限って、さらにそれらの各国の日本語学習者に対する日本語のきれいさ、簡単さ、聞きやすさ、理解しやすさ、好悪の各次元についての回答データを国別に分析、比較してみよう。

図17～20は、それぞれ韓国、台湾、フィリピン、シンガポールにおいて日本語学習経験者のみに限り、日本語のイメージの各次元を5段階評価したデータに数量化Ⅲ類を適用したものである。韓国は、まず第1軸の左右で、⑤の極端の回答カテゴリー群と、①～④のカテゴリー群とに分離し、さらに第2軸の上下に沿って縦に①～④のカテゴリーが並んでいる。但し、実際の回答としては③と④に集中している(図17)。台湾では逆U字型に右から左へカテゴリー①～⑤が並んでいるが、実際の回答は②と③に集中している(図18)。シンガポールは、第1軸でカテゴリー①と、その他のカテゴリー②～④が分離され、さらに第2軸に沿って、下からカテゴリー②と③、④、⑤の順に並んでいる(図19)。実際の回答は、カテゴリー②と③が多い。フィリピンは、U字型に左から右へ、カテゴリー①～⑤が並んでいる(図20)。実際の回答も、どちらかといえば①～⑤の全体に拡がっているようである。韓国は49%の人が日本語学習経験者であるが、それでも上記の5つの次元が明瞭に分解されるわけではなく、各項目のカテゴリー①～⑤がほとんど重なっている。つまり、これらの5次元が日本語、あるいは一般的に言語の全く独立した次元ではないということか(Facet theory流に述べると、これらの5属性はすべてaffectionの次元を扱っていて、もとより相関が高いことが予測され得たということか。本巻の真鍋論文を参照せよ)。それとも「日本語学習者」といっても、その学習の程度があるレベル以上に高い者は必ずしも多くはないために明瞭な分離が見られないということになる。全体の中で日本語学習者が必ずしも多くないため、さらに詳細な属性別クロス分析に進もうとすると各セルに対応する標本があまりにも少なくなることが多く、代表性や結果の安定性の保証が失われてしまうのは残念である。今後の調査では、その点を考慮した調査計画、調査票の設計に留意すべきである。

以上の第4,5,6章ではデータ分析の試行を提したが、いずれにせよ、さらに深い分析で事柄を確認しようとする、東アジア・東南アジアの各国内の民族や言語の多様性が立ちはだかってきた。「データの科学」の哲学でいえば、まさにこのようなデータ解析途上の困難こそがこのテーマに関する複雑性を浮き彫りにしていると認識することで、現実の理解へ第一歩が進んだのだと見るべきであろうか。

7. 結びに代えて

総じて、言語については、多民族・多言語国家ではその国内での統一言語の問題が第一にあり、次に植民地時代の影響から英、仏、日の各言語の状況、そして、今日の経済政治的交流の中での必要性のための言語使用や学習の状況がある(第2節を参照)。特に東アジアでは、日本語学習者が比較的多いのは韓国、台湾、シンガポール、フィリピン、中国等であり、それ以外はかなり少ない。本調査の探索的データ解析を進めて行く中で、過去の歴史的背景や経済交流等を総合して考慮すると、東アジア調査での今後の日本語の位置付けは、①各国内での言語(単一か、多言語か)と②英語や中国語の位置(公用語か、現地の原語か)と③日本語学習状況(第2次大戦時中の教育によるか、現在の若者たちの自発的な学習か(図1参照))という枠組みで捉え直して、調査や分析をしてみる必要が浮かび上がってくるように思われる。

また日本語教育の将来の展望を考えると、まだまだ東アジア諸国には国内の政治・経済的問題が多く、識字率、就学率を考えると、そもそも外国語学習以前に、各国語の教育レベルの上昇に困難を抱えている国も少なくないであろうことを直視せざるを得ない(表5参照)。今後の各国の経済の向上を国民一人一人の所得の向上へ結びつけ、他方で適正な人口増加率を保ち一人当たりの教育費を向上することによって、一般的な教育レベルを向上させた上で、初めて日本語学習の効用を考える余地が生まれるのではないであろうか。

日本との経済交流を強く望む国々が多い(設問Q48)が、それ自体は必ずしも日本語学習意欲とは結びつかないようである。東アジアでの交易上、欧米人で現地語をマスターしている人々は少ないであろうが、日本人は上手、下手はあっても英語が通じることが多いため、日本語学習の必然性には繋がらないのかもしれない。また経済交流という視点に立って、東アジアの華

人・華僑の人々の活躍は無視できず、それ故に彼らの民族や言語に対する意識の影響も無視できない。

したがって東アジアの人々にとっては、もし日本語学習者の増加があり得るとしたら、今後の政治的安定、経済的発展の上に立った教育レベルの向上があって、その下で語学教育としては、現地の統一語の発展、そして英語か中国語の次に日本語を現実に学習するという態度が見られるのではないであろうか。あるいは、より現実的には、日本語でも中国語でもない、共通漢字文化圏（溝口他編、1992）の成立や拡大の可能性を探ることの方が、政治・経済的交流の促進のために先であろうか。

(注) 本文の解析には、国立国語研究所によって配布されたデータ Version 1.0jc を用いた。これは、各国の標本を約 1,000 名にそろえてあるデータである。(もとの調査では、日本や中国は約 3,000 名の標本であったが、それからの無作為抽出で 1,000 名にそろえたのであった。)

謝 意

本研究は、文部科学省研究助成金「東アジアにおける日本語観国際比較調査の実施（準備調査）」基盤研究 C (1) No. 13898011 (代表：米田)、「国民性に関する意識調査データに基づく文化の伝搬変容のダイナミズムの統計科学的解析」基盤研究 A (2) No. 1030800 (1999～2001 年度、代表：吉野諒三)、及び「文化の伝搬変容の統計科学研究——ハワイ日系人・非日系人国際比較調査」基盤研究 A (2) No. 11691111 (2000～2002 年度、代表：吉野諒三)によるものである。本論文の草稿

にコメントを下さった共同研究者や、特集号の編者である江川清先生を始めとする、関係各位に深く感謝いたします。

参 考 文 献

- 浅羽良昌編 (1996) 「欧米とアジア—国際経済史」, ミネルヴァ書房。
 EU 委員会 (2000) 「Eurobarometer No. 54 (Special Eurobarometer survey 54; Europeans and Languages)」, The European Commission。
 国際連合 (1998) 「世界人口年鑑 1996」 Vol. 48, 原書房。
 国際連合 (2001) 「世界人口年鑑 1997(上)」 Vol. 49, 原書房。
 越田 稜編 (1990) 「アジアの教科書に書かれた日本の戦争 (東アジア編)」, 梨の木舎。
 越田 稜編 (1990) 「アジアの教科書に書かれた日本の戦争 (東南アジア編)」, 梨の木舎。
 林知己夫 (2001) 「データの科学」朝倉書店。
 平野健一郎編 (2001) 「対日関係を知る事典」, 平凡社。
 溝口雄三, 福永健一, 中島嶺雄, 浜下武志編 (1992) 「漢字文化圏の歴史と未来」大修館書店。
 水谷 修編 (1999) 「日本語観国際センサス (暫定速報版)」, 国立国語研究所。
 総務省統計局 (2001) 「世界の統計 2001」。
 総理府統計局 (1981) 「国際統計要覧 1981」。
 鈴木 峻 (1996) 「東南アジアの経済 (第 3 版)」, 御茶の水書房。
 台湾統計局ホームページ (<http://www.stat.gov.tw/bs8/bulletin/>)。
 安本美典監修 (1987) 「日本語はどのようにつくられたか」福武書店。
 吉野諒三 (2001) 「心を測る一個と集団の意識の科学」朝倉書店。

(2002 年 5 月 7 日受付)

6. 調査票

6a. 日本調査原票

4106号調査

生活と文化に関する世論調査 (東アジア価値観調査)

平成14年11月

社団法人 新情報センター

地点番号	対象番号	調査員氏名	点検者氏名

(1)~(5)

(6)=1

問1 あなたはどちらかといえば、普通より先祖を尊ぶ方ですか、それとも普通より尊ばない方ですか。

1	2	3	8	9
普通より 尊ぶ方	普通より 尊ばない方	普通	その他(記入)	わからない

(7)

問2 子供がないときは、血のつながりがない他人の子供を、養子にとって家をつがせた方がよいと思いますか、それとも、つがせる必要はないと思いますか。

1	2	3	8	9
つがせた方 がよい	つがせる必要は ない	場合による	その他(記入)	わからない

(8)

問3 現在、一般的な家庭にとって望ましい子供の数は何人だと思えますか。

人

9
わからない

(9)

問4 [カード1] ここ1ヶ月の間につきあげるものに悩みましたか。(かかりましたか。)

	あり	なし
a. 頭痛・偏頭痛・頭が重い	1	2
b. 背中痛み(肩こりや腰痛など)	1	2
c. いらいら	1	2
d. うつ状態(ゆううつになる、気がふさぐ)	1	2
e. 不眠症(よく眠れない)	1	2
8 その他(記入)		
9 わからない		

(10)

(11)

(12)

(13)

(14)

(15)

問5 [カード2] あなたと同じ年の人と比べて、あなたの健康状態はいかがですか。

1 非常に満足している	4 満足していない
2 満足している	8 その他(記入)
3 あまり満足していない	9 わからない

(16)

問6 [カード3] かりに現在の日本社会全体を、ここに書いてあるように5つの層に分けるとすれば、お宅はこのどれにはいると思いますか。

- | | | | | | | | |
|---|-----|-----|-----|---|----------|-------|------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 8 | 9 | (17) |
| 上 | 中の上 | 中の中 | 中の下 | 下 | その他(記入) | わからない | |

問7 [カード4] あなたは次のうちどちらが好ましいと思いますか。

- | | | | | | | | |
|-------------------|--|--|--|--|--|--|------|
| 1 収入が増えること | | | | | | | |
| 2 余暇(自由な時間)が増えること | | | | | | | |
| 8 その他(記入) | | | | | | | (18) |
| 9 わからない | | | | | | | |

問8 もし、一生、楽に生活できるだけのお金がたまったら、あなたはずっと働きますか、それとも働くのをやめますか。

- | | | | | |
|-------|---------|----------|-------|------|
| 1 | 2 | 8 | 9 | (19) |
| ずっと働く | 働くのをやめる | その他(記入) | わからない | |

問9 [カード5] ここに仕事について、ふだん話題になることがあります。

あなたは、どれが一番関心がありますか。(1つ選択)

- | | | | | | | | |
|------------------------|--|--|--|--|--|--|------|
| 1 お金のことを気にしないですむ程、よい給料 | | | | | | | |
| 2 倒産や失業の恐れがない仕事 | | | | | | | |
| 3 気の合った人たちと働くこと | | | | | | | |
| 4 やりとげたという感じがもてる仕事 | | | | | | | (20) |
| 8 その他(記入) | | | | | | | |
| 9 わからない | | | | | | | |

問10 [カード6] とときどき、自分自身のことや家族のことで不安になることがあります。

あなたは、次のような危険について不安を感じるがありますか。

- | | 非
常
に
る | 感
じ
な
り
る | 少
感
じ
は
る | 全
じ
く
な
い
感
い | そ
の
他 | わ
な
か
い
ら | |
|---------------------------------|------------------|-----------------------|-----------------------|---------------------------------|-------------|-----------------------|------|
| a. まず、「重い病気」の不安はどの程度でしょうか。…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 8 | 9 | (21) |
| b. では、「交通事故」についてはどうでしょうか。…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 8 | 9 | (22) |
| c. では、「戦争」についてはどうでしょうか。…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 8 | 9 | (23) |

問11 [カード7] 次にあげるものをあなたは「ある」または「存在する」と思いますか。それぞれについてお答え下さい。(1つずつ○印)

	ある・存在する	あるかもしれない	ない・存在しない	わからない	
a. 神や仏	1	2	3	9	(24)
b. 死後の世界	1	2	3	9	(25)
c. 霊魂(たましい)	1	2	3	9	(26)
d. 悪魔	1	2	3	9	(27)
e. 地獄	1	2	3	9	(28)
f. 天国や極楽	1	2	3	9	(29)
g. 宗教上の罪や罰(ばち)	1	2	3	9	(30)

問12 [カード8] 次にあげる生活領域のそれぞれについて、あなたが重要だと思う程度に従って1~7の評価をつけてください。

	重要でない	重要							その他	わからない (該当せず)
a. まず、「あなた自身の家族や子供」についてはどうですか。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	(31)
b. では、「職業や仕事」についてはどうですか。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	(32)
c. では、「自由になる時間とくつろぎ」についてはどうですか。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	(33)
d. では、「友人、知人」については	1	2	3	4	5	6	7	8	9	(34)
e. では、「両親、兄弟、姉妹、親戚」については	1	2	3	4	5	6	7	8	9	(35)
f. では、「宗教」については	1	2	3	4	5	6	7	8	9	(36)
g. では、「政治」については	1	2	3	4	5	6	7	8	9	(37)

問13 [カード9] あなたは自分の家庭に満足していますか、それとも不満がありますか。

1	2	3	4	5	8	9
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	その他(記入)	わからない

問14 [カード10] あなたの生活についておききします。ひとくちにいてあなたは今の生活に満足していますか、それとも不満がありますか。

1	2	3	4	5	8	9
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	その他(記入)	わからない

問15 (カード11) いまの社会で成功している人を見て、その人の成功には、個人の才能や努力と、運やチャンス、あるいは血縁・地縁・学閥などの人のつながりの、どれが一番大きな役割をはたしていると思いますか。(1つ選択)

- | | | | | | |
|----------|--------|-----------------------|----------|-------|------|
| 1 | 2 | 3 | 8 | 9 | (40) |
| 個人の才能や努力 | 運やチャンス | 血縁・地縁・学閥
などの人のつながり | その他(記入) | わからない | |
-

問16 こういう意見があります。

「世の中は、だんだん科学や技術が発展して、便利になって来るが、それにつれて人間らしさがなくなって行く」

というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

- | | | |
|--------------------|------------|------|
| 1 賛成(人間らしさはへる) | 8 その他(記入) | |
| 2 反対(人間らしさ、不変、ふえる) | 9 わからない | (41) |
| 3 いちがいにはいえない | | |
-

問17 こういう意見があります。

「国をよくするためには、すぐれた政治家がでてきたら、国民がたがいに議論をたたかわせるよりは、その人達にまかせる方がよい」

というのですが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか。

- | | | |
|-------------------|------------|------|
| 1 賛成(まかせる) | 8 その他(記入) | (42) |
| 2 反対(まかせっきりはいけない) | 9 わからない | |
| 3 いちがいにはいえない | | |
-

問18 こういう意見があります。

「どんなに世の中の機械化や情報化が進んでも、人の心の豊かさ(人間らしさ)はへりはしない」

というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

- | | | |
|--------------|------------|------|
| 1 賛成(へらない) | 8 その他(記入) | (43) |
| 2 反対(へる) | 9 わからない | |
| 3 いちがいにはいえない | | |
-

問19 つぎのような考え方があります。

「家庭は、ここちよく、くつろげる、ただ1つの場所である」

というのですが、あなたはそう思いますか、そうは思いませんか。

- | | | | | |
|------|---------|----------|-------|------|
| 1 | 2 | 8 | 9 | (44) |
| そう思う | そうは思わない | その他(記入) | わからない | |

問 20 [カード 12] つぎの3つの意見の中で、どれが一番あなたの意見に近いですか。

- 1 離婚はすべきではない
- 2 ひどい場合には、離婚してもよい
- 3 二人の合意さえあれば、いつ離婚してもよい (45)
- 8 その他(記入)
- 9 わからない

問 21 [カード 13] 自然と人間との関係について、つぎのような意見があります。あなたがこのうち真実に近い(ほんとうのことに近い)と思うものを、1つだけ選んでください。

- 1 人間が幸福になるためには、自然に従わなければならない
- 2 人間が幸福になるためには、自然を利用しなければならない
- 3 人間が幸福になるためには、自然を征服していかなければならない (46)
- 8 その他(記入)
- 9 わからない

問 22 [カード 14] あなたはつぎの意見の、どちらに賛成ですか。1つだけあげてください。

- 1 個人が幸福になって、はじめて国全体がよくなる
- 2 国がよくなって、はじめて個人が幸福になる
- 3 国がよくなることも、個人が幸福になることも同じである (47)
- 8 その他(記入)
- 9 わからない

問 23 [カード 15] つぎのうち、大切なことを2つあげてくれといわれたら、どれにしますか。

	あり	なし	
a. 親孝行、親に対する愛情と尊敬.....	1	0	(48)
b. 助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する.....	1	0	(49)
c. 個人の権利を尊重すること.....	1	0	(50)
d. 個人の自由を尊重すること.....	1	0	(51)
8 その他(記入)			(52)
9 わからない			

(上の質問では、2つの項目をあげてもらうこと)

問 24 a. [カード 16] あなたが、ある会社の社長だったとします。その会社で、新しく職員を 1 人採用するために試験をしました。入社試験をまかせておいた課長が、

「社長のご親戚の方は 2 番でした。しかし、私としましては、1 番の人でも、ご親戚の方でも、どちらでもよいと思いますがどうでしょうか」

と社長のあなたに報告しました。

あなたはどちらをとれ（採用しろ）といえますか。

- 1 1 番の人を採用するようという
- 2 親戚を採用するようという
- 8 その他（記入 _____）
- 9 わからない

(53)

b. [カード 17] それでは、この場合 2 番になったのがあなたの親戚の子供でなくて、あなたが昔世話になった人の子供だったとしたら、あなたはどうしますか。（どちらをとれといえますか）

- 1 1 番の人を採用するようという
- 2 昔世話になった人の子供を採用するようという
- 8 その他（記入 _____）
- 9 わからない

(54)

問 25 [カード 18] ある会社につきのような 2 人の課長がいます。もしあなたが使われるとしたら、どちらの課長に使われる方がよいと思いますか。どちらか 1 つあげてください。

- 1 規則をまげてまで、無理な仕事をさせることはありませんが、仕事以外のことでは人のめんどうを見ません
- 2 時には規則をまげて、無理な仕事をさせることもありますが、仕事のこと以外でも人のめんどうをよく見ます
- 8 その他（記入 _____）
- 9 わからない

(55)

問 26 たいていの方は、他人の役にたとうとしていると思いますか、それとも自分のことだけ考えていると思いますか。

- 1 他人の役にたとうとしている
- 2 自分のことだけ考えている
- 8 その他（記入 _____）
- 9 わからない

(56)

問 27 他人は、機会があれば、あなたを利用しようとしていると思いますか、それともそんなことはないと思いますか。

- | | | | |
|--------------------------|--|---|------|
| 1 他人は機会があれば利用しようとしていると思う | | | |
| 2 そんなことはないと思う | | | |
| 8 その他（記入 | | ） | (57) |
| 9 わからない | | | |

問 28 たいていの人は信頼できると思いますか、それとも、常に用心した方がよいと思いますか。

- | | | | | |
|--------------|----------------|--------|---|-------|
| 1 | 2 | 8 | 9 | (58) |
| 信頼できる
と思う | 常に用心した
方がよい | その他（記入 | ） | わからない |

問 29 【カード 19】 つぎに読みあげる事柄についてあなたはどのように思いますか。

それぞれについて、この中からお答えください。（a～dについてそれぞれ聞く）

a. 病気の中には近代医学とは別の方法で治療した方がよいものもある。

- | | | | |
|---------------|--------------|---|------|
| 1 全くそのとおりだと思う | 4 決してそうは思わない | | |
| 2 そう思う | 8 その他（記入 | ） | (59) |
| 3 そうは思わない | 9 わからない | | |

b. 科学技術が発展すれば、いつかは人間の心の中までも解明できる。

- | | | | |
|---------------|--------------|---|------|
| 1 全くそのとおりだと思う | 4 決してそうは思わない | | |
| 2 そう思う | 8 その他（記入 | ） | (60) |
| 3 そうは思わない | 9 わからない | | |

c. 今日、我々が直面している経済的、社会的問題のほとんどは科学技術の進歩により解決される。

- | | | | |
|---------------|--------------|---|------|
| 1 全くそのとおりだと思う | 4 決してそうは思わない | | |
| 2 そう思う | 8 その他（記入 | ） | (61) |
| 3 そうは思わない | 9 わからない | | |

d. 将来、科学技術の発展により、火星でも、地球と同じような生活ができるようになる。

- | | | | |
|---------------|--------------|---|--|
| 1 全くそのとおりだと思う | 4 決してそうは思わない | | |
| 2 そう思う | 8 その他（記入 | ） | |
| 3 そうは思わない | 9 わからない | | |

(62)

問30 日本文化ときいて、まず思い浮かべることは何ですか。

(もし回答者が複数あげた場合は、すべて記す)

(記入)	9 わからない
------	------------

(63)

問31 a. 宗教についておききたいのですが、たとえば、あなたは、何か信仰とか信心とかを持っていますか。



(64)

b. (問31aで「1 持っている、信じている」と回答した人に)

それは何という宗教ですか。(1つ選択)

- 1 仏教系
- 2 神道系
- 3 キリスト教
- 8 その他の宗教 (記入)
- 9 わからない

(65)

問32 それでは、いままでの宗教にはかかわりなく、「宗教的な心」というものを、大切だと思いますか、それとも大切だとは思いませんか。

- | | | | |
|---------|------------|----------------|------------|
| 1
大切 | 2
大切でない | 8
その他 (記入) | 9
わからない |
|---------|------------|----------------|------------|

(66)

問33 宗教について、こんな意見があります。

「宗教にはいろいろあり、それぞれ独自の教えを説いているが、そうした教えは、けっきょくは同じものだ」というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

- | | | | |
|---------|---------|----------------|------------|
| 1
賛成 | 2
反対 | 8
その他 (記入) | 9
わからない |
|---------|---------|----------------|------------|

(67)

問34 「法律はどんなときにも守るべきである」という意見と「目的が本当に正しいものだと確信がもてるときには、法律をやぶることもやむをえない」という意見があります。どちらの考えがあなたにぴったりしますか。

- 1 「どんなときにも守るべきだ」という意見
- 2 「目的が正しい時には、法律をやぶることもやむをえない」という意見
- 8 その他（記入)
- 9 わからない

(68)

問35 [カード20] 契約書というものについて、あなたは次のAさんとBさんの意見のうち、どちらに近いですか。

- A 「契約書を取りかわすなどというのは、お互いに信頼し合っていない証拠だ。信頼し合っていれば、契約書など必要ない」
- B 「いくらお互いに信頼し合っている、契約は契約として、ちゃんと文書を取りかわしておく方がよい」
- 1 Aの意見に近い
- 2 Bの意見に近い
- 8 その他（記入)
- 9 わからない

(69)

問36 [カード21] また、次のAさんとBさんの意見ではどちらに近いですか。

- A 「契約書を取りかわすときでも、契約などというものは形式的なものだから、できるだけ簡単にして、契約書の表現もできるだけ融通がきくようなものにしておく方がよい」
- B 「契約書というものは、あとで解釈などをめぐってもめないように、できるだけこまかく具体的にキチッと決めておく方がよい」
- 1 Aの意見に近い
- 2 Bの意見に近い
- 8 その他（記入)
- 9 わからない

(70)

問37 [カード22] 環境保護と経済成長について、次の2つの意見がよく出されます。どちらがあなたの考えに近いですか。

- 1 経済がある程度悪化しても、環境保護が最優先されるべきだ
- 2 環境がある程度悪化しても、経済成長が最優先されるべきだ
- 8 その他（記入)
- 9 わからない

(71)

問 38 あなたにとって一番大切と思うものはなんですか。(もし回答者が複数あげた場合は、すべて記す)

(記入)	9 わからない
------	------------

(72)

問 39 a. あなたが一番尊敬する職業は何ですか。(もし回答者が複数あげた場合は、すべて記す)

(記入)	9 わからない
------	------------

(73)

b. では、ご自身が実際につきたいと思う職業は何ですか。

(もし回答者が複数あげた場合は、すべて記す)

(記入)	9 わからない
------	------------

(74)

問40 [カード 23] 次のようなことを想像してください。あなたは重病で、特別の手術をする必要があります。腕のよい医者であれば、9割以上成功するが、難しい手術なので、下手な医者では失敗しかねないとも言われました。すると、長年の親友のAさんが、Bという医者は信頼できると紹介してくれました。あなたは医者Bさんに手術を頼みますか。

- 1 親友のAさんが紹介してくれた医者なので、Bさんに頼む
- 2 自分で医者Bさんの過去の実績を詳しく調べてから、判断する
- 8 その他 (記入)
- 9 わからない

(75)

問 41 [カード 24] あなたは、次にあげる組織や制度、事からをどの程度信頼しますか。「非常に信頼する」「やや信頼する」「あまり信頼しない」「全く信頼しない」のいずれかでお答え下さい。(1つずつ○印) (6)=2

	非常に 信頼する	やや 信頼する	あまり 信頼しない	全く 信頼しない	わか らない	
a. 宗教団体	1	2	3	4	9	(7)
b. 法律や裁判の制度	1	2	3	4	9	(8)
c. 新聞・テレビ	1	2	3	4	9	(9)
d. 警察	1	2	3	4	9	(10)
e. 国の行政	1	2	3	4	9	(11)
f. 国会	1	2	3	4	9	(12)
g. NPO・NGO(非営利団体や非政府組織)	1	2	3	4	9	(13)
h. 社会福祉施設	1	2	3	4	9	(14)
i. 国連	1	2	3	4	9	(15)
j. 科学技術	1	2	3	4	9	(16)

問 42 a. 今までの人生をふりかえって、もう一度やり直せるとしたら、男に生まれていた方がよかったですか。それとも女に生まれていた方がよかったですか。

- 1 男に生まれていた方がよかった
 2 女に生まれていた方がよかった
 8 その他(記入) (17)
 9 わからない

b. それでは、これからの世の中を考えたとき、今、もう一度生まれ変われるとしたら、あなたは男と女のどちらに生まれてきたいと思いますか。

- 1 男に生まれてきたい 2 女に生まれてきたい 8 その他(記入) 9 わからない (18)

問 43 [カード 25] もし生まれ変われるとしたら、日本以外のアジアの国(地域)の中では、どの国(地域)に生まれてたいですか。一つだけ選んで下さい。

- 1 中国 4 香港 7 シンガポール
 2 韓国 5 インド 8 その他(記入) (19)
 3 台湾 6 フィリピン 9 わからない

問44 [カード26] 今後、わが国のために、一番に友好を深めていくべき国や地域は、次の中ではどこでしょう。一つだけ選んで下さい。

- | | | |
|----------------|-----------------|------|
| 1 アメリカ合衆国 | 5 中国や韓国以外のアジアの国 | |
| 2 EU (ヨーロッパ連合) | 8 その他 (記入) | (20) |
| 3 中国 | 9 わからない | |
| 4 韓国 | | |

問45 [カード27] あなたは悩みごとや重大な相談事を、まずどなたに相談していますか、あるいは、するとおもいますか。次の中から一つだけ選んで下さい。

- | | | |
|--------------|--|------|
| 1 父親 | | |
| 2 母親 | | |
| 3 きょうだい | | |
| 4 その他の家族や親戚 | | (21) |
| 5 学校の先生や塾の先生 | | |
| 6 友だち | | |
| 7 その他 (記入) | | |
| 8 相談できる人がいない | | |
| 9 特に悩みはない | | |

問46 [カード28] 今日の我々の社会では、「メンツ (面子)」を立てることが重要だとあなたは思いますか。

- | | | |
|------------------|--|------|
| 1 非常に重要である | | |
| 2 どちらかといえば重要である | | |
| 3 どちらかといえば重要ではない | | |
| 4 まったく重要ではない | | |
| 8 その他 (記入) | | (22) |
| 9 わからない | | |

問47 [カード29] 現在あなたに子供がいる、いないに関わらず、子供を育てる主な目的は何だとお考えですか。(1つ選択)

- | | | |
|---------------|--|------|
| 1 子孫を伝える | | |
| 2 社会的責任 | | |
| 3 自分の生活改善のため | | |
| 4 老後のため | | (23) |
| 8 その他 (記入 :) | | |
| 9 わからない | | |

問 48 [カード 30] 年とった親は子どもが面倒を見るべきだと思いますか、それとも親が自分で何とかするべきだと思いますか。あえて言うと、あなたの意見は次のどちらでしょうか。(1つ選択)

- 1 子供が面倒をみるべき
- 2 親が自分でなんとかすべき
- 8 その他(記入) (24)
- 9 わからない

問 49 a. [カード 31] 次のような場面を想像してください。あなたは幼いときに両親と死に別れ、近所に住んでいた田中さんに育てられました。そのおかげで、大学を卒業し、今では生活に余裕もできました。ところが、今、恩人の田中さんは病の床にふし、苦しんでいます。本人は知りませんが、医者にはあと3ヶ月の命と聞きました。しかし、特別な手術をすれば苦しみはとれ、回復できる可能性があると聞きました。身寄りもなく、経済的余裕もない田中さんを救うためには、あなたの全財産を使わなければなりません。あなたはどうすると思いますか。

- 1 全財産をなげうっても、ぜひ手術をしてもらう
- 2 無理をせず、手術はあきらめる (25)
- 8 その他(記入)

b. 今の質問では、恩人の場合をききました。もし病気なのがあなたの本当のご両親のどちらかの場合だったらどうしますか。

- 1 全財産をなげうっても、ぜひ手術をしてもらう
- 2 無理をせず、手術はあきらめる (26)
- 8 その他(記入)

問 50 [カード 32] あなたは次のような伝統的な価値観についてどう思いますか。

	全くそのとおり だと思う	そう 思う	そうは 思わない	決してそうは 思わない	その 他	わか らない	
a. 先祖を尊ぶべき.....	1	2	3	4	8	9	(27)
b. 長男は両親の面倒を見るべき.....	1	2	3	4	8	9	(28)
c. 妻は夫に従う.....	1	2	3	4	8	9	(29)
d. 親が反対する結婚はしない.....	1	2	3	4	8	9	(30)
e. 年上の人の意見に従う.....	1	2	3	4	8	9	(31)
f. 家系を続かせるため息子は必要だ.....	1	2	3	4	8	9	(32)
g. 男性は外で働き、女性は家庭を守るべき...	1	2	3	4	8	9	(33)

問 51 [カード 33] 現在、世界中にいろいろな宗教があり、宗教間の対立による争いが起こっていますが、これからの世界の人々は、どのようにすべきと思いますか。次のうち、どれがあなたのお考えに近いですか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 世界の人々は、自分の宗教を広めるべき
- 2 世界の人々は、自分の宗教を世界に理解させることに努力すべき
- 3 世界の人々は、他のいろいろな宗教を理解することに努力すべき
- 4 世界の人々は、理解するかどうかは別として、お互いの宗教を尊重すべき
- 8 その他 (記入)
- 9 わからない

(34)

問 52 [カード 34] あなたの職場では良きリーダーはどんな資質を持っているべきでしょうか。最も重要なものを3つ、次の中から選んで下さい。(3M.A.)

- 1 技術的に優れていること
- 2 部下を公平に扱うこと
- 3 部下に尊敬され、好かれていること
- 4 真剣に仕事に取り組むこと
- 5 人間関係がよい、顔が広いこと
- 6 仕事仲間に誠心誠意、接すること
- 7 決断力がある、断固としていること
- 8 判断力が優れていること
- 9 部下に利益をもたらすこと
- 10 年功を積んでいること
- 11 よい階級の出身であること

(35)(36)

問 53 [カード 35] 現代の進んだ医療の一つとして、交通事故や病気などで亡くなった方の心臓や肝臓などの臓器を、重い病気で苦しんでいるほかの人に移植することが可能になっています。このような医療について、あなたのお考えは、次のどちらの意見に近いですか。

- 1 重い病気が人が元気になるのだからよいことだ
- 2 いくら人の命を救うためとはいえ、亡くなった人の体の一部を取り出すのはよくないことだ
- 8 その他 (記入)
- 9 わからない

(37)

問 54 〔カード 36〕あなたは、現在、何らかの組織やクラブの会員になっていますか。このカードをご覧になって、どれに所属しているのか教えてください。いくつでもよいです。(M.A.)

- 1 自治会、町内会
- 2 P T A、父母の会
- 3 婦人会、老人会、青年会
- 4 消防団、防犯協会
- 5 農協、漁協、森林組合
- 6 商工会、その他の業界団体
- 7 労働組合
- 8 スポーツ、レクリエーション、趣味・文化サークル
- 9 県人会、同窓会、O B会
- 10 宗教団体
- 11 生協（生活協同組合）、消費者運動
- 12 政治団体、後援会
- 13 市民団体、住民運動、自然保護団体
- 14 その他
- 15 どれにも入っていない

(38)(39)

問 55 〔カード 37〕次のような場面を想像してください。あなたはある会社に働いています。ある同僚が悪いことをして不当に利益を得ているのを知って、それを上司に報告しようと覚悟していました。ところが、ある日、会社に刃物を持った凶悪な強盗が押し入り、あなたも命の危険にさらされました。しかし、その同僚の活躍によりあなたの命も救われ、事件も解決しました。あなたは、その同僚の不正について、つぎのうちどうしますか。

- 1 命が救われたことには感謝するが、なおかつ不正については上司に報告する
- 2 命を救われたことに感謝し、不正を報告するのはやめる
- 8 その他（記入)
- 9 わからない

(40)

<フェイス・シート> (最後に、あなたご自身のことについてお伺いします。)

F1 (性別) 1 2 (41)
男 性 女 性

F2 (年齢) あなたのお年は満ておいくつですか。 歳 (42)(43)

- | | | | |
|-----------|-----------|------------|----------|
| 1 20~24 歳 | 5 40~44 歳 | 9 60~64 歳 | (44)(45) |
| 2 25~29 歳 | 6 45~49 歳 | 10 65~69 歳 | |
| 3 30~34 歳 | 7 50~54 歳 | 11 70 歳以上 | |
| 4 35~39 歳 | 8 55~59 歳 | | |

F3 (学 歴) [カード 38] あなたが最後に卒業された学校はどちらですか。

(中退・在学中は卒業としてお答えください。)

- | | | | | | |
|--------------------|---------------|-------------|------------|-----|------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | (46) |
| 小学校・中学校
(及び旧高小) | 高 校
(及び旧中) | 短 大
専門学校 | 大 学
大学院 | 不 明 | |

F4 (職 業) あなたのご職業は何ですか。

具体的に記入して、下記の該当するものに○をする

- | 自営者 | | | 被傭者 | | | | 家族従業者 | | | 無 職 | | | (47)(48) |
|-----|---|---|-----|---|---|---|-------|---|----|-----|----|----|----------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | |
| 農 | 商 | 自 | 管 | 専 | 専 | 専 | 農 | 商 | 自 | 無 | 学 | そ | |
| 林 | 工 | 由 | 理 | 門 | 務 | 務 | 林 | 工 | 由 | 職 | の | の | |
| 漁 | サ | 業 | 職 | ・ | 職 | 職 | 漁 | ー | 業 | 主 | 無 | 無 | |
| 業 | ー | | | 技 | | | 業 | ビ | | 婦 | 職 | 職 | |
| | ス | | | 術 | | | | ス | | 生 | | | |
| | 業 | | | 職 | | | | 業 | | | | | |

F5 (世帯収入) [カード 39] では、お宅の収入は、ご家族全部合わせて、過去 1 年間でおよそどれくらいになりましたか。この中ではどうでしょうか。ボーナスも含め、税込みでお答えください。

- | | | |
|---------------------|-----------------------|------|
| 1 200 万円未満 | 6 1,000 万円~1,500 万円未満 | (49) |
| 2 200 万円~400 万円未満 | 7 1,500 万円~2,000 万円未満 | |
| 3 400 万円~600 万円未満 | 8 2,000 万円以上 | |
| 4 600 万円~800 万円未満 | 9 わからない | |
| 5 800 万円~1,000 万円未満 | | |

ご協力ありがとうございました。

〔カード 1〕 問4

(No.4106)

〔カード 2〕 問5

a. 頭痛・偏頭痛・頭が重い

b. 背中痛み (肩こりや腰痛など)

c. いろいろ

d. うつ状態 (ゆううつになる、気がふさぐ)

e. 不眠症 (よく眠れない)

1. 非常に満足している

2. 満足している

3. あまり満足していない

4. 満足していない

〔カード 3〕 問6

1. 上

2. 中の上

3. 中の中

4. 中の下

5. 下

〔カード 4〕 問7

1. 収入が増えること

2. 余暇(自由な時間)が増えること

〔カード 5〕 問9

1. お金のことを気にしないですむ程、よい給料

2. 倒産や失業の恐れがない仕事

3. 気の合った人たちと働くこと

4. やりとげたという感じがもてる仕事

〔カード 6〕 問10

- a. まず、「重い病気」の不安はどの程度でしょうか。

- b. では、「交通事故」についてはどうでしょうか。

- c. では、「戦争」についてはどうでしょうか。

1	2	3	4
非常に	かなり	少しは	全く
感じる	感じる	感じる	感じない

〔カード 7〕 問 11

- a. 神や仏
- b. 死後の世界
- c. 霊魂 (たましい)
- d. 悪魔
- e. 地獄
- f. 天国や極楽
- g. 宗教上の罪や罰 (ばち)

1

2

3

ある・存在する あるかもしれない ない・存在しない

〔カード 8〕 問 12

- a. 「あなた自身の家族や子供」
- b. 「職業や仕事」
- c. 「自由になる時間とくつろぎ」
- d. 「友人、知人」
- e. 「両親、兄弟、姉妹、親戚」
- f. 「宗教」
- g. 「政治」

重要でない

重

要



1 2 3 4 5 6 7

〔カード 9〕 問 13

1. 満 足

2. やや満足

3. どちらともいえない

4. やや不満

5. 不 満

〔カード 10〕 問 14

1. 満 足

2. やや満足

3. どちらともいえない

4. やや不満

5. 不 満

〔カード 11〕 問 15

-
1. 個人の才能や努力
 2. 運やチャンス
 3. 血縁・地縁・学閥などの人のつながり

〔カード 12〕 問 20

-
1. 離婚はすべきではない
 2. ひどい場合には、離婚してもよい
 3. 二人の合意さえあれば、いつ離婚してもよい

〔カード 13〕 問 21

1. 人間が幸福になるためには、
自然に従わなければならない
2. 人間が幸福になるためには、
自然を利用しなければならない
3. 人間が幸福になるためには、
自然を征服していかなければならない

〔カード 14〕 問 22

1. 個人が幸福になって、はじめて国全体が
よくなる
2. 国がよくなって、はじめて個人が幸福になる
3. 国がよくなることも、個人が幸福になること
も同じである

〔カード 15〕 問 23

(2つ選ぶ)

- a. 親孝行、親に対する愛情と尊敬
- b. 助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する
- c. 個人の権利を尊重すること
- d. 個人の自由を尊重すること

〔カード 16〕 問 24a

- 1. 1番の人を採用するようにいう
- 2. 親戚を採用するようにいう

1. 1番の人を採用するようにいう
2. 昔世話になった人の子供を採用するようにいう

1. 規則をまげてまで、無理な仕事をさせることはありませんが、仕事以外のことでは人のめんどろを見ません
2. 時には規則をまげて、無理な仕事をさせることもあります。仕事のこと以外でも人のめんどろをよく見ます

〔カード 19〕 問 29

1. 全くそのとおりだと思う
2. そう思う
3. そうは思わない
4. 決してそうは思わない

〔カード 20〕 問 35

- A 「契約書を取りかわすなどというのは、お互いに信頼し合っていない証拠だ。信頼し合っていれば、契約書など必要ない」
- B 「いくらお互いに信頼し合っているとしても、契約は契約として、ちゃんと文書を取りかわしておく方がよい」

A 「契約書を取りかわすときでも、
契約などというものは形式的なものだから、
できるだけ簡単にして、契約書の表現も
できるだけ融通^{ゆうずう}がきくような
ものにしておく方がよい」

B 「契約書というものは、
あとで解釈などをめぐってもめないように、
できるだけこまかく具体的にキチッと
決めておく方がよい」

1. 経済がある程度悪化しても、
環境保護が最優先されるべきだ

2. 環境がある程度悪化しても、
経済成長が最優先されるべきだ

〔カード 23〕 問 40

あなたは重病で、特別の手術をする必要があります。腕のよい医者であれば、9割以上成功するが、難しい手術なので、下手な医者では失敗しかねないとも言われました。すると、長年の親友のAさんが、Bという医者は信頼できる、と紹介してくれました。あなたは医者の方のBさんに手術を頼みますか。

1. 親友のAさんが紹介してくれた医者なので、Bさんに頼む
2. 自分で医者の方のBさんの過去の実績を詳しく調べてから、判断する

〔カード 24〕 問 41

- a. 宗教団体
- b. 法律や裁判の制度
- c. 新聞・テレビ
- d. 警察
- e. 国の行政
- f. 国会
- g. NPO・NGO（非営利団体や非政府組織）
- h. 社会福祉施設
- i. 国連
- j. 科学技術

1	2	3	4
非常に 信頼する	やや 信頼する	あまり 信頼しない	全く 信頼しない

〔カード 25〕 問 43

1. 中 国
2. 韓 国
3. 台 湾
4. 香 港
5. インド
6. フィリピン
7. シンガポール

〔カード 26〕 問 44

1. アメリカ合衆国
2. EU (ヨーロッパ連合)
3. 中 国
4. 韓 国
5. 中国や韓国以外のアジアの国

〔カード 27〕 問 45

-
1. 父親
 2. 母親
 3. きょうだい
 4. その他の家族や親戚
 5. 学校の先生や塾の先生
 6. 友だち

〔カード 28〕 問 46

-
1. 非常に重要である
 2. どちらかといえば重要である
 3. どちらかといえば重要ではない
 4. まったく重要ではない

1. 子孫を伝える

2. 社会的責任

3. 自分の生活改善のため

4. 老後のため

1. 子供が面倒をみるべき

2. 親が自分でなんとかすべき

〔カード 31〕 問 49a

あなたは幼いときに両親と死に別れ、近所に住んでいた田中さんに育てられました。そのおかげで、大学を卒業し、今では生活に余裕もできました。ところが、今、恩人の田中さんは病の床にふし、苦しんでいます。本人は知りませんが、医者にはあと3ヶ月の命と聞きました。しかし、特別な手術をすれば痛みはとれ、回復できる可能性があると聞きました。身寄りもなく、経済的余裕もない田中さんを救うためには、あなたの全財産を使わなければなりません。あなたはどうだと思いますか。

1. 全財産をなげうっても、
ぜひ手術をしてもらう
2. 無理をせず、手術はあきらめる

〔カード 32〕 問 50

- a. 先祖を尊ぶべき
- b. 長男は両親の面倒を見るべき
- c. 妻は夫に従う
- d. 親が反対する結婚はしない
- e. 年上の人の意見に従う
- f. 家系を続かせるため息子は必要だ
- g. 男性は外で働き、女性は家庭を守るべき

1	2	3	4
全くそのとおり だと思ふ	そう思ふ	そうは 思わない	決してそうは 思わない

1. 世界の人々は、自分の宗教を広めるべき
2. 世界の人々は、自分の宗教を世界に理解させることに努力すべき
3. 世界の人々は、他のいろいろな宗教を理解することに努力すべき
4. 世界の人々は、理解するかどうかは別として、お互いの宗教を尊重すべき

(3つ選ぶ)

1. 技術的に優れていること
2. 部下を公平に扱うこと
3. 部下に尊敬され、好かれていること
4. 真剣に仕事に取り組むこと
5. 人間関係がよい、顔が広いこと
6. 仕事仲間に誠心誠意、接すること
7. 決断力がある、断固としていること
8. 判断力が優れていること
9. 部下に利益をもたらすこと
10. 年功を積んでいること
11. よい階級の出身であること

〔カード 35〕 問 53

1. 重い病気の人が元気になれるのだから
よいことだ

2. いくら人の命を救うためとはいえ、
亡くなった人の体の一部を取り出すのは
よくないことだ

〔カード 36〕 問 54

1. 自治会、町内会
2. P T A、父母の会
3. 婦人会、老人会、青年会
4. 消防団、防犯協会
5. 農協、漁協、森林組合
6. 商工会、その他の業界団体
7. 労働組合
8. スポーツ、レクリエーション、
趣味・文化サークル
9. 県人会、同窓会、O B会
10. 宗教団体
11. 生協（生活協同組合）、消費者運動
12. 政治団体、後援会
13. 市民団体、住民運動、自然保護団体

あなたはある会社に働いています。ある同僚が悪いことをして不当に利益を得ているのを知って、それを上司に報告しようと思った覚悟していました。ところが、ある日、会社に刃物を持った凶悪な強盗が押し入り、あなたも命の危険にさらされました。しかし、その同僚の活躍によりあなたの命も救われ、事件も解決しました。あなたは、その同僚の不正については、つぎのうちどうしますか。

1. 命が救われたことには感謝するが、なおかつ不正については上司に報告する
2. 命を救われたことに感謝し、不正を報告するのはやめる

(中退・在学中は卒業としてお答えください。)

1. 小学校・中学校（及び旧高小）
2. 高校（及び旧中）
3. 短大・専門学校
4. 大学・大学院

[カード 39] F5

1. 200 万円未満
2. 200 万円～400 万円未満
3. 400 万円～600 万円未満
4. 600 万円～800 万円未満
5. 800 万円～1,000 万円未満
6. 1,000 万円～1,500 万円未満
7. 1,500 万円～2,000 万円未満
8. 2,000 万円以上

6b. 日本調査票の英語訳
 (注. 英語調査票としては標準化されていない試行版)

Draft Translation of the Japanese Questionnaire of East Asian Value Survey

(Note: This is not a standardized English Questionnaire for cross-national comparative survey.)

Q.1 Would you say that you respect your ancestors more than average or less than the average?

- 1 More than the average Japanese
- 2 Less than the average Japanese
- 3 Average
- 8 Other (PLEASE SPECIFY) _____
- 9 DK

Q.2 If you did not have children, would you or would you not adopt a child who is not related to you in order to continue your family line?

- 1 Would adopt
- 2 Would not adopt
- 3 Depends on situation
- 8 Other (PLEASE SPECIFY) _____
- 9 DK

Q.3 In general, what would you say is an ideal number of children for a family?

9 DK

Q.4 [SHOW CARD 1] Have you suffered from any of the following in the past month?

	<u>Yes</u>	<u>No</u>
a. Headaches/migraines/(head felt heavy)		
b. Backaches (stiff back)	1	2
c. Nervousness	1	2
d. Depression (feeling down)	1	2
e. Insomnia (sleeplessness)	1	2

8 Other (PLEASE SPECIFY) _____

9 DK

Q.5 [SHOW CARD 2] In relation to others of your age, how satisfied are you with your health?

- 1 Very satisfied
- 2 Satisfied
- 3 Not very satisfied
- 4 Not satisfied
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.6 [SHOW CARD 3] Suppose one categorizes classes in your society as in Card 3, which one of the categories would you say your family belongs to?

- 1 High
- 2 High middle
- 3 Middle
- 4 Low middle
- 5 Low
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.7 [SHOW CARD 4] Which one of the two would you choose if you had to choose one?

- 1 More money
- 2 More free time
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.8 If you were to have enough money to live comfortably, would you keep working or quit working?

- 1 Keep working
- 2 Quit working
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.9 [SHOW CARD 5] Here are some values discussed regarding work, in which one of the following would you find the most value?

- 1 A good enough pay that you do not have to worry about money
- 2 A secure job that requires no worries of bankruptcy or being fired
- 3 Co-workers you enjoy working with
- 4 A job that gives one a sense of accomplishment
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.10 [SHOW CARD 6] People feel uneasy about themselves or their family members from time to time. How do you personally feel about the following? (CIRCLE ONE OF THE NUMBERS IN THE COLUMN)

	<u>A lot</u>	<u>Some</u>	<u>A bit</u>	<u>Not at all</u>	<u>Other</u>	<u>DK</u>
a. Serious illness	1	2	3	4	8	9
b. Car accident	1	2	3	4	8	9
c. War	1	2	3	4	8	9

Q.11 Do you think each of the following exists? [SHOW CARD 7]

	<u>Exists</u>	<u>May exist</u>	<u>Does not exist</u>	<u>DK</u>
a. God, gods and Buddha	1	2	3	9
b. Life after death	1	2	3	9
c. Soul	1	2	3	9
d. Evil	1	2	3	9
e. Hell	1	2	3	9
f. Heaven and Paradise	1	2	3	9
g. Sin	1	2	3	9

Q.12 [SHOW CARD 8] By using the scale of 1 to 7, 1 being the least important and 7 being the most important, how important do you feel each of the following is?

	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> Not Important at all Very Important Other DK/NA </div>						
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> </div>						

a. Your immediate family members such as spouse and children	1	2	3	4	5	6	7	8	9
b. Career and job	1	2	3	4	5	6	7	8	9
c. Free time and relaxation	1	2	3	4	5	6	7	8	9
d. Friends and people you know	1	2	3	4	5	6	7	8	9
e. Parents, brothers, sisters, and other relatives	1	2	3	4	5	6	7	8	9
e. Religion	1	2	3	4	5	6	7	8	9
g. Politics	1	2	3	4	5	6	7	8	9

Q.13 [SHOW CARD 9]

How satisfied are you with your family life?

- 1 Satisfied
- 2 Somewhat satisfied
- 3 Neither satisfied nor dissatisfied
- 4 Somewhat dissatisfied
- 5 Dissatisfied
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.14 [SHOW CARD 10] Now I would like to ask how satisfied you feel about your life in general. Would you say you are?

- 1 Satisfied
- 2 Somewhat satisfied
- 3 Neither satisfied or dissatisfied (neutral)
- 4 Somewhat dissatisfied
- 5 Dissatisfied
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.15 [SHOW CARD 11] By looking at people who are successful in society today, which would you say account the most for their success one's ability and efforts, luck and chance, or relationships through kindred, countrymen, and alumnus?

- 1 Ability and effort
- 2 Luck and chance
- 3 Relationships through kindred, countrymen, and alumnus
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.16 Some people say that with the development of science and technology, life becomes more convenient, but at the same time a lot of human feeling is lost. Do you agree with this opinion or do you disagree?

- 1 Agree
- 2 Disagree
- 3 Undecided/it depends
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.17 Some people say that if we get outstanding political leaders, the best way to improve the country is for the people to leave everything to them, rather than for the people to discuss things among themselves. Do you agree with this, or disagree?

- 1 Agree
- 2 Disagree
- 3 Undecided/it depends
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.18 Some people say that no matter how mechanized and inundated or filled up with information the world gets, nothing can reduce the richness of human feelings or one's humanity. Do you agree or disagree with this opinion?

- 1 Disagree
- 2 Cannot say one way or another
- 3 Agree
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.19 Some people say that home is the only place where you can totally relax and feel comfortable. Do you feel that way or not?

- 1 Yes, home is the only place
- 2 No
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.20 [SHOW CARD 12] Of the three views on the card, which do you feel represent your view the most?

- 1 One should never, ever divorce
- 2 Divorce is OK when it is unbearable
- 4 Divorce is OK when husband and wife mutually agree to divorce
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.21 [SHOW CARD 13] There are three views on man and nature on the card. Which one of them do you feel is closest to the truth?

- 1 To be happy, we must follow nature
- 2 To be happy, we must make use of nature
- 3 To be happy, we must conquer nature
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.22 [SHOW CARD 14] Which one of the statements on the card do you feel best represents your opinion?

- 1 Individuals must be happy before the country as a whole gets better
- 2 The country must get better before individuals can be happy
- 3 Making the country better and making individuals happy are the same thing
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.23 [SHOW CARD 15] If you were asked to select the two important items listed on the card, which two would they be?

	<u>Selected</u>
a. Love and respect for parents	1
b. Return favors when needed from whom you received favor in the past	1
c. Respect for individual rights	1
d. Respect for individual freedom	1
8 Other(PLEASE SPECIFY)_____	
9 DK	

Q.24

a. [SHOW CARD 16] Suppose you are a company president. The company conducts a test among applicants to select one employee. The section chief asks you to decide between the two applicants with the highest score and your relative who received the second highest score. Which one of them would you hire?

- 1 One with the highest grade
- 2 Your relative
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

b. [SHOW CARD 17] In this question, let us suppose that the applicant who came in second was a daughter or son of a person to whom you are indebted. Now, which one of them would you hire?

- 1 One with the highest grade
- 2 Daughter or son of person you are indebted
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.25 [SHOW CARD 18] If you were to work in a company, under which one of the following section chiefs would you prefer to work?

- 1 A section chief who goes by the book and never expect anything beyond the call of your duty, but never give you any personal favor
- 2 A section chief who sometimes demands more than what the rules call for but who takes care of you personally beyond the call of his or her responsibility
- 8 Other (PLEASE SPECIFY) _____
- 9 DK

Q.26 Would you say that most people are helpful to others or are looking after only their interest?

- 1 Trying to be helpful to others
- 2 Looking out for themselves
- 8 Other (PLEASE SPECIFY) _____
- 9 DK

Q.27 Do you suppose most people would try to take advantage of you if there is an opportunity to do so?

- 1 Yes, they are
- 2 No, they are not
- 8 Other (PLEASE SPECIFY) _____
- 9 DK

Q.28 Would you say we can trust most people or better to be always on look out?

- 1 Most people are trustworthy
- 2 Better to be on look out
- 8 Other (PLEASE SPECIFY) _____
- 9 DK

Q.29 [SHOW CARD 19] Using the answers on this card, would you tell me how much you agree or disagree with each one of the following statements:

a. We have illnesses we can better treat with methods other than modern medicine

- 1 Strongly agree
- 2 Agree
- 3 Disagree
- 4 Strongly disagree
- 8 Other (PLEASE SPECIFY) _____
- 9 DK

b. If and when science and technology develop further, someday we should be able to understand the human mind.

- 1 Strongly agree
- 2 Agree
- 3 Disagree
- 4 Strongly disagree
- 8 Other (PLEASE SPECIFY) _____
- 9 DK

c. We can someday solve economic and social problems we face today with the development of science and technology

- 1 Strongly agree
- 2 Agree
- 3 Disagree
- 4 Strongly disagree
- 8 Other (PLEASE SPECIFY) _____
- 9 DK

d. At some point in the future, we can expect to live on Mars as we live on earth today

- 1 Strongly agree
- 2 Agree
- 3 Disagree
- 4 Strongly disagree
- 8 Other (PLEASE SPECIFY) _____
- 9 DK

Q.30 What comes to your mind first when you think of Japanese culture?

- 9 DK

Q.31a Next, I would like to ask you about religion. Do you profess to have religious faith?

- 1 Yes → Q.31b
- 2 No → Q.32

b (Religion, only the respondents who choose "1" in Q31)

- 1 Buddhism
- 2 Shintoism
- 3 Christianity
- 8 Other (PLEASE SPECIFY) _____
- 9 DK

Q.32 Without reference in any of the established religions, do you think it important to be of a religions mind?

- 1 Important
- 2 Not important
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.33 Some people believe that all religious teachings are the same in the final analysis even though each religion claims to be unique in its own way. Do you agree or do not agree with the statement?

- 4 Agree
- 4 Disagree
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.34 There are two different views on law: 1) We must abide by the law, no matter what.
2) If we think the purpose of breaking a law is right, we could not help but break the law.

- 1 We should always abide by law
- 2 No, we don't have to abide by under some circumstances
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.35 [SHOW CARD 20] As you understand a contract, which one of the following comes closest to your opinion?

- A "To have a contract constitutes evidence that there is no trust between parties. There is no need to have a contract if parties trust each other"
- B "No matter how much parties trust each other, it is better to have contract"
- 1 closer to A's opinion.
- 2 closer to B's opinion.
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.36 [SHOW CARD 21] Which comes closer to you opinion?

- A "If you were to have contract, it is better to keep the contract simple allowing for its flexibility since it is just formality"
- B "Contracts should be written clearly in detail to avoid the possibility of conflicting interpretations"

Q.37 [SHOW CARD 22] There are often two different views on environmental protection and economic development. Which one of them would you say represents your view?

- 1 Protecting the environment comes first, even if economic growth slows
- 2 Economic growth comes first, even if it harms the environment
- 8 Other (PLEASE SPECIFY) _____
- 9 DK

Q.38 What is most important to you? (Write down all answers if the respondent gives more than one.)

-
- 9 DK

Q.39

- a) What occupation do you consider most respected? (Write down all answers if the respondent gives more than one.)
- b) What is the occupation you yourself would like to have? (Write down all the answers if the respondent gives more than one.)

Q.40 [SHOW CARD23] Imagine the following situation: You are seriously ill, requiring special surgery. If you can find a good surgeon, the rate of success can be as high as 90 percent. Your surgery may fail unless you can find a competent surgeon, since it involves difficult procedures. A close friend of yours for many years introduces you a surgeon by the name of B, who is considered trustworthy. Would you ask Dr. B to perform the surgery on you?

- 1 Yes, I would ask him because of my close friend's recommendation
- 2 I would look into Dr. B's past records in detail before making up my mind
- 8 Other (PLEASE SPECIFY) _____
- 9 DK

Q.41 [SHOW CARD 24] How much trust would you give to each one of the following organizations and systems? Please select one answer from the following response categories: 1) very much 2) somewhat 3) Not very much, 4) Not at all

	1	2	3	4	DK
a. Religious organization	1	2	3	4	9
b. Law and legal system	1	2	3	4	9
c. Newspaper, television	1	2	3	4	9
d. Police	1	2	3	4	9
e. National government bureaucracy	1	2	3	4	9
f. National Assembly (Diet)	1	2	3	4	9
g. NPO · NGO (Non Profit Organization. Non Government Organization)	1	2	3	4	9
h. Social welfare facilities	1	2	3	4	9
i. The United Nations	1	2	3	4	9
j. Science and Technology	1	2	3	4	9

Q.42

a. Looking back the past, if you could have been born again, would you rather have been a boy or girl?

1 Wish to have been born a boy

2 Wish to have been a girl

8 Other (PLEASE SPECIFY) _____

9 DK

b. Now, looking ahead into the future and could be born again, would you like to be male or female?

1) Male

2) Female

3) Other (Please specify) _____

4) DK

Q.43 [SHOW CARD 25] If you could be born again, which of the following Asian countries would you like be born in, with the exception of Japan?

- 1 China (Mainland)
- 2 South Korea
- 3 Taiwan
- 4 Hong Kong
- 5 India
- 6 Philippines
- 7 Singapore
- 8 Other (PLEASE SPECIFY) _____
- 9 DK

Q.44 [SHOW CARD 26] With which one of the following countries or region would you like to see develop friendly relations for our own national interest?

- 1 USA
- 2 EU (European Union)
- 3 China
- 4 South Korea
- 5 Country other than China and South Korea
- 8 Other (PLEASE SPECIFY) _____
- 9 DK

Q.45 [SHOW CARD 27] With whom of the following people would you consult first for your personal problems and important matters?

- 1 Father
- 2 Mother
- 3 Brother and sister
- 4 Other family member and relative
- 5 School teacher
- 6 Friend
- 7 Other (Please specify) _____
- 8 I don't have anyone with whom I can confide
- 9 I don't have any problems

Q.46 [SHOW CARD 28] How important is “face keeping” in society today?

- 1 Very important
- 2 Important if I have to choose an answer
- 3 Not important if I have to choose an answer
- 4 Not important at all
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.47 [SHOW CARD 29] Whether you have a child or not, what do you suppose is the main purpose of having children? (ONLY ONE ANSWER PLEASE)

- 1 For propagating offspring
- 2 For fulfilling social responsibility
- 3 For improving one’s own life
- 4 For having children help me in my old age
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.48 [SHOW CARD30] Do you believe that children should help their parents when they grow old or they should take care of themselves? (Choose only one answer please)

- 1 Children should help their parents
- 2 Parents should take care of themselves
- 8 Other (PLEASE SPECIFY)_____
- 9 DK

Q.49 a. [SHOW CARD31] Imagine the following situation. Your parents died when you were young and your neighbor Hikari brought you up. Because of Hikari’s help, you graduated from college and live comfortably today. Now, you hear that Hikari is suffering from a terminal illness. Although unaware, Hikari has only three more months to live, according to his doctors. You also learned that Hikari might live if a special surgery is performed that would also eliminate his pain. However, it will take all the assets you have to save Hikari’s life. What do you think you will do?

- 1) I will use all I have to save Hikari’s life through surgery
- 2) I couldn’t help but giving up the surgery.
- 8) Others (PLEASE SPECIFY)_____

b. The last question dealt with a benefactor; what would you do if it was one of your parents who needs the surgery?

- 1) I will have the surgery done, even if it means spending everything I have.
- 2) I couldn’t help but giving up the surgery.
- 8) Others (PLEASE SPECIFY)_____

Q.50 [SHOW CARD 32] How do you feel about each of the following traditional values?

	<u>Strongly</u> <u>agree</u>	<u>Agree</u>	<u>Disagree</u>	<u>Strongly</u> <u>Disagree</u>	<u>Other</u>	<u>Don't</u> <u>know</u>
a. We should respect ancestor.	1	2	3	4	8	9
b. The eldest son should look after his aging parents	1	2	3	4	8	9
c. Wife should go along with her husband	1	2	3	4	8	9
d. Not to marry someone whom your parents do not approve	1	2	3	4	8	9
e. We should go along with older people	1	2	3	4	8	9
f. We need a son to keep our family line going	1	2	3	4	8	9
g. Man should work outside and woman should tend to household chores	1	2	3	4	8	9

Q.51 [SHOW CARD 33] There are many religions in the world, some of which are in conflict with one another. What do you think we should do? Which one of the following ideas comes closest to your thoughts? Please select only one answer.

1. Everyone should spread one's own religious beliefs
2. We should all try to make others understand our religious beliefs
3. We should all try to understand each other's religion
4. Regardless of understanding each other's religion, we should all respect each other's religious belief
- 8 Other (PLEASE SPECIFY) _____
- 9 DK

Q.52 [SHOW CARD 34] What qualifications should good leaders have in your workplace?
(3 multi-answers)

- 1 Technical competence
- 2 Fair in treating followers
- 3 Being liked and respected by followers
- 4 Serious attitudes toward work
- 5 Good at human relations and well connected
- 6 Sincere in attitudes toward co-workers
- 7 Decisive and determined
- 8 Good judging power
- 9 Ability to bring about a greater benefit to followers
- 10 Seniority
- 11 Come from good family background

Q.53 [SHOW CARD 35] As a result of advanced medical science technology, we are able to transplant organs such as heart and liver from people who die in car accident and illness to people who are suffering from serious illnesses. How do you feel about this type of medical treatment now available? Which one of the views best represents yours?

1. It's a good thing since it will help people who can recover from serious illnesses to lead normal life again
2. Even if it helps to save lives, it is not a good idea to extract an organ from dead people
8. (Other)
9. DK.

Q.54 [SHOW CARD36] Do you belong to any of the following organizations? Please read through the list of organizations on this card and tell me which ones you belong to. You can name as many organizations which you belong to (Multi Answers)

1. Neighborhood organization
2. PTA (Parents and teachers association)
3. Women's club, seniors' club, young people's club
4. Fire-fighters' association, voluntary neighborhood watch group
5. Farmers' association, fishermen's association, forester's association
6. Chamber of commerce and industry and other industrial association
7. Labor Union (Trade union)
8. Club for sports, recreation, hobby or cultural activities
9. Regional association, class reunion association, alumni association
10. Religious organization

11. Coops, consumer union
12. Political group, election campaign organization
13. Citizen group, resident movement group, environment protection group
14. Others (specify _____)
15. None

Q.55[SHOW CARD 37] Imagine the following situation. You are working for a firm. After discovering the wrongdoings of a coworker benefiting himself/herself by breaking the rules, you decide to report it to his superiors. Then, one day, an armed robber broke into the office and threatened you and others present with weapons. You, too, were exposed to the danger of losing your life. But thanks to the coworker whose wrongdoings you wanted to report, your life was saved. Would you still report the wrongdoings of the coworker or not?

1. While I appreciate his/her help in saving me, I still have to report the wrongdoings.
2. I thank him/her for saving my life and forget about his/her wrongdoings.
- 8 Other (PLEASE SPECIFY) _____
- 9 DK

<Face sheet>

We have now reached the last section of the survey. We would like to ask a bit about yourself.

F1 **[Gender]** (DO NOT ASK THE FOLLOWING QUESTION. JUDGE FROM NAME AND APPEARANCE)

- 1 Male
- 2 Female

F2 **[Age]** How old are you?

--	--

- | | | |
|------------|------------|-----------------|
| 1 20~24yrs | 5 40~44yrs | 9 60~64yrs |
| 2 25~29yrs | 6 45~49yrs | 10 65~69yrs |
| 3 30~34yrs | 7 50~54yrs | 11 70yrs & over |
| 4 35~39yrs | 8 55~59yrs | |

F3 **[Education]** What is the last school from which you graduated?

(If you dropped out or still in the school, please consider yourself graduated)

- 10 Primary or secondary school
- 11 High school
- 12 Two-year college
- 13 Four-year college or university
- 14 NA/DK

F4 **[Occupation]** Which describes the work you do for your living?

(Enter any professional occupation in detail, and mark a category in the below)

- | | | |
|---------------------------------|---|---|
| <u>Self employed</u> | { | <ul style="list-style-type: none"> 1 Farmer, fisherman 2 Merchant, Shop-keeper, craftsman 3 Writer |
| <u>Employed</u> | { | <ul style="list-style-type: none"> 4 Manager 5 Specialist, technician 6 Clerical worker 7 Laborer |
| <u>Family business employee</u> | { | <ul style="list-style-type: none"> 8 Farming, Fishing 9 Merchant, shop-keeper, craftsman |
| <u>Not employed</u> | { | <ul style="list-style-type: none"> 10 Professional such as author and attorney 11 Housewife, not otherwise employed 12 Student 13 Other, not gainfully employed |

F5 【Household income】 [SHOW CARD 39]

This is the very last question. Would it be possible for you to tell me to which one of the following groups your family belongs in terms of the past year's income before taxes?

- 1 Under 2 million Japanese yen
- 2 Between 2 and 4 million yen
- 3 Between 4 and 6 million yen
- 4 Between 6 and 8 million yen
- 5 Between 8 and 10 million yen
- 6 Between 10 and 15 million yen
- 7 Between 15 and 20 million yen
- 8 20 million yen or over
- 9 DK

Thank you very much for your time.

6c. 項目の出典履歴

2002年10月(日本調査)

右端のY, S9, S3の記号はこのリストの最後のページを参照せよ。

質問		KS	出典	トピック	変更内容	関連調査
問1		#4.11	7ヶ国比較A票・問11	先祖を尊ぶ		
問2		#4.10	7ヶ国比較A票・問12	他人の子供を養子にするか		
問3		#4.80	7ヶ国比較A票・問13	望ましい子供の数		
問4a	変更	#2.80a	7ヶ国比較A票・問14a	病気	回答肢に「頭が重い」追加	Y
問4b	変更	#2.80b	7ヶ国比較A票・問14b	病気	回答肢に「肩こりや腰痛など」追加	Y
問4c		#2.80c	7ヶ国比較A票・問14c	病気		Y
問4d	変更	#2.80d	7ヶ国比較A票・問14d	病気	回答肢に「(ゆううつになる、気がふさぐ)」追加	Y
問4e	変更	#2.80e	7ヶ国比較A票・問14e	病気	回答肢に「(よく眠れない)」追加	Y
問5		#2.3g	7ヶ国比較A票・問15	健康満足		
問6		#1.8	7ヶ国比較A票・問16	社会的階層	【国別質問】	
問7		#7.81	7ヶ国比較A票・問17	収入と余暇		
問8		#2.8	7ヶ国比較A票・問18	お金と仕事		
問9	変更	#7.24	7ヶ国比較A票・問20	仕事と個人生活	1)回答肢1「程よい給料」→「程、よい給料」変更 2)回答肢4「やりとげたい」→「やりとげた」修正 3) (1つ選択) 追加	
問10a		#2.30	7ヶ国比較A票・問9a	不安感 (重い病気)	カード表記変更	
問10b		#2.30d	7ヶ国比較A票・問9b	不安感 (交通事故)	カード表記変更	
問10c		#2.30f	7ヶ国比較A票・問9d	不安感 (戦争)	カード表記変更	
問11a	変更		WVS世界23ヶ国価値観・問71	お化け調査	1)「や仏」追加 2)回答肢「あるかもしれない」追加	
問11b			WVS世界23ヶ国価値観・問71	お化け調査	回答肢「あるかもしれない」追加	

質問	KS	出典	トピック	変更内容
問11c		WVS世界23ヵ国価値観・問71	お化け調査	回答肢「あるかもしれない」追加
問11d		WVS世界23ヵ国価値観・問71	お化け調査	回答肢「あるかもしれない」追加
問11e		WVS世界23ヵ国価値観・問71	お化け調査	回答肢「あるかもしれない」追加
問11f	変更	WVS世界23ヵ国価値観・問71	お化け調査	1)「や極楽」追加 2)回答肢「あるかもしれない」追加
問11g	変更	WVS世界23ヵ国価値観・問71	お化け調査	1)「や罰(ばち)」追加 2)回答肢「あるかもしれない」追加
問12a	変更	#5.81a 7ヶ国比較A票・問27 a	生活領域の重要性	「家族や子供」→「あなた自身の家族や子供」変更
問12b		#5.81b 7ヶ国比較A票・問27 b	生活領域の重要性	
問12c		#5.81c 7ヶ国比較A票・問27 c	生活領域の重要性	
問12d		#5.81d 7ヶ国比較A票・問27 d	生活領域の重要性	
問12e		#5.81e 7ヶ国比較A票・問27 e	生活領域の重要性	
問12f		#5.81f 7ヶ国比較A票・問27 f	生活領域の重要性	
問12g		#5.81g 7ヶ国比較A票・問27 g	生活領域の重要性	
問13		#2.3c 7ヶ国比較A票・問28	家庭満足	
問14		#2.82 7ヶ国比較A票・問29	生活満足	
問15	変更	#7.19 7ヶ国比較A票・問30	成功の要因	1)「血縁・地縁・学閥などの人のつながり」追加 2) (1つ選択) 追加
問16		#7.1 7ヶ国比較A票・問32	人間らしさはへるか	
問17		#8.1b 7ヶ国比較A票・問34	政治家にまかせる	
問18	変更	#7.2 7ヶ国比較A票・問36	心の豊かさはへらないか	1)「機械化」→「機械化や情報化」変更 2)回答肢の順番(番号)変更
問19		#4.30 7ヶ国比較A票・問37	家庭はくつろぐ場所	

関連

関連

質問	KS	出典	トピック	変更内容
問20	#4. 32	7ヶ国比較A票・問38	離婚すべきではないか	
問21	#2. 5	7ヶ国比較A票・問43	自然と人間との関係	
問22	#7. 4	7ヶ国比較A票・問44	国と個人の幸福	
問23a	#5. 1d	7ヶ国比較A票・問45	大切な道徳(親孝行)	
問23b	#5. 1d	7ヶ国比較A票・問45	大切な道徳(恩返し)	
問23c	#5. 1d	7ヶ国比較A票・問45	大切な道徳(個人の権利)	
問23d	#5. 1d	7ヶ国比較A票・問45	大切な道徳(自由)	
問24a	#5. 1c1	7ヶ国比較A票・問48	入社試験(親戚)	
問24b	#5. 1c2	7ヶ国比較A票・問49	入社試験(恩人の子)	
問25	#5. 6	7ヶ国比較A票・問50	めんどろをみる課長	
問26	#2. 12	7ヶ国比較A票・問51	他人のためか自分のためか	
問27	#2. 12b	7ヶ国比較A票・問52	スキがあれば利用されるか	
問28	#2. 12c	7ヶ国比較A票・問53	人は信頼できるか	
問29a	表記のみ変更 #7. 83	7ヶ国比較A票・問57a	病気の治療	1)「挙げる」→「あげる」変更 (a~d共通) 2)「ほう」→「方」変更
問29b	#7. 84	7ヶ国比較A票・問57b	心の解明	
問29c	表記のみ変更 #7. 85	7ヶ国比較A票・問57c	経済的・社会的問題の解決	1)「今日」→「今日、」変更 2)ルビ「こんにち」追加
問29d	新問	(2002年9月13日作成)	火星での生活	
問30	#9. 80	7ヶ国比較A票・問61	文化	【国別質問】
問31a	#3. 1a	7ヶ国比較A票・問62 a	宗教を信じるか	

質問		KS	出典	トピック	変更内容	関連
問31b		#3. 1b	7ヶ国比較A票・問62b	何という宗教	【国別質問】 1) (1つ選択)追加 2)各回答肢の「(記入)」を削除、但し「その他(記入)」は残した	
問32		#3. 2	7ヶ国比較A票・問63	「宗教心」は大切か		
問33		#3. 3	7ヶ国比較A票・問64	宗教は1つか		
問34	変更		日本人の法意識(日本文化会議)・Q35	法の遵守	回答肢3・4追加	
問35	変更		日本人の法意識(日本文化会議)・Q43	契約書と信頼感	1)「甲」→「A」変更 2)「乙」→「B」変更 3)回答肢8・9追加	
問36	変更		日本人の法意識(日本文化会議)・Q44	契約書の規定	1)「丙」→「A」変更 2)「丁」→「B」変更 3)カテゴリ-8・9追加 4)質問文「、次の」追加 5)「ゆうずう」→「融通」ルビ(ゆうずう)追加	
問37	変更		WVS世界23ヶ国価値観・問12	環境保護か 経済成長か	修正質問文と回答文	
問38	変更		7ヶ国比較A票・問26	一番大切なもの	1)質問文「1つだけあげてください。」削除 2) () 補足の追加	
問39a	新問		「日本人の職業観」調査(昭和54年世論調査年鑑)問5を参考	尊敬する職業	但し、自由回答とした	
問39b	新問		「日本人の職業観」調査(昭和54年世論調査年鑑)問5を参考	実際につきたい職業	但し、自由回答とした	
問40	新問			親友への信頼感(手術)		S9
問41a			WVS世界23ヶ国価値観・問9	信頼感	カード表記変更	S9
問41b	変更		WVS世界23ヶ国価値観・問9	信頼感	1)「や裁判の」追加 2)カード表記変更	S9
問41c			WVS世界23ヶ国価値観・問9	信頼感	カード表記変更	S9
問41d			WVS世界23ヶ国価値観・問9	信頼感	カード表記変更	S9
問41e			WVS世界23ヶ国価値観・問9	信頼感	カード表記変更	S9
問41f			WVS世界23ヶ国価値観・問9	信頼感	カード表記変更	S9
問41g			WVS世界23ヶ国価値観・問9	信頼感	カード表記変更	S9
問41h			WVS世界23ヶ国価値観・問9	信頼感	カード表記変更	S9

質問		KS	出典	トピック	変更内容	関連
問 41 i			WVS世界23ヵ国価値観・問9	信頼感	カード表記変更	S9
問41j	新問			信頼感	1)新たに質問「科学技術」追加 2)カード表記変更	S9
問42a	新問		KSの#6.2生まれ変わり 新版1	男女の生まれ 変わり (過去)		S9
問42b	新問		KSの#6.2生まれ変わり 新版2	男女の生まれ 変わり (将来)		S9
問43	新問			国の親近感 (生まれたい国)	【国別質問】	S9
問44	新問			国の親近感 (友好)	【国別質問】	
問45	変更		読売全国世論調査(H12 年7月②全国世論調査の 現況)・問25	相談相手	1)質問文に「や重大な相談事」追加 2)回答肢の再編 3)「次の中から一つだけ選んで下さい。」追加	
問46	変更		北京・上海調査(2001年 11月)・問31	メンツ	1)「メンツ」→「メンツ(面子)」漢字表記を追加	
問47	変更		北京・上海調査(2001年 11月)・問1	子供を育て る目的	1)質問文・回答肢を変更 2)「生活改善」→「自分の生活改善のため」変更 3)「老後の為」→「老後のため」変更	
問48	変更		北京・上海調査(2001年 11月)・問3	親の面倒	1)質問文の変更 2)回答肢「場合による」→「その他(記入)」変更	
問49a	新問			財産か手術 か(恩人)	【国別質問】 1)国別の回答肢	S9
問49b	新問			財産か手術 か(親)	【国別質問】 1)国別の回答肢	S9
問50	変更		「東京・ソウル・北京3都 市の国民意識」(1996, 7) 毎日新聞社・問29	儒教精神	1)質問文の変更 2)カード表記変更	
問51	新問			宗教の在り 方		S9
問52	変更		林知己夫:日本人の国民 性, Phase' 93	リーダーの 条件	「最も重要でないもの」削除	
問53	新問			臓器移植		
問54	変更		国民性七か国比較オム ニバスD票・問14	社会参画	【国別質問】 「いくつでもよいです」追加	
問55	新問			義理人情 (強盗)		S9

〈フェイス・シート〉

質問	KS	出典	トピック	変更内容	関連
F1		7ヶ国比較A票・F1	性別		
F2	変更	7ヶ国比較A票・F2	年齢	日本調査の対象者が20歳以上なので、旧回答肢1を削除	
F3	変更	7ヶ国比較A票・F3	学歴	【国別質問】 新制の学校制度へ対応した回答肢となるように大幅に変更	
F4		7ヶ国比較A票・F4	本人職業	【国別質問】	
F5		7ヶ国比較A票・F11	世帯収入	【国別質問】	

(注)Face Sheet の項目のカテゴリーは、各国の事情と合わせて、変更されているので注意せよ。

【参考文献】

電通総研・余暇開発センター編 (1999). 世界 23 カ国 価値観データブック. 同友館.

統計数理研究所・研究レポート No.76 (1995). 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—総合報告書—.

統計数理研究所・研究レポート No.77 (1995). 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—国民性の国際比較のためのマニュアル—.

統計数理研究所・研究レポート No.89 (2003). 日本・中国の国民性比較のための基礎研究—中国北京市における意識調査—.

統計数理研究所・研究レポート No.90 (2003). 日本・中国の国民性比較のための基礎研究(2)—中国上海市における意識調査—.

日本文化会議編 (1973). 日本人の法意識—調査分析—. 至誠堂.

林知己夫他 (1998). 国民性七か国比較. 出光書店.

吉野諒三 (2001). 心を測る—個と集団の意識の科学—. 朝倉書店.

【関連調査データ】

S9: 佐々木正道代表 (2002, 9). 日本の国際化に関する意識調査—親子・一般成人—.

S3: 佐々木正道代表 (2003, 3). 日本の国際化に関する意識調査— (A)・(B) —.

(平成 13 年度～平成 15 年度科学研究費補助金基盤研究(A)(1)No.13301009「グローバル化とナショナル・アイデンティティに関する意識構造についての実証的研究」)

Y: 山岡和枝代表 (2003, 11). 医療と文化に関する世論調査.

(文部省科学研究補助金・基盤研究(B)(2) 平成 14-16 年度) No.14402043「「医療」と「文化」の多次元の連関に関する統計科学的研究」)

(注) 問 6、問 30、問 31b、問 43、問 44、問 49a、問 49b、問 54 は、質問の意図を考慮して、原票の回答肢は各国で一部異なっている。但し、共通データファイルでは、汎用性のある形式に整えた。

「生まれ変わっても女性」7割

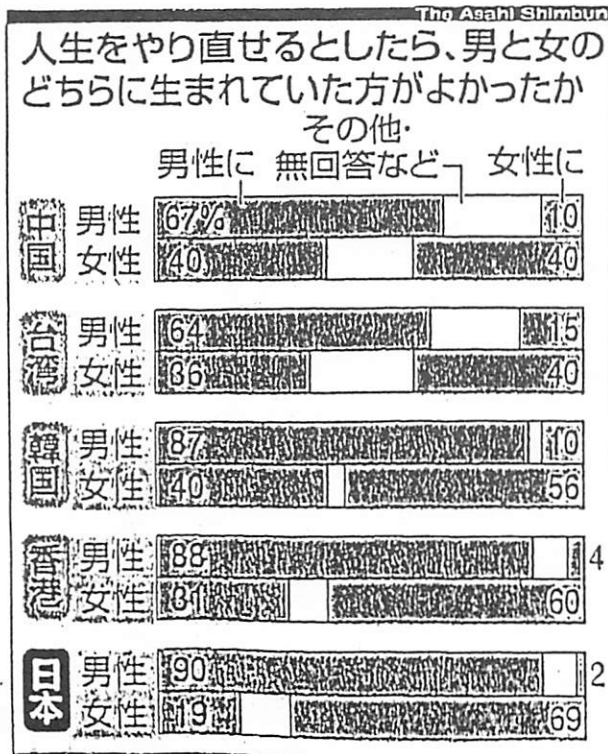
「生まれ変わっても、また女性に」という女性の割合は、日本では約7割で最も高い。一人を生をやり直せるとしたら、男と女のどちらがよかったか」との質問を、日本、中国、韓国、台湾、香港の男女にしたところ、そんな結果が出た。総合地球環境学研究所(京都市)の鄭躍軍・助教授(社会調査)が7月に国際学会で発表する。

(杉本潔)

東アジアの5カ国・地域 日本が最高

統計数理研究所(東京)とともに02年から03年にかけて、5カ国・地域で実施した価値観の比較調査(回答数7629人)で尋ねた。女性で「女に」が「男に」を上回ったのは日本、香港、韓国で、その割合は日本が最も高かった。中国、台湾は「女に」と「男に」がほぼ同じ。男性では「男に」がいずれも多数。日本、香港、韓国は約9割と高い。統計数理研究所が53年か

中国・台湾は男女並ぶ



ら5年ごとに実施している日本人の国民性調査によると、「女に」という女性は63年までは少数派だったが、

鄭さんは「儒教思想の影響もあって男性優位の傾向が強い東アジアで、日本がいち早く近代化したことの影響では」と説明する。

68年に逆転。以後は年々増えている。